

平成 28 (2016) 年度

講義概要

東北大学文学部
東北大学大学院文学研究科

目 次

文学部

学部開講科目一覧	2
----------------	---

人文社会科学

国 文 学	30
日 本 思 想 史	38
日 本 史	44
考 古 学	61
中 国 文 学	69
中 国 思 想	77
東 洋 史	83
イ ン ド 学 仏 教 史	90
英 文 学	99
英 語 学	107
ド イ ツ 文 学	113
フ ラ ン ス 文 学	123
ヨ ー ロ ッ パ 史	131
言 語 学	140
国 語 学	149
日 本 語 教 育 学	157
哲 学	167
倫 理 学	183
東 洋 ・ 日 本 美 術 史	191
美 学 ・ 西 洋 美 術 史	199
社 会 学	208
行 動 科 学	217
心 理 学	228
文 化 人 類 学	237
宗 教 学	243

専修以外の基礎科目一覧	253
-------------------	-----

専修以外の発展科目一覧	285
-------------------	-----

職業関連科目一覧	286
----------------	-----

教職科目一覧	299
--------------	-----

文学研究科

大学院開講科目一覧	306
-----------	-----

文化科学専攻

国文文学	336
日本思想史	342
中国語学中国文学	346
中国思想中国哲学	352
インド学仏教史	356
英文学	361
英語学	366
ドイツ文学	370
フランス語学フランス文学	376
哲学	383
倫理学	394

言語科学専攻

言語学	399
国語学	405
日本語教育学	412

歴史科学専攻

日本史	419
考古学	435
文化財科学	440
東洋史	442
ヨーロッパ史	447
東洋・日本美術史	455
美学・西洋美術史	459
比較文化史学	465

人間科学専攻

社会学	467
行動科学	477
心理学	485
文化人類学	493
宗教学	497

大学院専攻共通科目一覧	503
-------------	-----

歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画授業科目一覧	519
----------------------------	-----

平成28年度 文学部学年暦

授業日程等	主な行事及び書類提出期日等	備 考
第1学期 授業期間 自4月11日(月) 至7月26日(火)	2年次ガイダンス 4月5日(火)午前 入学式 4月6日(水)午前 文学部新入生オリエンテーション 4月7日(木)午後 WEB履修登録期間 定期健康診断 5月中旬 教育実習(前期)(2又は3週間) 5月中旬～7月上旬 介護等体験参加申込書提出期限 6月中旬 創立記念日 6月22日(水) 卒業論文・卒業研究題目届提出期限 6月27日(月) 転専修出願期間 7月4日(月)～8日(金) オープンキャンパス 7月27日(水)、28日(木) 卒業論文・卒業研究提出期限 8月1日(月) 介護等体験事前指導 9月上旬 学位記授与式 9月26日(月)	マルチメディア棟206 マルチメディア棟206 文学部研究棟 日程は掲示等で連絡 日程は掲示等で連絡 協力校(中・高)及び 出身校(中・高) 9月卒業予定者 2年次 9月卒業予定者 日程は掲示等で連絡
第1学期 補講期間 自7月29日(金) 至8月4日(木) ※7月27日～28日 は休業日		
夏季休業期間 自8月5日(金) 至9月30日(金)		
第2学期 授業期間 自10月3日(月) 至1月30日(月)	専修決定オリエンテーション 10月5日(水)～7日(金) 卒業論文・卒業研究題目届提出期限 10月5日(水) 教育実習参加申込書提出期限 10月上旬 WEB履修登録期間 専修志望予備調査 10月7日(金)～14日(金) 教育実習(後期)(3週間) 10月中旬～11月中旬 教育実習事前指導 11月中旬 学士編入学願書受付 10月24日(月)～10月28日(金) 大学祭 10月28日(金)～10月30日(日) 平成29年度AOⅡ期第1次選考 11月5日(土)(予定) 学士編入学試験 11月17日(木) 平成29年度AOⅡ期第2次選考 11月19日(土)(予定) 転専修出願期間 12月中旬 教育職員免許状出願期限 12月下旬 専修志望本調査 1月4日(水)～10日(火) 卒業論文・卒業研究提出期限 1月6日(金) 転学部出願期間 1月10日(火)～16日(月) 転学部面接試験等 2月8日(水) 研究生・科目等履修生入学願書受付 2月10日(金)～2月16日(木) 平成29年度個別学力試験(前期日程) 2月25日(土)～26日(日) 卒業決定者の掲示 3月上旬 学位記授与式 3月24日(金)	次年度履修希望者 日程は掲示等で連絡 協力校(中) 次年度履修希望者 日程は掲示等で連絡 28日(金):休講 日程は掲示等で連絡 日程は掲示等で連絡 3月卒業予定者
冬季休業期間 自12月26日(月) 至1月3日(火)		
第2学期 補講期間 自2月6日(月) 至2月7日(火)		
論文口頭 試問期間 自2月6日(月) 至2月16日(木)		

(注1) 定期試験の期間は特に設けず、授業担当教員の判断により当該セメスター(学年)内に随時実施する。

学部開講科目一覧

国文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開講 セメスター	曜日	講時	頁
			氏	名				
国文学概論	日本近代文芸の諸問題	2	佐藤	伸宏	3	金	3	30
国文学概論	日本古典文芸の世界	2	佐倉	由泰	4	金	3	30
国文学基礎講読	『蜻蛉日記』を読む	2	横溝	博	3	金	2	31
国文学基礎講読	昭和前期の小説を読む	2	佐藤	伸宏	4	金	2	31
国文学各論	『源氏物語』の成立と享受	2	横溝	博	5	月	2	32
国文学各論	院政期物語の成立と展開	2	横溝	博	6	月	2	32
国文学各論	平安前期漢文学史の諸問題	2	㊦	滝川幸司	集中 (5)			33
日本文芸形成論各論	『太平記』の研究	2	佐倉	由泰	5	火	2	33
日本文芸形成論各論	『徒然草』の研究	2	佐倉	由泰	6	火	2	34
国文学演習	日露戦後文学の研究	2	佐藤	伸宏	5	水	2	34
国文学演習	日露戦後文学の研究	2	佐藤	伸宏	6	水	2	35
国文学演習	中世の日記文芸、紀行文芸の研究	2	佐倉	由泰	5	木	2	35
国文学演習	中世の日記文芸、紀行文芸の研究	2	佐倉	由泰	6	木	2	36
国文学演習	『源氏物語』の研究	2	横溝	博	5	月	5	36
国文学演習	『源氏物語』の研究	2	横溝	博	6	月	5	37

日本思想史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員	開講 セメスター	曜日	講時	頁
			氏名				
日本思想史概論	「日本思想史」の課題と方法	2	佐藤 弘夫	3	金	1	38
日本思想史概論	「日本思想史」の意義と発展	2	片岡 龍	4	火	2	38
日本思想史基礎講読	古文・くずし字をよむ	2	片岡 龍	3	火	2	39
日本思想史基礎講読	古文・漢文史料をよむ	2	⑤ 富 樫 進	4	火	1	39
日本思想史各論	聖地と霊場	2	佐藤 弘夫	6	金	1	40
日本思想史各論	「思想史」とは何か	2	片岡 龍	5	火	4	40
日本思想史各論	「思想史」とは何か	2	片岡 龍	6	火	4	41
日本思想史各論	古代における〈異域〉	2	⑤ 富 樫 進	5	火	1	41
日本思想史各論	『日本書紀』『神代』を考える	2	⑤ 徳 盛 誠	集中 (6)			42
日本思想史演習	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	片岡 龍	5	水	3	42
日本思想史演習	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	片岡 龍	6	水	3	43

日本史専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
日 本 史 概 論	倭と日本の王の歴史(1)	2	堀	裕	3	金	1	44
日 本 史 概 論	倭と日本の王の歴史(2)	2	堀	裕	4	金	1	44
日 本 史 基 礎 講 読	古代史料講読	2	堀	裕	4	火	4	45
日 本 史 基 礎 講 読	中世史料講読	2	柳 原	敏 昭	4	火	2	45
日 本 史 基 礎 講 読	近現代史料講読	2	安 達	宏 昭	3	水	4	46
古 文 書 学	中世古文書読解	2	柳 原	敏 昭	3	火	1	46
古 文 書 学	近世古文書読解	2	籠 橋	俊 光	4	水	4	47
日 本 史 各 論	英語で読む日本中世文書(1)	2	柳 原	敏 昭	5	月	5	47
日 本 史 各 論	英語で読む日本中世文書(2)	2	柳 原	敏 昭	6	火	3	48
日 本 史 各 論	近世社会の研究(1)	2	籠 橋	俊 光	5	金	2	48
日 本 史 各 論	近世社会の研究(2)	2	籠 橋	俊 光	6	金	2	49
日 本 史 各 論	日本近現代史研究の現状と課題(3)	2	安 達	宏 昭	5	水	2	49
日 本 史 各 論	日本近現代史研究の現状と課題(4)	2	安 達	宏 昭	6	水	2	50
日 本 史 各 論	歴史資料保全の実践(その1)	2	佐 藤	大 介	集 中 (5)			50
日 本 史 各 論	歴史資料保全の実践(その2)	2	佐 藤	大 介	6	水	1	51
日 本 史 各 論	日本古代史のなかの東北	2	㊦ 鈴 木	拓 也	集 中 (6)			51
日 本 史 演 習	古代史料の研究(1)	2	堀	裕	5	火	2	52
日 本 史 演 習	古代史料の研究(2)	2	堀	裕	6	火	2	52
日 本 史 演 習	古代史料研究(1)	2	堀	裕	5	金	3	53
日 本 史 演 習	古代史料研究(2)	2	堀	裕	6	金	3	53
日 本 史 演 習	鎌倉時代の法と社会(1)	2	柳 原	敏 昭	5	月	3	54
日 本 史 演 習	鎌倉時代の法と社会(2)	2	柳 原	敏 昭	6	月	3	54
日 本 史 演 習	中世史料演習(1)	2	柳 原	敏 昭	5	月	4	55

日本史専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
日 本 史 演 習	中世史料演習(2)	2	柳 原 敏 昭	6	月	4	55
日 本 史 演 習	近世史料研究(1)	2	籠 橋 俊 光	5	火	4	56
日 本 史 演 習	近世史料研究(2)	2	籠 橋 俊 光	6	火	4	56
日 本 史 演 習	近世史研究法(1)	2	籠 橋 俊 光	5	水	5	57
日 本 史 演 習	近世史研究法(2)	2	籠 橋 俊 光	6	水	5	57
日 本 史 演 習	近現代政治・社会史の研究(1)	2	安 達 宏 昭	5	水	3	58
日 本 史 演 習	近現代政治・社会史の研究(2)	2	安 達 宏 昭	6	水	3	58
日 本 史 演 習	近現代史研究法(1)	2	安 達 宏 昭	5	火	5	59
日 本 史 演 習	近現代史研究法(2)	2	安 達 宏 昭	6	火	5	59
日 本 史 実 習	史料整理・保存の理論と方法	2	籠 橋 俊 光	5	金	4・5	60
日 本 史 実 習	史料整理実習	2	籠 橋 俊 光	6	金	4・5	60

考古学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
考 古 学 概 論	先史考古学概説	2	阿 子 島 香	3	月	5	61
考 古 学 概 論	日本考古学概説	2	鹿 又 喜 隆	4	月	2	61
考 古 学 基 礎 講 読	考古学資料読解	2	㊦ 有 松 唯	4	月	5	62
考 古 学 基 礎 実 習	考古学資料の観察と記録	2	鹿 又 喜 隆	3	金	1・2	62
資 料 基 礎 論 各 論	先史考古学資料論	2	阿 子 島 香	6	月	3	63
考 古 学 各 論	日本考古学の諸問題	2	鹿 又 喜 隆	5	月	2	63
考 古 学 各 論	東北大学収蔵の考古学資料	2	藤 澤 敦	5	火	3	64
考 古 学 各 論	日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究	2	藤 澤 敦	6	火	3	64
考 古 学 各 論	縄文時代の環境文化史研究	2	㊦ 工 藤 雄一郎	集 中 (5)			65
考 古 学 各 論	先史文化の考古学	2	㊦ 菅 野 智 則	6	木	4	65
考 古 学 講 読	先史文化研究	2	阿 子 島 香	5	金	2	66
考 古 学 演 習	考古学研究史	2	阿 子 島 喜 隆 鹿 又 喜 隆	5	金	4	66
考 古 学 演 習	考古学の方法と理論	2	鹿 又 喜 隆 阿 子 島 香	6	金	4	67
考 古 学 実 習	考古学の調査と資料分析(1)	2	鹿 又 喜 隆 阿 子 島 香	5	水	3・4	67
考 古 学 実 習	考古学資料分析法(2)	2	阿 子 島 喜 隆 鹿 又 喜 隆	6	水	3・4	68

中国文学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
中 国 文 学 概 論	中国の恋愛詩（ウラ文学史）	2	佐 竹 保 子	3	木	1	69
中 国 文 学 概 論	中国の小説と戯曲	2	土 屋 育 子	4	木	1	69
中 国 文 学 基 礎 講 読	中国語実用文法研究	2	土 屋 育 子	3	水	4	70
中 国 文 学 基 礎 講 読	現代文読解による、中国語実用文法研究	2	佐 竹 保 子	4	水	4	70
中 国 語 基 礎 演 習	中級会話	2	馬 暁 地	3	月	5	71
中 国 語 基 礎 演 習	中級会話	2	馬 暁 地	4	月	5	71
中 国 文 学 各 論	唐詩と唐代社会（胡曾の《詠史詩》）	2	馬 暁 地	5	火	4	72
中 国 文 学 各 論	唐詩と唐代社会（胡曾の《詠史詩》）	2	馬 暁 地	6	火	4	72
中 国 文 学 各 論	出土資料から見た古代中国の文字とことば	2	㊦ 大 西 克 也	集 中 (5)			73
中 国 文 学 演 習	中国当代文学研究	2	馬 暁 地	5	木	2	73
中 国 文 学 演 習	中国当代文学研究	2	馬 暁 地	6	木	2	74
中 国 文 学 演 習	中国戯曲研究	2	土 屋 育 子	5	水	5	74
中 国 文 学 演 習	中国戯曲研究	2	土 屋 育 子	6	水	4	75
中 国 文 学 演 習	漢魏六朝詩、及びその背後にある文献研究	2	佐 竹 保 子	5	火	5	75
中 国 文 学 演 習	漢魏六朝詩、及びその背後にある文献研究	2	佐 竹 保 子	6	火	5	76

中国思想専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
中 国 思 想 概 論	隋唐五代思想史概説	2	齋 藤 智 寛		3	火	2	77
中 国 思 想 概 論	中国近代思想史概説	2	三 浦 秀 一		4	火	2	77
中 国 思 想 基 礎 講 読	中国思想文献講読・初級1	2	三 浦 秀 一		3	火	5	78
中 国 思 想 基 礎 講 読	中国思想文献講読・初級2	2	三 浦 秀 一		4	火	5	78
中 国 思 想 各 論	明末清初思想史研究	2	三 浦 秀 一		5	水	5	79
中 国 思 想 各 論	中国中世仏教思想の諸相	2	齋 藤 智 寛		6	水	5	79
中 国 思 想 各 論	禅思想の成立とその反響	2	⑩ 伊 吹 敦	集 中 (5)				80
中 国 思 想 演 習	南北朝思想原典読解	2	齋 藤 智 寛		5	水	2	80
中 国 思 想 演 習	王夫之「周易内伝発例」精読	2	三 浦 秀 一		6	水	2	81
中 国 思 想 演 習	『群書治要』選読	2	齋 藤 智 寛		5	金	1	81
中 国 思 想 演 習	中国思想関連英文読解	2	齋 藤 智 寛		6	金	1	82

東洋史専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏	名				
東 洋 史 概 論	中国史概説 I	2	大 野 晃 嗣		3	月	2	83
東 洋 史 概 論	中国史概説 II	2	大 野 晃 嗣		4	月	2	83
東 洋 史 基 礎 講 読	『資治通鑑』講読	2	川 合 安		3	月	5	84
東 洋 史 基 礎 講 読	『資治通鑑』講読	2	川 合 安		4	月	5	84
東 洋 史 各 論	六朝時代の諸問題	2	川 合 安		5	金	2	85
東 洋 史 各 論	隋唐時代の諸問題	2	川 合 安		6	金	2	85
東 洋 史 各 論	明清時代の諸問題 I	2	大 野 晃 嗣		5	火	5	86
東 洋 史 各 論	明清時代の諸問題 II	2	大 野 晃 嗣		6	火	5	86
東 洋 史 各 論	唐明間、財政構造の特質と変遷	2	㊦ 宮 澤 知 之		集 中 (5)			87
東 洋 史 各 論	多極化時代のユーラシア東方史 (10~13世紀)	2	㊦ 古 松 崇 志		集 中 (6)			87
東 洋 史 演 習	『晋書』載記の研究 I	2	川 合 安		5	金	4	88
東 洋 史 演 習	『晋書』載記の研究 II	2	川 合 安		6	金	4	88
東 洋 史 演 習	明清史料研究 I	2	大 野 晃 嗣		5	火	2	89
東 洋 史 演 習	明清史料研究 II	2	大 野 晃 嗣		6	火	2	89

インド学仏教史専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
イ ン ド 学 概 論	ヴェーダから叙事詩へ	2	吉	水 清 孝	3	水	3	90
イ ン ド 学 概 論	インド哲学とヒンドゥー教	2	吉	水 清 孝	4	水	3	90
イ ン ド 仏 教 史 概 論	インド仏教史概説—その1—	2	桜	井 宗 信	3	火	1	91
イ ン ド 仏 教 史 概 論	インド仏教史概説—その2—	2	桜	井 宗 信	4	火	1	91
イ ン ド 学 基 礎 演 習	ヒンドゥー教文献入門	2	吉	水 清 孝	3	火	4	92
パ ー リ 語	パーリ語入門	2	㊦	西 村 直 子	3	水	5	92
パ ー リ 語	パーリ語購読	2	㊦	西 村 直 子	4	水	5	93
チ ベ ッ ト 語	古典チベット語初級文法 I	2	桜	井 宗 信	3	月	4	93
チ ベ ッ ト 語	古典チベット語初級文法 II	2	桜	井 宗 信	4	月	4	94
イ ン ド 学 各 論	ヒンドゥー教文献講読(1)	2	吉	水 清 孝	5	火	2	94
イ ン ド 学 各 論	ヒンドゥー教文献講読(2)	2	吉	水 清 孝	6	火	2	95
イ ン ド 仏 教 史 各 論	bSod nams rtse mo 著『タン トラ概論』の原典講読	2	桜	井 宗 信	5	火	3	95
イ ン ド 仏 教 史 各 論	bSod nams rtse mo 著『タン トラ概論』の原典講読	2	桜	井 宗 信	6	火	3	96
イ ン ド 仏 教 史 各 論	中期大乘仏教思想研究	2	㊦	久 保 田 力	集 中 (6)			96
イ ン ド 学 演 習	インド哲学文献研究(1)	2	吉	水 清 孝	5	木	2	97
イ ン ド 学 演 習	インド哲学文献研究(2)	2	吉	水 清 孝	6	木	2	97
イ ン ド 仏 教 史 演 習	梵蔵漢対照による『俱舎論』 の講読	2	桜	井 宗 信	5	月	3	98
イ ン ド 仏 教 史 演 習	梵蔵漢対照による『俱舎論』 の講読	2	桜	井 宗 信	6	月	3	98

英文学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
英 文 学 概 論	シェイクスピア入門	2	岩 田 美 喜		3	水	5	99
英 文 学 概 論	ジャコビアン演劇入門	2	岩 田 美 喜		4	水	5	99
英 文 学 基 礎 講 読 I	George Orwell, <i>Animal Farm</i>	2	大 河 内 昌		3	木	1	100
英 文 学 基 礎 講 読 II	20世紀の英詩を読む	2	大 河 内 昌		4	木	1	100
英文学・英語学基礎講読 I	Reading Modernist Short Stories in English: Katherine Mansfield.	2	ティンク, ジェイムズ		3	木	3	101
英文学・英語学基礎講読 II	Kazuo Ishiguro's 'Never Let Me Go': Ethics, Emotion, and Empathy in Contemporary Fiction.	2	ティンク, ジェイムズ		4	木	3	101
英 文 学 各 論	イギリス児童文学と〈子ども〉性の政治学	2	岩 田 美 喜		5	火	3	102
英 文 学 各 論	20世紀イギリス演劇における階級、ジェンダーと教育	2	岩 田 美 喜		6	火	3	102
英 文 学 各 論	『グレート・ギャツビー』を読む	2	⑧ 諏訪部 浩 一		集 中 (5)			103
英 語 文 化 論 各 論	ジェーン・オースティンを読む	2	大 河 内 昌		5	金	2	103
英 語 文 化 論 各 論	批評理論入門	2	大 河 内 昌		6	金	2	104
英 文 学 演 習 I	Virginia Woolf, <i>Mrs Dalloway</i> (1)	2	大 河 内 昌		5	水	1	104
英 文 学 演 習 II	Virginia Woolf, <i>Mrs Dalloway</i> (2)	2	大 河 内 昌		6	水	1	105
英 文 学 演 習 III	Renaissance Revenge Tragedy: Thomas Middleton's 'The Changeling'.	2	ティンク, ジェイムズ		5	月	2	105
英 文 学 講 読	What was Postmodernism? The Short Stories of Angela Carter	2	ティンク, ジェイムズ		6	月	2	106

英語学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
英 語 学 概 論	英語統語論入門 I	2	金 子 義 明		3	火	4	107
英 語 学 概 論	英語統語論入門 II	2	金 子 義 明		4	火	4	107
英 語 学 各 論	英語意味論 I	2	金 子 義 明		5	金	2	108
英 語 学 各 論	極小主義アプローチに基づく 比較統語論	2	㊦ 齋 藤 衛		集 中 (5)			108
英 語 解 析 学 各 論	英語意味論 II	2	金 子 義 明		6	金	2	109
英 語 学 講 読	形式意味論入門 I	2	島 越 郎		5	水	4	109
英 語 学 講 読	形式意味論入門 II	2	島 越 郎		6	水	4	110
英 語 学 演 習	生成文法による英語分析 I	2	島 越 郎		5	火	2	110
英 語 学 演 習	生成文法による英語分析 II	2	島 越 郎		6	火	2	111
英 語 学 演 習	英語学の諸問題研究 I	2	金 子 義 明 金 島 越 郎		7	水	2	111
英 語 学 演 習	英語学の諸問題研究 II	2	金 子 義 明 金 島 越 郎		8	水	2	112

ドイツ文学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
ド イ ツ 文 学 概 論 I	ヨーロッパ的文脈から見た近代ドイツの歴史と文化	2	森 本 浩 一		3	金	3	113
ド イ ツ 文 学 概 論 II	物語と物語経験	2	森 本 浩 一		4	金	3	113
ド イ ツ 語 学 概 論 I	中級ドイツ文法	2	嶋 崎 啓		3	水	4	114
ド イ ツ 語 学 概 論 II	中級ドイツ文法	2	嶋 崎 啓		4	水	4	114
ドイツ語学基礎講読 I	ドイツの様々な顔 I	2	シュミッツ, プリギッテ		3	水	2	115
ドイツ語学基礎講読 II	ドイツの様々な顔 II	2	シュミッツ, プリギッテ		4	水	2	115
ド イ ツ 文 学 各 論 I	十八世紀ドイツ戯曲の誕生(VI)	2	㊦ 佐 藤 研 一		5	火	5	116
ド イ ツ 文 学 各 論 II	十八世紀ドイツ戯曲の誕生(VII)	2	㊦ 佐 藤 研 一		6	金	4	116
ド イ ツ 文 学 各 論 III	イメージと物語	2	㊦ 佐々木 果	集 中 (6)				117
ド イ ツ 語 学 各 論	「ナラトロジー」講読(1)	2	森 本 浩 一		5	木	2	117
ド イ ツ 語 学 各 論	「ナラトロジー」講読(2)	2	森 本 浩 一		6	木	2	118
ド イ ツ 語 学 各 論	ドイツ語圏文学講読	2	㊦ 松 崎 裕 人		6	水	4	118
ド イ ツ 文 学 演 習 I	批評演習(1)	2	森 本 浩 一		5	金	2	119
ド イ ツ 文 学 演 習 II	批評演習(2)	2	森 本 浩 一		6	金	2	119
ド イ ツ 文 学 演 習 III	ドイツ語圏の作家たちの日記の講読とドイツ語による自分の日記の作文	2	シュミッツ, プリギッテ		5	木	3	120
ド イ ツ 文 学 演 習 IV	グリム童話の講読と解釈	2	嶋 崎 啓		6	火	4	120
ド イ ツ 語 学 演 習 I	中高ドイツ語講読	2	嶋 崎 啓		5	月	4	121
ド イ ツ 語 学 演 習 II	中高ドイツ語講読	2	嶋 崎 啓		6	月	4	121
ド イ ツ 語 学 演 習 III	ドイツ文化の諸相 I	2	シュミッツ, プリギッテ		5	火	3	122
ド イ ツ 語 学 演 習 IV	ドイツ文化の諸相 II	2	シュミッツ, プリギッテ		6	火	3	122

フランス文学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
フ ラ ン ス 文 学 概 論 I	フランス文学史（古典主義の成立前後まで）	2	黒 岩	卓	3	月	4	123
フ ラ ン ス 文 学 概 論 II	フランス文学史（近現代）	2	今 井	勉	4	水	4	123
フ ラ ン ス 語 学 概 論 I	言語学の誕生から今日まで	2	阿 部	宏	4	月	5	124
フランス文学基礎講読 I	短編小説を読む	2	今 井	勉	3	水	4	124
フランス文学基礎講読 II	フランス語文法と仏文解釈	2	黒 岩	卓	4	月	4	125
フランス語学基礎講読	フランスの雑誌を読む	2	阿 部	宏	3	月	5	125
フ ラ ン ス 文 学 各 論 I	ヴァレリー研究(1)	2	今 井	勉	5	木	2	126
フ ラ ン ス 文 学 各 論 II	ヴァレリー研究(2)	2	今 井	勉	6	木	2	126
フ ラ ン ス 文 学 各 論 III	フランス近・現代詩を読む	2	㊦ 岩 切	正一郎	集 中 (5)			127
フ ラ ン ス 文 学 演 習 I	中世・ルネサンスの伝説仏文学入門(1)	2	黒 岩	卓	5	火	5	127
フ ラ ン ス 文 学 演 習 II	中世・ルネサンスの伝説仏文学入門(2)	2	黒 岩	卓	6	火	5	128
フ ラ ン ス 文 学 演 習 III	Lire, comprendre, interpréter	2	メ ヴ ェ ル ・ ヤ ン		5	水	2	128
フ ラ ン ス 文 学 演 習 IV	Lire, comprendre, interpréter	2	メ ヴ ェ ル ・ ヤ ン		6	水	2	129
フ ラ ン ス 語 学 演 習 I	フランス語意味論 I	2	阿 部	宏	5	火	3	129
フ ラ ン ス 語 学 演 習 II	フランス語意味論 II	2	阿 部	宏	6	火	3	130

ヨーロッパ史専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
ヨーロッパ史概論	イギリス史概論(1)	2	有	光 秀 行	3	月	4	131
ヨーロッパ史概論	イギリス史概論(2)	2	有	光 秀 行	4	月	4	131
ヨーロッパ史基礎講読	英語文献講読	2	小	野 善 彦	3	金	2	132
ヨーロッパ史基礎講読	英語文献講読	2	小	野 善 彦	4	金	2	132
ヨーロッパ史基礎講読	フランス語文献精読	2	有	光 秀 行	3	金	4	133
ヨーロッパ史基礎講読	フランス語文献精読	2	有	光 秀 行	4	金	4	133
ヨーロッパ史基礎講読	ドイツ語文献講読	2	浅	岡 善 治	3	水	2	134
ヨーロッパ史基礎講読	ドイツ語文献講読	2	浅	岡 善 治	4	水	2	134
ヨーロッパ史各論	古代ローマの社会と宗教	2	Ⓢ	島 田 誠	集 中 (5)			135
ヨーロッパ史各論	ドイツ近世の宗教・社会・国家	2	小	野 善 彦	5	月	2	135
ヨーロッパ史各論	ヨーロッパ福祉史の諸問題―一生の歴史学と「福祉の複合体」―	2	Ⓢ	高 田 実	集 中 (5)			136
ヨーロッパ史各論	社会主義革命と「社会」	2	浅	岡 善 治	6	金	2	136
ヨーロッパ史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有	光 秀 行	5	火	4	137
ヨーロッパ史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有	光 秀 行	6	火	4	137
ヨーロッパ史演習	西洋中世史の諸問題	2	小	野 善 彦	5	月	3	138
ヨーロッパ史演習	西洋中世史の諸問題	2	小	野 善 彦	6	月	3	138
ヨーロッパ史演習	ロシア革命の歴史的再検討	2	浅	岡 善 治	5	木	2	139
ヨーロッパ史演習	ロシア革命の歴史的再検討	2	浅	岡 善 治	6	木	2	139

言語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開講 セメスター	曜日	講時	頁
			氏	名				
現代言語学概論	言語学概論Ⅰ	2	小	泉 政 利	3	金	2	140
現代言語学概論	言語学概論Ⅱ	2	小	泉 政 利	4	金	2	140
現代言語学基礎講読	社会言語学	2	後	藤 齊	4	火	2	141
音 声 学	音声学概説・調音音声学	2	後	藤 齊	3	水	4	141
音 声 学	音響音声学	2	後	藤 齊	4	水	4	142
現代言語学各論	言語機能学入門	2	㊦	傍 士 元	集 中 (5)			142
現代言語学各論	認知言語学の基礎と応用	2	㊦	尾 谷 昌 則	集 中 (5)			143
現代言語学各論	生成文法と関連領域Ⅰ	2	㊦	遊 佐 典 昭	集 中 (5)			143
現代言語学各論	生成文法と関連領域Ⅱ	2	㊦	遊 佐 典 昭	集 中 (6)			144
言語交流学各論	言語研究におけるコンピュータ利用の基礎	2	後	藤 齊	5	月	4	144
言語交流学各論	テキスト処理の基礎	2	後	藤 齊	6	月	4	145
現代言語学演習	言語学研究法	2	後小	藤 泉 政 利	5	金	3	145
現代言語学演習	言語学研究法	2	後小	藤 泉 政 利	6	金	3	146
言語交流学演習	コーパス言語学の概観	2	後	藤 齊	5	金	2	146
言語交流学演習	コーパス言語学の実践	2	後	藤 齊	6	金	2	147
言語交流学演習	実験言語学Ⅰ	2	小	泉 政 利	5	水	4	147
言語交流学演習	実験言語学Ⅱ	2	小	泉 政 利	6	水	4	148

国語学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
国 語 学 概 論	日本語の歴史・言語の変化	2	大 木 一 夫		3	月	5	149
国 語 学 概 論	方言研究	2	小 林 隆		4	月	5	149
現 代 日 本 語 学 概 論	日本語学概論	2	甲 田 直 美		3	火	3	150
現 代 日 本 語 学 概 論	現代日本語の語彙と語彙論	2	齋 藤 倫 明		4	月	4	150
国 語 学 基 礎 講 読	近代（明治期）の文語文講読	2	齋 藤 倫 明		3	水	5	151
国 語 学 基 礎 講 読	古典語講読	2	大 木 一 夫		4	月	2	151
国 語 学 各 論	日本語文法研究	2	大 木 一 夫		5	木	2	152
国 語 学 各 論	方言学的日本語史研究	2	小 林 隆		6	火	2	152
国 語 学 各 論	会話コミュニケーション分析	2	㊦ 高 梨 克 也	集 中 (5)				153
現 代 日 本 語 学 各 論	「連語」とその問題点	2	齋 藤 倫 明		5	月	4	153
現 代 日 本 語 学 各 論	文章・談話の構造論	2	甲 田 直 美		5	月	3	154
国 語 学 講 読	中世語の研究	2	大 木 一 夫		5	月	2	154
国 語 学 講 読	文法形式成立史の研究	2	大 木 一 夫		6	木	2	155
国 語 学 演 習	方言調査法	2	小 林 隆		5	火	2	155
現 代 日 本 語 学 講 読	近世言語論講読	2	齋 藤 倫 明		6	水	5	156
現 代 日 本 語 学 演 習	文章・談話の構造	2	甲 田 直 美		6	月	3	156

日本語教育学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
現 代 日 本 論 概 論	現代日本における家族	2	田 中 重 人		3	火	2	157
現 代 日 本 論 概 論	現代日本における職業	2	田 中 重 人		4	火	2	157
日 本 語 教 育 学 概 論	日本語と日本語教育	2	才 田 い ず み		3	火	3	158
日 本 語 教 育 学 概 論	日本語教育の基礎	2	才 田 い ず み		4	火	3	158
日 本 語 教 育 学 基 礎 講 読	外国語学習と習得	2	才 田 い ず み		3	月	5	159
現 代 日 本 論 基 礎 講 読	論文作成の基礎	2	田 中 重 人		3	金	2	159
現 代 日 本 論 基 礎 講 読	研究法入門	2	田 中 重 人		4	金	2	160
日 本 語 教 育 学 各 論	ステレオタイプと異文化コミュニケーション	2	㊦ 呉 正 培		5	月	1	160
日 本 語 教 育 学 各 論	学習者と社会	2	㊦ 島 崎 薫		6	木	3	161
日 本 語 教 育 学 各 論	日本語教育文法概論	2	㊦ 庵 功 雄	集 中 (5)				161
日 本 語 教 育 学 各 論	現代社会と言語教育～日本語教育の社会的意味と役割	2	㊦ 神 吉 宇 一	集 中 (6)				162
日 本 語 教 育 学 演 習	音声と聴解の教育	2	才 田 い ず み		5	火	4	162
日 本 語 教 育 学 演 習	中間言語語用論と会話教育	2	才 田 い ず み		6	火	2	163
日 本 語 教 育 学 実 習	日本語コース運営の基礎	2	才 田 い ず み		5	水	3・4	163
日 本 語 教 育 学 実 習	日本語コースの運営と改善	2	才 田 い ず み		6	水	3・4	164
現 代 日 本 論 講 読	現代日本論論文講読	2	田 中 重 人		5	金	4	164
現 代 日 本 論 演 習	質問紙調査の基礎	2	田 中 重 人		5	水	2	165
現 代 日 本 論 演 習	統計分析の基礎	2	田 中 重 人		5	木	2	165
現 代 日 本 論 演 習	調査的面接の基礎	2	田 中 重 人		6	水	2	166
現 代 日 本 論 演 習	実践的統計分析法	2	田 中 重 人		6	木	2	166

哲学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開講 セメスター	曜日	講時	頁
			氏	名				
現代哲学概論	近現代哲学の諸問題	2	直江	清隆	3	金	3	167
現代哲学概論	人間とロボットの哲学	2	Ⓢ 小林	睦	4	火	5	167
現代哲学概論	心の哲学入門	2	原	塑	3	水	4	168
現代哲学概論	科学哲学入門	2	原	塑	4	水	4	168
哲学思想概論	古代哲学史（前篇）	2	荻原	理	3	木	2	169
哲学思想概論	古代哲学史（後篇）	2	荻原	理	4	木	2	169
哲学思想概論	カント倫理学入門	2	城戸	淳	3	月	4	170
哲学思想概論	デカルト『省察』入門	2	城戸	淳	4	月	4	170
哲学思想基礎講読	認識論の可能性—『精神現象学』「緒論」の批判的検討	2	Ⓢ 小松	恵一	3	木	3	171
哲学思想基礎講読	認識論の可能性—シュネーデルバッハの認識論擁護	2	Ⓢ 小松	恵一	4	木	3	171
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン(1)	2	直江清隆・荻原理 原 塑・城戸 淳		3	水	3	172
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン(2)	2	荻原理 城戸 淳		4	水	3	172
哲学思想各論	哲学的自然主義とプラグマティズム	2	Ⓢ 井頭	昌彦	集中 (6)			173
哲学思想各論	討議倫理学入門	2	Ⓢ 松本	大理	6	水	3	173
哲学思想各論	イデア論とは何か	2	荻原	理	6	月	3	174
生命環境倫理学各論	優生学の倫理	2	Ⓢ 小林	睦	6	火	4	174
哲学思想演習	アーレント『革命について』を読む	2	Ⓢ 森	一郎	5	火	4	175
哲学思想演習	芸術作品の現象学	2	直江	清隆	5	月	3	175
哲学思想演習	自己と他者の現象学	2	直江	清隆	5	金	5	176
哲学思想演習	プラトン『パイドン』演習	2	荻原	理	5	火	5	176
哲学思想演習	プラトン『パイドン』演習	2	荻原	理	6	火	5	177
哲学思想演習	自由意志論研究	2	原	塑	5	火	2	177
哲学思想演習	記号論理学	2	原	塑	6	火	2	178

哲学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開講 Semester	曜日	講時	頁
			氏名	氏名				
哲学思想演習	哲学的責任論研究	2	原	塑	5	火	3	178
哲学思想演習	分析美学研究	2	原	塑	6	火	3	179
哲学思想演習	カントの超越論的演繹論(1)	2	城戸	淳	5	水	5	179
哲学思想演習	カントの超越論的演繹論(2)	2	城戸	淳	6	水	5	180
哲学思想演習	ホッブズ＝プラムホール論争 と近代の自由意志論(1)	2	城戸	淳	5	木	2	180
哲学思想演習	ホッブズ＝プラムホール論争 と近代の自由意志論(2)	2	城戸	淳	6	木	2	181
哲学思想演習	フッサール『デカルト的省察』 を読む	2	佐藤	駿	5	木	4	181
哲学思想演習	フッサール『デカルト的省察』 を読む	2	佐藤	駿	6	木	4	182
生命環境倫理学演習	人権をめぐる生命倫理文献 (英語) 講読	2	⑤ 大圓 ⑥ 北増	全俊文	5	水	1	182

倫理学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
倫 理 思 想 概 論	現象学・倫理学通論	2	戸 島 貴 代 志		3	火	2	183
倫 理 思 想 概 論	倫理学の基礎	2	㊦ 池 田 準		4	金	4	183
倫 理 思 想 基 礎 講 読	総合演習:「生の哲学」と「実存思想」	2	戸 島 貴 代 志		3	月	2	184
倫 理 思 想 基 礎 講 読	総合演習:「生の哲学」と「実存思想」	2	戸 島 貴 代 志		4	月	2	184
倫 理 思 想 基 礎 講 読	倫理学研究のレッスン(1)	2	村 山 達 也		3	水	3	185
倫 理 思 想 基 礎 講 読	哲学研究のレッスン(2)	2	戸 島 貴 代 志		4	水	3	185
倫 理 思 想 各 論	実存と構造	2	戸 島 貴 代 志		6	火	2	186
倫 理 思 想 各 論	「現象学と比較文化～東洋的なものへの視角」	2	㊦ 梶 谷 真 司	集 中 (5)				186
倫 理 思 想 各 論	17世紀大陸合理主義の倫理学	2	村 山 達 也		5	金	4	187
倫 理 思 想 演 習	総合演習:「生の哲学」と「実存思想」	2	戸 島 貴 代 志		5	月	2	187
倫 理 思 想 演 習	総合演習:「生の哲学」と「実存思想」	2	戸 島 貴 代 志		6	月	2	188
倫 理 思 想 演 習	総合演習:「現象学」と「存在論」	2	戸 島 貴 代 志		5	水	4	188
倫 理 思 想 演 習	総合演習:「現象学」と「存在論」	2	戸 島 貴 代 志		6	水	4	189
倫 理 思 想 演 習	アーレント革命論研究	2	㊦ 森 一 郎		5	火	3	189
倫 理 思 想 演 習	フランス哲学演習(1) ライブニッツ『モノドロジー』	2	村 山 達 也		5	水	2	190
倫 理 思 想 演 習	フランス哲学演習(2) ルソー『人間不平等起源論』	2	村 山 達 也		5	金	2	190

東洋・日本美術史専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
東洋・日本美術史概論	日本美術史基礎論	2	長 岡 龍 作		3	金	4	191
東洋・日本美術史概論	日本絵画史一中・近世編一	2	泉 武 夫		4	金	4	191
東洋・日本美術史基礎講読	東洋・日本美術史論文研究	2	長 岡 龍 作		3	金	5	192
東洋・日本美術史基礎講読	東洋・日本美術史論文研究	2	長 岡 龍 作		4	金	5	192
東洋・日本美術史基礎実習	美術作品取り扱いの理論と実践	2	長 岡 龍 作 泉 武 夫		3	火	3・4	193
東洋・日本美術史基礎実習	美術作品取り扱いの理論と実践	2	泉 岡 武 夫 長 岡 龍 作		4	火	3・4	193
東洋・日本美術史各論	古代・中世絵画史研究	2	泉 武 夫		5	水	3	194
東洋・日本美術史各論	古代・中世絵画史研究	2	泉 武 夫		6	水	3	194
東洋・日本美術史各論	信仰と造形	2	長 岡 龍 作		5	月	4	195
東洋・日本美術史各論	信仰と造形	2	長 岡 龍 作		6	月	4	195
東洋・日本美術史各論	土佐派興亡史	2	⑤ 相 澤 正 彦	集 中 (5)				196
東洋・日本美術史講読	日本美術資料研究	2	泉 武 夫		5	木	2	196
東洋・日本美術史講読	日本美術資料研究	2	泉 武 夫		6	木	2	197
東洋・日本美術史演習	美術作品研究	2	長 岡 龍 作		5	火	2	197
東洋・日本美術史演習	美術作品研究	2	長 岡 龍 作		6	火	2	198

美学・西洋美術史専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
美学・西洋美術史概論	ヨーロッパ美術の北と南— アリズムの行方	2	尾 崎 彰 宏		4	金	3	199
美学・西洋美術史概論	西洋古代・中世の絵画	2	芳 賀 京 子		3	月	2	199
美学・西洋美術史概論	西洋美学概論（前期）	2	フォンガロ・エンリコ		3	水	2	200
美学・西洋美術史概論	西洋美学概論（後期）	2	フォンガロ・エンリコ		4	水	2	200
美学・西洋美術史基礎講読	オランダ語の基礎とヨーロ ッパ文化	2	尾 崎 彰 宏		3	金	1	201
美学・西洋美術史基礎講読	西洋美術史の基本文献の読解 法	2	芳 賀 京 子		4	水	4	201
美学・西洋美術史各論	ネーデルラント美術における 共感表現、スペクタクル、美 術市場	2	尾 崎 彰 宏		5	金	3	202
美学・西洋美術史各論	古代ギリシア・ローマの神々 と神域	2	芳 賀 京 子		6	月	2	202
美学・西洋美術史各論	マニエリスム形成期における 美術と「魔術的なもの」	2	⑧ 足 達 薫		集 中 (5)			203
美学・西洋美術史演習	西洋美術史に関する方法論の 諸問題	2	尾 崎 彰 宏		5	金	4	203
美学・西洋美術史演習	西洋美術に関する方法論の諸 問題	2	尾 崎 彰 宏		6	金	4	204
美学・西洋美術史演習	西洋古代・中世美術作品研究 の基礎	2	芳 賀 京 子		5	月	3	204
美学・西洋美術史演習	西洋古代・中世美術作品研究 の基礎	2	芳 賀 京 子		6	月	3	205
美学・西洋美術史演習	西洋美学演習（前期）	2	フォンガロ・エンリコ		5	木	5	205
美学・西洋美術史演習	西洋美学演習（後期）	2	フォンガロ・エンリコ		6	木	5	206
美学・西洋美術史実習	西洋美術の基礎知識と調査入 門	2	尾 崎 彰 宏 芳 賀 京 子		5	火	3・4	206
美学・西洋美術史実習	美術作品の記述と西洋美術の 見方	2	尾 崎 彰 宏 芳 賀 京 子		6	火	3・4	207

社会学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
社 会 学 概 論	農村地域社会の社会学	2	永 井	彰	3	木	1	208
社 会 学 概 論	現代社会と個人	2	小 松	丈 晃	4	木	1	208
社 会 学 基 礎 演 習	見田宗介を読む	2	長 谷 川	公 一	3	水	5	209
社 会 学 基 礎 演 習	システム論を読む	2	小 松	丈 晃	4	火	5	209
社 会 学 基 礎 演 習	社会問題を読む、論じる	2	泉	啓	4	月	4	210
社 会 学 基 礎 演 習	相互行為論の今日的展開：歴史的・社会構造的応用に向けて	2	㊦	徳 川 直 人	3	水	5	210
社 会 学 各 論	ハーバーマスの社会理論	2	永 井	彰	5	木	2	211
社 会 学 各 論	家族政策の現状と論理	2	下 夷	美 幸	6	火	1	211
社 会 学 各 論	質的調査の方法	2	㊦	小 林 一 穂	5	水	3	212
社 会 学 各 論	フィールドワークの実際	2	㊦	小 林 一 穂	6	水	3	212
社 会 学 各 論	リスクと知／無知の社会学	2	小 松	丈 晃	6	木	2	213
社 会 学 各 論	民による公共の可能性を考える—中国の市民的世界の展開を通して	2	㊦	李 妍 焱	集 中 (5)			213
社 会 学 各 論	イエとムラの社会学	2	㊦	永 野 由 紀 子	集 中 (6)			214
社 会 学 演 習	環境社会学の課題と方法	2	長 谷 川	公 一	5	水	2	214
社 会 学 演 習	リスクと不確実性の社会学	2	小 松	丈 晃	6	火	4	215
社 会 学 演 習	家族問題と家族政策	2	下 夷	美 幸	6	火	5	215
社 会 学 実 習	社会調査実習(1)	2	永 井	彰	5	金	3・4	216
社 会 学 実 習	社会調査実習(2)	2	永 井	彰	6	金	3・4	216

行動科学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
行 動 科 学 概 論	マイクロ-マクロ問題入門	2	佐 藤 嘉 倫		3	金	3	217
行 動 科 学 概 論	ゲーム理論入門	2	佐 藤 嘉 倫		4	金	3	217
行 動 科 学 概 論	社会調査の基礎	2	木 村 邦 博		3	月	5	218
行 動 科 学 概 論	社会調査の実際	2	木 村 邦 博		4	月	5	218
行 動 科 学 基 礎 演 習	まちづくり研究で学ぶ行動科学	2	大 井 慈 郎		3	金	4	219
行 動 科 学 基 礎 演 習	行動科学の基礎：数理・計量社会学	2	浜 田 宏		4	金	4	219
行 動 科 学 基 礎 実 習	多変量解析	2	永 吉 希 久 子		4	水	4・5	220
行 動 科 学 基 礎 実 習	社会調査演習	2	永 吉 希 久 子		5	水	4・5	220
行 動 科 学 各 論	リスクと防災の社会学	2	佐 藤 嘉 倫		5	月	5	221
行 動 科 学 各 論	格差・不平等・リスクの社会学	2	佐 藤 嘉 倫		6	月	5	221
行 動 科 学 各 論	数理社会学の数学的基礎	2	浜 田 宏		6	水	4	222
行 動 科 学 各 論	差別論	2	永 吉 希 久 子		6	月	2	222
行 動 科 学 各 論	社会的イメージの数理社会学	2	⑨ 石 田 淳	集 中 (5)				223
行 動 科 学 演 習	社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル	2	佐 藤 嘉 倫		5	水	3	223
行 動 科 学 演 習	エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明	2	佐 藤 嘉 倫		6	水	3	224
行 動 科 学 演 習	質問の科学	2	木 村 邦 博		5	金	4	224
行 動 科 学 演 習	社会学の理論と実証	2	浜 田 宏		5	水	2	225
行 動 科 学 演 習	Mathematicaによる数理社会学	2	浜 田 宏		6	水	2	225
行 動 科 学 演 習	計量社会学の基礎	2	永 吉 希 久 子		5	金	2	226
行 動 科 学 演 習	制度の計量分析	2	永 吉 希 久 子		6	金	2	226
行 動 科 学 演 習	都市社会学：まちを切り取る	2	大 井 慈 郎		6	金	4	227

心理学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
実 験 心 理 学 概 論	実験心理学の基礎	2	阿 部 恒 之		3	水	2	228
実 験 心 理 学 概 論	応用に向けた実験心理学	2	坂 井 信 之		4	月	3	228
社 会 心 理 学 概 論	集団行動の社会心理学	2	辻 本 昌 弘		3	金	2	229
実 験 心 理 学 基 礎 講 読	実験心理学の基礎文献読解	2	阿 部 恒 之		3	水	1	229
社 会 心 理 学 基 礎 講 読	社会心理学文献読解	2	辻 本 昌 弘		4	金	3	230
心 理 学 基 礎 実 験	基礎実験Ⅰ	2	阿部恒之・行場次朗 坂井信之・辻本昌弘		3	火	3・4	230
心 理 学 基 礎 実 験	基礎実験Ⅱ	2	坂井信之・行場次朗 阿部恒之・辻本昌弘		4	火	3・4	231
心 理 学 各 論	認知神経科学特論	2	㊦ 渡 邊 克 己	集 中 (5)				231
実 験 心 理 学 各 論	知覚と感性に関する心理科学の展開	2	行 場 次 朗		6	月	5	232
社 会 心 理 学 各 論	対人行動の社会心理学	2	㊦ 福 野 光 輝		6	金	4	232
文 化 心 理 学 各 論	文化と人間行動	2	辻 本 昌 弘		6	金	2	233
応 用 心 理 学 各 論	選択と購買を決める心と脳の仕組み	2	坂 井 信 之		5	水	3	233
実 験 心 理 学 演 習	ストレスと化粧の社会生理心理学	2	阿 部 恒 之		6	水	1	234
社 会 心 理 学 演 習	社会心理学の重要研究	2	㊦ 福 野 光 輝		5	金	4	234
文 化 心 理 学 演 習	現代文化心理学の視角	2	辻 本 昌 弘		5	木	2	235
応 用 心 理 学 演 習	幸福と健康の心理学	2	坂 井 信 之		6	水	3	235
心 理 学 研 究 法	心理学個別テーマ研究法Ⅰ	2	坂井信之・行場次朗 阿部恒之・辻本昌弘		5	火	3・4	236
心 理 学 研 究 法	心理学個別テーマ研究法Ⅱ	2	辻本昌弘・行場次朗 阿部恒之・坂井信之		6	火	3・4	236

文化人類学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員	開講 セメスター	曜日	講時	頁
			氏名				
文化人類学概論	文化相対主義(1)	2	沼崎一郎	3	火	4	237
文化人類学概論	文化相対主義(2)	2	沼崎一郎	4	火	4	237
文化人類学基礎講読	現代人類学入門	2	沼崎一郎	3	火	2	238
文化人類学基礎講読	現代人類学入門	2	川口幸大	4	火	2	238
文化人類学基礎演習	専門文献読解1	2	川口幸大	3	水	2	239
文化人類学基礎演習	文化人類学の視野と思考	2	川口幸大	4	水	2	239
文化人類学各論	グローバル化による国際移動	2	㊦ 二階堂裕子	集中 (5)			240
文化人類学各論	Living for today の人類学	2	㊦ 小川さやか	集中 (5)			240
文化人類学演習	比較文化研究法	2	沼崎一郎	5	火	3	241
文化人類学演習	文化人類学研究計画法	2	沼崎一郎	6	火	3	241
文化人類学演習	英語古典原書講読	2	沼崎一郎	6	木	2	242

宗教学専修

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
宗 教 学 概 論	日本の宗教研究者の“眼” —宗教民俗学的視点から—	2	鈴 木 岩 弓		3	木	1	243
宗 教 学 概 論	欧米の宗教研究	2	木 村 敏 明		4	木	1	243
宗 教 学 基 礎 講 読	儀礼論を読む	2	木 村 敏 明		3	金	2	244
宗 教 学 基 礎 講 読	儀礼論を読む	2	木 村 敏 明		4	金	2	244
宗 教 学 基 礎 演 習	宗教研究の技法	2	鈴木山 木村田 岩敏仁 弓明史		3	金	5	245
宗 教 学 基 礎 演 習	宗教研究の技法	2	鈴木山 木村田 岩敏仁 弓明史		4	金	5	245
宗 教 学 基 礎 実 習	宗教学調査法	2	鈴木山 木村田 岩敏仁 弓明史		3	月	4・5	246
宗 教 学 基 礎 実 習	宗教学調査法	2	鈴木山 木村田 岩敏仁 弓明史		4	月	4・5	246
宗 教 学 各 論	宗教と心理(1)	2	高 橋 原		5	水	3	247
宗 教 学 各 論	宗教学特論Ⅱ	2	⑤ 川 島 秀 一		5	水	1	247
宗 教 学 各 論	死の宗教民俗学	2	鈴 木 岩 弓		6	水	1	248
宗 教 学 各 論	現代宗教学の最前線	2	⑤ 磯 前 順 一	集 中 (5)				248
宗 教 人 類 学 各 論	宗教人類学の系譜	2	山 田 仁 史		6	火	1	249
宗 教 人 類 学 各 論	仏教福祉学	2	谷 山 洋 三		5	月	2	249
宗 教 学 講 読	A study of ghostlore on American college campuses	2	⑤ アンドリュース, デール		5	火	4	250
宗 教 学 講 読	A study of ghostlore on American college campuses	2	⑤ アンドリュース, デール		6	火	4	250
宗 教 学 演 習	宗教研究の技法	2	鈴木山 木村田 岩敏仁 弓明史		5	金	5	251
宗 教 学 演 習	宗教研究の技法	2	鈴木山 木村田 岩敏仁 弓明史		6	金	5	251
宗 教 学 実 習	宗教学調査法	2	鈴木岩弓・木村敏明 山田仁史・⑤高倉浩樹		5	月	4・5	252
宗 教 学 実 習	宗教学調査法	2	鈴木岩弓・木村敏明 山田仁史・⑤高倉浩樹		6	月	4・5	252

講義概要利用の手引

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
<p>◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要 ◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法</p> <p>◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習</p>					
その他：					

◎授 業 科 目：各専修ごとに次の順で掲載されている。
概論、講読、各論、演習、実習

◎開講セメスター：履修が望ましいセメスター。
(当該セメスター以降であれば履修は可能。)

◎履 修 要 件：「連続履修すること」の表記がある科目については、前期と後期を連続して履修しなければならない。
どちらか一方のみの履修は認めないので注意すること。

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 文 学 概 論 Japanese Literature (General Lecture)	2	教授 佐藤伸宏	3	金	3
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT201J				
◆ 授業題目	日本近代文芸の諸問題				
◆ 目的・概要	本講義では、日本の近代文芸について、とくに明治後期の文芸作品を取り上げて具体的な分析を行うとともに、作品内に折り込まれている多様なトピックスを取り出すことをとおして、日本近代文芸の特質、その固有の問題等について講述する。毎回の授業の終わりに、講義内容に関する質問や意見を提出してもらう。次回の授業において、その回答や補足の説明を行いながら、授業を進めていく。				
◆ 到達目標	(1)日本の近代文芸について、背景としての時代状況を視野に入れながら具体的な作品の分析を行うことをとおして、その多様な特質および近代文学史に関する理解を深める。 (2)文芸作品の読解の基本的な方法を習得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 【注意：質問への応答、補足説明等によって、下記の予定通りに進まないことがあり得る】 ガイダンス：明治という時代 夏目漱石「倫敦塔」 日本近代文学における〈想像〉と〈空想〉 寺田寅彦「団栗」 立身出世のイデオロギーと文学 田山花袋「一兵卒」 明治の戦争文学 小栗風葉「世間師」 日本近代文学における放浪のモチーフ 永井荷風「深川の唄」 日本近代文学と鉄道 水上瀧太郎「山の手の子」 明治文学における〈山の手〉〈下町〉 谷崎潤一郎「秘密」 日本近代文学とロマン主義 				
◇ 成績評価の方法	レポート・出席等（各50%）を一応の目安とするが、総合的に判断する。				
◇ 教科書・参考書	教科書：『日本近代短篇小説選 明治篇 2』（岩波文庫）他に講義資料として、配布プリントを使用する。参考書等については、教室で指示する。				
◇ 授業時間外学習	授業で取り上げる作品について、事前に熟読、精読しておく。				
その他：本講義は第4セメスターも連続して履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 文 学 概 論 Japanese Literature (General Lecture)	2	教授 佐倉由泰	4	金	3
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT201J				
◆ 授業題目	日本古典文芸の世界				
◆ 目的・概要	平安時代末の内乱とそこに生きる人々の姿を多様な形質の表現によって描き出した作品、『平家物語』の記述を検討対象として、日本の文学史、文化史にかかわる問題を考察して行く。毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。				
◆ 到達目標	(1)日本の古典文芸について、具体的な作品の分析を通して、その多様な特質と史的展開に関する理解を深める。 (2)文芸作品の読解の基礎的な方法を習得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> はじめに一表現を読むにあたってー 序文のしくみと機能 都をめぐる観念の内容と機能 事実の置き換えが指向するもの 歴史叙述と祝祭性 空間の多様な見え方 登場人物の関係と機能 戦いの表現が指向するもの 「悪」の表現が意味するもの 登場人物の造型の変容とその意味 速さの表象とその意味 場面を演出するしくみ 事件を美化するしくみ 結尾部の記述が指向するもの 表現の運動性をもたらすもの 				
◇ 成績評価の方法	学期末に提出してもらうレポート〔50%〕と、小レポート〔50%〕をもとに、総合的に判断する。				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。				
◇ 授業時間外学習	授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。				
その他：本講義は第3セメスターから連続して履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
国 文 学 基 礎 講 読 Japanese Literature (Introductory Reading)	2	准教授 横 溝 博	3	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT212J																				
◆ 授業題目	『蜻蛉日記』を読む																				
◆ 目的・概要	『蜻蛉日記』について輪読発表を繰り返す中で、古典作品の本文の立て方や注釈の付け方、考察の方法等について、実践的に学ぶことを目的とする。																				
◆ 到達目標	『蜻蛉日記』を素材に、(1)変体仮名の読解と翻刻、他本との比較による校訂本文の作成、注釈など、古典文学研究のための基本的な作業・所作について、実践的に学ぶ。(2)和歌や日記をはじめとする平安文学についての理解を深めるとともに、平安文学を読み進めるために必要な文献など、情報収集の手段や方法についても知識を得、その活用の仕方についても学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス。各回の発表者の決定。</td> <td>9. 発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2. 日記文学及び『蜻蛉日記』についての講義。変体仮名の読解練習</td> <td>10. 発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と質疑応答</td> <td>11. 発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と質疑応答</td> <td>12. 発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と質疑応答</td> <td>13. 発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と質疑応答</td> <td>14. 発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と質疑応答</td> <td>15. 発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>8. 発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス。各回の発表者の決定。	9. 発表と質疑応答	2. 日記文学及び『蜻蛉日記』についての講義。変体仮名の読解練習	10. 発表と質疑応答	3. 発表と質疑応答	11. 発表と質疑応答	4. 発表と質疑応答	12. 発表と質疑応答	5. 発表と質疑応答	13. 発表と質疑応答	6. 発表と質疑応答	14. 発表と質疑応答	7. 発表と質疑応答	15. 発表と質疑応答	8. 発表と質疑応答	
1. ガイダンス。各回の発表者の決定。	9. 発表と質疑応答																				
2. 日記文学及び『蜻蛉日記』についての講義。変体仮名の読解練習	10. 発表と質疑応答																				
3. 発表と質疑応答	11. 発表と質疑応答																				
4. 発表と質疑応答	12. 発表と質疑応答																				
5. 発表と質疑応答	13. 発表と質疑応答																				
6. 発表と質疑応答	14. 発表と質疑応答																				
7. 発表と質疑応答	15. 発表と質疑応答																				
8. 発表と質疑応答																					
◇ 成績評価の方法	授業時の発表および期末レポートの内容 [50%]、授業への参加の度合い [50%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書：今西祐一郎校注『蜻蛉日記』（岩波文庫、1996年）、『実用変体がな』（新典社）。 参考書：影印本文についてはプリントで配布する。その他、教場で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	事前に配布される発表資料に目を通し、質問事項を予め用意しておくこと。授業で扱う範囲外の部分についても、自学自習の上、作品内容の把握に努めること。																				
その他：『蜻蛉日記』の中巻を扱う予定です。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
国 文 学 基 礎 講 読 Japanese Literature (Introductory Reading)	2	教授 佐 藤 伸 宏	4	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT212J																				
◆ 授業題目	昭和前期の小説を読む																				
◆ 目的・概要	昭和前期の小説を一篇ずつ取り上げて精読する。毎回、担当者の発表と教室全体での討議を行う中で、細部の表現や表現様式、時代背景などを踏まえた作品読解の方法を確認していく。																				
◆ 到達目標	文芸作品を読む基礎的な手続きを習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス：時代背景としての昭和前期</td> <td>9. 北条民雄「いのちの初夜」</td> </tr> <tr> <td>2. 文学テキストの読解について</td> <td>10. 宮本百合子「築地河岸」</td> </tr> <tr> <td>3. 平林たい子「治療室にて」</td> <td>11. 小林多喜二「母たち」</td> </tr> <tr> <td>4. 井伏鱒二「鯉」</td> <td>12. 岡本かの子「家霊」</td> </tr> <tr> <td>5. 佐多稲子「キャラメル工場から」</td> <td>13. 太宰治「待つ」</td> </tr> <tr> <td>6. 梶井基次郎「闇の絵巻」</td> <td>14. 中島敦「文字禍」</td> </tr> <tr> <td>7. 伊藤整「生物祭」</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 室生犀星「あにいもうと」</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス：時代背景としての昭和前期	9. 北条民雄「いのちの初夜」	2. 文学テキストの読解について	10. 宮本百合子「築地河岸」	3. 平林たい子「治療室にて」	11. 小林多喜二「母たち」	4. 井伏鱒二「鯉」	12. 岡本かの子「家霊」	5. 佐多稲子「キャラメル工場から」	13. 太宰治「待つ」	6. 梶井基次郎「闇の絵巻」	14. 中島敦「文字禍」	7. 伊藤整「生物祭」	15. 授業のまとめ	8. 室生犀星「あにいもうと」	
1. ガイダンス：時代背景としての昭和前期	9. 北条民雄「いのちの初夜」																				
2. 文学テキストの読解について	10. 宮本百合子「築地河岸」																				
3. 平林たい子「治療室にて」	11. 小林多喜二「母たち」																				
4. 井伏鱒二「鯉」	12. 岡本かの子「家霊」																				
5. 佐多稲子「キャラメル工場から」	13. 太宰治「待つ」																				
6. 梶井基次郎「闇の絵巻」	14. 中島敦「文字禍」																				
7. 伊藤整「生物祭」	15. 授業のまとめ																				
8. 室生犀星「あにいもうと」																					
◇ 成績評価の方法	授業での発表およびレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）																				
◇ 教科書・参考書	教科書として、『日本近代短篇小説選 昭和篇 1』（岩波文庫）を使用する。参考書等については、教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業で取り上げる小説を事前に全員が熟読しておく。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 文 学 各 論 Japanese Literature (Special Lecture)	2	准教授 横 溝 博	5	月	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMLIT301J 『源氏物語』の成立と享受 『源氏物語』現五十四帖がいかにして構成されているか、成立の問題、巻序の問題をはじめ、散逸した巻巻（「桜人」「狭筵」「巢守」）についての『源氏積』『奥入』等の記述を検証する。「輝く日の宮」の巻は存在したのか。また、定家本・河内本成立の過程と意義、別本の価値をも含めた諸本（写本群）についても考察する。『源氏物語』の初期の注釈書や梗概書、系図等にも目配りし、『山路の露』『雲隠六帖』といった補作、さらには他作品における『源氏物語』受容の痕跡をも探る。古筆切等、新発見の資料にも目配りしたい。文字テキスト以外に、院政期の『国宝源氏物語絵巻』を、詞書とともにDVDで観る。復元プロジェクトによって、平安絵師の仕掛けた謎が現代に明らかとなるのか。このような検証、思考を通して、広く「『源氏物語』とは何か」、を考えていくことを目的とする。				
◆ 到達目標	『源氏物語』の成立と展開、流布と継承、受容および享受の問題を広く学ぶことで、(1)『源氏物語』をめぐる文化の諸現象に対する理解を深め、(2)『源氏物語』を独力で鑑賞し、(3)批判的に読み解くための基礎知識を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス。講義資料の事前配付。参考文献の紹介。 2. 『源氏物語』の諸本の異同について。「桐壺」巻を例に考える。 3. 「幻」巻の異文。ミセケチをめぐる『原中最秘抄』の諸説。 4. 「柏木」巻の表現と国宝『源氏物語絵巻』。柏木像の後代への影響。 5. 「桜人」について。『源氏積』の逸文から復元する。 6. 「かかやく日の宮」と並びの巻について。『奥入』の記述から考える。 7. 藤原定家の『源氏物語』蒐書活動と書写活動。『明月記』紙背から考える。 8. 「巢守」について(1)『源氏物語古系図』から復元する。 9. 「巢守」について(2)『古筆断簡』『風葉和歌集』から復元する。 10. 『源氏物語』の構成について。『源氏物語』は五十四帖か。六十巻説、三十七帖説を考える。 11. 『山路の露』について。補作もしくは『雲隠六帖』。 12. 『山路の露』を読む(1)「序文」を読む。 13. 『山路の露』を読む(2) 薫と浮舟の再会場面を読む。 14. 『山路の露』を読む(3) 浮舟と手習歌。 15. 『山路の露』を読む(4) 補作の試み 				
◇ 成績評価の方法	レポートの内容〔50%〕、授業への出席〔50%〕。また、毎時間提出するコメント用紙の内容も、平常点の一部として加味する。				
◇ 教科書・参考書	すべてプリントを用いる。毎時間用意すること。参考書は随時紹介する。				
◇ 授業時間外学習	復習に力を入れる。『山路の露』については、授業で読む箇所以外についても、独力で読み進め、内容把握に努めること。				
その他：二年生でも関心のある人は単位にかかわらず受講されたい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 文 学 各 論 Japanese Literature (Special Lecture)	2	准教授 横 溝 博	6	月	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMLIT301J 院政期物語の成立と展開 「平安後期物語」と呼ばれる主要な作品に『狭衣物語』『夜の寝覚』『浜松中納言物語』がある。これらの作品は厳密に言えば、平安後期の中でも藤原頼通の時代に成立した作品であり、平安末期まで範囲を広げれば、さまざまな作品が取り込まれてくることになる。『源氏物語』成立後、200年余の期間が対象となるのであり、この時期に作られた物語を、「平安後期物語」と一括りにして呼ぶことには無理があろう。本講義では、院政期(12C)を視野に入れ、院政期に作られた物語に着目することで、上記三作品を継承しつつも、違った行き方を見せる「院政期物語」の特質を明らかにしていくことを目的とする。具体的には『在明の別』というテキストを分析対象とする。『在明の別』の表現や構造、引用の方法などに着目し、とくに『今とりかへばや』の変奏と呼びうる「男装の女君の物語」としての側面にも留意することで、『在明の別』固有の論理を浮かび上がらせていく。かくして、「院政期物語」とは何か、その本質に迫っていく。				
◆ 到達目標	『在明の別』を主要なテキストとして読み解いていくことで、(1)『在明の別』に固有の物語世界を明らかにし、(2)院政期物語への理解を深めること、を目標とする。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス。院政期物語についての概説講義。参考文献の紹介。 2. 『在明の別』を読む(1)「冒頭部の新奇な試み、在明の別1」 3. 『在明の別』を読む(2)「女大将の秘密と垣間見歩き」 4. 『在明の別』を読む(3)「三条女の嘆きと女大将」 5. 『在明の別』を読む(4)「中務宮北の方の情事と女大将」 6. 『在明の別』を読む(5)「女大将、左大将姫君を迎える」 7. 『在明の別』を読む(6)「女君の出産と女大将の奇瑞」 8. 『在明の別』を読む(7)「女大将と帝、在明の別2」 9. 『在明の別』を読む(8)「女大将(死)して入内、女院となる」 10. 『在明の別』を読む(9)「左大臣と中務宮北の方、在明の別3」 11. 『在明の別』を読む(10)「左大臣と粟津の姫君、在明の別4」 12. 『在明の別』を読む(11)「大原の尼の即身成仏」 13. 『在明の別』を読む(12)「女君の懐妊、中務宮北の方の生霊出現」 14. 『在明の別』を読む(13)「女院と東宮の奇瑞、天女降下」 15. 『在明の別』を読む(14)「左大臣の出生の秘密の告知」 				
◇ 成績評価の方法	レポートの内容〔50%〕、授業への出席〔50%〕。毎時間記入して提出するコメント用紙の内容も平常点の一部として加味する。				
◇ 教科書・参考書	基本的には毎時間配布するオリジナルプリントによる。その他、参考文献等は随時紹介する。〔翻刻〕『鎌倉時代物語集成 第一巻』(市古貞次・三角洋一編、笠間書院、1988年)〔全訳〕『有明けの別れ—ある男装の姫君の物語—』(大槻修訳注、創英社、1995年〈初版1979年〉)ほか。				
◇ 授業時間外学習	既に配布された資料であっても毎時間用意すること。資料中、中略した箇所について各自で確認してあらずじを補っておくことが望ましい。				
その他：二年生でも関心のある人は単位にかかわらず受講されたい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 文 学 各 論 Japanese Literature (Special Lecture)	2	非常勤 講師 滝 川 幸 司	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT301J				
◆ 授業題目	平安前期漢文学史の諸問題				
◆ 目的・概要	平安文学の研究は、物語や和歌の仮名文学に比重が置かれているが、平安文学は漢文学から始まる。古今和歌集以前の文学史はほぼ漢文学史と同義であるが、研究は遅れている。本講義では、現在までの研究史を整理し、その問題点を議論し、古今和歌集成立以前の文学について多角的に講義を行う。				
◆ 到達目標	平安前期の漢文学史について、先行研究を整理し、問題点を論じる。平安文学史における漢文学の重要性について理解する。				
◆ 授業内容・方法	<p>平安前期漢文学史は、嵯峨朝の「文章経国」という、政治と文学が密接に結びつく時代から、承和期以後の個人の志を述べる時代へと変遷するととらえられている。「文章経国」から「詩言志」へという見取り図である。本講義では、この見取り図に対する疑問点を示し、その上で平安前期漢文学史の新たな見取り図を提示することを目的とする。</p> <p>1. はじめに —平安前期漢文学史をとらえる視点— 2. 平安前期漢文学史の見取り図 —通説— 3. 嵯峨朝の諸問題(一) —通説— 4. 嵯峨朝の諸問題(二) —文章経国思想—</p> <p>5. 嵯峨朝の諸問題(三) —大学寮— 6. 嵯峨朝の諸問題(四) —勅撰集の編纂— 7. 嵯峨朝の諸問題(五) —君臣唱和と宮廷詩宴— 8. 嵯峨朝から菅原道真へ —承和期文学— 9. 菅原道真の言志に関する諸問題(一) —通説— 10. 菅原道真の言志に関する諸問題(二) —資料再検討— 11. 菅原道真の言志に関する諸問題(三) —詩臣— 12. 菅原道真の言志に関する諸問題(四) —宮廷詩宴— 13. 紀伝道における詩人と儒家(一) —対立の視点— 14. 紀伝道における詩人と儒家(二) —包括する視点— 15. まとめ</p>				
◇ 成績評価の方法	レポート				
◇ 教科書・参考書	教科書はプリント配布、参考書は授業で紹介する。				
◇ 授業時間外学習	資料は漢文中心の資料となる。必要最小限の注解は付しておくが、漢文が得意でない場合は授業前に資料を読み、内容を把握しておくことが望ましい。また、授業中に紹介した先行研究については、できる限り全体を読むようにしておくこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 文 芸 形 成 論 各 論 Study of Formation of Japanese Literature (Special Lecture)	2	教授 佐 倉 由 泰	5	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT302J				
◆ 授業題目	『太平記』の研究				
◆ 目的・概要	十四世紀の変動期、動乱期とそこに生きる人々の姿を描き出した作品、『太平記』の記述を考察する。『太平記』の表現を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、『太平記』の特質とともに、そこに現れる世界観、人間観、社会認識のあり方を明らかにして行く。毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。				
◆ 到達目標	(1)表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるような読解力、洞察力を身につける。 (2)文学、文化、社会について思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。				
◆ 授業内容・方法	<p>1. 『太平記』の時代 2. 『太平記』の概要 3. 『太平記』の成立 4. 『太平記』第一部の世界(一) —物語のはじまり— 5. 『太平記』第一部の世界(二) —楠木正成をめぐる表現— 6. 『太平記』第一部の世界(三) —巻第六から巻第八までの表現— 7. 『太平記』第一部の世界(四) —巻第九の表現— 8. 『太平記』第一部の世界(五) —巻第十、巻第十一の表現— 9. 『太平記』の第二部の世界(一) —建武の新政をめぐる表現—</p> <p>10. 『太平記』の第二部の世界(二) —楠木正成をめぐる表現に着目して— 11. 『太平記』の第二部の世界(三) —新田義貞をめぐる表現に着目して— 12. 『太平記』の第二部の世界から第三部の世界へ 13. 『太平記』の第三部の世界(一) —「娑婆羅」をめぐる表現— 14. 『太平記』の第三部の世界(二) —乱世の表現— 15. 『太平記』の終幕</p>				
◇ 成績評価の方法	学期末に提出してもらおうレポート [60%]、小レポート [40%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：特に指定しない 参考書：授業の中で随時紹介する				
◇ 授業時間外学習	授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。				
その他：本講義（日本文芸形成論各論）は第6セメスターも連続して履修することが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 文 芸 形 成 論 各 論 Study of Formation of Japanese Literature (Special Lecture)	2	教授 佐倉由泰	6	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT302J				
◆ 授業題目	『徒然草』の研究				
◆ 目的・概要	中世の書、『徒然草』の多様性に溢れた記述を考察する。『徒然草』の表現を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、『徒然草』の特質とともに、そこに現れる世界観、人間観、社会認識のあり方を明らかにして行く。毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。				
◆ 到達目標	(1)表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるような読解力、洞察力を身につける。 (2)文学、文化、社会について思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 『徒然草』とは— 第四十段で述べようとしていること 第二百四十三段で述べようとしていること 筆者が自分について語る時 『徒然草』となぞなぞ 『徒然草』と噂(一) 『徒然草』と噂(二) 『徒然草』の中の匿名の人 『徒然草』における今と昔(一) 『徒然草』における今と昔(二) 『徒然草』と有職故実 『徒然草』と教養、芸能、技芸 『徒然草』と教訓 『徒然草』と自然 再び『徒然草』とは— 				
◇ 成績評価の方法	学期末に提出してもらおうレポート [60%]、小レポート [40%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：小川剛生訳注『徒然草』（角川ソフィア文庫） 参考書：授業の中で随時紹介する				
◇ 授業時間外学習	授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。				
その他：本講義（日本文芸形成論各論）は第5セメスターから連続して履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 文 学 演 習 Japanese Literature (Seminar)	2	教授 佐藤伸宏	5	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT317J				
◆ 授業題目	日露戦後文学の研究				
◆ 目的・概要	日露戦後、すなわち明治末期から大正期にかけての時期は日本近代文学の展開において大きな転換期であった。この転換期の文学を取り上げ、考察を加える。受講者は各自担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて報告する。口頭発表と質疑応答をとおして各作品の精緻な読解を試みる。本セメスターでは、主として明治末期の小説等を取り上げる。				
◆ 到達目標	(1)文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。 (2)日露戦後文学の多様な展開とその特質について理解を深める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス：日露戦後という時代 日露戦後文学史 担当者による口頭発表と質疑応答 担当者による口頭発表と質疑応答 担当者による口頭発表と質疑応答 担当者による口頭発表と質疑応答 担当者による口頭発表と質疑応答 担当者による口頭発表と質疑応答 担当者による口頭発表と質疑応答 担当者による口頭発表と質疑応答 担当者による口頭発表と質疑応答 担当者による口頭発表と質疑応答 担当者による口頭発表と質疑応答 前期のまとめ 				
◇ 成績評価の方法	授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。				
◇ 授業時間外学習	授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておく				
その他：本演習は第6セメスターも連続して履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
国 文 学 演 習 Japanese Literature (Seminar)	2	教授 佐藤伸宏	6	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT317J																				
◆ 授業題目	日露戦後文学の研究																				
◆ 目的・概要	日露戦後、すなわち明治末期から大正期にかけての時期は日本近代文学の展開において大きな転換期であった。この転換期の文学を取り上げ、考察を加える。受講者は各自担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて報告する。口頭発表と質疑応答をとおして各作品の精緻な読解を試みる。本セメスターでは、主として大正期の小説等を取り上げる。																				
◆ 到達目標	(1)文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。 (2)日露戦後文学の多様な展開とその特質について理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス：大正期の文学</td> <td>9. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>10. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>11. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>4. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>12. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>5. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>13. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>6. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>14. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>7. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>15. 後期のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス：大正期の文学	9. 担当者による口頭発表と質疑応答	2. 担当者による口頭発表と質疑応答	10. 担当者による口頭発表と質疑応答	3. 担当者による口頭発表と質疑応答	11. 担当者による口頭発表と質疑応答	4. 担当者による口頭発表と質疑応答	12. 担当者による口頭発表と質疑応答	5. 担当者による口頭発表と質疑応答	13. 担当者による口頭発表と質疑応答	6. 担当者による口頭発表と質疑応答	14. 担当者による口頭発表と質疑応答	7. 担当者による口頭発表と質疑応答	15. 後期のまとめ	8. 担当者による口頭発表と質疑応答	
1. ガイダンス：大正期の文学	9. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
2. 担当者による口頭発表と質疑応答	10. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
3. 担当者による口頭発表と質疑応答	11. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
4. 担当者による口頭発表と質疑応答	12. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
5. 担当者による口頭発表と質疑応答	13. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
6. 担当者による口頭発表と質疑応答	14. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
7. 担当者による口頭発表と質疑応答	15. 後期のまとめ																				
8. 担当者による口頭発表と質疑応答																					
◇ 成績評価の方法	授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておく																				
その他：本演習は第5セメスターから連続して履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
国 文 学 演 習 Japanese Literature (Seminar)	2	教授 佐倉由泰	5	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT317J																				
◆ 授業題目	中世の日記文芸、紀行文芸の研究																				
◆ 目的・概要	文学、文化、社会を発見的に理解するためには何に注目し、どのような手順で思考を進めればよいのかということ、中世の日記文芸、紀行文芸の考察の実践を通して発見的に理解して行く。																				
◆ 到達目標	文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(一)</td> <td>9. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(四)</td> </tr> <tr> <td>2. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(二)</td> <td>10. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(五)</td> </tr> <tr> <td>3. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(三)</td> <td>11. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(六)</td> </tr> <tr> <td>4. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(四)</td> <td>12. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(七)</td> </tr> <tr> <td>5. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(五)</td> <td>13. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(八)</td> </tr> <tr> <td>6. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(一)</td> <td>14. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(九)</td> </tr> <tr> <td>7. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(二)</td> <td>15. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(十)</td> </tr> <tr> <td>8. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(三)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(一)	9. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(四)	2. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(二)	10. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(五)	3. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(三)	11. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(六)	4. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(四)	12. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(七)	5. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(五)	13. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(八)	6. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(一)	14. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(九)	7. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(二)	15. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(十)	8. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(三)	
1. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(一)	9. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(四)																				
2. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(二)	10. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(五)																				
3. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(三)	11. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(六)																				
4. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(四)	12. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(七)																				
5. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(五)	13. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(八)																				
6. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(一)	14. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(九)																				
7. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(二)	15. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(十)																				
8. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(三)																					
◇ 成績評価の方法	授業時の発表およびレポート [60%]、授業への参加 [40%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書：特に指定しない 参考書：授業の中で随時紹介する																				
◇ 授業時間外学習	授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。																				
その他：本演習（中世の日記文芸、紀行文芸の研究）は、第6セメスターも連続して履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 文 学 演 習 Japanese Literature (Seminar)	2	教授 佐倉由泰	6	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT317J				
◆ 授業題目	中世の日記文芸、紀行文芸の研究				
◆ 目的・概要	文学、文化、社会を発見的に理解するためには何に注目し、どのような手順で思考を進めればよいのかということ、中世の日記文芸、紀行文芸の考察の実践を通して発見的に理解して行く。				
◆ 到達目標	文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (一) 2. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (二) 3. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (三) 4. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (四) 5. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (五) 6. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (六) 7. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (七) 8. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (八) 9. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (九) 10. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十) 11. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十一) 12. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十二) 13. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十三) 14. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十四) 15. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十五) 				
◇ 成績評価の方法	授業時の発表およびレポート [60%]、授業への参加 [40%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：特に指定しない 参考書：授業の中で随時紹介する				
◇ 授業時間外学習	授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。				
その他：本演習（中世の日記文芸、紀行文芸の研究）は、第5セメスターから連続して履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 文 学 演 習 Japanese Literature (Seminar)	2	准教授 横溝博	5	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT317J				
◆ 授業題目	『源氏物語』の研究				
◆ 目的・概要	「末摘花」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【鑑賞】と【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。				
◆ 到達目標	『源氏物語』『末摘花』巻を精読することで、(1)物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2)諸注釈、各種辞典（事典）類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（発表者及びローテーション決定） 2. 講義（光源氏の青年期について・桐壺巻～葵巻） 3. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ 4. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ 5. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ 6. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ 7. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ 8. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ 9. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ 10. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ 11. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ 12. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ 13. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ 14. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ 15. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ 				
◇ 成績評価の方法	授業時の発表および期末レポート（発表のまとめ）の内容 [50%]、授業への参加 [50%]				
◇ 教科書・参考書	テキストとして角川ソフィア文庫玉上琢弥訳注『源氏物語』第2巻（末摘花～花散里）を用いるので、大学生協で購入のこと。また、参考書として中野幸一編『〈新装版〉常用 源氏物語要覧』（武蔵野書院、2012年）がある。その他、参考文献は随時紹介する。				
◇ 授業時間外学習	毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。				
その他：本演習は、第6セメスターも連続して履修すること。物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや興味を大事にしていきたいと思います。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																																
国 文 学 演 習 Japanese Literature (Seminar)	2	准教授 横 溝 博	6	月	5																																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT317J																																				
◆ 授業題目	『源氏物語』の研究																																				
◆ 目的・概要	「葵」巻を輪読する。担当者は該当巻の【梗概】および【鑑賞】と【考察】をレジюмеとしてまとめ、それを事前配布し、発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。																																				
◆ 到達目標	『源氏物語』『葵』巻を輪読していくことで、(1)登場人物の造型や語りの有りよう、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2)准拠の問題や有職故実、風俗と文化についての理解を深める。以上を通して物語を読む力、批評する力を高めることで、課題に対して研究的に取り組むための応用力を身につける。																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 「葵」巻の輪読</td> <td>(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ (以降同)</td> <td>9. 「葵」巻の輪読</td> <td>(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>2. 「葵」巻の輪読</td> <td>(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td>10. 「葵」巻の輪読</td> <td>(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>3. 「葵」巻の輪読</td> <td>(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td>11. 「葵」巻の輪読</td> <td>(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>4. 「葵」巻の輪読</td> <td>(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td>12. 「葵」巻の輪読</td> <td>(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>5. 「葵」巻の輪読</td> <td>(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td>13. 「葵」巻の輪読</td> <td>(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>6. 「葵」巻の輪読</td> <td>(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td>14. 「葵」巻の輪読</td> <td>(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 「葵」巻の輪読</td> <td>(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td>15. 「葵」巻の輪読</td> <td>(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「葵」巻の輪読</td> <td>(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ (以降同)	9. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	2. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	10. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	3. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	11. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	4. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	12. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	5. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	13. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	6. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	14. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	7. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	15. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	8. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ		
1. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ (以降同)	9. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																																		
2. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	10. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																																		
3. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	11. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																																		
4. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	12. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																																		
5. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	13. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																																		
6. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	14. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																																		
7. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	15. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																																		
8. 「葵」巻の輪読	(1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																																				
◇ 成績評価の方法	授業時の発表および期末レポート（発表のまとめ）の内容〔50%〕、授業への参加度合い〔50%〕																																				
◇ 教科書・参考書	テキストとして角川ソフィア文庫玉上琢弥訳注『源氏物語』第2巻（末摘花～花散里）を用いるので、大学生協で購入のこと。また、参考書として中野幸一編『〈新装版〉常用 源氏物語要覧』（武蔵野書院、2012年）がある。その他、参考文献は随時紹介する。																																				
◇ 授業時間外学習	毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。																																				
その他：	本演習は、第5セメスターから連続して履修すること。前期で読んだ「末摘花」巻、続く「紅葉賀」「花宴」巻を踏まえつつ、「葵」巻について、物語の筋を先取りするのではなく、物語の進行に従いながら、その表現世界を丁寧に探求していきたいと思います。																																				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 思 想 史 概 論 History of Japanese Philosophy (General Lecture)	2	教授 佐藤弘夫	3	金	1																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI201J																				
◆ 授業題目	「日本思想史」の課題と方法																				
◆ 目的・概要	毎回、日本思想史に関わる多様なテーマを取り上げ、資料に即した具体的な考察を行うことによって、日本思想史という学問の性格と特色について理解を深める。																				
◆ 到達目標	日本思想史という学問の持つさまざまな顔とその魅力を知る。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 日本思想史への招待—仙台と川内の原風景を探る</td> <td>9. 日本の「神」を考える</td> </tr> <tr> <td>2. 青葉山「蒙古の碑」を読み解く</td> <td>10. 死者の花嫁</td> </tr> <tr> <td>3. 起請文の宇宙—文書に世界観を読む</td> <td>11. 天皇制はなぜ続いたか</td> </tr> <tr> <td>4. 慈覚大師の足跡</td> <td>12. 美人女房落魄伝説—才女が落ちぶれる話</td> </tr> <tr> <td>5. 松島—その歴史と謎</td> <td>13. 即身仏の寺—ミイラの精神史</td> </tr> <tr> <td>6. 日本人と山—日本文化を見直す</td> <td>14. 幽霊の発生</td> </tr> <tr> <td>7. 異界の思想—怪異の起こる場</td> <td>15. 神仏習合再考</td> </tr> <tr> <td>8. ゆるキャラの源流—成仏する草木</td> <td></td> </tr> </table>					1. 日本思想史への招待—仙台と川内の原風景を探る	9. 日本の「神」を考える	2. 青葉山「蒙古の碑」を読み解く	10. 死者の花嫁	3. 起請文の宇宙—文書に世界観を読む	11. 天皇制はなぜ続いたか	4. 慈覚大師の足跡	12. 美人女房落魄伝説—才女が落ちぶれる話	5. 松島—その歴史と謎	13. 即身仏の寺—ミイラの精神史	6. 日本人と山—日本文化を見直す	14. 幽霊の発生	7. 異界の思想—怪異の起こる場	15. 神仏習合再考	8. ゆるキャラの源流—成仏する草木	
1. 日本思想史への招待—仙台と川内の原風景を探る	9. 日本の「神」を考える																				
2. 青葉山「蒙古の碑」を読み解く	10. 死者の花嫁																				
3. 起請文の宇宙—文書に世界観を読む	11. 天皇制はなぜ続いたか																				
4. 慈覚大師の足跡	12. 美人女房落魄伝説—才女が落ちぶれる話																				
5. 松島—その歴史と謎	13. 即身仏の寺—ミイラの精神史																				
6. 日本人と山—日本文化を見直す	14. 幽霊の発生																				
7. 異界の思想—怪異の起こる場	15. 神仏習合再考																				
8. ゆるキャラの源流—成仏する草木																					
◇ 成績評価の方法	レポート80% 出席20%																				
◇ 教科書・参考書	参考書は毎回紹介する。スライドとプリントを使用する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、次週までの課題を指示する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 思 想 史 概 論 History of Japanese Philosophy (General Lecture)	2	准教授 片岡龍	4	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI201J																				
◆ 授業題目	「日本思想史」の意義と発展																				
◆ 目的・概要	日本思想史上のいくつかのトピックを取り上げながら、日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといったテーマを中心に講義し、また映像資料の感想や参考書の整理等と併せて、小レポート（2～3回）形式で受講者自身の思考の過程を問う。																				
◆ 到達目標	※以下の15回分の内容は、昨年度までの例にもとづく一案です。 日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといったテーマを、受講者自身が思考する姿勢を養成することを目標とする。その過程を通して、日本思想史に対する知識と関心を深めることを期待する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 思想史とは、日本とは</td> <td>9. 日本国憲法と「アジア」2</td> </tr> <tr> <td>2. 「古層」と「雑種」(丸山眞男／加藤周一) 1</td> <td>10. ウーマンリブと「戦後責任」1</td> </tr> <tr> <td>3. 「古層」と「雑種」(丸山眞男／加藤周一) 2</td> <td>11. ウーマンリブと「戦後責任」2</td> </tr> <tr> <td>4. 「先祖」と「魂ふり」(柳田國男／折口信夫) 1</td> <td>12. 東アジアの「公」と「私」1</td> </tr> <tr> <td>5. 「先祖」と「魂ふり」(柳田國男／折口信夫) 2</td> <td>13. 東アジアの「公」と「私」2</td> </tr> <tr> <td>6. 「天」の再定位 (安藤昌益／二宮尊徳) 1</td> <td>14. リスク社会と「いのち」1</td> </tr> <tr> <td>7. 「天」の再定位 (安藤昌益／二宮尊徳) 2</td> <td>15. リスク社会と「いのち」2</td> </tr> <tr> <td>8. 日本国憲法と「アジア」1</td> <td></td> </tr> </table>					1. 思想史とは、日本とは	9. 日本国憲法と「アジア」2	2. 「古層」と「雑種」(丸山眞男／加藤周一) 1	10. ウーマンリブと「戦後責任」1	3. 「古層」と「雑種」(丸山眞男／加藤周一) 2	11. ウーマンリブと「戦後責任」2	4. 「先祖」と「魂ふり」(柳田國男／折口信夫) 1	12. 東アジアの「公」と「私」1	5. 「先祖」と「魂ふり」(柳田國男／折口信夫) 2	13. 東アジアの「公」と「私」2	6. 「天」の再定位 (安藤昌益／二宮尊徳) 1	14. リスク社会と「いのち」1	7. 「天」の再定位 (安藤昌益／二宮尊徳) 2	15. リスク社会と「いのち」2	8. 日本国憲法と「アジア」1	
1. 思想史とは、日本とは	9. 日本国憲法と「アジア」2																				
2. 「古層」と「雑種」(丸山眞男／加藤周一) 1	10. ウーマンリブと「戦後責任」1																				
3. 「古層」と「雑種」(丸山眞男／加藤周一) 2	11. ウーマンリブと「戦後責任」2																				
4. 「先祖」と「魂ふり」(柳田國男／折口信夫) 1	12. 東アジアの「公」と「私」1																				
5. 「先祖」と「魂ふり」(柳田國男／折口信夫) 2	13. 東アジアの「公」と「私」2																				
6. 「天」の再定位 (安藤昌益／二宮尊徳) 1	14. リスク社会と「いのち」1																				
7. 「天」の再定位 (安藤昌益／二宮尊徳) 2	15. リスク社会と「いのち」2																				
8. 日本国憲法と「アジア」1																					
◇ 成績評価の方法	レポート [50%] 平常点 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書：プリントを配布する。 参考書：苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』新書館、2008。																				
◇ 授業時間外学習	復習を、小レポートの準備を中心として行ってください。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 思 想 史 基 礎 講 読 History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)	2	准教授 片岡 龍	3	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI208J																				
◆ 授業題目	古文・くずし字をよむ																				
◆ 目的・概要	前近代に著された、日本思想史上重要な文献（古文・くずし字―「江戸かな」）を輪読形式で精読します。また、その文献が有する思想的・同時代的意義についても検討します。 文献例：『明君家訓』、『公私字義』（室鳩巢）																				
◆ 到達目標	日本思想史研究に用いる史料・文献を正確に読む上で必須となる知識・技術を習得します。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 実践編 4</td> </tr> <tr> <td>2. 「江戸かな」に慣れる 1</td> <td>10. 実践編 5、小テスト 2</td> </tr> <tr> <td>3. 「江戸かな」に慣れる 2</td> <td>11. 実践編 6</td> </tr> <tr> <td>4. 古文書の慣用句に慣れる 1</td> <td>12. 実践編 7</td> </tr> <tr> <td>5. 古文書の慣用句に慣れる 2</td> <td>13. 実践編 8</td> </tr> <tr> <td>6. 実践編 1、小テスト 1</td> <td>14. 実践編 9</td> </tr> <tr> <td>7. 実践編 2</td> <td>15. 実践編10、小テスト 3</td> </tr> <tr> <td>8. 実践編 3</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 実践編 4	2. 「江戸かな」に慣れる 1	10. 実践編 5、小テスト 2	3. 「江戸かな」に慣れる 2	11. 実践編 6	4. 古文書の慣用句に慣れる 1	12. 実践編 7	5. 古文書の慣用句に慣れる 2	13. 実践編 8	6. 実践編 1、小テスト 1	14. 実践編 9	7. 実践編 2	15. 実践編10、小テスト 3	8. 実践編 3	
1. ガイダンス	9. 実践編 4																				
2. 「江戸かな」に慣れる 1	10. 実践編 5、小テスト 2																				
3. 「江戸かな」に慣れる 2	11. 実践編 6																				
4. 古文書の慣用句に慣れる 1	12. 実践編 7																				
5. 古文書の慣用句に慣れる 2	13. 実践編 8																				
6. 実践編 1、小テスト 1	14. 実践編 9																				
7. 実践編 2	15. 実践編10、小テスト 3																				
8. 実践編 3																					
◇ 成績評価の方法	平常点（出席・担当）、小テスト																				
◇ 教科書・参考書	教科書：プリントを配布する。参考書：授業中に適宜紹介します。																				
◇ 授業時間外学習	予習を重視してください。復習は小テストの準備を中心としてください。																				
その他：授業の成果（翻刻・史料紹介）を、研究室誌に掲載することを目標とします。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 思 想 史 基 礎 講 読 History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)	2	非常勤講師 富 樫 進	4	火	1																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI208J																				
◆ 授業題目	古文・漢文史料をよむ																				
◆ 目的・概要	前近代に著された、日本思想史上重要な文献（古文・漢文）を輪読形式で精読する。また、その文献が有する思想的・同時代的意義についても検討する。 過去の文献例：「聖徳太子十七ヶ條憲法并注」（鎌倉時代？ 推古紀所収・伝聖徳太子「十七條憲法」に対する注釈）「役君形生記」（江戸時代 役小角の伝記に対する注釈）																				
◆ 到達目標	日本思想史研究に用いる史料・文献を正確に読む上で必須となる知識・技術を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション／担当教員による文献解題・解説</td> <td>9. 履修生による報告・質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2. 履修生による報告・質疑応答</td> <td>10. 履修生による報告・質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3. 履修生による報告・質疑応答</td> <td>11. 履修生による報告・質疑応答</td> </tr> <tr> <td>4. 履修生による報告・質疑応答</td> <td>12. 履修生による報告・質疑応答</td> </tr> <tr> <td>5. 履修生による報告・質疑応答</td> <td>13. 履修生による報告・質疑応答</td> </tr> <tr> <td>6. 履修生による報告・質疑応答</td> <td>14. 履修生による報告・質疑応答</td> </tr> <tr> <td>7. 履修生による報告・質疑応答</td> <td>15. 履修生による報告・質疑応答</td> </tr> <tr> <td>8. 履修生による報告・質疑応答</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション／担当教員による文献解題・解説	9. 履修生による報告・質疑応答	2. 履修生による報告・質疑応答	10. 履修生による報告・質疑応答	3. 履修生による報告・質疑応答	11. 履修生による報告・質疑応答	4. 履修生による報告・質疑応答	12. 履修生による報告・質疑応答	5. 履修生による報告・質疑応答	13. 履修生による報告・質疑応答	6. 履修生による報告・質疑応答	14. 履修生による報告・質疑応答	7. 履修生による報告・質疑応答	15. 履修生による報告・質疑応答	8. 履修生による報告・質疑応答	
1. オリエンテーション／担当教員による文献解題・解説	9. 履修生による報告・質疑応答																				
2. 履修生による報告・質疑応答	10. 履修生による報告・質疑応答																				
3. 履修生による報告・質疑応答	11. 履修生による報告・質疑応答																				
4. 履修生による報告・質疑応答	12. 履修生による報告・質疑応答																				
5. 履修生による報告・質疑応答	13. 履修生による報告・質疑応答																				
6. 履修生による報告・質疑応答	14. 履修生による報告・質疑応答																				
7. 履修生による報告・質疑応答	15. 履修生による報告・質疑応答																				
8. 履修生による報告・質疑応答																					
◇ 成績評価の方法	平常点（報告内容・質疑応答への積極的参加の有無）[70%] 出席点 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書：プリントを配布する。 参考書：授業中に適宜紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	報告担当の有無を問わず、訓読文を作成の上で授業に臨むこと。																				
その他：所定回数の報告をもって単位取得の【最低】条件とする（※状況に応じて、一部の報告をレポート課題に代えるなどの措置を執ることもある）。報告担当日に無断欠席をした者や正当な理由なく出席率の低い者については単位取得を放棄したものと見なし、以後の参加を一切認めない。報告の際の調査・資料作成、学習方法等について疑問点・不明点等がある場合は、メール・電話等にて担当教員に随時間問い合わせること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 思 想 史 各 論 History of Japanese Philosophy (Special Lecture)	2	教授 佐藤弘夫	6	金	1
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI301J				
◆ 授業題目	聖地と霊場				
◆ 目的・概要	四国八十八カ所から妖怪の出現する場所、サブカルの聖地に至るまで、日本列島には無数の霊的なスポットが存在する。それらに共通するものはいったいなんであろうか。その地にみなぎるパワーの性格を、いくつかの種類化することは可能であろうか。聖地のイメージには、時代による変遷が見られるのであろうか。そもそも、人はなぜ、聖なる地を創り出し、あるいはそこに心惹かれるのであろうか。世界の霊場を視野に入れつつ、日本列島に散在するいくつかの聖なる地を具体的に巡りながら、これらの疑問に対する解答を探ってみよう。				
◆ 到達目標	世界の他地域と比較しながら、なぜ日本列島において特定のスポットが霊的なパワーをもった地とされるのか、その原因を考察することを通じて、聖なるものの誕生の過程と霊場形成のメカニズムを理解する。				
◆ 授業内容・方法	1. 霊場学入門—聖地論の過去と現在 2. 三輪山—神の住む聖なる山 3. 箸墓—築造された神の居住地 4. 高野山—土地を譲る神 5. 立石寺—祖師の眠る寺 6. 黒石寺—黒い岩の霊場 7. 八葉寺—念仏踊りの寺 8. 春日神社—彼岸へ誘う神 9. 伊勢神宮と朝熊山—先祖供養と神 10. 川倉地藏堂—奉納される花嫁人形 11. 黒鳥観音—婚姻する死者たち 12. 三森山—死者と出会う山 13. 琉球の聖地—神の声を聴く人々 14. 妖怪・幽霊・ゆるキャラ 15. アニメの聖地の誕生				
◇ 成績評価の方法	レポート [80%] 出席 [20%]				
◇ 教科書・参考書	プリントとスライドを使用する。参考書は随時紹介する。				
◇ 授業時間外学習	授業中に次回までの課題を指示する。				
その他：オフィスアワー：水4校時					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 思 想 史 各 論 History of Japanese Philosophy (Special Lecture)	2	准教授 片岡龍	5	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI301J				
◆ 授業題目	「思想史」とは何か				
◆ 目的・概要	各人の研究関心に即しながら、思想史上の代表的研究テーマをとりあげ、そのテーマに対する代表的論文等による理解の共有と、各人の研究関心にもとづく発展的考察とを、発表・対話形式で行う。前期のテーマは、「霊性」とする。				
◆ 到達目標	日本思想史という学問の性格に対する共通理解・問題関心を養いながら、研究論文の作成方法に習熟する。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 2. 文献・テーマに関する対話 1 3. 文献・テーマに関する対話 2 4. 文献・テーマに関する対話 3 5. テーマに対する理解の共有 (研究計画作成) 1 6. テーマに対する理解の共有 (研究計画作成) 2 7. テーマに対する理解の共有 (研究計画作成) 3 8. 発展的考察 (発表・対話) 1 9. 発展的考察 (発表・対話) 2 10. 発展的考察 (発表・対話) 3 11. 発展的考察 (発表・対話) 4 12. 発展的考察 (発表・対話) 5 13. 発展的考察 (発表・対話) 6 14. 発展的考察 (発表・対話) 7 15. 発展的考察 (発表・対話) 8				
◇ 成績評価の方法	平常点 (出席、発表、対話)				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布する。				
◇ 授業時間外学習	研究テーマに対する理解を深めるために、参考文献を幅広く渉猟する。				
その他：研究成果をもとにした論文集の作成を目標とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																								
日 本 思 想 史 各 論 History of Japanese Philosophy (Special Lecture)	2	准教授 片岡 龍	6	火	4																								
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI301J																												
◆ 授業題目	「思想史」とは何か																												
◆ 目的・概要	各人の研究関心に即しながら、思想史上の代表的研究テーマをとりあげ、そのテーマに対する代表的論文等による理解の共有と、各人の研究関心にもとづく発展的考察とを、発表・対話形式で行う。後期のテーマは、「平和」とする。																												
◆ 到達目標	前期に引き続き、日本思想史という学問の性格に対する共通理解・問題関心をいっそう深めながら、共同研究の作法に習熟する。																												
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 発展的考察（発表・対話）</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>2. 文献・テーマに関する対話 1</td> <td>10. 発展的考察（発表・対話）</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>3. 文献・テーマに関する対話 2</td> <td>11. 発展的考察（発表・対話）</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>4. 文献・テーマに関する対話 3</td> <td>12. 発展的考察（発表・対話）</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>5. テーマに対する理解の共有（研究計画作成） 1</td> <td>13. 発展的考察（発表・対話）</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>6. テーマに対する理解の共有（研究計画作成） 2</td> <td>14. 発展的考察（発表・対話）</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>7. テーマに対する理解の共有（研究計画作成） 3</td> <td>15. 発展的考察（発表・対話）</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>8. 発展的考察（発表・対話） 1</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 発展的考察（発表・対話）	2	2. 文献・テーマに関する対話 1	10. 発展的考察（発表・対話）	3	3. 文献・テーマに関する対話 2	11. 発展的考察（発表・対話）	4	4. 文献・テーマに関する対話 3	12. 発展的考察（発表・対話）	5	5. テーマに対する理解の共有（研究計画作成） 1	13. 発展的考察（発表・対話）	6	6. テーマに対する理解の共有（研究計画作成） 2	14. 発展的考察（発表・対話）	7	7. テーマに対する理解の共有（研究計画作成） 3	15. 発展的考察（発表・対話）	8	8. 発展的考察（発表・対話） 1		
1. ガイダンス	9. 発展的考察（発表・対話）	2																											
2. 文献・テーマに関する対話 1	10. 発展的考察（発表・対話）	3																											
3. 文献・テーマに関する対話 2	11. 発展的考察（発表・対話）	4																											
4. 文献・テーマに関する対話 3	12. 発展的考察（発表・対話）	5																											
5. テーマに対する理解の共有（研究計画作成） 1	13. 発展的考察（発表・対話）	6																											
6. テーマに対する理解の共有（研究計画作成） 2	14. 発展的考察（発表・対話）	7																											
7. テーマに対する理解の共有（研究計画作成） 3	15. 発展的考察（発表・対話）	8																											
8. 発展的考察（発表・対話） 1																													
◇ 成績評価の方法	平常点（出席、発表、対話）																												
◇ 教科書・参考書	プリントを配布する。																												
◇ 授業時間外学習	研究テーマに対する理解を深めるために、参考文献を幅広く渉猟する。																												
その他：研究成果をもとにした論文集の作成を目標とする。																													

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																								
日 本 思 想 史 各 論 History of Japanese Philosophy (Special Lecture)	2	非常勤講師 富 樫 進	5	火	1																								
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI301J																												
◆ 授業題目	古代における〈異域〉																												
◆ 目的・概要	中央集権化に伴う王権の拡大・変容に伴い、日本では各時代毎にさまざまな地域が〈異域〉と見なされた。それらは時に隼人や熊襲、東夷や蝦夷といった列島内の「未開」人の居住地として〈ミヤコ〉に住む人々の優越心を満足させ、またある時には大唐（震旦）や天竺、西洋諸国といった海外の「文明」地域として極東の小国に住む人々のコンプレックスをかき立てる存在となった。〈異域〉の変遷を通観することを通じて、私たちは逆照射されたかたちでの〈日本〉像を目にすることができるのではないだろうか。以上のような問題意識のもと、本講義では7世紀から10世紀初頭（すなわち「国風文化」確立期）までを対象に、文献史料をはじめとする様々な事物を題材に、当該期における〈異域〉イメージを明確化する。また、当該期においてそれらの〈異域〉イメージが形成された理由とその意義について、思想的な観点から評価を試みたい。																												
◆ 到達目標	古代日本における〈異域〉像の形成について、文献をはじめとする様々な史料を通じて明確化するための方法を実践的に検討する。併せて、その成果を思想的観点に基づいて、できるだけ客観的かつ積極的に評価する。																												
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 第1回 オリエンテーション—〈異域〉というテーマの有効性について—</td> <td>8. 第8回</td> <td>8世紀日本における〈異域〉③</td> </tr> <tr> <td>2. 第2回 7世紀倭国における〈異域〉①</td> <td>9. 第9回</td> <td>9世紀日本における〈異域〉①</td> </tr> <tr> <td>3. 第3回 7世紀倭国における〈異域〉②</td> <td>10. 第10回</td> <td>9世紀日本における〈異域〉②</td> </tr> <tr> <td>4. 第4回 7世紀日本における〈異域〉①</td> <td>11. 第11回</td> <td>9世紀日本における〈異域〉③</td> </tr> <tr> <td>5. 第5回 7世紀日本における〈異域〉②</td> <td>12. 第12回</td> <td>9世紀日本における〈異域〉④</td> </tr> <tr> <td>6. 第6回 8世紀日本における〈異域〉①</td> <td>13. 第13回</td> <td>10世紀日本における〈異域〉①</td> </tr> <tr> <td>7. 第7回 8世紀日本における〈異域〉②</td> <td>14. 第14回</td> <td>10世紀日本における〈異域〉②</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 第15回</td> <td>本講義のまとめ</td> </tr> </table>					1. 第1回 オリエンテーション—〈異域〉というテーマの有効性について—	8. 第8回	8世紀日本における〈異域〉③	2. 第2回 7世紀倭国における〈異域〉①	9. 第9回	9世紀日本における〈異域〉①	3. 第3回 7世紀倭国における〈異域〉②	10. 第10回	9世紀日本における〈異域〉②	4. 第4回 7世紀日本における〈異域〉①	11. 第11回	9世紀日本における〈異域〉③	5. 第5回 7世紀日本における〈異域〉②	12. 第12回	9世紀日本における〈異域〉④	6. 第6回 8世紀日本における〈異域〉①	13. 第13回	10世紀日本における〈異域〉①	7. 第7回 8世紀日本における〈異域〉②	14. 第14回	10世紀日本における〈異域〉②		15. 第15回	本講義のまとめ
1. 第1回 オリエンテーション—〈異域〉というテーマの有効性について—	8. 第8回	8世紀日本における〈異域〉③																											
2. 第2回 7世紀倭国における〈異域〉①	9. 第9回	9世紀日本における〈異域〉①																											
3. 第3回 7世紀倭国における〈異域〉②	10. 第10回	9世紀日本における〈異域〉②																											
4. 第4回 7世紀日本における〈異域〉①	11. 第11回	9世紀日本における〈異域〉③																											
5. 第5回 7世紀日本における〈異域〉②	12. 第12回	9世紀日本における〈異域〉④																											
6. 第6回 8世紀日本における〈異域〉①	13. 第13回	10世紀日本における〈異域〉①																											
7. 第7回 8世紀日本における〈異域〉②	14. 第14回	10世紀日本における〈異域〉②																											
	15. 第15回	本講義のまとめ																											
◇ 成績評価の方法	レポート [75%] 出席（小テスト等を含む場合あり） [25%]																												
◇ 教科書・参考書	教科書：プリントを配布する。参考書：講義中に適宜紹介する。																												
◇ 授業時間外学習	講義で採り上げられた参考文献・原典史料を積極的・自発的に読むことが望ましい。																												
その他：																													

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 思 想 史 各 論 History of Japanese Philosophy (Special Lecture)	2	非常勤 講師 徳 盛 誠	集 中 (6)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMPHI301J 『日本書紀』『神代』を考える 『日本書紀』や『古事記』で神々の時代として語られることからは、現代にいかにつきささっているのか？それらに私たちはどう向き合うべきなのか？これは私たちの問題ですが、同時に、八世紀の初めにこれらの書物が成立して以来、多くの人が自らの課題としてきた問題でもありました。この授業は平安期から江戸時代に至るまで、異なった時代の文脈で、『日本書紀』解釈として多様に試みられてきたそうした課題への取り組みの数々を、なるべく具体的にたどっていくことを主な内容とし、それを通じて、先入観を対象化しつつ、私たち自身が上記の問題をあらたに考える契機にすることを主な目的とします。あわせて、『日本書紀』『神代』をどうよむかを基軸とした思想史の流れを考えたり、またテキスト解析の方法を再検討したりする機会にもなれば幸いです。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	『日本書紀』『神代』理解と解釈方法との歴史性について、具体的な問題を通じて認識する。				
	1. はじめに	9. 闇齋学派の『日本書紀』解釈（その1）			
	2. 平安期における『日本書紀』学と『積日本紀』（その1）	10. 同（その2）			
	3. 同（その2）	11. 谷川士清『日本書紀通証』			
	4. 仏教的世界観と『日本書紀』『神代』理解	12. 本居宣長の『日本書紀』『神代』（その1）			
	5. 一条兼良『日本書紀纂疏』の論理と方法（その1）	13. 同（その2）			
	6. 同（その2）	14. 本居宣長以後の『日本書紀』学			
	7. 吉田兼俱と清原宣賢の『日本書紀』学（その1）	15. まとめ			
	8. 同（その2）				
◇ 成績評価の方法	授業への参加態度とレポートによる。				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布する。『日本書紀』については岩波文庫本、『古事記』については新編日本古典文学全集（小学館）を参照すること。				
◇ 授業時間外学習	予習として『古事記』上巻、『日本書紀』『神代』、さらに事前に配布する資料に目を通しておくことがのぞましい。				
その他：授業の構成は、都合により変更する可能性があります。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 思 想 史 演 習 History of Japanese Philosophy (Seminar)	2	准教授 片 岡 龍	5	水	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMPHI308J 日本思想史の諸問題 I 卒業論文作成の前段階として、受講生がそれぞれ自分の興味を持ったテーマについて、従来の代表的な研究や主要な史料を紹介する。また発表の準備を通じて、文献検索の方法や辞書等の使い方を学ぶとともに、そのテーマをめぐる研究史上どのような問題が残されているかを考える。発表後は、その内容について演習参加者が討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。参加者には積極的な発言を期待する。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	卒業論文のテーマの決定				
	1. ガイダンス	9. 研究発表 8			
	2. 研究発表 1	10. 研究発表 9			
	3. 研究発表 2	11. 研究発表10			
	4. 研究発表 3	12. 研究発表11			
	5. 研究発表 4	13. 研究発表12			
	6. 研究発表 5	14. 研究発表13			
	7. 研究発表 6	15. 研究発表14			
	8. 研究発表 7				
◇ 成績評価の方法	レポート [80%] 出席 [20%]				
◇ 教科書・参考書	なし。				
◇ 授業時間外学習	プレレジユメは1週間前、本レジユメは1日前までに完成するよう準備する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 思 想 史 演 習 History of Japanese Philosophy (Seminar)	2	准教授 片 岡 龍	6	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI308J																				
◆ 授業題目	日本思想史の諸問題Ⅱ																				
◆ 目的・概要	前セメスターでの報告を踏まえ、演習参加者各自が、史料の読解にもとづくその後の研究成果を発表し、その内容をめぐって討論を行う。発表者は卒業論文に結びつくような、オリジナリティのあるレベルの高い報告を目指してほしい。発表者にはそれぞれコメントターを付ける。演習参加者の活発な発言を期待する。																				
◆ 到達目標	卒業論文作成の準備と研究内容の深化																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ガイダンス 1</td> <td style="width: 50%;">9. 研究発表 8</td> </tr> <tr> <td>2. 研究発表 1</td> <td>10. 研究発表 9</td> </tr> <tr> <td>3. 研究発表 2</td> <td>11. 研究発表 10</td> </tr> <tr> <td>4. 研究発表 3</td> <td>12. 研究発表 11</td> </tr> <tr> <td>5. 研究発表 4</td> <td>13. 研究発表 12</td> </tr> <tr> <td>6. 研究発表 5</td> <td>14. 研究発表 13</td> </tr> <tr> <td>7. 研究発表 6</td> <td>15. 研究発表 14</td> </tr> <tr> <td>8. 研究発表 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス 1	9. 研究発表 8	2. 研究発表 1	10. 研究発表 9	3. 研究発表 2	11. 研究発表 10	4. 研究発表 3	12. 研究発表 11	5. 研究発表 4	13. 研究発表 12	6. 研究発表 5	14. 研究発表 13	7. 研究発表 6	15. 研究発表 14	8. 研究発表 7	
1. ガイダンス 1	9. 研究発表 8																				
2. 研究発表 1	10. 研究発表 9																				
3. 研究発表 2	11. 研究発表 10																				
4. 研究発表 3	12. 研究発表 11																				
5. 研究発表 4	13. 研究発表 12																				
6. 研究発表 5	14. 研究発表 13																				
7. 研究発表 6	15. 研究発表 14																				
8. 研究発表 7																					
◇ 成績評価の方法	レポート [80%] 出席 [20%]																				
◇ 教科書・参考書	佐藤弘夫編『概説日本思想史』ミネルヴァ書房																				
◇ 授業時間外学習	プレレジюмеは1週間前、本レジюмеは1日前までに完成するよう準備する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 概 論 Japanese History (General Lecture)	2	准教授 堀 裕	3	金	1																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS201J																				
◆ 授業題目	倭と日本の王の歴史(1)																				
◆ 目的・概要	天皇が、超歴史的な存在であるはずもないが、象徴天皇が現代日本の特色を象徴する面があることも明らかである。この点は、他のあらゆる時代と地域の王にも当てはめることが可能である。倭・日本のおもに古代（6－11世紀頃）の王に注目し、時代と地域の特色を明らかにすることを目的とする。前期は、王の身体に注目する。老いや死、性別など一見自然とみられる身体が、時代によって異なる神聖性や権力性を帯びる様子を明らかにし、身体から王を分析する意義を示したい。																				
◆ 到達目標	神聖な権威をまとうことの歴史的な意義を考え、自らそれを相対化する視点を得ること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 死(1)</td> </tr> <tr> <td>2. ジェンダー(1)</td> <td>10. 死(2)</td> </tr> <tr> <td>3. ジェンダー(2)</td> <td>11. 死(3)</td> </tr> <tr> <td>4. ジェンダー(3)</td> <td>12. 墓(1)</td> </tr> <tr> <td>5. タタリ(1)</td> <td>13. 墓(2)</td> </tr> <tr> <td>6. タタリ(2)</td> <td>14. 墓(3)</td> </tr> <tr> <td>7. 王を守護する者(1)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 王を守護する者(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 死(1)	2. ジェンダー(1)	10. 死(2)	3. ジェンダー(2)	11. 死(3)	4. ジェンダー(3)	12. 墓(1)	5. タタリ(1)	13. 墓(2)	6. タタリ(2)	14. 墓(3)	7. 王を守護する者(1)	15. まとめ	8. 王を守護する者(2)	
1. ガイダンス	9. 死(1)																				
2. ジェンダー(1)	10. 死(2)																				
3. ジェンダー(2)	11. 死(3)																				
4. ジェンダー(3)	12. 墓(1)																				
5. タタリ(1)	13. 墓(2)																				
6. タタリ(2)	14. 墓(3)																				
7. 王を守護する者(1)	15. まとめ																				
8. 王を守護する者(2)																					
◇ 成績評価の方法	レポート（100%）																				
◇ 教科書・参考書	講義中随時指示																				
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜日4限です。訪問の際は事前に連絡下さい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 概 論 Japanese History (General Lecture)	2	准教授 堀 裕	4	金	1																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS201J																				
◆ 授業題目	倭と日本の王の歴史(2)																				
◆ 目的・概要	天皇が、超歴史的な存在であるはずもないが、象徴天皇が現代日本の特色を象徴する面があることも明らかである。この点は、他のあらゆる時代と地域の王にも当てはめることが可能である。倭・日本のおもに古代（6－11世紀頃）の王に注目し、時代と地域の特色を明らかにすることを目的とする。後期は、王の儀礼に注目する。即位や豊穡を祈念する祭祀、祖先祭祀など王と霊や神聖性が関わる儀礼をとりあげたい。																				
◆ 到達目標	神聖な権威をまとうことの歴史的な意義を考え、自らそれを相対化する視点を得ること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 即位儀(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 神話(1)</td> <td>10. 即位儀(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 神話(2)</td> <td>11. 祖先祭祀(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 大嘗祭(1)</td> <td>12. 祖先祭祀(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 大嘗祭(2)</td> <td>13. 祖先祭祀(3)</td> </tr> <tr> <td>6. 誓約(1)</td> <td>14. 祖先祭祀(4)</td> </tr> <tr> <td>7. 誓約(2)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 即位儀(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 即位儀(2)	2. 神話(1)	10. 即位儀(3)	3. 神話(2)	11. 祖先祭祀(1)	4. 大嘗祭(1)	12. 祖先祭祀(2)	5. 大嘗祭(2)	13. 祖先祭祀(3)	6. 誓約(1)	14. 祖先祭祀(4)	7. 誓約(2)	15. まとめ	8. 即位儀(1)	
1. ガイダンス	9. 即位儀(2)																				
2. 神話(1)	10. 即位儀(3)																				
3. 神話(2)	11. 祖先祭祀(1)																				
4. 大嘗祭(1)	12. 祖先祭祀(2)																				
5. 大嘗祭(2)	13. 祖先祭祀(3)																				
6. 誓約(1)	14. 祖先祭祀(4)																				
7. 誓約(2)	15. まとめ																				
8. 即位儀(1)																					
◇ 成績評価の方法	レポート（100%）																				
◇ 教科書・参考書	講義中随時指示																				
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜日4限です。訪問の際は事前に連絡下さい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 史 基 礎 講 読 Japanese History (Introductory Reading)	2	准教授 堀 裕	4	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS205J				
◆ 授業題目	古代史料講読				
◆ 目的・概要	日本古代史の基礎史料である『類聚三代格』をテキストとして、日本古代の格（単行法令）の読解を行う。各回、受講生が報告する。歴史史料読解の能力を養うとともに、史料が示す歴史的事象についても考察する。				
◆ 到達目標	日本古代の漢文史料の読解力を身につける				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 『類聚三代格』とは何か。史料講読のすめかた。 2. 『類聚三代格』を読む 3. 『類聚三代格』報告(1) 4. 『類聚三代格』報告(2) 5. 『類聚三代格』報告(3) 6. 『類聚三代格』報告(4) 7. 『類聚三代格』報告(5) 8. 『類聚三代格』報告(6) 9. 『類聚三代格』報告(7) 10. 『類聚三代格』報告(8) 11. 『類聚三代格』報告(9) 12. 『類聚三代格』報告(10) 13. 『類聚三代格』報告(11) 14. 『類聚三代格』報告(12) 15. 確認と試験				
◇ 成績評価の方法	筆記試験 (50%) 出席 (50%)				
◇ 教科書・参考書	テキスト 新訂増補国史大系普及版『類聚三代格』前編・後編 (吉川弘文館)。ただし、必要な箇所を複写して配布。				
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜日の4限です。事前に予約ください。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 史 基 礎 講 読 Japanese History (Introductory Reading)	2	教授 柳 原 敏 昭	4	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS205J				
◆ 授業題目	中世史料講読				
◆ 目的・概要	歴史学は実証の上に成り立つ学問であり、それを学ぶ者は歴史資料を的確に読みこなすことができなければならない。本講では、その第一歩として日本中世史に関する代表的な史料を講読し、基礎的な読解力を身につけることを目標とする。また、中世社会の特質についても考える。				
◆ 到達目標	基本的な中世史料を読解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 2. 学生による報告と討論① 3. 学生による報告と討論② 4. 学生による報告と討論③ 5. 学生による報告と討論④ 6. 学生による報告と討論⑤ 7. 学生による報告と討論⑥ 8. 学生による報告と討論⑦ 9. 学生による報告と討論⑧ 10. 学生による報告と討論⑨ 11. 学生による報告と討論⑩ 12. 学生による報告と討論⑪ 13. 学生による報告と討論⑫ 14. 学生による報告と討論⑬ 15. 授業の総括				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他 (授業中における発表の内容) [40%]				
◇ 教科書・参考書	講義時にプリントを配布する。				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ2週間前から準備を始めること。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。				
その他：古文・漢文の基礎的な読解力を要する。古文書学 (柳原担当) を履修していることが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 史 基 礎 講 読 Japanese History (Introductory Reading)	2	教授 安達宏昭	3	水	4
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS205J				
◆ 授業題目	近現代史料講読				
◆ 目的・概要	日本の近現代史に関する史料（文書）を、輪読する形式で授業を進めていく。書かれている内容を理解するだけでなく、史料の歴史的意義の分析や、近現代史の基礎的な構造についての理解を深める。				
◆ 到達目標	(1)日本近現代史の史料について、読解し理解できるようになる。 (2)史料の読解を通して、日本近現代史を理解する上で基礎的な事柄について認識を深めることができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス・大日本帝国憲法の特徴 2. 大日本帝国憲法体制の展開(1) 3. 大日本帝国憲法体制の展開(2) 4. 大日本帝国憲法体制の展開(3) 5. 大日本帝国憲法体制の展開(4) 6. 大日本帝国憲法体制の変容(1) 7. 大日本帝国憲法体制の変容(2) 8. 大日本帝国憲法体制の変容(3) 9. 大日本帝国憲法体制の変容(4) 10. 大日本帝国憲法体制の変容(5) 11. 日本国憲法体制の形成と展開(1) 12. 日本国憲法体制の形成と展開(2) 13. 日本国憲法体制の形成と展開(3) 14. 日本国憲法体制の形成と展開(4) 15. 授業のまとめと筆記試験				
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [60%]・() レポート [%]・(○) 出席 [20%] (○) その他（レスポンスペーパーなど）[20%]				
◇ 教科書・参考書	随時、プリントを配布する。				
◇ 授業時間外学習	事前に配布された史料（プリント）を授業までに必ず読んでおく。				
その他：履修要件：受講者は「近現代史料講読」の未履修者に限る。 オフィスアワー：水曜日16：20～17：50、要予約					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
古 文 書 学 P a l e o g r a p h y	2	教授 柳原敏昭	3	火	1
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS206J				
◆ 授業題目	中世古文書読解				
◆ 目的・概要	古文書とは、差出人と受取人が明示されている歴史的な文書をいう。身近な例で言えば、手紙、合格通知、入学許可書、授業料納入通知書、授業料領収書、学位記等が一定の年月を経れば古文書となる（日記や編纂物、文学作品等は古文書には含まれない）。古文書は、歴史研究にとって最も大切な史料である。本講では、中世の武家様文書を主な素材として、用字・用語に習熟するとともに、様式の展開ひいてはその歴史的背景についても学べるようにしたい。				
◆ 到達目標	(1)中世の原文書を読解できるようになる。 (2)中世古文書学の基礎知識を習得する。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス① 2. ガイダンス② 3. 鎌倉幕府文書 下文 4. 鎌倉幕府文書 政所下文 5. 鎌倉幕府文書 御教書 6. 鎌倉幕府文書 下知状 7. 室町幕府文書 御判御教書 8. 室町幕府文書 御内書 9. 室町幕府文書 奉書系文書 10. 室町幕府文書 命令の下達・施行 11. 軍事関係文書 12. 戦国大名文書① 13. 戦国大名文書② 14. 讓状、起請文など 15. 授業のまとめと試験				
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [60%]・() レポート [%]・(○) 出席 [20%] (○) その他（講義中における発表の内容）[20%]				
◇ 教科書・参考書	随時プリントを配布する。				
◇ 授業時間外学習	受講者には毎回、古文書（写真版コピー）を筆写する課題が出される。				
その他：古文・漢文の基礎的読解力を要する。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
古 文 書 学 P a l e o g r a p h y	2	准教授 籠 橋 俊 光	4	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS206J																				
◆ 授業題目	近世古文書読解																				
◆ 目的・概要	古文書は歴史学において最も重要な材料であり、その読解は必要不可欠な技術である。なかでも近世史研究においては、実際に膨大な原文書を読み、取り扱う能力が必要とされる。本講義は、近世古文書の特質を理解し、読解能力を培うものであり、さまざまな近世の古文書が磁力で読めるようになることを目的とするため、テキストとして配布する古文書（コピー）について毎回受講者の中から指名し、読みを発表させる。																				
◆ 到達目標	(1)近世古文書に関する基礎的知識を持つ。 (2)近世古文書の読解能力を養う。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス・近世古文書学について</td> <td>9. 武家文書(6) 幕府発給廻状</td> </tr> <tr> <td>2. 近世古文書の特徴と基礎的知識</td> <td>10. 町方・村方文書(1) 定</td> </tr> <tr> <td>3. 文字の読解法とその訓練</td> <td>11. 町方・村方文書(2) 人別帳・検地帳</td> </tr> <tr> <td>4. 武家文書(1) 將軍関係文書・將軍発給文書①</td> <td>12. 町方・村方文書(3) 年貢関係文書</td> </tr> <tr> <td>5. 武家文書(2) 將軍発給文書②</td> <td>13. 町方・村方文書(4) 商業関係文書・訴願関係文書</td> </tr> <tr> <td>6. 武家文書(3) 將軍発給文書③</td> <td>14. 町方・村方文書(5) 家・個人文書</td> </tr> <tr> <td>7. 武家文書(4) 老中発給文書①</td> <td>15. 講義のまとめ・試験</td> </tr> <tr> <td>8. 武家文書(5) 老中発給文書②</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス・近世古文書学について	9. 武家文書(6) 幕府発給廻状	2. 近世古文書の特徴と基礎的知識	10. 町方・村方文書(1) 定	3. 文字の読解法とその訓練	11. 町方・村方文書(2) 人別帳・検地帳	4. 武家文書(1) 將軍関係文書・將軍発給文書①	12. 町方・村方文書(3) 年貢関係文書	5. 武家文書(2) 將軍発給文書②	13. 町方・村方文書(4) 商業関係文書・訴願関係文書	6. 武家文書(3) 將軍発給文書③	14. 町方・村方文書(5) 家・個人文書	7. 武家文書(4) 老中発給文書①	15. 講義のまとめ・試験	8. 武家文書(5) 老中発給文書②	
1. ガイダンス・近世古文書学について	9. 武家文書(6) 幕府発給廻状																				
2. 近世古文書の特徴と基礎的知識	10. 町方・村方文書(1) 定																				
3. 文字の読解法とその訓練	11. 町方・村方文書(2) 人別帳・検地帳																				
4. 武家文書(1) 將軍関係文書・將軍発給文書①	12. 町方・村方文書(3) 年貢関係文書																				
5. 武家文書(2) 將軍発給文書②	13. 町方・村方文書(4) 商業関係文書・訴願関係文書																				
6. 武家文書(3) 將軍発給文書③	14. 町方・村方文書(5) 家・個人文書																				
7. 武家文書(4) 老中発給文書①	15. 講義のまとめ・試験																				
8. 武家文書(5) 老中発給文書②																					
◇ 成績評価の方法	出席 [30%]・筆記試験 [50%]・その他（報告の内容など）[20%]																				
◇ 教科書・参考書	随時プリント配布。受講に際して古文書読解用の辞典類を用意すること。																				
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。																				
その他：オフィスアワー 火曜日 16：20～17：50（要予約）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 各 論 Japanese History (Special Lecture)	2	教授 柳 原 敏 昭	5	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS301J																				
◆ 授業題目	英語で読む日本中世文書(1)																				
◆ 目的・概要	鎌倉時代の古文書の原文と英語訳の双方を読んで、史料を英訳するプロセスについて学ぶ。そのことを通じて、史料用語を概念化することについても学ぶ。担当者をあらかじめ決め、その報告を基に議論していくスタイルをとる。																				
◆ 到達目標	(1)日本史の研究を国際的に発信するための基礎を身につける。 (2)史料用語を概念化することに習熟する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 学生による報告と討論⑧</td> </tr> <tr> <td>2. 学生による報告と討論①</td> <td>10. 学生による報告と討論⑨</td> </tr> <tr> <td>3. 学生による報告と討論②</td> <td>11. 学生による報告と討論⑩</td> </tr> <tr> <td>4. 学生による報告と討論③</td> <td>12. 学生による報告と討論⑪</td> </tr> <tr> <td>5. 学生による報告と討論④</td> <td>13. 学生による報告と討論⑫</td> </tr> <tr> <td>6. 学生による報告と討論⑤</td> <td>14. 学生による報告と討論⑬</td> </tr> <tr> <td>7. 学生による報告と討論⑥</td> <td>15. 授業の総括</td> </tr> <tr> <td>8. 学生による報告と討論⑦</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧	2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨	3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩	4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪	5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫	6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬	7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括	8. 学生による報告と討論⑦	
1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧																				
2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨																				
3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩																				
4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪																				
5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫																				
6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬																				
7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括																				
8. 学生による報告と討論⑦																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%] (○) その他（授業中における発表の内容、議論への関与度）[40%]																				
◇ 教科書・参考書	講義中にプリントを配布する。 参考書は、JEFFREY P. MASS: The Kamakura Bakufu (Stanford University Press, 1976)。																				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ2週間前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。																				
その他：日本中世文書の基礎的な読解力を要する。授業には、英語を母語とするティーチング・アシスタントがつく予定である。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 各 論 Japanese History (Special Lecture)	2	教授 柳原敏昭	6	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS301J																				
◆ 授業題目	英語で読む日本中世文書(2)																				
◆ 目的・概要	「英語で読む日本中世文書(1)」の続講。鎌倉時代の古文書の原文と英語訳の双方を読んで、史料を英訳するプロセスについて学ぶ。そのことを通じて、史料用語を概念化することについても学ぶ。担当者をあらかじめ決め、その報告を基に議論していくスタイルをとる。																				
◆ 到達目標	(1)日本史の研究を国際的に発信するための基礎を身につける。 (2)史料用語を概念化することに習熟する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 学生による報告と討論⑧</td> </tr> <tr> <td>2. 学生による報告と討論①</td> <td>10. 学生による報告と討論⑨</td> </tr> <tr> <td>3. 学生による報告と討論②</td> <td>11. 学生による報告と討論⑩</td> </tr> <tr> <td>4. 学生による報告と討論③</td> <td>12. 学生による報告と討論⑪</td> </tr> <tr> <td>5. 学生による報告と討論④</td> <td>13. 学生による報告と討論⑫</td> </tr> <tr> <td>6. 学生による報告と討論⑤</td> <td>14. 学生による報告と討論⑬</td> </tr> <tr> <td>7. 学生による報告と討論⑥</td> <td>15. 授業の総括</td> </tr> <tr> <td>8. 学生による報告と討論⑦</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧	2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨	3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩	4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪	5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫	6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬	7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括	8. 学生による報告と討論⑦	
1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧																				
2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨																				
3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩																				
4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪																				
5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫																				
6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬																				
7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括																				
8. 学生による報告と討論⑦																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他 (授業中における発表の内容、議論への関与度) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	講義中にプリントを配布する。 参考書は、JEFFREY P. MASS: The Kamakura Bakufu (Stanford University Press, 1976)。																				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ2週間前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。																				
その他：日本中世文書の基礎的な読解力を要する。授業には、英語を母語とするティーチング・アシスタントがつく予定である。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 各 論 Japanese History (Special Lecture)	2	准教授 籠橋俊光	5	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS301J																				
◆ 授業題目	近世社会の研究(1)																				
◆ 目的・概要	日本近世史における代表的ないしは最新の論文を読み、理解し、それをもとに討論する。受講者は指定された論文を事前に読み、順番にレポーターとして要旨等を紹介し、討論に参加する。受講に際しては議論への積極的な参加を求めることになる。必要に応じ、学外の見学なども実施する。																				
◆ 到達目標	(1)近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。 (2)報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 受講者による報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者による報告と討論(1)</td> <td>10. 受講者による報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者による報告と討論(2)</td> <td>11. 受講者による報告と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者による報告と討論(3)</td> <td>12. 受講者による報告と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者による報告と討論(4)</td> <td>13. 受講者による報告と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者による報告と討論(5)</td> <td>14. 受講者による報告と討論(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者による報告と討論(6)</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者による報告と討論(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論(8)	2. 受講者による報告と討論(1)	10. 受講者による報告と討論(9)	3. 受講者による報告と討論(2)	11. 受講者による報告と討論(10)	4. 受講者による報告と討論(3)	12. 受講者による報告と討論(11)	5. 受講者による報告と討論(4)	13. 受講者による報告と討論(12)	6. 受講者による報告と討論(5)	14. 受講者による報告と討論(13)	7. 受講者による報告と討論(6)	15. 全体のまとめ	8. 受講者による報告と討論(7)	
1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論(8)																				
2. 受講者による報告と討論(1)	10. 受講者による報告と討論(9)																				
3. 受講者による報告と討論(2)	11. 受講者による報告と討論(10)																				
4. 受講者による報告と討論(3)	12. 受講者による報告と討論(11)																				
5. 受講者による報告と討論(4)	13. 受講者による報告と討論(12)																				
6. 受講者による報告と討論(5)	14. 受講者による報告と討論(13)																				
7. 受講者による報告と討論(6)	15. 全体のまとめ																				
8. 受講者による報告と討論(7)																					
◇ 成績評価の方法	(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	講義中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。																				
その他：オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 各 論 Japanese History (Special Lecture)	2	准教授 籠 橋 俊 光	6	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS301J																				
◆ 授業題目	近世社会の研究(2)																				
◆ 目的・概要	「近世社会の研究(1)」に引き続き、日本近世の社会とその研究を理解することを目的として、様々な研究論文を読み進め、理解を深める。受講に際しては議論への積極的な参加が求められる。可能であれば、必要に応じ、学外の見学なども実施する。																				
◆ 到達目標	(1)近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。 (2)報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 受講者による報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者による報告と討論(1)</td> <td>10. 受講者による報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者による報告と討論(2)</td> <td>11. 受講者による報告と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者による報告と討論(3)</td> <td>12. 受講者による報告と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者による報告と討論(4)</td> <td>13. 受講者による報告と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者による報告と討論(5)</td> <td>14. 受講者による報告と討論(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者による報告と討論(6)</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者による報告と討論(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論(8)	2. 受講者による報告と討論(1)	10. 受講者による報告と討論(9)	3. 受講者による報告と討論(2)	11. 受講者による報告と討論(10)	4. 受講者による報告と討論(3)	12. 受講者による報告と討論(11)	5. 受講者による報告と討論(4)	13. 受講者による報告と討論(12)	6. 受講者による報告と討論(5)	14. 受講者による報告と討論(13)	7. 受講者による報告と討論(6)	15. 全体のまとめ	8. 受講者による報告と討論(7)	
1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論(8)																				
2. 受講者による報告と討論(1)	10. 受講者による報告と討論(9)																				
3. 受講者による報告と討論(2)	11. 受講者による報告と討論(10)																				
4. 受講者による報告と討論(3)	12. 受講者による報告と討論(11)																				
5. 受講者による報告と討論(4)	13. 受講者による報告と討論(12)																				
6. 受講者による報告と討論(5)	14. 受講者による報告と討論(13)																				
7. 受講者による報告と討論(6)	15. 全体のまとめ																				
8. 受講者による報告と討論(7)																					
◇ 成績評価の方法	(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他(報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	講義中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。																				
その他：オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 各 論 Japanese History (Special Lecture)	2	教授 安 達 宏 昭	5	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS301J																				
◆ 授業題目	日本近現代史研究の現状と課題(3)																				
◆ 目的・概要	日本近現代史研究における現時点での到達点を理解するために、2014年に刊行された『岩波講座 日本歴史(第17巻、近現代3)』におさめられている各論文を読んでいく。その後、この時代に関連する論文も読み進める。進め方は、受講者が順番にレポーターとなって、担当する論文の要旨や内容の特徴を発表し、その上で受講者全員によって討論する方式で行う。それにより、相互に認識を深める。																				
◆ 到達目標	(1)日本近現代史に関する最近の研究を読解し、内容を理解できるようになる。 (2)研究の内容要旨を発表し、討論することができるようになる。 (3)最近の研究成果を通して、近現代史研究の現状と課題について、理解できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス日本近現代史研究の特徴</td> <td>9. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(7)</td> </tr> <tr> <td>2. 日本近現代史研究の方法</td> <td>10. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>3. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(1)</td> <td>11. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>4. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(2)</td> <td>12. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(3)</td> <td>13. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(4)</td> <td>14. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(3)</td> </tr> <tr> <td>7. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(5)</td> <td>15. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(4)</td> </tr> <tr> <td>8. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス日本近現代史研究の特徴	9. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(7)	2. 日本近現代史研究の方法	10. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(8)	3. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(1)	11. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(9)	4. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(2)	12. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(1)	5. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(3)	13. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(2)	6. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(4)	14. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(3)	7. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(5)	15. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(4)	8. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(6)	
1. ガイダンス日本近現代史研究の特徴	9. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(7)																				
2. 日本近現代史研究の方法	10. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(8)																				
3. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(1)	11. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(9)																				
4. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(2)	12. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(1)																				
5. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(3)	13. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(2)																				
6. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(4)	14. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(3)																				
7. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(5)	15. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(4)																				
8. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(6)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) レポート [50%]・(○) 出席 [20%] (○) その他(報告の内容、討論への取り組みなど) [30%]																				
◇ 教科書・参考書	『岩波講座 日本歴史(第17巻、近現代3)』(岩波書店、2014年)を主なテキストとする。該当する論文などについては、適宜、指示する。																				
◇ 授業時間外学習	『岩波講座 日本歴史(第17巻、近現代3)』や指定された研究論文を、事前に読んでおく。																				
その他：オフィスアワー：水曜日16:20~17:50																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 史 各 論 Japanese History (Special Lecture)	2	教授 安達宏昭	6	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS301J				
◆ 授業題目	日本近現代史研究の現状と課題(4)				
◆ 目的・概要	日本近現代史研究における現時点での到達点を理解するために、2015年に刊行された『岩波講座 日本歴史 (第18巻、近現代4)』におさめられている各論文を読んでいく。その後、この時代に関連する論文も読み進める。進め方は、受講者が順番にレポーターとなって、担当する論文の要旨や内容の特徴を発表し、その上で受講者全員によって討論する方式で行う。それにより、相互に認識を深める。				
◆ 到達目標	(1)日本近現代史に関する最近の研究を読解し、内容を理解できるようになる。 (2)研究の内容要旨を発表し、討論することができるようになる。 (3)最近の研究成果を通して、近現代史研究の現状と課題について、理解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス日本近現代史研究の特徴 2. 日本近現代史研究の方法 3. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(1) 4. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(2) 5. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(3) 6. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(4) 7. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(5) 8. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(6) 9. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(7) 10. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(8) 11. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(9) 12. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(1) 13. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(2) 14. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(3) 15. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(4) 				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [50%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他 (報告の内容、討論への取り組みなど) [30%]				
◇ 教科書・参考書	『岩波講座 日本歴史 (第18巻、近現代4)』(岩波書店、2015年)を主なテキストとする。該当する論文などについては、適宜、指示する。				
◇ 授業時間外学習	『岩波講座 日本歴史 (第18巻、近現代4)』や指定された研究論文を、事前に読んでおく。				
その他：オフィスアワー：水曜日16：20～17：50					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 史 各 論 Japanese History (Special Lecture)	2	兼務教員 佐藤大介	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS301J				
◆ 授業題目	歴史資料保全の実践 (その1)				
◆ 目的・概要	いま、人文社会学研究への「社会的要請」とは何か、ということが議論されています。日本史を学ぶ者にとっては、「先祖や地元の歴史を知りたい・伝えたい」という思いに応えることが、その一つといえるかもしれません。この講義では、地域社会に今なお膨大に残されている歴史資料を守り、伝えるための課題や、そのための実践、座学、議論、および実際の地域での活動を通じて学んでいきます。				
◆ 到達目標	・ 過去の歴史資料保存をめぐる経緯を踏まえながら、地域社会に残された歴史資料を継承するための課題を学びます。 ・ 講義を通じて、「社会にとっての歴史研究者の存在意義とは何か」ということを自ら考える力を付けます。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「歴史資料保全活動」の経緯①—終戦直後～1960年代 2. 「歴史資料保全活動」の経緯②—1970年代～1990年代 3. 「歴史資料保全活動」の経緯③—1990年代～現在 4. 「郷土史家」への道のり①—研究者の場合 5. 「郷土史家」への道のり②—市民の場合 6. 「郷土史家」への道のり③—討論 7. 地域の歴史資料を守る①—文書資料の応急処置・洗浄 8. 地域の歴史資料を守る②—文書資料の応急処置・乾燥 9. 地域の歴史資料を守る③—文書資料の応急処置・修復 10. 地域の歴史資料を守る④—保管環境を整える 11. 地域の歴史資料を守る⑤—所蔵者のお話をうかがう 12. 地域の歴史資料を守る⑥—所蔵者に質問する 13. 地域の歴史資料を守る⑦—史料の整理 14. 地域の歴史資料を守る⑧—デジタルカメラでの撮影・管理 15. 地域の歴史資料を守る⑨—まとめ 				
◇ 成績評価の方法	・ 平常点 (出席、討論への参加) (40%) ・ レポート (60%)				
◇ 教科書・参考書	・ 奥村弘『大震災と歴史資料保存』(吉川弘文館 2011年) ・ 平川新・佐藤大介編『歴史遺産を未来へ』(東北大学東北アジア研究センター報告 2012年) ・ 奥村弘編『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』(東京大学出版会 2014年) ほか、講義中指示する。				
◇ 授業時間外学習	上記の参考文献、およびそれらに引用されている関連文献に、可能な範囲で目を通しておくこと。				
・ 10コマ目以降は、大学を離れた地域での講義となる。全日程参加出来るよう予定を調整しておくこと。 その他： <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本近世・近代史特論Ⅲ 後期「歴史資料保全の実践 (その2)」と連続履修することが望ましい。 ・ 実技や現地調査を行う関係で、受講者人数を制限する (最大15名程度)。多数の場合は日本史専修の学生を優先する。 					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
日 本 史 各 論 Japanese History (Special Lecture)	2	兼務教員 佐藤大介	6	水	1		
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS301J						
◆ 授業題目	歴史資料保全の実践 (その2)						
◆ 目的・概要	活字、くすし字を問わず、日本史研究で必須の「古文書を読み解く力」は、それらに親しみのない市民が、過去の歴史を自ら学ぼうとする時、専門家に求められる能力です。地域の歴史に対する関心が高まる今、その能力を生かして市民と積極的に交流する事が求められています。この講義では、江戸時代の仙台藩に残された古文書を用いて、歴史を復元するための解説方法を学ぶとともに、知り得た内容をわかりやすく紹介するための方法を学びます。						
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・古文書の内容から、歴史を復元できるような情報を読み解く力を身につけます。 ・さらに、その内容をどのようにしてわかりやすく伝えるかについても学びます。 ・成果を実地に発表し、その反応を知る事で、歴史研究を学ぶ者が求められている課題を知ります。 						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに一市民と歴史像を共有する意義 2. 古文書を読んでみる①—証文 3. 古文書を読んでみる②—願書 4. 古文書を読んでみる③—記録 5. 古文書を読んでみる④—手紙 6. 歴史像を復元する①—基礎的な内容 7. 歴史像を復元する②—ものの流れ 8. 歴史像を復元する③—人物像 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. 歴史像を復元する④—地域像 10. 歴史像を伝える①—基礎的な情報の提示 11. 歴史像を伝える②—文章表現 12. 歴史像を伝える③—関連資料の調査 13. 歴史像を伝える④—編集 14. 歴史像を伝える⑤—展示・公開の方法 15. まとめ </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに一市民と歴史像を共有する意義 2. 古文書を読んでみる①—証文 3. 古文書を読んでみる②—願書 4. 古文書を読んでみる③—記録 5. 古文書を読んでみる④—手紙 6. 歴史像を復元する①—基礎的な内容 7. 歴史像を復元する②—ものの流れ 8. 歴史像を復元する③—人物像 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 歴史像を復元する④—地域像 10. 歴史像を伝える①—基礎的な情報の提示 11. 歴史像を伝える②—文章表現 12. 歴史像を伝える③—関連資料の調査 13. 歴史像を伝える④—編集 14. 歴史像を伝える⑤—展示・公開の方法 15. まとめ
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに一市民と歴史像を共有する意義 2. 古文書を読んでみる①—証文 3. 古文書を読んでみる②—願書 4. 古文書を読んでみる③—記録 5. 古文書を読んでみる④—手紙 6. 歴史像を復元する①—基礎的な内容 7. 歴史像を復元する②—ものの流れ 8. 歴史像を復元する③—人物像 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 歴史像を復元する④—地域像 10. 歴史像を伝える①—基礎的な情報の提示 11. 歴史像を伝える②—文章表現 12. 歴史像を伝える③—関連資料の調査 13. 歴史像を伝える④—編集 14. 歴史像を伝える⑤—展示・公開の方法 15. まとめ 						
◇ 成績評価の方法	・分担か所の発表及び解説資料の内容 (50%)・レポート (50%) 講義中に指示します。						
◇ 教科書・参考書	歴史像を明らかにするには、多数の文献に当たる必要もあります。シラバスでそのすべてを紹介することはできませんので、講義中に指示します。						
◇ 授業時間外学習	・この講義は、受講者による発表が基本となります。各回の予習は必須となります。あらかじめ担当か所を割り当てますので、発表前日に慌てて準備を始め「徹夜」になることのないよう、一日30分～1時間程度、ないし週2時間程度の学習時間を、日課として取り入れていただくことをお勧めします。						
<p>・日本史各論 前期「歴史資料保全の実践 (その1)」との連続履修が望ましいです。</p> <p>その他：・古文書解説の能力が必要です。古文書学など、日本史専修で開講される関連講義などで十分に学習しておいてください。</p> <p>・少人数講義とします。希望者多数の場合は、日本史専修の学生を優先します。</p>							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
日 本 史 各 論 Japanese History (Special Lecture)	2	非常勤 講師 鈴木拓也	集 中 (6)				
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS301J						
◆ 授業題目	日本古代史のなかの東北						
◆ 目的・概要	日本古代史の中から、蝦夷・城柵・軍制・征夷など、東北に関わる問題を取り上げる。文献史学に立脚しつつ、考古学の情報も参照しながら、基礎的事実の復元を行う。その上で、東北古代史を日本古代史全体の中で理解することを試みる。						
◆ 到達目標	日本古代史および東北古代史について理解するとともに、文献史料から史実を復元する方法、考古学の情報を利用する方法の一端を学ぶ。						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本古代史と東北古代史 2. 蝦夷の文化 3. 城柵論(1) 4. 城柵論(2) 5. 城柵論(3) 6. 鎮守府と軍制 7. 大仏造立と東北 8. 多賀城碑 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. 光仁朝の征夷 10. 桓武朝の政治史と征夷(1) 11. 桓武朝の政治史と征夷(2) 12. 桓武朝の政治史と征夷(3) 13. 徳政相論 14. 征夷終結以後の東北 15. 節刀と将軍 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本古代史と東北古代史 2. 蝦夷の文化 3. 城柵論(1) 4. 城柵論(2) 5. 城柵論(3) 6. 鎮守府と軍制 7. 大仏造立と東北 8. 多賀城碑 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 光仁朝の征夷 10. 桓武朝の政治史と征夷(1) 11. 桓武朝の政治史と征夷(2) 12. 桓武朝の政治史と征夷(3) 13. 徳政相論 14. 征夷終結以後の東北 15. 節刀と将軍
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本古代史と東北古代史 2. 蝦夷の文化 3. 城柵論(1) 4. 城柵論(2) 5. 城柵論(3) 6. 鎮守府と軍制 7. 大仏造立と東北 8. 多賀城碑 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 光仁朝の征夷 10. 桓武朝の政治史と征夷(1) 11. 桓武朝の政治史と征夷(2) 12. 桓武朝の政治史と征夷(3) 13. 徳政相論 14. 征夷終結以後の東北 15. 節刀と将軍 						
◇ 成績評価の方法	レポートの提出による。						
◇ 教科書・参考書	教科書は使わない。プリントを配付して講義を行う。参考書は授業中に紹介する。						
◇ 授業時間外学習	質問などは随時受け付ける。可能であれば城柵など東北の遺跡を実際に踏査してみたい。ただし安全には十分に注意すること。						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	准教授 堀 裕	5	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS306J				
◆ 授業題目	古代史料の研究(1)				
◆ 目的・概要	平安時代の貴族の日記である『小右記』をテキストとして精読する。あわせて、関連史料も調査・読解することで、史料としての扱い方に習熟する。史料に基づいた歴史像の構築の方法について理解を深める。なお、授業では毎回担当者が報告する。				
◆ 到達目標	古代史の基本史料の基礎知識を得るとともにその読解に習熟する。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 『小右記』とは何か。講読のすすめかた。 9. 『小右記』を読む(8) 2. 『小右記』を読む(1) 10. 『小右記』を読む(9) 3. 『小右記』を読む(2) 11. 『小右記』を読む(10) 4. 『小右記』を読む(3) 12. 『小右記』を読む(11) 5. 『小右記』を読む(4) 13. 『小右記』を読む(12) 6. 『小右記』を読む(5) 14. 『小右記』を読む(13) 7. 『小右記』を読む(6) 15. まとめ 8. 『小右記』を読む(7)				
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)				
◇ 教科書・参考書	テキスト 『大日本古記録 小右記』 1～11 (岩波書店)。購入の必要はない。				
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜 4 限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	准教授 堀 裕	6	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS306J				
◆ 授業題目	古代史料の研究(2)				
◆ 目的・概要	養老令の注釈書である『令集解』をテキストとして精読するとともに、関連史料も調査・読解することで、史料としての扱い方に習熟する。本年度は僧尼令を取り上げる。史料に基づいた歴史像の構築の方法について理解を深める。なお、授業では毎回担当者が報告する。				
◆ 到達目標	古代史の基本史料の基礎知識を得るとともにその読解に習熟する。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 『令集解』とは何か。講読のすすめかた。 9. 『令集解』を読む(8) 2. 『令集解』を読む(1) 10. 『令集解』を読む(9) 3. 『令集解』を読む(2) 11. 『令集解』を読む(10) 4. 『令集解』を読む(3) 12. 『令集解』を読む(11) 5. 『令集解』を読む(4) 13. 『令集解』を読む(12) 6. 『令集解』を読む(5) 14. 『令集解』を読む(13) 7. 『令集解』を読む(6) 15. まとめ 8. 『令集解』を読む(7)				
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)				
◇ 教科書・参考書	テキスト 新訂増補国史大系普及版『令集解』第1巻 (吉川弘文館)。				
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜日 4 限です。来訪時は事前に連絡をください。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	准教授 堀 裕	5	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS306J																				
◆ 授業題目	古代史料研究(1)																				
◆ 目的・概要	歴史書である『続日本紀』をテキストとして、古代史料の読解と史料としての扱い方に習熟する。授業では毎回担当者が報告する。できれば、現地見学会を実施する。																				
◆ 到達目標	古代史の基本史料である『続日本紀』の読解と史料としての扱い方に習熟する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス 『続日本紀』とは何か。講読のすすめかた。</td> <td>9. 『続日本紀』を読む(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 『続日本紀』を読む(1)</td> <td>10. 『続日本紀』を読む(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 『続日本紀』を読む(2)</td> <td>11. 『続日本紀』を読む(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 『続日本紀』を読む(3)</td> <td>12. 『続日本紀』を読む(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 『続日本紀』を読む(4)</td> <td>13. 『続日本紀』を読む(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 『続日本紀』を読む(5)</td> <td>14. 『続日本紀』を読む(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 『続日本紀』を読む(6)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 『続日本紀』を読む(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス 『続日本紀』とは何か。講読のすすめかた。	9. 『続日本紀』を読む(8)	2. 『続日本紀』を読む(1)	10. 『続日本紀』を読む(9)	3. 『続日本紀』を読む(2)	11. 『続日本紀』を読む(10)	4. 『続日本紀』を読む(3)	12. 『続日本紀』を読む(11)	5. 『続日本紀』を読む(4)	13. 『続日本紀』を読む(12)	6. 『続日本紀』を読む(5)	14. 『続日本紀』を読む(13)	7. 『続日本紀』を読む(6)	15. まとめ	8. 『続日本紀』を読む(7)	
1. ガイダンス 『続日本紀』とは何か。講読のすすめかた。	9. 『続日本紀』を読む(8)																				
2. 『続日本紀』を読む(1)	10. 『続日本紀』を読む(9)																				
3. 『続日本紀』を読む(2)	11. 『続日本紀』を読む(10)																				
4. 『続日本紀』を読む(3)	12. 『続日本紀』を読む(11)																				
5. 『続日本紀』を読む(4)	13. 『続日本紀』を読む(12)																				
6. 『続日本紀』を読む(5)	14. 『続日本紀』を読む(13)																				
7. 『続日本紀』を読む(6)	15. まとめ																				
8. 『続日本紀』を読む(7)																					
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編 (吉川弘文館)																				
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜4限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。																				
その他：古代史料研究(1)(2)は連続履修すること。7・8世紀に興味のある者の受講を勧める。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	准教授 堀 裕	6	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS306J																				
◆ 授業題目	古代史料研究(2)																				
◆ 目的・概要	歴史書である『続日本紀』をテキストとして、古代史料の読解と史料としての扱い方に習熟する。授業では毎回担当者が報告する。できれば、現地見学会を実施する。																				
◆ 到達目標	古代史の基本史料である『続日本紀』の読解と史料としての扱い方に習熟する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス 『続日本紀』を読む意義。講読のすすめかたの確認。</td> <td>9. 『続日本紀』を読む(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 『続日本紀』を読む(1)</td> <td>10. 『続日本紀』を読む(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 『続日本紀』を読む(2)</td> <td>11. 『続日本紀』を読む(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 『続日本紀』を読む(3)</td> <td>12. 『続日本紀』を読む(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 『続日本紀』を読む(4)</td> <td>13. 『続日本紀』を読む(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 『続日本紀』を読む(5)</td> <td>14. 『続日本紀』を読む(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 『続日本紀』を読む(6)</td> <td>15. おわりに</td> </tr> <tr> <td>8. 『続日本紀』を読む(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス 『続日本紀』を読む意義。講読のすすめかたの確認。	9. 『続日本紀』を読む(8)	2. 『続日本紀』を読む(1)	10. 『続日本紀』を読む(9)	3. 『続日本紀』を読む(2)	11. 『続日本紀』を読む(10)	4. 『続日本紀』を読む(3)	12. 『続日本紀』を読む(11)	5. 『続日本紀』を読む(4)	13. 『続日本紀』を読む(12)	6. 『続日本紀』を読む(5)	14. 『続日本紀』を読む(13)	7. 『続日本紀』を読む(6)	15. おわりに	8. 『続日本紀』を読む(7)	
1. ガイダンス 『続日本紀』を読む意義。講読のすすめかたの確認。	9. 『続日本紀』を読む(8)																				
2. 『続日本紀』を読む(1)	10. 『続日本紀』を読む(9)																				
3. 『続日本紀』を読む(2)	11. 『続日本紀』を読む(10)																				
4. 『続日本紀』を読む(3)	12. 『続日本紀』を読む(11)																				
5. 『続日本紀』を読む(4)	13. 『続日本紀』を読む(12)																				
6. 『続日本紀』を読む(5)	14. 『続日本紀』を読む(13)																				
7. 『続日本紀』を読む(6)	15. おわりに																				
8. 『続日本紀』を読む(7)																					
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編 (吉川弘文館)																				
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜4限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。																				
その他：古代史料研究(1)(2)は連続履修すること。7・8世紀に興味のある者の受講を勧める。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	教授 柳原敏昭	5	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS306J																				
◆ 授業題目	鎌倉時代の法と社会(1)																				
◆ 目的・概要	鎌倉幕府は、基本法典である御成敗式目を編纂し、そのほか多数の法令・行政命令を発した（追加法という）。それらは鎌倉時代の法・社会、政権の性格を解明する上での重要な史料である。この時間は、追加法および関連史料の精密な読解を通じて、鎌倉時代の法と社会について探究する。授業は受講生による発表と討論を中心として行なう。																				
◆ 到達目標	(1)中世史料の読解力を身につける。 (2)報告・討論の方法の基礎を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width:50%;">9. 学生による報告と討論⑧</td> </tr> <tr> <td>2. 学生による報告と討論①</td> <td>10. 学生による報告と討論⑨</td> </tr> <tr> <td>3. 学生による報告と討論②</td> <td>11. 学生による報告と討論⑩</td> </tr> <tr> <td>4. 学生による報告と討論③</td> <td>12. 学生による報告と討論⑪</td> </tr> <tr> <td>5. 学生による報告と討論④</td> <td>13. 学生による報告と討論⑫</td> </tr> <tr> <td>6. 学生による報告と討論⑤</td> <td>14. 学生による報告と討論⑬</td> </tr> <tr> <td>7. 学生による報告と討論⑥</td> <td>15. 授業の総括</td> </tr> <tr> <td>8. 学生による報告と討論⑦</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧	2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨	3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩	4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪	5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫	6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬	7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括	8. 学生による報告と討論⑦	
1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧																				
2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨																				
3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩																				
4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪																				
5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫																				
6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬																				
7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括																				
8. 学生による報告と討論⑦																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他 (授業中における発表の内容) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	テキストは開講時に配付する。 参考書は佐藤進一・池内義資編『中世法制史料集』第1巻・鎌倉幕府法 (岩波書店)。																				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。																				
その他：古文書学・日本史基礎講読 (いずれも柳原担当) を履修していることが望ましい。日本史演習「鎌倉時代の法と社会(1)(2) (柳原担当) は連続履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	教授 柳原敏昭	6	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS306J																				
◆ 授業題目	鎌倉時代の法と社会(2)																				
◆ 目的・概要	「鎌倉時代の法と社会(1)」の続講。単なる史料の読み方や基本的な知識を学ぶ場ではなく、問題点を発見し議論する場と位置づけているので、発表者には問題提起的な報告をすることが求められる。また、それ以外の受講生も主体的に議論に参加しなければならない。受講者が任意にテーマを選び報告する機会も設けたい。																				
◆ 到達目標	(1)中世史料の読解力を身につける。 (2)鎌倉時代の法と社会について理解を深める。 (3)報告・討論の方法の基礎を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width:50%;">9. 学生による報告と討論⑧</td> </tr> <tr> <td>2. 学生による報告と討論①</td> <td>10. 学生による報告と討論⑨</td> </tr> <tr> <td>3. 学生による報告と討論②</td> <td>11. 学生による報告と討論⑩</td> </tr> <tr> <td>4. 学生による報告と討論③</td> <td>12. 学生による報告と討論⑪</td> </tr> <tr> <td>5. 学生による報告と討論④</td> <td>13. 学生による報告と討論⑫</td> </tr> <tr> <td>6. 学生による報告と討論⑤</td> <td>14. 学生による報告と討論⑬</td> </tr> <tr> <td>7. 学生による報告と討論⑥</td> <td>15. 授業の総括</td> </tr> <tr> <td>8. 学生による報告と討論⑦</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧	2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨	3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩	4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪	5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫	6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬	7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括	8. 学生による報告と討論⑦	
1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧																				
2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨																				
3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩																				
4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪																				
5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫																				
6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬																				
7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括																				
8. 学生による報告と討論⑦																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他 (授業中における発表の内容) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	テキストは開講時に配付する。 参考書は佐藤進一・池内義資編『中世法制史料集』第1巻・鎌倉幕府法 (岩波書店)。																				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。																				
その他：古文書学・日本史基礎講読 (いずれも柳原担当) を履修していることが望ましい。日本史演習「鎌倉時代の法と社会(1)(2) (柳原担当) は連続履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	教授 柳原敏昭	5	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS306J																				
◆ 授業題目	中世史料演習(1)																				
◆ 目的・概要	伏見宮貞成『看聞日記』は、記主が当時の政権中枢に近く、また所領である山城国伏見庄に居住していたため、朝廷や幕府の動向から、村落内部の様相までを詳細に知ることのできる希有の史料である。この日記を精読することを通じて、記録史料の読解力を錬磨するとともに、室町時代の政治や社会について検討を加える。当然のことながら、授業は受講生による発表と議論が中心となる。受講者には、日本史演習「鎌倉時代の法と社会」より、一層高度な力量が求められる（大学院生レベルを想定）。																				
◆ 到達目標	(1)日本中世史に関する高度な史料読解力・研究能力を養う。 (2)報告・討論の方法を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 学生による報告と討論⑧</td> </tr> <tr> <td>2. 学生による報告と討論①</td> <td>10. 学生による報告と討論⑨</td> </tr> <tr> <td>3. 学生による報告と討論②</td> <td>11. 学生による報告と討論⑩</td> </tr> <tr> <td>4. 学生による報告と討論③</td> <td>12. 学生による報告と討論⑪</td> </tr> <tr> <td>5. 学生による報告と討論④</td> <td>13. 学生による報告と討論⑫ 研究発表</td> </tr> <tr> <td>6. 学生による報告と討論⑤</td> <td>14. 学生による報告と討論⑬ 研究発表</td> </tr> <tr> <td>7. 学生による報告と討論⑥</td> <td>15. 授業の総括</td> </tr> <tr> <td>8. 学生による報告と討論⑦</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧	2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨	3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩	4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪	5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫ 研究発表	6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬ 研究発表	7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括	8. 学生による報告と討論⑦	
1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧																				
2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨																				
3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩																				
4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪																				
5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫ 研究発表																				
6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬ 研究発表																				
7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括																				
8. 学生による報告と討論⑦																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%] (○) その他（授業中における発表の内容）[40%]																				
◇ 教科書・参考書	続群書類従・補遺二『看聞御記』上・下（続群書類従完成会）																				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。																				
その他：受講者は、原則として卒業論文を日本中世史で執筆する4年生に限る。 日本史演習「中世史料演習」(1)(2)は連続履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	教授 柳原敏昭	6	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS306J																				
◆ 授業題目	中世史料演習(2)																				
◆ 目的・概要	中世史料演習(1)の続講。受講者が任意にテーマを選び、研究発表を行う機会も設ける。																				
◆ 到達目標	(1)日本中世史に関する高度な史料読解力・研究能力を養う。 (2)報告・討論の方法を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 学生による報告と討論⑧</td> </tr> <tr> <td>2. 学生による報告と討論①</td> <td>10. 学生による報告と討論⑨</td> </tr> <tr> <td>3. 学生による報告と討論②</td> <td>11. 学生による報告と討論⑩</td> </tr> <tr> <td>4. 学生による報告と討論③</td> <td>12. 学生による報告と討論⑪ 研究発表</td> </tr> <tr> <td>5. 学生による報告と討論④</td> <td>13. 学生による報告と討論⑫ 研究発表</td> </tr> <tr> <td>6. 学生による報告と討論⑤</td> <td>14. 学生による報告と討論⑬ 研究発表</td> </tr> <tr> <td>7. 学生による報告と討論⑥</td> <td>15. 授業の総括</td> </tr> <tr> <td>8. 学生による報告と討論⑦</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧	2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨	3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩	4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪ 研究発表	5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫ 研究発表	6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬ 研究発表	7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括	8. 学生による報告と討論⑦	
1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧																				
2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨																				
3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩																				
4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪ 研究発表																				
5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫ 研究発表																				
6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬ 研究発表																				
7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括																				
8. 学生による報告と討論⑦																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%] (○) その他（授業中における発表の内容）[40%]																				
◇ 教科書・参考書	続群書類従・補遺二『看聞御記』上・下（続群書類従完成会）																				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。																				
その他：受講者は、原則として卒業論文を日本中世史で執筆する4年生に限る。 日本史演習「中世史料演習」(1)(2)は連続履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	准教授 籠 橋 俊 光	5	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS306J																				
◆ 授業題目	近世史料研究(1)																				
◆ 目的・概要	本講義では、近世史料の正確な読解能力を養成する。素材には、伊達騒動に関する記録である「桃遠境論集」を用いる。御家騒動の代表例として名高い伊達騒動に関する史料を読み進めながら、事件そのものはもちろんであるが、近世前期の武家社会、藩主と重臣の関係、藩内政治の実像、武家文書の特徴、仙台藩士の存在形態、村と境界の問題などを考えていく。原文書のコピーを使用するため、相当の古文書読解能力を必要とする。																				
◆ 到達目標	(1)近世史料の基礎的な読解能力を身につける。 (2)自ら問題・関心を発見し、深めるきっかけをつかむ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 史料読解の報告と討論(6)</td> </tr> <tr> <td>2. 伊達騒動について(1)</td> <td>10. 史料読解の報告と討論(7)</td> </tr> <tr> <td>3. 伊達騒動について(2)</td> <td>11. 史料読解の報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>4. 史料読解の報告と討論(1)</td> <td>12. 史料読解の報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>5. 史料読解の報告と討論(2)</td> <td>13. 史料読解の報告と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>6. 史料読解の報告と討論(3)</td> <td>14. 史料読解の報告と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>7. 史料読解の報告と討論(4)</td> <td>15. 史料読解の報告と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>8. 史料読解の報告と討論(5)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 史料読解の報告と討論(6)	2. 伊達騒動について(1)	10. 史料読解の報告と討論(7)	3. 伊達騒動について(2)	11. 史料読解の報告と討論(8)	4. 史料読解の報告と討論(1)	12. 史料読解の報告と討論(9)	5. 史料読解の報告と討論(2)	13. 史料読解の報告と討論(10)	6. 史料読解の報告と討論(3)	14. 史料読解の報告と討論(11)	7. 史料読解の報告と討論(4)	15. 史料読解の報告と討論(12)	8. 史料読解の報告と討論(5)	
1. ガイダンス	9. 史料読解の報告と討論(6)																				
2. 伊達騒動について(1)	10. 史料読解の報告と討論(7)																				
3. 伊達騒動について(2)	11. 史料読解の報告と討論(8)																				
4. 史料読解の報告と討論(1)	12. 史料読解の報告と討論(9)																				
5. 史料読解の報告と討論(2)	13. 史料読解の報告と討論(10)																				
6. 史料読解の報告と討論(3)	14. 史料読解の報告と討論(11)																				
7. 史料読解の報告と討論(4)	15. 史料読解の報告と討論(12)																				
8. 史料読解の報告と討論(5)																					
◇ 成績評価の方法	出席 [20%]・レポート [40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	「桃遠境論集」(コピー配布) 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』(吉川弘文館)、『仙台市史』通史編4近世2(仙台市)、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』(吉川弘文館)。																				
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。																				
その他：必ず「近世史料研究(2)」と連続で受講すること。 オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50(要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	准教授 籠 橋 俊 光	6	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS306J																				
◆ 授業題目	近世史料研究(2)																				
◆ 目的・概要	「近世史料研究(1)」の続講。近世史料の正確な読解や基礎的な知識を身につけ、その上で自ら論点を探り、深めていく。受講者には、講義への主体的な参加を求める。なお、必ず「近世史料研究(1)」と連続で受講すること。																				
◆ 到達目標	(1)近世史料の基礎的な読解能力を身につける。 (2)自ら問題・関心を発見し、深めるきっかけをつかむ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 史料読解の報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 史料読解の報告と討論(1)</td> <td>10. 史料読解の報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 史料読解の報告と討論(2)</td> <td>11. 史料読解の報告と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 史料読解の報告と討論(3)</td> <td>12. 史料読解の報告と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 史料読解の報告と討論(4)</td> <td>13. 史料読解の報告と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 史料読解の報告と討論(5)</td> <td>14. 史料読解の報告と討論(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 史料読解の報告と討論(6)</td> <td>15. 史料読解の報告と討論(14)</td> </tr> <tr> <td>8. 史料読解の報告と討論(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 史料読解の報告と討論(8)	2. 史料読解の報告と討論(1)	10. 史料読解の報告と討論(9)	3. 史料読解の報告と討論(2)	11. 史料読解の報告と討論(10)	4. 史料読解の報告と討論(3)	12. 史料読解の報告と討論(11)	5. 史料読解の報告と討論(4)	13. 史料読解の報告と討論(12)	6. 史料読解の報告と討論(5)	14. 史料読解の報告と討論(13)	7. 史料読解の報告と討論(6)	15. 史料読解の報告と討論(14)	8. 史料読解の報告と討論(7)	
1. ガイダンス	9. 史料読解の報告と討論(8)																				
2. 史料読解の報告と討論(1)	10. 史料読解の報告と討論(9)																				
3. 史料読解の報告と討論(2)	11. 史料読解の報告と討論(10)																				
4. 史料読解の報告と討論(3)	12. 史料読解の報告と討論(11)																				
5. 史料読解の報告と討論(4)	13. 史料読解の報告と討論(12)																				
6. 史料読解の報告と討論(5)	14. 史料読解の報告と討論(13)																				
7. 史料読解の報告と討論(6)	15. 史料読解の報告と討論(14)																				
8. 史料読解の報告と討論(7)																					
◇ 成績評価の方法	出席 [20%]・レポート [40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	「桃遠境論集」(コピー配布) 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』(吉川弘文館)、『仙台市史』通史編4近世2(仙台市)、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』(吉川弘文館)																				
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。																				
その他：必ず「近世史料研究(1)」と連続で受講すること。 オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50(要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	准教授 籠 橋 俊 光	5	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS306J																				
◆ 授業題目	近世史研究法(1)																				
◆ 目的・概要	受講者各自が、日本近世史に関して自らの研究テーマに基づいて研究報告をし、それを参加者全員で討議する。研究の実践の場として、受講者自身の論文執筆に資することはもちろんであるが、報告・司会の方法に習熟し、加えて他の受講者の意見や報告を通じて新たな知見を得ることもねらいとする。大学院生レベルの内容であるが、日本近世史で卒業論文の執筆を希望する3年生・4年生は必ず受講すること。加えて、必ず「近世史研究法(2)」と連続で受講すること。																				
◆ 到達目標	(1)日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。 (2)報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width:50%;">9. 受講者による報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者による報告と討論(1)</td> <td>10. 受講者による報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者による報告と討論(2)</td> <td>11. 受講者による報告と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者による報告と討論(3)</td> <td>12. 受講者による報告と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者による報告と討論(4)</td> <td>13. 受講者による報告と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者による報告と討論(5)</td> <td>14. 受講者による報告と討論(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者による報告と討論(6)</td> <td>15. 受講者による報告と討論(14)</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者による報告と討論(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論(8)	2. 受講者による報告と討論(1)	10. 受講者による報告と討論(9)	3. 受講者による報告と討論(2)	11. 受講者による報告と討論(10)	4. 受講者による報告と討論(3)	12. 受講者による報告と討論(11)	5. 受講者による報告と討論(4)	13. 受講者による報告と討論(12)	6. 受講者による報告と討論(5)	14. 受講者による報告と討論(13)	7. 受講者による報告と討論(6)	15. 受講者による報告と討論(14)	8. 受講者による報告と討論(7)	
1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論(8)																				
2. 受講者による報告と討論(1)	10. 受講者による報告と討論(9)																				
3. 受講者による報告と討論(2)	11. 受講者による報告と討論(10)																				
4. 受講者による報告と討論(3)	12. 受講者による報告と討論(11)																				
5. 受講者による報告と討論(4)	13. 受講者による報告と討論(12)																				
6. 受講者による報告と討論(5)	14. 受講者による報告と討論(13)																				
7. 受講者による報告と討論(6)	15. 受講者による報告と討論(14)																				
8. 受講者による報告と討論(7)																					
◇ 成績評価の方法	出席 [20%]・レポート [40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	特になし。																				
◇ 授業時間外学習	特になし。																				
その他：必ず「近世史研究法(2)」と連続で受講すること。 オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	准教授 籠 橋 俊 光	6	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS306J																				
◆ 授業題目	近世史研究法(2)																				
◆ 目的・概要	「近世史研究法Ⅰ」の続講。受講者は、自らの報告内容に講義中での議論を踏まえ、論文の執筆を目指していく。受講者には、主体的・積極的な議論への参加を求める。大学院生レベルの内容であるが、日本近世史で卒業論文の執筆を希望する3年生・4年生は必ず受講すること。加えて、必ず「近世史研究法(1)」と連続で受講すること。																				
◆ 到達目標	(1)日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。 (2)報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width:50%;">9. 受講者による報告・討論(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者による報告・討論(1)</td> <td>10. 受講者による報告・討論(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者による報告・討論(2)</td> <td>11. 受講者による報告・討論(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者による報告・討論(3)</td> <td>12. 受講者による報告・討論(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者による報告・討論(4)</td> <td>13. 受講者による報告・討論(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者による報告・討論(5)</td> <td>14. 受講者による報告・討論(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者による報告・討論(6)</td> <td>15. 受講者による報告・討論(14)</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者による報告・討論(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 受講者による報告・討論(8)	2. 受講者による報告・討論(1)	10. 受講者による報告・討論(9)	3. 受講者による報告・討論(2)	11. 受講者による報告・討論(10)	4. 受講者による報告・討論(3)	12. 受講者による報告・討論(11)	5. 受講者による報告・討論(4)	13. 受講者による報告・討論(12)	6. 受講者による報告・討論(5)	14. 受講者による報告・討論(13)	7. 受講者による報告・討論(6)	15. 受講者による報告・討論(14)	8. 受講者による報告・討論(7)	
1. ガイダンス	9. 受講者による報告・討論(8)																				
2. 受講者による報告・討論(1)	10. 受講者による報告・討論(9)																				
3. 受講者による報告・討論(2)	11. 受講者による報告・討論(10)																				
4. 受講者による報告・討論(3)	12. 受講者による報告・討論(11)																				
5. 受講者による報告・討論(4)	13. 受講者による報告・討論(12)																				
6. 受講者による報告・討論(5)	14. 受講者による報告・討論(13)																				
7. 受講者による報告・討論(6)	15. 受講者による報告・討論(14)																				
8. 受講者による報告・討論(7)																					
◇ 成績評価の方法	出席 [20%]・レポート [40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	特になし。																				
◇ 授業時間外学習	特になし。																				
その他：必ず「近世史研究法(1)」と連続で受講すること。 オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	教授 安達宏昭	5	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS306J																				
◆ 授業題目	近現代政治・社会史の研究(1)																				
◆ 目的・概要	2014年に編修が完了し、2015年3月から公刊されている『昭和天皇実録』などを読解し、関連する史料と照合して、近現代日本の政治・社会について考察する。演習形式で行い、報告者に対する質問や討論により、受講者の各自の認識を深める。																				
◆ 到達目標	(1)史料を幅広い視点から分析できるようになる。 (2)史料分析を通して、時代状況を理解できるようになる。 (3)上記2つを通して日本近現代史に対する認識を深めることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス・『昭和天皇実録』の概要</td> <td>9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(7)</td> </tr> <tr> <td>2. 昭和天皇に関する研究書の把握・検討</td> <td>10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(1)</td> <td>11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(2)</td> <td>12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(3)</td> <td>13. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(4)</td> <td>14. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(5)</td> <td>15. これまでの報告と討論のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス・『昭和天皇実録』の概要	9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(7)	2. 昭和天皇に関する研究書の把握・検討	10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(8)	3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(1)	11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(9)	4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(2)	12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(10)	5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(3)	13. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(11)	6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(4)	14. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(12)	7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(5)	15. これまでの報告と討論のまとめ	8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(6)	
1. ガイダンス・『昭和天皇実録』の概要	9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(7)																				
2. 昭和天皇に関する研究書の把握・検討	10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(8)																				
3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(1)	11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(9)																				
4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(2)	12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(10)																				
5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(3)	13. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(11)																				
6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(4)	14. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(12)																				
7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(5)	15. これまでの報告と討論のまとめ																				
8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(6)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	『昭和天皇実録 第三』・『昭和天皇実録 第四』(東京書籍、2015年9月)																				
◇ 授業時間外学習	『昭和天皇実録』について、毎週、翌週の報告者が担当する箇所の記述を読んできて、その叙述に対する疑問点・問題点を、報告者に質問できるようにする。																				
その他：履修要件：「近現代政治・社会史の研究(1)(2)」(安達担当)は、連続して履修すること。 オフィスアワー：水曜日16：20～17：50、要予約																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	教授 安達宏昭	6	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS306J																				
◆ 授業題目	近現代政治・社会史の研究(2)																				
◆ 目的・概要	日本史演習「近現代政治・社会史の研究(1)」の続講。第1学期の『昭和天皇実録』の読解を継続するとともに、受講者が自らのテーマを選定して報告する機会も設ける。																				
◆ 到達目標	(1)史料を幅広い視点から分析できるようになる。 (2)史料分析を通して、時代状況を理解できるようになる。 (3)上記2つを通して日本近現代史に対する認識を深めることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(1)</td> <td>9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>2. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(2)</td> <td>10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(3)</td> <td>11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(4)</td> <td>12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(5)</td> <td>13. 受講者自身の研究報告と討論(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(6)</td> <td>14. 受講者自身の研究報告と討論(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(7)</td> <td>15. これまでの報告と討論のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(8)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(1)	9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(9)	2. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(2)	10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(10)	3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(3)	11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(11)	4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(4)	12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(12)	5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(5)	13. 受講者自身の研究報告と討論(1)	6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(6)	14. 受講者自身の研究報告と討論(2)	7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(7)	15. これまでの報告と討論のまとめ	8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(8)	
1. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(1)	9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(9)																				
2. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(2)	10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(10)																				
3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(3)	11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(11)																				
4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(4)	12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(12)																				
5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(5)	13. 受講者自身の研究報告と討論(1)																				
6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(6)	14. 受講者自身の研究報告と討論(2)																				
7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(7)	15. これまでの報告と討論のまとめ																				
8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(8)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	『昭和天皇実録 第四』(東京書籍、2015年9月)・『昭和天皇実録 第五』、『昭和天皇実録 第六』(東京書籍、2016年3月)																				
◇ 授業時間外学習	『昭和天皇実録』について、毎週、翌週の報告者が担当する箇所の記述を読んできて、その叙述に対する疑問点・問題点を、報告者に質問できるようにする。また、受講者の研究報告の場合には、その報告に関連する研究を読んできて、質問できるようにする。																				
その他：履修要件：「近現代政治・社会史の研究(1)(2)」(安達担当)は、連続して履修すること。 オフィスアワー：水曜日16：20～17：50、要予約																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	教授 安達宏昭	5	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS306J																				
◆ 授業題目	近現代史研究法(1)																				
◆ 目的・概要	近現代史における基礎的な研究テーマについて受講者相互に認識を深めるとともに、各自が研究テーマを設定して、その問題関心、視角、実証分析について発表する。それに対する討論を通して、発表者の研究方法について課題を明確にする。大学院生を対象としたものだが、近現代史で卒業論文を作成しようと考えている学部生（特に4年生は必ず）は受講すること。（近現代史研究法(2)も同じ）。																				
◆ 到達目標	(1)先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。 (2)自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。 (3)上記の2つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義</td> <td>9. 受講者の研究報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者の研究報告と討論(1)</td> <td>10. 受講者の研究報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者の研究報告と討論(2)</td> <td>11. 受講者の研究報告と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者の研究報告と討論(3)</td> <td>12. 受講者の研究報告と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者の研究報告と討論(4)</td> <td>13. 受講者の研究報告と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者の研究報告と討論(5)</td> <td>14. 受講者の研究報告と討論(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者の研究報告と討論(6)</td> <td>15. 受講者の研究報告と討論(14)</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者の研究報告と討論(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義	9. 受講者の研究報告と討論(8)	2. 受講者の研究報告と討論(1)	10. 受講者の研究報告と討論(9)	3. 受講者の研究報告と討論(2)	11. 受講者の研究報告と討論(10)	4. 受講者の研究報告と討論(3)	12. 受講者の研究報告と討論(11)	5. 受講者の研究報告と討論(4)	13. 受講者の研究報告と討論(12)	6. 受講者の研究報告と討論(5)	14. 受講者の研究報告と討論(13)	7. 受講者の研究報告と討論(6)	15. 受講者の研究報告と討論(14)	8. 受講者の研究報告と討論(7)	
1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義	9. 受講者の研究報告と討論(8)																				
2. 受講者の研究報告と討論(1)	10. 受講者の研究報告と討論(9)																				
3. 受講者の研究報告と討論(2)	11. 受講者の研究報告と討論(10)																				
4. 受講者の研究報告と討論(3)	12. 受講者の研究報告と討論(11)																				
5. 受講者の研究報告と討論(4)	13. 受講者の研究報告と討論(12)																				
6. 受講者の研究報告と討論(5)	14. 受講者の研究報告と討論(13)																				
7. 受講者の研究報告と討論(6)	15. 受講者の研究報告と討論(14)																				
8. 受講者の研究報告と討論(7)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	特になし。																				
◇ 授業時間外学習	報告者の研究テーマに関する史実などを、事前に学習しておく。																				
その他：履修要件：日本史演習「近現代史研究法(1)(2)」(安達担当)は、連続して履修すること。 オフィスアワー：水曜日16：20～17：50、要予約																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 史 演 習 Japanese History (Seminar)	2	教授 安達宏昭	6	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS306J																				
◆ 授業題目	近現代史研究法(2)																				
◆ 目的・概要	日本史演習「近現代史研究法(1)」の続講。1学期の研究発表をふまえて、さらに研究を進めて、その成果を報告する。そして、討論を通して課題を絞り、論文などにまとめていく。大学院生を対象としたものだが、近現代史で卒業論文を作成しようと考えている学部生（特に4年生は必ず）は、受講すること。																				
◆ 到達目標	(1)先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。 (2)自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。 (3)上記の2つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス・研究の進捗と論文化の報告</td> <td>9. 受講者の研究報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者の研究報告と討論(1)</td> <td>10. 受講者の研究報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者の研究報告と討論(2)</td> <td>11. 受講者の研究報告と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者の研究報告と討論(3)</td> <td>12. 受講者の研究報告と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者の研究報告と討論(4)</td> <td>13. 受講者の研究報告と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者の研究報告と討論(5)</td> <td>14. 受講者の研究報告と討論(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者の研究報告と討論(6)</td> <td>15. 受講者の研究報告と討論(14)</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者の研究報告と討論(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス・研究の進捗と論文化の報告	9. 受講者の研究報告と討論(8)	2. 受講者の研究報告と討論(1)	10. 受講者の研究報告と討論(9)	3. 受講者の研究報告と討論(2)	11. 受講者の研究報告と討論(10)	4. 受講者の研究報告と討論(3)	12. 受講者の研究報告と討論(11)	5. 受講者の研究報告と討論(4)	13. 受講者の研究報告と討論(12)	6. 受講者の研究報告と討論(5)	14. 受講者の研究報告と討論(13)	7. 受講者の研究報告と討論(6)	15. 受講者の研究報告と討論(14)	8. 受講者の研究報告と討論(7)	
1. ガイダンス・研究の進捗と論文化の報告	9. 受講者の研究報告と討論(8)																				
2. 受講者の研究報告と討論(1)	10. 受講者の研究報告と討論(9)																				
3. 受講者の研究報告と討論(2)	11. 受講者の研究報告と討論(10)																				
4. 受講者の研究報告と討論(3)	12. 受講者の研究報告と討論(11)																				
5. 受講者の研究報告と討論(4)	13. 受講者の研究報告と討論(12)																				
6. 受講者の研究報告と討論(5)	14. 受講者の研究報告と討論(13)																				
7. 受講者の研究報告と討論(6)	15. 受講者の研究報告と討論(14)																				
8. 受講者の研究報告と討論(7)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	特になし。																				
◇ 授業時間外学習	報告者の研究テーマに関する史実などを、事前に学習しておく。																				
その他：履修要件：日本史演習「近現代史研究法(1)(2)」(安達担当)は、連続して履修すること。 オフィスアワー：水曜日16：20～17：50、要予約																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 史 実 習 Japanese History (Field Work)	2	准教授 籠 橋 俊 光	5	金	4・5
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS307J				
◆ 授業題目	史料整理・保存の理論と方法				
◆ 目的・概要	歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問である。しかし、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。文字・画像の情報だけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料の特質や史料群の構造を理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基礎を学ぶ。さらにそれをもとにして、博物館・図書館などの機能の相違や、実物史料の取り扱い方、史料の撮影や目録編成の理論などについて学んでいく。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れることがあるので、特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。				
◆ 到達目標	史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・史料保存の意義と意味(1) 2. 史料保存の意義と意味(2) 3. 文書館・図書館・博物館 —史料保存機関の性格と特色— 4. アーカイブズの理論(1) 5. アーカイブズの理論(2) 6. 史料調査・整理の実際 7. 目録論 8. 目録作成の技術(1) 9. 目録作成の技術(2) 10. 歴史資料の取り扱いとその実践 11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際 12. マイクロフィルム・カメラの取り扱い 13. フィールド実習 14. 史料整理の基礎(1) 15. 史料整理の基礎(2) 				
◇ 成績評価の方法	出席 [30%]・受講態度 [20%]・レポート [50%]				
◇ 教科書・参考書	随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。				
◇ 授業時間外学習	特になし。				
その他：必ず「史料整理実習」と連続して受講すること。 オフィスアワー 火曜日 16：20～17：50（要予約）					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 史 実 習 Japanese History (Field Work)	2	准教授 籠 橋 俊 光	6	金	4・5
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS307J				
◆ 授業題目	史料整理実習				
◆ 目的・概要	実際に史料整理を行う。大規模な文書群を対象として取り上げ、史料の取り扱い、現状の把握、基本データの採録、目録作成、保存に向けての作業など、史料整理に関する基本的な実務を実際に行う。さらに、自ら整理した史料について、その個別の内容の理解だけではなく、文書群のなかにおける位置づけや文書群そのものの構造など、幅広く文書群を把握する方法を学ぶ。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れるので、その際には特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。				
◆ 到達目標	実際に実物の史料を整理し、「史料整理・保存の理論と方法」において学習した史料整理の理論と方法を体得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 史料整理実習(1) 3. 史料整理実習(2) 4. 史料整理実習(3) 5. 史料整理実習(4) 6. 史料整理実習(5) 7. 史料整理実習(6) 8. 史料整理実習(7) 9. 史料整理実習(8) 10. 史料整理実習(9) 11. 史料整理実習(10) 12. 史料整理実習(11) 13. 史料整理実習(12) 14. 史料整理実習(13) 15. 史料整理実習(14)・整理内容報告 				
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]・受講態度 [50%]				
◇ 教科書・参考書	古文書読解用辞典類を持参することが望ましい。				
◇ 授業時間外学習	特になし。				
その他：必ず「史料整理・保存の理論と方法」と連続して受講すること。 オフィスアワー 火曜日 16：20～17：50（要予約）					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 概 論 Archaeology (General Lecture)	2	教授 阿子島 香	3	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHMHS202J				
◆ 授業題目	先史考古学概説				
◆ 目的・概要	先史考古学の歴史と特質、その資料としての遺跡・遺構・遺物の内容について、基礎的な事項を中心に学ぶ。主として石器時代の研究を対象とし、人類の文化進化について解説する。海外を含めて実際の調査、分析の事例を取り上げ、多数のスライドで紹介し、考古学の現在の状況についての理解を深める。考古学遺跡の研究・出土遺物の観察について、各自の関心に従って、実際に自分で遺跡を訪ねるレポートを課します。その内容は授業で詳しく説明します。				
◆ 到達目標	(1)先史時代の考古学研究の方法と歴史を理解できるようになる。 (2)考古学の資料の特質を理解できるようになる。 (3)猿人から新人までの人類文化の発展を理解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス。授業の進行と評価基準についての説明。先史考古学の特質について。考古学研究史と文献の紹介(1)。 埋蔵文化財の保護。考古学研究史と文献の紹介(2)。 地域における遺跡の分布と発掘調査の方法。遺跡発掘調査報告書の理解。 層位学的方法と、編年研究の歴史。 猿人と原人の人類史、石器文化と生活様式。 氷河時代の環境変動と人類。 旧人から新人へ。ネアンデルタール人の文化。 期末レポートの説明と、注意点についての解説。受講者それぞれが選択した遺跡を、実際に自分で探訪してその成果をまとめる。文献のみではレポートを作成できない。 技術論。石器の製作技術と石材。 型式学。石器における器種と型式。 機能論。石器の使用痕の分析。 生業経済と遺跡。フランス、マドレーヌ文化の狩猟民。 精神生活の復元。クロマニヨン人の洞穴壁画。 考古学方法論の展望、および試験(1回目)。レポートの確認事項補足解説。 埋蔵文化財の展望、および試験(2回目)。レポート提出。 				
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [30%]・(○) レポート [30%]・(○) 出席 [40%]				
◇ 教科書・参考書	参考文献について、随時教室で指示。資料プリントを多数配布する。				
◇ 授業時間外学習	各回の配布資料を、よく理解するために補足学習を行なう。資料の内容を復習する。英文の場合は予習する。レポートについては、各自が日時を調整して、実際に遺跡・史跡、資料館などを自分自身の計画で探訪をすることが必要。				
その他	毎回の出席を重視するが、出席カードには質問や感想などを記入してもらうことで、次回以降の授業内容にフィードバックを行なう。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 概 論 Archaeology (General Lecture)	2	准教授 鹿 又 喜 隆	4	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHMHS202J				
◆ 授業題目	日本考古学概説				
◆ 目的・概要	考古学は、歴史学の一分野です。特に先史時代研究において考古学は大きな役割を果たしています。本講義では、考古学によって明らかにされた歴史像を通史的に概観します。さらに、研究史を引用しながら、基礎的な知識と考古学的研究方法の発展についても紹介します。近年の多角的な研究分野との連携によって復元されていく人類史は、広い学際的な研究領域での成果へと繋がっています。また、発掘調査から得られる情報は、非常に多様であり、現在の人類が抱える問題に対しても解答を与えてくれる可能性を秘めています。講義では、パワーポイントを用いて解説します。多くの写真や図表を用いて、理解を促す計画です。				
◆ 到達目標	(1)日本考古学を歴史学的通史の一部として理解する。 (2)考古学の研究方法を多角的視点から学ぶ。 (3)人類学、歴史学、自然科学分野などとの連携によって復元されていく、今日的な考古学研究の実態について理解を深める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 本講義のガイダンスと全講義の説明。 人類の起源。他地域進化説とアフリカ起源説。 アジアの初期人類の文化。 ホモサピエンスの誕生と拡散。 日本列島の人類の出現と後期旧石器時代の開始。 日本列島の後期旧石器時代の多様性① 日本列島の後期旧石器時代の多様性② 日本列島の後期旧石器時代の多様性③ 旧石器時代から縄文時代へ① 旧石器時代から縄文時代へ② 縄文時代前半の文化 縄文時代後半の文化 弥生時代の考古学 弥生時代研究の現状 続縄文文化と古墳文化の始まり 				
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [70%]・(○) 出席 [30%]				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布する。				
◇ 授業時間外学習	講義内で課した課題・質問に関して各自調べること。				
その他	オフィスアワー：金曜日13：30～14：30				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
考 古 学 基 礎 講 読 Archaeology (Introductory Reading)	2	非常勤 講師 有 松 唯	4	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS207J																				
◆ 授業題目	考古学資料読解																				
◆ 目的・概要	授業では外国考古学の学術文献を精読しながら、世界の考古学についての知識を深めていきます。また、外国の考古学研究では、日本での考古学とはまた違った理論や研究方法にもとづいて実施されているものが多くあります。そうした多様な研究にふれながら、考古学についての幅広い理論・方法を習得します。欧文の学術文献を読解するうえでの専門用語や専門知識を身につけることも重視しますが、文献の内容を理解した上で課題を発見し、意見を提示する姿勢も養います。そのために、文献を読解したうえで、授業時に内容を報告するとともに、意見を交換しながら理解を深めていきます。																				
◆ 到達目標	①日本以外の考古学の研究事例にふれ、考古学についての多角的な知識と視点をもつ。 ②考古学に必要な理論や研究方法への理解を深める。 ③考古学の専門研究について再構成し、課題を発見し、議論を展開できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンスと導入：世界の考古学研究概説</td> <td>9. 欧文読解とディスカッション</td> </tr> <tr> <td>2. 講義：世界の考古学研究—方法論の多様性—</td> <td>10. 欧文読解とディスカッション</td> </tr> <tr> <td>3. 講義：世界の考古学研究—先端的研究の実例—</td> <td>11. 欧文読解とディスカッション</td> </tr> <tr> <td>4. 欧文読解とディスカッション</td> <td>12. 欧文読解とディスカッション</td> </tr> <tr> <td>5. 欧文読解とディスカッション</td> <td>13. 欧文読解とディスカッション</td> </tr> <tr> <td>6. 欧文読解とディスカッション</td> <td>14. 欧文読解とディスカッション</td> </tr> <tr> <td>7. 欧文読解とディスカッション</td> <td>15. まとめ：考古学の可能性</td> </tr> <tr> <td>8. 欧文読解とディスカッション</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンスと導入：世界の考古学研究概説	9. 欧文読解とディスカッション	2. 講義：世界の考古学研究—方法論の多様性—	10. 欧文読解とディスカッション	3. 講義：世界の考古学研究—先端的研究の実例—	11. 欧文読解とディスカッション	4. 欧文読解とディスカッション	12. 欧文読解とディスカッション	5. 欧文読解とディスカッション	13. 欧文読解とディスカッション	6. 欧文読解とディスカッション	14. 欧文読解とディスカッション	7. 欧文読解とディスカッション	15. まとめ：考古学の可能性	8. 欧文読解とディスカッション	
1. ガイダンスと導入：世界の考古学研究概説	9. 欧文読解とディスカッション																				
2. 講義：世界の考古学研究—方法論の多様性—	10. 欧文読解とディスカッション																				
3. 講義：世界の考古学研究—先端的研究の実例—	11. 欧文読解とディスカッション																				
4. 欧文読解とディスカッション	12. 欧文読解とディスカッション																				
5. 欧文読解とディスカッション	13. 欧文読解とディスカッション																				
6. 欧文読解とディスカッション	14. 欧文読解とディスカッション																				
7. 欧文読解とディスカッション	15. まとめ：考古学の可能性																				
8. 欧文読解とディスカッション																					
◇ 成績評価の方法	発表（30%）受講態度（40%）レポート（30%）																				
◇ 教科書・参考書	授業時に文献を指示し、適宜資料を配布する。																				
◇ 授業時間外学習	読解と議論は各自が予習済みであることを前提に進める。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
考 古 学 基 礎 実 習 Archaeology (Introductory Field Work)	2	准教授 鹿 又 喜 隆	3	金	1・2																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS208J																				
◆ 授業題目	考古学資料の観察と記録																				
◆ 目的・概要	考古学研究のなかで、出土した遺物を正確に資料化していく作業は、きわめて重要です。今後の研究の基礎として、そのための基本的な方法、技術、および各種遺物の観察の仕方を学びます。土器・石器などの実測図作製の実習を通して、実証的な研究態度を身につけ、資料に対する観察眼を養い、客観的な資料提示の方法を学びます。実習資料は、実際の出土品を扱います。特に出席と毎時間の受講態度を重視します。毎回かなりの課題（実習整理室での宿題）がありますので、受講者全員に積極的な取り組みを期待します。																				
◆ 到達目標	(1)考古学における出土遺物の資料化の意義を理解できるようになる。 (2)特に実測図作成の基本を学び、各種遺物の実測図を作成できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 考古学における資料化</td> <td>9. 縄文土器の実測図作成①</td> </tr> <tr> <td>2. 剥片の実測図作成</td> <td>10. 縄文土器の実測図作成②</td> </tr> <tr> <td>3. ツールの実測図作成</td> <td>11. 縄文土器の実測図作成③</td> </tr> <tr> <td>4. 石核の実測図作成①</td> <td>12. 縄文土器の実測図作成④</td> </tr> <tr> <td>5. 石核の実測図作成②</td> <td>13. 土師器・須恵器の実測図作成①</td> </tr> <tr> <td>6. 石核の実測図作成③</td> <td>14. 土師器・須恵器の実測図作成②</td> </tr> <tr> <td>7. 磨製石器の実測図作成①</td> <td>15. 拓本の作成と断面実測</td> </tr> <tr> <td>8. 磨製石器の実測図作成②</td> <td></td> </tr> </table>					1. 考古学における資料化	9. 縄文土器の実測図作成①	2. 剥片の実測図作成	10. 縄文土器の実測図作成②	3. ツールの実測図作成	11. 縄文土器の実測図作成③	4. 石核の実測図作成①	12. 縄文土器の実測図作成④	5. 石核の実測図作成②	13. 土師器・須恵器の実測図作成①	6. 石核の実測図作成③	14. 土師器・須恵器の実測図作成②	7. 磨製石器の実測図作成①	15. 拓本の作成と断面実測	8. 磨製石器の実測図作成②	
1. 考古学における資料化	9. 縄文土器の実測図作成①																				
2. 剥片の実測図作成	10. 縄文土器の実測図作成②																				
3. ツールの実測図作成	11. 縄文土器の実測図作成③																				
4. 石核の実測図作成①	12. 縄文土器の実測図作成④																				
5. 石核の実測図作成②	13. 土師器・須恵器の実測図作成①																				
6. 石核の実測図作成③	14. 土師器・須恵器の実測図作成②																				
7. 磨製石器の実測図作成①	15. 拓本の作成と断面実測																				
8. 磨製石器の実測図作成②																					
◇ 成績評価の方法	(○) 出席 [30%]・(○) その他（具体的には、提出課題と受講態度）[70%]																				
◇ 教科書・参考書	実測図作成に必要な用具の購入について、別途指示します。																				
◇ 授業時間外学習	課題が講義時間内に終わらない場合には宿題になります。																				
その他：課題の完成にあたっては、随時、教員に確認をもらうこと。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
資 料 基 礎 論 各 論 Scientific Study of Historical Materials (Special Lecture)	2	教授 阿子島 香	6	月	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMHS302J 先史考古学資料論 先史時代の考古学資料研究の現状と課題について、発掘調査資料の基礎的な特質に応じた実証的な研究方法の理解を深める授業である。西ヨーロッパ（特にフランス南部）、北米（特にアメリカのグレートプレーンズ地域）、東アジア（特に韓半島、ロシアサハリン）など、世界各地の遺跡を比較文化的視点で考察する。旧石器時代を中心とする事例研究の中から、問題点を選択して詳説する。年代論、機能論、分布論の持つ意義を考察する。また理論的には、人類学の一分野であるアメリカの「プロセス考古学」学派による研究史、遺跡・遺物の分析法を学ぶ。受講者の関心をフィードバックしながら、タイポロジー（型式学）、遺物の使用痕分析、遺物の空間分布、石器製作技術、統計的方法などから取り上げ、具体的な分析方法を解説する。期末レポートにおいては、受講者は日本国内の発掘調査報告書を各自の関心に従って選択し、先史時代遺跡から発掘された資料の事実記録に基づいて、各自がデータの分析を試みる。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	先史時代の遺跡・遺構・遺物の特質を、資料にそくして理解できるようになる。				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	<p>1. ガイダンス。授業の構成と成績評価基準の説明。「キュレレーター養成コース」の授業としての説明。アメリカ考古学の特質(1)。</p> <p>2. アメリカ考古学の特質(2)。「人類学としての考古学」パラダイムと、日本の埋蔵文化財の考古学との比較。</p> <p>3. アメリカ考古学の歴史(1)。1960年代のニューアーケオロジーと、その研究事例、社会的背景。ムスチエ文化論争の意義。</p> <p>4. アメリカ考古学の歴史(2)。1970年代の「プロセス考古学」と、民族考古学の「ミドルレンジセオリー」の本質をめぐって。</p> <p>5. ルイス・ビンフォードの考古学とミドルレンジセオリーの実践(1)。</p> <p>6. ルイス・ビンフォードの考古学とミドルレンジセオリーの実践(2)。</p> <p>7. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から(1)。</p> <p>8. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から(2)。</p> <p>9. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から(3)。</p> <p>10. 課題レポートの解説(1)。対象とする遺跡の選択と調査報告書の特質。埋蔵文化財保護と考古学研究との関係をめぐって。</p> <p>11. 課題レポートの解説(2)。発掘調査報告書における事実記載と解釈、考察の判断基準の問題をめぐって。</p> <p>12. 先史考古学方法論の諸問題(1)。型式学と人間集団論および年代学。</p> <p>13. 先史考古学方法論の諸問題(2)。機能論と使用痕分析法。</p> <p>14. 先史考古学方法論の諸問題(3)。遺跡内での遺物分布。人間活動の復元。</p> <p>15. 先史考古学の国際的展望。レポート提出。</p>				
	(○) レポート [60%]・(○) 出席 [40%]				
	参考文献について、随時教室で指示。毎回、資料としてプリントを配布する（英語および日本語）。				
	各回の講義のトピックに関して、各自で参考文献を学習し、理解を深める。配布プリントの内容に関連した事項について、文献読解を行なう。レポートの対象とする「発掘調査報告書」は、各自の関心に応じて附属図書館の地下書庫で、配架されている埋蔵文化財報告書を探求し、レポート課題として選択する。				
その他：	セメスター期間中を通じて、考古学や埋蔵文化財関連の行事、研究会・学会、説明会等を、そのつど紹介・解説するので、受講者は積極的に参加し、この授業と関連するテーマについての理解を深めていくことが望ましい。考古学専攻分野の活動等との関連で、授業内容に若干のスケジュール調整あり。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 各 論 Archaeology (Special Lecture)	2	准教授 鹿 又 喜 隆	5	月	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMHS303J 日本考古学の諸問題 日本考古学は、海外とは異なる独自の発展を遂げています。その特質を研究史を通して学ぶことは重要であり、考古学研究を行なう基礎となります。この日本考古学の特徴を理解した上で、現代考古学の課題や問題点を明らかにし、その解決方法を具体的な事例研究を通して理解していきます。先史時代を主要な対象時期として、自然環境や社会環境の変化と、人類行動の変化の関係を把握し、自然・文化・社会の関わりについて理解を深めます。また、遺物や遺構からかつての人類活動に接近するには幾つかのプロセスを経る必要がありますが、その考古学的方法を理解することは重要です。この点について発掘調査による重要な発見や、研究対象に応じた調査・分析方法の事例を通じて解説します。近年は関連諸分野の方法を導入することで、新たな考古学的方法が開発されています。このような研究動向を理解することが、これから考古学を研究する者にとって重要なことです。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	<p>(1)考古学研究の歴史を理解する。(2)現在の考古学研究の方法を理解する。(3)考古学関連分野の理解を深め、考古学研究の方法を前進させる方法を学ぶ。(4)人類が自然・社会・文化とのかかわりの中で生きてきて、それが現代社会に繋がっていることを理解する。</p>				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	<p>1. 考古学各論の1年間の講義内容をダイジェストで紹介する。講義内容の目次の役割を果たし、講義の全体像を把握できる。</p> <p>2. 考古学的解釈のための理論と方法。類型論、技術組織、動作連鎖、ミドルレンジセオリー、アフォーダンス、ヒューリスティック・アプローチなど、考古学の基礎的・応用的概念を学ぶ。</p> <p>3. 災害と人々の営み。考古学では、人類の長い歴史を扱うため、防災の面でも長期的な視点をもつことが可能である。発掘調査事例に基づく災害の歴史を紹介するとともに、なぜ文化財を保存する必要があるかについて考える。</p> <p>4. 研究倫理。2000年に発覚した前期旧石器時代遺跡捏造問題を紹介し、研究倫理について考える。様々な側面から研究方法や成果の発信の方法について現実的に理解する。</p> <p>5. 比較文化研究。比較文化研究には幾つかの方法がある。隣接地域を同時に比較するケースが多いが、遠く離れた地域間の比較であっても、意義ある研究となる。具体的な比較文化研究を紹介する。</p> <p>6. 抽象的観念の研究。考古学では実証性が求められるため、抽象的観念の研究が難しい。本講義では、縄文時代の祭祀・彩色・性差などを踏まえて、抽象的観念に関わる研究を紹介する。</p> <p>7. 自然環境の変化と人々の営み。人々は自然環境との関わりの中で生きてきた歴史がある。本講義では、人と自然の関わりの変化を通時的に概観する。</p> <p>8. 更新世の環境と人類の適応的行動。更新世の長い時間の中で、人類は様々な技術を開発し、生き延びてきた。具体的な事例をあげて、その関係を紹介する。</p> <p>9. 石刃技法の諸問題。ホモサピエンスの出現と合せて重視される石刃技法について、国内外の様々な研究事例をもとに紹介すると共に、研究の問題点をあげる。</p> <p>10. 狩猟活動の変革。狩猟具の変化は、人類の技術革新の代表例である。その研究の現状を国内外の研究を紹介しながら、理解する。</p> <p>11. 民族考古学研究の基礎と応用。民族考古学的方法の研究の歴史と問題点を取り上げ、日本の後期旧石器時代の事例をもとに、より積極的な実践事例を紹介する。</p> <p>12. 更新世から完新世への移行と人類の適応行動。以下の4回で完新世適応について学ぶ。ここでは、急激な温暖化があった時代の様相を具体的な事例を通して紹介する。</p> <p>13. 完新世への移行と生業。縄文時代の前半期を中心に、完新世の環境に応じた人類活動の変化について概観する。</p> <p>14. 温暖化最盛期のその後。縄文時代の中盤から終末にかけての集落、生業、祭祀の変化を概観する。</p> <p>15. 農耕集落の形成と展開。日本列島の農耕の開始について、世界史的な視点から評価する。弥生文化と世界の農耕文化を比較する。</p>				
	(○) 筆記試験 [70%]・(○) 出席 [30%]				
	教科書は使用しない。参考文献を講義中に随時提示する。				
	講義内で試験課題に対応した設問をおこなうので、時間外に文献などで調べる。				
その他：	オフィスアワー：水曜日16：20～17：00				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 各 論 Archaeology (Special Lecture)	2	教授 藤澤 敦	5	火	3
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS303J				
◆ 授業題目	東北大学収蔵の考古学資料				
◆ 目的・概要	東北大学には研究の基礎となり成果となった、膨大な資料標本や研究機器類がある。その中には、文学研究科の考古学資料が約20万件あり、一部は考古学陳列館に収蔵・展示されている。これらの資料は、喜田貞吉による収集資料、伊東信雄による東北地方を中心とする各地の発掘調査資料、芹沢長介による旧石器時代遺跡の調査資料や近世陶磁器資料などからなっている。本講義では、これらの資料について解説し、これら資料に基づいて構築された学説の意義について紹介するとともに、その研究史的意義と今日的な意義について検討する。本年度は、伊東信雄の調査による資料と、それに基づく研究について主に検討する。				
◆ 到達目標	(1)東北大学が収蔵する考古学資料について理解する。 (2)東北大学の考古学資料の研究史的意義、現在の意義を理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と進め方の説明および導入 2. 東北大学での考古学研究の歩みと考古学陳列館の概要 3. 東北大学の考古学資料の概要 4. 伊東信雄の経歴と主な研究 5. 伊東信雄の戦前の調査研究(1) 6. 伊東信雄の戦前の調査研究(2) 7. 伊東信雄の戦前の調査研究(3) 8. 伊東信雄の戦後の調査研究 (弥生時代研究1) 9. 伊東信雄の戦後の調査研究 (弥生時代研究2) 10. 伊東信雄の戦後の調査研究 (古墳時代研究1) 11. 伊東信雄の戦後の調査研究 (古墳時代研究1) 12. 伊東信雄の戦後の調査研究 (古代研究1) 13. 伊東信雄の戦後の調査研究 (古代研究1) 14. 伊東信雄の戦前の研究と戦後の研究を貫くもの 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート (60%)・出席 (40%)				
◇ 教科書・参考書	教室にて資料を配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。				
◇ 授業時間外学習	前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 各 論 Archaeology (Special Lecture)	2	教授 藤澤 敦	6	火	3
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS303J				
◆ 授業題目	日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究				
◆ 目的・概要	日本では、発掘調査の圧倒的多数が、開発に伴う調査であることが特徴である。このような調査は、文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政の一環として、行政機関によって実施されている。このことは日本における考古学研究に大きな影響を与えている。本講義では、文化財保護法や関連する諸規定と、それに基づく埋蔵文化財保護行政の実際について解説する。あわせて、開発に伴う発掘調査によってもたらされた資料の急激な増加や、社会的関心の高まりと調査成果の活用などの現状についても検討する。そのうえで、このような中で進展してきた日本の考古学研究が構造的に有している特質について考察する。				
◆ 到達目標	(1)日本の埋蔵文化財保護行政の枠組みと実務について理解する。 (2)開発に伴う発掘調査と考古学研究の関係について理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要と進め方の解説および導入 2. 日本の考古学をめぐる状況 3. 文化財保護法の基本理念と構成 4. 文化財保護法と教育委員会制度 5. 文化財保護法での埋蔵文化財関係条文 6. 開発に伴う埋蔵文化財保護の行政手続き 7. 開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査 8. 国指定史跡制度 9. 国史跡の保存管理と整備活用 10. 国史跡仙台北城跡の保存管理と整備活用の実地見学 11. 国史跡整備活用の実際 12. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴(1) 13. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴(2) 14. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴(3) 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート (60%)・出席 (40%)				
◇ 教科書・参考書	教室にて資料を配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。				
◇ 授業時間外学習	前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 各 論 Archaeology (Special Lecture)	2	非 常 勤 講 師 工 藤 雄 一 郎	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMHS303J 縄文時代の環境文化史研究 近年の先史考古学では、自然科学分析などを取り入れた学際研究の重要性増しつつあります。特に縄文時代の研究においては、気候や植生といった周辺環境を復元するだけでなく、集落を維持することによって形成された人為生態系の規模やその内容を解明するため、様々な自然科学的分析が行われ、成果を上げています。また、こうした背景には、考古学の研究者と自然科学の研究者とが一緒に研究するだけでなく、従来は自然科学の手法であった分析手法を考古学の研究者が自ら実践し、考古学の側が求める分析の成果がより一層蓄積されてきたことが関係しています。				
◆ 到達目標	(1)考古学と自然科学との学際的の意義を理解する。 (2)縄文時代の研究において近年飛躍的に研究が進んだ植物利用について、その研究法と成果を理解する。 (3)研究の基礎となった方法論について実践的に学び、理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境文化史とは何か。考古学、生態学、生態系史、環境文化史の違いを学ぶ。 2. 日本列島における土器の出現とその意義。日本考古学において土器の出現は旧石器時代と縄文時代を分ける基準となっている。それが研究史のなかでどのように位置づけられてきたのかを紹介する。 3. 土器の出現の年代と古環境。土器出現の考古学的意義は、AMS法による高精度な放射性炭素年代測定が可能になったことと、氷床コアや鍾乳石などによる極めて高精度な気候変動のデータと年代的に対比が可能となったことにより大きく変わった。その経緯を紹介する。 4. 暦年校正プログラム OxCal の使い方と実践。測定された放射性炭素年代測定は暦年校正を行う必要があり、このためのプログラムが一般に公開されている。考古学にとっても重要であり、この使い方を実践的に学ぶ。 5. 土器付着物の炭素・窒素安定同位体分析から分かること。近年では、土器付着炭化物の安定同位体分析から煮炊きの内容を推測する研究が進展しつつある。この方法について紹介する。 6. 南九州の初期定住と火山災害：縄文時代草創期の南九州は、列島でも特にいち早く縄文時代的な植物利用が見られる地域である一方、その成熟した文化は火山災害によって消滅した。この文化の特徴を紹介する。 7. 縄文時代の植物利用とは？縄文時代全般を通じた植物資源利用の特徴を紹介する。 8. 縄文時代のクリ利用と人為的生態系の成立。縄文時代前期以降の東日本では、クリが食料、建築材、燃料材として多用されている。三内丸山遺跡などの花粉分析の事例から、縄文人のクリ林の管理・栽培の可能性も指摘されており、それらの研究を紹介する。 9. ウルシの植物学と古植物学。ウルシは中国原産の植物で、日本では外来植物であるが、縄文時代にはすでに漆利用が始まっていることから、その起源について近年注目が集まっている。最近のDNAによる研究や、木材解剖学の研究によって明らかになったことを紹介する。 10. 縄文時代の漆文化が意味すること。縄文時代前期以降、すでに完成された漆文化が東日本を中心に展開する。漆文化が存在することの文化的・環境的な意味、縄文漆文化の時代的な特徴を紹介する。 11. 縄文時代中期から後晩期の気候変動と人類活動。縄文時代中期社会と後晩期社会はその内容の違いが注目されているが、背景として後晩期の気候寒冷化が指摘されることがあった。現在ではこの気候変動がどのように捉えられているのかを紹介する。 12. クリからトチノキへ。縄文時代前期・中期を特徴づけるクリ利用文化が衰退し、後晩期にはトチノキ利用へシフトすると指摘されることもある。しかしその実態は複雑であり、単純な移行論では説明できないことが木材・花粉・種実の研究によって分かってきており、それを紹介する。 13. 圧痕レプリカ法のイノベーション。土器の凹みをシリコンで型取りする圧痕レプリカ法は、縄文時代の栽培植物利用の研究において革新的な成果を上げた。この圧痕レプリカ法とはどのような方法なのか、実際に体験しながら学ぶ。 14. 縄文時代のマメ利用：ツルマメとダイズ、ヤブツルアズキとアズキ 15. 東北大学植物園を歩いて縄文時代に利用された植物を探る。これまでの講義を踏まえて、実際に取り上げた植物がどのようなものなのか、植物園で観察しながら学ぶ。 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	(○) 試験30% 出席70% 教科書は使用しない。参考文献を講義中に随時提示する。 講義内で試験課題に対応した設問をおこなうので、時間外に文献などで調べる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 各 論 Archaeology (Special Lecture)	2	非 常 勤 講 師 菅 野 智 則	6	木	4
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMHS303J 先史文化の考古学 本授業では、日本列島の先史時代である所謂「縄文時代」における先史文化（縄文文化）を理解することを目的とします。この縄文文化に関する考古学研究は、これまで土器や石器等の遺物が主要な対象となり、研究が進められてきました。しかし、縄文文化を理解するためには多種多様な側面から研究する必要があります。例えば、動物遺存体の研究からは食生活や周囲の環境、堅穴住居跡や墓などの諸施設の研究からは居住形態や社会構造などの縄文文化の一端を明らかにすることができます。そのほかには、考古学に限らず自然環境に関する研究などの他分野の様々な研究も縄文文化を理解する上では重要です。本授業では、このような縄文文化に関する多種多様な研究の歴史とその方法を学び、これまでの研究により構築されてきた縄文文化観を理解することを当初の目的とします。また、縄文文化は、これまで環太平洋の枠組みのもと、北米大陸北西海岸部における先史時代狩猟採集文化との比較研究がなされてきました。本授業でも北米北西海岸部における先史文化に関する研究を解説し、縄文文化の相対的な位置を理解し、比較文化的視点を学ぶことを最終的な目的とします。				
◆ 到達目標	(1)縄文文化に関するこれまでの研究の歴史を理解する。 (2)縄文文化研究における多種多様な視点や研究方法を理解する。 (3)縄文文化にかぎらず広く先史文化一般を理解するための基礎を学ぶ。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業の1年間の講義内容を概観することにより、授業の目的と到達目標について理解する。 2. 第2次世界大戦前後における縄文文化研究について解説する。戦前の研究は、皇国史観などの時代的背景が強く影響していた。そのような状況下で考古学者はどのように研究を進めてきたのか、そして戦後どのように変わったのか理解する。 3. 戦後から近年までの縄文文化研究について解説する。1980年代から様々な考古学的新発見があり、日本列島における「縄文時代」観が変化してきた。その新発見に基づく研究の内容について紹介し、その成果や問題点等について理解する。 4. 最新の縄文文化研究について解説する。最近の研究の視点や方法もより多様化し、新資料の発見というだけではなく、考古学における新たな展開が認められている。この点について、最近の研究事例を紹介し解説する。 5. 「縄文時代」という枠組みについて解説する。「縄文時代」という時代設定・概念が果たして適切なのか、これまでの研究の歴史を振り返り、これまでの講義のまとめとして説明する。 6. 縄文文化の研究手法。基本的な研究方法に関して解説する。最も基礎的なものは縄文土器の型式学的方法がある。これは「縄文時代」の時期をはかるための物差し（編年）として機能している。このような研究のほか、層位学的方法等の考古学の基礎的な研究方法について概観する。 7. 成立期の縄文文化の年代と地域性。東北地方の縄文土器（草創期～前期）に関する研究について解説する。この時期は、縄文文化が成立する時期の土器であり、その内容も多様である。このような時期の土器に関して、編年研究だけではなく、技術的あり方や地域性などについても説明する。 8. 展開・転換期の縄文文化の年代と地域性。東北地方の縄文土器（中期～晩期）に関する研究について解説する。この時期は、縄文文化の展開期とも言える時期に当たり、特徴的な土器も誕生している。この時期の土器に関して、その特徴や地域性について説明する。 9. 成立期の縄文文化の居住形態。縄文文化（草創期・早期）における生業と居住の形態に関する研究について解説する。この時期は、定住的な縄文集落が形成されるまでの時期である。その中で、居住・生業関連施設や、初めて出現する貝塚、それらに関連する遺物の研究に関して説明する。 10. 展開期の縄文文化の居住形態。縄文文化（前期・中期）における生業と居住の形態に関する研究について解説する。この時期は、典型的な縄文集落が形成され、活発な活動がなされる時期である。その中で、居住・生業関連施設や、それらに関連する遺物の研究に関して説明する。 11. 転換期の縄文文化の居住形態。縄文文化（後期・晩期）における生業と居住の形態に関する研究について解説する。この時期は、これまでの縄文文化が大きく変質し、弥生時代に向かって変質する時期である。その中で、居住・生業関連施設や、それらに関連する遺物の研究に関して説明する。 12. 縄文文化と北米大陸北西海岸部先史文化との比較に関して説明する。これまでになされてきた両文化の比較研究の歴史を振り返るとともに、北米大陸北西海岸部の先史文化の研究について概観する。 13. 縄文文化と北米北西海岸部先史文化における生業活動の差異について、北米北西海岸部における貝塚の調査事例と日本の事例と比較しながら説明する。 14. 縄文文化と北米北西海岸部先史文化における生業活動について、北米北西海岸部における低湿地遺跡の調査事例と日本の事例と比較しながら説明する。 15. 縄文文化と北米先史文化との比較検討。これまでの講義のまとめとして、両文化の比較を行い、今後の研究の方向性について解説する。 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	(○) レポート・講義内の小テスト [70%]・(○) 出席 [30%] 教科書は使用しない。参考書は講義中に随時提示する。 講義内でレポート内容や小テストの設問に応じた問題を設定するので、時間外に講義内に提示した参考書などで調べる。				
その他：	オフィスアワー：水曜日16：15～17：15（片平キャンパス・埋蔵文化財調査室）。事前に tomonori.kanno.d4@tohoku.ac.jp まで問い合わせること。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 講 読 A r c h a e o l o g y (R e a d i n g)	2	教授 阿子島 香	5	金	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMHIS308J 先史文化研究 考古学では近年、それぞれの地域、各時代における地域研究が深まり、国際的な比較研究は一層重要になってきている。この授業では、そのための基礎として、先史考古学、民族考古学の研究文献を正確に読解する力を養うことをめざす。単にテキストの英文を日本語に置き換えるのではなく、論じられている内容を、考古学の脈絡で理解することを旨とし、資料分析の具体的方法について理解を深める。記載されている各分野の遺跡・遺物について、各受講者は、資料にそくした題材を自ら予習して調べ、総合的に学ぶ。また、アメリカの学術雑誌の実際の論文を通じて、海外の最新の動向の一端に触れながら、先史学の研究法を学ぶ。毎回、十分な予習が必要である。課題に関する用語について、レポートを作成して、授業時間の中で報告し、受講者相互に理解を深める。また、テキスト読解の報告担当は、その場で当てる。出席と報告を重視する。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	英語で書かれた先史考古学・民族考古学の学術文献を、基本的に正確に読解できるようになる。				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	<p>(○) リポート [20%]・(○) 出席 [30%] (○)・その他 (具体的には、毎時間の報告) [50%]</p> <p>アメリカ考古学の英文プリントを教室で配布します。理論的には、プロセス考古学学派の著作、ビンフォードなどの専門文献から一部を選択して配布する。</p> <p>各受講者の取り組みの状況をフィードバックしながら、英文テキスト解説の難易度および進行速度を調整していくので、各自、内容を理解できるように前もって、辞書はもちろん関連の専門書を調べていく時間を持つようにする。</p>				
その他：授業での報告担当は、パラグラフ程度を単位として、その場でランダムにあてるので、あらかじめ十分な予習が毎時間、必要とされる。積極的な授業参加を期待する。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 演 習 A r c h a e o l o g y (S e m i n a r)	2	教授 阿子島 香 准教授 鹿 又 喜 隆	5	金	4
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMHIS309J 考古学研究史 日本考古学を中心に、明治時代以来の考古学研究の流れを整理し、今後の展望を探る。旧石器の編年と製作技術、縄文土器の型式学、縄文集落と社会、農耕社会の成立と発展、古墳文化、城柵官衙遺跡、古代窯業生産と供給、中・近世考古学その他、受講者各自が具体的な課題を選んで、順次、発表を行う。詳細な文献目録の作製、研究史の画期となった主要業績の解題、基本的な考古学資料の内容理解、調査研究報告書の詳細な検討、そして相互の討論を通して、研究の現状についての認識を深める。				
◆ 到達目標	(1)日本考古学の研究史の流れを把握し、学史上の画期を整理して理解できるようになる。 (2)各時代、各地域の考古学における研究内容の広がりを理解し、現状を把握できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<p>1. ガイダンスと研究発表の説明。</p> <p>2. 学生による研究発表①</p> <p>3. 学生による研究発表②</p> <p>4. 学生による研究発表③</p> <p>5. 学生による研究発表④</p> <p>6. 学生による研究発表⑤</p> <p>7. 学生による研究発表⑥</p> <p>8. 学生による研究発表⑦</p> <p>9. 学生による研究発表⑧</p> <p>10. 学生による研究発表⑨</p> <p>11. 学生による研究発表⑩</p> <p>12. 学生による研究発表⑪</p> <p>13. 学生による研究発表⑫</p> <p>14. 学生による研究発表⑬</p> <p>15. 学生による研究発表⑭</p>				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	<p>(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]・(○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]</p> <p>教室にて指示、プリントを配布。</p> <p>発表内容は、時間外に各自がまとめる。</p>				
その他：考古学演習を通年で連続履修することが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 演 習 A r c h a e o l o g y (S e m i n a r)	2	教授 准教授 鹿 又 喜 隆 香 阿子島	6	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS309J				
◆ 授業題目	考古学の方法と理論				
◆ 目的・概要	考古学研究の歴史と現状について、各自の関心領域を中心にまとめて発表し、相互の討論を通じて理解を深める。各時代の研究における、型式学と技術、材質研究、編年と地域性、生産と流通、文化変化、環境と生業活動、社会と集団、葬制、集落論など、具体的に課題を選択し、詳細な文献目録を作成し、現在の問題点を的確に把握し、今後の各自の研究指針を追究する。				
◆ 到達目標	(1)日本考古学研究の現状について、学史の流れを踏まえて問題点を展望し、各自の研究テーマを具体的に追求できるようになる。 (2)近年その内容が非常に多岐にわたる考古学研究の、広がりや深まりを認識し、各自の研究方法を位置づけられるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. 学生による研究発表① 2. 学生による研究発表② 3. 学生による研究発表③ 4. 学生による研究発表④ 5. 学生による研究発表⑤ 6. 学生による研究発表⑥ 7. 学生による研究発表⑦ 8. 学生による研究発表⑧ 9. 学生による研究発表⑨ 10. 学生による研究発表⑩ 11. 学生による研究発表⑪ 12. 学生による研究発表⑫ 13. 学生による研究発表⑬ 14. 学生による研究発表⑭ 15. 学生による研究発表⑮				
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]・(○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]				
◇ 教科書・参考書	教室にて指示、プリントを配布。				
◇ 授業時間外学習	発表内容は時間外に各自がまとめる。				
その他：考古学演習を通年で連続履修することが望ましい。 オフィスアワー：金曜日13：30～14：30					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
考 古 学 実 習 A r c h a e o l o g y (F i e l d W o r k)	2	教授 准教授 鹿 又 喜 隆 香 阿子島	5	水	3・4
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS310J				
◆ 授業題目	考古学の調査と資料分析(1)				
◆ 目的・概要	考古学研究の基礎として、遺跡・遺物の資料化と資料操作の標準的な手順と方法を学ぶ。今年度は、土器・石器の整理、属性分析を学ぶ。通年で、出土品の処理と整理、正確な実測図の作製、コンピュータを使用した資料分析の基本などの実習を行い、基礎的な方法を学ぶ。考古学標本室の収蔵品の資料化とデータベースの実際を経験する。大学院の考古学研究実習と連動して、課題に取り組む。発掘調査報告書の作成のための方法を具体的に学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。				
◆ 到達目標	(1)考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。 (2)共同研究の意義について、理解できるようになる。 (3)考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。 (4)発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。				
◆ 授業内容・方法	1. 出土遺物の属性入力(観察と計測、入力と統計操作) ① 2. 出土遺物の属性入力(観察と計測、入力と統計操作) ② 3. 発掘調査実習① 4. 発掘調査実習② 5. 出土遺物の属性入力(観察と計測、入力と統計操作) ③ 6. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築① 7. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築② 8. 遺物の実測と製図① 9. 遺物の実測と製図② 10. 遺物の実測と製図③ 11. 遺物の実測と製図④ 12. 遺物の実測と製図⑤ 13. 測定の基礎と機器の操作① 14. 測定の基礎と機器の操作② 15. 測定の基礎と機器の操作③				
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]・(○) その他 (具体的には、受講態度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	教室にて指示。				
◇ 授業時間外学習	夏季に発掘調査を実施する。講義内で課題が終わらない場合には、宿題となる。				
その他：考古学実習を通年で履修することが望ましい。15回の講義の順番は、発掘計画に応じて前後することがある。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
考 古 学 実 習 A r c h a e o l o g y (F i e l d W o r k)	2	教授 准教授	阿子島 香 鹿 又 喜 隆	6	水 3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS310J																				
◆ 授業題目	考古学資料分析法(2)																				
◆ 目的・概要	5セメスターに引き続き、実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また通年において、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を発掘調査現場において学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。																				
◆ 到達目標	(1)考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。 (2)共同研究の意義について、理解できるようになる。 (3)考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。 (4)発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理(1)。</td> <td>9. 製図・トレース・レイアウトの作成(3)。</td> </tr> <tr> <td>2. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理(2)。</td> <td>10. 写真撮影(1)。</td> </tr> <tr> <td>3. 遺物の観察・記録と図化(1)。</td> <td>11. 写真撮影(2)。</td> </tr> <tr> <td>4. 遺物の観察・記録と図化(2)。</td> <td>12. 写真撮影(3)。</td> </tr> <tr> <td>5. 遺物の観察・記録と図化(3)。</td> <td>13. 保存処理に関する研修。</td> </tr> <tr> <td>6. 遺物の観察・記録と図化(4)。</td> <td>14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成(1)。</td> </tr> <tr> <td>7. 製図・トレース・レイアウトの作成(1)。</td> <td>15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成(2)。</td> </tr> <tr> <td>8. 製図・トレース・レイアウトの作成(2)。</td> <td></td> </tr> </table>					1. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理(1)。	9. 製図・トレース・レイアウトの作成(3)。	2. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理(2)。	10. 写真撮影(1)。	3. 遺物の観察・記録と図化(1)。	11. 写真撮影(2)。	4. 遺物の観察・記録と図化(2)。	12. 写真撮影(3)。	5. 遺物の観察・記録と図化(3)。	13. 保存処理に関する研修。	6. 遺物の観察・記録と図化(4)。	14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成(1)。	7. 製図・トレース・レイアウトの作成(1)。	15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成(2)。	8. 製図・トレース・レイアウトの作成(2)。	
1. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理(1)。	9. 製図・トレース・レイアウトの作成(3)。																				
2. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理(2)。	10. 写真撮影(1)。																				
3. 遺物の観察・記録と図化(1)。	11. 写真撮影(2)。																				
4. 遺物の観察・記録と図化(2)。	12. 写真撮影(3)。																				
5. 遺物の観察・記録と図化(3)。	13. 保存処理に関する研修。																				
6. 遺物の観察・記録と図化(4)。	14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成(1)。																				
7. 製図・トレース・レイアウトの作成(1)。	15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成(2)。																				
8. 製図・トレース・レイアウトの作成(2)。																					
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]・(○) その他(具体的には、受講態度) [30%]																				
◇ 教科書・参考書	教室にて指示。																				
◇ 授業時間外学習	講義内で課題が終わらない場合には宿題となる。																				
その他：考古学実習を通年で連続履修することが望ましい。発掘調査の出土量や作業の進捗に応じて、講義内容は前後します。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
中 国 文 学 概 論 Chinese Literature (General Lecture)	2	教授 佐竹保子	3	木	1
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT202J				
◆ 授業題目	中国の恋愛詩（ウラ文学史）				
◆ 目的・概要	<p>【目的】 1. 中国紀元前10世紀頃から紀元11世紀頃までの古典詩について、恋愛詩をてがかりにしながら、理解を深めます。2. いわゆる「漢文」の構造、古体詩と近体詩の違い、近体詩の格律（きまり・法則）など、基本知識をおさえます。</p> <p>【概要】 中国古典は、ヨーロッパや日本の文学と違って、恋愛をテーマにすることが少ない、とされます。確かに恋愛詩より友情詩のほうが相対的によく作られます。しかしそもそも作品の絶対量が多いので、恋愛を詠じる詩文も決して少ないとはいえません。「あなたに逢いたい」というシンプルな恋歌から、恋愛そのものの曰くいいがたいとえがたさを表現する象徴詩まで、傑作に事欠きません。恋愛文学には、最適の賞味期間があります。皆さんはそのただ中に居ます。賞味期間の過ぎないうちに、高校までの「漢文」にはまず出てこない、中国文学の非正統的にして不可欠な一面に、ぜひ触れてください。</p>				
◆ 到達目標	<p>1. 中国文学史の前半を知る。2. いわゆる「漢文」の構造を知る。3. できれば白文が読めるようになる。4. いわゆる「漢詩」の法則と種類を知る。5. できれば返り点送り仮名ナシの「漢詩」が読めるようになる。6. 中国古典文学を、他の地域のそれと比較できるようにする。</p>				
◆ 授業内容・方法	<p>1. オリエンテーションと時空の確認 2. *以下は、授業中の説明や質疑応答の成りゆきによって、計画どおりにいかないことがあります。 『詩経』の恋うた—東アジア最古の恋愛詩(1) 3. 『詩経』の恋うた—東アジア最古の恋愛詩(2) 4. 漢代と南朝の民歌(1) 5. 漢代と南朝の民歌(2) 6. 陶淵明文学と、夏目漱石・魯迅 7. 陶淵明はストーカー？ 8. 盛唐の杜甫—獄中の愛の詩 9. 盛唐の杜甫—戦時の新妻になりかわって 10. 中唐の李賀と、沢木耕太郎 11. 中唐の李賀—死せるひとの恋 12. 晩唐の李商隠—missing you 13. 晩唐の李商隠—恋愛そのものの描出 14. 宋代の李清照—古典中国の女流詩人 15. 宋代の李清照—『金石録』後序</p>				
◇ 成績評価の方法	出席（50％）筆記試験（50％）				
◇ 教科書・参考書	教科書は、プリントを配布します。参考書は、授業中に適宜紹介します。				
◇ 授業時間外学習	プリントは少し早めに配るので、所載の文の構造や、詩の対句・押韻について、見当をつけておいてください。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
中 国 文 学 概 論 Chinese Literature (General Lecture)	2	准教授 土屋育子	4	木	1
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT202J				
◆ 授業題目	中国の小説と戯曲				
◆ 目的・概要	<p>目的：中国において、小説や戯曲の類は真っ当な知識人が関わるものではないという意識が長く存在していました。なぜこのような意識は生まれたのでしょうか。そして、このような意識は中国の小説・戯曲の発展にどのような影響を及ぼしてきたのでしょうか。本講義ではこの問題を軸に講じ、受講者の中国の小説と戯曲に関する知見を深めることを目的とします。</p> <p>概要：中国における小説と戯曲の成立と展開を概観しつつ、時代を追って具体的に作品を紹介していきます。作品の概略のみならず、作品を生んだ時代的・社会的背景や、伝統詩文との影響関係についても、最近の研究状況を踏まえつつ言及していきます。（以下の授業内容は多少前後する場合があります。）</p>				
◆ 到達目標	中国における小説と戯曲について、古代から明清時代まで、時代を追って概観することにより、中国の小説と戯曲に対する理解を深めることを目指します。				
◆ 授業内容・方法	<p>1. ガイダンス 中国における「小説」の位置 2. 志怪小説 3. 唐代伝奇 4. 敦煌変文 5. 話本・平話(1) 6. 話本・平話(2) 7. 中国演劇史(1) 古代～元代 8. 中国演劇史(2) 明代～清代 9. 三国志演義(1) 10. 三国志演義(2) 11. 水滸伝(1) 12. 水滸伝(2) 13. 西遊記 14. 金瓶梅、その他の明清小説 15. 講義全体のまとめ</p>				
◇ 成績評価の方法	出席：50％ レポート：50％（レポート課題は講義の最終回に指示）				
◇ 教科書・参考書	テキストはプリントを配布する。参考書については授業中に紹介する。				
◇ 授業時間外学習	授業中に紹介する参考書等を積極的に読み、講義の内容をより深めるように努めてください。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 基 礎 講 読 Chinese Literature (Introductory Reading)	2	准教授 土屋育子	3	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT213J																				
◆ 授業題目	中国語実用文法研究																				
◆ 目的・概要	中国語学習歴半年以上の学生が、より高度な中国語運用能力を身につけることを目的とする。授業では、教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の意味の確認、問題演習（宿題）の順に進める。教科書の1課分を、1～2コマで進めていく。また、内容確認の小テストを不定期に行う（授業中に指示）。なお、この授業は講読演習を兼ねている。																				
◆ 到達目標	(1)現代中国語の文法について基礎的な事項を理解する。 (2)基礎的な作文能力をつける。 (3)基礎的な読解力を確実なものとし、さらに応用力をつける。 (4)中国語の発音をブラッシュ・アップする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス発音 1年次で学習した内容の確認</td> <td>9. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(1)</td> <td>10. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(2)</td> <td>11. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(3)</td> <td>12. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(4)</td> <td>13. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(5)</td> <td>14. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(6)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス発音 1年次で学習した内容の確認	9. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(8)	2. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(1)	10. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(9)	3. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(2)	11. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(10)	4. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(3)	12. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(11)	5. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(4)	13. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(12)	6. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(5)	14. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(13)	7. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(6)	15. まとめ	8. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(7)	
1. ガイダンス発音 1年次で学習した内容の確認	9. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(8)																				
2. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(1)	10. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(9)																				
3. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(2)	11. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(10)																				
4. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(3)	12. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(11)																				
5. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(4)	13. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(12)																				
6. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(5)	14. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(13)																				
7. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(6)	15. まとめ																				
8. 教科書課文の発音、ポイントの説明、課文の翻訳、問題演習(7)																					
◇ 成績評価の方法	平常点（出席、発音、問題演習を含む）：50% 筆記試験：50%																				
◇ 教科書・参考書	楊凱榮・吉川雅之・張麗群著『基礎漢語』（白帝社）小学館『中日辞典』『日中辞典』、または、講談社『中日辞典』『日中辞典』。その他の参考書については、授業中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	教科書課文とポイント文の翻訳（語句調べを含む）、および問題演習などの予習が必要である。出席者は、毎回十分な発音練習と予習をして授業に臨むことが求められる。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 基 礎 講 読 Chinese Literature (Introductory Reading)	2	教授 佐竹保子	4	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT213J																				
◆ 授業題目	現代文読解による、中国語実用文法研究																				
◆ 目的・概要	<p>【目的】 1. 中国現代文学の、分かりやすく短い部分を精読することを通して、現代中国語の文法について基礎的な事柄を確認し、理解する。 2. 発音のブラッシュアップをする。</p> <p>【概要】 中国語学習歴一年以上の受講生が、より高度な読解能力・運用能力を身に付けることを目標とします。そのためには、「語順の言語」と言われる中国語の、具体的な一文一文の構造を把握することが、必要です。文構造の把握は、現代文のみならず、古典文（いわゆる「漢文」）の理解にも、大いに役立ちます。授業では、テキストを輪番で音読し、読解します。毎回2回以上は当たるので、十分な予習が必要です。なお、この授業は、中国語の講読演習を兼ねています。</p>																				
◆ 到達目標	上記の【目的】に同じです。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 中国現代文読解(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 中国現代文読解(1)</td> <td>10. 中国現代文読解(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 中国現代文読解(2)</td> <td>11. 中国現代文読解(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 中国現代文読解(3)</td> <td>12. 中国現代文読解(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 中国現代文読解(4)</td> <td>13. 中国現代文読解(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 中国現代文読解(5)</td> <td>14. 中国現代文読解(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 中国現代文読解(6)</td> <td>15. 中国現代文読解(14)</td> </tr> <tr> <td>8. 中国現代文読解(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 中国現代文読解(8)	2. 中国現代文読解(1)	10. 中国現代文読解(9)	3. 中国現代文読解(2)	11. 中国現代文読解(10)	4. 中国現代文読解(3)	12. 中国現代文読解(11)	5. 中国現代文読解(4)	13. 中国現代文読解(12)	6. 中国現代文読解(5)	14. 中国現代文読解(13)	7. 中国現代文読解(6)	15. 中国現代文読解(14)	8. 中国現代文読解(7)	
1. オリエンテーション	9. 中国現代文読解(8)																				
2. 中国現代文読解(1)	10. 中国現代文読解(9)																				
3. 中国現代文読解(2)	11. 中国現代文読解(10)																				
4. 中国現代文読解(3)	12. 中国現代文読解(11)																				
5. 中国現代文読解(4)	13. 中国現代文読解(12)																				
6. 中国現代文読解(5)	14. 中国現代文読解(13)																				
7. 中国現代文読解(6)	15. 中国現代文読解(14)																				
8. 中国現代文読解(7)																					
◇ 成績評価の方法	出席 ただし発音・翻訳・応答などを含む（50%）筆記試験（50%）																				
◇ 教科書・参考書	教科書は、授業で指示します。参考書は、授業でそのつど紹介します。																				
◇ 授業時間外学習	テキストの予習＝発音と翻訳。テキストの復習＝主要文の暗記。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 語 基 礎 演 習 Chinese Literature (Introductory Seminar)	2	准教授 馬 暁 地	3	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT214J																				
◆ 授業題目	中級会話																				
◆ 目的・概要	毎週一つ的话题を決めて、早めに予習する上にそれをめぐって自由に話す。																				
◆ 到達目標	日常会話及び学問に関する簡単な会話の能力を養成する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 自己紹介</td> <td>9. 私の大学</td> </tr> <tr> <td>2. 家族</td> <td>10. 授業</td> </tr> <tr> <td>3. 友人</td> <td>11. 読書</td> </tr> <tr> <td>4. 趣味</td> <td>12. 漢詩</td> </tr> <tr> <td>5. 映画</td> <td>13. 食文化</td> </tr> <tr> <td>6. 旅行</td> <td>14. 季節</td> </tr> <tr> <td>7. 運動</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 夏休み</td> <td></td> </tr> </table>					1. 自己紹介	9. 私の大学	2. 家族	10. 授業	3. 友人	11. 読書	4. 趣味	12. 漢詩	5. 映画	13. 食文化	6. 旅行	14. 季節	7. 運動	15. まとめと試験	8. 夏休み	
1. 自己紹介	9. 私の大学																				
2. 家族	10. 授業																				
3. 友人	11. 読書																				
4. 趣味	12. 漢詩																				
5. 映画	13. 食文化																				
6. 旅行	14. 季節																				
7. 運動	15. まとめと試験																				
8. 夏休み																					
◇ 成績評価の方法	会話試験 (50%) 出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布																				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を重視する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 語 基 礎 演 習 Chinese Literature (Introductory Seminar)	2	准教授 馬 暁 地	4	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT214J																				
◆ 授業題目	中級会話																				
◆ 目的・概要	毎週一つ的话题を決めて、早めに予習する上にそれをめぐって自由に話す。																				
◆ 到達目標	日常会話及び学問に関する簡単な会話の能力を養成する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 自己紹介</td> <td>9. 私の大学</td> </tr> <tr> <td>2. 家族</td> <td>10. 授業</td> </tr> <tr> <td>3. 友人</td> <td>11. 読書</td> </tr> <tr> <td>4. 趣味</td> <td>12. 漢詩</td> </tr> <tr> <td>5. 映画</td> <td>13. 食文化</td> </tr> <tr> <td>6. 旅行</td> <td>14. 季節</td> </tr> <tr> <td>7. 運動</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 夏休み</td> <td></td> </tr> </table>					1. 自己紹介	9. 私の大学	2. 家族	10. 授業	3. 友人	11. 読書	4. 趣味	12. 漢詩	5. 映画	13. 食文化	6. 旅行	14. 季節	7. 運動	15. まとめと試験	8. 夏休み	
1. 自己紹介	9. 私の大学																				
2. 家族	10. 授業																				
3. 友人	11. 読書																				
4. 趣味	12. 漢詩																				
5. 映画	13. 食文化																				
6. 旅行	14. 季節																				
7. 運動	15. まとめと試験																				
8. 夏休み																					
◇ 成績評価の方法	会話試験 (50%) 出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布																				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を重視する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 各 論 Chinese Literature (Special Lecture)	2	准教授 馬 暁 地	5	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT303J																				
◆ 授業題目	唐詩と唐代社会（胡曾の《詠史詩》）																				
◆ 目的・概要	晩唐時代の詩人胡曾は上古から隋時代までの歴史を詠じる百五十首の詠史詩を作りました。これらの作品を一首一首精読し、詩の美しさを味わいながら、中国の歴史を勉強する。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。授業中に中国語で大量の詩文を読むので、受講生は二年以上中国語学習歴を有することが望ましい。																				
◆ 到達目標	唐詩の読解力を高める。特に中国語で唐詩及び文章を読む能力を養成すること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 中国古代の詠史詩について(1)</td> <td>9. 《詠史詩》精読1 《玉門関》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>2. 同上(2)</td> <td>10. 《詠史詩》精読2 《関西》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>3. 唐代の詠史詩(1)</td> <td>11. 精読3 《江夏》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>4. 同上(2)</td> <td>12. 精読4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)</td> <td>13. 精読5 《西園》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>6. 同上(2)</td> <td>14. 精読6 《官渡》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>7. 同上(3)</td> <td>15. 精読7 《赤壁》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>8. 同上(4)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 中国古代の詠史詩について(1)	9. 《詠史詩》精読1 《玉門関》詩の内容と芸術表現	2. 同上(2)	10. 《詠史詩》精読2 《関西》詩の内容と芸術表現	3. 唐代の詠史詩(1)	11. 精読3 《江夏》詩の内容と芸術表現	4. 同上(2)	12. 精読4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現	5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)	13. 精読5 《西園》詩の内容と芸術表現	6. 同上(2)	14. 精読6 《官渡》詩の内容と芸術表現	7. 同上(3)	15. 精読7 《赤壁》詩の内容と芸術表現	8. 同上(4)	
1. 中国古代の詠史詩について(1)	9. 《詠史詩》精読1 《玉門関》詩の内容と芸術表現																				
2. 同上(2)	10. 《詠史詩》精読2 《関西》詩の内容と芸術表現																				
3. 唐代の詠史詩(1)	11. 精読3 《江夏》詩の内容と芸術表現																				
4. 同上(2)	12. 精読4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現																				
5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)	13. 精読5 《西園》詩の内容と芸術表現																				
6. 同上(2)	14. 精読6 《官渡》詩の内容と芸術表現																				
7. 同上(3)	15. 精読7 《赤壁》詩の内容と芸術表現																				
8. 同上(4)																					
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布																				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を重視する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 各 論 Chinese Literature (Special Lecture)	2	准教授 馬 暁 地	6	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT303J																				
◆ 授業題目	唐詩と唐代社会（胡曾の《詠史詩》）																				
◆ 目的・概要	晩唐時代の詩人胡曾は上古から隋時代までの歴史を詠じる百五十首の詠史詩を作りました。これらの作品を一首一首精読し、詩の美しさを味わいながら、中国の歴史を勉強する。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。授業中に中国語で大量の詩文を読むので、受講生は二年以上中国語学習歴を有することが望ましい。																				
◆ 到達目標	唐詩の読解力を高める。特に中国語で唐詩及び文章を読む能力を養成すること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 中国古代の詠史詩について(1)</td> <td>9. 《詠史詩》精読1 《玉門関》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>2. 同上(2)</td> <td>10. 《詠史詩》精読2 《関西》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>3. 唐代の詠史詩(1)</td> <td>11. 精読3 《江夏》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>4. 同上(2)</td> <td>12. 精読4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)</td> <td>13. 精読5 《西園》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>6. 同上(2)</td> <td>14. 精読6 《官渡》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>7. 同上(3)</td> <td>15. 精読7 《赤壁》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>8. 同上(4)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 中国古代の詠史詩について(1)	9. 《詠史詩》精読1 《玉門関》詩の内容と芸術表現	2. 同上(2)	10. 《詠史詩》精読2 《関西》詩の内容と芸術表現	3. 唐代の詠史詩(1)	11. 精読3 《江夏》詩の内容と芸術表現	4. 同上(2)	12. 精読4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現	5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)	13. 精読5 《西園》詩の内容と芸術表現	6. 同上(2)	14. 精読6 《官渡》詩の内容と芸術表現	7. 同上(3)	15. 精読7 《赤壁》詩の内容と芸術表現	8. 同上(4)	
1. 中国古代の詠史詩について(1)	9. 《詠史詩》精読1 《玉門関》詩の内容と芸術表現																				
2. 同上(2)	10. 《詠史詩》精読2 《関西》詩の内容と芸術表現																				
3. 唐代の詠史詩(1)	11. 精読3 《江夏》詩の内容と芸術表現																				
4. 同上(2)	12. 精読4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現																				
5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)	13. 精読5 《西園》詩の内容と芸術表現																				
6. 同上(2)	14. 精読6 《官渡》詩の内容と芸術表現																				
7. 同上(3)	15. 精読7 《赤壁》詩の内容と芸術表現																				
8. 同上(4)																					
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布																				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を重視する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 各 論 Chinese Literature (Special Lecture)	2	非常勤 講師 大 西 克 也	集 中 (5)																		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT303J																				
◆ 授業題目	出土資料から見た古代中国の文字とことば																				
◆ 目的・概要	近年飛躍的に増加している出土資料は、分野を問わず古代中国研究のありかたに、ある意味では根本的な見直しを迫るものであると言える。同時代の人々が残した資料を直に観察できることの持つ意味は極めて大きい。本講義では、秦漢以前のいわゆる上古の時代における出土資料を把握したうえで、そこから見えてくる当時の文字や言葉の生態や変化の諸相を、時空や文化・社会の在り方との関係から概説する。																				
◆ 到達目標	出土資料研究の最前線で行われている内容に触れることにより、我々の文化と深い関係のある漢字・漢文を、その根源的性質に立ち返って理解することを目標とする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 漢字の歴史2：篆書と隸書</td> </tr> <tr> <td>2. 出土資料概論1：甲骨</td> <td>10. 漢字の歴史3：文字統一の意義</td> </tr> <tr> <td>3. 出土資料概論2：青銅器</td> <td>11. 漢字の歴史4：楷書の成立</td> </tr> <tr> <td>4. 出土資料概論3：石碑、貨幣、印章他</td> <td>12. 漢字以前の「漢字」</td> </tr> <tr> <td>5. 出土資料概論4：簡帛その1</td> <td>13. 出土資料と古代中国語1：テキストの変容と文法研究</td> </tr> <tr> <td>6. 出土資料概論5：簡帛その2</td> <td>14. 出土資料と古代中国語2：上古の方言</td> </tr> <tr> <td>7. 出土資料の解説</td> <td>15. 応用編：司馬遷『史記』太史公自序を読み返す</td> </tr> <tr> <td>8. 漢字の歴史1：甲骨文字～戦国文字</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 漢字の歴史2：篆書と隸書	2. 出土資料概論1：甲骨	10. 漢字の歴史3：文字統一の意義	3. 出土資料概論2：青銅器	11. 漢字の歴史4：楷書の成立	4. 出土資料概論3：石碑、貨幣、印章他	12. 漢字以前の「漢字」	5. 出土資料概論4：簡帛その1	13. 出土資料と古代中国語1：テキストの変容と文法研究	6. 出土資料概論5：簡帛その2	14. 出土資料と古代中国語2：上古の方言	7. 出土資料の解説	15. 応用編：司馬遷『史記』太史公自序を読み返す	8. 漢字の歴史1：甲骨文字～戦国文字	
1. ガイダンス	9. 漢字の歴史2：篆書と隸書																				
2. 出土資料概論1：甲骨	10. 漢字の歴史3：文字統一の意義																				
3. 出土資料概論2：青銅器	11. 漢字の歴史4：楷書の成立																				
4. 出土資料概論3：石碑、貨幣、印章他	12. 漢字以前の「漢字」																				
5. 出土資料概論4：簡帛その1	13. 出土資料と古代中国語1：テキストの変容と文法研究																				
6. 出土資料概論5：簡帛その2	14. 出土資料と古代中国語2：上古の方言																				
7. 出土資料の解説	15. 応用編：司馬遷『史記』太史公自序を読み返す																				
8. 漢字の歴史1：甲骨文字～戦国文字																					
◇ 成績評価の方法	出席及びレポート																				
◇ 教科書・参考書	教科書：なし。参考書：大西克也他『アジアと漢字文化』、放送大学教育振興会、2009年。中国出土資料学会編『地下からの贈り物 新出土資料が語るいにしへの中国』、東方書店、2014年。																				
◇ 授業時間外学習	特になし。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 演 習 Chinese Literature (Seminar)	2	准教授 馬 暁 地	5	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT318J																				
◆ 授業題目	中国当代文学研究																				
◆ 目的・概要	中国当代の有名な女性作家の代表作品を選んで精読し、面白い内容と新鮮な言語表現を味わう。今年叶広芩氏の京味小説《全家福》を読む。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。																				
◆ 到達目標	中国当代の文学作品の読解力を高めること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 中国当代女性作家と代表作品について</td> <td>9. 同上</td> </tr> <tr> <td>2. 同上</td> <td>10. 同上</td> </tr> <tr> <td>3. 叶広芩と彼女の《全家福》</td> <td>11. 同上</td> </tr> <tr> <td>4. 同上</td> <td>12. 同上</td> </tr> <tr> <td>5. 同上</td> <td>13. 同上</td> </tr> <tr> <td>6. 同上</td> <td>14. 同上</td> </tr> <tr> <td>7. 同上</td> <td>15. まとめと復習</td> </tr> <tr> <td>8. 《全家福》第十章の精読—その内容と言語表現</td> <td></td> </tr> </table>					1. 中国当代女性作家と代表作品について	9. 同上	2. 同上	10. 同上	3. 叶広芩と彼女の《全家福》	11. 同上	4. 同上	12. 同上	5. 同上	13. 同上	6. 同上	14. 同上	7. 同上	15. まとめと復習	8. 《全家福》第十章の精読—その内容と言語表現	
1. 中国当代女性作家と代表作品について	9. 同上																				
2. 同上	10. 同上																				
3. 叶広芩と彼女の《全家福》	11. 同上																				
4. 同上	12. 同上																				
5. 同上	13. 同上																				
6. 同上	14. 同上																				
7. 同上	15. まとめと復習																				
8. 《全家福》第十章の精読—その内容と言語表現																					
◇ 成績評価の方法	レポート（50%）、出席（50%）																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布																				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を重視すること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 演 習 Chinese Literature (Seminar)	2	准教授 馬 暁 地	6	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT318J																				
◆ 授業題目	中国当代文学研究																				
◆ 目的・概要	中国当代の有名な女性作家の代表作品を選んで精読し、面白い内容と新鮮な言語表現を味わう。今年叶 広苓氏の京味小説《全家福》を読む。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。																				
◆ 到達目標	中国当代の文学作品の読解力を高めること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 中国当代女性作家と代表作品について</td> <td>9. 同上</td> </tr> <tr> <td>2. 同上</td> <td>10. 同上</td> </tr> <tr> <td>3. 叶広苓と彼女の《全家福》</td> <td>11. 同上</td> </tr> <tr> <td>4. 同上</td> <td>12. 同上</td> </tr> <tr> <td>5. 同上</td> <td>13. 同上</td> </tr> <tr> <td>6. 同上</td> <td>14. 同上</td> </tr> <tr> <td>7. 同上</td> <td>15. まとめと復習</td> </tr> <tr> <td>8. 《全家福》第十章の精読—その内容と言語表現</td> <td></td> </tr> </table>					1. 中国当代女性作家と代表作品について	9. 同上	2. 同上	10. 同上	3. 叶広苓と彼女の《全家福》	11. 同上	4. 同上	12. 同上	5. 同上	13. 同上	6. 同上	14. 同上	7. 同上	15. まとめと復習	8. 《全家福》第十章の精読—その内容と言語表現	
1. 中国当代女性作家と代表作品について	9. 同上																				
2. 同上	10. 同上																				
3. 叶広苓と彼女の《全家福》	11. 同上																				
4. 同上	12. 同上																				
5. 同上	13. 同上																				
6. 同上	14. 同上																				
7. 同上	15. まとめと復習																				
8. 《全家福》第十章の精読—その内容と言語表現																					
◇ 成績評価の方法	レポート (50%)、出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布																				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を重視すること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 演 習 Chinese Literature (Seminar)	2	准教授 土 屋 育 子	5	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT318J																				
◆ 授業題目	中国戯曲研究																				
◆ 目的・概要	目的：中国の戯曲作品の読解を通して、工具書や原典に慣れ、中国文学の読解力を身につける。 概要：出席者全員による、担当者作成のレジュメに対する検討と議論を中心に進める。出席者は事前に 次回読解箇所について予習し、授業で議論に参加する。担当者は事前にレジュメ（本文・校勘・注・訳） を作成し、授業で発表、質疑応答を行う。担当者は担当箇所終了後、授業で指摘された箇所等について レジュメの補足・訂正を行い、修正したレジュメを学期末までに担当教員に提出する。																				
◆ 到達目標	(1)辞書やデータベース等の活用と、原典（影印本・標点本等）に慣れる。 (2)中国語で書かれたさまざまな文体の基礎的な読解力をつける。 (3)テキストクリティークの方法を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス 中国演劇史の概要、雑劇の説明</td> <td>9. 発表と質疑応答(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 発表と質疑応答(1)</td> <td>10. 発表と質疑応答(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と質疑応答(2)</td> <td>11. 発表と質疑応答(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と質疑応答(3)</td> <td>12. 発表と質疑応答(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と質疑応答(4)</td> <td>13. 発表と質疑応答(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と質疑応答(5)</td> <td>14. 発表と質疑応答(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と質疑応答(6)</td> <td>15. 発表と質疑応答(14)およびまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表と質疑応答(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス 中国演劇史の概要、雑劇の説明	9. 発表と質疑応答(8)	2. 発表と質疑応答(1)	10. 発表と質疑応答(9)	3. 発表と質疑応答(2)	11. 発表と質疑応答(10)	4. 発表と質疑応答(3)	12. 発表と質疑応答(11)	5. 発表と質疑応答(4)	13. 発表と質疑応答(12)	6. 発表と質疑応答(5)	14. 発表と質疑応答(13)	7. 発表と質疑応答(6)	15. 発表と質疑応答(14)およびまとめ	8. 発表と質疑応答(7)	
1. ガイダンス 中国演劇史の概要、雑劇の説明	9. 発表と質疑応答(8)																				
2. 発表と質疑応答(1)	10. 発表と質疑応答(9)																				
3. 発表と質疑応答(2)	11. 発表と質疑応答(10)																				
4. 発表と質疑応答(3)	12. 発表と質疑応答(11)																				
5. 発表と質疑応答(4)	13. 発表と質疑応答(12)																				
6. 発表と質疑応答(5)	14. 発表と質疑応答(13)																				
7. 発表と質疑応答(6)	15. 発表と質疑応答(14)およびまとめ																				
8. 発表と質疑応答(7)																					
◇ 成績評価の方法	出席：30% 授業への取り組み（発表・質疑等）：70%																				
◇ 教科書・参考書	テキストはプリント配布。工具書は以下のとおり。『漢語大詞典』、『中国語大辞典』、『近代漢語大詞典』、 『詩詞曲語辞源』、『元曲釈詞』。その他、授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	出席者は、毎回各自で上記工具書を使い、原典にあたる予習が必要である。特に、語句の意味、出典な どについては、授業中担当者以外にも質問することがある。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 演 習 Chinese Literature (Seminar)	2	准教授 土 屋 育 子	6	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT318J																				
◆ 授業題目	中国戯曲研究																				
◆ 目的・概要	目的：中国の戯曲作品の読解を通して、工具書や原典に慣れ、中国文学の読解力を身につける。 概要：出席者全員による、担当者作成のレジュメに対する検討と議論を中心に進める。出席者は事前に次回読解箇所について予習し、授業で議論に参加する。担当者は事前にレジュメ（本文・校勘・注・訳）を作成し、授業で発表、質疑応答を行う。担当者は担当箇所終了後、授業で指摘された箇所等についてレジュメの補足・訂正を行い、修正したレジュメを学期末までに担当教員に提出する。後期は前期の続きから始める。																				
◆ 到達目標	(1)辞書やデータベース等の活用と、原典（影印本・標点本等）に慣れる。 (2)中国語で書かれたさまざまな文体の基礎的な読解力をつける。 (3)テキストクリティックの方法を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 発表と質疑応答(1)</td> <td>9. 発表と質疑応答(9)</td> </tr> <tr> <td>2. 発表と質疑応答(2)</td> <td>10. 発表と質疑応答(10)</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と質疑応答(3)</td> <td>11. 発表と質疑応答(11)</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と質疑応答(4)</td> <td>12. 発表と質疑応答(12)</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と質疑応答(5)</td> <td>13. 発表と質疑応答(13)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と質疑応答(6)</td> <td>14. 発表と質疑応答(14)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と質疑応答(7)</td> <td>15. 発表と質疑応答(15)およびまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表と質疑応答(8)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 発表と質疑応答(1)	9. 発表と質疑応答(9)	2. 発表と質疑応答(2)	10. 発表と質疑応答(10)	3. 発表と質疑応答(3)	11. 発表と質疑応答(11)	4. 発表と質疑応答(4)	12. 発表と質疑応答(12)	5. 発表と質疑応答(5)	13. 発表と質疑応答(13)	6. 発表と質疑応答(6)	14. 発表と質疑応答(14)	7. 発表と質疑応答(7)	15. 発表と質疑応答(15)およびまとめ	8. 発表と質疑応答(8)	
1. 発表と質疑応答(1)	9. 発表と質疑応答(9)																				
2. 発表と質疑応答(2)	10. 発表と質疑応答(10)																				
3. 発表と質疑応答(3)	11. 発表と質疑応答(11)																				
4. 発表と質疑応答(4)	12. 発表と質疑応答(12)																				
5. 発表と質疑応答(5)	13. 発表と質疑応答(13)																				
6. 発表と質疑応答(6)	14. 発表と質疑応答(14)																				
7. 発表と質疑応答(7)	15. 発表と質疑応答(15)およびまとめ																				
8. 発表と質疑応答(8)																					
◇ 成績評価の方法	出席：30% 授業への取り組み（発表・質疑等）：70%																				
◇ 教科書・参考書	テキストはプリント配布。工具書は以下のとおり。『漢語大詞典』、『中国語大辞典』、『近代漢語大詞典』、『詩詞曲語辞源』、『元曲訳詞』。その他、授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	出席者は、毎回各自で上記工具書を使い、原典にあたる予習が必要である。特に、語句の意味、出典などについては、授業中担当者以外にも質問することがある。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 演 習 Chinese Literature (Seminar)	2	教授 佐 竹 保 子	5	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT318J																				
◆ 授業題目	漢魏六朝詩、及びその背後にある文献研究																				
◆ 目的・概要	【目的】(1)中国古典詩の基礎的伝統的読解方法を、体得する。(2)テキストの校勘方法を、学ぶ。(3)テキストの注に引用された多種多様な文献を認知して、目録学上に位置づける。(4)上記の文献に関わる東北大学図書館内の書籍を探索し、図書館の活用方法を知る。(5)上記の文献を、読みこなす。(6)テキストの注釈者と対話しつつ、古典詩を読解し、鑑賞する。 【概要】李善注『文選』卷二十二（六臣注本、六家注本も同じ。五臣注本では卷十一）の曹植「七哀詩一首」以後を、解説します。担当者は、レジュメを作り発表します。担当者以外の受講者は、テキストとレジュメを熟読して質疑応答します。																				
◆ 到達目標	上記の【目的】の(1)～(6)。および、(7)担当者は、受講生に分かりやすいレジュメと説明を準備する。(8)受講生は、担当者の説明を理解したうえで、自らの疑問点を洗い出し、それを的確に言語化する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。</td> <td>8. 『文選』 卷二十二読解(7)</td> </tr> <tr> <td>2. 『文選』 卷二十二読解(1)</td> <td>9. 『文選』 卷二十二読解(8)</td> </tr> <tr> <td>3. 『文選』 卷二十二読解(2)</td> <td>10. 『文選』 卷二十二読解(9)</td> </tr> <tr> <td>4. 『文選』 卷二十二読解(3)</td> <td>11. 『文選』 卷二十二読解(10)</td> </tr> <tr> <td>5. 『文選』 卷二十二読解(4)</td> <td>12. 『文選』 卷二十二読解(11)</td> </tr> <tr> <td>6. 『文選』 卷二十二読解(5)</td> <td>13. 『文選』 卷二十二読解(12)</td> </tr> <tr> <td>7. 『文選』 卷二十二読解(6)</td> <td>14. 『文選』 卷二十二読解(13)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 授業のまとめ。</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。	8. 『文選』 卷二十二読解(7)	2. 『文選』 卷二十二読解(1)	9. 『文選』 卷二十二読解(8)	3. 『文選』 卷二十二読解(2)	10. 『文選』 卷二十二読解(9)	4. 『文選』 卷二十二読解(3)	11. 『文選』 卷二十二読解(10)	5. 『文選』 卷二十二読解(4)	12. 『文選』 卷二十二読解(11)	6. 『文選』 卷二十二読解(5)	13. 『文選』 卷二十二読解(12)	7. 『文選』 卷二十二読解(6)	14. 『文選』 卷二十二読解(13)		15. 授業のまとめ。
1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。	8. 『文選』 卷二十二読解(7)																				
2. 『文選』 卷二十二読解(1)	9. 『文選』 卷二十二読解(8)																				
3. 『文選』 卷二十二読解(2)	10. 『文選』 卷二十二読解(9)																				
4. 『文選』 卷二十二読解(3)	11. 『文選』 卷二十二読解(10)																				
5. 『文選』 卷二十二読解(4)	12. 『文選』 卷二十二読解(11)																				
6. 『文選』 卷二十二読解(5)	13. 『文選』 卷二十二読解(12)																				
7. 『文選』 卷二十二読解(6)	14. 『文選』 卷二十二読解(13)																				
	15. 授業のまとめ。																				
◇ 成績評価の方法	授業中のプレゼンテーションに至るまでの調査とレジュメの作成の仕方 (33%)。授業中のプレゼンテーション (34%)。それに対する質疑応答 (33%)。																				
◇ 教科書・参考書	教科書はプリントを配布。参考書は多数あるので、オリエンテーション及びそれ以後の授業で説明します。																				
◇ 授業時間外学習	担当者は、授業中のプレゼンテーションに至るまでの調査と、プレゼンテーションの予行演習。担当者以外の受講生は、テキストの予習と、提出されたレジュメの熟読。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 文 学 演 習 Chinese Literature (Seminar)	2	教授 佐竹保子	6	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT318J																				
◆ 授業題目	漢魏六朝詩、及びその背後にある文献研究																				
◆ 目的・概要	<p>【目的】(1)中国古典詩の基礎的伝統的読解方法を、体得する。(2)テキストの校勘方法を、学ぶ。(3)テキストの注に引用された多種多様な文献を認知して、目録学上に位置づける。(4)上記の文献に関わる東北大学図書館内の書籍を探索し、図書館の活用方法を知る。(5)上記の文献を、読みこなす。(6)テキストの注釈者と対話しつつ、古典詩を読解し、鑑賞する。</p> <p>【概要】李善注『文選』卷二十二(六臣注本、六家注本も同じ。五臣注本では卷十一)の曹植「七哀詩一首」以後を、解説します。担当者は、レジюмеを作り発表します。担当者以外の受講者は、テキストとレジюмеを熟読して質疑応答します。</p>																				
◆ 到達目標	上記の【目的】の(1)~(6)。および、(7)担当者は、受講生に分かりやすいレジюмеと説明を準備する。(8)受講生は、担当者の説明を理解したうえで、自らの疑問点を洗い出し、それを的確に言語化する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。</td> <td>8. 『文選』 卷二十二読解(7)</td> </tr> <tr> <td>2. 『文選』 卷二十二読解(1)</td> <td>9. 『文選』 卷二十二読解(8)</td> </tr> <tr> <td>3. 『文選』 卷二十二読解(2)</td> <td>10. 『文選』 卷二十二読解(9)</td> </tr> <tr> <td>4. 『文選』 卷二十二読解(3)</td> <td>11. 『文選』 卷二十二読解(10)</td> </tr> <tr> <td>5. 『文選』 卷二十二読解(4)</td> <td>12. 『文選』 卷二十二読解(11)</td> </tr> <tr> <td>6. 『文選』 卷二十二読解(5)</td> <td>13. 『文選』 卷二十二読解(12)</td> </tr> <tr> <td>7. 『文選』 卷二十二読解(6)</td> <td>14. 『文選』 卷二十二読解(13)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 授業のまとめ。</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。	8. 『文選』 卷二十二読解(7)	2. 『文選』 卷二十二読解(1)	9. 『文選』 卷二十二読解(8)	3. 『文選』 卷二十二読解(2)	10. 『文選』 卷二十二読解(9)	4. 『文選』 卷二十二読解(3)	11. 『文選』 卷二十二読解(10)	5. 『文選』 卷二十二読解(4)	12. 『文選』 卷二十二読解(11)	6. 『文選』 卷二十二読解(5)	13. 『文選』 卷二十二読解(12)	7. 『文選』 卷二十二読解(6)	14. 『文選』 卷二十二読解(13)		15. 授業のまとめ。
1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。	8. 『文選』 卷二十二読解(7)																				
2. 『文選』 卷二十二読解(1)	9. 『文選』 卷二十二読解(8)																				
3. 『文選』 卷二十二読解(2)	10. 『文選』 卷二十二読解(9)																				
4. 『文選』 卷二十二読解(3)	11. 『文選』 卷二十二読解(10)																				
5. 『文選』 卷二十二読解(4)	12. 『文選』 卷二十二読解(11)																				
6. 『文選』 卷二十二読解(5)	13. 『文選』 卷二十二読解(12)																				
7. 『文選』 卷二十二読解(6)	14. 『文選』 卷二十二読解(13)																				
	15. 授業のまとめ。																				
◇ 成績評価の方法	授業中のプレゼンテーションに至るまでの調査とレジюмеの作成の仕方(33%)。授業中のプレゼンテーション(34%)。それに対する質疑応答(33%)。																				
◇ 教科書・参考書	教科書はプリントを配布。参考書は多数あるので、オリエンテーション及びそれ以後の授業で説明します。																				
◇ 授業時間外学習	担当者は、授業中のプレゼンテーションに至るまでの調査と、プレゼンテーションの予行演習。担当者以外の受講生は、テキストの予習と、提出されたレジюмеの熟読。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
中 国 思 想 概 論 Chinese Thought (General Lecture)	2	准教授 齋藤智寛	3	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI202J				
◆ 授業題目	隋唐五代思想史概説				
◆ 目的・概要	本講義は、三国時代以来の長い分裂期に終止符を打った隋の統一より、南北朝時代の思想・学術を統一発展させた初・盛唐、門閥貴族に代わって台頭した科挙官僚が文化の担い手となる中・晩唐を経て、再びの分裂により各地の地方政権下において唐代思想の総括が図られた五代十国期に至る約400年の思想史を概説する。一般には、当該時期は文学が最高潮を迎えたものの思想活動は形式化して低調であったとの理解が根強いと思われるが、日本語に翻訳された原典の解説を中心として、儒・仏・道の三教、そして史学思想や各種芸術理論に至るまでの豊穡な精神世界を紹介したい。				
◆ 到達目標	隋唐五代の諸思想について、その内容と思想史的意義を理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：中国隋唐五代史概観 2. 南北朝思想の統一(1)：吉蔵と三論宗の思想 3. 南北朝思想の統一(2)：智顓と天台宗の思想 4. 南北朝思想の統一(3)：「五経正義」と初唐の儒学 5. 初唐における道教と仏教の論争 6. 盛唐の道教(1)：玄宗の『老子』注 7. 盛唐の道教(2)：呉筠と司馬承禎の思想 8. 中唐士大夫の思想(1)：韓愈と李翱 9. 中唐士大夫の思想(2)：柳宗元と劉禹錫 10. 中唐の仏教：禪宗と圭峰宗密の思想 11. 晩唐士大夫の思想：杜牧、陸龜蒙、皮日休 12. 唐代の学術と文化：歴史学、文学研究、書論、画論 13. 中世思想の総括(1)：経書の出版と書院の活動 14. 中世思想の総括(2)：杜光庭と蜀の道教 15. 中世思想の総括(3)：永明延寿と呉越の仏教 				
◇ 成績評価の方法	講義期間中の小テストまたは小レポート (30%) 期末レポート (70%)				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は講義の中で紹介する。				
◇ 授業時間外学習	試験やレポートの準備以外にも、最低一冊は関連する書籍を読むこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
中 国 思 想 概 論 Chinese Thought (General Lecture)	2	教授 三浦秀一	4	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI202J				
◆ 授業題目	中国近代思想史概説				
◆ 目的・概要	中国が、数千年来の王朝体制の終焉を迎えた清末期から、新たな政治体制を創り上げるべく人々が多様な活動を始めた民国初期にいたる変動の時代において、知識人たちは如何なる思想をそれぞれに構想し、また実践にうつしたのだろうか。この時期の思想史上のトピックを個別に取り上げ、原典の翻訳文を参考にしながら、その思索をあとづける。取り上げるトピックとしては、清末期中体西用論、変法思想、革命思想、民国初期における国共合作の思想などである。				
◆ 到達目標	清末民国初期の思想的言動を、その時代背景とともに理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 清代後期の民衆叛乱 3. 中体西用論 1 4. 中体西用論 2 5. 変法運動 1 6. 変法運動 2 7. 変法運動 3 8. 清末の革命思想 1 9. 清末の革命思想 2 10. 清末の革命思想 3 11. 辛亥革命以後の論争 1 12. 辛亥革命以後の論争 2 13. 辛亥革命以後の論争 3 14. 国共合作への道 1 15. 国共合作への道 2・まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート数回 (100%)				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せずプリントを配布する。参考書は講義のなかで紹介する。				
◇ 授業時間外学習	レポート作成との関連から、講義時に配布して解説をおこなったプリントを読み直し、関連する概説書や研究書などによって、知識を補充するとともに、この時代の思想現象に関する理解を深めておく。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 思 想 基 礎 講 読 Chinese Thought (Introductory Reading)	2	教授 三 浦 秀 一	3	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI209J																				
◆ 授業題目	中国思想文献講読・初級1																				
◆ 目的・概要	思想的な内容をもつとともに、訓点などが施された中国古典のテキストに対し、受講者各自が訓読や現代語訳、解説をおこなう。そうした訓練を重ねるなかで、高校段階における「漢文訓読」のレベルを超え、古典に対する自在な読解が可能になるような基礎力を身につける。																				
◆ 到達目標	思想系の中国古典文に特徴的な語彙や語法を知るとともに、古典文全般に対する基礎的読解力を培う。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width: 50%;">9. 読解</td> </tr> <tr> <td>2. 読解</td> <td>10. 読解</td> </tr> <tr> <td>3. 読解</td> <td>11. 読解</td> </tr> <tr> <td>4. 読解</td> <td>12. 読解</td> </tr> <tr> <td>5. 読解</td> <td>13. 読解</td> </tr> <tr> <td>6. 読解</td> <td>14. 読解</td> </tr> <tr> <td>7. 読解</td> <td>15. 読解</td> </tr> <tr> <td>8. 読解</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 読解	2. 読解	10. 読解	3. 読解	11. 読解	4. 読解	12. 読解	5. 読解	13. 読解	6. 読解	14. 読解	7. 読解	15. 読解	8. 読解	
1. ガイダンス	9. 読解																				
2. 読解	10. 読解																				
3. 読解	11. 読解																				
4. 読解	12. 読解																				
5. 読解	13. 読解																				
6. 読解	14. 読解																				
7. 読解	15. 読解																				
8. 読解																					
◇ 成績評価の方法	受講態度 (100%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せずプリントを配布する。参考書は講義のなかで紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	テキストに対する予習を徹底しておこなう。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 思 想 基 礎 講 読 Chinese Thought (Introductory Reading)	2	教授 三 浦 秀 一	4	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI209J																				
◆ 授業題目	中国思想文献講読・初級2																				
◆ 目的・概要	思想的な内容をもつとともに、訓点などが施された中国古典のテキストに対し、受講者各自が訓読や現代語訳、解説をおこなう。そうした訓練を重ねるなかで、高校段階における「漢文訓読」のレベルを超え、古典に対する自在な読解が可能になるような基礎力を充実させる。																				
◆ 到達目標	思想系の中国古典文に特徴的な語彙や語法を習得するとともに、古典文全般に対する基礎的読解力を高める。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width: 50%;">9. 読解</td> </tr> <tr> <td>2. 読解</td> <td>10. 読解</td> </tr> <tr> <td>3. 読解</td> <td>11. 読解</td> </tr> <tr> <td>4. 読解</td> <td>12. 読解</td> </tr> <tr> <td>5. 読解</td> <td>13. 読解</td> </tr> <tr> <td>6. 読解</td> <td>14. 読解</td> </tr> <tr> <td>7. 読解</td> <td>15. 読解</td> </tr> <tr> <td>8. 読解</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 読解	2. 読解	10. 読解	3. 読解	11. 読解	4. 読解	12. 読解	5. 読解	13. 読解	6. 読解	14. 読解	7. 読解	15. 読解	8. 読解	
1. ガイダンス	9. 読解																				
2. 読解	10. 読解																				
3. 読解	11. 読解																				
4. 読解	12. 読解																				
5. 読解	13. 読解																				
6. 読解	14. 読解																				
7. 読解	15. 読解																				
8. 読解																					
◇ 成績評価の方法	受講態度 (100%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せずプリントを配布する。参考書は講義のなかで紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	テキストに対する予習を徹底しておこなう。																				
その他：前期との連続履修が望ましい。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 思 想 各 論 Chinese Thought (Special Lecture)	2	教授 三 浦 秀 一	5	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI302J																				
◆ 授業題目	明末清初思想史研究																				
◆ 目的・概要	十七世紀中国、すなわち明朝の万暦・天啓・崇禎から清朝の順治・康熙にいたる約100年間の思想情況について、近年における研究の焦点に着目しながら、新たに考察を加える。具体的には、明朝啓禎期に文壇で活躍した江西の人士である艾南英の言動に光を当て、その同調者や批判者の見解をも含めて、この時代の思潮の一端を解明したい。																				
◆ 到達目標	明末清初期の諸思想に関する研究史の概容、および関連文献の内容が、ひととおり理解できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 研究史の整理・分析 5</td> </tr> <tr> <td>2. 研究史の整理・分析 1</td> <td>10. 研究史の整理・分析 6</td> </tr> <tr> <td>3. 研究史の整理・分析 2</td> <td>11. 関連文献の読解 4</td> </tr> <tr> <td>4. 研究史の整理・分析 3</td> <td>12. 関連文献の読解 5</td> </tr> <tr> <td>5. 関連文献の読解 1</td> <td>13. 関連文献の読解 6</td> </tr> <tr> <td>6. 関連文献の読解 2</td> <td>14. 総括 1</td> </tr> <tr> <td>7. 関連文献の読解 3</td> <td>15. 総括 2</td> </tr> <tr> <td>8. 研究史の整理・分析 4</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 研究史の整理・分析 5	2. 研究史の整理・分析 1	10. 研究史の整理・分析 6	3. 研究史の整理・分析 2	11. 関連文献の読解 4	4. 研究史の整理・分析 3	12. 関連文献の読解 5	5. 関連文献の読解 1	13. 関連文献の読解 6	6. 関連文献の読解 2	14. 総括 1	7. 関連文献の読解 3	15. 総括 2	8. 研究史の整理・分析 4	
1. ガイダンス	9. 研究史の整理・分析 5																				
2. 研究史の整理・分析 1	10. 研究史の整理・分析 6																				
3. 研究史の整理・分析 2	11. 関連文献の読解 4																				
4. 研究史の整理・分析 3	12. 関連文献の読解 5																				
5. 関連文献の読解 1	13. 関連文献の読解 6																				
6. 関連文献の読解 2	14. 総括 1																				
7. 関連文献の読解 3	15. 総括 2																				
8. 研究史の整理・分析 4																					
◇ 成績評価の方法	レポート (75%)、受講態度 (25%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、プリントを配布する。参考書は講義のなかで紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	プリントとして配布された研究論文や原典などに対する予習と復習。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
中 国 思 想 各 論 Chinese Thought (Special Lecture)	2	准教授 齋 藤 智 寛	6	水	5																		
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI302J																						
◆ 授業題目	中国中世仏教思想の諸相																						
◆ 目的・概要	「在家」仏教に着目して中国中世の仏教思想史を考察する。ここで言う「在家」仏教とは、具足戒を受けた比丘・比丘尼以外の人々によって担われた仏教を指し、そこには士大夫のみならず、世俗生活を捨てたものの受戒しないままあるいは寺院に寄宿し、あるいは遊行するなどしていた修道者も含まれる。本講義では特に「居士」「白衣」などと呼ばれた後者の人々に注目し、彼らの菩薩戒運動や頓悟思想について考察したい。一学期の講義を通して、これら「在家」修道者が中国中世仏教、なかんづく禅思想の形成に果たした役割を明らかにしたい。																						
◆ 到達目標	中国仏教の担い手の複雑多様な構成を理解する																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 序論：『維摩経』と『梵網経』</td> <td>10. 盛唐の在家仏教(5)：『大乘開心顯性頓悟真宗論』と居士・李惠光</td> </tr> <tr> <td>2. 南北朝時代の在家仏教(1)：陶弘景と仏教</td> <td>11. 盛唐の在家仏教(6)：『大乘開心顯性頓悟真宗論』の思想</td> </tr> <tr> <td>3. 南北朝時代の在家仏教(2)：向居士と慧可一門</td> <td>12. 盛唐の在家仏教(7)：慧能と『六祖壇経』</td> </tr> <tr> <td>4. 南北朝時代の在家仏教(3)：石刻資料に現れた在家仏教</td> <td>13. 盛唐の在家仏教(8)：『六祖壇経』の思想</td> </tr> <tr> <td>5. 初唐の在家仏教：孫思邈と仏教</td> <td>14. 中唐の在家仏教：保唐寺無住と白衣居士・陳楚璋</td> </tr> <tr> <td>6. 盛唐の在家仏教(1)：李通玄の伝記</td> <td>15. 結論：在家仏教と禅思想</td> </tr> <tr> <td>7. 盛唐の在家仏教(2)：李通玄の思想</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 盛唐の在家仏教(3)：『頓悟真宗金剛般若修行達彼岸法門要決』と侯莫陳瑒居士</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 盛唐の在家仏教(4)：『頓悟真宗金剛般若修行達彼岸法門要決』の思想</td> <td></td> </tr> </table>					1. 序論：『維摩経』と『梵網経』	10. 盛唐の在家仏教(5)：『大乘開心顯性頓悟真宗論』と居士・李惠光	2. 南北朝時代の在家仏教(1)：陶弘景と仏教	11. 盛唐の在家仏教(6)：『大乘開心顯性頓悟真宗論』の思想	3. 南北朝時代の在家仏教(2)：向居士と慧可一門	12. 盛唐の在家仏教(7)：慧能と『六祖壇経』	4. 南北朝時代の在家仏教(3)：石刻資料に現れた在家仏教	13. 盛唐の在家仏教(8)：『六祖壇経』の思想	5. 初唐の在家仏教：孫思邈と仏教	14. 中唐の在家仏教：保唐寺無住と白衣居士・陳楚璋	6. 盛唐の在家仏教(1)：李通玄の伝記	15. 結論：在家仏教と禅思想	7. 盛唐の在家仏教(2)：李通玄の思想		8. 盛唐の在家仏教(3)：『頓悟真宗金剛般若修行達彼岸法門要決』と侯莫陳瑒居士		9. 盛唐の在家仏教(4)：『頓悟真宗金剛般若修行達彼岸法門要決』の思想	
1. 序論：『維摩経』と『梵網経』	10. 盛唐の在家仏教(5)：『大乘開心顯性頓悟真宗論』と居士・李惠光																						
2. 南北朝時代の在家仏教(1)：陶弘景と仏教	11. 盛唐の在家仏教(6)：『大乘開心顯性頓悟真宗論』の思想																						
3. 南北朝時代の在家仏教(2)：向居士と慧可一門	12. 盛唐の在家仏教(7)：慧能と『六祖壇経』																						
4. 南北朝時代の在家仏教(3)：石刻資料に現れた在家仏教	13. 盛唐の在家仏教(8)：『六祖壇経』の思想																						
5. 初唐の在家仏教：孫思邈と仏教	14. 中唐の在家仏教：保唐寺無住と白衣居士・陳楚璋																						
6. 盛唐の在家仏教(1)：李通玄の伝記	15. 結論：在家仏教と禅思想																						
7. 盛唐の在家仏教(2)：李通玄の思想																							
8. 盛唐の在家仏教(3)：『頓悟真宗金剛般若修行達彼岸法門要決』と侯莫陳瑒居士																							
9. 盛唐の在家仏教(4)：『頓悟真宗金剛般若修行達彼岸法門要決』の思想																							
◇ 成績評価の方法	レポート (100%)																						
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は授業の中で紹介する。																						
◇ 授業時間外学習	講義期間中に最低一冊は関連する書籍を読むこと。																						
その他：																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
中 国 思 想 各 論 Chinese Thought (Special Lecture)	2	非常勤 講師 伊 吹 敦	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMPHI302J 禅思想の成立とその反響 仏教は中国思想史における重要な構成要素の一つであるが、中でも禅宗は、最も中国化の進んだ仏教であり、広く社会に浸透するとともに、新儒教や新道教の成立にも大きな影響を与えた。禅宗は、仏教と異なり、いろいろな面で極めて特異であり、このような仏教が生まれた理由の解明は、中国思想史における仏教の意義や位置づけを明確化するうえで極めて重要な課題と言える。本授業では、禅宗成立の過程を解説するとともに、成立当初の思想を示す文献として神秀に帰されている『観心論』を取り上げて、その独自の思想を探るとともに、それへの反論として書かれた慈愍三蔵慧日の『浄土慈悲集』を取り上げて、禅宗の思想がいかに新しく、当時の人々に衝撃的であったかを明らかにし、禅思想の由来について考えてみたい。				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・初期の禅宗の基本思想について説明できる。 ・禅思想に初めて接した人々が受けた強い印象について説明できる。 ・中国仏教史における禅宗の位置、ならびに仏教界で禅宗が主流となった理由を説明できる。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国仏教史の概要と禅宗の占める位置、禅宗史における初期禅宗の占める位置 2. 菩提達磨と慧可に関する虚実 3. 東山法門の成立と拡大 4. 北宗と南宗、初期禅宗文献の諸相 5. 『観心論』の概要、北宗文献における『観心論』の位置 6. 『観心論』の重要部分の講読1 なぜ観心で解脱できるのか 7. 『観心論』の重要部分の講読2 真の三聚浄戒・六波羅蜜とは何か 8. 『観心論』の重要部分の講読3 真の功德とは何か 9. 『観心論』の重要部分の講読4 真の念仏とは何か 10. 慈愍三蔵と『浄土慈悲集』の概要 11. 『浄土慈悲集』の重要部分の講読1 述作の意図（大正蔵85、1236上-中） 12. 『浄土慈悲集』の重要部分の講読2 禅僧の主張の総括とそれへの批判（1236中-1237上） 13. 『浄土慈悲集』の重要部分の講読3 禅を無為と主張する禅僧の矛盾（1237上-中） 14. 『浄土慈悲集』の重要部分の講読4 禅僧の言動への批判（1237中-下） 15. 授業のまとめ 				
◇ 成績評価の方法	授業終了後にメールにてレポートを提出してもらい、それによって評価する。				
◇ 教科書・参考書	参考書：伊吹敦『禅の歴史』（法蔵館、2001年） 『観心論』『浄土慈悲集』についてはテキストを配布する。				
◇ 授業時間外学習	事前に配布するテキストに目を通して置く。授業内容を復習しておく。				
その他：予備知識がないことを前提に授業を行う。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
中 国 思 想 演 習 Chinese Thought (Seminar)	2	准教授 齋 藤 智 寛	5	水	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMPHI310J 南北朝思想原典読解 梁の劉勰または北齊の劉昼の撰とされる『劉子』から、何篇かを選んで輪読する。比較的簡潔な文の含意を的確にとらえた日本語訳を作成すると共に、それ以前に著された諸子の書物を繙いて注釈を作り、思想的伝統をふまえた読解を目指す。				
◆ 到達目標	句読点のほどこされていない中国古典文を読み、訳注を作成することができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『劉子』概説 2. 『劉子』輪読と討論1 3. 『劉子』輪読と討論2 4. 『劉子』輪読と討論3 5. 『劉子』輪読と討論4 6. 『劉子』輪読と討論5 7. 『劉子』輪読と討論6 8. 『劉子』輪読と討論7 9. 『劉子』輪読と討論8 10. 『劉子』輪読と討論9 11. 『劉子』輪読と討論10 12. 『劉子』輪読と討論11 13. 『劉子』輪読と討論12 14. 『劉子』輪読と討論13 15. 『劉子』輪読と総括 				
◇ 成績評価の方法	発表（70%） 予習と討論への参加状況（30%）				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、プリントを配布する。				
◇ 授業時間外学習	発表担当者は担当箇所の訳注を準備、当日の配布に備える。その他の受講者も担当者同様に下読みをし、関連資料を調べておくこと。授業時間中に問題になった箇所は、終了後すぐに調べ、解決しておく。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 思 想 演 習 Chinese Thought (Seminar)	2	教授 三 浦 秀 一	6	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI310J																				
◆ 授業題目	王夫之「周易内伝発例」精読																				
◆ 目的・概要	王夫之がその晩年（六十七歳時）にまとめた『周易』の注釈書である『周易内伝』の「発例」を輪読形式で読む。社会変動の激しい明末清初期を生きた思想家である王夫之は、清朝が中国全土を支配し始めた時期以降、『周易』の研鑽を開始し、その成果を『周易外伝』や『周易大象解』として発表した。『周易内伝』は、そうした王夫之による『周易』研鑽の集大成とも位置づけうる書物である。一方、当時の経学に目を転じるならば、宋儒の易学、なかでも朱熹らによって尊重された「河図」「洛書」に対し、それを実証的に批判する活動が力を持ち出しており、王夫之の易学もそうした流行に沿うものであるのだが、授業では、そうしたかれの理解内容を、原典に密着しながら明らかにする。																				
◆ 到達目標	いわゆる気の思想家として知られる王夫之の学問を、その「周易内伝発例」という原典に即して理解するとともに、易学一般に関する知識を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 第九条の読解と討議 2</td> </tr> <tr> <td>2. 第六条の読解と討議 1</td> <td>10. 第十条の読解と討議 1</td> </tr> <tr> <td>3. 第六条の読解と討議 2</td> <td>11. 第十条の読解と討議 2</td> </tr> <tr> <td>4. 第七条の読解と討議 1</td> <td>12. 第十一条の読解と討議 1</td> </tr> <tr> <td>5. 第七条の読解と討議 2</td> <td>13. 第十一条の読解と討議 2</td> </tr> <tr> <td>6. 第八条の読解と討議 1</td> <td>14. 第十二条の読解と討議 1</td> </tr> <tr> <td>7. 第八条の読解と討議 2</td> <td>15. 第十二条の読解と討議 2</td> </tr> <tr> <td>8. 第九条の読解と討議 1</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 第九条の読解と討議 2	2. 第六条の読解と討議 1	10. 第十条の読解と討議 1	3. 第六条の読解と討議 2	11. 第十条の読解と討議 2	4. 第七条の読解と討議 1	12. 第十一条の読解と討議 1	5. 第七条の読解と討議 2	13. 第十一条の読解と討議 2	6. 第八条の読解と討議 1	14. 第十二条の読解と討議 1	7. 第八条の読解と討議 2	15. 第十二条の読解と討議 2	8. 第九条の読解と討議 1	
1. ガイダンス	9. 第九条の読解と討議 2																				
2. 第六条の読解と討議 1	10. 第十条の読解と討議 1																				
3. 第六条の読解と討議 2	11. 第十条の読解と討議 2																				
4. 第七条の読解と討議 1	12. 第十一条の読解と討議 1																				
5. 第七条の読解と討議 2	13. 第十一条の読解と討議 2																				
6. 第八条の読解と討議 1	14. 第十二条の読解と討議 1																				
7. 第八条の読解と討議 2	15. 第十二条の読解と討議 2																				
8. 第九条の読解と討議 1																					
◇ 成績評価の方法	発表（75%）、受講態度（25%）																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せずプリントを配布する。参考書は講義のなかで紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	担当者は、発表の準備を入念におこなう。担当者以外の受講者も、担当者と同等もしくはそれ以上に、読解のための予習をおこなう。また、発表時に配布されたレジュメ等に関しては、それを改めて読み直し、次回以降の授業に活用する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 国 思 想 演 習 Chinese Thought (Seminar)	2	准教授 齋 藤 智 寛	5	金	1																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI310J																				
◆ 授業題目	『群書治要』選読																				
◆ 目的・概要	唐の魏徵らが編纂した『群書治要』から、漢文読解力の向上および中国思想史の学習・研究に資する部分を選んで輪読する。																				
◆ 到達目標	断句がほどこされた中国古典文を遅滞なく読み進めることができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 『群書治要』概説</td> <td>9. 『群書治要』輪読 8</td> </tr> <tr> <td>2. 『群書治要』輪読 1</td> <td>10. 『群書治要』輪読 9</td> </tr> <tr> <td>3. 『群書治要』輪読 2</td> <td>11. 『群書治要』輪読10</td> </tr> <tr> <td>4. 『群書治要』輪読 3</td> <td>12. 『群書治要』輪読11</td> </tr> <tr> <td>5. 『群書治要』輪読 4</td> <td>13. 『群書治要』輪読12</td> </tr> <tr> <td>6. 『群書治要』輪読 5</td> <td>14. 『群書治要』輪読13</td> </tr> <tr> <td>7. 『群書治要』輪読 6</td> <td>15. 『群書治要』輪読と総括</td> </tr> <tr> <td>8. 『群書治要』輪読 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. 『群書治要』概説	9. 『群書治要』輪読 8	2. 『群書治要』輪読 1	10. 『群書治要』輪読 9	3. 『群書治要』輪読 2	11. 『群書治要』輪読10	4. 『群書治要』輪読 3	12. 『群書治要』輪読11	5. 『群書治要』輪読 4	13. 『群書治要』輪読12	6. 『群書治要』輪読 5	14. 『群書治要』輪読13	7. 『群書治要』輪読 6	15. 『群書治要』輪読と総括	8. 『群書治要』輪読 7	
1. 『群書治要』概説	9. 『群書治要』輪読 8																				
2. 『群書治要』輪読 1	10. 『群書治要』輪読 9																				
3. 『群書治要』輪読 2	11. 『群書治要』輪読10																				
4. 『群書治要』輪読 3	12. 『群書治要』輪読11																				
5. 『群書治要』輪読 4	13. 『群書治要』輪読12																				
6. 『群書治要』輪読 5	14. 『群書治要』輪読13																				
7. 『群書治要』輪読 6	15. 『群書治要』輪読と総括																				
8. 『群書治要』輪読 7																					
◇ 成績評価の方法	予習と討論への参加状況（100%）																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、プリントを配布する。																				
◇ 授業時間外学習	予習をして臨むこと。受講者自身が所持する小型辞典のみならず、大小の漢和辞典、中中辞典を用いて本文の十全な理解を図ること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
中 国 思 想 演 習 C h i n e s e T h o u g h t (S e m i n a r)	2	准教授 齋 藤 智 寛	6	金	1		
<p>◆ 科目ナンバリング LHMPHI310J</p> <p>◆ 授業題目 中国思想関連英文読解</p> <p>◆ 目的・概要 英文によって書かれた中国思想に関する専門書もしくは入門書を輪読する。</p> <p>◆ 到達目標 論文を理解できるだけの英語力を涵養する。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中国思想関係英文資料を読むための工具書、参考書概説 2. 中国思想関連英文輪読1 3. 中国思想関連英文輪読2 4. 中国思想関連英文輪読3 5. 中国思想関連英文輪読4 6. 中国思想関連英文輪読5 7. 中国思想関連英文輪読6 8. 中国思想関連英文輪読7 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. 中国思想関連英文輪読8 10. 中国思想関連英文輪読9 11. 中国思想関連英文輪読10 12. 中国思想関連英文輪読11 13. 中国思想関連英文輪読12 14. 中国思想関連英文輪読13 15. 中国思想関連英文輪読と総括 </td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 予習と討論への参加状況 (100%)</p> <p>◇ 教科書・参考書 教科書は使用せず、プリントを配布する。</p> <p>◇ 授業時間外学習 予習をして出席すること。</p>						<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国思想関係英文資料を読むための工具書、参考書概説 2. 中国思想関連英文輪読1 3. 中国思想関連英文輪読2 4. 中国思想関連英文輪読3 5. 中国思想関連英文輪読4 6. 中国思想関連英文輪読5 7. 中国思想関連英文輪読6 8. 中国思想関連英文輪読7 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 中国思想関連英文輪読8 10. 中国思想関連英文輪読9 11. 中国思想関連英文輪読10 12. 中国思想関連英文輪読11 13. 中国思想関連英文輪読12 14. 中国思想関連英文輪読13 15. 中国思想関連英文輪読と総括
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国思想関係英文資料を読むための工具書、参考書概説 2. 中国思想関連英文輪読1 3. 中国思想関連英文輪読2 4. 中国思想関連英文輪読3 5. 中国思想関連英文輪読4 6. 中国思想関連英文輪読5 7. 中国思想関連英文輪読6 8. 中国思想関連英文輪読7 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 中国思想関連英文輪読8 10. 中国思想関連英文輪読9 11. 中国思想関連英文輪読10 12. 中国思想関連英文輪読11 13. 中国思想関連英文輪読12 14. 中国思想関連英文輪読13 15. 中国思想関連英文輪読と総括 						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 史 概 論 Oriental History (General Lecture)	2	准教授 大野晃嗣	3	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS203J																				
◆ 授業題目	中国史概説 I																				
◆ 目的・概要	中国明王朝（1368-1644）の成立から滅亡までの歴史を学びつつ、官僚制度、科挙制度といった中国史を理解する上で必要な項目について、漢文史料を使用しながら理解を深める。そしてそれらの制度が様々な形で現在にまで残っていることを知る。																				
◆ 到達目標	中国史を理解する上で必要な官僚制や政治制度についての基礎知識を得ながら、特に中国明王朝の歴史について理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 明代中期の歴史(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 中国に関する基礎知識</td> <td>10. 例の成立(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 明王朝成立史(1)</td> <td>11. 例の成立(2)</td> </tr> <tr> <td>4. 明王朝成立史(2)</td> <td>12. 明末政治史(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 明王朝成立史(3)</td> <td>13. 明末政治史(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 官僚制度-中央官制(1)</td> <td>14. 明清交替の歴史</td> </tr> <tr> <td>7. 官僚制度-地方官制(2)</td> <td>15. まとめと筆記試験</td> </tr> <tr> <td>8. 明代中期の歴史(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 明代中期の歴史(2)	2. 中国に関する基礎知識	10. 例の成立(1)	3. 明王朝成立史(1)	11. 例の成立(2)	4. 明王朝成立史(2)	12. 明末政治史(1)	5. 明王朝成立史(3)	13. 明末政治史(2)	6. 官僚制度-中央官制(1)	14. 明清交替の歴史	7. 官僚制度-地方官制(2)	15. まとめと筆記試験	8. 明代中期の歴史(1)	
1. ガイダンス	9. 明代中期の歴史(2)																				
2. 中国に関する基礎知識	10. 例の成立(1)																				
3. 明王朝成立史(1)	11. 例の成立(2)																				
4. 明王朝成立史(2)	12. 明末政治史(1)																				
5. 明王朝成立史(3)	13. 明末政治史(2)																				
6. 官僚制度-中央官制(1)	14. 明清交替の歴史																				
7. 官僚制度-地方官制(2)	15. まとめと筆記試験																				
8. 明代中期の歴史(1)																					
◇ 成績評価の方法	出席点（30％）と試験（70％）。																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	予習が必要なプリントについては随時宿題形式で指示を行う。また、続き物の講義であるので、復習を行い知識を確認し、次の授業に臨むこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 史 概 論 Oriental History (General Lecture)	2	准教授 大野晃嗣	4	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS203J																				
◆ 授業題目	中国史概説 II																				
◆ 目的・概要	中国清王朝（1616-11912644）の成立から滅亡までの歴史を学びつつ、官僚制度、科挙制度といった中国史を理解する上で必要な項目について、漢文史料を使用しながら理解を深める。そしてそれらの制度が様々な形で現在にまで残っていることを知る。																				
◆ 到達目標	中国史を理解する上で必要な官僚制や政治制度についての基礎知識を得ながら、特に中国清王朝の歴史について理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 清朝文書行政(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 中国に関する基礎知識</td> <td>10. 官僚制度-中央官制</td> </tr> <tr> <td>3. 清王朝成立史(1)</td> <td>11. 官僚制度-地方官制</td> </tr> <tr> <td>4. 清王朝成立史(2)</td> <td>12. 清朝後期史(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 康熙・雍正・乾隆時代史(1)</td> <td>13. 清朝後期史(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 康熙・雍正・乾隆時代史(2)</td> <td>14. 清朝の滅亡</td> </tr> <tr> <td>7. 康熙・雍正・乾隆時代史(3)</td> <td>15. まとめと筆記試験</td> </tr> <tr> <td>8. 清朝文書行政(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 清朝文書行政(2)	2. 中国に関する基礎知識	10. 官僚制度-中央官制	3. 清王朝成立史(1)	11. 官僚制度-地方官制	4. 清王朝成立史(2)	12. 清朝後期史(1)	5. 康熙・雍正・乾隆時代史(1)	13. 清朝後期史(2)	6. 康熙・雍正・乾隆時代史(2)	14. 清朝の滅亡	7. 康熙・雍正・乾隆時代史(3)	15. まとめと筆記試験	8. 清朝文書行政(1)	
1. ガイダンス	9. 清朝文書行政(2)																				
2. 中国に関する基礎知識	10. 官僚制度-中央官制																				
3. 清王朝成立史(1)	11. 官僚制度-地方官制																				
4. 清王朝成立史(2)	12. 清朝後期史(1)																				
5. 康熙・雍正・乾隆時代史(1)	13. 清朝後期史(2)																				
6. 康熙・雍正・乾隆時代史(2)	14. 清朝の滅亡																				
7. 康熙・雍正・乾隆時代史(3)	15. まとめと筆記試験																				
8. 清朝文書行政(1)																					
◇ 成績評価の方法	出席点（30％）と試験（70％）。																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	予習が必要なプリントについては随時宿題形式で指示を行う。また、続き物の講義であるので、復習を行い知識を確認し、次の授業に臨むこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 史 基 礎 講 読 Oriental History (Introductory Reading)	2	教授 川 合 安	3	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS209J				
◆ 授業題目	『資治通鑑』講読				
◆ 目的・概要	中国史研究（特に前近代）には、中国古典文（漢文）で書かれた史料（歴史資料）の読解が必須である。そのための基礎訓練の材料として『資治通鑑』隋紀（隋の時代について書かれた部分）を取り上げる。受講者は、六回目の授業以降、全員、当該部分の書き下し文と現代日本語訳を準備し、発表する。				
◆ 到達目標	中国古典文（漢文）で書かれた史料を、辞書を使いこなして読解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス（漢文訓読について、辞書について等） 2. 漢文語法概説 3. 『資治通鑑』について 4. 隋代史概説 5. 『資治通鑑』訓読、現代日本語訳の事例 6. 『資治通鑑』隋紀講読：漢和辞典を使って読んでみる(1) 7. 『資治通鑑』隋紀講読：漢和辞典を使って読んでみる(2) 8. 『資治通鑑』隋紀講読：漢和辞典を使って読んでみる(3) 9. 『資治通鑑』隋紀講読：『漢語大詞典』も使って読む(1) 10. 『資治通鑑』隋紀講読：『漢語大詞典』も使って読む(2) 11. 『資治通鑑』隋紀講読：『漢語大詞典』も使って読む(3) 12. 『資治通鑑』隋紀講読：関連史料も参照しつつ読む(1) 13. 『資治通鑑』隋紀講読：関連史料も参照しつつ読む(2) 14. 『資治通鑑』隋紀講読：関連史料も参照しつつ読む(3) 15. 授業の総括と試験				
◇ 成績評価の方法	出席（20%）、発表内容（30%）、試験（50%）				
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布する 参考書：小川環樹・西田太郎『漢文入門』（岩波書店「岩波全書」、1957年）。ほかは、授業中に紹介する。				
◇ 授業時間外学習	六回目の授業以降、毎回、授業前に当該箇所の書き下し文と現代日本語訳とを準備する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 史 基 礎 講 読 Oriental History (Introductory Reading)	2	教授 川 合 安	4	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS209J				
◆ 授業題目	『資治通鑑』講読				
◆ 目的・概要	『資治通鑑』の読解を継続し、中国古典文（漢文）で書かれた史料を読解するためには、漢和辞典のみに依存した予習では限界があることを体得する。二回目の授業以降、受講者は、全員、書き下し文と現代日本語訳を準備し発表する。あわせて、関連史料の調査結果についても報告する。				
◆ 到達目標	学部演習において最低限必要な、史料読解のための基礎学力を身につけ、手持ちの漢和辞典のみならず、東洋史研究室所蔵の大型辞書や関連の基本的史料などを自由自在に使いこなせるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス（東洋史研究室所蔵の大型辞書や基本史料などの確認） 2. 『資治通鑑』隋紀講読：関連史料（『隋書』、『旧唐書』、『新唐書』など）との字句の異同に注意しつつ読む(1) 3. 『資治通鑑』隋紀講読：関連史料との字句の異同に注意しつつ読む(2) 4. 『資治通鑑』隋紀講読：関連史料との字句の異同に注意しつつ読む(3) 5. 『資治通鑑』隋紀講読：当時の官制など関連事項を調べながら読む(1) 6. 『資治通鑑』隋紀講読：当時の官制など関連事項を調べながら読む(2) 7. 『資治通鑑』隋紀講読：当時の官制など関連事項を調べながら読む(3) 8. 『資治通鑑』隋紀講読：各史料間で記述が相違する場合、その理由について考えながら読む(1) 9. 『資治通鑑』隋紀講読：各史料間で記述が相違する場合、その理由について考えながら読む(2) 10. 『資治通鑑』隋紀講読：各史料間で記述が相違する場合、その理由について考えながら読む(3) 11. 『資治通鑑』隋紀講読：関係する研究論文等も参照しつつ読む(1) 12. 『資治通鑑』隋紀講読：関係する研究論文等も参照しつつ読む(2) 13. 『資治通鑑』隋紀講読：関係する研究論文等も参照しつつ読む(3) 14. 『資治通鑑』隋紀講読：関係する研究論文等も参照しつつ読む(4) 15. 総括				
◇ 成績評価の方法	出席（20%）、発表内容（80%）				
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布する 参考書：授業中に紹介する				
◇ 授業時間外学習	二回目の授業以降、受講者は授業前に、全員、書き下し文と現代日本語訳を準備するほか、東洋史研究室所蔵の関連史料についても調査しておく。				
その他：東洋史基礎講読（3セメスター）と連続して履修することが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 史 各 論 Oriental History (Special Lecture)	2	教 授 川 合 安	5	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS304J																				
◆ 授業題目	六朝時代の諸問題																				
◆ 目的・概要	中国の六朝時代（魏晋南北朝時代、220～589）は、秦漢古代帝国の崩壊をうけて、新たな国家秩序構築の模索が行われた時代であった。講義では、この時代につくられた様々な国家の形成過程や構造について分析し、当時を生きた人々の社会的活動や思想などの具体相を浮かび上がらせることを試みる。この混沌と模索の時代を生きた人々の営みについて、自分なりに考えつつ、中国史における六朝時代の意味について理解を深めることを目的とする。																				
◆ 到達目標	六朝時代に形成された諸国家それぞれの特質を理解し、興味をもった論点について、自分なりに調査して論じることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス、六朝時代の概略</td> <td>9. 五胡十六国(3)</td> </tr> <tr> <td>2. 秦漢古代帝国の概要</td> <td>10. 東晋の国家</td> </tr> <tr> <td>3. 三国・魏の国家</td> <td>11. 南朝の国家(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 三国・蜀の国家</td> <td>12. 南朝の国家(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 三国・呉の国家</td> <td>13. 北朝の国家(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 西晋の国家</td> <td>14. 北朝の国家(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 五胡十六国(1)</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. 五胡十六国(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス、六朝時代の概略	9. 五胡十六国(3)	2. 秦漢古代帝国の概要	10. 東晋の国家	3. 三国・魏の国家	11. 南朝の国家(1)	4. 三国・蜀の国家	12. 南朝の国家(2)	5. 三国・呉の国家	13. 北朝の国家(1)	6. 西晋の国家	14. 北朝の国家(2)	7. 五胡十六国(1)	15. 総括	8. 五胡十六国(2)	
1. ガイダンス、六朝時代の概略	9. 五胡十六国(3)																				
2. 秦漢古代帝国の概要	10. 東晋の国家																				
3. 三国・魏の国家	11. 南朝の国家(1)																				
4. 三国・蜀の国家	12. 南朝の国家(2)																				
5. 三国・呉の国家	13. 北朝の国家(1)																				
6. 西晋の国家	14. 北朝の国家(2)																				
7. 五胡十六国(1)	15. 総括																				
8. 五胡十六国(2)																					
◇ 成績評価の方法	出席（30%）、レポート（70%）																				
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布 参考書：川勝義雄『魏晋南北朝』（講談社「学術文庫」2003年）。ほかは、講義中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等を参照して調査し、それでもわからない点については、授業時間中でも質問を受け付ける。また、授業時間外に質問してもよい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 史 各 論 Oriental History (Special Lecture)	2	教 授 川 合 安	6	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS304J																				
◆ 授業題目	隋唐時代の諸問題																				
◆ 目的・概要	隋唐時代は、六朝時代の政治的分裂を克服して統一を回復した時代であったが、なお、多くの矛盾をかかえていた。このような隋唐時代の政治、制度等の諸問題について考察し、理解を深める。																				
◆ 到達目標	隋唐時代の政治、制度等の諸問題について、その概略を理解し、特に関心をもった問題について、関連の研究論文等の調査を進め、考察できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス、隋唐時代の概略</td> <td>9. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究(1)</td> </tr> <tr> <td>2. 隋王朝の政治</td> <td>10. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究(2)</td> </tr> <tr> <td>3. 唐の太宗の政治</td> <td>11. 唐代の税役制度(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 唐代前期の官制</td> <td>12. 唐代の税役制度(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 唐代前期の西北統治</td> <td>13. 唐代の銭貨政策</td> </tr> <tr> <td>6. 安史の乱</td> <td>14. 唐代の財政制度</td> </tr> <tr> <td>7. 唐と吐蕃・南詔</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. 唐代の均田制</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス、隋唐時代の概略	9. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究(1)	2. 隋王朝の政治	10. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究(2)	3. 唐の太宗の政治	11. 唐代の税役制度(1)	4. 唐代前期の官制	12. 唐代の税役制度(2)	5. 唐代前期の西北統治	13. 唐代の銭貨政策	6. 安史の乱	14. 唐代の財政制度	7. 唐と吐蕃・南詔	15. 総括	8. 唐代の均田制	
1. ガイダンス、隋唐時代の概略	9. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究(1)																				
2. 隋王朝の政治	10. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究(2)																				
3. 唐の太宗の政治	11. 唐代の税役制度(1)																				
4. 唐代前期の官制	12. 唐代の税役制度(2)																				
5. 唐代前期の西北統治	13. 唐代の銭貨政策																				
6. 安史の乱	14. 唐代の財政制度																				
7. 唐と吐蕃・南詔	15. 総括																				
8. 唐代の均田制																					
◇ 成績評価の方法	出席（30%）、レポート（70%）																				
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布する。 参考書：布目潮瀨・栗原益男『隋唐帝国』（講談社「学術文庫」、1997年）。その他、授業中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	授業で配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等で独力で調査し解決することを試み、それでも不明な点は、随時質問する。授業時間中に質問してもよい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 史 各 論 Oriental History (Special Lecture)	2	准教授 大野晃嗣	5	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS304J																				
◆ 授業題目	明清時代の諸問題Ⅰ																				
◆ 目的・概要	明清時代の政治と官僚制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。																				
◆ 到達目標	Benjamin A.Elman 著 “A Cultural History of Civil Examinations in Late Imperial China” を題材に、中国明清時代の官僚機構と政治体制について基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳をしながら授業を進めるため、必要に応じて事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス—史料の背景と工具書—</td> <td>9. 明清時代の諸問題Ⅰ-(8)及び行政区画の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>2. 明清時代の諸問題Ⅰ-(1)及び行政制度の基礎知識</td> <td>10. 明清時代の諸問題Ⅰ-(9)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>3. 明清時代の諸問題Ⅰ-(2)及び行政制度の基礎知識</td> <td>11. 明清時代の諸問題Ⅰ-(10)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>4. 明清時代の諸問題Ⅰ-(3)及び科挙制度の基礎知識</td> <td>12. 明清時代の諸問題Ⅰ-(11)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>5. 明清時代の諸問題Ⅰ-(4)及び科挙制度の基礎知識</td> <td>13. 明清時代の諸問題Ⅰ-(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 明清時代の諸問題Ⅰ-(5)及び科挙制度の基礎知識</td> <td>14. 明清時代の諸問題Ⅰ-(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 明清時代の諸問題Ⅰ-(6)及び行政区画の基礎知識</td> <td>15. 明清時代の諸問題Ⅰ-(14)及びまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 明清時代の諸問題Ⅰ-(7)及び行政区画の基礎知識</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス—史料の背景と工具書—	9. 明清時代の諸問題Ⅰ-(8)及び行政区画の基礎知識	2. 明清時代の諸問題Ⅰ-(1)及び行政制度の基礎知識	10. 明清時代の諸問題Ⅰ-(9)及び人事制度の基礎知識	3. 明清時代の諸問題Ⅰ-(2)及び行政制度の基礎知識	11. 明清時代の諸問題Ⅰ-(10)及び人事制度の基礎知識	4. 明清時代の諸問題Ⅰ-(3)及び科挙制度の基礎知識	12. 明清時代の諸問題Ⅰ-(11)及び人事制度の基礎知識	5. 明清時代の諸問題Ⅰ-(4)及び科挙制度の基礎知識	13. 明清時代の諸問題Ⅰ-(12)	6. 明清時代の諸問題Ⅰ-(5)及び科挙制度の基礎知識	14. 明清時代の諸問題Ⅰ-(13)	7. 明清時代の諸問題Ⅰ-(6)及び行政区画の基礎知識	15. 明清時代の諸問題Ⅰ-(14)及びまとめ	8. 明清時代の諸問題Ⅰ-(7)及び行政区画の基礎知識	
1. ガイダンス—史料の背景と工具書—	9. 明清時代の諸問題Ⅰ-(8)及び行政区画の基礎知識																				
2. 明清時代の諸問題Ⅰ-(1)及び行政制度の基礎知識	10. 明清時代の諸問題Ⅰ-(9)及び人事制度の基礎知識																				
3. 明清時代の諸問題Ⅰ-(2)及び行政制度の基礎知識	11. 明清時代の諸問題Ⅰ-(10)及び人事制度の基礎知識																				
4. 明清時代の諸問題Ⅰ-(3)及び科挙制度の基礎知識	12. 明清時代の諸問題Ⅰ-(11)及び人事制度の基礎知識																				
5. 明清時代の諸問題Ⅰ-(4)及び科挙制度の基礎知識	13. 明清時代の諸問題Ⅰ-(12)																				
6. 明清時代の諸問題Ⅰ-(5)及び科挙制度の基礎知識	14. 明清時代の諸問題Ⅰ-(13)																				
7. 明清時代の諸問題Ⅰ-(6)及び行政区画の基礎知識	15. 明清時代の諸問題Ⅰ-(14)及びまとめ																				
8. 明清時代の諸問題Ⅰ-(7)及び行政区画の基礎知識																					
◇ 成績評価の方法	レポート。																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 史 各 論 Oriental History (Special Lecture)	2	准教授 大野晃嗣	6	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS304J																				
◆ 授業題目	明清時代の諸問題Ⅱ																				
◆ 目的・概要	明清時代の政治と官僚制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。																				
◆ 到達目標	前期に引き続き、Benjamin A.Elman 著 “A Cultural History of Civil Examinations in Late Imperial China” を題材に、中国明清時代の官僚機構と政治体制について基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳をしながら授業を進めるため、必要に応じて事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス—史料の背景と工具書—</td> <td>9. 明清時代の諸問題Ⅱ-(8)及び行政区画の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>2. 明清時代の諸問題Ⅱ-(1)及び行政制度の基礎知識</td> <td>10. 明清時代の諸問題Ⅱ-(9)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>3. 明清時代の諸問題Ⅱ-(2)及び行政制度の基礎知識</td> <td>11. 明清時代の諸問題Ⅱ-(10)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>4. 明清時代の諸問題Ⅱ-(3)及び科挙制度の基礎知識</td> <td>12. 明清時代の諸問題Ⅱ-(11)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>5. 明清時代の諸問題Ⅱ-(4)及び科挙制度の基礎知識</td> <td>13. 明清時代の諸問題Ⅱ-(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 明清時代の諸問題Ⅱ-(5)及び科挙制度の基礎知識</td> <td>14. 明清時代の諸問題Ⅱ-(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 明清時代の諸問題Ⅱ-(6)及び行政区画の基礎知識</td> <td>15. 明清時代の諸問題Ⅱ-(14)及びまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 明清時代の諸問題Ⅱ-(7)及び行政区画の基礎知識</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス—史料の背景と工具書—	9. 明清時代の諸問題Ⅱ-(8)及び行政区画の基礎知識	2. 明清時代の諸問題Ⅱ-(1)及び行政制度の基礎知識	10. 明清時代の諸問題Ⅱ-(9)及び人事制度の基礎知識	3. 明清時代の諸問題Ⅱ-(2)及び行政制度の基礎知識	11. 明清時代の諸問題Ⅱ-(10)及び人事制度の基礎知識	4. 明清時代の諸問題Ⅱ-(3)及び科挙制度の基礎知識	12. 明清時代の諸問題Ⅱ-(11)及び人事制度の基礎知識	5. 明清時代の諸問題Ⅱ-(4)及び科挙制度の基礎知識	13. 明清時代の諸問題Ⅱ-(12)	6. 明清時代の諸問題Ⅱ-(5)及び科挙制度の基礎知識	14. 明清時代の諸問題Ⅱ-(13)	7. 明清時代の諸問題Ⅱ-(6)及び行政区画の基礎知識	15. 明清時代の諸問題Ⅱ-(14)及びまとめ	8. 明清時代の諸問題Ⅱ-(7)及び行政区画の基礎知識	
1. ガイダンス—史料の背景と工具書—	9. 明清時代の諸問題Ⅱ-(8)及び行政区画の基礎知識																				
2. 明清時代の諸問題Ⅱ-(1)及び行政制度の基礎知識	10. 明清時代の諸問題Ⅱ-(9)及び人事制度の基礎知識																				
3. 明清時代の諸問題Ⅱ-(2)及び行政制度の基礎知識	11. 明清時代の諸問題Ⅱ-(10)及び人事制度の基礎知識																				
4. 明清時代の諸問題Ⅱ-(3)及び科挙制度の基礎知識	12. 明清時代の諸問題Ⅱ-(11)及び人事制度の基礎知識																				
5. 明清時代の諸問題Ⅱ-(4)及び科挙制度の基礎知識	13. 明清時代の諸問題Ⅱ-(12)																				
6. 明清時代の諸問題Ⅱ-(5)及び科挙制度の基礎知識	14. 明清時代の諸問題Ⅱ-(13)																				
7. 明清時代の諸問題Ⅱ-(6)及び行政区画の基礎知識	15. 明清時代の諸問題Ⅱ-(14)及びまとめ																				
8. 明清時代の諸問題Ⅱ-(7)及び行政区画の基礎知識																					
◇ 成績評価の方法	レポート。																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 史 各 論 Oriental History (Special Lecture)	2	非常勤 講師 宮 澤 知 之	集 中 (5)																		
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS304J																				
◆ 授業題目	唐明間、財政構造の特質と変遷																				
◆ 目的・概要	中国の8世紀から16世紀における国家財政を、主として宋元を中心に前後の時代をあわせて、体系的に学ぶ。財政と社会・経済の相互関係に着目することにより、財政が社会・経済に能動的に作用した面も現れることについて、理解を深める。																				
◆ 到達目標	中国専制国家がなぜ2000年以上にわたって存続したのか。専制国家が社会を維持した仕組みの一端を唐明間について理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 専制国家財政の意義</td> <td>9. 財政貨幣の特質</td> </tr> <tr> <td>2. 論点の設定—唐宋財政の概要</td> <td>10. 元朝財政の特徴</td> </tr> <tr> <td>3. 唐前半期の財政と8世紀の諸改革</td> <td>11. 元朝の税と役</td> </tr> <tr> <td>4. 両税法の展開と貨幣</td> <td>12. 物流の編成—海運と漕運</td> </tr> <tr> <td>5. 宋代財政—税と役</td> <td>13. 明代の実物財政</td> </tr> <tr> <td>6. 宋代財政—正税と行役</td> <td>14. 銀財政化</td> </tr> <tr> <td>7. 両宋の財政的物流と体制内分配</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. 財政貨幣の転換</td> <td></td> </tr> </table>					1. 専制国家財政の意義	9. 財政貨幣の特質	2. 論点の設定—唐宋財政の概要	10. 元朝財政の特徴	3. 唐前半期の財政と8世紀の諸改革	11. 元朝の税と役	4. 両税法の展開と貨幣	12. 物流の編成—海運と漕運	5. 宋代財政—税と役	13. 明代の実物財政	6. 宋代財政—正税と行役	14. 銀財政化	7. 両宋の財政的物流と体制内分配	15. 総括	8. 財政貨幣の転換	
1. 専制国家財政の意義	9. 財政貨幣の特質																				
2. 論点の設定—唐宋財政の概要	10. 元朝財政の特徴																				
3. 唐前半期の財政と8世紀の諸改革	11. 元朝の税と役																				
4. 両税法の展開と貨幣	12. 物流の編成—海運と漕運																				
5. 宋代財政—税と役	13. 明代の実物財政																				
6. 宋代財政—正税と行役	14. 銀財政化																				
7. 両宋の財政的物流と体制内分配	15. 総括																				
8. 財政貨幣の転換																					
◇ 成績評価の方法	レポート (100%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布 参考書：講義中に紹介する																				
◇ 授業時間外学習	講義中に紹介する研究を参照して、講義内容について理解を深めることがのぞましい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 史 各 論 Oriental History (Special Lecture)	2	非常勤 講師 古 松 崇 志	集 中 (6)																		
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS304J																				
◆ 授業題目	多極化時代のユーラシア東方史 (10～13世紀)																				
◆ 目的・概要	ユーラシア東方の歴史は、中央ユーラシア東部の草原地帯の遊牧民と中国本土の農耕民とが相互にさまざまな関係を保ちながら展開してきた。本講義では、とくに10世紀の唐朝解体前後から13世紀のモンゴル帝国の統合にいたるまでの多極化の時代を取り上げ、遊牧王朝と中国王朝とのあいだの相関関係をふまえて、複数の王朝がおりなす国際関係におもに着眼し、この時代のユーラシア東方史・中国史の特質について考えてみたい。																				
◆ 到達目標	日本とは異なり、ユーラシア大陸が多様な民族・文化の行き交う世界であることを理解し、台頭いちじるしい中国など現代の東アジアにかかわる諸問題を多面的にとらえるための知識や考え方を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス：ユーラシア東方史の基本構図</td> <td>9. 多極化時代の天下観・世界観</td> </tr> <tr> <td>2. 10～13世紀ユーラシア東方史の流れと研究史の概観</td> <td>10. 宋代の地図と天下観</td> </tr> <tr> <td>3. 契丹・宋間の澶淵体制</td> <td>11. 高麗・西夏からみた多極化時代のユーラシア東方</td> </tr> <tr> <td>4. 金の覇権と澶淵体制の影響</td> <td>12. 契丹史研究の新展開(1)契丹文字資料の出土と研究</td> </tr> <tr> <td>5. 多国体制における国境</td> <td>13. 契丹史研究の新展開(2)慶陵と契丹皇帝の喪葬儀礼</td> </tr> <tr> <td>6. 王朝間の交渉と交流：外交文書</td> <td>14. 契丹史研究の新展開(3)仏教文化の興隆</td> </tr> <tr> <td>7. 王朝間の交渉と交流：使節の往還と儀礼(1)</td> <td>15. まとめ：多国体制からモンゴルによる大統合へ</td> </tr> <tr> <td>8. 王朝間の交渉と交流：使節の往還と儀礼(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス：ユーラシア東方史の基本構図	9. 多極化時代の天下観・世界観	2. 10～13世紀ユーラシア東方史の流れと研究史の概観	10. 宋代の地図と天下観	3. 契丹・宋間の澶淵体制	11. 高麗・西夏からみた多極化時代のユーラシア東方	4. 金の覇権と澶淵体制の影響	12. 契丹史研究の新展開(1)契丹文字資料の出土と研究	5. 多国体制における国境	13. 契丹史研究の新展開(2)慶陵と契丹皇帝の喪葬儀礼	6. 王朝間の交渉と交流：外交文書	14. 契丹史研究の新展開(3)仏教文化の興隆	7. 王朝間の交渉と交流：使節の往還と儀礼(1)	15. まとめ：多国体制からモンゴルによる大統合へ	8. 王朝間の交渉と交流：使節の往還と儀礼(2)	
1. ガイダンス：ユーラシア東方史の基本構図	9. 多極化時代の天下観・世界観																				
2. 10～13世紀ユーラシア東方史の流れと研究史の概観	10. 宋代の地図と天下観																				
3. 契丹・宋間の澶淵体制	11. 高麗・西夏からみた多極化時代のユーラシア東方																				
4. 金の覇権と澶淵体制の影響	12. 契丹史研究の新展開(1)契丹文字資料の出土と研究																				
5. 多国体制における国境	13. 契丹史研究の新展開(2)慶陵と契丹皇帝の喪葬儀礼																				
6. 王朝間の交渉と交流：外交文書	14. 契丹史研究の新展開(3)仏教文化の興隆																				
7. 王朝間の交渉と交流：使節の往還と儀礼(1)	15. まとめ：多国体制からモンゴルによる大統合へ																				
8. 王朝間の交渉と交流：使節の往還と儀礼(2)																					
◇ 成績評価の方法	レポート80%、平常点 (小レポートやコメント・シートなど) 20%																				
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布 参考書：授業時に適宜紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	配布資料や紹介した文献を読みこんで、授業内容の理解に努めること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																				
東 洋 史 演 習 Oriental History (Seminar)	2	教授 川 合 安	5	金	4																				
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS311J																								
◆ 授業題目	『晋書』載記の研究 I																								
◆ 目的・概要	五胡十六国時代の漢文史料、『晋書』載記を読む。受講者は、3回目の授業以降、該当部分の書き下し文と現代日本語訳を準備してくるほか、『晋書』載記以外の関連史料も参照して、『晋書』載記の記述と比較検討し、その結果を発表する。このような作業を通じて、漢文史料読解の手続きを体得し、漢文読解能力の向上を目指す。																								
◆ 到達目標	中国古代・中世の漢文史料を読むための基本的手続きを理解できるようになる。																								
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス (授業の概略、『晋書』載記とは)</td> <td>11. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む(1)</td> </tr> <tr> <td>2. 五胡十六国時代の概略</td> <td>12. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む(2)</td> </tr> <tr> <td>3. 『晋書』載記を、辞書等を使って読む(1)</td> <td>13. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む(3)</td> </tr> <tr> <td>4. 『晋書』載記を、辞書等を使って読む(2)</td> <td>14. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む(4)</td> </tr> <tr> <td>5. 『晋書』載記を、辞書等を使って読む(3)</td> <td>15. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む(5)</td> </tr> <tr> <td>6. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む(4)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む(5)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス (授業の概略、『晋書』載記とは)	11. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む(1)	2. 五胡十六国時代の概略	12. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む(2)	3. 『晋書』載記を、辞書等を使って読む(1)	13. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む(3)	4. 『晋書』載記を、辞書等を使って読む(2)	14. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む(4)	5. 『晋書』載記を、辞書等を使って読む(3)	15. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む(5)	6. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む(1)		7. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む(2)		8. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む(3)		9. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む(4)		10. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む(5)	
1. ガイダンス (授業の概略、『晋書』載記とは)	11. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む(1)																								
2. 五胡十六国時代の概略	12. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む(2)																								
3. 『晋書』載記を、辞書等を使って読む(1)	13. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む(3)																								
4. 『晋書』載記を、辞書等を使って読む(2)	14. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む(4)																								
5. 『晋書』載記を、辞書等を使って読む(3)	15. 『晋書』載記を、関連の研究論文等も調査しながら読む(5)																								
6. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む(1)																									
7. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む(2)																									
8. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む(3)																									
9. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む(4)																									
10. 『晋書』載記を、関連史料と比較しながら読む(5)																									
◇ 成績評価の方法	出席 (20%)、発表内容 (80%)																								
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布する。 参考書：三崎良章『五胡十六国【新訂版】』(東方書店「東方選書」2012年)。その他、授業中に紹介する。																								
◇ 授業時間外学習	3回目の授業以降、事前に、該当部分の書き下し文と現代日本語訳を準備してくるほか、『晋書』載記以外の関連史料も参照して、『晋書』載記の記述と比較検討する。																								
その他：東洋史基礎講読4単位を既に履修していることが望ましい。																									

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
東 洋 史 演 習 Oriental History (Seminar)	2	教授 川 合 安	6	金	4																		
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS311J																						
◆ 授業題目	『晋書』載記の研究 II																						
◆ 目的・概要	『晋書』載記の研究 I の作業を継続する。II では、当該部分の内容に関連する研究論文の調査の比重を高め、先行研究の成果を、現代日本語訳に反映させることを徹底するとともに、必要に応じて先行研究批判も行う。これらの作業を通じて、漢文読解力の一層の向上と、中国古代中世史研究の具体的方法の習得を目指す。																						
◆ 到達目標	漢文読解力を向上させ、中国古代中世史の研究方法を身に着ける。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス (授業の概要)</td> <td>10. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む(6)</td> </tr> <tr> <td>2. 『晋書』載記を、関連研究論文を参照しながら読む(1)</td> <td>11. 『晋書』載記の記述に基づいて、先行研究の見解を批判する(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 『晋書』載記を、関連研究論文を参照しながら読む(2)</td> <td>12. 『晋書』載記の記述に基づいて、先行研究の見解を批判する(2)</td> </tr> <tr> <td>4. 『晋書』載記を、関連研究論文を参照しながら読む(3)</td> <td>13. 『晋書』載記の記述に基づいて、先行研究の見解を批判する(3)</td> </tr> <tr> <td>5. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む(1)</td> <td>14. 『晋書』載記の記述に基づいて、新たな見解を提起する(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む(2)</td> <td>15. 『晋書』載記の記述に基づいて、新たな見解を提起する(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む(4)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む(5)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス (授業の概要)	10. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む(6)	2. 『晋書』載記を、関連研究論文を参照しながら読む(1)	11. 『晋書』載記の記述に基づいて、先行研究の見解を批判する(1)	3. 『晋書』載記を、関連研究論文を参照しながら読む(2)	12. 『晋書』載記の記述に基づいて、先行研究の見解を批判する(2)	4. 『晋書』載記を、関連研究論文を参照しながら読む(3)	13. 『晋書』載記の記述に基づいて、先行研究の見解を批判する(3)	5. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む(1)	14. 『晋書』載記の記述に基づいて、新たな見解を提起する(1)	6. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む(2)	15. 『晋書』載記の記述に基づいて、新たな見解を提起する(2)	7. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む(3)		8. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む(4)		9. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む(5)	
1. ガイダンス (授業の概要)	10. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む(6)																						
2. 『晋書』載記を、関連研究論文を参照しながら読む(1)	11. 『晋書』載記の記述に基づいて、先行研究の見解を批判する(1)																						
3. 『晋書』載記を、関連研究論文を参照しながら読む(2)	12. 『晋書』載記の記述に基づいて、先行研究の見解を批判する(2)																						
4. 『晋書』載記を、関連研究論文を参照しながら読む(3)	13. 『晋書』載記の記述に基づいて、先行研究の見解を批判する(3)																						
5. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む(1)	14. 『晋書』載記の記述に基づいて、新たな見解を提起する(1)																						
6. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む(2)	15. 『晋書』載記の記述に基づいて、新たな見解を提起する(2)																						
7. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む(3)																							
8. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む(4)																							
9. 『晋書』載記を、関連研究論文間の見解の相違に着目しながら読む(5)																							
◇ 成績評価の方法	出席 (20%)、発表内容 (80%)																						
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布する。 参考書：三崎良章『五胡十六国【新訂版】』(東方書店「東方選書」2012年)。その他、授業中に紹介する。																						
◇ 授業時間外学習	2回目の授業以降、事前に、該当部分の書き下し文、現代日本語訳を作成するほか、関連史料との記述の異同の調査考察、関連研究論文等の調査考察を行う。																						
その他：『晋書』載記の研究 I と連続して履修することが望ましい。																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 史 演 習 Oriental History (Seminar)	2	准教授 大野晃嗣	5	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS311J																				
◆ 授業題目	明清史料研究Ⅰ																				
◆ 目的・概要	中国明清時代の漢文史料を読解するための手続き(史料の探し方や辞書・索引の使い方等)を習得する。その上で様々な課題探究に対する基礎知識を得る。																				
◆ 到達目標	清倪会鼎『倪文正公年譜』を読む。内容読解に当たっては、『倪文貞集』や、その他の同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス—史料の背景と工具書の使い方—</td> <td>9. 『倪文正公年譜』(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 『倪文正公年譜』(1)</td> <td>10. 『倪文正公年譜』(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 『倪文正公年譜』(2)</td> <td>11. 『倪文正公年譜』(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 『倪文正公年譜』(3)</td> <td>12. 『倪文正公年譜』(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 『倪文正公年譜』(4)</td> <td>13. 『倪文正公年譜』(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 『倪文正公年譜』(5)</td> <td>14. 『倪文正公年譜』(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 『倪文正公年譜』(6)</td> <td>15. 『倪文正公年譜』(14)</td> </tr> <tr> <td>8. 『倪文正公年譜』(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス—史料の背景と工具書の使い方—	9. 『倪文正公年譜』(8)	2. 『倪文正公年譜』(1)	10. 『倪文正公年譜』(9)	3. 『倪文正公年譜』(2)	11. 『倪文正公年譜』(10)	4. 『倪文正公年譜』(3)	12. 『倪文正公年譜』(11)	5. 『倪文正公年譜』(4)	13. 『倪文正公年譜』(12)	6. 『倪文正公年譜』(5)	14. 『倪文正公年譜』(13)	7. 『倪文正公年譜』(6)	15. 『倪文正公年譜』(14)	8. 『倪文正公年譜』(7)	
1. ガイダンス—史料の背景と工具書の使い方—	9. 『倪文正公年譜』(8)																				
2. 『倪文正公年譜』(1)	10. 『倪文正公年譜』(9)																				
3. 『倪文正公年譜』(2)	11. 『倪文正公年譜』(10)																				
4. 『倪文正公年譜』(3)	12. 『倪文正公年譜』(11)																				
5. 『倪文正公年譜』(4)	13. 『倪文正公年譜』(12)																				
6. 『倪文正公年譜』(5)	14. 『倪文正公年譜』(13)																				
7. 『倪文正公年譜』(6)	15. 『倪文正公年譜』(14)																				
8. 『倪文正公年譜』(7)																					
◇ 成績評価の方法	発表内容(平常点)																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。																				
その他：東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 史 演 習 Oriental History (Seminar)	2	准教授 大野晃嗣	6	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS311J																				
◆ 授業題目	明清史料研究Ⅱ																				
◆ 目的・概要	卒業論文を作成していく上で基本となる漢文史料読解力を向上させると同時に、扱える中国近世史料の知識を増やし、明清時代史の研究方法を理解する。																				
◆ 到達目標	清倪会鼎『倪文正公年譜』を読む。内容読解に当たっては、『倪文貞集』や、その他の同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス—史料の背景と工具書の使い方—</td> <td>9. 『倪文正公年譜』(22)</td> </tr> <tr> <td>2. 『倪文正公年譜』(15)</td> <td>10. 『倪文正公年譜』(23)</td> </tr> <tr> <td>3. 『倪文正公年譜』(16)</td> <td>11. 『倪文正公年譜』(24)</td> </tr> <tr> <td>4. 『倪文正公年譜』(17)</td> <td>12. 『倪文正公年譜』(25)</td> </tr> <tr> <td>5. 『倪文正公年譜』(18)</td> <td>13. 『倪文正公年譜』(26)</td> </tr> <tr> <td>6. 『倪文正公年譜』(19)</td> <td>14. 『倪文正公年譜』(27)</td> </tr> <tr> <td>7. 『倪文正公年譜』(20)</td> <td>15. 『倪文正公年譜』(28)</td> </tr> <tr> <td>8. 『倪文正公年譜』(21)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス—史料の背景と工具書の使い方—	9. 『倪文正公年譜』(22)	2. 『倪文正公年譜』(15)	10. 『倪文正公年譜』(23)	3. 『倪文正公年譜』(16)	11. 『倪文正公年譜』(24)	4. 『倪文正公年譜』(17)	12. 『倪文正公年譜』(25)	5. 『倪文正公年譜』(18)	13. 『倪文正公年譜』(26)	6. 『倪文正公年譜』(19)	14. 『倪文正公年譜』(27)	7. 『倪文正公年譜』(20)	15. 『倪文正公年譜』(28)	8. 『倪文正公年譜』(21)	
1. ガイダンス—史料の背景と工具書の使い方—	9. 『倪文正公年譜』(22)																				
2. 『倪文正公年譜』(15)	10. 『倪文正公年譜』(23)																				
3. 『倪文正公年譜』(16)	11. 『倪文正公年譜』(24)																				
4. 『倪文正公年譜』(17)	12. 『倪文正公年譜』(25)																				
5. 『倪文正公年譜』(18)	13. 『倪文正公年譜』(26)																				
6. 『倪文正公年譜』(19)	14. 『倪文正公年譜』(27)																				
7. 『倪文正公年譜』(20)	15. 『倪文正公年譜』(28)																				
8. 『倪文正公年譜』(21)																					
◇ 成績評価の方法	発表内容(平常点)																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。																				
その他：東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。なお、第5セメスター読了分からの続きとなるが、一回目にはガイダンスを行い、本セメスターからの参加者にも便宜を図る予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ ン ド 学 概 論 Indological Studies (General Lecture)	2	教授 吉水清孝	3	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI203J																				
◆ 授業題目	ヴェーダから叙事詩へ																				
◆ 目的・概要	古代インドにおける世界観と人間観の変遷を、ヴェーダ（アーリア人の聖典）、仏教、スメリティ（叙事詩・法典）の3分野を中心に解説する。																				
◆ 到達目標	ヴェーダ時代から西暦紀元前後までの、一千年を超えるインド思想史のあらましを、古代聖典ヴェーダの宗教と仏教などの出家宗教との対比を軸にして理解すること																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 序・中世以降のインド概説</td> <td>9. 仏教の戒律</td> </tr> <tr> <td>2. インダス文明とアーリア人侵入</td> <td>10. 仏教教団と古代王朝</td> </tr> <tr> <td>3. ヴェーダ文献と神話</td> <td>11. アビダルマと大乘仏教</td> </tr> <tr> <td>4. ヴェーダ祭式</td> <td>12. 二大叙事詩</td> </tr> <tr> <td>5. 祭式をめぐる思弁</td> <td>13. 叙事詩の思想</td> </tr> <tr> <td>6. ウパニシャッド(1): 祭式の内面化</td> <td>14. インドの法典（生活期）</td> </tr> <tr> <td>7. ウパニシャッド(2): 因果応報思想の成立</td> <td>15. インドの法典（法律）</td> </tr> <tr> <td>8. ジャイナ教と仏教の開祖</td> <td></td> </tr> </table>					1. 序・中世以降のインド概説	9. 仏教の戒律	2. インダス文明とアーリア人侵入	10. 仏教教団と古代王朝	3. ヴェーダ文献と神話	11. アビダルマと大乘仏教	4. ヴェーダ祭式	12. 二大叙事詩	5. 祭式をめぐる思弁	13. 叙事詩の思想	6. ウパニシャッド(1): 祭式の内面化	14. インドの法典（生活期）	7. ウパニシャッド(2): 因果応報思想の成立	15. インドの法典（法律）	8. ジャイナ教と仏教の開祖	
1. 序・中世以降のインド概説	9. 仏教の戒律																				
2. インダス文明とアーリア人侵入	10. 仏教教団と古代王朝																				
3. ヴェーダ文献と神話	11. アビダルマと大乘仏教																				
4. ヴェーダ祭式	12. 二大叙事詩																				
5. 祭式をめぐる思弁	13. 叙事詩の思想																				
6. ウパニシャッド(1): 祭式の内面化	14. インドの法典（生活期）																				
7. ウパニシャッド(2): 因果応報思想の成立	15. インドの法典（法律）																				
8. ジャイナ教と仏教の開祖																					
◇ 成績評価の方法	出席（30%）およびレポート（70%）																				
◇ 教科書・参考書	既存のインド哲学史とは進め方をやや異なるので、教科書は用いない。講義内容の要旨を毎回配布するので、出席を欠かさないこと。参考書は授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	配布した講義要旨と聴講メモをもとに自分なりの講義ノートを作成すること。学期末には、講義内容のうち関心を抱いたテーマについてレポートを書いてもらうので、図書館などで関連する図書を探し参照すること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
イ ン ド 学 概 論 Indological Studies (General Lecture)	2	教授 吉水清孝	4	水	3																		
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI203J																						
◆ 授業題目	インド哲学とヒンドゥー教																						
◆ 目的・概要	インドの古代末から中世初期にかけて成立した各学派における存在と認識、および倫理と宗教の面での中心思想を、学派相互の影響関係と共に解説する。																						
◆ 到達目標	西暦紀元後からイスラーム教徒侵入時代までの、一千年を超えるインド思想史のあらましを、バラモン教学・仏教哲学・ヒンドゥー教の三つを軸にして理解すること。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 古代思想の要約</td> <td>7. 仏教の僧院と国際交流</td> </tr> <tr> <td>2. 時代背景の変遷：古代から中世へ</td> <td>8. 仏教知識論(1): 認識論と論理学の基礎</td> </tr> <tr> <td>3. バラモン教学(1): 二元論（サーンキヤ）と瞑想（ヨーガ）</td> <td>9. 仏教知識論(2): 論理学の応用</td> </tr> <tr> <td>4. バラモン教学(2): 語の意味と文の認識（文法学・ミーマーンサー）</td> <td>10. 仏教思想とバラモン教学との対立</td> </tr> <tr> <td>5. バラモン教学(3): 聖典論と社会意識（ミーマーンサー・法典註釈）</td> <td>11. ヒンドゥー教(1): ヴィシュヌ神とその化身</td> </tr> <tr> <td>6. バラモン教学(4): ウパニシャッド解釈学と一元論（ヴェーダーンタ）</td> <td>12. ヒンドゥー教(2): シヴァ神と女神たち</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. ヒンドゥー教(3): ヴィシュヌ教の神学</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. ヒンドゥー教(4): シヴァ教の神学</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 中世初期インド思想のまとめ</td> </tr> </table>					1. 古代思想の要約	7. 仏教の僧院と国際交流	2. 時代背景の変遷：古代から中世へ	8. 仏教知識論(1): 認識論と論理学の基礎	3. バラモン教学(1): 二元論（サーンキヤ）と瞑想（ヨーガ）	9. 仏教知識論(2): 論理学の応用	4. バラモン教学(2): 語の意味と文の認識（文法学・ミーマーンサー）	10. 仏教思想とバラモン教学との対立	5. バラモン教学(3): 聖典論と社会意識（ミーマーンサー・法典註釈）	11. ヒンドゥー教(1): ヴィシュヌ神とその化身	6. バラモン教学(4): ウパニシャッド解釈学と一元論（ヴェーダーンタ）	12. ヒンドゥー教(2): シヴァ神と女神たち		13. ヒンドゥー教(3): ヴィシュヌ教の神学		14. ヒンドゥー教(4): シヴァ教の神学		15. 中世初期インド思想のまとめ
1. 古代思想の要約	7. 仏教の僧院と国際交流																						
2. 時代背景の変遷：古代から中世へ	8. 仏教知識論(1): 認識論と論理学の基礎																						
3. バラモン教学(1): 二元論（サーンキヤ）と瞑想（ヨーガ）	9. 仏教知識論(2): 論理学の応用																						
4. バラモン教学(2): 語の意味と文の認識（文法学・ミーマーンサー）	10. 仏教思想とバラモン教学との対立																						
5. バラモン教学(3): 聖典論と社会意識（ミーマーンサー・法典註釈）	11. ヒンドゥー教(1): ヴィシュヌ神とその化身																						
6. バラモン教学(4): ウパニシャッド解釈学と一元論（ヴェーダーンタ）	12. ヒンドゥー教(2): シヴァ神と女神たち																						
	13. ヒンドゥー教(3): ヴィシュヌ教の神学																						
	14. ヒンドゥー教(4): シヴァ教の神学																						
	15. 中世初期インド思想のまとめ																						
◇ 成績評価の方法	出席（30%）およびレポート（70%）																						
◇ 教科書・参考書	既存のインド哲学史とは進め方をやや異なるので、教科書は用いない。講義内容の要旨を毎回配布するので、出席を欠かさないこと。参考書は授業中に指示する。																						
◇ 授業時間外学習	配布した講義要旨と聴講メモをもとに自分なりの講義ノートを作成すること。学期末には、講義内容のうち関心を抱いたテーマについてレポートを書いてもらうので、図書館などで関連する図書を探し参照すること。																						
その他：																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ ン ド 仏 教 史 概 論 History of Indian Buddhism (General Lecture)	2	桜 井 宗 信	3	火	1																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI204J																				
◆ 授業題目	インド仏教史概説—その1—																				
◆ 目的・概要	釈尊（紀元前5世紀頃）に始まるインド仏教史の大まかな流れを理解するとともに、釈尊自身の思想とその展開の一端をいわゆる「部派仏教」の段階まで把握することを目指す。																				
◆ 到達目標	釈尊の思想を中心とした初期仏教に関する基礎知識を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 仏教成立時代の社会と思想の概略</td> <td>9. 仏教教団の成立と展開 -2-</td> </tr> <tr> <td>2. 釈尊の生涯と主な事蹟 -1-</td> <td>10. アショカ王と「法」 -1-</td> </tr> <tr> <td>3. 釈尊の生涯と主な事蹟 -2-</td> <td>11. アショカ王と「法」 -2-</td> </tr> <tr> <td>4. 釈尊の生涯と主な事蹟 -3-</td> <td>12. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想 -1-</td> </tr> <tr> <td>5. 釈尊の思想 -1-</td> <td>13. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想 -2-</td> </tr> <tr> <td>6. 釈尊の思想 -2-</td> <td>14. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想 -3-</td> </tr> <tr> <td>7. 釈尊の思想 -3-</td> <td>15. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想 -4-</td> </tr> <tr> <td>8. 仏教教団の成立と展開 -1-</td> <td></td> </tr> </table>					1. 仏教成立時代の社会と思想の概略	9. 仏教教団の成立と展開 -2-	2. 釈尊の生涯と主な事蹟 -1-	10. アショカ王と「法」 -1-	3. 釈尊の生涯と主な事蹟 -2-	11. アショカ王と「法」 -2-	4. 釈尊の生涯と主な事蹟 -3-	12. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想 -1-	5. 釈尊の思想 -1-	13. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想 -2-	6. 釈尊の思想 -2-	14. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想 -3-	7. 釈尊の思想 -3-	15. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想 -4-	8. 仏教教団の成立と展開 -1-	
1. 仏教成立時代の社会と思想の概略	9. 仏教教団の成立と展開 -2-																				
2. 釈尊の生涯と主な事蹟 -1-	10. アショカ王と「法」 -1-																				
3. 釈尊の生涯と主な事蹟 -2-	11. アショカ王と「法」 -2-																				
4. 釈尊の生涯と主な事蹟 -3-	12. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想 -1-																				
5. 釈尊の思想 -1-	13. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想 -2-																				
6. 釈尊の思想 -2-	14. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想 -3-																				
7. 釈尊の思想 -3-	15. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想 -4-																				
8. 仏教教団の成立と展開 -1-																					
◇ 成績評価の方法	レポート [100%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、教員が作成したプリントを配布。																				
◇ 授業時間外学習	レポート作成の準備も兼ねて、講義内で関心を持った事柄に関して参考書を使ってより深く調べてみる。																				
その他：最初の授業において参考書、及びレポートの提出方法等について説明する。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ ン ド 仏 教 史 概 論 History of Indian Buddhism (General Lecture)	2	桜 井 宗 信	4	火	1																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI204J																				
◆ 授業題目	インド仏教史概説—その2—																				
◆ 目的・概要	インド大乘仏教史の概略を理解し、『般若経』等の初期大乘経典について学んだのち、中観派・瑜伽行唯識派という大乘仏教思想を代表する二大学派の内容を、基本的な専門用語の理解にも留意しながら把握することを目指す。																				
◆ 到達目標	インドにおける大乘仏教の史的展開と思想に関する基礎知識を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 大乘仏教の出現 -1-</td> <td>9. 中期中観思想 -2-</td> </tr> <tr> <td>2. 大乘仏教の出現 -2-</td> <td>10. 中期中観思想 -3-</td> </tr> <tr> <td>3. 初期大乘仏教経典概説 -1-</td> <td>11. 瑜伽行唯識派の思想 -1-</td> </tr> <tr> <td>4. 初期大乘仏教経典概説 -2-</td> <td>12. 瑜伽行唯識派の思想 -2-</td> </tr> <tr> <td>5. 初期大乘仏教経典概説 -3-</td> <td>13. 瑜伽行唯識派の思想 -3-</td> </tr> <tr> <td>6. ナーガールジュナと中期中観思想 -1-</td> <td>14. 瑜伽行唯識派の思想 -4-</td> </tr> <tr> <td>7. ナーガールジュナと中期中観思想 -2-</td> <td>15. 予備時間</td> </tr> <tr> <td>8. 中期中観思想 -1-</td> <td></td> </tr> </table>					1. 大乘仏教の出現 -1-	9. 中期中観思想 -2-	2. 大乘仏教の出現 -2-	10. 中期中観思想 -3-	3. 初期大乘仏教経典概説 -1-	11. 瑜伽行唯識派の思想 -1-	4. 初期大乘仏教経典概説 -2-	12. 瑜伽行唯識派の思想 -2-	5. 初期大乘仏教経典概説 -3-	13. 瑜伽行唯識派の思想 -3-	6. ナーガールジュナと中期中観思想 -1-	14. 瑜伽行唯識派の思想 -4-	7. ナーガールジュナと中期中観思想 -2-	15. 予備時間	8. 中期中観思想 -1-	
1. 大乘仏教の出現 -1-	9. 中期中観思想 -2-																				
2. 大乘仏教の出現 -2-	10. 中期中観思想 -3-																				
3. 初期大乘仏教経典概説 -1-	11. 瑜伽行唯識派の思想 -1-																				
4. 初期大乘仏教経典概説 -2-	12. 瑜伽行唯識派の思想 -2-																				
5. 初期大乘仏教経典概説 -3-	13. 瑜伽行唯識派の思想 -3-																				
6. ナーガールジュナと中期中観思想 -1-	14. 瑜伽行唯識派の思想 -4-																				
7. ナーガールジュナと中期中観思想 -2-	15. 予備時間																				
8. 中期中観思想 -1-																					
◇ 成績評価の方法	レポート [100%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、教員が作成したプリントを配布。																				
◇ 授業時間外学習	レポート作成の準備も兼ねて、講義内で関心を持った事柄に関して参考書を使ってより深く調べてみる。																				
その他：「インド仏教史概説—その1—の既習者であること」を履修の原則とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ ン ド 学 基 礎 演 習 Indological Studies (Introductory Seminar)	2	教授 吉水清孝	3	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI210J																				
◆ 授業題目	ヒンドゥー教文献入門																				
◆ 目的・概要	Bhagavadgītā (『神の歌』) は、マハーバーラタ大戦争に臨んで悩める王子アルジュナにヴィシュヌ神の化身クリシュナが教示する対話篇であり、現代においても安心立命を得るために復唱される、ヒンドゥー教の代表的聖典である。今学期はその第10章から第13章までを講読する予定である。毎回出席者にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検査し文法事項を確認する。																				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教の代表的聖典を読み、あわせてサンスクリット語の語形活用と構文に習熟する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション：Bhagavadgītā (BhG) の成立</td> <td>9. BhG 11.31-40 時間としての神</td> </tr> <tr> <td>2. BhG 10.1-10 神の愛</td> <td>10. BhG 11.41-55 人の姿をとる神</td> </tr> <tr> <td>3. BhG 10.11-20 神への問い</td> <td>11. BhG 12.1-10 クリシュナへの信仰</td> </tr> <tr> <td>4. BhG 10.21-30 神の示現(1)</td> <td>12. BhG 12.11-20 神に愛しい者</td> </tr> <tr> <td>5. BhG 10.31-42 神の示現(2)</td> <td>13. BhG 13.1-10 土地 (=身体) を知る者</td> </tr> <tr> <td>6. BhG 11.1-10 天眼とクリシュナの変貌</td> <td>14. BhG 13.11-20 知の対象となるブラフマン</td> </tr> <tr> <td>7. BhG 11.11-20 ヴィシュヌの身体</td> <td>15. BhG 13.21-34 土地 (=身体) の正しい見方</td> </tr> <tr> <td>8. BhG 11.21-30 神への帰滅</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション：Bhagavadgītā (BhG) の成立	9. BhG 11.31-40 時間としての神	2. BhG 10.1-10 神の愛	10. BhG 11.41-55 人の姿をとる神	3. BhG 10.11-20 神への問い	11. BhG 12.1-10 クリシュナへの信仰	4. BhG 10.21-30 神の示現(1)	12. BhG 12.11-20 神に愛しい者	5. BhG 10.31-42 神の示現(2)	13. BhG 13.1-10 土地 (=身体) を知る者	6. BhG 11.1-10 天眼とクリシュナの変貌	14. BhG 13.11-20 知の対象となるブラフマン	7. BhG 11.11-20 ヴィシュヌの身体	15. BhG 13.21-34 土地 (=身体) の正しい見方	8. BhG 11.21-30 神への帰滅	
1. イントロダクション：Bhagavadgītā (BhG) の成立	9. BhG 11.31-40 時間としての神																				
2. BhG 10.1-10 神の愛	10. BhG 11.41-55 人の姿をとる神																				
3. BhG 10.11-20 神への問い	11. BhG 12.1-10 クリシュナへの信仰																				
4. BhG 10.21-30 神の示現(1)	12. BhG 12.11-20 神に愛しい者																				
5. BhG 10.31-42 神の示現(2)	13. BhG 13.1-10 土地 (=身体) を知る者																				
6. BhG 11.1-10 天眼とクリシュナの変貌	14. BhG 13.11-20 知の対象となるブラフマン																				
7. BhG 11.11-20 ヴィシュヌの身体	15. BhG 13.21-34 土地 (=身体) の正しい見方																				
8. BhG 11.21-30 神への帰滅																					
◇ 成績評価の方法	出席 [30%]・レポート [70%サンスクリット語未修者対象]・授業で示される理解度 [70%サンスクリット語既習者対象]																				
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。上村勝彦 (訳) 『バガヴァッド・ギーター』(岩波文庫) を各自で用意すること。																				
◇ 授業時間外学習	辞書と文法書を頼りに、一つ一つの単語の語形を確かめたうえで適切な意味を考え、文章の翻訳を行ったうえで授業に臨むこと。ただし調べがつかない箇所については、授業中に質問して解決すればよい。準備が不完全であっても授業に出席し、さらに復習して理解することが大事である。																				
その他：サンスクリット語の基礎を習得していることが望ましいが、サンスクリット未修者でも十分に理解できる授業を行う。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
パ ー リ 語 P a l i	2	非常勤講師 西村直子	3	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI212J																				
◆ 授業題目	パーリ語入門																				
◆ 目的・概要	サンスクリット文法を基に、パーリ語への歴史的変化に注目しながら、基本事項を学ぶ。Geiger, A Pāli Grammar を参考にする。その後、Anderson, A Pāli Reader を用い、具体的テキストに即して、文法事項を確認しながら原典を読む。前期はブッダの前生譚である「ジャータカ」を扱う。必要な参考書、研究文献をその都度確認しながら、合理的な訓練に努める。																				
◆ 到達目標	サンスクリット語の知識を基にパーリ語文献の研究に必要な能力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション (教科書及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)</td> <td>8. 同 (3)</td> </tr> <tr> <td>2. 「スンスマーラ・ジャータカ」 (1)</td> <td>9. 同 (4)</td> </tr> <tr> <td>3. 同 (2)</td> <td>10. 「シーハチャンマ・ジャータカ」</td> </tr> <tr> <td>4. 同 (3)</td> <td>11. 「ササ・ジャータカ」 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 同 (4)</td> <td>12. 同 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 「バカ・ジャータカ」 (1)</td> <td>13. 同 (3)</td> </tr> <tr> <td>7. 同 (2)</td> <td>14. 同 (4)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 同 (5)</td> </tr> </table>					1. イントロダクション (教科書及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)	8. 同 (3)	2. 「スンスマーラ・ジャータカ」 (1)	9. 同 (4)	3. 同 (2)	10. 「シーハチャンマ・ジャータカ」	4. 同 (3)	11. 「ササ・ジャータカ」 (1)	5. 同 (4)	12. 同 (2)	6. 「バカ・ジャータカ」 (1)	13. 同 (3)	7. 同 (2)	14. 同 (4)		15. 同 (5)
1. イントロダクション (教科書及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)	8. 同 (3)																				
2. 「スンスマーラ・ジャータカ」 (1)	9. 同 (4)																				
3. 同 (2)	10. 「シーハチャンマ・ジャータカ」																				
4. 同 (3)	11. 「ササ・ジャータカ」 (1)																				
5. 同 (4)	12. 同 (2)																				
6. 「バカ・ジャータカ」 (1)	13. 同 (3)																				
7. 同 (2)	14. 同 (4)																				
	15. 同 (5)																				
◇ 成績評価の方法	出席 (30%) および授業で示される理解度 (70%)																				
◇ 教科書・参考書	Geiger-Norman, A Pāli Grammar, D. Anderson, A Pāli Reader。後者は大学に必要部数が揃っているが、自分で持っていない場合でも後まで役立つ。辞書、参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する																				
◇ 授業時間外学習	授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。																				
その他：初級サンスクリット語の既習者であることが望ましい。																					

授 業 科 目				単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																	
パ P	ー a	リ l	語 i	2	非常勤 講師	西 村 直 子	4	水	5																
◆	科目ナンバリング	LHMPHI212J																							
◆	授業題目	パーリ語購読																							
◆	目的・概要	文法事項、シンタクス、仏教用語などについて、繰り返し復習確認しながら、AndersonのReaderから抜粋して読む。ジャータカ、ブッダの伝記、ダンマパダ、ミリンダパンハーなど、言語と内容の両面を大切にしておく。																							
◆	到達目標	前期に習得した能力を基に、比較的明晰な原典を選び購読する。あわせて仏教文献に馴染む訓練をする。																							
◆	授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 「マタカバッタ・ジャータカ」 (1)</td> <td>9. 同 (3)</td> </tr> <tr> <td>2. 同 (2)</td> <td>10. 「ブッダの死」 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 「ブッダの誕生」 (1)</td> <td>11. 同 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 同 (2)</td> <td>12. 同 (3)</td> </tr> <tr> <td>5. 「四門出遊」 (1)</td> <td>13. 『ダンマパダ』より</td> </tr> <tr> <td>6. 同 (2)</td> <td>14. 『ミリンダパンハー』より (1)</td> </tr> <tr> <td>7. 「ボーディサッタの出家」 (1)</td> <td>15. 同 (2)</td> </tr> <tr> <td>8. 同 (2)</td> <td></td> </tr> </table>								1. 「マタカバッタ・ジャータカ」 (1)	9. 同 (3)	2. 同 (2)	10. 「ブッダの死」 (1)	3. 「ブッダの誕生」 (1)	11. 同 (2)	4. 同 (2)	12. 同 (3)	5. 「四門出遊」 (1)	13. 『ダンマパダ』より	6. 同 (2)	14. 『ミリンダパンハー』より (1)	7. 「ボーディサッタの出家」 (1)	15. 同 (2)	8. 同 (2)	
1. 「マタカバッタ・ジャータカ」 (1)	9. 同 (3)																								
2. 同 (2)	10. 「ブッダの死」 (1)																								
3. 「ブッダの誕生」 (1)	11. 同 (2)																								
4. 同 (2)	12. 同 (3)																								
5. 「四門出遊」 (1)	13. 『ダンマパダ』より																								
6. 同 (2)	14. 『ミリンダパンハー』より (1)																								
7. 「ボーディサッタの出家」 (1)	15. 同 (2)																								
8. 同 (2)																									
◇	成績評価の方法	出席 (30%) および授業で示される理解度 (70%)																							
◇	教科書・参考書	Geiger-Norman, A Pāli Grammar, D. Anderson, A Pāli Reader。後者は大学に必要部数が揃っているが、自分で持っていて後まで役立つ。辞書、参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する																							
◇	授業時間外学習	授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。																							
その他：初級サンスクリット語の既習者であることが望ましい。																									

授 業 科 目				単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																	
チ T	べ i	ッ b	ト e	語 n	2	教授	桜 井 宗 信	3	月	4															
◆	科目ナンバリング	LHMPHI213J																							
◆	授業題目	古典チベット語初級文法 I																							
◆	目的・概要	チベット文字の読み方・書き方に始まる古典チベット語文法への入門講座。教科書の例文に施されている適切な邦訳が、どうしてそのように訳せるのかを自ら吟味することで、読解力の養成を計る。																							
◆	到達目標	(1)チベット文字とその正書法を理解し、正しく音読出来るようになる。 (2)古典チベット語初級文法の基礎事項を習得する。																							
◆	授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. チベット文字発音法・正書法 -1-</td> <td>9. 古典チベット語初級文法 -6-</td> </tr> <tr> <td>2. チベット文字発音法・正書法 -2-</td> <td>10. 古典チベット語初級文法 -7-</td> </tr> <tr> <td>3. チベット文字発音法・正書法 -3-</td> <td>11. 古典チベット語初級文法 -8-</td> </tr> <tr> <td>4. 古典チベット語初級文法 -1-</td> <td>12. 古典チベット語初級文法 -9-</td> </tr> <tr> <td>5. 古典チベット語初級文法 -2-</td> <td>13. 古典チベット語初級文法 -10-</td> </tr> <tr> <td>6. 古典チベット語初級文法 -3-</td> <td>14. 古典チベット語初級文法 -11-</td> </tr> <tr> <td>7. 古典チベット語初級文法 -4-</td> <td>15. 古典チベット語初級文法 -12-</td> </tr> <tr> <td>8. 古典チベット語初級文法 -5-</td> <td></td> </tr> </table>								1. チベット文字発音法・正書法 -1-	9. 古典チベット語初級文法 -6-	2. チベット文字発音法・正書法 -2-	10. 古典チベット語初級文法 -7-	3. チベット文字発音法・正書法 -3-	11. 古典チベット語初級文法 -8-	4. 古典チベット語初級文法 -1-	12. 古典チベット語初級文法 -9-	5. 古典チベット語初級文法 -2-	13. 古典チベット語初級文法 -10-	6. 古典チベット語初級文法 -3-	14. 古典チベット語初級文法 -11-	7. 古典チベット語初級文法 -4-	15. 古典チベット語初級文法 -12-	8. 古典チベット語初級文法 -5-	
1. チベット文字発音法・正書法 -1-	9. 古典チベット語初級文法 -6-																								
2. チベット文字発音法・正書法 -2-	10. 古典チベット語初級文法 -7-																								
3. チベット文字発音法・正書法 -3-	11. 古典チベット語初級文法 -8-																								
4. 古典チベット語初級文法 -1-	12. 古典チベット語初級文法 -9-																								
5. 古典チベット語初級文法 -2-	13. 古典チベット語初級文法 -10-																								
6. 古典チベット語初級文法 -3-	14. 古典チベット語初級文法 -11-																								
7. 古典チベット語初級文法 -4-	15. 古典チベット語初級文法 -12-																								
8. 古典チベット語初級文法 -5-																									
◇	成績評価の方法	○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%]																							
◇	教科書・参考書	藤田光寛：『古典チベット語文法』（非売品；インド学仏教史研究室に備え付けがある）																							
◇	授業時間外学習	予習時には教科書記載チベット文字例文の音読練習を行い、復習時には新出事項の確認—発音法・正書法学習時には各文字の発音・書取練習、文法学習時には新出チベット語単語や重要文法用語の記憶などを行う。																							
その他：教科書は研究室備え付けのものを各自コピーし、講義に臨むこと。また、サンスクリット語初級文法の既習者であることが望ましい。																									

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
チ T ベ i ッ b ト e タ t 語 a ン n	2	教授 桜井宗信	4	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI213J																				
◆ 授業題目	古典チベット語初級文法Ⅱ																				
◆ 目的・概要	チベット人学僧Tāranāthaの著した『インド仏教史』の訳読を行い、チベット語資料の文献研究に必要な基礎的語学力を養成することを目的とする。本期は第15章の途中より読み始める予定。「歯応えのある」文章を相手にして、辞書の利用法の訓練も兼ねた十分な予習を行うことにより、読解力の深化を図る。																				
◆ 到達目標	古典チベット語によって著された文献の読解力を養成する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 『インド仏教史』 訳読 -1-</td> <td>9. 『インド仏教史』 訳読 -9-</td> </tr> <tr> <td>2. 『インド仏教史』 訳読 -2-</td> <td>10. 『インド仏教史』 訳読 -10-</td> </tr> <tr> <td>3. 『インド仏教史』 訳読 -3-</td> <td>11. 『インド仏教史』 訳読 -11-</td> </tr> <tr> <td>4. 『インド仏教史』 訳読 -4-</td> <td>12. 『インド仏教史』 訳読 -12-</td> </tr> <tr> <td>5. 『インド仏教史』 訳読 -5-</td> <td>13. 『インド仏教史』 訳読 -13-</td> </tr> <tr> <td>6. 『インド仏教史』 訳読 -6-</td> <td>14. 『インド仏教史』 訳読 -14-</td> </tr> <tr> <td>7. 『インド仏教史』 訳読 -7-</td> <td>15. 『インド仏教史』 訳読 -15-</td> </tr> <tr> <td>8. 『インド仏教史』 訳読 -8-</td> <td></td> </tr> </table>					1. 『インド仏教史』 訳読 -1-	9. 『インド仏教史』 訳読 -9-	2. 『インド仏教史』 訳読 -2-	10. 『インド仏教史』 訳読 -10-	3. 『インド仏教史』 訳読 -3-	11. 『インド仏教史』 訳読 -11-	4. 『インド仏教史』 訳読 -4-	12. 『インド仏教史』 訳読 -12-	5. 『インド仏教史』 訳読 -5-	13. 『インド仏教史』 訳読 -13-	6. 『インド仏教史』 訳読 -6-	14. 『インド仏教史』 訳読 -14-	7. 『インド仏教史』 訳読 -7-	15. 『インド仏教史』 訳読 -15-	8. 『インド仏教史』 訳読 -8-	
1. 『インド仏教史』 訳読 -1-	9. 『インド仏教史』 訳読 -9-																				
2. 『インド仏教史』 訳読 -2-	10. 『インド仏教史』 訳読 -10-																				
3. 『インド仏教史』 訳読 -3-	11. 『インド仏教史』 訳読 -11-																				
4. 『インド仏教史』 訳読 -4-	12. 『インド仏教史』 訳読 -12-																				
5. 『インド仏教史』 訳読 -5-	13. 『インド仏教史』 訳読 -13-																				
6. 『インド仏教史』 訳読 -6-	14. 『インド仏教史』 訳読 -14-																				
7. 『インド仏教史』 訳読 -7-	15. 『インド仏教史』 訳読 -15-																				
8. 『インド仏教史』 訳読 -8-																					
◇ 成績評価の方法	○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	Tāranātha:『インド仏教史』(コピーを配布する)																				
◇ 授業時間外学習	予習時に辞書を用いながら自らテキストの翻訳を行い、授業で発表出来るように準備する。																				
その他: 「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。また使用すべき辞書については授業の中で紹介する。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
イ I ン ド 学 各 論 Indological Studies (General Lecture)	2	教授 吉水清孝	5	火	2																		
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI303J																						
◆ 授業題目	ヒンドゥー教文献講読(1)																						
◆ 目的・概要	ウパニシャッドは古代インドの哲学的教説集であり、そのなかでも『チャンドーギヤ・ウパニシャッド』は、『プリハッド・アーラニヤカ・ウパニシャッド』とともに、もっとも古く、文学的対話篇を多く含み、かつ後代のインド思想に決定的に影響したウパニシャッドである。今学期は『チャンドーギヤ・ウパニシャッド』の第3巻から講読する。																						
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある教典をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション: Chāndogya Upaniṣad(ChU)の成立</td> <td>10. ChU 4.4 少年サティヤカーマの生い立ちと入門</td> </tr> <tr> <td>2. ChU 3.1-5 太陽より四方に発する光(蜜)</td> <td>11. ChU 4.5-6 牛と火からの教示</td> </tr> <tr> <td>3. ChU 3.6-11 太陽の蜜と諸神格</td> <td>12. ChU 4.7-9 鳥からの教示</td> </tr> <tr> <td>4. ChU 3.12-13 人体と五氣息</td> <td>13. ChU 4.10-13 少年ウパコーサラへの祭火からの教示</td> </tr> <tr> <td>5. ChU 3.14 シャーンディルヤの「梵我一如」</td> <td>14. ChU 4.14-15 師サティヤカーマからの教説(眼の中のプルシャ)</td> </tr> <tr> <td>6. ChU 3.15-17 人生と祭式の対応</td> <td>15. ChU 4.16-17 師サティヤカーマからの教説(ブラフマン祭官のはたらき)</td> </tr> <tr> <td>7. ChU 3.18-19 人体諸機能および太陽のブラフマンとしての崇拜</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. ChU 4.1 賭博好きの王ジャーナシュルティ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. ChU 4.2-3 路上生活者ライクヴァの風理論</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション: Chāndogya Upaniṣad(ChU)の成立	10. ChU 4.4 少年サティヤカーマの生い立ちと入門	2. ChU 3.1-5 太陽より四方に発する光(蜜)	11. ChU 4.5-6 牛と火からの教示	3. ChU 3.6-11 太陽の蜜と諸神格	12. ChU 4.7-9 鳥からの教示	4. ChU 3.12-13 人体と五氣息	13. ChU 4.10-13 少年ウパコーサラへの祭火からの教示	5. ChU 3.14 シャーンディルヤの「梵我一如」	14. ChU 4.14-15 師サティヤカーマからの教説(眼の中のプルシャ)	6. ChU 3.15-17 人生と祭式の対応	15. ChU 4.16-17 師サティヤカーマからの教説(ブラフマン祭官のはたらき)	7. ChU 3.18-19 人体諸機能および太陽のブラフマンとしての崇拜		8. ChU 4.1 賭博好きの王ジャーナシュルティ		9. ChU 4.2-3 路上生活者ライクヴァの風理論	
1. イントロダクション: Chāndogya Upaniṣad(ChU)の成立	10. ChU 4.4 少年サティヤカーマの生い立ちと入門																						
2. ChU 3.1-5 太陽より四方に発する光(蜜)	11. ChU 4.5-6 牛と火からの教示																						
3. ChU 3.6-11 太陽の蜜と諸神格	12. ChU 4.7-9 鳥からの教示																						
4. ChU 3.12-13 人体と五氣息	13. ChU 4.10-13 少年ウパコーサラへの祭火からの教示																						
5. ChU 3.14 シャーンディルヤの「梵我一如」	14. ChU 4.14-15 師サティヤカーマからの教説(眼の中のプルシャ)																						
6. ChU 3.15-17 人生と祭式の対応	15. ChU 4.16-17 師サティヤカーマからの教説(ブラフマン祭官のはたらき)																						
7. ChU 3.18-19 人体諸機能および太陽のブラフマンとしての崇拜																							
8. ChU 4.1 賭博好きの王ジャーナシュルティ																							
9. ChU 4.2-3 路上生活者ライクヴァの風理論																							
◇ 成績評価の方法	出席(30%)および授業で示される理解度(70%)																						
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まずM. Monier Williams, Sanskrit English Dictionaryをもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。(Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch; Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoirischen等)																						
◇ 授業時間外学習	辞書と文法書を頼りに、一つ一つの単語の語形を確かめたいうで適切な意味を考え、文章の翻訳を行ったうで授業に臨むこと。ただし準備が不完全で調べがつかない個所があっても、授業に出席して疑問点を討議し、授業の後には復習して理解することが大事である。																						
その他: 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ ン ド 学 各 論 Indological Studies (General Lecture)	2	教授 吉 水 清 孝	6	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI303J																				
◆ 授業題目	ヒンドゥー教文献講読(2)																				
◆ 目的・概要	前学期に引き続き、『チャンドーギヤ・ウパニシャッド』第5巻および第6巻を講読する。																				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある教典を、授業中の輪読により原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Chāndogya Upaniṣad(ChU)先学期講読範囲のまとめ</td> <td>9. ChU 5.19-24 献供による五種氣息の供養</td> </tr> <tr> <td>2. ChU 5.1 人体諸機能の優位争い</td> <td>10. ChU 6.1-2 ウッターラカ・アールニによる「有」(sat)の哲学</td> </tr> <tr> <td>3. ChU 5.2 氣息への供養</td> <td>11. ChU 6.3-4 三原理による万物の構成</td> </tr> <tr> <td>4. ChU 5.3 プラヴァーハナ王とウッターラカ・アールニ</td> <td>12. ChU 6.5-8 人体と三原理</td> </tr> <tr> <td>5. ChU 5.4-9 五火説</td> <td>13. ChU 6.5.9-11 有からの派生と有への還元</td> </tr> <tr> <td>6. ChU 5.5-10 二道説</td> <td>14. ChU 6.12-13 有に気づく実験</td> </tr> <tr> <td>7. ChU 5.11-13 アシュヴァパティ王とバラモンたち</td> <td>15. ChU 6.14-15 有との合一こそ真実</td> </tr> <tr> <td>8. ChU 5.14-18 アシュヴァパティ王の「遍満するアートルマン」説</td> <td></td> </tr> </table>					1. Chāndogya Upaniṣad(ChU)先学期講読範囲のまとめ	9. ChU 5.19-24 献供による五種氣息の供養	2. ChU 5.1 人体諸機能の優位争い	10. ChU 6.1-2 ウッターラカ・アールニによる「有」(sat)の哲学	3. ChU 5.2 氣息への供養	11. ChU 6.3-4 三原理による万物の構成	4. ChU 5.3 プラヴァーハナ王とウッターラカ・アールニ	12. ChU 6.5-8 人体と三原理	5. ChU 5.4-9 五火説	13. ChU 6.5.9-11 有からの派生と有への還元	6. ChU 5.5-10 二道説	14. ChU 6.12-13 有に気づく実験	7. ChU 5.11-13 アシュヴァパティ王とバラモンたち	15. ChU 6.14-15 有との合一こそ真実	8. ChU 5.14-18 アシュヴァパティ王の「遍満するアートルマン」説	
1. Chāndogya Upaniṣad(ChU)先学期講読範囲のまとめ	9. ChU 5.19-24 献供による五種氣息の供養																				
2. ChU 5.1 人体諸機能の優位争い	10. ChU 6.1-2 ウッターラカ・アールニによる「有」(sat)の哲学																				
3. ChU 5.2 氣息への供養	11. ChU 6.3-4 三原理による万物の構成																				
4. ChU 5.3 プラヴァーハナ王とウッターラカ・アールニ	12. ChU 6.5-8 人体と三原理																				
5. ChU 5.4-9 五火説	13. ChU 6.5.9-11 有からの派生と有への還元																				
6. ChU 5.5-10 二道説	14. ChU 6.12-13 有に気づく実験																				
7. ChU 5.11-13 アシュヴァパティ王とバラモンたち	15. ChU 6.14-15 有との合一こそ真実																				
8. ChU 5.14-18 アシュヴァパティ王の「遍満するアートルマン」説																					
◇ 成績評価の方法	出席 (30%) および授業で示される理解度 (70%)																				
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まずM. Monier Williams, Sanskrit English Dictionaryをもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。(Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch; Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen等)																				
◇ 授業時間外学習	辞書と文法書を頼りに、一つ一つの単語の語形を確かめたうえで適切な意味を考え、文章の翻訳を行ったうえで授業に臨むこと。ただし準備が不完全で調べがつかなかった箇所があっても、授業に出席して疑問点を討議し、授業の後には復習して理解することが大事である。																				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ ン ド 仏 教 史 各 論 History of Indian Buddhism (Special Lecture)	2	教授 桜 井 宗 信	5	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI304J																				
◆ 授業題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読																				
◆ 目的・概要	チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya派の第3代管長を務めたbSod nams rtse moの代表作『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。																				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 『タントラ概論』 講読 -1-</td> <td>9. 『タントラ概論』 講読 -9-</td> </tr> <tr> <td>2. 『タントラ概論』 講読 -2-</td> <td>10. 『タントラ概論』 講読 -10-</td> </tr> <tr> <td>3. 『タントラ概論』 講読 -3-</td> <td>11. 『タントラ概論』 講読 -11-</td> </tr> <tr> <td>4. 『タントラ概論』 講読 -4-</td> <td>12. 『タントラ概論』 講読 -12-</td> </tr> <tr> <td>5. 『タントラ概論』 講読 -5-</td> <td>13. 『タントラ概論』 講読 -13-</td> </tr> <tr> <td>6. 『タントラ概論』 講読 -6-</td> <td>14. 『タントラ概論』 講読 -14-</td> </tr> <tr> <td>7. 『タントラ概論』 講読 -7-</td> <td>15. 『タントラ概論』 講読 -15-</td> </tr> <tr> <td>8. 『タントラ概論』 講読 -8-</td> <td></td> </tr> </table>					1. 『タントラ概論』 講読 -1-	9. 『タントラ概論』 講読 -9-	2. 『タントラ概論』 講読 -2-	10. 『タントラ概論』 講読 -10-	3. 『タントラ概論』 講読 -3-	11. 『タントラ概論』 講読 -11-	4. 『タントラ概論』 講読 -4-	12. 『タントラ概論』 講読 -12-	5. 『タントラ概論』 講読 -5-	13. 『タントラ概論』 講読 -13-	6. 『タントラ概論』 講読 -6-	14. 『タントラ概論』 講読 -14-	7. 『タントラ概論』 講読 -7-	15. 『タントラ概論』 講読 -15-	8. 『タントラ概論』 講読 -8-	
1. 『タントラ概論』 講読 -1-	9. 『タントラ概論』 講読 -9-																				
2. 『タントラ概論』 講読 -2-	10. 『タントラ概論』 講読 -10-																				
3. 『タントラ概論』 講読 -3-	11. 『タントラ概論』 講読 -11-																				
4. 『タントラ概論』 講読 -4-	12. 『タントラ概論』 講読 -12-																				
5. 『タントラ概論』 講読 -5-	13. 『タントラ概論』 講読 -13-																				
6. 『タントラ概論』 講読 -6-	14. 『タントラ概論』 講読 -14-																				
7. 『タントラ概論』 講読 -7-	15. 『タントラ概論』 講読 -15-																				
8. 『タントラ概論』 講読 -8-																					
◇ 成績評価の方法	○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa. 『Sa skya 派全書』 Vol.2 (東洋文庫刊), pp.1-37.																				
◇ 授業時間外学習	予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。																				
その他：「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ ン ド 仏 教 史 各 論 History of Indian Buddhism (Special Lecture)	2	教授 桜井宗信	6	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI304J																				
◆ 授業題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読																				
◆ 目的・概要	チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya派の第3代管長を務めたbSod nams rtse moの代表作『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。																				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 『タントラ概論』講読 -1-</td> <td>9. 『タントラ概論』講読 -9-</td> </tr> <tr> <td>2. 『タントラ概論』講読 -2-</td> <td>10. 『タントラ概論』講読 -10-</td> </tr> <tr> <td>3. 『タントラ概論』講読 -3-</td> <td>11. 『タントラ概論』講読 -11-</td> </tr> <tr> <td>4. 『タントラ概論』講読 -4-</td> <td>12. 『タントラ概論』講読 -12-</td> </tr> <tr> <td>5. 『タントラ概論』講読 -5-</td> <td>13. 『タントラ概論』講読 -13-</td> </tr> <tr> <td>6. 『タントラ概論』講読 -6-</td> <td>14. 『タントラ概論』講読 -14-</td> </tr> <tr> <td>7. 『タントラ概論』講読 -7-</td> <td>15. 『タントラ概論』講読 -15-</td> </tr> <tr> <td>8. 『タントラ概論』講読 -8-</td> <td></td> </tr> </table>					1. 『タントラ概論』講読 -1-	9. 『タントラ概論』講読 -9-	2. 『タントラ概論』講読 -2-	10. 『タントラ概論』講読 -10-	3. 『タントラ概論』講読 -3-	11. 『タントラ概論』講読 -11-	4. 『タントラ概論』講読 -4-	12. 『タントラ概論』講読 -12-	5. 『タントラ概論』講読 -5-	13. 『タントラ概論』講読 -13-	6. 『タントラ概論』講読 -6-	14. 『タントラ概論』講読 -14-	7. 『タントラ概論』講読 -7-	15. 『タントラ概論』講読 -15-	8. 『タントラ概論』講読 -8-	
1. 『タントラ概論』講読 -1-	9. 『タントラ概論』講読 -9-																				
2. 『タントラ概論』講読 -2-	10. 『タントラ概論』講読 -10-																				
3. 『タントラ概論』講読 -3-	11. 『タントラ概論』講読 -11-																				
4. 『タントラ概論』講読 -4-	12. 『タントラ概論』講読 -12-																				
5. 『タントラ概論』講読 -5-	13. 『タントラ概論』講読 -13-																				
6. 『タントラ概論』講読 -6-	14. 『タントラ概論』講読 -14-																				
7. 『タントラ概論』講読 -7-	15. 『タントラ概論』講読 -15-																				
8. 『タントラ概論』講読 -8-																					
◇ 成績評価の方法	○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol.2 (東洋文庫刊), pp.1-37.																				
◇ 授業時間外学習	予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。																				
その他：「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ ン ド 仏 教 史 各 論 History of Indian Buddhism (Special Lecture)	2	非常勤講師 久保田 力	集 中 (6)																		
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI304J																				
◆ 授業題目	中期大乘仏教思想研究																				
◆ 目的・概要	中期大乘仏教思想を代表する『入楞伽經』(Laṅkāvatāra-Sūtra)の解説作業を中に、唯識思想、中観思想、そして如来蔵思想の融合を図った本経典の特徴を学習し、最も思想的に円熟した時期とも捉えることのできる中期大乘仏教思想の基本的な理解を目指す。『勝鬘經』や『宝性論』等も視野に入れる。拙論をベースにする。																				
◆ 到達目標	唯識思想、中観思想、如来蔵思想に関する基礎的理解を深める。それと同時に、後期密教思想へのつながりや、逆に、ヴェーダ等の古代インド思想との関連性についての気づきを発見する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 中期大乘仏教思想とは何か</td> <td>9. 同；読解の試み5</td> </tr> <tr> <td>2. 『入楞伽經』について～概論～</td> <td>10. ヴェーダ以来のマナスの特性について—古代インドの靈魂観から—1</td> </tr> <tr> <td>3. 『入楞伽經』の成立過程について</td> <td>11. 同；2</td> </tr> <tr> <td>4. 『入楞伽經』の「意成身」について</td> <td>12. 「靈魂」信仰とは何か—アニミズムの基本的論理—</td> </tr> <tr> <td>5. 同；読解の試み1</td> <td>13. マナ識について</td> </tr> <tr> <td>6. 同；読解の試み2</td> <td>14. 如来蔵思想の無漏縁起説—『宝性論』を中心に—1</td> </tr> <tr> <td>7. 同；読解の試み3</td> <td>15. 同；2</td> </tr> <tr> <td>8. 同；読解の試み4</td> <td></td> </tr> </table>					1. 中期大乘仏教思想とは何か	9. 同；読解の試み5	2. 『入楞伽經』について～概論～	10. ヴェーダ以来のマナスの特性について—古代インドの靈魂観から—1	3. 『入楞伽經』の成立過程について	11. 同；2	4. 『入楞伽經』の「意成身」について	12. 「靈魂」信仰とは何か—アニミズムの基本的論理—	5. 同；読解の試み1	13. マナ識について	6. 同；読解の試み2	14. 如来蔵思想の無漏縁起説—『宝性論』を中心に—1	7. 同；読解の試み3	15. 同；2	8. 同；読解の試み4	
1. 中期大乘仏教思想とは何か	9. 同；読解の試み5																				
2. 『入楞伽經』について～概論～	10. ヴェーダ以来のマナスの特性について—古代インドの靈魂観から—1																				
3. 『入楞伽經』の成立過程について	11. 同；2																				
4. 『入楞伽經』の「意成身」について	12. 「靈魂」信仰とは何か—アニミズムの基本的論理—																				
5. 同；読解の試み1	13. マナ識について																				
6. 同；読解の試み2	14. 如来蔵思想の無漏縁起説—『宝性論』を中心に—1																				
7. 同；読解の試み3	15. 同；2																				
8. 同；読解の試み4																					
◇ 成績評価の方法	●出席70% ●授業中に示される理解度30%																				
◇ 教科書・参考書	読解のテキストとして南条文雄校訂『梵文入楞伽經』(1956)を使用する。 適宜チベット訳、漢訳を使用する。『新国訳大蔵經(楞伽經)』大蔵出版、2015。 論考の素材として久保田執筆の論文を使用する。「如来蔵思想の無漏縁起説—『宝性論』の四障・三雑染説をめぐって—」『東北芸術工科大学紀要』第6号、pp.4~26、1999。「マナス(こころ)の原風景(下)—『リグ・ヴェーダ』・トリックスターの誕生—」『東北芸術工科大学紀要』第1号、pp.34~83、1993。「マナスのトリックスター性(II)—意成身の系譜と『楞伽經』—」、『東北芸術工科大学紀要』第5号、pp.14~69、1998等。																				
◇ 授業時間外学習	事前に、テキストの指定箇所や拙論等の資料を読んでおくこと。																				
その他：「授業内容・目的・方法」で記した内容はおおよその予定であり、受講者の反応等により変更する場合がある。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ ン ド 学 演 習 Indological Studies (Seminar)	2	教授 吉水清孝	5	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI311J																				
◆ 授業題目	インド哲学文献研究(1)																				
◆ 目的・概要	ヒンドゥー教徒の生活規範を集大成したインドの伝統的法典のうち最も有名な『マヌ法典』には、数々の註釈が著されたが、9世紀カシミール地方の人メーダーティティ (Medhātithi) が著した『マヌ法典註』(Manubhāṣya) は、全体が現存する註釈として最も古く、分量的にも最も大部である。今学期は第4章の一部を読み、インドの伝統的家長の日常生活における行動規範を理解する。																				
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、授業中の輪読により註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション: 『マヌ法典』(Mn) の成立と構成</td> <td>9. その他のヴェーダ祭式</td> </tr> <tr> <td>2. 「沐浴者」(模範的家長) の誓戒 (Mn 4.13)</td> <td>10. 新穀祭と家畜犠牲祭の意義</td> </tr> <tr> <td>3. 自己の職務の遂行</td> <td>11. 賓客 (atithi) のもてなし</td> </tr> <tr> <td>4. 快樂耽溺の禁止</td> <td>12. 敬うべきでない者</td> </tr> <tr> <td>5. ヴェーダ読詠と教授の意義</td> <td>13. 乞食者と生類への施し</td> </tr> <tr> <td>6. 言葉使いと身なり</td> <td>14. 謝礼の請求</td> </tr> <tr> <td>7. 日常の五大供儀</td> <td>15. 知識の意義</td> </tr> <tr> <td>8. ヴェーダ基本祭式</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション: 『マヌ法典』(Mn) の成立と構成	9. その他のヴェーダ祭式	2. 「沐浴者」(模範的家長) の誓戒 (Mn 4.13)	10. 新穀祭と家畜犠牲祭の意義	3. 自己の職務の遂行	11. 賓客 (atithi) のもてなし	4. 快樂耽溺の禁止	12. 敬うべきでない者	5. ヴェーダ読詠と教授の意義	13. 乞食者と生類への施し	6. 言葉使いと身なり	14. 謝礼の請求	7. 日常の五大供儀	15. 知識の意義	8. ヴェーダ基本祭式	
1. イントロダクション: 『マヌ法典』(Mn) の成立と構成	9. その他のヴェーダ祭式																				
2. 「沐浴者」(模範的家長) の誓戒 (Mn 4.13)	10. 新穀祭と家畜犠牲祭の意義																				
3. 自己の職務の遂行	11. 賓客 (atithi) のもてなし																				
4. 快樂耽溺の禁止	12. 敬うべきでない者																				
5. ヴェーダ読詠と教授の意義	13. 乞食者と生類への施し																				
6. 言葉使いと身なり	14. 謝礼の請求																				
7. 日常の五大供儀	15. 知識の意義																				
8. ヴェーダ基本祭式																					
◇ 成績評価の方法	出席 (30%) および授業で示される理解度 (70%)																				
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まずM. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。(Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch; Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen 等)																				
◇ 授業時間外学習	辞書と文法書を頼りに、一つ一つの単語の語形を確かめたうえで適切な意味を考え、文章の翻訳を行ったうえで授業に臨むこと。ただし準備が不完全で調べがつかない個所があっても、授業に出席して疑問点を討議し、授業の後には復習して理解することが大事である。																				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ ン ド 学 演 習 Indological Studies (Seminar)	2	教授 吉水清孝	6	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI311J																				
◆ 授業題目	インド哲学文献研究(2)																				
◆ 目的・概要	ヴェーダーンタ学派は宇宙の精神ブラフマンからの世界の派生を説き、ブラフマンとの合一を目指す宗教哲学の学派であるが、人生の生き方、特に世俗社会との関わり方を巡っては、初期の時代から内部で意見対立があった。今学期は、この学派の根本綱要 Brahmasūtra の第3巻第4章前半を、シャンカラの注釈とともに講読し、ヴェーダーンタ学派の人生観を考察する。																				
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、授業中の輪読により註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション: Brahmasūtra 概観</td> <td>9. 知行併合の意味 (続)</td> </tr> <tr> <td>2. 「自己認識の意義は解脱の達成」説 (バーダラーヤナ)</td> <td>10. 出家遊行の正当性</td> </tr> <tr> <td>3. 「自己認識の意義は祭事の補助」説 (ジャイミニ)</td> <td>11. 出家遊行の正当性の典拠</td> </tr> <tr> <td>4. ジャイミニ説の擁護</td> <td>12. 「出家遊行に典拠なし」説 (ジャイミニ)</td> </tr> <tr> <td>5. ジャイミニ説の擁護 (続)</td> <td>13. 「出家遊行に典拠あり」説 (バーダラーヤナ)</td> </tr> <tr> <td>6. その批判とバーダラーヤナ説の擁護</td> <td>14. 出家遊行を命ずるヴェーダ文の例</td> </tr> <tr> <td>7. バーダラーヤナ説の擁護 (続)</td> <td>15. 出家遊行を命ずるヴェーダ文の例 (続)</td> </tr> <tr> <td>8. 知行併合の意味</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション: Brahmasūtra 概観	9. 知行併合の意味 (続)	2. 「自己認識の意義は解脱の達成」説 (バーダラーヤナ)	10. 出家遊行の正当性	3. 「自己認識の意義は祭事の補助」説 (ジャイミニ)	11. 出家遊行の正当性の典拠	4. ジャイミニ説の擁護	12. 「出家遊行に典拠なし」説 (ジャイミニ)	5. ジャイミニ説の擁護 (続)	13. 「出家遊行に典拠あり」説 (バーダラーヤナ)	6. その批判とバーダラーヤナ説の擁護	14. 出家遊行を命ずるヴェーダ文の例	7. バーダラーヤナ説の擁護 (続)	15. 出家遊行を命ずるヴェーダ文の例 (続)	8. 知行併合の意味	
1. イントロダクション: Brahmasūtra 概観	9. 知行併合の意味 (続)																				
2. 「自己認識の意義は解脱の達成」説 (バーダラーヤナ)	10. 出家遊行の正当性																				
3. 「自己認識の意義は祭事の補助」説 (ジャイミニ)	11. 出家遊行の正当性の典拠																				
4. ジャイミニ説の擁護	12. 「出家遊行に典拠なし」説 (ジャイミニ)																				
5. ジャイミニ説の擁護 (続)	13. 「出家遊行に典拠あり」説 (バーダラーヤナ)																				
6. その批判とバーダラーヤナ説の擁護	14. 出家遊行を命ずるヴェーダ文の例																				
7. バーダラーヤナ説の擁護 (続)	15. 出家遊行を命ずるヴェーダ文の例 (続)																				
8. 知行併合の意味																					
◇ 成績評価の方法	出席 (30%) および授業で示される理解度 (70%)																				
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まずM. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。(Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch; Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen 等)																				
◇ 授業時間外学習	辞書と文法書を頼りに、一つ一つの単語の語形を確かめたうえで適切な意味を考え、文章の翻訳を行ったうえで授業に臨むこと。ただし準備が不完全で調べがつかない個所があっても、授業に出席して疑問点を討議し、授業の後には復習して理解することが大事である。																				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ ン ド 仏 教 史 演 習 History of Indian Buddhism (Seminar)	2	教授 桜井宗信	5	月	3																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMPHI312J 梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読 Vasubandhu (世親)の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。この授業では前年に引き続き、同書第2章(「根品」)の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読しVasubandhuの考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。																				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。																				
	<table border="0"> <tr> <td>1. 『俱舎論』 講読 -1-</td> <td>9. 『俱舎論』 講読 -9-</td> </tr> <tr> <td>2. 『俱舎論』 講読 -2-</td> <td>10. 『俱舎論』 講読 -10-</td> </tr> <tr> <td>3. 『俱舎論』 講読 -3-</td> <td>11. 『俱舎論』 講読 -11-</td> </tr> <tr> <td>4. 『俱舎論』 講読 -4-</td> <td>12. 『俱舎論』 講読 -12-</td> </tr> <tr> <td>5. 『俱舎論』 講読 -5-</td> <td>13. 『俱舎論』 講読 -13-</td> </tr> <tr> <td>6. 『俱舎論』 講読 -6-</td> <td>14. 『俱舎論』 講読 -14-</td> </tr> <tr> <td>7. 『俱舎論』 講読 -7-</td> <td>15. 『俱舎論』 講読 -15-</td> </tr> <tr> <td>8. 『俱舎論』 講読 -8-</td> <td></td> </tr> </table>					1. 『俱舎論』 講読 -1-	9. 『俱舎論』 講読 -9-	2. 『俱舎論』 講読 -2-	10. 『俱舎論』 講読 -10-	3. 『俱舎論』 講読 -3-	11. 『俱舎論』 講読 -11-	4. 『俱舎論』 講読 -4-	12. 『俱舎論』 講読 -12-	5. 『俱舎論』 講読 -5-	13. 『俱舎論』 講読 -13-	6. 『俱舎論』 講読 -6-	14. 『俱舎論』 講読 -14-	7. 『俱舎論』 講読 -7-	15. 『俱舎論』 講読 -15-	8. 『俱舎論』 講読 -8-	
1. 『俱舎論』 講読 -1-	9. 『俱舎論』 講読 -9-																				
2. 『俱舎論』 講読 -2-	10. 『俱舎論』 講読 -10-																				
3. 『俱舎論』 講読 -3-	11. 『俱舎論』 講読 -11-																				
4. 『俱舎論』 講読 -4-	12. 『俱舎論』 講読 -12-																				
5. 『俱舎論』 講読 -5-	13. 『俱舎論』 講読 -13-																				
6. 『俱舎論』 講読 -6-	14. 『俱舎論』 講読 -14-																				
7. 『俱舎論』 講読 -7-	15. 『俱舎論』 講読 -15-																				
8. 『俱舎論』 講読 -8-																					
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書	○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%] 用いる基本資料は次の通り： ・梵文原典：Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P.Pradhan, Patna, 1967. ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』(玄奘訳)；『阿毘達磨俱舎釈論』(真谛訳)。 ※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。																				
◇ 授業時間外学習	予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。																				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ ン ド 仏 教 史 演 習 History of Indian Buddhism (Seminar)	2	教授 桜井宗信	6	月	3																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMPHI312J 梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読 Vasubandhu (世親)の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。この授業では前期に引き続き、同書第2章(「根品」)の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読しVasubandhuの考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。																				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。																				
	<table border="0"> <tr> <td>1. 『俱舎論』 講読 -1-</td> <td>9. 『俱舎論』 講読 -9-</td> </tr> <tr> <td>2. 『俱舎論』 講読 -2-</td> <td>10. 『俱舎論』 講読 -10-</td> </tr> <tr> <td>3. 『俱舎論』 講読 -3-</td> <td>11. 『俱舎論』 講読 -11-</td> </tr> <tr> <td>4. 『俱舎論』 講読 -4-</td> <td>12. 『俱舎論』 講読 -12-</td> </tr> <tr> <td>5. 『俱舎論』 講読 -5-</td> <td>13. 『俱舎論』 講読 -13-</td> </tr> <tr> <td>6. 『俱舎論』 講読 -6-</td> <td>14. 『俱舎論』 講読 -14-</td> </tr> <tr> <td>7. 『俱舎論』 講読 -7-</td> <td>15. 『俱舎論』 講読 -15-</td> </tr> <tr> <td>8. 『俱舎論』 講読 -8-</td> <td></td> </tr> </table>					1. 『俱舎論』 講読 -1-	9. 『俱舎論』 講読 -9-	2. 『俱舎論』 講読 -2-	10. 『俱舎論』 講読 -10-	3. 『俱舎論』 講読 -3-	11. 『俱舎論』 講読 -11-	4. 『俱舎論』 講読 -4-	12. 『俱舎論』 講読 -12-	5. 『俱舎論』 講読 -5-	13. 『俱舎論』 講読 -13-	6. 『俱舎論』 講読 -6-	14. 『俱舎論』 講読 -14-	7. 『俱舎論』 講読 -7-	15. 『俱舎論』 講読 -15-	8. 『俱舎論』 講読 -8-	
1. 『俱舎論』 講読 -1-	9. 『俱舎論』 講読 -9-																				
2. 『俱舎論』 講読 -2-	10. 『俱舎論』 講読 -10-																				
3. 『俱舎論』 講読 -3-	11. 『俱舎論』 講読 -11-																				
4. 『俱舎論』 講読 -4-	12. 『俱舎論』 講読 -12-																				
5. 『俱舎論』 講読 -5-	13. 『俱舎論』 講読 -13-																				
6. 『俱舎論』 講読 -6-	14. 『俱舎論』 講読 -14-																				
7. 『俱舎論』 講読 -7-	15. 『俱舎論』 講読 -15-																				
8. 『俱舎論』 講読 -8-																					
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書	○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%] 用いる基本資料は次の通り： ・梵文原典：Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P.Pradhan, Patna, 1967. ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』(玄奘訳)；『阿毘達磨俱舎釈論』(真谛訳)。 ※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。																				
◇ 授業時間外学習	予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。																				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 文 学 概 論 English Literature (General Lecture)	2	准教授 岩 田 美 喜	3	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT203J																				
◆ 授業題目	シェイクスピア入門																				
◆ 目的・概要	イギリス演劇のみならず、イギリス文学を通して必須の教養であるシェイクスピアについて講義を行います。彼の戯曲のうち代表的な4本の作品を取り上げ、これを具体的に読むことを通じて、イギリス演劇に関する基礎知識を学ぶとともに、文学テキストを批評的に分析する鑑賞眼を育てます。																				
◆ 到達目標	1) シェイクスピアの作品に触れ、イギリス演劇の基礎知識を学ぶ 2) 文学テキストの英語を読む読解力を育てる 3) 文学テキストを批評的に読む態度を身に付ける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. エリザベス朝の演劇について</td> <td>9. シェイクスピアの悲劇：『リア王』(1)</td> </tr> <tr> <td>2. ウィリアム・シェイクスピア (1564-1616) について</td> <td>10. シェイクスピアの悲劇：『リア王』(2)</td> </tr> <tr> <td>3. シェイクスピアの歴史劇：『ヘンリー5世』(1)</td> <td>11. シェイクスピアの悲劇：『リア王』(3)</td> </tr> <tr> <td>4. シェイクスピアの歴史劇：『ヘンリー5世』(2)</td> <td>12. シェイクスピアのロマンス劇：『冬物語』(1)</td> </tr> <tr> <td>5. シェイクスピアの歴史劇：『ヘンリー5世』(3)</td> <td>13. シェイクスピアのロマンス劇：『冬物語』(2)</td> </tr> <tr> <td>6. シェイクスピアの喜劇：『お気に召すまま』(1)</td> <td>14. シェイクスピアのロマンス劇：『冬物語』(3)</td> </tr> <tr> <td>7. シェイクスピアの喜劇：『お気に召すまま』(2)</td> <td>15. シェイクスピア演劇の世界観についてまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. シェイクスピアの喜劇：『お気に召すまま』(3)</td> <td></td> </tr> </table>					1. エリザベス朝の演劇について	9. シェイクスピアの悲劇：『リア王』(1)	2. ウィリアム・シェイクスピア (1564-1616) について	10. シェイクスピアの悲劇：『リア王』(2)	3. シェイクスピアの歴史劇：『ヘンリー5世』(1)	11. シェイクスピアの悲劇：『リア王』(3)	4. シェイクスピアの歴史劇：『ヘンリー5世』(2)	12. シェイクスピアのロマンス劇：『冬物語』(1)	5. シェイクスピアの歴史劇：『ヘンリー5世』(3)	13. シェイクスピアのロマンス劇：『冬物語』(2)	6. シェイクスピアの喜劇：『お気に召すまま』(1)	14. シェイクスピアのロマンス劇：『冬物語』(3)	7. シェイクスピアの喜劇：『お気に召すまま』(2)	15. シェイクスピア演劇の世界観についてまとめ	8. シェイクスピアの喜劇：『お気に召すまま』(3)	
1. エリザベス朝の演劇について	9. シェイクスピアの悲劇：『リア王』(1)																				
2. ウィリアム・シェイクスピア (1564-1616) について	10. シェイクスピアの悲劇：『リア王』(2)																				
3. シェイクスピアの歴史劇：『ヘンリー5世』(1)	11. シェイクスピアの悲劇：『リア王』(3)																				
4. シェイクスピアの歴史劇：『ヘンリー5世』(2)	12. シェイクスピアのロマンス劇：『冬物語』(1)																				
5. シェイクスピアの歴史劇：『ヘンリー5世』(3)	13. シェイクスピアのロマンス劇：『冬物語』(2)																				
6. シェイクスピアの喜劇：『お気に召すまま』(1)	14. シェイクスピアのロマンス劇：『冬物語』(3)																				
7. シェイクスピアの喜劇：『お気に召すまま』(2)	15. シェイクスピア演劇の世界観についてまとめ																				
8. シェイクスピアの喜劇：『お気に召すまま』(3)																					
◇ 成績評価の方法	中間レポート (50%) および期末レポート (50%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は指定せず、授業時に教員がハンドアウトを配ります。 参考書：日本シェイクスピア協会 (編) 『新編シェイクスピア案内』 (研究社) 高橋康成・河合祥一郎・野田学 (編) 『シェイクスピアへの架け橋』 (東京大学出版会) (その他、より専門的な参考書は、授業時に適宜教員が示します。)																				
◇ 授業時間外学習	授業は講義形式で進むので、特に具体的な毎回の予習は必要ありませんが、レポート作成時には図書館等で関連文献を自分で調べ、授業内容を発展させた自分なりの考えを書けるようにしてください。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 文 学 概 論 English Literature (General Lecture)	2	准教授 岩 田 美 喜	4	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT203J																				
◆ 授業題目	ジャコビアン演劇入門																				
◆ 目的・概要	1603年のジェイムズ1世即位から内乱勃発の1642年頃までを、ゆるやかに「ジャコビアン」と言います。この時代は、シェイクスピア時代の盛期ルネサンス文化を引き継ぎながらも、ロンドンの都市化や植民地の権益を巡る外交問題などを受けて文学にも新たな展開が見られました。本講義では、ベン・ジョンソン、トマス・ミドルトン、ジョン・ウェブスターなど、この時期を代表する劇作家の作品を取り上げ、これを具体的に読むことを通じて、イギリス演劇に関する基礎知識を学ぶとともに、文学テキストを批評的に分析する鑑賞眼を育てます。																				
◆ 到達目標	1) ジャコビアン期の演劇作品に触れ、イギリス演劇の基礎知識を学ぶ 2) 文学テキストの英語を読む読解力を育てる 3) 文学テキストを批評的に読む態度を身に付ける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ジャコビアン期の社会と文化について</td> <td>9. 復讐悲劇—トマス・ミドルトン『復讐者の悲劇』(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 都市喜劇—ベン・ジョンソン『錬金術師』(1)</td> <td>10. ジャコビアン悲劇—ジョン・ウェブスター『モルフィ公爵夫人』(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 都市喜劇—ベン・ジョンソン『錬金術師』(2)</td> <td>11. ジャコビアン悲劇—ジョン・ウェブスター『モルフィ公爵夫人』(2)</td> </tr> <tr> <td>4. 都市喜劇—トマス・ミドルトン『チープ・サイドの貞淑な乙女』(1)</td> <td>12. ロマンス劇—ボーモントとフレッチャー『島の王女』(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 都市喜劇—トマス・ミドルトン『チープ・サイドの貞淑な乙女』(2)</td> <td>13. ロマンス劇—ボーモントとフレッチャー『島の王女』(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 都市喜劇—デッカーとミドルトン『ロアリング・ガール』(1)</td> <td>14. カロライン悲劇—ジョン・フォード『あわれ彼女は娼婦』(1)</td> </tr> <tr> <td>7. 都市喜劇—デッカーとミドルトン『ロアリング・ガール』(2)</td> <td>15. カロライン悲劇—ジョン・フォード『あわれ彼女は娼婦』(2)</td> </tr> <tr> <td>8. 復讐悲劇—トマス・ミドルトン『復讐者の悲劇』(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ジャコビアン期の社会と文化について	9. 復讐悲劇—トマス・ミドルトン『復讐者の悲劇』(2)	2. 都市喜劇—ベン・ジョンソン『錬金術師』(1)	10. ジャコビアン悲劇—ジョン・ウェブスター『モルフィ公爵夫人』(1)	3. 都市喜劇—ベン・ジョンソン『錬金術師』(2)	11. ジャコビアン悲劇—ジョン・ウェブスター『モルフィ公爵夫人』(2)	4. 都市喜劇—トマス・ミドルトン『チープ・サイドの貞淑な乙女』(1)	12. ロマンス劇—ボーモントとフレッチャー『島の王女』(1)	5. 都市喜劇—トマス・ミドルトン『チープ・サイドの貞淑な乙女』(2)	13. ロマンス劇—ボーモントとフレッチャー『島の王女』(2)	6. 都市喜劇—デッカーとミドルトン『ロアリング・ガール』(1)	14. カロライン悲劇—ジョン・フォード『あわれ彼女は娼婦』(1)	7. 都市喜劇—デッカーとミドルトン『ロアリング・ガール』(2)	15. カロライン悲劇—ジョン・フォード『あわれ彼女は娼婦』(2)	8. 復讐悲劇—トマス・ミドルトン『復讐者の悲劇』(1)	
1. ジャコビアン期の社会と文化について	9. 復讐悲劇—トマス・ミドルトン『復讐者の悲劇』(2)																				
2. 都市喜劇—ベン・ジョンソン『錬金術師』(1)	10. ジャコビアン悲劇—ジョン・ウェブスター『モルフィ公爵夫人』(1)																				
3. 都市喜劇—ベン・ジョンソン『錬金術師』(2)	11. ジャコビアン悲劇—ジョン・ウェブスター『モルフィ公爵夫人』(2)																				
4. 都市喜劇—トマス・ミドルトン『チープ・サイドの貞淑な乙女』(1)	12. ロマンス劇—ボーモントとフレッチャー『島の王女』(1)																				
5. 都市喜劇—トマス・ミドルトン『チープ・サイドの貞淑な乙女』(2)	13. ロマンス劇—ボーモントとフレッチャー『島の王女』(2)																				
6. 都市喜劇—デッカーとミドルトン『ロアリング・ガール』(1)	14. カロライン悲劇—ジョン・フォード『あわれ彼女は娼婦』(1)																				
7. 都市喜劇—デッカーとミドルトン『ロアリング・ガール』(2)	15. カロライン悲劇—ジョン・フォード『あわれ彼女は娼婦』(2)																				
8. 復讐悲劇—トマス・ミドルトン『復讐者の悲劇』(1)																					
◇ 成績評価の方法	中間レポート (50%) および期末レポート (50%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は指定せず、授業時に教員がハンドアウトを配ります。参考書は、授業時に適宜教員が示します。																				
◇ 授業時間外学習	授業は講義形式で進むので、特に具体的な毎回の予習は必要ありませんが、レポート作成時には図書館等で関連文献を自分で調べ、授業内容を発展させた自分なりの考えを書けるようにしてください。																				
その他：この授業は単独で受講できますが、内容的には3セメスターの「シェイクスピア入門」から連続しています。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 文 学 基 礎 講 読 I English Literature (Introductory Reading) I	2	教授 大河内 昌	3	木	1																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT215J																				
◆ 授業題目	George Orwell, <i>Animal Farm</i>																				
◆ 目的・概要	20世紀イギリスの作家 George Orwell の <i>Animal Farm</i> を精読します。この小説は社会主義革命が最終的に圧制におわる過程を描いた政治的寓話です。作品読解をとおりて政治と文学、アレゴリーという文学技法の問題などを考察してゆきます。最初は訳読しますが、オーウェルの英文に慣れてきたら要約しながら進めてゆきます。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。																				
◆ 到達目標	(1)小説の英語を読解する力を身につける (2)小説分析の技法を身につける (3)発表力を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. インTRODクシヨN</td> <td>9. <i>Animal Farm</i>, Chapter VIII (1)</td> </tr> <tr> <td>2. <i>Animal Farm</i>, Chapter I</td> <td>10. <i>Animal Farm</i>, Chapter VIII (2)</td> </tr> <tr> <td>3. <i>Animal Farm</i>, Chapter II</td> <td>11. <i>Animal Farm</i>, Chapter IX (1)</td> </tr> <tr> <td>4. <i>Animal Farm</i>, Chapter III</td> <td>12. <i>Animal Farm</i>, Chapter IX (2)</td> </tr> <tr> <td>5. <i>Animal Farm</i>, Chapter IV</td> <td>13. <i>Animal Farm</i>, Chapter X (1)</td> </tr> <tr> <td>6. <i>Animal Farm</i>, Chapter V</td> <td>14. <i>Animal Farm</i>, Chapter X (2)</td> </tr> <tr> <td>7. <i>Animal Farm</i>, Chapter VI</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. <i>Animal Farm</i>, Chapter VII</td> <td></td> </tr> </table>					1. インTRODクシヨN	9. <i>Animal Farm</i> , Chapter VIII (1)	2. <i>Animal Farm</i> , Chapter I	10. <i>Animal Farm</i> , Chapter VIII (2)	3. <i>Animal Farm</i> , Chapter II	11. <i>Animal Farm</i> , Chapter IX (1)	4. <i>Animal Farm</i> , Chapter III	12. <i>Animal Farm</i> , Chapter IX (2)	5. <i>Animal Farm</i> , Chapter IV	13. <i>Animal Farm</i> , Chapter X (1)	6. <i>Animal Farm</i> , Chapter V	14. <i>Animal Farm</i> , Chapter X (2)	7. <i>Animal Farm</i> , Chapter VI	15. まとめと試験	8. <i>Animal Farm</i> , Chapter VII	
1. インTRODクシヨN	9. <i>Animal Farm</i> , Chapter VIII (1)																				
2. <i>Animal Farm</i> , Chapter I	10. <i>Animal Farm</i> , Chapter VIII (2)																				
3. <i>Animal Farm</i> , Chapter II	11. <i>Animal Farm</i> , Chapter IX (1)																				
4. <i>Animal Farm</i> , Chapter III	12. <i>Animal Farm</i> , Chapter IX (2)																				
5. <i>Animal Farm</i> , Chapter IV	13. <i>Animal Farm</i> , Chapter X (1)																				
6. <i>Animal Farm</i> , Chapter V	14. <i>Animal Farm</i> , Chapter X (2)																				
7. <i>Animal Farm</i> , Chapter VI	15. まとめと試験																				
8. <i>Animal Farm</i> , Chapter VII																					
◇ 成績評価の方法	発表50%・試験50%																				
◇ 教科書・参考書	George Orwell, <i>Animal Farm</i> (Penguin Books)																				
◇ 授業時間外学習	予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。																				
その他：オフィスアワー：火曜日午後4時～5時30分、その他アポイントメントで随時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 文 学 基 礎 講 読 II English Literature (Introductory Reading) II	2	教授 大河内 昌	4	木	1																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT216J																				
◆ 授業題目	20世紀の英詩を読む																				
◆ 目的・概要	T. S. Eliotの作品を中心とした20世紀英詩を精読します。Eliotの代表作である『荒地』(<i>The Wasteland</i>)その他の詩を取り上げる予定です。また、後半ではEliot以外のモダニズム詩人の作品をいくつか読む予定です。Eliotの英語はけっしてやさしくはありませんし、詩を読みなれていない学生にはかなりの難物かもしれません。しかし、彼の作品に関しては参考書や翻訳がたくさんあります。それらを参考にしながら、英文学を代表する名作の英語を「精読」する醍醐味を味わって欲しいと考えています。授業では、毎回3人程度の担当者を決めて発表してもらいます。担当者は担当箇所を和訳・解説し、批評的なコメントを加えてください。																				
◆ 到達目標	(1)イギリス詩を読解する英語に基礎力を養う (2)詩作品を分析的に精読する方法を身につける (3)論理的に議論を組み立てる方法を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. インTRODクシヨN</td> <td>9. T. S. Eliot, "Portrait of a Lady"</td> </tr> <tr> <td>2. T. S. Eliot, <i>The Wasteland</i> (1)</td> <td>10. T. S. Eliot, "Gerontion"</td> </tr> <tr> <td>3. T. S. Eliot, <i>The Wasteland</i> (2)</td> <td>11. T. S. Eliot, "Sweeney Erect"</td> </tr> <tr> <td>4. T. S. Eliot, <i>The Wasteland</i> (3)</td> <td>12. Elizabeth Bishop, "In the Waiting Room"</td> </tr> <tr> <td>5. T. S. Eliot, <i>The Wasteland</i> (4)</td> <td>13. Robert Frost, "After Apple picking"</td> </tr> <tr> <td>6. T. S. Eliot, <i>The Wasteland</i> (5)</td> <td>14. W. H. Auden, "In Memory of W. B. Yeats"</td> </tr> <tr> <td>7. T. S. Eliot, <i>The Wasteland</i> (6)</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. T. S. Eliot, "The Love Song of J. Alfred Prufrock"</td> <td></td> </tr> </table>					1. インTRODクシヨN	9. T. S. Eliot, "Portrait of a Lady"	2. T. S. Eliot, <i>The Wasteland</i> (1)	10. T. S. Eliot, "Gerontion"	3. T. S. Eliot, <i>The Wasteland</i> (2)	11. T. S. Eliot, "Sweeney Erect"	4. T. S. Eliot, <i>The Wasteland</i> (3)	12. Elizabeth Bishop, "In the Waiting Room"	5. T. S. Eliot, <i>The Wasteland</i> (4)	13. Robert Frost, "After Apple picking"	6. T. S. Eliot, <i>The Wasteland</i> (5)	14. W. H. Auden, "In Memory of W. B. Yeats"	7. T. S. Eliot, <i>The Wasteland</i> (6)	15. まとめと試験	8. T. S. Eliot, "The Love Song of J. Alfred Prufrock"	
1. インTRODクシヨN	9. T. S. Eliot, "Portrait of a Lady"																				
2. T. S. Eliot, <i>The Wasteland</i> (1)	10. T. S. Eliot, "Gerontion"																				
3. T. S. Eliot, <i>The Wasteland</i> (2)	11. T. S. Eliot, "Sweeney Erect"																				
4. T. S. Eliot, <i>The Wasteland</i> (3)	12. Elizabeth Bishop, "In the Waiting Room"																				
5. T. S. Eliot, <i>The Wasteland</i> (4)	13. Robert Frost, "After Apple picking"																				
6. T. S. Eliot, <i>The Wasteland</i> (5)	14. W. H. Auden, "In Memory of W. B. Yeats"																				
7. T. S. Eliot, <i>The Wasteland</i> (6)	15. まとめと試験																				
8. T. S. Eliot, "The Love Song of J. Alfred Prufrock"																					
◇ 成績評価の方法	発表50%・試験50%																				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布します																				
◇ 授業時間外学習	予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。																				
その他：オフィスアワー：火曜日午後4時～5時30分、その他アポイントメントで随時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 文 学 ・ 英 語 学 基 礎 講 読 I English Literature and Linguistics (Introductory Reading) I	2	准教授 ティンク, ジェイムズ	3	木	3																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMLIT217E Reading Modernist Short Stories in English: Katherine Mansfield. In this course, we will study examples of modern English fiction by the author Katherine Mansfield (1888-1923). Originally born in New Zealand, Mansfield is associated with short story writing and the so-called Modernist movement in early twentieth-century Britain; we will read some of her most famous stories and consider how they help us to understand elements of literary fiction and the impact of Modernism on twentieth-century culture. In particular, we will consider the topics of national and post-colonial identity, gender, class and cultural issues around the time of the First World War, and the forms of experimentation and tradition in Mansfield's writing. Students will be asked to read at least one short story per-week in advance of the class, which will be used to for a short-lecture and group discussion. Assessment will be by short written assignments and a final exam on course content.																				
◆ 到達目標	1: To read and analyse short fiction written in English. 2: To introduce basic approaches to reading literary fiction. 3: To introduce aspects of modern world literature, especially Modernism. 4: To improve analytic and composition skills for studying in English.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction to Modernism and the English short story.</td> <td>9. 'The Garden Party', II</td> </tr> <tr> <td>2. Introduction to Reading Katherine Mansfield: 'How Pearl Button was Kidnapped.'</td> <td>10. 'The Voyage'</td> </tr> <tr> <td>3. 'The Woman at the Store'</td> <td>11. 'The Stranger'</td> </tr> <tr> <td>4. 'The Dill Pickle'</td> <td>12. 'A Married Man's Story'</td> </tr> <tr> <td>5. 'Bliss'</td> <td>13. 'A Fly'</td> </tr> <tr> <td>6. 'Miss Brill'</td> <td>14. Reviewing Mansfield and Modernism.</td> </tr> <tr> <td>7. 'The Daughters of the Late Colonel' Mid-semester test.</td> <td>15. Final Exam.</td> </tr> <tr> <td>8. 'The Garden Party', I</td> <td></td> </tr> </table>					1. Introduction to Modernism and the English short story.	9. 'The Garden Party', II	2. Introduction to Reading Katherine Mansfield: 'How Pearl Button was Kidnapped.'	10. 'The Voyage'	3. 'The Woman at the Store'	11. 'The Stranger'	4. 'The Dill Pickle'	12. 'A Married Man's Story'	5. 'Bliss'	13. 'A Fly'	6. 'Miss Brill'	14. Reviewing Mansfield and Modernism.	7. 'The Daughters of the Late Colonel' Mid-semester test.	15. Final Exam.	8. 'The Garden Party', I	
1. Introduction to Modernism and the English short story.	9. 'The Garden Party', II																				
2. Introduction to Reading Katherine Mansfield: 'How Pearl Button was Kidnapped.'	10. 'The Voyage'																				
3. 'The Woman at the Store'	11. 'The Stranger'																				
4. 'The Dill Pickle'	12. 'A Married Man's Story'																				
5. 'Bliss'	13. 'A Fly'																				
6. 'Miss Brill'	14. Reviewing Mansfield and Modernism.																				
7. 'The Daughters of the Late Colonel' Mid-semester test.	15. Final Exam.																				
8. 'The Garden Party', I																					
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	Final exam 40% Mid-term test 20%; two short assignments 40% Mansfield, Katherine. Selected Stories. Ed. Angela Smith. Oxford: Oxford UP, 2002. This course is intended to help students practice reading literary material in English. Each week, students should read the text in advance (from 5 to 20 pages) and details will be discussed and explained during the class. This is not a lecture course, and students will have time each week for discussion and group work.																				
その他:																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 文 学 ・ 英 語 学 基 礎 講 読 II English Literature and Linguistics (Introductory Reading) II	2	准教授 ティンク, ジェイムズ	4	木	3																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMLIT218E Kazuo Ishiguro's 'Never Let Me Go': Ethics, Emotion, and Empathy in Contemporary Fiction. Kazuo Ishiguro's novel 'Never Let Me Go' has enjoyed huge international success since its publication in 2005. It is a type of science-fiction novel that describes an alternate modern Britain where young people are produced as human clones for medical purposes. It has also become a text which has been widely discussed by literary and cultural critics in recent years, and has become a representative novel for a twenty-first century debate about liberal values and technology. In this course, we will read the novel and consider the arguments of that critical debate; especially, what the novel suggests about ideas of ethics and emotions in contemporary literature, cultural theory, and popular science. Students should read thirty pages of the novel each week, which will then be introduced and discussed in the class, along with other relevant material. Assessment will be by short written assignments, and two in-class tests.																				
◆ 到達目標	1: To read and analyse a contemporary novel In English by reading it in weekly instalments. 2: To study several approaches for better understanding the novel and contemporary literature 3: To explore some important arguments in the contemporary humanities and social sciences around the topics of ethics, emotions and technology. 4: To improve listening and discussion skills in English.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction to Contemporary English Fiction.</td> <td>9. Never Let Me Go 8</td> </tr> <tr> <td>2. Introducing Ishiguro: Never Let Me Go, part 1 (We will read approximately 30 pages of the novel each week)</td> <td>10. Never Let Me Go 9 (Finish the novel this week)</td> </tr> <tr> <td>3. Never Let Me Go 2</td> <td>11. Never Let Me Go and the Postwar Humanist Novel (Short lecture and discussion)</td> </tr> <tr> <td>4. Never Let Me Go 3</td> <td>12. Never Let Me Go and the Dystopian Novel</td> </tr> <tr> <td>5. Never Let Me Go 4</td> <td>13. The Affective Turn in Contemporary Fiction</td> </tr> <tr> <td>6. Never Let Me Go 5</td> <td>14. Ishiguro and The Future of the Novel</td> </tr> <tr> <td>7. Never Let Me Go 6. Mid-semester test this week.</td> <td>15. Final Exam</td> </tr> <tr> <td>8. Never Let Me Go 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. Introduction to Contemporary English Fiction.	9. Never Let Me Go 8	2. Introducing Ishiguro: Never Let Me Go, part 1 (We will read approximately 30 pages of the novel each week)	10. Never Let Me Go 9 (Finish the novel this week)	3. Never Let Me Go 2	11. Never Let Me Go and the Postwar Humanist Novel (Short lecture and discussion)	4. Never Let Me Go 3	12. Never Let Me Go and the Dystopian Novel	5. Never Let Me Go 4	13. The Affective Turn in Contemporary Fiction	6. Never Let Me Go 5	14. Ishiguro and The Future of the Novel	7. Never Let Me Go 6. Mid-semester test this week.	15. Final Exam	8. Never Let Me Go 7	
1. Introduction to Contemporary English Fiction.	9. Never Let Me Go 8																				
2. Introducing Ishiguro: Never Let Me Go, part 1 (We will read approximately 30 pages of the novel each week)	10. Never Let Me Go 9 (Finish the novel this week)																				
3. Never Let Me Go 2	11. Never Let Me Go and the Postwar Humanist Novel (Short lecture and discussion)																				
4. Never Let Me Go 3	12. Never Let Me Go and the Dystopian Novel																				
5. Never Let Me Go 4	13. The Affective Turn in Contemporary Fiction																				
6. Never Let Me Go 5	14. Ishiguro and The Future of the Novel																				
7. Never Let Me Go 6. Mid-semester test this week.	15. Final Exam																				
8. Never Let Me Go 7																					
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	Mid term test 20%; two homework assignments 40%; final exam 40% Ishiguro, Kazuo. Never Let Me Go London: Faber, 2005. This course will be conducted in English and will study the English version of the novel, although there are also good translations into other languages. There is also a UK film adaptation of the novel.																				
その他:																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
英 文 学 各 論 English Literature (Special Lecture)	2	准教授 岩 田 美 喜	5	火	3
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT304J				
◆ 授業題目	イギリス児童文学と〈子ども〉性の政治学				
◆ 目的・概要	イギリスにおいて、〈子ども〉が「不完全な大人」ではなく、独自の価値を持った特別な存在と考えられるようになるのは、18世紀末頃からと言われます。本授業では、この時期から徐々に育ってきた「児童文学」という新たなジャンルに注目し、そこで描かれる子どもの表象について、社会、政治、文化的に考察します。				
◆ 到達目標	1) 文学テキストを英語で読む読解力を涵養する 2) 18世紀末以降のイギリスにおける〈子ども〉をめぐる文化についての知識を得る 3) 児童文学を批評的に分析する鑑賞眼を培う				
◆ 授業内容・方法	1. 〈子ども〉時代の発見とロマン主義文学 2. 児童文学の始まりと発展について 3. シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』(1847)における子どもの表象 4. チャールズ・ディケンズにおける子どもの表象-(1) 5. チャールズ・ディケンズにおける子どもの表象-(2) 6. トマス・ヒューズ『トム・ブラウンの学校生活』(1857) 7. ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』(1865) 8. ルイス・キャロル『鏡の国のアリス』(1871) 9. ケネス・グレサム『柳を渡る風』(1908)-(1) 10. ケネス・グレサム『柳を渡る風』(1908)-(2) 11. A. A. ミルン『くまのプーさん』(1926)、『プー横町に立った家』(1928) 12. アーサー・ランサム『つばめ号とアマゾン号』(1930) 13. ローズマリー・サトクリフ『第九軍団の鷲』(1954) 14. フィリパ・ピアス『トムは真夜中の庭で』(1958)-(1) 15. フィリパ・ピアス『トムは真夜中の庭で』(1958)-(2)				
◇ 成績評価の方法	授業中に記入してもらうリアクション・ペーパーなどの平常点 (50%)、および期末試験 (50%)				
◇ 教科書・参考書	教科書は指定せず、授業時に教員がハンドアウトを配ります。 参考書：Julia Mickenberg & Lynne Vallon, eds., <i>The Oxford Handbook of Children's Literature</i> (Oxford UP, 2011)				
◇ 授業時間外学習	授業は講義形式で進むので、特に具体的な毎回の予習は必要ありません。ただし、授業で取り扱う作品のほとんどには邦訳が存在しますので、なるべく事前に作品を読んでおいてください。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
英 文 学 各 論 English Literature (Special Lecture)	2	准教授 岩 田 美 喜	6	火	3
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT304J				
◆ 授業題目	20世紀イギリス演劇における階級、ジェンダーと教育				
◆ 目的・概要	イギリスは日本に比べ、現代においても階級がはっきりしており、それが教育やジェンダーといった他の社会的要因と複雑に絡み合っています。この授業では、20世紀のイギリス演劇がこの問題とどのように取り組んで来たのかを、具体的な作品を読み、また映像作品を鑑賞することで、探ってみたいと思います。				
◆ 到達目標	1) 現代演劇テキストの読解を通じて、英語口語表現の読解力を養う 2) 20世紀イギリスの階級、ジェンダー、および教育問題についての知識を涵養する 3) 文学テキストを批評的に読み、解釈する、学問的な読書態度を培う				
◆ 授業内容・方法	1. 20世紀のイギリス演劇についての導入 2. テレンス・ラティガン『ブラウニング版』(1948)-(1) 3. テレンス・ラティガン『ブラウニング版』(1948)-(2) 4. ジュリアン・ミッチェル『アナザー・カンントリー』(1981)-(1) 5. ジュリアン・ミッチェル『アナザー・カンントリー』(1981)-(2) 6. ジョン・オズボーン『怒りを込めて振り返れ』(1956)-(1) 7. ジョン・オズボーン『怒りを込めて振り返れ』(1956)-(2) 8. ウィリー・ラッセル『リタの教育』(1980)-(1) 9. ウィリー・ラッセル『リタの教育』(1980)-(2) 10. キャリル・チャーチル『トップ・ガールズ』(1982)-(1) 11. キャリル・チャーチル『トップ・ガールズ』(1982)-(2) 12. リー・ホール『ビリー・エリオット』(2000)-(1) 13. リー・ホール『ビリー・エリオット』(2000)-(2) 14. アラン・ベネット『ヒストリー・ボーイズ』(2004)-(1) 15. アラン・ベネット『ヒストリー・ボーイズ』(2004)-(2)				
◇ 成績評価の方法	授業中に記入してもらうリアクション・ペーパーなどの平常点 (50%)、および期末試験 (50%)				
◇ 教科書・参考書	教科書は指定せず、授業時に教員がハンドアウトを配ります。 参考書：Mary Luckhurst, ed., <i>A Companion to Modern British and Irish Drama 1880-2005</i> (Blackwell, 2006)				
◇ 授業時間外学習	授業は講義形式で進むので、特に具体的な毎回の予習は必要ありませんが、図書館で20世紀のイギリス社会・文化に関する文献を読むなどすれば、授業の理解度が深まります。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 文 学 各 論 English Literature (Special Lecture)	2	非常勤 講師 諏訪部 浩一	集 中 (5)																		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT304J																				
◆ 授業題目	『グレート・ギャツビー』を読む																				
◆ 目的・概要	大戦間のアメリカ文学を代表する小説家、F・スコット・フィッツジェラルドの代表作『グレート・ギャツビー』を読む。極めて有名な作品だが、なるべく多角的な視点からアプローチを試みることで、小説を立体的に理解することを目指したい。モダニズム期に書かれたこの作品を「小説」として鑑賞することはもちろんだが、当時のアメリカに関する理解を深めることも目標とする。受講生は、言語芸術としての「小説」を読むという行為に意識的になるとともに、各自の問題意識を発見・発展させていくことが期待される。																				
◆ 到達目標	(1)アメリカ文学・文化に関する知識を身につける (2)批評的思考力を身につける (3)英語の原書を読解する英語力を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. Chapter 5</td> </tr> <tr> <td>2. Chapter 1 (以下の進度はおおよその目安)</td> <td>10. Chapter 6</td> </tr> <tr> <td>3. Chapter 1</td> <td>11. Chapter 7</td> </tr> <tr> <td>4. Chapter 2-(1)</td> <td>12. Chapter 8</td> </tr> <tr> <td>5. Chapter 2-(2)</td> <td>13. Chapter 9-(1)</td> </tr> <tr> <td>6. Chapter 3-(1)</td> <td>14. Chapter 9-(2)</td> </tr> <tr> <td>7. Chapter 3-(2)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Chapter 4</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. Chapter 5	2. Chapter 1 (以下の進度はおおよその目安)	10. Chapter 6	3. Chapter 1	11. Chapter 7	4. Chapter 2-(1)	12. Chapter 8	5. Chapter 2-(2)	13. Chapter 9-(1)	6. Chapter 3-(1)	14. Chapter 9-(2)	7. Chapter 3-(2)	15. 授業のまとめ	8. Chapter 4	
1. イントロダクション	9. Chapter 5																				
2. Chapter 1 (以下の進度はおおよその目安)	10. Chapter 6																				
3. Chapter 1	11. Chapter 7																				
4. Chapter 2-(1)	12. Chapter 8																				
5. Chapter 2-(2)	13. Chapter 9-(1)																				
6. Chapter 3-(1)	14. Chapter 9-(2)																				
7. Chapter 3-(2)	15. 授業のまとめ																				
8. Chapter 4																					
◇ 成績評価の方法	授業参加30%、レポート70%																				
◇ 教科書・参考書	F. Scott Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i> . (New York: Scribner, 2004)																				
◇ 授業時間外学習	予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 文 化 論 各 論 English Culture (Special Lecture)	2	教授 大河内 昌	5	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT305J																				
◆ 授業題目	ジェーン・オースティンを読む																				
◆ 目的・概要	ジェーン・オースティンの小説には18世紀末～19世紀初頭のイギリスの社会や家庭が生々しく描かれています。本講義ではオースティンの『高慢と偏見』(<i>Pride and Prejudice</i>)を題材に、彼女の小説に何が描かれているかを分析してゆきます。教科書は英語の原書を用いて、筋を追いつながりながら、内容を分析してゆきます。重要な場面は原文で味わいます。																				
◆ 到達目標	(1)英語原書を読解する力を身につける (2)小説を分析する思考法を身につける (3)文化史・文学史の知識を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 第36章～第40章</td> </tr> <tr> <td>2. 第1章～第5章</td> <td>10. 第41章～第45章</td> </tr> <tr> <td>3. 第6章～第10章</td> <td>11. 第46章～第48章</td> </tr> <tr> <td>4. 第11章～第15章</td> <td>12. 第49章～第52章</td> </tr> <tr> <td>5. 第16章～第20章</td> <td>13. 第53章～第57章</td> </tr> <tr> <td>6. 第21章～第25章</td> <td>14. 第58章～第61章</td> </tr> <tr> <td>7. 第26章～第30章</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 第31章～第35章</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 第36章～第40章	2. 第1章～第5章	10. 第41章～第45章	3. 第6章～第10章	11. 第46章～第48章	4. 第11章～第15章	12. 第49章～第52章	5. 第16章～第20章	13. 第53章～第57章	6. 第21章～第25章	14. 第58章～第61章	7. 第26章～第30章	15. まとめと試験	8. 第31章～第35章	
1. イントロダクション	9. 第36章～第40章																				
2. 第1章～第5章	10. 第41章～第45章																				
3. 第6章～第10章	11. 第46章～第48章																				
4. 第11章～第15章	12. 第49章～第52章																				
5. 第16章～第20章	13. 第53章～第57章																				
6. 第21章～第25章	14. 第58章～第61章																				
7. 第26章～第30章	15. まとめと試験																				
8. 第31章～第35章																					
◇ 成績評価の方法	試験80%・授業参加20%																				
◇ 教科書・参考書	Jane Austen, <i>Pride and Prejudice</i> (Oxford World's Classics)																				
◇ 授業時間外学習	予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。																				
その他：オフィスアワー：火曜日午後4時～5時30分、その他アポイントメントで随時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 文 化 論 各 論 English Culture (Special Lecture)	2	教授 大河内 昌	6	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT305J																				
◆ 授業題目	批評理論入門																				
◆ 目的・概要	文学作品について何かを論じるさいには、方法論が必要です。方法論がなければ感想文にしかありません。この授業では批評理論の基本的な方法を構造主義、フォルマリズム、ディコンストラクションなど、作品内在的な方法を中心にできるだけわかりやすく紹介してゆきます。また、精神分析批評やマルクス主義批評や文化研究についても言及する予定です。																				
◆ 到達目標	(1)批評理論読解する英語力を身につける (2)批評理論の基本概念を理解する (3)論理的な思考法を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. イントロダクション</td> <td style="width:50%;">9. マルクス主義批評(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 構造主義(1)</td> <td>10. 文化研究と文学研究</td> </tr> <tr> <td>3. 構造主義(2)</td> <td>11. 精神分析批評</td> </tr> <tr> <td>4. ロシア・フォルマリズム(1)</td> <td>12. フーコーと権力論(1)</td> </tr> <tr> <td>5. ロシア・フォルマリズム(2)</td> <td>13. フーコーと権力論(2)</td> </tr> <tr> <td>6. ディコンストラクション(1)</td> <td>14. フーコーと性の歴史</td> </tr> <tr> <td>7. ディコンストラクション(2)</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. マルクス主義批評(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. マルクス主義批評(2)	2. 構造主義(1)	10. 文化研究と文学研究	3. 構造主義(2)	11. 精神分析批評	4. ロシア・フォルマリズム(1)	12. フーコーと権力論(1)	5. ロシア・フォルマリズム(2)	13. フーコーと権力論(2)	6. ディコンストラクション(1)	14. フーコーと性の歴史	7. ディコンストラクション(2)	15. まとめと試験	8. マルクス主義批評(1)	
1. イントロダクション	9. マルクス主義批評(2)																				
2. 構造主義(1)	10. 文化研究と文学研究																				
3. 構造主義(2)	11. 精神分析批評																				
4. ロシア・フォルマリズム(1)	12. フーコーと権力論(1)																				
5. ロシア・フォルマリズム(2)	13. フーコーと権力論(2)																				
6. ディコンストラクション(1)	14. フーコーと性の歴史																				
7. ディコンストラクション(2)	15. まとめと試験																				
8. マルクス主義批評(1)																					
◇ 成績評価の方法	試験80%・授業参加20%																				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布します																				
◇ 授業時間外学習	予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。																				
その他：オフィスアワー：火曜日午後4時～5時30分、その他アポイントメントで随時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 文 学 演 習 I English Literature (Seminar) I	2	教授 大河内 昌	5	水	1																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT320J																				
◆ 授業題目	Virginia Woolf, <i>Mrs Dalloway</i> (1)																				
◆ 目的・概要	イギリスの20世紀の小説家 Virginia Woolf の小説 <i>Mrs Dalloway</i> の前半部分を講読してゆきます。「意識の流れ」(stream of consciousness) という技法で、登場人物の心の微妙な揺れ動きを描くのが特徴となっています。とても難解な小説ですが、注釈や翻訳を参考にしてください。緻密に書かれた英語を分析的に精読してゆく醍醐味を味わいましょう。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。																				
◆ 到達目標	(1)小説の英語を読解する力を身につける (2)小説分析の技法を身につける (3)発表力を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. イントロダクション</td> <td style="width:50%;">9. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 48-55.</td> </tr> <tr> <td>2. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 1-6.</td> <td>10. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 56-62.</td> </tr> <tr> <td>3. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 7-13.</td> <td>11. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 63-69.</td> </tr> <tr> <td>4. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 14-20.</td> <td>12. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 70-75.</td> </tr> <tr> <td>5. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 21-27.</td> <td>13. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 75-80.</td> </tr> <tr> <td>6. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 28-34.</td> <td>14. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 80-85.</td> </tr> <tr> <td>7. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 34-40.</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 41-47.</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 48-55.	2. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 1-6.	10. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 56-62.	3. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 7-13.	11. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 63-69.	4. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 14-20.	12. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 70-75.	5. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 21-27.	13. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 75-80.	6. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 28-34.	14. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 80-85.	7. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 34-40.	15. まとめと試験	8. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 41-47.	
1. イントロダクション	9. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 48-55.																				
2. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 1-6.	10. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 56-62.																				
3. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 7-13.	11. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 63-69.																				
4. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 14-20.	12. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 70-75.																				
5. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 21-27.	13. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 75-80.																				
6. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 28-34.	14. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 80-85.																				
7. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 34-40.	15. まとめと試験																				
8. <i>Mrs Dalloway</i> , pp. 41-47.																					
◇ 成績評価の方法	発表50%・レポート50%																				
◇ 教科書・参考書	Virginia Woolf, <i>Mrs Dalloway</i> (Oxford World's Classics)																				
◇ 授業時間外学習	予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。																				
その他：オフィスアワー：火曜日午後4時～5時30分、その他アポイントメントで随時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
英 文 学 演 習 II English Literature (Seminar) II	2	教授 大河内 昌	6	水	1
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT321J				
◆ 授業題目	Virginia Woolf, <i>Mrs Dalloway</i> (2)				
◆ 目的・概要	イギリスの20世紀の小説家 Virginia Woolf の小説 <i>Mrs Dalloway</i> の後半部分を講読してゆきます。「意識の流れ」(stream of consciousness) という技法で、登場人物の心の微妙な揺れ動きを描くのが特徴となっています。とても難解な小説ですが、注釈や翻訳を参考にしてください。緻密に書かれた英語を分析的に精読してゆく醍醐味を味わいましょう。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。				
◆ 到達目標	(1)小説の英語を読解する力を身につける (2)小説分析の技法を身につける (3)発表力を身につける				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. インTRODクシヨN 2. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 85-92. 3. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 93-100. 4. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 101-108. 5. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 109-118. 6. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 118-125. 7. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 126-133. 8. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 134-141. 9. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 142-150. 10. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 151-157. 11. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 158-165. 12. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 166-171. 13. <i>Mrs Dalloway</i>, pp. 171-185. 14. ディスカッション 15. まとめと試験 				
◇ 成績評価の方法	発表50%・レポート50%				
◇ 教科書・参考書	Virginia Woolf, <i>Mrs Dalloway</i> (Oxford World's Classics)				
◇ 授業時間外学習	予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。				
その他：オフィスアワー：火曜日午後4時～5時30分、その他アポイントメントで随時					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
英 文 学 演 習 III English Literature (Seminar) III	2	准教授 ティンク, ジェイムズ	5	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT322E				
◆ 授業題目	Renaissance Revenge Tragedy: Thomas Middleton's 'The Changeling'.				
◆ 目的・概要	Renaissance revenge tragedy describes a group of plays that became very popular in seventeenth century England. A drama that involves themes of murder, moral corruption, and violent revenge, and presented in an often sensationalist and shocking style, it remains an influential, if controversial, part of English literature. In this course we will study one of the most important examples of this genre, Thomas Middleton and William Rowley's 'The Changeling' (1622) and consider it in the context of theatre and society during the period. We will also be able to view a film adaptation of the play. Later in the course, we will also consider the genre of revenge tragedy more generally by comparing the play with another controversial work, sometimes attributed to Middleton, 'The Revenger's Tragedy', which we will read in a modernised English version. This course will provide a way to think about important renaissance drama by some of Shakespeare's contemporaries. We will read the plays in instalments and use the class for mini-lectures and discussion.				
◆ 到達目標	1: To read seventeenth-century English drama. Each week we will read an instalment of the text and discuss it in class. 2: To examine the historical and cultural context of early-modern English drama. 3: To consider the influence and importance of seventeenth-century revenge drama to contemporary literature. 4: To improve comprehension and presentation skills in English.				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to Early-Modern Drama after Shakespeare. 2. Middleton and Rowley, 'The Changeling', Act 1. Scene 1. (We will read this part of the play in advance and then study it during the class. This will continue as follows below.) 3. The Changeling 1.2 4. The Changeling 2.1-2. 5. The Changeling 3.1-3. 6. The Changeling 4.1-2 7. The Changeling 4.3. Mid-term test on course material. 8. The Changeling 5.1-3. Mid-term assignment due 9. Reviewing 'The Changeling': Survey of Modern Critical Approaches 10. Early-Modern Revenge Tragedy: Reading 'The Revenger's Tragedy', Act 1 11. The Revengers Tragedy, 2 12. The Revenger's Tragedy, 3 13. The Revenger's Tragedy, 4 14. The Revenger's Tragedy, 5 15. Conclusion and Summative Class. End-of-term test. 				
◇ 成績評価の方法	Final essay 40%; Mid-term assignment 20%; Two in-class tests 40%.				
◇ 教科書・参考書	Middleton, Thomas, and William Rowley. <i>The Changeling</i> . Ed. Michael Neill. New Mermaids, New York: Norton, 2006. Other texts to be provided in class.				
◇ 授業時間外学習	Many editions of the play are generally available, and there is a lot of material on revenge drama and early-modern theatre in the university library.				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
英 文 学 講 読 English Literature (Reading)	2	准教授 ティンク, ジェイムズ	6	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT319E				
◆ 授業題目	What was Postmodernism? The Short Stories of Angela Carter				
◆ 目的・概要	Postmodernism best describes a broad range of artistic, literary, and intellectual trends that were influential in the late twentieth century, the implications of which are still being discussed in the contemporary humanities. In this course, we will examine some of the main themes of postmodernism in literary studies by reading the British author Angela Carter (1940-1992), whose work is especially associated with postmodern fiction. We will concentrate on Carter's celebrated short stories, especially her collection of modern fairy tales, 'The Bloody Chamber' (1979), in order to consider some of the broader topics of postmodern literature: the concept of 'metafiction' and the role of the author; techniques of pastiche and the parody of other literary works; the influence of modern popular culture and the idea of literary value; and how theories of identity, language and gender influence modern writing. We will also consider the more singular aspects of Carter's own writing, such as examples of her journalism, and the influence of Japan on her work. Each week, we will read in advance a short story or other text and discuss it in the class. Assessment will be by short exercises and a final essay in English.				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. To study some of the basic ideas, contexts and topics of postmodern literature in English. 2. To read and analyse short fiction in English. 3. To consider the historical influence and relevance of late 20th century postmodernism in the contemporary world. 4. To improve analytic and composition skills in English for academic purposes. 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction: What was Postmodernism? 2. Introduction to Angela Carter and 1960s English fiction: Read 'A Victorian Fable (with Glossary)' from the textbook. 3. Angela Carter in Japan: 'A Souvenir of Japan' 4. Japan, Carter, and Feminist Theory: 'Flesh and the Mirror' 5. Rewriting Fairy Tales in 'The Bloody Chamber' I: 'The Erl King' 6. II: 'The Snow Child' and 'The Werewolf' 7. III: 'The Company of Wolves.' Mid-semester test. 8. IV: 'The Tiger's Bride'. Mid-semester assignment due. 9. History and Metafiction: 'Black Venus.' 10. Postmodern Gothic: 'The Cabinet of Edgar Allen Poe' 11. Pastiche and Parody: 'Overture and Incidental Music for A Midsummer Night's Dream.' 12. Popular Culture and High Culture: 'John Ford's 'Tis Pity She's a Whore' 13. The Carnavalesque: 'In Panto Land' 14. Surrealism and Fantasy: 'Alice In Prague.' 15. Conclusion: What was Postmodernism? Final written assignment due. 				
◇ 成績評価の方法	Final essay 40% Mid-term assignment 20%; short in-class tests 40%				
◇ 教科書・参考書	Carter, Angela. <i>Burning Your Boats: Collected Short Stories</i> . London: Vintage, 1996.				
◇ 授業時間外学習	Students will be expected to read at least one short story per-week in advance of the class. There is a large amount of online material in English on Angela Carter; there are also many resources in the university library on postmodernism and postmodern literature.				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
英 語 学 概 論 English Linguistics (General Lecture)	2	教授 金子 義 明	3	火	4		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN201J						
◆ 授業題目	英語統語論入門 I						
◆ 目的・概要	英語の基本的文法現象を具体的に概観し、現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説する。さらに、英語学における分析で用いられる基本概念や論証の仕方を考察し、現代英語学の思考法を理解してもらう。						
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の基本的文法現象を理解する ・ 英語統語論の基本概念を理解する ・ 英語統語論の基本的分析法を身につける 						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Introduction 3. Function (1) 4. Function (2) 5. Form (1) 6. Form (2) 7. More on Form 8. The Function-Form Interface (1) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. The Function-Form Interface (2) 10. Predicate, Arguments and Thematic Roles 11. Cross-Categorial Generalizations (1) 12. Cross-Categorial Generalizations (2) 13. More on Clauses 14. Movement (1) 15. まとめ+期末テスト </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Introduction 3. Function (1) 4. Function (2) 5. Form (1) 6. Form (2) 7. More on Form 8. The Function-Form Interface (1) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. The Function-Form Interface (2) 10. Predicate, Arguments and Thematic Roles 11. Cross-Categorial Generalizations (1) 12. Cross-Categorial Generalizations (2) 13. More on Clauses 14. Movement (1) 15. まとめ+期末テスト
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Introduction 3. Function (1) 4. Function (2) 5. Form (1) 6. Form (2) 7. More on Form 8. The Function-Form Interface (1) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. The Function-Form Interface (2) 10. Predicate, Arguments and Thematic Roles 11. Cross-Categorial Generalizations (1) 12. Cross-Categorial Generalizations (2) 13. More on Clauses 14. Movement (1) 15. まとめ+期末テスト 						
◇ 成績評価の方法	課題提出 (20%) + 期末テスト (80%)						
◇ 教科書・参考書	Bas Aarts, English Syntax and Argumentation, 4th edition, Palgrave.						
◇ 授業時間外学習	十分な予習と復習に心がけること。テキストの Exercises を復習に活用すること。						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
英 語 学 概 論 English Linguistics (General Lecture)	2	教授 金子 義 明	4	火	4		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN201J						
◆ 授業題目	英語統語論入門 II						
◆ 目的・概要	前期に引き続き英語の基本的文法現象を概観し、現代言語学による分析法を解説する。さらに、それらの英語の言語現象と言語の一般特性との関わりを解説する。						
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の基本的文法現象を理解する ・ 英語統語論の基本概念を理解する ・ 英語統語論の基本的分析法が身につく ・ 普遍的言語特性と英語の言語現象との相関関係を理解する 						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Movement (2) 3. Tense, Aspect and Mood 4. Syntactic Argumentation (1) 5. Syntactic Argumentation (2) 6. Constituency: Movement and Substitution (1) 7. Constituency: Movement and Substitution (2) 8. Constituency: Some Additional Tests </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. Predicates and Arguments Revisited 10. Grammatical Indeterminacy 11. Case Studies (1) 12. Case Studies (2) 13. 移動の制約 14. 統語論と意味解釈 15. まとめ+期末試験 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Movement (2) 3. Tense, Aspect and Mood 4. Syntactic Argumentation (1) 5. Syntactic Argumentation (2) 6. Constituency: Movement and Substitution (1) 7. Constituency: Movement and Substitution (2) 8. Constituency: Some Additional Tests 	<ol style="list-style-type: none"> 9. Predicates and Arguments Revisited 10. Grammatical Indeterminacy 11. Case Studies (1) 12. Case Studies (2) 13. 移動の制約 14. 統語論と意味解釈 15. まとめ+期末試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Movement (2) 3. Tense, Aspect and Mood 4. Syntactic Argumentation (1) 5. Syntactic Argumentation (2) 6. Constituency: Movement and Substitution (1) 7. Constituency: Movement and Substitution (2) 8. Constituency: Some Additional Tests 	<ol style="list-style-type: none"> 9. Predicates and Arguments Revisited 10. Grammatical Indeterminacy 11. Case Studies (1) 12. Case Studies (2) 13. 移動の制約 14. 統語論と意味解釈 15. まとめ+期末試験 						
◇ 成績評価の方法	課題提出 (20%) + 期末試験 (80%)						
◇ 教科書・参考書	Bas Aarts, English Syntax and Argumentation, 4th edition, Palgrave.						
◇ 授業時間外学習	十分な予習と復習に心がけること。テキストの Exercises を復習に活用すること。						
その他：前期に英語学概論：英語統語論入門 I を受講していることを前提として授業を行う。							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
英 語 学 各 論 English Linguistics (Special Lecture)	2	教 授 金 子 義 明	5	金	2		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN301J						
◆ 授業題目	英語意味論 I						
◆ 目的・概要	現代意味論の観点から英語を分析するための基礎的概念を解説する。テキストは Kate Kearns Semantics (2nd edition) を使用する。併せて英語の具体的構文の知識の確認を行う。						
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語意味論の基本概念を理解する ・ 英語意味論の基本的分析方法を身につける ・ 論理的思考方法を理解する 						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Introduction (1)+小テスト 3. Introduction (2)+小テスト 4. Basic Logical Tools (1)+小テスト 5. Basic Logical Tools (2)+小テスト 6. The Logical Quantifiers (1)+小テスト 7. The Logical Quantifiers (2)+小テスト 8. Formal Composition (1)+小テスト </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. Formal Composition (2)+小テスト 10. Modality and Possible Worlds (1)+小テスト 11. Modality and Possible Worlds (2)+小テスト 12. Generalized Quantifiers (1)+小テスト 13. Generalized Quantifiers (2)+小テスト 14. Generalized Quantifiers (3)+小テスト 15. Generalized Quantifiers (4)+小テスト </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Introduction (1)+小テスト 3. Introduction (2)+小テスト 4. Basic Logical Tools (1)+小テスト 5. Basic Logical Tools (2)+小テスト 6. The Logical Quantifiers (1)+小テスト 7. The Logical Quantifiers (2)+小テスト 8. Formal Composition (1)+小テスト 	<ol style="list-style-type: none"> 9. Formal Composition (2)+小テスト 10. Modality and Possible Worlds (1)+小テスト 11. Modality and Possible Worlds (2)+小テスト 12. Generalized Quantifiers (1)+小テスト 13. Generalized Quantifiers (2)+小テスト 14. Generalized Quantifiers (3)+小テスト 15. Generalized Quantifiers (4)+小テスト
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Introduction (1)+小テスト 3. Introduction (2)+小テスト 4. Basic Logical Tools (1)+小テスト 5. Basic Logical Tools (2)+小テスト 6. The Logical Quantifiers (1)+小テスト 7. The Logical Quantifiers (2)+小テスト 8. Formal Composition (1)+小テスト 	<ol style="list-style-type: none"> 9. Formal Composition (2)+小テスト 10. Modality and Possible Worlds (1)+小テスト 11. Modality and Possible Worlds (2)+小テスト 12. Generalized Quantifiers (1)+小テスト 13. Generalized Quantifiers (2)+小テスト 14. Generalized Quantifiers (3)+小テスト 15. Generalized Quantifiers (4)+小テスト 						
◇ 成績評価の方法	小テスト (25%) + 課題提出 (25%) + 期末レポート (50%)						
◇ 教科書・参考書	Kate Kearns Semantics (2nd edition), Palgrave. 山口俊治『英語構文全解説』 研究社						
◇ 授業時間外学習	予習と復習を十分にすること。特にテキストの Exercises を復習に活用すること。						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
英 語 学 各 論 English Linguistics (Special Lecture)	2	非 常 勤 講 師 齋 藤 衛	集 中 (5)				
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN301J						
◆ 授業題目	極小主義アプローチに基づく比較統語論						
◆ 目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前半では、統語論における極小主義アプローチを概観し、特に、Chomsky (2013) が提案するラベリング・アルゴリズムの意義を確認する。 ・ この議論をふまえて、後半では、日本語の現象を英語との比較においてとりあげ、極小主義アプローチの下でどのように言語間変異をとらえることができるかを考えていく。また、日本語特有の現象から、カートグラフィー現象などの解明にどのように寄与できるかについても検討する。 ・ 講義を主とするが、セミナー形式で授業を進めることが望ましいので、授業内の質問や問題点の指摘を大いに歓迎する。 						
◆ 到達目標	極小主義アプローチに対する理解を深め、より有意義な形でその発展に貢献できるようにする。						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生成文法の歴史的背景と発展史 2. CP 仮説、DP 仮説、VP 内主語仮説と文構造の詳細 3. 演算子移動の性質：統語的派生と意味解釈 4. 移動の循環的適用：束縛現象から派生的フェイズへ 5. 名詞句の分布、名詞句移動と格理論 6. 句構形成のメカニズムとしての併合 7. 併合による過剰生成(1)：一致、文法格、EPP 8. 併合による過剰生成(2)：ラベリング・アルゴリズム </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. 日本語の文法的特徴：多重格、自由語順、項省略 10. 文法格の性質とラベリングにおける言語間変異 11. 項削除を含む削除現象の分析と課題 12. カートグラフィー再考：選択制限と意味解釈 13. 日本語右方周縁部と英語分析／意味論の課題 14. θ 基準再考：ラベリングと意味役割 15. 授業のまとめ+筆記試験 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. 生成文法の歴史的背景と発展史 2. CP 仮説、DP 仮説、VP 内主語仮説と文構造の詳細 3. 演算子移動の性質：統語的派生と意味解釈 4. 移動の循環的適用：束縛現象から派生的フェイズへ 5. 名詞句の分布、名詞句移動と格理論 6. 句構形成のメカニズムとしての併合 7. 併合による過剰生成(1)：一致、文法格、EPP 8. 併合による過剰生成(2)：ラベリング・アルゴリズム 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 日本語の文法的特徴：多重格、自由語順、項省略 10. 文法格の性質とラベリングにおける言語間変異 11. 項削除を含む削除現象の分析と課題 12. カートグラフィー再考：選択制限と意味解釈 13. 日本語右方周縁部と英語分析／意味論の課題 14. θ 基準再考：ラベリングと意味役割 15. 授業のまとめ+筆記試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生成文法の歴史的背景と発展史 2. CP 仮説、DP 仮説、VP 内主語仮説と文構造の詳細 3. 演算子移動の性質：統語的派生と意味解釈 4. 移動の循環的適用：束縛現象から派生的フェイズへ 5. 名詞句の分布、名詞句移動と格理論 6. 句構形成のメカニズムとしての併合 7. 併合による過剰生成(1)：一致、文法格、EPP 8. 併合による過剰生成(2)：ラベリング・アルゴリズム 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 日本語の文法的特徴：多重格、自由語順、項省略 10. 文法格の性質とラベリングにおける言語間変異 11. 項削除を含む削除現象の分析と課題 12. カートグラフィー再考：選択制限と意味解釈 13. 日本語右方周縁部と英語分析／意味論の課題 14. θ 基準再考：ラベリングと意味役割 15. 授業のまとめ+筆記試験 						
◇ 成績評価の方法	試験。ただし、希望者は10枚程度の論文をこれに代えることができる。						
◇ 教科書・参考書	第6回以降は、主として、以下の論文の内容を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Chomsky, Noam (1994) "Bare Phrase Structure," in Gert Webelhuth, ed., Government and Binding Theory and the Minimalist Program, Oxford: Blackwell, 383-439. ・ Chomsky, Noam (2008) "On Phases," in Robert Freidin, Carlos P. Otero and Maria Luisa Zubizarreta, eds., Foundational Issues in Linguistic Theory: Essay in Honor of Jean-Roger Vergnaud, Cambridge, Mass.: MIT Press, 133-166. ・ Chomsky, Noam (2013) "Problems of Projection," <i>Lingua</i> 130: 33-49. ・ Chomsky, Noam (2015) "Problems of Projection: Extensions," in Elisa Di Domenico, Cornelia Hamann and Simona Matteini, eds., Structures, Strategies and Beyond? Studies in Honour of Adriana Belletti, Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins, 3-16. ・ Quicoli, A. Carlos (2008) "Anaphora by Phase," <i>Syntax</i> 11: 299-329. ・ Rizzi, Luigi (1997) "The Fine Structure of the Left Periphery," in Liliana Haegeman, ed., Elements of Grammar, Dordrecht: Kluwer Academic Publishers, 281-337. ・ Saito, Mamoru (2015) "Cartography and Selection: Case Studies in Japanese," in Ur Shlonsky, ed., Beyond Functional Sequence, Oxford: Oxford University Press, 255-274. ・ Saito, Mamoru (2015) "(A) Case for Labeling: Labeling in Languages without ϕ-feature Agreement," to appear in <i>The Linguistic Review</i>. ・ Takahashi, Daiko (2014) "Argument Ellipsis, Anti-agreement, and Scrambling," in Mamoru Saito, ed., Japanese Syntax in Comparative Perspective, New York: Oxford University Press, 88-116. 						
◇ 授業時間外学習	復習を欠かさず、わかりにくかった点を質問できるように準備すること。						
その他：履修者の反応を見ながら講義の速度を調整するので、希望があれば、遠慮なく申し出ること。							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
英 語 解 析 学 各 論 Analytical Study of English (Special Lecture)	2	教 授 金子 義 明	6	金	2		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN302J						
◆ 授業題目	英語意味論Ⅱ						
◆ 目的・概要	前期に引き続き、現代意味論の観点から英語を分析するための基礎的概念を解説する。テキストはKate Kearns Semantics (2nd edition) を使用する。併せて英語の構文に関する知識の確認を行う。						
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語意味論の基本概念を理解する ・ 英語意味論の基本的分析方法を身につける ・ 論理的思考方法を理解する 						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. ガイダンス 2. Referential Opacity (1)+小テスト 3. Referential Opacity (2)+小テスト 4. Aktionsarten: Aspectual Classes of Events (1)+小テスト 5. Aktionsarten: Aspectual Classes of Events (2)+小テスト 6. Tense and Aspect (1)+小テスト 7. Tense and Aspect (2)+小テスト 8. Tense and Aspect (3)+小テスト </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 9. Thematic Roles and Lexical Conceptual Structure (1)+小テスト 10. Thematic Roles and Lexical Conceptual Structure (2)+小テスト 11. Thematic Roles and Lexical Conceptual Structure (3)+小テスト 12. Events (1)+小テスト 13. Events (2)+小テスト 14. その他の補足項目+小テスト 15. まとめ+小テスト </td> </tr> </table>					1. ガイダンス 2. Referential Opacity (1)+小テスト 3. Referential Opacity (2)+小テスト 4. Aktionsarten: Aspectual Classes of Events (1)+小テスト 5. Aktionsarten: Aspectual Classes of Events (2)+小テスト 6. Tense and Aspect (1)+小テスト 7. Tense and Aspect (2)+小テスト 8. Tense and Aspect (3)+小テスト	9. Thematic Roles and Lexical Conceptual Structure (1)+小テスト 10. Thematic Roles and Lexical Conceptual Structure (2)+小テスト 11. Thematic Roles and Lexical Conceptual Structure (3)+小テスト 12. Events (1)+小テスト 13. Events (2)+小テスト 14. その他の補足項目+小テスト 15. まとめ+小テスト
1. ガイダンス 2. Referential Opacity (1)+小テスト 3. Referential Opacity (2)+小テスト 4. Aktionsarten: Aspectual Classes of Events (1)+小テスト 5. Aktionsarten: Aspectual Classes of Events (2)+小テスト 6. Tense and Aspect (1)+小テスト 7. Tense and Aspect (2)+小テスト 8. Tense and Aspect (3)+小テスト	9. Thematic Roles and Lexical Conceptual Structure (1)+小テスト 10. Thematic Roles and Lexical Conceptual Structure (2)+小テスト 11. Thematic Roles and Lexical Conceptual Structure (3)+小テスト 12. Events (1)+小テスト 13. Events (2)+小テスト 14. その他の補足項目+小テスト 15. まとめ+小テスト						
◇ 成績評価の方法	小テスト (25%) + 課題提出 (25%) + 期末レポート (50%)						
◇ 教科書・参考書	Kate Kearns Semantics (2nd edition), Palsgrave. 山口俊治『英語構文全解説』研究社。						
◇ 授業時間外学習	十分な予習と復習に心がけること。特に、テキストのExercisesを復習に活用すること。						
その他：前期に英語学各論：英語意味論Ⅰを履修していることを前提とする。							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
英 語 学 講 読 English Linguistics (Reading)	2	教 授 島 越 郎	5	水	4		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN309J						
◆ 授業題目	形式意味論入門Ⅰ						
◆ 目的・概要	1) 自然言語の意味現象を理解する。 2) 形式意味論の基本概念を理解する。 3) 形式意味論の基本的分析法が身につく。						
◆ 到達目標	形式意味論の入門書を精読することにより、形式意味論の基本的思考法を理解し、語学研究のために必要な読解力を身につける。						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. ガイダンス 2. Ch. 1.1 Introduction: the Empirical Domain of Semantics 3. Ch. 1.2.1 The Productivity of Linguistic Meaning 4. Ch. 1.2.2 Semantic Universals 5. Ch. 1.2.3.1 The Informational Significance of Language 6. Ch. 1.2.3.2 The Cognitive Significance of Language 7. Ch. 1.3.1 Entailment (1) 8. Ch. 1.3.1 Entailment (2) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 9. Ch. 1.3.2 Implicature 10. Ch. 1.3.3 Presupposition 11. Ch. 1.4.1 Referential Connections and Anaphoric Relations 12. Ch. 1.4.2 Ambiguity 13. Ch. 1.4.3 Synonymy 14. Ch. 1.4.4-Ch. 1.4.5 Contradiction and Anomaly 15. Ch. 1.4.6 Appropriateness </td> </tr> </table>					1. ガイダンス 2. Ch. 1.1 Introduction: the Empirical Domain of Semantics 3. Ch. 1.2.1 The Productivity of Linguistic Meaning 4. Ch. 1.2.2 Semantic Universals 5. Ch. 1.2.3.1 The Informational Significance of Language 6. Ch. 1.2.3.2 The Cognitive Significance of Language 7. Ch. 1.3.1 Entailment (1) 8. Ch. 1.3.1 Entailment (2)	9. Ch. 1.3.2 Implicature 10. Ch. 1.3.3 Presupposition 11. Ch. 1.4.1 Referential Connections and Anaphoric Relations 12. Ch. 1.4.2 Ambiguity 13. Ch. 1.4.3 Synonymy 14. Ch. 1.4.4-Ch. 1.4.5 Contradiction and Anomaly 15. Ch. 1.4.6 Appropriateness
1. ガイダンス 2. Ch. 1.1 Introduction: the Empirical Domain of Semantics 3. Ch. 1.2.1 The Productivity of Linguistic Meaning 4. Ch. 1.2.2 Semantic Universals 5. Ch. 1.2.3.1 The Informational Significance of Language 6. Ch. 1.2.3.2 The Cognitive Significance of Language 7. Ch. 1.3.1 Entailment (1) 8. Ch. 1.3.1 Entailment (2)	9. Ch. 1.3.2 Implicature 10. Ch. 1.3.3 Presupposition 11. Ch. 1.4.1 Referential Connections and Anaphoric Relations 12. Ch. 1.4.2 Ambiguity 13. Ch. 1.4.3 Synonymy 14. Ch. 1.4.4-Ch. 1.4.5 Contradiction and Anomaly 15. Ch. 1.4.6 Appropriateness						
◇ 成績評価の方法	筆記試験 [50%] 課題レポート [50%]						
◇ 教科書・参考書	授業開始時にプリントを配布する。副読本として『英文構成法』（佐々木高政著、金子書房）を使う。						
◇ 授業時間外学習	担当箇所は勿論のこと、担当外の箇所についてもしっかり予習し、不明な点を整理しておくこと。副読本の内容確認テストを2回行うので、該当箇所を自習しておくこと。						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 学 講 読 English Linguistics (Reading)	2	教授 島 越 郎	6	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN309J																				
◆ 授業題目	形式意味論入門Ⅱ																				
◆ 目的・概要	1) 自然言語の意味現象を理解する。 2) 形式意味論の基本概念を理解する。 3) 形式意味論の基本的分析法が身につく。																				
◆ 到達目標	前期に引き続き、形式意味論の入門書を精読することにより、形式意味論の基本的思考法を理解し、語学研究のために必要な読解力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. Ch. 2.3.2 The Fragment F (1)</td> </tr> <tr> <td>2. Ch. 2.1 Introduction: Denotation, Truth, and Meaning</td> <td>10. Ch. 2.3.2 The Fragment F (2)</td> </tr> <tr> <td>3. Ch. 2.2.1 Denotation and the Foundations of Semantics (1)</td> <td>11. Ch. 2.3.2 The Fragment F (3)</td> </tr> <tr> <td>4. Ch. 2.2.1 Denotation and the Foundations of Semantics (2)</td> <td>12. Ch. 2.3.2.3 Some Illustration (1)</td> </tr> <tr> <td>5. Ch. 2.2.2 Reference and Sense (1)</td> <td>13. Ch. 2.3.2.3 Some Illustration (2)</td> </tr> <tr> <td>6. Ch. 2.2.2 Reference and Sense (2)</td> <td>14. Ch. 2.3.2.3 Some Illustration (3)</td> </tr> <tr> <td>7. Ch. 2.3.1 Truth (1)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Ch. 2.3.1 Truth (2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. Ch. 2.3.2 The Fragment F (1)	2. Ch. 2.1 Introduction: Denotation, Truth, and Meaning	10. Ch. 2.3.2 The Fragment F (2)	3. Ch. 2.2.1 Denotation and the Foundations of Semantics (1)	11. Ch. 2.3.2 The Fragment F (3)	4. Ch. 2.2.1 Denotation and the Foundations of Semantics (2)	12. Ch. 2.3.2.3 Some Illustration (1)	5. Ch. 2.2.2 Reference and Sense (1)	13. Ch. 2.3.2.3 Some Illustration (2)	6. Ch. 2.2.2 Reference and Sense (2)	14. Ch. 2.3.2.3 Some Illustration (3)	7. Ch. 2.3.1 Truth (1)	15. まとめ	8. Ch. 2.3.1 Truth (2)	
1. ガイダンス	9. Ch. 2.3.2 The Fragment F (1)																				
2. Ch. 2.1 Introduction: Denotation, Truth, and Meaning	10. Ch. 2.3.2 The Fragment F (2)																				
3. Ch. 2.2.1 Denotation and the Foundations of Semantics (1)	11. Ch. 2.3.2 The Fragment F (3)																				
4. Ch. 2.2.1 Denotation and the Foundations of Semantics (2)	12. Ch. 2.3.2.3 Some Illustration (1)																				
5. Ch. 2.2.2 Reference and Sense (1)	13. Ch. 2.3.2.3 Some Illustration (2)																				
6. Ch. 2.2.2 Reference and Sense (2)	14. Ch. 2.3.2.3 Some Illustration (3)																				
7. Ch. 2.3.1 Truth (1)	15. まとめ																				
8. Ch. 2.3.1 Truth (2)																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験 [50%] 課題レポート [50%]																				
◇ 教科書・参考書	授業開始時にプリントを配布する。副読本として『英文構成法』（佐々木高政著、金子書房）を使う。																				
◇ 授業時間外学習	担当箇所は勿論のこと、担当外の箇所についてもしっかり予習し、不明な点を整理しておくこと。副読本の内容確認テストを2回行うので、該当箇所を自習しておくこと。																				
その他：前期に英語学講読「形式意味論入門Ⅰ」を履修していることが望ましい。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																				
英 語 学 演 習 English Linguistics (Seminar)	2	教授 島 越 郎	5	火	2																				
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN310J																								
◆ 授業題目	生成文法による英語分析Ⅰ																								
◆ 目的・概要	生成文法の最新の枠組みで英語がどのように分析されるかを概観する。テキストは Sportiche, Koopman, and Stabler (2014) An Introduction to Syntactic Analysis and Theory を使用し、今セメスターではその前半部分を扱う。毎回15~20ページ程度を口頭発表してもらい、その内容について質疑応答を行う。																								
◆ 到達目標	①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。 ②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。 ③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。																								
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス、Ch. 1 Introduction</td> <td>11. Ch. 6 X-bar Theory and the Format of Lexical Entries (1)</td> </tr> <tr> <td>2. Ch. 2 Morphology (1)</td> <td>12. Ch. 6 X-bar Theory and the Format of Lexical Entries (2)</td> </tr> <tr> <td>3. Ch. 2 Morphology (2)</td> <td>13. Ch. 7 Binding and the Hierarchical Nature of Phrase Structure (1)</td> </tr> <tr> <td>4. Ch. 3 Syntactic Analysis Introduced (1)</td> <td>14. Ch. 7 Binding and the Hierarchical Nature of Phrase Structure (2)</td> </tr> <tr> <td>5. Ch. 3 Syntactic Analysis Introduced (2)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>6. Ch. 3 Syntactic Analysis Introduced (3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. Ch. 4 Clauses (1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. Ch. 4 Clauses (2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. Ch. 5 Other Phrases (1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10. Ch. 5 Other Phrases (2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス、Ch. 1 Introduction	11. Ch. 6 X-bar Theory and the Format of Lexical Entries (1)	2. Ch. 2 Morphology (1)	12. Ch. 6 X-bar Theory and the Format of Lexical Entries (2)	3. Ch. 2 Morphology (2)	13. Ch. 7 Binding and the Hierarchical Nature of Phrase Structure (1)	4. Ch. 3 Syntactic Analysis Introduced (1)	14. Ch. 7 Binding and the Hierarchical Nature of Phrase Structure (2)	5. Ch. 3 Syntactic Analysis Introduced (2)	15. まとめ	6. Ch. 3 Syntactic Analysis Introduced (3)		7. Ch. 4 Clauses (1)		8. Ch. 4 Clauses (2)		9. Ch. 5 Other Phrases (1)		10. Ch. 5 Other Phrases (2)	
1. ガイダンス、Ch. 1 Introduction	11. Ch. 6 X-bar Theory and the Format of Lexical Entries (1)																								
2. Ch. 2 Morphology (1)	12. Ch. 6 X-bar Theory and the Format of Lexical Entries (2)																								
3. Ch. 2 Morphology (2)	13. Ch. 7 Binding and the Hierarchical Nature of Phrase Structure (1)																								
4. Ch. 3 Syntactic Analysis Introduced (1)	14. Ch. 7 Binding and the Hierarchical Nature of Phrase Structure (2)																								
5. Ch. 3 Syntactic Analysis Introduced (2)	15. まとめ																								
6. Ch. 3 Syntactic Analysis Introduced (3)																									
7. Ch. 4 Clauses (1)																									
8. Ch. 4 Clauses (2)																									
9. Ch. 5 Other Phrases (1)																									
10. Ch. 5 Other Phrases (2)																									
◇ 成績評価の方法	演習発表 [20%] 課題レポート提出 [80%]																								
◇ 教科書・参考書	Dominique Sportiche, Hilda Koopman, and Edward Stabler (2014) An Introduction to Syntactic Analysis and Theory (Wiley Blackwell)																								
◇ 授業時間外学習	担当箇所については、内容を纏めたハンドアウトを作成した上で、分かりやすいレポートができるよう準備する。また、担当以外の箇所についても、事前にテキストを読み、分かりにくい点を授業で質問できるように纏めておく。																								
その他：教科書は各自で購入し、第一回目の授業日に持参すること。																									

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 学 演 習 English Linguistics (Seminar)	2	教授 島 越 郎	6	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN310J																				
◆ 授業題目	生成文法による英語分析Ⅱ																				
◆ 目的・概要	生成文法の最新の枠組みで英語がどのように分析されるかを概観する。テキストは Sportiche, Koopman and Stabler (2014) An Introduction to Syntactic Analysis and Theory を使用し、今セメスターではその後半部分を扱う。毎回15～20ページを口頭発表してもらい、その内容について質疑応答を行う。																				
◆ 到達目標	①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。 ②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。 ③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. Ch. 11 Probing Structures (1)</td> </tr> <tr> <td>2. Ch. 8 Apparent Violations of Locality of Selection (1)</td> <td>10. Ch. 11 Probing Structures (2)</td> </tr> <tr> <td>3. Ch. 8 Apparent Violations of Locality of Selection (2)</td> <td>11. Ch. 12 Inward Bound (1)</td> </tr> <tr> <td>4. Ch. 8 Apparent Violations of Locality of Selection (3)</td> <td>12. Ch. 12 Inward Bound (2)</td> </tr> <tr> <td>5. Ch. 9 Infinitival Complements: Raising and Control</td> <td>13. Ch. 12 Inward Bound (3)</td> </tr> <tr> <td>6. Ch. 10 Wh-questions (1)</td> <td>14. Ch. 13 Advanced Binding and Some Binding Typology</td> </tr> <tr> <td>7. Ch. 10 Wh-questions (2)</td> <td>15. Ch. 14 Wh-constructions</td> </tr> <tr> <td>8. Ch. 10 Wh-questions (3)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. Ch. 11 Probing Structures (1)	2. Ch. 8 Apparent Violations of Locality of Selection (1)	10. Ch. 11 Probing Structures (2)	3. Ch. 8 Apparent Violations of Locality of Selection (2)	11. Ch. 12 Inward Bound (1)	4. Ch. 8 Apparent Violations of Locality of Selection (3)	12. Ch. 12 Inward Bound (2)	5. Ch. 9 Infinitival Complements: Raising and Control	13. Ch. 12 Inward Bound (3)	6. Ch. 10 Wh-questions (1)	14. Ch. 13 Advanced Binding and Some Binding Typology	7. Ch. 10 Wh-questions (2)	15. Ch. 14 Wh-constructions	8. Ch. 10 Wh-questions (3)	
1. ガイダンス	9. Ch. 11 Probing Structures (1)																				
2. Ch. 8 Apparent Violations of Locality of Selection (1)	10. Ch. 11 Probing Structures (2)																				
3. Ch. 8 Apparent Violations of Locality of Selection (2)	11. Ch. 12 Inward Bound (1)																				
4. Ch. 8 Apparent Violations of Locality of Selection (3)	12. Ch. 12 Inward Bound (2)																				
5. Ch. 9 Infinitival Complements: Raising and Control	13. Ch. 12 Inward Bound (3)																				
6. Ch. 10 Wh-questions (1)	14. Ch. 13 Advanced Binding and Some Binding Typology																				
7. Ch. 10 Wh-questions (2)	15. Ch. 14 Wh-constructions																				
8. Ch. 10 Wh-questions (3)																					
◇ 成績評価の方法	演習発表 [20%] 課題レポート提出 [80%]																				
◇ 教科書・参考書	Dominique Sportiche, Hilda Koopman and Edward Stabler (2014) An Introduction to Syntactic Analysis and Theory (Wiley Blackwell)																				
◇ 授業時間外学習	担当箇所については、内容を纏めたハンドアウトを作成した上で、分かりやすいレポートができるよう準備する。また、担当以外の箇所についても、事前にテキストを読み、分かりにくい点を授業で質問できるように纏めておく。																				
その他：前期の英語学演習「生成文法による英語分析Ⅰ」を履修していることが前提となる。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 学 演 習 English Linguistics (Seminar)	2	教授 金 子 義 明 郎 教授 島 越 郎	7	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN310J																				
◆ 授業題目	英語学の諸問題研究Ⅰ																				
◆ 目的・概要	英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。①研究論文を担当者がオーラル・レポートする。②討論者がコメントを加える。③授業の参加者全員でディスカッションを行う。授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。																				
◆ 到達目標	①英語学研究の最新動向を把握する ②研究論文の批判的考察法が身に付く																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 英語学研究論文(1)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>9. 英語学研究論文(9)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>2. 英語学研究論文(2)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>10. 英語学研究論文(10)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>3. 英語学研究論文(3)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>11. 英語学研究論文(11)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>4. 英語学研究論文(4)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>12. 英語学研究論文(12)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>5. 英語学研究論文(5)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>13. 英語学研究論文(13)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>6. 英語学研究論文(6)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>14. 英語学研究論文(14)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>7. 英語学研究論文(7)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>15. 英語学研究論文(15)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>8. 英語学研究論文(8)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td></td> </tr> </table>					1. 英語学研究論文(1)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	9. 英語学研究論文(9)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	2. 英語学研究論文(2)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	10. 英語学研究論文(10)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	3. 英語学研究論文(3)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	11. 英語学研究論文(11)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	4. 英語学研究論文(4)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	12. 英語学研究論文(12)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	5. 英語学研究論文(5)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	13. 英語学研究論文(13)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	6. 英語学研究論文(6)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	14. 英語学研究論文(14)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	7. 英語学研究論文(7)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	15. 英語学研究論文(15)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	8. 英語学研究論文(8)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	
1. 英語学研究論文(1)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	9. 英語学研究論文(9)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
2. 英語学研究論文(2)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	10. 英語学研究論文(10)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
3. 英語学研究論文(3)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	11. 英語学研究論文(11)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
4. 英語学研究論文(4)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	12. 英語学研究論文(12)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
5. 英語学研究論文(5)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	13. 英語学研究論文(13)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
6. 英語学研究論文(6)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	14. 英語学研究論文(14)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
7. 英語学研究論文(7)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	15. 英語学研究論文(15)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
8. 英語学研究論文(8)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																					
◇ 成績評価の方法	期末レポート																				
◇ 教科書・参考書	取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。 参考文献・参考書は随時紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	オーラルレポート対象となる英語学研究論文は英語学研究室ホームページに掲載するのであらかじめ読んで参加すること。																				
その他：前年度までに英語学概論および英語学演習を履修していることが必要である。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
英 語 学 演 習 English Linguistics (Seminar)	2	教授 教授 金子 義明 島 越 郎	8	水	2		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN310J						
◆ 授業題目	英語学の諸問題研究Ⅱ						
◆ 目的・概要	英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。①研究論文を担当者がオーラル・レポートする。②討論者がコメントを加える。③授業の参加者全員でディスカッションを行う。授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。						
◆ 到達目標	①英語学研究の最新動向を把握する ②研究論文の批判的考察法が身に付く ③プレゼンテーションの基本的技法が身に付く						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. 英語学研究論文(1)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 2. 英語学研究論文(2)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 3. 英語学研究論文(3)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 4. 英語学研究論文(4)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 5. 英語学研究論文(5)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 6. 英語学研究論文(6)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 7. 英語学研究論文(7)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 8. 英語学研究論文(8)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> 9. 英語学研究論文(9)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 10. 英語学研究論文(10)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 11. 英語学研究論文(11)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 12. 英語学研究論文(12)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 13. 英語学研究論文(13)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 14. 英語学研究論文(14)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 15. 英語学研究論文(15)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション </td> </tr> </table>					1. 英語学研究論文(1)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 2. 英語学研究論文(2)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 3. 英語学研究論文(3)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 4. 英語学研究論文(4)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 5. 英語学研究論文(5)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 6. 英語学研究論文(6)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 7. 英語学研究論文(7)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 8. 英語学研究論文(8)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	9. 英語学研究論文(9)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 10. 英語学研究論文(10)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 11. 英語学研究論文(11)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 12. 英語学研究論文(12)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 13. 英語学研究論文(13)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 14. 英語学研究論文(14)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 15. 英語学研究論文(15)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション
1. 英語学研究論文(1)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 2. 英語学研究論文(2)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 3. 英語学研究論文(3)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 4. 英語学研究論文(4)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 5. 英語学研究論文(5)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 6. 英語学研究論文(6)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 7. 英語学研究論文(7)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 8. 英語学研究論文(8)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	9. 英語学研究論文(9)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 10. 英語学研究論文(10)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 11. 英語学研究論文(11)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 12. 英語学研究論文(12)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 13. 英語学研究論文(13)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 14. 英語学研究論文(14)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 15. 英語学研究論文(15)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション						
◇ 成績評価の方法	期末レポート						
◇ 教科書・参考書	取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。 参考文献・参考書は随時紹介する。						
◇ 授業時間外学習	取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で授業に参加すること。						
その他：前年度までに英語学概論および英語学演習を履修していることが必要である。							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 学 概 論 I German Literature (General Lecture) I	2	教授 森 本 浩 一	3	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT204J																				
◆ 授業題目	ヨーロッパの文脈から見た近代ドイツの歴史と文化																				
◆ 目的・概要	16世紀から20世紀までのドイツ語圏の歴史を概観すると同時に、そこに現れる文化的事象について、幾つかの主要なトピックに焦点をあててながら考察する。ヨーロッパ近代の社会と文化がどのようにして形成されてきたか、そこにおけるドイツの特殊性とは何かを考えてゆきたい。幅広い概観を通じて常識的視野を広げることを目的とする授業である。世界史についての関心と基礎知識を有していることが望ましい。																				
◆ 到達目標	ドイツ語圏を中心としたヨーロッパ近代の歴史と文化に関する常識が身につく、現代の世界がなぜこうなっているのかについて理解し考察する能力が向上する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 中世のドイツ</td> <td>9. ドイツ帝国の半世紀</td> </tr> <tr> <td>2. キリスト教と宗教改革</td> <td>10. 世界大戦の時代</td> </tr> <tr> <td>3. 30年戦争とその後</td> <td>11. ドイツ語圏の文化と思想(3)</td> </tr> <tr> <td>4. ドイツ語圏の文化と思想(1)</td> <td>12. ヒトラーとホロコースト(1)</td> </tr> <tr> <td>5. プロイセンの成立と発展</td> <td>13. ヒトラーとホロコースト(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 18世紀のドイツ語圏</td> <td>14. 戦後ドイツ</td> </tr> <tr> <td>7. フランス革命とその余波 (19世紀)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. ドイツ語圏の文化と思想(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 中世のドイツ	9. ドイツ帝国の半世紀	2. キリスト教と宗教改革	10. 世界大戦の時代	3. 30年戦争とその後	11. ドイツ語圏の文化と思想(3)	4. ドイツ語圏の文化と思想(1)	12. ヒトラーとホロコースト(1)	5. プロイセンの成立と発展	13. ヒトラーとホロコースト(2)	6. 18世紀のドイツ語圏	14. 戦後ドイツ	7. フランス革命とその余波 (19世紀)	15. まとめ	8. ドイツ語圏の文化と思想(2)	
1. 導入 中世のドイツ	9. ドイツ帝国の半世紀																				
2. キリスト教と宗教改革	10. 世界大戦の時代																				
3. 30年戦争とその後	11. ドイツ語圏の文化と思想(3)																				
4. ドイツ語圏の文化と思想(1)	12. ヒトラーとホロコースト(1)																				
5. プロイセンの成立と発展	13. ヒトラーとホロコースト(2)																				
6. 18世紀のドイツ語圏	14. 戦後ドイツ																				
7. フランス革命とその余波 (19世紀)	15. まとめ																				
8. ドイツ語圏の文化と思想(2)																					
◇ 成績評価の方法	おおむね、出席 (30%) と期末レポート (70%)。レポートは、単なる「調べ物」ではなく自ら思索した跡が感じられるかどうかで評価する。																				
◇ 教科書・参考書	参考書としては、坂井栄八郎『ドイツ10講』、岩波新書、2003年。その他は、授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	特別に予習や復習を求めるものではないが、読書やメディアからの情報収集を通じて、日常的にこの「世界」の現状と来歴について関心を向け、自ら思索する習慣を身につけてほしい。																				
その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ることに。 xkc-m2rt@m.tohoku.ac.jp (森本浩一)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 学 概 論 II German Literature (General Lecture) II	2	教授 森 本 浩 一	4	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT205J																				
◆ 授業題目	物語と物語経験																				
◆ 目的・概要	小説・映画・ドラマ・マンガ・ゲームなど「フィクションの物語」は、ますますそのジャンルを多様化させ、文化産業としての規模も拡大して、われわれの日常生活に浸透している。消費者としてのわれわれは、それを楽しめばいいだけの話ではある。しかし、なぜ「現実」と関わらない「物語」が面白いのか、そもそも物語を享受するときわれわれは何をしているのか、という問いを立てたとき、それに答えるのは容易ではない。この授業は、こうした問いを抱き、自らの「物語経験」を反省してみたいと考える学生とともに、なにごとしか思索を深めようとする試みである。																				
◆ 到達目標	物語および物語経験についての一般的理解が深まり、個別の作品享受がより自由で豊かなものになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>9. 物語経験の時間性</td> </tr> <tr> <td>2. 物語のジャンル</td> <td>10. 小説の物語経験(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 現実とフィクション(1)</td> <td>11. 小説の物語経験(2)</td> </tr> <tr> <td>4. 現実とフィクション(2)</td> <td>12. 映画の物語経験</td> </tr> <tr> <td>5. 物語のなりたち(1)</td> <td>13. マンガの物語経験</td> </tr> <tr> <td>6. 物語のなりたち(2)</td> <td>14. アニメの物語経験</td> </tr> <tr> <td>7. 物語のなりたち(3)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. リアリティという問題</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	9. 物語経験の時間性	2. 物語のジャンル	10. 小説の物語経験(1)	3. 現実とフィクション(1)	11. 小説の物語経験(2)	4. 現実とフィクション(2)	12. 映画の物語経験	5. 物語のなりたち(1)	13. マンガの物語経験	6. 物語のなりたち(2)	14. アニメの物語経験	7. 物語のなりたち(3)	15. まとめ	8. リアリティという問題	
1. 導入	9. 物語経験の時間性																				
2. 物語のジャンル	10. 小説の物語経験(1)																				
3. 現実とフィクション(1)	11. 小説の物語経験(2)																				
4. 現実とフィクション(2)	12. 映画の物語経験																				
5. 物語のなりたち(1)	13. マンガの物語経験																				
6. 物語のなりたち(2)	14. アニメの物語経験																				
7. 物語のなりたち(3)	15. まとめ																				
8. リアリティという問題																					
◇ 成績評価の方法	おおむね、出席 (30%) およびレポート (70%)。レポートは、単なる「調べ物」ではなく自ら思索した跡が感じられるかどうかで評価する。																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	これを機会に、自分がこれまで知らなかった、あるいは敬遠していた作品やジャンルにも接して「物語経験」の幅を広げ、そこで自分が何を「感じるか」を常に反省する習慣を身につけてほしい。できるだけ多様な小説を読み、映画を見、マンガを読むことがこの授業における「時間外学習」である。																				
その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ることに。 xkc-m2rt@m.tohoku.ac.jp (森本浩一)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 語 学 概 論 I German Linguistics (General Lecture) I	2	教授 嶋 崎 啓	3	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT206J																				
◆ 授業題目	中級ドイツ文法																				
◆ 目的・概要	初級のドイツ文法では習わない事項を取り上げ、ドイツ語の文法をより深く理解することを目指す。																				
◆ 到達目標	初級で身につけたドイツ語文法の理解を深め、ドイツ語を正しく読み、書くことができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 語順1</td> </tr> <tr> <td>2. 冠詞</td> <td>10. 語順2</td> </tr> <tr> <td>3. 時制1</td> <td>11. 形容詞の用法1</td> </tr> <tr> <td>4. 時制2</td> <td>12. 形容詞の用法2</td> </tr> <tr> <td>5. 接続法1</td> <td>13. 非人称のes1</td> </tr> <tr> <td>6. 接続法2</td> <td>14. 非人称のes2</td> </tr> <tr> <td>7. 関係代名詞1</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 関係代名詞2</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 語順1	2. 冠詞	10. 語順2	3. 時制1	11. 形容詞の用法1	4. 時制2	12. 形容詞の用法2	5. 接続法1	13. 非人称のes1	6. 接続法2	14. 非人称のes2	7. 関係代名詞1	15. まとめ	8. 関係代名詞2	
1. ガイダンス	9. 語順1																				
2. 冠詞	10. 語順2																				
3. 時制1	11. 形容詞の用法1																				
4. 時制2	12. 形容詞の用法2																				
5. 接続法1	13. 非人称のes1																				
6. 接続法2	14. 非人称のes2																				
7. 関係代名詞1	15. まとめ																				
8. 関係代名詞2																					
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]・平常点 (出席、授業での発言、質疑) [50%]																				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布する。必ず辞書を持参すること。 参考書：関口存男『新ドイツ語文法教程』（三省堂）																				
◇ 授業時間外学習	予習は必要ない。講義の内容理解を確かめる課題のレポートを提出してもらう。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 語 学 概 論 II German Linguistics (General Lecture) II	2	教授 嶋 崎 啓	4	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT207J																				
◆ 授業題目	中級ドイツ文法																				
◆ 目的・概要	初級のドイツ文法では習わない事項を取り上げ、ドイツ語の文法をより深く理解することを目指す。																				
◆ 到達目標	初級で身につけたドイツ語文法の理解を深め、ドイツ語を正しく読み、書くことができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 再帰動詞2</td> </tr> <tr> <td>2. 名詞の性</td> <td>10. 命令形</td> </tr> <tr> <td>3. 人称代名詞</td> <td>11. 分詞の用法1</td> </tr> <tr> <td>4. 形容詞・副詞の比較</td> <td>12. 分詞の用法2</td> </tr> <tr> <td>5. 接続詞</td> <td>13. 分離動詞と非分離動詞</td> </tr> <tr> <td>6. 受動態1</td> <td>14. 否定文</td> </tr> <tr> <td>7. 受動態2</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 再帰動詞1</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 再帰動詞2	2. 名詞の性	10. 命令形	3. 人称代名詞	11. 分詞の用法1	4. 形容詞・副詞の比較	12. 分詞の用法2	5. 接続詞	13. 分離動詞と非分離動詞	6. 受動態1	14. 否定文	7. 受動態2	15. まとめ	8. 再帰動詞1	
1. ガイダンス	9. 再帰動詞2																				
2. 名詞の性	10. 命令形																				
3. 人称代名詞	11. 分詞の用法1																				
4. 形容詞・副詞の比較	12. 分詞の用法2																				
5. 接続詞	13. 分離動詞と非分離動詞																				
6. 受動態1	14. 否定文																				
7. 受動態2	15. まとめ																				
8. 再帰動詞1																					
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]・平常点 (出席、授業での発言、質疑) [50%]																				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布する。必ず辞書を持参すること。 参考書：関口存男『新ドイツ語文法教程』（三省堂）																				
◇ 授業時間外学習	予習は必要ない。講義の内容理解を確かめる課題のレポートを提出してもらう。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 語 学 基 礎 講 読 I German Linguistics (Introductory Reading) I	2	教授	シュミッツ, プリギッテ	3	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT221F																					
◆ 授業題目	ドイツの様々な顔 I																					
◆ 目的・概要	地誌・国民、教育・科学、歴史、文化に関するテキストを読む。特に文学・芸術・映画などを取り上げる。																					
◆ 到達目標	テキストの読解力、内容の解釈能力、発話・作文力の向上																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(8)</td> </tr> <tr> <td>2. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(1)</td> <td>10. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(9)</td> </tr> <tr> <td>3. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(2)</td> <td>11. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(10)</td> </tr> <tr> <td>4. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(3)</td> <td>12. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(11)</td> </tr> <tr> <td>5. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(4)</td> <td>13. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(12)</td> </tr> <tr> <td>6. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(5)</td> <td>14. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(13)</td> </tr> <tr> <td>7. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(6)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(7)</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス	9. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(8)	2. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(1)	10. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(9)	3. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(2)	11. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(10)	4. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(3)	12. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(11)	5. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(4)	13. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(12)	6. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(5)	14. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(13)	7. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(6)	15. まとめ	8. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(7)	
1. ガイダンス	9. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(8)																					
2. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(1)	10. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(9)																					
3. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(2)	11. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(10)																					
4. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(3)	12. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(11)																					
5. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(4)	13. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(12)																					
6. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(5)	14. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(13)																					
7. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(6)	15. まとめ																					
8. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(7)																						
◇ 成績評価の方法	筆記試験 [60%]、出席・準備・参加態度 [40%]																					
◇ 教科書・参考書	石井寿子・Andrea Raab『時事ドイツ語2016年度版』Neuigkeiten aus Deutschland 2014/15 (朝日出版社、2016) ならびに、Tatsachen über Deutschland. Hg.: Societäts-Verlag, Frankfurt am Main, in Zusammenarbeit mit dem Auswärtigen Amt, Berlin, 2010. 必要なテキストは教師が準備する。																					
◇ 授業時間外学習	準備されたテキストを読んでおくこと。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 語 学 基 礎 講 読 II German Linguistics (Introductory Reading) II	2	教授	シュミッツ, プリギッテ	4	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT222F																					
◆ 授業題目	ドイツの様々な顔 II																					
◆ 目的・概要	地誌・国民、教育・科学、歴史、文化に関するテキストを読む。特に文学・芸術・映画などを取り上げる。																					
◆ 到達目標	テキストの読解力、内容の解釈能力、発話・作文力の向上																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(8)</td> </tr> <tr> <td>2. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(1)</td> <td>10. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(9)</td> </tr> <tr> <td>3. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(2)</td> <td>11. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(10)</td> </tr> <tr> <td>4. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(3)</td> <td>12. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(11)</td> </tr> <tr> <td>5. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(4)</td> <td>13. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(12)</td> </tr> <tr> <td>6. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(5)</td> <td>14. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(13)</td> </tr> <tr> <td>7. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(6)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(7)</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス	9. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(8)	2. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(1)	10. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(9)	3. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(2)	11. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(10)	4. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(3)	12. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(11)	5. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(4)	13. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(12)	6. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(5)	14. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(13)	7. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(6)	15. まとめ	8. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(7)	
1. ガイダンス	9. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(8)																					
2. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(1)	10. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(9)																					
3. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(2)	11. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(10)																					
4. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(3)	12. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(11)																					
5. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(4)	13. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(12)																					
6. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(5)	14. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(13)																					
7. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(6)	15. まとめ																					
8. テキストの読解、内容の解釈、発話・作文(7)																						
◇ 成績評価の方法	筆記試験 [60%]、出席・準備・参加態度 [40%]																					
◇ 教科書・参考書	石井寿子・Andrea Raab『時事ドイツ語2016年度版』Neuigkeiten aus Deutschland 2014/15 (朝日出版社、2016) ならびに、Tatsachen über Deutschland. Hg.: Societäts-Verlag, Frankfurt am Main, in Zusammenarbeit mit dem Auswärtigen Amt, Berlin, 2010. 必要なテキストは教師が準備する。																					
◇ 授業時間外学習	準備されたテキストを読んでおくこと。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ド イ ツ 文 学 各 論 I German Literature (Special Lecture) I	2	非常勤 講師 佐藤 研 一	5	火	5
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT306J				
◆ 授業題目	十八世紀ドイツ戯曲の誕生Ⅳ				
◆ 目的・概要	「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程にはかならない。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではないのである。この点を見定めながら、十八世紀ドイツを代表するレッシングの市民悲劇『エミーリア・ガロッチィ』（1772）を精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのか考える。				
◆ 到達目標	文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されているが、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれてくる。原典を読みつつ、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。				
◆ 授業内容・方法	<p>1. 十八世紀ドイツ戯曲は、まず『エミーリア・ガロッチィ』を以て、擬古典主義の藪が払われ新文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』（1773）やJ.M.R. レントの喜劇『家庭教師』（1774）や喜劇『軍人たち』（1776）が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。市井風俗百態を、その体内に巢食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。</p> <p>2. この点を念頭に置いて、台詞の一言一句を味わいながら、『エミーリア・ガロッチィ』を演習形式で読み進める。演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくものである。したがって、その内容や進度は、機械的に決められるはずもない。初回は、オリエンテーションに当てるが、2回目から15回目までは、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえて、読み進めてゆく。</p>				
◇ 成績評価の方法	レポート [30%]・出席 [70%]				
◇ 教科書・参考書	<p>・テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Emilia Galotti. Stuttgart: Reclam, 2012.) は、プリントで配布する。参考文献はつぎのとおり。</p> <p>・Goethe, Johann Wolfgang: Götz von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004.</p> <p>・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder Vorteile der Privaterziehung. Stuttgart: Reclam, 2001.</p> <p>・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Die Soldaten. Stuttgart: Reclam, 2004.</p>				
◇ 授業時間外学習	<p>・柴田翔『内面世界に映る歴史 ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986年。</p> <p>・坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996年。</p>				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ド イ ツ 文 学 各 論 II German Literature (Special Lecture) II	2	非常勤 講師 佐藤 研 一	6	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT307J				
◆ 授業題目	十八世紀ドイツ戯曲の誕生Ⅳ				
◆ 目的・概要	「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程にはかならない。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではないのである。この点を見定めながら、十八世紀ドイツを代表するレッシングの市民悲劇『エミーリア・ガロッチィ』（1772）を精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのか考える。				
◆ 到達目標	文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されているが、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれてくる。原典を読みつつ、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。				
◆ 授業内容・方法	<p>1. 十八世紀ドイツ戯曲は、まず『エミーリア・ガロッチィ』を以て、擬古典主義の藪が払われ新文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』（1773）やJ.M.R. レントの喜劇『家庭教師』（1774）や喜劇『軍人たち』（1776）が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。市井風俗百態を、その体内に巢食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。</p> <p>2. この点を念頭に置いて、台詞の一言一句を味わいながら、『エミーリア・ガロッチィ』を演習形式で読む。演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくものである。したがって、その内容や進度は、機械的に決められるはずもない。初回は、オリエンテーションに当てるが、2回目から15回目までは、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえて、授業を進めてゆく。</p>				
◇ 成績評価の方法	レポート [30%]・出席 [70%]				
◇ 教科書・参考書	<p>・テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Emilia Galotti. Stuttgart: Reclam, 2012.) は、プリントで配布する。参考文献はつぎのとおり。</p> <p>・Goethe, Johann Wolfgang: Götz von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004.</p> <p>・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder Vorteile der Privaterziehung. Stuttgart: Reclam, 2001.</p> <p>・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Die Soldaten. Stuttgart: Reclam, 2004.</p>				
◇ 授業時間外学習	<p>・柴田翔『内面世界に映る歴史 ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986年。</p> <p>・坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996年。</p>				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 学 各 論 III German Literature (Special Lecture) III	2	非常勤 講師 佐々木 果	集 中 (6)																		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT308J																				
◆ 授業題目	イメージと物語																				
◆ 目的・概要	言語だけで表現された一般的な文学作品とは異なる、視覚的なイメージを用いる絵物語やまんがなどの「語り」のなりたちについて、ヨーロッパの歴史を追いながら考える。特に、現代の物語まんがの父といわれるテプフェールやブッシュ、彼らに影響を与えたといわれるホガースなどの検討を通じて、まんがやアニメーションなどの「イメージによる物語」の問題点を洗い出し、イメージと物語の理論について理解を深める。																				
◆ 到達目標	言語とイメージを用いた物語のなりたちを歴史的に検討し、理解を深める。また、そのことを通じて、現代のさまざまなメディアに拡張された物語表現の意義を考えるための知識と思考力を養う。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 現代の視覚メディアと物語</td> <td>9. 20世紀前半：世界的な物語まんがの流行と形式の変化</td> </tr> <tr> <td>2. イメージを物語的に理解することについて</td> <td>10. まんがにおける語り（物語行為）の問題</td> </tr> <tr> <td>3. まんがはどこから来たか</td> <td>11. まんがの絵はいかに修辭的に機能するか</td> </tr> <tr> <td>4. ヨーロッパにおける分割された絵と物語の歴史</td> <td>12. 映画・アニメーションの出現とまんが</td> </tr> <tr> <td>5. 18世紀：ウィリアム・ホガースとカリカチュア</td> <td>13. 物語とキャラクター</td> </tr> <tr> <td>6. 19世紀前半：物語まんがの父、ロドルフ・テプフェール</td> <td>14. メディアとリアリティについて</td> </tr> <tr> <td>7. 19世紀後半：ヴィルヘルム・ブッシュからコミックへ</td> <td>15. 振り返りとまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 日本におけるポンチ・漫画の成立</td> <td></td> </tr> </table>					1. 現代の視覚メディアと物語	9. 20世紀前半：世界的な物語まんがの流行と形式の変化	2. イメージを物語的に理解することについて	10. まんがにおける語り（物語行為）の問題	3. まんがはどこから来たか	11. まんがの絵はいかに修辭的に機能するか	4. ヨーロッパにおける分割された絵と物語の歴史	12. 映画・アニメーションの出現とまんが	5. 18世紀：ウィリアム・ホガースとカリカチュア	13. 物語とキャラクター	6. 19世紀前半：物語まんがの父、ロドルフ・テプフェール	14. メディアとリアリティについて	7. 19世紀後半：ヴィルヘルム・ブッシュからコミックへ	15. 振り返りとまとめ	8. 日本におけるポンチ・漫画の成立	
1. 現代の視覚メディアと物語	9. 20世紀前半：世界的な物語まんがの流行と形式の変化																				
2. イメージを物語的に理解することについて	10. まんがにおける語り（物語行為）の問題																				
3. まんがはどこから来たか	11. まんがの絵はいかに修辭的に機能するか																				
4. ヨーロッパにおける分割された絵と物語の歴史	12. 映画・アニメーションの出現とまんが																				
5. 18世紀：ウィリアム・ホガースとカリカチュア	13. 物語とキャラクター																				
6. 19世紀前半：物語まんがの父、ロドルフ・テプフェール	14. メディアとリアリティについて																				
7. 19世紀後半：ヴィルヘルム・ブッシュからコミックへ	15. 振り返りとまとめ																				
8. 日本におけるポンチ・漫画の成立																					
◇ 成績評価の方法	授業内にて振り返りのレポートを課す。 歴史的な問題の理解度：50% 物語論の問題の理解度：50%																				
◇ 教科書・参考書	授業内にて資料を配布の上、参考図書についても随時紹介をする。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の授業内容を復習し、良く理解した上で次の授業に臨むようにすること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 語 学 各 論 German Linguistics (Special Lecture)	2	教授 森 本 浩 一	5	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT311J																				
◆ 授業題目	「ナラトロジー」講読(1)																				
◆ 目的・概要	ポストクラシカル・ナラトロジーを代表する研究者のひとりである Monika Fludernik の『物語理論入門』を講読する。ドイツ語原著第4版（2013年）と、著者自身による英訳（2009年）を併用するので、ドイツ語未履修者も参加可能。																				
◆ 到達目標	現代の物語論 (narratology) についての理解が深まる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>9. テキストの講読(8)</td> </tr> <tr> <td>2. テキストの講読(1)</td> <td>10. テキストの講読(9)</td> </tr> <tr> <td>3. テキストの講読(2)</td> <td>11. テキストの講読(10)</td> </tr> <tr> <td>4. テキストの講読(3)</td> <td>12. テキストの講読(11)</td> </tr> <tr> <td>5. テキストの講読(4)</td> <td>13. テキストの講読(12)</td> </tr> <tr> <td>6. テキストの講読(5)</td> <td>14. テキストの講読(13)</td> </tr> <tr> <td>7. テキストの講読(6)</td> <td>15. テキストの講読(14)</td> </tr> <tr> <td>8. テキストの講読(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	9. テキストの講読(8)	2. テキストの講読(1)	10. テキストの講読(9)	3. テキストの講読(2)	11. テキストの講読(10)	4. テキストの講読(3)	12. テキストの講読(11)	5. テキストの講読(4)	13. テキストの講読(12)	6. テキストの講読(5)	14. テキストの講読(13)	7. テキストの講読(6)	15. テキストの講読(14)	8. テキストの講読(7)	
1. 導入	9. テキストの講読(8)																				
2. テキストの講読(1)	10. テキストの講読(9)																				
3. テキストの講読(2)	11. テキストの講読(10)																				
4. テキストの講読(3)	12. テキストの講読(11)																				
5. テキストの講読(4)	13. テキストの講読(12)																				
6. テキストの講読(5)	14. テキストの講読(13)																				
7. テキストの講読(6)	15. テキストの講読(14)																				
8. テキストの講読(7)																					
◇ 成績評価の方法	おおむね、予習と授業への参加（70%）とレポート（30%）。																				
◇ 教科書・参考書	Monika Fludernik, Erzähltheorie: Eine Einführung, 4.Aufl, WBG (Wissenschaftliche Buchgesellschaft), 2013. Monika Fludernik, An Introduction to Narratology, Routledge, 2009.																				
◇ 授業時間外学習	毎回、訳読の準備をして出席すること。																				
その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ることに。 xkc-m2rt@m.tohoku.ac.jp（森本浩一）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 語 学 各 論 German Linguistics (Special Lecture)	2	教授 森 本 浩 一	6	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT311J																				
◆ 授業題目	「ナラトロジー」講読(2)																				
◆ 目的・概要	ポストクラシカル・ナラトロジーを代表する研究者のひとりである Monika Fludernik の『物語理論入門』を講読する。ドイツ語原著第4版(2013年)と、著者自身による英訳(2009年)を併用するので、ドイツ語未履修者も参加可能。後期は、前期のつづき。																				
◆ 到達目標	現代の物語論(narratology)についての理解が深まる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>9. テキストの講読(8)</td> </tr> <tr> <td>2. テキストの講読(1)</td> <td>10. テキストの講読(9)</td> </tr> <tr> <td>3. テキストの講読(2)</td> <td>11. テキストの講読(10)</td> </tr> <tr> <td>4. テキストの講読(3)</td> <td>12. テキストの講読(11)</td> </tr> <tr> <td>5. テキストの講読(4)</td> <td>13. テキストの講読(12)</td> </tr> <tr> <td>6. テキストの講読(5)</td> <td>14. テキストの講読(13)</td> </tr> <tr> <td>7. テキストの講読(6)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. テキストの講読(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	9. テキストの講読(8)	2. テキストの講読(1)	10. テキストの講読(9)	3. テキストの講読(2)	11. テキストの講読(10)	4. テキストの講読(3)	12. テキストの講読(11)	5. テキストの講読(4)	13. テキストの講読(12)	6. テキストの講読(5)	14. テキストの講読(13)	7. テキストの講読(6)	15. まとめ	8. テキストの講読(7)	
1. 導入	9. テキストの講読(8)																				
2. テキストの講読(1)	10. テキストの講読(9)																				
3. テキストの講読(2)	11. テキストの講読(10)																				
4. テキストの講読(3)	12. テキストの講読(11)																				
5. テキストの講読(4)	13. テキストの講読(12)																				
6. テキストの講読(5)	14. テキストの講読(13)																				
7. テキストの講読(6)	15. まとめ																				
8. テキストの講読(7)																					
◇ 成績評価の方法	おおむね、予習と授業への参加(70%)、およびレポート(30%)。																				
◇ 教科書・参考書	Monika Fludernik, Erzähltheorie: Eine Einführung, 4.Aufl, WBG (Wissenschaftliche Buchgesellschaft), 2013. Monika Fludernik, An Introduction to Narratology, Routledge, 2009.																				
◇ 授業時間外学習	毎回、訳読の準備をして出席すること。																				
その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ること。 xkc-m2rt@m.tohoku.ac.jp (森本浩一)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 語 学 各 論 German Linguistics (Special Lecture)	2	非常勤講師 松 崎 裕 人	6	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT311J																				
◆ 授業題目	ドイツ語圏文学講読																				
◆ 目的・概要	現代ドイツ語圏の文学作品を読みながら、読解力の養成をはかる。今期では19、20世紀転換期オーストリアの作家アルトゥア・シュニッツラー(1862-1931)の短編を読む。原文講読を通して、小説における技法のいくつかについて習熟する。また、作品の背景となる社会的、文化的状況について理解を深める。																				
◆ 到達目標	中級ドイツ語以上の原文を読解することができる。 特殊辞典・事典の使い方に慣れる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 読解(8)および意識の流れ(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 読解(1)および作家紹介(1)</td> <td>10. 読解(9)および内的独白(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 読解(2)および作家紹介(2)</td> <td>11. 読解(10)および内的独白(2)</td> </tr> <tr> <td>4. 読解(3)および作品背景紹介(1)</td> <td>12. 読解(11)および体験話法(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 読解(4)および作品背景紹介(2)</td> <td>13. 読解(11)および体験話法(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 読解(5)およびユダヤ問題(1)</td> <td>14. 読解(13)および医者=文学者の視点</td> </tr> <tr> <td>7. 読解(6)およびユダヤ問題(2)</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 読解(7)および意識の流れ(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 読解(8)および意識の流れ(2)	2. 読解(1)および作家紹介(1)	10. 読解(9)および内的独白(1)	3. 読解(2)および作家紹介(2)	11. 読解(10)および内的独白(2)	4. 読解(3)および作品背景紹介(1)	12. 読解(11)および体験話法(1)	5. 読解(4)および作品背景紹介(2)	13. 読解(11)および体験話法(1)	6. 読解(5)およびユダヤ問題(1)	14. 読解(13)および医者=文学者の視点	7. 読解(6)およびユダヤ問題(2)	15. まとめと試験	8. 読解(7)および意識の流れ(1)	
1. ガイダンス	9. 読解(8)および意識の流れ(2)																				
2. 読解(1)および作家紹介(1)	10. 読解(9)および内的独白(1)																				
3. 読解(2)および作家紹介(2)	11. 読解(10)および内的独白(2)																				
4. 読解(3)および作品背景紹介(1)	12. 読解(11)および体験話法(1)																				
5. 読解(4)および作品背景紹介(2)	13. 読解(11)および体験話法(1)																				
6. 読解(5)およびユダヤ問題(1)	14. 読解(13)および医者=文学者の視点																				
7. 読解(6)およびユダヤ問題(2)	15. まとめと試験																				
8. 読解(7)および意識の流れ(1)																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験(70%)および平常評価(30%)による総合評価																				
◇ 教科書・参考書	テキスト：① Arthur Schnitzler: Die Toten schweigen. (プリント配布) ② Arthur Schnitzler: Der Sohn. (プリント配布) それ以外のテキストや参考文献については開講時に紹介します。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、テキスト2頁ほどの十分な準備が必要です。その段階で不明な箇所を洗い出し、それを授業時に確認し、復習によって確かなものとしてください。																				
その他：オフィスアワー等については開講時に案内します。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ド イ ツ 文 学 演 習 I German Literature (Seminar) I	2	教授 森 本 浩 一	5	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT323J				
◆ 授業題目	批評演習(1)				
◆ 目的・概要	主観的な作品経験から出発して批評的テキストを生み出す、つまり「読む(見る)こと」を「書くこと」につなげるための訓練である。論文執筆の準備を兼ねる。「文学」分野での主たる仕事は、文化的な対象、特に文学などのアート作品について「何かを書く」ことである。それは通常の学問=科学的な「説明」とは違い、自らが作品から受容したものをあらためて言語で「表現」という、それ自体創造的な行為である。この「批評」と呼ばれる作業では、作品のいわゆる「客観的」な分析も必要ではあるが、それも実際には論者の「解釈」を効果的・説得的に他者に伝達するための手段に過ぎない。しかも難しいのは、どのように書けば説得的でありうるのか、明確な規則がないことである。この授業は、物語的性格を持つ様々なジャンルの作品について、実際に各人が批評文を書き、それを素材に参加者全員が討議する形で進めてゆく。「批評」とはどのような営為なのかを各人が実感し、自分にとって満足のゆくより効果的なテキストを生産できるようにすることが授業の目標である。				
◆ 到達目標	作品を批評的に受容・解釈するための観点や方法について理解が深まるとともに、物語に向き合う自分自身の嗜好や傾向性を自覚できるようになり、それによって日本語による批評的作文技能が向上する。				
◆ 授業内容・方法	1. 導入 2. メディア比較(1) 3. メディア比較(1) 4. 自由課題批評(1) 5. 自由課題批評(2) 6. 自由課題批評(3) 7. 映画を批評する(1) 8. 映画を批評する(2) 9. 小説を批評する(1) 10. 小説を批評する(2) 11. マンガを批評する(1) 12. マンガを批評する(2) 13. 映画を批評する(3) 14. 映画を批評する(4) 15. 長篇小説を批評する				
◇ 成績評価の方法	おおむね、各回の批評文の提出と討議への参加(80%)およびレポート(20%)。				
◇ 教科書・参考書	必要に応じて授業中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	各人の批評文を素材として授業を行うので、指定された提出物は必ず指示された時間までにメール添付で送信すること。				
その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ることに。 xkc-m2rt@m.tohoku.ac.jp (森本浩一)					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ド イ ツ 文 学 演 習 II German Literature (Seminar) II	2	教授 森 本 浩 一	6	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT324J				
◆ 授業題目	批評演習(2)				
◆ 目的・概要	主観的な作品経験から出発して批評的テキストを生み出す、つまり「読む(見る)こと」を「書くこと」につなげるための訓練である。論文執筆の準備を兼ねる。「文学」分野での主たる仕事は、文化的な対象、特に文学などのアート作品について「何かを書く」ことである。それは通常の学問=科学的な「説明」とは違い、自らが作品から受容したものをあらためて言語で「表現」という、それ自体創造的な行為である。この「批評」と呼ばれる作業では、作品のいわゆる「客観的」な分析も必要ではあるが、それも実際には論者の「解釈」を効果的・説得的に他者に伝達するための手段に過ぎない。しかも難しいのは、どのように書けば説得的でありうるのか、明確な規則がないことである。この授業は、物語的性格を持つ様々なジャンルの作品について、実際に各人が批評文を書き、それを素材に参加者全員が討議する形で進めてゆく。「批評」とはどのような営為なのかを各人が実感し、自分にとって満足のゆくより効果的なテキストを生産できるようにすることが授業の目標である。後期は、各自が選定した作品について発表を行い、他の参加者がその作品を読んで(見て)発表者と討議・応答する形式で進める。				
◆ 到達目標	作品を批評的に受容・解釈するための観点や方法について理解が深まるとともに、物語に向き合う自分自身の嗜好や傾向性を自覚できるようになり、それによって日本語による批評的作文技能が向上する。				
◆ 授業内容・方法	1. 導入講義(1) 2. 導入講義(2) 3. 発表と討議(1) 4. 発表と討議(2) 5. 発表と討議(3) 6. 発表と討議(4) 7. 発表と討議(5) 8. 発表と討議(6) 9. 発表と討議(7) 10. 発表と討議(8) 11. 発表と討議(9) 12. 発表と討議(10) 13. 発表と討議(11) 14. 発表と討議(12) 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法	個人発表・各回の討議への参加・応答レポートの提出(80%)および最終レポート(20%)。				
◇ 教科書・参考書	必要に応じて授業中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	発表のレジュメと各回の応答レポートは、必ず指示された時間までにメール添付で提出すること。				
その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ることに。 xkc-m2rt@m.tohoku.ac.jp (森本浩一)					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 学 演 習 Ⅲ German Literature (Seminar) Ⅲ	2	教授 シュミッツ, プリギッテ	5	木	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT325F																				
◆ 授業題目	ドイツ語圏の作家たちの日記の講読とドイツ語による自分の日記の作文																				
◆ 目的・概要	著名な作家の日記を読む。またあわせて参加者自身が書いた作文も素材とする。参加者は日記あるいは書評・映画評などをドイツ語で書き、授業において発表し、おたがいに議論する。																				
◆ 到達目標	著名な作家たちのテキストを彼らの文学的生活に基づいて理解する。テキストの読解力、内容の解釈能力、発話・作文力および会話力を向上させる。自分で短いテキストを書けるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(8)</td> </tr> <tr> <td>2. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(1)</td> <td>10. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(9)</td> </tr> <tr> <td>3. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(2)</td> <td>11. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(10)</td> </tr> <tr> <td>4. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(3)</td> <td>12. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(11)</td> </tr> <tr> <td>5. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(4)</td> <td>13. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(12)</td> </tr> <tr> <td>6. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(5)</td> <td>14. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(13)</td> </tr> <tr> <td>7. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(6)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(8)	2. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(1)	10. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(9)	3. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(2)	11. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(10)	4. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(3)	12. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(11)	5. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(4)	13. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(12)	6. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(5)	14. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(13)	7. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(6)	15. まとめ	8. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(7)	
1. ガイダンス	9. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(8)																				
2. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(1)	10. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(9)																				
3. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(2)	11. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(10)																				
4. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(3)	12. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(11)																				
5. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(4)	13. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(12)																				
6. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(5)	14. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(13)																				
7. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(6)	15. まとめ																				
8. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(7)																					
◇ 成績評価の方法	Schriftliche Prüfung (=Test oder Hausarbeit): (60%): Anwesenheit / Vorbereitung / Mitarbeit (40%)																				
◇ 教科書・参考書	テキスト資料は教師が準備する。主として使用するテキストは以下である。 Rainer WIELAND (Hg.): Das Buch der Tagebücher Ausgewählt von Rainer WIELAND. München (Piper Verlag GmbH) September 2010. ISBN: 978-3-492-05326-6																				
◇ 授業時間外学習	準備されたテキストを読んでおくこと。																				
その他:																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 学 演 習 Ⅳ German Literature (Seminar) Ⅳ	2	教授 嶋 崎 啓	6	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT326J																				
◆ 授業題目	グリム童話の講読と解釈																				
◆ 目的・概要	グリム童話の原文を読み、またそれについての解釈、論文などを読んで上で、独自の解釈を導き出すことを目的とする。具体的には、講読する予定の作品は「ヘンゼルとグレーテル」および「赤ずきん」で、各自それについての解釈している論文や研究書等を探し、その内容を口頭で紹介する。その上で、その解釈や論文を否定する形で自分自身の解釈を口頭発表の形で提示する。																				
◆ 到達目標	第一の目標は、ドイツの原文が辞書を使えば読めるようになること。第二の目標は、人の説を自分の言葉で要約できるようになること。第三の目標は、他者の意見を乗り越える形で自分の意見を展開できるようになること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 「赤ずきん」原文の講読 3</td> </tr> <tr> <td>2. 「ヘンゼルとグレーテル」原文の講読 1</td> <td>10. 論文の紹介と自説の発表 1</td> </tr> <tr> <td>3. 「ヘンゼルとグレーテル」原文の講読 2</td> <td>11. 論文の紹介と自説の発表 2</td> </tr> <tr> <td>4. 「ヘンゼルとグレーテル」原文の講読 3</td> <td>12. 論文の紹介と自説の発表 3</td> </tr> <tr> <td>5. 「ヘンゼルとグレーテル」原文の講読 4</td> <td>13. 論文の紹介と自説の発表 4</td> </tr> <tr> <td>6. 「ヘンゼルとグレーテル」原文の講読 5</td> <td>14. 論文の紹介と自説の発表 5</td> </tr> <tr> <td>7. 「赤ずきん」原文の講読 1</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「赤ずきん」原文の講読 2</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 「赤ずきん」原文の講読 3	2. 「ヘンゼルとグレーテル」原文の講読 1	10. 論文の紹介と自説の発表 1	3. 「ヘンゼルとグレーテル」原文の講読 2	11. 論文の紹介と自説の発表 2	4. 「ヘンゼルとグレーテル」原文の講読 3	12. 論文の紹介と自説の発表 3	5. 「ヘンゼルとグレーテル」原文の講読 4	13. 論文の紹介と自説の発表 4	6. 「ヘンゼルとグレーテル」原文の講読 5	14. 論文の紹介と自説の発表 5	7. 「赤ずきん」原文の講読 1	15. まとめ	8. 「赤ずきん」原文の講読 2	
1. ガイダンス	9. 「赤ずきん」原文の講読 3																				
2. 「ヘンゼルとグレーテル」原文の講読 1	10. 論文の紹介と自説の発表 1																				
3. 「ヘンゼルとグレーテル」原文の講読 2	11. 論文の紹介と自説の発表 2																				
4. 「ヘンゼルとグレーテル」原文の講読 3	12. 論文の紹介と自説の発表 3																				
5. 「ヘンゼルとグレーテル」原文の講読 4	13. 論文の紹介と自説の発表 4																				
6. 「ヘンゼルとグレーテル」原文の講読 5	14. 論文の紹介と自説の発表 5																				
7. 「赤ずきん」原文の講読 1	15. まとめ																				
8. 「赤ずきん」原文の講読 2																					
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]・平常点 (出席、授業での発言、質疑) [50%]																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。その他適宜授業で紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	原文読解のために予習が必要。また論文や解釈本を自分で図書館などで探すことも求められる。また口頭発表とその発表にもとづいたレポートが課せられる。																				
その他:																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 語 学 演 習 I German Linguistics (Seminar) I	2	教授 嶋 崎 啓	5	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT327J																				
◆ 授業題目	中高ドイツ語講読																				
◆ 目的・概要	1200年頃の中高ドイツ語 (Mittelhochdeutsch) を理解することを目指し、ドイツ中世叙事詩「ニーベルンゲンの歌」を講読する。																				
◆ 到達目標	中高ドイツ語の文学作品を読み、表現が理解できるようになる。ヨーロッパ中世の文化や世界観についての知識を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 5</td> </tr> <tr> <td>2. 中高ドイツ語の基礎知識 1</td> <td>10. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 6</td> </tr> <tr> <td>3. 中高ドイツ語の基礎知識 2</td> <td>11. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 7</td> </tr> <tr> <td>4. 中高ドイツ語の基礎知識 3</td> <td>12. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 8</td> </tr> <tr> <td>5. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 1</td> <td>13. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 9</td> </tr> <tr> <td>6. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 2</td> <td>14. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 10</td> </tr> <tr> <td>7. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 3</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 4</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 5	2. 中高ドイツ語の基礎知識 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 6	3. 中高ドイツ語の基礎知識 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 7	4. 中高ドイツ語の基礎知識 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 8	5. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 1	13. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 9	6. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 2	14. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 10	7. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 3	15. まとめ	8. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 4	
1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 5																				
2. 中高ドイツ語の基礎知識 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 6																				
3. 中高ドイツ語の基礎知識 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 7																				
4. 中高ドイツ語の基礎知識 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 8																				
5. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 1	13. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 9																				
6. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 2	14. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 10																				
7. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 3	15. まとめ																				
8. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 4																					
◇ 成績評価の方法	平常点 (出席、授業での発言、質疑) [100%]																				
◇ 教科書・参考書	テキスト：Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutsch/Neuhochdeutsch. Stuttgart: Reclam 1997. 参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社、浜崎長寿『中高ドイツ語の分類語彙と変化表』大学書林、M. Lexers Mittelhochdeutsches Taschenwörterbuch. Stuttgart: Hirzel.																				
◇ 授業時間外学習	前もって単語の文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づきつつ、辞書を使って予習をしてもらいたい。																				
その他：講読する箇所は先学期からの続きである。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 語 学 演 習 II German Linguistics (Seminar) II	2	教授 嶋 崎 啓	6	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT328J																				
◆ 授業題目	中高ドイツ語講読																				
◆ 目的・概要	1200年頃の中高ドイツ語 (Mittelhochdeutsch) を理解することを目指し、ドイツ中世叙事詩「ニーベルンゲンの歌」を講読する。																				
◆ 到達目標	中高ドイツ語の文学作品を読み、表現が理解できるようになる。ヨーロッパ中世の文化や世界観についての知識を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 8</td> </tr> <tr> <td>2. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 1</td> <td>10. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 9</td> </tr> <tr> <td>3. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 2</td> <td>11. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 10</td> </tr> <tr> <td>4. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 3</td> <td>12. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 11</td> </tr> <tr> <td>5. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 4</td> <td>13. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 12</td> </tr> <tr> <td>6. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 5</td> <td>14. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 13</td> </tr> <tr> <td>7. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 6</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 8	2. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 9	3. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 10	4. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 11	5. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 4	13. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 12	6. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 5	14. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 13	7. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 6	15. まとめ	8. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 7	
1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 8																				
2. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 9																				
3. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 10																				
4. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 11																				
5. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 4	13. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 12																				
6. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 5	14. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 13																				
7. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 6	15. まとめ																				
8. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 7																					
◇ 成績評価の方法	平常点 (出席、授業での発言、質疑) [100%]																				
◇ 教科書・参考書	テキスト：Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutsch/Neuhochdeutsch. Stuttgart: Reclam 1997. 参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社、浜崎長寿『中高ドイツ語の分類語彙と変化表』大学書林、M. Lexers Mittelhochdeutsches Taschenwörterbuch. Stuttgart: Hirzel.																				
◇ 授業時間外学習	前もって単語の文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づきつつ、辞書を使って予習をしてもらいたい。																				
その他：講読する箇所は先学期からの続きである。中高ドイツ語についての基礎知識がない受講者がいる場合は、最初に中高ドイツ語について講義を行う。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 語 学 演 習 Ⅲ German Linguistics (Seminar) Ⅲ	2	教授 シュミッツ, プリギッテ	5	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT329F																				
◆ 授業題目	ドイツ文化の諸相Ⅰ																				
◆ 目的・概要	テキスト(例えばde-Magazin Deutschland)や、映像(例えば『ドイツ100年』シリーズ)を素材として、文化学的な様々なテーマについて考える。																				
◆ 到達目標	テキスト(特に最近の雑誌記事)および比較的短い映像作品の内容検討を通じて、言語的な理解力・表現力を向上させる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 文学テキストの読解、分析(1)</td> </tr> <tr> <td>2. 雑誌記事の読解、分析(1)</td> <td>10. 文学テキストの読解、分析(2)</td> </tr> <tr> <td>3. 雑誌記事の読解、分析(2)</td> <td>11. 文学テキストの読解、分析(3)</td> </tr> <tr> <td>4. 雑誌記事の読解、分析(3)</td> <td>12. 文学テキストの読解、分析(4)</td> </tr> <tr> <td>5. 雑誌記事の読解、分析(4)</td> <td>13. 文学テキストの読解、分析(5)</td> </tr> <tr> <td>6. 雑誌記事の読解、分析(5)</td> <td>14. 文学テキストの読解、分析(6)</td> </tr> <tr> <td>7. 雑誌記事の読解、分析(6)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 雑誌記事の読解、分析(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 文学テキストの読解、分析(1)	2. 雑誌記事の読解、分析(1)	10. 文学テキストの読解、分析(2)	3. 雑誌記事の読解、分析(2)	11. 文学テキストの読解、分析(3)	4. 雑誌記事の読解、分析(3)	12. 文学テキストの読解、分析(4)	5. 雑誌記事の読解、分析(4)	13. 文学テキストの読解、分析(5)	6. 雑誌記事の読解、分析(5)	14. 文学テキストの読解、分析(6)	7. 雑誌記事の読解、分析(6)	15. まとめ	8. 雑誌記事の読解、分析(7)	
1. ガイダンス	9. 文学テキストの読解、分析(1)																				
2. 雑誌記事の読解、分析(1)	10. 文学テキストの読解、分析(2)																				
3. 雑誌記事の読解、分析(2)	11. 文学テキストの読解、分析(3)																				
4. 雑誌記事の読解、分析(3)	12. 文学テキストの読解、分析(4)																				
5. 雑誌記事の読解、分析(4)	13. 文学テキストの読解、分析(5)																				
6. 雑誌記事の読解、分析(5)	14. 文学テキストの読解、分析(6)																				
7. 雑誌記事の読解、分析(6)	15. まとめ																				
8. 雑誌記事の読解、分析(7)																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験(テストもしくはレポート)[60%]、出席・準備・参加態度[40%]																				
◇ 教科書・参考書	扱うテキスト(主として雑誌から)は、ドイツ語版と日本語版を併用する。また Erich Kaestner や Judith Kerr といった文学テキストも使用する。テキストはいずれも教師が準備する。																				
◇ 授業時間外学習	準備されたテキストを読んでおくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ド イ ツ 語 学 演 習 Ⅳ German Linguistics (Seminar) Ⅳ	2	教授 シュミッツ, プリギッテ	6	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT330F																				
◆ 授業題目	ドイツ文化の諸相Ⅱ																				
◆ 目的・概要	テキスト(例えばde-Magazin Deutschland)や、映像(例えば『ドイツ100年』シリーズ)を素材として、文化学的な様々なテーマについて考える。																				
◆ 到達目標	テキスト(特に最近の雑誌記事)および比較的短い映像作品の内容検討を通じて、言語的な理解力・表現力を向上させる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 文学テキストの読解、分析(1)</td> </tr> <tr> <td>2. 雑誌記事の読解、分析(1)</td> <td>10. 文学テキストの読解、分析(2)</td> </tr> <tr> <td>3. 雑誌記事の読解、分析(2)</td> <td>11. 文学テキストの読解、分析(3)</td> </tr> <tr> <td>4. 雑誌記事の読解、分析(3)</td> <td>12. 文学テキストの読解、分析(4)</td> </tr> <tr> <td>5. 雑誌記事の読解、分析(4)</td> <td>13. 文学テキストの読解、分析(5)</td> </tr> <tr> <td>6. 雑誌記事の読解、分析(5)</td> <td>14. 文学テキストの読解、分析(6)</td> </tr> <tr> <td>7. 雑誌記事の読解、分析(6)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 雑誌記事の読解、分析(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 文学テキストの読解、分析(1)	2. 雑誌記事の読解、分析(1)	10. 文学テキストの読解、分析(2)	3. 雑誌記事の読解、分析(2)	11. 文学テキストの読解、分析(3)	4. 雑誌記事の読解、分析(3)	12. 文学テキストの読解、分析(4)	5. 雑誌記事の読解、分析(4)	13. 文学テキストの読解、分析(5)	6. 雑誌記事の読解、分析(5)	14. 文学テキストの読解、分析(6)	7. 雑誌記事の読解、分析(6)	15. まとめ	8. 雑誌記事の読解、分析(7)	
1. ガイダンス	9. 文学テキストの読解、分析(1)																				
2. 雑誌記事の読解、分析(1)	10. 文学テキストの読解、分析(2)																				
3. 雑誌記事の読解、分析(2)	11. 文学テキストの読解、分析(3)																				
4. 雑誌記事の読解、分析(3)	12. 文学テキストの読解、分析(4)																				
5. 雑誌記事の読解、分析(4)	13. 文学テキストの読解、分析(5)																				
6. 雑誌記事の読解、分析(5)	14. 文学テキストの読解、分析(6)																				
7. 雑誌記事の読解、分析(6)	15. まとめ																				
8. 雑誌記事の読解、分析(7)																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験(テストもしくはレポート)[60%]、出席・準備・参加態度[40%]																				
◇ 教科書・参考書	扱うテキスト(主として雑誌から)は、ドイツ語版と日本語版を併用する。また Erich Kaestner や Judith Kerr といった文学テキストも使用する。テキストはいずれも教師が準備する。																				
◇ 授業時間外学習	準備されたテキストを読んでおくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 概 論 I French Literature (General Lecture) I	2	准教授 黒 岩 卓	3	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT208J																				
◆ 授業題目	フランス文学史（古典主義の成立前後まで）																				
◆ 目的・概要	中世から17世紀にいたるまでのフランス語による文学作品を、フランス語史の観点を含めつつ概観します。いわゆるフランス語の誕生から、16世紀になって本格化した古典古代のテキストの研究の復興や宗教改革を経て、近代フランス語の基礎が確立されるまでのありさまを、時代ごとの代表的作品を例にとりながら解説していきます。時代ごとのフランス語で書かれた諸作品を扱いますが、適時日本語訳を用います。音楽や演劇などの諸芸術と文学の関係も紹介していきたいと考えています。																				
◆ 到達目標	17世紀までのフランス文学史の概要を知る。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. フランス語の誕生</td> <td>9. フランス17世紀概観、近代フランス語の成立</td> </tr> <tr> <td>2. 中世フランス文明概観、聖人伝と武勲詩</td> <td>10. コルネイユ</td> </tr> <tr> <td>3. 物語の誕生</td> <td>11. デカルト、パスカル、ラ・ファイエット夫人</td> </tr> <tr> <td>4. 中世・ルネサンスの抒情詩</td> <td>12. ラシーヌ</td> </tr> <tr> <td>5. フランス・ルネサンス文明概観</td> <td>13. モリエール</td> </tr> <tr> <td>6. ラブレール</td> <td>14. まとめ1</td> </tr> <tr> <td>7. カルヴァン</td> <td>15. まとめ2</td> </tr> <tr> <td>8. モンテーニュ</td> <td></td> </tr> </table>					1. フランス語の誕生	9. フランス17世紀概観、近代フランス語の成立	2. 中世フランス文明概観、聖人伝と武勲詩	10. コルネイユ	3. 物語の誕生	11. デカルト、パスカル、ラ・ファイエット夫人	4. 中世・ルネサンスの抒情詩	12. ラシーヌ	5. フランス・ルネサンス文明概観	13. モリエール	6. ラブレール	14. まとめ1	7. カルヴァン	15. まとめ2	8. モンテーニュ	
1. フランス語の誕生	9. フランス17世紀概観、近代フランス語の成立																				
2. 中世フランス文明概観、聖人伝と武勲詩	10. コルネイユ																				
3. 物語の誕生	11. デカルト、パスカル、ラ・ファイエット夫人																				
4. 中世・ルネサンスの抒情詩	12. ラシーヌ																				
5. フランス・ルネサンス文明概観	13. モリエール																				
6. ラブレール	14. まとめ1																				
7. カルヴァン	15. まとめ2																				
8. モンテーニュ																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験100%																				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布します。																				
◇ 授業時間外学習	興味のある作品を実際に読むことが重要です。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 概 論 II French Literature (General Lecture) II	2	教授 今 井 勉	4	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT209J																				
◆ 授業題目	フランス文学史（近現代）																				
◆ 目的・概要	この授業では、19世紀後半のいわゆる象徴主義の時代から20世紀前半の二つの世界大戦の間の時代までのフランス文学の動きを概観しながら、代表的な作品を紹介していきます。																				
◆ 到達目標	フランス文学史を通覧しながら、フランス文学の傑作に触れる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 文学史の方法</td> <td>9. 自分探しの迷宮：ブルースト『失われた時を求めて』(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 現代フランス文学の出発点としての1857年：ボードレール『悪の華』とフローベール『ボヴァリー夫人』</td> <td>10. 知性と感性：ヴァレリー『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』</td> </tr> <tr> <td>3. 自然主義小説と印象派：ゾラ『居酒屋』</td> <td>11. 革新の文学：ブルトン『シュルレアリスム宣言』『ナジャ』</td> </tr> <tr> <td>4. 言葉の錬金術：ランボー『地獄の季節』『イリュミナシオン』</td> <td>12. 郊外の文学：セリヌ『夜の果てへの旅』</td> </tr> <tr> <td>5. 書けない詩人のメタポエム：マラルメ『詩集』</td> <td>13. 植民地主義と文学：カミュ『異邦人』</td> </tr> <tr> <td>6. デカダンスと耽美主義：ユイスマンス『さかしま』</td> <td>14. 砂漠の孤独：サン・テグジュペリ『人間の大地』『星の王子様』</td> </tr> <tr> <td>7. 詩の状況：ピエール・ルイスと『ラ・コンク』誌</td> <td>15. まとめ&筆記試験</td> </tr> <tr> <td>8. 自分探しの迷宮：ブルースト『失われた時を求めて』(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 文学史の方法	9. 自分探しの迷宮：ブルースト『失われた時を求めて』(2)	2. 現代フランス文学の出発点としての1857年：ボードレール『悪の華』とフローベール『ボヴァリー夫人』	10. 知性と感性：ヴァレリー『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』	3. 自然主義小説と印象派：ゾラ『居酒屋』	11. 革新の文学：ブルトン『シュルレアリスム宣言』『ナジャ』	4. 言葉の錬金術：ランボー『地獄の季節』『イリュミナシオン』	12. 郊外の文学：セリヌ『夜の果てへの旅』	5. 書けない詩人のメタポエム：マラルメ『詩集』	13. 植民地主義と文学：カミュ『異邦人』	6. デカダンスと耽美主義：ユイスマンス『さかしま』	14. 砂漠の孤独：サン・テグジュペリ『人間の大地』『星の王子様』	7. 詩の状況：ピエール・ルイスと『ラ・コンク』誌	15. まとめ&筆記試験	8. 自分探しの迷宮：ブルースト『失われた時を求めて』(1)	
1. 文学史の方法	9. 自分探しの迷宮：ブルースト『失われた時を求めて』(2)																				
2. 現代フランス文学の出発点としての1857年：ボードレール『悪の華』とフローベール『ボヴァリー夫人』	10. 知性と感性：ヴァレリー『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』																				
3. 自然主義小説と印象派：ゾラ『居酒屋』	11. 革新の文学：ブルトン『シュルレアリスム宣言』『ナジャ』																				
4. 言葉の錬金術：ランボー『地獄の季節』『イリュミナシオン』	12. 郊外の文学：セリヌ『夜の果てへの旅』																				
5. 書けない詩人のメタポエム：マラルメ『詩集』	13. 植民地主義と文学：カミュ『異邦人』																				
6. デカダンスと耽美主義：ユイスマンス『さかしま』	14. 砂漠の孤独：サン・テグジュペリ『人間の大地』『星の王子様』																				
7. 詩の状況：ピエール・ルイスと『ラ・コンク』誌	15. まとめ&筆記試験																				
8. 自分探しの迷宮：ブルースト『失われた時を求めて』(1)																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加状況20% + 筆記試験80%																				
◇ 教科書・参考書	コピーを配付します。参考書として『はじめて学ぶフランス文学史』（ミネルヴァ書房、2002年）を勧めます。																				
◇ 授業時間外学習	あらかじめ配付される資料をよく読んでから授業に臨んでください。																				
その他：連絡先：tsutomu@m.tohoku.ac.jp																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 語 学 概 論 I French Linguistics (General Lecture) I	2	教授 阿 部 宏	4	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT210J																				
◆ 授業題目	言語学の誕生から今日まで																				
◆ 目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> ・言語研究の歴史についてフランス語のテキストにもとづいて解説する ・言語研究の最近の成果を概説する ・フランス語の論文の読解に慣れる 																				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語学の基礎知識が身につく ・フランス語の論説文が読めるようになる ・フランス語の中級文法をマスターできる 																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 構造主義(1)</td> </tr> <tr> <td>2. 比較文法(1)</td> <td>10. 構造主義(2)</td> </tr> <tr> <td>3. 比較文法(2)</td> <td>11. 文法化(1)</td> </tr> <tr> <td>4. フランス語と英語(1)</td> <td>12. 文法化(2)</td> </tr> <tr> <td>5. フランス語と英語(2)</td> <td>13. 認知意味論(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 通時言語学と共時言語学(1)</td> <td>14. 認知意味論(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 通時言語学と共時言語学(2)</td> <td>15. まとめと筆記試験</td> </tr> <tr> <td>8. 記述言語学</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 構造主義(1)	2. 比較文法(1)	10. 構造主義(2)	3. 比較文法(2)	11. 文法化(1)	4. フランス語と英語(1)	12. 文法化(2)	5. フランス語と英語(2)	13. 認知意味論(1)	6. 通時言語学と共時言語学(1)	14. 認知意味論(2)	7. 通時言語学と共時言語学(2)	15. まとめと筆記試験	8. 記述言語学	
1. ガイダンス	9. 構造主義(1)																				
2. 比較文法(1)	10. 構造主義(2)																				
3. 比較文法(2)	11. 文法化(1)																				
4. フランス語と英語(1)	12. 文法化(2)																				
5. フランス語と英語(2)	13. 認知意味論(1)																				
6. 通時言語学と共時言語学(1)	14. 認知意味論(2)																				
7. 通時言語学と共時言語学(2)	15. まとめと筆記試験																				
8. 記述言語学																					
◇ 成績評価の方法	平常点50%、筆記試験50%																				
◇ 教科書・参考書	プリント使用。 参考書：阿部宏（2015）『言葉に心の声を聞く』東北大学出版会。他にも、関連図書を適宜推薦します。																				
◇ 授業時間外学習	教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 基 礎 講 読 I French Literature (Introductory Reading) I	2	教授 今 井 勉	3	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT223J																				
◆ 授業題目	短編小説を読む																				
◆ 目的・概要	基礎文法を確認しながら、フランス文学の原典に親しみます。この授業では、19世紀末に活躍した作家マルセル・シュオブ（1867-1905）の代表的な短篇小説『黄金仮面の王』を読みます。																				
◆ 到達目標	フランス文学の原典を読む基礎的な作法を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 三人称の描写における動詞の単純過去形と半過去形 の特性(1)</td> <td>9. 一人称の語りにおける複合過去形の特性(3)</td> </tr> <tr> <td>2. 三人称の描写における動詞の単純過去形と半過去形 の特性(2)</td> <td>10. 対照の構文(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 三人称の描写における動詞の単純過去形と半過去形 の特性(3)</td> <td>11. 対照の構文(2)</td> </tr> <tr> <td>4. 一人称の語りにおける現在形の特性(1)</td> <td>12. 対照の語彙(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 一人称の語りにおける現在形の特性(2)</td> <td>13. 対照の語彙(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 一人称の語りにおける現在形の特性(3)</td> <td>14. 物語の構造(1)</td> </tr> <tr> <td>7. 一人称の語りにおける複合過去形の特性(1)</td> <td>15. 物語の構造(2)および筆記試験</td> </tr> <tr> <td>8. 一人称の語りにおける複合過去形の特性(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 三人称の描写における動詞の単純過去形と半過去形 の特性(1)	9. 一人称の語りにおける複合過去形の特性(3)	2. 三人称の描写における動詞の単純過去形と半過去形 の特性(2)	10. 対照の構文(1)	3. 三人称の描写における動詞の単純過去形と半過去形 の特性(3)	11. 対照の構文(2)	4. 一人称の語りにおける現在形の特性(1)	12. 対照の語彙(1)	5. 一人称の語りにおける現在形の特性(2)	13. 対照の語彙(2)	6. 一人称の語りにおける現在形の特性(3)	14. 物語の構造(1)	7. 一人称の語りにおける複合過去形の特性(1)	15. 物語の構造(2)および筆記試験	8. 一人称の語りにおける複合過去形の特性(2)	
1. 三人称の描写における動詞の単純過去形と半過去形 の特性(1)	9. 一人称の語りにおける複合過去形の特性(3)																				
2. 三人称の描写における動詞の単純過去形と半過去形 の特性(2)	10. 対照の構文(1)																				
3. 三人称の描写における動詞の単純過去形と半過去形 の特性(3)	11. 対照の構文(2)																				
4. 一人称の語りにおける現在形の特性(1)	12. 対照の語彙(1)																				
5. 一人称の語りにおける現在形の特性(2)	13. 対照の語彙(2)																				
6. 一人称の語りにおける現在形の特性(3)	14. 物語の構造(1)																				
7. 一人称の語りにおける複合過去形の特性(1)	15. 物語の構造(2)および筆記試験																				
8. 一人称の語りにおける複合過去形の特性(2)																					
◇ 成績評価の方法	毎回の予習に基づく授業参加状況50% + 筆記試験50%																				
◇ 教科書・参考書	コピーを配付します																				
◇ 授業時間外学習	毎回予習をして授業に臨むこと																				
その他：連絡先：tsutomu@m.tohoku.ac.jp																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
フ ラ ン ス 文 学 基 礎 講 読 II French Literature (Introductory Reading) II	2	准教授 黒 岩 卓	4	月	4		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT224J						
◆ 授業題目	フランス語文法と仏文解釈						
◆ 目的・概要	主要な参考書として『改訂版フランス語ハンドブック』を用いて初級文法の復習と中級文法への導入を行いながら、さまざまな種類のフランス語のテキストを読みます。講読テキストは参加者と相談の上で決定します。						
◆ 到達目標	近現代までのフランス語の読解に必要な文法的知識を深め、近・現代フランス語のテキストに親しむ。						
◆ 授業内容・方法	1. (以下、教科書の進度を記します。進度によって変動することがあり得ます。) <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> I 文の要素1 概観 (pp. 3-5) 2. I 文の要素2 名詞グループ (pp. 6-23) 3. I 文の要素3 動詞グループ (pp. 23-47) 4. I 文の要素4 形容詞グループ (pp. 47-64) 5. I 文の要素5 前置詞グループ (pp. 65-70) 6. II 文の変形・展開1 概観 (pp. 71-73) 7. II 文の変形・展開2 代名詞 (pp. 74-93) 8. II 文の変形・展開3 複文 (pp. 93-111) </td> <td style="width: 50%;"> 9. II 文の変形・展開3 複文続き及び4 複文に準ずるもの (pp. 111-128) 10. III 文の種類1 概観 (pp. 129-130) 11. III 文の種類2 文のタイプ (pp. 131-138) 12. III 文の種類3 文の様態 (pp. 139-150) 13. III 文の種類4 特殊な文 (pp. 150-160) 14. まとめ1 15. まとめ2 </td> </tr> </table>					I 文の要素1 概観 (pp. 3-5) 2. I 文の要素2 名詞グループ (pp. 6-23) 3. I 文の要素3 動詞グループ (pp. 23-47) 4. I 文の要素4 形容詞グループ (pp. 47-64) 5. I 文の要素5 前置詞グループ (pp. 65-70) 6. II 文の変形・展開1 概観 (pp. 71-73) 7. II 文の変形・展開2 代名詞 (pp. 74-93) 8. II 文の変形・展開3 複文 (pp. 93-111)	9. II 文の変形・展開3 複文続き及び4 複文に準ずるもの (pp. 111-128) 10. III 文の種類1 概観 (pp. 129-130) 11. III 文の種類2 文のタイプ (pp. 131-138) 12. III 文の種類3 文の様態 (pp. 139-150) 13. III 文の種類4 特殊な文 (pp. 150-160) 14. まとめ1 15. まとめ2
I 文の要素1 概観 (pp. 3-5) 2. I 文の要素2 名詞グループ (pp. 6-23) 3. I 文の要素3 動詞グループ (pp. 23-47) 4. I 文の要素4 形容詞グループ (pp. 47-64) 5. I 文の要素5 前置詞グループ (pp. 65-70) 6. II 文の変形・展開1 概観 (pp. 71-73) 7. II 文の変形・展開2 代名詞 (pp. 74-93) 8. II 文の変形・展開3 複文 (pp. 93-111)	9. II 文の変形・展開3 複文続き及び4 複文に準ずるもの (pp. 111-128) 10. III 文の種類1 概観 (pp. 129-130) 11. III 文の種類2 文のタイプ (pp. 131-138) 12. III 文の種類3 文の様態 (pp. 139-150) 13. III 文の種類4 特殊な文 (pp. 150-160) 14. まとめ1 15. まとめ2						
◇ 成績評価の方法	出席 (100% : 毎回小テストを実施します)。						
◇ 教科書・参考書	新倉俊一他『改訂版フランス語ハンドブック』、白水社、1996。その他は初回の授業で指示します。						
◇ 授業時間外学習	初回を除いて原則として毎回小テストを実施しますので、十分な予習・復習が必要になります。						
その他 :							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
フ ラ ン ス 語 学 基 礎 講 読 French Linguistics (Introductory Reading)	2	教授 阿 部 宏	3	月	5		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT225J						
◆ 授業題目	フランスの雑誌を読む						
◆ 目的・概要	フランス語で書かれた平易な雑誌記事やガイドブックを題材に、初級文法・基礎的語彙の復習、中級文法の学習、文章読解の練習を行います。また、発音のわかりづらい点 (発音記号の理解、語末音の発音の有無、複母音字、鼻母音、リエゾンなど)、文法のわかりづらい点 (部分冠詞、名詞の性、中性代名詞、複合過去と半過去との違い、単純過去、条件法、接続法など)、フランスと英語や日本語との違い、フランス語の語源とフランス語史などについて解説します。仏々辞典、仏英辞典、文法事典、類義語辞典などの有効な活用法についても紹介します。						
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語の雑誌やガイドブックが読めるようになる ・フランス語の中級文法がわかるようになる ・仏々辞典、仏英辞典、文法事典の使い方をマスターする 						
◆ 授業内容・方法	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> 1. ガイダンス 2. 辞典、文法事典、参考書の紹介 3. 雑誌記事・日本紹介(1) 4. 雑誌記事・日本紹介(2) 5. 雑誌記事・日本紹介(3) 6. 雑誌記事・時事問題(1) 7. 雑誌記事・時事問題(2) 8. 雑誌記事・時事問題(3) </td> <td style="width: 50%;"> 9. ガイドブック・大学案内(1) 10. ガイドブック・大学案内(2) 11. ガイドブック・大学案内(3) 12. ガイドブック・旅行案内(1) 13. ガイドブック・旅行案内(2) 14. ガイドブック・旅行案内(3) 15. まとめと筆記試験 </td> </tr> </table>					1. ガイダンス 2. 辞典、文法事典、参考書の紹介 3. 雑誌記事・日本紹介(1) 4. 雑誌記事・日本紹介(2) 5. 雑誌記事・日本紹介(3) 6. 雑誌記事・時事問題(1) 7. 雑誌記事・時事問題(2) 8. 雑誌記事・時事問題(3)	9. ガイドブック・大学案内(1) 10. ガイドブック・大学案内(2) 11. ガイドブック・大学案内(3) 12. ガイドブック・旅行案内(1) 13. ガイドブック・旅行案内(2) 14. ガイドブック・旅行案内(3) 15. まとめと筆記試験
1. ガイダンス 2. 辞典、文法事典、参考書の紹介 3. 雑誌記事・日本紹介(1) 4. 雑誌記事・日本紹介(2) 5. 雑誌記事・日本紹介(3) 6. 雑誌記事・時事問題(1) 7. 雑誌記事・時事問題(2) 8. 雑誌記事・時事問題(3)	9. ガイドブック・大学案内(1) 10. ガイドブック・大学案内(2) 11. ガイドブック・大学案内(3) 12. ガイドブック・旅行案内(1) 13. ガイドブック・旅行案内(2) 14. ガイドブック・旅行案内(3) 15. まとめと筆記試験						
◇ 成績評価の方法	平常点50%。筆記試験50%						
◇ 教科書・参考書	プリント使用。参考書については、教室で現物をお見せして、適宜推薦します。						
◇ 授業時間外学習	教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます						
その他 :							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 各 論 I French Literature (Special Lecture) I	2	教授 今 井 勉	5	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT312J																				
◆ 授業題目	ヴァレリー研究(1)																				
◆ 目的・概要	ポール・ヴァレリーのデビュー評論『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』を読む。読解に当たっては、 間テキスト性と生成過程の検討を主な手続きとする。																				
◆ 到達目標	間テキスト性と生成過程の研究の実際を学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入：ポール・ヴァレリー研究の現在と初期散文研究の意義</td> <td>9. レオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』の冒頭三段落(1)</td> <td>10. レオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』の冒頭三段落(2)</td> <td>11. 想像力論(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』の冒頭三段落(3)</td> <td>12. 想像力論(2)</td> </tr> <tr> <td>5. エドガー・ポーを読むヴァレリー(1)</td> <td>13. 想像力論(3)</td> </tr> <tr> <td>6. エドガー・ポーを読むヴァレリー(2)</td> <td>14. 想像力論(4)</td> </tr> <tr> <td>7. エドガー・ポーを読むヴァレリー(3)</td> <td>15. 前期のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. レオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入：ポール・ヴァレリー研究の現在と初期散文研究の意義	9. レオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(2)	2. 『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』の冒頭三段落(1)	10. レオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(3)	3. 『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』の冒頭三段落(2)	11. 想像力論(1)	4. 『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』の冒頭三段落(3)	12. 想像力論(2)	5. エドガー・ポーを読むヴァレリー(1)	13. 想像力論(3)	6. エドガー・ポーを読むヴァレリー(2)	14. 想像力論(4)	7. エドガー・ポーを読むヴァレリー(3)	15. 前期のまとめ	8. レオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(1)	
1. 導入：ポール・ヴァレリー研究の現在と初期散文研究の意義	9. レオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(2)																				
2. 『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』の冒頭三段落(1)	10. レオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(3)																				
3. 『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』の冒頭三段落(2)	11. 想像力論(1)																				
4. 『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』の冒頭三段落(3)	12. 想像力論(2)																				
5. エドガー・ポーを読むヴァレリー(1)	13. 想像力論(3)																				
6. エドガー・ポーを読むヴァレリー(2)	14. 想像力論(4)																				
7. エドガー・ポーを読むヴァレリー(3)	15. 前期のまとめ																				
8. レオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(1)																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加状況100%																				
◇ 教科書・参考書	プリント配付																				
◇ 授業時間外学習	予習をして授業に臨むこと																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 各 論 II French Literature (Special Lecture) II	2	教授 今 井 勉	6	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT313J																				
◆ 授業題目	ヴァレリー研究(2)																				
◆ 目的・概要	ポール・ヴァレリーのデビュー評論『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』を読む。読解に当たっては、 間テキスト性と生成過程の検討を主な手続きとする。																				
◆ 到達目標	間テキスト性と生成過程の研究の実際を学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入：問題意識の確認</td> <td>9. 再びレオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 自然科学系の文献を読むヴァレリー(1)</td> <td>10. 再びレオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 自然科学系の文献を読むヴァレリー(2)</td> <td>11. 重層するテキスト(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 自然科学系の文献を読むヴァレリー(3)</td> <td>12. 重層するテキスト(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 詩と抽象的思考(1)</td> <td>13. 重層するテキスト(3)</td> </tr> <tr> <td>6. 詩と抽象的思考(2)</td> <td>14. 重層するテキスト(4)</td> </tr> <tr> <td>7. 詩と抽象的思考(3)</td> <td>15. 後期のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 再びレオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入：問題意識の確認	9. 再びレオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(2)	2. 自然科学系の文献を読むヴァレリー(1)	10. 再びレオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(3)	3. 自然科学系の文献を読むヴァレリー(2)	11. 重層するテキスト(1)	4. 自然科学系の文献を読むヴァレリー(3)	12. 重層するテキスト(2)	5. 詩と抽象的思考(1)	13. 重層するテキスト(3)	6. 詩と抽象的思考(2)	14. 重層するテキスト(4)	7. 詩と抽象的思考(3)	15. 後期のまとめ	8. 再びレオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(1)	
1. 導入：問題意識の確認	9. 再びレオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(2)																				
2. 自然科学系の文献を読むヴァレリー(1)	10. 再びレオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(3)																				
3. 自然科学系の文献を読むヴァレリー(2)	11. 重層するテキスト(1)																				
4. 自然科学系の文献を読むヴァレリー(3)	12. 重層するテキスト(2)																				
5. 詩と抽象的思考(1)	13. 重層するテキスト(3)																				
6. 詩と抽象的思考(2)	14. 重層するテキスト(4)																				
7. 詩と抽象的思考(3)	15. 後期のまとめ																				
8. 再びレオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(1)																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加状況100%																				
◇ 教科書・参考書	プリント配付																				
◇ 授業時間外学習	予習をして授業に臨むこと																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
フ ラ ン ス 文 学 各 論 Ⅲ French Literature (Special Lecture) Ⅲ	2	非常勤 講師 岩 切 正 一 郎	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT314J				
◆ 授業題目	フランス近・現代詩を読む				
◆ 目的・概要	肉体を持ち言葉を使う我々は、みずからに課された存在条件をなぜか越えようとし、言語以前の身体・物質の領域へ惹きつけられ、いっぽうまた、言語の向こうにある超越的な場所からの呼びかけを聞く。詩とは、そのような運動のなかで、言葉によって自己の存在様態を内的に、また、言語のあり方を現実的に、拡張し変容させてゆく行為である。本コースでは、19世紀および20世紀にフランス語で書かれた詩のテキストの分析と解釈を通じて、世界、人間、言語に関する認識や表象の変化とその意味を検討し、同時に、詩の必要性について再確認することを目的とする。				
◆ 到達目標	詩的な言語使用の特殊性について客観的な視座を持ち、そのいっぽうで自分自身の詩的感覚を意識することが到達目標である。また、詩のテキストの読みを通じてフランス語力を高めることも目標とする。そのためには地道にテキストを読むプロセスが必要なので、毎回、担当者を指名してテキストの読解を行ってもらう。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロ：20世紀の戦争が詩にもたらした影響について。 2. ランボー(1)：詩と野蛮性。 3. ランボー(2)：詩と他者性。 4. ボードレール：夢と現実および詩人のあり方の変化。 5. アポリネール：現代性と「現実」の創造。 6. シュルレアリスムの詩：エリュアールとデスノス。 7. ボンジュ：詩と日常の事物。 8. ミショー：世界への属し方について。 9. ミショー：同。 10. ルネ・シャール：定義と反抗。 11. ルネ・シャール：同。 12. 詩と日常：ギルヴィック、ジャコテ、フォラン。 13. 現代の詩人(1)：ウィリアム・クリフ 14. 現代の詩人(2)：ギ・ゴフェット 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	授業への参加度30% レポート70%				
◇ 教科書・参考書	テキストはプリントで配布する。その他の参考文献は授業中に適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	次回扱う詩について予習しておくこと。				
その他：フランス語の音とイメージの造形を楽しんで欲しいと思います。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
フ ラ ン ス 文 学 演 習 Ⅰ French Literature (Seminar) Ⅰ	2	准教授 黒 岩 卓	5	火	5
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT331J				
◆ 授業題目	中世・ルネサンスの伝説伝文学入門(1)				
◆ 目的・概要	フランス16世紀を代表する作家・思想家であるモンテーニュの『エッセー』を読みながら、後期中世およびルネサンスのフランス語の基礎を学びます。「フランス文学演習Ⅱ」と組み合わせることでより効果的にフランス語・フランス文学の通史的な理解が可能になります（こちらの講義のみの受講も可能です）。未経験者を対象とし、さらに現代フランス語による注釈が施されたテキストも用いますので、現代フランス語の知識があればフランス文学専修以外の学生でも受講が出来ます。				
◆ 到達目標	中期（14・15世紀）及び16世紀のフランス語の基礎を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. (以下は授業で扱うトピックで、その順番には変更が あり得ます) 中期フランス語入門 2. 中期フランス語の辞書・参考書 3. 近代校訂版 4. 雑誌 5. 書誌の作り方 6. 人文主義 7. 宗教改革 8. ラテン語・ラテン文学 9. 散文と韻文 10. 句読点 11. 聖書 12. 引用 13. 政治 14. 影響を受けた作家・思想家たち 15. 現代への影響 				
◇ 成績評価の方法	出席（50%）＋テスト（50%）				
◇ 教科書・参考書	初回に指示します。				
◇ 授業時間外学習	講読対象となるテキストの予習が必要になります。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
フ ラ ン ス 文 学 演 習 II French Literature (Seminar) II	2	准教授 黒 岩 卓	6	火	5
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT332J				
◆ 授業題目	中世・ルネサンスの伝説文学入門(2)				
◆ 目的・概要	中世最大の物語作家であるクレチアン・ド・トロワによる『ペルスヴァルまたは聖杯の物語』を読みながら、古フランス語の基礎を学びます。「フランス文学演習II」と組み合わせることでより効果的にフランス語・フランス文学の通史的な理解が可能になります(こちらの講義のみの受講も可能です)。未経験者を対象とし、さらに現代フランス語訳も用いますので、現代フランス語の知識があればフランス文学専修以外の学生でも受講が出来ます。				
◆ 到達目標	古フランス語(13世紀までのフランス語)の基礎を身につける。				
◆ 授業内容・方法	1. (以下はテキスト講読と並行して解説するトピックです。順番には変更があり得ます。) 古フランス語入門(1) 2. 古フランス語入門(2) 3. 古フランス語入門(3) 4. 古フランス語の辞書・参考書 5. 近代校訂版 6. 雑誌 7. 写本 8. ラテン語・ラテン文学 9. 歴史音声学 10. 聖書 11. 神学 12. 封建社会 13. 書誌の作り方 14. 中世における物語 15. 後世への影響				
◇ 成績評価の方法	出席50%+テスト50%				
◇ 教科書・参考書	初回の授業で指示します。				
◇ 授業時間外学習	講読対象となるテキストの予習が必要になります。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
フ ラ ン ス 文 学 演 習 III French Literature (Seminar) III	2	准教授 メヴェル・ヤン	5	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT333F				
◆ 授業題目	Lire, comprendre, interpréter				
◆ 目的・概要	Les buts du cours sont les suivants : - initier à l'analyse des textes littéraires - développer les compétences de lecture et de compréhension à l'oral - développer les capacités d'expression à l'oral et à l'écrit				
◆ 到達目標	Parmi les activités : - pratique de la lecture orale - analyses méthodiques de textes littéraires - exercices d'expression orale et écrite				
◆ 授業内容・方法	1. Introduction 2. Lecture méthodique 3. Lecture méthodique 4. Lecture méthodique 5. Lecture méthodique 6. Lecture méthodique 7. Lecture méthodique 8. Lecture méthodique 9. Lecture méthodique 10. Lecture méthodique 11. Lecture méthodique 12. Lecture méthodique 13. Lecture méthodique 14. Lecture méthodique 15. Projection d'un film en rapport avec la littérature. Analyse et discussion.				
◇ 成績評価の方法	L'évaluation prendra d'abord la forme d'un contrôle continu, à l'oral (participation aux cours) et à l'écrit (rédaction de textes brefs). Il comptera pour 60% dans l'évaluation globale. A la fin du semestre, l'évaluation prendra la forme d'un questionnaire sur un texte littéraire (40%).				
◇ 教科書・参考書	Des photocopies des textes étudiés seront fournies.				
◇ 授業時間外学習	Il faudra faire des lectures préparatoires et rédiger des textes brefs en relation avec l'objet du cours.				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 演 習 IV French Literature (Seminar) IV	2	准教授 メヴェル・ヤン	6	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT334F																				
◆ 授業題目	Lire, comprendre, interpréter																				
◆ 目的・概要	Les but du cours sont les suivants : - initier à l'analyse des textes littéraires - développer les compétences de lecture et de compréhension à l'oral - développer les capacités d'expression à l'oral et à l'écrit																				
◆ 到達目標	Parmi les activités : - pratique de la lecture orale - analyses méthodiques de textes littéraires - exercices d'expression orale et écrite																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction</td> <td>9. Lecture méthodique</td> </tr> <tr> <td>2. Lecture méthodique</td> <td>10. Lecture méthodique</td> </tr> <tr> <td>3. Lecture méthodique</td> <td>11. Lecture méthodique</td> </tr> <tr> <td>4. Lecture méthodique</td> <td>12. Lecture méthodique</td> </tr> <tr> <td>5. Lecture méthodique</td> <td>13. Lecture méthodique</td> </tr> <tr> <td>6. Lecture méthodique</td> <td>14. Lecture méthodique</td> </tr> <tr> <td>7. Lecture méthodique</td> <td>15. Projection d'un film en rapport avec la littérature.</td> </tr> <tr> <td>8. Lecture méthodique</td> <td>Analyse et discussion.</td> </tr> </table>					1. Introduction	9. Lecture méthodique	2. Lecture méthodique	10. Lecture méthodique	3. Lecture méthodique	11. Lecture méthodique	4. Lecture méthodique	12. Lecture méthodique	5. Lecture méthodique	13. Lecture méthodique	6. Lecture méthodique	14. Lecture méthodique	7. Lecture méthodique	15. Projection d'un film en rapport avec la littérature.	8. Lecture méthodique	Analyse et discussion.
1. Introduction	9. Lecture méthodique																				
2. Lecture méthodique	10. Lecture méthodique																				
3. Lecture méthodique	11. Lecture méthodique																				
4. Lecture méthodique	12. Lecture méthodique																				
5. Lecture méthodique	13. Lecture méthodique																				
6. Lecture méthodique	14. Lecture méthodique																				
7. Lecture méthodique	15. Projection d'un film en rapport avec la littérature.																				
8. Lecture méthodique	Analyse et discussion.																				
◇ 成績評価の方法	L'évaluation prendra d'abord la forme d'un contrôle continu, à l'oral (participation aux cours) et à l'écrit (rédaction de textes brefs). Il comptera pour 60% dans l'évaluation globale. A la fin du semestre, l'évaluation prendra la forme d'un questionnaire sur un texte littéraire (40%).																				
◇ 教科書・参考書	Des photocopies des textes étudiés seront fournies.																				
◇ 授業時間外学習	Il faudra faire des lectures préparatoires et rédiger des textes brefs en relation avec l'objet du cours.																				
その他 :																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 語 学 演 習 I French Linguistics (Seminar) I	2	教授 阿 部 宏	5	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT335J																				
◆ 授業題目	フランス語意味論 I																				
◆ 目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 19世紀のフランス文学作品のテキストを題材に、フランス語の言語的現象を分析し、同時に文化論・文学論・歴史学的な考察を行います。 ・ フランス語の諸現象について、文法化、認知意味論、主観性などの観点から解説します。 ・ 実例に基づいた言語研究、およびフランス語・英語・日本語間の対照研究の方法論について考察します。 ・ 仏々辞典、仏英辞典、文法事典、類義語辞典などの有効な活用法についても、具体的に説明します。 																				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ フランス語の読解力が高まる。 ・ フランス語の語彙と文法の仕組みがわかるようになる。 ・ 語学研究の自分なりのテーマを見つけられる。 																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. テキスト読解(3)</td> </tr> <tr> <td>2. 仏々辞典等の使用法</td> <td>10. テキスト読解(4)</td> </tr> <tr> <td>3. 文法事典等の使用法</td> <td>11. テキスト読解(4)</td> </tr> <tr> <td>4. 意味論概説(1)</td> <td>12. テキスト読解(5)</td> </tr> <tr> <td>5. 意味論概説(2)</td> <td>13. テキスト読解(6)</td> </tr> <tr> <td>6. 意味論概説(3)</td> <td>14. テキスト読解(7)</td> </tr> <tr> <td>7. テキスト読解(1)</td> <td>15. まとめと筆記試験</td> </tr> <tr> <td>8. テキスト読解(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. テキスト読解(3)	2. 仏々辞典等の使用法	10. テキスト読解(4)	3. 文法事典等の使用法	11. テキスト読解(4)	4. 意味論概説(1)	12. テキスト読解(5)	5. 意味論概説(2)	13. テキスト読解(6)	6. 意味論概説(3)	14. テキスト読解(7)	7. テキスト読解(1)	15. まとめと筆記試験	8. テキスト読解(2)	
1. ガイダンス	9. テキスト読解(3)																				
2. 仏々辞典等の使用法	10. テキスト読解(4)																				
3. 文法事典等の使用法	11. テキスト読解(4)																				
4. 意味論概説(1)	12. テキスト読解(5)																				
5. 意味論概説(2)	13. テキスト読解(6)																				
6. 意味論概説(3)	14. テキスト読解(7)																				
7. テキスト読解(1)	15. まとめと筆記試験																				
8. テキスト読解(2)																					
◇ 成績評価の方法	平常点50%、筆記試験50%																				
◇ 教科書・参考書	参考書：阿部宏(2015)『言葉に心の声を聞く』東北大学出版会。																				
◇ 授業時間外学習	教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます																				
その他 :																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
フ ラ ン ス 語 学 演 習 II French Linguistics (Seminar) II	2	教授 阿 部 宏	6	火	3		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT336J						
◆ 授業題目	フランス語意味論II						
◆ 目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語の語彙、文法、歴史を扱った論文を読みながら、文法構造、歴史、語彙など、フランス語の特徴について総合的に解説し、考察します。また、適宜、英語、日本語などとの対照的考察を行います。 ・語学研究の方法論を解説するとともに、フランス語と日本語の類似点と相違点について考察します。 ・『朝倉・新フランス文法事典』、Le Bon Usage、Dupreなどの文法事典、Robert-Collinsなどの仏英辞典、Benacなどの類義語辞典、Le Robert historiqueなどの語源辞典の利用法について、具体例にもとづいて解説します。 						
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語の読解力が高まる。 ・フランス語、英語、日本語などの言葉の違いを超えた共通性に気づく。 ・語学研究の自分なりのテーマを見つけられる。 						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 意味論関連文献読解(1) 3. 意味論関連文献読解(2) 4. 意味論関連文献読解(3) 5. 意味論関連文献読解(4) 6. 意味論関連文献読解(5) 7. 主観性関連文献読解(1) 8. 主観性関連文献読解(2) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. 主観性関連文献読解(3) 10. 主観性関連文献読解(4) 11. 語用論関連文献読解(1) 12. 語用論関連文献読解(2) 13. 語用論関連文献読解(3) 14. 語用論関連文献読解(4) 15. まとめと筆記試験 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 意味論関連文献読解(1) 3. 意味論関連文献読解(2) 4. 意味論関連文献読解(3) 5. 意味論関連文献読解(4) 6. 意味論関連文献読解(5) 7. 主観性関連文献読解(1) 8. 主観性関連文献読解(2) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 主観性関連文献読解(3) 10. 主観性関連文献読解(4) 11. 語用論関連文献読解(1) 12. 語用論関連文献読解(2) 13. 語用論関連文献読解(3) 14. 語用論関連文献読解(4) 15. まとめと筆記試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 意味論関連文献読解(1) 3. 意味論関連文献読解(2) 4. 意味論関連文献読解(3) 5. 意味論関連文献読解(4) 6. 意味論関連文献読解(5) 7. 主観性関連文献読解(1) 8. 主観性関連文献読解(2) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 主観性関連文献読解(3) 10. 主観性関連文献読解(4) 11. 語用論関連文献読解(1) 12. 語用論関連文献読解(2) 13. 語用論関連文献読解(3) 14. 語用論関連文献読解(4) 15. まとめと筆記試験 						
◇ 成績評価の方法	筆記試験50% + 出席50%						
◇ 教科書・参考書	プリント使用。参考書については、教室で現物を見せて、適宜推薦します。						
◇ 授業時間外学習	教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
ヨーロッパ史概論 European and American History (General Lecture)	2	教授 有光秀行	3	月	4		
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS204J						
◆ 授業題目	イギリス史概論(1)						
◆ 目的・概要	近藤和彦『イギリス史10講』、岩波新書(新赤版)1464をテキストにして、およそ中世末にいたるまでのイギリスの歴史を通観します。単に、むかしイギリスで何がおこったかを理解するだけでなく、いまのイギリス、またいまの日本をふくむ世界を理解する手がかりも、得てもらいたいと思います。						
◆ 到達目標	中世末にいたるまでのイギリス史の流れと、その主要なポイントを理解する。						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. 授業全体の説明、テキスト第1講の1「イギリス史とは」(1) 2. テキスト第1講の1「イギリス史とは」(2)テキスト第1講の2「自然環境と先史の人びと」(1) 3. テキスト第1講の2「自然環境と先史の人びと」(2) 4. テキスト第2講の1「ローマの文明」(1) 5. テキスト第2講の1「ローマの文明」(2) 6. テキスト第2講の2「部族国家、古英語、キリスト教」(1) 7. テキスト第2講の2「部族国家、古英語、キリスト教」(2) 8. テキスト第2講の3「ノルマン複合のなかのイングランド王国」(1) </td> <td style="vertical-align: top;"> 9. テキスト第2講の3「ノルマン複合のなかのイングランド王国」(2) 10. テキスト第3講の1「ノルマン征服からアンジュ朝へ」(1) 11. テキスト第3講の1「ノルマン征服からアンジュ朝へ」(2) 12. テキスト第3講の2「イングランドとウェールズ、スコットランド」(1) 13. テキスト第3講の2「イングランドとウェールズ、スコットランド」(2) 14. テキスト第3講の3「百年戦争と黒死病」(1) 15. テキスト第3講の3「百年戦争と黒死病」(2)、授業のまとめ </td> </tr> </table>					1. 授業全体の説明、テキスト第1講の1「イギリス史とは」(1) 2. テキスト第1講の1「イギリス史とは」(2)テキスト第1講の2「自然環境と先史の人びと」(1) 3. テキスト第1講の2「自然環境と先史の人びと」(2) 4. テキスト第2講の1「ローマの文明」(1) 5. テキスト第2講の1「ローマの文明」(2) 6. テキスト第2講の2「部族国家、古英語、キリスト教」(1) 7. テキスト第2講の2「部族国家、古英語、キリスト教」(2) 8. テキスト第2講の3「ノルマン複合のなかのイングランド王国」(1)	9. テキスト第2講の3「ノルマン複合のなかのイングランド王国」(2) 10. テキスト第3講の1「ノルマン征服からアンジュ朝へ」(1) 11. テキスト第3講の1「ノルマン征服からアンジュ朝へ」(2) 12. テキスト第3講の2「イングランドとウェールズ、スコットランド」(1) 13. テキスト第3講の2「イングランドとウェールズ、スコットランド」(2) 14. テキスト第3講の3「百年戦争と黒死病」(1) 15. テキスト第3講の3「百年戦争と黒死病」(2)、授業のまとめ
1. 授業全体の説明、テキスト第1講の1「イギリス史とは」(1) 2. テキスト第1講の1「イギリス史とは」(2)テキスト第1講の2「自然環境と先史の人びと」(1) 3. テキスト第1講の2「自然環境と先史の人びと」(2) 4. テキスト第2講の1「ローマの文明」(1) 5. テキスト第2講の1「ローマの文明」(2) 6. テキスト第2講の2「部族国家、古英語、キリスト教」(1) 7. テキスト第2講の2「部族国家、古英語、キリスト教」(2) 8. テキスト第2講の3「ノルマン複合のなかのイングランド王国」(1)	9. テキスト第2講の3「ノルマン複合のなかのイングランド王国」(2) 10. テキスト第3講の1「ノルマン征服からアンジュ朝へ」(1) 11. テキスト第3講の1「ノルマン征服からアンジュ朝へ」(2) 12. テキスト第3講の2「イングランドとウェールズ、スコットランド」(1) 13. テキスト第3講の2「イングランドとウェールズ、スコットランド」(2) 14. テキスト第3講の3「百年戦争と黒死病」(1) 15. テキスト第3講の3「百年戦争と黒死病」(2)、授業のまとめ						
◇ 成績評価の方法	授業受講状況(毎回のコメントペーパーを利用)50%、レポート50%。						
◇ 教科書・参考書	近藤和彦『イギリス史10講』、岩波新書(新赤版)1464、2013年。参考書は教室で適宜指示する。						
◇ 授業時間外学習	毎回必ず授業前にテキストを下読みして予習し、また必ずテキストおよびノートを読み返して復習すること。さらに関連文献を読んで理解を深めることを強く要望します。						
その他:							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
ヨーロッパ史概論 European and American History (General Lecture)	2	教授 有光秀行	4	月	4		
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS204J						
◆ 授業題目	イギリス史概論(2)						
◆ 目的・概要	近藤和彦『イギリス史10講』、岩波新書(新赤版)1464をテキストにして、中世末から現代にいたるまでのイギリスの歴史を通観します。単に、むかしイギリスで何がおこったかを理解するだけでなく、いまのイギリス、またいまの日本をふくむ世界を理解する手がかりも、得てもらいたいと思います。						
◆ 到達目標	中世末から現代にいたるまでのイギリス史の流れと、その主要なポイントを理解する。						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. 授業全体の説明、テキスト第4講の1「1500年ころの世界とイギリス」 2. テキスト第4講の2「主権国家と国教会」 3. テキスト第4講の3「女王の伝説、等」 4. テキスト第4講の4「大ぶりたんや国ぜめし帝王」 5. テキスト第5講の1「論争的な17世紀」 6. テキスト第5講の2「三王国戦争とピューリタン共和国」 7. テキスト第5講の3「王制・国教会・議会の再建」 8. テキスト第6講財政軍事国家と啓蒙 </td> <td style="vertical-align: top;"> 9. テキスト第7講「産業革命と近代世界」 10. テキスト第8講「大変貌のヴィクトリア時代」(1) 11. テキスト第8講「大変貌のヴィクトリア時代」(2) 12. テキスト第9講「帝国と大衆社会」(1) 13. テキスト第9講「帝国と大衆社会」(2) 14. テキスト第10講「現代のイギリス」 15. 授業のまとめ </td> </tr> </table>					1. 授業全体の説明、テキスト第4講の1「1500年ころの世界とイギリス」 2. テキスト第4講の2「主権国家と国教会」 3. テキスト第4講の3「女王の伝説、等」 4. テキスト第4講の4「大ぶりたんや国ぜめし帝王」 5. テキスト第5講の1「論争的な17世紀」 6. テキスト第5講の2「三王国戦争とピューリタン共和国」 7. テキスト第5講の3「王制・国教会・議会の再建」 8. テキスト第6講財政軍事国家と啓蒙	9. テキスト第7講「産業革命と近代世界」 10. テキスト第8講「大変貌のヴィクトリア時代」(1) 11. テキスト第8講「大変貌のヴィクトリア時代」(2) 12. テキスト第9講「帝国と大衆社会」(1) 13. テキスト第9講「帝国と大衆社会」(2) 14. テキスト第10講「現代のイギリス」 15. 授業のまとめ
1. 授業全体の説明、テキスト第4講の1「1500年ころの世界とイギリス」 2. テキスト第4講の2「主権国家と国教会」 3. テキスト第4講の3「女王の伝説、等」 4. テキスト第4講の4「大ぶりたんや国ぜめし帝王」 5. テキスト第5講の1「論争的な17世紀」 6. テキスト第5講の2「三王国戦争とピューリタン共和国」 7. テキスト第5講の3「王制・国教会・議会の再建」 8. テキスト第6講財政軍事国家と啓蒙	9. テキスト第7講「産業革命と近代世界」 10. テキスト第8講「大変貌のヴィクトリア時代」(1) 11. テキスト第8講「大変貌のヴィクトリア時代」(2) 12. テキスト第9講「帝国と大衆社会」(1) 13. テキスト第9講「帝国と大衆社会」(2) 14. テキスト第10講「現代のイギリス」 15. 授業のまとめ						
◇ 成績評価の方法	授業受講状況(毎回のコメントペーパーを利用)50%、レポート50%。						
◇ 教科書・参考書	近藤和彦『イギリス史10講』、岩波新書(新赤版)1464、2013年。参考書は教室で適宜指示する。						
◇ 授業時間外学習	毎回必ず授業前にテキストを下読みして予習し、また必ずテキストおよびノートを読み返して復習すること。さらに関連文献を読んで理解を深めることを強く要望します。						
その他:							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨーロッパ史基礎講読 European and American History (Introductory Reading)	2	教授 小野善彦	3	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS210J																				
◆ 授業題目	英語文献講読																				
◆ 目的・概要	近世ヨーロッパの都市と市民に関わる諸問題を多角的に論じた下記の文献を精読し、近世の都市と市民についての理解を深めるとともに、英語文献の読解力の涵養に努める。 テキスト：C.R.Friedrichs, The Early Modern City, 1995.																				
◆ 到達目標	英語文献読解力の涵養																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 前おき：授業紹介</td> <td>9. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>2. 報告、討論</td> <td>10. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>3. 報告、討論</td> <td>11. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>4. 報告、討論</td> <td>12. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>5. 報告、討論</td> <td>13. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>6. 報告、討論</td> <td>14. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>7. 報告、討論</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 報告、討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. 前おき：授業紹介	9. 報告、討論	2. 報告、討論	10. 報告、討論	3. 報告、討論	11. 報告、討論	4. 報告、討論	12. 報告、討論	5. 報告、討論	13. 報告、討論	6. 報告、討論	14. 報告、討論	7. 報告、討論	15. 授業のまとめ	8. 報告、討論	
1. 前おき：授業紹介	9. 報告、討論																				
2. 報告、討論	10. 報告、討論																				
3. 報告、討論	11. 報告、討論																				
4. 報告、討論	12. 報告、討論																				
5. 報告、討論	13. 報告、討論																				
6. 報告、討論	14. 報告、討論																				
7. 報告、討論	15. 授業のまとめ																				
8. 報告、討論																					
◇ 成績評価の方法	出席・授業参加状況40%、レポート60%																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する																				
◇ 授業時間外学習	あらかじめ予習して、テキストの理解に努めること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨーロッパ史基礎講読 European and American History (Introductory Reading)	2	教授 小野善彦	4	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS210J																				
◆ 授業題目	英語文献講読																				
◆ 目的・概要	近世ヨーロッパの都市と市民に関わる諸問題を多角的に論じた下記のテキストを精読し、近世の都市と市民についての理解を深めるとともに、英語文献の読解力の涵養に努める。 テキスト：C.R.Friedrichs, The Early Modern City, 1995.																				
◆ 到達目標	英語文献読解力の涵養																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 前おき：授業紹介</td> <td>9. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>2. 報告、討論</td> <td>10. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>3. 報告、討論</td> <td>11. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>4. 報告、討論</td> <td>12. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>5. 報告、討論</td> <td>13. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>6. 報告、討論</td> <td>14. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>7. 報告、討論</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 報告、討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. 前おき：授業紹介	9. 報告、討論	2. 報告、討論	10. 報告、討論	3. 報告、討論	11. 報告、討論	4. 報告、討論	12. 報告、討論	5. 報告、討論	13. 報告、討論	6. 報告、討論	14. 報告、討論	7. 報告、討論	15. 授業のまとめ	8. 報告、討論	
1. 前おき：授業紹介	9. 報告、討論																				
2. 報告、討論	10. 報告、討論																				
3. 報告、討論	11. 報告、討論																				
4. 報告、討論	12. 報告、討論																				
5. 報告、討論	13. 報告、討論																				
6. 報告、討論	14. 報告、討論																				
7. 報告、討論	15. 授業のまとめ																				
8. 報告、討論																					
◇ 成績評価の方法	出席・授業参加状況40%、レポート60%																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する																				
◇ 授業時間外学習	あらかじめ予習して、テキストの理解に努めること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨーロッパ史基礎講読 European and American History (Introductory Reading)	2	教授 有光秀行	3	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS210J																				
◆ 授業題目	フランス語文献精読																				
◆ 目的・概要	フランス語で書かれた中世フランス史の概説書を読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読（だいたい日本語で1000字くらい）と解説。所定の授業期間に読み残したテキストを学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。																				
◆ 到達目標	フランス語で書かれた論考の読解力を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業・テキスト・レポートについての説明</td> <td>9. フランス語文献読解(8)</td> </tr> <tr> <td>2. フランス語文献読解(1)</td> <td>10. フランス語文献読解(9)</td> </tr> <tr> <td>3. フランス語文献読解(2)</td> <td>11. フランス語文献読解(10)</td> </tr> <tr> <td>4. フランス語文献読解(3)</td> <td>12. フランス語文献読解(11)</td> </tr> <tr> <td>5. フランス語文献読解(4)</td> <td>13. フランス語文献読解(12)</td> </tr> <tr> <td>6. フランス語文献読解(5)</td> <td>14. フランス語文献読解(13)</td> </tr> <tr> <td>7. フランス語文献読解(6)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. フランス語文献読解(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業・テキスト・レポートについての説明	9. フランス語文献読解(8)	2. フランス語文献読解(1)	10. フランス語文献読解(9)	3. フランス語文献読解(2)	11. フランス語文献読解(10)	4. フランス語文献読解(3)	12. フランス語文献読解(11)	5. フランス語文献読解(4)	13. フランス語文献読解(12)	6. フランス語文献読解(5)	14. フランス語文献読解(13)	7. フランス語文献読解(6)	15. 授業のまとめ	8. フランス語文献読解(7)	
1. 授業・テキスト・レポートについての説明	9. フランス語文献読解(8)																				
2. フランス語文献読解(1)	10. フランス語文献読解(9)																				
3. フランス語文献読解(2)	11. フランス語文献読解(10)																				
4. フランス語文献読解(3)	12. フランス語文献読解(11)																				
5. フランス語文献読解(4)	13. フランス語文献読解(12)																				
6. フランス語文献読解(5)	14. フランス語文献読解(13)																				
7. フランス語文献読解(6)	15. 授業のまとめ																				
8. フランス語文献読解(7)																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況（70%）と学期末翻訳レポート（30%）																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示します。																				
◇ 授業時間外学習	所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨーロッパ史基礎講読 European and American History (Introductory Reading)	2	教授 有光秀行	4	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS210J																				
◆ 授業題目	フランス語文献精読																				
◆ 目的・概要	前セメスターにひきつづき、フランス語で書かれた中世フランス史の概説書を読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読（だいたい日本語で1000字くらい）と解説。所定の授業期間に読み残したテキストを学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。																				
◆ 到達目標	フランス語で書かれた論考の読解力を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業・テキスト・レポートについての説明</td> <td>9. フランス語文献読解(8)</td> </tr> <tr> <td>2. フランス語文献読解(1)</td> <td>10. フランス語文献読解(9)</td> </tr> <tr> <td>3. フランス語文献読解(2)</td> <td>11. フランス語文献読解(10)</td> </tr> <tr> <td>4. フランス語文献読解(3)</td> <td>12. フランス語文献読解(11)</td> </tr> <tr> <td>5. フランス語文献読解(4)</td> <td>13. フランス語文献読解(12)</td> </tr> <tr> <td>6. フランス語文献読解(5)</td> <td>14. フランス語文献読解(13)</td> </tr> <tr> <td>7. フランス語文献読解(6)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. フランス語文献読解(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業・テキスト・レポートについての説明	9. フランス語文献読解(8)	2. フランス語文献読解(1)	10. フランス語文献読解(9)	3. フランス語文献読解(2)	11. フランス語文献読解(10)	4. フランス語文献読解(3)	12. フランス語文献読解(11)	5. フランス語文献読解(4)	13. フランス語文献読解(12)	6. フランス語文献読解(5)	14. フランス語文献読解(13)	7. フランス語文献読解(6)	15. 授業のまとめ	8. フランス語文献読解(7)	
1. 授業・テキスト・レポートについての説明	9. フランス語文献読解(8)																				
2. フランス語文献読解(1)	10. フランス語文献読解(9)																				
3. フランス語文献読解(2)	11. フランス語文献読解(10)																				
4. フランス語文献読解(3)	12. フランス語文献読解(11)																				
5. フランス語文献読解(4)	13. フランス語文献読解(12)																				
6. フランス語文献読解(5)	14. フランス語文献読解(13)																				
7. フランス語文献読解(6)	15. 授業のまとめ																				
8. フランス語文献読解(7)																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況（70%）と学期末翻訳レポート（30%）																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示します。																				
◇ 授業時間外学習	所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ヨーロッパ史基礎講読 European and American History (Introductory Reading)	2	准教授 浅岡善治	3	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS210J				
◆ 授業題目	ドイツ語文献講読				
◆ 目的・概要	演習形式によるドイツ語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する入門的指導を行う。				
◆ 到達目標	専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および一定のドイツ語読解能力の涵養。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について 2. 試訳の検討と討論(1) a 3. 試訳の検討と討論(1) b 4. 試訳の検討と討論(1) c 5. 試訳の検討と討論(1) d 6. 試訳の検討と討論(1) e 7. 小括(1) 8. 試訳の検討と討論(2) a 9. 試訳の検討と討論(2) b 10. 試訳の検討と討論(2) c 11. 試訳の検討と討論(2) d 12. 試訳の検討と討論(2) e 13. 小括(2) 14. 課題発表(1) 15. 中間的総括(1)				
◇ 成績評価の方法	出席30% その他（受講態度、課題の達成度など）70%				
◇ 教科書・参考書	Wolfgang J. Mommsen, Die Urkatastrophe Deutschlands. Der Erste Weltkrieg 1914-1918, Klett-Cotta: Stuttgart, 2002. その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。				
その他：面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。 研究室：文学研究科 5 F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ヨーロッパ史基礎講読 European and American History (Introductory Reading)	2	准教授 浅岡善治	4	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS210J				
◆ 授業題目	ドイツ語文献講読				
◆ 目的・概要	演習形式によるドイツ語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する入門的指導を行う。				
◆ 到達目標	専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および一定のドイツ語読解能力の涵養。				
◆ 授業内容・方法	1. 課題発表(2) 2. 試訳の検討と討論(3) a 3. 試訳の検討と討論(3) b 4. 試訳の検討と討論(3) c 5. 試訳の検討と討論(3) d 6. 試訳の検討と討論(3) e 7. 小括(3) 8. 試訳の検討と討論(4) a 9. 試訳の検討と討論(4) b 10. 試訳の検討と討論(4) c 11. 試訳の検討と討論(4) d 12. 試訳の検討と討論(4) e 13. 小括(4) 14. 中間的総括(2) 15. 総括				
◇ 成績評価の方法	出席30% その他（受講態度、課題の達成度など）70%				
◇ 教科書・参考書	Wolfgang J. Mommsen, Die Urkatastrophe Deutschlands. Der Erste Weltkrieg 1914-1918, Klett-Cotta: Stuttgart, 2002. その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。				
その他：面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。 研究室：文学研究科 5 F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨーロッパ史各論 European and American History (Special Lecture)	2	非常勤 講師 島田 誠	集 中 (5)																		
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS305J																				
◆ 授業題目	古代ローマの社会と宗教																				
◆ 目的・概要	古代ローマは、イタリア半島中部の小さな農民共同体として誕生したが、やがて都市化し、さらにイタリア半島中部の小都市国家から地中海世界を支配する大帝国へ変容した。その間に政治体制は、王政から共和政を経て帝政へと変遷した。本講義では、このような政治の変化と各時代における、政治・社会と宗教との関係を論じる。																				
◆ 到達目標	この講義を受講することによって、古代ローマの社会の特色とそこでの宗教のあり方について、詳細な知識を得られる。さらにこの講義で得た社会と宗教の関関する知識や考え方を応用することで、他の時代や地域における宗教現象と社会の関わり方を理解する能力を獲得することを目的とする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 古代ローマにおける宗教の特色</td> <td>9. 都市の宗教6 バッカナーリア事件の衝撃</td> </tr> <tr> <td>2. 家と小共同体の宗教1 農民の宗教</td> <td>10. 帝国の時代の宗教1 東方宗教とは何か</td> </tr> <tr> <td>3. 家と小共同体の宗教2 家の守り神</td> <td>11. 帝国の時代の宗教2 東方宗教の流入</td> </tr> <tr> <td>4. 都市の宗教1 王政期の国家宗教</td> <td>12. 帝国の時代の宗教3 東方宗教の普及</td> </tr> <tr> <td>5. 都市の宗教2 共和政成立期の宗教</td> <td>13. 帝国の時代の宗教4 皇帝礼拝の起源</td> </tr> <tr> <td>6. 都市の宗教3 身分闘争時代の宗教</td> <td>14. 帝国の時代の宗教5 皇帝礼拝の成立と帝政期ローマ社会</td> </tr> <tr> <td>7. 都市の宗教4 イタリア半島征服と宗教</td> <td>15. 講義のまとめと筆記試験</td> </tr> <tr> <td>8. 都市の宗教5 地中海世界への進出と東方宗教との出会い</td> <td></td> </tr> </table>					1. 古代ローマにおける宗教の特色	9. 都市の宗教6 バッカナーリア事件の衝撃	2. 家と小共同体の宗教1 農民の宗教	10. 帝国の時代の宗教1 東方宗教とは何か	3. 家と小共同体の宗教2 家の守り神	11. 帝国の時代の宗教2 東方宗教の流入	4. 都市の宗教1 王政期の国家宗教	12. 帝国の時代の宗教3 東方宗教の普及	5. 都市の宗教2 共和政成立期の宗教	13. 帝国の時代の宗教4 皇帝礼拝の起源	6. 都市の宗教3 身分闘争時代の宗教	14. 帝国の時代の宗教5 皇帝礼拝の成立と帝政期ローマ社会	7. 都市の宗教4 イタリア半島征服と宗教	15. 講義のまとめと筆記試験	8. 都市の宗教5 地中海世界への進出と東方宗教との出会い	
1. 古代ローマにおける宗教の特色	9. 都市の宗教6 バッカナーリア事件の衝撃																				
2. 家と小共同体の宗教1 農民の宗教	10. 帝国の時代の宗教1 東方宗教とは何か																				
3. 家と小共同体の宗教2 家の守り神	11. 帝国の時代の宗教2 東方宗教の流入																				
4. 都市の宗教1 王政期の国家宗教	12. 帝国の時代の宗教3 東方宗教の普及																				
5. 都市の宗教2 共和政成立期の宗教	13. 帝国の時代の宗教4 皇帝礼拝の起源																				
6. 都市の宗教3 身分闘争時代の宗教	14. 帝国の時代の宗教5 皇帝礼拝の成立と帝政期ローマ社会																				
7. 都市の宗教4 イタリア半島征服と宗教	15. 講義のまとめと筆記試験																				
8. 都市の宗教5 地中海世界への進出と東方宗教との出会い																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況（出席）および最終回授業における試験で評価する。																				
◇ 教科書・参考書	授業全体に関する教科書・参考書はない。授業各回に関する参考文献は、授業中に適宜示す。																				
◇ 授業時間外学習	授業各回終了後に、その内容を十分に復習すること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨーロッパ史各論 European and American History (Special Lecture)	2	教授 小野 善彦	5	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS305J																				
◆ 授業題目	ドイツ近世の宗教・社会・国家																				
◆ 目的・概要	16世紀のドイツにおいて、宗教改革運動が、ドイツ固有の政治的社会的背景のもとで展開され、カトリック派の皇帝・諸侯と対立する中で、宗教改革派のみならず、カトリック派をも含む三大宗派の鼎立する「宗派体制化」に帰結する過程を明らかにする。																				
◆ 到達目標	16世紀のドイツにおいて、宗教改革運動が、社会と国家に与えた影響と意義を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 前おき：授業紹介</td> <td>9. 宗教改革と社会(2) 都市</td> </tr> <tr> <td>2. 帝国改革運動(1) 運動の展開、帰結 永久ラント平和令、帝国最高法院、帝国宮内法院</td> <td>10. 宗教改革の国家化(1) 16世紀前半の帝国政治</td> </tr> <tr> <td>3. 帝国改革運動(2) 帝国議会</td> <td>11. 宗教改革の国家化(2) アウクスブルクの宗教平和</td> </tr> <tr> <td>4. 帝国改革運動(3) 帝国統治院 帝国クライス制度</td> <td>12. 諸宗派の形成(1) トリエント公会議</td> </tr> <tr> <td>5. 帝国改革運動(4) 皇帝権 選挙協約</td> <td>13. 諸宗派の形成(2) 改革派</td> </tr> <tr> <td>6. 中世末期の宗教的状態</td> <td>14. 諸宗派の形成(3) ルター派</td> </tr> <tr> <td>7. 宗教改革の諸原理</td> <td>15. 宗派体制化の進展 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 宗教改革と社会(1) 帝国騎士、農民</td> <td></td> </tr> </table>					1. 前おき：授業紹介	9. 宗教改革と社会(2) 都市	2. 帝国改革運動(1) 運動の展開、帰結 永久ラント平和令、帝国最高法院、帝国宮内法院	10. 宗教改革の国家化(1) 16世紀前半の帝国政治	3. 帝国改革運動(2) 帝国議会	11. 宗教改革の国家化(2) アウクスブルクの宗教平和	4. 帝国改革運動(3) 帝国統治院 帝国クライス制度	12. 諸宗派の形成(1) トリエント公会議	5. 帝国改革運動(4) 皇帝権 選挙協約	13. 諸宗派の形成(2) 改革派	6. 中世末期の宗教的状態	14. 諸宗派の形成(3) ルター派	7. 宗教改革の諸原理	15. 宗派体制化の進展 授業のまとめ	8. 宗教改革と社会(1) 帝国騎士、農民	
1. 前おき：授業紹介	9. 宗教改革と社会(2) 都市																				
2. 帝国改革運動(1) 運動の展開、帰結 永久ラント平和令、帝国最高法院、帝国宮内法院	10. 宗教改革の国家化(1) 16世紀前半の帝国政治																				
3. 帝国改革運動(2) 帝国議会	11. 宗教改革の国家化(2) アウクスブルクの宗教平和																				
4. 帝国改革運動(3) 帝国統治院 帝国クライス制度	12. 諸宗派の形成(1) トリエント公会議																				
5. 帝国改革運動(4) 皇帝権 選挙協約	13. 諸宗派の形成(2) 改革派																				
6. 中世末期の宗教的状態	14. 諸宗派の形成(3) ルター派																				
7. 宗教改革の諸原理	15. 宗派体制化の進展 授業のまとめ																				
8. 宗教改革と社会(1) 帝国騎士、農民																					
◇ 成績評価の方法	出席・授業受講状況40%、レポート60%																				
◇ 教科書・参考書	参考書：R・W・スクリプナー、T・スコット『ドイツ宗教改革』、岩波書店。																				
◇ 授業時間外学習	あらかじめ配布する資料に目を通し、十分に理解した上で講義に臨むこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ヨ ー ロ ッ パ 史 各 論 European and American History (Special Lecture)	2	非常勤 講師 高 田 実	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS305J				
◆ 授業題目	ヨーロッパ福祉史の諸問題—生の歴史学と「福祉の複合体」—				
◆ 目的・概要	①目的：ヨーロッパ「福祉の複合体」の歴史的展開についての基礎知識を取得するとともに、それをういつつ歴史的視点から現代の諸問題を分析し、未来の福祉社会を構想できるだけの豊かな歴史的思考力を身に着ける。				
◆ 到達目標	②方法：基本的には講義形式とするが、毎回、問題発見のための対話の時間を設ける。 ①まず、福祉が、多様な担い手と原理からなる構造的複合体であることが理解できるようになる。 ②次に、この複合体が、ヨーロッパ社会の歴史のなかにおいて、どのような姿態転換を遂げたのかを、総体的かつ比較史的に理解できるようになる。 ③最後に、各地域の人びとが、福祉というツールを用いつつ、どのような<生>の充実を模索してきたか、その主体的な姿を理解できる歴史的想像力を身に着ける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の課題と概要の説明 2. 古代・中世の貧困観と貧困救済 3. 「近世化」と貧困問題—グローバルな経済と貧困観の変化 4. 近世社会における救貧法の展開(1)—「最後の寄る辺」 5. 近世社会における救貧法の展開(2)—「貧民の手紙」 6. 工業化と貧困観の変化—自由主義的貧困観の世界 7. 救貧法と工場法 8. チャリティの展開 9. 相互扶助の展開 10. 19世紀末「大不況」と社会的貧困観の登場 11. 国家福祉の導入 12. 「新しいフィラスロビー」の展開 13. 戦争と福祉 14. ベヴェリッジの福祉社会 15. 講義のまとめ—生の歴史学への展望 				
◇ 成績評価の方法	筆記試験 (70%)、平常点 (30% : 出席、発表やコメントへの取り組み)				
◇ 教科書・参考書	教科書 特に指定しない 参考書 高田実・中野智世『近代ヨーロッパの探究 福祉』、ミネルヴァ書房、2012年；岡本東洋光・高田実・金澤周作編『英国福祉ボランティアの源流』ミネルヴァ書房、2012年；金澤周作『チャリティとイギリス近代』京都大学学術出版会、2008年；長谷川貴彦『イギリス福祉国家の歴史的源流—近世・近代転換期の中間団体』東京大学出版会、2014年。				
◇ 授業時間外学習	①「福祉の複合体」とはどんな考えか、上記の参考文献などを用いて、理解しておく。 ②現代社会における福祉の諸問題について、論点となる項目を考えておく。				
その他：連続講義前後で質問がある場合は、min938@center.konan-u.ac.jp まで連絡のこと。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ヨ ー ロ ッ パ 史 各 論 European and American History (Special Lecture)	2	准教授 浅 岡 善 治	6	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS305J				
◆ 授業題目	社会主義革命と「社会」				
◆ 目的・概要	「社会主義」を志向したロシア革命がすぐれて国家主義的な性格を有するスターリン体制の成立へと帰結したことは、19世紀的な「国家」と「社会」の二分法からすれば、大いなるパラドックスであった。本講義では、ロシア革命史およびソ連史の流れを概観しつつ、そこでの「社会的」要素の在り方について再検討する。				
◆ 到達目標	(1)ロシア革命史およびソ連史の側面から、20世紀ヨーロッパ史の概要を把握する (2)近現代史の知見を基に、現代の諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について 2. 帝政ロシアにおける国家、社会、文化 3. 変革の諸構想(1) 4. 変革の諸構想(2) 5. ソヴィエト国家とロシア社会(1) 6. ソヴィエト国家とロシア社会(2) 7. 多元性の中の模索—ネップ期の国家と社会(1) 8. 多元性の中の模索—ネップ期の国家と社会(2) 9. スターリニズム下の国家と社会(1) 10. スターリニズム下の国家と社会(2) 11. 「雪解け」とフルシチョフ改革 12. 「停滞」下の国家と社会 13. ベレストロイカ期の国家と社会 14. ポスト・ソ連期の国家と社会 15. 総括と展望 				
◇ 成績評価の方法	筆記試験を行い、その成績に基づいて評価する。				
◇ 教科書・参考書	特定の教科書は使用しない。 参考文献は授業の進行に合わせて随時紹介する。さしあたりソ連期全体をカバーするものとして、松戸清裕『ソ連史』ちくま新書、2013年；Robert Service, The Penguin History of Modern Russia: From Tsarism to the Twenty-first Century, Fourth Edition, 2015、の2冊を挙げておく。				
◇ 授業時間外学習	「各論」でありながらも内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの事由により本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨ ー ロ ッ パ 史 演 習 European and American History (Seminar)	2	教授 有 光 秀 行	5	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS312J																				
◆ 授業題目	中世ヨーロッパ史研究																				
◆ 目的・概要	通常の授業時間は、フランス語のテキスト（中世におけるイングランドとノルマンディの関係をあつかった論文集の予定）を、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者は自分が作成した訳文を印刷し、参加者全員その訳に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。外国語の専門的文献の読解力を養うとともに、中世ヨーロッパ研究の最前線に関する知見を深めたいと思います。第一回目は打ち合わせ。以後は訳読（基本的に一人一段落）と質疑応答。また学期末には、中世ヨーロッパに関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する邦語論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。																				
◆ 到達目標	さまざまな史料の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明</td> <td>9. フランス語論文読解(8)</td> </tr> <tr> <td>2. フランス語論文読解(1)</td> <td>10. フランス語論文読解(9)</td> </tr> <tr> <td>3. フランス語論文読解(2)</td> <td>11. フランス語論文読解(10)、レポート作成進行状況確認</td> </tr> <tr> <td>4. フランス語論文読解(3)</td> <td>12. フランス語論文読解(11)</td> </tr> <tr> <td>5. フランス語論文読解(4)</td> <td>13. フランス語論文読解(12)</td> </tr> <tr> <td>6. フランス語論文読解(5)</td> <td>14. フランス語論文読解(13)</td> </tr> <tr> <td>7. フランス語論文読解(6)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. フランス語論文読解(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明	9. フランス語論文読解(8)	2. フランス語論文読解(1)	10. フランス語論文読解(9)	3. フランス語論文読解(2)	11. フランス語論文読解(10)、レポート作成進行状況確認	4. フランス語論文読解(3)	12. フランス語論文読解(11)	5. フランス語論文読解(4)	13. フランス語論文読解(12)	6. フランス語論文読解(5)	14. フランス語論文読解(13)	7. フランス語論文読解(6)	15. 授業のまとめ	8. フランス語論文読解(7)	
1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明	9. フランス語論文読解(8)																				
2. フランス語論文読解(1)	10. フランス語論文読解(9)																				
3. フランス語論文読解(2)	11. フランス語論文読解(10)、レポート作成進行状況確認																				
4. フランス語論文読解(3)	12. フランス語論文読解(11)																				
5. フランス語論文読解(4)	13. フランス語論文読解(12)																				
6. フランス語論文読解(5)	14. フランス語論文読解(13)																				
7. フランス語論文読解(6)	15. 授業のまとめ																				
8. フランス語論文読解(7)																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況（50%）とレポート（50%）。																				
◇ 教科書・参考書	授業開始時に指示します。																				
◇ 授業時間外学習	毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨ ー ロ ッ パ 史 演 習 European and American History (Seminar)	2	教授 有 光 秀 行	6	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS312J																				
◆ 授業題目	中世ヨーロッパ史研究																				
◆ 目的・概要	通常の授業時間は、前セメスターにつづいて、フランス語のテキスト（中世におけるイングランドとノルマンディの関係をあつかった論文集の予定）を、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者は自分が作成した訳文を印刷し、参加者全員その訳に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。外国語の専門的文献の読解力を養うとともに、中世ヨーロッパ研究の最前線に関する知見を深めたいと思います。第一回目は打ち合わせ。つづいて、前期に作成されたレポートの内容を要約・発表する機会を設けます。以後は訳読（基本的に一人一段落）と質疑応答。また学期末には、中世ヨーロッパに関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する邦語論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。																				
◆ 到達目標	さまざまな史料の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明</td> <td>9. フランス語論文読解(7)</td> </tr> <tr> <td>2. レポート内容発表会</td> <td>10. フランス語論文読解(8)</td> </tr> <tr> <td>3. フランス語論文読解(1)</td> <td>11. フランス語論文読解(9)、レポート作成進行状況確認</td> </tr> <tr> <td>4. フランス語論文読解(2)</td> <td>12. フランス語論文読解(10)</td> </tr> <tr> <td>5. フランス語論文読解(3)</td> <td>13. フランス語論文読解(11)</td> </tr> <tr> <td>6. フランス語論文読解(4)</td> <td>14. フランス語論文読解(12)</td> </tr> <tr> <td>7. フランス語論文読解(5)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. フランス語論文読解(6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明	9. フランス語論文読解(7)	2. レポート内容発表会	10. フランス語論文読解(8)	3. フランス語論文読解(1)	11. フランス語論文読解(9)、レポート作成進行状況確認	4. フランス語論文読解(2)	12. フランス語論文読解(10)	5. フランス語論文読解(3)	13. フランス語論文読解(11)	6. フランス語論文読解(4)	14. フランス語論文読解(12)	7. フランス語論文読解(5)	15. 授業のまとめ	8. フランス語論文読解(6)	
1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明	9. フランス語論文読解(7)																				
2. レポート内容発表会	10. フランス語論文読解(8)																				
3. フランス語論文読解(1)	11. フランス語論文読解(9)、レポート作成進行状況確認																				
4. フランス語論文読解(2)	12. フランス語論文読解(10)																				
5. フランス語論文読解(3)	13. フランス語論文読解(11)																				
6. フランス語論文読解(4)	14. フランス語論文読解(12)																				
7. フランス語論文読解(5)	15. 授業のまとめ																				
8. フランス語論文読解(6)																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況（50%）とレポート（50%）。																				
◇ 教科書・参考書	授業開始時に指示します。																				
◇ 授業時間外学習	毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ヨーロッパ史演習 European and American History (Seminar)	2	教授 小野善彦	5	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS312J																				
◆ 授業題目	西洋中世史の諸問題																				
◆ 目的・概要	中世都市の社会構造の特質を論じた、研究史上重要な論文（ドイツ語）を精読し、中世都市の存在構造と中世後期におけるその変容の背景、性格、意義を考察する。特に、中世後期の都市における貧民問題・救貧政策、周縁集団の形成・スティグマ化、に着目する。 テキスト：Bernd-U. Hergemöller (Hg.), Randgruppen der spätmittelalterlichen Gesellschaft, Neue Ausgabe, 2001.																				
◆ 到達目標	中世都市の社会構造と周縁集団形成を促すしくみについての理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 前おき：授業紹介</td> <td>9. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>2. 報告、討論</td> <td>10. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>3. 報告、討論</td> <td>11. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>4. 報告、討論</td> <td>12. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>5. 報告、討論</td> <td>13. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>6. 報告、討論</td> <td>14. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>7. 報告、討論</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 報告、討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. 前おき：授業紹介	9. 報告、討論	2. 報告、討論	10. 報告、討論	3. 報告、討論	11. 報告、討論	4. 報告、討論	12. 報告、討論	5. 報告、討論	13. 報告、討論	6. 報告、討論	14. 報告、討論	7. 報告、討論	15. 授業のまとめ	8. 報告、討論	
1. 前おき：授業紹介	9. 報告、討論																				
2. 報告、討論	10. 報告、討論																				
3. 報告、討論	11. 報告、討論																				
4. 報告、討論	12. 報告、討論																				
5. 報告、討論	13. 報告、討論																				
6. 報告、討論	14. 報告、討論																				
7. 報告、討論	15. 授業のまとめ																				
8. 報告、討論																					
◇ 成績評価の方法	出席・授業参加状況40%、レポート60%																				
◇ 教科書・参考書	W・ハルトゥング『中世の旅芸人』、2006年。																				
◇ 授業時間外学習	あらかじめ予習して、テキストを十分に理解しておくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
ヨーロッパ史演習 European and American History (Seminar)	2	教授 小野善彦	6	月	3																		
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS312J																						
◆ 授業題目	西洋中世史の諸問題																						
◆ 目的・概要	西洋中世都市の社会構造の特質を論じた、研究史上重要な論文（ドイツ語）を精読し、中世都市の存在構造と中世後期におけるその変容の背景、性格、意義を考察する。特に、中世後期の都市における貧民問題・救貧政策、周縁集団の形成・スティグマ化、に着目する。 テキスト：Bernd-U. Hergemöller (Hg.), Randgruppen der spätmittelalterlichen Gesellschaft, Neue Ausgabe, 2001.																						
◆ 到達目標	中世都市の社会構造と周縁集団形成を促すメカニズムについての理解を深める。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 前おき：授業紹介</td> <td>9. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>報告、討論</td> <td>10. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>2. 報告、討論</td> <td>11. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>3. 報告、討論</td> <td>12. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>4. 報告、討論</td> <td>13. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>5. 報告、討論</td> <td>14. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>6. 報告、討論</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 報告、討論</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 報告、討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. 前おき：授業紹介	9. 報告、討論	報告、討論	10. 報告、討論	2. 報告、討論	11. 報告、討論	3. 報告、討論	12. 報告、討論	4. 報告、討論	13. 報告、討論	5. 報告、討論	14. 報告、討論	6. 報告、討論	15. 授業のまとめ	7. 報告、討論		8. 報告、討論	
1. 前おき：授業紹介	9. 報告、討論																						
報告、討論	10. 報告、討論																						
2. 報告、討論	11. 報告、討論																						
3. 報告、討論	12. 報告、討論																						
4. 報告、討論	13. 報告、討論																						
5. 報告、討論	14. 報告、討論																						
6. 報告、討論	15. 授業のまとめ																						
7. 報告、討論																							
8. 報告、討論																							
◇ 成績評価の方法	出席・授業参加状況40%、レポート60%																						
◇ 教科書・参考書	参考書：W・ハルトゥング『中世の旅芸人』、2006年。																						
◇ 授業時間外学習	あらかじめ予習して、テキストの理解に努めること。																						
その他：																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ヨ ー ロ ッ パ 史 演 習 European and American History (Seminar)	2	准教授 浅岡善治	5	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS312J				
◆ 授業題目	ロシア革命の歴史的再検討				
◆ 目的・概要	演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う				
◆ 到達目標	専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について 2. 試読の検討と討論(1) a 3. 試読の検討と討論(1) b 4. 試読の検討と討論(1) c 5. 試読の検討と討論(1) d 6. 試読の検討と討論(1) e 7. 小括(1) 8. 試読の検討と討論(2) a 9. 試読の検討と討論(2) b 10. 試読の検討と討論(2) c 11. 試読の検討と討論(2) d 12. 試読の検討と討論(2) e 13. 小括(2) 14. 課題発表(1) 15. 中間的総括(1)				
◇ 成績評価の方法	出席30% その他（受講態度、課題の達成度など）70%				
◇ 教科書・参考書	望田幸男・芝井敬司・末川清『新版 新しい史学概論』昭和堂、2004年；Robert Service, The Penguin History of Modern Russia: From Tsarism to the Twenty-first Century, Fourth Edition, 2015. その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。				
その他：面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。 研究室：文学研究科 5 F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
ヨ ー ロ ッ パ 史 演 習 European and American History (Seminar)	2	准教授 浅岡善治	6	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHMHIS312J				
◆ 授業題目	ロシア革命の歴史的再検討				
◆ 目的・概要	演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う				
◆ 到達目標	専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。				
◆ 授業内容・方法	1. 課題発表(2) 2. 試読の検討と討論(3) a 3. 試読の検討と討論(3) b 4. 試読の検討と討論(3) c 5. 試読の検討と討論(3) d 6. 試読の検討と討論(3) e 7. 小括(3) 8. 試読の検討と討論(4) a 9. 試読の検討と討論(4) b 10. 試読の検討と討論(4) c 11. 試読の検討と討論(4) d 12. 試読の検討と討論(4) e 13. 小括(4) 14. 中間的総括(2) 15. 総括				
◇ 成績評価の方法	出席30% その他（受講態度、課題の達成度など）70%				
◇ 教科書・参考書	望田幸男・芝井敬司・末川清『新版 新しい史学概論』昭和堂、2004年；Robert Service, The Penguin History of Modern Russia: From Tsarism to the Twenty-first Century, Fourth Edition, 2015. その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。				
その他：面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。 研究室：文学研究科 5 F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 言 語 学 概 論 Modern Linguistics (General Lecture)	2	教授 小 泉 政 利	3	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN202J																				
◆ 授業題目	言語学概論 I																				
◆ 目的・概要	言語学の文献を読んだり卒業論文に向けて専門的に研究を進めていくうえでぜひとも知っておかなければならない基礎的な概念や言語現象、分析方法などについて学びます。今学期は特に、音韻論と形態論の分野に焦点を当てます。																				
◆ 到達目標	音韻論と形態論の基礎的な概念を理解し、それを使って身近な言語現象を自分なりに分析できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 音韻論 3 : 韻律</td> </tr> <tr> <td>2. 世界の諸言語</td> <td>10. 音韻論 4 : 音韻現象</td> </tr> <tr> <td>3. 音声学 1 : 音声</td> <td>11. 形態論 1 : 形態素</td> </tr> <tr> <td>4. 音声学 2 : 調音音声学</td> <td>12. 形態論 2 : 接辞</td> </tr> <tr> <td>5. 音声学 3 : 音響音声学</td> <td>13. 形態論 3 : 語形成</td> </tr> <tr> <td>6. 音声学 4 : 聴覚音声学</td> <td>14. 形態論 4 : 辞書</td> </tr> <tr> <td>7. 音韻論 1 : 音素</td> <td>15. まとめと筆記試験</td> </tr> <tr> <td>8. 音韻論 2 : 音節</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 音韻論 3 : 韻律	2. 世界の諸言語	10. 音韻論 4 : 音韻現象	3. 音声学 1 : 音声	11. 形態論 1 : 形態素	4. 音声学 2 : 調音音声学	12. 形態論 2 : 接辞	5. 音声学 3 : 音響音声学	13. 形態論 3 : 語形成	6. 音声学 4 : 聴覚音声学	14. 形態論 4 : 辞書	7. 音韻論 1 : 音素	15. まとめと筆記試験	8. 音韻論 2 : 音節	
1. ガイダンス	9. 音韻論 3 : 韻律																				
2. 世界の諸言語	10. 音韻論 4 : 音韻現象																				
3. 音声学 1 : 音声	11. 形態論 1 : 形態素																				
4. 音声学 2 : 調音音声学	12. 形態論 2 : 接辞																				
5. 音声学 3 : 音響音声学	13. 形態論 3 : 語形成																				
6. 音声学 4 : 聴覚音声学	14. 形態論 4 : 辞書																				
7. 音韻論 1 : 音素	15. まとめと筆記試験																				
8. 音韻論 2 : 音節																					
◇ 成績評価の方法	概ね次のような基準で総合的に評価を決定します。 筆記試験60%、ミニット・ペーパー20%、レポート20%																				
◇ 教科書・参考書	教科書小泉政利（編著）『ここから始める言語学プラス統計分析』共立出版																				
◇ 授業時間外学習	毎回、授業の予習と復習をこまめに行うこと。成績評価方法欄の「ミニット・ペーパー」には授業時間外に行う課題も含まれます。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 言 語 学 概 論 Modern Linguistics (General Lecture)	2	教授 小 泉 政 利	4	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN202J																				
◆ 授業題目	言語学概論 II																				
◆ 目的・概要	言語学の文献を読んだり卒業論文に向けて専門的に研究を進めていくうえでぜひとも知っておかなければならない基礎的な概念や言語現象、分析方法などについて学びます。今学期は特に、統語論、意味論、語用論、心理言語学の分野に焦点を当てます。																				
◆ 到達目標	統語論、意味論、語用論、心理言語学、4分野の基礎的な概念を理解し、それを使って身近な言語現象を自分なりに分析できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 意味論 4 : 情報構造</td> </tr> <tr> <td>2. 統語論 1 : 語順</td> <td>10. 語用論 1 : 言語とコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>3. 統語論 2 : 格と一致</td> <td>11. 語用論 2 : 関連性</td> </tr> <tr> <td>4. 統語論 3 : 統語構造</td> <td>12. 心理言語学 1 : 言語産出</td> </tr> <tr> <td>5. 統語論 4 : 統語現象</td> <td>13. 心理言語学 2 : 言語理解</td> </tr> <tr> <td>6. 意味論 1 : 意味の意味</td> <td>14. 心理言語学 3 : 言語獲得</td> </tr> <tr> <td>7. 意味論 2 : 意味関係</td> <td>15. まとめと筆記試験</td> </tr> <tr> <td>8. 意味論 3 : テンス、アスペクト、モダリティー</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 意味論 4 : 情報構造	2. 統語論 1 : 語順	10. 語用論 1 : 言語とコミュニケーション	3. 統語論 2 : 格と一致	11. 語用論 2 : 関連性	4. 統語論 3 : 統語構造	12. 心理言語学 1 : 言語産出	5. 統語論 4 : 統語現象	13. 心理言語学 2 : 言語理解	6. 意味論 1 : 意味の意味	14. 心理言語学 3 : 言語獲得	7. 意味論 2 : 意味関係	15. まとめと筆記試験	8. 意味論 3 : テンス、アスペクト、モダリティー	
1. ガイダンス	9. 意味論 4 : 情報構造																				
2. 統語論 1 : 語順	10. 語用論 1 : 言語とコミュニケーション																				
3. 統語論 2 : 格と一致	11. 語用論 2 : 関連性																				
4. 統語論 3 : 統語構造	12. 心理言語学 1 : 言語産出																				
5. 統語論 4 : 統語現象	13. 心理言語学 2 : 言語理解																				
6. 意味論 1 : 意味の意味	14. 心理言語学 3 : 言語獲得																				
7. 意味論 2 : 意味関係	15. まとめと筆記試験																				
8. 意味論 3 : テンス、アスペクト、モダリティー																					
◇ 成績評価の方法	概ね次のような基準で総合的に評価を決定します。 筆記試験60%、ミニット・ペーパー20%、レポート20%																				
◇ 教科書・参考書	教科書小泉政利（編著）『ここから始める言語学プラス統計分析』共立出版																				
◇ 授業時間外学習	毎回、授業の予習と復習をこまめに行うこと。成績評価方法欄の「ミニット・ペーパー」には授業時間外に行う課題も含まれます。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																								
現 代 言 語 学 基 礎 講 読 Modern Linguistics (Introductory Reading)	2	教授 後 藤 齊	4	火	2																								
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN208J																												
◆ 授業題目	社会言語学																												
◆ 目的・概要	「地球語としての英語」と言われることもあるが、単一の英語が世界中で使われているというような単純な話ではない。実際、World Englishes、Global Englishesなどと複数形を使って捉えることもよくある。この授業では、専門の文献を読むことにより、現代における英語の使用に関する社会言語学的事実とその把握のしかたについて触れる。あわせて、論の進め方や言語学の他の分野との関連などにも注意を払うようにし、専門的な英語の文章からの確に論旨を読みとるための主体的な読解力を高めることもこの授業の大きな目的である。																												
◆ 到達目標	英語で書かれた専門文献の読解に慣れるとともに、言語の社会的側面の一端について理解を深める。																												
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 講読</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>2. 講読</td> <td>10. 講読</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>3. 講読</td> <td>11. 講読</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>4. 講読</td> <td>12. 講読</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>5. 講読</td> <td>13. 講読</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>6. 講読</td> <td>14. 講読</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>7. 講読</td> <td>15. 全体のまとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 講読</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 講読	8	2. 講読	10. 講読	9	3. 講読	11. 講読	10	4. 講読	12. 講読	11	5. 講読	13. 講読	12	6. 講読	14. 講読	13	7. 講読	15. 全体のまとめ		8. 講読		
1. ガイダンス	9. 講読	8																											
2. 講読	10. 講読	9																											
3. 講読	11. 講読	10																											
4. 講読	12. 講読	11																											
5. 講読	13. 講読	12																											
6. 講読	14. 講読	13																											
7. 講読	15. 全体のまとめ																												
8. 講読																													
◇ 成績評価の方法	授業への参加60%、レポート40%																												
◇ 教科書・参考書	資料を配布する。																												
◇ 授業時間外学習	積極的に授業に参加できるように、下調べをして来ること。																												
その他：																													

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
音 声 学 P h o n e t i c s	2	教授 後 藤 齊	3	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN211J																				
◆ 授業題目	音声学概説・調音音声学																				
◆ 目的・概要	音声は言語の基本的な側面である。この授業では、言語音の生成の原理と個別の音声の調音のしくみについて講義形式で扱う。あわせて国際音声記号のうちの主要な単音の発音の訓練も大きな比重を占めており、できるだけ時間をかけて発音の練習を行う。この際に、担当教員の肉声以外に多様な音声サンプルに触れるようにする。																				
◆ 到達目標	調音音声学の原理についての理論的な理解および国際音声記号の実際的な知識を得ることによって、音声言語（特に日本語）の客観的な観察と記述に習熟する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス、言語における音声の位置づけ</td> <td>9. 子音体系、破裂音、鼻音</td> </tr> <tr> <td>2. 音声器官の構造と働き</td> <td>10. 摩擦音</td> </tr> <tr> <td>3. 国際音声記号と音声記述の原理</td> <td>11. その他の肺臓気流子音</td> </tr> <tr> <td>4. 母音体系、第一次基本母音</td> <td>12. 非肺臓気流子音</td> </tr> <tr> <td>5. 第二次基本母音</td> <td>13. 子音のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6. 基本母音の調音</td> <td>14. 超分節音</td> </tr> <tr> <td>7. 基本母音のまとめ</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. その他の母音と補助符号</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス、言語における音声の位置づけ	9. 子音体系、破裂音、鼻音	2. 音声器官の構造と働き	10. 摩擦音	3. 国際音声記号と音声記述の原理	11. その他の肺臓気流子音	4. 母音体系、第一次基本母音	12. 非肺臓気流子音	5. 第二次基本母音	13. 子音のまとめ	6. 基本母音の調音	14. 超分節音	7. 基本母音のまとめ	15. 全体のまとめ	8. その他の母音と補助符号	
1. ガイダンス、言語における音声の位置づけ	9. 子音体系、破裂音、鼻音																				
2. 音声器官の構造と働き	10. 摩擦音																				
3. 国際音声記号と音声記述の原理	11. その他の肺臓気流子音																				
4. 母音体系、第一次基本母音	12. 非肺臓気流子音																				
5. 第二次基本母音	13. 子音のまとめ																				
6. 基本母音の調音	14. 超分節音																				
7. 基本母音のまとめ	15. 全体のまとめ																				
8. その他の母音と補助符号																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加40%、小テスト60%																				
◇ 教科書・参考書	教科書：斎藤純男『日本語音声学入門』（三省堂、2006） 参考書は http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/phonetics.html に記載してある。																				
◇ 授業時間外学習	授業中の発音練習に倣って、自分でも練習すること。主要な音声記号が間違わずに書けるように練習すること。																				
その他：発音練習の時間をできるだけ確保するために、受講者数を30名程度に制限する。言語学および隣接分野の専修の学生を優先する。発音練習の際は手鏡を持参すること。 http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/phonetics.html も参照すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
音 声 学 P h o n e t i c s	2	教授 後藤 齊	4	水	4
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN211J				
◆ 授業題目	音響音声学				
◆ 目的・概要	音声は物理現象でもあるから、言語音を客観的に観察し、理解するためには音声の音響的分析はきわめて有効な手法である。この授業では、音声の物理的性質についての講義ののち、音声分析装置（パソコン）を用いた音声の取得と分析の実習を行う。基本母音と日本語の音声を用いて、波形およびスペクトログラム、フォルマント等の分析結果の読み取りを行う。その結果を、すでに知っている調音音声学の事実および聴き取りと比較してみる。内容として理科系的な要素が強いが、この授業では複雑な数式は使わない。				
◆ 到達目標	言語音の物理的側面の基礎を理解し、音声分析の手法に慣れることにより、言語音を客観的に観察する技術を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス、音の物理 純音の周波数と高さ アナログとデジタル、サンプリング周波数と量子化ビット数 パソコンにおける音声の取り扱いと音声分析装置 複合音とスペクトル 音源フィルター理論 母音のスペクトログラムとフォルマント 母音のスペクトログラムとフォルマント（調音音声学的事実との比較） 広帯域と狭帯域のスペクトログラム 子音の波形とスペクトログラム 子音の波形とスペクトログラム（続き） フォルマント遷移 連続音声の波形とスペクトログラム、フォルマント 連続音声の波形とスペクトログラム、フォルマント（続き） 全体のまとめ 				
◇ 成績評価の方法	授業への参加40%、実習レポート60% 授業期間中に3回の実習レポートを提出してもらう。レポートの書き方は指示に従うこと。				
◇ 教科書・参考書	教科書：吉田友敬『言語聴覚士の音響学入門』（海文堂、2006） 参考書は http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/acoustics.html に記載。				
◇ 授業時間外学習	授業には慣れない用語や概念が頻出するので、理解を確かなものにするため十分な復習をすること。レポートには十分な時間をかけること。				
その他：調音音声学の基礎を習得済みであることが望ましい。 http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/acoustics.html も参照すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
現 代 言 語 学 各 論 Modern Linguistics (Special Lecture)	2	非常勤講師 傍 士 元	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN303J				
◆ 授業題目	言語機能学入門				
◆ 目的・概要	人間として生まれたものは、深刻な障害のある場合をのぞき、誰でもその言語環境で話される言語音声/サインと意味とを結びつける能力を持つにいたる。その能力の根幹をなしている（と仮定されている）のが言語機能（language faculty）である。言語機能をその研究対象とし、その対象に関する仮説から厳密な予測を導出し、その予測を実験によって検証するという、科学に於いて最も基本的な方法を用いてその理解に迫ろうとするのが、厳密科学としての言語機能学である。厳密科学としての言語機能学における、仮説、実験、そして、実験結果の解釈とはどうあるべきかを、具体的な例を用いて、そして、学生一人一人が実験に参加し、実験結果を吟味することを通して学ぶ。				
◆ 到達目標	言語機能の研究が厳密科学になりうるという主張の概念的基盤と実験によるその経験的基盤について学ぶ。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 「こそあ」について日本語話者は何を知っているか 「こそあ」について日本語話者は何を、それを知っていると意識せずに、知っているか 「そ」対「あ」：連動読み 「そこ」、「そいつ」、「あそこ」、「あいつ」の単数を指す性質 「そ」対「あ」：同一指示 言語機能と言語機能学の概観、フィンマンの方法論 言語機能学に於けるデータ・証拠 チョムスキーの言語機能のComputational Systemのモデルと上山の被験者のjudgment-makingのモデル 普遍的仮説と個別言語に関する仮説、メイン仮説とサブ仮説、言語機能学に於ける予測 言語機能学に於ける実験：デザインと結果、メイン実験とサブ実験 頭の中に作られる抽象的な構造関係 個別被験者に関する実験の結果の重要性、単独被験者の実験と複数被験者の実験との関係 オンライン実験の結果をどう読むか 復習：仮説、予測、実験結果 英語を扱った実験、他の言語に関する実験 将来への展望と夢 				
◇ 成績評価の方法	宿題・課題（80%）、授業への貢献（20%）				
◇ 教科書・参考書	教科書 特に指定しない 参考文献 ファインマン, R.P. 「カーゴ・カルト・サイエンス」 in ぐ冗談でしょう、フィンマンさん（下）（岩波書店）（pp. 288-306） フィンマン, R.P. 物理法則はいかにして発見されたか（岩波書店）（pp. 239-240） Hoji Hajime, 2016. Language Faculty Science, Cambridge University Press. (第一章の日本語版) 上山あゆみ2015. 統語意味論、名古屋大学出版会。(序章、終章)				
◇ 授業時間外学習	宿題・課題には、オンライン実験への参加と実験結果に関する課題（ http://www.gges.org/hojiCUP/ での結果を調べたり、その実験結果の解釈についての考察など）の二種類がある。				
授業開始前に、 http://www.gges.org/cgi-bin/epsa4-j/indexx-j.cgi を訪れ、オンライン実験への参加をしておくことが望ましい。					
その他：このサイトは2016年5月15日以降、本格的に使用可能となる。「依頼者」の欄には必ず「Tohoku2016」とすべて半角で、「Tohoku」と「2016」の間にスペースなしで、入力すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
現 代 言 語 学 各 論 Modern Linguistics (Special Lecture)	2	非常勤 講師 尾 谷 昌 則	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要 ◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法 ◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	LHMLIN303J 認知言語学の基礎と応用 認知言語学は、我々が外部世界をどのように概念化するのか（＝捉え方）が言語に反映されているという前提に立ち、様々な言語現象を研究・分析するプログラムである。本講義では、その特徴を理解するために様々な「捉え方」に関する基礎概念を紹介してゆく。さらに、それらの応用例として、具体的な研究事例もできるだけ多く紹介する。特に、ダイナミックに拡張している（しつづける）事例を取り上げる予定である。 (1)認知言語学の考え方と諸概念を理解する。 (2)認知言語学の諸概念を用いて日本語の語彙意味や構文の分析ができるようになる。	9. 意味ネットワーク3（動詞の多義性） 10. 構文文法1（Lakoff, Goldberg, Langackerの構文ネットワーク） 11. 構文文法2（動的用法基盤モデル、融合ネットワークモデル） 12. 構文文法3（類推ネットワークモデル、再分析） 13. 言語変化の事例分析1（「全然+不定」構文、テユウカ構文） 14. 言語変化の事例分析2（マヨラー構文、ヲ入れ構文、サ入れ構文） 15. まとめ			
◆ 成績評価の方法 ◆ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	レポート（80%）、小レポート（20%） 【教科書】プリントを配布する。 【参考書】以下の通り。 『新編 認知言語学キーワード事典』（辻幸夫編、2013年、研究社） 『講座 認知言語学のフロンティア1 音韻・形態のメカニズム』（上原聡・熊代文子著、2007年、研究社） 『講座 認知言語学のフロンティア2 構文ネットワークと文法』（尾谷昌則・二枝美津子著、2011年、研究社） 『講座 認知言語学のフロンティア3 概念化と意味の世界』（深田智・仲本康一郎著、2008年、研究社） 『講座 認知言語学のフロンティア4 言語運用のダイナミズム』（崎田智子・岡本雅史著、2010年、研究社） 『講座 認知言語学のフロンティア5 言語のタイポロジー』（堀江薫・ブラシャント・バルデシ著、2009年、研究社） 『講座 認知言語学のフロンティア6 言語習得と用法基盤モデル』（児玉一宏・野澤元著、2009年、研究社）				
◆ 授業時間外学習	授業の最後に、次回までに考えて（もしくは用例を採取して）おいてもらう小レポートを課すので、それに取り組んでほしい。				
その他：言語学の基礎的な知識があることを前提とするが、無くても受講は妨げない。具体例（例文）の意味・用法について考える時間を所々設けるので、直感的な意見でも構わないので、積極的に発言してほしい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
現 代 言 語 学 各 論 Modern Linguistics (Special Lecture)	2	非常勤 講師 遊 佐 典 昭	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要 ◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法 ◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	LHMLIN303J 生成文法と関連領域 I この講義では、認知科学としての生成文法とその関連領域を扱います。生成文法は細部の分析に目がいきがちですが、本講義では、生成文法の基本的な思考法に力点を置きながら、幅広いトピックを扱います。 生成文法理論について理解を深め、受講者の研究領域との関連を見いだせることを目標とする。	9. 母語獲得(2) 10. 母語獲得(3) 11. 母語獲得(4) 12. 母語獲得(5) 13. 母語獲得(6) 14. 母語獲得(7) 15. まとめ			
◆ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	講義への参加（課題を含む）40%、レポート60% 教科書 杉崎鉦司『はじめての言語獲得』岩波書店 Everaert et al. (2015) "Structures, not Strings: Linguistics as Part of Cognitive Science," Trends in Cognitive Sciences 19: 729-743. 参考書 Boeckx, C. (2012) Language in Cognition, Wiley_Blackwell. Chomsky, N. (1968/2006) Language and Mind, Cambridge University Press. Jackendoff, R. (1993) Patterns in the Mind, Basic Books. (Chapters 1 and 2) 藤田・福井・遊佐・池内（編）(2015)『言語の設計・発達・進化』開拓社 遊佐（編）(2010)『言語の可能性 第9巻言語と哲学・心理学』朝倉出版				
◇ 授業時間外学習	予習と復習（課題を含む）をしっかり行ってください。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 言 語 学 各 論 Modern Linguistics (Special Lecture)	2	非常勤 講師	遊 佐 典 昭	集 中 (6)																		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN303J																					
◆ 授業題目	生成文法と関連領域Ⅱ																					
◆ 目的・概要	生成文法に基づいた第二言語獲得研究を「普遍文法に基づく第二言語獲得研究」、あるいは、最近のことばを使えば「生物言語学としての第二言語獲得研究」と呼びます。第二言語獲得研究は、生成文法の進展や関連領域との連携により、従来とは異なった様相を呈しています。本講義では、このような観点から、第二言語獲得研究の可能性を探りたいと思います。																					
◆ 到達目標	生成文法理論について理解を深め、言語理論に基づいた、第二言語獲得研究が理解できることを目標とする。																					
◆ 授業内容・方法	<table> <tr> <td>1. 生成文法の基礎(1)</td> <td>9. 第二言語獲得と文処理研究(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 生成文法の基礎(2)</td> <td>10. 第二言語獲得と文処理研究(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 第二言語獲得研究の基礎(1)</td> <td>11. 第二言語獲得と脳科学(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 第二言語獲得研究の基礎(2)</td> <td>12. 第二言語獲得と脳科学(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 第二言語獲得の分析(1)</td> <td>13. 第二言語獲得と英語教育(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 第二言語獲得の分析(2)</td> <td>14. 第二言語獲得と英語教育(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 第二言語獲得の分析(3)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 第二言語獲得と文処理研究(1)</td> <td></td> </tr> </table>						1. 生成文法の基礎(1)	9. 第二言語獲得と文処理研究(2)	2. 生成文法の基礎(2)	10. 第二言語獲得と文処理研究(3)	3. 第二言語獲得研究の基礎(1)	11. 第二言語獲得と脳科学(1)	4. 第二言語獲得研究の基礎(2)	12. 第二言語獲得と脳科学(2)	5. 第二言語獲得の分析(1)	13. 第二言語獲得と英語教育(1)	6. 第二言語獲得の分析(2)	14. 第二言語獲得と英語教育(2)	7. 第二言語獲得の分析(3)	15. まとめ	8. 第二言語獲得と文処理研究(1)	
1. 生成文法の基礎(1)	9. 第二言語獲得と文処理研究(2)																					
2. 生成文法の基礎(2)	10. 第二言語獲得と文処理研究(3)																					
3. 第二言語獲得研究の基礎(1)	11. 第二言語獲得と脳科学(1)																					
4. 第二言語獲得研究の基礎(2)	12. 第二言語獲得と脳科学(2)																					
5. 第二言語獲得の分析(1)	13. 第二言語獲得と英語教育(1)																					
6. 第二言語獲得の分析(2)	14. 第二言語獲得と英語教育(2)																					
7. 第二言語獲得の分析(3)	15. まとめ																					
8. 第二言語獲得と文処理研究(1)																						
◇ 成績評価の方法	講義への参加（課題を含む）40%、レポート60%																					
◇ 教科書・参考書	開講時に指定します。																					
◇ 授業時間外学習	しっかりと予習・復習をしてください。																					
その他：この講義は、前期の講義で扱う、生成文法、母語獲得の基礎知識を前提としますので、受講希望者は連続して受講してください。																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
言 語 交 流 学 各 論 Interlinguistics (Special Lecture)	2	教授	後 藤 齊	5	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN304J																					
◆ 授業題目	言語研究におけるコンピュータ利用の基礎																					
◆ 目的・概要	以下の事項について講義を行い、さらに実習によりその知識を深め、関連した技術を習得する。 ・文字コード・文献検索（OPAC、文献データベース） ・言語研究情報の取得（WWW）																					
◆ 到達目標	コンピュータおよびインターネットを言語研究により効果的に利用する方法について、基本的な知識と技術を身につける。																					
◆ 授業内容・方法	<table> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 海外の図書館のOPAC</td> </tr> <tr> <td>2. Windowsの基礎</td> <td>10. 国立情報学研究所のデータベース</td> </tr> <tr> <td>3. ファイル</td> <td>11. 言語学関係の論文データベース</td> </tr> <tr> <td>4. 文字コード</td> <td>12. 言語学関係の論文データベース（続き）</td> </tr> <tr> <td>5. 文字コード（続き）</td> <td>13. 海外の論文データベース</td> </tr> <tr> <td>6. 東北大学附属図書館および大学図書館等のOPAC</td> <td>14. 言語研究情報の取得（WWW）、Google検索</td> </tr> <tr> <td>7. 国立国会図書館と公共図書館のOPAC</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 出版社系の書籍データベース</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス	9. 海外の図書館のOPAC	2. Windowsの基礎	10. 国立情報学研究所のデータベース	3. ファイル	11. 言語学関係の論文データベース	4. 文字コード	12. 言語学関係の論文データベース（続き）	5. 文字コード（続き）	13. 海外の論文データベース	6. 東北大学附属図書館および大学図書館等のOPAC	14. 言語研究情報の取得（WWW）、Google検索	7. 国立国会図書館と公共図書館のOPAC	15. 全体のまとめ	8. 出版社系の書籍データベース	
1. ガイダンス	9. 海外の図書館のOPAC																					
2. Windowsの基礎	10. 国立情報学研究所のデータベース																					
3. ファイル	11. 言語学関係の論文データベース																					
4. 文字コード	12. 言語学関係の論文データベース（続き）																					
5. 文字コード（続き）	13. 海外の論文データベース																					
6. 東北大学附属図書館および大学図書館等のOPAC	14. 言語研究情報の取得（WWW）、Google検索																					
7. 国立国会図書館と公共図書館のOPAC	15. 全体のまとめ																					
8. 出版社系の書籍データベース																						
◇ 成績評価の方法	授業への参加40%、レポート60%																					
◇ 教科書・参考書	資料を配布する。																					
◇ 授業時間外学習	紹介したサイトは実際にアクセスして、その詳細を体得すること。																					
その他： http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/bunkenkensaku.html も参照すること。																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
言 語 交 流 学 各 論 Interlinguistics (Special Lecture)	2	教授 後 藤 齊	6	月	4		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN304J						
◆ 授業題目	テキスト処理の基礎						
◆ 目的・概要	<p>主な対象言語を日本語とし、必要に応じて英語における事情も参照しながら、主として以下の事項について講義する。さらに実習により、その知識をより深め、また応用力を磨く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストアーカイブとコーパス ・正規表現 ・KWICコンコーダンサーと関連のツール ・オンラインコーパス検索 						
◆ 到達目標	コンピュータを用いてテキストを分析する方法について、基本的な知識と技術を身につける。						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 外国のテキストアーカイブ 3. 国内のテキストアーカイブ 4. 英語圏のコーパス概観 5. 日本語のコーパス概観 6. 正規表現 7. 正規表現 (続き) 8. 正規表現 (続き) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. 正規表現 (続き) 10. 英語用のコンコーダンサー 11. 英語用のコンコーダンサーと関連のツール 12. 日本語のコンコーダンサー 13. 日本語のコンコーダンサーと関連のツール 14. オンラインコーパス検索 15. 全体のまとめ </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 外国のテキストアーカイブ 3. 国内のテキストアーカイブ 4. 英語圏のコーパス概観 5. 日本語のコーパス概観 6. 正規表現 7. 正規表現 (続き) 8. 正規表現 (続き) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 正規表現 (続き) 10. 英語用のコンコーダンサー 11. 英語用のコンコーダンサーと関連のツール 12. 日本語のコンコーダンサー 13. 日本語のコンコーダンサーと関連のツール 14. オンラインコーパス検索 15. 全体のまとめ
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 外国のテキストアーカイブ 3. 国内のテキストアーカイブ 4. 英語圏のコーパス概観 5. 日本語のコーパス概観 6. 正規表現 7. 正規表現 (続き) 8. 正規表現 (続き) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 正規表現 (続き) 10. 英語用のコンコーダンサー 11. 英語用のコンコーダンサーと関連のツール 12. 日本語のコンコーダンサー 13. 日本語のコンコーダンサーと関連のツール 14. オンラインコーパス検索 15. 全体のまとめ 						
◇ 成績評価の方法	授業への参加40%、レポート60%						
◇ 教科書・参考書	参考書：大名力『言語研究のための正規表現によるコーパス検索』（ひつじ書房、2012） ほか、 http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/textprocessing.html に掲載。						
◇ 授業時間外学習	紹介したサイトやツールは自身の関心に応じてさらに使ってみて、その機能を体感すること。						
その他： http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/textprocessing.html も参照すること。							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
現 代 言 語 学 演 習 Modern Linguistics (Seminar)	2	教授 後 藤 齊 教授 小 泉 政 利	5	金	3		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN311J						
◆ 授業題目	言語学研究法						
◆ 目的・概要	<p>授業は、参加者の分担による論文紹介の発表および質疑応答の形式で行う。これにより、卒業論文作成のための基礎知識ならびに方法を身につけることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発表者は自分の関心により論文を選択し、発表のためのハンドアウトを事前に作成する。口頭発表および質疑をもとに、テーマの発見、調査や実験の実施、論の展開と提示、統計処理、参考文献の利用と提示など、論文を書くために必要な事項を学びとる。 2. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、言語学の多様なアプローチへの理解を深めるとともに、論文を書くための方法を学びとる。 						
◆ 到達目標	卒業論文のテーマを決定する。						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 発表1 3. 発表2 4. 発表3 5. 発表4 6. 発表5 7. 発表6 8. 発表7 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. 発表8 10. 発表9 11. 発表10 12. 発表11 13. 発表12 14. 発表13 15. 全体のまとめ </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 発表1 3. 発表2 4. 発表3 5. 発表4 6. 発表5 7. 発表6 8. 発表7 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 発表8 10. 発表9 11. 発表10 12. 発表11 13. 発表12 14. 発表13 15. 全体のまとめ
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 発表1 3. 発表2 4. 発表3 5. 発表4 6. 発表5 7. 発表6 8. 発表7 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 発表8 10. 発表9 11. 発表10 12. 発表11 13. 発表12 14. 発表13 15. 全体のまとめ 						
◇ 成績評価の方法	授業への参加60%、発表40%						
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。						
◇ 授業時間外学習	発表のためのハンドアウトを事前に準備すること。						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 言 語 学 演 習 Modern Linguistics (Seminar)	2	教授 教授	後 藤 齊 利 小 泉 政 利	6	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN311J																					
◆ 授業題目	言語学研究法																					
◆ 目的・概要	3年生は前期に引き続き論文紹介の発表を行い、4年生は卒業論文の構想を発表する。これにより、卒業論文作成のための知識ならびに方法をさらに深く身につけることを目的とする。 1. 卒業論文の構想発表においては、テーマの選択や先行研究の動向についてまとめ、データ収集・調査・実験等の実施方法、予想される結果などについて、できるだけ具体的な見通しを発表する。 2. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、言語学の多様なアプローチへの理解を深めるとともに、論文を書くための方法を学びとる。																					
◆ 到達目標	よりよい卒業論文を作成するための方法を身につける。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 発表8</td> </tr> <tr> <td>2. 発表1</td> <td>10. 発表9</td> </tr> <tr> <td>3. 発表2</td> <td>11. 発表10</td> </tr> <tr> <td>4. 発表3</td> <td>12. 発表11</td> </tr> <tr> <td>5. 発表4</td> <td>13. 発表12</td> </tr> <tr> <td>6. 発表5</td> <td>14. 発表13</td> </tr> <tr> <td>7. 発表6</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表7</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス	9. 発表8	2. 発表1	10. 発表9	3. 発表2	11. 発表10	4. 発表3	12. 発表11	5. 発表4	13. 発表12	6. 発表5	14. 発表13	7. 発表6	15. 全体のまとめ	8. 発表7	
1. ガイダンス	9. 発表8																					
2. 発表1	10. 発表9																					
3. 発表2	11. 発表10																					
4. 発表3	12. 発表11																					
5. 発表4	13. 発表12																					
6. 発表5	14. 発表13																					
7. 発表6	15. 全体のまとめ																					
8. 発表7																						
◇ 成績評価の方法	授業への参加60%、発表40%																					
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。																					
◇ 授業時間外学習	発表のためのハンドアウトを事前に準備し、配布する。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
言 語 交 流 学 演 習 Interlinguistics (Seminar)	2	教授	後 藤 齊	5	金	2																		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN312J																							
◆ 授業題目	コーパス言語学の概観																							
◆ 目的・概要	コーパス言語学の最新の概説書を分担して読みながら、コーパス言語学のさまざまな側面およびおよび言語研究全体の中での位置づけについての知識を得る。扱われている題材の多くは英語圏における事情であるが、授業の中では日本語への応用についても考えていく。																							
◆ 到達目標	コーパス言語学の全体像および言語研究全体の中でのコーパス言語学の位置づけに関する理解を深める。																							
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>10. 第6章 新Firth派コーパス言語学</td> </tr> <tr> <td>2. 第1章 コーパス言語学とは何か</td> <td>11. 第6章 新Firth派コーパス言語学（続き）</td> </tr> <tr> <td>3. 第1章 コーパス言語学とは何か（続き）</td> <td>12. 第7章 コーパス研究手法と機能主義言語学</td> </tr> <tr> <td>4. 第2章 コーパスデータの利用と分析</td> <td>13. 第8章 コーパス言語学、心理言語学、機能主義言語学の接近</td> </tr> <tr> <td>5. 第2章 コーパスデータの利用と分析（続き）</td> <td>14. 第9章 結論</td> </tr> <tr> <td>6. 第3章 ウェブの利用における法と倫理</td> <td>15. 全体のまとめと展望</td> </tr> <tr> <td>7. 第4章 英語コーパス言語学</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 第4章 英語コーパス言語学（続き）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 第5章 共時的・通時的多様性に対するコーパス準拠型研究</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス	10. 第6章 新Firth派コーパス言語学	2. 第1章 コーパス言語学とは何か	11. 第6章 新Firth派コーパス言語学（続き）	3. 第1章 コーパス言語学とは何か（続き）	12. 第7章 コーパス研究手法と機能主義言語学	4. 第2章 コーパスデータの利用と分析	13. 第8章 コーパス言語学、心理言語学、機能主義言語学の接近	5. 第2章 コーパスデータの利用と分析（続き）	14. 第9章 結論	6. 第3章 ウェブの利用における法と倫理	15. 全体のまとめと展望	7. 第4章 英語コーパス言語学		8. 第4章 英語コーパス言語学（続き）		9. 第5章 共時的・通時的多様性に対するコーパス準拠型研究	
1. ガイダンス	10. 第6章 新Firth派コーパス言語学																							
2. 第1章 コーパス言語学とは何か	11. 第6章 新Firth派コーパス言語学（続き）																							
3. 第1章 コーパス言語学とは何か（続き）	12. 第7章 コーパス研究手法と機能主義言語学																							
4. 第2章 コーパスデータの利用と分析	13. 第8章 コーパス言語学、心理言語学、機能主義言語学の接近																							
5. 第2章 コーパスデータの利用と分析（続き）	14. 第9章 結論																							
6. 第3章 ウェブの利用における法と倫理	15. 全体のまとめと展望																							
7. 第4章 英語コーパス言語学																								
8. 第4章 英語コーパス言語学（続き）																								
9. 第5章 共時的・通時的多様性に対するコーパス準拠型研究																								
◇ 成績評価の方法	授業への参加（60%）、レポート（40%）																							
◇ 教科書・参考書	トニー・マケナリー、アンドリュース・ハーディー著、石川慎一郎訳『概説コーパス言語学 手法・理論・実践』（ひつじ書房、2014）。																							
◇ 授業時間外学習	分担者は補足的な調査をしつつ本文の重要点をまとめ、分担者を含めた参加者は疑問箇所を挙げるために、下調べをしておくこと。																							
その他：																								

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
言 語 交 流 学 演 習 Interlinguistics (Seminar)	2	教授 後藤 齊	6	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN312J																				
◆ 授業題目	コーパス言語学の実践																				
◆ 目的・概要	日本語を含めて多くの言語で大規模な言語資料がコーパスとして整備されるようになってきており、そこからデータを検索することが容易になりつつある。しかし、言語構造あるいは言語運用のより深い理解につなげるために検索結果をどのように解釈すればよいかは、必ずしも自明ではない。この授業で取り上げる本は、豊富な実例と課題によりその手法を身につけさせようというものである。英語からの例であるが、手法自体は他の言語にも適用できる部分が多い。授業では、その中からいくつかを具体的に検討したい。																				
◆ 到達目標	コーパスからの検索結果を適切に解釈するための手法を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 実例と課題の検討8</td> </tr> <tr> <td>2. 実例と課題の検討1</td> <td>10. 実例と課題の検討9</td> </tr> <tr> <td>3. 実例と課題の検討2</td> <td>11. 実例と課題の検討10</td> </tr> <tr> <td>4. 実例と課題の検討3</td> <td>12. 実例と課題の検討11</td> </tr> <tr> <td>5. 実例と課題の検討4</td> <td>13. 実例と課題の検討12</td> </tr> <tr> <td>6. 実例と課題の検討5</td> <td>14. 実例と課題の検討13</td> </tr> <tr> <td>7. 実例と課題の検討6</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 実例と課題の検討7</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 実例と課題の検討8	2. 実例と課題の検討1	10. 実例と課題の検討9	3. 実例と課題の検討2	11. 実例と課題の検討10	4. 実例と課題の検討3	12. 実例と課題の検討11	5. 実例と課題の検討4	13. 実例と課題の検討12	6. 実例と課題の検討5	14. 実例と課題の検討13	7. 実例と課題の検討6	15. 全体のまとめ	8. 実例と課題の検討7	
1. ガイダンス	9. 実例と課題の検討8																				
2. 実例と課題の検討1	10. 実例と課題の検討9																				
3. 実例と課題の検討2	11. 実例と課題の検討10																				
4. 実例と課題の検討3	12. 実例と課題の検討11																				
5. 実例と課題の検討4	13. 実例と課題の検討12																				
6. 実例と課題の検討5	14. 実例と課題の検討13																				
7. 実例と課題の検討6	15. 全体のまとめ																				
8. 実例と課題の検討7																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加 (60%)、レポート (40%)																				
◇ 教科書・参考書	Wendy Anderson and John Corbett, Exploring English with online corpora. Basingstoke: Palgrave-Macmillan, 2009.																				
◇ 授業時間外学習	実例と課題については条件を少し変えるとどうなるか、等を考えてみること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
言 語 交 流 学 演 習 Interlinguistics (Seminar)	2	教授 小泉 政利	5	水	4																		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN312J																						
◆ 授業題目	実験言語学 I																						
◆ 目的・概要	人間の言語能力の解明をめざす研究のなかでも、とくに実験データを重視するアプローチを「実験言語学」という。この授業では、文の理解と産出についての研究事例を検討することを通じて、実験言語学の目的や方法論などについて学ぶ。																						
◆ 到達目標	言語を理解したり産出したりする際の心内処理メカニズムの概要が自分なりに説明できるようになる。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 動詞句内主語仮説</td> </tr> <tr> <td>実験言語学とは</td> <td>10. 脳の構造と機能</td> </tr> <tr> <td>2. 語順と文処理負荷(1): 文法関係、意味役割、格助詞</td> <td>11. 語順処理の神経基盤</td> </tr> <tr> <td>3. 語順と文処理負荷(2): 文法関係と格関係</td> <td>12. 文処理負荷に影響を与える主たる要因</td> </tr> <tr> <td>4. 文脈と語順</td> <td>13. 文法処理と作業記憶</td> </tr> <tr> <td>5. 付加詞の語順</td> <td>14. 数量詞と名詞</td> </tr> <tr> <td>6. 二重目的語構文</td> <td>15. 役割語</td> </tr> <tr> <td>7. 痕跡の心理的実在性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. カートグラフィー</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 動詞句内主語仮説	実験言語学とは	10. 脳の構造と機能	2. 語順と文処理負荷(1): 文法関係、意味役割、格助詞	11. 語順処理の神経基盤	3. 語順と文処理負荷(2): 文法関係と格関係	12. 文処理負荷に影響を与える主たる要因	4. 文脈と語順	13. 文法処理と作業記憶	5. 付加詞の語順	14. 数量詞と名詞	6. 二重目的語構文	15. 役割語	7. 痕跡の心理的実在性		8. カートグラフィー	
1. ガイダンス	9. 動詞句内主語仮説																						
実験言語学とは	10. 脳の構造と機能																						
2. 語順と文処理負荷(1): 文法関係、意味役割、格助詞	11. 語順処理の神経基盤																						
3. 語順と文処理負荷(2): 文法関係と格関係	12. 文処理負荷に影響を与える主たる要因																						
4. 文脈と語順	13. 文法処理と作業記憶																						
5. 付加詞の語順	14. 数量詞と名詞																						
6. 二重目的語構文	15. 役割語																						
7. 痕跡の心理的実在性																							
8. カートグラフィー																							
◇ 成績評価の方法	概ね下記の目安で、総合的に評価します。																						
◇ 教科書・参考書	予習課題40%、授業中の貢献 (ミニット・ペーパーを含む) 40%、レポート20%																						
◇ 授業時間外学習	参考書小泉政利 (編著) 『ここから始める言語学と統計分析』 共立出版 毎回、授業の前に予習課題に取り組むこと。																						
その他：受講者のみなさんが「大変だけど一生懸命やると楽しい」と感じられる授業を目指しています。																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
言 語 交 流 学 演 習 Interlinguistics (Seminar)	2	教授 小 泉 政 利	6	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN312J																				
◆ 授業題目	実験言語学Ⅱ																				
◆ 目的・概要	この授業では、受講者がグループで、実際に実験計画を立て、実験を実施し、データを分析して、レポートを書くことを通じて、実験言語学のノウハウについて学びます。																				
◆ 到達目標	卒業論文や修士論文のための実験言語学の研究が自分でできるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 研究計画発表2</td> </tr> <tr> <td>2. 統計分析1</td> <td>10. 研究計画発表3</td> </tr> <tr> <td>3. 統計分析2</td> <td>11. 中間報告1</td> </tr> <tr> <td>4. 統計分析3</td> <td>12. 中間報告2</td> </tr> <tr> <td>5. 先行研究検討1</td> <td>13. 成果発表1</td> </tr> <tr> <td>6. 先行研究検討2</td> <td>14. 成果発表2</td> </tr> <tr> <td>7. 先行研究検討3</td> <td>15. 成果発表3</td> </tr> <tr> <td>8. 研究計画発表1</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 研究計画発表2	2. 統計分析1	10. 研究計画発表3	3. 統計分析2	11. 中間報告1	4. 統計分析3	12. 中間報告2	5. 先行研究検討1	13. 成果発表1	6. 先行研究検討2	14. 成果発表2	7. 先行研究検討3	15. 成果発表3	8. 研究計画発表1	
1. ガイダンス	9. 研究計画発表2																				
2. 統計分析1	10. 研究計画発表3																				
3. 統計分析2	11. 中間報告1																				
4. 統計分析3	12. 中間報告2																				
5. 先行研究検討1	13. 成果発表1																				
6. 先行研究検討2	14. 成果発表2																				
7. 先行研究検討3	15. 成果発表3																				
8. 研究計画発表1																					
◇ 成績評価の方法	概ね下記を目安で、総合的に評価します。 先行研究発表25%、研究計画立案25%、実験実施・結果分析25%、レポート25%																				
◇ 教科書・参考書	参考書小泉政利（編著）『ここから始める言語学と統計分析』共立出版																				
◇ 授業時間外学習	毎回、授業の前に予習課題に取り組むこと。																				
その他：受講者のみなさんが「大変だけど一生懸命やると楽しい」と感じられる授業を目指しています。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
国 語 学 概 論 Japanese Linguistics (General Lecture)	2	准教授 大 木 一 夫	3	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN203J																				
◆ 授業題目	日本語の歴史・言語の変化																				
◆ 目的・概要	言語は変化する。これは言語がもつ本質的な性質である。そして、その変化の結果、古代の日本語が現在の日本語になったのである。それでは、日本語はどのようにうつりかわってきたのか。古代語から現代語まで変化してきた日本語の歴史の概要を把握する。また、同時に言語の歴史をとらえる方法を把握する。																				
◆ 到達目標	(1)日本語の歴史について、その流れを略述し、重要事項が説明できるようになる。 (2)言語の歴史をとらえる方法について、説明できるようになる。 (3)日本語の歴史および日本語史の方法に関する問題点を見出し、それを説明することができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 言語は変化する</td> <td>9. 日本語音韻史補遺</td> </tr> <tr> <td>2. 日本語史の資料</td> <td>10. 日本語文法史(1) 古代語文法体系</td> </tr> <tr> <td>3. 日本語の文字とその歴史</td> <td>11. 日本語文法史(2) 古代語文法の変容</td> </tr> <tr> <td>4. 日本語表記史(1) 古代の表記</td> <td>12. 日本語文法史(3) 近代語の文法体系へ</td> </tr> <tr> <td>5. 日本語表記史(2) 近代的表記へ</td> <td>13. 日本語語彙史</td> </tr> <tr> <td>6. 日本語音韻史(1) 古代語音韻体系</td> <td>14. 試験</td> </tr> <tr> <td>7. 日本語音韻史(2) 古代語音韻の変容</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 日本語音韻史(3) 近代語の音韻体系へ</td> <td></td> </tr> </table>					1. 言語は変化する	9. 日本語音韻史補遺	2. 日本語史の資料	10. 日本語文法史(1) 古代語文法体系	3. 日本語の文字とその歴史	11. 日本語文法史(2) 古代語文法の変容	4. 日本語表記史(1) 古代の表記	12. 日本語文法史(3) 近代語の文法体系へ	5. 日本語表記史(2) 近代的表記へ	13. 日本語語彙史	6. 日本語音韻史(1) 古代語音韻体系	14. 試験	7. 日本語音韻史(2) 古代語音韻の変容	15. まとめ	8. 日本語音韻史(3) 近代語の音韻体系へ	
1. 言語は変化する	9. 日本語音韻史補遺																				
2. 日本語史の資料	10. 日本語文法史(1) 古代語文法体系																				
3. 日本語の文字とその歴史	11. 日本語文法史(2) 古代語文法の変容																				
4. 日本語表記史(1) 古代の表記	12. 日本語文法史(3) 近代語の文法体系へ																				
5. 日本語表記史(2) 近代的表記へ	13. 日本語語彙史																				
6. 日本語音韻史(1) 古代語音韻体系	14. 試験																				
7. 日本語音韻史(2) 古代語音韻の変容	15. まとめ																				
8. 日本語音韻史(3) 近代語の音韻体系へ																					
◇ 成績評価の方法	上記の「到達目標」に即して、筆記試験およびいくつかの講義内の小課題で総合的に評価する。詳細は開講時に示す。																				
◇ 教科書・参考書	テキスト：大木一夫『ガイドブック日本語史』（ひつじ書房）、他に必要に応じてコピーを配布する。参考文献は講義内で随時示す。																				
◇ 授業時間外学習	テキストの指定範囲を読み、十分理解して参加する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
国 語 学 概 論 Japanese Linguistics (General Lecture)	2	教授 小 林 隆	4	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN203J																				
◆ 授業題目	方言研究																				
◆ 目的・概要	方言は身近な存在だけに、研究の対象にはならないと思っている人が多い。しかし、方言は国語学の研究分野のひとつとして位置づけられている。そもそも方言とは何なのか、それを研究するにはいかなる方法があるのか、あるいは、実際に日本語の方言はどのようになっているのか、そういった問題をこの授業では取り上げる。「方言と方言学」「方言の音韻・アクセント・語彙・文法」「方言の分類」「現代の方言」などの基本的な内容のほか、方言の運用的側面や歴史的側面をテーマとすることもある。																				
◆ 到達目標	(1)方言に対する関心を高め研究対象として理解できるようにする。 (2)方言研究について概括的な知識を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 1. 方言研究への導き</td> <td>9. 5. 方言の文法(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 2. 方言の音韻(1)</td> <td>10. 6. 方言の表現法(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 2. 方言の音韻(2)</td> <td>11. 6. 方言の表現法(2)</td> </tr> <tr> <td>4. 3. 方言のアクセント(1)</td> <td>12. 7. 方言の歴史と現在(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 3. 方言のアクセント(2)</td> <td>13. 7. 方言の歴史と現在(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 4. 方言の語彙(1)</td> <td>14. 7. 方言の歴史と現在(3)</td> </tr> <tr> <td>7. 4. 方言の語彙(2)</td> <td>15. 8. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 5. 方言の文法(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 1. 方言研究への導き	9. 5. 方言の文法(2)	2. 2. 方言の音韻(1)	10. 6. 方言の表現法(1)	3. 2. 方言の音韻(2)	11. 6. 方言の表現法(2)	4. 3. 方言のアクセント(1)	12. 7. 方言の歴史と現在(1)	5. 3. 方言のアクセント(2)	13. 7. 方言の歴史と現在(2)	6. 4. 方言の語彙(1)	14. 7. 方言の歴史と現在(3)	7. 4. 方言の語彙(2)	15. 8. 授業のまとめ	8. 5. 方言の文法(1)	
1. 1. 方言研究への導き	9. 5. 方言の文法(2)																				
2. 2. 方言の音韻(1)	10. 6. 方言の表現法(1)																				
3. 2. 方言の音韻(2)	11. 6. 方言の表現法(2)																				
4. 3. 方言のアクセント(1)	12. 7. 方言の歴史と現在(1)																				
5. 3. 方言のアクセント(2)	13. 7. 方言の歴史と現在(2)																				
6. 4. 方言の語彙(1)	14. 7. 方言の歴史と現在(3)																				
7. 4. 方言の語彙(2)	15. 8. 授業のまとめ																				
8. 5. 方言の文法(1)																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験（80%）・出席（20%）																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は適宜教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	日ごろ、自分および自分の周囲の人々の方言について観察することで、授業の内容について体験的・具体的に理解するように努める。																				
その他：オフィスアワー：随時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 語 学 概 論 Modern Japanese (General Lecture)	2	准教授 甲 田 直 美	3	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN204J																				
◆ 授業題目	日本語学概論																				
◆ 目的・概要	日本語学の諸領域と言語の分析を構成する概念について解説する。講義は以下の順序で進める。 I. 人間の言語の特徴 II. ことばと理解 III. 構造主義と音声・音韻、音声と言語 IV. 言語単位 V. レトリックと言語																				
◆ 到達目標	(1)国語学・日本語学における諸研究とその背景を理解する。 (2)文構造の研究が言語使用者の知識や認識と対応している様相を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 言語研究の基礎概念</td> <td>9. 日本語の音声</td> </tr> <tr> <td>2. 日本語の特色</td> <td>10. 語と文、そして文章</td> </tr> <tr> <td>3. 記号と言語</td> <td>11. 文法論1</td> </tr> <tr> <td>4. ことばと認識</td> <td>12. 文法論2</td> </tr> <tr> <td>5. カテゴリー認識と言語</td> <td>13. 文章論1</td> </tr> <tr> <td>6. 構造言語学と意味論</td> <td>14. 文章論2</td> </tr> <tr> <td>7. 意味論の進展</td> <td>15. 研究テーマの設定の仕方と研究方法</td> </tr> <tr> <td>8. 「体系」をめぐる概念</td> <td></td> </tr> </table>					1. 言語研究の基礎概念	9. 日本語の音声	2. 日本語の特色	10. 語と文、そして文章	3. 記号と言語	11. 文法論1	4. ことばと認識	12. 文法論2	5. カテゴリー認識と言語	13. 文章論1	6. 構造言語学と意味論	14. 文章論2	7. 意味論の進展	15. 研究テーマの設定の仕方と研究方法	8. 「体系」をめぐる概念	
1. 言語研究の基礎概念	9. 日本語の音声																				
2. 日本語の特色	10. 語と文、そして文章																				
3. 記号と言語	11. 文法論1																				
4. ことばと認識	12. 文法論2																				
5. カテゴリー認識と言語	13. 文章論1																				
6. 構造言語学と意味論	14. 文章論2																				
7. 意味論の進展	15. 研究テーマの設定の仕方と研究方法																				
8. 「体系」をめぐる概念																					
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [60%]・() レポート [%]・(○) 出席 [10%] (○) その他 (具体的には、提出物) [30%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	各テーマごとに小レポートを課し、各課の理解を確認する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 語 学 概 論 Modern Japanese (General Lecture)	2	教授 齋 藤 倫 明	4	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN204J																				
◆ 授業題目	現代日本語の語彙と語彙論																				
◆ 目的・概要	現代日本語の語彙を、大きく量的側面と質的側面の2側面から考察することを通して、その具体的様相を明らかにする。また、そのことを通して、日本語学の中の語彙論の考え方や分析手法についての理解を深める。																				
◆ 到達目標	1. 語彙とは何か、語彙論とは何かについて理解する。 2. 現代日本語の様々な語彙的事象について理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス (講義の概要や進め方についての説明)。</td> <td>9. 「語彙の分類」のうちの「出自による分類」について講述。</td> </tr> <tr> <td>2. 「語彙」と「語彙論」について講述。</td> <td>10. 「出自による分類」のうちの「語種とは何か」について説明する。</td> </tr> <tr> <td>3. 「語彙の量的側面」のうちの「語彙調査」について講述。</td> <td>11. 「出自による分類」のうちの「現代語における語種の意義」について説明する。</td> </tr> <tr> <td>4. 「語彙の量的側面」のうちの「語彙の統計的性格」について講述。</td> <td>12. 「語彙の分類」のうちの「語構成による分類」について講述。</td> </tr> <tr> <td>5. 「語彙の量的側面」のうちの「基本語彙と基礎語彙」について講述。</td> <td>13. 「語彙の位相」について講述。</td> </tr> <tr> <td>6. 「語彙の質的側面」のうちの「語彙の分類」について講述。</td> <td>14. 「語彙の位相」のうちの「位相の種類」について説明する。</td> </tr> <tr> <td>7. 「語彙の分類」のうちの「意味による分類」について講述。特に「シソーラス」について説明する。</td> <td>15. 講義のまとめと試験。</td> </tr> <tr> <td>8. 「意味による分類」のうちの「意味関係による分類」について説明する。</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス (講義の概要や進め方についての説明)。	9. 「語彙の分類」のうちの「出自による分類」について講述。	2. 「語彙」と「語彙論」について講述。	10. 「出自による分類」のうちの「語種とは何か」について説明する。	3. 「語彙の量的側面」のうちの「語彙調査」について講述。	11. 「出自による分類」のうちの「現代語における語種の意義」について説明する。	4. 「語彙の量的側面」のうちの「語彙の統計的性格」について講述。	12. 「語彙の分類」のうちの「語構成による分類」について講述。	5. 「語彙の量的側面」のうちの「基本語彙と基礎語彙」について講述。	13. 「語彙の位相」について講述。	6. 「語彙の質的側面」のうちの「語彙の分類」について講述。	14. 「語彙の位相」のうちの「位相の種類」について説明する。	7. 「語彙の分類」のうちの「意味による分類」について講述。特に「シソーラス」について説明する。	15. 講義のまとめと試験。	8. 「意味による分類」のうちの「意味関係による分類」について説明する。	
1. ガイダンス (講義の概要や進め方についての説明)。	9. 「語彙の分類」のうちの「出自による分類」について講述。																				
2. 「語彙」と「語彙論」について講述。	10. 「出自による分類」のうちの「語種とは何か」について説明する。																				
3. 「語彙の量的側面」のうちの「語彙調査」について講述。	11. 「出自による分類」のうちの「現代語における語種の意義」について説明する。																				
4. 「語彙の量的側面」のうちの「語彙の統計的性格」について講述。	12. 「語彙の分類」のうちの「語構成による分類」について講述。																				
5. 「語彙の量的側面」のうちの「基本語彙と基礎語彙」について講述。	13. 「語彙の位相」について講述。																				
6. 「語彙の質的側面」のうちの「語彙の分類」について講述。	14. 「語彙の位相」のうちの「位相の種類」について説明する。																				
7. 「語彙の分類」のうちの「意味による分類」について講述。特に「シソーラス」について説明する。	15. 講義のまとめと試験。																				
8. 「意味による分類」のうちの「意味関係による分類」について説明する。																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験 [70%]・出席 [20%]・その他 [10%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は講義中に適宜指示する。																				
◇ 授業時間外学習	事前に、前回自分が提出したコメントペーパーについて確認し自分なりにある程度調べておく。また各回において配布したプリント類の内容について復習しておく。																				
その他：毎回、コメントペーパーを配るので、質問・要望等があれば、それに記入すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 語 学 基 礎 講 読 Japanese Linguistics (Introductory Reading)	2	教授 齋 藤 倫 明	3	水	5
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN212J				
◆ 授業題目	近代(明治期)の文語文講読				
◆ 目的・概要	近代(明治期)の文語文を講読する。具体的には、大槻文彦の『広日本文典別記』(明治30年刊)の「序論」を読む。同論の具体的な内容は、大槻による日本語研究史の略述なので、講読を通して、近代文語文に慣れ内容を正確に把握できるようにするとともに、日本語学史の概要についても理解することを目指す。				
◆ 到達目標	1. 近代文語文を正確に読めるようにする。 2. 日本語学史の概要を理解する。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス。大槻文彦の人と業績。および、日本語学史上の位置づけなどについて講述する。 2. 第一回目の講読。 3. 第二回目の講読。 4. 第三回目の講読。 5. 第四回目の講読。 6. 第五回目の講読。 7. 第六回目の講読。 8. 第七回目の講読。 9. 第八回目の講読。 10. 第九回目の講読。 11. 第十回目の講読。 12. 第十一回目の講読。 13. 第十二回目の講読。 14. 第十三回目の講読。 15. まとめ。				
◇ 成績評価の方法	レポート(60%)、授業への取り組み方(20%)、出席(20%)				
◇ 教科書・参考書	特に使用しない。必要があれば適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	授業に臨むに当たっては、前回分を復習の上、次回分を読んで下調べしておくこと。				
その他：国語学専修に所属する学生は必ず履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 語 学 基 礎 講 読 Japanese Linguistics (Introductory Reading)	2	准教授 大 木 一 夫	4	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN212J				
◆ 授業題目	古典語講読				
◆ 目的・概要	日本語学の基礎として、古典作品を読み、理解する手続きを学ぶ。また、そこにみられる日本語史上の問題について検討を加える。参加者は日本語史上の問題について調査・考察をおこない報告する。報告にあたっては、文献の調査・発表資料の作成など事前の準備が必要となる。作品は『源氏物語』。				
◆ 到達目標	(1)古典語の文献資料を読むことができるようになる。とくに、変体仮名を読むことができるようになる。 (2)文献による日本語史研究の手続きを理解し、それにしたがって調査をおこなうことができるようになる。 (3)調査にもとづき報告し、議論をおこなうことができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 2. 古典語と古典作品、『源氏物語』 3. 『源氏物語』を読む(1) 4. 『源氏物語』を読む(2) 5. 『源氏物語』と日本語史的分析(1) 6. 『源氏物語』と日本語史的分析(2) 7. 『源氏物語』と日本語史的分析(3) 8. 『源氏物語』と日本語史的分析(4) 9. 『源氏物語』と日本語史的分析(5) 10. 『源氏物語』と日本語史的分析(6) 11. 『源氏物語』と日本語史的分析(7) 12. 『源氏物語』と日本語史的分析(8) 13. 『源氏物語』と日本語史的分析(9) 14. 『源氏物語』と日本語史的分析(10) 15. 『源氏物語』と日本語史的分析(11)・まとめ				
◇ 成績評価の方法	参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。				
◇ 教科書・参考書	テキスト：『初音』(新典社)。 参考文献は講義内で随時示す。				
◇ 授業時間外学習	テキストの指定範囲を読んで参加する。日本語史的分析のための調査をおこなう。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
国 語 学 各 論 Japanese Linguistics (Special Lecture)	2	准教授 大 木 一 夫	5	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN305J																				
◆ 授業題目	日本語文法研究																				
◆ 目的・概要	日本語を文法論的に論じたテキストを読み、その内容について議論しながら、文法的な分析を試みる。テキストを精確に読解すること、また、具体的な例文にもとづきながら文法的に考えることを重視する。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。																				
◆ 到達目標	(1)日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。 (2)日本語文法研究の考え方・立場について理解し、それを説明することができるようになる。 (3)文法論的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width:50%;">9. 文法論的分析(7)</td> </tr> <tr> <td>2. 文法論の立場と方法</td> <td>10. 文法論的分析(8)</td> </tr> <tr> <td>3. 文法論的分析(1)</td> <td>11. 文法論的分析(9)</td> </tr> <tr> <td>4. 文法論的分析(2)</td> <td>12. 文法論的分析(10)</td> </tr> <tr> <td>5. 文法論的分析(3)</td> <td>13. 文法論的分析(11)</td> </tr> <tr> <td>6. 文法論的分析(4)</td> <td>14. 文法論的分析(12)</td> </tr> <tr> <td>7. 文法論的分析(5)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 文法論的分析(6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 文法論的分析(7)	2. 文法論の立場と方法	10. 文法論的分析(8)	3. 文法論的分析(1)	11. 文法論的分析(9)	4. 文法論的分析(2)	12. 文法論的分析(10)	5. 文法論的分析(3)	13. 文法論的分析(11)	6. 文法論的分析(4)	14. 文法論的分析(12)	7. 文法論的分析(5)	15. まとめ	8. 文法論的分析(6)	
1. ガイダンス	9. 文法論的分析(7)																				
2. 文法論の立場と方法	10. 文法論的分析(8)																				
3. 文法論的分析(1)	11. 文法論的分析(9)																				
4. 文法論的分析(2)	12. 文法論的分析(10)																				
5. 文法論的分析(3)	13. 文法論的分析(11)																				
6. 文法論的分析(4)	14. 文法論的分析(12)																				
7. 文法論的分析(5)	15. まとめ																				
8. 文法論的分析(6)																					
◇ 成績評価の方法	参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。																				
◇ 教科書・参考書	必要なテキストはコピーして配布する。 参考文献は講義内で随時示す。																				
◇ 授業時間外学習	テキストを読み、疑問点をまとめて参加する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
国 語 学 各 論 Japanese Linguistics (Special Lecture)	2	教授 小 林 隆	6	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN305J																				
◆ 授業題目	方言学的日本語史研究																				
◆ 目的・概要	これまでの国語史研究には、文献資料のみに頼り、しかも、中央語史に偏るといった問題点があった。方言学的日本語史は、方言を視野に入れることによって、ことばの位相や地理的広がりの面で、従来の国語史の限界を超えることをめざす。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な歴史の記述を通してさまざまな課題について検討していく。今回は特に、これまで研究が進んでいなかった言葉の運用面を取り上げることにしたい。																				
◆ 到達目標	方言を視野に入れた日本語史研究について理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. 1. 授業への導入</td> <td style="width:50%;">9. 6. 言語行動(1)</td> </tr> <tr> <td>2. 2. 目的・方法・資料</td> <td>10. 6. 言語行動(2)</td> </tr> <tr> <td>3. 3. オノマトベ(1)</td> <td>11. 7. 談話展開(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 3. オノマトベ(2)</td> <td>12. 7. 談話展開(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 4. 感動詞(1)</td> <td>13. 8. 言語的発想法(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 4. 感動詞(2)</td> <td>14. 8. 言語的発想法(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 5. 挨拶表現(1)</td> <td>15. 9. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 5. 挨拶表現(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 1. 授業への導入	9. 6. 言語行動(1)	2. 2. 目的・方法・資料	10. 6. 言語行動(2)	3. 3. オノマトベ(1)	11. 7. 談話展開(1)	4. 3. オノマトベ(2)	12. 7. 談話展開(2)	5. 4. 感動詞(1)	13. 8. 言語的発想法(1)	6. 4. 感動詞(2)	14. 8. 言語的発想法(2)	7. 5. 挨拶表現(1)	15. 9. まとめ	8. 5. 挨拶表現(2)	
1. 1. 授業への導入	9. 6. 言語行動(1)																				
2. 2. 目的・方法・資料	10. 6. 言語行動(2)																				
3. 3. オノマトベ(1)	11. 7. 談話展開(1)																				
4. 3. オノマトベ(2)	12. 7. 談話展開(2)																				
5. 4. 感動詞(1)	13. 8. 言語的発想法(1)																				
6. 4. 感動詞(2)	14. 8. 言語的発想法(2)																				
7. 5. 挨拶表現(1)	15. 9. まとめ																				
8. 5. 挨拶表現(2)																					
◇ 成績評価の方法	レポート (80%)・出席 (20%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、補助資料を配布する。 参考文献は、小林隆・澤村美幸『ものの言いかた西東』(岩波新書)のほか、授業時に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	言葉の運用面の地域差について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。																				
その他：オフィスアワー：随時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 語 学 各 論 Japanese Linguistics (Special Lecture)	2	非常勤 講師 高 梨 克 也	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMLIN305J 会話コミュニケーション分析 ・言語コミュニケーションの最も基本的な形態である「会話」を対象として、そこで見られる典型的な現象について、そのメカニズムを理論的に理解するとともに、実際のデータの中からこの現象を発見し、分析できるようになることを目的とする。 ・「トピック」となる各会話現象について2～3回の授業を通じて扱う。各トピックについての学習は、1. 取り上げる現象についての「概説」(講師)、2. 会話データを用いてこの現象を分析する「ワーク」(各受講生)、3. 実習を通じて発見した点や疑問点を議論する「ディスカッション」(グループ・全体)、の順で進めていく。				
◆ 到達目標	(1)言語コミュニケーションの最も基本的な形態である「会話」において、どのような現象が観察されるかを理解し、それぞれのメカニズムを説明できる。 (2)実際の会話データ(書き起こしテキストや音声・ビデオ)の中から各会話現象の生起箇所を特定し、適切に分析できる。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション：この授業で取り上げるテーマの全体像、授業の進め方 2. トピック1：「行為のための言語使用」という考え方(教科書第2章)、ワーク 3. トピック1のグループディスカッション・全体討論 4. トピック2：会話の骨格としての隣接ペアと発話連鎖(教科書第2章) 5. トピック2のワーク 6. トピック2のグループディスカッション・全体討論 7. トピック3：順番交替とターン構成単位(教科書第1章) 8. トピック3のワーク 9. トピック3のグループディスカッション・全体討論 10. トピック4：基盤化と聞き手行動(教科書第3章)、ワーク 11. トピック4のグループディスカッション・全体討論 12. トピック5：多人数会話と参与役割(教科書5&6章に対応) 13. トピック5のワーク 14. トピック5のグループディスカッション・全体討論 15. これまでの授業の振り返り、レポート課題の発表と書き方の説明				
◇ 成績評価の方法	平常点評価重視(授業中のワーク・ディスカッションへの取り組みと課題提出)：70点 補助的にレポートを課す：30点				
◇ 教科書・参考書	○教科書『基礎からわかる会話コミュニケーションの分析法』(高梨克也、ナカニシヤ出版、近刊) ※ISBN-13: 978-4779510267 ○参考書『多人数インタラクションの分析手法』(坊農真弓・高梨克也編著、オーム社、2009) ※ISBNコード：4274207323、ISBN-13: 978-4274207327 『会話分析基本論集—順番交替と修復の組織』(H. サックス、E. A. シェグロフ、G. ジェファソン、西阪仰社、世界思想社、2010) ※ISBNコード：4790715019、ISBN-13: 978-4790715016				
◇ 授業時間外学習	集中講義であるため、課題は基本的にすべて授業時間内に行う予定である。				
その他：他の受講生に迷惑をかける行為だけは絶対に厳禁、悪質な場合、退出を求めることもある。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
現 代 日 本 語 学 各 論 Modern Japanese (Special Lecture)	2	教授 齋 藤 倫 明	5	月	4
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMLIN306J 「連語」とその問題点 「語」と「文」とは、基本的な言語単位として一般に認められているが、両者の間にも立場によって様々な言語単位が設定されている。そこで、本講義では、(1)従来、そういった言語単位としてどのようなものが設定されているのか、(2)なぜ様々な言語単位が設定されるのか、(3)本来、どういった言語単位を設定するのが望ましいのか、といった点について考察することを通し、最終的には、そもそも言語単位とは何か、といった点を明らかにすることを目指す。今年度は、そのための一環として教科研の「連語」という単位を取り上げ、その問題点について考察する。				
◆ 到達目標	1. 「言語単位」についての理解を深める。 2. 種々の具体的な文法論の言語単位とその考え方について理解する。 3. 「語」と「文」の間にある言語単位の考え方について理解する。 4. 「連語」という単位とその問題点について理解する。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス(講義の進め方、今年度の講義の位置づけ等)。 2. 「連語」とは何か 3. 「連語」の問題点について(その一)。 4. 「連語」の問題点について(その二)。 5. 「連語」の問題点について(その三)。 6. 「連語」の問題点について(その四)。 7. 「連語」の問題点について(その五)。 8. 「連語」の問題点について(その六)。 9. 「連語」の問題点について(その七)。 10. 「連語」の問題点について(その八)。 11. 「連語」の問題点をどのように解決するか(その一)。 12. 「連語」の問題点をどのように解決するか(その二)。 13. 「連語」の問題点をどのように解決するか(その三)。 14. 今後の発展と残された問題。 15. 「連語」とその問題点に関する総括。				
◇ 成績評価の方法	レポート [80%]・出席 [10%]・その他 [10%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。 参考書は講義中に適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	毎回コメントペーパーを配布するので、前回自分が提出したコメントペーパーの内容について自分なりにある程度下調べをして講義に望むようにする。				
その他：特になし。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
現 代 日 本 語 学 各 論 Modern Japanese (Special Lecture)	2	准教授 甲 田 直 美	5	月	3
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN306J				
◆ 授業題目	文章・談話の構造論				
◆ 目的・概要	文章・談話の構造は、どのようにして捉えることができるであろうか。研究手法としては、(1)文法論との接点から、談話・文章における結束性保持の手段を考える研究、(2)会話分析を中心とする実際に生じた会話の参与構造を扱う研究に大別できる。これらの研究について整理し、解説する。				
◆ 到達目標	(1)近年の研究で重要とされる理論を理解する。 (2)授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～ 2. 音声、イントネーション 資料：杉藤美代子「はずむ談話」 3. ターン交替、TCU 資料：「語り内において連鎖する節の音響特徴」 4. 分析データの記述法 資料：「息を吸うこと」の会話内での意味 5. 音声転記の方法 資料：ppt:思考・発話の発露 6. コーパス、言語のバリエーション 資料：ppt:コーパスの紹介 7. コンピューター実習 KWIC Finder, Praat, Audacity 8. 会話に頻繁に見られる現象1 9. 会話に頻繁に見られる現象2 10. 会話に頻繁に見られる現象3 11. 会話に頻繁に見られる現象4 12. 研究テーマの着眼点、レポートの書き方 13. 研究の進め方1 14. 研究の進め方2 15. レポートの書き方 				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [60%]・(○) 出席 [10%] (○) その他 (具体的には、授業中の提出物) [30%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。 参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	会話・対話・談話研究のための分析単位の実際をデータを元に観察する。音声言語コミュニケーションのための分析単位 IU の実際をデータと対照する。会話データを作成し、会話分析の手法を体験する。論文を読んで論点を提出する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
国 語 学 講 読 Japanese Linguistics (Reading)	2	准教授 大 木 一 夫	5	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN313J				
◆ 授業題目	中世語の研究				
◆ 目的・概要	古代日本語が近代日本語へ移り変わる過渡期にあるのが中世である。この時代の文献を読むことによって、中世日本語の諸相・日本語の変遷の諸相を分析する。資料は室町時代後期に布教のために来日したキリスト教宣教師が日本語・日本文化の学習のために編纂した文献のひとつである「平家物語」の口語訳(「天草版平家物語」)を中心とする。				
◆ 到達目標	(1)日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。 (2)日本語史上の問題点を見いだすことができるようになる。 (3)文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論をおこなうことができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 中世語概説・古辞書概説(1) 3. 古辞書概説(2) 4. 発表の方法 5. 担当範囲についての発表(1) 6. 担当範囲についての発表(2) 7. 担当範囲についての発表(3) 8. 担当範囲についての発表(4) 9. 担当範囲についての発表(5) 10. 担当範囲についての発表(6) 11. 担当範囲についての発表(7) 12. 担当範囲についての発表(8) 13. 担当範囲についての発表(9) 14. 担当範囲についての発表(10) 15. 担当範囲についての発表(11)・まとめ 				
◇ 成績評価の方法	参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。				
◇ 教科書・参考書	必要なテキストはコピーして配付する。参考文献は講義内で随時示す。				
◇ 授業時間外学習	日本語史研究にかかわる文献資料を読んで参加する。文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこなう。				
その他：	第6セメスターの「国語学講読」(文法形式成立史の研究)も連続して履修すること。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
国 語 学 講 読 Japanese Linguistics (Reading)	2	准教授 大 木 一 夫	6	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN313J																				
◆ 授業題目	文法形式成立史の研究																				
◆ 目的・概要	近代日本語には、古代日本語にない文法形式が発達する。たとえば、「～テイル」「～テモラウ」や「～コトガデキル」「～ハジメル」などは、古代日本語にないが、現代日本語では文法形式として積極的に使用されている。このような文法形式はいつごろ、どのように文法形式になったのか。もちろん、このことは述語形式にかぎったことではない。また、この問題は、近年文法史研究でよくとりあげられる「文法化」といった概念とも関係が深い議論である。近代日本語に成立した文法形式とりあげ、その成立過程や用法の展開などについて参加者が調査・考察をおこなって、その成果を発表し、議論する。																				
◆ 到達目標	(1)日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。 (2)日本語文法史上の問題点を見いだすことができるようになる。 (3)文献によって日本語文法史をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 文法形式成立史についての研究発表(4)</td> </tr> <tr> <td>2. 日本語文法史研究への視点(1)</td> <td>10. 文法形式成立史についての研究発表(5)</td> </tr> <tr> <td>3. 日本語文法史研究への視点(2)</td> <td>11. 文法形式成立史についての研究発表(6)</td> </tr> <tr> <td>4. 文法化研究の方法(1)</td> <td>12. 文法形式成立史についての研究発表(7)</td> </tr> <tr> <td>5. 文法化研究の方法(2)</td> <td>13. 文法形式成立史についての研究発表(8)</td> </tr> <tr> <td>6. 文法形式成立史についての研究発表(1)</td> <td>14. 文法形式成立史についての研究発表(9)</td> </tr> <tr> <td>7. 文法形式成立史についての研究発表(2)</td> <td>15. 文法形式成立史についての研究発表(10)・まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 文法形式成立史についての研究発表(3)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 文法形式成立史についての研究発表(4)	2. 日本語文法史研究への視点(1)	10. 文法形式成立史についての研究発表(5)	3. 日本語文法史研究への視点(2)	11. 文法形式成立史についての研究発表(6)	4. 文法化研究の方法(1)	12. 文法形式成立史についての研究発表(7)	5. 文法化研究の方法(2)	13. 文法形式成立史についての研究発表(8)	6. 文法形式成立史についての研究発表(1)	14. 文法形式成立史についての研究発表(9)	7. 文法形式成立史についての研究発表(2)	15. 文法形式成立史についての研究発表(10)・まとめ	8. 文法形式成立史についての研究発表(3)	
1. ガイダンス	9. 文法形式成立史についての研究発表(4)																				
2. 日本語文法史研究への視点(1)	10. 文法形式成立史についての研究発表(5)																				
3. 日本語文法史研究への視点(2)	11. 文法形式成立史についての研究発表(6)																				
4. 文法化研究の方法(1)	12. 文法形式成立史についての研究発表(7)																				
5. 文法化研究の方法(2)	13. 文法形式成立史についての研究発表(8)																				
6. 文法形式成立史についての研究発表(1)	14. 文法形式成立史についての研究発表(9)																				
7. 文法形式成立史についての研究発表(2)	15. 文法形式成立史についての研究発表(10)・まとめ																				
8. 文法形式成立史についての研究発表(3)																					
◇ 成績評価の方法	参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。																				
◇ 教科書・参考書	必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。																				
◇ 授業時間外学習	日本語史研究にかかわる文献資料を読んで参加する。 日本語文法史研究・文法化研究の方法について検討する。 近代日本語に成立した文法形式についての調査をおこなう。																				
その他：第5セメスターの「国語学講読」(中世語の研究)から連続して履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
国 語 学 演 習 Japanese Linguistics (Seminar)	2	教授 小 林 隆	5	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN314J																				
◆ 授業題目	方言調査法																				
◆ 目的・概要	方言のしくみや地理的広がりを把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。																				
◆ 到達目標	方言調査の方法を検討し、実際に調査を企画・実施する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明</td> <td>9. 調査票の作り方についての解説</td> </tr> <tr> <td>2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業</td> <td>10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法</td> </tr> <tr> <td>3. 方言的特徴の調べ方についての解説(1)</td> <td>11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方</td> </tr> <tr> <td>4. 方言的特徴の調べ方についての解説(2)</td> <td>12. 現地調査と結果の分析(1)</td> </tr> <tr> <td>5. テーマ等設定に向けての作業(1)</td> <td>13. 現地調査と結果の分析(2)</td> </tr> <tr> <td>6. テーマ等設定に向けての作業(2)</td> <td>14. 最終報告(1)</td> </tr> <tr> <td>7. 中間報告(1)</td> <td>15. 最終報告(2)、授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 中間報告(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明	9. 調査票の作り方についての解説	2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業	10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法	3. 方言的特徴の調べ方についての解説(1)	11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方	4. 方言的特徴の調べ方についての解説(2)	12. 現地調査と結果の分析(1)	5. テーマ等設定に向けての作業(1)	13. 現地調査と結果の分析(2)	6. テーマ等設定に向けての作業(2)	14. 最終報告(1)	7. 中間報告(1)	15. 最終報告(2)、授業のまとめ	8. 中間報告(2)	
1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明	9. 調査票の作り方についての解説																				
2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業	10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法																				
3. 方言的特徴の調べ方についての解説(1)	11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方																				
4. 方言的特徴の調べ方についての解説(2)	12. 現地調査と結果の分析(1)																				
5. テーマ等設定に向けての作業(1)	13. 現地調査と結果の分析(2)																				
6. テーマ等設定に向けての作業(2)	14. 最終報告(1)																				
7. 中間報告(1)	15. 最終報告(2)、授業のまとめ																				
8. 中間報告(2)																					
◇ 成績評価の方法	レポート (50%)・出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は適宜教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	①テーマの設定、中間報告、最終報告のための準備を行う。 ②現地調査に参加し、結果の分析を行う。																				
その他：オフィスアワー：随時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
現 代 日 本 語 学 講 読 Modern Japanese (Reading)	2	教授 齋藤倫明	6	水	5
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN315J				
◆ 授業題目	近世言語論講読				
◆ 目的・概要	近世言語論の大きな流れを形成した本居宣長とその学統を継ぐ一派（「八衢派」）の言語論を講読する。今年度は、そのうちの本居春庭（本居宣長の長子。1763～1828）の「詞の通路（ことばのかよいじ）」（1828年成）を読む。本書は、動詞の自他について体系的に言及した最初の文法書として知られているが、本講義では、活字本と東北大学図書館蔵本の版本とを対比させつつ、一字一句精確に読み解くとともに、春庭の所説を理解することを目指す。				
◆ 到達目標	1. テキストに書かれていることを精確に理解する。 2. 日本語学史上における近世言語論の特質を把握する。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス（講義の進め方、本居春庭と「詞の通路」についての概説等）。 2. 「詞の通路」の講読（その一）。 3. 「詞の通路」の講読（その二）。 4. 「詞の通路」の講読（その三）。 5. 「詞の通路」の講読（その四）。 6. 「詞の通路」の講読（その五）。 7. 「詞の通路」の講読（その六）。 8. 「詞の通路」の講読（その七）。 9. 「詞の通路」の講読（その八）。 10. 「詞の通路」の講読（その九）。 11. 「詞の通路」の講読（その十）。 12. 「詞の通路」の講読（その十一）。 13. 「詞の通路」の講読（その十二）。 14. 「詞の通路」の講読（その十三）。 15. 「詞の通路」講読の総括。				
◇ 成績評価の方法	レポート（60%）、授業への取り組み方（20%）、出席（20%）。				
◇ 教科書・参考書	特に使用しない。必要があれば適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	講義に臨むに当たっては、前回分を復習の上、次回分を読んで下調べしておくこと。				
その他：特になし。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
現 代 日 本 語 学 演 習 Modern Japanese (Seminar)	2	准教授 甲田直美	6	月	3
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN316J				
◆ 授業題目	文章・談話の構造				
◆ 目的・概要	これまでに共有・公開されている文章・談話のデータをもとに、文章・談話研究でのデータの採取の仕方とその分析方法について整理・検討する。以下の項目を、具体例の検証とともに押さえる。Ⅰ. データの種類とその扱い：分析の観点、ジャンル、レジスター、談話標識の研究、照応と省略、接続表現などの文法項目と適切性に関する項目の研究手法、参与構造、話者交替に関する項目の研究手法、Ⅱ. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法、Ⅲ. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方				
◆ 到達目標	(1)文章・談話研究のために必要な方法論を身につける。 (2)データの採取方法と採取したデータの分析方法を身につける。				
◆ 授業内容・方法	1. データの種類とその扱い：分析の観点 2. ジャンル、レジスター、スタイルと言語差 3. テキストにおけるジャンル差 4. コーパス研究1 5. コーパス研究2 6. 文章における諸現象1 7. 文章における諸現象2 8. 会話における諸現象 9. ドラマの構造分析1 10. ドラマの構造分析2 11. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法 12. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法 13. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法 14. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方 15. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [10%] (○) その他（具体的には、発表内容）[40%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	電子化データを検索し、鍵となる言語項目について分析する。論文を読んで、論点を把握し、批判的検討を行う。				
その他：受講希望者は日本語構造論特論Ⅱ「文章・談話の構造論」を履修しているのが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 概 論 Study of Contemporary Japan (General Lecture)	2	准教授 田 中 重 人	3	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN206J																				
◆ 授業題目	現代日本における家族																				
◆ 目的・概要	「家族」をめぐる問題は、さまざまな学問領域で研究対象となっています。この授業では、社会学を中心に、法学・経済学・人口学などにおける家族研究の成果を概観したうえで、現代日本社会における家族問題について考えます。トピックとしては、親族関係の分析、家族の形態と制度、結婚と離婚、出生と育児、ライフコースからみた家族、人口変動と家族などをとりあげます。授業においては、およそ2回に1回の割合で、これらのトピックに関連したテーマを設定して、授業時間内に作文を完成させる課題を課します。また法律や統計などの資料を探索・解釈する宿題を課したり、各自の役割分担にしたがって調べたことを互いに教えあう活動をすることもあります。																				
◆ 到達目標	(1)家族研究の基礎的な概念と理論を理解する (2)実証的データに基づいて現代日本における家族の現状を把握する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. ライフサイクルの変化、進捗確認課題</td> </tr> <tr> <td>2. 親族と家族</td> <td>10. 家族変動</td> </tr> <tr> <td>3. 家族の法：報告と討論(1)</td> <td>11. 家族の経済学(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 家族の法：報告と討論(2)</td> <td>12. 家族の経済学(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 家族の法：まとめ</td> <td>13. テーマ別レポート発表(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 法律情報の調べかた</td> <td>14. テーマ別レポート発表(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 人口学の考えかた</td> <td>15. 全体のまとめと講評</td> </tr> <tr> <td>8. 結婚と出生</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. ライフサイクルの変化、進捗確認課題	2. 親族と家族	10. 家族変動	3. 家族の法：報告と討論(1)	11. 家族の経済学(1)	4. 家族の法：報告と討論(2)	12. 家族の経済学(2)	5. 家族の法：まとめ	13. テーマ別レポート発表(1)	6. 法律情報の調べかた	14. テーマ別レポート発表(2)	7. 人口学の考えかた	15. 全体のまとめと講評	8. 結婚と出生	
1. イントロダクション	9. ライフサイクルの変化、進捗確認課題																				
2. 親族と家族	10. 家族変動																				
3. 家族の法：報告と討論(1)	11. 家族の経済学(1)																				
4. 家族の法：報告と討論(2)	12. 家族の経済学(2)																				
5. 家族の法：まとめ	13. テーマ別レポート発表(1)																				
6. 法律情報の調べかた	14. テーマ別レポート発表(2)																				
7. 人口学の考えかた	15. 全体のまとめと講評																				
8. 結婚と出生																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題（65%）、期末レポート（35%）を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】神原文子（ほか編）（2009）『よくわかる現代家族』ミネルヴァ書房。 【参考書】利谷信義（2010）『家族の法』（第3版）有斐閣。 藤見純子・西野理子（2009）『現代日本人の家族』有斐閣。 京極高宣・高橋重郷（2008）『日本の人口減少社会を読み解く』中央法規出版。 湯沢雍彦・宮本みち子（2008）『データで読む家族問題』（新版）日本放送出版協会。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題・宿題とレポート作成																				
その他：授業中の課題遂行のため、携帯用通信機器や電子辞書の持ち込みを推奨する。 授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 概 論 Study of Contemporary Japan (General Lecture)	2	准教授 田 中 重 人	4	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN206J																				
◆ 授業題目	現代日本における職業																				
◆ 目的・概要	職業・労働について、社会学を中心に、経済学・経営学・法学などにおけるとらえかたを概観したうえで、現代日本社会における問題について考えていきます。トピックとしては、労働統計の読みかた、雇用をめぐる法と政策、外部労働市場と内部労働市場、社会階層と社会移動、ジェンダーと労働などをとりあげます。授業においては、およそ2回に1回の割合で、これらのトピックに関連したテーマを設定して、授業時間内に作文を完成させる課題を課します。また、法律や統計などの資料を探索・解釈する宿題を課すこともあります。																				
◆ 到達目標	現代日本社会における職業と労働に関する諸問題を理解する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 社会階層と職業</td> </tr> <tr> <td>2. 労働統計(1) さまざまな働きかた</td> <td>10. 社会移動と職業・教育</td> </tr> <tr> <td>3. 労働統計(2) 賃金と労働時間</td> <td>11. ジェンダーと労働</td> </tr> <tr> <td>4. 雇用をめぐる法と政策(1)</td> <td>12. 社会的不平等と職業</td> </tr> <tr> <td>5. 雇用をめぐる法と政策(2)</td> <td>13. 課題再提出と進捗確認課題</td> </tr> <tr> <td>6. 外部労働市場と内部労働市場</td> <td>14. 課題返却と講評</td> </tr> <tr> <td>7. 企業の人事管理と労働者のキャリア</td> <td>15. 授業全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 前回までの復習と進捗確認課題</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 社会階層と職業	2. 労働統計(1) さまざまな働きかた	10. 社会移動と職業・教育	3. 労働統計(2) 賃金と労働時間	11. ジェンダーと労働	4. 雇用をめぐる法と政策(1)	12. 社会的不平等と職業	5. 雇用をめぐる法と政策(2)	13. 課題再提出と進捗確認課題	6. 外部労働市場と内部労働市場	14. 課題返却と講評	7. 企業の人事管理と労働者のキャリア	15. 授業全体のまとめ	8. 前回までの復習と進捗確認課題	
1. イントロダクション	9. 社会階層と職業																				
2. 労働統計(1) さまざまな働きかた	10. 社会移動と職業・教育																				
3. 労働統計(2) 賃金と労働時間	11. ジェンダーと労働																				
4. 雇用をめぐる法と政策(1)	12. 社会的不平等と職業																				
5. 雇用をめぐる法と政策(2)	13. 課題再提出と進捗確認課題																				
6. 外部労働市場と内部労働市場	14. 課題返却と講評																				
7. 企業の人事管理と労働者のキャリア	15. 授業全体のまとめ																				
8. 前回までの復習と進捗確認課題																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題によって評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【参考書】厚生労働省（2015）『知って役立つ労働法』。 労働政策研究・研修機構（2010）「特集：初学者に語る労働問題」『日本労働研究雑誌』597。 宮本太郎（2009）『生活保障』岩波書店。 犬塚先（編）（2003）『新しい産業社会学』（改訂版）有斐閣。 嵩さやか・田中重人（編）（2007）『雇用・社会保障とジェンダー』東北大学出版会。																				
◇ 授業時間外学習	各回の課題・宿題																				
その他：受講者は、3セメスタ開講の現代日本論概論「現代日本における家族」を履修しているか、それと同等の知識を習得済みであることが望ましい。授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 語 教 育 学 概 論 Teaching of Japanese Language (General Lecture)	2	教 授 才 田 い ず み	3	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN205J																				
◆ 授業題目	日本語と日本語教育																				
◆ 目的・概要	1) 日本語の音声・文法・文字等の言語要素について、その構造や体系を知る。 2) 日本語を学ぶ人々に対して、上記の情報をどう提示するかを考える。 3) 日本語教育の置かれた社会的状況についても学ぶ。																				
◆ 到達目標	日本語のしくみや特徴を再認識すると同時に日本語教育への理解を深める。 自らの日本語使用や日本語能力を振り返る。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業の進め方について 現代社会と日本語教育</td> <td>9. 用言の活用と学習者の習得：て形</td> </tr> <tr> <td>2. 日本語の音声：母音と子音</td> <td>10. 用言の活用と学習者の習得：形容詞</td> </tr> <tr> <td>3. 日本語の音声：異音と特殊拍</td> <td>11. 日本語の構文と初級の文型：指示詞</td> </tr> <tr> <td>4. 学習者の音声と音調</td> <td>12. 日本語の構文と初級の文型：助詞</td> </tr> <tr> <td>5. 日本語の文字と学習者の文字：仮名</td> <td>13. 日本語の構文と初級の文型：アスペクト</td> </tr> <tr> <td>6. 日本語の文字と学習者の文字：漢字</td> <td>14. 日本語の構文と初級・中級の文型：授受表現</td> </tr> <tr> <td>7. 日本語の表記と日本語教材の表記</td> <td>15. 日本語の構文と初級・中級の文型：受け身と使役 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 用言の活用と学習者の習得：動詞</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業の進め方について 現代社会と日本語教育	9. 用言の活用と学習者の習得：て形	2. 日本語の音声：母音と子音	10. 用言の活用と学習者の習得：形容詞	3. 日本語の音声：異音と特殊拍	11. 日本語の構文と初級の文型：指示詞	4. 学習者の音声と音調	12. 日本語の構文と初級の文型：助詞	5. 日本語の文字と学習者の文字：仮名	13. 日本語の構文と初級の文型：アスペクト	6. 日本語の文字と学習者の文字：漢字	14. 日本語の構文と初級・中級の文型：授受表現	7. 日本語の表記と日本語教材の表記	15. 日本語の構文と初級・中級の文型：受け身と使役 全体のまとめ	8. 用言の活用と学習者の習得：動詞	
1. 授業の進め方について 現代社会と日本語教育	9. 用言の活用と学習者の習得：て形																				
2. 日本語の音声：母音と子音	10. 用言の活用と学習者の習得：形容詞																				
3. 日本語の音声：異音と特殊拍	11. 日本語の構文と初級の文型：指示詞																				
4. 学習者の音声と音調	12. 日本語の構文と初級の文型：助詞																				
5. 日本語の文字と学習者の文字：仮名	13. 日本語の構文と初級の文型：アスペクト																				
6. 日本語の文字と学習者の文字：漢字	14. 日本語の構文と初級・中級の文型：授受表現																				
7. 日本語の表記と日本語教材の表記	15. 日本語の構文と初級・中級の文型：受け身と使役 全体のまとめ																				
8. 用言の活用と学習者の習得：動詞																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験 [70%]・平常点 (発言・クラス参加度・授業中の課題) [30%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：小林ミナ (2010) 『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法37』アルク。 佐藤武義編著 (1996) 『展望 現代の日本語』白帝社、ほか。																				
◇ 授業時間外学習	配布したプリントを見直すなどの復習をする。授業で扱った問題に関して、周囲の日本人の日本語使用を観察する。参考書を読む。																				
その他：3回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 語 教 育 学 概 論 Teaching of Japanese Language (General Lecture)	2	教 授 才 田 い ず み	4	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN205J																				
◆ 授業題目	日本語教育の基礎																				
◆ 目的・概要	1) 機能 (function) や概念 (notion) をはじめ、シラバスデザインに関わる基本要素について学ぶ。 2) 主要な外国語教授法について知る。 3) 学習者の日本語や授業のあり方など、日本語コースをめぐる諸要素の評価について知る。 4) 設定された課題について、グループで授業活動を組み立て、短い模擬授業を行う。																				
◆ 到達目標	日本語教育における学習と教育に関して、基礎的な知識を得る。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業の進め方 文法項目と機能</td> <td>9. 模擬授業の組み立て</td> </tr> <tr> <td>2. カリキュラムとシラバス</td> <td>10. 模擬授業の実践1</td> </tr> <tr> <td>3. シラバスデザイン</td> <td>11. 模擬授業の実践2</td> </tr> <tr> <td>4. コースデザインの基本</td> <td>12. 模擬授業の実践3</td> </tr> <tr> <td>5. 教授法の変遷とその背景</td> <td>13. 学習者へのフィードバック</td> </tr> <tr> <td>6. 教授法と関連する理論</td> <td>14. 教師の役割とコース評価</td> </tr> <tr> <td>7. 教授法と教室活動</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 特色ある教授法</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業の進め方 文法項目と機能	9. 模擬授業の組み立て	2. カリキュラムとシラバス	10. 模擬授業の実践1	3. シラバスデザイン	11. 模擬授業の実践2	4. コースデザインの基本	12. 模擬授業の実践3	5. 教授法の変遷とその背景	13. 学習者へのフィードバック	6. 教授法と関連する理論	14. 教師の役割とコース評価	7. 教授法と教室活動	15. 全体のまとめ	8. 特色ある教授法	
1. 授業の進め方 文法項目と機能	9. 模擬授業の組み立て																				
2. カリキュラムとシラバス	10. 模擬授業の実践1																				
3. シラバスデザイン	11. 模擬授業の実践2																				
4. コースデザインの基本	12. 模擬授業の実践3																				
5. 教授法の変遷とその背景	13. 学習者へのフィードバック																				
6. 教授法と関連する理論	14. 教師の役割とコース評価																				
7. 教授法と教室活動	15. 全体のまとめ																				
8. 特色ある教授法																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験 [40%]・レポート [30%]・平常点 (発言およびクラス参加度、授業課題) [30%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：小林ミナ (2010) 『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法37』アルク。 D.A.ウィルキンズ (1984) 『ノーショナルシラバス』桐原書店/オックスフォード。 川口義一・横溝紳一郎 (2005) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房。																				
◇ 授業時間外学習	授業時に配布したプリントを復習する。参考書を読む。模擬授業の実施については、グループメンバーと相談して案を練り、授業に必要なものを用意する。																				
その他：原則として3セメスターの日本語教育学概論「日本語と日本語教育」を受講済みであること。3回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 基 礎 講 読 Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)	2	教授 才 田 いずみ	3	月	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMLIN213J 外国語学習と習得 1) 応用言語学の分野の基本的な英文文献を読み、言語習得・外国語習得についての基本的な考え方や重要な研究成果を知る。 2) 外国語を学ぶことのメカニズムやそれに関係する諸要素についての知識を得るとともに、よりよい外国語学習のあり方についても考える力をつける。授業を進める方法については、初回授業で受講者と相談して決定するが、担当教員の提案は以下の通り。 ・教科書として提示した英文文献を1週または2週に1章のペースで読み進める。 ・毎回各章の内容を問うタスクシートを与えるので、受講者はそれに従って各自予習をする。 ・授業では小グループで予習結果を確認しつつ、教科書に掲載されている問題について考えたり、自分たちの抱いた疑問点について考えたりする。さらに、自らの外国語学習経験などと記載内容を照らし合わせながら、内容についてディスカッションを行い、理解を深める。 ・グループで話し合っても解決できない点があれば、教員に尋ねたりクラス全体で考えたりする。				
◆ 到達目標	1) 言語習得や言語教育の分野の研究に必要な概念や用語に親しむ。 2) 第一言語習得と第二言語習得の共通点、相違点を知る。 3) 学習者にとって外国語を学ぶという行為がどのようなものであるのかを知る。 4) 外国語学習の授業のあり方について自分の考えを明確化する。				
◆ 授業内容・方法	1. 授業のガイダンス 授業の進め方の決定、次週以降の担当の決定。 9. Chapter 5 の2回め 2. Chapter 1 の内容について話し合う。予習でよく理解できなかった点については相互に質問し合って確認する(以下、方法は同じ)。 10. Chapter 5 の3回め 3. Chapter 2 11. Chapter 6 4. Chapter 3 の前半 12. Chapter 7 の前半 5. Chapter 3 の後半 13. Chapter 7 の後半 6. Chapter 4 の前半 14. Chapter 8 7. Chapter 4 の後半 15. Conclusion とまとめ 全体を読んだ段階で、第二言語習得について理解したこと、疑問に思ったことなどについても話し合う。 8. Chapter 5 の1回め				
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]・出席 [10%]・「授業課題およびクラス貢献度」[40%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：Brown, Steven and Larson-Hall, Jenifer (2012) <i>Second Language Acquisition Myths: Applying second language research to classroom teaching</i> . Ann Arbor: The University of Michigan Press.				
◇ 授業時間外学習	毎回配布するタスクシートを用いながら、定められた範囲を予習する。授業進行の担当者となったときには、テキストの内容で皆がつかまざりそうな箇所について、関連文献を調べて説明できるようにしておく。				
その他：3回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
現 代 日 本 論 基 礎 講 読 Study of Contemporary Japan (Introductory Reading)	2	准教授 田 中 重 人	3	金	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMLIN214J 論文作成の基礎 大学での研究(たとえば授業での課題、レポート、卒業論文など)で要求される文章は、高等学校までの「作文」とは本質的にちがいます。研究の文章には、(1)データに基づいた論理的な推論を中心とする、(2)論理構造に沿った章立てや段落分けが重要である、(3)誤解をまねかないよう正確に書かなければならない、(4)先人の業績と自分の意見とを区別しなければならない、(5)そのために文献参照の規則がこまかく定められている、といった特徴があります。この授業では、これらのルールを学ぶと同時に、実際に論文を執筆し、受講者相互の批評をとおして執筆のプロセスを習得します。				
◆ 到達目標	大学での研究に必要な文章の書きかたを習得する				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 9. データを簡潔に表現する; 中間レポート提出 2. 論文の基本形 10. 科学的文体 3. パラグラフ 11. 書誌情報の利用 4. 文と文をつなぐ 12. 中間レポートの返却と講評; 期末レポートについて面談 5. 構文解析 13. 文献参照の種類と方法 6. 構想・立案・材料の準備 14. 公表文書の倫理 7. 草稿を読む 15. 全体のまとめ; 期末レポート執筆に向けて討論 8. 記号などの用法				
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題(40%)、中間レポート(20%)、期末レポート(40%)を合計して評価する。				
◇ 教科書・参考書	【教科書】木下是雄(1981)『理科系の作文技術』中央公論社。				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題とレポート作成				
その他：日本語教育学研究室で卒業論文を執筆するためには、論文の書きかたを習得していることが必要条件になるので、同研究室所属の学部生は必ず受講すること。授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
現 代 日 本 論 基 礎 講 読 Study of Contemporary Japan (Introductory Reading)	2	准教授 田 中 重 人	4	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN214J				
◆ 授業題目	研究法入門				
◆ 目的・概要	「研究」とは、答えるに値する問いをみつけ、その問いに対して根拠のはっきりとした答えを導くプロセスです。この授業では、各自の問題関心にしたがって、問いを設定し、それについて調べて答えを出すプロセスを実際に体験することにより、研究の方法を身につけることをめざします。書籍・雑誌・マスメディアなどからの資料収集と読解、情報整理とアイデア創出、発表と討論の技術のほか、書店や図書館などの施設の利用方法も学びます。				
◆ 到達目標	知的生産に必要な資料収集、読解、アイデア創出、論理的思考、批判、討論の技術を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「研究」とは何か 2. 卒業論文・修士論文について発表 3. 図書館見学実習 4. 研究テーマについて面談 5. 本を読む(1)：速読 6. 書店実習 7. 本を読む(2)：批判と議論 8. 本を読む(3)：精読 9. アイデアの創出 10. アイデアの交換 11. プロジェクトとしての研究 12. 議論を組み立てる 13. 期末レポートについて面談 14. 発表会 15. 口頭試問 				
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題（50%）、学期末に提出するレポートと口頭試問（50%：主要な評価項目は、意味のある問いをたてて根拠のある答えを導いているかと、その答えに対する批判的な姿勢を持っているか）				
◇ 教科書・参考書	【教科書】佐藤望ほか（2012）『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』（第2版）慶應義塾大学出版会。				
◇ 授業時間外学習	各回の課題のほか、各自のレポート作成のための研究活動をおこなう				
その他：受講人数や各種施設の利用期日などによって授業計画を変更する可能性があります。また、授業時間外に、個別面談やグループ活動をおこなうことがあります。授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 各 論 Teaching of Japanese Language (Special Lecture)	2	非常勤講師 呉 正 培	5	月	1
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN307J				
◆ 授業題目	ステレオタイプと異文化コミュニケーション				
◆ 目的・概要	ステレオタイプが抱えている問題点、ステレオタイプと異文化コミュニケーションとの関連性を正しく理解し、異文化理解にはどのような態度、能力、努力が求められるのかについて考えていく。教員と受講者間のやり取り、受講者間のグループワーク（意見交換）、教員による解説で進めていく。				
◆ 到達目標	ステレオタイプの様々な定義、社会心理学での一般的な捉え方、機能、ステレオタイプ化の問題点、ステレオタイプの形成・維持・変容のメカニズムについて説明できるようになる。また、疑似体験や受講者間のディスカッションを通して、真の異文化理解とはどのような状態を指すのか、どのような態度、能力、努力が求められるのかについての多様な視点を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンス 2. イントロダクション1（ステレオタイプとは） 3. イントロダクション2（異文化理解とは） 4. ステレオタイプの定義とステレオタイプ化の問題点 5. ステレオタイプの形成と維持 6. ステレオタイプの変容とステレオタイプ化の抑制 7. ステレオタイプと外国人イメージ 8. 韓国人の日本人イメージの実態と形成メカニズム 9. 日本人の韓国人イメージの実態と形成メカニズム 10. 日韓の接触場面で生じうるステレオタイプ化 11. 異文化エクササイズ 12. 異文化間のミス・コミュニケーション 13. 異文化理解に求められる能力・態度・努力 14. 日本語教育とステレオタイプ化の抑制 15. 総括 				
◇ 成績評価の方法	出席20%、平常点（発言、参加度）20%、筆記試験60%				
◇ 教科書・参考書	教科書は指定しない。適宜プリントを配布する。 参考書：上瀬由美子（2003）『ステレオタイプの社会心理学』サイエンス社				
◇ 授業時間外学習	毎回の配布資料を中心に学んだ内容についてしっかり復習し、理解を深めること。授業の冒頭で受講者とのやり取りを通して前回の学習内容を確認、平常点に反映する。				
その他：毎回グループを少し変えながら他の受講者と意見交換を行うため、ディスカッションに積極的に参加できる人の受講が望ましい。5回以上無断欠席した人には単位を付与しない。担当教員の連絡先：oh_jeongbae@shokei.ac.jp					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 各 論 Teaching of Japanese Language (Special Lecture)	2	非 常 勤 講 師 島 崎 薫	6	木	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要 ◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法 ◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	LHMLIN307J 学習者と社会 日本語学習者が日本語使用者としてどのように社会の中で活動しているのかを知り、実践研究や報告を参照しながら、日本語教師はどのように日本語学習者の日本語使用者としての社会での活動や学びを支援できるのかを考えます。 (1)日本語学習者が日本語使用者としてどのように教室の外で活動しているのかを知る (2)日本語学習者と社会に関する論文や実践報告などをクリティカルに読むことができる (3)学習者の日本語使用者としての社会での学びや活動を支援するプログラムデザインができるようになる (4)グループで協力しながらプログラムデザインを行うことができる 1. オリエンテーション、自己紹介 2. 理論的背景を学ぶ(社会文化アプローチ、状況論、リソースなど) 3. 日本語学習者の教室外での日本語使用を知る 4. 教室の中に社会を持ち込む① 5. 教室の中に社会を持ち込む② 6. 教室と社会を繋げる① 7. 教室と社会を繋げる② 8. 社会を教室にする① 9. 社会を教室にする② 10. 東北大学のサマープログラムの紹介/プログラムデザイン 11. グループでプログラムデザイン① 12. グループでプログラムデザイン② 13. デザインしたプログラムをグループごとに中間発表 14. 中間発表でのフィードバックを踏まえて最終発表に向けての準備 15. 受講生のデザインしたプログラム最終発表、まとめ 参加態度30%、プログラムデザイン(グループプロジェクト)40%、最終レポート30% 最初の授業で指示する インタビュー調査、論文購読、グループでのプログラムデザインなど				
その他：【問い合わせ先】グローバルラーニングセンター(教育学生総合支援センター西棟 3階) Tel：(022) 795-3749 Email: k.shimazaki@m.tohoku.ac.jp					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 各 論 Teaching of Japanese Language (Special Lecture)	2	非 常 勤 講 師 庵 功 雄	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要 ◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法 ◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	LHMLIN307J 日本語教育文法概論 日本語教育文法という考え方の沿革を知り、日本語教育における文法教育の位置づけについて考える。次に、学校型日本語教育と地域型日本語教育の関係から、「やさしい日本語」という理念について考える。さらに、現状の文法シラバスの問題点とその対策を考えることを通して、日本語教育の立場から現在の外国人を取り巻く社会状況(例えば「移民受け入れ」の可否)についてどのように考えるべきかについて考える。 日本語教育における「文法」が持っている性質について説明できるようにする。「やさしい日本語」という考え方について説明できるようにする。日本語教育が現実の社会問題とどのような関係性を持っているのかを説明できるようにする。 1. 日本語教育文法の沿革①: 国語学と日本語学、日本語教育と日本語学 2. 日本語教育文法の沿革②: 日本語教育文法の誕生、「日本語」と「ニホン語」 3. 日本語教育文法の内実①: 理解レベルと産出レベル、有標と無標、産出のための文法 4. 日本語教育文法の内実②: 類義表現の記述 5. 「やさしい日本語」をめぐって①: 定住外国人に対する情報提供 6. 「やさしい日本語」をめぐって②: 「やさしい日本語」の3つの側面(「居場所作りのための「やさしい日本語」) 7. 「やさしい日本語」をめぐって③: 外国にルーツを持つ子どもたちと日本語教育(「ハイパスとしての「やさしい日本語」) 8. 「やさしい日本語」をめぐって④: 日本語母語話者にとっての「やさしい日本語」、その他の展開 9. 文法シラバスの見直し①: 現行シラバスの問題点、コーパスの利用 10. 文法シラバスの見直し②: 新しい文法シラバス—初級— 11. 文法シラバスの見直し③: 新しい文法シラバス—中上級— 12. 社会とつながる日本語教育①: 「移民」受け入れをめぐる問題、日本語教育からの視点 13. 社会とつながる日本語教育②: 「子どもの貧困」をめぐる問題、日本語教育からの視点 14. 社会とつながる日本語教育③: 「多文化共生社会」をめぐる問題、今できることは何か 15. まとめ: 日本語教育にできること、日本語教育がやらなければならないこと 複数の授業ごとに小テストを行い、その合計点、および、出席などを総合して評価を行う。 教科書 庵功雄(2013)『日本語教育、日本語学の「次の手」』くろしお出版 参考文献 庵功雄(2002)『書評 白川博之「外国人のための実用日本語文法」』『一橋大学留学生センター紀要』5 庵功雄(2003)『「象は鼻が長い」入門—日本語学の父 三上章』くろしお出版 庵功雄(2007)『日本語研究叢書21 日本語におけるテキストの結束性の研究』くろしお出版 庵功雄(2009)『推量の「でしよう」に関する一考察—日本語教育文法の視点から—』『日本語教育』142 庵功雄(2011a)『日本語記述文法と日本語教育文法』森・庵編(2011)所収 庵功雄(2011b)『「100%を目指さない文法」の重要性』森・庵編(2011)所収 庵功雄(2012a)『新しい日本語学入門(第2版)』スリーエーネットワーク 庵功雄(2012b)『日本語教育文法の現状と課題』『一橋日本語教育研究』1、コ出版 庵功雄(2012c)『日本語「分野」日本語学』153 庵功雄(2013a)『「使役(態)」に言及せずに「使役表現」を教えるには—1つの「教授法」』『日本語/日本語教育研究』4、コ出版 庵功雄(2013b)『「の」の教え方に関する一試案』『言語文化』50、一橋大学 庵功雄(2014)『「やさしい日本語」研究の現状と今後の課題』『一橋日本語教育研究』2、コ出版 庵功雄(2015a)『日本語学的知見から見た初級シラバス』庵功雄・山内博之編『データに基づく文法シラバス』くろしお出版 庵功雄(2015b)『日本語学的知見から見た中級シラバス』庵功雄・山内博之編『データに基づく文法シラバス』くろしお出版 庵功雄(2015c)『新聞における原発関連語の使用頻度』名嶋義典・神田裕子編『311原発事故後の公共メディアの言説を考える』ひつじ書房 庵功雄(2015d)『産出の文法』に関する一考察 阿部二郎・庵功雄・佐藤琢三編『文法・談話研究と日本語教育の接点』くろしお出版 庵功雄(2015e)『「やさしい日本語」研究が日本語母語話者にとって持つ意義』『一橋大学国際教育センター紀要』6 庵功雄(2015f)『「やさしい日本語」研究の「これまで」と「これから」』庵編(2015)所収 庵功雄(2016印刷中b)『産出のための文法』から見た「は」と「が」』庵功雄・佐藤琢三・中俣尚己編『日本語文法研究のフロンティア』くろしお出版 庵功雄(2016予定)『やさしい日本語—多文化共生のこぼれ—』岩波新書 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘(2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘(2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク 庵功雄編(2015)『特集 「やさしい日本語」の研究動向と日本語教育の新展開』『ことばと文字』4、くろしお出版 庵功雄・イ・ヨンスク・森岡剛編(2013)『「やさしい日本語」研究は何を目指すか』コ出版 森岡剛・庵功雄編(2011)『日本語教育文法のための多様なアプローチ』ひつじ書房 予習として、教科書を予め通読しておくことを薦める。集中講義なので、できるだけ、参考文献に挙げた単行論文には事前に目を通してほしい。				
その他：メールアドレス：isaioiri@courante.plala.or.jp URL：http://www12.plala.or.jp/isaioiri/ メールで質問される場合は、件名に「東北大学での集中講義に関する質問」の文言を入れてください。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
日 本 語 教 育 学 各 論 Teaching of Japanese Language (Special Lecture)	2	非常勤 講師 神 吉 宇 一	集 中 (6)				
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN307J						
◆ 授業題目	現代社会と言語教育～日本語教育の社会的意味と役割						
◆ 目的・概要	グローバル化によって人の移動が活発化しており、またさまざまなテクノロジーの発達により言語教育を取り巻く環境に大きな変化が起きていることについて理解を深める。現代の社会における言語教育の意味や役割について、各自が理念を踏まえた上で具体的な方向性や方策を考え、意見交換を行う。テーマに関連する事柄や、具体的な事例に関して、体験的に学んだり、ワークショップを行ったりする。						
◆ 到達目標	現在の言語教育・日本語教育をとりまく社会的状況について理解する。言語教育・日本語教育の社会的意味と役割について意見交換を行うことができる。意見交換を通して、改めて言語教育・日本語教育の社会的意味と役割について自分なりの考えをまとめることができる。						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、アイスブレイキング 2. 社会の動きと言語教育・日本語教育(1) 3. 社会の動きと言語教育・日本語教育(2) 4. 社会の動きと言語教育・日本語教育(3) 5. 社会の動きと言語教育・日本語教育(4) 6. 日本語教育の新たな取り組み事例(1) 7. 日本語教育の新たな取り組み事例(2) 8. 日本語教育の現状と課題の分析(教科書指定箇所の発表とディスカッション)(1) 9. 日本語教育の現状と課題の分析(教科書指定箇所の発表とディスカッション)(2) </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> <ol style="list-style-type: none"> 10. 未来を創る日本語教育とは(ディスカッション、ワークショップ等)(1) 11. 未来を創る日本語教育とは(ディスカッション、ワークショップ等)(2) 12. 未来を創る日本語教育とは(ディスカッション、ワークショップ等)(3) 13. 未来を創る日本語教育とは(ディスカッション、ワークショップ等)(4) 14. 授業のまとめとふりかえり 15. ふりかえりに関するピアレスポンスと修正作業 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、アイスブレイキング 2. 社会の動きと言語教育・日本語教育(1) 3. 社会の動きと言語教育・日本語教育(2) 4. 社会の動きと言語教育・日本語教育(3) 5. 社会の動きと言語教育・日本語教育(4) 6. 日本語教育の新たな取り組み事例(1) 7. 日本語教育の新たな取り組み事例(2) 8. 日本語教育の現状と課題の分析(教科書指定箇所の発表とディスカッション)(1) 9. 日本語教育の現状と課題の分析(教科書指定箇所の発表とディスカッション)(2) 	<ol style="list-style-type: none"> 10. 未来を創る日本語教育とは(ディスカッション、ワークショップ等)(1) 11. 未来を創る日本語教育とは(ディスカッション、ワークショップ等)(2) 12. 未来を創る日本語教育とは(ディスカッション、ワークショップ等)(3) 13. 未来を創る日本語教育とは(ディスカッション、ワークショップ等)(4) 14. 授業のまとめとふりかえり 15. ふりかえりに関するピアレスポンスと修正作業
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、アイスブレイキング 2. 社会の動きと言語教育・日本語教育(1) 3. 社会の動きと言語教育・日本語教育(2) 4. 社会の動きと言語教育・日本語教育(3) 5. 社会の動きと言語教育・日本語教育(4) 6. 日本語教育の新たな取り組み事例(1) 7. 日本語教育の新たな取り組み事例(2) 8. 日本語教育の現状と課題の分析(教科書指定箇所の発表とディスカッション)(1) 9. 日本語教育の現状と課題の分析(教科書指定箇所の発表とディスカッション)(2) 	<ol style="list-style-type: none"> 10. 未来を創る日本語教育とは(ディスカッション、ワークショップ等)(1) 11. 未来を創る日本語教育とは(ディスカッション、ワークショップ等)(2) 12. 未来を創る日本語教育とは(ディスカッション、ワークショップ等)(3) 13. 未来を創る日本語教育とは(ディスカッション、ワークショップ等)(4) 14. 授業のまとめとふりかえり 15. ふりかえりに関するピアレスポンスと修正作業 						
◇ 成績評価の方法	毎回のふりかえりを蓄積し、最後にまとめてふりかえりを書いて提出することで課題レポートの代わりとする。試験は行わない。						
◇ 教科書・参考書	神吉宇一編(2015)『日本語教育 学的设计』凡人社 その他必要に応じて指示する						
◇ 授業時間外学習	毎回、その日の内容について、ふりかえりを書くことを課す。具体的には都度指示する。						
その他：適宜、意見交換、ディスカッション、ワークショップ等を行うので、積極的に議論ができる学生の履修を歓迎する。							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
日 本 語 教 育 学 演 習 Teaching of Japanese Language (Seminar)	2	教授 才 田 い ず み	5	火	4		
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN318J						
◆ 授業題目	音声と聴解の教育						
◆ 目的・概要	日本語学習者に対する音声教育は、音を聞き分ける力を養うことと分離しては有効な指導を行うことができない。この演習では、音声上の問題について生成と知覚の両面からアプローチする方法を検討する。聴解教育については、談話などの大きなまとまりの理解も射程に入れて、目的に応じた聞き取りができるようにする指導・支援を考える。授業においては、具体的な指導法を考えて模擬授業のように実践する活動や、市販の教材の利用法の検討、教材の作成とその利用など、グループや個人単位での発表活動が盛り込まれる。発表に対しては、他の受講者からの率直な評価や改善案の提示などのフィードバックが与えられるよう、各受講者には積極的な貢献が期待される。						
◆ 到達目標	日本語学習者に対する音声教育と聴解教育について、その考え方や方法を学び、基礎的な運用ができるようになる。						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 学習者の母語と日本語の音声 3. 聞き取りにくい音声の聞き分け 4. 聞き取りにくい音声とその発音 5. 特殊拍の指導1 6. 特殊拍の指導2 7. リズムと音調1 8. リズムと音調2 </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. トップダウンの聴解1：scanningとskimming 10. トップダウンの聴解2：文法知識の利用 11. トップダウンの聴解3：文脈の利用と積極的推測 12. 流暢さの獲得：模倣とシャドウイング 13. 活動の評価と工夫 14. 気づきと自己評価 15. まとめ </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 学習者の母語と日本語の音声 3. 聞き取りにくい音声の聞き分け 4. 聞き取りにくい音声とその発音 5. 特殊拍の指導1 6. 特殊拍の指導2 7. リズムと音調1 8. リズムと音調2 	<ol style="list-style-type: none"> 9. トップダウンの聴解1：scanningとskimming 10. トップダウンの聴解2：文法知識の利用 11. トップダウンの聴解3：文脈の利用と積極的推測 12. 流暢さの獲得：模倣とシャドウイング 13. 活動の評価と工夫 14. 気づきと自己評価 15. まとめ
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 学習者の母語と日本語の音声 3. 聞き取りにくい音声の聞き分け 4. 聞き取りにくい音声とその発音 5. 特殊拍の指導1 6. 特殊拍の指導2 7. リズムと音調1 8. リズムと音調2 	<ol style="list-style-type: none"> 9. トップダウンの聴解1：scanningとskimming 10. トップダウンの聴解2：文法知識の利用 11. トップダウンの聴解3：文脈の利用と積極的推測 12. 流暢さの獲得：模倣とシャドウイング 13. 活動の評価と工夫 14. 気づきと自己評価 15. まとめ 						
◇ 成績評価の方法	授業課題30%・レポート50%・発言ならびにクラス参加度とクラス貢献度20%						
◇ 教科書・参考書	参考書：Brown, Steven (2011) <i>Listening Myths</i> . Ann Arbor: The University of Michigan Press. Grant, Linda et. al. (2014) <i>Pronunciation Myths</i> . Ann Arbor: The University of Michigan Press. 松崎寛・河野俊之(1998)『よくわかる音声』アルク。 小河原義朗・河野俊之(2009)『日本語教師のための音声教育を考える本』アルク。ほか						
◇ 授業時間外学習	参考書を読む。与えられた課題を行う。						
特別な理由なく3回以上欠席した場合には単位を与えないので注意すること。 その他：授業内で多くの発表活動を行うが、発表に対しては他の受講者からの率直な評価や改善案の提示などのフィードバックが期待されている。各受講者には積極的に課題に取り組み、クラス全体の学習に貢献すること。							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 語 教 育 学 演 習 Teaching of Japanese Language (Seminar)	2	教授 才 田 いずみ	6	火	2																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMLIN318J 中間言語語用論と会話教育 語用論に関わる理論を概観した上で、中間言語語用論の研究を参照しながら、語用論的側面を意識した会話教育を実践するにはどうすればよいのか考え、会話教材を作成してみる。作成した教材案については、受講者全員で検討する。また、市販の会話教材についても、中間言語語用論の視点を取り入れて検討し、使用上注意すべき点や、改善すべき点があるかを考え、改善提案を行う。																				
◆ 到達目標	1) 語用論についての基本的な知識を得る。 2) 中間言語語用論について知る。 3) 会話教育について、教材の考え方や教育へのアプローチを知る。 4) 学習者の背景を考えながら、教材や学習方法を見ることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 教材化の工夫 2</td> </tr> <tr> <td>2. 語用論の基本理論 1</td> <td>10. 市販教材の検討 1</td> </tr> <tr> <td>3. 語用論の基本理論 2</td> <td>11. 市販教材の検討 2</td> </tr> <tr> <td>4. コミュニケーションと語用論</td> <td>12. 改善の提案 1</td> </tr> <tr> <td>5. 異文化間語用論</td> <td>13. 改善の提案 2</td> </tr> <tr> <td>6. 日本語学習者にとって注意すべき側面</td> <td>14. フィードバックの与え方</td> </tr> <tr> <td>7. よく扱われてきたポイントと看過されてきたポイント</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 教材化の工夫 1</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 教材化の工夫 2	2. 語用論の基本理論 1	10. 市販教材の検討 1	3. 語用論の基本理論 2	11. 市販教材の検討 2	4. コミュニケーションと語用論	12. 改善の提案 1	5. 異文化間語用論	13. 改善の提案 2	6. 日本語学習者にとって注意すべき側面	14. フィードバックの与え方	7. よく扱われてきたポイントと看過されてきたポイント	15. まとめ	8. 教材化の工夫 1	
1. イントロダクション	9. 教材化の工夫 2																				
2. 語用論の基本理論 1	10. 市販教材の検討 1																				
3. 語用論の基本理論 2	11. 市販教材の検討 2																				
4. コミュニケーションと語用論	12. 改善の提案 1																				
5. 異文化間語用論	13. 改善の提案 2																				
6. 日本語学習者にとって注意すべき側面	14. フィードバックの与え方																				
7. よく扱われてきたポイントと看過されてきたポイント	15. まとめ																				
8. 教材化の工夫 1																					
◇ 成績評価の方法	授業課題30%・レポート50%・クラス貢献度とクラス参加度20%																				
◇ 教科書・参考書	参考書：池上嘉彦・守屋三千代編著（2010）『自然な日本語を教えるために一認知言語学をふまえて』ひつじ書房。 新屋映子・姫野伴子・守屋三千代（1999）『日本語教科書の落とし穴』アルク。 清水崇文（2013）『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話一みかげ！コミュニケーションスキル』スリーエーネットワーク、ほか。																				
◇ 授業時間外学習	与えられた課題を行う。参考書を読む。																				
◆ その他：	特別な理由なく3回以上欠席した場合には単位を与えないので注意すること。授業内で多くの発表活動を行うが、発表に対しては他の受講者からの率直な評価や改善案の提示などのフィードバックが期待されている。各受講者には積極的に課題に取り組み、クラス全体の学習に貢献すること。																				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
日 本 語 教 育 学 実 習 Teaching of Japanese Language (Practice)	2	教授 才 田 いずみ	5	水	3・4																		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMLIN319J 日本語コース運営の基礎 10月から運営する日本語コースを念頭におきながら、教科書分析および模擬授業とその検討を中心に、以下の内容を扱う。 1 語学学習環境としての「教室」のあり方 2 学習支援者としての教師のあり方 3 シラバス、到達目標設定、学習項目設定 4 授業見学の視点 5 授業活動デザイン 6 学習者の日本語																						
◆ 到達目標	日本語コースを運営するための基礎的な知識と技能を養う。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>10. 中級の模擬授業実施と振り返り 1</td> </tr> <tr> <td>2. 日本語初級用教科書の検討 1</td> <td>11. 中級の模擬授業実施と振り返り 2</td> </tr> <tr> <td>3. マイクロティーチング 1 日本語初級用教科書の検討 2</td> <td>12. 授業見学の視点 シラバスデザイン案の作成</td> </tr> <tr> <td>4. マイクロティーチング 2 授業活動デザインについて</td> <td>13. 教師と学習者のあり方について</td> </tr> <tr> <td>5. 日本語初級用教科書の検討 3</td> <td>コース概要と学習者の募集 役割分担</td> </tr> <tr> <td>6. 模擬授業の実施 1</td> <td>14. オリエンテーションの実施 プラン作成</td> </tr> <tr> <td>7. 模擬授業の振り返り 1</td> <td>プレイスメントテストの作成と検討</td> </tr> <tr> <td>8. 日本語中級用教科書の検討 1</td> <td>15. 初回授業のマイクロティーチングと振り返り</td> </tr> <tr> <td>9. 日本語中級用教科書の検討 2 授業活動のデザインの検討</td> <td>まとめと6セメスターの日本語コース開講準備</td> </tr> </table>					1. イントロダクション	10. 中級の模擬授業実施と振り返り 1	2. 日本語初級用教科書の検討 1	11. 中級の模擬授業実施と振り返り 2	3. マイクロティーチング 1 日本語初級用教科書の検討 2	12. 授業見学の視点 シラバスデザイン案の作成	4. マイクロティーチング 2 授業活動デザインについて	13. 教師と学習者のあり方について	5. 日本語初級用教科書の検討 3	コース概要と学習者の募集 役割分担	6. 模擬授業の実施 1	14. オリエンテーションの実施 プラン作成	7. 模擬授業の振り返り 1	プレイスメントテストの作成と検討	8. 日本語中級用教科書の検討 1	15. 初回授業のマイクロティーチングと振り返り	9. 日本語中級用教科書の検討 2 授業活動のデザインの検討	まとめと6セメスターの日本語コース開講準備
1. イントロダクション	10. 中級の模擬授業実施と振り返り 1																						
2. 日本語初級用教科書の検討 1	11. 中級の模擬授業実施と振り返り 2																						
3. マイクロティーチング 1 日本語初級用教科書の検討 2	12. 授業見学の視点 シラバスデザイン案の作成																						
4. マイクロティーチング 2 授業活動デザインについて	13. 教師と学習者のあり方について																						
5. 日本語初級用教科書の検討 3	コース概要と学習者の募集 役割分担																						
6. 模擬授業の実施 1	14. オリエンテーションの実施 プラン作成																						
7. 模擬授業の振り返り 1	プレイスメントテストの作成と検討																						
8. 日本語中級用教科書の検討 1	15. 初回授業のマイクロティーチングと振り返り																						
9. 日本語中級用教科書の検討 2 授業活動のデザインの検討	まとめと6セメスターの日本語コース開講準備																						
◇ 成績評価の方法	レポート [40%]・出席 [10%]・その他（「発表態度」「クラス貢献度」「ジャーナル」）[50%]																						
◇ 教科書・参考書	参考書：文化外国語専門学校編（2000）『新文化初級日本語 1』凡人社。 筑波ランゲージグループ（1991）『Situational Functional Japanese』Notes vol.1-3, Drill vol.1-3 凡人社。 川口義一・横溝紳一郎（2005）『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』ひつじ書房、ほか。																						
◇ 授業時間外学習	日本語の教科書を種々閲読し、内容や使用法について考える。マイクロティーチングや模擬授業の教案を立てて準備する。実施したマイクロティーチングや模擬授業について、問題点を洗い出し、改善策を考える。																						
◆ その他：	日本語教育学概論、3セメスター開講の日本語教育学基礎講義を含む関係科目を10単位以上履修済みまたは履修中のこと。 6セメスター開講の日本語教育学実習も引き続き履修すること。全回授業に出席し、積極的に参加すること。時間外に、日本語授業見学と見学レポートを課す可能性があるので注意すること。																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 学 実 習 Teaching of Japanese Language (Practice)	2	教授 才 田 いずみ	6	水	3・4
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMLIN319J 日本語コースの運営と改善 実際に運営する日本語コースについて、以下のような課題に取り組み、授業活動をデザインする力と的確に実践する力を養う。教室研究と学習者研究の方法の基礎も身につける。 1 学習者の学習の状態を的確に把握する。 2 異文化接触の場としての日本語授業を意識する。 3 自分の教授スタイルに気づく。 4 授業を適切に評価し、改善策を講じる。 5 授業分析の方法を知り、実践する。 6 コース全体を振り返りつつ、報告書を作成する。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	日本語コースを運営しながら、シラバスの改変、授業の向上を考え、コース全体の改善を図る力をつける。 1. イントロダクション オリエンテーションの結果について 2. 日本語コース運営の方針について 授業担当について 授業報告と授業の予定1 3. 授業報告と授業の予定2 教室活動のデザインとバリエーション 4. 授業報告と授業の予定3 教室活動の評価：その視点 5. 授業報告と授業の予定4 教室活動の評価と改善1 6. 授業報告と授業の予定5 授業分析の方法1 7. 授業報告と授業の予定6 学習者の観察 8. 授業報告と授業の予定7 授業分析の結果 教室活動の評価と改善2 9. 授業報告と授業の予定8 教師行動の分析：ティーチャートーク 10. 授業報告とまとめ コースの振り返りと評価 11. 教室活動のバリエーション シラバスの問題点 12. 授業分析の方法2 学習者の達成度の評価 13. 授業分析の方法3 教師行動の分析 14. 報告書の作成分担について 日本語教育学実習全体についての振り返り 15. まとめ 報告書の作成について 期末課題について				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	レポート[40%]・出席[10%]・その他(「コース運営」「授業報告」「クラス貢献度」「ジャーナル」「報告書作成」)[50%] 参考書：筑波ランゲージグループ(1991)『Situational Functional Japanese』凡人社。 川口義一・横溝紳一郎(2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』ひつじ書房、ほか。 授業の実施・見学などは時間外に行う。運営するコースは、夜間に片平キャンパスで行う予定。授業分析についても、具体的な活動は時間外学習である。				
その他：5セメスターの日本語教育学実習を履修済みのこと。全回授業に出席し、積極的に参加すること。教壇実習は夜間に実施する予定。コースの運営・改善に関わるミーティングなども授業時間外に行われることがあるので、注意すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
現 代 日 本 論 講 読 Study of Contemporary Japan (Reading)	2	准教授 田 中 重 人	5	金	4
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMLIN320J 現代日本論論文講読 研究は、学術雑誌の原著論文を探して読むことから始まります。この授業では、文献データベースを使って論文を探し、その内容を読み、プレゼンテーションと質疑応答を通して理解していくことを目指します。とりあげる論文は、現代日本文化に関するもので、日本語または英語のもの、という条件のなかで、受講者の興味にしたがって選定します。1論文を、(a)鍵概念の抽出(scanning)、(b)構造の抽出(skimming)、(c)図表の解説、(d)ロジックの抽出、の4人で分担して、それぞれの担当者がコンピュータを使用したプレゼンテーションをおこないます。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	(1)論文の探しかたと読みかたを理解する (2)プレゼンテーションと質疑応答の技術を身につける 1. イントロダクション 2. 論文をさがす(1) 3. 論文をさがす(2) 4. 論文の読みかた(1) 5. 論文の読みかた(2) 6. プレゼンテーション資料の作成 7. プレゼンテーションの準備 8. 発表と質疑 9. プレゼンテーション(1) 10. プレゼンテーション(2) 11. 録画視聴と振り返り(1) 12. プレゼンテーション(3) 13. プレゼンテーション(4) 14. 録画視聴と振り返り(2) 15. 全体のまとめと講評				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	授業中の課題と宿題(30%)、担当部分のプレゼンテーション(40%)、プレゼンテーションに対する質疑応答(30%)を合計して評価する。 【教科書】東北大学附属図書館『情報探索の基礎知識』基本編/人文社会科学編。 【参考書】諏訪邦夫(1995)『発表の技法』講談社。 毎回の授業での課題のほか、取り上げる論文の読解、プレゼンテーションの資料作成と準備、プレゼンテーション録画を見ての反省をおこなうこと				
その他：授業計画は、受講者の人数によって変更する可能性がある。 授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 演 習 Study of Contemporary Japan (Seminar)	2	准教授 田 中 重 人	5	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN321J																				
◆ 授業題目	質問紙調査の基礎																				
◆ 目的・概要	質問紙を使った調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、質問紙調査の基本的な概念と方法、仮説設定からレポート作成までの一連のプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、テーマへの理論的アプローチを検討し、質問紙を作成し、調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。																				
◆ 到達目標	(1)質問紙調査の長所と短所を把握する (2)質問紙調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 調査票の検討</td> </tr> <tr> <td>2. 調査課題の設定</td> <td>10. エディティングとコーディング</td> </tr> <tr> <td>3. 既存調査と先行研究の探索</td> <td>11. データの入力と点検</td> </tr> <tr> <td>4. 調査対象者と調査方法</td> <td>12. 報告書の執筆</td> </tr> <tr> <td>5. 調査の企画</td> <td>13. 調査結果発表会(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 質問文と回答欄</td> <td>14. 調査結果発表会(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 調査実施について面談</td> <td>15. 全体のまとめとレポート執筆についての相談</td> </tr> <tr> <td>8. 調査票の構成</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 調査票の検討	2. 調査課題の設定	10. エディティングとコーディング	3. 既存調査と先行研究の探索	11. データの入力と点検	4. 調査対象者と調査方法	12. 報告書の執筆	5. 調査の企画	13. 調査結果発表会(1)	6. 質問文と回答欄	14. 調査結果発表会(2)	7. 調査実施について面談	15. 全体のまとめとレポート執筆についての相談	8. 調査票の構成	
1. イントロダクション	9. 調査票の検討																				
2. 調査課題の設定	10. エディティングとコーディング																				
3. 既存調査と先行研究の探索	11. データの入力と点検																				
4. 調査対象者と調査方法	12. 報告書の執筆																				
5. 調査の企画	13. 調査結果発表会(1)																				
6. 質問文と回答欄	14. 調査結果発表会(2)																				
7. 調査実施について面談	15. 全体のまとめとレポート執筆についての相談																				
8. 調査票の構成																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題 (40%)、学期末に提出する質問紙 (30%)、調査結果に基づくレポート (30%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 轟亮・杉野勇 (編) (2013) 『入門・社会調査法 [第2版]』法律文化社。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題と調査の企画・実施およびレポート作成																				
その他：5セメスタ開講の現代日本論演習「統計分析の基礎」をあわせて履修することが望ましい。 授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 演 習 Study of Contemporary Japan (Seminar)	2	准教授 田 中 重 人	5	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN321J																				
◆ 授業題目	統計分析の基礎																				
◆ 目的・概要	意識調査・テスト・実験などのデータはどのように分析すればいいでしょうか。この授業では、小規模の標本調査を念頭において、統計分析の基礎的な手法を学びます。これまで統計的な分析をおこなったことのない人を対象に、初歩から講義します。同時に、コンピュータを実際に使って、データ分析の実習をおこないます。																				
◆ 到達目標	(1)統計分析の基礎を理解する (2)データ分析ができるようになる																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 平均と分散</td> </tr> <tr> <td>2. SPSS入門</td> <td>10. 平均値の比較</td> </tr> <tr> <td>3. 統計分析の基礎</td> <td>11. 分散分析</td> </tr> <tr> <td>4. 度数分布表とグラフの利用</td> <td>12. 推測統計の基礎と区間推定</td> </tr> <tr> <td>5. クロス表分析の基礎</td> <td>13. 統計的検定</td> </tr> <tr> <td>6. 連関係数</td> <td>14. さまざまな検定手法</td> </tr> <tr> <td>7. クロス表の解釈</td> <td>15. 全体のまとめとレポート内容についての相談</td> </tr> <tr> <td>8. 前回までの復習と進捗確認課題</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 平均と分散	2. SPSS入門	10. 平均値の比較	3. 統計分析の基礎	11. 分散分析	4. 度数分布表とグラフの利用	12. 推測統計の基礎と区間推定	5. クロス表分析の基礎	13. 統計的検定	6. 連関係数	14. さまざまな検定手法	7. クロス表の解釈	15. 全体のまとめとレポート内容についての相談	8. 前回までの復習と進捗確認課題	
1. イントロダクション	9. 平均と分散																				
2. SPSS入門	10. 平均値の比較																				
3. 統計分析の基礎	11. 分散分析																				
4. 度数分布表とグラフの利用	12. 推測統計の基礎と区間推定																				
5. クロス表分析の基礎	13. 統計的検定																				
6. 連関係数	14. さまざまな検定手法																				
7. クロス表の解釈	15. 全体のまとめとレポート内容についての相談																				
8. 前回までの復習と進捗確認課題																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題 (70%)、期末レポート (30%) を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 吉田寿夫 (1998) 『本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題とレポート作成の準備																				
その他：実習室で使用できるコンピュータ台数が限られているため、受講人数を制限することがある。 授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 演 習 Study of Contemporary Japan (Seminar)	2	准教授 田 中 重 人	6	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN321J																				
◆ 授業題目	調査的面接の基礎																				
◆ 目的・概要	面接法による質的調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、面接調査の基本的な方法とプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、面接調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。																				
◆ 到達目標	(1)面接調査の長所と短所を把握する (2)面接調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. インタビュー実施から書き起こしまで</td> </tr> <tr> <td>2. 研究のイメージをつかむ</td> <td>10. 分析</td> </tr> <tr> <td>3. 調査的面接の方法</td> <td>11. 報告書</td> </tr> <tr> <td>4. シナリオの作成</td> <td>12. 発表会(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 面接実習</td> <td>13. 発表会(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 面接実習結果について検討</td> <td>14. 調査的面接の倫理</td> </tr> <tr> <td>7. 対象者の選びかた</td> <td>15. 全体のまとめ；レポート執筆に向けて討論</td> </tr> <tr> <td>8. 調査計画について討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. インタビュー実施から書き起こしまで	2. 研究のイメージをつかむ	10. 分析	3. 調査的面接の方法	11. 報告書	4. シナリオの作成	12. 発表会(1)	5. 面接実習	13. 発表会(2)	6. 面接実習結果について検討	14. 調査的面接の倫理	7. 対象者の選びかた	15. 全体のまとめ；レポート執筆に向けて討論	8. 調査計画について討論	
1. イントロダクション	9. インタビュー実施から書き起こしまで																				
2. 研究のイメージをつかむ	10. 分析																				
3. 調査的面接の方法	11. 報告書																				
4. シナリオの作成	12. 発表会(1)																				
5. 面接実習	13. 発表会(2)																				
6. 面接実習結果について検討	14. 調査的面接の倫理																				
7. 対象者の選びかた	15. 全体のまとめ；レポート執筆に向けて討論																				
8. 調査計画について討論																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題（50%）、調査結果に基づく口頭発表とレポート（50%）を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】松浦均・西口利文（2008）『観察法・調査的面接法の進め方』ナカニシヤ出版。																				
◇ 授業時間外学習	各回の課題と各自の調査企画、実施およびレポート作成																				
その他：5セメスタ開講の現代日本論演習「質問紙調査の基礎」も履修することが望ましい。 授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 日 本 論 演 習 Study of Contemporary Japan (Seminar)	2	准教授 田 中 重 人	6	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMLIN321J																				
◆ 授業題目	実践的統計分析法																				
◆ 目的・概要	研究の現場で必要となる統計分析手法は、分析の目的とデータの特徴によってさまざまです。この授業の前半では、推測統計学の基本的な概念について解説し、統計的推定および検定の方法について学びます。後半では、さまざまな分析手法をとりあげて、それらの特徴と使い方を習得していきます。どのような分析手法をとりあげるかについては、受講者の関心と必要性を考慮します。統計解析パッケージを使ってデータ分析の実習をおこないます。																				
◆ 到達目標	さまざまな統計分析手法を理解し、使いこなせるようになる																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 推測統計の基礎</td> <td>9. 対応のある平均値の比較</td> </tr> <tr> <td>2. 正規分布の利用</td> <td>10. 多変量解析(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 統計的検定と検定力</td> <td>11. 多変量解析(2)</td> </tr> <tr> <td>4. 順位相関係数</td> <td>12. 多変量解析(3)</td> </tr> <tr> <td>5. 積率相関係数</td> <td>13. 多変量解析(4)</td> </tr> <tr> <td>6. 相関係数行列</td> <td>14. 多変量解析(5)</td> </tr> <tr> <td>7. 前回までの復習と進捗確認課題</td> <td>15. 全体のまとめとレポート内容について相談</td> </tr> <tr> <td>8. 符号検定</td> <td></td> </tr> </table>					1. 推測統計の基礎	9. 対応のある平均値の比較	2. 正規分布の利用	10. 多変量解析(1)	3. 統計的検定と検定力	11. 多変量解析(2)	4. 順位相関係数	12. 多変量解析(3)	5. 積率相関係数	13. 多変量解析(4)	6. 相関係数行列	14. 多変量解析(5)	7. 前回までの復習と進捗確認課題	15. 全体のまとめとレポート内容について相談	8. 符号検定	
1. 推測統計の基礎	9. 対応のある平均値の比較																				
2. 正規分布の利用	10. 多変量解析(1)																				
3. 統計的検定と検定力	11. 多変量解析(2)																				
4. 順位相関係数	12. 多変量解析(3)																				
5. 積率相関係数	13. 多変量解析(4)																				
6. 相関係数行列	14. 多変量解析(5)																				
7. 前回までの復習と進捗確認課題	15. 全体のまとめとレポート内容について相談																				
8. 符号検定																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題（70%）、期末レポート（30%）を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】吉田寿夫（1998）『本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題とレポート作成の準備																				
その他：5セメスタ開講の現代日本論演習「統計分析の基礎」を履修済みか、それと同等の知識を習得済みの者を対象とする。 授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 哲 学 概 論 Contemporary Philosophy (General Lecture)	2	教授 直 江 清 隆	3	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI206J																				
◆ 授業題目	近現代哲学の諸問題																				
◆ 目的・概要	20世紀哲学は近代の人間観、自然観への問い返しを含んでいます。それはまた、学問とは何か、理性とは何かという問いとも結びついています。この講義では、そうした問い返し具体例として、「懐疑と相対主義」「身体」「他者」などに関する近代の問題の所在と、20世紀の大陸系、英米系の哲学におけるその扱いを検討していきます。																				
◆ 到達目標	20世紀の学問論とその背景となる人間観、自然観を理解し、考察力を養う																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 他者という謎(1)</td> </tr> <tr> <td>2. 懐疑と相対主義(1)</td> <td>10. 他者という謎(2)</td> </tr> <tr> <td>3. 懐疑と相対主義(2)</td> <td>11. 他者という謎(3)</td> </tr> <tr> <td>4. 懐疑と相対主義(3)</td> <td>12. 他者という謎(4)</td> </tr> <tr> <td>5. 身体という謎(1)</td> <td>13. 自然と人間(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 身体という謎(2)</td> <td>14. 自然と人間(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 身体という謎(3)</td> <td>15. 自然と人間(3)</td> </tr> <tr> <td>8. 身体という謎(4)</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 他者という謎(1)	2. 懐疑と相対主義(1)	10. 他者という謎(2)	3. 懐疑と相対主義(2)	11. 他者という謎(3)	4. 懐疑と相対主義(3)	12. 他者という謎(4)	5. 身体という謎(1)	13. 自然と人間(1)	6. 身体という謎(2)	14. 自然と人間(2)	7. 身体という謎(3)	15. 自然と人間(3)	8. 身体という謎(4)	
1. オリエンテーション	9. 他者という謎(1)																				
2. 懐疑と相対主義(1)	10. 他者という謎(2)																				
3. 懐疑と相対主義(2)	11. 他者という謎(3)																				
4. 懐疑と相対主義(3)	12. 他者という謎(4)																				
5. 身体という謎(1)	13. 自然と人間(1)																				
6. 身体という謎(2)	14. 自然と人間(2)																				
7. 身体という謎(3)	15. 自然と人間(3)																				
8. 身体という謎(4)																					
◇ 成績評価の方法	平常点30% レポート70%																				
◇ 教科書・参考書	授業開始時に指示します。また随時授業中に紹介します。																				
◇ 授業時間外学習	授業時に参考資料を配付し、参考文献を紹介するので、それらを再読し、自分なりに捉え直してみる作業を繰り返して下さい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
現 代 哲 学 概 論 Contemporary Philosophy (General Lecture)	2	非常勤講師 小 林 睦	4	火	5																		
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI206J																						
◆ 授業題目	人間とロボットの哲学																						
◆ 目的・概要	21世紀に工学的な技術が進歩することにより、より人間に近いロボットが作られることが予想される。本講義では、(1)現代のロボットがどのようなことをできるようになったのか、(2)それゆえ、ロボットは人間にどれほど近づいたのか、(3)それにもかかわらず、人間にできてロボットにできないことは何なのか、について心の哲学の議論を踏まえつつ、検討することを目標とする。																						
◆ 到達目標	人間とロボットのコミュニケーション可能性について(a)人間とロボットの振る舞いを比較することによって、その類似性と差異性を明らかにする。(b)それにより、人間本性のあり方を理解できるようになる。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入：人間とロボット</td> <td>10. 心の理論と他者の心：チンパンジー、子供、ロボット</td> </tr> <tr> <td>2. ロボットとは何か？：アンドロイド、ヒューマノイド、サイボーグ</td> <td>11. 最近の人工知能：深層学習によるブレイクスルー</td> </tr> <tr> <td>3. 機械は考えること？できるか？：チューリング・テスト</td> <td>12. ロボットとのコミュニケーション：『イヴの時間』を見る</td> </tr> <tr> <td>4. 『2001年宇宙の旅』を見る</td> <td>13. ロボットをどう扱うべきか？：ロボット工学3原則と倫理</td> </tr> <tr> <td>5. 人工知能の夢と現実：HAL9000を通して考える</td> <td>14. 人間はどこまで機械化されるのか？：BMI 倫理の4原則</td> </tr> <tr> <td>6. 中国語の部屋：意味論と指示の問題</td> <td>15. 講義まとめ：シンギュラリティは近いのか？</td> </tr> <tr> <td>7. フレーム問題：CPには何ができないか？</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. ロボットの身体：不気味の谷は越えられるか？</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. トータル・チューリング・テスト：ジェミノイドを用いた実験</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入：人間とロボット	10. 心の理論と他者の心：チンパンジー、子供、ロボット	2. ロボットとは何か？：アンドロイド、ヒューマノイド、サイボーグ	11. 最近の人工知能：深層学習によるブレイクスルー	3. 機械は考えること？できるか？：チューリング・テスト	12. ロボットとのコミュニケーション：『イヴの時間』を見る	4. 『2001年宇宙の旅』を見る	13. ロボットをどう扱うべきか？：ロボット工学3原則と倫理	5. 人工知能の夢と現実：HAL9000を通して考える	14. 人間はどこまで機械化されるのか？：BMI 倫理の4原則	6. 中国語の部屋：意味論と指示の問題	15. 講義まとめ：シンギュラリティは近いのか？	7. フレーム問題：CPには何ができないか？		8. ロボットの身体：不気味の谷は越えられるか？		9. トータル・チューリング・テスト：ジェミノイドを用いた実験	
1. 導入：人間とロボット	10. 心の理論と他者の心：チンパンジー、子供、ロボット																						
2. ロボットとは何か？：アンドロイド、ヒューマノイド、サイボーグ	11. 最近の人工知能：深層学習によるブレイクスルー																						
3. 機械は考えること？できるか？：チューリング・テスト	12. ロボットとのコミュニケーション：『イヴの時間』を見る																						
4. 『2001年宇宙の旅』を見る	13. ロボットをどう扱うべきか？：ロボット工学3原則と倫理																						
5. 人工知能の夢と現実：HAL9000を通して考える	14. 人間はどこまで機械化されるのか？：BMI 倫理の4原則																						
6. 中国語の部屋：意味論と指示の問題	15. 講義まとめ：シンギュラリティは近いのか？																						
7. フレーム問題：CPには何ができないか？																							
8. ロボットの身体：不気味の谷は越えられるか？																							
9. トータル・チューリング・テスト：ジェミノイドを用いた実験																							
◇ 成績評価の方法	レスポンスカード (30%)、テストまたはレポート (70%)																						
◇ 教科書・参考書	テキストは使用しません。プリントを配布します。参考書については随時指示します。																						
◇ 授業時間外学習	講義時に指示します。																						
その他：以下の映画を見ておくことが望ましい。 スタンリー・キューブリック『2001年宇宙の旅』(1968) 吉浦 康裕『イヴの時間』(2010)																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 哲 学 概 論 Contemporary Philosophy (General Lecture)	2	准教授	原 壘	3	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI206J																					
◆ 授業題目	心の哲学入門																					
◆ 目的・概要	心の哲学は20世紀半ば以降、英米圏を中心に大きく研究が進展してきた分野である。この授業では、心の哲学で展開された議論を紹介しながら、心の様々な性質—心の因果性、現象的意識、心の志向性、心の合理性—を順に分析していく。講義形式で授業を行うが、学期中数回、演習問題ととりくんでもらう。																					
◆ 到達目標	1. 概念や論証を分析する技術を習得する。 2. 心や意識についての現代的議論を理解する。																					
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. はじめに</td> <td style="width:50%;">9. 心の志向性 2</td> </tr> <tr> <td>2. 心の因果性 1</td> <td>10. 心の志向性 3</td> </tr> <tr> <td>3. 心の因果性 2</td> <td>11. 心の合理性 1</td> </tr> <tr> <td>4. 心の因果性 3</td> <td>12. 心の合理性 2</td> </tr> <tr> <td>5. 心と意識 1</td> <td>13. 心の合理性 3</td> </tr> <tr> <td>6. 心と意識 2</td> <td>14. 心に関する諸問題</td> </tr> <tr> <td>7. 心と意識 3</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 心の志向性 1</td> <td></td> </tr> </table>						1. はじめに	9. 心の志向性 2	2. 心の因果性 1	10. 心の志向性 3	3. 心の因果性 2	11. 心の合理性 1	4. 心の因果性 3	12. 心の合理性 2	5. 心と意識 1	13. 心の合理性 3	6. 心と意識 2	14. 心に関する諸問題	7. 心と意識 3	15. まとめ	8. 心の志向性 1	
1. はじめに	9. 心の志向性 2																					
2. 心の因果性 1	10. 心の志向性 3																					
3. 心の因果性 2	11. 心の合理性 1																					
4. 心の因果性 3	12. 心の合理性 2																					
5. 心と意識 1	13. 心の合理性 3																					
6. 心と意識 2	14. 心に関する諸問題																					
7. 心と意識 3	15. まとめ																					
8. 心の志向性 1																						
◇ 成績評価の方法	課題の提出 (60%)、テスト (40%)																					
◇ 教科書・参考書	金杉武司『心の哲学入門』勁草書房、2007年																					
◇ 授業時間外学習	授業用スライドを、あらかじめISTUにアップロードしておくので、授業前に内容を確認しておくこと。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
現 代 哲 学 概 論 Contemporary Philosophy (General Lecture)	2	准教授	原 壘	4	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI206J																					
◆ 授業題目	科学哲学入門																					
◆ 目的・概要	科学が特別な知の形態であることを、科学的推論、検証や反証、科学理論の構造を説明することで、明らかにしていく。講義形式。毎回の授業後に、授業に対する感想やコメントを提出してもらう。																					
◆ 到達目標	1. 科学的知識の特徴を理解する。 2. 科学哲学上の様々な議論を理解する。																					
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. イントロダクション</td> <td style="width:50%;">9. 科学と実在</td> </tr> <tr> <td>2. 科学と推論 1</td> <td>10. 科学と説明</td> </tr> <tr> <td>3. 科学と推論 2</td> <td>11. 科学に関する諸問題 1</td> </tr> <tr> <td>4. 反証主義 1</td> <td>12. 科学に関する諸問題 2</td> </tr> <tr> <td>5. 反証主義 2</td> <td>13. 科学に関する諸問題 3</td> </tr> <tr> <td>6. 科学革命</td> <td>14. 科学に関する諸問題 4</td> </tr> <tr> <td>7. パラダイム論</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 研究プログラム論</td> <td></td> </tr> </table>						1. イントロダクション	9. 科学と実在	2. 科学と推論 1	10. 科学と説明	3. 科学と推論 2	11. 科学に関する諸問題 1	4. 反証主義 1	12. 科学に関する諸問題 2	5. 反証主義 2	13. 科学に関する諸問題 3	6. 科学革命	14. 科学に関する諸問題 4	7. パラダイム論	15. まとめ	8. 研究プログラム論	
1. イントロダクション	9. 科学と実在																					
2. 科学と推論 1	10. 科学と説明																					
3. 科学と推論 2	11. 科学に関する諸問題 1																					
4. 反証主義 1	12. 科学に関する諸問題 2																					
5. 反証主義 2	13. 科学に関する諸問題 3																					
6. 科学革命	14. 科学に関する諸問題 4																					
7. パラダイム論	15. まとめ																					
8. 研究プログラム論																						
◇ 成績評価の方法	授業に出席し、コメント・ペーパーを提出する (60%)、テスト (40%)																					
◇ 教科書・参考書	A. F. チャルマーズ『改訂新版 科学論の展開』(高田喜紀代志、佐野正博訳) 恒星社厚生閣、2013年 森田邦久『理系人に役立つ科学哲学』科学同人、2010年																					
◇ 授業時間外学習	授業用スライドをあらかじめISTUにアップロードしておくので、授業前に授業用スライドの内容を確認しておくこと。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 概 論 Western Philosophical Thought (General Lecture)	2	准教授 荻原理	3	木	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMPHI205J 古代哲学史 (前篇) ・古代ギリシャ哲学のうち、ミレトス学派からプラトンまでの主な哲学者 (ピュタゴラス、ヘラクレイトス、パルメニデス、ソクラテスも含む) の主要な論点を学び、そのいくつかについては自分なりに考えてみることで理解を深める。 ・大講義室での講義だが、質問・意見を積極的に出してもらおう (質疑応答は哲学の問題や主張を理解していくための重要なプロセスなので)。わかりにくい点はできればその場で質問してほしいが、次回 (以降) でもよい。 ・希望者があれば、授業中にプレゼンテーションをしてもらう (数名まで)。希望者は事前に教員と相談しトピックを決め、発表内容のメモを作り教員のチェックを受け、授業中、黒板を使いながら8分ほどそのトピックについて説明し、皆からの質問を受け付ける。答えられなければ「わかりません」と言ってくればよい。 ・ミレトス学派からプラトンまでの西洋古代哲学史の主要な論点について正確に説明できるようになる。 ・いくつかの論点については、自分なりに論じることができるようになる。				
◆ 到達目標	1. 【注意：質疑応答等の成り行きによっては、下記の計画通りに行かないことがあり得る。】 授業全体へのイントロミレトス学派(1): 万物のアルケの探究ータレス、アナクシマン드로ス、アナクシメネス 2. ミレトス学派(2): アナクシマン드로スの断片クセノファネス: 神を擬人的に思い描くことへの批判 3. ピュタゴラス: 万物は数から成る、魂は輪廻するヘラクレイトス: 反対者は一致する 4. エレア派(1): パルメニデスゼノンのパラドクス「アキレスは亀に追いつけない」(導入) 5. エレア派(2): ゼノンのパラドクス「アキレスは亀に追いつけない」(教室で議論) 6. エレア派(3): 「アキレスは亀に追いつけない」(議論の続き、ゼノンの意図) ゼノンの弁証論エレア派の挑戦に応える多元論者たち(1): エンペドクレス 7. エレア派の挑戦に応える多元論者たち(2): アナクサゴラス、デモクリトスソフィステス (プロタゴラス)、弁論家 (ゴルギアス)				
◆ 授業内容・方法	8. ソクラテスとプラトンへのイントロ: ソクラテスは書かなかった、プラトン対話篇で著者はどこにいるのかソクラテス(1): プラトン『ソクラテスの弁明』を中心に 9. ソクラテス(2): プラトン『ソクラテスの弁明』『クリトン』を中心に (続き) 10. 【以降の回で、プレゼンテーションが入ることがあり得る。】 プラトン(1): 『メノン』(探究のアポリア、想起説) など 11. プラトン(2): 『バイドン』(魂不死、イデア論) など 12. プラトン(3): 『国家』(ギュゲスの指輪、幸福と正義の関係) など 13. プラトン(4): 『国家』(善のイデア) など 14. プラトン(5): 論じ残したこと 15. 授業のまとめ学期末試験				
◇ 成績評価の方法	学期末試験 (持ち込み不可) のみによる。ただし、授業中プレゼンテーションをしてくれた人はプレゼンにより成績を評価する (試験を受けなくてよい)。				
◇ 教科書・参考書	参考書: 加藤信朗『ギリシア哲学史』(東京大学出版会、1996年) 内山勝利 (責任編集) 『哲学の歴史 1』(中央公論新社、2008年) それ以外の参考図書は随時授業中に紹介する。				
◇ 授業時間外学習	前回の授業の内容について、わかりにくかった点を質問の形に整理しておく。(他にも、授業中折に触れて学習課題を指定することがある。)				
その他:	予備知識は特に必要ない。 授業中は私語のみならず、スマホいじり、内職等もしないで下さい (した場合、厳しく対応します)。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 概 論 Western Philosophical Thought (General Lecture)	2	准教授 荻原理	4	木	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMPHI205J 古代哲学史 (後篇) ・古代ギリシャ哲学のうち、アリストテレス、ヘレニズム哲学 (エピクロス派、ストア派、懐疑派)、新プラトン主義の主要な論点を学び、そのいくつかについては自分なりに考えてみることで理解を深める。 ・大講義室での講義だが、質問・意見を積極的に出してもらおう (質疑応答は哲学の問題や主張を理解していくための重要なプロセスなので)。わかりにくい点はできればその場で質問してほしいが、次回 (以降) でもよい。 ・希望者があれば、授業中にプレゼンテーションをしてもらう (数名まで)。希望者は事前に教員と相談しトピックを決め、発表内容のメモを作り教員のチェックを受け、授業中、黒板を使いながら8分ほどそのトピックについて説明し、皆からの質問を受け付ける。答えられなければ「わかりません」と言ってくればよい。 ・アリストテレス、ヘレニズム哲学、新プラトン主義の主要な論点について正確に説明できるようになる。 ・いくつかの論点については、自分なりに論じることができるようになる。				
◆ 到達目標	9. エピクロス派(2) 10. エピクロス派(3)ストア派(1) 11. ストア派(2) 12. ストア派(3) 13. 懐疑派 14. 新プラトン主義 15. 授業のまとめ学期末試験				
◆ 授業内容・方法	1. 【注意：質疑応答等の成り行きによっては、下記の計画通りに行かないことがあり得る。】 授業全体へのイントロアリストテレス: 形相と質料、など 2. アリストテレス: 形相と質料、可能態と現実態、など 3. アリストテレス: 起動因、など 4. アリストテレス: 行為の目的論、など 5. アリストテレス: 自然の目的論、など 6. アリストテレス: 論じ残したこと(1) (カテゴリー、学問論、など) 7. アリストテレス: 論じ残したこと(2) (政治学など) ヘレニズム哲学へのイントロ 8. エピクロス派(1)				
◇ 成績評価の方法	学期末試験 (持ち込み不可) のみによる。ただし、授業中プレゼンテーションをしてくれた人はプレゼンにより成績を評価する (試験を受けなくてよい)。				
◇ 教科書・参考書	参考書: 内山勝利 (責任編集) 『哲学の歴史 2』(中央公論新社、2008年) A・A・ロング『ヘレニズム哲学』(京都大学学術出版会、2003年) それ以外の参考図書は随時授業中に紹介する。				
◇ 授業時間外学習	前回の授業の内容について、わかりにくかった点を質問の形に整理しておく。(他にも、授業中折に触れて学習課題を指定することがある。)				
その他:	予備知識は特に必要ない。 授業中は私語のみならず、スマホいじり、内職等もしないで下さい (した場合、厳しく対応します)。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 概 論 Western Philosophical Thought (General Lecture)	2	准教授 城 戸 淳	3	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI205J				
◆ 授業題目	カント倫理学入門				
◆ 目的・概要	イマヌエル・カントの倫理学または実践哲学は、いわゆる義務論の典型として、良くも悪くもきわめて名高いものである。とはいえ一般的には、その内容は大きなテーゼに即して概説的に理解される程度であるように思われる。しかし（主として英米圏での）ここ数十年のカント研究の進展は、新たな光でカント倫理学を照らしだしてきた。すなわち、カントの倫理学書における論証や論理構造には、意外なほどの哲学的な思考の細部と贅が積みこまれており、それらを丁寧に検討すれば（現代倫理学の観点から見ても）瑞々しい哲学的な洞察が読みとれるのである。この講義では、カント倫理学への入門として、『道徳形而上学原論』と『実践理性批判』を相互に参照しつつ読み砕き、またその現代的な解釈や批判を紹介・検討しつつ、カントの倫理学的思考の深度へと考察を進めたい。				
◆ 到達目標	哲学文献を読みとく咀嚼力を身につける。カント倫理学の基本を理解したうえで、みずから思考し、表現する力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. カント倫理学入門 2. 善い意志—いかにして善そのものを絞りこむか 3. 義務・格率・尊敬—道徳意識の分析 4. 行為と命法—理性的存在者の行為の哲学 5. 仮言命法—幸福は道徳の基礎になるか 6. 定言命法1—普遍的法則の法式 7. 定言命法2—人間性の法式 8. 自律としての自由—純粋な自己立法 9. 道徳の動機と尊敬の感情—規範性の主体的根拠 10. 自由から道徳へ—自由による道徳の基礎づけ 11. 理性の事実—循環から自己定立へ 12. 実践理性の弁証論—道徳と幸福のアンチノミー 13. 実践理性の優位—理論と実践をめぐる「批判の謎」 14. 魂の不死と神の存在—実践理性の要請 15. カント実践哲学の可能性—理性への問い 				
◇ 成績評価の方法	学期中の数回の小課題（30%）と期末レポート（70%）による。				
◇ 教科書・参考書	カント『道徳形而上学原論』篠田英雄訳、岩波文庫、1976年。 カント『実践理性批判』波多野精一・宮本和吉・篠田英雄訳、岩波文庫、1979年。				
◇ 授業時間外学習	講義のまえに指定テキストを繰り返し丹念に読んでから講義に臨むこと、講義のあとは講義の内容を反芻して自分の言葉で咀嚼すること。取り組み次第では、講義は哲学的思索を開拓し錬磨する最短の方法になります。				
その他：2冊の指定テキストを購入のうえ持参して出席すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 概 論 Western Philosophical Thought (General Lecture)	2	准教授 城 戸 淳	4	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI205J				
◆ 授業題目	デカルト『省察』入門				
◆ 目的・概要	デカルトの『省察』（1641年）は近代哲学の出発点となった哲学書である。この書は神の存在証明と心身（物心）二元論の確立を目標とするが、さらにそれを目掛けて、普遍的懐疑、自己意識と精神、誤謬と自由意志、物体の本質と存在証明、心身結合と人間の生、といった幅広いテーマが論じられる。これらの議論は、その後の近代哲学の問題枠組を設定し、近代的思考の運命がどこで決するかを定めることになった。講義では、『省察』本編のテキストを読みすすめるとともに、そこに積みこまれた哲学的諸問題を引き出し、ときには大きく脱線して、歴史的に、あるいは問題分析的に解明を試みつつ、またテキストに戻るという仕方、デカルト哲学への導入を試みる。				
◆ 到達目標	哲学文献の基本的な読解力を身につける。デカルトに即して哲学の基本的な諸問題を学び、みずから思考し、表現する力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. デカルトとその時代—『第一哲学についての省察』（1641）への導入として 2. 懐疑の極限に挑む—第一省察「疑いをさしはさみうるものについて」(1) 3. 普遍的な懐疑は可能か—第一省察「疑いをさしはさみうるものについて」(2) 4. 「私はある」の発見—第二省察「人間精神の本質について、精神は身体よりもよりよく知られること」(1) 5. 精神へと精錬する—第二省察「人間精神の本質について、精神は身体よりもよりよく知られること」(2) 6. 蜜蜂の分析—第二省察「人間精神の本質について、精神は身体よりもよりよく知られること」(3) 7. 観念の表現的実在性—第三省察「神について、神は存在すること」(1) 8. 無限に溢れゆく他者—第三省察「神について、神は存在すること」(2) 9. 人はなぜ誤謬に陥るか—第四省察「真と偽について」(1) 10. 行為と自由—第四省察「真と偽について」(2) 11. 物体即延長—第五省察「物質的事物の本質について、そして再び神について、神は存在すること」(1) 12. 神の存在論的証明—第五省察「物質的事物の本質について、そして再び神について、神は存在すること」(2) 13. 心身の実在的区別—第六省察「物質的事物の存在について、そして精神と身体との実在的区別について」(1) 14. 心身の実体的結合—第六省察「物質的事物の存在について、そして精神と身体との実在的区別について」(2) 15. 哲学と生—第六省察「物質的事物の存在について、そして精神と身体との実在的区別について」(3) 				
◇ 成績評価の方法	数回の小課題（30%）と期末レポート（70%）によって評価する。				
◇ 教科書・参考書	ルネ・デカルト著『省察』山田弘明訳、筑摩書房（ちくま学芸文庫）、2006年。				
◇ 授業時間外学習	講義のまえに指定テキストを繰り返し丹念に読んでから講義に臨むこと、講義のあとは講義の内容を反芻して自分の言葉で咀嚼すること。取り組み次第では、講義は哲学的思索を開拓し錬磨する最短の方法になります。				
その他：指定テキストを購入のうえ持参して出席すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 基 礎 講 読 Western Philosophical Thought (Introductory Reading)	2	非常勤 講師 小 松 恵 一	3	木	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要 ◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	LHMPHI214J 認識論の可能性―『精神現象学』『緒論』の批判的検討 この講読の第一の目的は、『精神現象学』『緒論』をドイツ語で読み、その認識論批判の論点を理解することにある。さらに、第二の目的は、ハーバーマスの『認識と関心』の冒頭部分にあるこの「緒論」との対決をドイツ語で読み、ヘーゲルの論点を相対化することである。 到達目標は、参加者がドイツ語による哲学文献を読むことに親しみ、同時に、認識論の問題構造をみずから提示できるようになることである。				
◇ 成績評価の方法	平常点による。ドイツ語テキストの担当箇所をきちんと理解しているかどうか。授業に積極的に参加しているかどうか。これらの観点から平常点によって評価する。				
◇ 教科書・参考書	G.W.F.Hegel, Phänomenologie des Geistes, Werke 3, Suhrkamp, Jürgen Habermas, Erkenntnis Interesse, Suhrkamp Heidegger, Hegels Begriff der Erfahrung (それぞれ翻訳あり)。それを参照してもよいが、ドイツ語をドイツ語として理解できるように努められたい。				
◇ 授業時間外学習	ドイツ語で本文を読んでくること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 基 礎 講 読 Western Philosophical Thought (Introductory Reading)	2	非常勤 講師 小 松 恵 一	4	木	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要 ◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	LHMPHI214J 認識論の可能性―シュネーデルバッハの認識論擁護 前セメスターで取り上げたヘーゲルの認識論批判を前提として、今セメスターでは、Herbert Schnädelbachの“Erkenntnis der Erkenntnis?” --Eine Verteidigung der Erkenntnistheorie”「認識の認識？認識論の擁護」を読む。それによって、より広い視野で認識論の可能性とそのあり方、さらには、哲学的議論のタイプについて知見を得ることを目的とする。 到達目標は、参加者がドイツ語による哲学文献を読むことに親しみ、同時に、認識論の問題構造を前セメスターよりもより広い視野で理解し、自ら表現できるようになることである。				
◇ 成績評価の方法	平常点による。ドイツ語テキストの担当箇所をきちんと理解しているかどうか。授業に積極的に参加しているかどうか。これらの観点から平常点によって評価する。				
◇ 教科書・参考書	Herbert Schnädelbach, “Erkenntnis der Erkenntnis?”--Eine Verteidigung der Erkenntnistheorie, in: “Philosophie in der modernen Kultur”, S.163-S.186				
◇ 授業時間外学習	事前にドイツ語でテキストを読んでくること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 基 礎 講 読 Western Philosophical Thought (Introductory Reading)	2	教授 直江清隆 准教授 萩原 理・原 壘・城戸 淳	3	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI214J				
◆ 授業題目	哲学研究のレッスン(1)				
◆ 目的・概要	この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。最初の10回程度は、教員が選んだテキスト（前期は日本語）をもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。また、最後の5回程度は、みなさんに自分の問題関心にもとづいた発表を行っていただき、それをもとに議論します（前後期を通して全員が一回は発表することが望ましい）。				
◆ 到達目標	(1)哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。 (2)哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. バスカル『パンセ』の「賭け」の議論(1) 3. バスカル『パンセ』の「賭け」の議論(2) 4. バスカル『パンセ』の「賭け」の議論(3) 5. バスカル『パンセ』の「賭け」の議論(4) 6. バスカル『パンセ』の「賭け」の議論(5) 7. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』序章(1) 8. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』序章(2) 9. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第1章(1) 10. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第1章(2) 11. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第1章(3) 12. 発表と討論(1) 13. 発表と討論(2) 14. 発表と討論(3) 15. 発表と討論(4) 				
◇ 成績評価の方法	報告、討論、数回のコメントペーパーによる平常点（60％）と、最後の発表ないしレポート（40％）で評価します。必要なものはすべてプリントで配布します。参考書は演習内で指示します。				
◇ 教科書・参考書	必要なものはすべてプリントで配布します。参考書は演習内で指示します。				
◇ 授業時間外学習	事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員およびTAに相談し、レジュメについてアドバイスを受ける用にしてください。				
その他：具体的な進め方は初回の授業のときに説明します。（倫理学基礎講読と合併で授業します）哲学専修の2年生は必ず履修するようにしてください。他の専修の方は初回時に教員とご相談ください。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 基 礎 講 読 Western Philosophical Thought (Introductory Reading)	2	准教授 萩原 理 准教授 原 壘 准教授 城戸 淳	4	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI214J				
◆ 授業題目	哲学研究のレッスン(2)				
◆ 目的・概要	この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。最初の10回程度は、教員が選んだテキスト（後期は英語）をもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。また、最後の5回程度は、みなさんに自分の問題関心にもとづいた発表を行っていただき、それをもとに議論します（前後期を通して全員が一回は発表することが望ましい）。				
◆ 到達目標	(1)哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。 (2)哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(1) 3. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(2) 4. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(3) 5. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(4) 6. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(5) 7. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(1) 8. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(2) 9. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(3) 10. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(4) 11. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(5) 12. 発表と討論(1) 13. 発表と討論(2) 14. 発表と討論(3) 15. 発表と討論(4) 				
◇ 成績評価の方法	報告、討論、数回のコメントペーパーによる平常点（60％）と、最後の発表ないしレポート（40％）で評価します。				
◇ 教科書・参考書	必要なものはすべてプリントで配布します。参考書は演習内で指示します。				
◇ 授業時間外学習	事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員およびTAに相談し、レジュメについてアドバイスを受ける用にしてください。				
その他：具体的な進め方は初回の授業のときに説明します。（倫理学基礎講読と合併で授業します）哲学専修の2年生は必ず履修するようにしてください。他の専修の方は初回時に教員とご相談ください。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 各 論 Western Philosophical Thought (Special Lecture)	2	非常勤 講師 井 頭 昌 彦	集 中 (6)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMPHI305J 哲学的自然主義とプラグマティズム 「哲学的自然主義」と「プラグマティズム」という2つの思想潮流を理解することは、現代における哲学思想の議論状況を把握するために不可欠であり、その意味で極めて重要である。本講義では「哲学的自然主義」と「プラグマティズム」という2つの潮流について、個別的な理解を得ると共に、その相互関係を把握できるようになることを目指す。具体的には以下の内容について講義する予定である。 ・「哲学的自然主義」と「プラグマティズム」のそれぞれについて、その核となる内容をまとめる。 ・その上で、どのようなヴァリエントがありうるのかについて解説を行う。 ・さらに、哲学的自然主義とプラグマティズムを融和させた路線 (pragmatic naturalism) について解説を行い、その問題点や課題を指摘する。 ・現代におけるプラグマティストの多くが採用する推論主義の意味論という構想について簡単に解説した上で、その問題点と克服方法についての検討を行う。 なお、pragmatic naturalism 的なアプローチについては、ロボット工学分野などへの応用可能性についても紹介する予定である。				
◆ 到達目標	「哲学的自然主義」と「プラグマティズム」という2つの潮流について、個別的な理解を得ると共に、その相互関係を把握できるようになること。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概要説明 2. 心を持ったロボットはどうやればくれるか? 3. 講義の背景説明：メタ哲学的立場としての自然主義 4. 哲学的自然主義の根拠(1) 5. 哲学的自然主義の根拠(2) 6. 哲学的自然主義とはどのような立場か? 7. 哲学的自然主義の多様性 8. 中間まとめ：哲学的自然主義とはなんだったのか。 9. プラグマティズム概論 10. プラグマティズムと哲学的自然主義：共通点と差異(1) 11. プラグマティズムと哲学的自然主義：共通点と差異(2) 12. プラグマティズムと哲学的自然主義は同じリサーチプログラムと言えるか? 13. Pragmatic Naturalism / Sydney Plan' と3つの課題 14. 心を持ったロボットの作り方・再訪—自然主義的プラグマティズムの観点から— 15. 議論総括・討論 				
◇ 成績評価の方法	レポート100%				
◇ 教科書・参考書	【参考文献】(1)井頭昌彦『多元論的自然主義の可能性』(新曜社、2010) (2)ラリー・ラウガン『科学と価値』(勁草書房、2009) (3)魚津郁夫『現代アメリカ思想—プラグマティズムの展開—』(放送大学教育振興会、2001) (4)魚津郁夫『プラグマティズムの思想』(ちくま学芸文庫、2006)				
◇ 授業時間外学習	必須ではないが、参考文献(1)ないし(2)を並行してor事前に読んでおくと理解が深まる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 各 論 Western Philosophical Thought (Special Lecture)	2	非常勤 講師 松 本 大 理	6	水	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要 ◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	LHMPHI305J 討議倫理学入門 討議倫理学に関して概観する。背景・基礎・発展・課題を検討する。講義形式で進める。 討議倫理学の基本的な考えを理解できる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：討議倫理学とフランクフルト学派 2. 言語論的転回 3. 言語と対象 4. 言語と行為 5. 言語と解釈 6. 基礎づけ問題1：厳密な反省 7. 基礎づけ問題2：コミュニケーション共同体 8. 基礎づけ問題3：討議原理と道徳原理 9. アーベルとハーバーマス 10. 諸概念の検討1：行為・自由・理性 11. 諸概念の検討2：真理・合意 12. 適用問題1：原理と適用 13. 適用問題2：責任倫理学 14. 適用問題3：正義とケア 15. 討議倫理学の解体 				
◇ 成績評価の方法	レポート80% 平常点20%				
◇ 教科書・参考書	教科書は指定しない。参考書は次のとおり。 ・K.-O. アーベル『哲学の変換』、二玄社、1986年。 ・N. Gottschalk-Mazouz (Hrsg.), Perspektiven der Diskursethik, Würzburg, Königshausen & Neumann, 2004. ・J. ハーバーマス『コミュニケーション的行為の理論』(上・中・下)、未来社、1985-87年。 ・W. Kuhlmann, Reflexive Letztbegründung, Freiburg/München, Karl Alber, 1985.				
◇ 授業時間外学習	参考書の通読等。また、カントの諸著作の通読も助けとなる。				
その他：	連絡先等は、講義中に知らせる。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 各 論 Western Philosophical Thought (Special Lecture)	2	准教授 荻原理	6	月	3
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI305J				
◆ 授業題目	イデア論とは何か				
◆ 目的・概要	プラトンのイデア論 基本的に講義形式だが、積極的な質問・意見を求める。				
◆ 到達目標	プラトンのイデア論とはいかなる論なのかについて、テキストに基づいた説明をすることができるようになる。イデア論をめぐる哲学的問題について論じることができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロ プラトン哲学について 2. 初期対話篇における、徳の定義の探究 『メノン』：学習は想起である 3. 『パイドン』(1)：哲学とは死の訓練である 4. 『パイドン』(2)：美しいものはすべて〈美〉によって美しい 5. 『饗宴』：愛の上昇の究極に、〈美〉そのものを観る 6. 『国家』(1)：知はイデアに関わる 7. 『国家』(2)：学ばれるべき最大の事柄、〈善〉そのものの(1) 8. 『国家』(3)：学ばれるべき最大の事柄、〈善〉そのものの(2) 9. 『パイドロス』：魂を養うもの 10. 『パルメニデス』(とくに第1部)：「分有」をめぐる問題。「誠実な困惑の記録」(ヴラストス)？ 11. 『ティマイオス』：宇宙創造・宇宙と、イデア論 12. 『ソフィステス』、『政治家』、『フィレボス』とイデア 13. アリストテレスとイデア論 14. トマス・アキナスとイデア論 15. 総括的考察				
◇ 成績評価の方法	学期末レポート				
◇ 教科書・参考書	参考書：プラトン『饗宴』、『パイドン』、『国家』、『パイドロス』。それ以外は授業中に知らせる。				
◇ 授業時間外学習	授業の内容について考え、わかりにくかったところや、自分で考えたことをまとめておく(次回の授業で質問・発言するために)。				
その他：予備知識は特に必要ない。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
生 命 環 境 倫 理 学 各 論 Bio-Environmental Ethics (Special Lecture)	2	非常勤講師 小林陸	6	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI306J				
◆ 授業題目	優生学の倫理				
◆ 目的・概要	本講義の主題は「優生学」である。一般に「優生学」とはナチス・ドイツなどに見られる人類選別のための特殊な思想と考えられているが、本来は善意に基づく社会改良運動の方法として生まれたものである。そうした意味での優生的な思想の根は現代医療においても完全に払拭されているということとはできない。本講義の目的は、優生学の誕生の歴史から現代日本の予防医学における優生的な要素に至るまで、優生学に関わる諸問題を展望することによって、我々の「内なる優生思想」に光を当てることにある。				
◆ 到達目標	〈教育目標〉優生学における基本問題を理解する。 〈到達目標〉優生的な諸問題について批判的に検討できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. 導入：なぜ優生学なのか？ 2. 生？権力という問題構制 3. 優生学とは何か？ 4. 各国における優生学運動 5. 優生学神話の解体 6. ドイツの民族衛生学 7. 障害者「安楽死」計画 8. ニュールンベルク綱領の意義 9. 現代の安楽死 10. 安楽死と自己決定 11. 日本の優生政策 12. 優生思想と中絶 13. 新しい優生技術 14. 積極的優生の現実化 15. 講義まとめ：「内なる優生思想」を超えて				
◇ 成績評価の方法	レスポンスカード(30%)、テストまたはレポート(70%)				
◇ 教科書・参考書	テキストは使用しません。プリントを配布します。 参考文献 M. フーコー『性の歴史1 知への意志』(新潮社)、M. アダムス『比較「優生学」史』(現代書館)、鈴木善次『日本の優生学』(三共出版株式会社)、E. クレー『第三帝国と安楽死』(批評社)、小俣和一郎『ナチスもう一つの大罪 「安楽死」とドイツ精神医学』(人文書院)など				
◇ 授業時間外学習	講義時に指示します。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	非常勤 講師 森 一 郎	5	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI313J				
◆ 授業題目	アーレント『革命について』を読む				
◆ 目的・概要	ハンナ・アーレントの『革命について』は、『人間の条件』（『活動的生』）に次ぐ、第二の哲学的名著であり、21世紀の今日、まさに読まれるべき根本書である。この授業では、英語版（1963年）とドイツ語版（1965年）との違いに留意し、とりわけドイツ語版の精読に努める。第二章「社会問題」を読んでゆく。 ・20世紀の古典的テキストを読み味わい、哲学的思考を鍛える。 ・哲学書の原典読解に堪える語学力を涵養する。 ・テキストの内容や問題点を整理して発表し質疑応答を交わす力を養う。 ・哲学の根本問題と現代日本の問題状況が直結していることを学ぶ。				
◆ 到達目標					
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーションとイントロダクション： アーレントと『革命について』 『革命について』第二章「社会問題」 その1：第1節（上）—ロベスピエールについて 『革命について』第二章「社会問題」 その2：第1節（中）—マルクスについて 『革命について』第二章「社会問題」 その3：第1節（下）—レーニンについて 『革命について』第二章「社会問題」 その4：第2節（上）—アメリカにおける貧困の問題 『革命について』第二章「社会問題」 その5：第2節（下）—アメリカにおける奴隷制の問題 『革命について』第二章「社会問題」 その6：第3節（I）—ロベスピエールとルソー 『革命について』第二章「社会問題」 その7：第3節（II）—利己主義という悪徳 『革命について』第二章「社会問題」 その8：第3節（III）—メルヴィル「ピリー・バッド」 『革命について』第二章「社会問題」 その9：第3節（IV）—ドストエフスキー「大審問官」 『革命について』第二章「社会問題」 その10：第4節（上）—同情から哀れみへ 『革命について』第二章「社会問題」 その11：第4節（中）—感傷の界限のなさ 『革命について』第二章「社会問題」 その12：第4節（下）—偽善という問題 『革命について』第二章「社会問題」にひそむもの： 同情によって自滅したフランス革命 まとめと展望： 第二章「社会問題」から第三章「幸福の追求」へ 				
◇ 成績評価の方法	平常点（出席、発表担当、議論への参加など）を70%、学期末レポートを30%として総合評価する。				
◇ 教科書・参考書	教科書（購入を勧めるが、プリントを配付することもある）：Hannah Arendt, On Revolution, Penguin Hannah Arendt, Über die Revolution, Piper 参考書（購入を勧める）：ハンナ・アーレント『革命について』志水速雄訳、ちくま学芸文庫				
◇ 授業時間外学習	毎回の講読範囲をあらかじめ熟読し、疑問点などはメモして、授業に臨むこと。また、授業後には読み直して理解を深めること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	教授 直 江 清 隆	5	月	3
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI313J				
◆ 授業題目	芸術作品の現象学				
◆ 目的・概要	芸術作品とはいかなる存在か、芸術作品における意味構成はどのような特徴があるのか。Roman Ingarden, Selected papers in aestheticsや Alfred Schutz, Collective Papers II に収められた諸論文は、文芸作品や音楽を題材に現象学の視野からこれらに切り込もうとするものであり、人工物論＝作品論、作品を媒介とした創作者と受容者の関係などを読み取れる、きわめて興味深いものである。この演習では、これらの論集からそれぞれ1本程度の論文を選び出し、丹念に読み解き、議論することを目標とする。テキストは英語を基本とし、必要に応じてドイツ語、日本語を併用する。				
◆ 到達目標	現象学や芸術作品の存在論の基本的な議論構成を理解し、自らの問題意識とつきあわせる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 報告と議論 芸術作品の意味構成(1) 報告と議論 芸術作品の意味構成(2) 報告と議論 芸術作品の意味構成(3) 報告と議論 芸術作品の意味構成(4) 報告と議論 芸術作品の意味構成(5) 報告と議論 芸術作品の意味構成(6) 報告と議論 芸術作品の存在論(1) 報告と議論 芸術作品の存在論(2) 報告と議論 芸術作品の存在論(3) 報告と議論 芸術作品の存在論(4) 報告と議論 芸術作品の存在論(5) 報告と議論 芸術作品の存在論(6) 総括討論(1) 総括討論(2) 				
◇ 成績評価の方法	レポート80% 授業への参加20%				
◇ 教科書・参考書	開講時にプリントを配布する。				
◇ 授業時間外学習	事前にテキストを読み、書かれていることを理解する。自らの問題意識にあわせ、周辺の文献を読む。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																								
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	教授 直 江 清 隆	5	金	5																								
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI313J																												
◆ 授業題目	自己と他者の現象学																												
◆ 目的・概要	自己や相互主観性は最近ふたたび注目を集めているテーマです。この演習では Dan Zahav, <i>Self and Other: Exploring Subjectivity, Empathy, and Shame</i> , 2015を読みすすめるでこの問題に対するアプローチの仕方を身につけていくことになります。この本は、現象学の伝統にある著作ですが、分析哲学や認知科学にも目を配っていて、たんに学説の解釈だけにとどまらない議論を展開しています。参加者の興味に応じて若干の変更はありますが、第一部自己と第三部間人格的な自己のいくつかの章を読みすすめる予定です。																												
◆ 到達目標	自己と他者に関する現象学をはじめとする諸アプローチの基本的な事項と問題を理解する。																												
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 報告と議論</td> <td>自己と他者の現象学(7)</td> </tr> <tr> <td>2. 報告と議論</td> <td>10. 報告と議論</td> <td>自己と他者の現象学(8)</td> </tr> <tr> <td>3. 報告と議論</td> <td>11. 報告と議論</td> <td>自己と他者の現象学(9)</td> </tr> <tr> <td>4. 報告と議論</td> <td>12. 間章</td> <td>現在の集合志向性論</td> </tr> <tr> <td>5. 報告と議論</td> <td>13. 報告と議論</td> <td>自己と他者の現象学(10)</td> </tr> <tr> <td>6. 報告と議論</td> <td>14. 報告と議論</td> <td>自己と他者の現象学(11)</td> </tr> <tr> <td>7. 間章</td> <td>15. 報告と議論</td> <td>自己と他者の現象学(12)</td> </tr> <tr> <td>8. 報告と議論</td> <td></td> <td>自己と他者の現象学(6)</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 報告と議論	自己と他者の現象学(7)	2. 報告と議論	10. 報告と議論	自己と他者の現象学(8)	3. 報告と議論	11. 報告と議論	自己と他者の現象学(9)	4. 報告と議論	12. 間章	現在の集合志向性論	5. 報告と議論	13. 報告と議論	自己と他者の現象学(10)	6. 報告と議論	14. 報告と議論	自己と他者の現象学(11)	7. 間章	15. 報告と議論	自己と他者の現象学(12)	8. 報告と議論		自己と他者の現象学(6)
1. オリエンテーション	9. 報告と議論	自己と他者の現象学(7)																											
2. 報告と議論	10. 報告と議論	自己と他者の現象学(8)																											
3. 報告と議論	11. 報告と議論	自己と他者の現象学(9)																											
4. 報告と議論	12. 間章	現在の集合志向性論																											
5. 報告と議論	13. 報告と議論	自己と他者の現象学(10)																											
6. 報告と議論	14. 報告と議論	自己と他者の現象学(11)																											
7. 間章	15. 報告と議論	自己と他者の現象学(12)																											
8. 報告と議論		自己と他者の現象学(6)																											
◇ 成績評価の方法	レポート80% 授業への参加20%																												
◇ 教科書・参考書	開講時に受講者に配布する。																												
◇ 授業時間外学習	事前にテキストを読み問題点を理解しておく。																												
その他：																													

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	准教授 荻 原 理	5	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI313J																				
◆ 授業題目	プラトン『パイドン』演習																				
◆ 目的・概要	(前年度に引き続き、本年度前期は) 92e4から、プラトン『パイドン』を原語(古代ギリシャ語)で丹念に読み進める。あらかじめ決めておいた担当者が担当箇所を日本語に訳す(わからなかった点はいくらでも質問してくれて結構)。教員も含め、皆で、文法事項や内容について議論する。翻訳・注釈も参照する。																				
◆ 到達目標	今学期読んだ箇所について、文法的に説明できるようになる。今学期読んだ箇所の内容について、明確に説明できるようになる。今学期読んだ箇所ので問題になっている哲学的問題(「魂=調和説」批判、自然学的原因論の批判)について、論じることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イン트로(パイドンのこれまでのあらすじ—特に、「魂=調和」説に基づくシミアスからソクラテスへの挑戦—の紹介を含む)</td> <td>8. 「魂=機織り」説に基づく、ケベスからソクラテスへの反論のおさらい(邦訳を用いて) 95b8-e1 読み</td> </tr> <tr> <td>2. (以下は目安。) 92e4-b3 読み</td> <td>9. 95e1-96b1 読み</td> </tr> <tr> <td>3. 92b4-d5 読み</td> <td>10. 96b1-d7 読み</td> </tr> <tr> <td>4. 92d6-94b3 読み</td> <td>11. 96d8-97b7 読み</td> </tr> <tr> <td>5. 94b4-d6 読み</td> <td>12. 95e9-97b7の話の内容について議論</td> </tr> <tr> <td>6. 94d6-95b6 読み</td> <td>13. 97b8-98a6 読み</td> </tr> <tr> <td>7. 92e4-95a4の議論の内容について議論95b5-8 読み</td> <td>14. 98a6-99a4 読み</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 99a4-d3 読み</td> </tr> </table>					1. イン트로(パイドンのこれまでのあらすじ—特に、「魂=調和」説に基づくシミアスからソクラテスへの挑戦—の紹介を含む)	8. 「魂=機織り」説に基づく、ケベスからソクラテスへの反論のおさらい(邦訳を用いて) 95b8-e1 読み	2. (以下は目安。) 92e4-b3 読み	9. 95e1-96b1 読み	3. 92b4-d5 読み	10. 96b1-d7 読み	4. 92d6-94b3 読み	11. 96d8-97b7 読み	5. 94b4-d6 読み	12. 95e9-97b7の話の内容について議論	6. 94d6-95b6 読み	13. 97b8-98a6 読み	7. 92e4-95a4の議論の内容について議論95b5-8 読み	14. 98a6-99a4 読み		15. 99a4-d3 読み
1. イン트로(パイドンのこれまでのあらすじ—特に、「魂=調和」説に基づくシミアスからソクラテスへの挑戦—の紹介を含む)	8. 「魂=機織り」説に基づく、ケベスからソクラテスへの反論のおさらい(邦訳を用いて) 95b8-e1 読み																				
2. (以下は目安。) 92e4-b3 読み	9. 95e1-96b1 読み																				
3. 92b4-d5 読み	10. 96b1-d7 読み																				
4. 92d6-94b3 読み	11. 96d8-97b7 読み																				
5. 94b4-d6 読み	12. 95e9-97b7の話の内容について議論																				
6. 94d6-95b6 読み	13. 97b8-98a6 読み																				
7. 92e4-95a4の議論の内容について議論95b5-8 読み	14. 98a6-99a4 読み																				
	15. 99a4-d3 読み																				
◇ 成績評価の方法	担当時のパフォーマンス：80% 担当時以外、授業中のパフォーマンス：20%																				
◇ 教科書・参考書	テキスト・注釈はプリントを配布する。それ以外の文献については授業中、随時紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	次回に読む箇所の予習																				
その他：古代ギリシャ語の初等文法を習得していることが参加の条件。ただし、覚え残しが多々あってもよい。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	准教授 荻原理	6	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI313J																				
◆ 授業題目	プラトン『パイドン』演習																				
◆ 目的・概要	前期に読み進めたところから引き続き、プラトン『パイドン』を原語（古代ギリシャ語）で丹念に読み進める。あらかじめ決めておいた担当者が担当箇所を日本語に訳す（わからなかった点はいくらでも質問してくれて結構）。教員も含め、皆で、文法事項や内容について議論する。翻訳・注釈も参照する。																				
◆ 到達目標	今学期読んだ箇所について、文法的に説明できるようになる。今学期読んだ箇所の内容について、明確に説明できるようになる。今学期読んだ箇所の問題になっている哲学的問題（おそらく、ヌース原因説やアイデア原因説）について、論じることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 前学期に首尾よく進んでいれば、アナクサゴラスのヌース原因説を読み終えているだろう。その場合には、それについて議論する。さもなければ読み進める。</td> <td>9. 読み進め(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 『パイドン』読み進め(1)</td> <td>10. 読み進め(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 読み進め(2)</td> <td>11. 読み進め(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 読み進め(3)</td> <td>12. 読み進め(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 読み進め(4)</td> <td>13. 読み進め(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 読み進め(5)</td> <td>14. 読み進め(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 読み進め(6)</td> <td>15. 読み進め(14)（ステファノス版102頁くらいまで進めるとよいと思う）</td> </tr> <tr> <td>8. 読み進め(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 前学期に首尾よく進んでいれば、アナクサゴラスのヌース原因説を読み終えているだろう。その場合には、それについて議論する。さもなければ読み進める。	9. 読み進め(8)	2. 『パイドン』読み進め(1)	10. 読み進め(9)	3. 読み進め(2)	11. 読み進め(10)	4. 読み進め(3)	12. 読み進め(11)	5. 読み進め(4)	13. 読み進め(12)	6. 読み進め(5)	14. 読み進め(13)	7. 読み進め(6)	15. 読み進め(14)（ステファノス版102頁くらいまで進めるとよいと思う）	8. 読み進め(7)	
1. 前学期に首尾よく進んでいれば、アナクサゴラスのヌース原因説を読み終えているだろう。その場合には、それについて議論する。さもなければ読み進める。	9. 読み進め(8)																				
2. 『パイドン』読み進め(1)	10. 読み進め(9)																				
3. 読み進め(2)	11. 読み進め(10)																				
4. 読み進め(3)	12. 読み進め(11)																				
5. 読み進め(4)	13. 読み進め(12)																				
6. 読み進め(5)	14. 読み進め(13)																				
7. 読み進め(6)	15. 読み進め(14)（ステファノス版102頁くらいまで進めるとよいと思う）																				
8. 読み進め(7)																					
◇ 成績評価の方法	担当時のパフォーマンス：80% 担当時以外、授業中のパフォーマンス：20%																				
◇ 教科書・参考書	テキスト・注釈はプリントを配布する。それ以外の文献については授業中、随時紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	次回に読む箇所の予習																				
その他：古代ギリシャ語の初等文法を習得していることが参加の条件。ただし、覚え残しが多々あってもよい。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	准教授 原 壘	5	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI313J																				
◆ 授業題目	自由意志論研究																				
◆ 目的・概要	20世紀イギリスの哲学者、ストローソン論文「自由と怒り」を精読し、感情に基づく責任と自由意志の概念について考察することがこの演習の目的である。																				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学文献を緻密に読解する能力を身につける。 2. 哲学文献の各自の解釈を要約的に文章表現する能力を身につける。 																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. インTRODククション</td> <td>9. 「自由と怒り」読解 8</td> </tr> <tr> <td>2. 「自由と怒り」読解 1</td> <td>10. 「自由と怒り」読解 9</td> </tr> <tr> <td>3. 「自由と怒り」読解 2</td> <td>11. 「自由と怒り」読解 10</td> </tr> <tr> <td>4. 「自由と怒り」読解 3</td> <td>12. 「自由と怒り」読解 11</td> </tr> <tr> <td>5. 「自由と怒り」読解 4</td> <td>13. 「自由と怒り」読解 12</td> </tr> <tr> <td>6. 「自由と怒り」読解 5</td> <td>14. 「自由と怒り」読解 13</td> </tr> <tr> <td>7. 「自由と怒り」読解 6</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「自由と怒り」読解 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. インTRODククション	9. 「自由と怒り」読解 8	2. 「自由と怒り」読解 1	10. 「自由と怒り」読解 9	3. 「自由と怒り」読解 2	11. 「自由と怒り」読解 10	4. 「自由と怒り」読解 3	12. 「自由と怒り」読解 11	5. 「自由と怒り」読解 4	13. 「自由と怒り」読解 12	6. 「自由と怒り」読解 5	14. 「自由と怒り」読解 13	7. 「自由と怒り」読解 6	15. まとめ	8. 「自由と怒り」読解 7	
1. インTRODククション	9. 「自由と怒り」読解 8																				
2. 「自由と怒り」読解 1	10. 「自由と怒り」読解 9																				
3. 「自由と怒り」読解 2	11. 「自由と怒り」読解 10																				
4. 「自由と怒り」読解 3	12. 「自由と怒り」読解 11																				
5. 「自由と怒り」読解 4	13. 「自由と怒り」読解 12																				
6. 「自由と怒り」読解 5	14. 「自由と怒り」読解 13																				
7. 「自由と怒り」読解 6	15. まとめ																				
8. 「自由と怒り」読解 7																					
◇ 成績評価の方法	出席して訳読を担当する（60%）、レポート（40%）																				
◇ 教科書・参考書	P. F. Strawson, 1962. "Freedom and Resentment," Proceedings of the British Academy, 48: 187-211.																				
◇ 授業時間外学習	自宅にて論文をあらかじめ熟読しておき、疑問点をまとめる。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	准教授 原 壘	6	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI313J				
◆ 授業題目	記号論理学				
◆ 目的・概要	一階述語論理の言語に習熟するとともに、タプローによる妥当性のチェック方法を学び、そのスキルを使用して日本語による推論の妥当性を検討できるようにすることがこの授業の目的である。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 記号論理学の背景にある基本的な考え方、概念を理解する。 2. 記号の操作法を身につける。 3. 日本語の推論の妥当性を検討する能力を身につける。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 記号について 3. 命題について 4. 命題の意味 5. 推論の妥当性 6. タプロー1 7. タプロー2 8. 多重量化 9. 自然言語から型式言語への翻訳 10. 数の数え方 11. 日本語による推論の妥当性1 12. 日本語による推論の妥当性2 13. 日本語による推論の妥当性3 14. タプローの健全性と完全性 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	出席し、課題を提出する (60%)、テスト (40%)				
◇ 教科書・参考書	加藤浩、土屋俊『記号論理学』放送大学教育振興会、2014年 丹治信春『論理学入門』筑摩書房、2014年				
◇ 授業時間外学習	自宅で、テキストを予習し、課題と取り組むこと				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	准教授 原 壘	5	火	3
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI313J				
◆ 授業題目	哲学的責任論研究				
◆ 目的・概要	古典的な責任概念によれば、自分が意図的に行った行為や、その行為から帰結すると予見される出来事に対してのみ私たちは責任をおう。この責任概念に基づくと、私たちが意図して引き起こした訳ではなく、ただ制度に従って生活を送ることで意図せず引き起こしてしまう不正義（例えば、先進国に属する人々が経済活動を行った結果として、発展途上国で生活している人々を貧困状態に陥らせること）について、その責任を問うことはできなくなる。アメリカの政治哲学者アイリス・マリオン・ヤングは、このような不正義を「構造的不正義」と呼び、構造的不正義を是正する責任を概念化しようとした。このヤングの責任論を、彼女の遺作『正義への責任』を精読することで、検討する。和訳を主に用い、英語原文を必要に応じて、参照する。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学文献を緻密に読解する能力を身につける。 2. 哲学文献の各自の解釈を要約的に文章表現する能力を身につける。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 『正義への責任』読解1 3. 『正義への責任』読解2 4. 『正義への責任』読解3 5. 『正義への責任』読解4 6. 『正義への責任』読解5 7. 『正義への責任』読解6 8. 『正義への責任』読解7 9. 『正義への責任』読解8 10. 『正義への責任』読解9 11. 『正義への責任』読解10 12. 『正義への責任』読解11 13. 『正義への責任』読解12 14. 『正義への責任』読解13 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レジュメによる発表を担当する (60%)、レポート (40%)				
◇ 教科書・参考書	Iris Marion Young, Responsibility for Justice (Oxford/New York: Oxford University Press: 2011). アイリス・マリオン・ヤング『正義への責任』(岡野八代・池田直子訳) 岩波書店、2014年。				
◇ 授業時間外学習	レジュメの担当者は、担当する箇所を精読して、その箇所で開催されている議論をまとめたレジュメを作成すること。レジュメ担当者以外は、次週に扱う箇所を精読し、内容を把握した上で、疑問点をまとめておくこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	准教授 原 壘	6	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI313J																				
◆ 授業題目	分析美学研究																				
◆ 目的・概要	美的対象に見いだされる様々な美的性質、例えば、優美さ、繊細さ、可憐さ、けばけばしたなどは、その対象の幾何学的性質や色彩的性質といった非美的性質とどのような関係にあるのだろうか。この問いを、シブリーによる分析美学の古典的論文「美的概念」を精読することで、考察する。																				
◆ 到達目標	1. 哲学文献を緻密に読解する能力を身につける。 2. 哲学文献の各自の解釈を要約的に文章表現する能力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 「美的概念」読解 8</td> </tr> <tr> <td>2. 「美的概念」読解 1</td> <td>10. 「美的概念」読解 9</td> </tr> <tr> <td>3. 「美的概念」読解 2</td> <td>11. 「美的概念」読解10</td> </tr> <tr> <td>4. 「美的概念」読解 3</td> <td>12. 「美的概念」読解11</td> </tr> <tr> <td>5. 「美的概念」読解 4</td> <td>13. 「美的概念」読解12</td> </tr> <tr> <td>6. 「美的概念」読解 5</td> <td>14. 「美的概念」読解13</td> </tr> <tr> <td>7. 「美的概念」読解 6</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「美的概念」読解 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 「美的概念」読解 8	2. 「美的概念」読解 1	10. 「美的概念」読解 9	3. 「美的概念」読解 2	11. 「美的概念」読解10	4. 「美的概念」読解 3	12. 「美的概念」読解11	5. 「美的概念」読解 4	13. 「美的概念」読解12	6. 「美的概念」読解 5	14. 「美的概念」読解13	7. 「美的概念」読解 6	15. まとめ	8. 「美的概念」読解 7	
1. イントロダクション	9. 「美的概念」読解 8																				
2. 「美的概念」読解 1	10. 「美的概念」読解 9																				
3. 「美的概念」読解 2	11. 「美的概念」読解10																				
4. 「美的概念」読解 3	12. 「美的概念」読解11																				
5. 「美的概念」読解 4	13. 「美的概念」読解12																				
6. 「美的概念」読解 5	14. 「美的概念」読解13																				
7. 「美的概念」読解 6	15. まとめ																				
8. 「美的概念」読解 7																					
◇ 成績評価の方法	出席して訳読を担当する (60%)、レポート (40%)																				
◇ 教科書・参考書	Frank Sibley, 1962. Aesthetic Concepts. Reprinted in: Frank Sibley, Approach to Aesthetics: Collected Papers on Philosophical Aesthetics. Oxford/New York, Oxford University Press. 2001 : 1-23.																				
◇ 授業時間外学習	自宅にて論文をあらかじめ熟読しておき、疑問点をまとめる。																				
その他 :																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																				
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	准教授 城 戸 淳	5	水	5																				
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI313J																								
◆ 授業題目	カントの超越論的演繹論(1)																								
◆ 目的・概要	カント『純粹理性批判』(1781/87年)における超越論的演繹論は、いかにしてカテゴリー(純粹悟性概念)が対象へと関わるかを説明することを試みるもので、アприオリな総合判断の客観的実在性を論証するという批判哲学のプロジェクトの肝になる箇所である。とはいえカント自身が「もっとも苦勞したところ」と記すとおり、この超越論的演繹論は、途方に暮れるような難解な論証が筋道の見えないままに結晶したかのような一節でもあり、古くからカント解釈の論争の中心地の一つであった。しかもここは第二版ではほぼ全面的に書き改められたので、二つの版での異同も検討の必要がある。演習では、前期は第一版の、後期は第二版の超越論的演繹論をドイツ語原文で読みすすめる(範囲は進捗状況に応じて変わる場合がある)。また、英語・ドイツ語・日本語等の各種コメンタリーや研究書・研究論文などを、輪番でレジュメにして紹介してもらう。																								
◆ 到達目標	哲学テキストを読む忍耐力と咀嚼力を身につける。カントの超越論的演繹論の骨子を理解したうえで、みずから思考し、表現する力を養う。																								
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入と問題設定</td> <td>11. 4 アプリオリな認識としてのカテゴリーの可能性についての予備的説明</td> </tr> <tr> <td>2. 第一節 (§13) 超越論的演繹一般の原理について(1)</td> <td>12. 第三節 対象一般への悟性の関係について、対象一般をアプリオリに説明する可能性について(1)</td> </tr> <tr> <td>3. (§13) 超越論的演繹一般の原理について(2)</td> <td>13. 対象一般への悟性の関係について、対象一般をアプリオリに説明する可能性について(2)</td> </tr> <tr> <td>4. (§14) カテゴリーの超越論的演繹への移行</td> <td>14. 純粹悟性概念のこの演繹が正当で、唯一可能であることの要約提示</td> </tr> <tr> <td>5. 第二節 経験の可能性のためのアプリオリな諸根拠について</td> <td>15. 第一版超越論的演繹論の総括と考察</td> </tr> <tr> <td>6. 予備的注意</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. 1 直観における把握の総合について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 2 想像における再生の総合について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 3 概念における再認の総合について(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10. 3 概念における再認の総合について(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入と問題設定	11. 4 アプリオリな認識としてのカテゴリーの可能性についての予備的説明	2. 第一節 (§13) 超越論的演繹一般の原理について(1)	12. 第三節 対象一般への悟性の関係について、対象一般をアプリオリに説明する可能性について(1)	3. (§13) 超越論的演繹一般の原理について(2)	13. 対象一般への悟性の関係について、対象一般をアプリオリに説明する可能性について(2)	4. (§14) カテゴリーの超越論的演繹への移行	14. 純粹悟性概念のこの演繹が正当で、唯一可能であることの要約提示	5. 第二節 経験の可能性のためのアプリオリな諸根拠について	15. 第一版超越論的演繹論の総括と考察	6. 予備的注意		7. 1 直観における把握の総合について		8. 2 想像における再生の総合について		9. 3 概念における再認の総合について(1)		10. 3 概念における再認の総合について(2)	
1. 導入と問題設定	11. 4 アプリオリな認識としてのカテゴリーの可能性についての予備的説明																								
2. 第一節 (§13) 超越論的演繹一般の原理について(1)	12. 第三節 対象一般への悟性の関係について、対象一般をアプリオリに説明する可能性について(1)																								
3. (§13) 超越論的演繹一般の原理について(2)	13. 対象一般への悟性の関係について、対象一般をアプリオリに説明する可能性について(2)																								
4. (§14) カテゴリーの超越論的演繹への移行	14. 純粹悟性概念のこの演繹が正当で、唯一可能であることの要約提示																								
5. 第二節 経験の可能性のためのアプリオリな諸根拠について	15. 第一版超越論的演繹論の総括と考察																								
6. 予備的注意																									
7. 1 直観における把握の総合について																									
8. 2 想像における再生の総合について																									
9. 3 概念における再認の総合について(1)																									
10. 3 概念における再認の総合について(2)																									
◇ 成績評価の方法	出席、邦訳や担当発表の達成度、討議の貢献度などを総合的に判定する。																								
◇ 教科書・参考書	Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.																								
◇ 授業時間外学習	予習を欠かさず、各種の訳書、コメンタリーや研究書などに目を通して演習に臨むこと。																								
その他 :																									

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	准教授 城 戸 淳	6	水	5
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI313J				
◆ 授業題目	カントの超越論的演繹論(2)				
◆ 目的・概要	カント『純粹理性批判』(1781/87年)における超越論的演繹論は、いかにしてカテゴリー(純粹悟性概念)が対象へと関わるかを説明することを試みるもので、アプリアリな総合判断の客観的実在性を論証するという批判哲学のプロジェクトの肝になる箇所である。とはいえカント自身が「もっとも苦勞したところ」と記すとおり、この超越論的演繹論は、途方に暮れるような難解な論証が筋道の見えないままに結晶したかのような一節でもあり、古くからカント解釈の論争の中心地の一つであった。しかもここは第二版ではほぼ全面的に書き改められたので、二つの版での異同も検討の必要がある。演習では、前期は第一版の、後期は第二版の超越論的演繹論をドイツ語原文で読みすすめる(範囲は進捗状況に応じて変わる場合がある)。また、英語・ドイツ語・日本語等の各種コメントリーや研究書・研究論文などを、輪番でレジュメにして紹介してもらう。				
◆ 到達目標	哲学テキストを読む忍耐力と咀嚼力を身につける。カントの超越論的演繹論の骨子を理解したうえで、みずから思考し、表現する力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第二節 §15 総合一般の可能性について 2. §16 統覚の根源的=総合的統一について 3. §17 統覚の総合的統一の原則があらゆる悟性概念の最上の原理である 4. §18 自己意識の客観的統一とは何か 5. §19 あらゆる判断の論理的形式は、判断に含まれる諸概念が統覚によって客観的に統一されることに存する 6. §20 すべての感性的直観はカテゴリーの下に立ち、カテゴリーとはその下でのみ感性的直観の多様が意識において総括される条件である 7. §21 註記 8. §22 カテゴリーには、経験の対象へと適用される以外には、物の認識のために使用されない 9. §23 10. §24 感官の対象一般へのカテゴリーの適用について 11. §25 12. §26 純粹悟性概念の一般に可能な経験使用についての超越論的演繹 13. §27 悟性概念のこの演繹の成果 14. この演繹の短い総括 15. 第二版超越論的演繹論の総括と考察 				
◇ 成績評価の方法	出席、邦訳や担当発表の達成度、討議の貢献度などを総合的に判定する。				
◇ 教科書・参考書	Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.				
◇ 授業時間外学習	予習を欠かさず、各種の訳書、コメントリーや研究書などに目を通して演習に臨むこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	准教授 城 戸 淳	5	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI313J				
◆ 授業題目	ホッブズ=プラムホール論争と近代の自由意志論(1)				
◆ 目的・概要	ホッブズ=プラムホール論争とは、17世紀中頃に、いわば中世から近代への時代の断絶面を露呈するように展開された、自由意志をめぐる名高い論争である。デリーにて主教を務め、中世スコラ哲学以来の伝統的な自由意志論を擁護するジョン・プラムホールと、唯物論的な決定論を打ち出しつつ、たんに妨げられない意志の実現にのみ自由を認めるトマス・ホッブズとの論争は、今日にいたるまで自由意志の問題を考えるための最良の題材である。さらには、この論争を起点にして、近代のさまざまな哲学者の自由意志論へと考察の幅を広げてゆくこともできよう。演習ではこの論争の英語原文をレジュメ形式で要約してもらいつつ読みすすめる。またそれと並行して、近代における自由意志の代表的な哲学説を報告してもらい、自由意志論の切り口から近代哲学史への知見を深めたい。				
◆ 到達目標	ホッブズ=プラムホール論争の骨子を把握し、近代のさまざまな自由意志論を学ぶ。その成果をふまえて、みずから問題を思考し、表現する力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス—導入と問題設定 2. プラムホールの自由と必然性をめぐる論考(1) 3. プラムホールの自由と必然性をめぐる論考(2) 4. プラムホールの自由と必然性をめぐる論考(3) 5. プラムホールの自由と必然性をめぐる論考(4) 6. ホッブズ『自由と必然性について』(1) 7. ホッブズ『自由と必然性について』(2) 8. ホッブズ『自由と必然性について』(3) 9. ホッブズ『自由と必然性について』(4) 10. 中世スコラ哲学における自由意志論の構図 11. エラスムスとルターの自由意志論 12. 近世スコラ哲学における自由と摂理 13. デカルトにおける自発性の自由と無差別の自由 14. スピノザの汎神論的運命論 15. 総括と考察 				
◇ 成績評価の方法	出席、担当と発表、討議(以上50%)と期末のレポート(50%)による。				
◇ 教科書・参考書	Vere Chappell (ed.), Hobbes and Bramhall on Liberty and Necessity, Cambridge: Cambridge University Press, 1999. (必要な部分はコピーで配布する。)				
◇ 授業時間外学習	発表のときに思い切って全力を投入することももちろん、担当の回でなくとも予習を欠かさず出席し、討議に参加するように努めることで、徐々に哲学的な体力が鍛えられるだろう。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	准教授 城 戸 淳	6	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI313J				
◆ 授業題目	ホッブズ＝ブラムホール論争と近代の自由意志論(2)				
◆ 目的・概要	ホッブズ＝ブラムホール論争とは、近代の初期に、いわば中世から近代への時代の断絶面を露呈するように展開された、自由意志をめぐる名高い論争である。デリーにて主教を務め、中世スコラ哲学以来の伝統的な自由意志論を擁護するジョン・ブラムホールと、唯物論的な決定論を打ち出しつつ、たんに妨げられない意志の実現にのみ自由を認めるトマス・ホッブズとの論争は、今日にいたるまで自由意志の問題を考えるための最良の題材である。さらには、この論争を起点にして、近代のさまざまな哲学者の自由意志論へと考察の幅を広げてゆくこともできよう。演習ではこの論争の英語原文をレジュメ形式で要約してもらいつつ読みすすめる。またそれと並行して、近代における自由意志の代表的な哲学説を報告してもらい、自由意志論の切り口から近代哲学史への知見を深めたい。				
◆ 到達目標	ホッブズ＝ブラムホール論争の骨子を把握し、近代のさまざまな自由意志論を学ぶ。その成果をふまえて、みずから問題を思考し、表現する力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス—導入と問題設定 2. ブラムホール『真の自由の擁護』(1) 3. ブラムホール『真の自由の擁護』(2) 4. ブラムホール『真の自由の擁護』(3) 5. ブラムホール『真の自由の擁護』(4) 6. ホッブズ『自由、必然、偶然をめぐる諸問題』(1) 7. ホッブズ『自由、必然、偶然をめぐる諸問題』(2) 8. ホッブズ『自由、必然、偶然をめぐる諸問題』(3) 9. ホッブズ『自由、必然、偶然をめぐる諸問題』(4) 10. ロックにおける熟慮と欲望の停止 11. ライブニッツの可能世界論 12. ヒュームにおける情念と自由 13. カントの第三アンチノミーと自律 14. シェリングにおける悪と無底 15. 総括と考察 				
◇ 成績評価の方法	出席、担当と発表、討議（以上50%）と期末のレポート（50%）による。				
◇ 教科書・参考書	Vere Chappell (ed.), <i>Hobbes and Bramhall on Liberty and Necessity</i> , Cambridge: Cambridge University Press, 1999. (必要な部分はコピーで配布する。)				
◇ 授業時間外学習	発表のときに思い切って全力を投入することはもちろん、担当の回でなくとも予習を欠かさずに出席し、討議に参加するように努めることで、徐々に哲学的な体力が鍛えられるだろう。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	助教 佐 藤 駿	5	木	4
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI313J				
◆ 授業題目	フッサール『デカルト的省察』を読む				
◆ 目的・概要	<p>【目的】ドイツ語で書かれた哲学のテキストを原文で読み、その内容を理解する能力を涵養するとともに、フッサール現象学の考え方を学びつつ、自ら哲学するための手がかりを見つける。</p> <p>【概要】Edmund Husserl 著、Cartesianische Meditationen の“V. Meditation: Entfaltung der transzendentalen Seinssphäre als monadologische Intersubjektivität”を原文で読む。第1回および第2回は講義形式を取り、フッサール現象学について概説を与える。その後は適当な部分ごとに担当者をあらかじめ決め、担当者が授業内でテキストを訳読するかたちで進める。もちろん不明点・問題点があれば（ないという事は絶対にないので）それを取り上げて議論する時間を適宜はさむ。ドイツ語に慣れない学生は邦訳を参照してもよいが、わからないところはわからないというのでいいので、まずはドイツ語のテキストと格闘してほしい。</p>				
◆ 到達目標	(1)ドイツ語のテキストを読むことに慣れる。 (2)フッサールの現象学について簡単な説明を与えることができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション(1)。フッサールその人と彼の現象学について簡単な解説を与える。 2. イントロダクション(2)。フッサールの観念論について考え、問主観性の問題を導入する。 3. 第42節を読む。 4. 第43節を読む。 5. 第44節を読む(1)。 6. 第44節を読む(2)。 7. 第44節を読む(3)。 8. 第44節を読む(4)。 9. 第45節を読む。 10. 第46節を読む(1)。 11. 第46節を読む(2)。 12. 第47節を読む。 13. 第48節を読む。 14. 第49節を読む。 15. 第50節を読む。 				
◇ 成績評価の方法	訳読の担当（50%）+授業全体への貢献度（50%）。				
◇ 教科書・参考書	Edmund Husserl, <i>Cartesianische Meditationen und Pariser Vorträge</i> . Husserliana I, hrsg. von S. Strasser, 2. Auflage. Kluwer Academic Publishers, 1991. [邦訳：『デカルト的省察』浜渦辰二訳、岩波書店（岩波文庫）、2001年] そのほかの参考文献についてはそのつど授業内で指示する。				
◇ 授業時間外学習	担当でない場合でも予習をすること。図書館、インターネットなどを駆使して、自分なりにフッサール現象学について調べてみる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
哲 学 思 想 演 習 Western Philosophical Thought (Seminar)	2	助教 佐藤 駿	6	木	4																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMPHI313J フッサール『デカルト的省察』を読む 【目的】ドイツ語で書かれた哲学のテキストを原文で読み、その内容を理解する能力を涵養するとともに、フッサール現象学の考え方を学びつつ、自ら哲学するための手がかりを見つける。 【概要】Edmund Husserl 著、Cartesianische Meditationen の“V. Meditation: Entfaltung der transzendentalen Seinssphäre als monadologische Intersubjektivität”を原文で読む。適当な部分ごとに担当者をあらかじめ決め、担当者が授業内でテキストを訳読するかたちで進める。もちろん不明点・問題点があれば（ないということは絶対にならないので）それを取り上げて議論する時間を適宜はさむ。ドイツ語に慣れない学生は邦訳を参照してもよいが、わからないところはわからないというのでいいので、まずはドイツ語のテキストと格闘してほしい。 （なお、本演習は同じ教員による前期の哲学思想演習の続きであることを想定している。前期の当該演習を履修していない場合は自分でそれなりに勉強しておくこと。）																				
◆ 到達目標	(1)ドイツ語のテキストを読むことに慣れる。 (2)フッサールの現象学について簡単な説明を与えることができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 第51節を読む。</td> <td>9. 第57節を読む。</td> </tr> <tr> <td>2. 第52節を読む。</td> <td>10. 第58節を読む(1)。</td> </tr> <tr> <td>3. 第53節を読む。</td> <td>11. 第58節を読む(2)。</td> </tr> <tr> <td>4. 第54節を読む。</td> <td>12. 第59節を読む。</td> </tr> <tr> <td>5. 第55節を読む(1)。</td> <td>13. 第60節を読む。</td> </tr> <tr> <td>6. 第55節を読む(2)。</td> <td>14. 第61節を読む。</td> </tr> <tr> <td>7. 第55節を読む(3)。</td> <td>15. 第62節を読む。</td> </tr> <tr> <td>8. 第56節を読む。</td> <td></td> </tr> </table>					1. 第51節を読む。	9. 第57節を読む。	2. 第52節を読む。	10. 第58節を読む(1)。	3. 第53節を読む。	11. 第58節を読む(2)。	4. 第54節を読む。	12. 第59節を読む。	5. 第55節を読む(1)。	13. 第60節を読む。	6. 第55節を読む(2)。	14. 第61節を読む。	7. 第55節を読む(3)。	15. 第62節を読む。	8. 第56節を読む。	
1. 第51節を読む。	9. 第57節を読む。																				
2. 第52節を読む。	10. 第58節を読む(1)。																				
3. 第53節を読む。	11. 第58節を読む(2)。																				
4. 第54節を読む。	12. 第59節を読む。																				
5. 第55節を読む(1)。	13. 第60節を読む。																				
6. 第55節を読む(2)。	14. 第61節を読む。																				
7. 第55節を読む(3)。	15. 第62節を読む。																				
8. 第56節を読む。																					
◇ 成績評価の方法	訳読の担当（50%）+ 授業全体への貢献度（50%）。																				
◇ 教科書・参考書	Edmund Husserl. Cartesianische Meditationen und Pariser Vorträge. Husserliana I, hrsg. von S. Strasser, 2. Auflage. Kluwer Academic Publishers, 1991. [邦訳：『デカルト的省察』浜渦辰二訳、岩波書店（岩波文庫）、2001年] そのほかの参考文献についてはそのつど授業内で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	担当でない場合でも予習をすること。図書館、インターネットなどを駆使して、自分なりにフッサール現象学について調べてみる。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
生 命 環 境 倫 理 学 演 習 Bio-Environmental Ethics (Seminar)	2	非常勤 講師 大北 全 俊 圓 増 文	5	水	1																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMPHI314J 人権をめぐる生命倫理文献（英語）講読 この授業では、人権をキーワードに、それにまつわる生命倫理の議論や課題を扱った文献を取り上げます。具体的には、おもに下記二つを基本テキストとし、その中から論文をセレクトして、1) 要約担当者の発表を基に受講者全体で講読をした上で、2) 要約担当者の問題提起に基づいて受講者全体で日本語でディスカッションを行います。 ・ R.Crufrum and S.M. Liao, M. Renzo(eds.) 2015. Philosophical Foundations of Human Rights, Oxford UP. ・ S.Anand and F. Peter, A. Sen(eds.) 2009. Public Health, Ethics, and Equity, Oxford UP.																				
◆ 到達目標	・ 人権にまつわる生命倫理の諸問題を扱った英語文献を講読することを通じて、英語文献に対する読解力を身につけると共に、生命倫理の基本概念・論点について学ぶ。 ・ 文献の中で扱われている問題について論理的に検討し、自らの見解を、筋道を立てて説明するための技術を身につける。 ・ 他人の見解を聞いた上で、問題を一緒に検討していくために必要なディスカッションの技術を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス（授業の進め方、予習上の注意、テキストの配布、要約担当の割り当て）</td> <td>9. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(1)</td> <td>10. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(2)</td> <td>11. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(3)</td> <td>12. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(4)</td> <td>13. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(5)</td> <td>14. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(6)</td> <td>15. まとめと解説</td> </tr> <tr> <td>8. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス（授業の進め方、予習上の注意、テキストの配布、要約担当の割り当て）	9. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(8)	2. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(1)	10. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(9)	3. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(2)	11. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(10)	4. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(3)	12. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(11)	5. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(4)	13. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(12)	6. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(5)	14. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(13)	7. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(6)	15. まとめと解説	8. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(7)	
1. ガイダンス（授業の進め方、予習上の注意、テキストの配布、要約担当の割り当て）	9. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(8)																				
2. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(1)	10. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(9)																				
3. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(2)	11. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(10)																				
4. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(3)	12. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(11)																				
5. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(4)	13. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(12)																				
6. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(5)	14. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(13)																				
7. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(6)	15. まとめと解説																				
8. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(7)																					
◇ 成績評価の方法	報告、ディスカッション、数回の小レポートによる平常点（60%）と、最終レポート（40%）で評価します。																				
◇ 教科書・参考書	教科書：必要なテキストはコピーして配布します。 参考書：授業中に紹介します。																				
◇ 授業時間外学習	予習は必須です。受講者全員があらかじめ授業で講読予定の箇所を読んできてください。レジュメ担当になった場合は、該当箇所のレジュメを作成してください（受講者全員が1回以上担当予定）。定期的に（月一回程度）レポート課題を出します。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
倫 理 思 想 概 論 Western Ethical Thought (General Lecture)	2	教 授 戸 島 貴 代 志	3	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI207J				
◆ 授業題目	現象学・倫理学通論				
◆ 目的・概要	ものは、〈外側から〉眺められ、〈内側から〉生きられる。前者すなわち〈表象する思考〉は対象から距離をとる客観的思考を目指し、後者すなわち〈遂行する思考〉は対象そのものと一つになる主体的思考を目指す。講義では、両者の中庸に本来の現象学的思考が位置することを説明し、倫理学の原点には常にかかる中庸が控えていることを、「外側から捉えることと内側から捉えること」という内容を中心にして解明する。				
◆ 到達目標	広い意味での哲学的思考における最も基本的な二つのものの見方の理解を得ること				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外側からとらえることと内側からとらえること 2. 思考の枠組み 3. 個と全体、全体と場所 4. 生きた言葉と死んだ言葉 5. 部分と全体 6. 語られるもの・示されるもの 7. みずから・おのずから 8. 目立たぬもの 9. 出来上がったもの・出来つつあるもの 10. 存在と所有 11. 問題と神秘 12. 強者と弱者 13. 時間のサイズと空間のサイズ 14. 出会い 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	出席3割、レポート7割				
◇ 教科書・参考書	ベルクソン『思想と動くもの』ハイデガー『存在と時間』戸島貴代志『創造と想起』（以上は参考図書）				
◇ 授業時間外学習	講義内容の復讐を中心に学習する。				
その他：オフィスアワーは昼休み					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
倫 理 思 想 概 論 Western Ethical Thought (General Lecture)	2	非 常 勤 講 師 池 田 準	4	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI207J				
◆ 授業題目	倫理学の基礎				
◆ 目的・概要	私たちは日常生活の様々な場面で自分自身の倫理的判断を求められる問題に直面します。この授業では、そのような問題を理論的に分析し、自らの立場を説得的なものとして構築する上で必要となる倫理的知識と考え方を紹介します。授業でとりあげるのは「善」「自由」「規範」「幸福」といった基本概念が中心ですが、それらに関連する西洋の倫理思想史的背景を踏まえた解説も行います。				
◆ 到達目標	(1)倫理問題を検討する上で前提となる基本的な知識と考え方を身につける。 (2)倫理的な問題設定を自分で行い、異なる立場の者と理論的な議論・応答ができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：倫理学は何を問い、どのように考えるのか 2. モラル・センス学派と道徳感情論：シャフツベリ、ハチスン、ヒューム、スミス 3. 功利主義(1)：古典的な功利主義、ベンサム、J.S.ミル 4. 功利主義(2)：功利主義の展開、選好充足説、規則功利主義、二層理論 5. 義務論(1)：カント倫理学における規範の正当化、定言命法 6. 義務論(2)：カント倫理学における道徳的動機づけ、自律、理性主義 7. 中間のまとめ：功利主義と義務論の争点、両者の問題点 ここまでの授業内容に対する質問への応答 8. 徳倫理(1)：「徳」に関する思想史的背景 9. 徳倫理(2)：現代の徳倫理学 10. メタ倫理学(1)：認知主義・非認知主義、実在論・反実在論 11. メタ倫理学(2)：道徳的動機づけに関する内在主義・外在主義 12. 現代の正義論：社会契約説、ロールズ、セン 13. リバタリアニズムと共同体主義 14. 規範倫理学の批判的整理ここまでの授業内容に対する質問への応答 15. まとめ：「よく生きる」とはどういうことか 学期末試験 				
◇ 成績評価の方法	学期末試験（100%）				
◇ 教科書・参考書	教科書は不要です（毎回、授業資料を配布します）。参考書は講義のなかで適宜紹介します。				
◇ 授業時間外学習	授業ではいくつかの主要な問いを提示しますが、講義で解説した倫理思想や参考文献をもとにしてそれらの問いに対する自分自身の回答と根拠、予想される反論に対する応答を考えておくようにして下さい。学期末試験ではそれらの問いのなかから問題を出します。				
特別な予備知識は不要です。適宜質問票を配布して授業で紹介した倫理思想についての質問を受け付け、それに答える機会を授業中に設けますので、自分自身の問題意識を持って授業に臨んでください。 オフィスアワーは金曜日の講義直後の時間（16：10-17：00）とします。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																																
倫 理 思 想 基 礎 講 読 Western Ethical Thought (Introductory Reading)	2	教 授 戸 島 貴 代 志	3	月	2																																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI215J																																				
◆ 授業題目	総合演習：「生の哲学」と「実存思想」																																				
◆ 目的・概要	<p>1) ベルクソンの『思想と動くもの』を精読する。このテキストは、ベルクソンがみずからの主要著作の全体を極めてわかりやすくまとめた講演・論文集であるが、ベルクソン自身によるベルクソン研究の羅針盤ともなっている。初学者にも配慮された文体はフランス語の教科書としても多用されるほど語彙や文法のバランスがよい。参加者には、比喩を多用するベルクソンの文章に取り残されない想像力と、彼の柔軟な概念規定を理解する等しく柔軟な論理的思考力が要求されるが、基本的には、フランス語の修養も兼ねた、息の長い骨太の思考の訓練の場として臨んでもらいたい。</p> <p>2) ニーチェ、マルセル、ジンメル、メルロ＝ポンティ等を含めて、「生の哲学」と「実存思想」の異同を確認する。</p> <p>3) 第二外国語がフランス語以外の学生にも配慮する。</p>																																				
◆ 到達目標	「生の哲学」と「実存思想」との射程と異同を理解する。																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>1</td> <td>9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>2</td> <td>10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>3</td> <td>11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>4</td> <td>12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>5</td> <td>13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>6</td> <td>14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>7</td> <td>15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	1	9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	9	2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	2	10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	10	3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	3	11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	11	4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	4	12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	12	5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	5	13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	13	6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	6	14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	14	7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	7	15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	15	8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	8		
1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	1	9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	9																																		
2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	2	10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	10																																		
3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	3	11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	11																																		
4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	4	12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	12																																		
5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	5	13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	13																																		
6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	6	14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	14																																		
7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	7	15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	15																																		
8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	8																																				
◇ 成績評価の方法	発表5割、出席5割																																				
◇ 教科書・参考書	ベルクソン、マルセル、メルロ＝ポンティ等のテキストを授業時に指示する。																																				
◇ 授業時間外学習	テキストを読み、授業に備える。																																				
その他：オフィスアワーは昼休み																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																																
倫 理 思 想 基 礎 講 読 Western Ethical Thought (Introductory Reading)	2	教 授 戸 島 貴 代 志	4	月	2																																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI215J																																				
◆ 授業題目	総合演習：「生の哲学」と「実存思想」																																				
◆ 目的・概要	<p>1) ベルクソンの『思想と動くもの』を精読する。このテキストは、ベルクソンがみずからの主要著作の全体を極めてわかりやすくまとめた講演・論文集であるが、ベルクソン自身によるベルクソン研究の羅針盤ともなっている。初学者にも配慮された文体はフランス語の教科書としても多用されるほど語彙や文法のバランスがよい。参加者には、比喩を多用するベルクソンの文章に取り残されない想像力と、彼の柔軟な概念規定を理解する等しく柔軟な論理的思考力が要求されるが、基本的には、フランス語の修養も兼ねた、息の長い骨太の思考の訓練の場として臨んでもらいたい。</p> <p>2) ニーチェ、マルセル、ジンメル、メルロ＝ポンティ等を含めて、「生の哲学」と「実存思想」の異同を確認する。</p> <p>3) 第二外国語がフランス語以外の学生にも配慮する。</p>																																				
◆ 到達目標	「生の哲学」と「実存思想」との射程と異同を理解する。																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>1</td> <td>9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>2</td> <td>10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>3</td> <td>11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>4</td> <td>12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>5</td> <td>13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>6</td> <td>14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>7</td> <td>15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	1	9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	9	2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	2	10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	10	3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	3	11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	11	4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	4	12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	12	5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	5	13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	13	6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	6	14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	14	7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	7	15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	15	8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	8		
1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	1	9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	9																																		
2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	2	10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	10																																		
3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	3	11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	11																																		
4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	4	12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	12																																		
5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	5	13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	13																																		
6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	6	14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	14																																		
7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	7	15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	15																																		
8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	8																																				
◇ 成績評価の方法	発表5割、出席5割																																				
◇ 教科書・参考書	ベルクソン、マルセル、メルロ＝ポンティ等のテキストを授業時に指示する。																																				
◇ 授業時間外学習	テキストを読み、授業に備える。																																				
その他：オフィスアワーは昼休み																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
倫 理 思 想 基 礎 講 読 Western Ethical Thought (Introductory Reading)	2	准教授 村 山 達 也	3	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI215J																				
◆ 授業題目	倫理学研究のレッスン(1)																				
◆ 目的・概要	この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。最初の10回程度は、教員が選んだテキスト（前期は日本語）をもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。また、最後の5回程度は、みなさんに自分の問題関心にもとづいた発表を行っていただき、それをもとに議論します（前後期を通して全員が一回は発表することが望ましい）。																				
◆ 到達目標	(1)哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。 (2)哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第1章(1)</td> </tr> <tr> <td>2. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(1)</td> <td>10. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第1章(2)</td> </tr> <tr> <td>3. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(2)</td> <td>11. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第1章(3)</td> </tr> <tr> <td>4. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(3)</td> <td>12. 発表と討論(1)</td> </tr> <tr> <td>5. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(4)</td> <td>13. 発表と討論(2)</td> </tr> <tr> <td>6. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(5)</td> <td>14. 発表と討論(3)</td> </tr> <tr> <td>7. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』序章(1)</td> <td>15. 発表と討論(4)</td> </tr> <tr> <td>8. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』序章(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第1章(1)	2. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(1)	10. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第1章(2)	3. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(2)	11. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第1章(3)	4. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(3)	12. 発表と討論(1)	5. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(4)	13. 発表と討論(2)	6. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(5)	14. 発表と討論(3)	7. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』序章(1)	15. 発表と討論(4)	8. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』序章(2)	
1. ガイダンス	9. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第1章(1)																				
2. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(1)	10. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第1章(2)																				
3. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(2)	11. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第1章(3)																				
4. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(3)	12. 発表と討論(1)																				
5. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(4)	13. 発表と討論(2)																				
6. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(5)	14. 発表と討論(3)																				
7. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』序章(1)	15. 発表と討論(4)																				
8. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』序章(2)																					
◇ 成績評価の方法	報告、討論、数回のコメントペーパーによる平常点（60％）と、最後の発表ないしレポート（40％）で評価します。必要なものはすべてプリントで配布します。参考書は演習内で指示します。																				
◇ 教科書・参考書	必要なものはすべてプリントで配布します。参考書は演習内で指示します。																				
◇ 授業時間外学習	事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員およびTAに相談し、レジュメについてアドバイスを受けるようにして下さい。																				
その他：具体的な進め方は初回の授業のときに説明します。（哲学基礎講読と合併で授業します）倫理学専修の2年生は必ず履修するようにして下さい。他の専修の方は初回時に教員とご相談ください。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
倫 理 思 想 基 礎 講 読 Western Ethical Thought (Introductory Reading)	2	教授 戸 島 貴 代 志	4	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI215J																				
◆ 授業題目	哲学研究のレッスン(2)																				
◆ 目的・概要	この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。最初の10回程度は、教員が選んだテキスト（後期は英語）をもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。また、最後の5回程度は、みなさんに自分の問題関心にもとづいた発表を行っていただき、それをもとに議論します（前後期を通して全員が一回は発表することが望ましい）。																				
◆ 到達目標	(1)哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。 (2)哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(3)</td> </tr> <tr> <td>2. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(1)</td> <td>10. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(4)</td> </tr> <tr> <td>3. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(2)</td> <td>11. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(4)</td> </tr> <tr> <td>4. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(3)</td> <td>12. 発表と討論(1)</td> </tr> <tr> <td>5. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(4)</td> <td>13. 発表と討論(2)</td> </tr> <tr> <td>6. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(5)</td> <td>14. 発表と討論(3)</td> </tr> <tr> <td>7. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(1)</td> <td>15. 発表と討論(4)</td> </tr> <tr> <td>8. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(3)	2. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(1)	10. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(4)	3. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(2)	11. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(4)	4. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(3)	12. 発表と討論(1)	5. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(4)	13. 発表と討論(2)	6. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(5)	14. 発表と討論(3)	7. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(1)	15. 発表と討論(4)	8. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(2)	
1. ガイダンス	9. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(3)																				
2. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(1)	10. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(4)																				
3. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(2)	11. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(4)																				
4. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(3)	12. 発表と討論(1)																				
5. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(4)	13. 発表と討論(2)																				
6. David J. Chalmers “The Singularity: A Philosophical Analysis” の人格の同一性に関する議論(5)	14. 発表と討論(3)																				
7. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(1)	15. 発表と討論(4)																				
8. Thomas Nagel, The Limits of Objectivity, I. The Mind(2)																					
◇ 成績評価の方法	報告、討論、数回のコメントペーパーによる平常点（60％）と、最後の発表ないしレポート（40％）で評価します。必要なものはすべてプリントで配布します。参考書は演習内で指示します。																				
◇ 教科書・参考書	必要なものはすべてプリントで配布します。参考書は演習内で指示します。																				
◇ 授業時間外学習	事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員およびTAに相談し、レジュメについてアドバイスを受けるようにして下さい。																				
その他：具体的な進め方は初回の授業のときに説明します。（哲学基礎講読と合併で授業します）倫理学専修の2年生は必ず履修するようにして下さい。他の専修の方は初回時に教員とご相談ください。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																								
倫 理 思 想 各 論 Western Ethical Thought (Special Lecture)	2	教授 戸 島 貴 代 志	6	火	2																								
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI307J																												
◆ 授業題目	実存と構造																												
◆ 目的・概要	実存思想が現代フランス哲学の一方の極をなすとしたなら、もう一方の極は構造主義あるいはポスト構造主義である。学的理念や概念を打ち破る生そのものの動性を重視した「生の哲学」を、個人における生のダイナミズムの重視という点ではむしろ徹底させたのが実存思想であった。この「実存」の観念に抗するようにして出現したのが「構造」あるいは「システム」の観念である。いわば個人の英断もその個人の属する共同体の社会システムや生物学的システム等に解消される、これが構造主義の基本的な主張である。そしてこの「構造」もやがて閉じた構造となるかぎり、これを一種の主体性の変種とみなし、そうした構造の根幹をなすもののひとつである「言語」についてのラディカルな反省を企てたのがポスト構造主義であった。本講義は、倫理思想概論で展開された「ものの見方」についての諸点を、実存主義、構造主義、ポスト構造主義の思想形成に沿って取り上げなおし、「生の哲学」における「生」の概念について、より広範な現代哲学的視点から再考する。																												
◆ 到達目標	倫理思想概論で展開された「ものの見方」についての諸点を、実存主義、構造主義、ポスト構造主義の思想形成に沿って取り上げなおすことを通じて、「生の哲学」における「生」の概念をより広範な現代哲学的視点から理解する。																												
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 生の哲学における「生」の概念</td> <td>9. 構造の概念について</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>2. もの二つの見方</td> <td>10. ポスト構造主義</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>3. もの二つの見方</td> <td>11. ポスト構造主義</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>4. もの二つの見方</td> <td>12. 「生」についての現代的視点</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>5. もの二つの見方</td> <td>13. 「生」についての現代的視点</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>6. 実存の概念について</td> <td>14. 生と実存と構造</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. 実存の概念について</td> <td>15. まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 構造の概念について</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 生の哲学における「生」の概念	9. 構造の概念について	2	2. もの二つの見方	10. ポスト構造主義	1	3. もの二つの見方	11. ポスト構造主義	2	4. もの二つの見方	12. 「生」についての現代的視点	1	5. もの二つの見方	13. 「生」についての現代的視点	2	6. 実存の概念について	14. 生と実存と構造		7. 実存の概念について	15. まとめ		8. 構造の概念について		
1. 生の哲学における「生」の概念	9. 構造の概念について	2																											
2. もの二つの見方	10. ポスト構造主義	1																											
3. もの二つの見方	11. ポスト構造主義	2																											
4. もの二つの見方	12. 「生」についての現代的視点	1																											
5. もの二つの見方	13. 「生」についての現代的視点	2																											
6. 実存の概念について	14. 生と実存と構造																												
7. 実存の概念について	15. まとめ																												
8. 構造の概念について																													
◇ 成績評価の方法	出席5割、レポート5割																												
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。																												
◇ 授業時間外学習	講義内容の確認と復讐。																												
その他：オフィスアワーは昼休み。																													

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
倫 理 思 想 各 論 Western Ethical Thought (Special Lecture)	2	非常勤講師 梶 谷 真 司	集 中 (5)																		
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI307J																				
◆ 授業題目	「現象学と比較文化～東洋的なものへの視角」																				
◆ 目的・概要	哲学は普遍的な真理を求めるが、人間の経験や理解の仕方は、時代や文化によって異なる。だとすれば、哲学はこうした歴史的文化的条件による違いをどのように捉えるのか。本講義では、この問題を現象学の立場からアプローチし、その方法、対象、射程について、より開かれた可能性を探る。そのさい、たんに理論的なことだけでなく、実際に時代も文化も違う事象を取り上げ、比較文化的な分析を通して、今日の私たちのあり方を考察する。																				
◆ 到達目標	普遍性を追求する哲学において軽視されがちな、人間の経験の歴史的文化的な差異についての問題意識をもつようにする。また専門の文献読解になりがちな哲学の研究を、他の分野の様々な資料を取り込みつつ豊かなものにしていく。そのさい現象学についての理解を深めるとともに、そのより広い可能性について考察する。さらにディスカッションのなかで、既成の知識にとらわれずに、自由に議論ができることを目指す。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 経験の普遍性と固有性へのアプローチ 人間の経験には普遍的な部分と、時代や社会に固有な部分がある。普遍的真理を追究する哲学は、こうした特殊性をどのように捉えるのか。</td> <td>9. 現象学と歴史学 現象学では、直接経験可能なものに依拠する。ではそれが不可能な過去や異文化の世界はどのように接近しうるのか。</td> </tr> <tr> <td>2. 哲学の問題と現実の問題 現実の問題は、哲学その他の専門的な学問と異なり、領域的な区分をもたない。そうした乖離を哲学はどのように埋められるのか。</td> <td>10. 近代以前の人間観 日本において近代化は西洋化であったが、それ以前の生活世界はどのようなものだったか。それはどのようにして捉えられるか。</td> </tr> <tr> <td>3. 理論知と実践知 理論的に捉えられたものと経験されたものは、しばしばずれているが、経験と理論はどのような関係にあるのか。</td> <td>11. ディスカッション(3) 近代以前の東洋の人間観から逆照射した場合、近代、現代の人間や身体はどのような特徴を持つか。それは自明なものか。</td> </tr> <tr> <td>4. ディスカッション(1) 普遍性と固有性、哲学と現実、理論と実践の関係について、受講者に事例を出してもらい、ディスカッションを行う。</td> <td>12. 医学から見ると西洋と東洋の違い 人間についての具体的理解の手掛かりとして医学を取り上げる。そこに西洋と東洋の違いはどのように現れるか。</td> </tr> <tr> <td>5. 現象学とは何か 現象学は元来、私たちの経験をできるだけそのままに捉えようとしてきた。そこで生の固有性、現実性はどのように捉えられるか。</td> <td>13. 身体論としての養生書・育児書(1) 養生書や育児書は、近代化・西洋化以前の生活が多面的に現れる。そこから当時のどのような人間観、身体観が読み取られるか。</td> </tr> <tr> <td>6. 現象学の可能性 フッサールやハイデガーといった古典に加え、ヘルマン・シュミッツも含めると、現象学はどのような射程を持つのか。</td> <td>14. 身体論としての養生書・育児書(2) 近代化・西洋化は人間観、身体経験にどのような変化をもたらしたか。その哲学的な含意はどのようなものか。</td> </tr> <tr> <td>7. 身体と感情の現象学 身体や感情は、現象学によって初めて正面から論じられたテーマであるが、その哲学的含意、可能性はどのようなものか。</td> <td>15. ディスカッション(4) 近代化・西洋化の以前と以後の人間観の変化について、受講者から問題点を出してもらい、それについてディスカッションを行う。</td> </tr> <tr> <td>8. ディスカッション(2) 現象学とは何かについて、受講者から問題点を出してもらい、それについてディスカッションを行う。</td> <td></td> </tr> </table>					1. 経験の普遍性と固有性へのアプローチ 人間の経験には普遍的な部分と、時代や社会に固有な部分がある。普遍的真理を追究する哲学は、こうした特殊性をどのように捉えるのか。	9. 現象学と歴史学 現象学では、直接経験可能なものに依拠する。ではそれが不可能な過去や異文化の世界はどのように接近しうるのか。	2. 哲学の問題と現実の問題 現実の問題は、哲学その他の専門的な学問と異なり、領域的な区分をもたない。そうした乖離を哲学はどのように埋められるのか。	10. 近代以前の人間観 日本において近代化は西洋化であったが、それ以前の生活世界はどのようなものだったか。それはどのようにして捉えられるか。	3. 理論知と実践知 理論的に捉えられたものと経験されたものは、しばしばずれているが、経験と理論はどのような関係にあるのか。	11. ディスカッション(3) 近代以前の東洋の人間観から逆照射した場合、近代、現代の人間や身体はどのような特徴を持つか。それは自明なものか。	4. ディスカッション(1) 普遍性と固有性、哲学と現実、理論と実践の関係について、受講者に事例を出してもらい、ディスカッションを行う。	12. 医学から見ると西洋と東洋の違い 人間についての具体的理解の手掛かりとして医学を取り上げる。そこに西洋と東洋の違いはどのように現れるか。	5. 現象学とは何か 現象学は元来、私たちの経験をできるだけそのままに捉えようとしてきた。そこで生の固有性、現実性はどのように捉えられるか。	13. 身体論としての養生書・育児書(1) 養生書や育児書は、近代化・西洋化以前の生活が多面的に現れる。そこから当時のどのような人間観、身体観が読み取られるか。	6. 現象学の可能性 フッサールやハイデガーといった古典に加え、ヘルマン・シュミッツも含めると、現象学はどのような射程を持つのか。	14. 身体論としての養生書・育児書(2) 近代化・西洋化は人間観、身体経験にどのような変化をもたらしたか。その哲学的な含意はどのようなものか。	7. 身体と感情の現象学 身体や感情は、現象学によって初めて正面から論じられたテーマであるが、その哲学的含意、可能性はどのようなものか。	15. ディスカッション(4) 近代化・西洋化の以前と以後の人間観の変化について、受講者から問題点を出してもらい、それについてディスカッションを行う。	8. ディスカッション(2) 現象学とは何かについて、受講者から問題点を出してもらい、それについてディスカッションを行う。	
1. 経験の普遍性と固有性へのアプローチ 人間の経験には普遍的な部分と、時代や社会に固有な部分がある。普遍的真理を追究する哲学は、こうした特殊性をどのように捉えるのか。	9. 現象学と歴史学 現象学では、直接経験可能なものに依拠する。ではそれが不可能な過去や異文化の世界はどのように接近しうるのか。																				
2. 哲学の問題と現実の問題 現実の問題は、哲学その他の専門的な学問と異なり、領域的な区分をもたない。そうした乖離を哲学はどのように埋められるのか。	10. 近代以前の人間観 日本において近代化は西洋化であったが、それ以前の生活世界はどのようなものだったか。それはどのようにして捉えられるか。																				
3. 理論知と実践知 理論的に捉えられたものと経験されたものは、しばしばずれているが、経験と理論はどのような関係にあるのか。	11. ディスカッション(3) 近代以前の東洋の人間観から逆照射した場合、近代、現代の人間や身体はどのような特徴を持つか。それは自明なものか。																				
4. ディスカッション(1) 普遍性と固有性、哲学と現実、理論と実践の関係について、受講者に事例を出してもらい、ディスカッションを行う。	12. 医学から見ると西洋と東洋の違い 人間についての具体的理解の手掛かりとして医学を取り上げる。そこに西洋と東洋の違いはどのように現れるか。																				
5. 現象学とは何か 現象学は元来、私たちの経験をできるだけそのままに捉えようとしてきた。そこで生の固有性、現実性はどのように捉えられるか。	13. 身体論としての養生書・育児書(1) 養生書や育児書は、近代化・西洋化以前の生活が多面的に現れる。そこから当時のどのような人間観、身体観が読み取られるか。																				
6. 現象学の可能性 フッサールやハイデガーといった古典に加え、ヘルマン・シュミッツも含めると、現象学はどのような射程を持つのか。	14. 身体論としての養生書・育児書(2) 近代化・西洋化は人間観、身体経験にどのような変化をもたらしたか。その哲学的な含意はどのようなものか。																				
7. 身体と感情の現象学 身体や感情は、現象学によって初めて正面から論じられたテーマであるが、その哲学的含意、可能性はどのようなものか。	15. ディスカッション(4) 近代化・西洋化の以前と以後の人間観の変化について、受講者から問題点を出してもらい、それについてディスカッションを行う。																				
8. ディスカッション(2) 現象学とは何かについて、受講者から問題点を出してもらい、それについてディスカッションを行う。																					
◇ 成績評価の方法	事前の準備、出席、授業中の討論への参加度により総合的に評価する。																				
◇ 教科書・参考書	事前資料「媒介者としての感情—シュミッツ現象学から見た感情の意義」、『現象学年報』（日本現象学会編）第22号、7-16頁。「江戸時代における身体観の文化とその哲学的意義—蘭医方以前と以後の育児書を手掛かりにして」、『実存思想論集XXIII アジアから問う実存』（実存思想協会編）第2期15号、103-119頁。参考書 梶谷真司「シュミッツ現象学の根本問題—身体と感情からの思索」（京都大学学術出版会）2002年「集合心性と異他性—民俗世界の現象学」、小川侃編『雰開気と集合心性』（京都大学学術出版会）2001年 上記事前資料に目を通していただく。																				
◇ 授業時間外学習																					
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
倫 理 思 想 各 論 Western Ethical Thought (Special Lecture)	2	准教授 村山達也	5	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI307J																				
◆ 授業題目	17世紀大陸合理主義の倫理学																				
◆ 目的・概要	デカルト、スピノザ、ライプニッツを中心とした、いわゆる大陸合理主義は、自己や神、存在、真理などの主題をめぐる形而上学的な議論をさまざまに展開しましたが、そうした議論との密接な関連のもと、徳、利他性、幸福といった倫理的な主題についても考察を行なっています。この講義では、上記三人を軸に、彼らの形而上学的主張はいかなるものであり、そこからいかなる倫理的主張が、いかにして導き出されたのかを検討します。上記三人についてそれぞれ、概観を一回行なったあと、短いテキストの集中的な読解を行ないます。デカルトは『情念論』の一五二～一五六節（高邁と利他性について）、スピノザは『エチカ』の第四部定理三七（徳と利他性について）、ライプニッツは『理性に基づく自然と恩寵の原理』の一部（神の存在証明と世界の最善性について）を取り上げる予定です。参加者の積極的な発言を歓迎します。なお、理解度を確認し、その深化を図るため、毎回アンケートを取り（成績とは無関係）、質問に答える回を設けます。																				
◆ 到達目標	(1)17世紀大陸合理主義の基礎知識を身につける。 (2)倫理学上の問題についてそこでなされた主張や議論の基礎知識を身につける。 (3)テキストを読んで、議論を再構成し、批判的に検討する能力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>9. 『エチカ』読解</td> </tr> <tr> <td>2. 合理主義とは何か</td> <td>10. 質問への応答</td> </tr> <tr> <td>3. デカルト概観</td> <td>11. ライプニッツ概観</td> </tr> <tr> <td>4. 『情念論』読解</td> <td>12. 『理性に基づく自然と恩寵の原理』読解</td> </tr> <tr> <td>5. 『情念論』読解</td> <td>13. 『理性に基づく自然と恩寵の原理』読解</td> </tr> <tr> <td>6. 質問への応答</td> <td>14. 質問への応答</td> </tr> <tr> <td>7. スピノザ概観</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 『エチカ』読解</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	9. 『エチカ』読解	2. 合理主義とは何か	10. 質問への応答	3. デカルト概観	11. ライプニッツ概観	4. 『情念論』読解	12. 『理性に基づく自然と恩寵の原理』読解	5. 『情念論』読解	13. 『理性に基づく自然と恩寵の原理』読解	6. 質問への応答	14. 質問への応答	7. スピノザ概観	15. まとめ	8. 『エチカ』読解	
1. 導入	9. 『エチカ』読解																				
2. 合理主義とは何か	10. 質問への応答																				
3. デカルト概観	11. ライプニッツ概観																				
4. 『情念論』読解	12. 『理性に基づく自然と恩寵の原理』読解																				
5. 『情念論』読解	13. 『理性に基づく自然と恩寵の原理』読解																				
6. 質問への応答	14. 質問への応答																				
7. スピノザ概観	15. まとめ																				
8. 『エチカ』読解																					
◇ 成績評価の方法	学期末のレポートのみで評価します（書き方と評価法については講義内で説明します）。																				
◇ 教科書・参考書	教科書は不要です（必要なものはプリントを配布します）。参考書は講義内で適宜紹介します。																				
◇ 授業時間外学習	テキストや参考書を事前に読解する。																				
その他：特別な予備知識は不要です。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																																
倫 理 思 想 演 習 Western Ethical Thought (Seminar)	2	教授 戸島貴代志	5	月	2																																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI315J																																				
◆ 授業題目	総合演習：「生の哲学」と「実存思想」																																				
◆ 目的・概要	<p>1) ベルクソンの『思想と動くもの』を精読する。このテキストは、ベルクソンがみずからの主要著作の全体を極めてわかりやすくまとめた講演・論文集であるが、ベルクソン自身によるベルクソン研究の羅針盤ともなっている。初学者にも配慮された文体はフランス語の教科書としても多用されるほど語彙や文法のバランスがよい。参加者には、比喩を多用するベルクソンの文章に取り残されない想像力と、彼の柔軟な概念規定を理解する等しく柔軟な論理的思考力が要求されるが、基本的には、フランス語の修養も兼ねた、息の長い骨太の思考の訓練の場として臨んでもらいたい。</p> <p>2) ニーチェ、マルセル、ジンメル、メルロ＝ポンティ等を含めて、「生の哲学」と「実存思想」の異同を確認する。</p> <p>3) 第二外国語がフランス語以外の学生にも配慮する。</p>																																				
◆ 到達目標	「生の哲学」と「実存思想」との射程と異同を理解する。																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>1</td> <td>9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>2</td> <td>10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>3</td> <td>11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>4</td> <td>12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>5</td> <td>13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>6</td> <td>14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>7</td> <td>15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	1	9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	9	2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	2	10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	10	3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	3	11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	11	4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	4	12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	12	5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	5	13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	13	6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	6	14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	14	7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	7	15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	15	8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	8		
1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	1	9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	9																																		
2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	2	10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	10																																		
3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	3	11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	11																																		
4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	4	12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	12																																		
5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	5	13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	13																																		
6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	6	14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	14																																		
7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	7	15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	15																																		
8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	8																																				
◇ 成績評価の方法	発表5割、出席5割																																				
◇ 教科書・参考書	ベルクソン、マルセル、メルロ＝ポンティ等のテキストを授業時に指示する。																																				
◇ 授業時間外学習	テキストを読み、授業に備える。																																				
その他：オフィスアワーは昼休み																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																																
倫 理 思 想 演 習 Western Ethical Thought (Seminar)	2	教授 戸 島 貴代志	6	月	2																																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI315J																																				
◆ 授業題目	総合演習：「生の哲学」と「実存思想」																																				
◆ 目的・概要	<p>1) ベルクソンの『思想と動くもの』を精読する。このテキストは、ベルクソンがみずからの主要著作の全体を極めてわかりやすくまとめた講演・論文集であるが、ベルクソン自身によるベルクソン研究の羅針盤ともなっている。初学者にも配慮された文体はフランス語の教科書としても多用されるほど語彙や文法のバランスがよい。参加者には、比喩を多用するベルクソンの文章に取り残されない想像力と、彼の柔軟な概念規定を理解する等しく柔軟な論理的思考力が要求されるが、基本的には、フランス語の修養も兼ねた、息の長い骨太の思考の訓練の場として臨んでもらいたい。</p> <p>2) ニーチェ、マルセル、ジンメル、メルロ＝ポンティ等を含めて、「生の哲学」と「実存思想」の異同を確認する。</p> <p>3) 第二外国語がフランス語以外の学生にも配慮する。</p>																																				
◆ 到達目標	「生の哲学」と「実存思想」との射程と異同を理解する。																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>1</td> <td>9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>2</td> <td>10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>3</td> <td>11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>4</td> <td>12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>5</td> <td>13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>6</td> <td>14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>7</td> <td>15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	1	9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	9	2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	2	10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	10	3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	3	11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	11	4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	4	12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	12	5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	5	13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	13	6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	6	14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	14	7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	7	15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	15	8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	8		
1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	1	9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	9																																		
2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	2	10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	10																																		
3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	3	11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	11																																		
4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	4	12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	12																																		
5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	5	13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	13																																		
6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	6	14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	14																																		
7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	7	15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	15																																		
8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	8																																				
◇ 成績評価の方法	発表5割、出席5割																																				
◇ 教科書・参考書	ベルクソン、マルセル、メルロ＝ポンティ等のテキストを授業時に指示する。																																				
◇ 授業時間外学習	テキストを読み、授業に備える。																																				
その他：オフィスアワーは昼休み																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																																
倫 理 思 想 演 習 Western Ethical Thought (Seminar)	2	教授 戸 島 貴代志	5	水	4																																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI315J																																				
◆ 授業題目	総合演習：「現象学」と「存在論」																																				
◆ 目的・概要	<p>1) ハイデガーの『存在と時間』を精読する。本年度は、テキストでは「世界内存在」「被投」「企投」「言葉」「死」「不安」といった概念が中心となる。前年度に引き続き、そのつどハイデガーの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。</p> <p>2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガーの存在概念とその探求方法とを通して解明する。</p> <p>3) ドイツ語を第2外国語としていない学生にも配慮する。</p>																																				
◆ 到達目標	ハイデガーの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>1</td> <td>9. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>2. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>2</td> <td>10. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>3. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>3</td> <td>11. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>4. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>4</td> <td>12. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>5. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>5</td> <td>13. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>6. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>6</td> <td>14. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>7. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>7</td> <td>15. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>8. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 総合演習：「現象学」と「存在論」	1	9. 総合演習：「現象学」と「存在論」	9	2. 総合演習：「現象学」と「存在論」	2	10. 総合演習：「現象学」と「存在論」	10	3. 総合演習：「現象学」と「存在論」	3	11. 総合演習：「現象学」と「存在論」	11	4. 総合演習：「現象学」と「存在論」	4	12. 総合演習：「現象学」と「存在論」	12	5. 総合演習：「現象学」と「存在論」	5	13. 総合演習：「現象学」と「存在論」	13	6. 総合演習：「現象学」と「存在論」	6	14. 総合演習：「現象学」と「存在論」	14	7. 総合演習：「現象学」と「存在論」	7	15. 総合演習：「現象学」と「存在論」	15	8. 総合演習：「現象学」と「存在論」	8		
1. 総合演習：「現象学」と「存在論」	1	9. 総合演習：「現象学」と「存在論」	9																																		
2. 総合演習：「現象学」と「存在論」	2	10. 総合演習：「現象学」と「存在論」	10																																		
3. 総合演習：「現象学」と「存在論」	3	11. 総合演習：「現象学」と「存在論」	11																																		
4. 総合演習：「現象学」と「存在論」	4	12. 総合演習：「現象学」と「存在論」	12																																		
5. 総合演習：「現象学」と「存在論」	5	13. 総合演習：「現象学」と「存在論」	13																																		
6. 総合演習：「現象学」と「存在論」	6	14. 総合演習：「現象学」と「存在論」	14																																		
7. 総合演習：「現象学」と「存在論」	7	15. 総合演習：「現象学」と「存在論」	15																																		
8. 総合演習：「現象学」と「存在論」	8																																				
◇ 成績評価の方法	発表7割、出席3割。																																				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。																																				
◇ 授業時間外学習	テキストを読み、授業に備える。																																				
その他：オフィスアワーは昼休み。																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																																
倫 理 思 想 演 習 Western Ethical Thought (Seminar)	2	教授 戸 島 貴代志	6	水	4																																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI315J																																				
◆ 授業題目	総合演習：「現象学」と「存在論」																																				
◆ 目的・概要	1) ハイデガーの『存在と時間』を精読する。本年度は、テキストでは「世界内存在」「被投」「企投」「言葉」「死」「不安」といった概念が中心となる。前年度に引き続き、そのつどハイデガーの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。 2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガーの存在概念とその探求方法とを通して解明する。 3) ドイツ語を第2外国語としていない学生にも配慮する。																																				
◆ 到達目標	ハイデガーの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>1</td> <td>9. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>2. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>2</td> <td>10. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>3. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>3</td> <td>11. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>4. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>4</td> <td>12. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>5. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>5</td> <td>13. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>6. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>6</td> <td>14. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>7. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>7</td> <td>15. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>8. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 総合演習：「現象学」と「存在論」	1	9. 総合演習：「現象学」と「存在論」	9	2. 総合演習：「現象学」と「存在論」	2	10. 総合演習：「現象学」と「存在論」	10	3. 総合演習：「現象学」と「存在論」	3	11. 総合演習：「現象学」と「存在論」	11	4. 総合演習：「現象学」と「存在論」	4	12. 総合演習：「現象学」と「存在論」	12	5. 総合演習：「現象学」と「存在論」	5	13. 総合演習：「現象学」と「存在論」	13	6. 総合演習：「現象学」と「存在論」	6	14. 総合演習：「現象学」と「存在論」	14	7. 総合演習：「現象学」と「存在論」	7	15. 総合演習：「現象学」と「存在論」	15	8. 総合演習：「現象学」と「存在論」	8		
1. 総合演習：「現象学」と「存在論」	1	9. 総合演習：「現象学」と「存在論」	9																																		
2. 総合演習：「現象学」と「存在論」	2	10. 総合演習：「現象学」と「存在論」	10																																		
3. 総合演習：「現象学」と「存在論」	3	11. 総合演習：「現象学」と「存在論」	11																																		
4. 総合演習：「現象学」と「存在論」	4	12. 総合演習：「現象学」と「存在論」	12																																		
5. 総合演習：「現象学」と「存在論」	5	13. 総合演習：「現象学」と「存在論」	13																																		
6. 総合演習：「現象学」と「存在論」	6	14. 総合演習：「現象学」と「存在論」	14																																		
7. 総合演習：「現象学」と「存在論」	7	15. 総合演習：「現象学」と「存在論」	15																																		
8. 総合演習：「現象学」と「存在論」	8																																				
◇ 成績評価の方法	発表7割、出席3割。																																				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。																																				
◇ 授業時間外学習	テキストを読み、授業に備える。																																				
その他：オフィスアワーは昼休み。																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																																
倫 理 思 想 演 習 Western Ethical Thought (Seminar)	2	非常勤講師 森 一 郎	5	火	3																																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI315J																																				
◆ 授業題目	アレント革命論研究																																				
◆ 目的・概要	ハンナ・アレントの『革命について』は、『人間の条件』（『活動的生』）に次ぐ、第二の哲学的名著であり、21世紀の今日、まさに読まれるべき根本書である。この授業では、英語版（1963年）とドイツ語版（1965年）との違いに留意し、とりわけドイツ語版の精読に努める。第二章「社会問題」を読んでゆく。 ・20世紀の古典的テキストを読み味わい、哲学的思考を鍛える。 ・哲学書の原典読解に堪える語学力を涵養する。 ・テキストの内容や問題点を整理して発表し質疑応答を交わす力を養う。 ・哲学の根本問題と現代日本の問題状況が直結していることを学ぶ。																																				
◆ 到達目標																																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーションとイントロダクション： アレントと『革命について』</td> <td></td> <td>9. 『革命について』第二章「社会問題」 その8：第3節（Ⅲ）—メルヴィル『ピラー・バッド』</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 『革命について』第二章「社会問題」 その1：第1節（上）—ロベスピエールについて</td> <td></td> <td>10. 『革命について』第二章「社会問題」 その9：第3節（Ⅳ）—ドストエフスキー「大審問官」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 『革命について』第二章「社会問題」 その2：第1節（中）—マルクスについて</td> <td></td> <td>11. 『革命について』第二章「社会問題」 その10：第4節（上）—同情から哀れみへ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 『革命について』第二章「社会問題」 その3：第1節（下）—レーニンについて</td> <td></td> <td>12. 『革命について』第二章「社会問題」 その11：第4節（中）—感傷の際限のなさ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 『革命について』第二章「社会問題」 その4：第2節（上）—アメリカにおける貧困の問題</td> <td></td> <td>13. 『革命について』第二章「社会問題」 その12：第4節（下）—偽善という問題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 『革命について』第二章「社会問題」 その5：第2節（下）—アメリカにおける奴隷制の問題</td> <td></td> <td>14. 『革命について』第二章「社会問題」にひそむもの： 同情によって自滅したフランス革命</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. 『革命について』第二章「社会問題」 その6：第3節（Ⅰ）—ロベスピエールとルソー</td> <td></td> <td>15. まとめと展望：第二章「社会問題」から第三章「幸福の追求」へ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 『革命について』第二章「社会問題」 その7：第3節（Ⅱ）—利己主義という悪徳</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーションとイントロダクション： アレントと『革命について』		9. 『革命について』第二章「社会問題」 その8：第3節（Ⅲ）—メルヴィル『ピラー・バッド』		2. 『革命について』第二章「社会問題」 その1：第1節（上）—ロベスピエールについて		10. 『革命について』第二章「社会問題」 その9：第3節（Ⅳ）—ドストエフスキー「大審問官」		3. 『革命について』第二章「社会問題」 その2：第1節（中）—マルクスについて		11. 『革命について』第二章「社会問題」 その10：第4節（上）—同情から哀れみへ		4. 『革命について』第二章「社会問題」 その3：第1節（下）—レーニンについて		12. 『革命について』第二章「社会問題」 その11：第4節（中）—感傷の際限のなさ		5. 『革命について』第二章「社会問題」 その4：第2節（上）—アメリカにおける貧困の問題		13. 『革命について』第二章「社会問題」 その12：第4節（下）—偽善という問題		6. 『革命について』第二章「社会問題」 その5：第2節（下）—アメリカにおける奴隷制の問題		14. 『革命について』第二章「社会問題」にひそむもの： 同情によって自滅したフランス革命		7. 『革命について』第二章「社会問題」 その6：第3節（Ⅰ）—ロベスピエールとルソー		15. まとめと展望：第二章「社会問題」から第三章「幸福の追求」へ		8. 『革命について』第二章「社会問題」 その7：第3節（Ⅱ）—利己主義という悪徳			
1. オリエンテーションとイントロダクション： アレントと『革命について』		9. 『革命について』第二章「社会問題」 その8：第3節（Ⅲ）—メルヴィル『ピラー・バッド』																																			
2. 『革命について』第二章「社会問題」 その1：第1節（上）—ロベスピエールについて		10. 『革命について』第二章「社会問題」 その9：第3節（Ⅳ）—ドストエフスキー「大審問官」																																			
3. 『革命について』第二章「社会問題」 その2：第1節（中）—マルクスについて		11. 『革命について』第二章「社会問題」 その10：第4節（上）—同情から哀れみへ																																			
4. 『革命について』第二章「社会問題」 その3：第1節（下）—レーニンについて		12. 『革命について』第二章「社会問題」 その11：第4節（中）—感傷の際限のなさ																																			
5. 『革命について』第二章「社会問題」 その4：第2節（上）—アメリカにおける貧困の問題		13. 『革命について』第二章「社会問題」 その12：第4節（下）—偽善という問題																																			
6. 『革命について』第二章「社会問題」 その5：第2節（下）—アメリカにおける奴隷制の問題		14. 『革命について』第二章「社会問題」にひそむもの： 同情によって自滅したフランス革命																																			
7. 『革命について』第二章「社会問題」 その6：第3節（Ⅰ）—ロベスピエールとルソー		15. まとめと展望：第二章「社会問題」から第三章「幸福の追求」へ																																			
8. 『革命について』第二章「社会問題」 その7：第3節（Ⅱ）—利己主義という悪徳																																					
◇ 成績評価の方法	平常点（出席、発表担当、議論への参加など）を70%、学期末レポートを30%として総合評価する。																																				
◇ 教科書・参考書	教科書（購入を勧めるが、プリントを配付することもある）：Hannah Arendt, On Revolution, Penguin Hannah Arendt, Über die Revolution, Piper 参考書（購入を勧める）：ハンナ・アレント『革命について』志水速雄訳、ちくま学芸文庫																																				
◇ 授業時間外学習	毎回の講読範囲をあらかじめ熟読し、疑問点などはメモして、授業に臨むこと。また、授業後には読み直して理解を深めること。																																				
その他：																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
倫 理 思 想 演 習 Western Ethical Thought (Seminar)	2	准教授 村山達也	5	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI315J																				
◆ 授業題目	フランス哲学演習(1) ライブニッツ『モノドロジー』																				
◆ 目的・概要	ライブニッツ (1646-1716年) が晩年の1714年に自らの形而上学をまとめた論考『モノドロジー』を読みます。担当者が作成した訳と要約を検討し、次いで、担当者や参加者が挙げる問題点について議論する、というかたちで進めます。主に用いるのはフランス語テキストですが、フランス語が(あまり)読めない方には英語の注釈の要約を担当していただきます。初回にガイダンスを行い、詳細を決めますので、参加希望者は必ず出席してください。2015年度からの継続で、今年度は第53節から読み進めます。ただし、既に読んだ分についてははじめに概観しますので、今年度からの参加ももちろん歓迎です。テキストはMichel Fichantが校訂した版(Folio, Gallimard)を用います。注釈として主に参照するのは、この版に付されたものと、Rescher, G. W. Leibniz's Monadology: An Edition for Student (University of Pittsburgh Press) です。																				
◆ 到達目標	(1)外国語で書かれた哲学書を、注釈も活用しつつ、正確に読解できるようになる。 (2)そこで展開されている議論を再構成し、洞察を引き出したり問題を取り出したりできるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>9. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> </tr> <tr> <td>2. 『モノドロジー』 読解</td> <td>10. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> </tr> <tr> <td>3. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> <td>11. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> </tr> <tr> <td>4. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> <td>12. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> </tr> <tr> <td>5. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> <td>13. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> </tr> <tr> <td>6. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> <td>14. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> </tr> <tr> <td>7. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> <td>15. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> </tr> <tr> <td>8. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	9. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	2. 『モノドロジー』 読解	10. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	3. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	11. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	4. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	12. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	5. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	13. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	6. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	14. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	7. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	15. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	8. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	
1. 導入	9. 『モノドロジー』 読解 (つづき)																				
2. 『モノドロジー』 読解	10. 『モノドロジー』 読解 (つづき)																				
3. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	11. 『モノドロジー』 読解 (つづき)																				
4. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	12. 『モノドロジー』 読解 (つづき)																				
5. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	13. 『モノドロジー』 読解 (つづき)																				
6. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	14. 『モノドロジー』 読解 (つづき)																				
7. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	15. 『モノドロジー』 読解 (つづき)																				
8. 『モノドロジー』 読解 (つづき)																					
◇ 成績評価の方法	担当 (40%) と議論への参加度 (60%) で評価します。																				
◇ 教科書・参考書	必要なものはプリントで配布します。参考書は適宜紹介します。																				
◇ 授業時間外学習	演習で扱う箇所への予習、要約の作成。																				
その他：前期・金曜4限の「17世紀大陸合理主義の倫理学」は関連した話題を扱いますので、あわせて履修すると哲学的な予備知識を補うことができます。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
倫 理 思 想 演 習 Western Ethical Thought (Seminar)	2	准教授 村山達也	5	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMPHI315J																				
◆ 授業題目	フランス哲学演習(2) ルソー『人間不平等起源論』																				
◆ 目的・概要	本演習では、ルソー (1712-1778年) の『人間不平等起源論』をメインテキストに、人間本性 (自己愛、自尊心、利他性……)、道徳の起源、政治的自由の価値といった主題にまつわる問題について考えていきます。具体的には、(1)この著作の一部を読み、(2)上記の問題に関係する文献を読んでから、(3)みなさんに4000-6000字程度のレポートを書いていただき、それを全員で検討していく、というかたちで進めます。なお、テキストや論文はすべて日本語のものを用います。初回にガイダンスを行い、詳細を決めますので、参加希望者は必ず出席してください。																				
◆ 到達目標	(1)政治哲学 (の一部) の基本的な考え方を理解する。 (2)哲学のテキストから自分なりに問題を取り出し、考察できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>9. レポート発表</td> </tr> <tr> <td>2. ルソー『人間不平等起源論』読解</td> <td>10. レポート発表</td> </tr> <tr> <td>3. ルソー『人間不平等起源論』読解 (つづき)</td> <td>11. レポート発表</td> </tr> <tr> <td>4. ルソー『人間不平等起源論』読解 (つづき)</td> <td>12. レポート発表</td> </tr> <tr> <td>5. ロールズ『政治哲学史講義』「ルソー」読解</td> <td>13. レポート発表</td> </tr> <tr> <td>6. ロールズ『政治哲学史講義』「ルソー」読解 (つづき)</td> <td>14. レポート発表</td> </tr> <tr> <td>7. 道徳心理学ないし政治哲学の文献の読解</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 道徳心理学ないし政治哲学の文献の読解 (つづき)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	9. レポート発表	2. ルソー『人間不平等起源論』読解	10. レポート発表	3. ルソー『人間不平等起源論』読解 (つづき)	11. レポート発表	4. ルソー『人間不平等起源論』読解 (つづき)	12. レポート発表	5. ロールズ『政治哲学史講義』「ルソー」読解	13. レポート発表	6. ロールズ『政治哲学史講義』「ルソー」読解 (つづき)	14. レポート発表	7. 道徳心理学ないし政治哲学の文献の読解	15. まとめ	8. 道徳心理学ないし政治哲学の文献の読解 (つづき)	
1. 導入	9. レポート発表																				
2. ルソー『人間不平等起源論』読解	10. レポート発表																				
3. ルソー『人間不平等起源論』読解 (つづき)	11. レポート発表																				
4. ルソー『人間不平等起源論』読解 (つづき)	12. レポート発表																				
5. ロールズ『政治哲学史講義』「ルソー」読解	13. レポート発表																				
6. ロールズ『政治哲学史講義』「ルソー」読解 (つづき)	14. レポート発表																				
7. 道徳心理学ないし政治哲学の文献の読解	15. まとめ																				
8. 道徳心理学ないし政治哲学の文献の読解 (つづき)																					
◇ 成績評価の方法	担当 (50%) と議論への参加度 (50%) で評価します (それゆえ、出席が重視されます)。																				
◇ 教科書・参考書	ルソー『人間不平等起源論』(岩波文庫)は各自で用意してください。それ以外の使用文献についてはプリントを配布します。参考書は適宜指示します。																				
◇ 授業時間外学習	文献の読解、要約の作成。																				
その他：特別な予備知識は不要です。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 概 論 History of Oriental and Japanese Fine Arts (General Lecture)	2	教授 長 岡 龍 作	3	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMART201J																				
◆ 授業題目	日本美術史基礎論																				
◆ 目的・概要	古代からの日本の美術を概観すれば、多くは信仰との関わりの中から生まれてきたことがわかる。不可視の世界を構想する宗教にとってそれを視覚化する美術はなくてはならないものだからだ。この講義では、日本において豊かに生み出された宗教美術のうち、特に彫刻を中心に論じる。人間の精神が生み出した豊かな造形を紹介することを通して、宗教と美術の本質的な関係を説明する。																				
◆ 到達目標	(1)日本美術史における基礎的な知識を身につける。 (2)美術史研究の基礎的な方法論を身につける。 (3)特に彫刻研究についての知識と方法を学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション—日本美術の形式</td> <td>9. 天の役割と表現</td> </tr> <tr> <td>2. 仏教における仏の「表象」(representation)</td> <td>10. 彫刻の外部と内部</td> </tr> <tr> <td>3. 釈迦如来への信仰と表現</td> <td>11. 神像の出現</td> </tr> <tr> <td>4. 阿弥陀如来への信仰と表現</td> <td>12. 見える世界と見えない世界をつなぐ彫像</td> </tr> <tr> <td>5. 美術と祈り</td> <td>13. 寺院縁起絵巻の世界</td> </tr> <tr> <td>6. 弥勒菩薩への信仰と表現</td> <td>14. 肖像の表現と役割</td> </tr> <tr> <td>7. 観音菩薩への信仰と表現</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. 霊験と仏像</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション—日本美術の形式	9. 天の役割と表現	2. 仏教における仏の「表象」(representation)	10. 彫刻の外部と内部	3. 釈迦如来への信仰と表現	11. 神像の出現	4. 阿弥陀如来への信仰と表現	12. 見える世界と見えない世界をつなぐ彫像	5. 美術と祈り	13. 寺院縁起絵巻の世界	6. 弥勒菩薩への信仰と表現	14. 肖像の表現と役割	7. 観音菩薩への信仰と表現	15. 試験	8. 霊験と仏像	
1. オリエンテーション—日本美術の形式	9. 天の役割と表現																				
2. 仏教における仏の「表象」(representation)	10. 彫刻の外部と内部																				
3. 釈迦如来への信仰と表現	11. 神像の出現																				
4. 阿弥陀如来への信仰と表現	12. 見える世界と見えない世界をつなぐ彫像																				
5. 美術と祈り	13. 寺院縁起絵巻の世界																				
6. 弥勒菩薩への信仰と表現	14. 肖像の表現と役割																				
7. 観音菩薩への信仰と表現	15. 試験																				
8. 霊験と仏像																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験 [80%]、出席 [20%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014年																				
◇ 授業時間外学習	授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること																				
その他：オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 概 論 History of Oriental and Japanese Fine Arts (General Lecture)	2	教授 泉 武 夫	4	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMART201J																				
◆ 授業題目	日本絵画史—中・近世編—																				
◆ 目的・概要	中世後半から近世末期までの日本絵画史における歴史的展開を追う。様式史の変遷、ならびに文化史的状况との関連を考える。																				
◆ 到達目標	1、日本絵画史の歴史的展開が理解できるようになる。 2、絵画の「様式史」の基礎的な概念が理解できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション—日本絵画史へのアプローチ</td> <td>9. 意匠と描画の粋—光琳と琳派</td> </tr> <tr> <td>2. 中世水墨画と狩野派の創成</td> <td>10. もうひとつの「漢」志向—文人画</td> </tr> <tr> <td>3. 漢画とやまと絵</td> <td>11. 狩野派の軀からの脱却—写生画</td> </tr> <tr> <td>4. 絢爛豪華な桃山様式1—永徳</td> <td>12. 江戸絵画の豊穡—奇想の画家達</td> </tr> <tr> <td>5. 絢爛豪華な桃山様式2—等伯</td> <td>13. 無技巧の技巧—近世禅画</td> </tr> <tr> <td>6. 意匠への目覚め—宗達とその周辺</td> <td>14. 究極の「和」の地平—浮世絵</td> </tr> <tr> <td>7. 近世初期風俗画</td> <td>15. 幕末画壇の動向</td> </tr> <tr> <td>8. 江戸狩野と京狩野—江戸前期画壇のアカデミズム</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション—日本絵画史へのアプローチ	9. 意匠と描画の粋—光琳と琳派	2. 中世水墨画と狩野派の創成	10. もうひとつの「漢」志向—文人画	3. 漢画とやまと絵	11. 狩野派の軀からの脱却—写生画	4. 絢爛豪華な桃山様式1—永徳	12. 江戸絵画の豊穡—奇想の画家達	5. 絢爛豪華な桃山様式2—等伯	13. 無技巧の技巧—近世禅画	6. 意匠への目覚め—宗達とその周辺	14. 究極の「和」の地平—浮世絵	7. 近世初期風俗画	15. 幕末画壇の動向	8. 江戸狩野と京狩野—江戸前期画壇のアカデミズム	
1. イントロダクション—日本絵画史へのアプローチ	9. 意匠と描画の粋—光琳と琳派																				
2. 中世水墨画と狩野派の創成	10. もうひとつの「漢」志向—文人画																				
3. 漢画とやまと絵	11. 狩野派の軀からの脱却—写生画																				
4. 絢爛豪華な桃山様式1—永徳	12. 江戸絵画の豊穡—奇想の画家達																				
5. 絢爛豪華な桃山様式2—等伯	13. 無技巧の技巧—近世禅画																				
6. 意匠への目覚め—宗達とその周辺	14. 究極の「和」の地平—浮世絵																				
7. 近世初期風俗画	15. 幕末画壇の動向																				
8. 江戸狩野と京狩野—江戸前期画壇のアカデミズム																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験 (70%) 出席 (30%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書：辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』（新書館、2009年）																				
◇ 授業時間外学習	前回の授業の内容について、よく整理しておくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 基 礎 講 読 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Reading)	2	教授 長 岡 龍 作	3	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMART204J																				
◆ 授業題目	東洋・日本美術史論文研究																				
◆ 目的・概要	東洋・日本美術史研究における基盤的な研究論文をとりあげて精読する。毎週一論文を読み、担当者はそのなかで扱われた作品を画像で提示し、資料をレジюмеとして示しながら、その内容を紹介する。また参加者は事前に論文を十分に読み込み、発表後に内容についてディスカッションを行う。																				
◆ 到達目標	東洋・日本美術史に関する基盤的な論文を読むことを通じて、研究方法を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクションー東洋・日本美術史研究の方法論</td> <td>9. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>2. パイロット発表</td> <td>10. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>3. パイロット発表</td> <td>11. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>4. 発表準備</td> <td>12. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>5. 発表準備</td> <td>13. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>6. 発表準備</td> <td>14. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>7. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> <td>15. 総括と評価</td> </tr> <tr> <td>8. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクションー東洋・日本美術史研究の方法論	9. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	2. パイロット発表	10. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	3. パイロット発表	11. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	4. 発表準備	12. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	5. 発表準備	13. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	6. 発表準備	14. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	7. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	15. 総括と評価	8. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	
1. イントロダクションー東洋・日本美術史研究の方法論	9. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
2. パイロット発表	10. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
3. パイロット発表	11. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
4. 発表準備	12. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
5. 発表準備	13. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
6. 発表準備	14. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
7. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	15. 総括と評価																				
8. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																					
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]・発表表内容 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	対象論文は事前に提示するので各自コピーを用意すること。																				
◇ 授業時間外学習	参加者は該当論文を事前に精読しておくこと。																				
その他：3・4セメの東洋日本美術史基礎講読（長岡）は連続履修すること。 オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 基 礎 講 読 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Reading)	2	教授 長 岡 龍 作	4	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMART204J																				
◆ 授業題目	東洋・日本美術史論文研究																				
◆ 目的・概要	東洋・日本美術史研究における基盤的な研究論文をとりあげて精読する。毎週一論文を読み、担当者はそのなかで扱われた作品を画像で提示し、資料をレジюмеとして示しながら、その内容を紹介する。また参加者は事前に論文を十分に読み込み、発表後に内容についてディスカッションを行う。																				
◆ 到達目標	東洋・日本美術史に関する基盤的な論文を読むことを通じて、研究方法を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクションー東洋・日本美術史研究の方法論</td> <td>9. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>2. パイロット発表</td> <td>10. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>3. 発表準備</td> <td>11. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>4. 発表準備</td> <td>12. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>5. 発表準備</td> <td>13. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>6. 発表準備</td> <td>14. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> </tr> <tr> <td>7. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> <td>15. 総括と評価</td> </tr> <tr> <td>8. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクションー東洋・日本美術史研究の方法論	9. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	2. パイロット発表	10. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	3. 発表準備	11. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	4. 発表準備	12. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	5. 発表準備	13. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	6. 発表準備	14. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	7. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	15. 総括と評価	8. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	
1. イントロダクションー東洋・日本美術史研究の方法論	9. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
2. パイロット発表	10. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
3. 発表準備	11. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
4. 発表準備	12. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
5. 発表準備	13. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
6. 発表準備	14. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																				
7. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論	15. 総括と評価																				
8. 東洋日本美術史基盤論文の紹介と討論																					
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]・発表表内容 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	対象論文は事前に提示するので各自コピーを用意すること。																				
◇ 授業時間外学習	参加者は該当論文を事前に精読しておくこと。																				
その他：3・4セメの東洋日本美術史基礎講読（長岡）は連続履修すること。 オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 基 礎 実 習 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Laboratory Work)	2	教授 教授	長 岡 龍 作 夫 泉 武 夫	3	火	3・4
◆ 科目ナンバリング	LHMART205J					
◆ 授業題目	美術作品取り扱いの理論と実践					
◆ 目的・概要	美術をめぐる活動のうち、作品調査の基礎的な技術と展示についての考え方を理解するため、授業は以下の内容で進める。 1. 美術作品についての口頭発表と写真資料の複写 2. 美術作品の調査と取り扱い 3. 美術作品展示の方法と実践					
◆ 到達目標	美術をめぐる基礎的な技術を習得する					
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. 美術作品についての口頭発表の方法と実践 3. 写真資料の複写の方法と実践 4. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写 5. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写 6. 美術作品についての口頭発表準備と写真資料の複写 7. 美術作品についての口頭発表 8. 美術作品の調査と取り扱い1 9. 美術作品の調査と取り扱い2 10. 美術作品の調査と取り扱い3 11. 美術作品の調査と取り扱い4 12. 博物館展示の方法と実践 13. 博物館展示の方法と実践 14. 博物館展示の方法と実践 15. まとめ					
◇ 成績評価の方法	出席 [80%]・授業態度 [20%]					
◇ 教科書・参考書	資料はその都度配布する。					
◇ 授業時間外学習	展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。					
その他：						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 基 礎 実 習 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Laboratory Work)	2	教授 教授	泉 武 夫 作 長 岡 龍 作	4	火	3・4
◆ 科目ナンバリング	LHMART205J					
◆ 授業題目	美術作品取り扱いの理論と実践					
◆ 目的・概要	美術をめぐる活動のうち、作品調査の基礎的な技術と展示についての考え方を理解するため、授業は以下の内容で進める。 1. 美術作品を理解するための文字資料の解読 2. 美術作品の光学的調査の理論と実践 3. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践 4. 博物館実習					
◆ 到達目標	美術をめぐる基礎的な技術を習得する					
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. 美術作品を理解するための文字資料の解読1 3. 美術作品を理解するための文字資料の解読2 4. 美術作品の光学的調査の理論と実践 5. 美術作品の光学的調査の理論と実践 6. 美術作品の光学的調査の理論と実践 7. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践 8. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践 9. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践 10. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践 11. 美術作品の調査と取り扱い5 12. 美術作品の調査と取り扱い6 13. 展示資料の見学 14. 博物館実習 15. まとめ					
◇ 成績評価の方法	出席 [80%]・授業態度 [20%]					
◇ 教科書・参考書	資料はその都度配布する。					
◇ 授業時間外学習	展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。					
その他：						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 各 論 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)	2	教 授 泉 武 夫	5	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHMART301J				
◆ 授業題目	古代・中世絵画史研究				
◆ 目的・概要	日本の古代・中世絵画は、美術史の根幹のひとつをなす領域である。とくに宗教絵画は、この領域の遺品の大部分を占めており、それへの理解がなされなければ、美術史研究には重要なポイントを欠くことになる。本講義では、古代・中世の代表的作品を取り上げ、作品研究へのアプローチの方法を提示し、作品がもつ豊かな意味の広がりを探求することを試みる。				
◆ 到達目標	(1)日本絵画の見方に対する基本的方法を習得する。 (2)仏画を中心とした古代・中世絵画の様式史的分析方法のみならず、それらが用いられた意図と宗教的な意味の裏付け、文化史的背景や説話的要素などを理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 日本絵画史における様式史の基礎—かたちの成長と変化 3. 儀礼と絵画1—後七日御修法とその画像 4. 儀礼と絵画2—仁王会と本尊1 5. 儀礼と絵画3—仁王会と本尊2 6. 儀礼と絵画4—仏名会と画像 7. 儀礼と絵画5—法華講と装飾経 8. 浄土教の絵画1—諸浄土の絵画 9. 浄土教の絵画2—来迎図と往生図1 10. 浄土教の絵画3—来迎図と往生図2 11. 浄土教の絵画4—六道絵1 12. 浄土教の絵画5—六道絵2 13. 浄土教の絵画6—十界図 14. 浄土教の絵画7—弥勒浄土図1 15. 浄土教の絵画8—弥勒浄土図2と弥勒像 				
◇ 成績評価の方法	レポート80% 出席20%				
◇ 教科書・参考書	その都度、授業で指示する。				
◇ 授業時間外学習	前の授業内容をよく整理すること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 各 論 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)	2	教 授 泉 武 夫	6	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHMART301J				
◆ 授業題目	古代・中世絵画史研究				
◆ 目的・概要	日本の古代・中世絵画は、美術史の根幹のひとつをなす領域である。とくに宗教絵画は、この領域の遺品の大部分を占めており、それへの理解がなされなければ、美術史研究には重要なポイントを欠くことになる。本講義では、古代・中世の代表的作品を取り上げ、作品研究へのアプローチの方法を提示し、作品がもつ豊かな意味の広がりを探求することを試みる。				
◆ 到達目標	(1)日本絵画の見方に対する基本的方法を習得する。 (2)仏画を中心とした古代・中世絵画の様式史的分析方法のみならず、それらが用いられた意図と宗教的な意味の裏付け、文化史的背景や説話的要素などを理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 密教絵画の諸相1—黄不動 2. 密教絵画の諸相2—青不動 3. 密教絵画の諸相3—五大尊 4. 仏伝図の諸問題1—応徳涅槃図 5. 仏伝図の諸問題2—金棺出現図 6. 仏伝図の諸問題3—中国の仏伝浮彫 7. 院政期の仏画1—十二天像 8. 院政期の仏画2—法相曼荼羅図 9. 院政期の仏画3—虚空蔵菩薩像 10. 院政期の仏画4—如意輪観音像 11. 絵巻物の諸問題1—信貴山縁起絵巻1 12. 絵巻物の諸問題2—信貴山縁起絵巻2 13. 絵巻物の諸問題3—鳥獣戯画 14. 仏教美術の特異な図像の伝播1—行道観音 15. 仏教美術の特異な図像の伝播2—星辰の神々 				
◇ 成績評価の方法	レポート80% 出席20%				
◇ 教科書・参考書	その都度、授業で指示する。				
◇ 授業時間外学習	前の授業内容をよく整理すること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 各 論 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)	2	教授 長 岡 龍 作	5	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHMART301J				
◆ 授業題目	信仰と造形				
◆ 目的・概要	この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、「日本美術史」研究の成立史を概観した後、奈良時代末から平安時代中期までの造形を取り上げ、特に「祈願」との関わりからその意味と表現を探っていく。				
◆ 到達目標	(1)宗教思想と造形の関係を理解する。 (2)造形に投影された世界観を理解する。 (3)造形表現を理解する方法を習得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題 2. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」前史 3. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」の成立 4. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」の展開と相対化 5. 奈良時代末の信仰と造形 1 6. 奈良時代末の信仰と造形 2 7. 奈良時代末の信仰と造形 3 8. 平安時代初期の信仰と造形 1 9. 平安時代初期の信仰と造形 2 10. 平安時代初期の信仰と造形 3 11. 平安時代初期の信仰と造形 4 12. 平安時代中期の信仰と造形 1 13. 平安時代中期の信仰と造形 2 14. 平安時代中期の信仰と造形 3 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート [80%]、出席 [20%]				
◇ 教科書・参考書	参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像―祈りと風景』（敬文舎）2014年				
◇ 授業時間外学習	授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる				
その他：オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 各 論 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)	2	教授 長 岡 龍 作	6	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHMART301J				
◆ 授業題目	信仰と造形				
◆ 目的・概要	この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期は、平安時代後期から中世の造形を取り上げ、特に「祈願」との関わりからその意味と表現を探っていくとともに、各尊種（別尊）への信仰と造形表現についても論じる。				
◆ 到達目標	(1)宗教思想と造形の関係を理解する。 (2)造形に投影された世界観を理解する。 (3)造形表現を理解する方法を習得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題 2. 平安時代後期の信仰と造形 1 3. 平安時代後期の信仰と造形 2 4. 平安時代後期の信仰と造形 3 5. 平安時代後期の信仰と造形 4 6. 別尊信仰と造像 1 7. 別尊信仰と造像 2 8. 別尊信仰と造像 3 9. 別尊信仰と造像 4 10. 空間と造形 1 11. 空間と造形 2 12. 中世の信仰と造形 1 13. 中世の信仰と造形 2 14. 中世の信仰と造形 3 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート [80%]、出席 [20%]				
◇ 教科書・参考書	参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像―祈りと風景』（敬文舎）2014年				
◇ 授業時間外学習	授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる				
その他：オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 各 論 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)	2	非常勤 講師 相 澤 正 彦	集 中 (5)																		
◆ 科目ナンバリング	LHMART301J																				
◆ 授業題目	土佐派興亡史																				
◆ 目的・概要	室町画壇を席卷し、さらに近世画壇に大きな足跡を残した土佐派の役割について、土佐派以前の絵所のあり方から始まり、土佐派内における同職継承の問題、歴代絵師の様式や画壇における位置などを、作品と同時代史料を追いながら講述する。なおその比較として同時代の狩野派や阿弥派などの漢画段の趨勢にも付随的に触れる。																				
◆ 到達目標	土佐派の成り立ちや動向を把握し、日本絵画における土佐派の図様規範がいかに強かったかという室町画壇解釈の視点を設定し、さらにそれに対抗する狩野派の立ち位置を対照することにより、室町画壇の趨勢や室町絵画作品の深い理解ができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 宮廷絵所預の系譜と画風変遷</td> <td>9. 土佐派の革新(2) 土佐光信</td> </tr> <tr> <td>2. 土佐派の系図と環境</td> <td>10. 土佐派の新生(1) 土佐光茂</td> </tr> <tr> <td>3. 土佐派誕生の背景—室町將軍の文化戦略</td> <td>11. 土佐派の新生(2) 土佐光茂</td> </tr> <tr> <td>4. 土佐派の創始 藤原行光</td> <td>12. 土佐派の確執 土佐光茂から光吉へ</td> </tr> <tr> <td>5. 土佐派の継承 藤原光益と六角派</td> <td>13. 漢画壇の動向(1) 阿弥派と筆様</td> </tr> <tr> <td>6. 土佐派の確立(1) 春日行秀と土佐行広</td> <td>14. 漢画壇の動向(2) 祥啓と狩野派</td> </tr> <tr> <td>7. 土佐派の確立(2) 土佐公周・行定</td> <td>15. まとめ 土佐派と狩野派</td> </tr> <tr> <td>8. 土佐派の革新(1) 土佐光信</td> <td></td> </tr> </table>					1. 宮廷絵所預の系譜と画風変遷	9. 土佐派の革新(2) 土佐光信	2. 土佐派の系図と環境	10. 土佐派の新生(1) 土佐光茂	3. 土佐派誕生の背景—室町將軍の文化戦略	11. 土佐派の新生(2) 土佐光茂	4. 土佐派の創始 藤原行光	12. 土佐派の確執 土佐光茂から光吉へ	5. 土佐派の継承 藤原光益と六角派	13. 漢画壇の動向(1) 阿弥派と筆様	6. 土佐派の確立(1) 春日行秀と土佐行広	14. 漢画壇の動向(2) 祥啓と狩野派	7. 土佐派の確立(2) 土佐公周・行定	15. まとめ 土佐派と狩野派	8. 土佐派の革新(1) 土佐光信	
1. 宮廷絵所預の系譜と画風変遷	9. 土佐派の革新(2) 土佐光信																				
2. 土佐派の系図と環境	10. 土佐派の新生(1) 土佐光茂																				
3. 土佐派誕生の背景—室町將軍の文化戦略	11. 土佐派の新生(2) 土佐光茂																				
4. 土佐派の創始 藤原行光	12. 土佐派の確執 土佐光茂から光吉へ																				
5. 土佐派の継承 藤原光益と六角派	13. 漢画壇の動向(1) 阿弥派と筆様																				
6. 土佐派の確立(1) 春日行秀と土佐行広	14. 漢画壇の動向(2) 祥啓と狩野派																				
7. 土佐派の確立(2) 土佐公周・行定	15. まとめ 土佐派と狩野派																				
8. 土佐派の革新(1) 土佐光信																					
◇ 成績評価の方法	(○) レポート [70%]・(○) 出席 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	授業中に適宜紹介するが、土佐派や室町画壇の趨勢に関する入門書を読んでおくことが望ましい。(講談社版『日本美術全集』第12巻など)																				
◇ 授業時間外学習	前回の授業の内容について、よく整理しておくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 講 読 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Reading)	2	教授 泉 武 夫	5	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMART304J																				
◆ 授業題目	日本美術資料研究																				
◆ 目的・概要	中世の説話集『古今著聞集』の中から「画図」の項を取りあげる。その講読、ならびに言及されている画家および作品について、関連論文等も参考にしながら日本美術史研究への応用を考えてゆく。																				
◆ 到達目標	東洋・日本美術の作品を扱う上で重要な参考資料・史料の読みかた、関連論文の調べ方および読解力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 古今著聞集「画図」の講読8</td> </tr> <tr> <td>2. 古今著聞集「画図」の講読1</td> <td>10. 古今著聞集「画図」の講読9</td> </tr> <tr> <td>3. 古今著聞集「画図」の講読2</td> <td>11. 古今著聞集「画図」の講読10</td> </tr> <tr> <td>4. 古今著聞集「画図」の講読3</td> <td>12. 古今著聞集「画図」の講読11</td> </tr> <tr> <td>5. 古今著聞集「画図」の講読4</td> <td>13. 古今著聞集「画図」の講読12</td> </tr> <tr> <td>6. 古今著聞集「画図」の講読5</td> <td>14. 古今著聞集「画図」の講読13</td> </tr> <tr> <td>7. 古今著聞集「画図」の講読6</td> <td>15. 古今著聞集「画図」の講読14</td> </tr> <tr> <td>8. 古今著聞集「画図」の講読7</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 古今著聞集「画図」の講読8	2. 古今著聞集「画図」の講読1	10. 古今著聞集「画図」の講読9	3. 古今著聞集「画図」の講読2	11. 古今著聞集「画図」の講読10	4. 古今著聞集「画図」の講読3	12. 古今著聞集「画図」の講読11	5. 古今著聞集「画図」の講読4	13. 古今著聞集「画図」の講読12	6. 古今著聞集「画図」の講読5	14. 古今著聞集「画図」の講読13	7. 古今著聞集「画図」の講読6	15. 古今著聞集「画図」の講読14	8. 古今著聞集「画図」の講読7	
1. イントロダクション	9. 古今著聞集「画図」の講読8																				
2. 古今著聞集「画図」の講読1	10. 古今著聞集「画図」の講読9																				
3. 古今著聞集「画図」の講読2	11. 古今著聞集「画図」の講読10																				
4. 古今著聞集「画図」の講読3	12. 古今著聞集「画図」の講読11																				
5. 古今著聞集「画図」の講読4	13. 古今著聞集「画図」の講読12																				
6. 古今著聞集「画図」の講読5	14. 古今著聞集「画図」の講読13																				
7. 古今著聞集「画図」の講読6	15. 古今著聞集「画図」の講読14																				
8. 古今著聞集「画図」の講読7																					
◇ 成績評価の方法	出席50% 発表内容50%																				
◇ 教科書・参考書	基本的に岩波古典文学大系本の『古今著聞集』をテキストとして用いる。																				
◇ 授業時間外学習	各自、担当箇所以外の分についても、あらかじめ目を通して置く。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 講 読 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Reading)	2	教 授 泉 武 夫	6	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMART304J																				
◆ 授業題目	日本美術資料研究																				
◆ 目的・概要	前期にひきつづき、中世の説話集『古今著聞集』の中から「画図」の項をとりあげる。その講読、ならびに言及されている画家および作品について、関連論文等も参考にしながら日本美術史研究への応用を考えてゆく。「画図」の項が終了したのちは、「能書」の中からいくつかの事項をピックアップする。さらに近世の画論書『本朝画史』の講読を引き続き続ける。																				
◆ 到達目標	東洋・日本美術の作品を扱う上で重要な参考資料・史料の読みかた、関連論文の調べ方および読解力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 古今著聞集「能書」の講読3</td> </tr> <tr> <td>2. 古今著聞集「画図」の講読1</td> <td>10. 本朝画史の講読1</td> </tr> <tr> <td>3. 古今著聞集「画図」の講読2</td> <td>11. 本朝画史の講読2</td> </tr> <tr> <td>4. 古今著聞集「画図」の講読3</td> <td>12. 本朝画史の講読3</td> </tr> <tr> <td>5. 古今著聞集「画図」の講読4</td> <td>13. 本朝画史の講読4</td> </tr> <tr> <td>6. 古今著聞集「画図」の講読5</td> <td>14. 本朝画史の講読5</td> </tr> <tr> <td>7. 古今著聞集「能書」の講読1</td> <td>15. 本朝画史の講読6</td> </tr> <tr> <td>8. 古今著聞集「能書」の講読2</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 古今著聞集「能書」の講読3	2. 古今著聞集「画図」の講読1	10. 本朝画史の講読1	3. 古今著聞集「画図」の講読2	11. 本朝画史の講読2	4. 古今著聞集「画図」の講読3	12. 本朝画史の講読3	5. 古今著聞集「画図」の講読4	13. 本朝画史の講読4	6. 古今著聞集「画図」の講読5	14. 本朝画史の講読5	7. 古今著聞集「能書」の講読1	15. 本朝画史の講読6	8. 古今著聞集「能書」の講読2	
1. イントロダクション	9. 古今著聞集「能書」の講読3																				
2. 古今著聞集「画図」の講読1	10. 本朝画史の講読1																				
3. 古今著聞集「画図」の講読2	11. 本朝画史の講読2																				
4. 古今著聞集「画図」の講読3	12. 本朝画史の講読3																				
5. 古今著聞集「画図」の講読4	13. 本朝画史の講読4																				
6. 古今著聞集「画図」の講読5	14. 本朝画史の講読5																				
7. 古今著聞集「能書」の講読1	15. 本朝画史の講読6																				
8. 古今著聞集「能書」の講読2																					
◇ 成績評価の方法	出席50% 発表内容50%																				
◇ 教科書・参考書	基本的に岩波古典文学大系本の『古今著聞集』をテキストとして用いる。『本朝画史』は本学図書館のものを定本に用いる。																				
◇ 授業時間外学習	各自、担当箇所以外の分についても、あらかじめ目を通しておく。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 演 習 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Seminar)	2	教 授 長 岡 龍 作	5	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMART305J																				
◆ 授業題目	美術作品研究																				
◆ 目的・概要	東洋または日本美術の中から、特に興味を覚えた作品をとりあげ、各回一名が口頭発表をおこなう。作品そのものの十分な観察をおこなった上で、自身が設定する問題について考察する。その作品について先行研究がある場合は研究史を十分に回顧し、先行研究が乏しい場合は、自ら作品に関する基礎資料・関連資料を博捜・精読・整理する。発表及びその後の討論を通し、参加者に対し自らの考えを的確に伝えるよう努める。																				
◆ 到達目標	美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝える方法を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション—美術史研究の方法論</td> <td>9. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>2. パイロット発表</td> <td>10. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>3. パイロット発表</td> <td>11. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>4. 発表準備</td> <td>12. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>5. 発表準備</td> <td>13. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>6. 発表準備</td> <td>14. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>7. 発表準備</td> <td>15. 総括と評価</td> </tr> <tr> <td>8. 発表準備</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション—美術史研究の方法論	9. 作品研究発表ならびに討論	2. パイロット発表	10. 作品研究発表ならびに討論	3. パイロット発表	11. 作品研究発表ならびに討論	4. 発表準備	12. 作品研究発表ならびに討論	5. 発表準備	13. 作品研究発表ならびに討論	6. 発表準備	14. 作品研究発表ならびに討論	7. 発表準備	15. 総括と評価	8. 発表準備	
1. イントロダクション—美術史研究の方法論	9. 作品研究発表ならびに討論																				
2. パイロット発表	10. 作品研究発表ならびに討論																				
3. パイロット発表	11. 作品研究発表ならびに討論																				
4. 発表準備	12. 作品研究発表ならびに討論																				
5. 発表準備	13. 作品研究発表ならびに討論																				
6. 発表準備	14. 作品研究発表ならびに討論																				
7. 発表準備	15. 総括と評価																				
8. 発表準備																					
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]・発表態度 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』新書館、2009年																				
◇ 授業時間外学習	展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。																				
その他：5・6セメの東洋日本美術史演習（長岡）は連続履修すること。 オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 演 習 History of Oriental and Japanese Fine Arts (Seminar)	2	教授 長 岡 龍 作	6	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMART305J																				
◆ 授業題目	美術作品研究																				
◆ 目的・概要	東洋または日本美術の中から、特に興味を覚えた作品をとりあげ、各回一名が口頭発表をおこなう。作品そのものの十分な観察をおこなった上で、自身が設定する問題について考察する。その作品について先行研究がある場合は研究史を十分に回顧し、先行研究が乏しい場合は、自ら作品に関する基礎資料・関連資料を博搜・精読・整理する。発表及びその後の討論を通し、参加者に対し自らの考えを的確に伝えるよう努める。																				
◆ 到達目標	美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝える方法を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション—美術史研究の方法論</td> <td>9. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>2. パイロット発表</td> <td>10. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>3. パイロット発表</td> <td>11. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>4. 発表準備</td> <td>12. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>5. 発表準備</td> <td>13. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>6. 発表準備</td> <td>14. 作品研究発表ならびに討論</td> </tr> <tr> <td>7. 発表準備</td> <td>15. 総括と評価</td> </tr> <tr> <td>8. 発表準備</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション—美術史研究の方法論	9. 作品研究発表ならびに討論	2. パイロット発表	10. 作品研究発表ならびに討論	3. パイロット発表	11. 作品研究発表ならびに討論	4. 発表準備	12. 作品研究発表ならびに討論	5. 発表準備	13. 作品研究発表ならびに討論	6. 発表準備	14. 作品研究発表ならびに討論	7. 発表準備	15. 総括と評価	8. 発表準備	
1. イントロダクション—美術史研究の方法論	9. 作品研究発表ならびに討論																				
2. パイロット発表	10. 作品研究発表ならびに討論																				
3. パイロット発表	11. 作品研究発表ならびに討論																				
4. 発表準備	12. 作品研究発表ならびに討論																				
5. 発表準備	13. 作品研究発表ならびに討論																				
6. 発表準備	14. 作品研究発表ならびに討論																				
7. 発表準備	15. 総括と評価																				
8. 発表準備																					
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]・発表態度 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』新書館、2009年																				
◇ 授業時間外学習	展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。																				
その他：5・6セメの東洋日本美術史演習（長岡）は連続履修すること。 オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 概 論 Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lecture)	2	教授 尾 崎 彰 宏	4	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMART202J																				
◆ 授業題目	ヨーロッパ美術の北と南—リアリズムの行方																				
◆ 目的・概要	絵画には自然をありのままに描く手法、リアリズムと人間の内面に鏡をかざすリアリズムとがある。この両面に着目してルネサンス以降の西洋美術の流れを学ぶ。																				
◆ 到達目標	(1)ルネサンス以降の美術作品の見方を学ぶことができる。 (2)美術の歴史を芸術家と地域が織りなす、「個性」のぶつかり合いという視点から学ぶことができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 初期ネーデルラント美術</td> </tr> <tr> <td>2. ジョット以前</td> <td>10. 16世紀北方美術(1)</td> </tr> <tr> <td>3. ジョットと13世紀美術</td> <td>11. 16世紀北方美術(2)</td> </tr> <tr> <td>4. ジョットのアレナ礼拝堂</td> <td>12. 17世紀南北美術(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 15世紀イタリア美術(1)</td> <td>13. 17世紀南北美術(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 15世紀イタリア美術(2)</td> <td>14. 近代美術への道</td> </tr> <tr> <td>7. 16世紀イタリア美術(1)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 16世紀イタリア美術(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 初期ネーデルラント美術	2. ジョット以前	10. 16世紀北方美術(1)	3. ジョットと13世紀美術	11. 16世紀北方美術(2)	4. ジョットのアレナ礼拝堂	12. 17世紀南北美術(1)	5. 15世紀イタリア美術(1)	13. 17世紀南北美術(2)	6. 15世紀イタリア美術(2)	14. 近代美術への道	7. 16世紀イタリア美術(1)	15. まとめ	8. 16世紀イタリア美術(2)	
1. イントロダクション	9. 初期ネーデルラント美術																				
2. ジョット以前	10. 16世紀北方美術(1)																				
3. ジョットと13世紀美術	11. 16世紀北方美術(2)																				
4. ジョットのアレナ礼拝堂	12. 17世紀南北美術(1)																				
5. 15世紀イタリア美術(1)	13. 17世紀南北美術(2)																				
6. 15世紀イタリア美術(2)	14. 近代美術への道																				
7. 16世紀イタリア美術(1)	15. まとめ																				
8. 16世紀イタリア美術(2)																					
◇ 成績評価の方法	平常点／試験／レポート																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業のテーマとの関連から読むべき本を指定するので、そうした書物を読んだり、実際に美術館等に足を運んで作品をじかに見たりすることが必要。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 概 論 Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lecture)	2	准教授 芳 賀 京 子	3	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMART202J																				
◆ 授業題目	西洋古代・中世の絵画																				
◆ 目的・概要	古代ギリシア・ローマ時代を中心に、中世に至るまでの西洋美術について、今年は絵画などの2次元芸術について、時代を追って概観する。西洋の古代世界において、絵画は彫刻以上に高く評価されていた。もちろん、木の板に描かれたタブロー画などは現代にまで残ることはほとんどないが、それでも陶器画や墓の壁画、モザイク画、住居の壁に描かれたフレスコ画など、次第に多くの作例が知られるようになってきている。授業では、彼らなりの3次元世界を2次元の表象へと変換する工夫や、時間や物語表現の仕方、生活空間への2次元美術の組み入れ方などを検討し、当時の人々の視覚体験を考えてみることにしたい。																				
◆ 到達目標	西洋古代・中世絵画の技術、様式、代表的作品についての基礎知識を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 序</td> <td>9. 建築画と風景画</td> </tr> <tr> <td>2. 人間表現の始まり（ギリシア、幾何学様式時代）</td> <td>10. 神話画</td> </tr> <tr> <td>3. 神話表現の始まり（東方化様式時代）</td> <td>11. 肖像画</td> </tr> <tr> <td>4. 物語を描く（アルカイック時代）</td> <td>12. 古代の伝統とキリスト教(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 絵画による心理表現（アルカイック～クラシック時代）</td> <td>13. 古代の伝統とキリスト教(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 演劇と絵画（クラシック後期）</td> <td>14. 古代の伝統とキリスト教(3)</td> </tr> <tr> <td>7. 死者の世界（クラシック時代～マケドニア）</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 静物画</td> <td></td> </tr> </table>					1. 序	9. 建築画と風景画	2. 人間表現の始まり（ギリシア、幾何学様式時代）	10. 神話画	3. 神話表現の始まり（東方化様式時代）	11. 肖像画	4. 物語を描く（アルカイック時代）	12. 古代の伝統とキリスト教(1)	5. 絵画による心理表現（アルカイック～クラシック時代）	13. 古代の伝統とキリスト教(2)	6. 演劇と絵画（クラシック後期）	14. 古代の伝統とキリスト教(3)	7. 死者の世界（クラシック時代～マケドニア）	15. まとめと試験	8. 静物画	
1. 序	9. 建築画と風景画																				
2. 人間表現の始まり（ギリシア、幾何学様式時代）	10. 神話画																				
3. 神話表現の始まり（東方化様式時代）	11. 肖像画																				
4. 物語を描く（アルカイック時代）	12. 古代の伝統とキリスト教(1)																				
5. 絵画による心理表現（アルカイック～クラシック時代）	13. 古代の伝統とキリスト教(2)																				
6. 演劇と絵画（クラシック後期）	14. 古代の伝統とキリスト教(3)																				
7. 死者の世界（クラシック時代～マケドニア）	15. まとめと試験																				
8. 静物画																					
◇ 成績評価の方法	試験による（持ち込みなし）。																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業後に配布のパワーポイント資料を使って復習すること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 概 論 Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lecture)	2	准教授 フォンガロ・エンリコ	3	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHMART202J				
◆ 授業題目	西洋美学概論（前期）				
◆ 目的・概要	美学とは何かという問題からはじめ、西洋美学の「大理論」時代を紹介することが目的である。美・美術・芸術などの根本的な概念について、古代ギリシャから順番に、それぞれを代表する哲学者、芸術家等を取りあげ、スライドを使いながら、背景となる哲学的思想について解説していく。				
◆ 到達目標	西洋美学における根本的な概念を紹介し、ギリシャ・ローマ時代からの美学の変遷について理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の紹介：「美学」とは何か。 2. 翻訳の問題：「美」とは何か。 3. 調和・儀礼・アート・リズム。 4. 言外の美学：コレヤとテクネ。 5. 悲劇の誕生。 6. 西洋美学の「大理論」：ピタゴラス学派の美学。 7. ソフィスト達とゴルギアスの美学。 8. プラトンの美学：美のアイデア。 9. プラトンの美学：プラトンの芸術論。 10. アリストテレスの美学：『詩学』その一。 11. アリストテレスの美学：『詩学』その二。 12. ヘレニズム時代の美学：ストア学派の美学。 13. ローマ時代の美学：キケロの美学。 14. ローマ時代の美学：ヴィトルヴィウスの美学と『崇高について』。 15. 復習と試験。 				
◇ 成績評価の方法	積極的な授業態度、授業のプロトコール（記録）、学期末試験による評価を予定している。				
◇ 教科書・参考書	講義中に詳しく指示する。				
◇ 授業時間外学習	授業の復習を行なう。プロトコールを書く。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 概 論 Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lecture)	2	准教授 フォンガロ・エンリコ	4	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHMART202J				
◆ 授業題目	西洋美学概論（後期）				
◆ 目的・概要	西洋美学における根本的な概念について、前期に学習した内容を踏まえたうえで、その変遷についてそれぞれを代表する哲学者、芸術家等を取りあげ、スライドを使いながら、背景となる哲学的思想について解説していく。				
◆ 到達目標	西洋美学における根本的な概念を紹介し、近代・現代に向かう美学の変遷について理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロティノスの美学その一。 2. プロティノスの美学その二。 3. キリスト教と中世時代の美学。 4. 中世東欧の美学：ビザンチンの美学。 5. 中世西欧の美学：アウグスティヌスと中世のプラトン主義。 6. 人文主義とルネッサンスの美学：アルベルティ、フィチーノ、ブルーノの美学。 7. 近代への転換：バロックの美学。 8. 十八世紀の美学：カントその一。 9. 十八世紀の美学：カントその二。 10. 十九世紀の美学：シェリングとショーペンハウアー。 11. 十九世紀の美学：ヘーゲルとキルケゴール。 12. 十九世紀の美学：ニーチェの美学。 13. 二十世紀の美学の諸流その一。 14. 二十世紀の美学の諸流その二。 15. 復習と試験。 				
◇ 成績評価の方法	積極的な授業態度、授業のプロトコール（記録）、学期末試験による評価を予定している。				
◇ 教科書・参考書	講義中に詳しく指示する。				
◇ 授業時間外学習	授業の復習を行なう。プロトコールを書く。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 基 礎 講 読 Aesthetics and History of European Fine Arts (Introductory Reading)	2	教授 尾崎彰宏	3	金	1																
◆ 科目ナンバリング	LHMART206J																				
◆ 授業題目	オランダ語の基礎とヨーロッパ文化																				
◆ 目的・概要	日本の美術展ではゴッホはもちろん、レンブラントやフェルメールをはじめとするオランダ絵画が展示されることが少なくない。江戸時代以来、西洋への窓であった出島を通して交流のあったオランダは、近代ヨーロッパの基本となる、貨幣に代表される交換原理やレンブラントやフェルメールに見られる近代絵画への出発点を形成した。そればかりではない、オランダはアジアとの関係から17世紀の繁栄を築くことができた。そうであれば、オランダを通してヨーロッパ近代、アジア、日本を再検討してみる必要がある。そのためにはオランダ語は必須であり、そのための基礎を学ぶことを目的とする。																				
◆ 到達目標	オランダ語の入門を学び、あわせて美術史研究、文化研究、オランダ美術に対する学芸員の基礎知識を修得することができる。あわせてオランダ文化の基本を学ぶことができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 過去形・過去分詞</td> </tr> <tr> <td>2. オランダ語の発音と表記</td> <td>10. 現在完了形</td> </tr> <tr> <td>3. 人称代名詞・動詞など</td> <td>11. 未来・現在分詞・現在進行形</td> </tr> <tr> <td>4. 動詞 hebben、不定冠詞等</td> <td>12. 分離動詞</td> </tr> <tr> <td>5. 動詞の活用（現在形）</td> <td>13. 受動態</td> </tr> <tr> <td>6. 動詞の活用、助動詞</td> <td>14. er の用法</td> </tr> <tr> <td>7. 指示形容詞・指示代名詞</td> <td>15. 関係代名詞、まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 比較級</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 過去形・過去分詞	2. オランダ語の発音と表記	10. 現在完了形	3. 人称代名詞・動詞など	11. 未来・現在分詞・現在進行形	4. 動詞 hebben、不定冠詞等	12. 分離動詞	5. 動詞の活用（現在形）	13. 受動態	6. 動詞の活用、助動詞	14. er の用法	7. 指示形容詞・指示代名詞	15. 関係代名詞、まとめ	8. 比較級	
1. イントロダクション	9. 過去形・過去分詞																				
2. オランダ語の発音と表記	10. 現在完了形																				
3. 人称代名詞・動詞など	11. 未来・現在分詞・現在進行形																				
4. 動詞 hebben、不定冠詞等	12. 分離動詞																				
5. 動詞の活用（現在形）	13. 受動態																				
6. 動詞の活用、助動詞	14. er の用法																				
7. 指示形容詞・指示代名詞	15. 関係代名詞、まとめ																				
8. 比較級																					
◇ 成績評価の方法	出席点（70%）、小試験（30%）																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する																				
◇ 授業時間外学習	毎回、2時間以上の十分な復習時間を要する。関連図書については、授業中に指示する。																				
その他：ドイツ語もあわせて学ぶと理解が進む。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 基 礎 講 読 Aesthetics and History of European Fine Arts (Introductory Reading)	2	准教授 芳賀京子	4	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMART206J																				
◆ 授業題目	西洋美術史の基本文献の読解法																				
◆ 目的・概要	西洋美術史の基礎について、英語文献を精読する。同時に、フランス語、ドイツ語、イタリア語などの欧文で書かれた美術品の作品カタログを読み、作品研究の基礎を身につける。古代ギリシア語、ラテン語についても、自分で調べられる力をつける。																				
◆ 到達目標	西洋美術史に関する英語文献を精読できるようになるとともに、英語以外の欧文文献も読めるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 講読(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 講読(1)</td> <td>10. 講読(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 講読(2)</td> <td>11. 講読(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 講読(3)</td> <td>12. 講読(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 講読(4)</td> <td>13. 講読(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 講読(5)</td> <td>14. 講読(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 講読(6)</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 講読(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 講読(8)	2. 講読(1)	10. 講読(9)	3. 講読(2)	11. 講読(10)	4. 講読(3)	12. 講読(11)	5. 講読(4)	13. 講読(12)	6. 講読(5)	14. 講読(13)	7. 講読(6)	15. まとめと試験	8. 講読(7)	
1. イントロダクション	9. 講読(8)																				
2. 講読(1)	10. 講読(9)																				
3. 講読(2)	11. 講読(10)																				
4. 講読(3)	12. 講読(11)																				
5. 講読(4)	13. 講読(12)																				
6. 講読(5)	14. 講読(13)																				
7. 講読(6)	15. まとめと試験																				
8. 講読(7)																					
◇ 成績評価の方法	授業への出席・発表（50%）、試験（50%）。																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業前に自分の分担部分を精読した上で、それ以外の部分にも目を通しておくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 各 論 Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lecture)	2	教授 尾 崎 彰 宏	5	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMART302J																				
◆ 授業題目	ネーデルラント美術における共感表現、スペクタクル、美術市場																				
◆ 目的・概要	現在、研究を進行させている「西洋近世・近代美術における市場・流通・画商の地政経済史的研究」の研究成果を盛りこみながら、ネーデルラント美術の創造性がどのように生まれたのかを探っていきたい。その問題と並行して、感性論としての美術史としてアルプス以北の美術作品に見られる「視覚」の新しい試み、つまりいかに触覚的な要素が美術作品に反映しているのか、アルチンボルドやボッスなどさまざまなネーデルラントの画家を例に取りながら、アプローチしていきたい。現在研究中の課題であり、1回目の授業において、各論のおおよその見取り図を示すようにしたい。																				
◆ 到達目標	美術作品の解説には、時代によってさまざまなアプローチがなされてきたが、鑑賞者の感性が作品解釈に大きなウェイトを占めること理解し、美術作品にアプローチする新たな方法論を学べる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 17世紀ネーデルラント絵画Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>2. 初期ネーデルラント絵画Ⅰ</td> <td>10. 17世紀ネーデルラント絵画Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>3. 初期ネーデルラント絵画Ⅱ</td> <td>11. レンブラントⅠ</td> </tr> <tr> <td>4. 初期ネーデルラント絵画Ⅲ</td> <td>12. レンブラントⅡ</td> </tr> <tr> <td>5. 16世紀ネーデルラント絵画Ⅰ</td> <td>13. レンブラントⅢ</td> </tr> <tr> <td>6. 16世紀ネーデルラント絵画Ⅱ</td> <td>14. 18世紀ネーデルラント美術</td> </tr> <tr> <td>7. 16世紀ネーデルラント絵画Ⅲ</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 17世紀ネーデルラント絵画Ⅰ</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 17世紀ネーデルラント絵画Ⅱ	2. 初期ネーデルラント絵画Ⅰ	10. 17世紀ネーデルラント絵画Ⅲ	3. 初期ネーデルラント絵画Ⅱ	11. レンブラントⅠ	4. 初期ネーデルラント絵画Ⅲ	12. レンブラントⅡ	5. 16世紀ネーデルラント絵画Ⅰ	13. レンブラントⅢ	6. 16世紀ネーデルラント絵画Ⅱ	14. 18世紀ネーデルラント美術	7. 16世紀ネーデルラント絵画Ⅲ	15. まとめ	8. 17世紀ネーデルラント絵画Ⅰ	
1. イントロダクション	9. 17世紀ネーデルラント絵画Ⅱ																				
2. 初期ネーデルラント絵画Ⅰ	10. 17世紀ネーデルラント絵画Ⅲ																				
3. 初期ネーデルラント絵画Ⅱ	11. レンブラントⅠ																				
4. 初期ネーデルラント絵画Ⅲ	12. レンブラントⅡ																				
5. 16世紀ネーデルラント絵画Ⅰ	13. レンブラントⅢ																				
6. 16世紀ネーデルラント絵画Ⅱ	14. 18世紀ネーデルラント美術																				
7. 16世紀ネーデルラント絵画Ⅲ	15. まとめ																				
8. 17世紀ネーデルラント絵画Ⅰ																					
◇ 成績評価の方法	レポート／試験																				
◇ 教科書・参考書	講義中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	講義で取りあげた文献に自分で当たったり、紹介された作品を自分で見に行く努力が必要。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 各 論 Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lecture)	2	准教授 芳 賀 京 子	6	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMART302J																				
◆ 授業題目	古代ギリシア・ローマの神々と神域																				
◆ 目的・概要	古代ギリシア・ローマの神々は、同じ神であっても土地によってさまざまな祀られ方をしていた。神像や奉納品といった出土品を、神域の遺構や伝承とともに考察することで、古代「美術」を多角的に捉え直すことを試みる。																				
◆ 到達目標	ギリシア・ローマの神々の信仰と神域について理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 序</td> <td>9. デイオニュソス信仰と演劇</td> </tr> <tr> <td>2. オリュンピアのゼウス競技祭</td> <td>10. アスクレピオス信仰と医学</td> </tr> <tr> <td>3. デルフォイのアポロンの神域と神託</td> <td>11. ローマのサトゥルヌス</td> </tr> <tr> <td>4. サモスのヘラ神域</td> <td>12. ヘステシア／ウェスタ</td> </tr> <tr> <td>5. エフェソスのアルテミス神域</td> <td>13. ウェヌスとマルス</td> </tr> <tr> <td>6. スパルタのアルテミス・オルティア ブラウロンのアルテミス</td> <td>14. ヘルクレス</td> </tr> <tr> <td>7. エレウシスの信仰（デメテル、コレー、ブルートン）</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. アテナイのアテナ信仰</td> <td></td> </tr> </table>					1. 序	9. デイオニュソス信仰と演劇	2. オリュンピアのゼウス競技祭	10. アスクレピオス信仰と医学	3. デルフォイのアポロンの神域と神託	11. ローマのサトゥルヌス	4. サモスのヘラ神域	12. ヘステシア／ウェスタ	5. エフェソスのアルテミス神域	13. ウェヌスとマルス	6. スパルタのアルテミス・オルティア ブラウロンのアルテミス	14. ヘルクレス	7. エレウシスの信仰（デメテル、コレー、ブルートン）	15. まとめ	8. アテナイのアテナ信仰	
1. 序	9. デイオニュソス信仰と演劇																				
2. オリュンピアのゼウス競技祭	10. アスクレピオス信仰と医学																				
3. デルフォイのアポロンの神域と神託	11. ローマのサトゥルヌス																				
4. サモスのヘラ神域	12. ヘステシア／ウェスタ																				
5. エフェソスのアルテミス神域	13. ウェヌスとマルス																				
6. スパルタのアルテミス・オルティア ブラウロンのアルテミス	14. ヘルクレス																				
7. エレウシスの信仰（デメテル、コレー、ブルートン）	15. まとめ																				
8. アテナイのアテナ信仰																					
◇ 成績評価の方法	レポートによる。																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業中に指示する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 各 論 Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lecture)	2	非常勤 講師 足 達 薫	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHMART302J				
◆ 授業題目	マニエリスム形成期における美術と「魔術的なもの」				
◆ 目的・概要	マニエリスム形成期における美術と「魔術的なもの」の相互作用を、ディスクリプションおよび原テクストとの比較を通じて、再構成していきます。				
◆ 到達目標	マニエリスムの形成を促した文化的コンテキストの分析を通じて、受講者各自の問題意識の中で美術史学の方法を省察し、基本的ツールの有効性を確認すること。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言葉とイメージのゲーム ※各回、変更や入れ替えをすることがあります 2. 美術史学における「魔術的なもの」 3. ティツィアーノの三頭像 4. ジュリオ・カミッロ「記憶の劇場」(1) 5. ジュリオ・カミッロ「記憶の劇場」(2) 6. 記憶術師としての美術家 7. カメラ・ディ・サン・パオロの2つの部屋(1) 8. カメラ・ディ・サン・パオロの2つの部屋(2) 9. ロッカ・ディ・フォンタネッラートのカメリーノ(1) 10. ロッカ・ディ・フォンタネッラートのカメリーノ(2) 11. ペトラルキズム 12. 鏡としての絵画 13. キリストのセクシュアリティ 14. パルミジャーノ《バラの聖母》(1) 15. パルミジャーノ《バラの聖母》(2) 				
◇ 成績評価の方法	レポート				
◇ 教科書・参考書	研究史的流れはフランセス・イエイツ『記憶術』（水声社）、ダニエル・アラス『モナリザの秘密』（白水社）、リナ・ボルツォーニ『記憶の部屋』（ありな書房）を参照のこと。				
◇ 授業時間外学習	上記の著作を参考にすること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 演 習 Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)	2	教授 尾 崎 彰 宏	5	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHMART306J				
◆ 授業題目	西洋美術史に関する方法論の諸問題				
◆ 目的・概要	西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、その問題点や研究上活用できる研究方法について学び、議論を重ねていく。The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboekに掲載された論文を中心に取りあげる。				
◆ 到達目標	西洋美術史の最新研究にふれながら、ルネサンス以降の美術作品の研究動向を熟知できる。作品を分析する方法を身につけることができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅰ 3. イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅱ 4. イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅲ 5. ネーデルラント美術関係文献Ⅰ 6. ネーデルラント美術関係文献Ⅱ 7. ネーデルラント美術関係文献Ⅲ 8. 近世・近代美術関係文献Ⅰ 9. 近世・近代美術関係文献Ⅱ 10. 近世近代美術関係文献Ⅲ 11. 現代美術関係文献Ⅰ 12. 現代美術関係文献Ⅱ 13. 現代美術関係文献Ⅲ 14. 美術史の方法Ⅱかんする文献 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	出席／平常点／レポート				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。				
◇ 授業時間外学習	欧文の論文を前もって予習してくる必要がある。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたるのが求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要があり、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 演 習 Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)	2	教授 尾 崎 彰 宏	6	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMART306J																				
◆ 授業題目	西洋美術に関する方法論の諸問題																				
◆ 目的・概要	西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、その問題点や研究上活用できる研究方法について学び、議論を重ねていく。The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboekに掲載された論文を中心に取りあげる。																				
◆ 到達目標	西洋美術史の最新研究にふれながら、ルネサンス以降の美術作品の研究動向を熟知できる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション I</td> <td>9. ネーデルラント美術関係の文献 II</td> </tr> <tr> <td>2. ルネサンス期の美術文献 I</td> <td>10. ネーデルラント美術画家の文献 III</td> </tr> <tr> <td>3. ルネサンス期の美術文献 II</td> <td>11. 美術史の方法にかんする文献 I</td> </tr> <tr> <td>4. ルネサンス期の美術文献 III</td> <td>12. 美術史の方法にかんする文献 II</td> </tr> <tr> <td>5. 北方美術関係の文献 I</td> <td>13. 美術史の方法にかんする文献 III</td> </tr> <tr> <td>6. 北方美術関係の文献 II</td> <td>14. 美術史の方法にかんする文献 IV</td> </tr> <tr> <td>7. 北方美術関係の文献 III</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. ネーデルラント美術関係の文献 I</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション I	9. ネーデルラント美術関係の文献 II	2. ルネサンス期の美術文献 I	10. ネーデルラント美術画家の文献 III	3. ルネサンス期の美術文献 II	11. 美術史の方法にかんする文献 I	4. ルネサンス期の美術文献 III	12. 美術史の方法にかんする文献 II	5. 北方美術関係の文献 I	13. 美術史の方法にかんする文献 III	6. 北方美術関係の文献 II	14. 美術史の方法にかんする文献 IV	7. 北方美術関係の文献 III	15. まとめ	8. ネーデルラント美術関係の文献 I	
1. イントロダクション I	9. ネーデルラント美術関係の文献 II																				
2. ルネサンス期の美術文献 I	10. ネーデルラント美術画家の文献 III																				
3. ルネサンス期の美術文献 II	11. 美術史の方法にかんする文献 I																				
4. ルネサンス期の美術文献 III	12. 美術史の方法にかんする文献 II																				
5. 北方美術関係の文献 I	13. 美術史の方法にかんする文献 III																				
6. 北方美術関係の文献 II	14. 美術史の方法にかんする文献 IV																				
7. 北方美術関係の文献 III	15. まとめ																				
8. ネーデルラント美術関係の文献 I																					
◇ 成績評価の方法	出席／平常点／レポート																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	欧文の論文を前もって予習してくる必要がある。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたることが求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要があり、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 演 習 Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)	2	准教授 芳 賀 京 子	5	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMART306J																				
◆ 授業題目	西洋古代・中世美術作品研究の基礎																				
◆ 目的・概要	西洋美術作品を研究する上で必要となる作業を、ひととおり自分でおこなうことになることを目的とする。各自1点の西洋古代あるいは中世の美術作品を選び、鑑賞し、データを調べ、作品叙述をおこない、参考文献表をつかった上で、少なくとも1本の欧文の研究論文を読み、わかりやすく発表する。各自が自主的に動くことが期待される。																				
◆ 到達目標	西洋古代・中世美術の作品研究に関する基礎知識を身に着ける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 発表(5)</td> </tr> <tr> <td>2. 文献購読(1)</td> <td>10. 発表(6)</td> </tr> <tr> <td>3. 文献購読(2)</td> <td>11. 発表(7)</td> </tr> <tr> <td>4. 文献購読(3)</td> <td>12. 発表(8)</td> </tr> <tr> <td>5. 発表(1)</td> <td>13. 発表(9)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表(2)</td> <td>14. 発表(10)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表(3)</td> <td>15. 発表(11)</td> </tr> <tr> <td>8. 発表(4)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 発表(5)	2. 文献購読(1)	10. 発表(6)	3. 文献購読(2)	11. 発表(7)	4. 文献購読(3)	12. 発表(8)	5. 発表(1)	13. 発表(9)	6. 発表(2)	14. 発表(10)	7. 発表(3)	15. 発表(11)	8. 発表(4)	
1. イントロダクション	9. 発表(5)																				
2. 文献購読(1)	10. 発表(6)																				
3. 文献購読(2)	11. 発表(7)																				
4. 文献購読(3)	12. 発表(8)																				
5. 発表(1)	13. 発表(9)																				
6. 発表(2)	14. 発表(10)																				
7. 発表(3)	15. 発表(11)																				
8. 発表(4)																					
◇ 成績評価の方法	授業での発表・議論への参加50%、レポート50%																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	課題を決めた後、各自、発表準備およびレポート作成を進めること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 演 習 Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)	2	准教授 芳 賀 京 子	6	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMART306J																				
◆ 授業題目	西洋古代・中世美術作品研究の基礎																				
◆ 目的・概要	西洋美術作品を研究する上で必要となる作業を、ひととおり自分でおこなうことになることを目的とする。各自1点の西洋古代あるいは中世の美術作品を選び、鑑賞し、データを調べ、作品叙述をおこない、参考文献表をつくった上で、少なくとも1本の欧文の研究論文を読み、わかりやすく発表する。各自が自主的に動くことが期待される。																				
◆ 到達目標	西洋古代・中世美術の作品研究に関する基礎知識を身に着ける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 発表(5)</td> </tr> <tr> <td>2. 文献購読(1)</td> <td>10. 発表(6)</td> </tr> <tr> <td>3. 文献購読(2)</td> <td>11. 発表(7)</td> </tr> <tr> <td>4. 文献購読(3)</td> <td>12. 発表(8)</td> </tr> <tr> <td>5. 発表(1)</td> <td>13. 発表(9)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表(2)</td> <td>14. 発表(10)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表(3)</td> <td>15. 発表(11)</td> </tr> <tr> <td>8. 発表(4)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 発表(5)	2. 文献購読(1)	10. 発表(6)	3. 文献購読(2)	11. 発表(7)	4. 文献購読(3)	12. 発表(8)	5. 発表(1)	13. 発表(9)	6. 発表(2)	14. 発表(10)	7. 発表(3)	15. 発表(11)	8. 発表(4)	
1. イントロダクション	9. 発表(5)																				
2. 文献購読(1)	10. 発表(6)																				
3. 文献購読(2)	11. 発表(7)																				
4. 文献購読(3)	12. 発表(8)																				
5. 発表(1)	13. 発表(9)																				
6. 発表(2)	14. 発表(10)																				
7. 発表(3)	15. 発表(11)																				
8. 発表(4)																					
◇ 成績評価の方法	授業での発表・議論への参加50%、レポート50%																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	課題を決めた後、各自、発表準備およびレポート作成を進めること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 演 習 Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)	2	准教授 フォンガロ・エンリコ	5	木	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMART306J																				
◆ 授業題目	西洋美学演習（前期）																				
◆ 目的・概要	西洋美学に関する文献を原文で、場合によっては日本語訳を参照しながら精読し、そこに書かれた概念について説明を行なっていく。また、取り上げられたトピックにもとづき、美学の諸問題に関して議論を行なう。参加者は、自分の興味分野と問題意識にもとづき、積極的に議論に参加することが求められる。																				
◆ 到達目標	西洋美学に関する文献を精読し、西洋美学における基礎的な概念について理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業の紹介。</td> <td>9. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>2. 文献講読。</td> <td>10. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>3. 文献講読。</td> <td>11. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>4. 文献講読。</td> <td>12. 発表とディスカッションその一。</td> </tr> <tr> <td>5. 文献講読。</td> <td>13. 発表とディスカッションその二。</td> </tr> <tr> <td>6. 文献講読。</td> <td>14. 発表とディスカッションその三。</td> </tr> <tr> <td>7. 文献講読。</td> <td>15. 復習とまとめ。</td> </tr> <tr> <td>8. 文献講読。</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業の紹介。	9. 文献講読。	2. 文献講読。	10. 文献講読。	3. 文献講読。	11. 文献講読。	4. 文献講読。	12. 発表とディスカッションその一。	5. 文献講読。	13. 発表とディスカッションその二。	6. 文献講読。	14. 発表とディスカッションその三。	7. 文献講読。	15. 復習とまとめ。	8. 文献講読。	
1. 授業の紹介。	9. 文献講読。																				
2. 文献講読。	10. 文献講読。																				
3. 文献講読。	11. 文献講読。																				
4. 文献講読。	12. 発表とディスカッションその一。																				
5. 文献講読。	13. 発表とディスカッションその二。																				
6. 文献講読。	14. 発表とディスカッションその三。																				
7. 文献講読。	15. 復習とまとめ。																				
8. 文献講読。																					
◇ 成績評価の方法	発表、翻訳、授業における議論への参加などを総合して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	講義中にプリントを配布する。																				
◇ 授業時間外学習	授業中に与えられた課題について自分の考えをまとめる。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 演 習 Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)	2	准教授	フォンガロ・エンリコ	6	木	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMART306J																					
◆ 授業題目	西洋美学演習（後期）																					
◆ 目的・概要	西洋美学に関する文献を原文で、場合によっては日本語訳を参照しながら精読し、そこに書かれた概念について説明を行なっていく。また、取り上げられたトピックにもとづき、美学の諸問題に関して議論を行なう。参加者は、自分の興味分野と問題意識にもとづき、積極的に議論に参加することが求められる。																					
◆ 到達目標	西洋美学に関する文献を精読し、西洋美学における基礎的な概念について理解を深める。																					
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. 授業の紹介。</td> <td style="width:50%;">9. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>2. 文献講読。</td> <td>10. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>3. 文献講読。</td> <td>11. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>4. 文献講読。</td> <td>12. 発表とディスカッションその一。</td> </tr> <tr> <td>5. 文献講読。</td> <td>13. 発表とディスカッションその二。</td> </tr> <tr> <td>6. 文献講読。</td> <td>14. 発表とディスカッションその三。</td> </tr> <tr> <td>7. 文献講読。</td> <td>15. 復習とまとめ。</td> </tr> <tr> <td>8. 文献講読。</td> <td></td> </tr> </table>						1. 授業の紹介。	9. 文献講読。	2. 文献講読。	10. 文献講読。	3. 文献講読。	11. 文献講読。	4. 文献講読。	12. 発表とディスカッションその一。	5. 文献講読。	13. 発表とディスカッションその二。	6. 文献講読。	14. 発表とディスカッションその三。	7. 文献講読。	15. 復習とまとめ。	8. 文献講読。	
1. 授業の紹介。	9. 文献講読。																					
2. 文献講読。	10. 文献講読。																					
3. 文献講読。	11. 文献講読。																					
4. 文献講読。	12. 発表とディスカッションその一。																					
5. 文献講読。	13. 発表とディスカッションその二。																					
6. 文献講読。	14. 発表とディスカッションその三。																					
7. 文献講読。	15. 復習とまとめ。																					
8. 文献講読。																						
◇ 成績評価の方法	発表、翻訳、授業における議論への参加などを総合して評価する。																					
◇ 教科書・参考書	講義中にプリントを配布する。																					
◇ 授業時間外学習	授業中に出された課題について自分の考えをまとめる。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 実 習 Aesthetics and History of European Fine Arts (Laboratory Work)	2	教授 准教授	尾 崎 彰 宏 芳 賀 京 子	5	火	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHMART307J																					
◆ 授業題目	西洋美術の基礎知識と調査入門																					
◆ 目的・概要	西洋美術分野の基礎知識を身につけるとともに、美術作品の調査法を身につける。同時に博物館・美術館をいくつか見学し、展示法などについて考える。																					
◆ 到達目標	西洋美術史（古代～中世）について、最低限の知識を身につける。美術作品の作品記述、写真撮影、カタログ化などをひとつおりで自分で行えるようになる。																					
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. ガイダンス、ディスクリプション説明</td> <td style="width:50%;">9. 小テスト、西洋美術史発表⑤（古代末期／初期中世美術） カメラ説明</td> </tr> <tr> <td>2. レポート（ディスクリプション）提出 宮城県美術館見学（レオナルド・ダ・ヴィンチと《アンギアーリの戦い》展）</td> <td>10. 小テスト、西洋美術史発表⑥（ビザンチン美術） 撮影練習（石膏像、油彩画）</td> </tr> <tr> <td>3. 展覧会評の発表、レポート提出 パワーポイントの使い方</td> <td>11. 小テスト、西洋美術史発表⑦（ロマネスク美術） 撮影練習（ブロンズ像）</td> </tr> <tr> <td>4. 仙台市博物館見学（黄金のファラオと大ピラミッド展）</td> <td>12. 小テスト、西洋美術史発表⑧（ロマネスク美術） 写真撮影講評</td> </tr> <tr> <td>5. パワーポイント発表、レポート提出 西洋美術史発表①（エゲ文明）</td> <td>13. 美術館見学（日程は未定）</td> </tr> <tr> <td>6. *以下は、平成28年度の特別展開催予定が公表されてから 決めるため、未定。詳細は最初の授業で伝えます。 小テスト、西洋美術史発表②（ギリシア美術）</td> <td>14. 美術館見学（日程は未定）</td> </tr> <tr> <td>7. 小テスト、西洋美術史発表③（エトルリア美術）</td> <td>15. 美術館見学（日程は未定）</td> </tr> <tr> <td>8. 小テスト、西洋美術史発表④（ローマ美術）</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス、ディスクリプション説明	9. 小テスト、西洋美術史発表⑤（古代末期／初期中世美術） カメラ説明	2. レポート（ディスクリプション）提出 宮城県美術館見学（レオナルド・ダ・ヴィンチと《アンギアーリの戦い》展）	10. 小テスト、西洋美術史発表⑥（ビザンチン美術） 撮影練習（石膏像、油彩画）	3. 展覧会評の発表、レポート提出 パワーポイントの使い方	11. 小テスト、西洋美術史発表⑦（ロマネスク美術） 撮影練習（ブロンズ像）	4. 仙台市博物館見学（黄金のファラオと大ピラミッド展）	12. 小テスト、西洋美術史発表⑧（ロマネスク美術） 写真撮影講評	5. パワーポイント発表、レポート提出 西洋美術史発表①（エゲ文明）	13. 美術館見学（日程は未定）	6. *以下は、平成28年度の特別展開催予定が公表されてから 決めるため、未定。詳細は最初の授業で伝えます。 小テスト、西洋美術史発表②（ギリシア美術）	14. 美術館見学（日程は未定）	7. 小テスト、西洋美術史発表③（エトルリア美術）	15. 美術館見学（日程は未定）	8. 小テスト、西洋美術史発表④（ローマ美術）	
1. ガイダンス、ディスクリプション説明	9. 小テスト、西洋美術史発表⑤（古代末期／初期中世美術） カメラ説明																					
2. レポート（ディスクリプション）提出 宮城県美術館見学（レオナルド・ダ・ヴィンチと《アンギアーリの戦い》展）	10. 小テスト、西洋美術史発表⑥（ビザンチン美術） 撮影練習（石膏像、油彩画）																					
3. 展覧会評の発表、レポート提出 パワーポイントの使い方	11. 小テスト、西洋美術史発表⑦（ロマネスク美術） 撮影練習（ブロンズ像）																					
4. 仙台市博物館見学（黄金のファラオと大ピラミッド展）	12. 小テスト、西洋美術史発表⑧（ロマネスク美術） 写真撮影講評																					
5. パワーポイント発表、レポート提出 西洋美術史発表①（エゲ文明）	13. 美術館見学（日程は未定）																					
6. *以下は、平成28年度の特別展開催予定が公表されてから 決めるため、未定。詳細は最初の授業で伝えます。 小テスト、西洋美術史発表②（ギリシア美術）	14. 美術館見学（日程は未定）																					
7. 小テスト、西洋美術史発表③（エトルリア美術）	15. 美術館見学（日程は未定）																					
8. 小テスト、西洋美術史発表④（ローマ美術）																						
◇ 成績評価の方法	授業への参加・貢献（30%）、小テスト（20%）、小レポート（20%）、発表（30%）																					
◇ 教科書・参考書	授業中に指示します。																					
◇ 授業時間外学習	発表はしっかり準備すること。美術館・博物館見学の前に、あらかじめ自分で下調べしてください。見学の次の授業でレポートを提出してもらいます。西洋美術分野の基礎知識については、発表の次の授業で小テストを行います。																					
その他：美術館・博物館の特別展入場料のほか、一度は他県美術館の見学もおこなう予定ですので、その旅費が必要となります。																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 実 習 Aesthetics and History of European Fine Arts (Laboratory Work)	2	教授 尾 崎 彰 宏 准教授 芳 賀 京 子	6	火	3・4
◆ 科目ナンバリング	LHMART307J				
◆ 授業題目	美術作品の記述と西洋美術の見方				
◆ 目的・概要	美術史は何よりも作品観察から出発する。この作品をどのように観察し、それを言葉で表現するか、そのためにはどのようなアプローチが必要かを学ぶ。空想の展覧会を企画し、実際にカタログの作成を行う。				
◆ 到達目標	美術作品にかんするより高度な観察力と記述力を養うことができる				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 空想の美術展の作成のための準備 I 3. 空想の美術展の作成のための準備 II 4. 空想の美術展のタイトルについて 5. 空想の美術展のコンセプト I 6. 空想の美術展のコンセプト II 7. 美術館へ作品見学 I 8. 空想の美術展の作品選定 I 9. 美術館へ作品見学 II 10. 空想の美術展の作品選定 II 11. 美術館へ作品見学 III 12. 空想の美術展の中間報告 13. 空想の美術展の仕上げ 14. 美術館へ作品見学 IV 15. 空想の美術展の合評会 				
◇ 成績評価の方法	出席／平常点／空想の美術展の評価				
◇ 教科書・参考書	ジャンソン『美術の歴史』、その他は教室で指示する。				
◇ 授業時間外学習	可能な限り美術館をまわりじかに作品に接するように努力する。機会を得てヨーロッパへ美術作品を実際に見に行けるようになれば望ましい。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
社 会 学 概 論 Sociology (General Lecture)	2	教授 永 井 彰	3	木	1																		
◆ 科目ナンバリング	LHMSOC201J																						
◆ 授業題目	農村地域社会の社会学																						
◆ 目的・概要	現代の農村地域社会を考えるための基本的な視座や理論を提示するとともに、いくつかのトピックごとに農村地域社会の現状を考察する。																						
◆ 到達目標	(1)農村地域社会を考えるための基本的な視座を理解する。 (2)農村地域社会を分析するための理論枠組みを理解する。 (3)農村地域社会の現状についての基本的な知識を習得する。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>10. 農村地域社会における地域ケア・システム構築の問題 (2)－岩手県沢内の50年をふりかえる(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 農村地域社会をとらえるための基本的視座</td> <td>11. 農村地域社会における地域ケア・システム構築の問題 (3)－長野県の事例から(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 農村社会学の問題設定</td> <td>12. 農村地域社会における地域ケア・システム構築の問題 (4)－長野県の事例から(2)</td> </tr> <tr> <td>4. 農村家族への理論的視座(1)</td> <td>13. 農村地域社会と地域自治</td> </tr> <tr> <td>5. 農村家族への理論的視座(2)</td> <td>14. 農村地域社会の自立を考える</td> </tr> <tr> <td>6. 農村家族の農業経営</td> <td>15. 講義のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 農業生産組織をめぐる諸問題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 農村地域社会の工業化</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 農村地域社会における地域ケア・システム構築の問題 (1)－岩手県沢内の50年をふりかえる(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	10. 農村地域社会における地域ケア・システム構築の問題 (2)－岩手県沢内の50年をふりかえる(2)	2. 農村地域社会をとらえるための基本的視座	11. 農村地域社会における地域ケア・システム構築の問題 (3)－長野県の事例から(1)	3. 農村社会学の問題設定	12. 農村地域社会における地域ケア・システム構築の問題 (4)－長野県の事例から(2)	4. 農村家族への理論的視座(1)	13. 農村地域社会と地域自治	5. 農村家族への理論的視座(2)	14. 農村地域社会の自立を考える	6. 農村家族の農業経営	15. 講義のまとめ	7. 農業生産組織をめぐる諸問題		8. 農村地域社会の工業化		9. 農村地域社会における地域ケア・システム構築の問題 (1)－岩手県沢内の50年をふりかえる(1)	
1. イントロダクション	10. 農村地域社会における地域ケア・システム構築の問題 (2)－岩手県沢内の50年をふりかえる(2)																						
2. 農村地域社会をとらえるための基本的視座	11. 農村地域社会における地域ケア・システム構築の問題 (3)－長野県の事例から(1)																						
3. 農村社会学の問題設定	12. 農村地域社会における地域ケア・システム構築の問題 (4)－長野県の事例から(2)																						
4. 農村家族への理論的視座(1)	13. 農村地域社会と地域自治																						
5. 農村家族への理論的視座(2)	14. 農村地域社会の自立を考える																						
6. 農村家族の農業経営	15. 講義のまとめ																						
7. 農業生産組織をめぐる諸問題																							
8. 農村地域社会の工業化																							
9. 農村地域社会における地域ケア・システム構築の問題 (1)－岩手県沢内の50年をふりかえる(1)																							
◇ 成績評価の方法	(○) 試験 [50%] (○) その他(受講票の提出など) [50%]																						
◇ 教科書・参考書	細谷昂『現代と日本農村社会学』東北大学出版会、1998年。細谷昂『家と村の社会学』御茶の水書房、2012年。																						
◇ 授業時間外学習	参考書は、農村地域社会の社会学を理解するうえでの基本文献なので、授業時間外を利用して読み進めること。授業時配布のレジュメを再読するとともに、そこ示した参考文献を利用して理解を深めること。																						
その他：																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 概 論 Sociology (General Lecture)	2	准教授 小 松 丈 晃	4	木	1																
◆ 科目ナンバリング	LHMSOC201J																				
◆ 授業題目	現代社会と個人																				
◆ 目的・概要	U.ベックによれば、社会学には、①理論研究、②経験的研究およびそれによる理論の吟味、そして③時代診断という三つの課題があるとされる。社会学者たちはみずからの生きる社会をどんな社会として「時代診断」し、理論化し、検証してきたのだろうか。この授業では、社会学的な現代社会論を取り上げながら、現代社会の構造と変動、またそこで生きる個々人の選択やライフコースの変容について考察し、今日的な「社会と個人の関係」について検討する。																				
◆ 到達目標	・現代社会の構造やその変動について理解できる。 ・それぞれの現代社会論の特徴と課題について学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 補論 2) マクドナルド化する現代</td> </tr> <tr> <td>2. 社会の「機能分化」論の系譜</td> <td>10. 機能分化と個人－ルーマンの問い－</td> </tr> <tr> <td>3. 近代化論の限界と世界システム論・従属理論の視点</td> <td>11. 個人化論－U.ベックとA.ギデンズ－</td> </tr> <tr> <td>4. グローバリゼーション</td> <td>12. 社会的排除と包摂－ライフコースのリスク化－</td> </tr> <tr> <td>5. 再帰的近代化論／リスク社会論(1)</td> <td>13. 「自己決定」をめぐる問い</td> </tr> <tr> <td>6. 再帰的近代化論／リスク社会論(2)</td> <td>14. グローバル化のなかの個人</td> </tr> <tr> <td>7. 「圧縮近代」の課題</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 補論 1) 消費社会としての現代社会</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 補論 2) マクドナルド化する現代	2. 社会の「機能分化」論の系譜	10. 機能分化と個人－ルーマンの問い－	3. 近代化論の限界と世界システム論・従属理論の視点	11. 個人化論－U.ベックとA.ギデンズ－	4. グローバリゼーション	12. 社会的排除と包摂－ライフコースのリスク化－	5. 再帰的近代化論／リスク社会論(1)	13. 「自己決定」をめぐる問い	6. 再帰的近代化論／リスク社会論(2)	14. グローバル化のなかの個人	7. 「圧縮近代」の課題	15. まとめ	8. 補論 1) 消費社会としての現代社会	
1. オリエンテーション	9. 補論 2) マクドナルド化する現代																				
2. 社会の「機能分化」論の系譜	10. 機能分化と個人－ルーマンの問い－																				
3. 近代化論の限界と世界システム論・従属理論の視点	11. 個人化論－U.ベックとA.ギデンズ－																				
4. グローバリゼーション	12. 社会的排除と包摂－ライフコースのリスク化－																				
5. 再帰的近代化論／リスク社会論(1)	13. 「自己決定」をめぐる問い																				
6. 再帰的近代化論／リスク社会論(2)	14. グローバル化のなかの個人																				
7. 「圧縮近代」の課題	15. まとめ																				
8. 補論 1) 消費社会としての現代社会																					
◇ 成績評価の方法	講義終了後のコミュニケーションペーパーへの記入内容と出席状況30%＋学期末のレポート70%で評価する																				
◇ 教科書・参考書	参考書として、長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2007、『社会学』有斐閣、土井文博他、2007、『はじめて学ぶ社会学－思想家たちとの対話』ミネルヴァ書房。また、その他トピックに応じて参考文献を授業の中で紹介																				
◇ 授業時間外学習	適宜、授業において学習課題を出す予定																				
その他：オフィスアワーは火曜18：00～18：30、研究室にて受け付けます																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 基 礎 演 習 Sociology (Introductory Seminar)	2	教授 長谷川 公 一	3	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMSOC202J																				
◆ 授業題目	見田宗介を読む																				
◆ 目的・概要	現代日本を代表する社会学者・見田宗介の代表的な文献を読み、社会学的な思考方法の特質と課題について検討する。																				
◆ 到達目標	見田宗介の社会学的研究の成果と課題・特質などについて考察する。とくに初期の社会意識研究にはじまって、『気流の鳴る音』『宮沢賢治』などを読み込み、その現代社会認識について理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 見田宗介の自我論 2</td> </tr> <tr> <td>2. 見田宗介と近代日本の社会意識 1</td> <td>10. 見田宗介の身体論 1</td> </tr> <tr> <td>3. 見田宗介と近代日本の社会意識 2</td> <td>11. 見田宗介の身体論 2</td> </tr> <tr> <td>4. 見田宗介の時間論 1</td> <td>12. 見田宗介の比較社会学 1</td> </tr> <tr> <td>5. 見田宗介の時間論 2</td> <td>13. 見田宗介の比較社会学 2</td> </tr> <tr> <td>6. 見田宗介の宮沢賢治論 1</td> <td>14. 見田宗介の比較社会学 3</td> </tr> <tr> <td>7. 見田宗介の宮沢賢治論 2</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 見田宗介の自我論 1</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 見田宗介の自我論 2	2. 見田宗介と近代日本の社会意識 1	10. 見田宗介の身体論 1	3. 見田宗介と近代日本の社会意識 2	11. 見田宗介の身体論 2	4. 見田宗介の時間論 1	12. 見田宗介の比較社会学 1	5. 見田宗介の時間論 2	13. 見田宗介の比較社会学 2	6. 見田宗介の宮沢賢治論 1	14. 見田宗介の比較社会学 3	7. 見田宗介の宮沢賢治論 2	15. まとめ	8. 見田宗介の自我論 1	
1. イントロダクション	9. 見田宗介の自我論 2																				
2. 見田宗介と近代日本の社会意識 1	10. 見田宗介の身体論 1																				
3. 見田宗介と近代日本の社会意識 2	11. 見田宗介の身体論 2																				
4. 見田宗介の時間論 1	12. 見田宗介の比較社会学 1																				
5. 見田宗介の時間論 2	13. 見田宗介の比較社会学 2																				
6. 見田宗介の宮沢賢治論 1	14. 見田宗介の比較社会学 3																				
7. 見田宗介の宮沢賢治論 2	15. まとめ																				
8. 見田宗介の自我論 1																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [70%] ・ (○) 出席 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	見田宗介『社会学入門』岩波新書。そのほか教室にて指示する。																				
◇ 授業時間外学習	あらかじめ課題文献を十二分に読み込んだうえで、質問をもって授業にのぞむ。前回の授業を咀嚼したうえで、前回分についても質問をもって授業にのぞむ。																				
その他：オフィスアワー：月5																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 基 礎 演 習 Sociology (Introductory Seminar)	2	准教授 小松 丈 晃	4	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMSOC202J																				
◆ 授業題目	システム論を読む																				
◆ 目的・概要	この授業では、社会システム論の視角による教育論を題材にしながら、社会学研究のための精読方法、文献検索法、論文作成、口頭報告の基本など「読み・調べ・伝え・議論する」という基本的なアカデミックスキルを習得することを、主たる目的としている。テキストとして取り上げるのは、ドイツの社会学者 N. ルーマンの Das Erziehungssystem der Gesellschaft (『社会の教育システム』) である。この授業は全体で4つのパートからなり、まず(1)基本的なアカデミックスキルについて学んだ後、(2)この後の精読のための手がかりとなる簡単なレクチャーをする。(3)その後、本書をドイツ語原文を参照しつつ精読し、(4)最後に、受講生が各自の関心から、関連する研究動向を調べ、報告を行い、全員で議論する。																				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会システム理論の基本的な考え方を習得する。 ・社会学の専門文献の精緻な読解方法を身につける。 ・アカデミックスキルを身につける。 																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. アカデミックスキル(1)</td> <td>9. 『社会の教育システム』について(6)</td> </tr> <tr> <td>2. アカデミックスキル(2)</td> <td>10. 『社会の教育システム』について(7)</td> </tr> <tr> <td>3. ルーマン理論およびその教育論について</td> <td>11. 『社会の教育システム』について(8)</td> </tr> <tr> <td>4. 『社会の教育システム』について(1)</td> <td>12. 報告と討論(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 『社会の教育システム』について(2)</td> <td>13. 報告と討論(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 『社会の教育システム』について(3)</td> <td>14. 報告と討論(3)</td> </tr> <tr> <td>7. 『社会の教育システム』について(4)</td> <td>15. 総合討論</td> </tr> <tr> <td>8. 『社会の教育システム』について(5)</td> <td></td> </tr> </table>					1. アカデミックスキル(1)	9. 『社会の教育システム』について(6)	2. アカデミックスキル(2)	10. 『社会の教育システム』について(7)	3. ルーマン理論およびその教育論について	11. 『社会の教育システム』について(8)	4. 『社会の教育システム』について(1)	12. 報告と討論(1)	5. 『社会の教育システム』について(2)	13. 報告と討論(2)	6. 『社会の教育システム』について(3)	14. 報告と討論(3)	7. 『社会の教育システム』について(4)	15. 総合討論	8. 『社会の教育システム』について(5)	
1. アカデミックスキル(1)	9. 『社会の教育システム』について(6)																				
2. アカデミックスキル(2)	10. 『社会の教育システム』について(7)																				
3. ルーマン理論およびその教育論について	11. 『社会の教育システム』について(8)																				
4. 『社会の教育システム』について(1)	12. 報告と討論(1)																				
5. 『社会の教育システム』について(2)	13. 報告と討論(2)																				
6. 『社会の教育システム』について(3)	14. 報告と討論(3)																				
7. 『社会の教育システム』について(4)	15. 総合討論																				
8. 『社会の教育システム』について(5)																					
◇ 成績評価の方法	出席50%、授業での発言および報告内容50%で評価します																				
◇ 教科書・参考書	〔主要テキスト〕 Luhmann, Niklas, 2002, Das Erziehungssystem der Gesellschaft, Suhrkamp. [村上淳一訳『社会の教育システム』東京大学出版会、2004年] 〔参考書〕 石戸教嗣、2000、『ルーマンの教育システム論』恒星社厚生閣；石戸教嗣・今井重孝編、2011、『システムとしての教育を探る』勁草書房。その他、適宜授業中に紹介します。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、授業時間外学習をととして、課題をこなしていただくことが必要になります。																				
その他：ドイツ語が読めない人にも配慮します。 オフィスアワーは火曜18：00～18：30、研究室にて受け付けます。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 基 礎 演 習 Sociology (Introductory Seminar)	2	助教 泉 啓	4	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMSOC202J																				
◆ 授業題目	社会問題を読む、論じる																				
◆ 目的・概要	本基礎演習は、近年話題になった様々なテーマを元に、現代の社会問題への意識を養うことを目的とする。特に貧困下でありながらも支援から縁遠い人々に焦点を当て、「下流老人」、「触法障害者」、「最貧困女子」といったテーマについて書かれた新書を本授業では輪読する。これらの著作を通じて、支援を拒む人々の実像に触れることで、社会問題の根深さに対し想像力を獲得することが目指される。																				
◆ 到達目標	社会で起きている出来事や自分の身のまわりで起こる現象を社会的に考え、読み解き、説明することができること																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 最後の砦・セーフティネットとしての刑務所</td> </tr> <tr> <td>2. 貧困はどこまで自己責任か</td> <td>10. 支援を拒み、路上に暮らす障害者</td> </tr> <tr> <td>3. 障害の無さ(軽さ)と支援の無さ</td> <td>11. 長崎・南高愛隣会の実践</td> </tr> <tr> <td>4. (1)誰もがなりうる生活困窮者―「下流老人」論について</td> <td>12. (3)女性の貧困の根深さ―「最貧困女子」論について</td> </tr> <tr> <td>5. 「普通」から「下流」へのストーリー</td> <td>13. 子供の貧困と女性の貧困の交差点としての貧困女子問題</td> </tr> <tr> <td>6. ひっそりと死んでいく「下流老人」たち</td> <td>14. 「マイルドヤンキー」と「最貧困女子」の格差</td> </tr> <tr> <td>7. 個人に依存する社会福祉制度の疲労</td> <td>15. 貧困男性は路上へ、貧困女子はどこへ?―貧困問題のジェンダー差</td> </tr> <tr> <td>8. (2)軽度知的障害者への支援の困難―「触法障害者」論について</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 最後の砦・セーフティネットとしての刑務所	2. 貧困はどこまで自己責任か	10. 支援を拒み、路上に暮らす障害者	3. 障害の無さ(軽さ)と支援の無さ	11. 長崎・南高愛隣会の実践	4. (1)誰もがなりうる生活困窮者―「下流老人」論について	12. (3)女性の貧困の根深さ―「最貧困女子」論について	5. 「普通」から「下流」へのストーリー	13. 子供の貧困と女性の貧困の交差点としての貧困女子問題	6. ひっそりと死んでいく「下流老人」たち	14. 「マイルドヤンキー」と「最貧困女子」の格差	7. 個人に依存する社会福祉制度の疲労	15. 貧困男性は路上へ、貧困女子はどこへ?―貧困問題のジェンダー差	8. (2)軽度知的障害者への支援の困難―「触法障害者」論について	
1. イントロダクション	9. 最後の砦・セーフティネットとしての刑務所																				
2. 貧困はどこまで自己責任か	10. 支援を拒み、路上に暮らす障害者																				
3. 障害の無さ(軽さ)と支援の無さ	11. 長崎・南高愛隣会の実践																				
4. (1)誰もがなりうる生活困窮者―「下流老人」論について	12. (3)女性の貧困の根深さ―「最貧困女子」論について																				
5. 「普通」から「下流」へのストーリー	13. 子供の貧困と女性の貧困の交差点としての貧困女子問題																				
6. ひっそりと死んでいく「下流老人」たち	14. 「マイルドヤンキー」と「最貧困女子」の格差																				
7. 個人に依存する社会福祉制度の疲労	15. 貧困男性は路上へ、貧困女子はどこへ?―貧困問題のジェンダー差																				
8. (2)軽度知的障害者への支援の困難―「触法障害者」論について																					
◇ 成績評価の方法	レポート [60%] / 授業での報告内容・討論への参加 [40%] 議論への積極的参加を期待する																				
◇ 教科書・参考書	文献については授業初回で指示する。以下のものの輪読(抜粋)を予定している。 ・湯浅誠、2008『反貧困―「すべり台社会」からの脱出』岩波新書。 ・藤田孝典、2015『下流老人―一億総老後崩壊の衝撃』朝日新書。 ・長崎新聞社編、2012『居場所を探して―累犯障害者たち』長崎新聞社。 ・鈴木大介、2014『最貧困女子』幻冬舎新書。																				
◇ 授業時間外学習	関連文献・記事を読むなどして現代の社会問題への意識を高めること																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 基 礎 演 習 Sociology (Introductory Seminar)	2	非常勤講師 徳川直人	3	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMSOC202J																				
◆ 授業題目	相互行為論の今日的展開：歴史的・社会構造的応用に向けて																				
◆ 目的・概要	テキスト(受講者にはデータを提供する)を用いた演習形式で進める。相互行為と「権力・支配」「歴史性」、観察の立場性と当事者性といった根本的な問題について考察する。題材となるのは色覚差別と沈黙の社会史である。障害学に示唆を得た構築論の見地が応用される。受講者には、毎回のレジュメ作成と意見交換、適宜示される基礎文献に目を配ることが求められる。																				
◆ 到達目標	毎回の予習・復習と学期末レポート。5対5の割合。学期末レポートでは授業で示した文献を必ずとりあげたうえで、自分の対象をもって考察を試みる事が要求される。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 第4章(4-1、4-2)</td> </tr> <tr> <td>2. 第1章(1-1、1-2)</td> <td>10. 第4章(4-3)</td> </tr> <tr> <td>3. 第1章(1-3、1-4)</td> <td>11. 終章(5-1)</td> </tr> <tr> <td>4. 第2章(2-1、2-2)</td> <td>12. 終章(5-2)</td> </tr> <tr> <td>5. 第2章(2-3)</td> <td>13. 序章(0-1)</td> </tr> <tr> <td>6. 第2章(2-4)</td> <td>14. 序章(0-2)</td> </tr> <tr> <td>7. 第2章(2-5)</td> <td>15. 質疑とディスカッション</td> </tr> <tr> <td>8. 第3章</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 第4章(4-1、4-2)	2. 第1章(1-1、1-2)	10. 第4章(4-3)	3. 第1章(1-3、1-4)	11. 終章(5-1)	4. 第2章(2-1、2-2)	12. 終章(5-2)	5. 第2章(2-3)	13. 序章(0-1)	6. 第2章(2-4)	14. 序章(0-2)	7. 第2章(2-5)	15. 質疑とディスカッション	8. 第3章	
1. イントロダクション	9. 第4章(4-1、4-2)																				
2. 第1章(1-1、1-2)	10. 第4章(4-3)																				
3. 第1章(1-3、1-4)	11. 終章(5-1)																				
4. 第2章(2-1、2-2)	12. 終章(5-2)																				
5. 第2章(2-3)	13. 序章(0-1)																				
6. 第2章(2-4)	14. 序章(0-2)																				
7. 第2章(2-5)	15. 質疑とディスカッション																				
8. 第3章																					
◇ 成績評価の方法	毎回の予習・復習と学期末レポート。5対5の割合。学期末レポートでは授業で示した文献を必ずとりあげたうえで、自分の対象をもって考察を試みる事が要求される。																				
◇ 教科書・参考書	徳川直人、2016、『色覚差別と語りづらさの社会学』、生活書院。																				
◇ 授業時間外学習	受講者には、毎回のレジュメ作成と意見交換、適宜示される基礎文献に目を配ることが求められる。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
社 会 学 各 論 Sociology (Special Lecture)	2	教授 永 井 彰	5	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHMSOC301J				
◆ 授業題目	ハーバーマスの社会理論				
◆ 目的・概要	ハーバーマス社会理論を社会学理論の展開史のなかに位置づけその特徴を明らかにするとともに、ハーバーマス社会理論の論理構造を明示化し、その「可能性の中心」について検討する。				
◆ 到達目標	ハーバーマス社会理論の論理構造について理解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. ハーバーマス研究の視座と方法 3. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置(1) 4. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置(2) 5. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置(3) 6. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置(4) 7. コミュニケーション行為理論の論理構造(1) 8. コミュニケーション行為理論の論理構造(2) 9. コミュニケーション行為理論と公共圏論 10. コミュニケーション行為概念の再規定 11. 生活世界論の再構成 12. 生活世界とシステム 13. ハーバーマスの社会理論の視座と方法 14. 再構成的社会学の可能性 15. 講義のまとめ				
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [50%] (○) その他 (受講票の提出など) [50%]				
◇ 教科書・参考書	永井彰『ハーバーマスの社会理論—視座と方法』。				
◇ 授業時間外学習	授業前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業後に、レジユメを参照しながら、教科書の該当箇所を読むこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
社 会 学 各 論 Sociology (Special Lecture)	2	教授 下 夷 美 幸	6	火	1
◆ 科目ナンバリング	LHMSOC301J				
◆ 授業題目	家族政策の現状と論理				
◆ 目的・概要	家族社会学の応用力を養うことを目的とする。授業では、家族をめぐるケア（育児と介護）やひとり親家族の生活支援といった具体的な問題をとりあげ、主要先進諸国との比較も交えながら、日本の家族政策の現状および今後の課題について、講義、討論する（受講者の意見も聴取しながらすすめていく）。				
◆ 到達目標	(1) 家族の変容や家族問題の実情について理解する。 (2) 家族政策の現状と日本の特質について考察する。 (3) 今後の家族政策の課題について探求する。				
◆ 授業内容・方法	1. 家族政策の概念整理 2. 福祉国家と家族(1) 3. 福祉国家と家族(2) 4. 育児支援政策(1) 5. 育児支援政策(2) 6. 育児支援政策(3) 7. 育児支援政策(4) 8. 高齢者介護政策(1) 9. 高齢者介護政策(2) 10. 高齢者介護政策(3) 11. 高齢者介護政策(4) 12. ひとり親家族支援政策(1) 13. ひとり親家族支援政策(2) 14. ひとり親家族政策(3) 15. 授業のまとめ				
◇ 成績評価の方法	コメントペーパー（復習）50%、課題レポート50%				
◇ 教科書・参考書	教科書・参考書は教室で指示する。				
◇ 授業時間外学習	(1) 毎回の授業後、取り上げたテーマについて、授業内容を復習し、コメントペーパーに自分の考察を記述する。その際、関連する文献や資料などにもあたり、学習を深める。なお、コメントペーパーは翌週の授業で提出する。 (2) 事前配布資料がある場合は、資料を読み込んで、自分の考えをまとめて授業にのぞむ。				
その他：授業内では皆さんの意見を聴取しながら進めます。どのような意見でもかまいませんので、自由に発言してください。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 各 論 Sociology (Special Lecture)	2	非常勤 講師 小 林 一 穂	5	水	3																
<p>◆ 科目ナンバリング LHMSOC301J</p> <p>◆ 授業題目 質的調査の方法</p> <p>◆ 目的・概要 質的調査の多様な方法と実際の分析とを紹介する。</p> <p>◆ 到達目標 質的調査の方法を学び、基礎的な技法に基づいて実践できるようになることを目指す。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 社会調査の意義と目的</td> <td>9. コーディングと類型化</td> </tr> <tr> <td>2. 質的調査の特徴</td> <td>10. 報告書の作成</td> </tr> <tr> <td>3. フィールドワーク</td> <td>11. 家族調査の実際</td> </tr> <tr> <td>4. インタビュー</td> <td>12. 社会福祉調査の実際</td> </tr> <tr> <td>5. 参与観察</td> <td>13. 地域調査の実際</td> </tr> <tr> <td>6. アクション・リサーチ</td> <td>14. 調査倫理</td> </tr> <tr> <td>7. ドキュメント分析</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. ライフヒストリー分析</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 レポート (50%)、出席 (50%)</p> <p>◇ 教科書・参考書 教科書は使用しない。参考書は授業中に指示する。</p> <p>◇ 授業時間外学習 参考書等関連文献に目を通すこと</p>						1. 社会調査の意義と目的	9. コーディングと類型化	2. 質的調査の特徴	10. 報告書の作成	3. フィールドワーク	11. 家族調査の実際	4. インタビュー	12. 社会福祉調査の実際	5. 参与観察	13. 地域調査の実際	6. アクション・リサーチ	14. 調査倫理	7. ドキュメント分析	15. まとめ	8. ライフヒストリー分析	
1. 社会調査の意義と目的	9. コーディングと類型化																				
2. 質的調査の特徴	10. 報告書の作成																				
3. フィールドワーク	11. 家族調査の実際																				
4. インタビュー	12. 社会福祉調査の実際																				
5. 参与観察	13. 地域調査の実際																				
6. アクション・リサーチ	14. 調査倫理																				
7. ドキュメント分析	15. まとめ																				
8. ライフヒストリー分析																					
その他：オフィスアワー：随時メールで。社会調査士資格認定標準科目Fに対応。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 各 論 Sociology (Special Lecture)	2	非常勤 講師 小 林 一 穂	6	水	3																
<p>◆ 科目ナンバリング LHMSOC301J</p> <p>◆ 授業題目 フィールドワークの実際</p> <p>◆ 目的・概要 地域調査の実際を紹介する。調査企画から実査、資料やデータの整理と分析、報告にまとめるまでを説明する。</p> <p>◆ 到達目標 フィールドワークの取り組み方について高度な理解を目指す。とくに地域調査の実際を理解する。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 質的調査法の概説</td> <td>9. 日本農村調査の実際：聞き取りと資料分析</td> </tr> <tr> <td>2. 客観主義的方法</td> <td>10. 日本農村調査の実際：データの整理</td> </tr> <tr> <td>3. 解釈学的方法</td> <td>11. 中国農村の問題状況</td> </tr> <tr> <td>4. 構築主義的方法</td> <td>12. 中国農村調査の実際：企画と設計</td> </tr> <tr> <td>5. 実践的アプローチ</td> <td>13. 中国農村調査の実際：聞き取りと資料分析</td> </tr> <tr> <td>6. 地域調査の課題と方法</td> <td>14. 中国農村調査の実際：データの整理</td> </tr> <tr> <td>7. 日本農村の問題状況</td> <td>15. まとめ：報告書の作成</td> </tr> <tr> <td>8. 日本農村調査の実際：企画と設計</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 レポート (50%)、出席 (50%)</p> <p>◇ 教科書・参考書 教科書は使用しない。参考書は授業中に指示する。</p> <p>◇ 授業時間外学習 参考書等関連文献に目を通すこと</p>						1. 質的調査法の概説	9. 日本農村調査の実際：聞き取りと資料分析	2. 客観主義的方法	10. 日本農村調査の実際：データの整理	3. 解釈学的方法	11. 中国農村の問題状況	4. 構築主義的方法	12. 中国農村調査の実際：企画と設計	5. 実践的アプローチ	13. 中国農村調査の実際：聞き取りと資料分析	6. 地域調査の課題と方法	14. 中国農村調査の実際：データの整理	7. 日本農村の問題状況	15. まとめ：報告書の作成	8. 日本農村調査の実際：企画と設計	
1. 質的調査法の概説	9. 日本農村調査の実際：聞き取りと資料分析																				
2. 客観主義的方法	10. 日本農村調査の実際：データの整理																				
3. 解釈学的方法	11. 中国農村の問題状況																				
4. 構築主義的方法	12. 中国農村調査の実際：企画と設計																				
5. 実践的アプローチ	13. 中国農村調査の実際：聞き取りと資料分析																				
6. 地域調査の課題と方法	14. 中国農村調査の実際：データの整理																				
7. 日本農村の問題状況	15. まとめ：報告書の作成																				
8. 日本農村調査の実際：企画と設計																					
その他：オフィスアワー：随時メールで。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
社 会 学 各 論 Sociology (Special Lecture)	2	准教授 小松丈晃	6	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHMSOC301J				
◆ 授業題目	リスクと知／無知の社会学				
◆ 目的・概要	<p>自然災害のリスクなどへの対処には、自然科学のみならず人文・社会（科）学的な視点が必要である。学際的な広がりをもつリスク研究だが、この授業では、社会的なリスク研究を概観しながら、複雑化する現代社会におけるリスクとの「つきあい方」について考えていきたい。また、リスク論に対する社会学の貢献はどこにあるのか、逆にリスクについての考察は社会学に何をもちたらすのか、そしてリスクについての社会学研究はなぜ必要か、等についても検討する。授業は全体として三つのパートからなる。まず(1)社会学におけるリスク研究について概説し、その後(2)科学社会学の展開状況をも踏まえつつ、科学に対する信頼や専門知の責任について考察する。最後に(3)災害に関する社会学研究を繕きながら、自然災害に向き合う社会のあり方について考える。</p>				
◆ 到達目標	各アプローチの特徴と課題について理解できるようになる。現代社会が直面するリスクとのつきあい方について自分なりの考察できる手がかりを得る。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. リスク社会という社会記述について 2. M.ダグラスの文化論とデュルケムの視点 3. 社会システム理論的リスク研究 4. リスク・ガバナンスの枠組みと課題 5. 「リスクの社会的増幅／減衰（SARF）」論 6. リスク社会における信頼(1) 7. リスク社会における信頼(2) 8. 地域社会と科学—サイエンスカフェ／CBRの動向と課題— 9. 科学・技術の社会学(1) 10. 科学・技術の社会学(2) 11. 災害社会学への視点(1) 12. 災害社会学への視点(2) 13. 災害社会学への視点(3) 14. 「無知」論への新しいまなざし—「想定外」の社会学のために— 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	講義終了後のコミュニケーションペーパーへの記入内容と出席状況30%＋学期末のレポート70%で評価				
◇ 教科書・参考書	教科書はありません。トピックに応じて参考文献を授業の中で提示します。				
◇ 授業時間外学習	適宜、授業において学習課題を出す予定です。				
その他：オフィスアワーは火曜18：00～18：30、研究室で受け付けます。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
社 会 学 各 論 Sociology (Special Lecture)	2	非常勤講師 李妍焱	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHMSOC301J				
◆ 授業題目	民による公共の可能性を考える—中国の市民的世界の展開を通して				
◆ 目的・概要	<p>以下の諸テーマについて扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「民による公共」への着目・改革開放後の中国に出現した「みんなの公共問題」 ・中国における民間公益領域の形成 ・ネット空間における公益活動の展開 ・「公共」を巡る民と官の攻防 ・民による公共のエンパワーメント 				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1)公共の概念を検討し、中国的公共、日本的公共の考え方を学ぶ (2)改革開放後の中国の激しい社会変動における市民の公共の展開及びその特徴を理解する (3)市民社会の伝統がない社会において、「民による公共」が如何にして可能なのかについて考える手がかりをつかむ 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国社会における「公共」の生い立ち 2. 社会主義的公共 3. 改革開放とみんなの公共問題の出現 4. 公共問題の多様化と多層化 5. 社会的ニーズと草の根NGO 6. オルタナティブな価値を求める人々 7. 異業種による多元的連携 8. インターネットの中国的普及 9. ネット公益の隆盛 10. 規制から管理、誘導へ 11. 草の根NGOの対政府戦略 12. 一党指導体制と自律的市民活動は両立可能か 13. 民衆に根付く市民へ 14. 企業公益ブームと民間財団の急成長 15. 国家の枠組みを超える連携へ 				
◇ 成績評価の方法	レポート70%、出席30%				
◇ 教科書・参考書	<p>李妍焱、2012『中国の市民社会—動き出した草の根NGO』（岩波新書）</p> <p>李妍焱、2014『日中関係史 1972-2012 IV 民間』</p> <p>園田茂人編、東京大学出版会、第3部第5章「国家関係から市民関係へ—『市民的世界』の拡大と日中連携の可能性」</p>				
◇ 授業時間外学習	上記の参考図書に目を通すこと				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 各 論 Sociology (Special Lecture)	2	非常勤 講師 永 野 由 紀 子	集 中 (6)																		
◆ 科目ナンバリング	LHMSOC301J																				
◆ 授業題目	イエとムラの社会学																				
◆ 目的・概要	イエ・ムラ理論といわれる日本の農村社会学の研究系譜について学んだ上で、「東アジア」における日本の家族組織と村落組織の固有性を考える																				
◆ 到達目標	1. イエ・ムラ理論といわれる日本の農村社会学の研究系譜を理解する。 2. 制度と生活実態の区別と関連について理解する。 3. 「東アジア」における日本の家族組織と村落組織の固有性を考察するための手がかりを得る。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 制度と実態の区別：川島武宜</td> <td>9. 中村吉治の村落共同体</td> </tr> <tr> <td>2. 労働組織としてのイエ・ムラ：柳田国男</td> <td>10. 日本の相続：内藤莞爾と末子相続</td> </tr> <tr> <td>3. 生活保障組織としてのイエ・ムラ：有賀喜左衛門</td> <td>11. 中国・韓国の親族組織と相続</td> </tr> <tr> <td>4. 日本資本主義論争と「第三の立場」</td> <td>12. タイ農村の屋敷地共住集団</td> </tr> <tr> <td>5. 有賀・喜多野論争</td> <td>13. マレー農村の家族圏</td> </tr> <tr> <td>6. 岐阜県白川村の「大家族」</td> <td>14. インドネシア・バリ農村の多元的集団構成</td> </tr> <tr> <td>7. 竹内利美の大家族</td> <td>15. 歴史の連続と断絶</td> </tr> <tr> <td>8. 鈴木栄太郎の自然村</td> <td></td> </tr> </table>					1. 制度と実態の区別：川島武宜	9. 中村吉治の村落共同体	2. 労働組織としてのイエ・ムラ：柳田国男	10. 日本の相続：内藤莞爾と末子相続	3. 生活保障組織としてのイエ・ムラ：有賀喜左衛門	11. 中国・韓国の親族組織と相続	4. 日本資本主義論争と「第三の立場」	12. タイ農村の屋敷地共住集団	5. 有賀・喜多野論争	13. マレー農村の家族圏	6. 岐阜県白川村の「大家族」	14. インドネシア・バリ農村の多元的集団構成	7. 竹内利美の大家族	15. 歴史の連続と断絶	8. 鈴木栄太郎の自然村	
1. 制度と実態の区別：川島武宜	9. 中村吉治の村落共同体																				
2. 労働組織としてのイエ・ムラ：柳田国男	10. 日本の相続：内藤莞爾と末子相続																				
3. 生活保障組織としてのイエ・ムラ：有賀喜左衛門	11. 中国・韓国の親族組織と相続																				
4. 日本資本主義論争と「第三の立場」	12. タイ農村の屋敷地共住集団																				
5. 有賀・喜多野論争	13. マレー農村の家族圏																				
6. 岐阜県白川村の「大家族」	14. インドネシア・バリ農村の多元的集団構成																				
7. 竹内利美の大家族	15. 歴史の連続と断絶																				
8. 鈴木栄太郎の自然村																					
◇ 成績評価の方法	レポート70% 平常点30%																				
◇ 教科書・参考書	(1)細谷昂『家と村の社会学』お茶の水書房 (2)鳥越浩之『家と村の社会学：増補版』世界思想社 (3)永野由紀子『現代農村における「家」と女性』刀水書房 (4)柿崎京一「第八篇「大家族」(家)制」『白川村史・下巻』。その他、講義中に適宜指示する。																				
◇ 授業時間外学習	上記の参考図書や授業中に指示した文献を通して、授業の内容についての理解を深めることが必要である。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 演 習 Sociology (Seminar)	2	教授 長 谷 川 公 一	5	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMSOC302J																				
◆ 授業題目	環境社会学の課題と方法																				
◆ 目的・概要	おもに環境社会学会の機関誌『環境社会学研究』に掲載された論文を詳細に検討し、環境社会学的研究の成果と今日的課題を考察する。																				
◆ 到達目標	環境社会学に関する研究の水準・到達点を理解し、その成果と課題を考察する。理論的な課題の所在および調査設計上の課題についても理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 地域づくりと環境社会学 1</td> </tr> <tr> <td>2. 気候変動問題と環境社会学 1</td> <td>10. 地域づくりと環境社会学 2</td> </tr> <tr> <td>3. 気候変動問題と環境社会学 2</td> <td>11. 廃棄物問題と環境社会学 1</td> </tr> <tr> <td>4. 気候変動問題と環境社会学 3</td> <td>12. 廃棄物問題と環境社会学 2</td> </tr> <tr> <td>5. 食と農の社会学と環境社会学 1</td> <td>13. 環境社会学の理論と方法 1</td> </tr> <tr> <td>6. 食と農の社会学と環境社会学 2</td> <td>14. 環境社会学の理論と方法 2</td> </tr> <tr> <td>7. 歴史的環境と環境社会学 1</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 歴史的環境と環境社会学 2</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 地域づくりと環境社会学 1	2. 気候変動問題と環境社会学 1	10. 地域づくりと環境社会学 2	3. 気候変動問題と環境社会学 2	11. 廃棄物問題と環境社会学 1	4. 気候変動問題と環境社会学 3	12. 廃棄物問題と環境社会学 2	5. 食と農の社会学と環境社会学 1	13. 環境社会学の理論と方法 1	6. 食と農の社会学と環境社会学 2	14. 環境社会学の理論と方法 2	7. 歴史的環境と環境社会学 1	15. まとめ	8. 歴史的環境と環境社会学 2	
1. イントロダクション	9. 地域づくりと環境社会学 1																				
2. 気候変動問題と環境社会学 1	10. 地域づくりと環境社会学 2																				
3. 気候変動問題と環境社会学 2	11. 廃棄物問題と環境社会学 1																				
4. 気候変動問題と環境社会学 3	12. 廃棄物問題と環境社会学 2																				
5. 食と農の社会学と環境社会学 1	13. 環境社会学の理論と方法 1																				
6. 食と農の社会学と環境社会学 2	14. 環境社会学の理論と方法 2																				
7. 歴史的環境と環境社会学 1	15. まとめ																				
8. 歴史的環境と環境社会学 2																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [70%]・(○) 出席 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	教室にて指示する。																				
◇ 授業時間外学習	演習参加者全員があらかじめ課題文献を十二分に読み込んだうえで、質問をもって授業にのぞむ。前回の授業を咀嚼したうえで、前回分についても質問をもって授業にのぞむ。																				
その他：オフィスアワー：月5																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 演 習 S o c i o l o g y (S e m i n a r)	2	准教授 小 松 丈 晃	6	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMSOC302J																				
◆ 授業題目	リスクと不確実性の社会学																				
◆ 目的・概要	「リスク」や「不確実性」は社会（科）学の中心的なテーマの一つとなっているが、この授業では P. Taylor-Gooby & J. Zinn, 2006, Risk in Social Science, Oxford UP. を主なテキストにしながら（他のテキストも適宜参照する）、社会学が多様な領域でこのテーマと関わらざるを得なくなっている現代的状況について考察する。																				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会学の外国語の専門文献の読解方法を身につける。 ・リスクや不確実性を社会的に論じるさいの基本的視角を学ぶ。 ・議論の拡がりを知るとともに、このテーマに対する領域ごとのアプローチの違いについても理解できる。 																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 学際的研究対象としてのリスク</td> <td style="width: 50%;">9. ライフコースの中のリスク</td> </tr> <tr> <td>2. 新しいリスクの管理について</td> <td>10. リスクの規制(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 地域の犯罪とリスク</td> <td>11. リスクの規制(2)</td> </tr> <tr> <td>4. 環境・テクノロジー・リスク(1)</td> <td>12. 不平等とリスク</td> </tr> <tr> <td>5. 環境・テクノロジー・リスク(2)</td> <td>13. メディアとリスク</td> </tr> <tr> <td>6. 日常生活の中のリスク</td> <td>14. 個人化するリスク</td> </tr> <tr> <td>7. 親密な関係とリスク</td> <td>15. 総合討論</td> </tr> <tr> <td>8. 健康とリスク</td> <td></td> </tr> </table>					1. 学際的研究対象としてのリスク	9. ライフコースの中のリスク	2. 新しいリスクの管理について	10. リスクの規制(1)	3. 地域の犯罪とリスク	11. リスクの規制(2)	4. 環境・テクノロジー・リスク(1)	12. 不平等とリスク	5. 環境・テクノロジー・リスク(2)	13. メディアとリスク	6. 日常生活の中のリスク	14. 個人化するリスク	7. 親密な関係とリスク	15. 総合討論	8. 健康とリスク	
1. 学際的研究対象としてのリスク	9. ライフコースの中のリスク																				
2. 新しいリスクの管理について	10. リスクの規制(1)																				
3. 地域の犯罪とリスク	11. リスクの規制(2)																				
4. 環境・テクノロジー・リスク(1)	12. 不平等とリスク																				
5. 環境・テクノロジー・リスク(2)	13. メディアとリスク																				
6. 日常生活の中のリスク	14. 個人化するリスク																				
7. 親密な関係とリスク	15. 総合討論																				
8. 健康とリスク																					
◇ 成績評価の方法	出席50%と毎回の報告内容50%で評価します。																				
◇ 教科書・参考書	〔主要テキスト〕 Taylor-Gooby, P. & J. Zinn, 2006, Risk in Social Science, Oxford UP. 〔参考書〕 Zinn, J. O., 2008, Social Theories of Risk and Uncertainty, Blackwell.																				
◇ 授業時間外学習	毎回、扱う予定のテーマについて入念に検討し報告レジュメを作成してくる																				
その他：オフィスアワーは火曜18：00～18：30、研究室にて受け付けます。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 演 習 S o c i o l o g y (S e m i n a r)	2	教授 下 夷 美 幸	6	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMSOC302J																				
◆ 授業題目	家族問題と家族政策																				
◆ 目的・概要	現実の家族問題と家族政策に対する分析力を涵養することを目的とする。授業では、現代家族と社会政策に関する文献の読解と討論を通して、現状と今後の課題について考察する。文献と進め方、スケジュールについては、初回に参加者と相談する。																				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> (1)家族問題の実態を社会構造との関わりにおいて把握する。 (2)家族問題に対する政策対応の意義と限界を考察する。 																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 演習の進め方について</td> <td style="width: 50%;">9. 文献の読解と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 文献の読解と討論(1)</td> <td>10. 文献の読解と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 文献の読解と討論(2)</td> <td>11. 文献の読解と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 文献の読解と討論(3)</td> <td>12. 文献の読解と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 文献の読解と討論(4)</td> <td>13. 文献の読解と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 文献の読解と討論(5)</td> <td>14. 文献の読解と討論(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 文献の読解と討論(6)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 文献の読解と討論(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 演習の進め方について	9. 文献の読解と討論(8)	2. 文献の読解と討論(1)	10. 文献の読解と討論(9)	3. 文献の読解と討論(2)	11. 文献の読解と討論(10)	4. 文献の読解と討論(3)	12. 文献の読解と討論(11)	5. 文献の読解と討論(4)	13. 文献の読解と討論(12)	6. 文献の読解と討論(5)	14. 文献の読解と討論(13)	7. 文献の読解と討論(6)	15. 授業のまとめ	8. 文献の読解と討論(7)	
1. 演習の進め方について	9. 文献の読解と討論(8)																				
2. 文献の読解と討論(1)	10. 文献の読解と討論(9)																				
3. 文献の読解と討論(2)	11. 文献の読解と討論(10)																				
4. 文献の読解と討論(3)	12. 文献の読解と討論(11)																				
5. 文献の読解と討論(4)	13. 文献の読解と討論(12)																				
6. 文献の読解と討論(5)	14. 文献の読解と討論(13)																				
7. 文献の読解と討論(6)	15. 授業のまとめ																				
8. 文献の読解と討論(7)																					
◇ 成績評価の方法	課題レポート50% 授業内での報告・発言50%																				
◇ 教科書・参考書	教科書・参考書は教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、授業前に該当文献を読みこみ、自分の意見をまとめて授業にのぞむ。報告を担当する際は、関連する文献や資料にもあたり、十分に調査して、報告資料を作成する。																				
その他：授業初回に報告スケジュール（報告者と報告日）を決定するので、やむをえない事情で欠席する場合は、必ず事前にメールで連絡すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 実 習 S o c i o l o g y (F i e l d W o r k) I	2	教 授 永 井 彰	5	金	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHMSOC303J																				
◆ 授業題目	社会調査実習(1)																				
◆ 目的・概要	(1)地域調査（地域社会を対象とした社会調査）の理論と方法を理解する。 (2)調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。 社会調査実習(1)では、現地調査の準備作業までおこなう。																				
◆ 到達目標	(1)地域調査（地域社会を対象とした社会調査）の理論と方法を理解できるようになる。 (2)調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス（実習の内容、方法、計画、調査テーマなどについての説明）</td> <td>8. 調査企画の精緻化</td> </tr> <tr> <td>2. 地域調査の理論と方法(1)</td> <td>9. 予備調査(1) 対象地訪問と対象者の選定</td> </tr> <tr> <td>3. 地域調査の理論と方法(2)</td> <td>10. 調査項目の検討(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 地域調査の理論と方法(3)</td> <td>11. 調査項目の検討(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 調査の構想についての議論</td> <td>12. 調査票の作成(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 先行研究の検討</td> <td>13. 調査票の作成(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 調査対象地についての情報収集と分析</td> <td>14. 予備調査(2) プリテストの実施</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 調査票の完成</td> </tr> </table>					1. ガイダンス（実習の内容、方法、計画、調査テーマなどについての説明）	8. 調査企画の精緻化	2. 地域調査の理論と方法(1)	9. 予備調査(1) 対象地訪問と対象者の選定	3. 地域調査の理論と方法(2)	10. 調査項目の検討(1)	4. 地域調査の理論と方法(3)	11. 調査項目の検討(2)	5. 調査の構想についての議論	12. 調査票の作成(1)	6. 先行研究の検討	13. 調査票の作成(2)	7. 調査対象地についての情報収集と分析	14. 予備調査(2) プリテストの実施		15. 調査票の完成
1. ガイダンス（実習の内容、方法、計画、調査テーマなどについての説明）	8. 調査企画の精緻化																				
2. 地域調査の理論と方法(1)	9. 予備調査(1) 対象地訪問と対象者の選定																				
3. 地域調査の理論と方法(2)	10. 調査項目の検討(1)																				
4. 地域調査の理論と方法(3)	11. 調査項目の検討(2)																				
5. 調査の構想についての議論	12. 調査票の作成(1)																				
6. 先行研究の検討	13. 調査票の作成(2)																				
7. 調査対象地についての情報収集と分析	14. 予備調査(2) プリテストの実施																				
	15. 調査票の完成																				
◇ 成績評価の方法	授業への貢献度（100%）																				
◇ 教科書・参考書	古島敏雄・深井純一編『地域調査法』東京大学出版会、1985年。																				
◇ 授業時間外学習	地域調査というプロジェクトの遂行に向けて、受講者全員で取り組む。そのため、各授業の最後に、次回までにすべき課題を確認し、次の授業までに準備作業を整えた上で、授業に臨む。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 学 実 習 S o c i o l o g y (F i e l d W o r k) I	2	教 授 永 井 彰	6	金	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHMSOC303J																				
◆ 授業題目	社会調査実習(2)																				
◆ 目的・概要	(1)地域調査（地域社会を対象とした社会調査）の理論と方法を理解する。 (2)調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。 社会調査実習(2)では、現地調査の実施から調査データの分析、報告書の作成、分析結果の口頭発表までおこなう。																				
◆ 到達目標	(1)地域調査（地域社会を対象とした社会調査）の理論と方法を理解できるようになる。 (2)調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 現地調査についてのガイダンス（調査倫理や、訪問先でのマナーの確認を含む）</td> <td>8. 調査結果の分析(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 現地調査の実施(1)</td> <td>9. 調査結果の分析(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 現地調査の実施(2)</td> <td>10. 補充調査の実施</td> </tr> <tr> <td>4. 現地調査の実施(3)</td> <td>11. 報告書の企画構成の検討</td> </tr> <tr> <td>5. 現地調査データの整理集計</td> <td>12. 報告書の作成(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 分析方針の検討</td> <td>13. 報告書の作成(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 調査結果の分析(1)</td> <td>14. 報告の口頭発表</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 対象地での研究成果発表</td> </tr> </table>					1. 現地調査についてのガイダンス（調査倫理や、訪問先でのマナーの確認を含む）	8. 調査結果の分析(2)	2. 現地調査の実施(1)	9. 調査結果の分析(3)	3. 現地調査の実施(2)	10. 補充調査の実施	4. 現地調査の実施(3)	11. 報告書の企画構成の検討	5. 現地調査データの整理集計	12. 報告書の作成(1)	6. 分析方針の検討	13. 報告書の作成(2)	7. 調査結果の分析(1)	14. 報告の口頭発表		15. 対象地での研究成果発表
1. 現地調査についてのガイダンス（調査倫理や、訪問先でのマナーの確認を含む）	8. 調査結果の分析(2)																				
2. 現地調査の実施(1)	9. 調査結果の分析(3)																				
3. 現地調査の実施(2)	10. 補充調査の実施																				
4. 現地調査の実施(3)	11. 報告書の企画構成の検討																				
5. 現地調査データの整理集計	12. 報告書の作成(1)																				
6. 分析方針の検討	13. 報告書の作成(2)																				
7. 調査結果の分析(1)	14. 報告の口頭発表																				
	15. 対象地での研究成果発表																				
◇ 成績評価の方法	授業への貢献度（100%）																				
◇ 教科書・参考書	古島敏雄・深井純一編『地域調査法』東京大学出版会、1985年。																				
◇ 授業時間外学習	地域調査というプロジェクトの遂行に向けて、受講者全員で取り組む。そのため、各授業の最後に、次回までにすべき課題を確認し、次の授業までに準備作業を整えた上で、授業に臨む。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 概 論 Behavioral Science (General Lecture)	2	教授 佐藤嘉倫	3	金	3
◆ 科目ナンバリング	LHMOSO201J				
◆ 授業題目	マイクロ・マクロ問題入門				
◆ 目的・概要	次に上げるモデルを用いて、個人の行動から社会的結果が生じる過程の分析を進める。 (1)個人的意思決定モデル (2)交換モデル (3)拡散モデル (4)学習モデル				
◆ 到達目標	個人と社会の相互連関について理解を深め、社会現象を分析する方法を身につける。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション(1) (教科書第1章、第2章) 10. 交換モデル(3) (教科書第5章) 2. イントロダクション(2) (教科書第1章、第2章) 11. 適応モデル(1) (教科書第6章) 3. 推論の評価(1) (教科書第3章) 12. 適応モデル(2) (教科書第6章) 4. 推論の評価(2) (教科書第3章) 13. 拡散モデル(1) (教科書第7章) 5. 選択モデル(1) (教科書第4章) 14. 拡散モデル(2) (教科書第7章) 6. 選択モデル(2) (教科書第4章) 15. ここまで講義で取り上げたモデルを再検討し、モデル 7. 選択モデル(3) (教科書第4章) 構築の方法論を考察する。 8. 交換モデル(1) (教科書第5章) 9. 交換モデル(2) (教科書第5章)				
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [60%]・() レポート [%]・(○) 出席 [40%]				
◇ 教科書・参考書	レイブ・マーチ『社会科学のためのモデル入門』ハーベスト社				
◇ 授業時間外学習	教科書の該当箇所を講義の前に読んでおくこと。				
その他：オフィスアワー：水曜第5講時（事前予約をすること）					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 概 論 Behavioral Science (General Lecture)	2	教授 佐藤嘉倫	4	金	3
◆ 科目ナンバリング	LHMOSO201J				
◆ 授業題目	ゲーム理論入門				
◆ 目的・概要	ゲーム理論の基礎的な論理を理解することをめざす。講義でカバーする内容は次のようなものである。 ・ゲーム理論による説明形式 ・戦略型ゲームとナッシュ均衡 ・展開型ゲームと部分ゲーム完全ナッシュ均衡 ・繰り返しゲームとフォーク定理 ・不完備情報ゲームと完全ベイジアン均衡 ・進化ゲーム理論				
◆ 到達目標	(1)ゲーム理論の基本的論理を理解できるようになる。 (2)ゲーム理論を用いた学術論文の内容を理解できるようになる。 (3)自分で簡単なゲーム理論的モデルを構築できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション(1) (教科書1, 2, 3) 10. 不完備情報ゲームの応用(1) (教科書20) 2. イントロダクション(2) (教科書1, 2, 3) 11. 不完備情報ゲームの応用(2) (教科書20) 3. 離散型戦略・連続型戦略・囚人のジレンマ(1) (教科書4, 5, 6) 12. 進化ゲーム理論—進化的安定戦略とリプリケーター・ダイ 4. 離散型戦略・連続型戦略・囚人のジレンマ(2) (教科書4, 5, 6) ナミクス(1) (教科書22, 23, 24) 5. 展開形ゲーム (教科書9, 10, 11) 13. 進化ゲーム理論—進化的安定戦略とリプリケーター・ダイ 6. 展開形ゲームの応用 (教科書12, 13) ナミクス(2) (教科書22, 23, 24) 7. 繰り返しゲーム(1) (教科書14, 15) 14. 確率進化ゲーム理論 (教科書25) 8. 繰り返しゲーム(2) (教科書14, 15) 15. ここまで講義で取り上げたトピックを再検討し、モデルを 9. 不完備情報ゲーム (教科書16, 17) 構築する方法論を考察する。				
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [60%]・() レポート [%]・(○) 出席 [40%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：佐藤嘉倫『ワードマップ ゲーム理論—人間と社会の複雑な関係を解く』新曜社、2008年				
◇ 授業時間外学習	教科書の該当箇所を講義の前に読んでおくこと。				
その他：オフィスアワー：水曜第5講時（事前に予約をすること）グローバル安全学トップリーダー育成プログラムの基幹科目「リスクと社会」を兼ねる。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
行 動 科 学 概 論 Behavioral Science (General Lecture)	2	教授 木 村 邦 博	3	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMOSO201J																				
◆ 授業題目	社会調査の基礎																				
◆ 目的・概要	現代社会を特徴づける人間活動の1つである社会調査について、その目的と進め方（調査内容の決定、調査対象の決定、調査の実施方法、調査結果の分析方法とまとめ方）を知るとともに、その歴史と成果について学習する。個人が身の回りから様々な情報を得る場合と社会調査との違いに着目しながら、細かい技法よりも、基本的な考え方を修得することを目指す。																				
◆ 到達目標	社会調査に関する基本的な知識を修得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 現代社会と社会調査：社会調査の目的と意義</td> <td>9. 結果の集計と分析(1)</td> </tr> <tr> <td>2. 社会調査の用途と歴史：社会調査の歴史</td> <td>10. 結果の集計と分析(2)</td> </tr> <tr> <td>3. 調査内容の決定(1)</td> <td>11. 聴取調査の方法：質的調査、社会調査の実例(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 調査内容の決定(2)</td> <td>12. 調査報告をまとめる</td> </tr> <tr> <td>5. 調査対象の決定(1)</td> <td>13. さまざまな社会調査(1)：社会調査の実例(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 調査対象の決定(2)</td> <td>14. さまざまな社会調査(2)：社会調査の実例(3)</td> </tr> <tr> <td>7. 調査の実施と処理(1)</td> <td>15. 調査者と被調査者：社会調査の倫理</td> </tr> <tr> <td>8. 調査の実施と処理(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 現代社会と社会調査：社会調査の目的と意義	9. 結果の集計と分析(1)	2. 社会調査の用途と歴史：社会調査の歴史	10. 結果の集計と分析(2)	3. 調査内容の決定(1)	11. 聴取調査の方法：質的調査、社会調査の実例(1)	4. 調査内容の決定(2)	12. 調査報告をまとめる	5. 調査対象の決定(1)	13. さまざまな社会調査(1)：社会調査の実例(2)	6. 調査対象の決定(2)	14. さまざまな社会調査(2)：社会調査の実例(3)	7. 調査の実施と処理(1)	15. 調査者と被調査者：社会調査の倫理	8. 調査の実施と処理(2)	
1. 現代社会と社会調査：社会調査の目的と意義	9. 結果の集計と分析(1)																				
2. 社会調査の用途と歴史：社会調査の歴史	10. 結果の集計と分析(2)																				
3. 調査内容の決定(1)	11. 聴取調査の方法：質的調査、社会調査の実例(1)																				
4. 調査内容の決定(2)	12. 調査報告をまとめる																				
5. 調査対象の決定(1)	13. さまざまな社会調査(1)：社会調査の実例(2)																				
6. 調査対象の決定(2)	14. さまざまな社会調査(2)：社会調査の実例(3)																				
7. 調査の実施と処理(1)	15. 調査者と被調査者：社会調査の倫理																				
8. 調査の実施と処理(2)																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験による。																				
◇ 教科書・参考書	教科書：原純輔・浅川達人『社会調査』（改訂版）放送大学教育振興会、2009。																				
◇ 授業時間外学習	教科書と補足資料（ISTUで配付）で予習・復習をする。																				
その他：(1)行動科学概論（社会調査の実際）とあわせて受講することが望ましい。 (2)社会調査士資格認定標準科目Aに対応。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
行 動 科 学 概 論 Behavioral Science (General Lecture)	2	教授 木 村 邦 博	4	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMOSO201J																				
◆ 授業題目	社会調査の実際																				
◆ 目的・概要	社会調査を遂行しておく上で理解しておくべき、調査目的に合った調査企画・設計の方法と、データ蒐集やデータ分析の主要な技法について理解する。基本的な考え方と同時に、現実には遭遇する具体的な問題にどう実際的に対処していくかについても把握する。																				
◆ 到達目標	社会調査を遂行するために基本的な技法に関する知識を得る。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 調査票の設計とワーディング1 （説明・仮説・作業仮説、様々な調査実施方法）</td> <td>9. 測定と尺度構成2（多次元尺度の考え方）</td> </tr> <tr> <td>2. 調査票の設計とワーディング2 （調査票の構成、ワーディングと回答の歪み）</td> <td>10. 測定と尺度構成3（社会的地位の測定法）</td> </tr> <tr> <td>3. 標本抽出と統計的推測1（標本抽出法）</td> <td>11. 多変量解析の基礎1（重回帰分析の考え方）</td> </tr> <tr> <td>4. 標本抽出と統計的推測2（統計的推測）</td> <td>12. 多変量解析の基礎2（質的変数と重回帰分析）</td> </tr> <tr> <td>5. 標本抽出と統計的推測3（統計的検定）</td> <td>13. 多変量解析の基礎3（パス解析と因子分析）</td> </tr> <tr> <td>6. 因果推論の方法1（因果関係と相関関係）</td> <td>14. データの整理と作成1 （調査票の配布・回収からエディティング、コーディング、データ入力とクリーニングまで）</td> </tr> <tr> <td>7. 因果推論の方法2（因果的規定力の推定）</td> <td>15. データの整理と作成2 （非定形データの処理・分析法）</td> </tr> <tr> <td>8. 測定と尺度構成1（測定と尺度構成の考え方）</td> <td></td> </tr> </table>					1. 調査票の設計とワーディング1 （説明・仮説・作業仮説、様々な調査実施方法）	9. 測定と尺度構成2（多次元尺度の考え方）	2. 調査票の設計とワーディング2 （調査票の構成、ワーディングと回答の歪み）	10. 測定と尺度構成3（社会的地位の測定法）	3. 標本抽出と統計的推測1（標本抽出法）	11. 多変量解析の基礎1（重回帰分析の考え方）	4. 標本抽出と統計的推測2（統計的推測）	12. 多変量解析の基礎2（質的変数と重回帰分析）	5. 標本抽出と統計的推測3（統計的検定）	13. 多変量解析の基礎3（パス解析と因子分析）	6. 因果推論の方法1（因果関係と相関関係）	14. データの整理と作成1 （調査票の配布・回収からエディティング、コーディング、データ入力とクリーニングまで）	7. 因果推論の方法2（因果的規定力の推定）	15. データの整理と作成2 （非定形データの処理・分析法）	8. 測定と尺度構成1（測定と尺度構成の考え方）	
1. 調査票の設計とワーディング1 （説明・仮説・作業仮説、様々な調査実施方法）	9. 測定と尺度構成2（多次元尺度の考え方）																				
2. 調査票の設計とワーディング2 （調査票の構成、ワーディングと回答の歪み）	10. 測定と尺度構成3（社会的地位の測定法）																				
3. 標本抽出と統計的推測1（標本抽出法）	11. 多変量解析の基礎1（重回帰分析の考え方）																				
4. 標本抽出と統計的推測2（統計的推測）	12. 多変量解析の基礎2（質的変数と重回帰分析）																				
5. 標本抽出と統計的推測3（統計的検定）	13. 多変量解析の基礎3（パス解析と因子分析）																				
6. 因果推論の方法1（因果関係と相関関係）	14. データの整理と作成1 （調査票の配布・回収からエディティング、コーディング、データ入力とクリーニングまで）																				
7. 因果推論の方法2（因果的規定力の推定）	15. データの整理と作成2 （非定形データの処理・分析法）																				
8. 測定と尺度構成1（測定と尺度構成の考え方）																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験による。																				
◇ 教科書・参考書	参考書：原純輔・海野道郎『社会調査演習 [第2版]』東京大学出版会、2004。																				
◇ 授業時間外学習	教科書と補足資料（ISTUで配付）で予習・復習をする。																				
その他：(1)行動科学概論（社会調査の基礎）とあわせて受講することが望ましい。 (2)社会調査士資格認定標準科目Bに対応。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 基 礎 演 習 Behavioral Science (Introductory Seminar)	2	助教 大 井 慈 郎	3	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHMOSO202J				
◆ 授業題目	まちづくり研究で学ぶ行動科学				
◆ 目的・概要	良い研究とは何かについての認識、研究テーマの見つけ方、情報（文献）検索法、収集情報の整理法、クリティカル・シンキング、プレゼンテーション技術などを、個人作業と集団作業を通して身につける。授業時間以外の活動（種々の研究作業や集団討論、レジュメやレポートの作成など）も重要である。行動科学専修学生にとっては必修科目である。「まちづくり」というイメージしやすいテーマを用いて、毎回一人一人が発言できる機会を設ける。				
◆ 到達目標	行動科学の学習や研究を進めるのに必要な基礎技術を学ぶ。				
◆ 授業内容・方法	1. 授業計画の説明 2. 論文読解(1)：主張をする(1) 3. 論文読解(2)：主張をする(2) 4. 論文読解(3)：主張と論証(1) 5. 論文読解(4)：主張と論証(2) 6. 論文読解(5)：アプローチの角度(1) 7. 論文読解(6)：アプローチの角度(2) 8. 論文読解(7)：先行研究への異議と論証(1) 9. 論文読解(8)：先行研究への異議と論証(2) 10. 共同研究テーマの決定・打ち合わせ 11. 共同研究経過報告・打ち合わせ・作業 12. 共同研究中間発表 13. 共同研究経過報告・打ち合わせ・作業 14. 最終報告の準備 15. 共同研究成果最終報告会				
◇ 成績評価の方法	出席およびリアクションペーパー [40%]、レポート [30%]、その他（授業時間内での報告や共同研究プレゼンテーション） [30%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は指定しない。毎授業ごとにテーマに沿った論文を紹介する。 参考文献として、木下是雄、1981、『理科系の作文技術』中公新書。				
◇ 授業時間外学習	毎回、課題論文を事前に読んで授業に臨むこと。担当の回は、レジュメを作成する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 基 礎 演 習 Behavioral Science (Introductory Seminar)	2	准教授 浜 田 宏	4	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHMOSO202J				
◆ 授業題目	行動科学の基礎：数理・計量社会学				
◆ 目的・概要	行動科学の基本的な考え方を修得するために代表的なモデルを紹介する。				
◆ 到達目標	(1)初歩的な計量分析と数理モデル分析手法を理解する。 (2)自分で問題を考える能力を身につける。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. 権力のパラドクス1 3. 権力のパラドクス2 4. 社会的ジレンマ 5. 相対的剥奪 6. 互酬性のメカニズム1 7. 互酬性のメカニズム2 8. 教育機会の不平等1 9. 教育機会の不平等2 10. 差別の構造 11. 社会的選択理論1 12. 社会的選択理論2 13. 平等主義とパレート効率性1 14. 平等主義とパレート効率性2 15. 総括				
◇ 成績評価の方法	出席 [70%] その他（授業時間内での報告や質問） [30%]				
◇ 教科書・参考書	盛山和夫（編）、2015、『社会を数理で読み解く』有斐閣。				
◇ 授業時間外学習	毎週、授業で扱うテキストの範囲を事前により、コメントペーパーを準備する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 基 礎 実 習 Behavioral Science (Introductory Laboratory Work)	2	准教授 永 吉 希久子	4	水	4・5
◆ 科目ナンバリング	LHMOSO203J				
◆ 授業題目	多変量解析				
◆ 目的・概要	<p>[授業の目的] 統計ソフトウェア SPSS を用いた演習を通じて、多変量解析の諸技法の理論とデータ分析の実際についての理解を深める。</p> <p>[授業の概要] 授業は基本的には3つのパートに分けて行う。最初のパートでは、統計手法の理論の解説を行う。第二のパートでは、SPSS を用いた分析の仕方を解説する。第三のパートでは、各自課題の分析に取り組んでもらう。</p>				
◆ 到達目標	<p>1. 統計ソフトウェア SPSS を用いて、量的データを分析できるようになる。</p> <p>2. 多変量解析の諸技法の理論を理解し、分析目的に合わせて適切に使用できるようになる。</p>				
◆ 授業内容・方法	<p>1. 社会調査と分析の流れ</p> <p>2. SPSS の基礎と記述統計量</p> <p>3. SPSS の基礎と記述統計量</p> <p>4. 推測統計①：クロス集計表</p> <p>5. 推測統計②：平均の差の検定</p> <p>6. 推測統計③：分散分析</p> <p>7. 推測統計④：相関と偏相関</p> <p>8. 多変量解析①：回帰分析</p> <p>9. 多変量解析②：ダミー変数の利用と交互作用効果</p> <p>10. 多変量解析③：パス解析</p> <p>11. 多変量解析④：二項ロジスティック回帰</p> <p>12. 多変量解析⑤：順序ロジスティック回帰・多項ロジスティック回帰</p> <p>13. 多変量解析⑥：主成分分析と因子分析</p> <p>14. 多変量解析⑦：クラスター分析</p> <p>15. 最終レポート作成</p>				
◇ 成績評価の方法	毎回の課題レポート (20%)、最終レポート (80%)				
◇ 教科書・参考書	教科書は指定しない。 参考書：村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士編『SPSSによる多変量解析』オーム社、2007年				
◇ 授業時間外学習	授業では翌週までの課題を出すので、それを次の授業までに提出することが求められる。				
その他：オフィス・アワー：金曜3講時（事前にアポイントを取る）社会調査士認定科目E科目に対応。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 基 礎 実 習 Behavioral Science (Introductory Laboratory Work)	2	准教授 永 吉 希久子	5	水	4・5
◆ 科目ナンバリング	LHMOSO203J				
◆ 授業題目	社会調査演習				
◆ 目的・概要	この授業では量的調査を中心に扱い、調査の企画から実査、分析、報告書の作成までの一連の過程を経験する。これにより、実際に社会調査を行うために必要となる、さまざまな技法を修得することを目的とする。具体的には、受講生が中心となって、東北大学行動科学研究室卒業生を対象にした質問紙調査を行う。調査票の作成や郵送調査の実施、データの入力、分析、報告を行う。受講生の関心に応じてグループに分け、質問項目を考えてもらう予定である。				
◆ 到達目標	<p>①社会調査を行うための技法を身につけ、実際の調査を適切な方法で実施できるようになる。</p> <p>②仮説の設定およびその検証方法を理解し、分析結果を仮説と関連させながら適切に表現できるようになる。</p>				
◆ 授業内容・方法	<p>1. 社会調査とは、社会調査の進め方</p> <p>2. 先行研究・既存調査の整理①</p> <p>3. 先行研究・既存調査の整理②</p> <p>4. 仮説の設定</p> <p>5. 質問項目の検討①</p> <p>6. 質問項目の検討②</p> <p>7. 調査票の作成</p> <p>8. 実査</p> <p>9. エディティング・コーディング</p> <p>10. データ入力</p> <p>11. データクリーニング</p> <p>12. データ分析による仮説の検証①</p> <p>13. データ分析による仮説の検証②</p> <p>14. データ分析による仮説の検証③</p> <p>15. 報告書原稿の作成</p>				
◇ 成績評価の方法	授業への積極的な参加 (60%)、最終レポート (報告書) (40%)				
◇ 教科書・参考書	轟亮・杉野勇『入門・社会調査法』法律文化社、2010。				
◇ 授業時間外学習	社会調査の実施にあたり、授業時間外での質問項目の検討や、郵送調査の準備等が必要となる。				
その他：オフィス・アワー：金曜3講時（事前にアポイントを取る）社会調査士認定科目G科目に対応。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 各 論 Behavioral Science (Special Lecture)	2	教授 佐藤嘉倫	5	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHMOSO301J				
◆ 授業題目	リスクと防災の社会学				
◆ 目的・概要	教科書に収められている論文や関連論文を踏まえて次のようなテーマなどを扱う予定である。 ・ 社会関係資本と防災 ・ 防災とコミュニティ	・ 消防団のあり方 ・ 災害ボランティア			
◆ 到達目標	自然災害のリスクを低減するためには、自然科学や工学だけでなく人間社会を対象とした社会科学の視点も必要となる。本講義では、社会科学とりわけ社会学の理論や方法論を用いて自然災害のリスクを低減し防災を実現する方策を検討する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 本講義の概略を解説する。 2. 教科書(1)第2章を題材に防災をめぐるローカル・ノレッジのあり方を検討する。 3. 教科書(1)第3章を題材に防災コミュニティと町内会の検討をする。 4. 教科書(1)第4章を題材に都市部町内会における東日本大震災への対応に対する理解を深める。 5. 教科書(1)第5章を題材に災害ボランティアと支えあいのしくみづくりを分析する。 6. 教科書(1)第6章を題材に被災者の生活再建の社会過程に関する理解を深める。 7. 教科書(1)第7章を題材に災害弱者の支援と自立の問題を検討する。 8. 教科書(1)第9章を題材に防災ガバナンスの可能性と課題を議論する。 9. ここまで講義で取り上げてきたテーマを全体的に考察し、防災のための地域社会づくりについて議論する。 10. 教科書(2)第1章を題材に社会関係資本概念の初歩的な理解をする。 11. 教科書(2)第2章を題材に社会科学における社会関係資本概念の検討をする。 12. 前回に続いて、教科書(2)第2章を題材に社会科学における社会関係資本概念をさらに深く検討する。 13. 教科書(2)第3章を題材に関東大震災における社会関係資本と復興との関係を検討する。 14. 教科書(2)第4章を題材に阪神淡路大震災における社会関係資本と復興との関係を検討する。 15. 今まで講義で取り上げてきたテーマを振り返って、防災のための社会関係資本構築に向けた方策を検討する。 				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) レポート [60%] ・ (○) 出席 [40%]				
◇ 教科書・参考書	(1)吉原直樹 (編)、2012、『防災の社会学—防災コミュニティの社会設計に向けて』(第2版)、東信堂。 (2)ダニエル・アルドリッチ、2015、『災害復興におけるソーシャル・キャピタルの役割とは何か：地域再建とレジリエンスの構築』、ミネルヴァ書房。 その他の関連論文については適宜講義中に紹介する。				
◇ 授業時間外学習	教科書の該当箇所や関連文献を授業前に読んでおくこと。				
その他：オフィスアワー：水曜日第5講時（事前に予約すること）					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 各 論 Behavioral Science (Special Lecture)	2	教授 佐藤嘉倫	6	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHMOSO301J				
◆ 授業題目	格差・不平等・リスクの社会学				
◆ 目的・概要	教科書に収録されている論文の中から講義テーマに合うものを取り上げて、参加者同士の議論によって理解を深めていく。				
◆ 到達目標	現代社会の格差と不平等の問題を社会階層論の視点から理解することを目指す。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. ひとり親家庭と教育達成 (教科書16章) 3. 教育達成過程の階層差 (教科書17章) 4. 学校から職業への移行(1) (教科書5章) 5. 学校から職業への移行(2) (教科書5章) 6. 若年労働市場(1) (教科書4章、6章) 7. 若年労働市場(2) (教科書4章、6章) 8. 転職(1) (教科書1章、2章、3章) 9. 転職(2) (教科書1章、2章、3章) 10. 女性の就労(1) (教科書8章、11章) 11. 女性の就労(2) (教科書8章、11章) 12. ライフイベント (教科書9章、10章) 13. 高齢者の格差 (教科書13章) 14. ライフスタイル (教科書14章、15章) 15. 今までの講義で取り上げたテーマを振り返り、現代日本における格差、不平等、リスクの問題を総合的に検討する。 				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) レポート [60%] ・ (○) 出席 [40%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：佐藤嘉倫・尾嶋史章 (編)『格差と多様性』(現代の階層社会 第1巻)、東京大学出版会。 参考書：石田浩・近藤博之・中尾啓子 (編)『趨勢と比較』(現代の階層社会 第2巻)、東京大学出版会。 斎藤友里子・三隅一人 (編)『流動化の中の社会意識』(現代の階層社会 第3巻)、東京大学出版会。				
◇ 授業時間外学習	教科書の該当箇所を講義の前に読んでおくこと。				
その他：オフィスアワー：水曜日第5講時（事前に予約すること）					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 各 論 Behavioral Science (Special Lecture)	2	准教授 浜 田 宏	6	水	4
◆ 科目ナンバリング	LHMOSO301J				
◆ 授業題目	数理社会学の数学的基礎				
◆ 目的・概要	テキストの輪読を通じて、実証分析と数理モデル解析に必要な確率論の基礎を修得し、日常生活や日常的現象の中に潜む数学的構造をフォーマライズする方法を学ぶ。また同時に興味深い研究とは何か、という問題をメタレベルで考える。なお数学的難易度は大学院初級レベルを基準とするため、学部生が履修する場合には、その点を考慮すること。				
◆ 到達目標	1) 社会現象を数理モデルを使って説明する方法の基礎を学ぶ。特に本演習では確率論をベースとして、現象の数学的表現力と数学的問題の証明力を養う。 2) 興味深い問題をどうやって定式化するかを演習を通して学ぶ。見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する。				
◆ 授業内容・方法	1. 確率変数の基礎 1 2. 確率変数の基礎 2—合成と変数変換 3. 確率変数の基礎 3—合成と変数変換 4. 確率変数の視点から理解する OLS 推定 5. 線形制約の検定 (F 検定) 6. ダミー変数とその応用 7. 不均一分散と系列相関 1 8. 不均一分散と系列相関 2 9. 操作変数法によるバイアス除去の推定 1 10. 操作変数法によるバイアス除去の推定 2 11. 欠落変数バイアスの推定 12. 変量効果・固定効果モデルによるバイアス除去の推定 1 13. 変量効果・固定効果モデルによるバイアス除去の推定 2 14. 単位根の検定 1 15. 単位根の検定 2				
◇ 成績評価の方法	レポート [20%]、出席 [60%]、その他 (授業時間内での報告や質問と、報告・レポートに至るまでの過程) [20%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：羽森茂之、2009、『ベーシック計量経済学』中央経済社。 粕谷英一、2012、『一般化線形モデル (Rで学ぶデータサイエンス10)』共立出版 参考書：成田清正、2010、『例題で学べる確率モデル』共立出版。				
◇ 授業時間外学習	毎週テキストの該当箇所を予習して、紙とペンを使って計算する事。				
その他：各自ノートパソコンを持参してRを使用できる環境を整えると、より学習を効率化できる。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 各 論 Behavioral Science (Special Lecture)	2	准教授 永 吉 希久子	6	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHMOSO301J				
◆ 授業題目	差別論				
◆ 目的・概要	[授業の目的と概要] 今日の日本においては、ヘイトスピーチ規制のための法律の制定が検討されるなど、差別問題が重要な社会問題となっている。私たちの多くは、差別が間違ったことだという規範を共有している。にもかかわらず、その根絶は容易ではない。この授業では、心理学や社会学などにおける差別研究の知見を紹介しつつ、差別はなぜ生じ、なぜなくならないのかを考える。授業は講義形式で行うが、受講生のディスカッションを適宜行うので、積極的な参加が求められる。				
◆ 到達目標	①現代社会で生じている差別のさまざまな形態について説明できるようになる。 ②差別についての心理学・社会学における諸理論を理解し、説明できるようになる。 ③今日の日本において差別が生じる要因について、理論にもとづいた自分なりの見解をもち、議論できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. 差別の諸形態 3. 差別はなぜ起こるのか：心理学的説明① 4. 差別はなぜ起こるのか：心理学的説明② 5. 差別はなぜ起こるのか：三者関係論 6. 差別はなぜ起こるのか：社会学的説明① 7. 差別はなぜ起こるのか：社会学的説明② 8. 差別とメディア 9. 差別の制度化 10. 差別の解消はどうすれば可能か？ 11. 具体的な事例から考える：ハンセン病患者① 12. 具体的な事例から考える：ハンセン病患者② 13. 具体的な事例から考える：エスニック・マイノリティ① 14. 具体的な事例から考える：エスニック・マイノリティ② 15. 授業のまとめ				
◇ 成績評価の方法	授業への積極的な参加 (30%)、最終レポート (70%)				
◇ 教科書・参考書	教科書は指定しない。参考文献は授業中に適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	新聞やニュースなどを通じて、今日の日本や外国で起きている差別問題についての情報を集めておくことが求められる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 各 論 Behavioral Science (Special Lecture)	2	非常勤 講師 石 田 淳	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMOSO301J 社会的イメージの数理社会学 数理社会学は、さまざまな社会現象の様相を数理モデルによって表現するとともに、そのメカニズムを理論的に説明することを最終的な目的とする社会学の一分野である。本講義では、とりわけ「社会的イメージの数理社会学」をテーマに、社会的行為の基礎にある人びとの社会的イメージの表現と生成メカニズムのモデルを紹介する。具体的には、ブール代数による社会的カテゴリーイメージの表現モデル、相対的剥奪理論とベイズ・モデルによる社会的資源の分布イメージとその評価の生成モデルを導入し議論する。				
◆ 到達目標	数理モデルの構成や展開について正しく理解できるようになること、各自が興味関心のある社会現象について、発展的なモデルを用いて形式的に表現し説明できるようになること。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション (以降の授業計画は実際の進捗状況などによって変更される可能性がある) 2. 社会的イメージとはなにか 3. 社会的カテゴリー(1): 論理と集合 4. 社会的カテゴリー(2): ブール代数と質的比較分析 5. 社会的カテゴリー(3): ブール代数による社会的カテゴリーイメージの表現 6. 社会的カテゴリー(4): 社会的カテゴリーイメージ生成モデル 7. 所得分布と相対的剥奪(1): 相対的剥奪論の系譜 8. 所得分布と相対的剥奪(2): 相対的剥奪指数とジニ係数 9. 所得分布と相対的剥奪(3): 相対的剥奪指数のパラドックス 10. 所得分布と相対的剥奪(4): 相対的剥奪指数のパラドックス 11. ベイジアン社会意識論(1): ベイズ統計学の基礎 12. ベイジアン社会意識論(2): ベイジアン社会意識論の構想 13. ベイジアン社会意識論(3): 所得分布イメージ 14. ベイジアン社会意識論(4): 階層イメージ 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	平常評価20%、最終レポート80%				
◇ 教科書・参考書	参考書 Rihoux, Benoît and Charles C. Ragin eds., 2008, Configurational Comparative Methods, Thousand Oaks: Sage. (2016年中に翻訳書刊行予定) 石田淳、2015、『相対的剥奪の社会学』東京大学出版会。 Kruschke, John K., 2014, Doing Bayesian Data Analysis, 2nd Edition, Academic Press. 豊田秀樹、2015、『基礎からのベイズ統計学』朝倉書店。				
◇ 授業時間外学習	授業を進める上で必要となる数学的知識については、授業内で詳説するため、事前に高度な数学的知識は必要としない。なお、授業で取り上げる予定の数学は、集合・論理、確率論、簡単な微分積分であるので、これらを事前に学習しておけば授業の理解がよりいっそう進むことだろう。				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 演 習 Behavioral Science (Seminar)	2	教授 佐 藤 嘉 倫	5	水	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMOSO302J 社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル 人々が自発的に秩序(協力行動など)を生み出している社会現象がある。本演習では、教科書を輪読して、これらの現象を分析する方法を理解する。				
◆ 到達目標	進化ゲーム理論やエージェント・ベースト・モデルが社会学にいかなる貢献をするのか理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション(1) 2. イントロダクション(2) 3. 社会秩序概念の検討(1) 4. 社会秩序概念の検討(2) 5. 自己組織性の理論的検討(1) 6. 自己組織性の理論的検討(2) 7. 自己組織性の経験的分析(1) 8. 自己組織性の経験的分析(2) 9. 進化ゲーム理論(1) 10. 進化ゲーム理論(2) 11. 計算社会学入門(1) 12. 計算社会学入門(2) 13. エージェント・ベースト・モデル(1) 14. エージェント・ベースト・モデル(2) 15. ここまで演習で取り上げたトピックを再検討し、エージェント・ベースト・モデルによる社会秩序の自己組織メカニズムの分析について探究する。 				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [50%] ・ (○) 出席 [50%]				
◇ 教科書・参考書	開講時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	演習中の議論に積極的に参加できるように、事前に関連文献に目を通すなど予習をしておくこと。				
その他: オフィスアワー: 水曜日第5講時(事前に予約すること) 第6セメスターの行動科学演習と併せて参加すること					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 演 習 Behavioral Science (Seminar)	2	教授 佐藤嘉倫	6	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHMOSO302J				
◆ 授業題目	エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明				
◆ 目的・概要	エージェント・ベースト・モデルの手法を修得し、自分で自己組織性を解明する。				
◆ 到達目標	前期の議論を踏まえて、実際にエージェント・ベースト・モデルを構築して、社会の自己組織性を自分で解明できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. プログラミング入門(1) 3. プログラミング入門(2) 4. プログラミング入門(3) 5. 研究テーマの決定とグループ分け 6. グループ別の進行状況報告と検討(1) 7. グループ別の進行状況報告と検討(2) 8. グループ別の進行状況報告と検討(3) 9. グループ別の進行状況報告と検討(4) 10. グループ別の進行状況報告と検討(5) 11. グループ別の進行状況報告と検討(6) 12. グループ別の進行状況報告と検討(7) 13. グループ別の進行状況報告と検討(8) 14. グループ別の進行状況報告と検討(9) 15. 各グループによる最終的な研究報告				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [50%] ・ (○) 出席 [50%]				
◇ 教科書・参考書	開講時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	グループに分かれてプログラミングを行うので、積極的にグループワークに参加すること。				
その他：	オフィスアワー：水曜日第5講時（事前に予約すること） 第5セメスターの行動科学演習と併せて参加すること				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 演 習 Behavioral Science (Seminar)	2	教授 木村邦博	5	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHMOSO302J				
◆ 授業題目	質問の科学				
◆ 目的・概要	行動科学的研究においては調査や実験が行われることが多く、そこでは質問紙（調査票）が用いられることも多い。質問紙（調査票）の作成は長い間「アート」に属するものと見なされてきたけれども、近年になって「質問の科学」と呼ばれる、認知科学的視点にもとづく研究も盛んになってきた。この演習では、「質問の科学」の研究結果を報告した日本語論文を読むことで、行動科学的研究におけるデータ収集法・測定法の諸問題とそれへの対処方法を理解する。その際、「総調査誤差アプローチ」や「センシティブなトピック」などの関連分野の動向にも目配りをする。				
◆ 到達目標	認知科学的な見方を身につけることで、データ収集・測定の諸問題について理解を深めるとともに、それらの問題に対処するためにはどのようにしたらよいかを考えることができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. 授業計画の概要 2. 「質問の科学」のレビュー 3. 無回答のメカニズム(1)：セレクションバイアスとセンシティブイティ 4. 無回答のメカニズム(2)：最小限化（満足化） 5. 無効回答の問題(1)：動機づけと最小限化（満足化） 6. 無効回答の問題(2)：認知過程と最小限化（満足化） 7. 質問形式の影響(1)：自由回答か多項選択か 8. 質問形式の影響(2)：複数回答か個別多項選択か 9. 選択肢（カテゴリー）の影響(1)：中間選択肢の意味 10. 選択肢（カテゴリー）の影響(2)：選択肢の順序 11. センシティブな質問への対応(1)：「伝統的」アプローチ 12. センシティブな質問への対応(2)：ランダムイズド・レスポンス法 13. その他の問題(1) 14. その他の問題(2) 15. 総合的討論				
◇ 成績評価の方法	期末レポート [50%]、平常点（授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程） [50%]				
◇ 教科書・参考書	演習の場で検討する文献は、参加者各自が「電子ジャーナル」（附属図書館、CiNii、J-STAGE等）や「機関レポジトリ」などからダウンロードする。参考文献：グローヴズ他（大隅昇監訳）『調査法ハンドブック』朝倉書店				
◇ 授業時間外学習	(1)演習の時間に取り上げる文献を事前に読んで検討しておく。 (2)担当の文献に関する報告の準備をする。 (3)関連文献を検索して読み、あわせて検討する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 演 習 Behavioral Science (Seminar)	2	准教授 浜 田 宏	5	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHMOSO302J				
◆ 授業題目	社会学の理論と実証				
◆ 目的・概要	1) 社会現象を数理モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ。 2) 興味深い問題をどうやって定式化するかを演習を通して学ぶ。見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する。				
◆ 到達目標	データの分析手法を習得する 現象の数学的表現を習得する日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける				
◆ 授業内容・方法	1. インTRODククション 2. データの種類、OLSから最尤推定へ1 3. OLSから最尤推定へ2 4. Oaxaca分解・一般化線形モデルGLM 1 5. 一般化線形モデルGLM 2 6. AICによる比較1 7. AICによる比較2 8. 尤度比検定1 9. 尤度比検定2 10. ロジスティック回帰 11. 一般化線形混合モデルGLMM 1 12. 一般化線形混合モデルGLMM 2 13. 一般化線形混合モデルGLMM 3 14. マルコフ連鎖モンテカルロ1 15. マルコフ連鎖モンテカルロ2				
◇ 成績評価の方法	レポート [20%]、出席 [60%]、その他（授業時間内での報告や質問と、報告・レポートに至るまでの過程） [20%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：山本勲、2015、『実証分析のための計量経済学』中央経済社 久保拓哉、2012、『データ解析のための統計モデルリング入門』岩波書店。				
◇ 授業時間外学習	毎週、テキストの該当範囲を事前に読みコメントペーパーを準備する				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 演 習 Behavioral Science (Seminar)	2	准教授 浜 田 宏	6	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHMOSO302J				
◆ 授業題目	Mathematicaによる数理社会学				
◆ 目的・概要	コンピュータによる数値計算や数理モデルの解析をつうじて、人間行動や社会現象をモデル化する手法を習得する。				
◆ 到達目標	1. プログラムの基本的文法（ループ、再帰的代入、多次元確率分布乱数の生成）と関数型プログラミングの方法を習得する。 2. プログラミング言語による社会学的アイデアの実装。				
◆ 授業内容・方法	1. 基本的な入力と計算（四則演算、微分積分、代数計算、微分方程式、関数のグラフ） リストの使い方（配列操作、ベクトルと行列計算、複数エージェントの管理） 2. 関数の作り方（局所変数、Module、即自評価、デバッグ用print、論理演算子） 3. 教育達成における出身階層格差 4. 企業による学生選抜のモデル 5. OLS推定のシミュレーション分析 6. 操作変数法のシミュレーション分析 7. ルーレットのシミュレーション（関数定義、Whileループ、単純統計量の計算、関数Plot） 8. ランチェスターの法則（確率分布、乱数、条件分岐、反復） 9. パネルデータのシミュレーション分析 吸収マルコフ連鎖 10. Tag-based cooperation 恋愛結婚の普及と階層の中流化 11. 研究室への学生配属問題（GSアルゴリズム） 12. 出合いの数理モデル（2項分布と中心極限定理） 13. 間接互惠性のモデル（Agent Based Simulation） 14. 分居モデル、避難行動のシミュレーション（セルラーオートマトン） 15. 参考例に基づくオリジナル・プログラムの作成				
◇ 成績評価の方法	授業内課題 [20%]、出席 [70%]、その他（授業時間内での報告や質問、追加課題） [10%]				
◇ 教科書・参考書	授業時に適宜資料とサンプルコードを配付する。 参考文献は、白石修二、2000、『例題で学ぶ Mathematica 基礎プログラム編』森北出版。仲村健蔵、1996、『MathematicaによるOR』アジソン・ウェスレイ。榎原進、2000、『はやわかり Mathematica 第2版』共立出版。奥村晴彦、1991、『C言語による最新アルゴリズム事典』技術評論社。など				
◇ 授業時間外学習	公開されているサンプルコードを使って、アルゴリズムが正しく表現されているかを確認する事				
その他：プログラミングについての知識は必要ありません。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 演 習 Behavioral Science (Seminar)	2	准教授 永吉希久子	5	金	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMOSO302J 計量社会学の基礎 この授業の目的は、計量的な社会学研究を行うための、基礎的な知識を身につけることにある。基礎的な知識とは、当該テーマにおいて、何が問われ、何が明らかにされてきたのかという理論や既存研究についての知識と、計量分析を行うための分析手法についての知識の二つからなる。この授業では、社会学および計量社会学のテキストを講読することで、教育、階層、家族などの社会学の主要テーマについて、何が問われ、どのような研究方法で、何が明らかにされてきたのかについての知識を習得するとともに、今後問うべき問いについて検討を行う。具体的には、各テーマについて2回の授業で学習する。第一回目の授業では、当該テーマの主要な理論や概念、研究の流れについて、学ぶ。第二回目の授業では、計量研究における研究の流れを学ぶとともに、分析手法の知識を習得する。各回に担当者を決め、テキストの内容についての報告を行ってもらう。そのうえで、全体でディスカッションを行い、理解を深める。				
◆ 到達目標	①計量的な社会学研究の前提となる、主要テーマにおける諸理論と研究の流れを理解し、説明できるようになる。 ②計量的な分析を行うための分析手法の知識を身に付け、自分でも分析できるようになる。 ③計量研究において、今後当該テーマの研究を進展させるための、研究の方向性について説明できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 労働の社会学① 3. 労働の社会学② 4. 教育の社会学① 5. 教育の社会学② 6. 階層の社会学① 7. 階層の社会学② 8. 家族の社会学① 9. 家族の社会学② 10. 都市の社会学① 11. 都市の社会学② 12. 健康・医療・福祉の社会学① 13. 健康・医療・福祉の社会学② 14. 社会意識の社会学① 15. 社会意識の社会学② 				
◇ 成績評価の方法	授業中の報告 (30%)、授業におけるディスカッションへの参加 (10%)、最終レポート (60%)				
◇ 教科書・参考書	櫻井義秀・飯田俊郎・西浦功編著、2014、『アンビシャス社会学』北海道大学出版会 筒井淳也・神林博史・長松奈美江・渡邊大輔・藤原翔編著、2015、『計量社会学入門』世界思想社				
◇ 授業時間外学習	受講生はテキストの該当箇所を事前に読んで参加することが求められる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
行 動 科 学 演 習 Behavioral Science (Seminar)	2	准教授 永吉希久子	6	金	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMOSO302J 制度の計量分析 [授業の目的] 行動科学の主要な問いは、マクロな社会構造とミクロな個人の行動・意識の関連を明らかにすることにある。マクロからミクロへ、という影響のメカニズムについては、近年の分析手法の発展を受けて、様々な形で実証研究が進められている。この授業では、マクロ要因としての国の政策に注目し、政策が個人の行動や意識に影響するメカニズムについての諸理論を理解するとともに、実際に計量的に分析するための手法を習得し、分析できるようになることを目的としている。 [授業の概要] 授業は三部構成からなる。第一部では、政策が個人の生活・意識に影響するメカニズムについての諸理論を、文献講読によって学ぶ。第二部では、政策の個人への影響について分析するための、分析手法についての知識を、講義／実習形式で学習する。第三部では、関心に合わせて受講生をグループに分け、実際にデータの分析を行い、発表をしてもらう。				
◆ 到達目標	①政策が個人の行動・意識に影響するメカニズムについての諸理論を理解し、説明できるようになる。 ②政策から個人への影響を分析するための分析手法を習得し、実際に分析できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 理論編1：ポリシー・フィードバックのメカニズム① 3. 理論編2：ポリシー・フィードバックのメカニズム② 4. 理論編3：古い制度と新しい制度 5. 理論編4：制度と規範の関連 6. 理論編5：制度の制度利用者への影響 7. 方法編1：クラスター分析とその応用① 8. 方法編2：クラスター分析とその応用② 9. 方法編3：マルチレベル分析① 10. 方法編4：マルチレベル分析② 11. 実践編1：班分けとテーマ設定 12. 実践編2：分析と報告の準備 13. 実践編3：分析と報告の準備 14. 実践編4：分析と報告の準備 15. 最終報告会 				
◇ 成績評価の方法	授業への積極的な参加 (40%)、最終報告 (60%)				
◇ 教科書・参考書	初回授業で指示する。				
◇ 授業時間外学習	理論編においてはテキストを事前に読んでくれることが求められる。実践編においては、授業時間外に報告準備が必要となる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
行 動 科 学 演 習 Behavioral Science (Seminar)	2	助教 大井 慈 郎	6	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMOSO302J																				
◆ 授業題目	都市社会学：まちを切り取る																				
◆ 目的・概要	この授業では、都市社会学の古典・現代の論文を読み進めることで、基礎的な知見を学ぶとともに、文献を読む力を身につけることを目的とする。都市祭礼、都市空間、生活様式、コミュニティ、グローバル化、社会的公正、景観、格差など、様々な角度から論じられてきた「都市」について、その研究目的と分析方法を学ぶ。毎回、都市社会学にかかわる論文を取り上げ、その概要、用いられている方法、導かれる結論について、担当の受講生に報告してもらう。その報告をもとに、受講生全体でディスカッションを行う。「都市」にまつわる多彩な論点を取り扱い、一人一人が自分の興味関心について考える機会としたい。																				
◆ 到達目標	1. 都市社会学の基礎的な知見と文献を読む力を身につける。 2. 「都市」というテーマの、多彩な論点とその分析方法について学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション：都市社会学とは</td> <td>9. 地方交通から考えるまち</td> </tr> <tr> <td>2. ねぶた祭りから考えるまち</td> <td>10. 都市の権力構造</td> </tr> <tr> <td>3. 古典(1)：都市の成長</td> <td>11. 場所の力・都市景観</td> </tr> <tr> <td>4. 古典(2)：人間生態学</td> <td>12. ゲーテッド・コミュニティ</td> </tr> <tr> <td>5. 古典(3)：生活様式としてのアーバニズム</td> <td>13. 野宿のフィールドワーク</td> </tr> <tr> <td>6. 古典(4)：ネットワークとコミュニティ</td> <td>14. ニュータウンのオールタウン化</td> </tr> <tr> <td>7. グローバル化と都市経済</td> <td>15. 総括・全体討論</td> </tr> <tr> <td>8. 格差と社会的公正</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション：都市社会学とは	9. 地方交通から考えるまち	2. ねぶた祭りから考えるまち	10. 都市の権力構造	3. 古典(1)：都市の成長	11. 場所の力・都市景観	4. 古典(2)：人間生態学	12. ゲーテッド・コミュニティ	5. 古典(3)：生活様式としてのアーバニズム	13. 野宿のフィールドワーク	6. 古典(4)：ネットワークとコミュニティ	14. ニュータウンのオールタウン化	7. グローバル化と都市経済	15. 総括・全体討論	8. 格差と社会的公正	
1. イントロダクション：都市社会学とは	9. 地方交通から考えるまち																				
2. ねぶた祭りから考えるまち	10. 都市の権力構造																				
3. 古典(1)：都市の成長	11. 場所の力・都市景観																				
4. 古典(2)：人間生態学	12. ゲーテッド・コミュニティ																				
5. 古典(3)：生活様式としてのアーバニズム	13. 野宿のフィールドワーク																				
6. 古典(4)：ネットワークとコミュニティ	14. ニュータウンのオールタウン化																				
7. グローバル化と都市経済	15. 総括・全体討論																				
8. 格差と社会的公正																					
◇ 成績評価の方法	授業での報告（40%）、授業への積極的な参加（30%）、期末レポート（30%）																				
◇ 教科書・参考書	教科書・参考書は指定しない。毎授業ごとにテーマに沿った論文を紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、課題論文を事前に読んで授業に臨むこと。必要に応じて、適宜他の資料も調べる。担当の回は、レジュメを作成する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
実 験 心 理 学 概 論 Experimental Psychology (General Lecture)	2	教授 阿 部 恒 之	3	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMPsy201J																				
◆ 授業題目	実験心理学の基礎																				
◆ 目的・概要	感情心理学・生理心理学を中心に実験心理学の基礎を概観する。適宜、実験や調査への協力を呼びかけるので、それに参加して実際の心理学研究に触れてもらう。主な内容は以下の通り。 ・ストレス研究の歴史 ・ストレスの生理と心理 ・感情における心と身体・感情の役割																				
◆ 到達目標	実験心理学の広範な研究に触れて心理学の基礎を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 全体ガイダンス 日常生活の中の心理学</td> <td>9. 感情における心と身体2</td> </tr> <tr> <td>2. ストレス研究の歴史1</td> <td>10. 感情における心と身体3</td> </tr> <tr> <td>3. ストレス研究の歴史2</td> <td>11. 感情の役割1</td> </tr> <tr> <td>4. ストレス研究の歴史3</td> <td>12. 感情の役割2</td> </tr> <tr> <td>5. ストレスの生理と心理1</td> <td>13. 感情の役割3</td> </tr> <tr> <td>6. ストレスの生理と心理2</td> <td>14. 実験心理学に関する最新トピックス</td> </tr> <tr> <td>7. ストレスの生理と心理3</td> <td>15. 試験と総まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 感情における心と身体1</td> <td></td> </tr> </table>					1. 全体ガイダンス 日常生活の中の心理学	9. 感情における心と身体2	2. ストレス研究の歴史1	10. 感情における心と身体3	3. ストレス研究の歴史2	11. 感情の役割1	4. ストレス研究の歴史3	12. 感情の役割2	5. ストレスの生理と心理1	13. 感情の役割3	6. ストレスの生理と心理2	14. 実験心理学に関する最新トピックス	7. ストレスの生理と心理3	15. 試験と総まとめ	8. 感情における心と身体1	
1. 全体ガイダンス 日常生活の中の心理学	9. 感情における心と身体2																				
2. ストレス研究の歴史1	10. 感情における心と身体3																				
3. ストレス研究の歴史2	11. 感情の役割1																				
4. ストレス研究の歴史3	12. 感情の役割2																				
5. ストレスの生理と心理1	13. 感情の役割3																				
6. ストレスの生理と心理2	14. 実験心理学に関する最新トピックス																				
7. ストレスの生理と心理3	15. 試験と総まとめ																				
8. 感情における心と身体1																					
◇ 成績評価の方法	試験70%、その他30% (実験・調査への参加)																				
◇ 教科書・参考書	教科書として、以下の書籍を必携のこと。 阿部恒之ほか著『心理学の視点24』国際文献社 ISBN978-4-902590-23-4																				
◇ 授業時間外学習	早い段階で、教科書を通読しておくことを推奨する。また、日常生活で生じる出来事を、授業で得た知識を用いて心理学的な観点から理解しようとする習慣を身につけて欲しい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
実 験 心 理 学 概 論 Experimental Psychology (General Lecture)	2	准教授 坂 井 信 之	4	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMPsy201J																				
◆ 授業題目	応用に向けた実験心理学																				
◆ 目的・概要	毎回実生活で生じる様々な事象を取り上げ、それらを実験心理学ではどのように解釈できるかということを実験例を挙げながら説明する。また、実験とはどのようなものかということを実感してもらうため、実験や調査への協力を求める。																				
◆ 到達目標	実生活に見られる心理学的現象について、実験心理学ではどのようにアプローチしていくかについて理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 心理テストと性格検査 (導入)</td> <td>9. 私の判断は本当に正しいか? (情報と行動)</td> </tr> <tr> <td>2. 生まれか育ちか? (双生児研究)</td> <td>10. なぜ太ってしまうのか? (食行動の心理学)</td> </tr> <tr> <td>3. ヒトは生まれつき人なのか? (生物学と心理学)</td> <td>11. このまま大人になってよいのか? (アイデンティティ)</td> </tr> <tr> <td>4. 味わっているのは口・舌か? 脳か? (感覚と知覚)</td> <td>12. 人は人生になにを求めているのか? (動機づけ)</td> </tr> <tr> <td>5. 私の記憶は本当に正しいのか? (学習と記憶)</td> <td>13. 使いやすいモノ、おいしいモノは存在するか? (人間工学・感性工学)</td> </tr> <tr> <td>6. 「悲しいから泣く」それとも「泣くから悲しい」? (感情と情動)</td> <td>14. 幸せになるための心理学 (健康心理学)</td> </tr> <tr> <td>7. 「人は見た目が9割」というのは本当か? (社会心理学・対人印象)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. なぜあくびはうつるのか? (社会心理学・コミュニケーション)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 心理テストと性格検査 (導入)	9. 私の判断は本当に正しいか? (情報と行動)	2. 生まれか育ちか? (双生児研究)	10. なぜ太ってしまうのか? (食行動の心理学)	3. ヒトは生まれつき人なのか? (生物学と心理学)	11. このまま大人になってよいのか? (アイデンティティ)	4. 味わっているのは口・舌か? 脳か? (感覚と知覚)	12. 人は人生になにを求めているのか? (動機づけ)	5. 私の記憶は本当に正しいのか? (学習と記憶)	13. 使いやすいモノ、おいしいモノは存在するか? (人間工学・感性工学)	6. 「悲しいから泣く」それとも「泣くから悲しい」? (感情と情動)	14. 幸せになるための心理学 (健康心理学)	7. 「人は見た目が9割」というのは本当か? (社会心理学・対人印象)	15. まとめ	8. なぜあくびはうつるのか? (社会心理学・コミュニケーション)	
1. 心理テストと性格検査 (導入)	9. 私の判断は本当に正しいか? (情報と行動)																				
2. 生まれか育ちか? (双生児研究)	10. なぜ太ってしまうのか? (食行動の心理学)																				
3. ヒトは生まれつき人なのか? (生物学と心理学)	11. このまま大人になってよいのか? (アイデンティティ)																				
4. 味わっているのは口・舌か? 脳か? (感覚と知覚)	12. 人は人生になにを求めているのか? (動機づけ)																				
5. 私の記憶は本当に正しいのか? (学習と記憶)	13. 使いやすいモノ、おいしいモノは存在するか? (人間工学・感性工学)																				
6. 「悲しいから泣く」それとも「泣くから悲しい」? (感情と情動)	14. 幸せになるための心理学 (健康心理学)																				
7. 「人は見た目が9割」というのは本当か? (社会心理学・対人印象)	15. まとめ																				
8. なぜあくびはうつるのか? (社会心理学・コミュニケーション)																					
◇ 成績評価の方法	レポート (設問形式) (70%)、実験や調査への参加・受講態度などの参加意欲 (30%)																				
◇ 教科書・参考書	心理学の視点24 阿部恒之ほか5名 国際文献社 2012																				
◇ 授業時間外学習	授業中には授業に集中するため、できるだけノートを取らないようにしてください。その代わりに、教科書を使った予習および復習が重要です。特に復習は、その日に履修した内容を、他人 (家族や友人) と共有することによって、確実に記憶できるようにしてください。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 心 理 学 概 論 Social Psychology (General Lecture)	2	准教授 辻 本 昌 弘	3	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMPSY202J																				
◆ 授業題目	集団行動の社会心理学																				
◆ 目的・概要	この授業では、2者間関係から社会全体までさまざまなレベルの関係性、集団、集合体を視野に入れて、複数の人間が関係しあう状況でいかなる行動が発生するのか、社会心理学の代表的な理論と研究例を解説する。																				
◆ 到達目標	集団状況での人間行動に関する社会心理学の代表的な理論と研究を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 社会心理学のアプローチ</td> <td>9. 規範</td> </tr> <tr> <td>2. 社会的影響</td> <td>10. 信頼</td> </tr> <tr> <td>3. 社会的現実の構成</td> <td>11. 集団間関係1</td> </tr> <tr> <td>4. 多数派と少数派</td> <td>12. 集団間関係2</td> </tr> <tr> <td>5. 集合行動</td> <td>13. 集団意思決定1</td> </tr> <tr> <td>6. 社会的ジレンマ1</td> <td>14. 集団意思決定2</td> </tr> <tr> <td>7. 社会的ジレンマ2</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 援助行動</td> <td></td> </tr> </table>					1. 社会心理学のアプローチ	9. 規範	2. 社会的影響	10. 信頼	3. 社会的現実の構成	11. 集団間関係1	4. 多数派と少数派	12. 集団間関係2	5. 集合行動	13. 集団意思決定1	6. 社会的ジレンマ1	14. 集団意思決定2	7. 社会的ジレンマ2	15. まとめと試験	8. 援助行動	
1. 社会心理学のアプローチ	9. 規範																				
2. 社会的影響	10. 信頼																				
3. 社会的現実の構成	11. 集団間関係1																				
4. 多数派と少数派	12. 集団間関係2																				
5. 集合行動	13. 集団意思決定1																				
6. 社会的ジレンマ1	14. 集団意思決定2																				
7. 社会的ジレンマ2	15. まとめと試験																				
8. 援助行動																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書を講義中に適宜紹介していく。																				
◇ 授業時間外学習	各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進めます。毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要です。																				
その他：過去に辻本担当の社会心理学概論の単位を取得している者は履修しないこと。学習の一環として心理学の実験・調査への参加を要望することがある。履修希望者が多すぎる場合には他学部生の受講を制限することがある。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
実 験 心 理 学 基 礎 講 読 Experimental Psychology (Introductory Reading)	2	教授 阿 部 恒 之	3	水	1																
◆ 科目ナンバリング	LHMPSY203J																				
◆ 授業題目	実験心理学の基礎文献読解																				
◆ 目的・概要	実験心理学の文献を読みこなす力を涵養するために、順序立てて論文を講読する。まず、日本語の論文を用いて、実験心理学の論文の構造・約束事を学ぶ。その後、英語論文を用いて、日本語論文と比較しながら読み進める。両者には相違点もあれば共通点もある。相対的な理解を深めたのちに、自らが読みたいと思う論文の読解にチャレンジしてもらおう。																				
◆ 到達目標	実験心理学の論文の構造を理解し、読みこなす基礎力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス 日本語テキスト配布</td> <td>9. 英語論文の講読3</td> </tr> <tr> <td>2. 日本語論文の講読1</td> <td>10. 英語論文の講読4 12回以降の内容のガイダンス</td> </tr> <tr> <td>3. 日本語論文の講読2</td> <td>11. まとめ2</td> </tr> <tr> <td>4. 日本語論文の講読3</td> <td>12. 各自選択論文の発表1</td> </tr> <tr> <td>5. 日本語論文の講読4</td> <td>13. 各自選択論文の発表2</td> </tr> <tr> <td>6. まとめ1 英語テキスト配布</td> <td>14. 各自選択論文の発表3</td> </tr> <tr> <td>7. 英語論文の講読1</td> <td>15. 各自選択論文の発表4 総まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 英語論文の講読2</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス 日本語テキスト配布	9. 英語論文の講読3	2. 日本語論文の講読1	10. 英語論文の講読4 12回以降の内容のガイダンス	3. 日本語論文の講読2	11. まとめ2	4. 日本語論文の講読3	12. 各自選択論文の発表1	5. 日本語論文の講読4	13. 各自選択論文の発表2	6. まとめ1 英語テキスト配布	14. 各自選択論文の発表3	7. 英語論文の講読1	15. 各自選択論文の発表4 総まとめ	8. 英語論文の講読2	
1. ガイダンス 日本語テキスト配布	9. 英語論文の講読3																				
2. 日本語論文の講読1	10. 英語論文の講読4 12回以降の内容のガイダンス																				
3. 日本語論文の講読2	11. まとめ2																				
4. 日本語論文の講読3	12. 各自選択論文の発表1																				
5. 日本語論文の講読4	13. 各自選択論文の発表2																				
6. まとめ1 英語テキスト配布	14. 各自選択論文の発表3																				
7. 英語論文の講読1	15. 各自選択論文の発表4 総まとめ																				
8. 英語論文の講読2																					
◇ 成績評価の方法	授業中の応答30%、各自選択論文のリポート40%、各自選択論文の発表30%																				
◇ 教科書・参考書	日本語論文と英語論文を授業時に配布。各自選択の論文(英語)は、自ら検索して入手すること(印刷・配布は当方で行う)。																				
◇ 授業時間外学習	配布されたテキストを予習して、授業中に指名されたときに発言できるようにしておくこと(日本語論文の要旨・英語論文の和訳)。また、自ら興味を持ち、これを読みたい、という英語論文を探し出し、その全訳をリポートとして提出してもらおう。そしてその要旨をパワーポイントを用いて発表してもらおう(各自選択論文の発表)。																				
その他：授業後半の各自選択論文の発表に備え、早いうちから読みたい論文を探すこと。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 心 理 学 基 礎 講 読 Social Psychology (Introductory Reading)	2	准教授 辻本昌弘	4	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMPYSY204J																				
◆ 授業題目	社会心理学文献読解																				
◆ 目的・概要	この授業では、社会心理学の英文文献を講読する。専門文献の議論展開の仕方を学ぶとともに、社会心理学の基礎的な概念や代表的理論を理解することを目的とする。受講生みずからが文献を事前に読んで資料を準備し、授業で発表と討論を行う。																				
◆ 到達目標	1. 社会心理学の専門文献の読解力を身につける。 2. 社会心理学の基礎概念と代表的な理論を学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス：授業の進め方の確認</td> <td>9. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>2. 発表と討論</td> <td>10. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と討論</td> <td>11. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と討論</td> <td>12. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と討論</td> <td>13. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と討論</td> <td>14. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と討論</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表と討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス：授業の進め方の確認	9. 発表と討論	2. 発表と討論	10. 発表と討論	3. 発表と討論	11. 発表と討論	4. 発表と討論	12. 発表と討論	5. 発表と討論	13. 発表と討論	6. 発表と討論	14. 発表と討論	7. 発表と討論	15. まとめ	8. 発表と討論	
1. ガイダンス：授業の進め方の確認	9. 発表と討論																				
2. 発表と討論	10. 発表と討論																				
3. 発表と討論	11. 発表と討論																				
4. 発表と討論	12. 発表と討論																				
5. 発表と討論	13. 発表と討論																				
6. 発表と討論	14. 発表と討論																				
7. 発表と討論	15. まとめ																				
8. 発表と討論																					
◇ 成績評価の方法	出席（50%）、発表と討論参加（50%）																				
◇ 教科書・参考書	講読する文献は授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	講読する文献を授業までに読み、十分に予習しておく必要がある。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
心 理 学 基 礎 実 験 Psychology (Introductory Experimentation)	2	教授 阿部 恒之・行場 次朗 准教授 坂井 信之・辻本 昌弘	3	火	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHMPYSY205J																				
◆ 授業題目	基礎実験 I																				
◆ 目的・概要	心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習メニューは毎回異なる。基礎実験 I では主として実験の方法を用いたメニューを、基礎実験 II では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。																				
◆ 到達目標	心理学実験の基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. ステレオタイプ</td> </tr> <tr> <td>2. 社会的態度の測定</td> <td>10. 感覚の尺度化</td> </tr> <tr> <td>3. 統計解析法</td> <td>11. 反応時間</td> </tr> <tr> <td>4. SPSS</td> <td>12. 幾何学的錯視</td> </tr> <tr> <td>5. 動物の行動観察</td> <td>13. カウンセリング</td> </tr> <tr> <td>6. 記憶検索</td> <td>14. 臨床心理学</td> </tr> <tr> <td>7. 鏡映描写</td> <td>15. 通期課題のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 囚人のジレンマ</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. ステレオタイプ	2. 社会的態度の測定	10. 感覚の尺度化	3. 統計解析法	11. 反応時間	4. SPSS	12. 幾何学的錯視	5. 動物の行動観察	13. カウンセリング	6. 記憶検索	14. 臨床心理学	7. 鏡映描写	15. 通期課題のまとめ	8. 囚人のジレンマ	
1. オリエンテーション	9. ステレオタイプ																				
2. 社会的態度の測定	10. 感覚の尺度化																				
3. 統計解析法	11. 反応時間																				
4. SPSS	12. 幾何学的錯視																				
5. 動物の行動観察	13. カウンセリング																				
6. 記憶検索	14. 臨床心理学																				
7. 鏡映描写	15. 通期課題のまとめ																				
8. 囚人のジレンマ																					
◇ 成績評価の方法	レポート60%、出席40%																				
◇ 教科書・参考書	心理学実験室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。																				
その他：	履修は原則として心理学専修の2年次学生に限る。基礎実験 I と II を連続履修すること。ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。授業計画に記されたメニューは変更の可能性はあるが、変更の場合は事前に通知する。																				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
心 理 学 基 礎 実 験 Psychology (Introductory Experimentation)	2	教授 坂井 信之・行場 次朗 准教授 阿部 恒之・辻本 昌弘	4	火	3・4																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMPsy205J 基礎実験Ⅱ 心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習メニューは毎回異なる。基礎実験Ⅰでは主として実験的方法を用いたメニューを、基礎実験Ⅱでは、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。以下の授業計画は担当者の都合などによる変更の可能性がある。																				
◆ 到達目標	信号検出 フィールドワーク・WAIS-R知能検査・ロールシャッハ・テスト ポリグラフィ・光トポグラフィ・心理測定法 心理学実験の基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. ロールシャッハテストⅡ</td> </tr> <tr> <td>2. 情報検索実習 (図書館文献検索を含む)</td> <td>10. WAIS-III知能検査</td> </tr> <tr> <td>3. 生理機能計測 (ポリグラフィ)</td> <td>11. 感情評価 (覚醒水準の測定)</td> </tr> <tr> <td>4. 脳機能計測 (光トポグラフィ)</td> <td>12. 信号検出理論 (注意の測定)</td> </tr> <tr> <td>5. フィールドワークⅠ</td> <td>13. 応用心理学分野実験 (心理学の産業応用)</td> </tr> <tr> <td>6. フィールドワークⅡ</td> <td>14. 質問紙データ・ビッグデータの処理法</td> </tr> <tr> <td>7. 心理測定法</td> <td>15. 心理の資格</td> </tr> <tr> <td>8. ロールシャッハテストⅠ</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. ロールシャッハテストⅡ	2. 情報検索実習 (図書館文献検索を含む)	10. WAIS-III知能検査	3. 生理機能計測 (ポリグラフィ)	11. 感情評価 (覚醒水準の測定)	4. 脳機能計測 (光トポグラフィ)	12. 信号検出理論 (注意の測定)	5. フィールドワークⅠ	13. 応用心理学分野実験 (心理学の産業応用)	6. フィールドワークⅡ	14. 質問紙データ・ビッグデータの処理法	7. 心理測定法	15. 心理の資格	8. ロールシャッハテストⅠ	
1. オリエンテーション	9. ロールシャッハテストⅡ																				
2. 情報検索実習 (図書館文献検索を含む)	10. WAIS-III知能検査																				
3. 生理機能計測 (ポリグラフィ)	11. 感情評価 (覚醒水準の測定)																				
4. 脳機能計測 (光トポグラフィ)	12. 信号検出理論 (注意の測定)																				
5. フィールドワークⅠ	13. 応用心理学分野実験 (心理学の産業応用)																				
6. フィールドワークⅡ	14. 質問紙データ・ビッグデータの処理法																				
7. 心理測定法	15. 心理の資格																				
8. ロールシャッハテストⅠ																					
◇ 成績評価の方法	レポート [60%]、出席 [40%]																				
◇ 教科書・参考書	心理学実験室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。																				
その他：履修は原則として心理学専修の2年次学生に限る。前期の基礎実験と連続履修すること。ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
心 理 学 各 論 Psychology (Special Lecture)	2	非常勤 渡 邊 克 己 講師	集 中 (5)																		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMPsy301J 認知神経科学特論 認知神経科学は、人間を含む情報処理システムの認知・判断・行動の実証科学です。多くの学問領域 (哲学、心理学、神経科学、情報科学、人類学、社会学など) の重なりとして発展してきており、その応用の裾野は広く、日常生活との接点も多くあります。この講義では、人間を情報処理システムとして研究する際の基本的な考え方と日常生活との接点などを、説明を体験によって理解することを目指します。																				
◆ 到達目標	認知心理学・認知科学・神経科学のコンセプトと知見を理解できる。日常生活に見られる現象を認知科学的視点から考察できる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 認知神経科学の考え方1</td> <td>9. 日常生活と認知神経科学1</td> </tr> <tr> <td>2. 認知神経科学の考え方2</td> <td>10. 日常生活と認知神経科学2</td> </tr> <tr> <td>3. 認知神経科学の基礎1</td> <td>11. 日常生活と認知神経科学3</td> </tr> <tr> <td>4. 認知神経科学の基礎2</td> <td>12. 実験・調査体験1</td> </tr> <tr> <td>5. 認知神経科学の基礎3</td> <td>13. 実験・調査体験2</td> </tr> <tr> <td>6. 魅力/報酬の認知科学・神経科学1</td> <td>14. 実験・調査体験3</td> </tr> <tr> <td>7. 魅力/報酬の認知科学・神経科学2</td> <td>15. 実験・調査体験4</td> </tr> <tr> <td>8. 魅力/報酬の認知科学・神経科学3</td> <td></td> </tr> </table>					1. 認知神経科学の考え方1	9. 日常生活と認知神経科学1	2. 認知神経科学の考え方2	10. 日常生活と認知神経科学2	3. 認知神経科学の基礎1	11. 日常生活と認知神経科学3	4. 認知神経科学の基礎2	12. 実験・調査体験1	5. 認知神経科学の基礎3	13. 実験・調査体験2	6. 魅力/報酬の認知科学・神経科学1	14. 実験・調査体験3	7. 魅力/報酬の認知科学・神経科学2	15. 実験・調査体験4	8. 魅力/報酬の認知科学・神経科学3	
1. 認知神経科学の考え方1	9. 日常生活と認知神経科学1																				
2. 認知神経科学の考え方2	10. 日常生活と認知神経科学2																				
3. 認知神経科学の基礎1	11. 日常生活と認知神経科学3																				
4. 認知神経科学の基礎2	12. 実験・調査体験1																				
5. 認知神経科学の基礎3	13. 実験・調査体験2																				
6. 魅力/報酬の認知科学・神経科学1	14. 実験・調査体験3																				
7. 魅力/報酬の認知科学・神経科学2	15. 実験・調査体験4																				
8. 魅力/報酬の認知科学・神経科学3																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加とレポートを総合的に評価する。(割合は1:1)																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	各トピックスについて関連する書籍や論文を予め読んでおく必要がある。また、レポートの作成のため、授業中に紹介された論文や書籍の該当部分を確認する必要がある。																				
その他：授業中あるいはその前後に調査・実験の体験をしてもらうことがあります。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
実 験 心 理 学 各 論 Experimental Psychology (Special Lecture)	2	教授 行 場 次 朗	6	月	5																		
◆ 科目ナンバリング	LHMPY302J																						
◆ 授業題目	知覚と感性に関する心理科学の展開																						
◆ 目的・概要	知覚に関する研究は古くからなされてきたが、感性という概念を前面に打ち出して本格的に研究や応用がなされたのは1990年代からである。この授業では、感性をとらえる主要な手法について学び、そこから浮かびあった諸特性が感覚とどのような関連性をもつかについて解説する。また、視覚芸術を新たな視点から分類する試みを紹介し、従来の理論との対応や対比を検討する。最後に、近年の Virtual Reality 研究領域における新しい展開である拡張感性（迫真性と臨場感）について解説する。																						
◆ 到達目標	知覚と感性に関する心理科学の展開について知識を広げ、各自の生活や、仕事、研究、趣味などへの応用を考える。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. セマンティック・ディファレンシャル法でとらえる感性の特性</td> <td>7. 心のデザインモデルにもとづく視覚芸術の分類 I</td> </tr> <tr> <td>2. モダリティ・ディファレンシャル法でとらえる感性の特性</td> <td>8. 心のデザインモデルにもとづく視覚芸術の分類 II</td> </tr> <tr> <td>3. 評価性因子、活動性因子、力量性因子の感覚関連性とその脳内基盤</td> <td>9. 多感覚相互作用の諸相 I</td> </tr> <tr> <td>4. 感性因子の加算性と非加算性</td> <td>10. 多感覚相互作用の諸相 II</td> </tr> <tr> <td>5. クオリアとアウェアネスの特性差異</td> <td>11. 身体動作が認識におよぼす影響 I</td> </tr> <tr> <td>6. 心のデザインモデルの3つのストリーム</td> <td>12. 身体動作が認識におよぼす影響 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. 場感の素朴なとらえ方</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 新しい感性概念「迫真性」の重要性</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめと全体討論</td> </tr> </table>					1. セマンティック・ディファレンシャル法でとらえる感性の特性	7. 心のデザインモデルにもとづく視覚芸術の分類 I	2. モダリティ・ディファレンシャル法でとらえる感性の特性	8. 心のデザインモデルにもとづく視覚芸術の分類 II	3. 評価性因子、活動性因子、力量性因子の感覚関連性とその脳内基盤	9. 多感覚相互作用の諸相 I	4. 感性因子の加算性と非加算性	10. 多感覚相互作用の諸相 II	5. クオリアとアウェアネスの特性差異	11. 身体動作が認識におよぼす影響 I	6. 心のデザインモデルの3つのストリーム	12. 身体動作が認識におよぼす影響 II		13. 場感の素朴なとらえ方		14. 新しい感性概念「迫真性」の重要性		15. まとめと全体討論
1. セマンティック・ディファレンシャル法でとらえる感性の特性	7. 心のデザインモデルにもとづく視覚芸術の分類 I																						
2. モダリティ・ディファレンシャル法でとらえる感性の特性	8. 心のデザインモデルにもとづく視覚芸術の分類 II																						
3. 評価性因子、活動性因子、力量性因子の感覚関連性とその脳内基盤	9. 多感覚相互作用の諸相 I																						
4. 感性因子の加算性と非加算性	10. 多感覚相互作用の諸相 II																						
5. クオリアとアウェアネスの特性差異	11. 身体動作が認識におよぼす影響 I																						
6. 心のデザインモデルの3つのストリーム	12. 身体動作が認識におよぼす影響 II																						
	13. 場感の素朴なとらえ方																						
	14. 新しい感性概念「迫真性」の重要性																						
	15. まとめと全体討論																						
◇ 成績評価の方法	出席（60%）およびレポート（40%）																						
◇ 教科書・参考書	教科書は特に使用しない。参考となる図書や文献は、授業の中で、適宜、指示する。																						
◇ 授業時間外学習	学期末のレポートについては、準備に時間がかかるので、ノートの整理や、指示された、あるいは関連する参考資料をあらかじめ収集しておくこと。																						
その他：																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 心 理 学 各 論 Social Psychology (Special Lecture)	2	非常勤講師 福 野 光 輝	6	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMPY303J																				
◆ 授業題目	対人行動の社会心理学																				
◆ 目的・概要	本授業の目的は、対人場面における個人の心理と行動に関する諸問題を取りあげ、その代表的な理論と研究を批判的に検討することです。																				
◆ 到達目標	(1)対人行動を理解するための心理学的な知識と理論的枠組みを身につけること。 (2)既存の知見を批判的に検討できるようになること。 (3)現実社会の問題を、社会心理学的な観点から解釈できるようになること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 同調</td> </tr> <tr> <td>2. 対人魅力</td> <td>10. 服従</td> </tr> <tr> <td>3. 援助と利他主義</td> <td>11. ステレオタイプ</td> </tr> <tr> <td>4. 攻撃と暴力</td> <td>12. 文化的自己観</td> </tr> <tr> <td>5. 社会的交換 1</td> <td>13. 主観的幸福感</td> </tr> <tr> <td>6. 社会的交換 2</td> <td>14. 認知的不協和</td> </tr> <tr> <td>7. 社会的交換 3</td> <td>15. 印象形成</td> </tr> <tr> <td>8. 公正</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 同調	2. 対人魅力	10. 服従	3. 援助と利他主義	11. ステレオタイプ	4. 攻撃と暴力	12. 文化的自己観	5. 社会的交換 1	13. 主観的幸福感	6. 社会的交換 2	14. 認知的不協和	7. 社会的交換 3	15. 印象形成	8. 公正	
1. オリエンテーション	9. 同調																				
2. 対人魅力	10. 服従																				
3. 援助と利他主義	11. ステレオタイプ																				
4. 攻撃と暴力	12. 文化的自己観																				
5. 社会的交換 1	13. 主観的幸福感																				
6. 社会的交換 2	14. 認知的不協和																				
7. 社会的交換 3	15. 印象形成																				
8. 公正																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験（90%）とミニットペーパー（10%）で評価します。また、授業でお願いする実験や調査に参加いただいた場合、試験得点に加点します。																				
◇ 教科書・参考書	使用しません。参考書は初回の授業で紹介します。																				
◇ 授業時間外学習	授業内容の理解を定着させるために、初回の授業で紹介する参考書をいくつか読むことをおすすめします。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 心 理 学 各 論 Cultural Psychology (Special Lecture)	2	准教授 辻本昌弘	6	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMPY304J																				
◆ 授業題目	文化と人間行動																				
◆ 目的・概要	文化により人間の行動や心理にどのような違いがみられるのだろうか。文化による違いはなぜ生じるのだろうか。異なる文化に接触したとき人間に何が生じるのだろうか。これらの問いを念頭に、この授業では、文化を研究主題にして成果をあげている心理学の理論と研究例を解説する。																				
◆ 到達目標	人間行動を文化と関連づけて分析する心理学の代表的な理論と研究を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 文化について学ぶ意義</td> <td>9. 異文化接触の事例</td> </tr> <tr> <td>2. 文化・進化・学習</td> <td>10. 文化変容の理論1</td> </tr> <tr> <td>3. 心と文化</td> <td>11. 文化変容の理論2</td> </tr> <tr> <td>4. 日本文化論</td> <td>12. 国民国家とエスニシティ</td> </tr> <tr> <td>5. 東洋と西洋の比較1</td> <td>13. 多文化主義</td> </tr> <tr> <td>6. 東洋と西洋の比較2</td> <td>14. 異文化の理解</td> </tr> <tr> <td>7. 適応論による研究1</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 適応論による研究2</td> <td></td> </tr> </table>					1. 文化について学ぶ意義	9. 異文化接触の事例	2. 文化・進化・学習	10. 文化変容の理論1	3. 心と文化	11. 文化変容の理論2	4. 日本文化論	12. 国民国家とエスニシティ	5. 東洋と西洋の比較1	13. 多文化主義	6. 東洋と西洋の比較2	14. 異文化の理解	7. 適応論による研究1	15. まとめ	8. 適応論による研究2	
1. 文化について学ぶ意義	9. 異文化接触の事例																				
2. 文化・進化・学習	10. 文化変容の理論1																				
3. 心と文化	11. 文化変容の理論2																				
4. 日本文化論	12. 国民国家とエスニシティ																				
5. 東洋と西洋の比較1	13. 多文化主義																				
6. 東洋と西洋の比較2	14. 異文化の理解																				
7. 適応論による研究1	15. まとめ																				
8. 適応論による研究2																					
◇ 成績評価の方法	レポート																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書を講義中に適宜紹介していく。																				
◇ 授業時間外学習	各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進めます。毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要です。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
応 用 心 理 学 各 論 Applied Psychology (Special Lecture)	2	准教授 坂井信之	5	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMPY305J																				
◆ 授業題目	選択と購買を決める心と脳の仕組み																				
◆ 目的・概要	人が商品を購入する際には、最初に購入に対する欲求が生じ、次に商品を知り、それからその商品を手に入れるメリット・デメリットを判断し、最終的にその商品を購入するかどうかを決定する。これらのプロセスは心理学や関連する領域でそれぞれバラバラに研究されてきた。この授業では、バラバラの研究領域の知見を「購買行動」に焦点を当て、一つにまとめた形で説明する。																				
◆ 到達目標	<p>①人間の「選択」と「購買」は、商品の機能を目的としているだけではないことが理解できる。</p> <p>②心理学の知識を応用することによって、人間の「選択」と「購買」に関連する社会的課題（商品開発やマーケティング、消費者問題など）解決することが可能であることを理解できるようになる。</p>																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 第1回 導入(ペプシとコーク、白ワインと赤ワイン)</td> <td>9. 第9回 決断ととりやめ</td> </tr> <tr> <td>2. 第2回 「何か足りない」</td> <td>10. 第10回 購買時に生じる葛藤</td> </tr> <tr> <td>3. 第3回 欲しいと思うところ</td> <td>11. 第11回 保有効果と認知的不協和</td> </tr> <tr> <td>4. 第4回 商品の認知(食品の場合)</td> <td>12. 第12回 後悔しない(させない)買い物</td> </tr> <tr> <td>5. 第5回 商品の認知(生活用品の場合)</td> <td>13. 第13回 後半のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6. 第6回 「ブランド」の魔力</td> <td>14. 第14回 商品の開発</td> </tr> <tr> <td>7. 第7回 ボトムアップとトップダウン</td> <td>15. 第15回 まとめとテスト</td> </tr> <tr> <td>8. 第8回 前半のまとめ</td> <td></td> </tr> </table>					1. 第1回 導入(ペプシとコーク、白ワインと赤ワイン)	9. 第9回 決断ととりやめ	2. 第2回 「何か足りない」	10. 第10回 購買時に生じる葛藤	3. 第3回 欲しいと思うところ	11. 第11回 保有効果と認知的不協和	4. 第4回 商品の認知(食品の場合)	12. 第12回 後悔しない(させない)買い物	5. 第5回 商品の認知(生活用品の場合)	13. 第13回 後半のまとめ	6. 第6回 「ブランド」の魔力	14. 第14回 商品の開発	7. 第7回 ボトムアップとトップダウン	15. 第15回 まとめとテスト	8. 第8回 前半のまとめ	
1. 第1回 導入(ペプシとコーク、白ワインと赤ワイン)	9. 第9回 決断ととりやめ																				
2. 第2回 「何か足りない」	10. 第10回 購買時に生じる葛藤																				
3. 第3回 欲しいと思うところ	11. 第11回 保有効果と認知的不協和																				
4. 第4回 商品の認知(食品の場合)	12. 第12回 後悔しない(させない)買い物																				
5. 第5回 商品の認知(生活用品の場合)	13. 第13回 後半のまとめ																				
6. 第6回 「ブランド」の魔力	14. 第14回 商品の開発																				
7. 第7回 ボトムアップとトップダウン	15. 第15回 まとめとテスト																				
8. 第8回 前半のまとめ																					
◇ 成績評価の方法	(○)筆記試験 [80%]・()レポート・()出席 (○)「その他」(実験への協力、小レポートなど) [20%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書は指定しない。参考書については授業時に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	日常生活に心理学の知見を導入する授業のため、授業の前後の日常生活において、授業内容を想起しながら過ごすことが重要となる。この点について、授業時間内に任意に問うたり、簡単な小レポートを記入させたりするので、常にアンテナを張っておく必要がある。																				
その他：何か質問があれば、電子メール(nob_sakai@m.tohoku.ac.jp)で問い合わせるか、電子メールで予約をした上で、研究室に質問にくること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
実 験 心 理 学 演 習 Experimental Psychology (Seminar)	2	教授 阿 部 恒 之	6	水	1																
◆ 科目ナンバリング	LHMPY307J																				
◆ 授業題目	ストレスと化粧の社会生理心理学																				
◆ 目的・概要	感情の変化を客観的に測定するためには厳密な条件統制が必要となる。しかし厳密な統制がなされた実験室内で、生き活きとした感情の生起を期待することはできない。社会的文脈の中で客観的な測定を行うことを目指した、社会生理心理学の研究事例を学ぶ。紹介する研究事例は、ストレスと化粧行為を題材としている。つながりが希薄に思えるこの2つの題材が、どのように結びつくのか。その筋道を追いながら、課題立案の重要性を理解して欲しい。授業は教科書を中心とした講義に加え、グループ討議などの議論を交えて進めたい。																				
◆ 到達目標	社会生理心理学・生理心理学・感情心理学について理解を深める。また、謎から課題を立て、それを解決する研究の流れをつかみ、自ら研究を実施する力をつける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス 謎と課題</td> <td>9. 課題立案に関する討議1</td> </tr> <tr> <td>2. 課題の立案</td> <td>10. 課題立案に関する討議2</td> </tr> <tr> <td>3. ストレス研究史</td> <td>11. ストレスホルモンの分泌を促進する要因1</td> </tr> <tr> <td>4. ストレスの生理</td> <td>12. ストレスホルモンの分泌を促進する要因2</td> </tr> <tr> <td>5. 感情研究史</td> <td>13. 化粧の心理的効果1</td> </tr> <tr> <td>6. ストレッサー研究のパラダイムシフト</td> <td>14. 化粧の心理的効果2</td> </tr> <tr> <td>7. 化粧の文化史1</td> <td>15. 総まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 化粧の文化史2</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス 謎と課題	9. 課題立案に関する討議1	2. 課題の立案	10. 課題立案に関する討議2	3. ストレス研究史	11. ストレスホルモンの分泌を促進する要因1	4. ストレスの生理	12. ストレスホルモンの分泌を促進する要因2	5. 感情研究史	13. 化粧の心理的効果1	6. ストレッサー研究のパラダイムシフト	14. 化粧の心理的効果2	7. 化粧の文化史1	15. 総まとめ	8. 化粧の文化史2	
1. ガイダンス 謎と課題	9. 課題立案に関する討議1																				
2. 課題の立案	10. 課題立案に関する討議2																				
3. ストレス研究史	11. ストレスホルモンの分泌を促進する要因1																				
4. ストレスの生理	12. ストレスホルモンの分泌を促進する要因2																				
5. 感情研究史	13. 化粧の心理的効果1																				
6. ストレッサー研究のパラダイムシフト	14. 化粧の心理的効果2																				
7. 化粧の文化史1	15. 総まとめ																				
8. 化粧の文化史2																					
◇ 成績評価の方法	レポート70%、その他30%（討議に関連した小レポート）																				
◇ 教科書・参考書	授業において、以下の教科書を用いる。 阿部恒之『ストレスと化粧の社会生理心理学』フレグランスジャーナル社 ISBN978-4-89479-058-2																				
◇ 授業時間外学習	教科書の第1部（課題の立案）は通読すること、第2部（課題の解決）は授業後に当該箇所を復習することを推奨する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
社 会 心 理 学 演 習 Social Psychology (Seminar)	2	非常勤講師 福 野 光 輝	5	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMPY308J																				
◆ 授業題目	社会心理学の重要研究																				
◆ 目的・概要	本演習の目的は、社会心理学の代表的な研究を多読し、社会行動を理解する視点を獲得することです。学術雑誌に掲載された研究にふれるなかで、社会心理学がどのような問題意識をもち、それにどう接近し、なにを明らかにしてきたのかを考えます。																				
◆ 到達目標	(1)社会心理学の代表的な研究を検討し、社会行動を理解する理論的枠組みを獲得する。 (2)研究内容を批判的に吟味し、評価する技能を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション：授業の進め方の確認と担当章の決定</td> <td>8. 発表と議論7</td> </tr> <tr> <td>2. 発表と議論1 (章番号の小さい章から検討を始めます)</td> <td>9. 発表と議論8</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と議論2</td> <td>10. 発表と議論9</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と議論3</td> <td>11. 発表と議論10</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と議論4</td> <td>12. 発表と議論11</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と議論5</td> <td>13. 発表と議論12</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と議論6</td> <td>14. 発表と議論13</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 発表と議論14</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション：授業の進め方の確認と担当章の決定	8. 発表と議論7	2. 発表と議論1 (章番号の小さい章から検討を始めます)	9. 発表と議論8	3. 発表と議論2	10. 発表と議論9	4. 発表と議論3	11. 発表と議論10	5. 発表と議論4	12. 発表と議論11	6. 発表と議論5	13. 発表と議論12	7. 発表と議論6	14. 発表と議論13		15. 発表と議論14
1. オリエンテーション：授業の進め方の確認と担当章の決定	8. 発表と議論7																				
2. 発表と議論1 (章番号の小さい章から検討を始めます)	9. 発表と議論8																				
3. 発表と議論2	10. 発表と議論9																				
4. 発表と議論3	11. 発表と議論10																				
5. 発表と議論4	12. 発表と議論11																				
6. 発表と議論5	13. 発表と議論12																				
7. 発表と議論6	14. 発表と議論13																				
	15. 発表と議論14																				
◇ 成績評価の方法	担当章の報告内容（40%）と原著論文要約訳の提出（30%）、議論への参加（30%）で評価します。																				
◇ 教科書・参考書	Abelson, R. P., Frey, K. P., & Gregg, A. P. (2004). Experiments with people: Revelations from social psychology. Mahwah, NJ: Erlbaum. 6,801円 [Amazon.co.jp] ただし教科書の購入は必須ではありません。また履修希望の人は、事前に amazon.co.jp/dp/0805828974/ で目次を確認し、担当を希望する章を考えておいてください。																				
◇ 授業時間外学習	本演習では、予習に関する授業時間外学習が多くなります。各章の担当者は、内容を資料にまとめ報告します。その後、全員で質疑応答と議論を行います。またこの演習では、発表者以外の参加者にも、毎回、予習課題を行っていただきます。発表者以外の参加者はその回で取りあげる2本の論文の要約をそれぞれ全訳するとともに、要約を読んで疑問に思ったことを書いて提出します。1回の演習で2章ずつ検討していきますが、第17章、第19章、第21章は本演習では取りあげません。																				
その他：履修状況によって運営形態や発表回数が変更になることがあります。初回の授業で運営形態および担当章について検討しますので、履修を希望する人は必ず出席してください。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 心 理 学 演 習 Cultural Psychology (Seminar)	2	准教授 辻 本 昌 弘	5	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMPYSY309J																				
◆ 授業題目	現代文化心理学の視角																				
◆ 目的・概要	近年、心理学とその関連領域において、文化研究は多様な発展をみせている。この授業では、心理学に関連する文化研究の主要な理論的観点—たとえば文化と心の関係、進化論的な観点、普遍性と多様性の問題など—を検討する。授業では、受講生みずからが論文を事前に読んでおき、資料を準備して発表を行う。それをもとに受講生全員で討論を行う。																				
◆ 到達目標	1. 心理学とその関連領域における文化研究の代表的な理論を学ぶ。 2. 文化心理学の具体的な研究例を学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス：授業の進め方の確認</td> <td>9. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>2. 発表と討論</td> <td>10. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と討論</td> <td>11. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と討論</td> <td>12. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と討論</td> <td>13. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と討論</td> <td>14. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と討論</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表と討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス：授業の進め方の確認	9. 発表と討論	2. 発表と討論	10. 発表と討論	3. 発表と討論	11. 発表と討論	4. 発表と討論	12. 発表と討論	5. 発表と討論	13. 発表と討論	6. 発表と討論	14. 発表と討論	7. 発表と討論	15. まとめ	8. 発表と討論	
1. ガイダンス：授業の進め方の確認	9. 発表と討論																				
2. 発表と討論	10. 発表と討論																				
3. 発表と討論	11. 発表と討論																				
4. 発表と討論	12. 発表と討論																				
5. 発表と討論	13. 発表と討論																				
6. 発表と討論	14. 発表と討論																				
7. 発表と討論	15. まとめ																				
8. 発表と討論																					
◇ 成績評価の方法	出席 (50%)、発表と討論参加 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	とりあげる論文は授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	とりあげる論文を授業までに読み、十分に予習しておくことが必要である。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
応 用 心 理 学 演 習 Applied Psychology (Seminar)	2	准教授 坂 井 信 之	6	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMPYSY310J																				
◆ 授業題目	幸福と健康の心理学																				
◆ 目的・概要	最初に与えられた文献 (幸福や健康、QOL などに関する心理学・神経科学領域の専門書) を講読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。																				
◆ 到達目標	①心理学の知識をどのように応用すれば、人間の日常行動を理解し、諸問題を解決できるかについて、自分で考えることができる能力を身につけることができるようになる。 ②自分でまとめたことや自分の考えを他人にわかりやすく伝えることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 第1回 導入 (講義の進め方/担当決め)</td> <td>9. 第9回 文献講読その7</td> </tr> <tr> <td>2. 第2回 プレゼンテーションの方法</td> <td>10. 第10回 文献講読その8</td> </tr> <tr> <td>3. 第3回 文献講読その1</td> <td>11. 第11回 文献紹介その1</td> </tr> <tr> <td>4. 第4回 文献講読その2</td> <td>12. 第12回 文献紹介その2</td> </tr> <tr> <td>5. 第5回 文献講読その3</td> <td>13. 第13回 文献紹介その3</td> </tr> <tr> <td>6. 第6回 文献講読その4</td> <td>14. 第14回 文献紹介その4</td> </tr> <tr> <td>7. 第7回 文献講読その5</td> <td>15. 第15回 文献紹介その5</td> </tr> <tr> <td>8. 第8回 文献講読その6</td> <td></td> </tr> </table>					1. 第1回 導入 (講義の進め方/担当決め)	9. 第9回 文献講読その7	2. 第2回 プレゼンテーションの方法	10. 第10回 文献講読その8	3. 第3回 文献講読その1	11. 第11回 文献紹介その1	4. 第4回 文献講読その2	12. 第12回 文献紹介その2	5. 第5回 文献講読その3	13. 第13回 文献紹介その3	6. 第6回 文献講読その4	14. 第14回 文献紹介その4	7. 第7回 文献講読その5	15. 第15回 文献紹介その5	8. 第8回 文献講読その6	
1. 第1回 導入 (講義の進め方/担当決め)	9. 第9回 文献講読その7																				
2. 第2回 プレゼンテーションの方法	10. 第10回 文献講読その8																				
3. 第3回 文献講読その1	11. 第11回 文献紹介その1																				
4. 第4回 文献講読その2	12. 第12回 文献紹介その2																				
5. 第5回 文献講読その3	13. 第13回 文献紹介その3																				
6. 第6回 文献講読その4	14. 第14回 文献紹介その4																				
7. 第7回 文献講読その5	15. 第15回 文献紹介その5																				
8. 第8回 文献講読その6																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験・(○) リポート [40%]・() 出席 (○) その他 (発表態度) [60%]																				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	事前：指定された文献の担当部分をパワーポイントなどを使って他の履修者に説明できるように理解しておく。発表の担当者でない授業の前には予め指示された項目について簡単な予習しておく。 事後：発表中の質疑に応じて、パワーポイントなどの資料を改訂する。																				
その他：	何か質問があれば、電子メール (nob_sakai@m.tohoku.ac.jp) で問い合わせるか、電子メールで予約をした上で、研究室に質問にくること。																				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
心 理 学 研 究 法 Psychology (Research Method)	2	教授 坂井 信之・行場 次朗 准教授 阿部 恒之・辻本 昌弘	5	火	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHMPSY311J																				
◆ 授業題目	心理学個別テーマ研究法Ⅰ																				
◆ 目的・概要	心理学基礎実験、その他の心理学関連の講義・演習などで習得した実験・調査の技法に関する知識をもとに、受講生自身が教員の指導のもとに研究テーマと計画を立案し、実験や調査を行い、データの収集と分析を試みる。卒業研究に進むために是非とも履修することが望ましい。																				
◆ 到達目標	心理学の研究法を実践的に学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width:50%;">9. 実験・調査の実施2</td> </tr> <tr> <td>2. 研究テーマの選定1</td> <td>10. 実験・調査の実施3</td> </tr> <tr> <td>3. 研究テーマの選定2</td> <td>11. 実験・調査の実施4</td> </tr> <tr> <td>4. 理論と方法の学習1</td> <td>12. データの分析1</td> </tr> <tr> <td>5. 理論と方法の学習2</td> <td>13. データの分析2</td> </tr> <tr> <td>6. 研究計画の立案1</td> <td>14. レポート作成1</td> </tr> <tr> <td>7. 研究計画の立案2</td> <td>15. レポート作成2</td> </tr> <tr> <td>8. 実験・調査の実施1</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 実験・調査の実施2	2. 研究テーマの選定1	10. 実験・調査の実施3	3. 研究テーマの選定2	11. 実験・調査の実施4	4. 理論と方法の学習1	12. データの分析1	5. 理論と方法の学習2	13. データの分析2	6. 研究計画の立案1	14. レポート作成1	7. 研究計画の立案2	15. レポート作成2	8. 実験・調査の実施1	
1. ガイダンス	9. 実験・調査の実施2																				
2. 研究テーマの選定1	10. 実験・調査の実施3																				
3. 研究テーマの選定2	11. 実験・調査の実施4																				
4. 理論と方法の学習1	12. データの分析1																				
5. 理論と方法の学習2	13. データの分析2																				
6. 研究計画の立案1	14. レポート作成1																				
7. 研究計画の立案2	15. レポート作成2																				
8. 実験・調査の実施1																					
◇ 成績評価の方法	出席 (30%)、レポート (70%)																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業時に文献検討や実験・調査について指示を出すので、指定の期日までに行うこと。																				
その他：履修は、原則として心理学基礎実験を履修済みの心理学専修の学生に限る。後セメスターの心理学研究法（心理学個別テーマ研究法Ⅱ）と連続履修すること。なお上記の授業計画はおおよその目安であり、教員の指示のもとに研究を進めること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
心 理 学 研 究 法 Psychology (Research Method)	2	教授 辻本 昌弘・行場 次朗 准教授 阿部 恒之・坂井 信之	6	火	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHMPSY311J																				
◆ 授業題目	心理学個別テーマ研究法Ⅱ																				
◆ 目的・概要	心理学基礎実験、その他の心理学関連の講義・演習などで習得した実験・調査の技法に関する知識をもとに、受講生自身が教員の指導のもとに研究テーマと計画を立案し、実験や調査を行い、データの収集と分析を試みる。卒業研究に進むために是非とも履修することが望ましい。																				
◆ 到達目標	心理学の研究法を実践的に学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width:50%;">9. 実験・調査の実施2</td> </tr> <tr> <td>2. 研究テーマの選定1</td> <td>10. 実験・調査の実施3</td> </tr> <tr> <td>3. 研究テーマの選定2</td> <td>11. 実験・調査の実施4</td> </tr> <tr> <td>4. 理論と方法の学習1</td> <td>12. データの分析1</td> </tr> <tr> <td>5. 理論と方法の学習2</td> <td>13. データの分析2</td> </tr> <tr> <td>6. 研究計画の立案1</td> <td>14. レポート作成1</td> </tr> <tr> <td>7. 研究計画の立案2</td> <td>15. レポート作成2</td> </tr> <tr> <td>8. 実験・調査の実施1</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 実験・調査の実施2	2. 研究テーマの選定1	10. 実験・調査の実施3	3. 研究テーマの選定2	11. 実験・調査の実施4	4. 理論と方法の学習1	12. データの分析1	5. 理論と方法の学習2	13. データの分析2	6. 研究計画の立案1	14. レポート作成1	7. 研究計画の立案2	15. レポート作成2	8. 実験・調査の実施1	
1. ガイダンス	9. 実験・調査の実施2																				
2. 研究テーマの選定1	10. 実験・調査の実施3																				
3. 研究テーマの選定2	11. 実験・調査の実施4																				
4. 理論と方法の学習1	12. データの分析1																				
5. 理論と方法の学習2	13. データの分析2																				
6. 研究計画の立案1	14. レポート作成1																				
7. 研究計画の立案2	15. レポート作成2																				
8. 実験・調査の実施1																					
◇ 成績評価の方法	出席 (30%)、レポート (70%)																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業時に文献検討や実験・調査について指示を出すので、指定の期日までに行うこと。																				
その他：履修は、原則として心理学基礎実験を履修済みの心理学専修の学生に限る。前セメスターの心理学研究法（心理学個別テーマ研究法Ⅰ）と連続履修すること。なお上記の授業計画はおおよその目安であり、教員の指示のもとに研究を進めること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
文 化 人 類 学 概 論 Cultural Anthropology (General Lecture)	2	教 授 沼 崎 一 郎	3	火	4
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMCUA201J 文化相対主義(1) アメリカ人類学の中心的な思想のひとつである文化相対主義について、その歴史的な変遷を丁寧にたどることで、文化人類学の歴史に触れ、学問と社会の関わりについて考えることを目的とする。今セメスターは、第二次世界大戦後から1960年代前半までの流れを概観する。重要な人類学者の代表的な著作を取り上げ、そのテキストを精密に解釈するという作業を通して、重要な概念の成立と変容を学説史的にたどり、その概念を深く理解するという、人文社会科学を学ぶ上で最も大切な学問的態度とはどのようなものかを味わってほしい。また、メモを取りながら講義を聞き、個人で復習しながら、あるいは友人たちと議論しながら、精密な講義ノートを作成するという体験を通して、講義を通じた学びの方法というものを身に付けてほしい。				
◆ 到達目標	(1)学説史的に概念を学ぶという、人文社会科学の基本的な学問的態度を身に付ける (2)講義メモの取り方と講義ノートの作り方を習得する (3)論述試験に慣れる				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> はじめに 講義内容と方法の説明 背景1 Culture, Kultur, 文化という言葉 背景2 相対と絶対、特殊と普遍 背景3 アメリカ史とアメリカ人類学 背景4 フランツ・ボアズからルース・ベネディクト『文化の諸様式』まで 背景5 第二次世界大戦と文化相対主義への懐疑 ルース・ベネディクト『菊と刀』—違いが平和共存できる世界へ メルヴィル・ハースコヴィッツ1 文化相対主義の定式化と擁護 メルヴィル・ハースコヴィッツ2 文化相対主義と人権 メルヴィル・ハースコヴィッツ3 人類学からの批判と応答 メルヴィル・ハースコヴィッツ4 哲学からの批判と応答 クライド・クラックホーン1 『人間のための鏡』—「生の流儀」としての文化、その相対性 クライド・クラックホーン2 文化相対主義と倫理 まとめ 近代西洋文明の相対性から諸民族文化の相対性へ 学期末試験 				
◇ 成績評価の方法	講義ノート提出 (50%) 論述試験 (50%)				
◇ 教科書・参考書	教科書 有賀夏紀『アメリカの20世紀』(上)(下)中公新書 参考書 教室で適宜指示する				
◇ 授業時間外学習	(1)教科書を通読し、本講義の背景となるアメリカ史についての概略的な知識を得る (2)個人で、または友人と協力して、精密な講義ノートを作成する				
その他：授業中に、電子辞書、ノートPC(タブレット)等を利用することを推奨する。講義予定は、諸般の事情により変更することもありうる。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
文 化 人 類 学 概 論 Cultural Anthropology (General Lecture)	2	教 授 沼 崎 一 郎	4	火	4
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMCUA201J 文化相対主義(2) 前期に引き続き、アメリカ人類学の中心的な思想のひとつである文化相対主義について、その歴史的な変遷を丁寧にたどることで、文化人類学の歴史に触れ、学問と社会の関わりについて考えることを目的とする。今セメスターは、1960年代後半から近年に至るまでの流れを概観する。重要な人類学者の代表的な著作を取り上げ、そのテキストを精密に解釈するという作業を通して、重要な概念の成立と変容を学説史的にたどり、その概念を深く理解するという、人文社会科学を学ぶ上で最も大切な学問的態度とはどのようなものかを味わってほしい。また、メモを取りながら講義を聞き、個人で復習しながら、あるいは友人たちと議論しながら、精密な講義ノートを作成するという体験を通して、講義を通じた学びの方法というものを身に付けてほしい。				
◆ 到達目標	(1)学説史的に概念を学ぶという、人文社会科学の基本的な学問的態度を身に付ける (2)講義メモの取り方と講義ノートの作り方を習得する (3)論述試験に慣れる				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> はじめに 講義内容と方法の説明 背景1 1968年前後の世界 背景2 アメリカ人類学の「転回」 デヴィッド・シュナイダー1 『アメリカの親族』—象徴の体系としての文化 デヴィッド・シュナイダー2 『親族研究批判』—親族の普遍性と相対性 クリフォード・ギアツ1 「厚みのある記述」—意味の網の目としての文化 クリフォード・ギアツ2 「バリの闘鶏」—厚みのある記述の実践 クリフォード・ギアツ3 「反・反相対主義」—文化相対主義の再検討 文化相対主義の政治化1 国際関係と文化相対主義 文化相対主義の政治化2 「アジアの価値」論争 文化相対主義の政治化3 人権と文化相対主義—人類学からの新たな批判 クワメ・アッピア1 『アイデンティティの倫理』—根を持つコスモポリタニズム クワメ・アッピア2 『コスモポリタニズム』—見知らぬ他者との付き合い方 まとめ 文化相対主義からコスモポリタニズムへ 学期末試験 				
◇ 成績評価の方法	講義ノート提出 (50%) 論述試験 (50%)				
◇ 教科書・参考書	教科書：有賀夏紀『アメリカの20世紀』(上)(下)中公新書 参考書：教室で適宜指示する				
◇ 授業時間外学習	(1)教科書を通読し、本講義の背景となるアメリカ史についての概略的な知識を得る (2)個人で、または友人と協力して、精密な講義ノートを作成する				
その他：前期の文化人類学概論を履修していることが望ましい。授業中に、電子辞書、ノートPC(タブレット)等を利用することを推奨する。講義予定は、諸般の事情により変更することもありうる。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 基 礎 講 読 Cultural Anthropology (Introductory Reading)	2	教 授 沼 崎 一 郎	3	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMCUA202J																				
◆ 授業題目	現代人類学入門																				
◆ 目的・概要	現代人類学の理論と方法とを初學者向けに紹介した英文テキストを読み、英文読解力の向上と、人類学の理論と方法の初歩的理解を目指す。受講生は、毎回6～7ページ程度予習して授業に臨み、順番に各段落の要約を発表する。そのうえで、内容について討議する。																				
◆ 到達目標	(1)英文読解力を養う。 (2)人類学の理論と方法の基礎を学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 授業方法の説明</td> <td>9. 3 Organizing social relations p.50-55</td> </tr> <tr> <td>2. Introduction p.1-5</td> <td>10. 3 Organizing social relations p.55-61</td> </tr> <tr> <td>3. Introduction p.5-9</td> <td>11. 3 Organizing social relations p.61-67</td> </tr> <tr> <td>4. 1 The human body p.10-17</td> <td>12. 4 Engaging with nature p.68-75</td> </tr> <tr> <td>5. 1 The human body p.17-29</td> <td>13. 4 Engaging with nature p.76-82</td> </tr> <tr> <td>6. 2 Ways of thinking and communicating p.30-37</td> <td>14. 4 Engaging with nature p.82-85</td> </tr> <tr> <td>7. 2 Ways of thinking and communicating p.37-45</td> <td>15. 総合討議</td> </tr> <tr> <td>8. 2 Ways of thinking and communicating p.45-49</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 授業方法の説明	9. 3 Organizing social relations p.50-55	2. Introduction p.1-5	10. 3 Organizing social relations p.55-61	3. Introduction p.5-9	11. 3 Organizing social relations p.61-67	4. 1 The human body p.10-17	12. 4 Engaging with nature p.68-75	5. 1 The human body p.17-29	13. 4 Engaging with nature p.76-82	6. 2 Ways of thinking and communicating p.30-37	14. 4 Engaging with nature p.82-85	7. 2 Ways of thinking and communicating p.37-45	15. 総合討議	8. 2 Ways of thinking and communicating p.45-49	
1. 導入 授業方法の説明	9. 3 Organizing social relations p.50-55																				
2. Introduction p.1-5	10. 3 Organizing social relations p.55-61																				
3. Introduction p.5-9	11. 3 Organizing social relations p.61-67																				
4. 1 The human body p.10-17	12. 4 Engaging with nature p.68-75																				
5. 1 The human body p.17-29	13. 4 Engaging with nature p.76-82																				
6. 2 Ways of thinking and communicating p.30-37	14. 4 Engaging with nature p.82-85																				
7. 2 Ways of thinking and communicating p.37-45	15. 総合討議																				
8. 2 Ways of thinking and communicating p.45-49																					
◇ 成績評価の方法	英文要約の口頭発表と授業での討議 (50%) 学期末の要約ノート提出 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	Joy Hendry & Simon Underdown, Anthropology: A Beginner's Guide, Oneworld Pub., 2012.																				
◇ 授業時間外学習	毎週、6～7頁ほどの英文を読んで、要約ノートを準備する。授業後は、授業での討議を踏まえて、要約ノートを修正する。毎回、授業前に指定されたグループで集まり、学生同士で疑問点を整理しておく。																				
その他：人名や専門用語、民族名などについては、英語辞書だけでなく、各種事典を使って、最適の訳語を見つける癖をつけて欲しい。英語を「使って」専門を学ぶという態度を身につけよう！																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 基 礎 講 読 Cultural Anthropology (Introductory Reading)	2	准教授 川 口 幸 大	4	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMCUA202J																				
◆ 授業題目	現代人類学入門																				
◆ 目的・概要	前期に引き続き、現代人類学の理論と方法とを初學者向けに紹介した英文テキストを読み、英文読解力の向上と、人類学の理論と方法の初歩的理解を目指す。受講生は、毎回6～7ページ程度予習して授業に臨み、順番に各段落の要約を発表する。そのうえで、内容について討議する。																				
◆ 到達目標	(1)英文読解力を養う。 (2)人類学の理論と方法の基礎を学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 授業方法の説明</td> <td>9. 8 The global species p.143-149</td> </tr> <tr> <td>2. 5 Personhood p. 86-93</td> <td>10. 8 The global species p.150-155</td> </tr> <tr> <td>3. 5 Personhood p. 94-101</td> <td>11. 9 Anthropology in the age of global communication p.156-163</td> </tr> <tr> <td>4. 6 Ritual, ceremony, and identity p.102-110</td> <td>12. 9 Anthropology in the age of global communication p.164-172</td> </tr> <tr> <td>5. 6 Ritual, ceremony, and identity p.111-118</td> <td>13. 10 Practising anthropology p.173-177</td> </tr> <tr> <td>6. 7 Ways of belonging p.119-126</td> <td>14. 10 Practising anthropology p.178-183</td> </tr> <tr> <td>7. 7 Ways of belonging p.127-135</td> <td>15. 総合討議</td> </tr> <tr> <td>8. 8 The global species p.136-142</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 授業方法の説明	9. 8 The global species p.143-149	2. 5 Personhood p. 86-93	10. 8 The global species p.150-155	3. 5 Personhood p. 94-101	11. 9 Anthropology in the age of global communication p.156-163	4. 6 Ritual, ceremony, and identity p.102-110	12. 9 Anthropology in the age of global communication p.164-172	5. 6 Ritual, ceremony, and identity p.111-118	13. 10 Practising anthropology p.173-177	6. 7 Ways of belonging p.119-126	14. 10 Practising anthropology p.178-183	7. 7 Ways of belonging p.127-135	15. 総合討議	8. 8 The global species p.136-142	
1. 導入 授業方法の説明	9. 8 The global species p.143-149																				
2. 5 Personhood p. 86-93	10. 8 The global species p.150-155																				
3. 5 Personhood p. 94-101	11. 9 Anthropology in the age of global communication p.156-163																				
4. 6 Ritual, ceremony, and identity p.102-110	12. 9 Anthropology in the age of global communication p.164-172																				
5. 6 Ritual, ceremony, and identity p.111-118	13. 10 Practising anthropology p.173-177																				
6. 7 Ways of belonging p.119-126	14. 10 Practising anthropology p.178-183																				
7. 7 Ways of belonging p.127-135	15. 総合討議																				
8. 8 The global species p.136-142																					
◇ 成績評価の方法	英文要約の口頭発表と授業での討議 (50%) 学期末の要約ノート提出 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	Joy Hendry & Simon Underdown, Anthropology: A Beginner's Guide, Oneworld Pub., 2012.																				
◇ 授業時間外学習	毎週、6～7頁ほどの英文を読んで、要約ノートを準備する。授業後は、授業での討議を踏まえて、要約ノートを修正する。毎回、授業前に指定されたグループで集まり、学生同士で疑問点を整理しておく。																				
その他：人名や専門用語、民族名などについては、英語辞書だけでなく、各種事典を使って、最適の訳語を見つける癖をつけて欲しい。英語を「使って」専門を学ぶという態度を身につけよう！																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 基 礎 演 習 Cultural Anthropology (Introductory Seminar)	2	准教授 川口幸大	3	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMCUA203J																				
◆ 授業題目	専門文献読解1																				
◆ 目的・概要	文化人類学には、いくつかの代表的な理論や方法論がある（機能主義、構造主義、ジェンダー論、開発人類学など）。この授業では、①まず基本文献の精読を通してそれらについての概括的な知識を得、②各理論をもとに書かれた代表的な民族誌を読み解くことで、③文化人類学の理論と民族誌研究とはどのようなものかを学んでゆく。																				
◆ 到達目標	専門文献の講読を通して、文化人類学の理論と知見について学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 環境人類学</td> </tr> <tr> <td>2. 文化人類学の練習問題</td> <td>10. 医療・身体論</td> </tr> <tr> <td>3. 文化進化論+文化伝播主義</td> <td>11. ジェンダー論</td> </tr> <tr> <td>4. 文化相対主義</td> <td>12. 開発論</td> </tr> <tr> <td>5. 機能主義</td> <td>13. 観光人類学</td> </tr> <tr> <td>6. 構造主義</td> <td>14. 多文化主義論</td> </tr> <tr> <td>7. 象徴人類学+解釈人類学</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. エスニシティ論</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 環境人類学	2. 文化人類学の練習問題	10. 医療・身体論	3. 文化進化論+文化伝播主義	11. ジェンダー論	4. 文化相対主義	12. 開発論	5. 機能主義	13. 観光人類学	6. 構造主義	14. 多文化主義論	7. 象徴人類学+解釈人類学	15. まとめ	8. エスニシティ論	
1. イントロダクション	9. 環境人類学																				
2. 文化人類学の練習問題	10. 医療・身体論																				
3. 文化進化論+文化伝播主義	11. ジェンダー論																				
4. 文化相対主義	12. 開発論																				
5. 機能主義	13. 観光人類学																				
6. 構造主義	14. 多文化主義論																				
7. 象徴人類学+解釈人類学	15. まとめ																				
8. エスニシティ論																					
◇ 成績評価の方法	レポート [40%]、出席 [20%]、その他（授業時の口頭発表と議論参加） [40%]																				
◇ 教科書・参考書	綾部恒雄編『文化人類学20の理論』弘文堂。他の文献については授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の授業についての子習ノートの作成																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 基 礎 演 習 Cultural Anthropology (Introductory Seminar)	2	准教授 川口幸大	4	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMCUA203J																				
◆ 授業題目	文化人類学の視野と思考																				
◆ 目的・概要	後期の授業では、自分の関心のあるテーマを選択し、前期で扱った理論をもとにしてそれについて考え、最終的にレポートを作成する。具体的には、自分のテーマ探求の進捗状況を報告し、出席者がそれについて質問し、意見を述べ、皆で議論する。テーマの構想発表→中間報告→最終報告→レポート執筆という流れになる。これと平行して、ある主題・対象を特定の理論で分析した著作・論文を講読し、研究の進め方・まとめ方について学ぶ（研究を読む／考える ※1）。また、映画やドキュメンタリーなどを鑑賞し、人類学的な視点からの分析的なレポートを記述する企画も随時行う																				
◆ 到達目標	文化人類学の諸研究領域についての主要な概念や関心の動向を学びながら、自身の問題関心にそった主題についてのレポートを作成する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 中間発表①</td> </tr> <tr> <td>2. 研究構想の発表</td> <td>10. 中間発表②</td> </tr> <tr> <td>3. 研究を読む／考える①</td> <td>11. 研究を読む／考える⑤</td> </tr> <tr> <td>4. 研究を読む／考える②</td> <td>12. 研究を読む／考える⑥</td> </tr> <tr> <td>5. 進捗状況の一次発表①</td> <td>13. 最終発表①</td> </tr> <tr> <td>6. 進捗状況の一次発表②</td> <td>14. 最終発表②</td> </tr> <tr> <td>7. 研究を読む／考える③</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 研究を読む／考える④</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 中間発表①	2. 研究構想の発表	10. 中間発表②	3. 研究を読む／考える①	11. 研究を読む／考える⑤	4. 研究を読む／考える②	12. 研究を読む／考える⑥	5. 進捗状況の一次発表①	13. 最終発表①	6. 進捗状況の一次発表②	14. 最終発表②	7. 研究を読む／考える③	15. まとめ	8. 研究を読む／考える④	
1. イントロダクション	9. 中間発表①																				
2. 研究構想の発表	10. 中間発表②																				
3. 研究を読む／考える①	11. 研究を読む／考える⑤																				
4. 研究を読む／考える②	12. 研究を読む／考える⑥																				
5. 進捗状況の一次発表①	13. 最終発表①																				
6. 進捗状況の一次発表②	14. 最終発表②																				
7. 研究を読む／考える③	15. まとめ																				
8. 研究を読む／考える④																					
◇ 成績評価の方法	発表・議論参加 [40%]、出席 [20%]、最終レポート [40%]																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	文献の渉猟と講読。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
文 化 人 類 学 各 論 Cultural Anthropology (Special Lecture)	2	非常勤講師 二階堂 裕子	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHMCUA301J				
◆ 授業題目	グローバル化による国際移動				
◆ 目的・概要	この授業では、グローバル化の進展にともなう現代社会の変容について取り上げる。まず前半では、グローバル化の潮流を捉えるための基本的な概念と、国境を越える人の移動の諸相について解説する。続く後半では、日本社会に目を転じ、外国人の流入を促した外国人労働者政策について論じた後、日本における文化的多様化をめぐるどのような問題が生じているのかを概観する。さらに、以上をふまえたうえで、グローバル化時代における今後の日本社会のあり方について考察する。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル化によって促された国際移動という現象が、今日の社会にいかなる影響を与えているかについて理解する。 2. 日本における文化的多様化とともに顕在化した諸課題について主体的に考察することを通して、これまで当然視してきた自己の価値観を相対的に捉え直す力を養う。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会変動としてのグローバル化 2. エスニシティと境界 3. 国家とナショナリズム 4. 国境を越える人の移動 5. 国際移動とジェンダー 6. 世界都市の形成 7. 国際移動をめぐる課題 8. 日本社会と移民 9. 日本の外国人労働者政策 10. 日本の労働市場と日系人労働者 11. 日本の労働市場と外国人技能実習生 12. 顔の見えない定住化 13. 日本社会の多文化化と地域社会 14. 大災害と外国人住民 15. 社会統合の可能性 				
◇ 成績評価の方法	リアクションペーパー (30%)、レポート (70%) で総合評価する。				
◇ 教科書・参考書	教科書は特に指定しない。授業中、必要に応じて、適宜資料等を配布する。				
◇ 授業時間外学習	毎日、新聞を読み、社会情勢に対する関心を深めること。				
その他：予備知識はとくに必要ない。ただし、グローバル化をめぐる社会動向が、自分の日常生活とどのような接点をもっているかについて、真摯に考察することが求められる。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
文 化 人 類 学 各 論 Cultural Anthropology (Special Lecture)	2	非常勤講師 小 川 さやか	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHMCUA301J				
◆ 授業題目	Living for todayの人類学				
◆ 目的・概要	文化人類学は、この世界にたしかに存在しているアナザーワールドから、私たちが「これ以外にはあり得ない」と感じる社会や文化、経済、政治のしくみとそれを支える概念・思考を相対化し、ひとつではない多様な世界を構想することにかけて大きな可能性を秘めた学問である。本講義では、「living for today (その日その日を生きる)」をテーマにして、明日のことさえわからなくても生きていく人々の人間観や労働観、その日暮らしを支える社会関係、living for todayの論理でうごく政治経済のしくみを多角的に考察する。それを通じて、主流派の文化、政治経済システムとは異なるオルタナティブな世界を構想するための人類学の理論と方法論を学ぶことを目指す。				
◆ 到達目標	<p>第1回では授業の狙いを説明する。第2回から第4回は、アフリカ都市の商世界を主な事例としながら、勤労主義と怠け者主義をめぐる議論、モラルエコノミー論、贈与交換論、時間論、笑いの理論などを横断して、私たちがあたりまえのように身体化している未来優位の時間感覚、生産主義的な人間観の再考を試みる。第5回から第8回は、古着やコピー商品、携帯電話を通じた革新的な送金システムを題材に、主流派のグローバル資本主義経済と共存/に対抗するもう一つの資本主義経済のダイナミズムを議論する。第9回から第11回は、公共空間論、抗争空間論、「インフォーマル性の政治」論を下敷きにして、「政治」を飼いならす方法を考える。第12回から第14回は、一点突破・全面展開型のフィールドワークの方法論と、インターネットを駆使したオープン・アンソロポロジーの可能性について議論する。第15回は、講義のまとめを行った後に、授業内レポートを課す</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 未来優位の生き方、生産主義的な人間観とそれに支えられている現行の資本主義経済のしくみを相対化する視座を獲得する。 ② グローバル化の動態を理解し、アフリカや中国で生起する現象を自分たちの生き方や価値観と結びつけて理解することができる。 ③ アフリカの事例を解くために用いた人類学の理論をつかって身近な事例を考える力を培う。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション—講義の狙い、評価の方法、自己紹介 2. Living for Todayの人類学—大黒シズオ、ビダハン、最小生計努力、インフォーマル経済 3. 騙し騙され助け合う商売のしくみ—タンザニアの都市零細商人の商実践と狭知 4. 笑いに満ちあふれた世界—瀬戸際の人間行為と「民衆の笑い」の非道徳性 5. もうひとつの使い捨て文化—古着流通とグローバル経済システム 6. 「グローバル化の物語」に回収できないもの—映画『ダーウィンの悪夢』の舞台から 7. 下からのグローバル化とチャイニーズ・ドリーム—バクリ革命、模造品交易、海賊資本主義 8. 「借り」から「負債」へ—携帯を通じた送金システムと「借り」をまわすシステム 9. 路上空間は誰のもの？—ワンコイン弁当、路上暴動、抗争空間論 10. インフォーマル性の政治—路上商人の組合化と「援助の受け皿」としての組織経営の論理 11. ストリート化する政治とヒップホップ—政治風刺のレトリックを「消費」する 12. 「一点突破・全面展開」のフィールドワークの方法論—映画『母たちの村』と「不気味の谷」 13. あなたは何主義？—包摂と排除の前提を考える 14. オープン・アンソロポロジーの可能性—民族誌のユニバーサル・デザインを構想する 15. 講義のまとめ、授業内レポート 				
◇ 成績評価の方法	平常点 (50%)、授業内レポート (50%) ※毎回の講義で短いコメントシートを提出してもらおう。 ※授業内レポートの課題は、最初の講義で説明する。				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書に関しては、最初の講義で文献リストを配る。また毎回の講義でレジュメを配布する。				
◇ 授業時間外学習	最終講義で課すレポートでは、各講義に関連する特定の問いから一つを選び、その問いに対する意見を、自分のことばで身近な事例をつかって論述する。毎回の講義では詳細なレジュメを配り、最終講義でも配布レジュメを自由に参照できる。そのため、専門用語を暗記する必要はないが、講義で説明した事例を自分自身の関心に結びつけたり、身近な事例に置き換えて思考し、授業内レポートの題材について下調べしておくことを求める。				
その他：積極的な質問を歓迎する。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 演 習 Cultural Anthropology (Seminar)	2	教授 沼 崎 一 郎	5	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMCUA302J																				
◆ 授業題目	比較文化研究法																				
◆ 目的・概要	特定の慣習をひとつ選び、その慣習について比較文化的に考察するレポートを作成する。毎回の授業においては、各人がレジюмеを準備し、それぞれの研究の進捗状況を報告して、クラス・ディスカッションを行う。																				
◆ 到達目標	(1)民族誌資料検索の方法を身につける。 (2)文献資料から「民族誌的事実」を抽出する方法を習得する。 (3)「民族誌的事実」を文化横断的に比較し、人類学的に概念化するスキルを習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 授業方法の説明</td> <td>9. 文献収集2 論文を集める</td> </tr> <tr> <td>2. 研究テーマの探索1 プレーンストーミング</td> <td>10. 比較文化データベースの作成 民族誌的「事実」の収集</td> </tr> <tr> <td>3. 研究テーマの探索2 研究室所蔵の文献を調べる</td> <td>11. 比較文化的分析1 民族誌的「事実」の比較検討</td> </tr> <tr> <td>4. 研究テーマの決定</td> <td>12. 比較文化的分析2 民族誌的「事実」と人類学的「理論」の対照</td> </tr> <tr> <td>5. 比較対象とする文化の探索1 研究室所蔵の事典類を調べる</td> <td>13. 研究レポート執筆1 序論執筆とクラス討論</td> </tr> <tr> <td>6. 比較対象とする文化の探索2 広く民族誌を探す</td> <td>14. 研究レポート執筆2 本論執筆とクラス討論</td> </tr> <tr> <td>7. 比較対象とする文化の決定</td> <td>15. 研究レポート執筆3 結論執筆とクラス討論</td> </tr> <tr> <td>8. 文献収集1 書籍を集める</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 授業方法の説明	9. 文献収集2 論文を集める	2. 研究テーマの探索1 プレーンストーミング	10. 比較文化データベースの作成 民族誌的「事実」の収集	3. 研究テーマの探索2 研究室所蔵の文献を調べる	11. 比較文化的分析1 民族誌的「事実」の比較検討	4. 研究テーマの決定	12. 比較文化的分析2 民族誌的「事実」と人類学的「理論」の対照	5. 比較対象とする文化の探索1 研究室所蔵の事典類を調べる	13. 研究レポート執筆1 序論執筆とクラス討論	6. 比較対象とする文化の探索2 広く民族誌を探す	14. 研究レポート執筆2 本論執筆とクラス討論	7. 比較対象とする文化の決定	15. 研究レポート執筆3 結論執筆とクラス討論	8. 文献収集1 書籍を集める	
1. 導入 授業方法の説明	9. 文献収集2 論文を集める																				
2. 研究テーマの探索1 プレーンストーミング	10. 比較文化データベースの作成 民族誌的「事実」の収集																				
3. 研究テーマの探索2 研究室所蔵の文献を調べる	11. 比較文化的分析1 民族誌的「事実」の比較検討																				
4. 研究テーマの決定	12. 比較文化的分析2 民族誌的「事実」と人類学的「理論」の対照																				
5. 比較対象とする文化の探索1 研究室所蔵の事典類を調べる	13. 研究レポート執筆1 序論執筆とクラス討論																				
6. 比較対象とする文化の探索2 広く民族誌を探す	14. 研究レポート執筆2 本論執筆とクラス討論																				
7. 比較対象とする文化の決定	15. 研究レポート執筆3 結論執筆とクラス討論																				
8. 文献収集1 書籍を集める																					
◇ 成績評価の方法	レジюмеと口頭発表 [50%] レポート [50%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は、教室で適宜指示する。																				
◇ 授業時間外学習	自身の研究に必要な分権の収集と読解、比較文化データベースの作成、研究レポート下書の執筆。OneDriveを利用し、データベースおよびレポート下書の添削を行う。																				
その他：3回以上の無断欠席は履修放棄と見なす。授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 演 習 Cultural Anthropology (Seminar)	2	教授 沼 崎 一 郎	6	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMCUA302J																				
◆ 授業題目	文化人類学研究計画法																				
◆ 目的・概要	主に卒業論文を念頭に置きながら、文化人類学的な研究を行う計画の立て方を学び、実際に研究トピックと研究テーマを選択して、それを実施するための具体的な研究計画を立案し、研究計画書を執筆する。																				
◆ 到達目標	(1)文化人類学的な研究調査の方法論を学ぶ。 (2)研究計画の立て方を体得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 授業方法の説明</td> <td>9. 研究計画書の作成1 問題設定の執筆とクラス討論</td> </tr> <tr> <td>2. 研究トピックの探索</td> <td>10. 研究計画書の作成2 理論的背景の執筆とクラス討論</td> </tr> <tr> <td>3. 研究トピックの決定</td> <td>11. 研究計画書の作成3 民族誌的背景の執筆とクラス討論</td> </tr> <tr> <td>4. 研究テーマの探索1 プレーンストーミング</td> <td>12. 研究計画書の作成4 研究方法の執筆とクラス討論</td> </tr> <tr> <td>5. 研究テーマの探索2 研究室の過去の卒業論文の探索</td> <td>13. 口頭発表1 パワーポイントの作成</td> </tr> <tr> <td>6. 研究テーマの探索3 学術誌に掲載された論文の探索</td> <td>14. 口頭発表2 パワーポイントを用いた発表練習(前半)</td> </tr> <tr> <td>7. 研究テーマの探索4 人類学理論書の探索</td> <td>15. 口頭発表3 パワーポイントを用いた発表練習(後半)</td> </tr> <tr> <td>8. 研究テーマの決定</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 授業方法の説明	9. 研究計画書の作成1 問題設定の執筆とクラス討論	2. 研究トピックの探索	10. 研究計画書の作成2 理論的背景の執筆とクラス討論	3. 研究トピックの決定	11. 研究計画書の作成3 民族誌的背景の執筆とクラス討論	4. 研究テーマの探索1 プレーンストーミング	12. 研究計画書の作成4 研究方法の執筆とクラス討論	5. 研究テーマの探索2 研究室の過去の卒業論文の探索	13. 口頭発表1 パワーポイントの作成	6. 研究テーマの探索3 学術誌に掲載された論文の探索	14. 口頭発表2 パワーポイントを用いた発表練習(前半)	7. 研究テーマの探索4 人類学理論書の探索	15. 口頭発表3 パワーポイントを用いた発表練習(後半)	8. 研究テーマの決定	
1. 導入 授業方法の説明	9. 研究計画書の作成1 問題設定の執筆とクラス討論																				
2. 研究トピックの探索	10. 研究計画書の作成2 理論的背景の執筆とクラス討論																				
3. 研究トピックの決定	11. 研究計画書の作成3 民族誌的背景の執筆とクラス討論																				
4. 研究テーマの探索1 プレーンストーミング	12. 研究計画書の作成4 研究方法の執筆とクラス討論																				
5. 研究テーマの探索2 研究室の過去の卒業論文の探索	13. 口頭発表1 パワーポイントの作成																				
6. 研究テーマの探索3 学術誌に掲載された論文の探索	14. 口頭発表2 パワーポイントを用いた発表練習(前半)																				
7. 研究テーマの探索4 人類学理論書の探索	15. 口頭発表3 パワーポイントを用いた発表練習(後半)																				
8. 研究テーマの決定																					
◇ 成績評価の方法	出席と授業参加 [25%] レジюмеと口頭発表 [25%] 研究計画書 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は、授業中に適宜指示する。																				
◇ 授業時間外学習	文献の収集と文献目録の作成、研究計画書の執筆、口頭発表用パワーポイントの作成。OneDriveを利用し、文献目録、研究計画書の下書、パワーポイントの添削を行う。																				
その他：3回以上の無断欠席は履修放棄と見なす。授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 演 習 Cultural Anthropology (Seminar)	2	教授 沼 崎 一 郎	6	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMCUA302J																				
◆ 授業題目	英語古典原書講読																				
◆ 目的・概要	文化人類学の古典であるフランツ・ボアズ『未開人の心性』改訂版（1938）の原書を精読し、学術的に正確な訳文を作成するという作業を通して、文化人類学における英語古典の精密な訳読の技法を習得する。今セメスターは、序文から第2章まで訳出する。底本には、メルヴィル・ハースコヴィッツの序文のあるFree Press版（1965）を用いる。																				
◆ 到達目標	(1)学術的な英文の正確な訳読力を身に付ける。 (2)文化人類学の古典の息吹に触れる。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 導入 授業方法の説明</td> <td style="width: 50%;">9. Chapter 1 Introduction p.27-29</td> </tr> <tr> <td>2. Forward p.5-7</td> <td>10. Chapter 1 Introduction p.29-31</td> </tr> <tr> <td>3. Forward p.7-10</td> <td>11. Chapter 2 Historical Review p.32-35</td> </tr> <tr> <td>4. Forward p.10-12</td> <td>12. Chapter 2 Historical Review p.35-37</td> </tr> <tr> <td>5. Preface p.17-18</td> <td>13. Chapter 2 Historical Review p.37-40</td> </tr> <tr> <td>6. Chapter 1 Introduction p.19-22</td> <td>14. Chapter 2 Historical Review p.40-42</td> </tr> <tr> <td>7. Chapter 1 Introduction p.22-25</td> <td>15. Chapter 2 Historical Review p.42-44</td> </tr> <tr> <td>8. Chapter 1 Introduction p.25-27</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 授業方法の説明	9. Chapter 1 Introduction p.27-29	2. Forward p.5-7	10. Chapter 1 Introduction p.29-31	3. Forward p.7-10	11. Chapter 2 Historical Review p.32-35	4. Forward p.10-12	12. Chapter 2 Historical Review p.35-37	5. Preface p.17-18	13. Chapter 2 Historical Review p.37-40	6. Chapter 1 Introduction p.19-22	14. Chapter 2 Historical Review p.40-42	7. Chapter 1 Introduction p.22-25	15. Chapter 2 Historical Review p.42-44	8. Chapter 1 Introduction p.25-27	
1. 導入 授業方法の説明	9. Chapter 1 Introduction p.27-29																				
2. Forward p.5-7	10. Chapter 1 Introduction p.29-31																				
3. Forward p.7-10	11. Chapter 2 Historical Review p.32-35																				
4. Forward p.10-12	12. Chapter 2 Historical Review p.35-37																				
5. Preface p.17-18	13. Chapter 2 Historical Review p.37-40																				
6. Chapter 1 Introduction p.19-22	14. Chapter 2 Historical Review p.40-42																				
7. Chapter 1 Introduction p.22-25	15. Chapter 2 Historical Review p.42-44																				
8. Chapter 1 Introduction p.25-27																					
◇ 成績評価の方法	下訳の作成（50％）と、授業時の訳文の修正作業への参加（50％）による。																				
◇ 教科書・参考書	Franz Boas, The Mind of Primitive Man, Revised Edition, with a new foreword by Melville J. Herskovits. New York: Free Press, 1965.																				
◇ 授業時間外学習	毎週、3頁ほどの英文の下訳を作成する。授業での議論に基づいて、下訳を修正する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 概 論 Science of Religions (General Lecture)	2	教 授 鈴 木 岩 弓	3	木	1																
◆ 科目ナンバリング	LHMRES201J																				
◆ 授業題目	日本の宗教研究者の“眼” —宗教民俗学的視点から—																				
◆ 目的・概要	明治以降のわが国における宗教研究者を一時間一人づつ取り上げ、その研究者が目指そうとした研究成果の面白さを、宗教民俗学的視点から概説する。取り上げる学者は必ずしも宗教学者に限られず、担当教員自身も強い影響を受けてきた、民俗学や文化人類学とも高い親和性をもった人々である。そうした学際的な領域でなされてきたさまざまな試みを振り返り、明治に始まり戦後に大きく花開いてきた日本宗教研究史を振り返る。																				
◆ 到達目標	▶先学が行ってきた宗教民俗学的研究に見られる問題関心を理解する ▶近代以降の、日本の宗教研究の流れを理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 1. ガイダンス—わが国宗教研究の課題と方向—</td> <td>9. 9. 梅棹忠夫</td> </tr> <tr> <td>2. 2. 姉崎正治</td> <td>10. 10. 楠 正弘</td> </tr> <tr> <td>3. 3. 柳田國男</td> <td>11. 11. 宮田 登</td> </tr> <tr> <td>4. 4. 折口信夫</td> <td>12. 12. 藤井正雄</td> </tr> <tr> <td>5. 5. 原田敏明</td> <td>13. 13. 佐々木宏幹</td> </tr> <tr> <td>6. 6. 古野清人</td> <td>14. 14. 山折哲雄</td> </tr> <tr> <td>7. 7. 堀一郎</td> <td>15. 15. まとめ—日本の宗教研究者たちの“眼”—</td> </tr> <tr> <td>8. 8. 五来 重</td> <td></td> </tr> </table>					1. 1. ガイダンス—わが国宗教研究の課題と方向—	9. 9. 梅棹忠夫	2. 2. 姉崎正治	10. 10. 楠 正弘	3. 3. 柳田國男	11. 11. 宮田 登	4. 4. 折口信夫	12. 12. 藤井正雄	5. 5. 原田敏明	13. 13. 佐々木宏幹	6. 6. 古野清人	14. 14. 山折哲雄	7. 7. 堀一郎	15. 15. まとめ—日本の宗教研究者たちの“眼”—	8. 8. 五来 重	
1. 1. ガイダンス—わが国宗教研究の課題と方向—	9. 9. 梅棹忠夫																				
2. 2. 姉崎正治	10. 10. 楠 正弘																				
3. 3. 柳田國男	11. 11. 宮田 登																				
4. 4. 折口信夫	12. 12. 藤井正雄																				
5. 5. 原田敏明	13. 13. 佐々木宏幹																				
6. 6. 古野清人	14. 14. 山折哲雄																				
7. 7. 堀一郎	15. 15. まとめ—日本の宗教研究者たちの“眼”—																				
8. 8. 五来 重																					
◇ 成績評価の方法	レポート。																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考文献は、講義の中で適宜紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	授業で扱った先学たちの宗教研究の論考を、手近なところから読んでいく。																				
その他：取り上げる研究者は、授業を行っていく流れに従って、変更される場合がある。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 概 論 Science of Religions (General Lecture)	2	教 授 木 村 敏 明	4	木	1																
◆ 科目ナンバリング	LHMRES201J																				
◆ 授業題目	欧米の宗教研究																				
◆ 目的・概要	本講義では毎回一人の古典的研究者を一つのテーマに注目して紹介したのち、そのテーマに関するその後の研究史的展開を概説する。																				
◆ 到達目標	(1)代表的な宗教研究者の理論と背景を理解することができる (2)宗教を研究することの意義と課題について考えることができる																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション：宗教と現代社会</td> <td>9. エルンスト・トレルチと「宗教教団」：宗教教団にはどのような種類があるか？</td> </tr> <tr> <td>2. マックス・ミュラーと「宗教学の成立」：宗教を客観的に研究する意義とは？</td> <td>10. ウィリアム・ジェイムズと「宗教経験」：人生を変えてしまうような神秘体験とは？</td> </tr> <tr> <td>3. エドワード・タイラーと「アニミズム」：人は何故さまざまな霊や神々を信じるか？</td> <td>11. ファン・デル・レーウと「シンクレティズム」：二つの宗教が出会うとき何が起るのか？</td> </tr> <tr> <td>4. プロニスロウ・マリノフスキーと「呪術・科学・宗教」：宗教は何の役に立つのか？</td> <td>12. ビーター・バーガーと「世俗化」：近代化によって宗教はどのように変化するのか？</td> </tr> <tr> <td>5. エヴァンス・プリチャードと「妖術」：人は何故宗教的説明に頼るのか？</td> <td>13. ホセ・カサノヴァと「公共宗教」：現代社会における宗教の役割とは？</td> </tr> <tr> <td>6. マックス・ウェーバーと「宗教倫理」：宗教は人々の生き方にどのように影響を与えるのか？</td> <td>14. ビデオ鑑賞：現代社会と宗教について</td> </tr> <tr> <td>7. エミール・デュルケームと「儀礼」：祭りは何故人々を熱狂させるのか？</td> <td>15. まとめ：宗教の持つ多様な意義</td> </tr> <tr> <td>8. ビデオ鑑賞：宗教と癒しについて</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション：宗教と現代社会	9. エルンスト・トレルチと「宗教教団」：宗教教団にはどのような種類があるか？	2. マックス・ミュラーと「宗教学の成立」：宗教を客観的に研究する意義とは？	10. ウィリアム・ジェイムズと「宗教経験」：人生を変えてしまうような神秘体験とは？	3. エドワード・タイラーと「アニミズム」：人は何故さまざまな霊や神々を信じるか？	11. ファン・デル・レーウと「シンクレティズム」：二つの宗教が出会うとき何が起るのか？	4. プロニスロウ・マリノフスキーと「呪術・科学・宗教」：宗教は何の役に立つのか？	12. ビーター・バーガーと「世俗化」：近代化によって宗教はどのように変化するのか？	5. エヴァンス・プリチャードと「妖術」：人は何故宗教的説明に頼るのか？	13. ホセ・カサノヴァと「公共宗教」：現代社会における宗教の役割とは？	6. マックス・ウェーバーと「宗教倫理」：宗教は人々の生き方にどのように影響を与えるのか？	14. ビデオ鑑賞：現代社会と宗教について	7. エミール・デュルケームと「儀礼」：祭りは何故人々を熱狂させるのか？	15. まとめ：宗教の持つ多様な意義	8. ビデオ鑑賞：宗教と癒しについて	
1. イントロダクション：宗教と現代社会	9. エルンスト・トレルチと「宗教教団」：宗教教団にはどのような種類があるか？																				
2. マックス・ミュラーと「宗教学の成立」：宗教を客観的に研究する意義とは？	10. ウィリアム・ジェイムズと「宗教経験」：人生を変えてしまうような神秘体験とは？																				
3. エドワード・タイラーと「アニミズム」：人は何故さまざまな霊や神々を信じるか？	11. ファン・デル・レーウと「シンクレティズム」：二つの宗教が出会うとき何が起るのか？																				
4. プロニスロウ・マリノフスキーと「呪術・科学・宗教」：宗教は何の役に立つのか？	12. ビーター・バーガーと「世俗化」：近代化によって宗教はどのように変化するのか？																				
5. エヴァンス・プリチャードと「妖術」：人は何故宗教的説明に頼るのか？	13. ホセ・カサノヴァと「公共宗教」：現代社会における宗教の役割とは？																				
6. マックス・ウェーバーと「宗教倫理」：宗教は人々の生き方にどのように影響を与えるのか？	14. ビデオ鑑賞：現代社会と宗教について																				
7. エミール・デュルケームと「儀礼」：祭りは何故人々を熱狂させるのか？	15. まとめ：宗教の持つ多様な意義																				
8. ビデオ鑑賞：宗教と癒しについて																					
◇ 成績評価の方法	課題（最低三回は提出）[30%]、授業時のコメントペーパー [30%]、期末テスト [40%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の授業で使うテキストを事前に読む。学期中最低三回提出する課題。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																				
宗 教 学 基 礎 講 読 Science of Religions (Introductory Reading)	2	教授 木 村 敏 明	3	金	2																				
◆ 科目ナンバリング	LHMRES202J																								
◆ 授業題目	儀礼論を読む																								
◆ 目的・概要	これまでの宗教学、人類学における儀礼論をまとめたキャサリン・ベルの著作を輪読する。今セメスターはまず、具体的な儀礼の分類について扱ったPart IIから読み進める。																								
◆ 到達目標	(1)宗教現象の主要な形態である儀礼について多面的で深い認識をもつことができる (2)英文の専門書を読解し理解することができる																								
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 2. 伝統主義</td> </tr> <tr> <td>2. Chapter 4. 儀礼的行動の基本的ジャンル</td> <td>10. 3. 変化耐性</td> </tr> <tr> <td>1. 通過儀礼</td> <td>11. 4. 規則による支配</td> </tr> <tr> <td>3. 2. 年中儀礼</td> <td>12. 5. 聖なる象徴</td> </tr> <tr> <td>4. 3. 交感と交感の儀礼</td> <td>13. 6. パフォーマンス</td> </tr> <tr> <td>5. 4. 苦難の儀礼</td> <td>14. 予備日：ビデオ鑑賞 世界の儀礼</td> </tr> <tr> <td>6. 5. 供宴、断食、祝祭</td> <td>15. まとめと討論</td> </tr> <tr> <td>7. 6. 政治的儀礼</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. Chapter 5. 儀礼的行動の特徴</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1. 形式主義</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 2. 伝統主義	2. Chapter 4. 儀礼的行動の基本的ジャンル	10. 3. 変化耐性	1. 通過儀礼	11. 4. 規則による支配	3. 2. 年中儀礼	12. 5. 聖なる象徴	4. 3. 交感と交感の儀礼	13. 6. パフォーマンス	5. 4. 苦難の儀礼	14. 予備日：ビデオ鑑賞 世界の儀礼	6. 5. 供宴、断食、祝祭	15. まとめと討論	7. 6. 政治的儀礼		8. Chapter 5. 儀礼的行動の特徴		1. 形式主義	
1. イントロダクション	9. 2. 伝統主義																								
2. Chapter 4. 儀礼的行動の基本的ジャンル	10. 3. 変化耐性																								
1. 通過儀礼	11. 4. 規則による支配																								
3. 2. 年中儀礼	12. 5. 聖なる象徴																								
4. 3. 交感と交感の儀礼	13. 6. パフォーマンス																								
5. 4. 苦難の儀礼	14. 予備日：ビデオ鑑賞 世界の儀礼																								
6. 5. 供宴、断食、祝祭	15. まとめと討論																								
7. 6. 政治的儀礼																									
8. Chapter 5. 儀礼的行動の特徴																									
1. 形式主義																									
◇ 成績評価の方法	発表 [50%]、討論への参加 [50%]																								
◇ 教科書・参考書	Catherine Bell, Ritual -Its Dimensions and Perspectives, 1997, Oxford U.P.																								
◇ 授業時間外学習	発表準備。発表者以外もテキストを充分読み込んで参加すること。																								
その他：																									

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
宗 教 学 基 礎 講 読 Science of Religions (Introductory Reading)	2	教授 木 村 敏 明	4	金	2																		
◆ 科目ナンバリング	LHMRES202J																						
◆ 授業題目	儀礼論を読む																						
◆ 目的・概要	これまでの宗教学、人類学における儀礼論をまとめたキャサリン・ベルの著作を輪読する。今セメスターは、儀礼の構造と変化を扱ったPart IIIとIVを扱う。																						
◆ 到達目標	(1)宗教現象の主要な形態である儀礼について多面的で深い認識をもつことができる (2)英文の専門書を読解し理解することができる																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. Chapter 7. 儀礼の変化</td> </tr> <tr> <td>2. Chapter 6. 儀礼の密度</td> <td>1. 伝統と変化</td> </tr> <tr> <td>1. システム</td> <td>10. 2. 儀礼の発明</td> </tr> <tr> <td>3. 2. 類型</td> <td>11. 3. メディアとメッセージ</td> </tr> <tr> <td>4. 3. オーソプラクシーとオーソドキシ</td> <td>12. Chapter 8. 儀礼の具象化</td> </tr> <tr> <td>5. 4. 伝統と世俗</td> <td>1. 否認、帰還、理想化</td> </tr> <tr> <td>6. 5. 口承と書承</td> <td>13. 2. 「儀礼」の創出</td> </tr> <tr> <td>7. 6. チャーチ、セクト、カルト</td> <td>14. 予備日：ビデオ鑑賞 儀礼の変化</td> </tr> <tr> <td>8. 予備日：ビデオ鑑賞 儀礼と教団</td> <td>15. まとめと討論</td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. Chapter 7. 儀礼の変化	2. Chapter 6. 儀礼の密度	1. 伝統と変化	1. システム	10. 2. 儀礼の発明	3. 2. 類型	11. 3. メディアとメッセージ	4. 3. オーソプラクシーとオーソドキシ	12. Chapter 8. 儀礼の具象化	5. 4. 伝統と世俗	1. 否認、帰還、理想化	6. 5. 口承と書承	13. 2. 「儀礼」の創出	7. 6. チャーチ、セクト、カルト	14. 予備日：ビデオ鑑賞 儀礼の変化	8. 予備日：ビデオ鑑賞 儀礼と教団	15. まとめと討論
1. イントロダクション	9. Chapter 7. 儀礼の変化																						
2. Chapter 6. 儀礼の密度	1. 伝統と変化																						
1. システム	10. 2. 儀礼の発明																						
3. 2. 類型	11. 3. メディアとメッセージ																						
4. 3. オーソプラクシーとオーソドキシ	12. Chapter 8. 儀礼の具象化																						
5. 4. 伝統と世俗	1. 否認、帰還、理想化																						
6. 5. 口承と書承	13. 2. 「儀礼」の創出																						
7. 6. チャーチ、セクト、カルト	14. 予備日：ビデオ鑑賞 儀礼の変化																						
8. 予備日：ビデオ鑑賞 儀礼と教団	15. まとめと討論																						
◇ 成績評価の方法	発表 [50%]、討論への参加 [50%]																						
◇ 教科書・参考書	Catherine Bell, Ritual -Its Dimensions and Perspectives, 1997, Oxford U.P.																						
◇ 授業時間外学習	発表準備。発表者以外もテキストを充分読み込んで参加すること。																						
その他：																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 基 礎 演 習 Science of Religions (Introductory Seminar)	2	教授 教授 准教授 鈴木 山 木 村 田 岩 敏 仁 弓 明 史	3	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMRES203J																				
◆ 授業題目	宗教研究の技法																				
◆ 目的・概要	毎回複数の受講生あるいは大学院生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。																				
◆ 到達目標	各自の問題関心を「研究」として展開するための技法を習得することができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け</td> <td>9. 予備日：学部3年欠席者のため</td> </tr> <tr> <td>2. 大学院生発表① 理論的研究</td> <td>10. 学部4年発表 1班</td> </tr> <tr> <td>3. 大学院生発表② 実証的研究</td> <td>11. 学部4年発表 2班</td> </tr> <tr> <td>4. 学部3年発表 1班</td> <td>12. 学部4年発表 3班</td> </tr> <tr> <td>5. 学部3年発表 2班</td> <td>13. 学部4年発表 4班</td> </tr> <tr> <td>6. 学部3年発表 3班</td> <td>14. 学部4年発表 5班</td> </tr> <tr> <td>7. 学部3年発表 4班</td> <td>15. 予備日：学部4年欠席者のため</td> </tr> <tr> <td>8. 学部3年発表 5班</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け	9. 予備日：学部3年欠席者のため	2. 大学院生発表① 理論的研究	10. 学部4年発表 1班	3. 大学院生発表② 実証的研究	11. 学部4年発表 2班	4. 学部3年発表 1班	12. 学部4年発表 3班	5. 学部3年発表 2班	13. 学部4年発表 4班	6. 学部3年発表 3班	14. 学部4年発表 5班	7. 学部3年発表 4班	15. 予備日：学部4年欠席者のため	8. 学部3年発表 5班	
1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け	9. 予備日：学部3年欠席者のため																				
2. 大学院生発表① 理論的研究	10. 学部4年発表 1班																				
3. 大学院生発表② 実証的研究	11. 学部4年発表 2班																				
4. 学部3年発表 1班	12. 学部4年発表 3班																				
5. 学部3年発表 2班	13. 学部4年発表 4班																				
6. 学部3年発表 3班	14. 学部4年発表 5班																				
7. 学部3年発表 4班	15. 予備日：学部4年欠席者のため																				
8. 学部3年発表 5班																					
◇ 成績評価の方法	発表および討論への参加																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書については授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	発表準備。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 基 礎 演 習 Science of Religions (Introductory Seminar)	2	教授 教授 准教授 鈴木 山 木 村 田 岩 敏 仁 弓 明 史	4	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMRES203J																				
◆ 授業題目	宗教研究の技法																				
◆ 目的・概要	毎回複数の受講生あるいは大学院生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。																				
◆ 到達目標	各自の問題関心を「研究」として展開するための技法を習得することができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け</td> <td>9. 学部4年発表 2班</td> </tr> <tr> <td>2. 学部3年発表 1班</td> <td>10. 学部4年発表 3班</td> </tr> <tr> <td>3. 学部3年発表 2班</td> <td>11. 学部4年発表 4班</td> </tr> <tr> <td>4. 学部3年発表 3班</td> <td>12. 学部4年発表 5班</td> </tr> <tr> <td>5. 学部3年発表 4班</td> <td>13. 予備日：学部4年欠席者のため</td> </tr> <tr> <td>6. 学部3年発表 5班</td> <td>14. 学部2年発表 1班</td> </tr> <tr> <td>7. 予備日：学部3年欠席者のため</td> <td>15. 学部2年発表 2班</td> </tr> <tr> <td>8. 学部4年発表 1班</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け	9. 学部4年発表 2班	2. 学部3年発表 1班	10. 学部4年発表 3班	3. 学部3年発表 2班	11. 学部4年発表 4班	4. 学部3年発表 3班	12. 学部4年発表 5班	5. 学部3年発表 4班	13. 予備日：学部4年欠席者のため	6. 学部3年発表 5班	14. 学部2年発表 1班	7. 予備日：学部3年欠席者のため	15. 学部2年発表 2班	8. 学部4年発表 1班	
1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け	9. 学部4年発表 2班																				
2. 学部3年発表 1班	10. 学部4年発表 3班																				
3. 学部3年発表 2班	11. 学部4年発表 4班																				
4. 学部3年発表 3班	12. 学部4年発表 5班																				
5. 学部3年発表 4班	13. 予備日：学部4年欠席者のため																				
6. 学部3年発表 5班	14. 学部2年発表 1班																				
7. 予備日：学部3年欠席者のため	15. 学部2年発表 2班																				
8. 学部4年発表 1班																					
◇ 成績評価の方法	発表および討論への参加。																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書については授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	発表準備。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 基 礎 実 習 Science of Religions (Introductory Seminar)	2	教授 教授 准教授 鈴木 岩 弓 木 村 敏 明 山 田 仁 史	3	月	4・5																
◆ 科目ナンバリング	LHMRES204J																				
◆ 授業題目	宗教学調査法																				
◆ 目的・概要	他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。																				
◆ 到達目標	(1)宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。 (2)調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 第八回：映像記録法③ 写真撮影実習</td> </tr> <tr> <td>2. 第一回：宗教学におけるデータとは</td> <td>10. 第九回：調査と研究の倫理</td> </tr> <tr> <td>3. 第二回：参与観察法</td> <td>11. 第十回：現地調査計画の立案</td> </tr> <tr> <td>4. 第三回：インタビュー調査法</td> <td>12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る</td> </tr> <tr> <td>5. 第四回：質問紙調査法</td> <td>13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる</td> </tr> <tr> <td>6. 第五回：文献調査法・情報検索法</td> <td>14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える</td> </tr> <tr> <td>7. 第六回：映像記録法① 写真撮影の基本</td> <td>15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック</td> </tr> <tr> <td>8. 第七回：映像記録法② ビデオ撮影の基本</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 第八回：映像記録法③ 写真撮影実習	2. 第一回：宗教学におけるデータとは	10. 第九回：調査と研究の倫理	3. 第二回：参与観察法	11. 第十回：現地調査計画の立案	4. 第三回：インタビュー調査法	12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る	5. 第四回：質問紙調査法	13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる	6. 第五回：文献調査法・情報検索法	14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える	7. 第六回：映像記録法① 写真撮影の基本	15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック	8. 第七回：映像記録法② ビデオ撮影の基本	
1. イントロダクション	9. 第八回：映像記録法③ 写真撮影実習																				
2. 第一回：宗教学におけるデータとは	10. 第九回：調査と研究の倫理																				
3. 第二回：参与観察法	11. 第十回：現地調査計画の立案																				
4. 第三回：インタビュー調査法	12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る																				
5. 第四回：質問紙調査法	13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる																				
6. 第五回：文献調査法・情報検索法	14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える																				
7. 第六回：映像記録法① 写真撮影の基本	15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック																				
8. 第七回：映像記録法② ビデオ撮影の基本																					
◇ 成績評価の方法	授業時・実習時の発表、発言、貢献																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される合宿調査への参加。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 基 礎 実 習 Science of Religions (Introductory Seminar)	2	教授 教授 准教授 鈴木 岩 弓 木 村 敏 明 山 田 仁 史	4	月	4・5																
◆ 科目ナンバリング	LHMRES204J																				
◆ 授業題目	宗教学調査法																				
◆ 目的・概要	他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそのまとめ作業をおこなうとともに、冬期に予定された共同調査に向けて調査計画の立案をおこなう。																				
◆ 到達目標	(1)宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。 (2)調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション 後期授業の概要</td> <td>9. 第八回、前期調査成果発表準備④ 発表予行演習</td> </tr> <tr> <td>2. 第一回、前期調査のまとめ① フェイスシート整理作業</td> <td>10. 第九回、前期調査成果発表</td> </tr> <tr> <td>3. 第二回、前期調査のまとめ② 聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業</td> <td>11. 第十回、現地調査計画の立案</td> </tr> <tr> <td>4. 第三回、前期調査のまとめ③ 聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設</td> <td>12. 第十一回、現地調査準備① 地域について知る</td> </tr> <tr> <td>5. 第四回、前期調査のまとめ④ 聞き取りデータ整理作業 民間信仰</td> <td>13. 第十二回、現地調査準備② 先行研究をまとめる</td> </tr> <tr> <td>6. 第五回、前期調査成果発表準備① アウトライン作成</td> <td>14. 第十三回、現地調査準備③ 質問項目を考える</td> </tr> <tr> <td>7. 第六回、前期調査成果発表準備② データの集約</td> <td>15. 第十四回、まとめ、現地調査の最終チェック</td> </tr> <tr> <td>8. 第七回、前期調査成果発表準備③ スライド作成</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション 後期授業の概要	9. 第八回、前期調査成果発表準備④ 発表予行演習	2. 第一回、前期調査のまとめ① フェイスシート整理作業	10. 第九回、前期調査成果発表	3. 第二回、前期調査のまとめ② 聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業	11. 第十回、現地調査計画の立案	4. 第三回、前期調査のまとめ③ 聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設	12. 第十一回、現地調査準備① 地域について知る	5. 第四回、前期調査のまとめ④ 聞き取りデータ整理作業 民間信仰	13. 第十二回、現地調査準備② 先行研究をまとめる	6. 第五回、前期調査成果発表準備① アウトライン作成	14. 第十三回、現地調査準備③ 質問項目を考える	7. 第六回、前期調査成果発表準備② データの集約	15. 第十四回、まとめ、現地調査の最終チェック	8. 第七回、前期調査成果発表準備③ スライド作成	
1. イントロダクション 後期授業の概要	9. 第八回、前期調査成果発表準備④ 発表予行演習																				
2. 第一回、前期調査のまとめ① フェイスシート整理作業	10. 第九回、前期調査成果発表																				
3. 第二回、前期調査のまとめ② 聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業	11. 第十回、現地調査計画の立案																				
4. 第三回、前期調査のまとめ③ 聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設	12. 第十一回、現地調査準備① 地域について知る																				
5. 第四回、前期調査のまとめ④ 聞き取りデータ整理作業 民間信仰	13. 第十二回、現地調査準備② 先行研究をまとめる																				
6. 第五回、前期調査成果発表準備① アウトライン作成	14. 第十三回、現地調査準備③ 質問項目を考える																				
7. 第六回、前期調査成果発表準備② データの集約	15. 第十四回、まとめ、現地調査の最終チェック																				
8. 第七回、前期調査成果発表準備③ スライド作成																					
◇ 成績評価の方法	授業時・実習時の発表、発言、貢献																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	授業中に指示された課題、準備。冬季に実施される現地調査への参加。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 各 論 Science of Religions (Special Lecture)	2	准教授 高 橋 原	5	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMRES301J																				
◆ 授業題目	宗教と心理(1)																				
◆ 目的・概要	古典的な心理学者たちの議論を参照しながら、宗教の持つ意味を人間心理の側面から考える。																				
◆ 到達目標	いくつかの基本概念を理解し、宗教とは何かという大きな問題を、人間の心に及ぼす影響という点から理解し、説明できるようにする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション 宗教と人間の心</td> <td>9. フロイトの宗教論(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 回心と意識変容(1)</td> <td>10. フロイトの宗教論(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 回心と意識変容(2)</td> <td>11. ユングの宗教論(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 回心と意識変容(3)</td> <td>12. ユングの宗教論(2)</td> </tr> <tr> <td>5. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(1)</td> <td>13. ユングの宗教論(3)</td> </tr> <tr> <td>6. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(2)</td> <td>14. トランスパーソナル心理学と宗教(1)</td> </tr> <tr> <td>7. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(3)</td> <td>15. トランスパーソナル心理学と宗教(2)</td> </tr> <tr> <td>8. フロイトの宗教論(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション 宗教と人間の心	9. フロイトの宗教論(2)	2. 回心と意識変容(1)	10. フロイトの宗教論(3)	3. 回心と意識変容(2)	11. ユングの宗教論(1)	4. 回心と意識変容(3)	12. ユングの宗教論(2)	5. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(1)	13. ユングの宗教論(3)	6. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(2)	14. トランスパーソナル心理学と宗教(1)	7. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(3)	15. トランスパーソナル心理学と宗教(2)	8. フロイトの宗教論(1)	
1. イントロダクション 宗教と人間の心	9. フロイトの宗教論(2)																				
2. 回心と意識変容(1)	10. フロイトの宗教論(3)																				
3. 回心と意識変容(2)	11. ユングの宗教論(1)																				
4. 回心と意識変容(3)	12. ユングの宗教論(2)																				
5. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(1)	13. ユングの宗教論(3)																				
6. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(2)	14. トランスパーソナル心理学と宗教(1)																				
7. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(3)	15. トランスパーソナル心理学と宗教(2)																				
8. フロイトの宗教論(1)																					
◇ 成績評価の方法	期末レポートによる。授業内で小レポートを課す場合もある。																				
◇ 教科書・参考書	ルイス・R・ランボー『宗教的回心の研究』(渡邊学・高橋原・堀雅彦共訳、ビイング・ネット・プレス、2014年)他、授業内で適宜指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業内で指示する参考文献により理解を深める。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 各 論 Science of Religions (Special Lecture)	2	非常勤講師 川 島 秀 一	5	水	1																
◆ 科目ナンバリング	LHMRES301J																				
◆ 授業題目	宗教学特論Ⅱ																				
◆ 目的・概要	四方を海に囲まれている日本列島においては、海に関わる信仰や宗教が、今でも多様に展開している。まず、海と陸との境界でもある渚に関わる信仰がある。海の彼方から到来する「寄りもの」に対する信仰や、逆に災厄を海に流す「流しもの」の信仰がある。「寄りもの」と共にあったエビスに関わる信仰などがその典型である。潮との関わりであれば、満ち潮のときに子が生まれ、引き潮のときに人が亡くなるという伝承も含まれる。人間の生死と関わるこの渚は、今、防潮堤などの建設によって、急速に消滅しようとしている。また、渚とともに考えなければならないのは、海上の、つまりは船上の信仰や宗教がある。「板子一枚下は地獄」と呼ばれる船上においては、常に危険な場面に命を賭け、それゆえに深い信仰も培ってきた。船の神様である「お船霊(ふなだま)様」は、その典型である。海底に棲むと伝えられる「龍神」に関わる信仰も多い。ほかには、漁師が捕った魚や海洋生物を供養するという信仰も含まれよう。東日本大震災の後、人間と海との関わりが希薄となり、再考すべきときが来ていることから、本講義はこのことを最上の目的とした。なお、本期の講義においても、できるかぎり、受講者それぞれがテーマを選び、発表をするかたちを基本とした。																				
◆ 到達目標	日本列島における、海に関わる信仰や宗教を、受講者が悪戦苦闘をしながらも、自分なりに理解できることが、到達目標となる。「エビス」・「龍神」・「お船霊」など、代表的な海の信仰対象の基本的な理解ができることも目標とした。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 序論と、テーマの振り分け</td> <td>9. 宗教的職能者と海の信仰</td> </tr> <tr> <td>2. 寄りもの一渚の民俗学</td> <td>10. 魚のとむらい</td> </tr> <tr> <td>3. 寄りもの信仰とエビス</td> <td>11. 海洋生物の民俗</td> </tr> <tr> <td>4. 龍神と「失せ物絵馬」</td> <td>12. 「船幽霊」の世間話</td> </tr> <tr> <td>5. 「流しもの」の民俗</td> <td>13. 海の災害と信仰</td> </tr> <tr> <td>6. シオに関わる民俗</td> <td>14. 海難者の供養</td> </tr> <tr> <td>7. 船上の信仰・禁忌</td> <td>15. まとめに</td> </tr> <tr> <td>8. お船霊様の信仰</td> <td></td> </tr> </table>					1. 序論と、テーマの振り分け	9. 宗教的職能者と海の信仰	2. 寄りもの一渚の民俗学	10. 魚のとむらい	3. 寄りもの信仰とエビス	11. 海洋生物の民俗	4. 龍神と「失せ物絵馬」	12. 「船幽霊」の世間話	5. 「流しもの」の民俗	13. 海の災害と信仰	6. シオに関わる民俗	14. 海難者の供養	7. 船上の信仰・禁忌	15. まとめに	8. お船霊様の信仰	
1. 序論と、テーマの振り分け	9. 宗教的職能者と海の信仰																				
2. 寄りもの一渚の民俗学	10. 魚のとむらい																				
3. 寄りもの信仰とエビス	11. 海洋生物の民俗																				
4. 龍神と「失せ物絵馬」	12. 「船幽霊」の世間話																				
5. 「流しもの」の民俗	13. 海の災害と信仰																				
6. シオに関わる民俗	14. 海難者の供養																				
7. 船上の信仰・禁忌	15. まとめに																				
8. お船霊様の信仰																					
◇ 成績評価の方法	本期講義終了後のレポート提出																				
◇ 教科書・参考書	参考書として、川島秀一『漁撈伝承』(法政大学出版社、2003)など。																				
◇ 授業時間外学習	次回の授業のテーマが分かっている場合、各自、総体的に学習してくること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 各 論 Science of Religions (Special Lecture)	2	教授 鈴木岩弓	6	水	1																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMRES301J 死の宗教民俗学 これまでの日本では、身近に「死者」が出ると、その子や孫といったイエの人々が、地域の人々の力を借りて、遺体処理・葬送儀礼・造墓などの一連の仕事を行うことが常であった。しかしそうした慣行も、近年の社会変動の波を受けて「地縁」の縛りが弱まり、戦後民法からイエ制度が消滅しイエ意識も希薄化してきた中で、そのあり方を再考しなければならない時期に入ってきた。この授業では、従来イエが担って執り行ってきた葬送墓制のあり方を探ると共に、現代さまざまな試行錯誤している「死」の文化の諸相に眼を向け、「超高齢多死社会」を迎える今後の日本のあり方を展望する。																				
◆ 到達目標	①宗教民俗学的なものの見方を理解する。 ②伝統社会における「死」をめぐる文化の展開を理解する。 ③現代日本における「死」をめぐる状況を理解する。 ④今後の日本社会に予想される「死」をめぐる課題を把握し、その問題解決に向けた方策を考える。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 1.現代日本の「死」の状況</td> <td>9. 6-3 墓</td> </tr> <tr> <td>2. 2.宗教民俗学的視座</td> <td>10. 7.死者と生者の接点 7-1 納骨習俗の歴史</td> </tr> <tr> <td>3. 3.「死」とは何か?</td> <td>11. 7-2 歯骨納骨の諸相</td> </tr> <tr> <td>4. 4.「死」をめぐる時間 4-1 葬送儀礼の多様性</td> <td>12. 7-3 霊場の成立</td> </tr> <tr> <td>5. 4-2 葬送習俗の変容</td> <td>13. 8.死者の記憶 8-1 東日本大震災</td> </tr> <tr> <td>6. 5.「死」をめぐる空間 5-1 靈魂の存在</td> <td>14. 8-2 イエと死者</td> </tr> <tr> <td>7. 5-2 多重祭祀</td> <td>15. 9.まとめ—イエ亡き時代の死者のゆくえ—</td> </tr> <tr> <td>8. 6.死者のシンボル 6-1 位牌 6-2 遺影</td> <td></td> </tr> </table>					1. 1.現代日本の「死」の状況	9. 6-3 墓	2. 2.宗教民俗学的視座	10. 7.死者と生者の接点 7-1 納骨習俗の歴史	3. 3.「死」とは何か?	11. 7-2 歯骨納骨の諸相	4. 4.「死」をめぐる時間 4-1 葬送儀礼の多様性	12. 7-3 霊場の成立	5. 4-2 葬送習俗の変容	13. 8.死者の記憶 8-1 東日本大震災	6. 5.「死」をめぐる空間 5-1 靈魂の存在	14. 8-2 イエと死者	7. 5-2 多重祭祀	15. 9.まとめ—イエ亡き時代の死者のゆくえ—	8. 6.死者のシンボル 6-1 位牌 6-2 遺影	
1. 1.現代日本の「死」の状況	9. 6-3 墓																				
2. 2.宗教民俗学的視座	10. 7.死者と生者の接点 7-1 納骨習俗の歴史																				
3. 3.「死」とは何か?	11. 7-2 歯骨納骨の諸相																				
4. 4.「死」をめぐる時間 4-1 葬送儀礼の多様性	12. 7-3 霊場の成立																				
5. 4-2 葬送習俗の変容	13. 8.死者の記憶 8-1 東日本大震災																				
6. 5.「死」をめぐる空間 5-1 靈魂の存在	14. 8-2 イエと死者																				
7. 5-2 多重祭祀	15. 9.まとめ—イエ亡き時代の死者のゆくえ—																				
8. 6.死者のシンボル 6-1 位牌 6-2 遺影																					
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書	期末に提出するレポート(70%) + 授業時に不定期に課するミニレポート(30%) ・教科書は使用しない。 ・参考書 岩上真珠・鈴木岩弓・森謙二・渡辺秀樹共著『いま、この日本の家族一絆のゆくえ―』、弘文堂、2010年 鈴木岩弓・田中則和編『講座東北の歴史(第六巻 生と死)』、清文堂、2013年 山田慎也・国立歴史民俗博物館・鈴木岩弓編『変容する死の文化—現代東アジアの葬送と墓制—』、東京大学出版会、2014年																				
◇ 授業時間外学習	▶新聞・TV・インターネットなど、さまざまなメディアを通じて、現代日本における「死」をめぐる社会状況を把握する。																				
その他:																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 各 論 Science of Religions (Special Lecture)	2	非常勤講師 磯前順一	集 中 (5)																		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMRES301J 現代宗教学の最新線 この二十年の間に宗教学および宗教研究はどのように展開したのか。その理論的な俯瞰を、講師の交流してきた東京や京都、そして北米やドイツ等の宗教研究の動向を踏まえて、具体的な研究を踏まえつつ紹介・検討していく。日本ではオウム真理教事件と東日本大震災は決定的なインパクトを持った出来事であり、この出来事に対応しえた研究がその後の宗教研究の動向を方向付けてきた。欧米では九・一一のテロであり、東アジアではアメリカ発のグローバリズムと並んで、また大日本帝国の侵略の爪あとが大きな影響を及ぼしている。この二十年を起点として、過去の、国内外の宗教学の歴史を再検討しつつ、最終的にはポストモダンイズム、ポストコロニアリズム、ポスト世俗主義論、公共宗教論さらにはポスト民主主義論へと展開して行った研究の大動脈を把握する。しかし、単なる抽象的な理論をもてあそぶことなく、個別な研究例を踏まえて理解を深めていきたい。それは、現代的な視点から見た、最新の宗教研究の概論の役割を果たすものとなるはずである。																				
◆ 到達目標	宗教学の現代的な諸課題と諸理論を体系的に把握する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 1995年東京 オウム真理教事件と宗教学：学問のポリティクス</td> <td>9. 2011年東北 東日本大震災と宗教学：宗教概念論から宗教主体論へ</td> </tr> <tr> <td>2. 宗教概念論と近代日本(1)：東大宗教学の成立と宗教学の死</td> <td>10. 宗教概念論を超えて：民俗宗教論の可能性とポストコロニアリズム</td> </tr> <tr> <td>3. 宗教概念論と近代日本(2)：国家神道の成立と展開</td> <td>11. 翻訳論と宗教的主体：死者の声を聴くこととサルタン論</td> </tr> <tr> <td>4. 宗教概念論と近代日本(3)：日本宗教学の展開と座標</td> <td>12. 公共宗教論と排除：アレントからハーバマス、そしてアガンベン</td> </tr> <tr> <td>5. 2000年ターバン 欧米宗教学の二十年：イスラム論の台頭とエリアード批判の帰結</td> <td>13. 2016年京都 聖なるものの宗教学：差別のある寺社宗教史の試み</td> </tr> <tr> <td>6. 宗教概念論とプロテスタンティズム：タラル・アサドの宗教的主体論</td> <td>14. 精神分析と他者論：神とは何か、ポストモダンの主体論の批判的検討</td> </tr> <tr> <td>7. 宗教概念論と世俗主義批判：世俗化論から公共宗教論へ</td> <td>15. 症状としての近代：宗教研究および人文的批評の未来</td> </tr> <tr> <td>8. 宗教概念論とポストコロニアリズム：欧米列強と帝国神道の亡霊</td> <td></td> </tr> </table>					1. 1995年東京 オウム真理教事件と宗教学：学問のポリティクス	9. 2011年東北 東日本大震災と宗教学：宗教概念論から宗教主体論へ	2. 宗教概念論と近代日本(1)：東大宗教学の成立と宗教学の死	10. 宗教概念論を超えて：民俗宗教論の可能性とポストコロニアリズム	3. 宗教概念論と近代日本(2)：国家神道の成立と展開	11. 翻訳論と宗教的主体：死者の声を聴くこととサルタン論	4. 宗教概念論と近代日本(3)：日本宗教学の展開と座標	12. 公共宗教論と排除：アレントからハーバマス、そしてアガンベン	5. 2000年ターバン 欧米宗教学の二十年：イスラム論の台頭とエリアード批判の帰結	13. 2016年京都 聖なるものの宗教学：差別のある寺社宗教史の試み	6. 宗教概念論とプロテスタンティズム：タラル・アサドの宗教的主体論	14. 精神分析と他者論：神とは何か、ポストモダンの主体論の批判的検討	7. 宗教概念論と世俗主義批判：世俗化論から公共宗教論へ	15. 症状としての近代：宗教研究および人文的批評の未来	8. 宗教概念論とポストコロニアリズム：欧米列強と帝国神道の亡霊	
1. 1995年東京 オウム真理教事件と宗教学：学問のポリティクス	9. 2011年東北 東日本大震災と宗教学：宗教概念論から宗教主体論へ																				
2. 宗教概念論と近代日本(1)：東大宗教学の成立と宗教学の死	10. 宗教概念論を超えて：民俗宗教論の可能性とポストコロニアリズム																				
3. 宗教概念論と近代日本(2)：国家神道の成立と展開	11. 翻訳論と宗教的主体：死者の声を聴くこととサルタン論																				
4. 宗教概念論と近代日本(3)：日本宗教学の展開と座標	12. 公共宗教論と排除：アレントからハーバマス、そしてアガンベン																				
5. 2000年ターバン 欧米宗教学の二十年：イスラム論の台頭とエリアード批判の帰結	13. 2016年京都 聖なるものの宗教学：差別のある寺社宗教史の試み																				
6. 宗教概念論とプロテスタンティズム：タラル・アサドの宗教的主体論	14. 精神分析と他者論：神とは何か、ポストモダンの主体論の批判的検討																				
7. 宗教概念論と世俗主義批判：世俗化論から公共宗教論へ	15. 症状としての近代：宗教研究および人文的批評の未来																				
8. 宗教概念論とポストコロニアリズム：欧米列強と帝国神道の亡霊																					
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書	出席率とレポート。謙虚に注意深く講義を聴いて、それを自分の力で深く咀嚼する研究姿勢を高く評価する。 参考書として、磯前順一『死者のざわめき』(河出書房新社、2015)、『宗教概念あるいは宗教学の死』(東大出版会 2013)と『近代日本の宗教言説とその系譜』(岩波書店、2003)。他のものは必要に応じて授業中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	授業が終わった後、レポート提出の期限までに、授業中に紹介された参考書や参考論文のいくつかを読むこと。																				
その他:	私の話は素材の提供に過ぎませんので、各人がそれを咀嚼して自分の研究や生き方の中に批判的かつ具体的に組み込んで思考してください。その咀嚼の仕方をレポートで書いてもらいます。																				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
宗 教 人 類 学 各 論 Religious Anthropology (Special Lecture)	2	准教授 山田仁史	6	火	1
◆ 科目ナンバリング	LHMRES302J				
◆ 授業題目	宗教学人類学の系譜				
◆ 目的・概要	人間の宗教はどのように始まったのか？世界にはどのような形態があるのか？それらに見られる多様性と共通性の意味はなにか？ヒトはなぜ信仰するのか？こういった問題に答えようとしてきたのが、宗教学人類学の歴史です。この講義では、主要な研究者13人をとりあげ、彼らの生涯・思想・理論、そして特に彼らが用いた資料とその性質について、語っていきます。				
◆ 到達目標	宗教学人類学史の把握をとおして、現代におけるその意義と、われわれ自身にとって意味するところを考えてみましょう。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> はじめに 宗教学人類学と宗教民族学 マックス・ミュラー (1823-1900) エドワード・タイラー (1832-1917) ウィリアム・ロバートソン・スミス (1846-1894) ジェームズ・フレイザー (1854-1941) レオ・フロベニウス (1873-1938) ヴィルヘルム・シュミット (1868-1954) エミール・デュルケーム (1858-1917) マルセル・モース (1872-1950) アルノルト・ファン・ヘネップ (1873-1957) ラッファエーレ・ペッタツォーニ (1883-1959) アードルフ・イェンゼン (1899-1965) ミルチャ・エリアーデ (1907-1986) クロード・レヴィ＝ストロース (1908-2009) おわりに 宗教学人類学が教えてくれること 				
◇ 成績評価の方法	学期末レポート(講義内容に関連のあるテーマを自由に設定し論じる。80%)および毎回のフィードバック(出欠確認を兼ねる。20%)により評価する。				
◇ 教科書・参考書	Tworuschka, Udo, Religionswissenschaft, Wien: Böhlau, 2011; Michaels, Axel (Hrsg.), Klassiker der Religionswissenschaft, 3. Aufl., München: C. H. Beck, 2010; Auffarth, Christoph u.a. (Hrsg.), Wörterbuch der Religionen, Stuttgart: Kröner, 2006. 以上いずれも参考書です。				
◇ 授業時間外学習	学期末レポート作成に際し、文献調査ないしフィールドワークをしっかりと行ってください。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
宗 教 人 類 学 各 論 Religious Anthropology (Special Lecture)	2	准教授 谷山洋三	5	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHMRES302J				
◆ 授業題目	仏教福祉学				
◆ 目的・概要	仏教者に限らず、宗教者は社会福祉に関与していることが多い。仏教僧侶の場合は、「出世間」というタテマエに反し、また「衆生救済」という高邁な理想には及びもつかない次元で、実際に眼前にある諸問題に対応し、その結果として社会福祉活動につながることもある。講義では、いくつかの実際の研究事例を紹介する。 ・宮城県内の僧侶による被災地支援活動 ・長岡西病院ビハラー病棟のビハラー僧 ・ Bangladesh の上座仏教徒				
◆ 到達目標	宗教と社会との相互関係について理解を深める				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 仏教社会福祉の歴史① 仏教の福祉思想 仏教社会福祉の歴史② 僧侶の社会実践 仏教社会福祉の歴史 まとめ Bangladesh の仏教① Bangladesh の地理、歴史、宗教概観 Bangladesh の仏教② 仏教徒概観、民族、宗派、日常生活 Bangladesh の仏教③ 年中行事、人生儀礼、日常儀礼、僧院生活 Bangladesh の仏教④ 社会活動と僧俗関係、マイノリティとしてのアイデンティティ Bangladesh の仏教 まとめ 僧侶による心のケア① 読経とお茶のみ 僧侶による心のケア② カフェ・デ・モンク 僧侶による心のケア③ 長岡西病院ビハラー病棟 僧侶による心のケア④ ビハラー僧の役割 僧侶による心のケア まとめ 総合ディスカッション 				
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]、出席・討論への参加等 [50%]				
◇ 教科書・参考書	参考書：日本仏教社会福祉学会(編)『仏教社会福祉入門』法蔵館、2014年				
◇ 授業時間外学習	仏教史、宗教学、社会福祉学など、授業を通じて関心をもった事柄について、学びを深めることを期待します。				
その他：質問等は、tanim@m.tohoku.ac.jpへ。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 講 読 Science of Religions (Reading)	2	非常勤 講師	アンドリュース, デール	5	火 4																
◆ 科目ナンバリング	LHMRES303E																				
◆ 授業題目	A study of ghostlore on American college campuses																				
◆ 目的・概要	In this class we will examine various examples of folk belief on American college campuses, with a particular focus on college ghost stories, known as "ghostlore." We will read English language texts written on the subject of American folk legends and ghostlore. In this class, we will study one aspect of American folk belief, but it is hoped that students will gain greater insight into contemporary American society, and be challenged to re-examine through the critical lens of folklore studies their own culture's folk beliefs regarding supernatural phenomenon. This class will be conducted primarily in English.																				
◆ 到達目標	After completing this course, students should have acquired the following skills: (1) Be able to summarize English text. (2) Be able to make basic translations of English text. (3) Be able to express an opinion in English. (4) Be able to identify & explain the elements of folktales & legends. (5) Be able to explain the features of religious folklore (ghostlore) on American college campuses.																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. Class Introduction</td> <td style="width: 50%;">9. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>2. Reading/discussion</td> <td>10. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>3. Reading/discussion</td> <td>11. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>4. Reading/discussion</td> <td>12. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>5. Reading/discussion</td> <td>13. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>6. Reading/discussion</td> <td>14. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>7. Reading/discussion</td> <td>15. Review</td> </tr> <tr> <td>8. Reading/discussion</td> <td></td> </tr> </table>					1. Class Introduction	9. Reading/discussion	2. Reading/discussion	10. Reading/discussion	3. Reading/discussion	11. Reading/discussion	4. Reading/discussion	12. Reading/discussion	5. Reading/discussion	13. Reading/discussion	6. Reading/discussion	14. Reading/discussion	7. Reading/discussion	15. Review	8. Reading/discussion	
1. Class Introduction	9. Reading/discussion																				
2. Reading/discussion	10. Reading/discussion																				
3. Reading/discussion	11. Reading/discussion																				
4. Reading/discussion	12. Reading/discussion																				
5. Reading/discussion	13. Reading/discussion																				
6. Reading/discussion	14. Reading/discussion																				
7. Reading/discussion	15. Review																				
8. Reading/discussion																					
◇ 成績評価の方法	Class exercises: 50%, Notebooks: 25%, Checklists: 25%																				
◇ 教科書・参考書	The instructor will provide the necessary class materials.																				
◇ 授業時間外学習	3 to 5 hours per week of out of class study is required.																				
その他: An English/Japanese dictionary is required. The instructor will be available before and after class for questions and consultation.																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 講 読 Science of Religions (Reading)	2	非常勤 講師	アンドリュース, デール	6	火 4																
◆ 科目ナンバリング	LHMRES303E																				
◆ 授業題目	A study of ghostlore on American college campuses																				
◆ 目的・概要	In this class we will examine various examples of folk belief on American college campuses, with a particular focus on college ghost stories, known as "ghostlore." We will read English language texts written on the subject of American folk legends and ghostlore. In this class, we will study one aspect of American folk belief, but it is hoped that students will gain greater insight into contemporary American society, and be challenged to re-examine through the critical lens of folklore studies their own culture's folk beliefs regarding supernatural phenomenon. This class will be conducted primarily in English. (The readings are a continuation from the first semester)																				
◆ 到達目標	After completing this course, students should have acquired the following skills: (1) Be able to summarize English text. (2) Be able to make basic translations of English text. (3) Be able to express an opinion in English. (4) Be able to identify & explain the elements of folktales & legends. (5) Be able to explain the features of religious folklore (ghostlore) on American college campuses.																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. Class Introduction</td> <td style="width: 50%;">9. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>2. Reading/discussion</td> <td>10. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>3. Reading/discussion</td> <td>11. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>4. Reading/discussion</td> <td>12. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>5. Reading/discussion</td> <td>13. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>6. Reading/discussion</td> <td>14. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>7. Reading/discussion</td> <td>15. Review</td> </tr> <tr> <td>8. Reading/discussion</td> <td></td> </tr> </table>					1. Class Introduction	9. Reading/discussion	2. Reading/discussion	10. Reading/discussion	3. Reading/discussion	11. Reading/discussion	4. Reading/discussion	12. Reading/discussion	5. Reading/discussion	13. Reading/discussion	6. Reading/discussion	14. Reading/discussion	7. Reading/discussion	15. Review	8. Reading/discussion	
1. Class Introduction	9. Reading/discussion																				
2. Reading/discussion	10. Reading/discussion																				
3. Reading/discussion	11. Reading/discussion																				
4. Reading/discussion	12. Reading/discussion																				
5. Reading/discussion	13. Reading/discussion																				
6. Reading/discussion	14. Reading/discussion																				
7. Reading/discussion	15. Review																				
8. Reading/discussion																					
◇ 成績評価の方法	Class exercises: 50%, Notebooks: 25%, Checklists: 25%																				
◇ 教科書・参考書	The instructor will provide the necessary class materials.																				
◇ 授業時間外学習	3 to 5 hours per week of out of class study is required.																				
その他: An English/Japanese dictionary is highly recommended. 3 to 5 hours per week of out of class study is required. The instructor will be available before and after class for questions and consultation.																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 演 習 Science of Religions (Seminar)	2	教授 鈴木 岩 弓 教授 木 村 敏 明 准教授 山 田 仁 史	5	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMRES304J																				
◆ 授業題目	宗教研究の技法																				
◆ 目的・概要	毎回複数の受講生あるいは大学院生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。																				
◆ 到達目標	各自の問題関心を「研究」として展開するための技法を習得することができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け</td> <td style="width:50%;">9. 予備日：学部3年欠席者のため</td> </tr> <tr> <td>2. 大学院生発表①理論的研究</td> <td>10. 学部4年発表 1班</td> </tr> <tr> <td>3. 大学院生発表②実証的研究</td> <td>11. 学部4年発表 2班</td> </tr> <tr> <td>4. 学部3年発表 1班</td> <td>12. 学部4年発表 3班</td> </tr> <tr> <td>5. 学部3年発表 2班</td> <td>13. 学部4年発表 4班</td> </tr> <tr> <td>6. 学部3年発表 3班</td> <td>14. 学部4年発表 5班</td> </tr> <tr> <td>7. 学部3年発表 4班</td> <td>15. 予備日：学部4年欠席者のため</td> </tr> <tr> <td>8. 学部3年発表 5班</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け	9. 予備日：学部3年欠席者のため	2. 大学院生発表①理論的研究	10. 学部4年発表 1班	3. 大学院生発表②実証的研究	11. 学部4年発表 2班	4. 学部3年発表 1班	12. 学部4年発表 3班	5. 学部3年発表 2班	13. 学部4年発表 4班	6. 学部3年発表 3班	14. 学部4年発表 5班	7. 学部3年発表 4班	15. 予備日：学部4年欠席者のため	8. 学部3年発表 5班	
1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け	9. 予備日：学部3年欠席者のため																				
2. 大学院生発表①理論的研究	10. 学部4年発表 1班																				
3. 大学院生発表②実証的研究	11. 学部4年発表 2班																				
4. 学部3年発表 1班	12. 学部4年発表 3班																				
5. 学部3年発表 2班	13. 学部4年発表 4班																				
6. 学部3年発表 3班	14. 学部4年発表 5班																				
7. 学部3年発表 4班	15. 予備日：学部4年欠席者のため																				
8. 学部3年発表 5班																					
◇ 成績評価の方法	発表および討論への参加																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書については授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	発表準備。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 演 習 Science of Religions (Seminar)	2	教授 鈴木 岩 弓 教授 木 村 敏 明 准教授 山 田 仁 史	6	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMRES304J																				
◆ 授業題目	宗教研究の技法																				
◆ 目的・概要	毎回複数の受講生あるいは大学院生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。																				
◆ 到達目標	各自の問題関心を「研究」として展開するための技法を習得することができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け</td> <td style="width:50%;">9. 学部4年発表 2班</td> </tr> <tr> <td>2. 学部3年発表 1班</td> <td>10. 学部4年発表 3班</td> </tr> <tr> <td>3. 学部3年発表 2班</td> <td>11. 学部4年発表 4班</td> </tr> <tr> <td>4. 学部3年発表 3班</td> <td>12. 学部4年発表 5班</td> </tr> <tr> <td>5. 学部3年発表 4班</td> <td>13. 予備日：学部4年欠席者のため</td> </tr> <tr> <td>6. 学部3年発表 5班</td> <td>14. 学部2年発表 1班</td> </tr> <tr> <td>7. 予備日：学部3年欠席者のため</td> <td>15. 学部2年発表 2班</td> </tr> <tr> <td>8. 学部4年発表 1班</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け	9. 学部4年発表 2班	2. 学部3年発表 1班	10. 学部4年発表 3班	3. 学部3年発表 2班	11. 学部4年発表 4班	4. 学部3年発表 3班	12. 学部4年発表 5班	5. 学部3年発表 4班	13. 予備日：学部4年欠席者のため	6. 学部3年発表 5班	14. 学部2年発表 1班	7. 予備日：学部3年欠席者のため	15. 学部2年発表 2班	8. 学部4年発表 1班	
1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け	9. 学部4年発表 2班																				
2. 学部3年発表 1班	10. 学部4年発表 3班																				
3. 学部3年発表 2班	11. 学部4年発表 4班																				
4. 学部3年発表 3班	12. 学部4年発表 5班																				
5. 学部3年発表 4班	13. 予備日：学部4年欠席者のため																				
6. 学部3年発表 5班	14. 学部2年発表 1班																				
7. 予備日：学部3年欠席者のため	15. 学部2年発表 2班																				
8. 学部4年発表 1班																					
◇ 成績評価の方法	発表および討論への参加。																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書については授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	発表準備。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 実 習 Science of Religions (Field Work)	2	教授 鈴木 岩弓・木村 敏明 准教授 山田 仁史 非常勤講師 高倉 浩樹	5	月	4・5																
◆ 科目ナンバリング	LHMRES306J																				
◆ 授業題目	宗教学調査法																				
◆ 目的・概要	他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。																				
◆ 到達目標	(1)宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。 (2)調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 第八回：映像記録法③ 写真撮影実習</td> </tr> <tr> <td>2. 第一回：宗教学におけるデータとは</td> <td>10. 第九回：調査と研究の倫理</td> </tr> <tr> <td>3. 第二回：参与観察法</td> <td>11. 第十回：現地調査計画の立案</td> </tr> <tr> <td>4. 第三回：インタビュー調査法</td> <td>12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る</td> </tr> <tr> <td>5. 第四回：質問紙調査法</td> <td>13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる</td> </tr> <tr> <td>6. 第五回：文献調査法・情報検索法</td> <td>14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える</td> </tr> <tr> <td>7. 第六回：映像記録法① 写真撮影の基本</td> <td>15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック</td> </tr> <tr> <td>8. 第七回：映像記録法② ビデオ撮影の基本</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 第八回：映像記録法③ 写真撮影実習	2. 第一回：宗教学におけるデータとは	10. 第九回：調査と研究の倫理	3. 第二回：参与観察法	11. 第十回：現地調査計画の立案	4. 第三回：インタビュー調査法	12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る	5. 第四回：質問紙調査法	13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる	6. 第五回：文献調査法・情報検索法	14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える	7. 第六回：映像記録法① 写真撮影の基本	15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック	8. 第七回：映像記録法② ビデオ撮影の基本	
1. イントロダクション	9. 第八回：映像記録法③ 写真撮影実習																				
2. 第一回：宗教学におけるデータとは	10. 第九回：調査と研究の倫理																				
3. 第二回：参与観察法	11. 第十回：現地調査計画の立案																				
4. 第三回：インタビュー調査法	12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る																				
5. 第四回：質問紙調査法	13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる																				
6. 第五回：文献調査法・情報検索法	14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える																				
7. 第六回：映像記録法① 写真撮影の基本	15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック																				
8. 第七回：映像記録法② ビデオ撮影の基本																					
◇ 成績評価の方法	授業時・実習時の発表、発言、貢献																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される合宿調査への参加。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 学 実 習 Science of Religions (Field Work)	2	教授 鈴木 岩弓・木村 敏明 准教授 山田 仁史 非常勤講師 高倉 浩樹	6	月	4・5																
◆ 科目ナンバリング	LHMRES306J																				
◆ 授業題目	宗教学調査法																				
◆ 目的・概要	他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそのまとめ作業をおこなう。																				
◆ 到達目標	(1)宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。 (2)調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション 後期授業の概要</td> <td>9. 第八回、前期調査成果発表準備④ 発表予行演習</td> </tr> <tr> <td>2. 第一回、前期調査のまとめ① フェイスシート整理作業</td> <td>10. 第九回、前期調査成果発表</td> </tr> <tr> <td>3. 第二回、前期調査のまとめ② 聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業</td> <td>11. 第十回、現地調査計画の立案（アドバイザーとして）</td> </tr> <tr> <td>4. 第三回、前期調査のまとめ③ 聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設</td> <td>12. 第十一回、現地調査準備① 地域について知る（アドバイザーとして）</td> </tr> <tr> <td>5. 第四回、前期調査のまとめ④ 聞き取りデータ整理作業 民間信仰</td> <td>13. 第十二回、現地調査準備② 先行研究をまとめる（アドバイザーとして）</td> </tr> <tr> <td>6. 第五回、前期調査成果発表準備① アウトライン作成</td> <td>14. 第十三回、現地調査準備③ 質問項目を考える（アドバイザーとして）</td> </tr> <tr> <td>7. 第六回、前期調査成果発表準備② データの集約</td> <td>15. 第十四回、まとめ、現地調査の最終チェック（アドバイザーとして）</td> </tr> <tr> <td>8. 第七回、前期調査成果発表準備③ スライド作成</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション 後期授業の概要	9. 第八回、前期調査成果発表準備④ 発表予行演習	2. 第一回、前期調査のまとめ① フェイスシート整理作業	10. 第九回、前期調査成果発表	3. 第二回、前期調査のまとめ② 聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業	11. 第十回、現地調査計画の立案（アドバイザーとして）	4. 第三回、前期調査のまとめ③ 聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設	12. 第十一回、現地調査準備① 地域について知る（アドバイザーとして）	5. 第四回、前期調査のまとめ④ 聞き取りデータ整理作業 民間信仰	13. 第十二回、現地調査準備② 先行研究をまとめる（アドバイザーとして）	6. 第五回、前期調査成果発表準備① アウトライン作成	14. 第十三回、現地調査準備③ 質問項目を考える（アドバイザーとして）	7. 第六回、前期調査成果発表準備② データの集約	15. 第十四回、まとめ、現地調査の最終チェック（アドバイザーとして）	8. 第七回、前期調査成果発表準備③ スライド作成	
1. イントロダクション 後期授業の概要	9. 第八回、前期調査成果発表準備④ 発表予行演習																				
2. 第一回、前期調査のまとめ① フェイスシート整理作業	10. 第九回、前期調査成果発表																				
3. 第二回、前期調査のまとめ② 聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業	11. 第十回、現地調査計画の立案（アドバイザーとして）																				
4. 第三回、前期調査のまとめ③ 聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設	12. 第十一回、現地調査準備① 地域について知る（アドバイザーとして）																				
5. 第四回、前期調査のまとめ④ 聞き取りデータ整理作業 民間信仰	13. 第十二回、現地調査準備② 先行研究をまとめる（アドバイザーとして）																				
6. 第五回、前期調査成果発表準備① アウトライン作成	14. 第十三回、現地調査準備③ 質問項目を考える（アドバイザーとして）																				
7. 第六回、前期調査成果発表準備② データの集約	15. 第十四回、まとめ、現地調査の最終チェック（アドバイザーとして）																				
8. 第七回、前期調査成果発表準備③ スライド作成																					
◇ 成績評価の方法	授業時・実習時の発表、発言、貢献																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	授業中に指示された課題、準備。																				
その他：																					

専修以外の基礎科目一覧

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
人 文 統 計 学	統計学の基礎	2	木	村 邦 博	3	水	2	256
人 文 統 計 学	推測統計と多変量解析の基礎	2	木	村 邦 博	4	水	2	256
人 文 情 報 処 理	コンピュータを活用したデータ処理と情報発信	2	㊦	湊 信 吾	3	金	2	257
人 文 情 報 処 理	コンピュータを活用したデータ処理と情報発信	2	㊦	湊 信 吾	4	金	2	257
英 語 演 習	時事英語演習	2	㊦	中 西 弘	3	木	2	258
英 語 演 習	学術英語演習	2	㊦	中 西 弘	4	木	2	258
高 等 英 文 解 釈 法	英文解釈の技法 I	2	㊦	鈴 木 亨	3	金	2	259
高 等 英 文 解 釈 法	英文解釈の技法 II	2	㊦	鈴 木 亨	4	金	2	259
英 語 論 文 作 成 法	Academic Writing I	2	㊦	マックス・フィリップス	3	水	2	260
英 語 論 文 作 成 法	Academic Writing II	2	㊦	マックス・フィリップス	4	水	2	260
ギ リ シ ャ 語	古典ギリシャ語文法初級 ギリシャ文化ギリシャ神話	2	㊦	小笠原 正 薫	3	金	3	261
ギ リ シ ャ 語	古典ギリシャ語文法、ギリ シャ文化、ギリシャ神話	2	㊦	小笠原 正 薫	4	金	3	261
ギ リ シ ャ 語	ホメロス『イリアス』演習	2	㊦	小笠原 正 薫	3	木	5	262
ギ リ シ ャ 語	ホメロス『イリアス』演習	2	㊦	小笠原 正 薫	4	木	5	262
ラ テ ン 語	ラテン語文法入門・文法基礎	2	㊦	宮 崎 正 美	3	金	3	263
ラ テ ン 語	ラテン語文法・原典講読	2	㊦	宮 崎 正 美	4	金	3	263
ラ テ ン 語	ラテン語中級	2		荻 原 理	3	火	3	264
ラ テ ン 語	ラテン語中級	2		荻 原 理	4	火	3	264
サ ン ス ク リ ッ ト 語	サンスクリット語基礎演習(1)	2	㊦	西 村 直 子	3	木	3	265
サ ン ス ク リ ッ ト 語	サンスクリット語基礎演習(2)	2	㊦	尾 園 絢 一	4	木	3	265
中 国 語	初級中国語	2		馬 暁 地	3	月	3	266
中 国 語	初級中国語	2		馬 暁 地	4	月	3	266

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
朝 鮮 語	朝鮮語初級Ⅰ	2	㊦ 権 来 順	3	火	2	267
朝 鮮 語	朝鮮語初級Ⅱ	2	㊦ 権 来 順	4	火	2	267
イ タ リ ア 語	イタリア語初級（前期）	2	フォンガロ・エンリコ	3	水	3	268
イ タ リ ア 語	イタリア語初級（後期）	2	フォンガロ・エンリコ	4	水	3	268
イ タ リ ア 語	イタリア語初級（前期）	2	フォンガロ・エンリコ	3	木	3	269
イ タ リ ア 語	イタリア語初級（後期）	2	フォンガロ・エンリコ	4	木	3	269
イ タ リ ア 語	イタリア語中級（前期）	2	フォンガロ・エンリコ	3	水	4	270
イ タ リ ア 語	イタリア語中級（後期）	2	フォンガロ・エンリコ	4	水	4	270
イ タ リ ア 語	イタリア語中級（前期）	2	フォンガロ・エンリコ	3	木	4	271
イ タ リ ア 語	イタリア語中級（後期）	2	フォンガロ・エンリコ	4	木	4	271
イ タ リ ア 語	イタリア語上級（前期）	2	フォンガロ・エンリコ	3	水	5	272
イ タ リ ア 語	イタリア語上級（後期）	2	フォンガロ・エンリコ	4	水	5	272
専 門 中 国 語	中国語作文	2	馬 曉 地	3	金	4	273
専 門 中 国 語	中国語作文	2	馬 曉 地	4	金	4	273
専 門 ド イ ツ 語	テキスト読解のためのドイツ語	2	嶋 崎 啓	3	金	2	274
専 門 フ ラ ン ス 語	フランス語の文章を読む	2	㊦ 翠 川 博 之	3	火	2	274
専 門 フ ラ ン ス 語	フランス語の文章を読む	2	㊦ 翠 川 博 之	4	火	2	275
漢 文 講 読	『孔子家語』講読	2	㊦ 高 橋 睦 美	3	金	4	275
漢 文 講 読	『世説新語』講読	2	㊦ 高 橋 睦 美	4	金	4	276
人 文 社 会 科 学 総 合	よりよい研究のための倫理	2	原 塑	3	月	4	276
人 文 社 会 科 学 総 合	研究と実践の倫理	2	行場 次朗・戸島貴代志・阿部 恒之 木村 邦博・坂井 信之・辻本 昌弘 小林 隆・小泉 政利	4	水	5	277
人 文 社 会 科 学 総 合	臨床死生学	2	谷 山 洋 三	3	月	3	277
人 文 社 会 科 学 総 合	宗教と心理(1)	2	高 橋 原	3	水	3	278
人 文 社 会 科 学 総 合	ケアの視点からの死生学	2	高 橋 原 谷 山 洋 三	3	木	5	278

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																				
人 文 統 計 学 S t a t i s t i c s	2	教授 木村邦博	3	水	2																				
◆ 科目ナンバリング	LHMPRI201J																								
◆ 授業題目	統計学の基礎																								
◆ 目的・概要	統計学の基礎を学ぶ。 特に、データ収集・測定の考え方の基本を理解し、代表値や変動の測度の算出、探索的データ解析、クロス集計表など、記述統計学の手法を身につける。																								
◆ 到達目標	官庁統計や簡単な調査報告・論文を読めるようになるための基礎的な統計学について学ぶ。																								
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. データと測定(1)</td> <td>11. 関連の測度(1)</td> </tr> <tr> <td>2. データと測定(2)</td> <td>12. 関連の測度(2)</td> </tr> <tr> <td>3. 度数分布と比率(1)</td> <td>13. 3変数間の関係を考える (因果関係、相関関係、疑似相関) (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 度数分布と比率(2)</td> <td>14. 3変数間の関係を考える (因果関係、相関関係、疑似相関) (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 代表値と変動(1)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>6. 代表値と変動(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. グラフによるデータの表現(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. グラフによるデータの表現(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. クロス集計表(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10. クロス集計表(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. データと測定(1)	11. 関連の測度(1)	2. データと測定(2)	12. 関連の測度(2)	3. 度数分布と比率(1)	13. 3変数間の関係を考える (因果関係、相関関係、疑似相関) (1)	4. 度数分布と比率(2)	14. 3変数間の関係を考える (因果関係、相関関係、疑似相関) (2)	5. 代表値と変動(1)	15. まとめ	6. 代表値と変動(2)		7. グラフによるデータの表現(1)		8. グラフによるデータの表現(2)		9. クロス集計表(1)		10. クロス集計表(2)	
1. データと測定(1)	11. 関連の測度(1)																								
2. データと測定(2)	12. 関連の測度(2)																								
3. 度数分布と比率(1)	13. 3変数間の関係を考える (因果関係、相関関係、疑似相関) (1)																								
4. 度数分布と比率(2)	14. 3変数間の関係を考える (因果関係、相関関係、疑似相関) (2)																								
5. 代表値と変動(1)	15. まとめ																								
6. 代表値と変動(2)																									
7. グラフによるデータの表現(1)																									
8. グラフによるデータの表現(2)																									
9. クロス集計表(1)																									
10. クロス集計表(2)																									
◇ 成績評価の方法	レポート (10回) による。																								
◇ 教科書・参考書	教科書：ボンシュテット&ノーキ (海野他訳)『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社																								
◇ 授業時間外学習	教科書と補足資料 (ISTUで配付) で予習・復習をする。 教科書の各章末にある「一般的問題」のうち指定されたものについて、レポートを作成する。																								
その他：(1)人文統計学 (推測統計と多変量解析の基礎) とあわせて受講することが望ましい。 (2)社会調査士資格認定標準科目Cに対応。																									

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 統 計 学 S t a t i s t i c s	2	教授 木村邦博	4	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMPRI201J																				
◆ 授業題目	推測統計と多変量解析の基礎																				
◆ 目的・概要	より高度な統計学の基礎を学ぶ。 特に、確率分布と統計的推測の考え方や、平均・比率の差の検定・推定、分散分析、相関分析、回帰分析、パス解析などの手法について理解する。																				
◆ 到達目標	「統計学の基礎」をふまえて、より高度な統計的方法を理解するための基本事項について学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 統計的推測と仮説検定(1): 確率論の基礎</td> <td>9. 2変数の関連の分析: 相関係数</td> </tr> <tr> <td>2. 統計的推測と仮説検定(2): 統計的推定</td> <td>10. 2変数の関連の分析: 偏相関、因果推論、生態学的誤謬</td> </tr> <tr> <td>3. 統計的推測と仮説検定(3): 統計的検定の理論</td> <td>11. 回帰分析の基礎(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 2平均値の差の検定(1)</td> <td>12. 回帰分析の基礎(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 2平均値の差の検定(2)</td> <td>13. 重回帰分析(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 複数平均値の差の検定(1)</td> <td>14. 重回帰分析(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 複数平均値の差の検定(2)</td> <td>15. 因果モデルとパス分析の基礎</td> </tr> <tr> <td>8. 2変数の関連の分析: クロス集計表における関連の測</td> <td></td> </tr> </table>					1. 統計的推測と仮説検定(1): 確率論の基礎	9. 2変数の関連の分析: 相関係数	2. 統計的推測と仮説検定(2): 統計的推定	10. 2変数の関連の分析: 偏相関、因果推論、生態学的誤謬	3. 統計的推測と仮説検定(3): 統計的検定の理論	11. 回帰分析の基礎(1)	4. 2平均値の差の検定(1)	12. 回帰分析の基礎(2)	5. 2平均値の差の検定(2)	13. 重回帰分析(1)	6. 複数平均値の差の検定(1)	14. 重回帰分析(2)	7. 複数平均値の差の検定(2)	15. 因果モデルとパス分析の基礎	8. 2変数の関連の分析: クロス集計表における関連の測	
1. 統計的推測と仮説検定(1): 確率論の基礎	9. 2変数の関連の分析: 相関係数																				
2. 統計的推測と仮説検定(2): 統計的推定	10. 2変数の関連の分析: 偏相関、因果推論、生態学的誤謬																				
3. 統計的推測と仮説検定(3): 統計的検定の理論	11. 回帰分析の基礎(1)																				
4. 2平均値の差の検定(1)	12. 回帰分析の基礎(2)																				
5. 2平均値の差の検定(2)	13. 重回帰分析(1)																				
6. 複数平均値の差の検定(1)	14. 重回帰分析(2)																				
7. 複数平均値の差の検定(2)	15. 因果モデルとパス分析の基礎																				
8. 2変数の関連の分析: クロス集計表における関連の測																					
◇ 成績評価の方法	レポート (10回) による。																				
◇ 教科書・参考書	教科書：ボンシュテット&ノーキ (海野他訳)『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社																				
◇ 授業時間外学習	教科書と補足資料 (ISTUで配付) で予習・復習をする。 教科書の各章末にある「一般的問題」のうち指定されたものについて、レポートを作成する。																				
その他：(1)人文統計学 (統計学の基礎) とあわせて受講することが望ましい。 (2)社会調査士資格認定標準科目Dに対応。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 情 報 処 理 Information Processing for the Humanities	2	非 常 勤 講 師 湊 信 吾	3	金	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMHUI201J コンピュータを活用したデータ処理と情報発信 以下の予定で講義および実習を行う予定である。内容を変更する場合には授業中に連絡する。 ・授業では前半、実習を交えながら解説を行う。後半、課題に取り組んでもらう。 ・Excelでは表を使用したデータ処理について練習する。 ・Rを使用したデータ解析の方法、グラフの表現について練習する。 ・インターネットで文書を公開するには Web ページを作成する必要がある。Web ページを作るためのプログラミング言語として HTML、CSS および JavaScript を使い、Web ページ作成の基本について学ぶ。 ・SQLを使用したデータベースのプログラミングについて練習する。 ・プログラミング言語 Ruby を用い簡単なプログラミングの練習を行う。				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・Excelを使用した実習により手軽にデータ分析を行うことができるようになる。 ・Rを使用して基本的なデータ解析やグラフの作成ができるようになる。 ・PowerPointのスライド作成を通して発表用の資料を簡単に作るようになる。 ・Web ページを作ることで情報を外部に公開する方法について理解を深める。 ・SQLのプログラミングを使用し汎用的にデータベースを操作できるようになる。 ・Rubyを使いプログラミングの楽しさを体験してもらう。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとして授業の概要、評価の方法、テキストの閲覧方法、欠席時の対応について説明 2. Excel (表計算の基本) 3. Excel (グラフの作成) 4. Excel (テキストファイルの扱い方) 5. Excel (組み込み関数の応用) 6. Excel (VBAプログラミング) 7. Rを利用したデータ解析とグラフの作成 8. PowerPointを使用したスライドの作成 9. AccessでSQLを使用したデータベースの操作 10. HTMLによるWebページの作成 (タグについて) 11. HTMLによるWebページの作成 (表を作る) 12. CSSを使用したWebページのデザイン 13. JavaScript (Webページとの関わり) 14. JavaScript (グラフの作成) 15. Rubyを使ってテキストデータからWebページを作成 				
◇ 成績評価の方法	毎回、授業時間内にレポートを印刷して提出してもらう。レポートの内容および提出日時により評価を決定する。				
◇ 教科書・参考書	毎週、週末にインターネット経由でテキストを公開する。 参考書についてはテキストおよび授業で紹介する。				
◇ 授業時間外学習	テキストはインターネット上で公開するので予習に役立ててもらいたい。				
その他 :	オリエンテーションの時に連絡先やテキスト公開サイトのURLを教える。 4セメスターにもほぼ同内容のものを開講するので、いずれかを履修すればよい。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 情 報 処 理 Information Processing for the Humanities	2	非 常 勤 講 師 湊 信 吾	4	金	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMHUI201J コンピュータを活用したデータ処理と情報発信 以下の予定で講義および実習を行う予定である。内容を変更する場合には授業中に連絡する。 ・授業では前半、実習を交えながら解説を行う。後半、課題に取り組んでもらう。 ・Excelでは表を使用したデータ処理について練習する。 ・Rを使用したデータ解析の方法、グラフの表現について練習する。 ・インターネットで文書を公開するには Web ページを作成する必要がある。Web ページを作るためのプログラミング言語として HTML、CSS および JavaScript を使い、Web ページ作成の基本について学ぶ。 ・SQLを使用したデータベースのプログラミングについて練習する。 ・プログラミング言語 Ruby を用い簡単なプログラミングの練習を行う。				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・Excelを使用した実習により手軽にデータ分析を行うことができるようになる。 ・Rを使用して基本的なデータ解析やグラフの作成ができるようになる。 ・PowerPointのスライド作成を通して発表用の資料を簡単に作るようになる。 ・Web ページを作ることで情報を外部に公開する方法について理解を深める。 ・SQLのプログラミングを使用し汎用的にデータベースを操作できるようになる。 ・Rubyを使いプログラミングの楽しさを体験してもらう。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとして授業の概要、評価の方法、テキストの閲覧方法、欠席時の対応について説明 2. Excel (表計算の基本) 3. Excel (グラフの作成) 4. Excel (テキストファイルの扱い方) 5. Excel (組み込み関数の応用) 6. Excel (VBAプログラミング) 7. Rを利用したデータ解析とグラフの作成 8. PowerPointを使用したスライドの作成 9. AccessでSQLを使用したデータベースの操作 10. HTMLによるWebページの作成 (タグについて) 11. HTMLによるWebページの作成 (表を作る) 12. CSSを使用したWebページのデザイン 13. JavaScript (Webページとの関わり) 14. JavaScript (グラフの作成) 15. Rubyを使ってテキストデータからWebページを作成 				
◇ 成績評価の方法	毎回、授業時間内にレポートを印刷して提出してもらう。レポートの内容および提出日時により評価を決定する。				
◇ 教科書・参考書	毎週、週末にインターネット経由でテキストを公開する。 参考書についてはテキストおよび授業で紹介する。				
◇ 授業時間外学習	テキストはインターネット上で公開するので予習に役立ててもらいたい。				
その他 :	オリエンテーションの時に連絡先やテキスト公開サイトのURLを教える。 3セメスターにもほぼ同内容のものを開講するので、いずれかを履修すればよい。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 演 習 Seminar in Practical English	2	非常勤 講師 中 西 弘	3	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMENG201J																				
◆ 授業題目	時事英語演習																				
◆ 目的・概要	主に時事英語（Wall Street Journal, New York Times 等）の精読を行い、内容を正確につかむ訓練をする。また、論理的・批判的に文章を読む習慣を身につける。さらに、その内容に関して、意見を述べ（Paragraph Writing）、言い換え（Paraphrasing）、要約する（Summarizing）ライティング活動を行う。																				
◆ 到達目標	(1)時事英語を正確に読む力を身につける。 (2)時事英語を読んで、意見を述べたり、内容をまとめたりする力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 時事英語読解 + Paragraph Writing(1)</td> <td>9. 時事英語読解 + Paraphrasing(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 時事英語読解 + Paragraph Writing(2)</td> <td>10. 時事英語読解 + Paraphrasing(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 時事英語読解 + Paragraph Writing(3)</td> <td>11. 時事英語読解 + Summarizing(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 時事英語読解 + Paragraph Writing(4)</td> <td>12. 時事英語読解 + Summarizing(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 時事英語読解 + Paragraph Writing(5)</td> <td>13. 時事英語読解 + Summarizing(3)</td> </tr> <tr> <td>6. 時事英語読解 + Paragraph Writing(6)</td> <td>14. 時事英語読解 + Summarizing(4)</td> </tr> <tr> <td>7. 授業のまとめと中間テスト</td> <td>15. 授業のまとめと期末テスト</td> </tr> <tr> <td>8. 時事英語読解 + Paraphrasing(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 時事英語読解 + Paragraph Writing(1)	9. 時事英語読解 + Paraphrasing(2)	2. 時事英語読解 + Paragraph Writing(2)	10. 時事英語読解 + Paraphrasing(3)	3. 時事英語読解 + Paragraph Writing(3)	11. 時事英語読解 + Summarizing(1)	4. 時事英語読解 + Paragraph Writing(4)	12. 時事英語読解 + Summarizing(2)	5. 時事英語読解 + Paragraph Writing(5)	13. 時事英語読解 + Summarizing(3)	6. 時事英語読解 + Paragraph Writing(6)	14. 時事英語読解 + Summarizing(4)	7. 授業のまとめと中間テスト	15. 授業のまとめと期末テスト	8. 時事英語読解 + Paraphrasing(1)	
1. 時事英語読解 + Paragraph Writing(1)	9. 時事英語読解 + Paraphrasing(2)																				
2. 時事英語読解 + Paragraph Writing(2)	10. 時事英語読解 + Paraphrasing(3)																				
3. 時事英語読解 + Paragraph Writing(3)	11. 時事英語読解 + Summarizing(1)																				
4. 時事英語読解 + Paragraph Writing(4)	12. 時事英語読解 + Summarizing(2)																				
5. 時事英語読解 + Paragraph Writing(5)	13. 時事英語読解 + Summarizing(3)																				
6. 時事英語読解 + Paragraph Writing(6)	14. 時事英語読解 + Summarizing(4)																				
7. 授業のまとめと中間テスト	15. 授業のまとめと期末テスト																				
8. 時事英語読解 + Paraphrasing(1)																					
◇ 成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（40%）、中間テスト（30%）、期末テスト（30%）																				
◇ 教科書・参考書	特になし																				
◇ 授業時間外学習	予習段階で教材に目をとおしておくこと																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 演 習 Seminar in Practical English	2	非常勤 講師 中 西 弘	4	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMENG201J																				
◆ 授業題目	学術英語演習																				
◆ 目的・概要	主に心理言語学（言語獲得・言語理解の心理メカニズム）を扱った英文雑誌・論文を中心に、学術文章の精読を行い、内容を正確につかむ訓練をする。さらに、その内容に関して、意見を述べ（Paragraph Writing）、言い換え（Paraphrasing）、要約する（Summarizing）ライティング活動を行う。																				
◆ 到達目標	(1)学術的な英語の文章を正確に読む力を身につける。 (2)学術的な英語の文章を読んで、意見を述べたり、内容をまとめたりする力を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. こどもの言語獲得にまつわる文献（音声知覚の発達） + Paragraph Writing(1)</td> <td>9. 記憶にまつわる文献（復唱技術と言語習得） + Paraphrasing(3)</td> </tr> <tr> <td>2. こどもの言語獲得にまつわる文献（リズムと言語習得） + Paragraph Writing(2)</td> <td>10. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献（統語処理） + Paraphrasing(4)</td> </tr> <tr> <td>3. こどもの言語獲得にまつわる文献（模倣の役割） + Paragraph Writing(3)</td> <td>11. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献（チャンキング） + Summarizing(1)</td> </tr> <tr> <td>4. こどもの言語獲得にまつわる文献（母親語の役割） + Paragraph Writing(4)</td> <td>12. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献（リズムの役割） + Summarizing(2)</td> </tr> <tr> <td>5. こどもの言語獲得にまつわる文献（名詞・動詞の獲得プロセス） + Paragraph Writing(5)</td> <td>13. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献（推論・スキーマ） + Summarizing(3)</td> </tr> <tr> <td>6. 記憶にまつわる文献（短期記憶・長期記憶） + Paraphrasing(1)</td> <td>14. 英語学習にまつわる文献</td> </tr> <tr> <td>7. 授業のまとめと中間テスト</td> <td>15. 授業のまとめと期末テスト</td> </tr> <tr> <td>8. 記憶にまつわる文献（メンタルレキシコン） + Paraphrasing(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. こどもの言語獲得にまつわる文献（音声知覚の発達） + Paragraph Writing(1)	9. 記憶にまつわる文献（復唱技術と言語習得） + Paraphrasing(3)	2. こどもの言語獲得にまつわる文献（リズムと言語習得） + Paragraph Writing(2)	10. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献（統語処理） + Paraphrasing(4)	3. こどもの言語獲得にまつわる文献（模倣の役割） + Paragraph Writing(3)	11. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献（チャンキング） + Summarizing(1)	4. こどもの言語獲得にまつわる文献（母親語の役割） + Paragraph Writing(4)	12. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献（リズムの役割） + Summarizing(2)	5. こどもの言語獲得にまつわる文献（名詞・動詞の獲得プロセス） + Paragraph Writing(5)	13. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献（推論・スキーマ） + Summarizing(3)	6. 記憶にまつわる文献（短期記憶・長期記憶） + Paraphrasing(1)	14. 英語学習にまつわる文献	7. 授業のまとめと中間テスト	15. 授業のまとめと期末テスト	8. 記憶にまつわる文献（メンタルレキシコン） + Paraphrasing(2)	
1. こどもの言語獲得にまつわる文献（音声知覚の発達） + Paragraph Writing(1)	9. 記憶にまつわる文献（復唱技術と言語習得） + Paraphrasing(3)																				
2. こどもの言語獲得にまつわる文献（リズムと言語習得） + Paragraph Writing(2)	10. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献（統語処理） + Paraphrasing(4)																				
3. こどもの言語獲得にまつわる文献（模倣の役割） + Paragraph Writing(3)	11. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献（チャンキング） + Summarizing(1)																				
4. こどもの言語獲得にまつわる文献（母親語の役割） + Paragraph Writing(4)	12. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献（リズムの役割） + Summarizing(2)																				
5. こどもの言語獲得にまつわる文献（名詞・動詞の獲得プロセス） + Paragraph Writing(5)	13. リーディングの認知メカニズムにまつわる文献（推論・スキーマ） + Summarizing(3)																				
6. 記憶にまつわる文献（短期記憶・長期記憶） + Paraphrasing(1)	14. 英語学習にまつわる文献																				
7. 授業のまとめと中間テスト	15. 授業のまとめと期末テスト																				
8. 記憶にまつわる文献（メンタルレキシコン） + Paraphrasing(2)																					
◇ 成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（40%）、中間テスト（30%）、期末テスト（30%）																				
◇ 教科書・参考書	特になし																				
◇ 授業時間外学習	予習段階で教材に目をとおしておくこと																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
高 等 英 文 解 釈 法 Advanced English for Intensive Reading	2	非常勤 講師 鈴 木 亨	3	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHMENG202J				
◆ 授業題目	英文解釈の技法 I				
◆ 目的・概要	様々なスタイルの英文テキスト（小説、エッセイ、映画脚本、歌詞、雑誌・新聞記事、評論など）を素材にして、実践的な英語の読解力を養成する。取り上げるテキストに応じて、全訳、部分訳、要約など授業での読み方は随時指示する。仮想敵は、断片的な日本語訳語との対応関係（のようなもの）とフィーリングに基づく自分勝手な誤読であり、文法や文章構成の理屈をきちんと理解すれば、正しい解釈は自ずと明らかになるということを体得してもらいたい。				
◆ 到達目標	英文の基本的なロジック（正しい文法解析と文脈を含めた文章構成の把握）を読解のストラテジーとして身につけ、様々な英文スタイルの特性に応じて、正確な読解ができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（授業の目的や進め方等について）【注意：授業の進行状況に応じて下記の計画を変更することがある。】 2. Reading Literary Fiction 1 3. Reading Literary Fiction 2 4. A Small Good Thing 1 5. A Small Good Thing 2 6. A Small Good Thing 3 7. How Pleasure Works 1 8. How Pleasure Works 2 9. How Pleasure Works 3 10. Song Lyrics 11. Japanese Roots 1 12. Japanese Roots 2 13. Japanese Roots 3 14. 授業のまとめ 15. 学期末試験と解説 				
◇ 成績評価の方法	学期末試験および学期中に提出してもらった課題（学期中に3回、内容は適宜指示する）に基づいて、授業内容の理解度を総合的に評価する。				
◇ 教科書・参考書	使用するテキストはプリントで配布する。参考書は必要に応じて適宜紹介する。				
◇ 授業時間外学習	時間をかけてテキストを読む。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
高 等 英 文 解 釈 法 Advanced English for Intensive Reading	2	非常勤 講師 鈴 木 亨	4	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHMENG202J				
◆ 授業題目	英文解釈の技法 II				
◆ 目的・概要	様々なスタイルの英文テキスト（小説、エッセイ、映画脚本、歌詞、雑誌・新聞記事、評論など）を素材にして、実践的な英語の読解力を養成する。取り上げるテキストに応じて、全訳、部分訳、要約など授業での読み方は随時指示する。仮想敵は、断片的な日本語訳語との対応関係（のようなもの）とフィーリングに基づく自分勝手な誤読であり、文法や文章構成の理屈をきちんと理解すれば、正しい解釈は自ずと明らかになるということを体得してもらいたい。				
◆ 到達目標	英文の基本的なロジック（正しい文法解析と文脈を含めた文章構成の把握）を読解のストラテジーとして身につけ、様々な英文スタイルの特性に応じて、正確な読解ができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（授業の目的や進め方等について）【注意：授業の進行状況に応じて下記の計画を変更することがある。】 2. Judy Moody Gets Famous 3. Akeelah and the Bee 4. The Better Angels of Our Nature 5. What Money Can't Buy 1 6. What Money Can't Buy 2 7. What Money Can't Buy 3 8. Looking For Rachel Wallace 1 9. Looking For Rachel Wallace 2 10. Song Lyrics 11. Before Sunrise 1 12. Before Sunrise 2 13. Before Sunrise 3 14. 授業のまとめ 15. 学期末試験と解説 				
◇ 成績評価の方法	学期末試験および学期中に提出してもらった課題（学期中に3回、内容は適宜指示する）に基づいて、授業内容の理解度を総合的に評価する。				
◇ 教科書・参考書	使用するテキストはプリントで配布する。参考書は必要に応じて適宜紹介する。				
◇ 授業時間外学習	時間をかけてテキストを読む。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 論 文 作 成 法 C r e a t i v e W r i t i n g	2	非常勤 講師	マックス・フィリップス	3	水 2																
◆ 科目ナンバリング	LHMENG203E																				
◆ 授業題目	Academic Writing I																				
◆ 目的・概要	This course is designed as an introduction to the academic writing process. Students will learn: a) correct format for writing essays, b) organization for different essay types, c) strategies for: pre-writing, understanding basic sentence and paragraph structure, revising, and proofreading, and d) strategies for improving the readability of their writing.																				
◆ 到達目標	Students will learn that because English writing is a process, not a product, organizational expectations must be met. The course is designed to help students meet those expectations through logically organized writing.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Course Introduction; Writing Format; Plagiarism; Capitalization Rules</td> <td>8. Introduction and Conclusion Writing; Essay 3 Assignment</td> </tr> <tr> <td>2. Essay 1 Assignment; Introduction to English Writing; Pre-writing Strategies</td> <td>9. Understanding Logic, Audience, Tone; Organization 1 - Compare/Contrast</td> </tr> <tr> <td>3. Basic Sentence Structure; Parallelism Rules</td> <td>10. Organization 2 - Chronological Order</td> </tr> <tr> <td>4. Writing an Outline; Basic Paragraph Structure</td> <td>11. Organization 3 - Cause/Effect</td> </tr> <tr> <td>5. Basic Essay Structure</td> <td>12. Workshop 2 (E2 one-on-one)</td> </tr> <tr> <td>6. Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading</td> <td>13. Effective Thesis Statement Writing; Gender Neutral Language</td> </tr> <tr> <td>7. Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1); Essay 2 Assignment</td> <td>14. Workshop 3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. Semester Exam</td> </tr> </table>					1. Course Introduction; Writing Format; Plagiarism; Capitalization Rules	8. Introduction and Conclusion Writing; Essay 3 Assignment	2. Essay 1 Assignment; Introduction to English Writing; Pre-writing Strategies	9. Understanding Logic, Audience, Tone; Organization 1 - Compare/Contrast	3. Basic Sentence Structure; Parallelism Rules	10. Organization 2 - Chronological Order	4. Writing an Outline; Basic Paragraph Structure	11. Organization 3 - Cause/Effect	5. Basic Essay Structure	12. Workshop 2 (E2 one-on-one)	6. Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading	13. Effective Thesis Statement Writing; Gender Neutral Language	7. Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1); Essay 2 Assignment	14. Workshop 3		15. Semester Exam
1. Course Introduction; Writing Format; Plagiarism; Capitalization Rules	8. Introduction and Conclusion Writing; Essay 3 Assignment																				
2. Essay 1 Assignment; Introduction to English Writing; Pre-writing Strategies	9. Understanding Logic, Audience, Tone; Organization 1 - Compare/Contrast																				
3. Basic Sentence Structure; Parallelism Rules	10. Organization 2 - Chronological Order																				
4. Writing an Outline; Basic Paragraph Structure	11. Organization 3 - Cause/Effect																				
5. Basic Essay Structure	12. Workshop 2 (E2 one-on-one)																				
6. Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading	13. Effective Thesis Statement Writing; Gender Neutral Language																				
7. Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1); Essay 2 Assignment	14. Workshop 3																				
	15. Semester Exam																				
◇ 成績評価の方法	Final grade to be determined by: homework, score earned on submitted essays, and workshop participation.																				
◇ 教科書・参考書	Course syllabus based on "Discoveries in Academic Writing," by Barbara Harris Leonhard and "Teaching Academic Writing" by Eli Hinkel.																				
◇ 授業時間外学習	Attendance is mandatory for all classes. You will be automatically expelled if you have more than 2 unexcused absences. No auditors permitted.																				
その他 :																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
英 語 論 文 作 成 法 C r e a t i v e W r i t i n g	2	非常勤 講師	マックス・フィリップス	4	水 2																		
◆ 科目ナンバリング	LHMENG203E																						
◆ 授業題目	Academic Writing II																						
◆ 目的・概要	This course is a continuation of AW I. Therefore, the prerequisite for entering AW II is satisfactory completion of AW I. (Requests for a waiver must be made to the professor prior to admission to the course.) Student will study the research process and how to organize their research into a cohesive, logically organized paper, with a special focus on proper format and documentation.																						
◆ 到達目標	Students will do original research and write a fully documented research paper.																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Course Introduction; The Research Process</td> <td>10. Understanding Citations; Documenting Sources In-text</td> </tr> <tr> <td>2. Choosing a Topic; Identifying Potential Resources</td> <td>11. Paper Format; Documenting Sources Post-text</td> </tr> <tr> <td>3. Gathering Source Material - Evaluating Sources</td> <td>12. Workshop 2 (rough draft of main body)</td> </tr> <tr> <td>4. Note-Taking</td> <td>13. Abstract Writing; Writing Introduction and Conclusion for Research Papers</td> </tr> <tr> <td>5. Using the Internet for Research</td> <td>14. Writing Workshop 3 (rough draft of paper)</td> </tr> <tr> <td>6. Considering Organization</td> <td>15. Oral Presentations of Research Paper</td> </tr> <tr> <td>7. How to Organize Notes / Write Outline</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. Workshop 1 (Outline - rough draft)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. Integrating Source Material; First Draft Writing</td> <td></td> </tr> </table>					1. Course Introduction; The Research Process	10. Understanding Citations; Documenting Sources In-text	2. Choosing a Topic; Identifying Potential Resources	11. Paper Format; Documenting Sources Post-text	3. Gathering Source Material - Evaluating Sources	12. Workshop 2 (rough draft of main body)	4. Note-Taking	13. Abstract Writing; Writing Introduction and Conclusion for Research Papers	5. Using the Internet for Research	14. Writing Workshop 3 (rough draft of paper)	6. Considering Organization	15. Oral Presentations of Research Paper	7. How to Organize Notes / Write Outline		8. Workshop 1 (Outline - rough draft)		9. Integrating Source Material; First Draft Writing	
1. Course Introduction; The Research Process	10. Understanding Citations; Documenting Sources In-text																						
2. Choosing a Topic; Identifying Potential Resources	11. Paper Format; Documenting Sources Post-text																						
3. Gathering Source Material - Evaluating Sources	12. Workshop 2 (rough draft of main body)																						
4. Note-Taking	13. Abstract Writing; Writing Introduction and Conclusion for Research Papers																						
5. Using the Internet for Research	14. Writing Workshop 3 (rough draft of paper)																						
6. Considering Organization	15. Oral Presentations of Research Paper																						
7. How to Organize Notes / Write Outline																							
8. Workshop 1 (Outline - rough draft)																							
9. Integrating Source Material; First Draft Writing																							
◇ 成績評価の方法	Final grade to be determined by: research paper, and workshop participation.																						
◇ 教科書・参考書	Course syllabus based on: MLA Style Manual and Guide to Scholarly Publishing 3rd Edition.																						
◇ 授業時間外学習	Attendance is mandatory for all classes. You will be automatically expelled from the course if you have more than 2 unexcused absences. No auditors.																						
その他 :																							

授 業 科 目					単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
ギリシャ語	2	非常勤講師	小笠原 正 薫	3	金	3				
◆ 科目ナンバリング	LHMOFL201J									
◆ 授業題目	古典ギリシャ語文法初級 ギリシャ文化ギリシャ神話									
◆ 目的・概要	古典ギリシャ語のアルファベットから始め、辞書を用いてギリシャ語の原書が読めるようにする。それと並行して西洋文明の基礎であるギリシャ神話、悲劇、歴史、哲学等の知識が広く身につけられるようにする。特にギリシャ神話は欧米では必須知識であり、他の領域と強い関連性があるのでテキストを用いて理解を深める。									
◆ 到達目標	回数を重ね、ギリシャ文字の読み書きになれ、そのうえで短いギリシャ語文章を訳し作文をする。毎回の授業で2課ほど進み、文法の学習、単語スベル、および文章の発音の練習を重ねる。西洋文明の基礎となるギリシャ神話はテキストのほか絵画、彫刻等の資料を利用し視覚的理解を深める。15回の学習で文法の半分が終了し直説法からほかの法、接続法、希求法への理解の進展の手がかりを得たことになる。									
◆ 授業内容・方法	1. アルファベット 発音 アクセント ギリシャ神話 ギリシャ文化（第2回以降も同じ） 2. 動詞変化 現在動詞の人称変化、第1変化の名詞 3. 第1変化の名詞その2、未来動詞の人称変化 4. 第1変化の名詞その3、その4 5. 未完了過去、第2変化の名詞 6. 第1、第2変化の形容詞、前置詞 7. アオリスト動詞の人称変化、現在完了 過去完了 8. 指示代名詞、強意代名詞の変化 他 9. 繫辞動詞等の変化、疑問代名詞の変化 10. 直説法中動相現在、未完了過去の変化 11. 直説法中動相アオリスト、現在完了、過去完了の変化 12. 第2アオリストの能動中動相の変化 13. 第3変化の名詞、能相欠如動詞の変化 14. 第3変化の名詞その2、約音動詞の変化 15. 第3変化の形容詞、その他									
◇ 成績評価の方法	毎回の授業での理解の程度を参考に評価する平常点評価であり、試験はない。									
◇ 教科書・参考書	教科書：ギリシャ語初級文法のテキストコピーを配布する。コールドウエル『神々の誕生と深層心理』北樹出版（最初の授業で販売する予定。1800円を用意してください） 参考書：授業中に必要に応じて提示する。									
◇ 授業時間外学習	復習と練習問題を解くことが求められる。									
その他：										

授 業 科 目					単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
ギリシャ語	2	非常勤講師	小笠原 正 薫	4	金	3				
◆ 科目ナンバリング	LHMOFL201J									
◆ 授業題目	古典ギリシャ語文法、ギリシャ文化、ギリシャ神話									
◆ 目的・概要	1セメスターに続き、古典ギリシャ語をステップを踏み学習する。単純な表現から次第に高度な表現の理解へと進む。希望、不安、恐怖等の感情表現、非現実を意味する表現等を学ぶ。ギリシャ文明の基礎知識を引き続き広く身につけられるよう、テキストのみならず絵画、彫刻の資料ももっている。									
◆ 到達目標	ギリシャ語の語彙も増え、原書の引用も辞書を使い読むようになる。少し長めの文章を完全に意味をとらえて訳せるよう意を尽くすことになる。1回の授業で2、3課進む速度になるので練習問題を多少多く解くことになり一層ギリシャ語になれ、複雑なニュアンスの文章の理解も進む。ギリシャ文化に関する知識も古典中の古典ホメロス『イリアス』に触れる機会もでてくる。									
◆ 授業内容・方法	1. 接続法能動、中受動相 目的および勸奨思案の接続法、ギリシャ神話等（2回以降も） 2. 条件文、母音交代 3. 約音動詞の接続法 予想的未来の条件文 4. 不定法その1、その2 5. 第3変化の名詞その4、関係代名詞 6. 希求法 目的、恐怖、危惧を表す希求法 7. 可能性を示す条件、第3変化の形容詞 8. 第3変化の名詞その5、他 9. 分詞その1、その2 状況を示す分詞 10. 第3変化の名詞その6、分詞の独立用法 11. 形容詞の比較、不規則な形容詞の比較 12. 副詞の比較、命令法能動、中動相、受動相 13. 間接話法その1、その2 14. 動詞的形容詞、否定詞 15. mi動詞の変化その1ーその4									
◇ 成績評価の方法	毎回の授業での理解の程度を参考に評価する平常点評価であり、試験はない。									
◇ 教科書・参考書	教科書：ギリシャ語初級文法のテキストコピーを配布する。 参考書：コールドウエル『神々の誕生と深層心理』北樹出版									
◇ 授業時間外学習	復習と練習問題を解くことが求められる。									
その他：受講対象者：ギリシャ語初級1セメスター受講者、ないしはそれと同等の学力を有する学生										

授 業 科 目					単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ギリシャ語	2	非常勤講師	小笠原 正 薫	3	木	5																				
◆ 科目ナンバリング	LHMOFL201J																									
◆ 授業題目	ホメロス『イリアス』演習																									
◆ 目的・概要	西洋文明最古の文学作品の原文を辞書を用い読み解く。その際、初級文法の復習を名詞、形容詞、動詞の変化や文章構造の確認を通して行う。さらに、ホメロスの文法には、初級文法として通常習うアッティカ方言と多少の違いがあるので、具体的に原文に接することでその違いを習得することになる。物語の内容の解説、文章の解釈等については、ケンブリッジ大学出版会からでている注釈書を主に用いる。 なお、授業は『イリアス』全24巻中、第10巻から開始する。アキレウスはギリシャ軍の総大将アガ멤ノンに戦の褒美、神官の美しい娘ブリセイスを奪われ、憤怒のあまりトロイアでの戦に加わらずにいた。その彼を懐柔しそこね総大将自らが先頭に立って戦わねばならないことになり、不安な夜をアガ멤ノンがすごす場面から物語は始まる。第10巻を15回の授業で進める予定である。第11巻にまで進む可能性もある。																									
◆ 到達目標	学生は最初原文の数行の予習をし、その個所の訳を担当する。慣れるに従い、担当する箇所が少しずつ増えてゆく。『イリアス』は叙事詩であるので、定型表現が多くみられ、それを覚えることで原文を読む力は徐々に高まる。15回の授業で多くの学生は辞書を引いて原文の8割以上が訳せるようになるであろう。																									
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 『イリアス』 1-30行 古典ギリシャ文法の復習、ホメロス 文法の習得 (以下同文)</td> <td>8. 『イリアス』 211-250行</td> </tr> <tr> <td>2. 『イリアス』 31-60行</td> <td>9. 『イリアス』 251-290行</td> </tr> <tr> <td>3. 『イリアス』 61-90行</td> <td>10. 『イリアス』 291-330行</td> </tr> <tr> <td>4. 『イリアス』 91-120行</td> <td>11. 『イリアス』 331-370行</td> </tr> <tr> <td>5. 『イリアス』 121-150行</td> <td>12. 『イリアス』 371-410行</td> </tr> <tr> <td>6. 『イリアス』 151-180行</td> <td>13. 『イリアス』 401-460行</td> </tr> <tr> <td>7. 『イリアス』 181-210行</td> <td>14. 『イリアス』 461-520行</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 『イリアス』 521-575行</td> </tr> </table>										1. 『イリアス』 1-30行 古典ギリシャ文法の復習、ホメロス 文法の習得 (以下同文)	8. 『イリアス』 211-250行	2. 『イリアス』 31-60行	9. 『イリアス』 251-290行	3. 『イリアス』 61-90行	10. 『イリアス』 291-330行	4. 『イリアス』 91-120行	11. 『イリアス』 331-370行	5. 『イリアス』 121-150行	12. 『イリアス』 371-410行	6. 『イリアス』 151-180行	13. 『イリアス』 401-460行	7. 『イリアス』 181-210行	14. 『イリアス』 461-520行		15. 『イリアス』 521-575行
1. 『イリアス』 1-30行 古典ギリシャ文法の復習、ホメロス 文法の習得 (以下同文)	8. 『イリアス』 211-250行																									
2. 『イリアス』 31-60行	9. 『イリアス』 251-290行																									
3. 『イリアス』 61-90行	10. 『イリアス』 291-330行																									
4. 『イリアス』 91-120行	11. 『イリアス』 331-370行																									
5. 『イリアス』 121-150行	12. 『イリアス』 371-410行																									
6. 『イリアス』 151-180行	13. 『イリアス』 401-460行																									
7. 『イリアス』 181-210行	14. 『イリアス』 461-520行																									
	15. 『イリアス』 521-575行																									
◇ 成績評価の方法	毎回の授業での理解の程度を参考に評価する平常点評価であり、試験はない。																									
◇ 教科書・参考書	教科書：オックスフォード大学の古典テキストのコピーを配布する。辞書が必要となります。Liddell and Scott, Greek-English Lexicon (Abridged Edition) Oxford なおこの辞書は図書館のほか、文学部の研究室によっては備え付けがあります。Abridged Edition 以外は使用に適しません。購入に関してはインターネット参照。 参考文献：Clyde Pharr, Homeric Greek Bryan Hainsworth, The Iliad: A Commentary Volume 3 (Cambridge UP)																									
◇ 授業時間外学習	予習復習が必要である。辞書を引くのに習熟する。																									
その他：受講対象者：古典ギリシャ語初級文法修了者、ないしはそれと同等の学力を有する学生																										

授 業 科 目					単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ギリシャ語	2	非常勤講師	小笠原 正 薫	4	木	5																				
◆ 科目ナンバリング	LHMOFL201J																									
◆ 授業題目	ホメロス『イリアス』演習																									
◆ 目的・概要	西洋文明最古の文学作品の原文を辞書を用い読み解く。その際、初級文法の復習を名詞、形容詞、動詞の変化や文章構造の確認を通して行う。さらに、ホメロスの文法には、初級文法として通常習うアッティカ方言と多少の違いがあるので、具体的に原文に接することでその違いを習得することになる。物語の内容の解説、文章の解釈等については、ケンブリッジ大学出版会からでている注釈書を主に用いる。 なお、授業は『イリアス』全24巻中、第11巻から開始する。何度か戦闘が開かれた後、ついにアガ멤ノンが戦闘で奮戦し総大将らしさを発揮するが、戦闘の激化で彼をはじめ英雄たちが次々傷ついてゆく。第11巻を15回の授業で進める予定であるが、行数の関係で全部は終らない可能性がある。																									
◆ 到達目標	1セメスターを受講した学生は10数行の予習をし、その個所の訳を担当する。2セメスターから受講する学生は最初数行を担当する。慣れるに従い、担当する箇所が少しずつ増えてゆく。15回の授業で多くの学生は辞書を引いて原文の9割以上が訳せるようになるであろう。																									
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 『イリアス』 1-40行 古典ギリシャ文法の復習、ホメロス 文法の習得 (以下同文)</td> <td>8. 『イリアス』 291-340行</td> </tr> <tr> <td>2. 『イリアス』 41-80行</td> <td>9. 『イリアス』 341-390行</td> </tr> <tr> <td>3. 『イリアス』 81-120行</td> <td>10. 『イリアス』 391-450行</td> </tr> <tr> <td>4. 『イリアス』 121-160行</td> <td>11. 『イリアス』 451-510行</td> </tr> <tr> <td>5. 『イリアス』 161-200行</td> <td>12. 『イリアス』 511-570行</td> </tr> <tr> <td>6. 『イリアス』 201-240行</td> <td>13. 『イリアス』 631-690行</td> </tr> <tr> <td>7. 『イリアス』 241-290行</td> <td>14. 『イリアス』 691-750行</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 『イリアス』 751-845行</td> </tr> </table>										1. 『イリアス』 1-40行 古典ギリシャ文法の復習、ホメロス 文法の習得 (以下同文)	8. 『イリアス』 291-340行	2. 『イリアス』 41-80行	9. 『イリアス』 341-390行	3. 『イリアス』 81-120行	10. 『イリアス』 391-450行	4. 『イリアス』 121-160行	11. 『イリアス』 451-510行	5. 『イリアス』 161-200行	12. 『イリアス』 511-570行	6. 『イリアス』 201-240行	13. 『イリアス』 631-690行	7. 『イリアス』 241-290行	14. 『イリアス』 691-750行		15. 『イリアス』 751-845行
1. 『イリアス』 1-40行 古典ギリシャ文法の復習、ホメロス 文法の習得 (以下同文)	8. 『イリアス』 291-340行																									
2. 『イリアス』 41-80行	9. 『イリアス』 341-390行																									
3. 『イリアス』 81-120行	10. 『イリアス』 391-450行																									
4. 『イリアス』 121-160行	11. 『イリアス』 451-510行																									
5. 『イリアス』 161-200行	12. 『イリアス』 511-570行																									
6. 『イリアス』 201-240行	13. 『イリアス』 631-690行																									
7. 『イリアス』 241-290行	14. 『イリアス』 691-750行																									
	15. 『イリアス』 751-845行																									
◇ 成績評価の方法	毎回の授業での理解の程度を参考に評価する平常点評価であり、試験はない。																									
◇ 教科書・参考書	教科書：オックスフォード大学の古典テキストのコピーを配布する。辞書が必要となります。Liddell and Scott, Greek-English Lexicon (Abridged Edition) Oxford なおこの辞書は図書館のほか、文学部の研究室によっては備え付けがあります。Abridged Edition 以外は使用に適しません。購入に関してはインターネット参照。 参考文献：Clyde Pharr, Homeric Greek Bryan Hainsworth, The Iliad: A Commentary Volume 3 (Cambridge UP)																									
◇ 授業時間外学習	予習復習が必要である。辞書を引くのに習熟する。																									
その他：受講対象者：古典ギリシャ語初級文法修了者、ないしはそれと同等の学力を有する学生																										

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
ラ テ ン 語 L a t i n	2	非常勤 講師 宮 崎 正 美	3	金	3																		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMOFL202J ラテン語文法入門・文法基礎 ラテン語文法理解の基礎となる事項を修得する。ラテン語初学者にとって難しいと感じられるいくつかの文法事項を習得するために、基本的内容を積み上げながら理解して修得できるようになる。教科書がわりのプリントを用いて文法事項と例文を中心に学ぶ。(1)授業の前半は、教科書の要点や理解のコツ(要領)に留意しながら、例文や練習問題に取り組む。(2)その際、面倒がらずに既習の内容を確認する。(3)例文をとおして、ラテン語に慣れる。(4)練習問題をとおして自信をつける。																						
◆ 到達目標	(1)辞書を使えるようになりラテン語文法の特徴を理解する。(2)慣用的表現を通してラテン語に親しむ。(3)理解した文法に基づいた文章作成ができるようになる。具体的には、①動詞の人称と数による活用、②名詞の性・数・格による変化、③形容詞・代名詞の機能、④ラテン語文章の「構成の仕方」等を修得する。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. (授業の進度により変更があり得る) ガイダンス</td> <td>10. 形容詞(2) 第3変化型</td> </tr> <tr> <td>2. アルファベット、発音、音節・アクセント規則</td> <td>11. 形容詞(3) 比較級、最上級、副詞、数詞</td> </tr> <tr> <td>3. 動詞の基礎(1) 人称語尾、4活用型とその判別法、sum動詞</td> <td>12. 代名詞(1) 代名詞の概観、人称代名詞・再帰代名詞、所有代名詞・形容詞</td> </tr> <tr> <td>4. 動詞の基礎(2) 現在幹、命令法</td> <td>13. 代名詞(2) 指示代名詞・形容詞①</td> </tr> <tr> <td>5. 名詞の基礎(1) 性・数・格、5変化型とその判別法、第1変化</td> <td>14. 代名詞(3) 指示代名詞・形容詞②、限定代名詞・形容詞、強意代名詞・形容詞</td> </tr> <tr> <td>6. 名詞の基礎(2) 第2変化、第3変化①i幹</td> <td>15. 代名詞(4) 関係代名詞・形容詞、疑問代名詞・形容詞、その他の代名詞・形容詞</td> </tr> <tr> <td>7. 名詞の基礎(3) 第3変化②子音幹、前置詞(対格、奪格)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 名詞の基礎(4) 属格の用法、与格の用法、第4変化、第5変化</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 形容詞(1) 性・数・格の一致、第1・第2変化型</td> <td></td> </tr> </table>					1. (授業の進度により変更があり得る) ガイダンス	10. 形容詞(2) 第3変化型	2. アルファベット、発音、音節・アクセント規則	11. 形容詞(3) 比較級、最上級、副詞、数詞	3. 動詞の基礎(1) 人称語尾、4活用型とその判別法、sum動詞	12. 代名詞(1) 代名詞の概観、人称代名詞・再帰代名詞、所有代名詞・形容詞	4. 動詞の基礎(2) 現在幹、命令法	13. 代名詞(2) 指示代名詞・形容詞①	5. 名詞の基礎(1) 性・数・格、5変化型とその判別法、第1変化	14. 代名詞(3) 指示代名詞・形容詞②、限定代名詞・形容詞、強意代名詞・形容詞	6. 名詞の基礎(2) 第2変化、第3変化①i幹	15. 代名詞(4) 関係代名詞・形容詞、疑問代名詞・形容詞、その他の代名詞・形容詞	7. 名詞の基礎(3) 第3変化②子音幹、前置詞(対格、奪格)		8. 名詞の基礎(4) 属格の用法、与格の用法、第4変化、第5変化		9. 形容詞(1) 性・数・格の一致、第1・第2変化型	
1. (授業の進度により変更があり得る) ガイダンス	10. 形容詞(2) 第3変化型																						
2. アルファベット、発音、音節・アクセント規則	11. 形容詞(3) 比較級、最上級、副詞、数詞																						
3. 動詞の基礎(1) 人称語尾、4活用型とその判別法、sum動詞	12. 代名詞(1) 代名詞の概観、人称代名詞・再帰代名詞、所有代名詞・形容詞																						
4. 動詞の基礎(2) 現在幹、命令法	13. 代名詞(2) 指示代名詞・形容詞①																						
5. 名詞の基礎(1) 性・数・格、5変化型とその判別法、第1変化	14. 代名詞(3) 指示代名詞・形容詞②、限定代名詞・形容詞、強意代名詞・形容詞																						
6. 名詞の基礎(2) 第2変化、第3変化①i幹	15. 代名詞(4) 関係代名詞・形容詞、疑問代名詞・形容詞、その他の代名詞・形容詞																						
7. 名詞の基礎(3) 第3変化②子音幹、前置詞(対格、奪格)																							
8. 名詞の基礎(4) 属格の用法、与格の用法、第4変化、第5変化																							
9. 形容詞(1) 性・数・格の一致、第1・第2変化型																							
◇ 成績評価の方法	レポート・試験(60%)、出席状況(3分の2の出席を単位取得の最低条件とし、残り3分の1を全体の40%に換算)に基づいて評価する。(ただし比重は平均点、偏り、状況等により調整することがある。)																						
◇ 教科書・参考書	はじめてのラテン語 大西英文 講談社 1997978-4061493537 参考書 羅和辞典(改訂版) 水谷智洋 研究社 2009978-4767490250 参考書 しっかり学ぶ初級ラテン語 山下太郎 ベレ出版 2013860643666 参考書																						
◇ 授業時間外学習	予習：次の授業の該当箇所を、テキストで読んで、疑問点を明らかにしておくこと 復習：テキストの練習問題を利用して、授業の内容を理解する 課題：例文の文法解析をしておく																						
その他：辞書は参考書としているが、受講のためには必要と考えてほしい。以前に教科書としていた私家版テキストの改訂版をプリントして配付する。履修後続いてラテン語Ⅱの履修が望まれる。メール：masami.miyazaki.a5@tohoku.ac.jp																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ラ テ ン 語 L a t i n	2	非常勤 講師 宮 崎 正 美	4	金	3																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMOFL202J ラテン語文法・原典講読 「ラテン語Ⅰ」で既に習得した基礎的文法事項に基づいて応用・発展させ、ラテン語に特有の文法と表現を習得し、基礎文法の理解を完成する。教科書がわりの配付プリントを用いて文法事項と例文を中心に進める。(1)授業の前半は、教科書の要点や理解のコツ(要領)に留意し、例文や練習問題に取り組む。(2)その際、面倒がらずに「ラテン語Ⅰ」の内容を確認する。(3)例文や練習問題をとおして、ラテン語に特徴的な文法・表現の理解を深める。(4)ラテン語原典にふれて読解力をつける。																				
◆ 到達目標	(1)ラテン語基礎文法(ラテン語Ⅰの内容)を確認し定着すること。(2)例文を理解し、練習問題をこなすことによって、ラテン語に特徴的な文法、表現を修得すること。(3)ラテン語原典にふれて読解力がつくようになる(自信がつくようになる)こと。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. (授業の進度により変更があり得る) ガイダンス</td> <td>9. 非人称動詞、不定法(現在、完了、未来)、動名詞</td> </tr> <tr> <td>2. 動詞の態・時制・法の概略、現在幹を基にした不定法現在、命令法</td> <td>10. 動形容詞、奪格別句</td> </tr> <tr> <td>3. 動詞の「完了」「未完了」、動詞の時制の概観、未完了過去(直説法能動態)、未来(直説法能動態)、sumの未完了過去、未来</td> <td>11. 接続法(1) 接続法現在(能動態)、単文での用法、接続法の基本用法</td> </tr> <tr> <td>4. 受動態人称語尾、形式受動態語尾(デポネンティア動詞)、命令法受動態</td> <td>12. 接続法(2) 接続法現在(受動態)、接続法未完了過去(能動態・受動態)、接続法完了(能動態・受動態)、接続法過去完了(能動態・受動態)</td> </tr> <tr> <td>5. 動詞の「完了」「未完了」、動詞の時制の概観、完了(直説法能動態)</td> <td>13. 接続法(3) 時制の対応関係、間接話法(疑問文、命令文)、目的文原典講読①</td> </tr> <tr> <td>6. 完了幹、過去完了(直説法能動態)、未来完了(直説法能動態)</td> <td>14. 接続法(4) 程度文・結果文、条件文・譲歩文原典講読②</td> </tr> <tr> <td>7. 分詞(1) 分詞の種類・性格、性・数・格、現在分詞</td> <td>15. 原典講読③</td> </tr> <tr> <td>8. 分詞(2) 完了分詞、未来分詞・目的分詞</td> <td></td> </tr> </table>					1. (授業の進度により変更があり得る) ガイダンス	9. 非人称動詞、不定法(現在、完了、未来)、動名詞	2. 動詞の態・時制・法の概略、現在幹を基にした不定法現在、命令法	10. 動形容詞、奪格別句	3. 動詞の「完了」「未完了」、動詞の時制の概観、未完了過去(直説法能動態)、未来(直説法能動態)、sumの未完了過去、未来	11. 接続法(1) 接続法現在(能動態)、単文での用法、接続法の基本用法	4. 受動態人称語尾、形式受動態語尾(デポネンティア動詞)、命令法受動態	12. 接続法(2) 接続法現在(受動態)、接続法未完了過去(能動態・受動態)、接続法完了(能動態・受動態)、接続法過去完了(能動態・受動態)	5. 動詞の「完了」「未完了」、動詞の時制の概観、完了(直説法能動態)	13. 接続法(3) 時制の対応関係、間接話法(疑問文、命令文)、目的文原典講読①	6. 完了幹、過去完了(直説法能動態)、未来完了(直説法能動態)	14. 接続法(4) 程度文・結果文、条件文・譲歩文原典講読②	7. 分詞(1) 分詞の種類・性格、性・数・格、現在分詞	15. 原典講読③	8. 分詞(2) 完了分詞、未来分詞・目的分詞	
1. (授業の進度により変更があり得る) ガイダンス	9. 非人称動詞、不定法(現在、完了、未来)、動名詞																				
2. 動詞の態・時制・法の概略、現在幹を基にした不定法現在、命令法	10. 動形容詞、奪格別句																				
3. 動詞の「完了」「未完了」、動詞の時制の概観、未完了過去(直説法能動態)、未来(直説法能動態)、sumの未完了過去、未来	11. 接続法(1) 接続法現在(能動態)、単文での用法、接続法の基本用法																				
4. 受動態人称語尾、形式受動態語尾(デポネンティア動詞)、命令法受動態	12. 接続法(2) 接続法現在(受動態)、接続法未完了過去(能動態・受動態)、接続法完了(能動態・受動態)、接続法過去完了(能動態・受動態)																				
5. 動詞の「完了」「未完了」、動詞の時制の概観、完了(直説法能動態)	13. 接続法(3) 時制の対応関係、間接話法(疑問文、命令文)、目的文原典講読①																				
6. 完了幹、過去完了(直説法能動態)、未来完了(直説法能動態)	14. 接続法(4) 程度文・結果文、条件文・譲歩文原典講読②																				
7. 分詞(1) 分詞の種類・性格、性・数・格、現在分詞	15. 原典講読③																				
8. 分詞(2) 完了分詞、未来分詞・目的分詞																					
◇ 成績評価の方法	レポート・試験(60%)、出席状況(3分の2の出席を単位取得の最低条件とし、残り3分の1を全体の40%に換算)に基づいて評価する。(ただし個々の比重は平均点、偏り、状況等により調整することがある。)																				
◇ 教科書・参考書	はじめてのラテン語 大西英文 講談社 1997978-4061493537 参考書 羅和辞典(改訂版) 水谷智洋 研究社 2009978-4767490250 参考書 しっかり学ぶ初級ラテン語 山下太郎 ベレ出版 2013860643666 参考書																				
◇ 授業時間外学習	予習：次の授業の該当箇所を、テキストで読んで、疑問点を明らかにしておくこと 復習：テキストの練習問題を利用して、授業の内容を理解する 課題：例文の文法解析をしておく																				
その他：辞書は参考書としているが、受講のためには必要と考えてほしい。以前に教科書としていた私家版テキストの改訂版をプリントして配付する。メール：masami.miyazaki.a5@tohoku.ac.jp																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ラ テ ン 語 L a t i n	2	准教授 荻原理	3	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMOFL202J																				
◆ 授業題目	ラテン語中級																				
◆ 目的・概要	<p>語学上比較的やさしいラテン語の文章を、ゆっくり、文法上の解説を受けながら丁寧に読んでいく（テキストの音読、語形変化の練習にも時間を取る）。それを通じて、文法事項の確認をし、また、ラテン語に馴れていく。（わからない点について積極的に質問してほしい。）</p> <p>読むテキストは、参加者の希望・関心を訊きながら、教員が選定する。ジャンルの異なる複数のテキストを並行して読むことになるかもしれない。（参考までに、先立つ年度にはデカルト『省察』、「カルミナ・ブラーナ」、オウィディウス『変身物語』、トマス・アキナス『神学大全』のそれぞれごく一部を読んだ。）</p>																				
◆ 到達目標	授業中読んだ文章については、ラテン語を読みながら文章の意味を捉えられるようになり、また、各語についても構文についても、文法的に説明できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション テキスト選定(1)</td> <td>8. テキスト読み・解説(7)</td> </tr> <tr> <td>2. テキスト選定(2) テキスト読み・解説(1) (授業の様子を見ながら説明の仕方や進度を決めていく)</td> <td>9. テキスト読み・解説(8)</td> </tr> <tr> <td>3. テキスト読み・解説(2)</td> <td>10. テキスト読み・解説(9)</td> </tr> <tr> <td>4. テキスト読み・解説(3)</td> <td>11. テキスト読み・解説(10)</td> </tr> <tr> <td>5. テキスト読み・解説(4)</td> <td>12. テキスト読み・解説(11)</td> </tr> <tr> <td>6. テキスト読み・解説(5)</td> <td>13. テキスト読み・解説(12)</td> </tr> <tr> <td>7. テキスト読み・解説(6)</td> <td>14. テキスト読み・解説(13)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. テキスト読み・解説(14)</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション テキスト選定(1)	8. テキスト読み・解説(7)	2. テキスト選定(2) テキスト読み・解説(1) (授業の様子を見ながら説明の仕方や進度を決めていく)	9. テキスト読み・解説(8)	3. テキスト読み・解説(2)	10. テキスト読み・解説(9)	4. テキスト読み・解説(3)	11. テキスト読み・解説(10)	5. テキスト読み・解説(4)	12. テキスト読み・解説(11)	6. テキスト読み・解説(5)	13. テキスト読み・解説(12)	7. テキスト読み・解説(6)	14. テキスト読み・解説(13)		15. テキスト読み・解説(14)
1. オリエンテーション テキスト選定(1)	8. テキスト読み・解説(7)																				
2. テキスト選定(2) テキスト読み・解説(1) (授業の様子を見ながら説明の仕方や進度を決めていく)	9. テキスト読み・解説(8)																				
3. テキスト読み・解説(2)	10. テキスト読み・解説(9)																				
4. テキスト読み・解説(3)	11. テキスト読み・解説(10)																				
5. テキスト読み・解説(4)	12. テキスト読み・解説(11)																				
6. テキスト読み・解説(5)	13. テキスト読み・解説(12)																				
7. テキスト読み・解説(6)	14. テキスト読み・解説(13)																				
	15. テキスト読み・解説(14)																				
◇ 成績評価の方法	出席：60% 授業時のパフォーマンス：40% (試験は行わず、レポート提出もない。)																				
◇ 教科書・参考書	松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』（南江堂、1968年初版、改訂1979年）を各自入手し、授業に持参されたい。読むテキストはプリントを配布する。																				
◇ 授業時間外学習	復習（とくに、意味を捉えながらの音読）。次回読む予定の箇所の下調べ（できる範囲で）。																				
その他：ラテン語初等文法を一通り学んでいることが参加の条件（覚え残しが多少あっても構わない）。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
ラ テ ン 語 L a t i n	2	准教授 荻原理	4	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMOFL202J																				
◆ 授業題目	ラテン語中級																				
◆ 目的・概要	<p>同名の前期の授業の続き。</p> <p>語学上比較的やさしいラテン語の文章を、ゆっくり、文法上の解説を受けながら丁寧に読んでいく（テキストの音読、語形変化の練習にも時間を取る）。それを通じて、文法事項の確認をし、また、ラテン語に馴れていく。（わからない点について積極的に質問してほしい。）</p> <p>読むテキストは、参加者の希望・関心を訊きながら、教員が選定する。前期に読んでいたテキストの続きを読むことになるかもしれない。ジャンルの異なる複数のテキストを並行して読むことになるかもしれない。（参考までに、先立つ年度にはデカルト『省察』、「カルミナ・ブラーナ」、オウィディウス『変身物語』、トマス・アキナス『神学大全』のそれぞれごく一部を読んだ。）</p>																				
◆ 到達目標	授業中読んだ文章については、ラテン語を読みながら文章の意味を捉えられるようになり、また、各語についても構文についても、文法的に説明できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション テキスト選定 テキスト読み・解説(1) (授業の様子を見ながら説明の仕方や進度を決めていく)</td> <td>8. テキスト読み・解説(8)</td> </tr> <tr> <td>2. テキスト読み・解説(2)</td> <td>9. テキスト読み・解説(9)</td> </tr> <tr> <td>3. テキスト読み・解説(3)</td> <td>10. テキスト読み・解説(10)</td> </tr> <tr> <td>4. テキスト読み・解説(4)</td> <td>11. テキスト読み・解説(11)</td> </tr> <tr> <td>5. テキスト読み・解説(5)</td> <td>12. テキスト読み・解説(12)</td> </tr> <tr> <td>6. テキスト読み・解説(6)</td> <td>13. テキスト読み・解説(13)</td> </tr> <tr> <td>7. テキスト読み・解説(7)</td> <td>14. テキスト読み・解説(14)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. テキスト読み・解説(15)</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション テキスト選定 テキスト読み・解説(1) (授業の様子を見ながら説明の仕方や進度を決めていく)	8. テキスト読み・解説(8)	2. テキスト読み・解説(2)	9. テキスト読み・解説(9)	3. テキスト読み・解説(3)	10. テキスト読み・解説(10)	4. テキスト読み・解説(4)	11. テキスト読み・解説(11)	5. テキスト読み・解説(5)	12. テキスト読み・解説(12)	6. テキスト読み・解説(6)	13. テキスト読み・解説(13)	7. テキスト読み・解説(7)	14. テキスト読み・解説(14)		15. テキスト読み・解説(15)
1. オリエンテーション テキスト選定 テキスト読み・解説(1) (授業の様子を見ながら説明の仕方や進度を決めていく)	8. テキスト読み・解説(8)																				
2. テキスト読み・解説(2)	9. テキスト読み・解説(9)																				
3. テキスト読み・解説(3)	10. テキスト読み・解説(10)																				
4. テキスト読み・解説(4)	11. テキスト読み・解説(11)																				
5. テキスト読み・解説(5)	12. テキスト読み・解説(12)																				
6. テキスト読み・解説(6)	13. テキスト読み・解説(13)																				
7. テキスト読み・解説(7)	14. テキスト読み・解説(14)																				
	15. テキスト読み・解説(15)																				
◇ 成績評価の方法	出席：60% 授業時のパフォーマンス：40% (試験は行わず、レポート提出もない。)																				
◇ 教科書・参考書	松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』（南江堂、1968年初版、改訂1979年）を各自入手し、授業に持参されたい。読むテキストはプリントを配布する。																				
◇ 授業時間外学習	復習（とくに、意味を捉えながらの音読）。次回読む予定の箇所の下調べ（できる範囲で）。																				
その他：ラテン語初等文法を一通り学んでいることが参加の条件（覚え残しが多少あっても構わない）。同名の前期の授業を取っていることが望ましいが、後期から参加するのでもよい。																					

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時						
サ S	ン a	ク n	リ s	ット k	語 r	語 i	語 t	2	非常勤 講師	西 村 直 子	3	木	3
◆	科目ナンバリング	LHMOFL203J											
◆	授業題目	サンスクリット語基礎演習(1)											
◆	目的・概要	ランマンのサンスクリット読本をテキストとして読解演習を行い、サンスクリット語の文法・語彙についての理解を深める。テキストの充実した語彙集・注記を活かして、できるだけ多く読みすすめていきたい。ホイットニーの文法書を適宜参照する。											
◆	到達目標	平易なサンスクリット語の韻文が読めるようになる。											
◆	授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（教科書及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明） 2. 『ナラ王物語』第1章（ナラとダマヤンティーの生い立ち）1-3 3. 同 4-6 4. 同 7-10 5. 同 11-14 6. 同 15-19 7. 同 20-22、第2章（ダマヤンティーの婚選びへ）1-2 8. 同 3-7 9. 同 8-14 10. 同 15-21 11. 同 22-28 12. 同 29-30、第3章（ナラとダマヤンティーの出会い）1-5 13. 同 6-12 14. 同 13-19 15. 同 20-25 											
◇	成績評価の方法	出席（30%）および授業で示される理解度（70%）											
◇	教科書・参考書	Charles Rockwell Lanman, A Sanskrit Reader; W. D. Whitney, Sanskrit Grammar											
◇	授業時間外学習	授業は、最初はゆっくり進めるが、後半では毎回7～9詩節読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。											
履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とするが、テキストは懇切丁寧にできているので、やる気があって相応の時間 その他：をかけることのできる人は、サンスクリット語初級と同時に始めることも可能。また、3、4セメのサンスクリット語は連続履修することがのぞましい。													

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時						
サ S	ン a	ク n	リ s	ット k	語 r	語 i	語 t	2	非常勤 講師	尾 園 絢 一	4	木	3
◆	科目ナンバリング	LHMOFL203J											
◆	授業題目	サンスクリット語基礎演習(2)											
◆	目的・概要	前期に引き続き、ランマンのサンスクリット読本をテキストとして読解演習を行い、サンスクリット語の文法・語彙についての理解を深める。テキストの充実した語彙集・注記を活かして、できるだけ多く読みすすめていきたい。ホイットニーの文法書を適宜参照する。											
◆	到達目標	平易なサンスクリット語が読めるようになる。											
◆	授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（教科書・参考書の使い方、韻律の数え方） 2. 第4章（ナラ王とダマヤンティーの会話）1-7 3. 第4章8-15 4. 第4章16-23 5. 第4章24-31 6. 第5章（婚選びの儀式）1-9 7. 第5章10-18 8. 第5章19-27 9. 第5章28-36 10. 第5章37-46 11. 『ヒトーパーデーシャ（有益な教え）』の概説、『ヒトーパーデーシャ』発端（前半） 12. 『ヒトーパーデーシャ』発端（後半） 13. 『ヒトーパーデーシャ』「虎と旅人の話」 14. 『ヒトーパーデーシャ』「鹿と鴉と山犬の話」（前半） 15. 『ヒトーパーデーシャ』「鹿と鴉と山犬の話」（後半） 											
◇	成績評価の方法	出席（30%）および授業で示される理解度（70%）											
◇	教科書・参考書	Charles Rockwell Lanman, A Sanskrit Reader; W. D. Whitney, Sanskrit Grammar											
◇	授業時間外学習	授業では毎回7～9詩節読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。											
履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とするが、テキストは懇切丁寧にできているので、やる気のある人はサンスクリット語初級と同時に始めることも可能。また、3、4セメのサンスクリット語は連続履修することがのぞましい。													

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 C	国 h i n e s e 語	2	准教授	馬 暁 地	3	月	3																
◆ 科目ナンバリング		LHMCHN201J																					
◆ 授業題目		初級中国語																					
◆ 目的・概要		発音練習を中心として授業を進める。繰り返し発音練習をすると同時に基本的な文法をも勉強する。一年の授業を通して中国語の学習の基礎を身につける。																					
◆ 到達目標		汉语拼音（中国語の音標としてのローマ字）を見て、すぐに自分の口から正しく発音することが出来るのはこの授業の最大の目標である。																					
◆ 授業内容・方法		<table border="0"> <tr> <td>1. 四声の練習</td> <td>9. 量詞について</td> </tr> <tr> <td>2. 子音の練習</td> <td>10. 助詞について</td> </tr> <tr> <td>3. 母音の練習</td> <td>11. 副詞について</td> </tr> <tr> <td>4. 名前の尋ね方</td> <td>12. 方向補語と結果補語</td> </tr> <tr> <td>5. 形容詞述語文(1)</td> <td>13. 使役文</td> </tr> <tr> <td>6. 形容詞述語文(2)</td> <td>14. 受身の表現</td> </tr> <tr> <td>7. 動詞述語文(1)</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 動詞述語文(2)</td> <td></td> </tr> </table>						1. 四声の練習	9. 量詞について	2. 子音の練習	10. 助詞について	3. 母音の練習	11. 副詞について	4. 名前の尋ね方	12. 方向補語と結果補語	5. 形容詞述語文(1)	13. 使役文	6. 形容詞述語文(2)	14. 受身の表現	7. 動詞述語文(1)	15. まとめと試験	8. 動詞述語文(2)	
1. 四声の練習	9. 量詞について																						
2. 子音の練習	10. 助詞について																						
3. 母音の練習	11. 副詞について																						
4. 名前の尋ね方	12. 方向補語と結果補語																						
5. 形容詞述語文(1)	13. 使役文																						
6. 形容詞述語文(2)	14. 受身の表現																						
7. 動詞述語文(1)	15. まとめと試験																						
8. 動詞述語文(2)																							
◇ 成績評価の方法		出席（50%） 朗読試験（50%）																					
◇ 教科書・参考書		プリント配布																					
◇ 授業時間外学習		予習と復習を重視する。																					
その他：																							

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
中 C	国 h i n e s e 語	2	准教授	馬 暁 地	4	月	3																
◆ 科目ナンバリング		LHMCHN201J																					
◆ 授業題目		初級中国語																					
◆ 目的・概要		発音練習を中心として授業を進めて、また基本的な文法をも勉強する。一年の授業をとおして中国語学習の基礎を身につけること。																					
◆ 到達目標		拼音を見て、すぐに正しく発音することが出来るのは一番の目標である。																					
◆ 授業内容・方法		<table border="0"> <tr> <td>1. 四声、子音、母音の練習(1)</td> <td>9. 《逛街》の朗読と文法解釈(1)</td> </tr> <tr> <td>2. 四声、子音、母音の練習(2)</td> <td>10. 同上(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 《自我介绍》の朗読と文法解釈(1)</td> <td>11. 《放寒假》の朗読と文法解釈(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 同上(2)</td> <td>12. 同上(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 《上课》の朗読と文法解釈(1)</td> <td>13. 《今年的第一场雪》の朗読と文法解釈(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 同上(2)</td> <td>14. 《今年的第一场雪》の朗読と文法解釈(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 《周末》の朗読と文法解釈(1)</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 同上(2)</td> <td></td> </tr> </table>						1. 四声、子音、母音の練習(1)	9. 《逛街》の朗読と文法解釈(1)	2. 四声、子音、母音の練習(2)	10. 同上(1)	3. 《自我介绍》の朗読と文法解釈(1)	11. 《放寒假》の朗読と文法解釈(1)	4. 同上(2)	12. 同上(2)	5. 《上课》の朗読と文法解釈(1)	13. 《今年的第一场雪》の朗読と文法解釈(1)	6. 同上(2)	14. 《今年的第一场雪》の朗読と文法解釈(2)	7. 《周末》の朗読と文法解釈(1)	15. まとめと試験	8. 同上(2)	
1. 四声、子音、母音の練習(1)	9. 《逛街》の朗読と文法解釈(1)																						
2. 四声、子音、母音の練習(2)	10. 同上(1)																						
3. 《自我介绍》の朗読と文法解釈(1)	11. 《放寒假》の朗読と文法解釈(1)																						
4. 同上(2)	12. 同上(2)																						
5. 《上课》の朗読と文法解釈(1)	13. 《今年的第一场雪》の朗読と文法解釈(1)																						
6. 同上(2)	14. 《今年的第一场雪》の朗読と文法解釈(2)																						
7. 《周末》の朗読と文法解釈(1)	15. まとめと試験																						
8. 同上(2)																							
◇ 成績評価の方法		出席（50%） 朗読試験（50%）																					
◇ 教科書・参考書		プリント配布																					
◇ 授業時間外学習		予習と復習を重視する。																					
その他：																							

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
朝 K	鮮 o r e a 語 n	2	非常勤 講師	権 来 順	3	火	2
◆ 科目ナンバリング		LHKOR201J					
◆ 授業題目		朝鮮語初級 I					
◆ 目的・概要		学習の入り口としてハングル文字の仕組みを理解し、韓国語への興味を持たせることを目的とする。特に日本語にない発音に重点を置き、正確な韓国語の発音を練習する。韓国の文化、風習などの視聴覚資料を使い、基本文法と会話を学ぶ。					
◆ 到達目標		韓国語（ハングル）に対する全体像を身につけ、韓国語の読み書きができることをめざす。					
◆ 授業内容・方法		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：朝鮮半島の言語について 2. 基本母音（単母音）と基本子音の学習 3. 子音の激音・濃音、合成母音11文字の練習 4. 1文字の終音、連音化、有声音化、流音化の学習 5. 2文字の終音、激音化、濃音化、鼻音化の学習 6. 日本語のハングル文字表記の練習 7. 名詞文の「です」形の肯定型と疑問型（かしこまった表現） 8. 名詞文の「です」形の肯定型と疑問型（打ち解けた表現） 9. 自己紹介の練習 10. 固有語数詞、時間の言い方の練習 11. 買い物、値段の言い方などの練習 12. 名詞文の否定型の学習 13. 指示代名詞と所有の表現の学習 14. 用言（動詞・形容詞）の丁寧な言い方（現在形）の学習 15. まとめと試験 					
◇ 成績評価の方法		筆記試験、出席率、授業時の読み、書きなどの平常点					
◇ 教科書・参考書		『簡単韓国語』著者権来順 外3人（朝日出版社）					
◇ 授業時間外学習		毎回の内容を復習すること					
その他：							

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
朝 K	鮮 o r e a 語 n	2	非常勤 講師	権 来 順	4	火	2
◆ 科目ナンバリング		LHKOR201J					
◆ 授業題目		朝鮮語初級 II					
◆ 目的・概要		日常生活に必要な語彙や表現力を高め、コミュニケーション能力を養う。					
◆ 到達目標		日韓国語の読解力と簡単な生活会話をめざす。					
◆ 授業内容・方法		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 用言の丁寧な言い方（打ち解けた表現）の現在形の学習 3. 用言の丁寧な言い方（かしこまった表現）の現在形の学習 4. 用言の否定形 5. 用言「です・ます」形の活用（陽母音の練習） 6. 用言「です・ます」形の活用（陰母音の練習） 7. 用言「です・ます」形の活用（不規則用言の練習） 8. 用言の丁寧な言い方（打ち解けた表現）の過去形の学習 9. 用言の丁寧な言い方（かしこまった表現）の過去形の学習 10. 願望を表す表現 11. 文と文をつなぐ羅列や逆接の表現 12. 目的を表す表現 13. 尊敬語の表現 14. 計画を表す表現 15. まとめと試験 					
◇ 成績評価の方法		筆記試験、出席率、授業時の読み、書きなどの平常点					
◇ 教科書・参考書		『簡単韓国語』著者権来順 外3人（朝日出版社）					
◇ 授業時間外学習		毎回の内容を復習すること					
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ タ リ ア 語 I t a l i a n	2	准教授 フォンガロ・エンリコ	3	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHMOFL204J				
◆ 授業題目	イタリア語初級（前期）				
◆ 目的・概要	日常生活で使用される対話表現を題材に、イタリア語特有の発音・リズムや言い回しを身につけ、名詞の性と数、形容詞の変化、定冠詞と不定冠詞、所有形容詞、指示詞、直接法現在の規則動詞といった基礎文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて初歩的な疑問文や否定文をつくり、会話表現の練習を行なう。				
◆ 到達目標	実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話や挨拶の表現ができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. コースの紹介。 2. 発音とアルファベット。 3. 定冠詞・不定冠詞・名詞。 4. 形容詞と挨拶。 5. Essere 不規則動詞の直接法現在形。 6. Avere 不規則動詞の直接法現在形。 7. -are 規則動詞の直接法現在形。 8. 丁寧な表現。 9. 数字と聞き取り練習。 10. 小テストと -ere の規則動詞の直接法現在形。 11. Fare 不規則動詞の直接法現在形と命令形。 12. 復習と聞き取り練習。 13. 疑問詞。 14. 小テストと復習。 15. 期末テストとまとめ。 				
◇ 成績評価の方法	積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。				
◇ 教科書・参考書	朝日出版「Opera Prima Vol.1」。				
◇ 授業時間外学習	授業の復習と宿題を行なう。				
その他：辞書を必ず用意すること。詳細については授業初回に指示する。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ タ リ ア 語 I t a l i a n	2	准教授 フォンガロ・エンリコ	4	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHMOFL204J				
◆ 授業題目	イタリア語初級（後期）				
◆ 目的・概要	前期セメスターに引き続き、日常生活で使用される会話表現を題材に、不規則動詞、助動詞、再帰動詞、過去形といった基礎的文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて、会話表現、作文の練習を行なう。				
◆ 到達目標	実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話の表現ができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習。 2. -ere 規則動詞の直接法現在形。 3. Bere 不規則動詞の直接法現在形と読解の練習。 4. Andare 不規則動詞の直接法現在形。 5. C'è と ci sono。 6. 聞き取り練習と復習。 7. 小テストと時刻。 8. -ire 規則動詞の直接法現在形その一。 9. 会話の練習と -ire 規則動詞の直接法現在形その二。 10. Mi piace の使い方。 11. Uscire 不規則動詞の直接法現在形と人称代名詞。 12. 再帰動詞。 13. Dovere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。 14. 小テストと復習。 15. 期末テストとまとめ。 				
◇ 成績評価の方法	積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。				
◇ 教科書・参考書	朝日出版「Opera Prima Vol.1」。				
◇ 授業時間外学習	授業の復習と宿題を行なう。				
その他：辞書を必ず用意すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ タ リ ア 語 I t a l i a n	2	准教授 フォンガロ・エンリコ	3	木	3
◆ 科目ナンバリング	LHMOFL204J				
◆ 授業題目	イタリア語初級（前期）				
◆ 目的・概要	日常生活で使用される対話表現を題材に、イタリア語特有の発音・リズムや言い回しを身につけ、名詞の性と数、形容詞の変化、定冠詞と不定冠詞、所有形容詞、指示詞、直接法現在の規則動詞といった基礎文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて初歩的な疑問文や否定文をつくり、会話表現の練習を行なう。				
◆ 到達目標	実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話や挨拶の表現ができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. コースの紹介。 2. 発音とアルファベット。 3. 定冠詞・不定冠詞・名詞。 4. 形容詞と挨拶。 5. Essere 不規則動詞の直接法現在形。 6. Avere 不規則動詞の直接法現在形。 7. -are 規則動詞の直接法現在形。 8. 丁寧な表現。 9. 数字と聞き取り練習。 10. 小テストと -ere の規則動詞の直接法現在形。 11. Fare 不規則動詞の直接法現在形と命令形。 12. 復習と聞き取り練習。 13. 疑問詞。 14. 小テストと復習。 15. 期末テストとまとめ。 				
◇ 成績評価の方法	積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。				
◇ 教科書・参考書	朝日出版「Opera Prima Vol.1」。				
◇ 授業時間外学習	授業の復習と宿題を行なう。				
その他：辞書を必ず用意すること。詳細については授業初回に指示する。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ タ リ ア 語 I t a l i a n	2	准教授 フォンガロ・エンリコ	4	木	3
◆ 科目ナンバリング	LHMOFL204J				
◆ 授業題目	イタリア語初級（後期）				
◆ 目的・概要	前期セメスターに引き続き、日常生活で使用される会話表現を題材に、不規則動詞、助動詞、再帰動詞、過去形といった基礎的文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて、会話表現、作文の練習を行なう。				
◆ 到達目標	実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話の表現ができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習。 2. -ere 規則動詞の直接法現在形。 3. Bere 不規則動詞の直接法現在形と読解の練習。 4. Andare 不規則動詞の直接法現在形。 5. C'è と ci sono。 6. 聞き取り練習と復習。 7. 小テストと時刻。 8. -ire 規則動詞の直接法現在形その一。 9. 会話の練習と -ire 規則動詞の直接法現在形その二。 10. Mi piace の使い方。 11. Uscire 不規則動詞の直接法現在形と人称代名詞。 12. 再帰動詞。 13. Dovere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。 14. 小テストと復習。 15. 期末テストとまとめ。 				
◇ 成績評価の方法	積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。				
◇ 教科書・参考書	朝日出版「Opera Prima Vol.1」。				
◇ 授業時間外学習	授業の復習と宿題を行なう。				
その他：辞書を必ず用意すること。					

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時			
イ I	タ t	リ a	ア l	語 i	2	准教授	フォンガロ・エンリコ	3	水	4
◆ 科目ナンバリング		LHMOFL204J								
◆ 授業題目		イタリア語中級（前期）								
◆ 目的・概要		これまでに学習した初級文法を復習しながら、引き続き実用イタリア語のための基礎文法を身につける。日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、命令法、半過去形、未来形、比較級と最上級などの中級文法の規則を習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力を養う。								
◆ 到達目標		実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる語法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。								
◆ 授業内容・方法		<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習。 2. Dov'è? C'è の使い方。 3. Quanto costa? と会話の練習。 4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。 5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。 6. 読解の練習と復習。 7. 小テストと Stare 不規則動詞の直接法現在形。 8. 聞き取り練習と非人称動詞。 9. Volere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。 10. 直接法近過去その一。 11. 直接法近過去その二。 12. 小テストと会話の練習。 13. 直接法近過去その三。 14. 代名詞と会話の練習。 15. 期末テストとまとめ。 								
◇ 成績評価の方法		積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。								
◇ 教科書・参考書		朝日出版「Opera Prima Vol.2」。								
◇ 授業時間外学習		授業の復習と宿題を行なう。								
その他：辞書を必ず用意すること。										

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時			
イ I	タ t	リ a	ア l	語 i	2	准教授	フォンガロ・エンリコ	4	水	4
◆ 科目ナンバリング		LHMOFL204J								
◆ 授業題目		イタリア語中級（後期）								
◆ 目的・概要		前期セメスターに引き続き、日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、関係代名詞、受動態、条件法、接続法などの中級文法の規則を一通り習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力をさらに発展させる。								
◆ 到達目標		実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる語法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。								
◆ 授業内容・方法		<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習。 2. 不規則動詞の直接法近過去。 3. 聞き取りと会話の練習。 4. 読解の練習と相対最上級。 5. 小テストと代名詞。 6. 疑問詞。 7. 会話の練習と序数詞。 8. 部分補語。 9. 聞き取りと会話の練習。 10. 読解の練習と小テスト。 11. 人称代名詞。 12. 会話の練習。 13. 絶対最上級。 14. 会話の練習。 15. 期末テストとまとめ。 								
◇ 成績評価の方法		積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。								
◇ 教科書・参考書		朝日出版「Opera Prima Vol.2」。								
◇ 授業時間外学習		授業の復習と宿題を行なう。								
その他：辞書を必ず用意すること。										

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時			
イ I	タ t	リ a	ア l	語 i	2	准教授	フォンガロ・エンリコ	3	木	4
◆ 科目ナンバリング		LHMOFL204J								
◆ 授業題目		イタリア語中級（前期）								
◆ 目的・概要		これまでに学習した初級文法を復習しながら、引き続き実用イタリア語のための基礎文法を身につける。日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、命令法、半過去形、未来形、比較級と最上級などの中級文法の規則を習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力を養う。								
◆ 到達目標		実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる語法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。								
◆ 授業内容・方法		<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習。 2. Dov'è? C'è の使い方。 3. Quanto costa? と会話の練習。 4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。 5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。 6. 読解の練習と復習。 7. 小テストと Stare 不規則動詞の直接法現在形。 8. 聞き取り練習と非人称動詞。 9. Volere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。 10. 直接法近過去その一。 11. 直接法近過去その二。 12. 小テストと会話の練習。 13. 直接法近過去その三。 14. 代名詞と会話の練習。 15. 期末テストとまとめ。 								
◇ 成績評価の方法		積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。								
◇ 教科書・参考書		朝日出版「Opera Prima Vol.2」。								
◇ 授業時間外学習		授業の復習と宿題を行なう。								
その他：辞書を必ず用意すること。										

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時			
イ I	タ t	リ a	ア l	語 i	2	准教授	フォンガロ・エンリコ	4	木	4
◆ 科目ナンバリング		LHMOFL204J								
◆ 授業題目		イタリア語中級（後期）								
◆ 目的・概要		前期セメスターに引き続き、日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、関係代名詞、受動態、条件法、接続法などの中級文法の規則を一通り習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力をさらに発展させる。								
◆ 到達目標		実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる語法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。								
◆ 授業内容・方法		<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習。 2. 不規則動詞の直接法近過去。 3. 聞き取りと会話の練習。 4. 読解の練習と相対最上級。 5. 小テストと代名詞。 6. 疑問詞。 7. 会話の練習と序数詞。 8. 部分補語。 9. 聞き取りと会話の練習。 10. 読解の練習と小テスト。 11. 人称代名詞。 12. 会話の練習。 13. 絶対最上級。 14. 会話の練習。 15. 期末テストとまとめ。 								
◇ 成績評価の方法		積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。								
◇ 教科書・参考書		朝日出版「Opera Prima Vol.2」。								
◇ 授業時間外学習		授業の復習と宿題を行なう。								
その他：辞書を必ず用意すること。										

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ I タ t リ a ア l 語 i ア a 語 n	2	准教授 フォンガロ・エンリコ	3	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMOFL204J																				
◆ 授業題目	イタリア語上級（前期）																				
◆ 目的・概要	この講義では、文法は学生の学習が不完全な部分を補う程度にとどめる。読解や場合によっては翻訳も行なえるように、日常的なことばや本で 사용되는ような複雑な筋からなる文章の理解に向けた、イタリア語の高度な運用を目指す。																				
◆ 到達目標	これまで学んできたイタリア語文法を用いて、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、イタリア文化に関しても学んでいく。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 復習。</td> <td>9. 会話と読解の練習。</td> </tr> <tr> <td>2. 会話と読解の練習。</td> <td>10. 直接法近過去と反過去その二。</td> </tr> <tr> <td>3. 小テストと直接法未来形。</td> <td>11. 会話と読解の練習。</td> </tr> <tr> <td>4. Gerundioと進行動詞。</td> <td>12. 人称代名詞。</td> </tr> <tr> <td>5. 会話と読解の練習。</td> <td>13. 会話と読解の練習。</td> </tr> <tr> <td>6. 会話と聞き取りの練習。</td> <td>14. 聞き取り練習とテストの準備。</td> </tr> <tr> <td>7. 読解の練習と小テスト。</td> <td>15. 期末テストとまとめ。</td> </tr> <tr> <td>8. 直接法近過去と反過去その一。</td> <td></td> </tr> </table>					1. 復習。	9. 会話と読解の練習。	2. 会話と読解の練習。	10. 直接法近過去と反過去その二。	3. 小テストと直接法未来形。	11. 会話と読解の練習。	4. Gerundioと進行動詞。	12. 人称代名詞。	5. 会話と読解の練習。	13. 会話と読解の練習。	6. 会話と聞き取りの練習。	14. 聞き取り練習とテストの準備。	7. 読解の練習と小テスト。	15. 期末テストとまとめ。	8. 直接法近過去と反過去その一。	
1. 復習。	9. 会話と読解の練習。																				
2. 会話と読解の練習。	10. 直接法近過去と反過去その二。																				
3. 小テストと直接法未来形。	11. 会話と読解の練習。																				
4. Gerundioと進行動詞。	12. 人称代名詞。																				
5. 会話と読解の練習。	13. 会話と読解の練習。																				
6. 会話と聞き取りの練習。	14. 聞き取り練習とテストの準備。																				
7. 読解の練習と小テスト。	15. 期末テストとまとめ。																				
8. 直接法近過去と反過去その一。																					
◇ 成績評価の方法	会話・作文・翻訳・要約・聞き取りなどを通じて主に講義中に行なう。学期末に学習事項の確認テストを行なう。																				
◇ 教科書・参考書	講義中にプリントを配布する。																				
◇ 授業時間外学習	授業の復習と宿題を行なう。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
イ I タ t リ a ア l 語 i ア a 語 n	2	准教授 フォンガロ・エンリコ	4	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMOFL204J																				
◆ 授業題目	イタリア語上級（後期）																				
◆ 目的・概要	前期に引き続き、様々なテキストの読解、翻訳を行ない、日常的な会話表現、聞き取りに関してもさらに練習を行なっていく。イタリア文化についてのトピックをとりあげ、それに関する語彙、知識を深め、イタリア語の高度な運用を目指す。																				
◆ 到達目標	これまで学んできたイタリア語文法を用いて、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、イタリア文化に関しても学んでいく。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 復習。</td> <td>9. 聞き取り練習と復習。</td> </tr> <tr> <td>2. 会話と読解の練習。</td> <td>10. 直接法の遠過去と大過去。</td> </tr> <tr> <td>3. 接続法現在形。</td> <td>11. 会話と読解の練習。</td> </tr> <tr> <td>4. 会話と読解の練習。</td> <td>12. 聞き取り練習と復習。</td> </tr> <tr> <td>5. 聞き取り練習と復習。</td> <td>13. 復習。</td> </tr> <tr> <td>6. 会話と読解の練習。</td> <td>14. テストの準備。</td> </tr> <tr> <td>7. 条件法と接続法。</td> <td>15. 期末テストとまとめ。</td> </tr> <tr> <td>8. 会話と読解の練習。</td> <td></td> </tr> </table>					1. 復習。	9. 聞き取り練習と復習。	2. 会話と読解の練習。	10. 直接法の遠過去と大過去。	3. 接続法現在形。	11. 会話と読解の練習。	4. 会話と読解の練習。	12. 聞き取り練習と復習。	5. 聞き取り練習と復習。	13. 復習。	6. 会話と読解の練習。	14. テストの準備。	7. 条件法と接続法。	15. 期末テストとまとめ。	8. 会話と読解の練習。	
1. 復習。	9. 聞き取り練習と復習。																				
2. 会話と読解の練習。	10. 直接法の遠過去と大過去。																				
3. 接続法現在形。	11. 会話と読解の練習。																				
4. 会話と読解の練習。	12. 聞き取り練習と復習。																				
5. 聞き取り練習と復習。	13. 復習。																				
6. 会話と読解の練習。	14. テストの準備。																				
7. 条件法と接続法。	15. 期末テストとまとめ。																				
8. 会話と読解の練習。																					
◇ 成績評価の方法	会話・作文・翻訳・要約・聞き取りなどを通じて主に講義中に行なう。学期末に学習事項の確認テストを行なう。																				
◇ 教科書・参考書	講義中にプリントを配布する。																				
◇ 授業時間外学習	授業の復習と宿題を行なう。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
専 門 中 国 語 A d v a n c e d C h i n e s e	2	准教授 馬 暁 地	3	金	4																
<p>◆ 科目ナンバリング LHMCHN202J</p> <p>◆ 授業題目 中国語作文</p> <p>◆ 目的・概要 基本文型の翻訳練習と自由テーマによる作文練習を通じて、中国語の作文の能力を高める。翻訳練習は授業の時にやり、自由作文は宿題として毎週一篇提出してほしいこと。</p> <p>◆ 到達目標 一つの出来事のあらすじを簡単な言葉ではっきりと述べ、また、自分の考え、気持ちをただしく表すことを目標とする。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. “是”動詞の翻訳練習</td> <td>9. 疑問文の翻訳練習(1)</td> </tr> <tr> <td>2. “有”動詞の翻訳練習</td> <td>10. 同上(2)</td> </tr> <tr> <td>3. “在”動詞の翻訳練習</td> <td>11. 同上(3)</td> </tr> <tr> <td>4. 自由作文の講評</td> <td>12. 自由作文の講評</td> </tr> <tr> <td>5. 形容詞述語文の翻訳練習</td> <td>13. 助詞“了”の翻訳練習</td> </tr> <tr> <td>6. 動詞述語文の翻訳練習</td> <td>14. 助詞“着”の翻訳練習</td> </tr> <tr> <td>7. 名詞述語文の翻訳練習</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 自由作文の講評</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 出席 (50%) 作文試験 (50%)</p> <p>◇ 教科書・参考書 プリント配布</p> <p>◇ 授業時間外学習 予習と復習を重視する。</p> <p>その他：</p>						1. “是”動詞の翻訳練習	9. 疑問文の翻訳練習(1)	2. “有”動詞の翻訳練習	10. 同上(2)	3. “在”動詞の翻訳練習	11. 同上(3)	4. 自由作文の講評	12. 自由作文の講評	5. 形容詞述語文の翻訳練習	13. 助詞“了”の翻訳練習	6. 動詞述語文の翻訳練習	14. 助詞“着”の翻訳練習	7. 名詞述語文の翻訳練習	15. まとめと試験	8. 自由作文の講評	
1. “是”動詞の翻訳練習	9. 疑問文の翻訳練習(1)																				
2. “有”動詞の翻訳練習	10. 同上(2)																				
3. “在”動詞の翻訳練習	11. 同上(3)																				
4. 自由作文の講評	12. 自由作文の講評																				
5. 形容詞述語文の翻訳練習	13. 助詞“了”の翻訳練習																				
6. 動詞述語文の翻訳練習	14. 助詞“着”の翻訳練習																				
7. 名詞述語文の翻訳練習	15. まとめと試験																				
8. 自由作文の講評																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
専 門 中 国 語 A d v a n c e d C h i n e s e	2	准教授 馬 暁 地	4	金	4																
<p>◆ 科目ナンバリング LHMCHN202J</p> <p>◆ 授業題目 中国語作文</p> <p>◆ 目的・概要 基本文型の翻訳練習と自由作文練習を通して、中国語作文の能力を高める。翻訳練習は授業の時にやり、自由作文は宿題の形で毎週一篇提出してほしいこと。</p> <p>◆ 到達目標 一つの出来事のあらすじを簡単な言葉ではっきり述べ、また自分の考え、気持ちをただしく表すことを目標とする。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. “是…的”文型の翻訳練習</td> <td>9. 前置詞の翻訳練習(1)</td> </tr> <tr> <td>2. 構造助詞“地”の翻訳練習</td> <td>10. 同上(2)</td> </tr> <tr> <td>3. 構造助詞“得”の翻訳練習</td> <td>11. 同上(3)</td> </tr> <tr> <td>4. 自由作文の講評</td> <td>12. 自由作文の講評</td> </tr> <tr> <td>5. 能願動詞“想”の翻訳練習</td> <td>13. 简单文と複雑文(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 能願動詞“会”の翻訳練習</td> <td>14. 同上(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 能願動詞“能”の翻訳練習</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 自由作文の講評</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 出席 (50%) 作文試験 (50%)</p> <p>◇ 教科書・参考書 プリント配布</p> <p>◇ 授業時間外学習 予習と復習を重視する。</p> <p>その他：</p>						1. “是…的”文型の翻訳練習	9. 前置詞の翻訳練習(1)	2. 構造助詞“地”の翻訳練習	10. 同上(2)	3. 構造助詞“得”の翻訳練習	11. 同上(3)	4. 自由作文の講評	12. 自由作文の講評	5. 能願動詞“想”の翻訳練習	13. 简单文と複雑文(1)	6. 能願動詞“会”の翻訳練習	14. 同上(2)	7. 能願動詞“能”の翻訳練習	15. まとめと試験	8. 自由作文の講評	
1. “是…的”文型の翻訳練習	9. 前置詞の翻訳練習(1)																				
2. 構造助詞“地”の翻訳練習	10. 同上(2)																				
3. 構造助詞“得”の翻訳練習	11. 同上(3)																				
4. 自由作文の講評	12. 自由作文の講評																				
5. 能願動詞“想”の翻訳練習	13. 简单文と複雑文(1)																				
6. 能願動詞“会”の翻訳練習	14. 同上(2)																				
7. 能願動詞“能”の翻訳練習	15. まとめと試験																				
8. 自由作文の講評																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
専 門 ド イ ツ 語 A d v a n c e d G e r m a n	2	教授 嶋 崎 啓	3	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMGER201J																				
◆ 授業題目	テキスト読解のためのドイツ語																				
◆ 目的・概要	論説文、小説、エッセーなど様々なタイプのドイツ語の文を読むことにより、ドイツ語の文法の理解を定着させ、構文を分析的に解説する力を養うことを目指す。無理なく理解が進むよう初級文法を復習しながらゆっくり授業を進める予定である。																				
◆ 到達目標	ドイツ語のテキストを読む力を向上させ、各自の専門分野のドイツ語テキストを読む基礎的な力をつける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 新聞記事の講読 2</td> </tr> <tr> <td>2. 物語文の講読 1</td> <td>10. エッセーの講読 2</td> </tr> <tr> <td>3. 笑話の講読 1</td> <td>11. 哲学的論説文の講読 2</td> </tr> <tr> <td>4. 新聞記事の講読 1</td> <td>12. 物語文の講読 3</td> </tr> <tr> <td>5. エッセーの講読 1</td> <td>13. 笑話の講読 3</td> </tr> <tr> <td>6. 哲学的論説文の講読 1</td> <td>14. 詩の講読</td> </tr> <tr> <td>7. 物語文の講読 2</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 笑話の講読 2</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 新聞記事の講読 2	2. 物語文の講読 1	10. エッセーの講読 2	3. 笑話の講読 1	11. 哲学的論説文の講読 2	4. 新聞記事の講読 1	12. 物語文の講読 3	5. エッセーの講読 1	13. 笑話の講読 3	6. 哲学的論説文の講読 1	14. 詩の講読	7. 物語文の講読 2	15. まとめ	8. 笑話の講読 2	
1. ガイダンス	9. 新聞記事の講読 2																				
2. 物語文の講読 1	10. エッセーの講読 2																				
3. 笑話の講読 1	11. 哲学的論説文の講読 2																				
4. 新聞記事の講読 1	12. 物語文の講読 3																				
5. エッセーの講読 1	13. 笑話の講読 3																				
6. 哲学的論説文の講読 1	14. 詩の講読																				
7. 物語文の講読 2	15. まとめ																				
8. 笑話の講読 2																					
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]・平常点 (出席、授業での発言、質疑) [50%]																				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布する。																				
◇ 授業時間外学習	予習が必要である。配布したプリントをあらかじめ読んで、内容を捉えておくこと。最後に課題のレポートを提出してもらう。																				
その他：想定しているレベルは、1年次の基礎ドイツ語を終えた程度。授業の進度は理解度に応じて適宜変更する。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
専 門 フ ラ ン ス 語 A d v a n c e d F r e n c h	2	非常勤講師 翠 川 博 之	3	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMFRE201J																				
◆ 授業題目	フランス語の文章を読む																				
◆ 目的・概要	サルトルの戯曲「墓場なき死者」(1946)の前半を読みます。 舞台は、ドイツ占領下のフランス。対独強力派の民兵に捕らえられたレジスタンスのメンバー5人は、拷問の恐怖のなかで果たして組織の秘密を守りとおすことができるのか。サルトルは、限界状況に置かれた人間の反応を実験的に思考するために、この戯曲を制作しました。人間の自由をめぐるいくつもの問いがこの戯曲のなかには提出されています。緊張感漲るとも読み応えのある作品です。 この授業で文学作品を読む目的は二つあります。第一に、文法知識の習得。これまでに蓄えた文法知識を実践的に活用する術を学びつつ、より高度な文法知識を身につけます。第二に、文章を精確に読むスキルの習得。表現の微妙なニュアンスまで読み取る練習をしながら、文章が何を表現しているのか正しく理解できれば、作品の内容や主題も正しくつかめるようになります。 訳読の訓練をしながら、文学テキストを味読するための技術を身につけましょう。 ・高度な文法知識を身につけて、文章を精確に読めるようになる。 ・一定分量の文章を一定の速度で読めるようになる。 ・文学作品を鑑賞、批評するための読解力を養う。																				
◆ 到達目標																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. テキストの背景説明</td> <td>9. 訳読：テキスト p.160～ p.161</td> </tr> <tr> <td>2. 訳読：テキスト p.146～ p.147</td> <td>10. 訳読：テキスト p.162～ p.163</td> </tr> <tr> <td>3. 訳読：テキスト p.148～ p.149</td> <td>11. 訳読：テキスト p.164～ p.165</td> </tr> <tr> <td>4. 訳読：テキスト p.150～ p.151</td> <td>12. 訳読：テキスト p.166～ p.167</td> </tr> <tr> <td>5. 訳読：テキスト p.152～ p.153</td> <td>13. 訳読：テキスト p.168～ p.169</td> </tr> <tr> <td>6. 訳読：テキスト p.154～ p.155</td> <td>14. 訳読：テキスト p.170～ p.171</td> </tr> <tr> <td>7. 訳読：テキスト p.156～ p.157</td> <td>15. 訳読：テキスト p.173～ p.173</td> </tr> <tr> <td>8. 訳読：テキスト p.158～ p.159</td> <td></td> </tr> </table>					1. テキストの背景説明	9. 訳読：テキスト p.160～ p.161	2. 訳読：テキスト p.146～ p.147	10. 訳読：テキスト p.162～ p.163	3. 訳読：テキスト p.148～ p.149	11. 訳読：テキスト p.164～ p.165	4. 訳読：テキスト p.150～ p.151	12. 訳読：テキスト p.166～ p.167	5. 訳読：テキスト p.152～ p.153	13. 訳読：テキスト p.168～ p.169	6. 訳読：テキスト p.154～ p.155	14. 訳読：テキスト p.170～ p.171	7. 訳読：テキスト p.156～ p.157	15. 訳読：テキスト p.173～ p.173	8. 訳読：テキスト p.158～ p.159	
1. テキストの背景説明	9. 訳読：テキスト p.160～ p.161																				
2. 訳読：テキスト p.146～ p.147	10. 訳読：テキスト p.162～ p.163																				
3. 訳読：テキスト p.148～ p.149	11. 訳読：テキスト p.164～ p.165																				
4. 訳読：テキスト p.150～ p.151	12. 訳読：テキスト p.166～ p.167																				
5. 訳読：テキスト p.152～ p.153	13. 訳読：テキスト p.168～ p.169																				
6. 訳読：テキスト p.154～ p.155	14. 訳読：テキスト p.170～ p.171																				
7. 訳読：テキスト p.156～ p.157	15. 訳読：テキスト p.173～ p.173																				
8. 訳読：テキスト p.158～ p.159																					
◇ 成績評価の方法	平常点 (訳読) 80%、ノート 20%																				
◇ 教科書・参考書	Jean-Paul Sartre, 《Morts sans sépulture》, dans Théâtre complet, Gallimard, coll.《Pléiade》, 2005, pp.145～200. 初回にプリントを配付します。																				
◇ 授業時間外学習	1回の授業でテキスト2頁 (A4版のコピー1枚程度)を受講者全員で訳読していきます。あらかじめ担当者は決めませんので、各自がきちんと予習をして授業にのぞむ必要があります。毎回、ノートに和訳を準備してください。和訳ノートも成績評価に含めます。授業中に添削したノートを見直し、復習も十分に行ってください。																				
その他：連絡先：hrykmdrkw@gmail.com オフィスアワーについては、開講時にお知らせします。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
専 門 フ ラ ン ス 語 A d v a n c e d F r e n c h	2	非常勤 講師 翠 川 博 之	4	火	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMFRE201J フランス語の文章を読む サルトルの戯曲「墓場なき死者」(1946)の後半を読みます。 舞台は、ドイツ占領下のフランス。対独強力派の民兵に捕らえられたレジスタンスのメンバー5人は、拷問の恐怖のなかで果たして組織の秘密を守りとおすことができるのか。サルトルは、限界状況に置かれた人間の反応を実験的に思考するために、この戯曲を制作しました。人間の自由をめぐるいくつもの問いがこの戯曲のなかには提出されています。緊張感漲るとも読み応えのある作品です。 この授業で文学作品を読む目的は二つあります。第一に、文法知識の習得。これまでに蓄えた文法知識を実践的に活用する術を学びつつ、より高度な文法知識を身につけます。第二に、文章を精確に読むスキルの習得。表現の微妙なニュアンスまで読み取る練習をしながら、文章が何を表現しているのか正しく理解できれば、作品の内容や主題も正しくつかめるようになります。 訳読の訓練をしながら、文学テキストを味読するための技術を身につけましょう。				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高度な文法知識を身につけて、文章を精確に読めるようになる。 ・一定分量の文章を一定の速度で読めるようになる。 ・文学作品を鑑賞、批評するための読解力を養う。 				
◆ 授業内容・方法	1. テキストの背景説明と作品前半のあらすじ説明 2. 訳読：テキスト p.174～ p.175 3. 訳読：テキスト p.176～ p.177 4. 訳読：テキスト p.178～ p.179 5. 訳読：テキスト p.180～ p.181 6. 訳読：テキスト p.182～ p.183 7. 訳読：テキスト p.184～ p.185 8. 訳読：テキスト p.186～ p.187 9. 訳読：テキスト p.188～ p.189 10. 訳読：テキスト p.190～ p.191 11. 訳読：テキスト p.192～ p.193 12. 訳読：テキスト p.194～ p.195 13. 訳読：テキスト p.196～ p.197 14. 訳読：テキスト p.198～ p.199 15. 訳読：テキスト p.200				
◇ 成績評価の方法	平常点(訳読)80%、ノート20%				
◇ 教科書・参考書	Jean-Paul Sartre, 《Morts sans sépulture》, dans Théâtre complet, Gallimard, coll.《Pléiade》, 2005, pp.145～200. 初回にプリントを配付します。				
◇ 授業時間外学習	1回の授業でテキスト2頁(A4版のコピー1枚程度)を受講者全員で訳読していきます。あらかじめ担当者は決めませんので、各自がきちんと予習をして授業にのぞむ必要があります。毎回、ノートに和訳を準備してきてください。和訳ノートも成績評価に含めます。授業中に添削したノートを見直し、復習も十分に行ってください。				
その他：連絡先：hrykmdrkw@gmail.com オフィスアワーについては、開講時にお知らせします。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
漢 文 講 読 C h i n e s e C l a s s i c s (R e a d i n g)	2	非常勤 講師 高 橋 陸 美	3	金	4
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMLIT226J 『孔子家語』講読 『孔子家語』とは、孔子とその門人達の対話・言行等を集めた書物です。この書物で扱われる話題は多岐に涉り、治国・君臣関係・礼学など様々なことについて論じられます。そうした主題は一見堅苦しく感じるかもしれませんが、ひとつのテーマに対して何人かの門人が違う意見を出し合って議論したり、孔子がそれにコメントを加えたりといった場面もあり、対談を読むような面白さがあります。 文章を読み進めるなかで、漢文の基礎的な文法知識を身につけるとともに、中国の古典文献を読む際に必要な辞書の引き方や、資料調査の方法を学んでいきます。そして、訓読した漢文を日本語として理解できるようになることを目標とします。 授業では『孔子家語』の中から任意の章を選び、受講者全員の輪読形式で訓読・解釈を行っていきます。受講者は、指示した範囲の文章について、各自訓読と日本語訳を作成した上で授業に臨んで下さい。教材は調点(送り仮名・返り点)が施されたものを使用します。				
◆ 到達目標	①漢文の文法についての基礎的知識を習得する。 ②漢文で書かれた文献を読解するために必要な資料調査の方法を学ぶ。 ③漢文を訓読し、その上で適切な現代日本語訳を作成できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス・『孔子家語』という文献について 2. 『孔子家語』読解① 3. 『孔子家語』読解② 4. 『孔子家語』読解③ 5. 『孔子家語』読解④ 6. 『孔子家語』読解⑤ 7. 『孔子家語』読解⑥ 8. 『孔子家語』読解⑦ 9. 『孔子家語』読解⑧ 10. 『孔子家語』読解⑨ 11. 『孔子家語』読解⑩ 12. 『孔子家語』読解⑪ 13. 『孔子家語』読解⑫ 14. 『孔子家語』読解⑬ 15. 『孔子家語』読解⑭				
◇ 成績評価の方法	筆記試験30%、出席30%、授業への取り組み40%				
◇ 教科書・参考書	・服部宇之吉 校訂『孔子家語』(富山房『漢文大系』二十)				
◇ 授業時間外学習	・毎回、次の回で扱う範囲を指示しますので、受講者はその範囲について辞書で語句の意味を確認し、訓読と現代語訳を作成して下さい。その際、訳本などを参考にしても構いませんが、参考にした書物をその都度紹介して下さい。				
その他：・オフィスアワー・教員の連絡先については講義中に連絡します。 ・毎回出席をとります。部活動等で授業を欠席する際は事前に連絡して下さい。 ・各自漢和辞典を用意して下さい。電子辞書でも可。辞書は毎回授業に持参して下さい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
漢 文 講 読 Chinese Classics (Reading)	2	非常勤 講師 高 橋 陸 美	4	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHMLIT226J				
◆ 授業題目	『世説新語』講読				
◆ 目的・概要	『世説新語』は、後漢末から劉宋初期にいたるまでの様々な人物に関する逸話や人物批評を集めた書物です。当時の知識人達が共有して学問的知識や観念、社会の風潮などをうかがい知ることが出来るという点で非常に興味深い内容を含んでいます。 文章を読みながら、漢文の基礎的な文法の知識を養い、中国の古典文献を読む際に必要な辞書の引き方や、資料調査の方法を学び、習熟することを目指します。そして、訓読した漢文を日本語として理解し、その文章の論理構造を把握する練習をしていきます。 授業では『世説新語』の中から任意の章を選び、受講者全員の輪読形式で訓読・解釈を行っていきます。受講者は、指示した範囲の文章について、各自訓読と日本語訳を作成した上で授業に臨んで下さい。教材は訓点（送り仮名・返り点）が施されたものを使用します。				
◆ 到達目標	①漢文の文法についての基礎的知識を養う。 ②文献を読解するために必要な資料調査の方法を学び、習熟する。 ③訓読した漢文を日本語として理解し、文章の論理構造を把握することができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス・『世説新語』という文献について 2. 『世説新語』読解① 3. 『世説新語』読解② 4. 『世説新語』読解③ 5. 『世説新語』読解④ 6. 『世説新語』読解⑤ 7. 『世説新語』読解⑥ 8. 『世説新語』読解⑦ 9. 『世説新語』読解⑧ 10. 『世説新語』読解⑨ 11. 『世説新語』読解⑩ 12. 『世説新語』読解⑪ 13. 『世説新語』読解⑫ 14. 『世説新語』読解⑬ 15. 『世説新語』読解⑭				
◇ 成績評価の方法	筆記試験30%、出席30%、授業への取り組み40%				
◇ 教科書・参考書	教員がプリントを準備し、講義中に配布する。				
◇ 授業時間外学習	・毎回、次の回で扱う範囲を指示しますので、受講者はその範囲について辞書で語句の意味を確認し、訓読と現代語訳を作成して下さい。その際、訳本などを参考にしても構いませんが、参考にした書物をその都度紹介して下さい。				
・オフィスアワー・教員の連絡先については講義中に連絡します。 その他：・毎回出席をとります。部活動等で授業を欠席する際は事前に連絡して下さい。 ・各自漢和辞典を用意して下さい。電子辞書でも可。辞書は毎回授業に持参して下さい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 原 壘	3	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS204J				
◆ 授業題目	よりよい研究のための倫理				
◆ 目的・概要	人文社会科学・自然科学の研究成果は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、その一方で、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、あるいは、人々を誤った仕方で導いたりすることもあります。そのため、研究に従事する人々（大学院生や大学生を含みます）は、倫理的・手続的に正しい仕方で行う責任を負っています。この授業では、大学院生や大学生が、よい研究者になるために、どのような仕方で行うのが望ましいのか、また望ましくないのかを学ぶことを目的とします。この授業は講義とワークショップという二つのパートからなります。講義では、まず研究倫理を概観した後、その中の幾つかのトピック（査読、利益相反、軍事研究など）を深く議論します。ワークショップでは、受講者は「よい研究者」になるための方策や条件を、グループワークを行うことで考察していきます。この授業は、総合研究大学院大学「科学と社会」教育プログラム、本学理学研究科本堂研究室、成城大学標葉研究室、サイエンスライター内田麻理香氏との共同で実施します。				
◆ 到達目標	1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深める。 2. 研究不正行為のさまざまな種類を理解し、なぜそのような不正行為が望ましくないのかを説明できるようになる。 3. 不正行為が発生する状況を理解し、責任ある研究者にふさわしい判断を下せるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. 研究倫理とはなにか 3. 研究不正に直面したら 4. 海外における研究倫理 5. 研究はどのように評価されるのか 6. 研究の再現にまつわる問題 7. 研究者にとって複数の価値が衝突するとき 8. 軍事研究がもつ意味 9. まとめ 10. 研究に関するワークショップ1 11. 研究に関するワークショップ2 12. 研究に関するワークショップ3 13. 研究に関するワークショップ4 14. 研究に関するワークショップ5 15. 研究に関するワークショップ6				
◇ 成績評価の方法	授業中の討論やワークショップへの参加（60%）、レポートの提出（40%）				
◇ 教科書・参考書	日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会編『科学の健全な発展のために 誠実な科学者の心得』丸善出版、2015年				
◇ 授業時間外学習	CITI Japan や学術振興会などが提供する研究倫理 e-learning を受講することを強くお勧めします。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	教授 准教授 行場 次朗・戸島貴代志・阿部 恒之 木村 邦博・坂井 信之・辻本 昌弘 小林 隆・小泉 政利	4	水	5
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS204J				
◆ 授業題目	研究と実践の倫理				
◆ 目的・概要	人文社会科学の分野で行われている複数の研究手法である調査、実験、フィールドワーク、聞き取り調査、歴史資料の収集や、研究不正などに関わる倫理的諸問題を複数教員が担当して解説する。				
◆ 到達目標	人文社会科学の諸分野における研究と、その知識に基づく社会的実践の場における倫理の基礎を理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 人間と技術 3. 科学と倫理 4. 人を対象とした実験研究における倫理 5. 動物を対象とした実験研究における倫理 6. 社会心理学実験における倫理 7. 社会調査研究に必要な実践的問題と倫理 8. 調査研究における倫理問題の国内外の動向 9. 企業における研究・特許等の問題について 10. フィールドワークにおける倫理の問題 11. 海外でのフィールドワークの注意点 12. 聞き取り調査の実践と倫理の諸問題 13. 研究倫理の国内外の動向 14. 研究不正の防止と対応 15. 全体のまとめとレビュー 				
◇ 成績評価の方法	出席40%、レポート60%				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	それぞれの担当教員の授業によっては、小レポート課題を出すことがある。成績評価の対象となる学期末のレポートについては、準備に時間がかかるので、ノートの整理や、指示された、あるいは関連する参考資料をあらかじめ収集しておくこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 谷 山 洋 三	3	月	3
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS204J				
◆ 授業題目	臨床死生学				
◆ 目的・概要	人生において死は避けられないものであり、私たちは他者（二人称：身近な人、三人称：無関係な人）の死を経験しながら、自己（一人称）の死の準備をしている。特に、医療・福祉の臨床においては倫理的課題を含む諸問題があり、哲学、倫理学、宗教学、そして宗教者の立場からも意見が求められている。授業では、代表的な宗教的死生観だけでなく、世俗的な現代人の死生観を参考にしつつ、ロールプレイで当事者や援助者の立場を疑似体験するなど、具体的な諸問題について考察したい。授業では、毎回終了前に小レポートを提出してもらい、次の授業で討論を行いたい。				
◆ 到達目標	(1)医療・福祉の臨床における死に関する諸問題について学ぶ (2)様々な死生観を通して、自分自身の死生観を涵養する				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 仏教、民間信仰に見る死生観 3. 神道、キリスト教などに見る死生観 4. 自他の死生観について語り合うワークショップ 5. 死生観に関するまとめのディスカッション 6. 現代社会における死① 7. 現代社会における死② DVD鑑賞 8. 現代社会における死③ DVD鑑賞 9. 現代社会における死④ DVD鑑賞 10. ロールプレイ① End-Of-Life Care 11. 現代社会における死⑤ DVD鑑賞 12. 現代社会における死⑥ DVD鑑賞 13. 現代社会における死⑦ DVD鑑賞 14. ロールプレイ② 平穏死 15. 総合ディスカッション 				
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]、出席・討論への参加等 [50%]				
◇ 教科書・参考書	参考書：清水哲郎／島菌進（編）『ケア従事者のための死生学』ヌーヴェルヒロカワ、2010年。清水哲郎（監修）、岡部健／竹之内裕文（編）『どう生き どう死ぬか 現場から考える死生学』弓箭書院、2009年				
◇ 授業時間外学習	授業で学んだことを、自分自身が関係する課題として想定し、深く思索することが復習になる。				
その他：質問等は、tanim@m.tohoku.ac.jpへ。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授	高 橋 原	3	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS204J																					
◆ 授業題目	宗教と心理(1)																					
◆ 目的・概要	古典的な心理学者たちの議論を参照しながら、宗教の持つ意味を人間心理の側面から考える。																					
◆ 到達目標	いくつかの基本概念を理解し、宗教とは何かという大きな問題を、人間の心に及ぼす影響という点から理解し、説明できるようにする。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション 宗教と人間の心</td> <td>9. フロイトの宗教論(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 回心と意識変容(1)</td> <td>10. フロイトの宗教論(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 回心と意識変容(1)</td> <td>11. ユングの宗教論(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 回心と意識変容(3)</td> <td>12. ユングの宗教論(2)</td> </tr> <tr> <td>5. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(1)</td> <td>13. ユングの宗教論(3)</td> </tr> <tr> <td>6. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(2)</td> <td>14. トランスパーソナル心理学と宗教(1)</td> </tr> <tr> <td>7. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(3)</td> <td>15. トランスパーソナル心理学と宗教(2)</td> </tr> <tr> <td>8. フロイトの宗教論(1)</td> <td></td> </tr> </table>						1. イントロダクション 宗教と人間の心	9. フロイトの宗教論(2)	2. 回心と意識変容(1)	10. フロイトの宗教論(3)	3. 回心と意識変容(1)	11. ユングの宗教論(1)	4. 回心と意識変容(3)	12. ユングの宗教論(2)	5. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(1)	13. ユングの宗教論(3)	6. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(2)	14. トランスパーソナル心理学と宗教(1)	7. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(3)	15. トランスパーソナル心理学と宗教(2)	8. フロイトの宗教論(1)	
1. イントロダクション 宗教と人間の心	9. フロイトの宗教論(2)																					
2. 回心と意識変容(1)	10. フロイトの宗教論(3)																					
3. 回心と意識変容(1)	11. ユングの宗教論(1)																					
4. 回心と意識変容(3)	12. ユングの宗教論(2)																					
5. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(1)	13. ユングの宗教論(3)																					
6. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(2)	14. トランスパーソナル心理学と宗教(1)																					
7. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(3)	15. トランスパーソナル心理学と宗教(2)																					
8. フロイトの宗教論(1)																						
◇ 成績評価の方法	期末レポートによる。授業内で小レポートを課す場合もある。																					
◇ 教科書・参考書	ルイス・R・ランボー『宗教的回心の研究』(渡邊学・高橋原・堀雅彦共訳、ビイング・ネット・プレス、2014年)他、授業内で適宜指示する。																					
◇ 授業時間外学習	授業内で指示する参考文献により理解を深める。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 准教授	高 橋 原 谷 山 洋 三	3	木	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS204J																					
◆ 授業題目	ケアの視点からの死生学																					
◆ 目的・概要	この授業では、近年、看取りや緩和ケアといった領域を中心に、宗教者が「心のケア」の一翼を担うことが出来るという考え方が一般的になりつつあることを踏まえて、「宗教」という観点を採り入れてケアと死生学をめぐる基本的な論点を学んでいく。 これは現代の超高齢多死社会において誰もが「ケア従事者」になり得ることから、単に客観的な学問としてではなく、一人一人が現実に向きあうための知恵を身に付けることも目指す。 テキストとして、清水・島蘭編『ケア従事者のための死生学』(ヌーヴェルヒロカワ、2010年)を使用する。毎回担当者が内容の要約とコメントを発表し、出席者全員で討論を行う。																					
◆ 到達目標	自分も当事者になり得るといった観点から、現代社会における宗教と文化のありかたを踏まえてケアと死生学の問題について説明できるようにする。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション～死生学、ケア、宗教</td> <td>9. 日本人の死生観(1)</td> </tr> <tr> <td>2. ケア現場の死生学</td> <td>10. 日本人の死生観(2)</td> </tr> <tr> <td>3. ケア従事者に求められるもの</td> <td>11. 死生をめぐる心と振る舞い(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 医療現場における生と死</td> <td>12. 死生をめぐる心と振る舞い(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 介護現場における生と死</td> <td>13. 死生をめぐる心と振る舞い(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 宗教・思想と人の死生(1)</td> <td>14. 死生をめぐる文化と社会(1)</td> </tr> <tr> <td>7. 宗教・思想と人の死生(2)</td> <td>15. 死生をめぐる文化と社会(2)</td> </tr> <tr> <td>8. 宗教・思想と人の死生(3)</td> <td></td> </tr> </table>						1. イントロダクション～死生学、ケア、宗教	9. 日本人の死生観(1)	2. ケア現場の死生学	10. 日本人の死生観(2)	3. ケア従事者に求められるもの	11. 死生をめぐる心と振る舞い(1)	4. 医療現場における生と死	12. 死生をめぐる心と振る舞い(2)	5. 介護現場における生と死	13. 死生をめぐる心と振る舞い(2)	6. 宗教・思想と人の死生(1)	14. 死生をめぐる文化と社会(1)	7. 宗教・思想と人の死生(2)	15. 死生をめぐる文化と社会(2)	8. 宗教・思想と人の死生(3)	
1. イントロダクション～死生学、ケア、宗教	9. 日本人の死生観(1)																					
2. ケア現場の死生学	10. 日本人の死生観(2)																					
3. ケア従事者に求められるもの	11. 死生をめぐる心と振る舞い(1)																					
4. 医療現場における生と死	12. 死生をめぐる心と振る舞い(2)																					
5. 介護現場における生と死	13. 死生をめぐる心と振る舞い(2)																					
6. 宗教・思想と人の死生(1)	14. 死生をめぐる文化と社会(1)																					
7. 宗教・思想と人の死生(2)	15. 死生をめぐる文化と社会(2)																					
8. 宗教・思想と人の死生(3)																						
◇ 成績評価の方法	出席回数および授業内での討論への参加の様子などを勘案して評価する。																					
◇ 教科書・参考書	清水・島蘭編『ケア従事者のための死生学』ヌーヴェルヒロカワ、2010年																					
◇ 授業時間外学習	次回テキストを読み、疑問点を明らかにしておく。また、適宜指示する関連文献を読む。発表担当者はレジュメを準備する。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 谷 山 洋 三	4	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS204J																				
◆ 授業題目	グリーフケア論																				
◆ 目的・概要	死別による悲嘆は誰もが経験することであり、東日本大震災を経験した私たちにとっては、避けられない重要なテーマである。悲嘆を抱えた人には多様な側面からの支援が必要であるが、その中で特にグリーフケアについて考察する。授業では、毎回終了前に小レポートを提出してもらい、次の授業で討論を行いたい。																				
◆ 到達目標	悲嘆とその対応の一つとしてのグリーフケアについて基礎知識を得る																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 第5章3 - 第6章1</td> </tr> <tr> <td>2. 第1章1 - 2</td> <td>10. 第6章2 - 3</td> </tr> <tr> <td>3. 第1章3 - 第2章1</td> <td>11. 第7章1 - 2</td> </tr> <tr> <td>4. 第2章2 - 3</td> <td>12. 第7章3</td> </tr> <tr> <td>5. 第3章1 - 2</td> <td>13. 「あいまいな喪失」ワーク</td> </tr> <tr> <td>6. 第3章3 - 第4章1</td> <td>14. 「あいまいな喪失」ワークの振り返り</td> </tr> <tr> <td>7. 第4章2 - 3</td> <td>15. 総合ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>8. 第5章1 - 2</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 第5章3 - 第6章1	2. 第1章1 - 2	10. 第6章2 - 3	3. 第1章3 - 第2章1	11. 第7章1 - 2	4. 第2章2 - 3	12. 第7章3	5. 第3章1 - 2	13. 「あいまいな喪失」ワーク	6. 第3章3 - 第4章1	14. 「あいまいな喪失」ワークの振り返り	7. 第4章2 - 3	15. 総合ディスカッション	8. 第5章1 - 2	
1. オリエンテーション	9. 第5章3 - 第6章1																				
2. 第1章1 - 2	10. 第6章2 - 3																				
3. 第1章3 - 第2章1	11. 第7章1 - 2																				
4. 第2章2 - 3	12. 第7章3																				
5. 第3章1 - 2	13. 「あいまいな喪失」ワーク																				
6. 第3章3 - 第4章1	14. 「あいまいな喪失」ワークの振り返り																				
7. 第4章2 - 3	15. 総合ディスカッション																				
8. 第5章1 - 2																					
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]、出席・討論への参加等 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書（必ず購入してください）：坂口幸弘『死別の悲しみに向き合う グリーフケアとは何か』講談社現代新書、2012年（760円+税）。 参考書：坂口幸弘『悲嘆学入門 死別の悲しみを学ぶ』昭和堂、2010年。高木慶子・山本佳世子『悲嘆の中にある人に心を寄せて 一人は悲しみとどう向き合い合っていくのか』上智大学出版、2014年。																				
◇ 授業時間外学習	予習：事前に指示した教科書の範囲を精読する 復習：身近な人のグリーフケアの場面を想定して授業で学んだことについて考察する																				
その他：質問等は、tanim@m.tohoku.ac.jpへ。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 谷 山 洋 三	4	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS204J																				
◆ 授業題目	スピリチュアルケア論																				
◆ 目的・概要	スピリチュアルケアは、ホスピス運動に伴って日本に紹介され、緩和ケアの領域においては一定の理解を得られているものの、定着しているとは言いがたい。宗教的ケアは、欧米では「パストラルケア」としてキリスト者によって提供されてきたが、視点を替えれば、日本でも仏教、神道などでも概念化されないまま伝統的に実践されて来たと言うこともできる。複数の代表的な専門家の見解を紹介しこの2つのケアの内容、相違点、共通点などについて考察する。また、体験的なワークを通して擬似的にスピリチュアルケア、宗教的ケアを体験することで、理解を深めたい。																				
◆ 到達目標	スピリチュアルケア、宗教的ケアについて基礎知識を得る																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 3章5 - 6</td> </tr> <tr> <td>2. スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違</td> <td>10. 4章前半</td> </tr> <tr> <td>3. 0章</td> <td>11. 4章後半</td> </tr> <tr> <td>4. 1章前半</td> <td>12. 5章</td> </tr> <tr> <td>5. 1章後半</td> <td>13. 6章前半</td> </tr> <tr> <td>6. 2章</td> <td>14. 6章後半</td> </tr> <tr> <td>7. 3章1 - 2</td> <td>15. 総合ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>8. 3章3 - 4</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 3章5 - 6	2. スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違	10. 4章前半	3. 0章	11. 4章後半	4. 1章前半	12. 5章	5. 1章後半	13. 6章前半	6. 2章	14. 6章後半	7. 3章1 - 2	15. 総合ディスカッション	8. 3章3 - 4	
1. オリエンテーション	9. 3章5 - 6																				
2. スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違	10. 4章前半																				
3. 0章	11. 4章後半																				
4. 1章前半	12. 5章																				
5. 1章後半	13. 6章前半																				
6. 2章	14. 6章後半																				
7. 3章1 - 2	15. 総合ディスカッション																				
8. 3章3 - 4																					
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]、出席・討論への参加等 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書（必ず購入してください）：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア：臨床宗教師の視点から』中外医学社、2016年（2600円+税） 参考書：鎌田東二（編）『講座スピリチュアル学第1巻 スピリチュアルケア』ビーイング・ネット・プレス、2014年																				
◇ 授業時間外学習	予習：事前に指示した教科書の範囲を精読する 復習：授業で学んだことについて、実際の場面を想像しながら考察する																				
その他：質問等は、tanim@m.tohoku.ac.jpへ。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授	高 橋 原	4	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS204J																					
◆ 授業題目	宗教と心理(2)																					
◆ 目的・概要	死、神話、心理療法などをテーマとして取り上げ、人間の心の健康に深く寄与する文化現象として宗教について考察する。																					
◆ 到達目標	講義で扱われる内容を、単なる異なる時代の異なる文化の問題としてとらえるのではなく、仏教や神道など身近な宗教的習慣に通底するものとして理解し、自分なりの考えを持てるようにする。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション 宗教と人間の心</td> <td>9. 神話と宗教心理(3)</td> </tr> <tr> <td>2. 死と宗教心理 (臨死体験、お迎え、心霊現象) (1)</td> <td>10. 神話と宗教心理(4)</td> </tr> <tr> <td>3. 死と宗教心理 (臨死体験、お迎え、心霊現象) (2)</td> <td>11. 宗教儀礼と心理療法(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 死と宗教心理 (臨死体験、お迎え、心霊現象) (3)</td> <td>12. 宗教儀礼と心理療法(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 死と宗教心理 (臨死体験、お迎え、心霊現象) (4)</td> <td>13. 宗教儀礼と心理療法(3)</td> </tr> <tr> <td>6. 死と宗教心理 (臨死体験、お迎え、心霊現象) (5)</td> <td>14. 宗教儀礼と心理療法(4)</td> </tr> <tr> <td>7. 神話と宗教心理(1)</td> <td>15. 総括 人間心理と宗教</td> </tr> <tr> <td>8. 神話と宗教心理(2)</td> <td></td> </tr> </table>						1. イントロダクション 宗教と人間の心	9. 神話と宗教心理(3)	2. 死と宗教心理 (臨死体験、お迎え、心霊現象) (1)	10. 神話と宗教心理(4)	3. 死と宗教心理 (臨死体験、お迎え、心霊現象) (2)	11. 宗教儀礼と心理療法(1)	4. 死と宗教心理 (臨死体験、お迎え、心霊現象) (3)	12. 宗教儀礼と心理療法(2)	5. 死と宗教心理 (臨死体験、お迎え、心霊現象) (4)	13. 宗教儀礼と心理療法(3)	6. 死と宗教心理 (臨死体験、お迎え、心霊現象) (5)	14. 宗教儀礼と心理療法(4)	7. 神話と宗教心理(1)	15. 総括 人間心理と宗教	8. 神話と宗教心理(2)	
1. イントロダクション 宗教と人間の心	9. 神話と宗教心理(3)																					
2. 死と宗教心理 (臨死体験、お迎え、心霊現象) (1)	10. 神話と宗教心理(4)																					
3. 死と宗教心理 (臨死体験、お迎え、心霊現象) (2)	11. 宗教儀礼と心理療法(1)																					
4. 死と宗教心理 (臨死体験、お迎え、心霊現象) (3)	12. 宗教儀礼と心理療法(2)																					
5. 死と宗教心理 (臨死体験、お迎え、心霊現象) (4)	13. 宗教儀礼と心理療法(3)																					
6. 死と宗教心理 (臨死体験、お迎え、心霊現象) (5)	14. 宗教儀礼と心理療法(4)																					
7. 神話と宗教心理(1)	15. 総括 人間心理と宗教																					
8. 神話と宗教心理(2)																						
◇ 成績評価の方法	期末レポートによる。授業内で小レポートを課す場合もある。																					
◇ 教科書・参考書	授業内で適宜指示する。																					
◇ 授業時間外学習	授業内で指示する参考文献により理解を深める。																					
その他：	この講義では、前期の「宗教と心理(1)」の内容を参照することもあるが、必ずしも前期の「宗教と心理(1)」を受講していなくてもよい。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	教授 准教授 准教授	鈴 木 岩 弓 高 橋 原 谷 山 洋 三	4	木	5																
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS204J																					
◆ 授業題目	実践宗教学試論																					
◆ 目的・概要	実践宗教学寄附講座主催の臨床宗教師研修で宗教者対象に講義されている内容を中心に、現代社会の公共空間においてケア提供者として宗教者が活動する際の諸問題について学ぶ。講師は本学教員とゲスト講師であり、現場で活動する人々の声から学ぶ。																					
◆ 到達目標	東日本大震災や超高齢化社会の到来というコンテキストの中で宗教者がどのような役割を果たし得るのか、さまざまな実践と理論から学び、自分の言葉で見解を述べられるようにする。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 【各回の内容、担当講師の詳細は未定です。決定し次第掲示等で告知します。】 臨床宗教師の理念</td> <td>8. 民間信仰論</td> </tr> <tr> <td>2. グリーフケアと宗教</td> <td>9. カウンセリングにおける霊の問題</td> </tr> <tr> <td>3. カフェ・デ・モンク (宗教者による被災地支援の実情)</td> <td>10. 宗教間対話</td> </tr> <tr> <td>4. スピリチュアルケアと宗教的ケア</td> <td>11. 心霊現象と宗教者の対応</td> </tr> <tr> <td>5. 終末期医療と宗教者</td> <td>12. 臨床宗教師の社会実装(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 原発事故被害と宗教者の役割</td> <td>13. 臨床宗教師の社会実装(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 臨床宗教師の倫理 (欧米のチャプレンの活動を踏まえて)</td> <td>14. 臨床宗教師の社会実装(3)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 臨床宗教師の社会実装(4)</td> </tr> </table>						1. 【各回の内容、担当講師の詳細は未定です。決定し次第掲示等で告知します。】 臨床宗教師の理念	8. 民間信仰論	2. グリーフケアと宗教	9. カウンセリングにおける霊の問題	3. カフェ・デ・モンク (宗教者による被災地支援の実情)	10. 宗教間対話	4. スピリチュアルケアと宗教的ケア	11. 心霊現象と宗教者の対応	5. 終末期医療と宗教者	12. 臨床宗教師の社会実装(1)	6. 原発事故被害と宗教者の役割	13. 臨床宗教師の社会実装(2)	7. 臨床宗教師の倫理 (欧米のチャプレンの活動を踏まえて)	14. 臨床宗教師の社会実装(3)		15. 臨床宗教師の社会実装(4)
1. 【各回の内容、担当講師の詳細は未定です。決定し次第掲示等で告知します。】 臨床宗教師の理念	8. 民間信仰論																					
2. グリーフケアと宗教	9. カウンセリングにおける霊の問題																					
3. カフェ・デ・モンク (宗教者による被災地支援の実情)	10. 宗教間対話																					
4. スピリチュアルケアと宗教的ケア	11. 心霊現象と宗教者の対応																					
5. 終末期医療と宗教者	12. 臨床宗教師の社会実装(1)																					
6. 原発事故被害と宗教者の役割	13. 臨床宗教師の社会実装(2)																					
7. 臨床宗教師の倫理 (欧米のチャプレンの活動を踏まえて)	14. 臨床宗教師の社会実装(3)																					
	15. 臨床宗教師の社会実装(4)																					
◇ 成績評価の方法	出席回数、毎回提出のコメントによる。																					
◇ 教科書・参考書	特に指定しないが授業内で適宜指示する。																					
◇ 授業時間外学習	授業内で指示する参考文献等で学習を深める。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 村上 祐子	3	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS204E																				
◆ 授業題目	logic via puzzle																				
◆ 目的・概要	This course is an introductory logic (propositional logic and first-order logic) using puzzles. Students are expected to work in group on logical puzzles to understand tricks of logic. No prerequisite, but experiences in informal logic will be helpful. The language in class is English mainly for international students, but Japanese students are encouraged to register to enforce English communication skills.																				
◆ 到達目標	To understand propositional logic and some first-order logic.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction Puzzles (1)</td> <td>9. Puzzles again (2)</td> </tr> <tr> <td>2. Puzzles (2)</td> <td>10. Puzzles again (3)</td> </tr> <tr> <td>3. Puzzles (3)</td> <td>11. Puzzles again (4)</td> </tr> <tr> <td>4. Introduction to symbolic logic (1)</td> <td>12. Logical reasoning (1)</td> </tr> <tr> <td>5. Introduction to symbolic logic (2)</td> <td>13. Logical reasoning (2)</td> </tr> <tr> <td>6. Introduction to symbolic logic (3)</td> <td>14. Logical reasoning (3)</td> </tr> <tr> <td>7. Introduction to symbolic logic (4)</td> <td>15. Wrap-up.</td> </tr> <tr> <td>8. Puzzles again (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. Introduction Puzzles (1)	9. Puzzles again (2)	2. Puzzles (2)	10. Puzzles again (3)	3. Puzzles (3)	11. Puzzles again (4)	4. Introduction to symbolic logic (1)	12. Logical reasoning (1)	5. Introduction to symbolic logic (2)	13. Logical reasoning (2)	6. Introduction to symbolic logic (3)	14. Logical reasoning (3)	7. Introduction to symbolic logic (4)	15. Wrap-up.	8. Puzzles again (1)	
1. Introduction Puzzles (1)	9. Puzzles again (2)																				
2. Puzzles (2)	10. Puzzles again (3)																				
3. Puzzles (3)	11. Puzzles again (4)																				
4. Introduction to symbolic logic (1)	12. Logical reasoning (1)																				
5. Introduction to symbolic logic (2)	13. Logical reasoning (2)																				
6. Introduction to symbolic logic (3)	14. Logical reasoning (3)																				
7. Introduction to symbolic logic (4)	15. Wrap-up.																				
8. Puzzles again (1)																					
◇ 成績評価の方法	100% class participation (including in-class quizzes)																				
◇ 教科書・参考書	Raymond Smullyan (2008) Logical Labyrinths. CRC Press.																				
◇ 授業時間外学習	Problems in the textbook will be assigned for homework to prepare for in-class discussion.																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 村上 祐子	4	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS204E																				
◆ 授業題目	Japanese culture through go																				
◆ 目的・概要	There are three sorts of class activities. First of all, students are to learn to play Go. They need to know the rules. Quizzes will examine whether they can write down the rules in an everyday language (either in English or in Japanese). Second, they are to learn strategies and techniques to play Go. Due to class time restriction, the game board in class is limited to the smallest 4 by 4 board, although the strategies are different from those for the full 19 by 19 board. Moreover, there is an iPhone/iPad app, Cho U's 4 by 4 Go Puzzle to help students to practice out of the classroom. They are also expected to play the game in and out of the classroom. Finally, some lecture and discussion on cultural aspects of the game. Proverbs, myths, and historical episodes will be explained. Students are to offer a presentation about cultural influences of a game in their home country.																				
◆ 到達目標	To understand cultural influences of games especially in Japanese culture.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction. Some game rules (territory, the winning condition, how to capture stones). Practice games.</td> <td>9. Student presentations (4)</td> </tr> <tr> <td>2. Practice games and Introduction to strategy. (1)</td> <td>10. Games in Japanese society (1)</td> </tr> <tr> <td>3. Practice games and Introduction to strategy. (2)</td> <td>11. Games in Japanese society (2)</td> </tr> <tr> <td>4. Practice games and Introduction to strategy. (3)</td> <td>12. Games in Japanese society (3)</td> </tr> <tr> <td>5. Cultural influences of Go in Japan. Strategy (4)</td> <td>13. Games in Japanese society (4)</td> </tr> <tr> <td>6. Student presentations (1)</td> <td>14. Study visit to Gokaisho.</td> </tr> <tr> <td>7. Student presentations (2)</td> <td>15. Wrap-up.</td> </tr> <tr> <td>8. Student presentations (3)</td> <td></td> </tr> </table>					1. Introduction. Some game rules (territory, the winning condition, how to capture stones). Practice games.	9. Student presentations (4)	2. Practice games and Introduction to strategy. (1)	10. Games in Japanese society (1)	3. Practice games and Introduction to strategy. (2)	11. Games in Japanese society (2)	4. Practice games and Introduction to strategy. (3)	12. Games in Japanese society (3)	5. Cultural influences of Go in Japan. Strategy (4)	13. Games in Japanese society (4)	6. Student presentations (1)	14. Study visit to Gokaisho.	7. Student presentations (2)	15. Wrap-up.	8. Student presentations (3)	
1. Introduction. Some game rules (territory, the winning condition, how to capture stones). Practice games.	9. Student presentations (4)																				
2. Practice games and Introduction to strategy. (1)	10. Games in Japanese society (1)																				
3. Practice games and Introduction to strategy. (2)	11. Games in Japanese society (2)																				
4. Practice games and Introduction to strategy. (3)	12. Games in Japanese society (3)																				
5. Cultural influences of Go in Japan. Strategy (4)	13. Games in Japanese society (4)																				
6. Student presentations (1)	14. Study visit to Gokaisho.																				
7. Student presentations (2)	15. Wrap-up.																				
8. Student presentations (3)																					
◇ 成績評価の方法	100% class participation (including student presentations and quizzes).																				
◇ 教科書・参考書	Cho U (Chang Hsu) (2011) Yonro no Go (in Japanese) Gento Sha Educational. ISBN: 978-4-344-97587-3 http://www.gentosha-edu.co.jp/products/post-95.html Optional app: Nihon Kiin. Cho U's 4 by 4 Go Puzzle. (iPhone/iPad app. Available in Japanese, English, Chinese, and Korean) https://itunes.apple.com/app/ri-ben-qi-yuan-zhang-xuno/id517153034?mt=8																				
◇ 授業時間外学習	To research cultural material about games according to instructions in class.																				
その他：The course is conducted in English.																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 村上 祐子	3	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS204J																				
◆ 授業題目	仙台・東北の魅力を海外に発信する I																				
◆ 目的・概要	日本人・留学生どちらも歓迎です。自分が海外に留学して生活するとしたら、事前に、また滞在中にどのような情報が欲しいでしょうか？いまそこにある情報で十分でしょうか？逆に海外の方に来てほしいとしたら、何をアピールしたいでしょうか？もう各種メディアで紹介されているいろいろな魅力のほか、地元にいるからわかっていて教えてあげたい魅力はありませんか？この授業では仙台・東北に関する情報を外国語で海外に発信するプロジェクトに取り組みます。学内外の魅力について、パンフレットを作成し、プレゼンテーションする演習を行います。留学生の方は日本について自分が欲しかった情報を教えてください。自分の後輩に仙台を紹介するとしたら、どのポイントを選びますか？また授業時間外に海外からのゲストと話す機会もお知らせしますので、ぜひ参加してください。使用言語は参加者に応じて日本語と英語のどちらかまたは両方となります。																				
◆ 到達目標	日本語・外国語でのコミュニケーションスキル・プレゼンテーションスキルを磨く。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション。課題1説明。ディスカッション。</td> <td>9. 課題2(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 課題1(1)</td> <td>10. 課題2(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 課題1(2)</td> <td>11. 課題2発表(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 課題1(3)</td> <td>12. 課題2発表(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 課題1(4)</td> <td>13. 実習1</td> </tr> <tr> <td>6. 課題1発表(1)</td> <td>14. 実習2</td> </tr> <tr> <td>7. 課題1発表(2)、課題2説明</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 課題2(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション。課題1説明。ディスカッション。	9. 課題2(2)	2. 課題1(1)	10. 課題2(3)	3. 課題1(2)	11. 課題2発表(1)	4. 課題1(3)	12. 課題2発表(2)	5. 課題1(4)	13. 実習1	6. 課題1発表(1)	14. 実習2	7. 課題1発表(2)、課題2説明	15. まとめ	8. 課題2(1)	
1. イントロダクション。課題1説明。ディスカッション。	9. 課題2(2)																				
2. 課題1(1)	10. 課題2(3)																				
3. 課題1(2)	11. 課題2発表(1)																				
4. 課題1(3)	12. 課題2発表(2)																				
5. 課題1(4)	13. 実習1																				
6. 課題1発表(1)	14. 実習2																				
7. 課題1発表(2)、課題2説明	15. まとめ																				
8. 課題2(1)																					
◇ 成績評価の方法	100% 授業参加（ディスカッション・プレゼンテーション。授業外課題提出を含む）																				
◇ 教科書・参考書	授業内で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	プレゼンテーションやパンフレットの作成は授業時間外の課題とします。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 村上 祐子	4	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS204J																				
◆ 授業題目	仙台・東北の魅力を海外に発信する II																				
◆ 目的・概要	日本人・留学生どちらも歓迎です。自分が海外に留学して生活するとしたら、事前に、また滞在中にどのような情報が欲しいでしょうか？いまそこにある情報で十分でしょうか？逆に海外の方に来てほしいとしたら、何をアピールしたいでしょうか？もう各種メディアで紹介されているいろいろな魅力のほか、地元にいるからわかっていて教えてあげたい魅力はありませんか？この授業では仙台・東北に関する情報を外国語で海外に発信するプロジェクトに取り組みます。学内外の魅力について、パンフレットを作成し、プレゼンテーションする演習を行います。留学生の方は日本について自分が欲しかった情報を教えてください。自分の後輩に仙台を紹介するとしたら、どのポイントを選びますか？また授業時間外に海外からのゲストと話す機会もお知らせしますので、ぜひ参加してください。使用言語は参加者に応じて日本語と英語のどちらかまたは両方となります。前期との連続履修は可としますが、前期に取り組みなかったトピックを選んでください。																				
◆ 到達目標	日本語・外国語でのコミュニケーションスキル・プレゼンテーションスキルを磨く。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション。課題1説明。ディスカッション。</td> <td>9. 課題2(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 課題1(1)</td> <td>10. 課題2(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 課題1(2)</td> <td>11. 課題2発表(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 課題1(3)</td> <td>12. 課題2発表(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 課題1(4)</td> <td>13. 実習1</td> </tr> <tr> <td>6. 課題1発表(1)</td> <td>14. 実習2</td> </tr> <tr> <td>7. 課題1発表(2)、課題2説明</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 課題2(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション。課題1説明。ディスカッション。	9. 課題2(2)	2. 課題1(1)	10. 課題2(3)	3. 課題1(2)	11. 課題2発表(1)	4. 課題1(3)	12. 課題2発表(2)	5. 課題1(4)	13. 実習1	6. 課題1発表(1)	14. 実習2	7. 課題1発表(2)、課題2説明	15. まとめ	8. 課題2(1)	
1. イントロダクション。課題1説明。ディスカッション。	9. 課題2(2)																				
2. 課題1(1)	10. 課題2(3)																				
3. 課題1(2)	11. 課題2発表(1)																				
4. 課題1(3)	12. 課題2発表(2)																				
5. 課題1(4)	13. 実習1																				
6. 課題1発表(1)	14. 実習2																				
7. 課題1発表(2)、課題2説明	15. まとめ																				
8. 課題2(1)																					
◇ 成績評価の方法	100% class participation (including in-class quizzes) 100%授業参加（小テストあり）																				
◇ 教科書・参考書	Raymond Smullyan (2008) Logical Labyrinths. CRC Press. 日本語訳：スマリヤン (2014) 数理論理学—述語論理と完全性定理。同じ内容ですので、使いやすさほうを使ってください。																				
◇ 授業時間外学習	Problems in the textbook will be assigned for homework to prepare for in-class discussion.																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 クレイグ・クリストファー	3	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS204E				
◆ 授業題目	Modern Japanese History 近代日本の歴史				
◆ 目的・概要	従来の日本史の教え方とアプローチを変え、世界史の一環として日本の近代史を学ぶ。世界という観点から日本を学ぶことによって、日本の近代・現代世界における位置の理解を深める。扱う時代は1800年から現在までである。日本史に関する最近の英語で書かれた文献を紹介して、それを資料として質疑応答などし歴史学の考え方を学ぶ。与えられた日本史の英語文献を読み、英語で論文を作成することにより、英語圏のアカデミックな日本史を学ぶだけではなく、英論文作成を学ぶことができる。 This course covers Japanese history from 1800 to the present, with a focus on the country's history as one aspect of modern world history. Students will read widely from recent English-language historical scholarship and develop their skills as historians and writers through written responses.				
◆ 到達目標	近代日本史に関する歴史学的な問題や主要な文献を意識する。 英語での歴史学のあり方を理解する。 The primary goal of the class is for students to gain familiarity with the major historical issues connected to modern Japan and the important works of English-language scholarship on these issues.				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. (Note: Lecture topics may change over the course of the semester) The Twilight of the Tokugawa: Japan in 1800 2. The Best of Times, the Worst of Times: Japan 1790-1844 3. Black Ships and Revolutions 4. Making Meiji: Establishing the State 5. New Days in Meiji Japan: The Cultural Revolution 6. Whither Imperialism?: Early Meiji Foreign Relations 7. Imperialism II : Bestial Inoculation 8. Can't Win for Losing: World War I and Imperial Democracy 9. Erotic, Grotesque, Nonsense: Authoritarian Backlash 10. Apocalypse: The Greater East Asian War 11. Atomic Peace: The American Occupation 12. The Three Deaths: Economy, Labor, Politics, 1950-1960 13. The Miraculous and the Mundane: Back in the World, 1960-1980 14. Gilded Toilets and Bursting Bubbles: Economic Crash 15. The Post-Postwar Final Exam 				
◇ 成績評価の方法	3回のリアクション・ペーパー [40%]・最終日のテスト [40%]・出席 [20%] 3 reading response papers [40%], Final exam [40%], Attendance [20%]				
◇ 教科書・参考書	各時間に適宜資料を配布する。 Readings will be distributed for each class.				
◇ 授業時間外学習	各時間の前に適宜資料を読む。3回資料のリアクション・ペーパーを書く。 Class readings are to be completed before class meetings. 3 reading responses are to be submitted during the semester.				
その他： This class is taught in English. All readings are in English and all assignments and tests are to be submitted in English.					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 クレイグ・クリストファー	3	火	3
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS204E				
◆ 授業題目	Japanese Culture and Society 日本文化と社会				
◆ 目的・概要	This course is an introduction to the culture and society of modern Japan and to the academic study of culture and society in Japan and elsewhere. By examining a number of topics related to contemporary culture and society, students will be introduced to recent English-language academic literature and the issues that concern social scientists and researchers. Student participation is an important element, and the class will be structured to incorporate the experiences of students in their daily lives in Japan, with student presentations designed to encourage students to apply an academic perspective to their current circumstances.				
◆ 到達目標	A major goal of this course is to develop a rigorous framework of critical thinking regarding society and culture. We will attempt to demystify the idea of Japan and its culture and problematize many of the essentialist ideas that surround "Japanese culture," both inside and outside Japan.				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. (Note: Lecture topics may change over the course of the semester) Introduction: The Myth of National Culture 2. Background: Japan since World War 2 3. Middleness and Disparity: Class in Contemporary Japan 4. Town and Country: Urban and Rural Society 5. The Plight of Regional Cities 6. Gender and Work 7. The Changing Nature of Employment 8. Education and Class 9. Youth, Crime, and Punishment 10. Men, Women, and Families 11. Self and Other in Japan 12. Invisibility and Minority 13. The Foreign in the Everyday 14. 3.11 15. Wrap-up Presentations 				
◇ 成績評価の方法	Presentation [40%], Paper [40%], Attendance [20%]				
◇ 教科書・参考書	Readings will be distributed for each class.				
◇ 授業時間外学習	Class readings are to be completed before class meetings.				
その他： This class is taught in English. All readings are in English and all assignments are to be submitted in English.					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 クレイグ・クリストファー	4	火	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMOHS204E Japanese Culture and Society 日本文化と社会 This course is an introduction to the culture and society of modern Japan and to the academic study of culture and society in Japan and elsewhere. By examining a number of topics related to contemporary culture and society, students will be introduced to recent English-language academic literature and the issues that concern social scientists and researchers. Student participation is an important element, and the class will be structured to incorporate the experiences of students in their daily lives in Japan, with student presentations designed to encourage students to apply an academic perspective to their current circumstances.				
◆ 到達目標	A major goal of this course is to develop a rigorous framework of critical thinking regarding society and culture. We will attempt to demystify the idea of Japan and its culture and problematize many of the essentialist ideas that surround "Japanese culture," both inside and outside Japan.				
◆ 授業内容・方法	1. (Note: Lecture topics may change over the course of the semester) Introduction: The Myth of National Culture 2. Background: Japan since World War 2 3. Middleness and Disparity: Class in Contemporary Japan 4. Town and Country: Urban and Rural Society 5. The Plight of Regional Cities 6. Gender and Work 7. The Changing Nature of Employment 8. Education and Class 9. Youth, Crime, and Punishment 10. Men, Women, and Families 11. Self and Other in Japan 12. Invisibility and Minority 13. The Foreign in the Everyday 14. 3.11 15. Wrap-up Presentations				
◇ 成績評価の方法	Presentation [40%], Paper [40%], Attendance [20%]				
◇ 教科書・参考書	Readings will be distributed for each class.				
◇ 授業時間外学習	Class readings are to be completed before class meetings.				
その他： This class is taught in English. All readings are in English and all assignments are to be submitted in English.					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 総 合 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	教授 尾崎彰宏	集 中 (3)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMOHS204J Features of Contemporary Japanese Culture The purpose of this course is for students to develop your own ideas about contemporary Japanese culture through critical reading, reflecting on your own experiences in and outside Japan and in-class discussions. Since you have been living and studying in Japan, the content of this course becomes student generated. While a number of features of contemporary Japanese culture may be introduced, the course focuses on what features have impacted on you, and how you have come to explain and critique them. What does 'contemporary Japanese culture' mean to you? How has your answer to this question been influenced? The course raises the tensions between domestic and international consumption of contemporary Japanese culture and asks the question, 'What is Japan for?'				
◆ 到達目標	While each student brings his or her own ideas regarding contemporary Japan culture to this course, one goal is to unpack these ideas to understand how they were formed. The emphasis in this course is to learn how to be critical in presentation, writing and discussion. Our assumptions and beliefs about how we have constructed 'contemporary Japanese culture' are open for informed debate and scrutiny. Another goal of the course is to provide a space for informed exchange of ideas. The emphasis is on how individuals and groups can effectively share their views while respecting the views of others.				
◆ 授業内容・方法	1. June 2nd Self-Introduction and Needs Analysis Structuring the course: potential features to consider; 'student lead class'; assessment tasks; other business 2. June 9th Student lead class ① + Reading/Writing Activity Student lead class ② + Reading/Writing Activity 3. June 16th Student lead class ③ + Reading/Writing Activity Student lead class ④ + Reading/Writing Activity 4. June 23rd Student lead class ⑤ + Reading/Writing Activity Review ①: Instructor Presentation ① 5. June 30th Student lead class ⑥ + Reading/Writing Activity Student lead class ⑦ + Reading/Writing Activity 6. July 7th Student lead class ⑧ + Reading/Writing Activity Student Presentations ① + Reading/Writing Activity 7. July 14th Student Presentations ② + Reading/Writing Activity Supplementary Assessment Tasks + Reading/Writing Activity 8. July 21st Review ②: Instructor Presentation ②				
◇ 成績評価の方法	There is one COMPULSORY assessment task – Student Presentation (70%). Depending on the size of the class, students form small groups to work together on a presentation that will be delivered in either Class 12 (July 7th) or 13 (July 14th). The content of the presentation must deal with a feature of contemporary Japanese culture. The presentation must posit an Essential Question and then each member of the group together creates an answer to it in a clear and concise manner. Each member of the group must present. There must be an Introduction, Main Argument (an answer to your question), and Conclusion to your presentation. Time will be set aside for Q&A. Length of the presentation (time) will be determined by how many students there are in the class. Each group must also submit a printed copy of the presentation to the instructor. Assessed by students and instructor. There are two other assessment tasks – non-compulsory. This means you can do them or not, the choice is yours. You may be able to pass the course by only doing the compulsory assessment task described above, it depends on how good your presentation is, but if you want a better grade you will do these other tasks as well. 1. Reading and Writing Activities during course (10%) – in each class there will be a brief reading and writing activity that can be submitted for grading by the instructor. Submit a maximum of five activity sheets (2% each) or just one (10%), your choice. Instructor assessed. 2. Choose one from a) 500-750 word written essay or b) 5 minute video essay (20%). Self and instructor assessed. a. Essay – using the essential question asked in your presentation, write an essay of between 500-750 words in English offering an answer. b. Video essay – using the essential question asked in your presentation, create a 5 minute video in spoken English offering an answer.				
◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	no textbook Tohoku-daigaku Library resources References Internet japantoday.com http://www.nippon.com/en/views/b001/ http://www.city.sendai.jp/kikaku/kokusai/english/ https://www.ana-cooljapan.com http://youtu.be/RwCqeTjGNDI In other languages?? Article McGray, Douglas (2002). Japan's Gross National Cool. Foreign Policy, May/June, 44-54. Other articles may be suggested during the course. http://www.sentabijp/en/ http://www.jnto.go.jp/eng/location/regional/miyagi/sendai.html http://youtu.be/XWISDdDPJEs http://thechronicle.jp (in Japanese)				
その他： This course will be offered by William S. ARMOUR. There is also an opportunity for us to visit the Ishinomori Mangattan Museum located 1km walk from Ishinomaki Station (http://www.man-bow.com/manga/). Details to be discussed with the group.					

専修以外の発展科目一覧

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
博 物 館 概 論	博物館概論	2	㊦	岡 部 幹 彦	集 中 (6)			287
博 物 館 経 営 論	体験的学芸員論	2	㊦	井 上 研 一 郎	集 中 (5)			287
博 物 館 資 料 論	博物館資料・標本の特性	2		藤 澤 敦	6	金	1	288
博 物 館 資 料 保 存 論	博物館資料保存の方法と実務	2	㊦	水 澤 教 子	集 中 (5)			288
博 物 館 展 示 論	博物館展示の理論と実践	2	㊦	水 澤 教 子	集 中 (6)			289
博物館情報・メディア論	博物館における情報とメディア—工芸品の研究を実例に—	2	㊦	永 島 明 子	集 中 (5)			289
博 物 館 実 習 II	史料整理・保存の理論と方法	2		籠 橋 俊 光	5	金	4・5	290
博 物 館 実 習 III	考古学資料分析法	2		阿 子 島 喜 香 鹿 又 喜 隆	6	水	3・4	290
博 物 館 実 習 V	西洋美術の基礎知識と調査入門	2		尾 崎 彰 宏 芳 賀 京 子	5	火	3・4	291
博 物 館 実 習 VI	館園実習	1		藤 澤 敦	集 中 (5)			291
地 理 学 B	都市地理学からみた仙台	2	㊦	村 山 良 之	5	木	2	292
地 誌 学	都市社会の諸相・諸課題	2	㊦	小 田 隆 史	5	水	1	292
キ リ ス ト 教 史	世界の中のキリスト教	2		木 村 敏 明	6	水	2	293
書 道	書表現の基礎(一) (漢字)	2	㊦	下 田 真 奈 美	5	木	4	293
書 道	書表現の基礎(二) (かな)	2	㊦	下 田 真 奈 美	6	木	4	294
日本語・日本文化論講読	古典講読 I	2		高 橋 章 則	5	月	2	294
日本語・日本文化論講読	古典講読 II	2		高 橋 章 則	6	月	2	295
日本語・日本文化論講読	現代評論講読 I	2		高 橋 章 則	5	水	2	295
日本語・日本文化論講読	現代評論講読 II	2		高 橋 章 則	6	水	2	296
日本語・日本文化論講読	Reading and Translation Fundamentals for Japanese History	2		クレイグ・クリストファー	6	火	4	296
日 本 語 表 現 論	日本語表現論 I	2		高 橋 章 則	5	木	2	297
日 本 語 表 現 論	日本語表現論 II	2		高 橋 章 則	6	木	2	297

職業関連科目一覧

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
インターンシップ	インターンシップ (就業・ボランティア体験)	2	入 試 就 職 室 就 職 ・ 渉 外 担 当	3・4			298

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
博 物 館 概 論 M u s e o l o g y (G e n e r a l L e c t u r e)	2	非常勤 講師 岡 部 幹 彦	集 中 (6)		
◆ 科目ナンバリング	LHMCUM301J				
◆ 授業題目	博物館概論				
◆ 目的・概要	博物館の目的と機能、歴史と法制度等について学習し、併せて日本の博物館の現状と課題について分析し、学芸員の果たすべき役割を理解する。スライドを用いて講義形式で進行するが、テーマを設け意見を求めるなど、適宜対話形式をとる。実物資料を用いるほか、内外の事例に関する映像等を数多く紹介する。				
◆ 到達目標	博物館の社会的存在意義と本質的な機能を理解し、これからの博物館活動の方向性を考えるうえで必要な基礎的な知識を修得する。				
◆ 授業内容・方法	1. 《ガイドダンス》博物館の歴史(1) 2. 博物館の歴史(2) 日本の博物館史 —内国勸業博覧会とその後— 3. 統計資料にみる博物館像 —日本の博物館の典型的な姿と課題— 4. 博物館の定義 —博物館法とICOMの定義にみるモノ・コト・ヒトと環境— 5. 観覧と情報提供 —モノを観る行為の本質と情報の提供— 6. 博物館の機能とモノ・コト・ヒト —展示と教育を中心に— 7. 博物館の機能と資料保存 —博物館資料と地域資料— 8. 博物館の機能と教育・学習(1) —博物館における自由な学び— 9. 博物館の機能と教育・学習(2) —学びの契機と学びのサポート— 10. 地域博物館 —運動体の核としての博物館— 11. 地域博物館 —実践事例に学ぶ— 12. 博物館資料とメディア —ICTとデジタルアーカイブズ— 13. 博物館と法令(1) —博物館法・文化財保護法と関係法令— 14. 博物館と法令(2) —著作権・情報公開・個人情報— 15. まとめ —学芸員の役割—				
◇ 成績評価の方法	授業への取り組み姿勢とレポートにより総合的に評価する。				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。プリントを配布または参考図書を適宜示す。				
◇ 授業時間外学習	多くの博物館・美術館のウェブサイトを見、身近な博物館・美術館を訪れて館案内リーフレットや展示リスト、事業案内(参加募集チラシ)等を入力し、少なくとも利用者として博物館・美術館を理解しておくこと。また、特別展(企画展)や常設展を観覧して、展示テーマや展示構成、展示方法、展示設備等と、観覧者の反応などを観察すること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
博 物 館 経 営 論 M u s e u m a d m i n i s t r a t i o n	2	非常勤 講師 井 上 研 一 郎	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHMCUM302J				
◆ 授業題目	体験的学芸員論				
◆ 目的・概要	「経営」とは、組織を管理・運営することである。「経営」は社長や館長だけの仕事ではない。組織の構成員全体が、分担している業務に自覚を持って臨まなければ組織の存続・発展は危うい。博物館の学芸員にも、当然ながら専門的な知識だけでなく、博物館を管理・運営する能力が求められる。この講義では、博物館経営に関して学芸員として基本的に身に付けておくことが望ましい能力とはなにか、さまざまな事例を通して具体的に紹介する。				
◆ 到達目標	*毎回、画像や録画映像により全国各地の主要ミュージアム、ユニークな施設等の紹介を行う。 博物館という組織がさまざまな職種の職員によって構成され、有機的なつながりの中で活動していること、また地域社会の中で学校教育とともに重要な教育的機能を果たしているだけでなく共同体意識の醸成に欠かせない機能をもっていることを理解し、そのなかで学芸員が果たすべき役割について具体的に理解することをめざす。				
◆ 授業内容・方法	1. オリエンテーション—こんな博物館、あんな博物館 2. 博物館という怪物(1)—博物館にはどんな人が働いているか 3. 博物館という怪物(2)—博物館はどんな機能を必要とするか 4. 博物館という怪物(3)—博物館はどれくらいカネを必要とするか 5. 展覧会という虚構(1)—展覧会はどのように企画されるか 6. 展覧会という虚構(2)—展覧会はどのように準備されるか 7. 展覧会という虚構(3)—展覧会にはどれだけカネと労力が必要か 8. 博物館の使命と評価—博物館は何をめざすのか、何を評価するのか 9. 博物館の危機管理—博物館が守るべきは、モノか、ヒトか、組織か 10. ミュージアムショップとレストラン—もはやついたりではない 11. 地域社会と博物館—博物館はコミュニティの中核になれるか 12. 市民との連携—友の会／ボランティアは肩代わり組織か 13. 博物館の運営形態—博物館の方針は誰が決めるのか 14. 博物館のネットワーク—もはや孤立はありえない 15. まとめ—博物館はどこへ行くのか				
◇ 成績評価の方法	毎回ワークシートに記入された感想、質問により学習内容に対する関心、意欲の深化を判定する。(50%) 最終レポート(50%)を含めて総合的に評価する。				
◇ 教科書・参考書	(参考書として) 木下史青『博物館へ行こう』岩波ジュニア新書 840円+税 草薙奈津子『美術館へ行こう』岩波ジュニア新書 820円+税				
◇ 授業時間外学習	必修展覧会の観覧：講義期間前後に仙台市内および近辺で開催される展覧会のいくつかを指定するので、各自観覧すること。観覧した展覧会について簡単なレポートを提出すれば、総合評価に適宜加算する。詳細は教室で指示する。				
その他：少なくとも「博物館概論」「博物館教育論」を先に履修しておくことが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
博 物 館 資 料 論 M u s e u m a r t i f a c t s	2	教授 藤 澤 敦	6	金	1
◆ 科目ナンバリング	LHMCUM303J				
◆ 授業題目	博物館資料・標本の特性				
◆ 目的・概要	博物館の資料・標本には、多様な分野のものがあ、それぞれで特性が異なっている。その特性の違いに応じて、資料の収集と整理保管等の取り扱いの考え方や方法、調査研究の方法も異なっている。本講義では、古生物・考古・美術史等の各分野の資料標本について、4人の教員が各専門分野から、博物館資料としての特性を講義する。				
◆ 到達目標	博物館資料の多様性について理解する。博物館の資料としての、古生物・考古・美術史等の各分野の資料標本の特性について理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と進め方の説明および導入 2. 博物館法における博物館資料 3. 考古資料の種類と特質 4. 考古学陳列館見学 5. 考古資料の収集と管理 6. 地学系の博物館資料(1) 7. 地学系の博物館資料(2) 8. 地学系の博物館資料(3) 9. 地学系の博物館資料(4) 10. 美術資料研究の歴史—江戸時代以前 11. 美術資料研究の歴史—明治時代 12. 資料研究—中尊寺経 13. 東日本大震災と博物館資料 14. 広がる博物館資料 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	筆記試験と出席				
◇ 教科書・参考書	プリント資料を随時配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。				
◇ 授業時間外学習	前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
博 物 館 資 料 保 存 論 M u s e u m p r e s e r v a t i o n	2	非常勤講師 水 澤 教 子	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHMCUM304J				
◆ 授業題目	博物館資料保存の方法と実務				
◆ 目的・概要	博物館における資料保存の学史を通してその意義を理解する。また、博物館資料について素材別に適切な保存を行うための知識を身につけ、その方法と技術を学ぶ。さらに守り伝えられた資料によって広がる世界を実感し、調査研究や普及公開への道筋を把握する。特に歴史資料に関し、事前の科学分析、脆弱遺物を対象にした手仕事での保存処理、優先順位をつけての修復、保管方法と保管環境への配慮、展示という学芸員の一連の取り組みの例示や、作業におけるエピソードを通じて、資料保存に対する博物館学芸員としての基本的な知識や技術と特に留意すべき点を、具体的かつ実践的に修得する。				
◆ 到達目標	博物館における資料ならびにその展示環境、収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための基礎的知識の修得をめざし、あわせて資料保存のための能力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「資料保存の哲学」：博物館学における資料保存論の位置づけと博物館で資料を保存する意義を理解する。 2. 「博物館資料としての文化財」：博物館資料と文化財の定義と内容をジャンル別に把握する。文化財の体系と文化財保護法、エコミュージアムや自然環境の保護への取り組みの状況を理解する。 3. 「資料保存の学史と災害対策」：資料保存の学史を、博物館の設立、各種法律の制定、学問としての保存科学の発展の3側面から学ぶ。また、各種災害への対策を実例を通して理解する。 4. 「資料保存の諸条件」：資料劣化の原因となる温湿度、光、室内汚染について、その現状と対策の具体的な方法を、博物館における事例から学ぶ。 5. 「くん蒸とIPM」：博物館における生物被害の実態を整理し、ガスくん蒸とその方法並びに環境上の影響からここ10年の中で導入されたIPMの具体的な方法と今後の可能性について学ぶ。 6. 「資料の梱包と安全な輸送」：資料を安全に運搬するための形態別・素材別梱包方法を会得する。輸送のための留意点や、立ち会いの方法等について学習する。 7. 「金属製品の状態調査」：金属製品の構造や劣化状態の調査方法として主にX線透過撮影、分析SEMによる元素分析を取り上げる。分析機器の原理、構造調査等の方法、またその結果確認できる歴史的事実、そしてそれを公開する方法と意義について整理する。 8. 「展示室の環境と資料保存」：博物館を訪問して展示室と収蔵庫の環境保全の工夫について具体的に見学し、理解を深める。 9. 「保存科学と修理」：博物館の機器を用いての、保存処理と修理の実践的な方法について具体的に見学し、より深く学習する。 10. 「地域資源の保護と活用」：有形文化財のうち建造物、並びに史跡、名勝、天然記念物の保護の歴史を学び、その必要や活用の方向性を考察する。 11. 「無機質遺物の保存科学」：土器・石器・金属器・ガラス等の出土時の応急処置方法及び恒久的な保存処理方法、博物館で劣化が発生した場合の処置方法についての詳細、さらに保存処理が完了した資料を取り扱う場合の注意点を整理する。 12. 「木製品の科学的調査」：資料の保存処理の事前分析として科学的調査が必要である。特に木質遺物や漆文書等の赤外線調査は歴史的な情報の抽出方法としても重要であり、その原理と技術、具体的な事例を取り上げ、実例をもとに解説する。 13. 「木製品の保存科学」：木製品・種実類・漆製品など有機質遺物の保存処理方法を具体的に紹介し、保存処理が完了した博物館資料に劣化が起こった場合の処置方法や、劣化を引き起こさないための資料の取り扱い上の注意点、保管方法を整理する。 14. 「土器・土製品の理化学分析」：土器の胎土分析は、素材調査と考古資料としての産地推定の両方の目的をもっている。本講では砂の光学顕微鏡分析と粘土の化学組成分析を組み合わせ実践される方法を詳細に解説し、博物館での具体的な分析・展示事例として紹介する。 15. 「文化財を未来へ伝える意義の確認と試験」：博物館における資料保存の意義を理解する。 				
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [40%]・(○) 出席 [60%]				
◇ 教科書・参考書	プリント資料を随時配布する。また参考文献について講義中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	予習として事前に可能な範囲で博物館や美術館を訪問し、自分なりの博物館のイメージを作る。復習として木製品、金属製品などを展示している博物館を訪問し、資料の状態や展示の方法等授業で学んだ点に留意して確認してみる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
博 物 館 展 示 論 Museum exhibit planning and design	2	非常勤 講師 水 澤 教 子	集 中 (6)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMCUM305J 博物館展示の理論と実践 展示は、博物館が収集・整理・保存して蓄積した資料を学際的な領域から調査研究して情報を引き出し、学術的かつ教育的な配慮のもとに、一般に広く公開することであり、博物館活動の要である。そして展示に込めた学芸員や博物館のメッセージは学術的にも社会的にも恩恵を与えるものでなければならない。本科目では、様々な展示の形態や歴史を知るとともに、展示の理論や方法論を把握し、さらに資料から展示を組み立てるにあたっての具体的な技術を修得することを目的とする。また、展示そのもの以外にも展示を構成する博物館での様々な取り組みを、実践例をもとに具体的に整理しながら紹介し、自主的に考え、実践できるような能力を養成する。				
◆ 到達目標	展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を修得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「博物館と展示」：博物館の分類・種類を確認し、それぞれの意義や役割どのような展示が行われてきたかを実例をもとに概観する。特に総合博物館、自然史博物館、歴史博物館、美術館の代表例を取り上げる。 2. 「展示と展示論の歴史」：ディスプレイとしての展示と展示論の学史を具体例を参考にしながら学ぶ。また日本の博物館の歴史を展示の視点から整理するとともに、明治時代以来展示の目的と理念がどのように考えられ説明されてきたかを概観する。 3. 「展示の政治性と社会性」：博物館の展示が社会教育、生涯教育と深く関係する事例として、第一に戦争と展示、第二に民族と展示を具体的に取り上げて解説する。 4. 「展示の諸形態」：展示の形態に関して、展示意図の有無、提示型と説示型、見学者の参加の有無、学術的な視座など12種類の分類について学ぶ。さらに第一・第二・第三世代の展示の進化形態を実例に即して整理する。 5. 「展示の製作」：展示の構想、基本設計、実施設計から完成までの流れを把握する。タイトル、期間設定、資料選定、動線・視線といった展示の基本的な事項と、実際の作業工程管理の重要性について認識を深める。 6. 「展示の実務」：展示ケース、各種演具など展示のための設備や造形物（模型、複製、ジオラマ）についてその分類や特徴を捉える。また、情報の伝達装置として解説パネル、キャプションの製作方法や、より効果的に見せるための調光方法について整理する。 7. 「機器による解説、人による解説」：文字パネルによる文章解説や音声解説、画像を重視したグラフィックパネルや機器による解説について整理する。また、来館者に対するよりよい解説方法について学習する。 8. 「関係者との協力」：展示を行うに際しての関係者との協力関係について、委託制作、資料借用、広報等について個別事例にもとづき、留意点を整理する。さらに、展示の担当者同士の協力やボランティアの活躍についても触れる。 9. 「展示解説書」：展示図録の意義を抑え、その作成プロセスと印刷方法、メディアの使用法、校正の流れ等を具体的に講義するとともに、最近の展示図録のうち代表的な事例を紹介する。また、指定文化財の掲載公開に関する留意点についても触れる。 10. 「展示の評価と改善更新」：博物館評価について、博物館が主体的に実施する自己評価、外部評価、第三者評価、そして博物館の設置者が行う評価について、具体例を交えて解説する。 11. 「展示環境と動線計画」：具体的に展示を見ながら来館者の動きと動線の関係、照明の使用法を確認する。展示物により興味を持たせるためのワークシートやアンケートを作成し、学芸員の活動を体験する。 12. 「資料整理と展示」：アーカイブスの整理方法と展示方法に関する具体例を見学し、より分かり易く知的欲求を満たす展示について考察を深める。 13. 「調査研究の成果としての展示」：資料を調査・研究し、そこから引き出された事実を蓄積して展示を構築していく説示型展示の具体的実践例を紹介。展示の役割と重要性、市民への還元の様相を把握する。 14. 「コミュニケーションとしての展示」：展示への理解をより深めてもらうための具体的な取り組みの工夫、来館者とのコミュニケーションの実践例について学習する。 15. 「展示の意義および試験」：博物館における展示の意義を理解する。 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	(○) 筆記試験 [40%]・(○) 出席 [60%] プリント資料を随時配布する。また参考文献については講義中に指示する。 予習として事前に可能な範囲で博物館や美術館を訪問し、自分なりの博物館のイメージを作る。復習として授業で学んだ点を博物館を訪問して確認してみる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
博 物 館 情 報 ・ メ デ ィ ア 論 Museum informatics and media practices	2	非常勤 講師 永 島 明 子	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMCUM306J 博物館における情報とメディア ―工芸品の研究を実例に― 物と人をつなぐ博物館は、それ自身がひとつのメディアとして捉えられる一方、そこからさらに複数のメディアを介して社会に情報を発信している。また、今日では博物館の活動のさまざまなレベルにおいてデジタル技術が不可欠となっている。ひとつの工芸品にはいくつもの見方がありうる。ほこりを被ったがらくた、コレクターの愛玩具、展示室で照明を浴びる名品、有名作家の芸術作品、無名の工人による民芸品、美術商の商品、土をまとった発掘品、過去の生活様式や技術を伝える歴史資料など…見る側の情報の引き出し方、整理の仕方、体系づけの視点によって、その意味や価値は変化する。博物館はそうした意味づけの作業と、これを人々に提案する形の最善策について、時代の条件に応じた工夫を重ねてきた。現代では特に情報テクノロジーの導入と多様なメディアの活用を模索している。国立博物館の現役学芸員の立場から、漆工芸という特定分野を実例に、博物館に関わる情報とメディアの広がりについて紹介し、現状の問題点や今後の可能性について考察する。事例紹介のためにスライドを多用し、情報の取り扱いや情報と展覧会の関係性を理解するための演習も取り入れる。				
◆ 到達目標	博物館における情報テクノロジーやメディアの活用法、その問題点と可能性について学ぶ。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 展覧会をとりまく情報とメディア 2. ケーススタディ① 京都国立博物館における情報とメディア 3. 文化財とコーパス 調査の方法と情報作成 4. 実習① 調書作成の実践 5. 実習② 発表とフィードバック 6. 工芸研究と情報テクノロジー① 婚礼調度 7. 工芸研究と情報テクノロジー② 中国の漆芸 8. 漆器の歴史と情報① 国内編 9. 漆器の歴史と情報② 海外編 10. ケーススタディ②：近隣博物館施設の情報とメディア（実地調査） 11. 展覧会ができるまで① 2011年「百獣の楽園 美術に住む動物たち」展 12. 展覧会ができるまで② 2008～09年「Japan 蒔絵―宮殿を飾る 東洋の燦めき―」展 13. メディアを活用した広報 14. メディアを活用した普及教育 15. 総括 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	授業中に取り組み課題を後日完成させて提出 [50%]・出席 [50%] 講義のなかで適宜紹介する 前回の授業の内容について、よく整理しておく。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
博 物 館 実 習 Museology (FieldWorkMethodology) II	2	准教授 籠 橋 俊 光	5	金	4・5
◆ 科目ナンバリング	LHMCUM307J				
◆ 授業題目	史料整理・保存の理論と方法				
◆ 目的・概要	歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問である。しかし、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。文字・画像の情報だけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料の特質や史料群の構造を理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基礎を学ぶ。さらにそれをもとにして、博物館・図書館などとの機能の相違や、実物史料の取り扱い方、史料の撮影や目録編成の理論などについて学んでいく。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れることがあるので、特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。				
◆ 到達目標	史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・史料保存の意義と意味(1) 2. 史料保存の意義と意味(2) 3. 文書館・図書館・博物館—史料保存機関の性格と特色— 4. アーカイブズの理論(1) 5. アーカイブズの理論(2) 6. 史料調査・整理の実際 7. 目録論 8. 目録作成の技術(1) 9. 目録作成の技術(2) 10. 歴史資料の取り扱いとその実践 11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際 12. マイクロフィルム・カメラの取り扱い 13. フィールド実習 14. 史料整理の基礎(1) 15. 史料整理の基礎(2) 				
◇ 成績評価の方法	出席 [30%]・受講態度 [20%]・レポート [50%]				
◇ 教科書・参考書	随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。				
◇ 授業時間外学習	特になし。				
その他：本講義の理論・技術をもとにした実践的な訓練を積むために、可能な限り日本史実習・史料管理学Ⅱ「史料整理実習」（後期開講）と連続して受講することが望ましい。オフィスアワー 火曜日 16：20～17：50（要予約）					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
博 物 館 実 習 Museology (FieldWorkMethodology) III	2	教授 阿子島 香 准教授 鹿 又 喜 隆	6	水	3・4
◆ 科目ナンバリング	LHMCUM308J				
◆ 授業題目	考古学資料分析法				
◆ 目的・概要	実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1)考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。 (2)共同研究の意義について、理解できるようになる。 (3)考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。 (4)発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理(1)。 2. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理(2)。 3. 遺物の観察・記録と図化(1)。 4. 遺物の観察・記録と図化(2)。 5. 遺物の観察・記録と図化(3)。 6. 遺物の観察・記録と図化(4)。 7. 製図・トレース・レイアウトの作成(1)。 8. 製図・トレース・レイアウトの作成(2)。 9. 製図・トレース・レイアウトの作成(3)。 10. 写真撮影(1)。 11. 写真撮影(2)。 12. 写真撮影(3)。 13. 保存処理に関する研修。 14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業(1)。 15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業(2)。 				
◇ 成績評価の方法	(○) レポート [30%]・(○) 出席 [40%]・(○) その他（具体的には、受講態度）[30%]				
◇ 教科書・参考書	教室にて指示。				
◇ 授業時間外学習	実測図の作成などの宿題が相当量ある。				
その他：前期に考古学実習を履修していることが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
博 物 館 実 習 V Museology (FieldWorkMethodology) V	2	教授 尾崎彰宏 准教授 芳賀京子	5	火	3・4
◆ 科目ナンバリング	LHMCUM310J				
◆ 授業題目	西洋美術の基礎知識と調査入門				
◆ 目的・概要	西洋美術分野の基礎知識を身につけるとともに、美術作品の調査法を身につける。同時に博物館・美術館をいくつか見学し、展示法などについて考える。				
◆ 到達目標	西洋美術史（古代～中世）について、最低限の知識を身につける。美術作品の作品記述、写真撮影、カタログ化などをひととおり自分で行えるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、ディスクリプション説明 2. レポート（ディスクリプション）提出 宮城県美術館見学（レオナルド・ダ・ヴィンチと《アンギアーリの戦い》展） 3. 展覧会評の発表、レポート提出 パワーポイントの使い方 4. 仙台市博物館見学（黄金のファラオと大ピラミッド展） 5. パワーポイント発表、レポート提出 西洋美術史発表①（エーゲ文明） 6. *以下は、平成28年度の特別展開催予定が公表されてから決めるため、未定。詳細は最初の授業で伝えます。 小テスト、西洋美術史発表②（ギリシア美術） 7. 小テスト、西洋美術史発表③（エトルリア美術） 8. 小テスト、西洋美術史発表④（ローマ美術） 9. 小テスト、西洋美術史発表⑤（古代末期／初期中世美術） カメラ説明 10. 小テスト、西洋美術史発表⑥（ビザンチン美術） 撮影練習（石膏像、油彩画） 11. 小テスト、西洋美術史発表⑦（ロマネスク美術） 撮影練習（ブロンズ像） 12. 小テスト、西洋美術史発表⑧（ロマネスク美術） 写真撮影講評 13. 美術館見学（日程は未定） 14. 美術館見学（日程は未定） 15. 美術館見学（日程は未定） 				
◇ 成績評価の方法	授業への参加・貢献（30%）、小テスト（20%）、小レポート（20%）、発表（30%）				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示します。				
◇ 授業時間外学習	発表はしっかり準備すること。美術館・博物館見学の前に、あらかじめ自分で下調べしてください。見学の次の授業でレポートを提出してもらいます。西洋美術分野の基礎知識については、発表の次の授業で小テストを行います。				
その他：美術館・博物館の特別展入場料のほか、一度は他県美術館の見学もおこなう予定ですので、その旅費が必要となります。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
博 物 館 実 習 VI Museology (FieldWorkMethodology) VI	1	教授 藤澤 敦	集 中 (5)		
◆ 科目ナンバリング	LHMCUM311J				
◆ 授業題目	館園実習				
◆ 目的・概要	博物館の資料・標本類について調査・収集から展示までの作業方法を、本学に付設する植物園、史料館、自然史標本館において実習する。本学が収蔵する古生物、鉱物学、植物学、歴史学、考古学の資料・標本類の特性を理解し、各館園での作業を行う。履修希望者の専攻分野に応じて、実習を行う館園を割り振り、より実践的な実習となるようにする。				
◆ 到達目標	博物館における資料・標本類の収集から展示までの実務作業を体験し習得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体での進め方の説明と担当館園の割り振り 2. 展示見学 3. 収蔵庫見学と収蔵方法・収蔵状況の学習 4. 各種データの管理方法とWEBでのデータベース等の公開状況の学習 5. 収蔵資料の管理についての作業体験 6. 小グループごとの展示案作成と展示作成作業についての説明と小グループごとのテーマ設定 7. 小グループでの展示案作成(1) 8. 小グループでの展示案作成(2) 9. 小グループでの展示案作成(3) 10. 展示案の発表と検討会(1) 11. 展示案の発表と検討会(2) 12. 展示作成作業(1) 13. 展示作成作業(2) 14. 展示作成作業(3) 15. 作成した展示の発表と講評 				
◇ 成績評価の方法	出席 [80%]、受講態度 [20%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。必要な資料は適宜配布する。				
◇ 授業時間外学習	実習のため、前回授業の内容を踏まえて、次の授業での作業が進行する。前回の授業で行った作業を確認し、次の授業に備えること。				
その他：学術資源研究公開センター（総合学術博物館、植物園、史料館）の教員スタッフがこの館園実習を担当する。授業実施期間以前に、事前のガイダンスを行う場合があるため、掲示に注意すること。					

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時		
地 理 学 G e o g r a p h y	B B	2	非常勤 講師	村 山 良 之	5	木	2		
◆ 科目ナンバリング	LHMGE0302J								
◆ 授業題目	都市地理学からみた仙台								
◆ 目的・概要	都市の成立、立地と機能、都市の内部構造などをめぐる都市地理学とその周辺諸科学の成果や基礎的な理論を理解する。あわせて、主たる素材となる仙台についての基本的な情報を獲得する。								
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・都市地理学に関する基礎的な知識を獲得し、これを説明できるようになる。 ・仙台に関する都市地理学的知識を獲得し、仙台を案内できるようになる。 								
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：高校までの「地理」と地理行列 2. 城下町とその変容(1)：近世城下町の成立とその地理的特徴（地形利用と空間構成） 3. 城下町とその変容(2)：城下町仙臺の地理的特徴 4. 城下町とその変容(3)：明治以降の城下町の変化 5. 城下町とその変容(4)：戦災復興 6. 都市と交通(1)：交通の発達と都市域の拡大および都市内部構造の変容 7. 都市と交通(2)：都市交通問題と世界のLRT 8. 市街地の拡大とDID：町村合併と国勢調査 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. 都市周辺の宅地開発(1)：仙台都市圏 10. 都市周辺の宅地開発(2)：宅地開発と自然災害 11. 都市の内部構造：因子生態研究 12. 都市の順位・規模法則：明治以降の日本の最上位都市群の変化 13. 中心地理論：クリスタラーによる都市分布の説明 14. 中枢管理機能と都市システム：日本の都市システム 15. 中枢管理機能と都市システム：世界都市仮説と東京 </td> </tr> </table>							<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：高校までの「地理」と地理行列 2. 城下町とその変容(1)：近世城下町の成立とその地理的特徴（地形利用と空間構成） 3. 城下町とその変容(2)：城下町仙臺の地理的特徴 4. 城下町とその変容(3)：明治以降の城下町の変化 5. 城下町とその変容(4)：戦災復興 6. 都市と交通(1)：交通の発達と都市域の拡大および都市内部構造の変容 7. 都市と交通(2)：都市交通問題と世界のLRT 8. 市街地の拡大とDID：町村合併と国勢調査 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 都市周辺の宅地開発(1)：仙台都市圏 10. 都市周辺の宅地開発(2)：宅地開発と自然災害 11. 都市の内部構造：因子生態研究 12. 都市の順位・規模法則：明治以降の日本の最上位都市群の変化 13. 中心地理論：クリスタラーによる都市分布の説明 14. 中枢管理機能と都市システム：日本の都市システム 15. 中枢管理機能と都市システム：世界都市仮説と東京
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：高校までの「地理」と地理行列 2. 城下町とその変容(1)：近世城下町の成立とその地理的特徴（地形利用と空間構成） 3. 城下町とその変容(2)：城下町仙臺の地理的特徴 4. 城下町とその変容(3)：明治以降の城下町の変化 5. 城下町とその変容(4)：戦災復興 6. 都市と交通(1)：交通の発達と都市域の拡大および都市内部構造の変容 7. 都市と交通(2)：都市交通問題と世界のLRT 8. 市街地の拡大とDID：町村合併と国勢調査 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 都市周辺の宅地開発(1)：仙台都市圏 10. 都市周辺の宅地開発(2)：宅地開発と自然災害 11. 都市の内部構造：因子生態研究 12. 都市の順位・規模法則：明治以降の日本の最上位都市群の変化 13. 中心地理論：クリスタラーによる都市分布の説明 14. 中枢管理機能と都市システム：日本の都市システム 15. 中枢管理機能と都市システム：世界都市仮説と東京 								
◇ 成績評価の方法	複数回のレポート、100%								
◇ 教科書・参考書	藤井正・神谷浩夫編『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房、2014年 他にも授業中に紹介する。								
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは、授業終了後に予約。								
その他：受講生は「都市地理学からみた仙台」の未履修者のこと。									

授 業 科 目		単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時		
地 誌 学 T o p o g r a p h y		2	非常勤 講師	小 田 隆 史	5	水	1		
◆ 科目ナンバリング	LHMGE0303J								
◆ 授業題目	都市社会の諸相・諸課題								
◆ 目的・概要	地誌学の役割は人間の居住様式の多様性を地域性として説明するところにある。この授業では、日本、先進国、発展途上国の都市社会を事例に、グローバリゼーションの影響を受けながら諸都市が直面するローカル／グローバルな課題と、その解決に向けた取り組みやその効果について理解を深めることを目的とする。								
◆ 到達目標	都市社会の諸相・諸課題に関する学習を通して地誌学的思考を身につけ、国内外の事例から、都市が直面する課題や解決に向けた取組などについての知識を深める。								
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地誌学とは一地誌と地域研究 2. 地理学と空間概念 3. 世界都市論 4. 先進国の都市化 5. 発展途上国の都市化 6. ローカルとグローバル～「時間・空間の圧縮」の諸相 7. 発展途上国のコミュニティ開発～災害復興と防災 8. アメリカ地誌概説～その1 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. アメリカ地誌概説～その2 10. インナーシティと都市における多重剥奪 11. 移民・難民・エスニック集団と空間 12. 越境する人々の地誌～その1 難民の発生と再定住 13. 越境する人々の地誌～その2 日系アメリカ人コミュニティ 14. 場所の記憶と地誌～震災体験のアーカイブ 15. 総括・振り返り・授業内テスト </td> </tr> </table>							<ol style="list-style-type: none"> 1. 地誌学とは一地誌と地域研究 2. 地理学と空間概念 3. 世界都市論 4. 先進国の都市化 5. 発展途上国の都市化 6. ローカルとグローバル～「時間・空間の圧縮」の諸相 7. 発展途上国のコミュニティ開発～災害復興と防災 8. アメリカ地誌概説～その1 	<ol style="list-style-type: none"> 9. アメリカ地誌概説～その2 10. インナーシティと都市における多重剥奪 11. 移民・難民・エスニック集団と空間 12. 越境する人々の地誌～その1 難民の発生と再定住 13. 越境する人々の地誌～その2 日系アメリカ人コミュニティ 14. 場所の記憶と地誌～震災体験のアーカイブ 15. 総括・振り返り・授業内テスト
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地誌学とは一地誌と地域研究 2. 地理学と空間概念 3. 世界都市論 4. 先進国の都市化 5. 発展途上国の都市化 6. ローカルとグローバル～「時間・空間の圧縮」の諸相 7. 発展途上国のコミュニティ開発～災害復興と防災 8. アメリカ地誌概説～その1 	<ol style="list-style-type: none"> 9. アメリカ地誌概説～その2 10. インナーシティと都市における多重剥奪 11. 移民・難民・エスニック集団と空間 12. 越境する人々の地誌～その1 難民の発生と再定住 13. 越境する人々の地誌～その2 日系アメリカ人コミュニティ 14. 場所の記憶と地誌～震災体験のアーカイブ 15. 総括・振り返り・授業内テスト 								
◇ 成績評価の方法	筆記試験 [40%]、出席 [50%]、レポート [10%] で評価する。								
◇ 教科書・参考書	教科書は指定しない。 授業で必要な資料は適宜コピーして配布する。								
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは設けていないが、教員は東北大（青葉山）に隣接する宮城教育大キャンパスに研究室があるため、希望があれば授業の内容等に関する質問・研究に関する相談を受け付ける。事前に要アポイントメント（連絡先メール等は授業内で周知）。								
その他：									

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
キ リ ス ト 教 史 H i s t o r y o f C h r i s t i a n i t y	2	教授 木村敏明	6	水	2																		
<p>◆ 科目ナンバリング LHMHIS313J</p> <p>◆ 授業題目 世界の中のキリスト教</p> <p>◆ 目的・概要 本講義では、二千年にわたるキリスト教の歴史を、「多様性」と「ダイナミズム」をキーワードとしながら概観する。</p> <p>◆ 到達目標 (1)キリスト教とその歴史に関する基本的知識が理解できる (2)キリスト教の多様性とダイナミズムを理解できる</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>10. ヨーロッパにおける展開③宗教改革</td> </tr> <tr> <td>2. ユダヤからの出発①ユダヤ教</td> <td>11. ラテンアメリカにおける展開①征服者としてのキリスト教</td> </tr> <tr> <td>3. ユダヤからの出発②原始教団</td> <td>12. 北アメリカにおける展開①合衆国建国、大覚醒</td> </tr> <tr> <td>4. アジアにおける展開①教義の確立</td> <td>13. ヨーロッパにおける展開④啓蒙時代、世界戦争とキリスト教</td> </tr> <tr> <td>5. アフリカにおける展開①正統と異端、アウグスティヌス</td> <td>14. アジア・日本におけるキリスト教①イエズス会による宣教、キリシタン禁令と鎖国</td> </tr> <tr> <td>6. 予備日：ビデオ鑑賞 アフリカのキリスト教</td> <td>15. アジア・日本におけるキリスト教②明治以降のキリスト教、聖書翻訳、大戦期のキリスト候</td> </tr> <tr> <td>7. ヨーロッパにおける展開①ローマ帝国とキリスト教</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. ヨーロッパにおける展開②中世キリスト教</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 予備日：ビデオ鑑賞 聖者と奇蹟信仰</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 授業中に配布するコメントペーパー [40%]、期末テスト [60%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 教科書は使用しない。 参考書：松本宣夫（編）、『キリスト教の歴史』1・2、山川出版、2002年。</p> <p>◇ 授業時間外学習 内容についての理解を深めたい人のために、授業中に参考書を紹介する。</p> <p>その他：</p>						1. イントロダクション	10. ヨーロッパにおける展開③宗教改革	2. ユダヤからの出発①ユダヤ教	11. ラテンアメリカにおける展開①征服者としてのキリスト教	3. ユダヤからの出発②原始教団	12. 北アメリカにおける展開①合衆国建国、大覚醒	4. アジアにおける展開①教義の確立	13. ヨーロッパにおける展開④啓蒙時代、世界戦争とキリスト教	5. アフリカにおける展開①正統と異端、アウグスティヌス	14. アジア・日本におけるキリスト教①イエズス会による宣教、キリシタン禁令と鎖国	6. 予備日：ビデオ鑑賞 アフリカのキリスト教	15. アジア・日本におけるキリスト教②明治以降のキリスト教、聖書翻訳、大戦期のキリスト候	7. ヨーロッパにおける展開①ローマ帝国とキリスト教		8. ヨーロッパにおける展開②中世キリスト教		9. 予備日：ビデオ鑑賞 聖者と奇蹟信仰	
1. イントロダクション	10. ヨーロッパにおける展開③宗教改革																						
2. ユダヤからの出発①ユダヤ教	11. ラテンアメリカにおける展開①征服者としてのキリスト教																						
3. ユダヤからの出発②原始教団	12. 北アメリカにおける展開①合衆国建国、大覚醒																						
4. アジアにおける展開①教義の確立	13. ヨーロッパにおける展開④啓蒙時代、世界戦争とキリスト教																						
5. アフリカにおける展開①正統と異端、アウグスティヌス	14. アジア・日本におけるキリスト教①イエズス会による宣教、キリシタン禁令と鎖国																						
6. 予備日：ビデオ鑑賞 アフリカのキリスト教	15. アジア・日本におけるキリスト教②明治以降のキリスト教、聖書翻訳、大戦期のキリスト候																						
7. ヨーロッパにおける展開①ローマ帝国とキリスト教																							
8. ヨーロッパにおける展開②中世キリスト教																							
9. 予備日：ビデオ鑑賞 聖者と奇蹟信仰																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
書 道 C a l l i g r a p h y	2	非常勤講師 下田真奈美	5	木	4																
<p>◆ 科目ナンバリング LHMOHU301J</p> <p>◆ 授業題目 書表現の基礎(一) (漢字)</p> <p>◆ 目的・概要 王羲之の用筆法による、楷書基本十点画を学ぶ。さらに、篆書、隸書、行書体を通じて、中国書道史の用筆法の変遷を学び、かつ書けるようにする。いずれも羊毛・長鋒を使用。</p> <p>◆ 到達目標 中国伝統の用筆法に従って、五つの書体が書けるようになる。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 楷書の基本十点画⑧(右はらい)</td> </tr> <tr> <td>2. 楷書の基本十点画①(左はらい)</td> <td>10. 楷書の基本十点画⑨(点2・点3)</td> </tr> <tr> <td>3. 楷書の基本十点画②(点1)</td> <td>11. 基本十点画のまとめ</td> </tr> <tr> <td>4. 楷書の基本十点画③(よこ画)</td> <td>12. 篆書</td> </tr> <tr> <td>5. 楷書の基本十点画④(たて画)</td> <td>13. 隸書</td> </tr> <tr> <td>6. 楷書の基本十点画⑤(折れ)</td> <td>14. 草書</td> </tr> <tr> <td>7. 楷書の基本十点画⑥(折れとはね)</td> <td>15. 創作</td> </tr> <tr> <td>8. 楷書の基本十点画⑦(曲がりとはね)</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 出席(毎時、清書提出) [100%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 肉筆手本・五體字類等。</p> <p>◇ 授業時間外学習 11.「基本十点画のまとめ」を授業時間内に提出できない時は、学習課題として提出してもらう。</p> <p>その他：適正に授業を行うために、受講生の上限を50名とする。希望者がこの人数を超える場合は制限を設け、国語科教員免許取得希望者を優先する。第一回の授業には必ず出席すること。</p>						1. オリエンテーション	9. 楷書の基本十点画⑧(右はらい)	2. 楷書の基本十点画①(左はらい)	10. 楷書の基本十点画⑨(点2・点3)	3. 楷書の基本十点画②(点1)	11. 基本十点画のまとめ	4. 楷書の基本十点画③(よこ画)	12. 篆書	5. 楷書の基本十点画④(たて画)	13. 隸書	6. 楷書の基本十点画⑤(折れ)	14. 草書	7. 楷書の基本十点画⑥(折れとはね)	15. 創作	8. 楷書の基本十点画⑦(曲がりとはね)	
1. オリエンテーション	9. 楷書の基本十点画⑧(右はらい)																				
2. 楷書の基本十点画①(左はらい)	10. 楷書の基本十点画⑨(点2・点3)																				
3. 楷書の基本十点画②(点1)	11. 基本十点画のまとめ																				
4. 楷書の基本十点画③(よこ画)	12. 篆書																				
5. 楷書の基本十点画④(たて画)	13. 隸書																				
6. 楷書の基本十点画⑤(折れ)	14. 草書																				
7. 楷書の基本十点画⑥(折れとはね)	15. 創作																				
8. 楷書の基本十点画⑦(曲がりとはね)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
書 道 C a l l i g r a p h y	2	非常勤 講師 下 田 真奈美	6	木	4																
◆ 科目ナンバリング	LHMOHU301J																				
◆ 授業題目	書表現の基礎(二) (かな)																				
◆ 目的・概要	○いろは単体から高野切第三種の臨書、倣書ができるようにする。 ○かな用小筆の執筆法・運筆法を、基礎から徹底して学習する。																				
◆ 到達目標	独力でかなの古典臨書ができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 高野切第三種の臨書 1</td> </tr> <tr> <td>2. かな用小筆の執筆法・運筆法</td> <td>10. 高野切第三種の臨書 2</td> </tr> <tr> <td>3. 基本練習といろは単体 1</td> <td>11. 高野切第三種の臨書 3</td> </tr> <tr> <td>4. いろは単体 2</td> <td>12. 高野切第三種の臨書 4</td> </tr> <tr> <td>5. いろは単体 3</td> <td>13. 高野切第三種の臨書 5</td> </tr> <tr> <td>6. いろは単体のまとめ</td> <td>14. 高野切第三種の倣書 (下書き)</td> </tr> <tr> <td>7. 変体仮名</td> <td>15. 高野切第三種の倣書 (清書)</td> </tr> <tr> <td>8. 連綿</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 高野切第三種の臨書 1	2. かな用小筆の執筆法・運筆法	10. 高野切第三種の臨書 2	3. 基本練習といろは単体 1	11. 高野切第三種の臨書 3	4. いろは単体 2	12. 高野切第三種の臨書 4	5. いろは単体 3	13. 高野切第三種の臨書 5	6. いろは単体のまとめ	14. 高野切第三種の倣書 (下書き)	7. 変体仮名	15. 高野切第三種の倣書 (清書)	8. 連綿	
1. オリエンテーション	9. 高野切第三種の臨書 1																				
2. かな用小筆の執筆法・運筆法	10. 高野切第三種の臨書 2																				
3. 基本練習といろは単体 1	11. 高野切第三種の臨書 3																				
4. いろは単体 2	12. 高野切第三種の臨書 4																				
5. いろは単体 3	13. 高野切第三種の臨書 5																				
6. いろは単体のまとめ	14. 高野切第三種の倣書 (下書き)																				
7. 変体仮名	15. 高野切第三種の倣書 (清書)																				
8. 連綿																					
◇ 成績評価の方法	出席 (毎時、清書提出) [100%]																				
◇ 教科書・参考書	肉筆手本・プリント・高野切三種 (影印本) 等。																				
◇ 授業時間外学習	14.「高野切第三種の倣書 (下書き)」、15.「高野切第三種の倣書 (清書)」を授業時間内に提出できない時は、学習課題として提出してもらう。																				
その他：適正に授業を行うために、受講生の上限を50名とする。希望者がこの人数を超える場合は制限を設け、国語科教員免許取得希望者を優先する。第一回の授業には必ず出席すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
日 本 語 ・ 日 本 文 化 論 講 読 Studies of Japanese Culture	2	教授 高 橋 章 則	5	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMOHU302J																				
◆ 授業題目	古典講読 I																				
◆ 目的・概要	専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読 (意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること)。古典 (漢文を含む) を対象とし、日本古典とその背景をなす日本文化・日本歴史の系統的な理解を目指す。古典を読み、漢文を訓読する際に必要な文法をはじめとした基礎知識と日本文化に関する調査技術とを身につけることを目的とする。毎時間の講読担当者の発表が前提となる。本年度は、日本文化の多面的な研究の一環として、文献資料 (文学作品) と絵画資料 (浮世絵) の融合した独自のジャンルである「狂歌摺物 (すりもの)」を取り上げる。素材は歌川広重「狂歌入り東海道」である。																				
◆ 到達目標	日本研究の基礎確立																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 1 日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か</td> <td>8. 講読 4 土山・坂之下</td> </tr> <tr> <td>2. 導入 2 「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌</td> <td>9. 講読 5 関・亀山</td> </tr> <tr> <td>3. 導入 3 広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版</td> <td>10. 鑑賞 1 浮世絵鑑賞、広重美術館 (天童) での研修</td> </tr> <tr> <td>4. 導入 4 「狂歌入り東海道」について、「講読」のルール</td> <td>11. 講読 6 庄野・石薬師</td> </tr> <tr> <td>5. 講読 1 内裏・京</td> <td>12. 講読 7 四日市・桑名</td> </tr> <tr> <td>6. 講読 2 大津・草津</td> <td>13. 講読 8 宮・鳴海</td> </tr> <tr> <td>7. 講読 3 石部・水口</td> <td>14. 講読 9 藤川・赤坂</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめと評価 「狂歌」関連出版物の研究意義</td> </tr> </table>					1. 導入 1 日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か	8. 講読 4 土山・坂之下	2. 導入 2 「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌	9. 講読 5 関・亀山	3. 導入 3 広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版	10. 鑑賞 1 浮世絵鑑賞、広重美術館 (天童) での研修	4. 導入 4 「狂歌入り東海道」について、「講読」のルール	11. 講読 6 庄野・石薬師	5. 講読 1 内裏・京	12. 講読 7 四日市・桑名	6. 講読 2 大津・草津	13. 講読 8 宮・鳴海	7. 講読 3 石部・水口	14. 講読 9 藤川・赤坂		15. まとめと評価 「狂歌」関連出版物の研究意義
1. 導入 1 日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か	8. 講読 4 土山・坂之下																				
2. 導入 2 「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌	9. 講読 5 関・亀山																				
3. 導入 3 広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版	10. 鑑賞 1 浮世絵鑑賞、広重美術館 (天童) での研修																				
4. 導入 4 「狂歌入り東海道」について、「講読」のルール	11. 講読 6 庄野・石薬師																				
5. 講読 1 内裏・京	12. 講読 7 四日市・桑名																				
6. 講読 2 大津・草津	13. 講読 8 宮・鳴海																				
7. 講読 3 石部・水口	14. 講読 9 藤川・赤坂																				
	15. まとめと評価 「狂歌」関連出版物の研究意義																				
◇ 成績評価の方法	発表の成果と出席																				
◇ 教科書・参考書	『慶應義塾大学 高橋誠一郎浮世絵コレクション 広重 東海道五十三次 八種四百十八景』(小学館)																				
◇ 授業時間外学習	発表資料の作成																				
その他：国際共修ゼミ (外国人留学生・日本人学生)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																																
日 本 語 ・ 日 本 文 化 論 講 読 Studies of Japanese Culture	2	教授 高橋章則	6	月	2																																
◆ 科目ナンバリング	LHMOHU302J																																				
◆ 授業題目	古典講読Ⅱ																																				
◆ 目的・概要	専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。古典（漢文を含む）を対象とし、日本古典とその背景をなす日本文化・日本歴史の系統的な理解を目指す。古典を読み、漢文を訓読する際に必要な文法をはじめとした基礎知識と日本文化に関する調査技術とを身につけることを目的とする。毎時間の講読担当者の発表が前提となる。本年度は、日本文化の多面的な研究の一環として、文献資料（文学作品）と絵画資料（浮世絵）の融合した独自のジャンルである「狂歌摺物（すりもの）」を取り上げる。素材は歌川広重「狂歌入り東海道」である。																																				
◆ 到達目標	日本研究の基礎確立																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入1</td> <td>日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か</td> <td>8. 講読4</td> <td>藤沢・平塚</td> </tr> <tr> <td>2. 導入2</td> <td>「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌</td> <td>9. 講読5</td> <td>大磯・小田原</td> </tr> <tr> <td>3. 導入3</td> <td>広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版</td> <td>10. 鑑賞1</td> <td>浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修</td> </tr> <tr> <td>4. 導入4</td> <td>「狂歌入り東海道」について、「講読」のルール</td> <td>11. 講読6</td> <td>箱根・三島</td> </tr> <tr> <td>5. 講読1</td> <td>日本橋・品川</td> <td>12. 講読7</td> <td>沼津・原</td> </tr> <tr> <td>6. 講読2</td> <td>川崎・神奈川</td> <td>13. 講読8</td> <td>吉原・蒲原</td> </tr> <tr> <td>7. 講読3</td> <td>保土ヶ谷・戸塚</td> <td>14. 講読9</td> <td>由井・奥津</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>15. まとめと評価</td> <td>「狂歌摺物」調査から浮世絵研究へ</td> </tr> </table>					1. 導入1	日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か	8. 講読4	藤沢・平塚	2. 導入2	「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌	9. 講読5	大磯・小田原	3. 導入3	広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版	10. 鑑賞1	浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修	4. 導入4	「狂歌入り東海道」について、「講読」のルール	11. 講読6	箱根・三島	5. 講読1	日本橋・品川	12. 講読7	沼津・原	6. 講読2	川崎・神奈川	13. 講読8	吉原・蒲原	7. 講読3	保土ヶ谷・戸塚	14. 講読9	由井・奥津			15. まとめと評価	「狂歌摺物」調査から浮世絵研究へ
1. 導入1	日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か	8. 講読4	藤沢・平塚																																		
2. 導入2	「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌	9. 講読5	大磯・小田原																																		
3. 導入3	広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版	10. 鑑賞1	浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修																																		
4. 導入4	「狂歌入り東海道」について、「講読」のルール	11. 講読6	箱根・三島																																		
5. 講読1	日本橋・品川	12. 講読7	沼津・原																																		
6. 講読2	川崎・神奈川	13. 講読8	吉原・蒲原																																		
7. 講読3	保土ヶ谷・戸塚	14. 講読9	由井・奥津																																		
		15. まとめと評価	「狂歌摺物」調査から浮世絵研究へ																																		
◇ 成績評価の方法	発表の成果と出席																																				
◇ 教科書・参考書	『慶應義塾大学 高橋誠一郎浮世絵コレクション 広重 東海道五十三次 八種四百十八景』（小学館）																																				
◇ 授業時間外学習	発表資料の作成																																				
その他：国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																																
日 本 語 ・ 日 本 文 化 論 講 読 Studies of Japanese Culture	2	教授 高橋章則	5	水	2																																
◆ 科目ナンバリング	LHMOHU302J																																				
◆ 授業題目	現代評論講読Ⅰ																																				
◆ 目的・概要	専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。現代文を対象とする。日本語と日本文化を系統的に理解する際に不可欠な基礎知識と日本文化に関する調査技術とを講読を通じて身につけることを目的とする。毎時間の講読担当者の発表が前提となる。																																				
◆ 到達目標	日本研究の基礎確立																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入1</td> <td>日本文化を考える(1)</td> <td>9. 講読4</td> <td>『菊と刀』④</td> </tr> <tr> <td>2. 導入2</td> <td>日本文化を考える(2)</td> <td>10. 講読5</td> <td>『菊と刀』⑤</td> </tr> <tr> <td>3. 導入3</td> <td>家永三郎『日本文化史』『はじめに』を読む(1)</td> <td>11. 講読6</td> <td>『菊と刀』⑥</td> </tr> <tr> <td>4. 導入4</td> <td>『日本文化史』『はじめに』を読む(2)</td> <td>12. 講読7</td> <td>『菊と刀』⑦</td> </tr> <tr> <td>5. 導入5</td> <td>「日本文化論」の変容をめぐって</td> <td>13. 講読8</td> <td>『菊と刀』⑧</td> </tr> <tr> <td>6. 講読1</td> <td>ベネディクト『菊と刀』① 講読のルール</td> <td>14. 講読9</td> <td>『菊と刀』⑨</td> </tr> <tr> <td>7. 講読2</td> <td>『菊と刀』②</td> <td>15. まとめと評価</td> <td>『菊と刀』から新たな日本文化論へ</td> </tr> <tr> <td>8. 講読3</td> <td>『菊と刀』③</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入1	日本文化を考える(1)	9. 講読4	『菊と刀』④	2. 導入2	日本文化を考える(2)	10. 講読5	『菊と刀』⑤	3. 導入3	家永三郎『日本文化史』『はじめに』を読む(1)	11. 講読6	『菊と刀』⑥	4. 導入4	『日本文化史』『はじめに』を読む(2)	12. 講読7	『菊と刀』⑦	5. 導入5	「日本文化論」の変容をめぐって	13. 講読8	『菊と刀』⑧	6. 講読1	ベネディクト『菊と刀』① 講読のルール	14. 講読9	『菊と刀』⑨	7. 講読2	『菊と刀』②	15. まとめと評価	『菊と刀』から新たな日本文化論へ	8. 講読3	『菊と刀』③		
1. 導入1	日本文化を考える(1)	9. 講読4	『菊と刀』④																																		
2. 導入2	日本文化を考える(2)	10. 講読5	『菊と刀』⑤																																		
3. 導入3	家永三郎『日本文化史』『はじめに』を読む(1)	11. 講読6	『菊と刀』⑥																																		
4. 導入4	『日本文化史』『はじめに』を読む(2)	12. 講読7	『菊と刀』⑦																																		
5. 導入5	「日本文化論」の変容をめぐって	13. 講読8	『菊と刀』⑧																																		
6. 講読1	ベネディクト『菊と刀』① 講読のルール	14. 講読9	『菊と刀』⑨																																		
7. 講読2	『菊と刀』②	15. まとめと評価	『菊と刀』から新たな日本文化論へ																																		
8. 講読3	『菊と刀』③																																				
◇ 成績評価の方法	発表の成果と出席																																				
◇ 教科書・参考書	R.ベネディクト『菊と刀』（講談社学術文庫）																																				
◇ 授業時間外学習	発表資料の作成																																				
その他：国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																																	
日 本 語 ・ 日 本 文 化 論 講 読 Studies of Japanese Culture	2	教授 高橋章則	6	水	2																																	
◆ 科目ナンバリング	LHMOHU302J																																					
◆ 授業題目	現代評論講読Ⅱ																																					
◆ 目的・概要	専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。現代文を対象とする。日本語と日本文化を系統的に理解する際に不可欠な基礎知識と日本文化に関する調査技術とを講読を通じて身につけることを目的とする。毎時間の講読担当者の発表が前提となる。																																					
◆ 到達目標	日本研究の基礎確立																																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入1</td> <td>日本文化を考える(1)</td> <td>9. 講読4</td> <td>『菊と刀』④</td> </tr> <tr> <td>2. 導入2</td> <td>日本文化を考える(2)</td> <td>10. 講読5</td> <td>『菊と刀』⑤</td> </tr> <tr> <td>3. 導入3</td> <td>家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む(1)</td> <td>11. 講読6</td> <td>『菊と刀』⑥</td> </tr> <tr> <td>4. 導入4</td> <td>『日本文化史』「はじめに」を読む(2)</td> <td>12. 講読7</td> <td>『菊と刀』⑦</td> </tr> <tr> <td>5. 導入5</td> <td>「日本文化論」の変容をめぐって</td> <td>13. 講読8</td> <td>『菊と刀』⑧</td> </tr> <tr> <td>6. 講読1</td> <td>ベネディクト『菊と刀』① 講読のルール</td> <td>14. 講読9</td> <td>『菊と刀』⑨</td> </tr> <tr> <td>7. 講読2</td> <td>『菊と刀』②</td> <td colspan="2">15. まとめと評価 日本文化と「わたし」</td> </tr> <tr> <td>8. 講読3</td> <td>『菊と刀』③</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>					1. 導入1	日本文化を考える(1)	9. 講読4	『菊と刀』④	2. 導入2	日本文化を考える(2)	10. 講読5	『菊と刀』⑤	3. 導入3	家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む(1)	11. 講読6	『菊と刀』⑥	4. 導入4	『日本文化史』「はじめに」を読む(2)	12. 講読7	『菊と刀』⑦	5. 導入5	「日本文化論」の変容をめぐって	13. 講読8	『菊と刀』⑧	6. 講読1	ベネディクト『菊と刀』① 講読のルール	14. 講読9	『菊と刀』⑨	7. 講読2	『菊と刀』②	15. まとめと評価 日本文化と「わたし」		8. 講読3	『菊と刀』③			
1. 導入1	日本文化を考える(1)	9. 講読4	『菊と刀』④																																			
2. 導入2	日本文化を考える(2)	10. 講読5	『菊と刀』⑤																																			
3. 導入3	家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む(1)	11. 講読6	『菊と刀』⑥																																			
4. 導入4	『日本文化史』「はじめに」を読む(2)	12. 講読7	『菊と刀』⑦																																			
5. 導入5	「日本文化論」の変容をめぐって	13. 講読8	『菊と刀』⑧																																			
6. 講読1	ベネディクト『菊と刀』① 講読のルール	14. 講読9	『菊と刀』⑨																																			
7. 講読2	『菊と刀』②	15. まとめと評価 日本文化と「わたし」																																				
8. 講読3	『菊と刀』③																																					
◇ 成績評価の方法	発表の成果と出席																																					
◇ 教科書・参考書	R.ベネディクト『菊と刀』（講談社学術文庫）																																					
◇ 授業時間外学習	発表資料の作成																																					
その他：国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）																																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
日 本 語 ・ 日 本 文 化 論 講 読 Studies of Japanese Culture	2	准教授 クレイグ・クリストファー	6	火	4																		
◆ 科目ナンバリング	LHMOHU302J																						
◆ 授業題目	Reading and Translation Fundamentals for Japanese History																						
◆ 目的・概要	Using student reading and translation presentations, this class aims at providing basic skills and practice in reading and translating Japanese academic history writing. Class will consist of reading/translation assignments and in-class presentations and discussion of issues concerning comprehension and translation.																						
◆ 到達目標	The purpose of this class is to provide a basis in reading and translation for future work involving academic, particularly historical, works in Japanese.																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Class introduction</td> <td>9. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>Introduction to source material</td> <td>10. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>2. Reading and translation presentation</td> <td>11. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>3. Reading and translation presentation</td> <td>12. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>4. Reading and translation presentation</td> <td>13. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>5. Reading and translation presentation</td> <td>14. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>6. Reading and translation presentation</td> <td>15. Reading and translation presentation</td> </tr> <tr> <td>7. Reading and translation presentation</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. Reading and translation presentation</td> <td></td> </tr> </table>					1. Class introduction	9. Reading and translation presentation	Introduction to source material	10. Reading and translation presentation	2. Reading and translation presentation	11. Reading and translation presentation	3. Reading and translation presentation	12. Reading and translation presentation	4. Reading and translation presentation	13. Reading and translation presentation	5. Reading and translation presentation	14. Reading and translation presentation	6. Reading and translation presentation	15. Reading and translation presentation	7. Reading and translation presentation		8. Reading and translation presentation	
1. Class introduction	9. Reading and translation presentation																						
Introduction to source material	10. Reading and translation presentation																						
2. Reading and translation presentation	11. Reading and translation presentation																						
3. Reading and translation presentation	12. Reading and translation presentation																						
4. Reading and translation presentation	13. Reading and translation presentation																						
5. Reading and translation presentation	14. Reading and translation presentation																						
6. Reading and translation presentation	15. Reading and translation presentation																						
7. Reading and translation presentation																							
8. Reading and translation presentation																							
◇ 成績評価の方法	Translations and presentations [100%]																						
◇ 教科書・参考書	安孫子 麟『宮城県の百年』山川出版社 1999年 ISBN 9784634270404																						
◇ 授業時間外学習	Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation at least once																						
その他：Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																																
日 本 語 表 現 論 J a p a n e s e C o m p o s i t i o n	2	教授 高橋章則	5	木	2																																
◆ 科目ナンバリング	LHMOHU303J																																				
◆ 授業題目	日本語表現論Ⅰ																																				
◆ 目的・概要	<p>専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。</p> <p>日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。「日本語表現論」（6セメスター）の連続履修が望ましい。</p>																																				
◆ 到達目標	日本語論文作成の基礎確立																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入1</td> <td>論文とは 日本における論文作成のルール</td> <td>9. 実践1</td> <td>論文題名の決定と先行研究</td> </tr> <tr> <td>2. 導入2</td> <td>論文作成の実際 先行研究の重要性</td> <td>10. 実践2</td> <td>序論の作成① 背景説明</td> </tr> <tr> <td>3. 導入3</td> <td>論文の構成1 構成の作り方</td> <td>11. 実践3</td> <td>序論の作成② 問題点の明示</td> </tr> <tr> <td>4. 導入4</td> <td>論文の構成2 序論の構成要素</td> <td>12. 実践4</td> <td>序論の作成③ 研究目的の明示</td> </tr> <tr> <td>5. 導入5</td> <td>論文の構成3 研究の視点</td> <td>13. 実践5</td> <td>資料・データの利用</td> </tr> <tr> <td>6. 導入6</td> <td>論文の作成1 先行論文の発見</td> <td>14. 実践6</td> <td>序論に対応した結論</td> </tr> <tr> <td>7. 導入7</td> <td>論文の作成2 先行論文の引用作法</td> <td>15. まとめと評価</td> <td>レポートの作成</td> </tr> <tr> <td>8. 導入8</td> <td>論文の作成3 序論の意義</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入1	論文とは 日本における論文作成のルール	9. 実践1	論文題名の決定と先行研究	2. 導入2	論文作成の実際 先行研究の重要性	10. 実践2	序論の作成① 背景説明	3. 導入3	論文の構成1 構成の作り方	11. 実践3	序論の作成② 問題点の明示	4. 導入4	論文の構成2 序論の構成要素	12. 実践4	序論の作成③ 研究目的の明示	5. 導入5	論文の構成3 研究の視点	13. 実践5	資料・データの利用	6. 導入6	論文の作成1 先行論文の発見	14. 実践6	序論に対応した結論	7. 導入7	論文の作成2 先行論文の引用作法	15. まとめと評価	レポートの作成	8. 導入8	論文の作成3 序論の意義		
1. 導入1	論文とは 日本における論文作成のルール	9. 実践1	論文題名の決定と先行研究																																		
2. 導入2	論文作成の実際 先行研究の重要性	10. 実践2	序論の作成① 背景説明																																		
3. 導入3	論文の構成1 構成の作り方	11. 実践3	序論の作成② 問題点の明示																																		
4. 導入4	論文の構成2 序論の構成要素	12. 実践4	序論の作成③ 研究目的の明示																																		
5. 導入5	論文の構成3 研究の視点	13. 実践5	資料・データの利用																																		
6. 導入6	論文の作成1 先行論文の発見	14. 実践6	序論に対応した結論																																		
7. 導入7	論文の作成2 先行論文の引用作法	15. まとめと評価	レポートの作成																																		
8. 導入8	論文の作成3 序論の意義																																				
◇ 成績評価の方法	レポート提出																																				
◇ 教科書・参考書	『論文ワークブック』（くろしお出版）																																				
◇ 授業時間外学習	レポート作成																																				
その他：外国人留学生を対象とする。																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																																
日 本 語 表 現 論 J a p a n e s e C o m p o s i t i o n	2	教授 高橋章則	6	木	2																																
◆ 科目ナンバリング	LHMOHU303J																																				
◆ 授業題目	日本語表現論Ⅱ																																				
◆ 目的・概要	<p>専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。</p> <p>日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。「日本語表現論」（5セメスター）との連続履修が望ましい。</p>																																				
◆ 到達目標	日本語研究論文作成の基礎確立																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入1</td> <td>論文とは 日本における論文作成のルール</td> <td>9. 実践1</td> <td>論文題名の決定と先行研究</td> </tr> <tr> <td>2. 導入2</td> <td>論文作成の実際 先行研究の重要性</td> <td>10. 実践2</td> <td>序論の作成① 背景説明</td> </tr> <tr> <td>3. 導入3</td> <td>論文の構成1 構成の作り方</td> <td>11. 実践3</td> <td>序論の作成② 問題点の明示</td> </tr> <tr> <td>4. 導入4</td> <td>論文の構成2 序論の構成要素</td> <td>12. 実践4</td> <td>序論の作成③ 研究目的の明示</td> </tr> <tr> <td>5. 導入5</td> <td>論文の構成3 研究の視点</td> <td>13. 実践5</td> <td>資料・データの利用</td> </tr> <tr> <td>6. 導入6</td> <td>論文の作成1 先行論文の発見</td> <td>14. 実践6</td> <td>序論に対応した結論の書き方</td> </tr> <tr> <td>7. 導入7</td> <td>論文の作成2 先行論文の引用作法</td> <td>15. まとめと評価</td> <td>レポートの作成</td> </tr> <tr> <td>8. 導入8</td> <td>論文の作成3 序論の意義</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入1	論文とは 日本における論文作成のルール	9. 実践1	論文題名の決定と先行研究	2. 導入2	論文作成の実際 先行研究の重要性	10. 実践2	序論の作成① 背景説明	3. 導入3	論文の構成1 構成の作り方	11. 実践3	序論の作成② 問題点の明示	4. 導入4	論文の構成2 序論の構成要素	12. 実践4	序論の作成③ 研究目的の明示	5. 導入5	論文の構成3 研究の視点	13. 実践5	資料・データの利用	6. 導入6	論文の作成1 先行論文の発見	14. 実践6	序論に対応した結論の書き方	7. 導入7	論文の作成2 先行論文の引用作法	15. まとめと評価	レポートの作成	8. 導入8	論文の作成3 序論の意義		
1. 導入1	論文とは 日本における論文作成のルール	9. 実践1	論文題名の決定と先行研究																																		
2. 導入2	論文作成の実際 先行研究の重要性	10. 実践2	序論の作成① 背景説明																																		
3. 導入3	論文の構成1 構成の作り方	11. 実践3	序論の作成② 問題点の明示																																		
4. 導入4	論文の構成2 序論の構成要素	12. 実践4	序論の作成③ 研究目的の明示																																		
5. 導入5	論文の構成3 研究の視点	13. 実践5	資料・データの利用																																		
6. 導入6	論文の作成1 先行論文の発見	14. 実践6	序論に対応した結論の書き方																																		
7. 導入7	論文の作成2 先行論文の引用作法	15. まとめと評価	レポートの作成																																		
8. 導入8	論文の作成3 序論の意義																																				
◇ 成績評価の方法	レポート提出																																				
◇ 教科書・参考書	『論文ワークブック』（くろしお出版）																																				
◇ 授業時間外学習	レポート作成																																				
その他：外国人留学生を対象とする。																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン タ ー ン シ ッ プ I n t e r n s h i p	2	入 試 就 職 室 就 職 ・ 渉 外 担 当	3 ・ 4		
◆ 科目ナンバリング	LHMOAR902J				
◆ 授業題目	インターンシップ（就業・ボランティア体験）				
◆ 目的・概要	実質10日間以上（60時間以上）にわたる企業等での就業体験またはボランティア体験について、2単位を授業単位として認める。大まかな流れは以下の通りである。 (1) 4月 履修を希望する学生は、ガイダンスに出席し、履修届を提出する。 (2) 4月～7月 履修学生は、学部が提供する受入企業等の情報をもとに、あるいはみずから情報を収集して、各自インターンシップに応募し、受入内諾書を得しだい教務係に提出する。 (3) 夏期休業中 履修学生は、実習を行い、実習修了証明書および報告書・評価書（いずれも学部で定めた様式による）を終了後1週間以内に教務係に提出する。 (4) 1月 履修学生は、報告会で報告する。				
◆ 到達目標	自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験または震災復興等ボランティア体験を行うことによって、職業適性や資質を正しく認識し、高い意識のもとで主体的な職業選択ができるようにする。また、社会体験を大学での勉強にフィードバックすることで、学生生活をより実りあるものとする。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 2. 受入企業等での実習、ボランティア活動 3. 受入企業等での実習、ボランティア活動 4. 受入企業等での実習、ボランティア活動 5. 受入企業等での実習、ボランティア活動 6. 受入企業等での実習、ボランティア活動 7. 受入企業等での実習、ボランティア活動 8. 受入企業等での実習、ボランティア活動 9. 受入企業等での実習、ボランティア活動 10. 受入企業等での実習、ボランティア活動 11. 受入企業等での実習、ボランティア活動 12. 受入企業等での実習、ボランティア活動 13. 受入企業等での実習、ボランティア活動 14. 受入企業等での実習、ボランティア活動 15. 事後報告会での発表				
◇ 成績評価の方法	(1)ガイダンスへの出席 (2)実習修了証明書の提出 (3)実習報告書・評価書の提出 (4)事後報告会での発表以上を必須とし、実習報告書・評価書の内容、事後報告会での報告内容を中心として成績評価を行う。				
◇ 教科書・参考書	ガイダンスで指示する。				
◇ 授業時間外学習	この科目は、受入企業等での履修学生の実習、あるいは震災復興等ボランティア活動を中心としている。				
その他：	(1)この科目は、2005（平成17）年度以降の入学生が履修できる。(2)選択必修科目としては2単位を上限とする。(3)就業体験は、夏期休業中に行うことを奨励する。(4)インターンシップという名称でなくとも、実質それに相当すると見なされる就業体験については、単位取得の対象として認めるので、担当教員に相談すること（福祉・医療施設での実習など）。				

教職科目一覧

授業科目	講義題目	単位	担当教員	開講 セメスター	曜日	講時	頁
			氏名				
国語科教育論Ⅰ	国語科教育論Ⅰ	4	Ⓢ 相澤秀夫	通年	水	1	300
英語科教育論Ⅰ	英語科授業の基礎・基本 Teaching Theory of English I	4	Ⓢ リース エイドリアン	通年	月	3	300
ドイツ語科教育法Ⅰ	多読によるドイツ語の習得	2	Ⓢ 菊池克己	5	火	4	301
ドイツ語科教育法Ⅱ	Deutschsprachige Autorinnen und Autoren als Tagebuchsreiberinnen / Tagebuchsreiber und das Verfassen eigener Tagebuchtexte	2	シュミッツ, プリギッテ	6	木	3	301
フランス語科教育法Ⅰ	Langue et culture de la France contemporaine	2	メヴェル・ヤン	5	月	2	302
フランス語科教育法Ⅱ	Langue et culture de la France contemporaine	2	メヴェル・ヤン	6	月	2	302
地理歴史科教育法Ⅰ	高等学校の地理授業の設計と 実践	2	Ⓢ 初澤敏生	6	木	1	303
地理歴史科教育法Ⅱ	地理歴史科歴史授業の指導方 法	2	Ⓢ 吉井 宏	5	木	1	303
宗教科教育法Ⅰ	マックス・ミュラーの宗教論Ⅰ	2	山 田 仁 史	5	金	2	304
宗教科教育法Ⅱ	マックス・ミュラーの宗教論Ⅱ	2	山 田 仁 史	6	金	2	304

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																		
国 語 科 教 育 論 I Teaching Theory of the Japanese Language I	4	非常勤 講師 相 澤 秀 夫	通 年	水	1																		
<p>◆ 科目ナンバリング LHMEDU901J</p> <p>◆ 授業題目 国語科教育論 I</p> <p>◆ 目的・概要 学習指導要領の理解並びに教材研究法、国語の授業づくりにかかる基本的な技能を身につける。</p> <p>◆ 到達目標 教育実習において指導案の作成および教壇実習ができるための実践的な力量を形成する。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 国語科教育の意義と目的 (1)国語科教育の今日的な課題 (2)言葉を学ぶことの意義 (3)教科としての「国語科の目的」</td> <td>7. 国語科の教材研究論 (2)文章内容と言葉の扱い</td> </tr> <tr> <td>2. 国語科教育論の問題点・課題</td> <td>8. 国語の授業づくりと学習指導案の作成（演習）</td> </tr> <tr> <td>3. 現行の国語教室の問題点・課題</td> <td>9. 教材研究と発問づくり（その1）『少年の日の思い出』</td> </tr> <tr> <td>4. 学習指導要領と国語の授業作り (1)中学校国語科の構造と内容</td> <td>10. 教材研究と発問づくり（その2）『走れメロス』</td> </tr> <tr> <td>5. 学習指導要領と国語の授業作り (2)高等学校国語科の構造と内容</td> <td>11. 教材研究と発問づくり（その3）『故郷』</td> </tr> <tr> <td>6. 国語科の教材研究論 (1)教材論としての教科書教材の取り扱いおよび学 習材の開発</td> <td>12. 学習指導案の作成と検討（演習）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. 模擬授業（演習）～全員行～</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 国語科の評価</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 国語科の歴史と今後の課題</td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 レポート・演習への参加等</p> <p>◇ 教科書・参考書 教科書：文部科学省刊行『中学校・高等学校 指導要領解説（国語編）』『若手中学校国語教師のための指導テキスト』（明治図書）</p> <p>◇ 授業時間外学習 具体的な説明・評論文や小説等の教材研究、学習指導案づくり、授業づくりの準備等を各自事前におこなう。</p> <p>その他：</p>						1. 国語科教育の意義と目的 (1)国語科教育の今日的な課題 (2)言葉を学ぶことの意義 (3)教科としての「国語科の目的」	7. 国語科の教材研究論 (2)文章内容と言葉の扱い	2. 国語科教育論の問題点・課題	8. 国語の授業づくりと学習指導案の作成（演習）	3. 現行の国語教室の問題点・課題	9. 教材研究と発問づくり（その1）『少年の日の思い出』	4. 学習指導要領と国語の授業作り (1)中学校国語科の構造と内容	10. 教材研究と発問づくり（その2）『走れメロス』	5. 学習指導要領と国語の授業作り (2)高等学校国語科の構造と内容	11. 教材研究と発問づくり（その3）『故郷』	6. 国語科の教材研究論 (1)教材論としての教科書教材の取り扱いおよび学 習材の開発	12. 学習指導案の作成と検討（演習）		13. 模擬授業（演習）～全員行～		14. 国語科の評価		15. 国語科の歴史と今後の課題
1. 国語科教育の意義と目的 (1)国語科教育の今日的な課題 (2)言葉を学ぶことの意義 (3)教科としての「国語科の目的」	7. 国語科の教材研究論 (2)文章内容と言葉の扱い																						
2. 国語科教育論の問題点・課題	8. 国語の授業づくりと学習指導案の作成（演習）																						
3. 現行の国語教室の問題点・課題	9. 教材研究と発問づくり（その1）『少年の日の思い出』																						
4. 学習指導要領と国語の授業作り (1)中学校国語科の構造と内容	10. 教材研究と発問づくり（その2）『走れメロス』																						
5. 学習指導要領と国語の授業作り (2)高等学校国語科の構造と内容	11. 教材研究と発問づくり（その3）『故郷』																						
6. 国語科の教材研究論 (1)教材論としての教科書教材の取り扱いおよび学 習材の開発	12. 学習指導案の作成と検討（演習）																						
	13. 模擬授業（演習）～全員行～																						
	14. 国語科の評価																						
	15. 国語科の歴史と今後の課題																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 科 教 育 論 I Teaching Theory of English I	4	非常勤 講師 リ ー ス エ イ ド リ ア ン	通 年	月	3																
<p>◆ 科目ナンバリング LHMEDU903B</p> <p>◆ 授業題目 英語科授業の基礎・基本 Teaching Theory of English I</p> <p>◆ 目的・概要 ・英語科教育の基本理念、目標、学習内容、指導方法、評価等に関する理解を深める。 ・英語科授業の指導案を作成する。 ・英語科授業の模擬授業を行う。</p> <p>◆ 到達目標 ・英語科教育の基本理念、目標、学習内容、指導方法、評価等を理解し、説明できる。 ・英語科の学習指導案を作成することができる。 ・模擬授業を通して、基本的な指導技術を身につける。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. (1)学習指導要領 (2)Text: Chapter 1</td> <td>9. (17)模擬授業（導入編） (18)模擬授業（導入編）</td> </tr> <tr> <td>2. (3)Text: Chapter 2 (pp. 25-48) (4)Text: Chapter 2 (pp. 48-59)</td> <td>10. (19)模擬授業（導入編） (20)模擬授業（導入編）</td> </tr> <tr> <td>3. (5)Text: Chapter 3 (6)Text: Chapter 4</td> <td>11. (21)模擬授業（展開編） (22)模擬授業（展開編）</td> </tr> <tr> <td>4. (7)Text: Chapter 5 (8)Text: Chapter 6</td> <td>12. (23)模擬授業（展開編） (24)模擬授業（展開編）</td> </tr> <tr> <td>5. (9)復習と評価 (10)Text: Chapter 7</td> <td>13. (25)模擬授業（通し授業編） (26)模擬授業（通し授業編）</td> </tr> <tr> <td>6. (11)Text: Chapter 8 (12)Text: Chapter 9</td> <td>14. (27)模擬授業（通し授業編） (28)模擬授業（通し授業編）</td> </tr> <tr> <td>7. (13)Text: Chapter 10 (14)Text: Chapter 11</td> <td>15. (29)模擬授業（通し授業編） (30)模擬授業（通し授業編）</td> </tr> <tr> <td>8. (15)復習と評価 (16)授業の構成と指導案</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 ①小テスト（40%）、②指導案（20%）、③模擬授業（40%）</p> <p>◇ 教科書・参考書 教科書：Becoming a Language Teacher: A practical guide to second language learning and teaching (ISBN: 978-0132489980)</p> <p>◇ 授業時間外学習 参考書：『Hi, friends! 1, 2』、『New Horizon 1, 2, 3』、『コミュニケーション英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ』、『英語表現Ⅰ, Ⅱ』 予習：テキストを読んで、理解できるところとそうでないところを明確にした上で、授業に臨むこと。 復習：指導案の作成や、模擬授業の準備をグループで協力して行うこと。</p> <p>その他：オフィスアワー：随時（事前にメールすること） メールアドレス：adrian@staff.miyakyo-u.ac.jp</p>						1. (1)学習指導要領 (2)Text: Chapter 1	9. (17)模擬授業（導入編） (18)模擬授業（導入編）	2. (3)Text: Chapter 2 (pp. 25-48) (4)Text: Chapter 2 (pp. 48-59)	10. (19)模擬授業（導入編） (20)模擬授業（導入編）	3. (5)Text: Chapter 3 (6)Text: Chapter 4	11. (21)模擬授業（展開編） (22)模擬授業（展開編）	4. (7)Text: Chapter 5 (8)Text: Chapter 6	12. (23)模擬授業（展開編） (24)模擬授業（展開編）	5. (9)復習と評価 (10)Text: Chapter 7	13. (25)模擬授業（通し授業編） (26)模擬授業（通し授業編）	6. (11)Text: Chapter 8 (12)Text: Chapter 9	14. (27)模擬授業（通し授業編） (28)模擬授業（通し授業編）	7. (13)Text: Chapter 10 (14)Text: Chapter 11	15. (29)模擬授業（通し授業編） (30)模擬授業（通し授業編）	8. (15)復習と評価 (16)授業の構成と指導案	
1. (1)学習指導要領 (2)Text: Chapter 1	9. (17)模擬授業（導入編） (18)模擬授業（導入編）																				
2. (3)Text: Chapter 2 (pp. 25-48) (4)Text: Chapter 2 (pp. 48-59)	10. (19)模擬授業（導入編） (20)模擬授業（導入編）																				
3. (5)Text: Chapter 3 (6)Text: Chapter 4	11. (21)模擬授業（展開編） (22)模擬授業（展開編）																				
4. (7)Text: Chapter 5 (8)Text: Chapter 6	12. (23)模擬授業（展開編） (24)模擬授業（展開編）																				
5. (9)復習と評価 (10)Text: Chapter 7	13. (25)模擬授業（通し授業編） (26)模擬授業（通し授業編）																				
6. (11)Text: Chapter 8 (12)Text: Chapter 9	14. (27)模擬授業（通し授業編） (28)模擬授業（通し授業編）																				
7. (13)Text: Chapter 10 (14)Text: Chapter 11	15. (29)模擬授業（通し授業編） (30)模擬授業（通し授業編）																				
8. (15)復習と評価 (16)授業の構成と指導案																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
ド イ ツ 語 科 教 育 法 I Teaching Method of German Studies I	2	非常勤 講師 菊 池 克 己	5	火	4		
◆ 科目ナンバリング	LHMEDU905J						
◆ 授業題目	多読によるドイツ語の習得						
◆ 目的・概要	従来の文法・語法解説、訳読の授業では、ドイツ語を知識として知ることはできても、身につけるところにまではいたらない。そこで従来の学習法とは別種のアプローチとして「多読」を取り上げ、実際に体験してもらう。それを通して、外国語を身につけるには何が必要かを考え直し、新たな外国語習得の可能性を探る。						
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな外国語とのつきあい方の可能性として多読を知る。 ・ 訳読という「暗号解読」方式とは異なる本の読み方、ドイツ語での「読書」を知る。 ・ それによって、従来の学習法の相対化し、その問題点を考えるきっかけを得る。 						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 多読実践 本の選び方のポイント 3. 多読実践 自分にあった本を知る 4. 多読実践 多読の読み方を知る 5. 多読実践 読み方のポイント1 6. 多読実践 読み方のポイント2 7. 多読実践 読み方のポイント3 8. ここまでの感想、本の紹介、情報交換 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. 経験を踏まえて目標を定める 10. 多読の本格化1 11. 多読の本格化2 12. 多読の本格化3 13. 多読の本格化4 14. 多読の本格化5 15. 多読の本格化6 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 多読実践 本の選び方のポイント 3. 多読実践 自分にあった本を知る 4. 多読実践 多読の読み方を知る 5. 多読実践 読み方のポイント1 6. 多読実践 読み方のポイント2 7. 多読実践 読み方のポイント3 8. ここまでの感想、本の紹介、情報交換 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 経験を踏まえて目標を定める 10. 多読の本格化1 11. 多読の本格化2 12. 多読の本格化3 13. 多読の本格化4 14. 多読の本格化5 15. 多読の本格化6
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 多読実践 本の選び方のポイント 3. 多読実践 自分にあった本を知る 4. 多読実践 多読の読み方を知る 5. 多読実践 読み方のポイント1 6. 多読実践 読み方のポイント2 7. 多読実践 読み方のポイント3 8. ここまでの感想、本の紹介、情報交換 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 経験を踏まえて目標を定める 10. 多読の本格化1 11. 多読の本格化2 12. 多読の本格化3 13. 多読の本格化4 14. 多読の本格化5 15. 多読の本格化6 						
◇ 成績評価の方法	毎回の課題 [100%]						
◇ 教科書・参考書	教室で指示						
◇ 授業時間外学習	隙間時間を利用するなど、みずから多読に取り組み、訳読ではない「読書」を習慣化する努力をすること。						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
ド イ ツ 語 科 教 育 法 II Teaching Method of German Studies II	2	教授 シュミッツ, ブリギッテ	6	木	3		
◆ 科目ナンバリング	LHMEDU906F						
◆ 授業題目	Deutschsprachige Autorinnen und Autoren als Tagebuchschreiberinnen / Tagebuchschreiber und das Verfassen eigener Tagebuchtexte						
◆ 目的・概要	Der erste Teil erstreckt sich über 45 – 60 Minuten und umfasst das Vorlesen der eigenen Tagebuchtexte, deren Besprechung, Erläuterung der Grammatik, des Wortschatzes und der Idiomatik und das Gespräch der Studierenden über die vorgelesenen Tagebuchtexte. Der zweite Teil ist der Textarbeit mit Texten berühmter Persönlichkeiten gewidmet. Die Texte werden zusammen mit den Biographien der ausgewählten Persönlichkeiten gelesen und sprachlich / inhaltlich erläutert. Es erfolgt die Bearbeitung der Aufgabenblätter (zum Teil als Hausaufgabe) und die Besprechung dieser Aufgaben.						
◆ 到達目標	Die Studierenden sollen dazu befähigt werden, ihre Gedanken und Erlebnisse in Form von Tagebuchaufzeichnungen aufzuschreiben (Textproduktion) und erhalten Gelegenheit, ihre Tagebuchtexte vorzulesen. Diese Texte bieten zugleich die Grundlage für Sprechansätze: Die Studierenden sollen nun Fragen stellen und miteinander ins Gespräch kommen (Verbesserung der Sprachfähigkeit). – In einem anschließenden Teil sollen die Studierenden bei der Lektüre von Tagebuchtexten berühmter Persönlichkeiten ihre Kenntnisse über Inhalte der Geistes- bzw. Kulturgeschichte erweitern. Die Textverstehensfähigkeit wird mit speziellen Aufgabenblättern überprüft.						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(1) 3. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(2) 4. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(3) 5. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(4) 6. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(5) 7. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(6) 8. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(7) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(8) 10. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(9) 11. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(10) 12. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(11) 13. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(12) 14. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(13) 15. まとめ </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(1) 3. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(2) 4. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(3) 5. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(4) 6. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(5) 7. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(6) 8. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(7) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(8) 10. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(9) 11. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(10) 12. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(11) 13. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(12) 14. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(13) 15. まとめ
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(1) 3. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(2) 4. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(3) 5. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(4) 6. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(5) 7. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(6) 8. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(7) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(8) 10. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(9) 11. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(10) 12. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(11) 13. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(12) 14. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(13) 15. まとめ 						
◇ 成績評価の方法	Schriftliche Prüfung (= Test oder Hausarbeit): (60%); Anwesenheit / Vorbereitung / Mitarbeit (40%)						
◇ 教科書・参考書	Das Textmaterial wird von mir bereitgestellt. Texte hauptsächlich aus: Rainer WIELAND (Hg.): Das Buch der Tagebücher. Ausgewählt von Rainer WIELAND. München (Piper Verlag GmbH) September 2010. ISBN: 978-3-492-05326-6						
◇ 授業時間外学習	準備されたテキストを読んでおくこと。						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 語 科 教 育 法 I Teaching Method of French Studies I	2	准教授 メヴェル・ヤン	5	月	2																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMEDU909F Langue et culture de la France contemporaine A l'oral comme à l'écrit, le cours permettra - d'enrichir le vocabulaire et de consolider la syntaxe - d'augmenter les capacités d'argumentation - d'améliorer les capacités de compréhension Le cours aidera aussi à découvrir la vie quotidienne en France, ses codes et usages.																				
◆ 到達目標	Le cours prendra plusieurs formes. Il permettra - la lecture de divers types de textes - l'audition de documents sonores - une analyse de documents visuels - des discussions sur des sujets de société - des jeux de rôles																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1. Expression orale et écrite</td> <td style="width: 50%; border: none;">9. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">2. Expression orale et écrite</td> <td style="border: none;">10. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">3. Expression orale et écrite</td> <td style="border: none;">11. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">4. Expression orale et écrite</td> <td style="border: none;">12. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">5. Expression orale et écrite</td> <td style="border: none;">13. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">6. Expression orale et écrite</td> <td style="border: none;">14. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">7. Expression orale et écrite</td> <td style="border: none;">15. Projection de film. Analyse et discussion.</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">8. Expression orale et écrite</td> <td style="border: none;"></td> </tr> </table>					1. Expression orale et écrite	9. Expression orale et écrite	2. Expression orale et écrite	10. Expression orale et écrite	3. Expression orale et écrite	11. Expression orale et écrite	4. Expression orale et écrite	12. Expression orale et écrite	5. Expression orale et écrite	13. Expression orale et écrite	6. Expression orale et écrite	14. Expression orale et écrite	7. Expression orale et écrite	15. Projection de film. Analyse et discussion.	8. Expression orale et écrite	
1. Expression orale et écrite	9. Expression orale et écrite																				
2. Expression orale et écrite	10. Expression orale et écrite																				
3. Expression orale et écrite	11. Expression orale et écrite																				
4. Expression orale et écrite	12. Expression orale et écrite																				
5. Expression orale et écrite	13. Expression orale et écrite																				
6. Expression orale et écrite	14. Expression orale et écrite																				
7. Expression orale et écrite	15. Projection de film. Analyse et discussion.																				
8. Expression orale et écrite																					
◇ 成績評価の方法	Une participation à tous les cours est nécessaire. La participation à l'oral compte pour 60%. L'évaluation sera aussi écrite (rédaction de plusieurs textes brefs).																				
◇ 教科書・参考書	Alter ego +, Paris, Editions Hachette Français langue étrangère .																				
◇ 授業時間外学習	Des photocopies seront fournies pour les premiers cours. Des exercices permettront de revoir du vocabulaire ou des points de grammaire. Il faudra aussi rédiger des textes brefs en relation avec l'objet du cours.																				
その他 :																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 語 科 教 育 法 II Teaching Method of French Studies II	2	准教授 メヴェル・ヤン	6	月	2																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHMEDU910F Langue et culture de la France contemporaine A l'oral comme à l'écrit, le cours permettra - d'enrichir le vocabulaire et de consolider la syntaxe - d'augmenter les capacités d'argumentation - d'améliorer les capacités de compréhension Le cours aidera aussi à découvrir la vie quotidienne en France, ses codes et usages.																				
◆ 到達目標	Le cours prendra plusieurs formes. Il permettra - la lecture de divers types de textes - l'audition de documents sonores - une analyse de documents visuels - des discussions sur des sujets de société - des jeux de rôles																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1. Expression orale et écrite</td> <td style="width: 50%; border: none;">9. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">2. Expression orale et écrite</td> <td style="border: none;">10. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">3. Expression orale et écrite</td> <td style="border: none;">11. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">4. Expression orale et écrite</td> <td style="border: none;">12. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">5. Expression orale et écrite</td> <td style="border: none;">13. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">6. Expression orale et écrite</td> <td style="border: none;">14. Expression orale et écrite</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">7. Expression orale et écrite</td> <td style="border: none;">15. Projection de film. Analyse et discussion.</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">8. Expression orale et écrite</td> <td style="border: none;"></td> </tr> </table>					1. Expression orale et écrite	9. Expression orale et écrite	2. Expression orale et écrite	10. Expression orale et écrite	3. Expression orale et écrite	11. Expression orale et écrite	4. Expression orale et écrite	12. Expression orale et écrite	5. Expression orale et écrite	13. Expression orale et écrite	6. Expression orale et écrite	14. Expression orale et écrite	7. Expression orale et écrite	15. Projection de film. Analyse et discussion.	8. Expression orale et écrite	
1. Expression orale et écrite	9. Expression orale et écrite																				
2. Expression orale et écrite	10. Expression orale et écrite																				
3. Expression orale et écrite	11. Expression orale et écrite																				
4. Expression orale et écrite	12. Expression orale et écrite																				
5. Expression orale et écrite	13. Expression orale et écrite																				
6. Expression orale et écrite	14. Expression orale et écrite																				
7. Expression orale et écrite	15. Projection de film. Analyse et discussion.																				
8. Expression orale et écrite																					
◇ 成績評価の方法	Une participation à tous les cours est nécessaire. La participation à l'oral compte pour 60%. L'évaluation sera aussi écrite (rédaction de plusieurs textes brefs).																				
◇ 教科書・参考書	Alter ego +, Paris, Editions Hachette Français langue étrangère, 2012.																				
◇ 授業時間外学習	Des photocopies seront fournies pour les premiers cours. Des exercices permettront de revoir du vocabulaire ou des points de grammaire. Il faudra aussi rédiger des textes brefs en relation avec l'objet du cours.																				
その他 :																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
地 理 歴 史 科 教 育 法 I Teaching Method of Geography and History Studies I	2	非常勤 講師 初 澤 敏 生	6	木	1		
◆ 科目ナンバリング	LHMEDU913J						
◆ 授業題目	高等学校の地理授業の設計と実践						
◆ 目的・概要	「高等学校学習指導要領地理歴史編解説」についての解説を行い、その特徴と課題を把握する。合わせて教科書分析を行い、その授業化のための留意点などを検討する。次いで、受講生が授業案を作成し、それに関する討議・講評を行う。その後、受講生をいくつかのグループに分けて模擬授業を作成・実践し、それについての討議を行う。模擬授業は各グループごとに50分1コマ分を行い、各授業実践に関して受講者全員で討議する。						
◆ 到達目標	平成21年度改訂学習指導要領の特徴と課題を理解した上で、高等学校地理の授業づくりに関する基礎的な考え方と方法、技能を身につける。						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関するガイダンスと授業案作成にあたっての留意点 2. 平成21年度改訂学習指導要領に関する解説（A科目を中心に） 3. 教科書分析（A科目を中心に） 4. 平成21年度改訂学習指導要領に関する解説（B科目の系統学習を中心に） 5. 教科書分析（B科目の系統学習を中心に） 6. 平成21年度改訂学習指導要領に関する解説（B科目の地域学習を中心に） </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 7. 教科書分析（B科目の地域学習を中心に） 8. 今後の学習指導要領について／防災教育について 9. 授業案の講評（A科目を中心に） 10. 授業案の講評（B科目を中心に） 11. 模擬授業（グループA）の実践と討議、講評① 12. 模擬授業（グループB）の実践と討議、講評② 13. 模擬授業（グループC）の実践と討議、講評③ 14. 模擬授業（グループD）の実践と討議、講評④ 15. 振り返りと学習内容の定着 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関するガイダンスと授業案作成にあたっての留意点 2. 平成21年度改訂学習指導要領に関する解説（A科目を中心に） 3. 教科書分析（A科目を中心に） 4. 平成21年度改訂学習指導要領に関する解説（B科目の系統学習を中心に） 5. 教科書分析（B科目の系統学習を中心に） 6. 平成21年度改訂学習指導要領に関する解説（B科目の地域学習を中心に） 	<ol style="list-style-type: none"> 7. 教科書分析（B科目の地域学習を中心に） 8. 今後の学習指導要領について／防災教育について 9. 授業案の講評（A科目を中心に） 10. 授業案の講評（B科目を中心に） 11. 模擬授業（グループA）の実践と討議、講評① 12. 模擬授業（グループB）の実践と討議、講評② 13. 模擬授業（グループC）の実践と討議、講評③ 14. 模擬授業（グループD）の実践と討議、講評④ 15. 振り返りと学習内容の定着
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関するガイダンスと授業案作成にあたっての留意点 2. 平成21年度改訂学習指導要領に関する解説（A科目を中心に） 3. 教科書分析（A科目を中心に） 4. 平成21年度改訂学習指導要領に関する解説（B科目の系統学習を中心に） 5. 教科書分析（B科目の系統学習を中心に） 6. 平成21年度改訂学習指導要領に関する解説（B科目の地域学習を中心に） 	<ol style="list-style-type: none"> 7. 教科書分析（B科目の地域学習を中心に） 8. 今後の学習指導要領について／防災教育について 9. 授業案の講評（A科目を中心に） 10. 授業案の講評（B科目を中心に） 11. 模擬授業（グループA）の実践と討議、講評① 12. 模擬授業（グループB）の実践と討議、講評② 13. 模擬授業（グループC）の実践と討議、講評③ 14. 模擬授業（グループD）の実践と討議、講評④ 15. 振り返りと学習内容の定着 						
◇ 成績評価の方法	模擬授業の評価と授業づくりへの貢献度（50%）、作成した授業案の評価（40%）、授業中の積極性（10%）						
◇ 教科書・参考書	文部科学省『学習指導要領解説 地理歴史編』（教育出版、平成22年6月）必携のこと						
◇ 授業時間外学習	授業時間外に授業案づくりに関する課題を課す。また、グループ作成となる模擬授業づくりの準備等は授業時間外に行うことになるので、準備しておくこと。						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時		
地 理 歴 史 科 教 育 法 II Teaching Method of Geography and History Studies II	2	非常勤 講師 吉 井 宏	5	木	1		
◆ 科目ナンバリング	LHMEDU914J						
◆ 授業題目	地理歴史科歴史授業の指導方法						
◆ 目的・概要	「高等学校学習指導要領地理歴史編解説」についての解説を行い、問題点について検討する。また、歴史地理の学習指導案を作成した後、模擬授業を12名が実演し、受講生全員でそれぞれについての良い点と問題点を検討する。さらに、我が国の戦後における高等学校歴史地理授業が、どのように変化し、問題点を克服しようとしてきたかについて解説し、受講生の見解を聞く。また歴史地理教育に関する講義と討議を行い、歴史や地理を高等学校で教えることの意味を考える。						
◆ 到達目標	高等学校における歴史教育の歴史を踏まえ、平成21年度改訂学習指導要領の趣旨を歴史授業で実現する方法について基礎的なイメージをつかむ。						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関するガイダンス（シラバスの確認及び授業の意義に関する説明） 2. 平成21年改訂学習指導要領① 改訂経緯と趣旨（改訂の経緯と趣旨について学ぶ） 3. 平成21年改訂学習指導要領② 大項目（各科目導入時期の学習について考える） 4. 平成21年改訂学習指導要領③ 世界史B（「世界史B」の改訂要点を知る） 5. 平成21年改訂学習指導要領④ 日本史B（「日本史B」の改訂要点を知る） 6. 平成21年改訂学習指導要領⑤ 資料の取り扱い（客観的・公正な取り扱いとは） 7. 平成21年改訂学習指導要領⑥ 追加項目（「領土」に関する指導をいかにするか考える） </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 8. 模擬授業① 学習指導案とは（学習指導案と模擬授業の関係を考える） 9. 模擬授業② 実習経験者から（実習経験者の模擬授業から考える） 10. 模擬授業③ 未経験者（3科目の模擬授業から考える） 11. 模擬授業④ 未経験者（3名の模擬授業から考える） 12. 学習指導要領改訂史① 初期社会科（戦後の社会科導入の意義を検討する） 13. 学習指導要領改訂史② 日本史授業の開始（日本史授業の問題点を考える） 14. 学習指導要領改訂史③ 社会科再編成（地理歴史科が誕生した理由を学ぶ） 15. 歴史地理教育の定義と学期末試験（歴史授業を教える者の心構えを問う） </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関するガイダンス（シラバスの確認及び授業の意義に関する説明） 2. 平成21年改訂学習指導要領① 改訂経緯と趣旨（改訂の経緯と趣旨について学ぶ） 3. 平成21年改訂学習指導要領② 大項目（各科目導入時期の学習について考える） 4. 平成21年改訂学習指導要領③ 世界史B（「世界史B」の改訂要点を知る） 5. 平成21年改訂学習指導要領④ 日本史B（「日本史B」の改訂要点を知る） 6. 平成21年改訂学習指導要領⑤ 資料の取り扱い（客観的・公正な取り扱いとは） 7. 平成21年改訂学習指導要領⑥ 追加項目（「領土」に関する指導をいかにするか考える） 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 模擬授業① 学習指導案とは（学習指導案と模擬授業の関係を考える） 9. 模擬授業② 実習経験者から（実習経験者の模擬授業から考える） 10. 模擬授業③ 未経験者（3科目の模擬授業から考える） 11. 模擬授業④ 未経験者（3名の模擬授業から考える） 12. 学習指導要領改訂史① 初期社会科（戦後の社会科導入の意義を検討する） 13. 学習指導要領改訂史② 日本史授業の開始（日本史授業の問題点を考える） 14. 学習指導要領改訂史③ 社会科再編成（地理歴史科が誕生した理由を学ぶ） 15. 歴史地理教育の定義と学期末試験（歴史授業を教える者の心構えを問う）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関するガイダンス（シラバスの確認及び授業の意義に関する説明） 2. 平成21年改訂学習指導要領① 改訂経緯と趣旨（改訂の経緯と趣旨について学ぶ） 3. 平成21年改訂学習指導要領② 大項目（各科目導入時期の学習について考える） 4. 平成21年改訂学習指導要領③ 世界史B（「世界史B」の改訂要点を知る） 5. 平成21年改訂学習指導要領④ 日本史B（「日本史B」の改訂要点を知る） 6. 平成21年改訂学習指導要領⑤ 資料の取り扱い（客観的・公正な取り扱いとは） 7. 平成21年改訂学習指導要領⑥ 追加項目（「領土」に関する指導をいかにするか考える） 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 模擬授業① 学習指導案とは（学習指導案と模擬授業の関係を考える） 9. 模擬授業② 実習経験者から（実習経験者の模擬授業から考える） 10. 模擬授業③ 未経験者（3科目の模擬授業から考える） 11. 模擬授業④ 未経験者（3名の模擬授業から考える） 12. 学習指導要領改訂史① 初期社会科（戦後の社会科導入の意義を検討する） 13. 学習指導要領改訂史② 日本史授業の開始（日本史授業の問題点を考える） 14. 学習指導要領改訂史③ 社会科再編成（地理歴史科が誕生した理由を学ぶ） 15. 歴史地理教育の定義と学期末試験（歴史授業を教える者の心構えを問う） 						
◇ 成績評価の方法	試験（50%）、レポート（25%）、小テスト（15%）、授業への参加・態度（10%）						
◇ 教科書・参考書	文部科学省『学習指導要領解説 地理歴史編』（平成22年6月）必携のこと						
◇ 授業時間外学習	教育法規、とくに教育基本法・学校教育法に載る教育目的及び目標に目を通しておくこと						
その他：高校教諭（地理歴史科）を目指す者としての授業態度を心がけること							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 科 教 育 法 I Teaching Method of Religions Studies I	2	准教授 山田仁史	5	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMEDU915J																				
◆ 授業題目	マックス・ミュラーの宗教論 I																				
◆ 目的・概要	宗教学の創始者であるマックス・ミュラー（1823-1900）は、人類全体の教育に資する知的遺産として、宗教をとらえていた。彼の評伝を読むことで、その生涯と思想をたどってゆく。																				
◆ 到達目標	マックス・ミュラーの宗教論を通して、宗教教育の可能性を考える。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. はじめに マックス・ミュラーとその時代</td> <td>9. Chapter II. Language and thought, 3.</td> </tr> <tr> <td>2. Preface + Introduction</td> <td>10. Chapter II. Language and thought, 4.</td> </tr> <tr> <td>3. Chapter I. The life of Friedrich Max Müller, 1.</td> <td>11. Chapter III. Mythology in comparative perspective, 1.</td> </tr> <tr> <td>4. Chapter I. The life of Friedrich Max Müller, 2.</td> <td>12. Chapter III. Mythology in comparative perspective, 2.</td> </tr> <tr> <td>5. Chapter I. The life of Friedrich Max Müller, 3.</td> <td>13. Chapter III. Mythology in comparative perspective, 3.</td> </tr> <tr> <td>6. Chapter I. The life of Friedrich Max Müller, 4.</td> <td>14. Chapter III. Mythology in comparative perspective, 4.</td> </tr> <tr> <td>7. Chapter II. Language and thought, 1.</td> <td>15. 前期のおわりに マックス・ミュラーの宗教論</td> </tr> <tr> <td>8. Chapter II. Language and thought, 2.</td> <td></td> </tr> </table>					1. はじめに マックス・ミュラーとその時代	9. Chapter II. Language and thought, 3.	2. Preface + Introduction	10. Chapter II. Language and thought, 4.	3. Chapter I. The life of Friedrich Max Müller, 1.	11. Chapter III. Mythology in comparative perspective, 1.	4. Chapter I. The life of Friedrich Max Müller, 2.	12. Chapter III. Mythology in comparative perspective, 2.	5. Chapter I. The life of Friedrich Max Müller, 3.	13. Chapter III. Mythology in comparative perspective, 3.	6. Chapter I. The life of Friedrich Max Müller, 4.	14. Chapter III. Mythology in comparative perspective, 4.	7. Chapter II. Language and thought, 1.	15. 前期のおわりに マックス・ミュラーの宗教論	8. Chapter II. Language and thought, 2.	
1. はじめに マックス・ミュラーとその時代	9. Chapter II. Language and thought, 3.																				
2. Preface + Introduction	10. Chapter II. Language and thought, 4.																				
3. Chapter I. The life of Friedrich Max Müller, 1.	11. Chapter III. Mythology in comparative perspective, 1.																				
4. Chapter I. The life of Friedrich Max Müller, 2.	12. Chapter III. Mythology in comparative perspective, 2.																				
5. Chapter I. The life of Friedrich Max Müller, 3.	13. Chapter III. Mythology in comparative perspective, 3.																				
6. Chapter I. The life of Friedrich Max Müller, 4.	14. Chapter III. Mythology in comparative perspective, 4.																				
7. Chapter II. Language and thought, 1.	15. 前期のおわりに マックス・ミュラーの宗教論																				
8. Chapter II. Language and thought, 2.																					
◇ 成績評価の方法	担当箇所の発表（50%）および討論への参加状況（50%）により評価する。																				
◇ 教科書・参考書	教科書は、Bosch, Lourens van den, Friedrich Max Müller: A Life Devoted to the Humanities, Leiden: Brill, 2002. 入手方法は初回に指示します。																				
◇ 授業時間外学習	発表箇所の準備に際し、十分な下調べを行なってください。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
宗 教 科 教 育 法 II Teaching Method of Religions Studies II	2	准教授 山田仁史	6	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMEDU916J																				
◆ 授業題目	マックス・ミュラーの宗教論 II																				
◆ 目的・概要	宗教学の創始者であるマックス・ミュラー（1823-1900）は、人類全体の教育に資する知的遺産として、宗教をとらえていた。彼の評伝を読むことで、その生涯と思想をたどってゆく。																				
◆ 到達目標	マックス・ミュラーの宗教論を通して、宗教教育の可能性を考える。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 後期のはじめに マックス・ミュラー研究の現在</td> <td>9. Chapter VI. A philosophy of religion, 1.</td> </tr> <tr> <td>2. Chapter IV. The science of religion, 1.</td> <td>10. Chapter VI. A philosophy of religion, 2.</td> </tr> <tr> <td>3. Chapter IV. The science of religion, 2.</td> <td>11. Chapter VI. A philosophy of religion, 3.</td> </tr> <tr> <td>4. Chapter IV. The science of religion, 3.</td> <td>12. Chapter VII. Müller's legacy, 1.</td> </tr> <tr> <td>5. Chapter V. Christianity, colonialism, and the missions, 1.</td> <td>13. Chapter VII. Müller's legacy, 2.</td> </tr> <tr> <td>6. Chapter V. Christianity, colonialism, and the missions, 2.</td> <td>14. Chapter VII. Müller's legacy, 3.</td> </tr> <tr> <td>7. Chapter V. Christianity, colonialism, and the missions, 3.</td> <td>15. おわりに マックス・ミュラーの現代的意義</td> </tr> <tr> <td>8. ここまでのまとめ マックス・ミュラーの思想背景</td> <td></td> </tr> </table>					1. 後期のはじめに マックス・ミュラー研究の現在	9. Chapter VI. A philosophy of religion, 1.	2. Chapter IV. The science of religion, 1.	10. Chapter VI. A philosophy of religion, 2.	3. Chapter IV. The science of religion, 2.	11. Chapter VI. A philosophy of religion, 3.	4. Chapter IV. The science of religion, 3.	12. Chapter VII. Müller's legacy, 1.	5. Chapter V. Christianity, colonialism, and the missions, 1.	13. Chapter VII. Müller's legacy, 2.	6. Chapter V. Christianity, colonialism, and the missions, 2.	14. Chapter VII. Müller's legacy, 3.	7. Chapter V. Christianity, colonialism, and the missions, 3.	15. おわりに マックス・ミュラーの現代的意義	8. ここまでのまとめ マックス・ミュラーの思想背景	
1. 後期のはじめに マックス・ミュラー研究の現在	9. Chapter VI. A philosophy of religion, 1.																				
2. Chapter IV. The science of religion, 1.	10. Chapter VI. A philosophy of religion, 2.																				
3. Chapter IV. The science of religion, 2.	11. Chapter VI. A philosophy of religion, 3.																				
4. Chapter IV. The science of religion, 3.	12. Chapter VII. Müller's legacy, 1.																				
5. Chapter V. Christianity, colonialism, and the missions, 1.	13. Chapter VII. Müller's legacy, 2.																				
6. Chapter V. Christianity, colonialism, and the missions, 2.	14. Chapter VII. Müller's legacy, 3.																				
7. Chapter V. Christianity, colonialism, and the missions, 3.	15. おわりに マックス・ミュラーの現代的意義																				
8. ここまでのまとめ マックス・ミュラーの思想背景																					
◇ 成績評価の方法	担当箇所の発表（50%）および討論への参加状況（50%）により評価する。																				
◇ 教科書・参考書	教科書は、Bosch, Lourens van den, Friedrich Max Müller: A Life Devoted to the Humanities, Leiden: Brill, 2002. 入手方法は初回に指示します。																				
◇ 授業時間外学習	発表箇所の準備に際し、十分な下調べを行なってください。																				
その他：																					

平成28年度 文学研究科学年暦

授業日程等	主な行事及び書類提出期日等	備 考
<p>第1学期 授業期間 自4月11日(月) 至7月26日(火)</p> <p>第1学期 補講期間 自7月29日(金) 至8月4日(木) ※7月27日～28日 は休業日</p> <p>夏季休業期間 自8月5日(金) 至9月30日(金)</p>	<p>入学式 4月6日(水)午前 入学者オリエンテーション 4月6日(水)午後 WEB履修登録期間 研究題目提出期限 (MC1、DC1) 4月11日(月) 定期健康診断 5月中旬 教育実習 (前期) (2又は3週間) 5月中旬～7月上旬 介護等体験参加申込書提出期限 6月中旬 創立記念日 6月22日(水) 修士論文・修士研究題目届提出期限 6月27日(月) 論文作成計画書提出期限 (DC1) 7月22日(金) 大学院入学願書 (秋期) 受付期間 8月3日(水)～9日(火) 修士論文・修士研究提出期限 8月1日(月) 介護等体験事前指導 9月上旬 大学院入学試験 (秋期) 9月14日(水)～15日(木) 学位記授与式 (修士・博士) 9月26日(月)</p>	<p>文学部第1講義室 日程は掲示等で連絡</p> <p>日程は掲示等で連絡 協力校 (中・高) 及び 出身校 (中・高)</p> <p>9月修了予定者 提出先：指導教員 一般選抜・社会人 特別選抜</p> <p>9月修了予定者 日程は掲示等で連絡</p>
<p>第2学期 授業期間 自10月3日(月) 至1月30日(月)</p> <p>冬季休業期間 自12月26日(月) 至1月3日(火)</p> <p>第2学期 補講期間 自2月6日(月) 至2月7日(火)</p> <p>論文口頭 試問期間 自2月6日(月) 至2月16日(木)</p>	<p>修士論文・修士研究題目届提出期限 10月5日(水) 教育実習参加申込書提出期限 10月上旬 WEB履修登録期間 教育実習 (後期) (3週間) 10月中旬～11月上旬 大学祭 10月28日(金)～10月30日(日) 教育実習事前指導 11月中旬 中間論文提出期限 (DC2) 11月25日(金) 博士論文題目等調査書提出期限 12月9日(金) 教員免許状出願期限 12月下旬 大学院入学願書 (春期) 受付期間 1月10日(火)～16日(月) 博士論文提出期限 1月5日(木) 修士論文・修士研究提出期限 1月6日(金) 大学院入学試験 (春期) 2月1日(水)～2月3日(金) 研究生・科目等履修生入学願書受付 2月10日(金)～2月16日(木) 修了者決定の掲示 3月上旬 学位記授与式 (修士・博士) 3月24日(木)</p>	<p>次年度希望者 日程は掲示等で連絡 協力校 (中) 28日(金)：休講</p> <p>次年度履修希望者 日程は掲示等で連絡 提出先：指導教員 年度内修了予定者 日程は掲示等で連絡</p> <p>年度内修了予定者 3月修了予定者</p>

(注1) 定期試験の期間は特に設けず、授業担当教員の判断により当該セメスター (学年) 内に随時実施する。

大学院開講科目一覽

国文学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員 名		開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏	名				
国 文 学 特 論 I	『源氏物語』の探究	2	横	溝 博	1 学期	月	5	336
国 文 学 特 論 II	『源氏物語』の探究	2	横	溝 博	2 学期	月	5	336
国 文 学 特 論 III	平安前期漢文学史の諸問題	2	㊦	滝 川 幸 司	集 中 (1)			337
国 文 学 研 究 演 習 I	日本文芸の考究とその論述の方法	2	佐 藤 伸 宏 佐 横 溝 倉 博	仲 由 泰	1 学期	火	4	337
国 文 学 研 究 演 習 II	日本文芸の考究とその論述の方法	2	佐 藤 伸 宏 佐 横 溝 倉 博	仲 由 泰	2 学期	火	4	338
日本文芸形成論研究演習 I	日露戦後文学の研究	2	佐 藤 伸 宏		1 学期	水	2	338
日本文芸形成論研究演習 II	日露戦後文学の研究	2	佐 藤 伸 宏		2 学期	水	2	339
日本文芸形成論研究演習 III	詩歌を読む	2	佐 藤 伸 宏		1 学期	水	5	339
日本文芸形成論研究演習 IV	詩歌を読む	2	佐 藤 伸 宏		2 学期	水	5	340
日本文芸形成論研究演習 V	中世の日記文芸、紀行文芸の表現形成	2	佐 倉 由 泰		1 学期	木	2	340
日本文芸形成論研究演習 VI	中世の日記文芸、紀行文芸の表現形成	2	佐 倉 由 泰		2 学期	木	2	341
課 題 研 究 (国 文 学)		4	佐 藤 伸 宏 佐 横 溝 倉 博	仲 由 泰	通 年	月	1	

日本思想史専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
日 本 思 想 史 特 論 I	聖地と霊場	2	佐 藤 弘 夫	2 学 期	金	1	342
日 本 思 想 史 特 論 II	「思想史」とは何か	2	片 岡 龍	1 学 期	火	4	342
日 本 思 想 史 特 論 III	「思想史」とは何か	2	片 岡 龍	2 学 期	火	4	343
日 本 思 想 史 特 論 IV	古代における〈異域〉	2	㊦ 富 樫 進	1 学 期	火	1	343
日 本 思 想 史 特 論 V	『日本書紀』「神代」を考える	2	㊦ 徳 盛 誠	集 中 (2)			344
日 本 思 想 史 研 究 演 習 I	日本思想史の諸問題 I	2	片 岡 龍	1 学 期	水	5	344
日 本 思 想 史 研 究 演 習 II	日本思想史の諸問題 II	2	片 岡 龍	2 学 期	水	5	345
課 題 研 究 (日 本 思 想 史)		4	片 岡 龍	通 年	水	4	

中国語学中国文学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
中国語学中国文学特論Ⅰ	唐詩と唐代社会（胡曾の《詠史詩》）	2	馬	曉 地	1 学期	火	4	346
中国語学中国文学特論Ⅱ	唐詩と唐代社会（胡曾の《詠史詩》）	2	馬	曉 地	2 学期	火	4	346
中国語学中国文学特論Ⅲ	出土資料から見た古代中国の文字とことば	2	㊦	大 西 克 也	集 中 (1)			347
中国語学中国文学研究演習Ⅰ	中国語学史中国文学史上の諸問題	2	佐 土	竹 屋 保 子	1 学期	月	5	347
中国語学中国文学研究演習Ⅱ	中国語学史中国文学史上の諸問題	2	佐 土	竹 屋 保 子	2 学期	月	5	348
中国語学中国文学研究演習Ⅰ	中国当代文学研究	2	馬	曉 地	1 学期	木	2	348
中国語学中国文学研究演習Ⅱ	中国当代文学研究	2	馬	曉 地	2 学期	木	2	349
中国語学中国文学研究演習Ⅰ	中国戯曲研究	2	土 屋	育 子	1 学期	水	5	349
中国語学中国文学研究演習Ⅱ	中国戯曲研究	2	土 屋	育 子	2 学期	水	4	350
中国語学中国文学研究演習Ⅰ	漢魏六朝詩、及びその背後にある文献研究	2	佐	竹 保 子	1 学期	火	5	350
中国語学中国文学研究演習Ⅱ	漢魏六朝詩、及びその背後にある文献研究	2	佐	竹 保 子	2 学期	火	5	351
課 題 研 究 (中国思想中国哲学)		4	佐 土	竹 屋 保 子	通 年	月	4	

中国思想中国哲学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開講期	曜日	講時	頁
			氏	名				
中国思想中国哲学特論Ⅰ	明末清初思想史研究	2	三浦秀一		1学期	水	5	352
中国思想中国哲学特論Ⅱ	中国中世「在家」仏教研究	2	齋藤智寛		2学期	水	5	352
中国思想中国哲学特論Ⅲ	禅思想の成立とその反響	2	⑤伊吹敦		集中 (1)			353
中国思想中国哲学研究演習Ⅰ	『劉子』研究	2	齋藤智寛		1学期	水	2	353
中国思想中国哲学研究演習Ⅱ	王夫之易学思想研究	2	三浦秀一		2学期	水	2	354
中国思想中国哲学研究演習Ⅲ	中国思想研究上の諸問題1	2	三浦秀一 齋藤智寛		1学期	金	5	354
中国思想中国哲学研究演習Ⅳ	中国思想研究上の諸問題2	2	三浦秀一 齋藤智寛		2学期	金	5	355
課題研究 (中国思想中国哲学)		4	三浦秀一 齋藤智寛		通年	月	1	

インド学仏教史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開学 講期	曜日	講時	頁
			氏	名				
インド学特論Ⅰ	ヒンドゥー教文献講読(1)	2	吉	水 清 孝	1学期	火	2	356
インド学特論Ⅱ	ヒンドゥー教文献講読(2)	2	吉	水 清 孝	2学期	火	2	356
インド仏教史特論Ⅰ	bSod nams rtse mo 著『タン トラ概論』の原典講読	2	桜	井 宗 信	1学期	火	3	357
インド仏教史特論Ⅱ	bSod nams rtse mo 著『タン トラ概論』の原典講読	2	桜	井 宗 信	2学期	火	3	357
インド仏教史特論Ⅲ	中期大乘仏教思想研究	2	⑨	久保田 力	集 中 (2)			358
インド学研究演習Ⅰ	インド哲学文献研究(1)	2	吉	水 清 孝	1学期	木	2	358
インド学研究演習Ⅱ	インド哲学文献研究(2)	2	吉	水 清 孝	2学期	木	2	359
インド仏教史研究演習Ⅰ	梵蔵漢対照による『俱舎論』 の講読	2	桜	井 宗 信	1学期	月	3	359
インド仏教史研究演習Ⅱ	梵蔵漢対照による『俱舎論』 の講読	2	桜	井 宗 信	2学期	月	3	360
課 題 研 究 (インド学仏教史)		4	桜 吉	井 水 宗 清 信 孝	通 年	金	4	

英文学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
英 文 学 特 論 I	William Wordsworth の詩を 読む(1)	2	大 河 内 昌	1 学期	金	3	361
英 文 学 特 論 II	William Wordsworth の詩を 読む(2)	2	大 河 内 昌	2 学期	金	3	361
英 文 学 特 論 III	『グレート・ギャツビー』を 読む	2	㊿ 諏訪部 浩 一	集 中 (1)			362
英 文 学 研 究 演 習 I	William Shakespeare, King Henry V: History Plays, Politics, and Londoners in Early-Modern Drama.	2	ティンク, ジェイムズ	1 学期	火	3	362
英 文 学 研 究 演 習 II	The Dramatic Monologue in Modern English Poetry	2	ティンク, ジェイムズ	2 学期	火	3	363
英 文 学 研 究 演 習 III	Academic Writing and Research Skills in English.	2	ティンク, ジェイムズ	1 学期	木	2	363
英 文 学 研 究 演 習 IV	Academic Research Writing and Reading	2	ティンク, ジェイムズ	2 学期	木	2	364
英 語 文 化 論 特 論 I	ジェイムズ・ジョイス『ユリ シーズ』を読む	2	岩 田 美 喜	1 学期	水	3	364
英 語 文 化 論 特 論 II	ジェイムズ・ジョイス『ユリ シーズ』を読む	2	岩 田 美 喜	2 学期	水	3	365
課 題 研 究 (英 文 学)		4	大 河 内 昌 喜 岩 田 美 喜 ティンク, ジェイムズ	通 年	金	4	

英語学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員 名		開 学 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏	名				
英 語 学 特 論 I	統語論と意味論における諸問題の研究 I	2	島	越 郎	1 学期	金	4	366
英 語 学 特 論 II	統語論と意味論における諸問題の研究 II	2	島	越 郎	2 学期	金	4	366
英 語 学 特 論 III	極小主義アプローチに基づく比較統語論	2	㊦	齋 藤 衛	集 中 (1)			367
英 語 学 研 究 演 習 I	英語学の諸問題研究 I	2	金 島	子 義 明 郎	1 学期	水	2	367
英 語 学 研 究 演 習 II	英語学の諸問題研究 II	2	金 島	子 義 明 郎	2 学期	水	2	368
英 語 解 析 学 特 論 I	統語論・意味論インターフェイス研究 I	2	金	子 義 明	1 学期	火	5	368
英 語 解 析 学 特 論 II	統語論・意味論インターフェイス研究 II	2	金	子 義 明	2 学期	火	5	369
課 題 研 究 (英 語 学)		4	金 島	子 義 明 郎	通 年	月	1	

ドイツ文学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員 名		開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名	氏 名				
ド イ ツ 文 学 特 論 I	十八世紀ドイツ戯曲の誕生(VIII)	2	㊦	佐 藤 研 一	1 学期	火	5	370
ド イ ツ 文 学 特 論 II	十八世紀ドイツ戯曲の誕生(VIII)	2	㊦	佐 藤 研 一	2 学期	金	4	370
ド イ ツ 文 学 特 論 III	イメージと物語	2	㊦	佐々木 果	集 中 (2)			371
ドイツ文学研究演習 I	批評演習(1)	2		森 本 浩 一	1 学期	金	2	371
ドイツ文学研究演習 II	批評演習(2)	2		森 本 浩 一	2 学期	金	2	372
ドイツ文学研究演習 III	Werke der literarischen Moderne mit und ohne Verfilmungen sowie die Präsentation von Ausschnitten aus Hörbüchern (Teil I)	2		シュミッツ, プリギッテ	1 学期	水	3	372
ドイツ文学研究演習 IV	Werke der literarischen Moderne mit und ohne Verfilmungen sowie die Präsentation von Ausschnitten aus Hörbüchern (Teil II)	2		シュミッツ, プリギッテ	2 学期	水	3	373
ドイツ文化学特論 I	近現代ドイツ短編小説講読	2		嶋 崎 啓	1 学期	月	2	373
ドイツ文化学特論 II	近現代ドイツ短編小説講読	2		嶋 崎 啓	2 学期	金	3	374
ドイツ文化学特論 III	ドイツ語圏文学講読	2	㊦	松 崎 裕 人	2 学期	水	4	374
ドイツ文化学研究演習 I	中高ドイツ語講読	2		嶋 崎 啓	1 学期	月	4	375
ドイツ文化学研究演習 II	中高ドイツ語講読	2		嶋 崎 啓	2 学期	月	4	375
課 題 研 究 (ド イ ツ 文 学)		4		森 嶋 本 浩 一 啓	通 年	水	5	

フランス語学フランス文学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
フ ラ ン ス 文 学 特 論 I	ヴァレリー研究(1)	2	今 井 勉	1 学期	木	2	376
フ ラ ン ス 文 学 特 論 II	ヴァレリー研究(2)	2	今 井 勉	2 学期	木	2	376
フ ラ ン ス 文 学 特 論 III	フランス近・現代詩を読む	2	㊦ 岩 切 正一郎	集 中 (1)			377
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 I	『若きパルク』を読む(1)	2	今 井 勉	1 学期	水	2	377
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 II	『若きパルク』を読む(2)	2	今 井 勉	2 学期	水	2	378
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 III	Pierre Michon	2	メ ヴ ェ ル ・ ヤ ン	1 学期	月	5	378
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 III	Patrick Modiano	2	メ ヴ ェ ル ・ ヤ ン	1 学期	水	4	379
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 IV	Pierre Michon	2	メ ヴ ェ ル ・ ヤ ン	2 学期	月	5	379
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 IV	Patrick Modiano	2	メ ヴ ェ ル ・ ヤ ン	2 学期	水	4	380
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 V	中世・ルネサンスの伝説伝文学研究(1)	2	黒 岩 卓	1 学期	月	3	380
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 VI	中世・ルネサンスの伝説伝文学研究(2)	2	黒 岩 卓	2 学期	月	3	381
フ ラ ン ス 語 学 研 究 演 習 I	フランス語学の現代的トピック I	2	阿 部 宏	1 学期	水	5	381
フ ラ ン ス 語 学 研 究 演 習 II	フランス語学の現代的トピック I	2	阿 部 宏	2 学期	水	5	382
課 題 研 究 (フ ラ ン ス 文 学)		4	阿部 宏・今井 勉 黒岩 卓・ヤン・メヴェル	通 年	金	5	

哲学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員 名		開 学 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏	名				
哲 学 特 論 I	優生学の倫理	2	Ⓢ	小 林 陸	2 学期	火	4	383
哲 学 特 論 I	哲学的自然主義とプラグマティズム	2	Ⓢ	井 頭 昌 彦	集 中 (2)			383
哲 学 特 論 II	討議倫理学入門	2	Ⓢ	松 本 大 理	2 学期	水	3	384
哲 学 特 論 III	アイデア論とは何か	2		荻 原 理	2 学期	月	3	384
哲 学 研 究 演 習 I	哲学研究の作法と技法 1	2		直 江 清 隆	1 学期	月	5	385
哲 学 研 究 演 習 I	哲学的責任論研究	2		原 塑	1 学期	火	3	385
哲 学 研 究 演 習 I	アーレント『革命について』を読む	2	Ⓢ	森 一 郎	1 学期	火	4	386
哲 学 研 究 演 習 I	ホッブズ＝ブルームホール論争と近代の自由意志論(1)	2		城 戸 淳	1 学期	木	2	386
哲 学 研 究 演 習 I	フッサール『デカルト的省察』を読む	2		佐 藤 駿	1 学期	木	4	387
哲 学 研 究 演 習 II	哲学研究の作法と技法 2	2		荻 原 理	2 学期	月	5	387
哲 学 研 究 演 習 II	ホッブズ＝ブルームホール論争と近代の自由意志論(2)	2		城 戸 淳	2 学期	木	2	388
哲 学 研 究 演 習 II	フッサール『デカルト的省察』を読む	2		佐 藤 駿	2 学期	木	4	388
哲 学 研 究 演 習 II	分析美学研究	2		原 塑	2 学期	火	3	389
古代中世哲学研究演習 I	アリストテレス『詩学』演習	2		荻 原 理	1 学期	月	3	389
近現代哲学研究演習 I	芸術作品の現象学	2		直 江 清 隆	1 学期	月	3	390
近現代哲学研究演習 II	自己と他者の現象学	2		直 江 清 隆	1 学期	金	5	390
近現代哲学研究演習 III	カントの超越論的演繹論(1)	2		城 戸 淳	1 学期	水	5	391
近現代哲学研究演習 IV	カントの超越論的演繹論(2)	2		城 戸 淳	2 学期	水	5	391
科学哲学研究演習 I	自由意志論研究	2		原 塑	1 学期	火	2	392
科学哲学研究演習 II	記号論理学	2		原 塑	2 学期	火	2	392
生命環境倫理学研究演習	人権をめぐる生命倫理文献(英語) 講読	2	Ⓢ Ⓢ	大 北 全 俊 圓 増 文	1 学期	水	1	393
課 題 研 究 (哲 学)		4		直江清隆・荻原理 原 塑・城戸淳	通 年	火	1	

倫理学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開学 講期	曜日	講時	頁
			氏	名				
倫理学特論Ⅰ	17世紀大陸合理主義の倫理学	2	村山達也		1学期	金	4	394
倫理学特論Ⅱ	実存と構造	2	戸島貴代志		2学期	火	2	394
倫理学特論Ⅲ	「現象学と比較文化～東洋的なものへの視角」	2	㊦ 梶谷真司		集中 (1)			395
倫理学研究演習Ⅰ	発表と討論	2	戸島貴代志		1学期	月	5	395
倫理学研究演習Ⅰ	アーレント革命論研究	2	㊦ 森一郎		1学期	火	3	396
倫理学研究演習Ⅱ	発表と討論	2	戸島貴代志		2学期	月	5	396
倫理学研究演習Ⅲ	総合演習：「現象学」と「存在論」	2	戸島貴代志		1学期	水	4	397
倫理学研究演習Ⅳ	総合演習：「現象学」と「存在論」	2	戸島貴代志		2学期	水	4	397
倫理学研究演習Ⅴ	フランス哲学演習(1) ライブニッツ『モノドロジー』	2	村山達也		1学期	水	2	398
倫理学研究演習Ⅴ	フランス哲学演習(2) ルソー『人間不平等起源論』	2	村山達也		1学期	金	2	398
課題研究 (倫理学)		4	戸村山貴代志 村山貴達		通年	月	1	

言語学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
言 語 学 特 論 I	言語機能学入門	2	㊦	傍 士 元	集 中 (1)			399
言 語 学 特 論 II	認知言語学の基礎と応用	2	㊦	尾 谷 昌 則	集 中 (1)			399
言 語 学 特 論 III	生成文法と関連領域 I	2	㊦	遊 佐 典 昭	集 中 (1)			400
言 語 学 特 論 IV	生成文法と関連領域 II	2	㊦	遊 佐 典 昭	集 中 (2)			400
言 語 学 研 究 演 習 I	言語学研究法	2	後小	藤 泉 政 利	1 学期	金	4	401
言 語 学 研 究 演 習 II	言語学研究法	2	後小	藤 泉 政 利	2 学期	金	4	401
言 語 解 析 学 特 論 I	言語研究におけるコンピューター利用の基礎	2	後	藤 泉 政 利	1 学期	月	4	402
言 語 解 析 学 特 論 II	テキスト処理の基礎	2	後	藤 泉 政 利	2 学期	月	4	402
言 語 解 析 学 研 究 演 習 I	コーパス言語学の概観	2	後	藤 泉 政 利	1 学期	金	2	403
言 語 解 析 学 研 究 演 習 II	コーパス言語学の実践	2	後	藤 泉 政 利	2 学期	金	2	403
言 語 解 析 学 研 究 演 習 III	実験言語学 I	2	小	泉 政 利	1 学期	水	4	404
言 語 解 析 学 研 究 演 習 IV	実験言語学 II	2	小	泉 政 利	2 学期	水	4	404
課 題 研 究 (言 語 学)		4	後小	藤 泉 政 利	通 年	木	1	

国語学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
日 本 語 構 造 論 特 論 I	「連語」とその問題点	2	齋 藤 倫 明	1 学期	月	4	405
日 本 語 構 造 論 特 論 II	文章・談話の構造論	2	甲 田 直 美	1 学期	月	3	405
日 本 語 構 造 論 講 読	近世言語論講読	2	齋 藤 倫 明	2 学期	水	5	406
日 本 語 構 造 論 研 究 演 習 I	方言調査法	2	小 林 隆	1 学期	火	2	406
日 本 語 構 造 論 研 究 演 習 II	文章・談話の構造	2	甲 田 直 美	2 学期	月	3	407
日 本 語 変 異 論 特 論 I	方言学的日本語史研究	2	小 林 隆	2 学期	火	2	407
日 本 語 変 異 論 特 論 II	日本語文法研究	2	大 木 一 夫	1 学期	木	2	408
日 本 語 変 異 論 特 論 III	会話コミュニケーション分析	2	㊦ 高 梨 克 也	集 中 (1)			408
日 本 語 変 異 論 講 読	文法形式成立史の研究	2	大 木 一 夫	2 学期	木	2	409
日 本 語 変 異 論 研 究 演 習 I	国語史・方言研究の諸問題	2	齋藤倫明・小林 隆 大木一夫・甲田直美	1 学期	火	4	409
日 本 語 変 異 論 研 究 演 習 II	現代語研究の諸問題	2	齋藤倫明・小林 隆 大木一夫・甲田直美	2 学期	火	4	410
日 本 語 変 異 論 研 究 演 習 III	国語史・方言研究の諸問題	2	齋藤倫明・小林 隆 大木一夫・甲田直美	1 学期	火	5	410
日 本 語 変 異 論 研 究 演 習 IV	現代語研究の諸問題	2	齋藤倫明・小林 隆 大木一夫・甲田直美	2 学期	火	5	411
課 題 研 究 (国 語 学)		4	齋藤倫明・小林 隆 大木一夫・甲田直美	通 年	木	1	

日本語教育学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 講 期	曜 日	講 時	頁	
			氏 名						
日 本 語 教 育 論 特 論 I	日本語教育文法概論	2	㊦	庵 功 雄	集 中 (1)			412	
日 本 語 教 育 論 特 論 II	現代社会と言語教育～日本語教育の社会的意味と役割	2	㊦	神 吉 宇 一	集 中 (2)			412	
日 本 語 教 育 論 特 論 III	ステレオタイプと異文化コミュニケーション	2	㊦	呉 正 培	1 学 期	月	1	413	
日 本 語 教 育 論 特 論 IV	学習者と社会	2	㊦	島 崎 薫	2 学 期	木	3	413	
日 本 語 教 育 論 講 読	第二言語習得研究	2	才	田 い ず み	1 学 期	火	1	414	
日 本 語 教 育 論 研 究 演 習 I	音声と聴解の教育	2	才	田 い ず み	1 学 期	火	4	414	
日 本 語 教 育 論 研 究 演 習 II	中間言語語用論と会話教育	2	才	田 い ず み	2 学 期	火	2	415	
日 本 語 教 育 論 実 習 I	日本語コース運営の基礎	2	才	田 い ず み	1 学 期	月	3・4	415	
日 本 語 教 育 論 実 習 II	日本語コースの評価と改善	2	才	田 い ず み	2 学 期	月	3・4	416	
比 較 現 代 日 本 論 講 読 I	現代日本論論文講読	2	田	中 重 人	1 学 期	金	4	416	
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 I	統計分析の基礎	2	田	中 重 人	1 学 期	木	2	417	
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 II	質問紙調査の基礎	2	田	中 重 人	1 学 期	水	2	417	
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 II	調査的面接の基礎	2	田	中 重 人	2 学 期	水	2	418	
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 III	実践的統計分析法	2	田	中 重 人	2 学 期	木	2	418	
課 題 研 究 (国 語 学)		4	才 田 梅	田 中 木	い ず み 重 俊	み 人 輔	通 年	水	5

日本史専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
日本古代・中世史特論Ⅰ	日本古代史のなかの東北	2	㊦ 鈴木拓也	集 中 (2)			419
日本古代・中世史特論Ⅱ	英語で読む日本中世文書(1)	2	柳 原 敏 昭	1 学期	月	5	419
日本古代・中世史特論Ⅲ	英語で読む日本中世文書(2)	2	柳 原 敏 昭	2 学期	火	3	420
日本古代・中世史研究演習Ⅰ	古代史料の研究(1)	2	堀 裕	1 学期	火	2	420
日本古代・中世史研究演習Ⅱ	古代史料の研究(2)	2	堀 裕	2 学期	火	2	421
日本古代・中世史研究演習Ⅲ	古代史料研究(1)	2	堀 裕	1 学期	金	3	421
日本古代・中世史研究演習Ⅳ	古代史料研究(2)	2	堀 裕	2 学期	金	3	422
日本古代・中世史研究演習Ⅴ	鎌倉時代の法と社会(1)	2	柳 原 敏 昭	1 学期	月	3	422
日本古代・中世史研究演習Ⅵ	鎌倉時代の法と社会(2)	2	柳 原 敏 昭	2 学期	月	3	423
日本古代・中世史研究演習Ⅶ	中世史料演習(1)	2	柳 原 敏 昭	1 学期	月	4	423
日本古代・中世史研究演習Ⅷ	中世史料演習(2)	2	柳 原 敏 昭	2 学期	月	4	424
日本近世・近代史特論Ⅰ	近世社会の研究(1)	2	籠 橋 俊 光	1 学期	金	2	424
日本近世・近代史特論Ⅱ	近世社会の研究(2)	2	籠 橋 俊 光	2 学期	金	2	425
日本近世・近代史特論Ⅲ	日本近現代史研究の現状と課題(3)	2	安 達 宏 昭	1 学期	水	2	425
日本近世・近代史特論Ⅲ	日本近現代史研究の現状と課題(4)	2	安 達 宏 昭	2 学期	水	2	426
日本近世・近代史特論Ⅲ	歴史資料保全の実践(その1)	2	佐 藤 大 介	集 中 (1)			426
日本近世・近代史特論Ⅲ	歴史資料保全の実践(その2)	2	佐 藤 大 介	2 学期	水	1	427
日本近世・近代史特論Ⅲ	Understanding Japanese History	2	松 崎 瑠 美	1 学期	火	4	427
日本近世・近代史特論Ⅲ	History of Disaster	2	松 崎 瑠 美	2 学期	火	3	428
日本近世・近代史研究演習Ⅰ	近世史料研究(1)	2	籠 橋 俊 光	1 学期	火	4	428
日本近世・近代史研究演習Ⅱ	近世史料研究(2)	2	籠 橋 俊 光	2 学期	火	4	429
日本近世・近代史研究演習Ⅲ	近世史研究法(1)	2	籠 橋 俊 光	1 学期	水	5	429
日本近世・近代史研究演習Ⅳ	近世史研究法(2)	2	籠 橋 俊 光	2 学期	水	5	430

日本史専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 講	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
日本近世・近代史研究演習Ⅴ	近現代政治・社会史の研究(1)	2	安 達 宏 昭	1 学期	水	3	430
日本近世・近代史研究演習Ⅵ	近現代政治・社会史の研究(2)	2	安 達 宏 昭	2 学期	水	3	431
日本近世・近代史研究演習Ⅶ	近現代史研究法(1)	2	安 達 宏 昭	1 学期	火	5	431
日本近世・近代史研究演習Ⅷ	近現代史研究法(2)	2	安 達 宏 昭	2 学期	火	5	432
史 料 学 I	中世古文書読解	2	柳 原 敏 昭	1 学期	火	1	432
史 料 学 II	近世古文書読解	2	籠 橋 俊 光	2 学期	水	4	433
史 料 管 理 学 I	史料整理・保存の理論と方法	2	籠 橋 俊 光	1 学期	金	4・5	433
史 料 管 理 学 II	史料整理実習	2	籠 橋 俊 光	2 学期	金	4・5	434
課 題 研 究 (日 本 史)		4	柳原敏昭・安達宏昭 堀 裕・籠橋俊光	通 年	木	1	

考古学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
考 古 学 特 論 I	日本考古学の諸問題	2	鹿 又 喜 隆	1 学期	月	2	435
考 古 学 特 論 II	縄文時代の環境文化史研究	2	⑤ 工 藤 雄一郎	集 中 (1)			435
考 古 学 特 論 III	先史文化の考古学	2	⑤ 菅 野 智 則	2 学期	木	4	436
資 料 基 礎 論 特 論	先史考古学資料論	2	阿 子 島 香	2 学期	月	3	436
博 物 館 資 料 論 特 論	東北大学収蔵の考古学資料	2	藤 澤 敦	1 学期	火	3	437
考 古 学 研 究 演 習 I	考古学研究史	2	阿 子 島 香 鹿 又 喜 隆	1 学期	金	4	437
考 古 学 研 究 演 習 II	考古学の方法と理論	2	鹿 又 喜 隆 阿 子 島 香	2 学期	金	4	438
考 古 学 研 究 実 習 I	考古学の調査と資料分析(1)	2	阿 子 島 香 鹿 又 喜 隆	1 学期	水	3・4	438
考 古 学 研 究 実 習 II	考古学資料分析法(2)	2	鹿 又 喜 隆 阿 子 島 香	2 学期	水	3・4	439
課 題 研 究 (考 古 学)		4	阿 子 島 香 鹿 又 喜 隆 藤 澤 敦	通 年	金	5	

文化財科学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員		開学	講期	曜日	講時	頁
			氏	名					
文化財科学特論	日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究	2	藤	澤 敦	2学期		火	3	440
文化財科学研究演習Ⅰ	未定	2	山	田 晃 弘 須 田 良 平	1学期				440
文化財科学研究演習Ⅱ	未定	2	須	田 良 平 山 田 晃 弘	2学期				441
文化財科学研究実習Ⅱ	古代遺跡調査の方法と実践	2	山	田 晃 弘 吉 野 武 弘	集中 (1)				441
課題研究 (文化財科学)		4	山田晃弘・須田良平 吉野武・阿子島香 鹿又喜隆		通年				

東洋史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開学 講期	曜日	講時	頁
			氏	名				
東洋古代中世史特論Ⅰ	六朝時代の諸問題	2	川合	安	1学期	金	2	442
東洋古代中世史特論Ⅱ	隋唐時代の諸問題	2	川合	安	2学期	金	2	442
東洋古代中世史研究演習Ⅰ	『宋書』礼志の研究Ⅰ	2	川合	安	1学期	金	5	443
東洋古代中世史研究演習Ⅱ	『宋書』礼志の研究Ⅱ	2	川合	安	2学期	金	5	443
東洋近世史特論Ⅰ	明清時代の諸問題Ⅰ	2	大野	晃嗣	1学期	火	5	444
東洋近世史特論Ⅱ	明清時代の諸問題Ⅱ	2	大野	晃嗣	2学期	火	5	444
東洋近世史特論Ⅰ	唐明間、財政構造の特質と変遷	2	㊦	宮澤知之	集中 (1)			445
東洋近世史特論Ⅱ	多極化時代のユーラシア東方史(10~13世紀)	2	㊦	古松崇志	集中 (2)			445
東洋近世史研究演習Ⅰ	明清官僚制度研究Ⅰ	2	大野	晃嗣	1学期	月	5	446
東洋近世史研究演習Ⅱ	明清官僚制度研究Ⅱ	2	大野	晃嗣	2学期	月	5	446
課題研究 (東洋史)		4	川大 合野	晃 安嗣	通年	金	1	

ヨーロッパ史専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員 名		開 学 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏	名				
古代地中海世界史特論	古代ローマの社会と宗教	2	㊦	島田 誠	集 中 (1)			447
西洋中近世史特論	ドイツ近世の宗教・社会・国家	2	小	野 善 彦	1 学期	月	2	447
西洋中近世史研究演習Ⅰ	中世ヨーロッパ史研究	2	有	光 秀 行	1 学期	火	4	448
西洋中近世史研究演習Ⅱ	中世ヨーロッパ史研究	2	有	光 秀 行	2 学期	火	4	448
西洋中近世史研究演習Ⅲ	ヨーロッパ中世史料研究	2	有	光 秀 行	1 学期	水	4	449
西洋中近世史研究演習Ⅳ	ヨーロッパ中世史料研究	2	有	光 秀 行	2 学期	水	4	449
西洋中近世史研究演習Ⅴ	西洋近世史料研究	2	小	野 善 彦	1 学期	木	2	450
西洋中近世史研究演習Ⅵ	西洋近世史料研究	2	小	野 善 彦	2 学期	月	2	450
西洋中近世史研究演習Ⅶ	西洋中世史の諸問題	2	小	野 善 彦	1 学期	月	3	451
西洋中近世史研究演習Ⅷ	西洋中世史の諸問題	2	小	野 善 彦	2 学期	月	3	451
欧米近現代史特論Ⅰ	ヨーロッパ福祉史の諸問題―生 の歴史学と「福祉の複合体」―	2	㊦	高 田 実	集 中 (1)			452
欧米近現代史特論Ⅱ	社会主義革命と「社会」	2	浅	岡 善 治	2 学期	金	2	452
欧米近現代史研究演習Ⅰ	ロシア革命の歴史的再検討	2	浅	岡 善 治	1 学期	木	2	453
欧米近現代史研究演習Ⅱ	ロシア革命の歴史的再検討	2	浅	岡 善 治	2 学期	木	2	453
欧米近現代史研究演習Ⅲ	欧米近現代史研究方法論	2	浅	岡 善 治	1 学期	火	2	454
欧米近現代史研究演習Ⅳ	欧米近現代史研究方法論	2	浅	岡 善 治	2 学期	火	2	454
課 題 研 究 (ヨーロッパ史)		4	小 有 浅	野 光 岡 善 秀 善 彦 行 治	通 年	火	1	

美学・西洋美術史専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員 名		開 学 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏	名				
美学・西洋美術史特論Ⅰ	ネーデルラント美術と感性の論理	2	尾	崎 彰 宏	1 学期	金	3	459
美学・西洋美術史特論Ⅰ	古代ギリシア・ローマの神々と神域	2	芳	賀 京 子	2 学期	月	2	459
美学・西洋美術史特論Ⅰ	マニエリスム形成期における美術と「魔術的なもの」	2	Ⓢ	足 達 薫	集 中 (1)			460
美学・西洋美術史研究演習Ⅰ	西洋美術史にかんする方法論の諸問題	2	尾	崎 彰 宏	1 学期	金	5	460
美学・西洋美術史研究演習Ⅱ	西洋美術史にかんする方法論の諸問題	2	尾	崎 彰 宏	2 学期	金	5	461
美学・西洋美術史研究演習Ⅰ	西洋古代・中世美術作品研究	2	芳	賀 京 子	1 学期	月	3	461
美学・西洋美術史研究演習Ⅱ	西洋古代・中世美術作品研究	2	芳	賀 京 子	2 学期	月	3	462
美学・西洋美術史研究演習Ⅰ	西洋美学演習（前期）	2	フォンガロ・エンリコ		1 学期	木	5	462
美学・西洋美術史研究演習Ⅱ	西洋美学演習（後期）	2	フォンガロ・エンリコ		2 学期	木	5	463
美学・西洋美術史研究実習Ⅰ	西洋美術の基礎知識と調査・展示研究	2	尾	崎 彰 宏 芳 賀 京 子	1 学期	火	3・4	463
美学・西洋美術史研究実習Ⅱ	美術作品の調査法について	2	尾	崎 彰 宏 芳 賀 京 子	2 学期	火	3・4	464
課 題 研 究 (美学・西洋美術史)		4	尾	崎 彰 宏 芳 賀 京 子	通 年	月	1	

比較文化史学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 学	講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名						
ユーラシア文化史特論Ⅰ	スターリン時代のソ連の対モンゴル政策	2	寺	山 恭 輔	1 学期		金	2	465
ユーラシア文化史特論Ⅱ	スターリン時代の鉄道・動員政策	2	寺	山 恭 輔	2 学期		金	2	465
ユーラシア文化史研究演習Ⅰ	ソ連史文献研究Ⅰ	2	寺	山 恭 輔	1 学期		金	4	466
ユーラシア文化史研究演習Ⅱ	ソ連史文献研究Ⅱ	2	寺	山 恭 輔	2 学期		金	4	466
課 題 研 究 (比 較 文 化 史 学)		4	寺	山 恭 輔	通 年		水	2	

社会学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員 名		開 学 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏	名				
理 論 社 会 学 特 論	ハーバーマスの社会理論	2	永	井 彰	1 学期	木	2	467
理 論 社 会 学 研 究 演 習 I	ハーバーマスの現代福祉国家論(1)	2	永	井 彰	1 学期	金	2	467
理 論 社 会 学 研 究 演 習 II	ハーバーマスの現代福祉国家論(2)	2	永	井 彰	2 学期	金	2	468
社 会 変 動 学 特 論	家族政策の現状と論理	2	下	夷 美 幸	2 学期	火	1	468
社 会 変 動 学 研 究 演 習 I	災害と復興の社会学 I	2	長	谷 川 公 一	1 学期	水	1	469
社 会 変 動 学 研 究 演 習 II	災害と復興の社会学 II	2	長	谷 川 公 一	2 学期	水	1	469
社 会 変 動 学 研 究 演 習 III	環境社会学の課題と方法	2	長	谷 川 公 一	1 学期	水	2	470
社 会 変 動 学 研 究 演 習 I	家族政策の基礎研究	2	下	夷 美 幸	1 学期	火	3	470
社 会 変 動 学 研 究 演 習 II	家族政策の基礎研究	2	下	夷 美 幸	2 学期	火	3	471
社 会 変 動 学 研 究 演 習 IV	家族問題と家族政策	2	下	夷 美 幸	2 学期	火	5	471
地 域 社 会 学 特 論	リスクと知／無知の社会学	2	小	松 丈 晃	2 学期	木	2	472
地 域 社 会 学 研 究 演 習 I	リスクガバナンスのフレームワーク	2	小	松 丈 晃	2 学期	火	2	472
地 域 社 会 学 研 究 演 習 II	リスクと不確実性の社会学	2	小	松 丈 晃	2 学期	火	4	473
社 会 学 特 論 I	質的調査の方法	2	Ⓢ	小 林 一 穂	1 学期	水	3	473
社 会 学 特 論 II	フィールドワークの実際	2	Ⓢ	小 林 一 穂	2 学期	水	3	474
社 会 学 特 論 III	民による公共の可能性を考える—中国の市民的世界の展開を通して	2	Ⓢ	李 妍 焱	集 中 (1)			474
社 会 学 特 論 IV	イエとムラの社会学	2	Ⓢ	永 野 由 紀 子	集 中 (2)			475
社 会 学 調 査 実 習 I	社会調査実習(1)	2	永	井 彰	1 学期	金	3・4	475
社 会 学 調 査 実 習 II	社会調査実習(2)	2	永	井 彰	2 学期	金	3・4	476
課 題 研 究 (社 会 学)		4	長谷川公一・永井 彰 下夷美幸・小松丈晃		通 年	月	1	

行動科学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名					
数理行動科学特論Ⅰ	数理社会学の数学的基礎	2	浜 田	宏	2学期	水	4	477
数理行動科学研究演習Ⅰ	社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル	2	佐 藤	嘉 倫	1学期	水	3	477
数理行動科学研究演習Ⅱ	エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明	2	佐 藤	嘉 倫	2学期	水	3	478
数理行動科学研究演習Ⅲ	社会学の理論と実証	2	浜 田	宏	1学期	水	2	478
数理行動科学研究演習Ⅳ	Mathematicaによる数理社会学	2	浜 田	宏	2学期	水	2	479
計量行動科学特論Ⅰ	社会的イメージの数理社会学	2	⑦ 石 田	淳	集 中 (1)			479
計量行動科学特論Ⅱ	格差・不平等・リスクの社会学	2	佐 藤	嘉 倫	2学期	月	5	480
計量行動科学研究演習Ⅰ	階層帰属意識の計量分析	2	木 村	邦 博	1学期	木	2	480
計量行動科学研究演習Ⅱ	社会調査法への認知科学的アプローチ	2	木 村	邦 博	2学期	木	2	481
計量行動科学研究演習Ⅲ	比較福祉国家論	2	永 吉	希 久 子	1学期	月	2	481
計量行動科学研究演習Ⅳ	計量社会学の基礎	2	永 吉	希 久 子	1学期	金	2	482
計量行動科学研究演習Ⅳ	制度の計量分析	2	永 吉	希 久 子	2学期	金	2	482
計量行動科学研究演習Ⅴ	リスクと社会的不平等	2	佐 藤	嘉 倫 嘉 瑠 美	集 中 (1)			483
計量行動科学研究演習Ⅴ	都市社会学：まちを切り取る	2	大 井	慈 郎	2学期	金	4	483
社会行動科学特論Ⅰ	リスクと防災の社会学	2	佐 藤	嘉 倫	1学期	月	5	484
社会行動科学特論Ⅱ	差別論	2	永 吉	希 久 子	2学期	月	2	484
課 題 研 究 (行 動 科 学)		4	佐藤嘉倫・木村邦博 浜田宏・永吉希久子		通 年	金	5	

心理学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
心 理 学 特 論 I	心理・教育・行動科学のための統計解析法	2	㊦ 倉 元 直 樹	1 学期	月	2	485
心 理 学 特 論 II	認知神経科学特論	2	㊦ 渡 邊 克 己	集 中 (1)			485
心 理 学 研 究 演 習 I	社会心理学の重要研究	2	㊦ 福 野 光 輝	1 学期	金	4	486
心 理 学 研 究 演 習 II	知覚・注意・動作・感性研究の最近の展開	2	行 場 次 朗	1 学期	火	2	486
心 理 学 研 究 演 習 III	ストレスと化粧の社会生理心理学	2	阿 部 恒 之	2 学期	水	1	487
心 理 学 研 究 演 習 IV	幸福と健康の心理学	2	坂 井 信 之	2 学期	水	3	487
心 理 学 研 究 演 習 V	現代文化心理学の視角	2	辻 本 昌 弘	1 学期	木	2	488
心 理 学 研 究 演 習 VI	質問紙・テスト作成法	2	㊦ 倉 元 直 樹	2 学期	月	2	488
心 理 学 総 合 演 習 I	特選題目研究 I	2	行場次朗・阿部恒之 坂井信之・辻本昌弘	1 学期	金	5	489
心 理 学 総 合 演 習 II	特選題目研究 II	2	行場次朗・阿部恒之 坂井信之・辻本昌弘	2 学期	金	5	489
心 理 学 研 究 実 習 I	心理学実験技法実習 I	2	阿部恒之・行場次朗 坂井信之・辻本昌弘	1 学期	火	3・4	490
心 理 学 研 究 実 習 II	心理学実験技法実習 II	2	坂井信之・阿部恒之 行場次朗・辻本昌弘	2 学期	火	3・4	490
実 験 心 理 学 特 論	知覚と感性に関する心理科学の展開	2	行 場 次 朗	2 学期	月	5	491
社 会 心 理 学 特 論	対人行動の社会心理学	2	㊦ 福 野 光 輝	2 学期	金	4	491
応 用 心 理 学 特 論	選択と購買を決める心と脳の仕組み	2	坂 井 信 之	1 学期	水	3	492
課 題 研 究 (心 理 学)		4	行場次朗・阿部恒之 坂井信之・辻本昌弘	通 年	水	5	

文化人類学専攻分野

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員 名		開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏	名				
文化人類学特論Ⅰ	グローバル化による国際移動	2	Ⓢ	二階堂 裕子	集中 (1)			493
文化人類学特論Ⅱ	Living for todayの人類学	2	Ⓢ	小 川 さやか	集中 (1)			493
文化人類学研究演習Ⅰ	文化人類学の視野と思考	2		川 口 幸 大	1学期	火	3	494
文化人類学研究演習Ⅱ	文化人類学の視野と思考	2		川 口 幸 大	2学期	火	3	494
文化人類学研究演習Ⅲ	英語古典原書講読	2		沼 崎 一 郎	2学期	木	2	495
文化人類学調査実習Ⅰ	フィールドワークの理論と方法	2		沼 崎 一 郎	1学期	水	3・4	495
文化人類学調査実習Ⅱ	フィールドワークの理論と方法	2		沼 崎 一 郎	2学期	水	3・4	496
課 題 研 究 (文 化 人 類 学)		4		沼 川 崎 口 一 幸 大	通 年	水	5	

宗教学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員	開学	講期	曜日	講時	頁
			氏名					
宗教学特論Ⅰ	宗教学特論Ⅱ	2	㊦ 川島秀一	1	学期	水	1	497
宗教学特論Ⅱ	宗教と心理(1)	2	高橋原	1	学期	水	3	497
宗教学特論Ⅲ	死の宗教民俗学	2	鈴木岩弓	2	学期	水	1	498
宗教学特論Ⅳ	現代宗教学の最前線	2	㊦ 磯前順一	集 (1)	中			498
宗教人類学特論	宗教人類学の系譜	2	山田仁史	2	学期	火	1	499
宗教人類学特論	仏教福祉学	2	谷山洋三	1	学期	月	2	499
宗教学研究演習Ⅰ	儀礼論を読む	2	木村敏明	1	学期	金	2	500
宗教学研究演習Ⅱ	儀礼論を読む	2	木村敏明	2	学期	金	2	500
宗教学研究演習Ⅲ	A study of ghostlore on American college campuses	2	㊦ アンドリュース, デール	1	学期	火	4	501
宗教学研究演習Ⅳ	A study of ghostlore on American college campuses	2	㊦ アンドリュース, デール	2	学期	火	4	501
宗教学実習Ⅰ	宗教学調査法	2	鈴木岩弓・木村敏明 山田仁史・㊦高倉浩樹	1	学期	月	4・5	502
宗教学実習Ⅱ	宗教学調査法	2	鈴木岩弓・木村敏明 山田仁史・㊦高倉浩樹	2	学期	月	4・5	502
課題研究 (宗教学)		4	鈴木岩弓 木村敏明	通	年	火	5	

講義概要利用の手引

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学	講 期	曜 日	講 時
<p>◆ 科目ナンバリング</p> <p>◆ 授業題目</p> <p>◆ 目的・概要</p> <p>◆ 到達目標</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <p>◇ 成績評価の方法</p> <p>◇ 教科書・参考書</p> <p>◇ 授業時間外学習</p> <p>その他：</p>						

- ◎授 業 科 目：各専攻分野ごとに次の順で掲載されている。
特論、講読、研究演習、実習
- ◎開 講 学 期：集中講義と表記されている科目は、学期に関係なく、随時開講されるものである。
- ◎履 修 要 件：「連続履修すること」の表記がある科目については、1学期と2学期を連続して履修しなければならない。どちらか一方のみの履修は認めないので注意すること。

博士前期課程における学部授業科目の読み替え履修について

平成 23 年度以降に博士前期課程に入学した学生は、下記の要件のもとで、学部で開講する授業科目を読み替え履修し、修了に必要な単位に加えることができる。

●読み替え履修可能な学部開講科目

- ・基礎専門科目（概論・基礎）
- ・専修以外の基礎科目

例：「英文学概論」（2 単位）を履修し、「英文学特論」（2 単位）に読み替える。
「英文学基礎講読」（2 単位）を履修し、「英文学研究演習」（2 単位）に読み替える。
「専門ドイツ語」（2 単位）を履修し、「ドイツ文化学特論」（2 単位）に読み替える。

●読み替え単位の取り扱いと上限

博士前期課程の修了に必要な「選択単位」、すなわち「専攻授業科目および専攻共通授業科目から 10 単位以上」に、**8 単位**を上限として算入できる。

●読み替え申請の時期

各学期の履修登録期間。ただし Web による履修登録はできないので、教務係窓口にある書類によって申請する。

●申請方法およびその後の流れ

- (1) 学生は、「学部授業科目読み替え履修申請書」用紙を教務係から受け取り、読み替えの方法（どの大学院科目に読み替えるか、等）について指導教員と十分協議した後、必要事項を記入し、指導教員から署名・捺印、授業担当教員から捺印をもらい、教務係窓口に提出する。
- (2) 読み替え履修が最終的に許可された場合、教務係は、学生本人には掲示にて、授業担当教員には書面にて通知する。
- (3) 学生は、学期末以降に当該授業の成績を Web で確認する。

* なお、読み替え履修が不許可となった場合でも、学生は「自由聴講」として当該科目を履修することができる。

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
国 文 学 特 論 I Japanese Literature (Advanced Lecture) I	2	准教授 横 溝 博	1 学期	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT601J																				
◆ 授業題目	『源氏物語』の探究																				
◆ 目的・概要	「末摘花」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【鑑賞】と【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。																				
◆ 到達目標	『源氏物語』『末摘花』巻を精読することで、(1)物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2)諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス (発表者及びローテーション決定)</td> <td>9. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>2. 講義 (光源氏の青年期について・桐壺巻～葵巻)</td> <td>10. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>3. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td>11. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>4. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td>12. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>5. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td>13. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>6. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td>14. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td>15. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス (発表者及びローテーション決定)	9. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	2. 講義 (光源氏の青年期について・桐壺巻～葵巻)	10. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	3. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	11. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	4. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	12. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	5. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	13. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	6. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	14. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	7. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	15. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	8. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	
1. ガイダンス (発表者及びローテーション決定)	9. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																				
2. 講義 (光源氏の青年期について・桐壺巻～葵巻)	10. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																				
3. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	11. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																				
4. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	12. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																				
5. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	13. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																				
6. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	14. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																				
7. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	15. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																				
8. 「末摘花」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																					
◇ 成績評価の方法	授業時の発表および期末レポート(発表のまとめ)の内容〔50%〕、授業への参加〔50%〕																				
◇ 教科書・参考書	テキストとして角川ソフィア文庫玉上琢弥訳注『源氏物語』第2巻(末摘花～花散里)を用いるので、大学生協で購入のこと。また、参考書として中野幸一編『〈新装版〉常用 源氏物語要覧』(武蔵野書院、2012年)がある。その他、参考文献は随時紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。																				
その他：本演習は、第6セメスターも連続して履修すること。物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや興味を大事にしていきたいと思います。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
国 文 学 特 論 II Japanese Literature (Advanced Lecture) II	2	准教授 横 溝 博	2 学期	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT602J																				
◆ 授業題目	『源氏物語』の探究																				
◆ 目的・概要	「葵」巻を輪読する。担当者は該当巻の【梗概】および【鑑賞】と【考察】をレジュメとしてまとめ、それを事前配布し、発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。																				
◆ 到達目標	『源氏物語』『葵』巻を輪読していくことで、(1)登場人物の造型や語りの有りよう、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2)准拠の問題や有職故実、風俗と文化についての理解を深める。以上を通して物語を読む力、批評する力を高めることで、課題に対して研究的に取り組むための応用力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ (以降同)</td> <td>9. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>2. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td>10. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>3. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td>11. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>4. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td>12. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>5. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td>13. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>6. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td>14. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td>15. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ</td> <td></td> </tr> </table>					1. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ (以降同)	9. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	2. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	10. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	3. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	11. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	4. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	12. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	5. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	13. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	6. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	14. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	7. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	15. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	8. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	
1. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ (以降同)	9. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																				
2. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	10. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																				
3. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	11. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																				
4. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	12. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																				
5. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	13. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																				
6. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	14. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																				
7. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ	15. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																				
8. 「葵」巻の輪読 (1)発表 (2)質疑応答 (3)まとめ																					
◇ 成績評価の方法	授業時の発表および期末レポート(発表のまとめ)の内容〔50%〕、授業への参加度合い〔50%〕																				
◇ 教科書・参考書	テキストとして角川ソフィア文庫玉上琢弥訳注『源氏物語』第2巻(末摘花～花散里)を用いるので、大学生協で購入のこと。また、参考書として中野幸一編『〈新装版〉常用 源氏物語要覧』(武蔵野書院、2012年)がある。その他、参考文献は随時紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。																				
その他：本演習は、第5セメスターから連続して履修すること。前期で読んだ「末摘花」巻、続く「紅葉賀」「花宴」巻を踏まえつつ、「葵」巻について、物語の筋を先取りするのではなく、物語の進行に従いながら、その表現世界を丁寧に探求していきたいと思います。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
国 文 学 特 論 III Japanese Literature (Advanced Lecture) III	2	非常勤 講師 滝 川 幸 司	集 中 (1)		
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT603J				
◆ 授業題目	平安前期漢文学史の諸問題				
◆ 目的・概要	平安文学の研究は、物語や和歌の仮名文学に比重が置かれているが、平安文学は漢文学から始まる。古今和歌集以前の文学史はほぼ漢文学史と同義であるが、研究は遅れている。本講義では、現在までの研究史を整理し、その問題点を議論し、古今和歌集成立以前の文学について多角的に講義を行う。				
◆ 到達目標	平安前期の漢文学史について、先行研究を整理し、問題点を論じる。平安文学史における漢文学の重要性について理解する。				
◆ 授業内容・方法	<p>平安前期漢文学史は、嵯峨朝の「文章経国」という、政治と文学が密接に結びつく時代から、承和期以後の個人の志を述べる時代へと変遷するととらえられている。「文章経国」から「詩言志」へという見取り図である。本講義では、この見取り図に対する疑問点を示し、その上で平安前期漢文学史の新たな見取り図を提示することを目的とする。</p> <p>1. はじめに —平安前期漢文学史をとらえる視点— 2. 平安前期漢文学史の見取り図 —通説— 3. 嵯峨朝の諸問題(一) —通説— 4. 嵯峨朝の諸問題(二) —文章経国思想—</p> <p>5. 嵯峨朝の諸問題(三) —大学寮— 6. 嵯峨朝の諸問題(四) —勅撰集の編纂— 7. 嵯峨朝の諸問題(五) —君臣唱和と宮廷詩宴— 8. 嵯峨朝から菅原道真へ —承和期文学— 9. 菅原道真の言志に関する諸問題(一) —通説— 10. 菅原道真の言志に関する諸問題(二) —資料再検討— 11. 菅原道真の言志に関する諸問題(三) —詩臣— 12. 菅原道真の言志に関する諸問題(四) —宮廷詩宴— 13. 紀伝道における詩人と儒家(一) —対立の視点— 14. 紀伝道における詩人と儒家(二) —包括する視点— 15. まとめ</p>				
◇ 成績評価の方法	レポート				
◇ 教科書・参考書	教科書はプリント配布、参考書は授業で紹介する。				
◇ 授業時間外学習	資料は漢文中心の資料となる。必要最小限の注解は付しておくが、漢文が得意でない場合は授業前に資料を読み、内容を把握しておくことが望ましい。また、授業中に紹介した先行研究については、できる限り全体を読むようにしておくこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
国 文 学 研 究 演 習 I Japanese Literature (Advanced Seminar) I	2	教授 教授 准教授 佐 藤 伸 宏 佐 倉 由 泰 横 溝 博	1 学期	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT604J				
◆ 授業題目	日本文芸の考究とその論述の方法				
◆ 目的・概要	論文作成の実践を通して、文学を思考し論ずる上での高度で専門的な問題発見力・分析力・構想力を高めることを目的とする。				
◆ 到達目標	論述の説得力を高めるためのスキルを身につける。また質疑応答に際してのディベートの力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<p>1. ガイダンス。次回以降の予定の確認と発表担当者の決定</p> <p>2. 研究発表と質疑応答 3. 研究発表と質疑応答 4. 研究発表と質疑応答 5. 研究発表と質疑応答 6. 研究発表と質疑応答 7. 研究発表と質疑応答 8. 研究発表と質疑応答</p> <p>9. 研究発表と質疑応答 10. 研究発表と質疑応答 11. 研究発表と質疑応答 12. 研究発表と質疑応答 13. 研究発表と質疑応答 14. 研究発表と質疑応答 15. 研究発表と質疑応答</p>				
◇ 成績評価の方法	授業における発表 (60%)・授業への参加 (40%)				
◇ 教科書・参考書	とくに指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを持参すること。				
◇ 授業時間外学習	予め配布された資料を熟読し、質問事項を用意しておくこと。				
その他：この授業は I・II を連続して履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
国 文 学 研 究 演 習 II Japanese Literature (Advanced Seminar) II	2	教授 教授 准教授 佐 藤 伸 宏 佐 倉 由 宏 横 溝 泰 博	2 学期	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT605J				
◆ 授業題目	日本文芸の考究とその論述の方法				
◆ 目的・概要	論文作成の実践を通して、文学を思考し論ずる上での高度で専門的な問題発見力・分析力・構想力を高めることを目的とする。				
◆ 到達目標	論述の説得力を高めるためのスキルを身につける。また質疑応答に際してのディベートの力を養う。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス。次回以降の予定の確認と発表担当者の決定 2. 研究発表と質疑応答 3. 研究発表と質疑応答 4. 研究発表と質疑応答 5. 研究発表と質疑応答 6. 研究発表と質疑応答 7. 研究発表と質疑応答 8. 研究発表と質疑応答	9. 研究発表と質疑応答 10. 研究発表と質疑応答 11. 研究発表と質疑応答 12. 研究発表と質疑応答 13. 研究発表と質疑応答 14. 研究発表と質疑応答 15. 研究発表と質疑応答			
◇ 成績評価の方法	授業における発表 (60%)・授業への参加 (40%)				
◇ 教科書・参考書	とくに指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを持参すること。				
◇ 授業時間外学習	予め配布された資料を熟読し、質問事項を用意しておくこと。				
その他：この授業はⅠ・Ⅱを連続して履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 文 芸 形 成 論 研 究 演 習 I Study of Formation of Japanese Literature (Advanced Seminar) I	2	教授 佐 藤 伸 宏	1 学期	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT606J				
◆ 授業題目	日露戦後文学の研究				
◆ 目的・概要	日露戦後、すなわち明治末期から大正期にかけての時期は日本近代文学の展開において大きな転換期であった。この転換期の文学を取り上げ、考察を加える。受講者は各自担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて報告する。口頭発表と質疑応答をとおして各作品の精緻な読解を試みる。本セミナーでは、主として明治末期の小説等を取り上げる。				
◆ 到達目標	(1)文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。 (2)日露戦後の多様な展開とその特質について理解を深める。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス：日露戦後という時代 2. 日露戦後文学史 3. 担当者による口頭発表と質疑応答 4. 担当者による口頭発表と質疑応答 5. 担当者による口頭発表と質疑応答 6. 担当者による口頭発表と質疑応答 7. 担当者による口頭発表と質疑応答 8. 担当者による口頭発表と質疑応答	9. 担当者による口頭発表と質疑応答 10. 担当者による口頭発表と質疑応答 11. 担当者による口頭発表と質疑応答 12. 担当者による口頭発表と質疑応答 13. 担当者による口頭発表と質疑応答 14. 担当者による口頭発表と質疑応答 15. 前期のまとめ			
◇ 成績評価の方法	授業における発表とレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。				
◇ 授業時間外学習	授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておく				
その他：本演習は後期も連続して履修すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 文 芸 形 成 論 研 究 演 習 Ⅱ Study of Formation of Japanese Literature (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教 授 佐 藤 伸 宏	2 学 期	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT607J																				
◆ 授業題目	日露戦後文学の研究																				
◆ 目的・概要	日露戦後、すなわち明治末期から大正期にかけての時期は日本近代文学の展開において大きな転換期であった。この転換期の文学を取り上げ、考察を加える。受講者は各自担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて報告する。口頭発表と質疑応答をとおして各作品の精緻な読解を試みる。本セミナーでは、主として大正期の小説等を取り上げる。																				
◆ 到達目標	(1)文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。 (2)日露戦後文学の多様な展開とその特質について理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス：大正期の文学</td> <td>9. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>10. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>11. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>4. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>12. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>5. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>13. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>6. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>14. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>7. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>15. 後期のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス：大正期の文学	9. 担当者による口頭発表と質疑応答	2. 担当者による口頭発表と質疑応答	10. 担当者による口頭発表と質疑応答	3. 担当者による口頭発表と質疑応答	11. 担当者による口頭発表と質疑応答	4. 担当者による口頭発表と質疑応答	12. 担当者による口頭発表と質疑応答	5. 担当者による口頭発表と質疑応答	13. 担当者による口頭発表と質疑応答	6. 担当者による口頭発表と質疑応答	14. 担当者による口頭発表と質疑応答	7. 担当者による口頭発表と質疑応答	15. 後期のまとめ	8. 担当者による口頭発表と質疑応答	
1. ガイダンス：大正期の文学	9. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
2. 担当者による口頭発表と質疑応答	10. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
3. 担当者による口頭発表と質疑応答	11. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
4. 担当者による口頭発表と質疑応答	12. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
5. 担当者による口頭発表と質疑応答	13. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
6. 担当者による口頭発表と質疑応答	14. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
7. 担当者による口頭発表と質疑応答	15. 後期のまとめ																				
8. 担当者による口頭発表と質疑応答																					
◇ 成績評価の方法	授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておく																				
その他：本演習は前期から連続して履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 文 芸 形 成 論 研 究 演 習 Ⅲ Study of Formation of Japanese Literature (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教 授 佐 藤 伸 宏	1 学 期	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT608J																				
◆ 授業題目	詩歌を読む																				
◆ 目的・概要	詩歌はいかに読まれるべきであるのか。詩歌の研究に関わる国内外の成果を参照しつつ、詩歌の本質を考え、また古代から近代にいたる多様な詩歌テキストを具体的に取り上げて考察することとおして、詩歌分析の方法について検討を重ねていく。																				
◆ 到達目標	(1)詩歌の分析の在り方について知見を深める。 (2)日本文学における詩歌の多様な展開と様式、その特質について理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2. 詩歌研究の方法について</td> <td>10. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>11. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>4. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>12. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>5. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>13. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>6. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>14. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>7. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>15. 前期のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 担当者による口頭発表と質疑応答	2. 詩歌研究の方法について	10. 担当者による口頭発表と質疑応答	3. 担当者による口頭発表と質疑応答	11. 担当者による口頭発表と質疑応答	4. 担当者による口頭発表と質疑応答	12. 担当者による口頭発表と質疑応答	5. 担当者による口頭発表と質疑応答	13. 担当者による口頭発表と質疑応答	6. 担当者による口頭発表と質疑応答	14. 担当者による口頭発表と質疑応答	7. 担当者による口頭発表と質疑応答	15. 前期のまとめ	8. 担当者による口頭発表と質疑応答	
1. ガイダンス	9. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
2. 詩歌研究の方法について	10. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
3. 担当者による口頭発表と質疑応答	11. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
4. 担当者による口頭発表と質疑応答	12. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
5. 担当者による口頭発表と質疑応答	13. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
6. 担当者による口頭発表と質疑応答	14. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
7. 担当者による口頭発表と質疑応答	15. 前期のまとめ																				
8. 担当者による口頭発表と質疑応答																					
◇ 成績評価の方法	授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業で取り上げるテキストを受講者全員が事前に精読しておく																				
その他：本演習は後期も連続して履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 文 芸 形 成 論 研 究 演 習 Ⅳ Study of Formation of Japanese Literature (Advanced Seminar) Ⅳ	2	教 授 佐 藤 伸 宏	2 学 期	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT609J																				
◆ 授業題目	詩歌を読む																				
◆ 目的・概要	詩歌はいかに読まれるべきであるのか。詩歌の研究に関わる国内外の成果を参照しつつ、詩歌の本質を考え、また古代から近代にいたる多様な詩歌テキストを具体的に取り上げて考察することをとおして、詩歌分析の方法について検討を重ねていく。																				
◆ 到達目標	(1)詩歌の分析の在り方について知見を深める。 (2)日本文学における詩歌の多様な展開と様式、その特質について理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>10. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>11. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>4. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>12. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>5. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>13. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>6. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>14. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>7. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td>15. 後期のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 担当者による口頭発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 担当者による口頭発表と質疑応答	2. 担当者による口頭発表と質疑応答	10. 担当者による口頭発表と質疑応答	3. 担当者による口頭発表と質疑応答	11. 担当者による口頭発表と質疑応答	4. 担当者による口頭発表と質疑応答	12. 担当者による口頭発表と質疑応答	5. 担当者による口頭発表と質疑応答	13. 担当者による口頭発表と質疑応答	6. 担当者による口頭発表と質疑応答	14. 担当者による口頭発表と質疑応答	7. 担当者による口頭発表と質疑応答	15. 後期のまとめ	8. 担当者による口頭発表と質疑応答	
1. ガイダンス	9. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
2. 担当者による口頭発表と質疑応答	10. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
3. 担当者による口頭発表と質疑応答	11. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
4. 担当者による口頭発表と質疑応答	12. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
5. 担当者による口頭発表と質疑応答	13. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
6. 担当者による口頭発表と質疑応答	14. 担当者による口頭発表と質疑応答																				
7. 担当者による口頭発表と質疑応答	15. 後期のまとめ																				
8. 担当者による口頭発表と質疑応答																					
◇ 成績評価の方法	授業における発表とレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業で取り上げるテキストを受講者全員が事前に精読しておく																				
その他：本演習は前期から連続して履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 文 芸 形 成 論 研 究 演 習 Ⅴ Study of Formation of Japanese Literature (Advanced Seminar) Ⅴ	2	教 授 佐 倉 由 泰	1 学 期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT610J																				
◆ 授業題目	中世の日記文芸、紀行文芸の表現形成																				
◆ 目的・概要	中世の日記文芸、紀行文芸の記述について、その表現形成の実態と要因を、広く文化的、社会的問題とかがわらせて考察する。																				
◆ 到達目標	文学、文化、社会について発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を高める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(一)</td> <td>9. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(四)</td> </tr> <tr> <td>2. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(二)</td> <td>10. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(五)</td> </tr> <tr> <td>3. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(三)</td> <td>11. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(六)</td> </tr> <tr> <td>4. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(四)</td> <td>12. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(七)</td> </tr> <tr> <td>5. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(五)</td> <td>13. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(八)</td> </tr> <tr> <td>6. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(一)</td> <td>14. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(九)</td> </tr> <tr> <td>7. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(二)</td> <td>15. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(十)</td> </tr> <tr> <td>8. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(三)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(一)	9. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(四)	2. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(二)	10. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(五)	3. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(三)	11. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(六)	4. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(四)	12. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(七)	5. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(五)	13. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(八)	6. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(一)	14. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(九)	7. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(二)	15. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(十)	8. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(三)	
1. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(一)	9. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(四)																				
2. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(二)	10. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(五)																				
3. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(三)	11. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(六)																				
4. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(四)	12. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(七)																				
5. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説(五)	13. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(八)																				
6. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(一)	14. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(九)																				
7. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(二)	15. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(十)																				
8. 考察の発表とそれにもとづく意見交換(三)																					
◇ 成績評価の方法	授業時の発表およびレポート [60%]、授業への参加 [40%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書：特に指定しない 参考書：授業の中で随時紹介する																				
◇ 授業時間外学習	授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。																				
その他：本演習のⅥも連続して履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 文 芸 形 成 論 研 究 演 習 VI Study of Formation of Japanese Literature (Advanced Seminar) VI	2	教 授 佐 倉 由 泰	2 学 期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT611J																				
◆ 授業題目	中世の日記文芸、紀行文芸の表現形成																				
◆ 目的・概要	中世の日記文芸、紀行文芸の記述について、その表現形成の実態と要因を、広く文化的、社会的問題と かかわらせて考察する。																				
◆ 到達目標	文学、文化、社会について発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を高める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (一)</td> <td>9. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (九)</td> </tr> <tr> <td>2. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (二)</td> <td>10. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十)</td> </tr> <tr> <td>3. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (三)</td> <td>11. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十一)</td> </tr> <tr> <td>4. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (四)</td> <td>12. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十二)</td> </tr> <tr> <td>5. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (五)</td> <td>13. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十三)</td> </tr> <tr> <td>6. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (六)</td> <td>14. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十四)</td> </tr> <tr> <td>7. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (七)</td> <td>15. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十五)</td> </tr> <tr> <td>8. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (八)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (一)	9. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (九)	2. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (二)	10. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十)	3. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (三)	11. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十一)	4. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (四)	12. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十二)	5. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (五)	13. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十三)	6. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (六)	14. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十四)	7. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (七)	15. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十五)	8. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (八)	
1. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (一)	9. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (九)																				
2. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (二)	10. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十)																				
3. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (三)	11. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十一)																				
4. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (四)	12. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十二)																				
5. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (五)	13. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十三)																				
6. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (六)	14. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十四)																				
7. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (七)	15. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (十五)																				
8. 考察の発表とそれにもとづく意見交換 (八)																					
◇ 成績評価の方法	授業時の発表およびレポート [60%]、授業への参加 [40%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書：特に指定しない 参考書：授業の中で随時紹介する																				
◇ 授業時間外学習	授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて 行くことが重要である。																				
その他：本演習のVから連続して履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 思 想 史 特 論 I History of Japanese Thought (Advanced Lecture) I	2	教授 佐藤弘夫	2学期	金	1
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI601J				
◆ 授業題目	聖地と霊場				
◆ 目的・概要	四国八十八カ所から妖怪の出現する場所、サブカルの聖地に至るまで、日本列島には無数の霊的なスポットが存在する。それらに共通するものはいったいなんであろうか。その地にみなぎるパワーの性格を、いくつかの種類化することは可能であろうか。聖地のイメージには、時代による変遷が見られるのであろうか。そもそも、人はなぜ、聖なる地を創り出し、あるいはそこに心惹かれるのであろうか。世界の霊場を視野に入れつつ、日本列島に散在するいくつかの聖なる地を具体的に巡りながら、これらの疑問に対する解答を探ってみよう。				
◆ 到達目標	世界の他地域と比較しながら、なぜ日本列島において特定のスポットが霊的なパワーをもった地とされるのか、その原因を考察することを通じて、聖なるものの誕生の過程と霊場形成のメカニズムを理解する。				
◆ 授業内容・方法	1. 霊場学入門—聖地論の過去と現在 2. 三輪山—神の住む聖なる山 3. 箸墓—築造された神の居住地 4. 高野山—土地を譲る神 5. 立石寺—祖師の眠る寺 6. 黒石寺—黒い岩の霊場 7. 八葉寺—念仏踊りの寺 8. 春日神社—彼岸へ誘う神 9. 伊勢神宮と朝熊山—先祖供養と神 10. 川倉地藏堂—奉納される花嫁人形 11. 黒鳥観音—婚姻する死者たち 12. 三森山—死者と出会う山 13. 琉球の聖地—神の声を聴く人々 14. 妖怪・幽霊・ゆるキャラ 15. アニメの聖地の誕生				
◇ 成績評価の方法	レポート [80%] 出席 [20%]				
◇ 教科書・参考書	プリントとスライドを使用する。参考書は随時紹介する。				
◇ 授業時間外学習	授業中に次回までの課題を指示する。				
その他：オフィスアワー：水4校時					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 思 想 史 特 論 II History of Japanese Thought (Advanced Lecture) II	2	准教授 片岡龍	1学期	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI602J				
◆ 授業題目	「思想史」とは何か				
◆ 目的・概要	各人の研究関心に即しながら、思想史上の代表的研究テーマをとりあげ、そのテーマに対する代表的論文等による理解の共有と、各人の研究関心にもとづく発展的考察とを、発表・対話形式で行う。前期のテーマは、「霊性」とする。				
◆ 到達目標	日本思想史という学問の性格に対する共通理解・問題関心を養いながら、研究論文の作成方法に習熟する。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 2. 文献・テーマに関する対話 1 3. 文献・テーマに関する対話 2 4. 文献・テーマに関する対話 3 5. テーマに対する理解の共有 (研究計画作成) 1 6. テーマに対する理解の共有 (研究計画作成) 2 7. テーマに対する理解の共有 (研究計画作成) 3 8. 発展的考察 (発表・対話) 1 9. 発展的考察 (発表・対話) 2 10. 発展的考察 (発表・対話) 3 11. 発展的考察 (発表・対話) 4 12. 発展的考察 (発表・対話) 5 13. 発展的考察 (発表・対話) 6 14. 発展的考察 (発表・対話) 7 15. 発展的考察 (発表・対話) 8				
◇ 成績評価の方法	平常点 (出席、発表、対話)				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布する。				
◇ 授業時間外学習	研究テーマに対する理解を深めるために、参考文献を幅広く渉猟する。				
その他：研究成果をもとにした論文集の作成を目標とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																								
日 本 思 想 史 特 論 III History of Japanese Thought (Advanced Lecture) III	2	准教授 片 岡 龍	2 学期	火	4																								
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI603J																												
◆ 授業題目	「思想史」とは何か																												
◆ 目的・概要	各人の研究関心に即しながら、思想史上の代表的研究テーマをとりあげ、そのテーマに対する代表的論文等による理解の共有と、各人の研究関心にもとづく発展的考察とを、発表・対話形式で行う。後期のテーマは、「平和」とする。																												
◆ 到達目標	前期に引き続き、日本思想史という学問の性格に対する共通理解・問題関心をいっそう深めながら、共同研究の作法に習熟する。																												
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 発展的考察（発表・対話）</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>2. 文献・テーマに関する対話 1</td> <td>10. 発展的考察（発表・対話）</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>3. 文献・テーマに関する対話 2</td> <td>11. 発展的考察（発表・対話）</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>4. 文献・テーマに関する対話 3</td> <td>12. 発展的考察（発表・対話）</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>5. テーマに対する理解の共有（研究計画作成） 1</td> <td>13. 発展的考察（発表・対話）</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>6. テーマに対する理解の共有（研究計画作成） 2</td> <td>14. 発展的考察（発表・対話）</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>7. テーマに対する理解の共有（研究計画作成） 3</td> <td>15. 発展的考察（発表・対話）</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>8. 発展的考察（発表・対話） 1</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 発展的考察（発表・対話）	2	2. 文献・テーマに関する対話 1	10. 発展的考察（発表・対話）	3	3. 文献・テーマに関する対話 2	11. 発展的考察（発表・対話）	4	4. 文献・テーマに関する対話 3	12. 発展的考察（発表・対話）	5	5. テーマに対する理解の共有（研究計画作成） 1	13. 発展的考察（発表・対話）	6	6. テーマに対する理解の共有（研究計画作成） 2	14. 発展的考察（発表・対話）	7	7. テーマに対する理解の共有（研究計画作成） 3	15. 発展的考察（発表・対話）	8	8. 発展的考察（発表・対話） 1		
1. ガイダンス	9. 発展的考察（発表・対話）	2																											
2. 文献・テーマに関する対話 1	10. 発展的考察（発表・対話）	3																											
3. 文献・テーマに関する対話 2	11. 発展的考察（発表・対話）	4																											
4. 文献・テーマに関する対話 3	12. 発展的考察（発表・対話）	5																											
5. テーマに対する理解の共有（研究計画作成） 1	13. 発展的考察（発表・対話）	6																											
6. テーマに対する理解の共有（研究計画作成） 2	14. 発展的考察（発表・対話）	7																											
7. テーマに対する理解の共有（研究計画作成） 3	15. 発展的考察（発表・対話）	8																											
8. 発展的考察（発表・対話） 1																													
◇ 成績評価の方法	平常点（出席、発表、対話）																												
◇ 教科書・参考書	プリントを配布する。																												
◇ 授業時間外学習	研究テーマに対する理解を深めるために、参考文献を幅広く渉猟する。																												
その他：研究成果をもとにした論文集の作成を目標とする。																													

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																								
日 本 思 想 史 特 論 IV History of Japanese Thought (Advanced Lecture) IV	2	非常勤講師 富 樫 進	1 学期	火	1																								
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI604J																												
◆ 授業題目	古代における〈異域〉																												
◆ 目的・概要	中央集権化に伴う王権の拡大・変容に伴い、日本では各時代毎にさまざまな地域が〈異域〉と見なされた。それらは時に隼人や熊襲、東夷や蝦夷といった列島内の「未開」人の居住地として〈ミヤコ〉に住む人々の優越心を満足させ、またある時には大唐（震旦）や天竺、西洋諸国といった海外の「文明」地域として極東の小国に住む人々のコンプレックスをかき立てる存在となった。〈異域〉の変遷を通観することを通じて、私たちは逆照射されたかたちでの〈日本〉像を目にすることができるのではないだろうか。以上のような問題意識のもと、本講義では7世紀から10世紀初頭（すなわち「国風文化」確立期）までを対象に、文献史料をはじめとする様々な事物を題材に、当該期における〈異域〉イメージを明確化する。また、当該期においてそれらの〈異域〉イメージが形成された理由とその意義について、思想的な観点から評価を試みたい。																												
◆ 到達目標	古代日本における〈異域〉像の形成について、文献をはじめとする様々な史料を通じて明確化するための方法を実践的に検討する。併せて、その成果を思想的観点に基づいて、できるだけ客観的かつ積極的に評価する。																												
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 第1回 オリエンテーション—〈異域〉というテーマの有効性について—</td> <td>9. 第9回</td> <td>9世紀日本における〈異域〉①</td> </tr> <tr> <td>2. 第2回 7世紀倭国における〈異域〉①</td> <td>10. 第10回</td> <td>9世紀日本における〈異域〉②</td> </tr> <tr> <td>3. 第3回 7世紀倭国における〈異域〉②</td> <td>11. 第11回</td> <td>9世紀日本における〈異域〉③</td> </tr> <tr> <td>4. 第4回 7世紀日本における〈異域〉①</td> <td>12. 第12回</td> <td>9世紀日本における〈異域〉④</td> </tr> <tr> <td>5. 第5回 7世紀日本における〈異域〉②</td> <td>13. 第13回</td> <td>10世紀日本における〈異域〉①</td> </tr> <tr> <td>6. 第6回 8世紀日本における〈異域〉①</td> <td>14. 第14回</td> <td>10世紀日本における〈異域〉①</td> </tr> <tr> <td>7. 第7回 8世紀日本における〈異域〉②</td> <td>15. 第15回</td> <td>本講義のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 第8回 8世紀日本における〈異域〉③</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 第1回 オリエンテーション—〈異域〉というテーマの有効性について—	9. 第9回	9世紀日本における〈異域〉①	2. 第2回 7世紀倭国における〈異域〉①	10. 第10回	9世紀日本における〈異域〉②	3. 第3回 7世紀倭国における〈異域〉②	11. 第11回	9世紀日本における〈異域〉③	4. 第4回 7世紀日本における〈異域〉①	12. 第12回	9世紀日本における〈異域〉④	5. 第5回 7世紀日本における〈異域〉②	13. 第13回	10世紀日本における〈異域〉①	6. 第6回 8世紀日本における〈異域〉①	14. 第14回	10世紀日本における〈異域〉①	7. 第7回 8世紀日本における〈異域〉②	15. 第15回	本講義のまとめ	8. 第8回 8世紀日本における〈異域〉③		
1. 第1回 オリエンテーション—〈異域〉というテーマの有効性について—	9. 第9回	9世紀日本における〈異域〉①																											
2. 第2回 7世紀倭国における〈異域〉①	10. 第10回	9世紀日本における〈異域〉②																											
3. 第3回 7世紀倭国における〈異域〉②	11. 第11回	9世紀日本における〈異域〉③																											
4. 第4回 7世紀日本における〈異域〉①	12. 第12回	9世紀日本における〈異域〉④																											
5. 第5回 7世紀日本における〈異域〉②	13. 第13回	10世紀日本における〈異域〉①																											
6. 第6回 8世紀日本における〈異域〉①	14. 第14回	10世紀日本における〈異域〉①																											
7. 第7回 8世紀日本における〈異域〉②	15. 第15回	本講義のまとめ																											
8. 第8回 8世紀日本における〈異域〉③																													
◇ 成績評価の方法	レポート [75%] 出席（小テスト等を含む場合あり） [25%]																												
◇ 教科書・参考書	教科書：プリントを配布する。参考書：講義中に適宜紹介する。																												
◇ 授業時間外学習	講義で採り上げられた参考文献・原典史料を積極的・自発的に読むことが望ましい。																												
その他：																													

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 思 想 史 特 論 V History of Japanese Thought (Advanced Lecture) V	2	非常勤 講師 徳 盛 誠	集 中 (2)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSPHI605J 『日本書紀』『神代』を考える 『日本書紀』や『古事記』で神々の時代として語られることがらは、現代にいかにつきささっているのか？それらに私たちはどう向き合うべきなのか？これは私たちの問題ですが、同時に、八世紀の初めにこれらの書物が成立して以来、多くの人びとが自らの課題としてきた問題でもありました。この授業は平安期から江戸時代に至るまで、異なった時代の文脈で、『日本書紀』解釈として多様に試みられてきたそうした課題への取り組みの数々を、なるべく具体的にたどっていくことを主な内容とし、それを通じて、先入観を対象化しつつ、私たち自身が上記の問題をあらたに考える契機にすることを主な目的とします。あわせて、『日本書紀』『神代』をどうよむかを基軸とした思想史の流れを考えたり、またテキスト解析の方法を再検討したりする機会にもなれば幸いです。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	『日本書紀』『神代』理解と解釈方法との歴史性について、具体的な問題を通じて認識する。				
	1. はじめに 2. 平安期における『日本書紀』学と『積日本紀』(その1) 3. 同(その2) 4. 仏教的世界観と『日本書紀』『神代』理解 5. 一条兼良『日本書紀纂疏』の論理と方法(その1) 6. 同(その2) 7. 吉田兼俱と清原宣賢の『日本書紀』学(その1) 8. 同(その2)	9. 闇齋学派の『日本書紀』解釈(その1) 10. 同(その2) 11. 谷川土清『日本書紀通証』 12. 本居宣長の『日本書紀』『神代』(その1) 13. 同(その2) 14. 本居宣長以後の『日本書紀』学 15. まとめ			
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	授業への参加態度とレポートによる。 プリントを配布する。『日本書紀』については岩波文庫本、『古事記』については新編日本古典文学全集本(小学館)を参照すること。 予習として『古事記』上巻、『日本書紀』『神代』、さらに事前に配布する資料に目を通しておくことがのぞましい。				
その他：授業の構成は、都合により変更する可能性があります。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 思 想 史 研 究 演 習 I History of Japanese Thought (Advanced Seminar) I	2	准教授 片 岡 龍	1 学期	水	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSPHI607J 日本思想史の諸問題 I 研究参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	日本思想史の研究方法の会得と深化				
	1. ガイダンス 2. 新歓発表1 3. 新歓発表2 4. 研究発表1 5. 研究発表2 6. 研究発表3 7. 研究発表4 8. 研究発表5	9. 研究発表6 10. 研究発表7 11. 研究発表8 12. 研究発表9 13. 研究発表10 14. 研究発表11 15. 研究発表12			
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	論文 [80%] 出席 [20%] 教室で指示する。 プレレジユメは1週間前、本レジユメは1日前までに完成するよう準備する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時		
日 本 思 想 史 研 究 演 習 Ⅱ History of Japanese Thought (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授 片 岡 龍	2 学期	水	5		
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI608J						
◆ 授業題目	日本思想史の諸問題Ⅱ						
◆ 目的・概要	演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、学期末にはそれを全員が提出する。						
◆ 到達目標	研究論文の作成						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. ガイダンス 2. 研究発表1 3. 研究発表2 4. 研究発表3 5. 研究発表4 6. 研究発表5 7. 研究発表6 8. 研究発表7 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 9. 研究発表8 10. 研究発表9 11. 研究発表10 12. 研究発表11 13. 研究発表12 14. 研究発表13 15. 研究発表14 </td> </tr> </table>					1. ガイダンス 2. 研究発表1 3. 研究発表2 4. 研究発表3 5. 研究発表4 6. 研究発表5 7. 研究発表6 8. 研究発表7	9. 研究発表8 10. 研究発表9 11. 研究発表10 12. 研究発表11 13. 研究発表12 14. 研究発表13 15. 研究発表14
1. ガイダンス 2. 研究発表1 3. 研究発表2 4. 研究発表3 5. 研究発表4 6. 研究発表5 7. 研究発表6 8. 研究発表7	9. 研究発表8 10. 研究発表9 11. 研究発表10 12. 研究発表11 13. 研究発表12 14. 研究発表13 15. 研究発表14						
◇ 成績評価の方法	論文 [80%] 出席 [20%]						
◇ 教科書・参考書	教室で指示する。						
◇ 授業時間外学習	プレレジюмеは1週間前、本レジюмеは1日前までに完成するよう準備する。						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国語学 中国文学 特論 I Chinese Language and Literature (Advanced Lecture) I	2	准教授 馬 暁 地	1 学期	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT612J																				
◆ 授業題目	唐詩と唐代社会（胡曾の《詠史詩》）																				
◆ 目的・概要	晩唐時代の詩人胡曾は上古から隋時代までの歴史を詠じる百五十首の詠史詩を作りました。これらの作品を一首一首精読し、詩の美しさを味わいながら、中国の歴史を勉強する。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。授業中に中国語で大量の詩文を読むので、受講生は二年以上中国語学習歴を有することが望ましい。																				
◆ 到達目標	唐詩の読解力を高める。特に中国語で唐詩及び文章を読む能力を養成すること。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. 中国古代の詠史詩について(1)</td> <td style="width:50%;">9. 《詠史詩》精読1 《玉門関》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>2. 同上(2)</td> <td>10. 《詠史詩》精読2 《関西》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>3. 唐代の詠史詩(1)</td> <td>11. 精読3 《江夏》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>4. 同上(2)</td> <td>12. 精読4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)</td> <td>13. 精読5 《西園》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>6. 同上(2)</td> <td>14. 精読6 《官渡》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>7. 同上(3)</td> <td>15. 精読7 《赤壁》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>8. 同上(4)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 中国古代の詠史詩について(1)	9. 《詠史詩》精読1 《玉門関》詩の内容と芸術表現	2. 同上(2)	10. 《詠史詩》精読2 《関西》詩の内容と芸術表現	3. 唐代の詠史詩(1)	11. 精読3 《江夏》詩の内容と芸術表現	4. 同上(2)	12. 精読4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現	5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)	13. 精読5 《西園》詩の内容と芸術表現	6. 同上(2)	14. 精読6 《官渡》詩の内容と芸術表現	7. 同上(3)	15. 精読7 《赤壁》詩の内容と芸術表現	8. 同上(4)	
1. 中国古代の詠史詩について(1)	9. 《詠史詩》精読1 《玉門関》詩の内容と芸術表現																				
2. 同上(2)	10. 《詠史詩》精読2 《関西》詩の内容と芸術表現																				
3. 唐代の詠史詩(1)	11. 精読3 《江夏》詩の内容と芸術表現																				
4. 同上(2)	12. 精読4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現																				
5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)	13. 精読5 《西園》詩の内容と芸術表現																				
6. 同上(2)	14. 精読6 《官渡》詩の内容と芸術表現																				
7. 同上(3)	15. 精読7 《赤壁》詩の内容と芸術表現																				
8. 同上(4)																					
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布																				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を重視する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国語学 中国文学 特論 II Chinese Language and Literature (Advanced Lecture) II	2	准教授 馬 暁 地	2 学期	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT613J																				
◆ 授業題目	唐詩と唐代社会（胡曾の《詠史詩》）																				
◆ 目的・概要	晩唐時代の詩人胡曾は上古から隋時代までの歴史を詠じる百五十首の詠史詩を作りました。これらの作品を一首一首精読し、詩の美しさを味わいながら、中国の歴史を勉強する。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。授業中に中国語で大量の詩文を読むので、受講生は二年以上中国語学習歴を有することが望ましい。																				
◆ 到達目標	唐詩の読解力を高める。特に中国語で唐詩及び文章を読む能力を養成すること。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. 中国古代の詠史詩について(1)</td> <td style="width:50%;">9. 《詠史詩》精読1 《玉門関》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>2. 同上(2)</td> <td>10. 《詠史詩》精読2 《関西》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>3. 唐代の詠史詩(1)</td> <td>11. 精読3 《江夏》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>4. 同上(2)</td> <td>12. 精読4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)</td> <td>13. 精読5 《西園》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>6. 同上(2)</td> <td>14. 精読6 《官渡》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>7. 同上(3)</td> <td>15. 精読7 《赤壁》詩の内容と芸術表現</td> </tr> <tr> <td>8. 同上(4)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 中国古代の詠史詩について(1)	9. 《詠史詩》精読1 《玉門関》詩の内容と芸術表現	2. 同上(2)	10. 《詠史詩》精読2 《関西》詩の内容と芸術表現	3. 唐代の詠史詩(1)	11. 精読3 《江夏》詩の内容と芸術表現	4. 同上(2)	12. 精読4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現	5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)	13. 精読5 《西園》詩の内容と芸術表現	6. 同上(2)	14. 精読6 《官渡》詩の内容と芸術表現	7. 同上(3)	15. 精読7 《赤壁》詩の内容と芸術表現	8. 同上(4)	
1. 中国古代の詠史詩について(1)	9. 《詠史詩》精読1 《玉門関》詩の内容と芸術表現																				
2. 同上(2)	10. 《詠史詩》精読2 《関西》詩の内容と芸術表現																				
3. 唐代の詠史詩(1)	11. 精読3 《江夏》詩の内容と芸術表現																				
4. 同上(2)	12. 精読4 《銅雀台》詩の内容と芸術表現																				
5. 詩人胡曾と彼の《詠史詩》(1)	13. 精読5 《西園》詩の内容と芸術表現																				
6. 同上(2)	14. 精読6 《官渡》詩の内容と芸術表現																				
7. 同上(3)	15. 精読7 《赤壁》詩の内容と芸術表現																				
8. 同上(4)																					
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布																				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を重視する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
中国語学 中国文学 特論Ⅲ Chinese Language and Literature (Advanced Lecture) Ⅲ	2	非常勤 講師 大 西 克 也	集 中 (1)		
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT614J				
◆ 授業題目	出土資料から見た古代中国の文字とことば				
◆ 目的・概要	近年飛躍的に増加している出土資料は、分野を問わず古代中国研究のありかたに、ある意味では根本的な見直しを迫るものであると言える。同時代の人々が残した資料を直に観察できることの持つ意味は極めて大きい。本講義では、秦漢以前のいわゆる上古の時代における出土資料を把握したうえで、そこから見えてくる当時の文字や言葉の生態や変化の諸相を、時空や文化・社会の在り方との関係から概説する。				
◆ 到達目標	出土資料研究の最前線で行われている内容に触れることにより、我々の文化と深い関係のある漢字・漢文を、その根源的性質に立ち返って理解することを目標とする。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 出土資料概論1：甲骨 3. 出土資料概論2：青銅器 4. 出土資料概論3：石碑、貨幣、印章他 5. 出土資料概論4：簡帛その1 6. 出土資料概論5：簡帛その2 7. 出土資料の解説 8. 漢字の歴史1：甲骨文字～戦国文字 9. 漢字の歴史2：篆書と隸書 10. 漢字の歴史3：文字統一の意義 11. 漢字の歴史4：楷書の成立 12. 漢字以前の「漢字」 13. 出土資料と古代中国語1：テキストの変容と文法研究 14. 出土資料と古代中国語2：上古の方言 15. 応用編：司馬遷『史記』太史公自序を読み返す 				
◇ 成績評価の方法	出席及びレポート				
◇ 教科書・参考書	教科書：なし。 参考書：大西克也他『アジアと漢字文化』、放送大学教育振興会、2009年。中国出土資料学会編『地下からの贈り物 新出土資料が語るいにしへの中国』、東方書店、2014年。				
◇ 授業時間外学習	特になし。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
中国語学 中国文学 研究演習Ⅰ Chinese Language and Literature (Advanced Seminar) Ⅰ	2	教授 准教授 佐 竹 保 子 土 屋 育 子	1 学期	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT615J				
◆ 授業題目	中国語学史中国文学史上の諸問題				
◆ 目的・概要	<p>【目的】1. 中国語学の各分野について、理解を深める。2. 中国文学の各分野について、理解を深める。3. 研究発表の方法と論文作成の方法を、学ぶ。4. 他人の研究発表を理解した上で、自らの質問を的確に言語化する方法を、学ぶ。</p> <p>【概要】受講生は輪番で、自らのもっとも関心のある課題について、その先行研究の整理・問題点の析出・解決のための調査（文献の読解と分析を含む）の過程と結果を、文章化して発表する。発表レジュメは前週金曜正午まで。発表レジュメを受け取った受講生は、三日間でレジュメを吟味・検討し、授業当日に質疑応答・情報提供等を行う。期末に、発表者は、授業当日の検討を反映させたレジュメ改訂版を提出する。</p>				
◆ 到達目標	上記の【目的】の1～4。および5. 自ら納得のいく、適正な論文の作成。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(1) 2. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(2) 3. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(3) 4. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(4) 5. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(5) 6. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(6) 7. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(7) 8. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(8) 9. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(9) 10. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(10) 11. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(11) 12. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(12) 13. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(13) 14. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(14) 15. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表(15) 				
◇ 成績評価の方法	出席と質疑応答（50%）。レジュメによるプレゼンテーションとレジュメ改訂版の提出（50%）。				
◇ 教科書・参考書	受講生各自の準備するプリント。				
◇ 授業時間外学習	発表者は、プレゼンテーションの準備。発表者以外の受講生は、三日前に提出されるレジュメの吟味と検討。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
中国語学中国文学研究演習Ⅱ Chinese Language and Literature (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教授 准教授 佐竹保子 土屋育子	2学期	月	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSLIT616J 中国語学史中国文学史上の諸問題 【目的】1. 中国語学の各分野について、理解を深める。2. 中国文学の各分野について、理解を深める。 3. 研究発表の方法と論文作成の方法を、学ぶ。4. 他人の研究発表を理解した上で、自らの質問を的確に言語化する方法を、学ぶ。 【概要】受講生は輪番で、自らのもっとも関心のある課題について、その先行研究の整理・問題点の析出・解決のための調査（文献の読解と分析を含む）の過程と結果を、文章化して発表する。発表レジュメは前週金曜正午まで。発表レジュメを受け取った受講生は、三日間でレジュメを吟味・検討し、授業当日に質疑応答・情報提供等を行う。期末に、発表者は、授業当日の検討を反映させたレジュメ改訂版を提出する。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	上記の【目的】の1～4。および5. 自ら納得のいく、適正な論文の作成。				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	出席と質疑応答（50%）。レジュメによるプレゼンテーションとレジュメ改訂版の提出（50%）。 受講生各自の準備するプリント。 発表者は、プレゼンテーションの準備。発表者以外の受講生は、三日前に提出されるレジュメの吟味と検討。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
中国語学中国文学研究演習Ⅰ Chinese Language and Literature (Advanced Seminar) Ⅰ	2	准教授 馬 暁 地	1学期	木	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSLIT615J 中国当代文学研究 中国当代の有名な女性作家の代表作品を選んで精読し、面白い内容と新鮮な言語表現を味わう。今年叶広岑氏の京味小説《全家福》を読む。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	中国当代の文学作品の読解力を高めること。				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	1. 中国当代女性作家と代表作品について 2. 同上 3. 叶広岑と彼女の《全家福》 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 《全家福》第十章の精読—その内容と言語表現 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. まとめと復習				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	レポート（50%）、出席（50%） プリント配布 予習と復習を重視すること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国語学 中国文学 研究演習Ⅱ Chinese Language and Literature (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授 馬 暁 地	2 学期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT616J																				
◆ 授業題目	中国当代文学研究																				
◆ 目的・概要	中国当代の有名な女性作家の代表作品を選んで精読し、面白い内容と新鮮な言語表現を味わう。今年叶広苓氏の京味小説《全家福》を読む。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。																				
◆ 到達目標	中国当代の文学作品の読解力を高めること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 中国当代女性作家と代表作品について</td> <td>9. 同上</td> </tr> <tr> <td>2. 同上</td> <td>10. 同上</td> </tr> <tr> <td>3. 叶広苓と彼女の《全家福》</td> <td>11. 同上</td> </tr> <tr> <td>4. 同上</td> <td>12. 同上</td> </tr> <tr> <td>5. 同上</td> <td>13. 同上</td> </tr> <tr> <td>6. 同上</td> <td>14. 同上</td> </tr> <tr> <td>7. 同上</td> <td>15. まとめと復習</td> </tr> <tr> <td>8. 《全家福》第十章の精読—その内容と言語表現</td> <td></td> </tr> </table>					1. 中国当代女性作家と代表作品について	9. 同上	2. 同上	10. 同上	3. 叶広苓と彼女の《全家福》	11. 同上	4. 同上	12. 同上	5. 同上	13. 同上	6. 同上	14. 同上	7. 同上	15. まとめと復習	8. 《全家福》第十章の精読—その内容と言語表現	
1. 中国当代女性作家と代表作品について	9. 同上																				
2. 同上	10. 同上																				
3. 叶広苓と彼女の《全家福》	11. 同上																				
4. 同上	12. 同上																				
5. 同上	13. 同上																				
6. 同上	14. 同上																				
7. 同上	15. まとめと復習																				
8. 《全家福》第十章の精読—その内容と言語表現																					
◇ 成績評価の方法	レポート (50%)、出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布																				
◇ 授業時間外学習	予習と復習を重視すること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国語学 中国文学 研究演習Ⅰ Chinese Language and Literature (Advanced Seminar) Ⅰ	2	准教授 土 屋 育 子	1 学期	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT615J																				
◆ 授業題目	中国戯曲研究																				
◆ 目的・概要	<p>目的：中国の戯曲作品の読解を通して、中国の白話文学作品の読解力および作品の成立・性格・背景等を考察する力を養成する。</p> <p>概要：出席者全員による、担当者作成のレジュメに対する検討と議論を中心に進める。出席者は事前に次回読解箇所について予習し、授業で議論に参加する。担当者は事前にレジュメ（本文・校勘・注・訳）を作成し、授業で発表、質疑応答を行う。担当者は担当箇所終了後、授業で指摘された箇所等についてレジュメの補足・訂正を行い、修正したレジュメを学期末までに担当教員に提出する。</p>																				
◆ 到達目標	<p>(1)中国語で書かれたさまざまな文体の読解力をつける。</p> <p>(2)辞書やデータベース等の活用、原典の調査によって、語彙や事項の意味を明らかにする力をつける。</p> <p>(3)テキストクリティークの方法を理解し、テキストの性格を考察する力を養成する。</p>																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス 中国演劇史の概要、雑劇の説明</td> <td>9. 発表と質疑応答(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 発表と質疑応答(1)</td> <td>10. 発表と質疑応答(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と質疑応答(2)</td> <td>11. 発表と質疑応答(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と質疑応答(3)</td> <td>12. 発表と質疑応答(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と質疑応答(4)</td> <td>13. 発表と質疑応答(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と質疑応答(5)</td> <td>14. 発表と質疑応答(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と質疑応答(6)</td> <td>15. 発表と質疑応答(14)およびまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表と質疑応答(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス 中国演劇史の概要、雑劇の説明	9. 発表と質疑応答(8)	2. 発表と質疑応答(1)	10. 発表と質疑応答(9)	3. 発表と質疑応答(2)	11. 発表と質疑応答(10)	4. 発表と質疑応答(3)	12. 発表と質疑応答(11)	5. 発表と質疑応答(4)	13. 発表と質疑応答(12)	6. 発表と質疑応答(5)	14. 発表と質疑応答(13)	7. 発表と質疑応答(6)	15. 発表と質疑応答(14)およびまとめ	8. 発表と質疑応答(7)	
1. ガイダンス 中国演劇史の概要、雑劇の説明	9. 発表と質疑応答(8)																				
2. 発表と質疑応答(1)	10. 発表と質疑応答(9)																				
3. 発表と質疑応答(2)	11. 発表と質疑応答(10)																				
4. 発表と質疑応答(3)	12. 発表と質疑応答(11)																				
5. 発表と質疑応答(4)	13. 発表と質疑応答(12)																				
6. 発表と質疑応答(5)	14. 発表と質疑応答(13)																				
7. 発表と質疑応答(6)	15. 発表と質疑応答(14)およびまとめ																				
8. 発表と質疑応答(7)																					
◇ 成績評価の方法	出席：30% 授業への取り組み（発表・質疑等）：70%																				
◇ 教科書・参考書	テキストはプリント配布。工具書は以下のとおり。『漢語大詞典』、『中国語大辞典』、『近代漢語大詞典』、『詩詞曲語辭滙釋』、『元曲釈詞』。その他、授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	出席者は、毎回各自で上記工具書を使い、原典にあたる予習が必要である。特に、語句の意味、出典などについては、授業中担当者以外にも質問することがある。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国語学中国文学研究演習Ⅱ Chinese Language and Literature (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授 土屋育子	2学期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT616J																				
◆ 授業題目	中国戯曲研究																				
◆ 目的・概要	目的：中国の戯曲作品の読解を通して、中国の白話文学作品の読解力および作品の成立・性格・背景等を考察する力を養成する。 概要：出席者全員による、担当者作成のレジュメに対する検討と議論を中心に進める。出席者は事前に次回読解箇所について予習し、授業で議論に参加する。担当者は事前にレジュメ（本文・校勘・注・訳）を作成し、授業で発表、質疑応答を行う。担当者は担当箇所終了後、授業で指摘された箇所等についてレジュメの補足・訂正を行い、修正したレジュメを学期末までに担当教員に提出する。後期は前期の続きから始める。																				
◆ 到達目標	(1)中国語で書かれたさまざまな文体の読解力をつける。 (2)辞書やデータベース等の活用、原典の調査によって、語彙や事項の意味を明らかにする力をつける。 (3)テキストクリティークの方法を理解し、テキストの性格を考察する力を養成する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 発表と質疑応答(1)</td> <td>9. 発表と質疑応答(9)</td> </tr> <tr> <td>2. 発表と質疑応答(2)</td> <td>10. 発表と質疑応答(10)</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と質疑応答(3)</td> <td>11. 発表と質疑応答(11)</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と質疑応答(4)</td> <td>12. 発表と質疑応答(12)</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と質疑応答(5)</td> <td>13. 発表と質疑応答(13)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と質疑応答(6)</td> <td>14. 発表と質疑応答(14)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と質疑応答(7)</td> <td>15. 発表と質疑応答(15)およびまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表と質疑応答(8)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 発表と質疑応答(1)	9. 発表と質疑応答(9)	2. 発表と質疑応答(2)	10. 発表と質疑応答(10)	3. 発表と質疑応答(3)	11. 発表と質疑応答(11)	4. 発表と質疑応答(4)	12. 発表と質疑応答(12)	5. 発表と質疑応答(5)	13. 発表と質疑応答(13)	6. 発表と質疑応答(6)	14. 発表と質疑応答(14)	7. 発表と質疑応答(7)	15. 発表と質疑応答(15)およびまとめ	8. 発表と質疑応答(8)	
1. 発表と質疑応答(1)	9. 発表と質疑応答(9)																				
2. 発表と質疑応答(2)	10. 発表と質疑応答(10)																				
3. 発表と質疑応答(3)	11. 発表と質疑応答(11)																				
4. 発表と質疑応答(4)	12. 発表と質疑応答(12)																				
5. 発表と質疑応答(5)	13. 発表と質疑応答(13)																				
6. 発表と質疑応答(6)	14. 発表と質疑応答(14)																				
7. 発表と質疑応答(7)	15. 発表と質疑応答(15)およびまとめ																				
8. 発表と質疑応答(8)																					
◇ 成績評価の方法	出席：30% 授業への取り組み（発表・質疑等）：70%																				
◇ 教科書・参考書	テキストはプリント配布。工具書は以下のとおり。『漢語大辞典』、『中国語大辞典』、『近代漢語大辞典』、『詩詞曲語辞源』、『元曲釈詞』。その他、授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	出席者は、毎回各自で上記工具書を使い、原典にあたる予習が必要である。特に、語句の意味、出典などについては、授業中担当者以外にも質問することがある。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国語学中国文学研究演習Ⅰ Chinese Language and Literature (Advanced Seminar) Ⅰ	2	教授 佐竹保子	1学期	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT615J																				
◆ 授業題目	漢魏六朝詩、及びその背後にある文献研究																				
◆ 目的・概要	【目的】(1)中国古典詩の基礎的伝統的読解方法を、体得する。(2)テキストの校勘方法を、学ぶ。(3)テキストの注に引用された多種多様な文献を認知して、目録学上に位置づける。(4)上記の文献に関わる東北大学図書館内の書籍を探索し、図書館の活用方法を知る。(5)上記の文献を、読みこなす。(6)テキストの注釈者と対話しつつ、古典詩を読解し、鑑賞する。 【概要】李善注『文選』巻二十二（六臣注本、六家注本も同じ。五臣注本では巻十一）の曹植「七哀詩一首」以後を、解説します。担当者は、レジュメを作り発表します。担当者以外の受講者は、テキストとレジュメを熟読して質疑応答します。																				
◆ 到達目標	上記の【目的】の(1)～(6)。および、(7)担当者は、受講生に分かりやすいレジュメと説明を準備する。(8)受講生は、担当者の説明を理解したうえで、自らの疑問点を洗い出し、それを的確に言語化する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。</td> <td>8. 『文選』巻二十二読解(7)</td> </tr> <tr> <td>2. 『文選』巻二十二読解(1)</td> <td>9. 『文選』巻二十二読解(8)</td> </tr> <tr> <td>3. 『文選』巻二十二読解(2)</td> <td>10. 『文選』巻二十二読解(9)</td> </tr> <tr> <td>4. 『文選』巻二十二読解(3)</td> <td>11. 『文選』巻二十二読解(10)</td> </tr> <tr> <td>5. 『文選』巻二十二読解(4)</td> <td>12. 『文選』巻二十二読解(11)</td> </tr> <tr> <td>6. 『文選』巻二十二読解(5)</td> <td>13. 『文選』巻二十二読解(12)</td> </tr> <tr> <td>7. 『文選』巻二十二読解(6)</td> <td>14. 『文選』巻二十二読解(13)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 授業のまとめ。</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。	8. 『文選』巻二十二読解(7)	2. 『文選』巻二十二読解(1)	9. 『文選』巻二十二読解(8)	3. 『文選』巻二十二読解(2)	10. 『文選』巻二十二読解(9)	4. 『文選』巻二十二読解(3)	11. 『文選』巻二十二読解(10)	5. 『文選』巻二十二読解(4)	12. 『文選』巻二十二読解(11)	6. 『文選』巻二十二読解(5)	13. 『文選』巻二十二読解(12)	7. 『文選』巻二十二読解(6)	14. 『文選』巻二十二読解(13)		15. 授業のまとめ。
1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。	8. 『文選』巻二十二読解(7)																				
2. 『文選』巻二十二読解(1)	9. 『文選』巻二十二読解(8)																				
3. 『文選』巻二十二読解(2)	10. 『文選』巻二十二読解(9)																				
4. 『文選』巻二十二読解(3)	11. 『文選』巻二十二読解(10)																				
5. 『文選』巻二十二読解(4)	12. 『文選』巻二十二読解(11)																				
6. 『文選』巻二十二読解(5)	13. 『文選』巻二十二読解(12)																				
7. 『文選』巻二十二読解(6)	14. 『文選』巻二十二読解(13)																				
	15. 授業のまとめ。																				
◇ 成績評価の方法	授業中のプレゼンテーションに至るまでの調査とレジュメの作成の仕方（33%）。授業中のプレゼンテーション（34%）。それに対する質疑応答（33%）。																				
◇ 教科書・参考書	教科書はプリントを配布。参考書は多数あるので、オリエンテーション及びそれ以後の授業で説明します。																				
◇ 授業時間外学習	担当者は、授業中のプレゼンテーションに至るまでの調査と、プレゼンテーションの予行演習。担当者以外の受講生は、テキストの予習と、提出されたレジュメの熟読。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
中国語学中国文学研究演習Ⅱ Chinese Language and Literature (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教授 佐竹保子	2学期	火	5
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT616J				
◆ 授業題目	漢魏六朝詩、及びその背後にある文献研究				
◆ 目的・概要	<p>【目的】(1)中国古典詩の基礎的伝統的読解方法を、体得する。(2)テキストの校勘方法を、学ぶ。(3)テキストの注に引用された多種多様な文献を認知して、目録学上に位置づける。(4)上記の文献に関わる東北大学図書館内の書籍を探索し、図書館の活用方法を知る。(5)上記の文献を、読みこなす。(6)テキストの注釈者と対話しつつ、古典詩を読解し、鑑賞する。</p> <p>【概要】李善注『文選』卷二十二(六臣注本、六家注本も同じ。五臣注本では卷十一)の曹植「七哀詩一首」以後を、解説します。担当者は、レジユメを作り発表します。担当者以外の受講者は、テキストとレジユメを熟読して質疑応答します。</p>				
◆ 到達目標	上記の【目的】の(1)~(6)。および、(7)担当者は、受講生に分かりやすいレジユメと説明を準備する。(8)受講生は、担当者の説明を理解したうえで、自らの疑問点を洗い出し、それを的確に言語化する。				
◆ 授業内容・方法	<p>1. オリエンテーション。テキストの注に引用される文献について理解を深めると同時に、目録学の基本を知る。</p> <p>2. 『文選』卷二十二読解(1)</p> <p>3. 『文選』卷二十二読解(2)</p> <p>4. 『文選』卷二十二読解(3)</p> <p>5. 『文選』卷二十二読解(4)</p> <p>6. 『文選』卷二十二読解(5)</p> <p>7. 『文選』卷二十二読解(6)</p> <p>8. 『文選』卷二十二読解(7)</p> <p>9. 『文選』卷二十二読解(8)</p> <p>10. 『文選』卷二十二読解(9)</p> <p>11. 『文選』卷二十二読解(10)</p> <p>12. 『文選』卷二十二読解(11)</p> <p>13. 『文選』卷二十二読解(12)</p> <p>14. 『文選』卷二十二読解(13)</p> <p>15. 授業のまとめ。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業中のプレゼンテーションに至るまでの調査とレジユメの作成の仕方(33%)。授業中のプレゼンテーション(34%)。それに対する質疑応答(33%)。				
◇ 教科書・参考書	教科書はプリントを配布。参考書は多数あるので、オリエンテーション及びそれ以後の授業で説明します。				
◇ 授業時間外学習	担当者は、授業中のプレゼンテーションに至るまでの調査と、プレゼンテーションの予行演習。担当者以外の受講生は、テキストの予習と、提出されたレジユメの熟読。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国思想中国哲学特論Ⅰ Chinese Thought (Advanced Lecture) Ⅰ	2	教授 三浦秀一	1学期	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI613J																				
◆ 授業題目	明末清初思想史研究																				
◆ 目的・概要	十七世紀中国、すなわち明朝の万暦・天啓・崇禎から清朝の順治・康熙にいたる約100年間の思想情況について、近年における研究の焦点に着目しながら、新たに考察を加える。具体的には、明朝啓禎期に文壇で活躍した江西の人士である艾南英の言動に光を当て、その同調者や批判者の見解をも含めて、この時代の思潮の一端を解明したい。																				
◆ 到達目標	明末清初期の諸思想に関する研究史の概容、および関連文献の内容が、ひととおり理解できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 研究史の整理・分析 5</td> </tr> <tr> <td>2. 研究史の整理・分析 1</td> <td>10. 研究史の整理・分析 6</td> </tr> <tr> <td>3. 研究史の整理・分析 2</td> <td>11. 関連文献の読解 4</td> </tr> <tr> <td>4. 研究史の整理・分析 3</td> <td>12. 関連文献の読解 5</td> </tr> <tr> <td>5. 関連文献の読解 1</td> <td>13. 関連文献の読解 6</td> </tr> <tr> <td>6. 関連文献の読解 2</td> <td>14. 総括 1</td> </tr> <tr> <td>7. 関連文献の読解 3</td> <td>15. 総括 2</td> </tr> <tr> <td>8. 研究史の整理・分析 4</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 研究史の整理・分析 5	2. 研究史の整理・分析 1	10. 研究史の整理・分析 6	3. 研究史の整理・分析 2	11. 関連文献の読解 4	4. 研究史の整理・分析 3	12. 関連文献の読解 5	5. 関連文献の読解 1	13. 関連文献の読解 6	6. 関連文献の読解 2	14. 総括 1	7. 関連文献の読解 3	15. 総括 2	8. 研究史の整理・分析 4	
1. ガイダンス	9. 研究史の整理・分析 5																				
2. 研究史の整理・分析 1	10. 研究史の整理・分析 6																				
3. 研究史の整理・分析 2	11. 関連文献の読解 4																				
4. 研究史の整理・分析 3	12. 関連文献の読解 5																				
5. 関連文献の読解 1	13. 関連文献の読解 6																				
6. 関連文献の読解 2	14. 総括 1																				
7. 関連文献の読解 3	15. 総括 2																				
8. 研究史の整理・分析 4																					
◇ 成績評価の方法	レポート (75%)、受講態度 (25%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、プリントを配布する。参考書は講義のなかで紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	プリントとして配布された研究論文や原典などに対する予習と復習。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国思想中国哲学特論Ⅱ Chinese Thought (Advanced Lecture) Ⅱ	2	准教授 齋藤智寛	2学期	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI614J																				
◆ 授業題目	中国中世「在家」仏教研究																				
◆ 目的・概要	ここで言う「在家」仏教とは、具足戒を受けた比丘・比丘尼以外の人々によって担われた仏教を指し、そこには士大夫のみならず、世俗生活を捨てたものの受戒しないままであるいは寺院に寄宿し、あるいは遊行するなどしていた修道者も含まれる。本講義では特に「居士」「白衣」などと呼ばれた後者の人々に注目し、彼らの菩薩戒運動や頓悟思想について考察したい。一学期の講義を通して、これら「在家」修道者が中国中世仏教、なかんづく禅思想の形成に果たした役割を明らかにしたい。																				
◆ 到達目標	実践主体の社会的ありようと、その思想との関連について了解を得る。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 序論：『維摩経』と『梵網経』</td> <td>9. 盛唐の在家仏教(4)：『頓悟真宗金剛般若修行達彼岸法門要決』の思想</td> </tr> <tr> <td>2. 南北朝時代の在家仏教(1)：陶弘景と仏教</td> <td>10. 盛唐の在家仏教(5)：『大乘開心顯性頓悟真宗論』と居士・李惠光</td> </tr> <tr> <td>3. 南北朝時代の在家仏教(2)：向居士と慧可一門</td> <td>11. 盛唐の在家仏教(6)：『大乘開心顯性頓悟真宗論』の思想</td> </tr> <tr> <td>4. 南北朝時代の在家仏教(3)：石刻資料に現れた在家仏教</td> <td>12. 盛唐の在家仏教(7)：慧能と『六祖壇経』</td> </tr> <tr> <td>5. 初唐の在家仏教：孫思邈と仏教</td> <td>13. 盛唐の在家仏教(8)：『六祖壇経』の思想</td> </tr> <tr> <td>6. 盛唐の在家仏教(1)：李通玄の伝記</td> <td>14. 中唐の在家仏教：保唐寺無住と白衣居士・陳楚璋</td> </tr> <tr> <td>7. 盛唐の在家仏教(2)：李通玄の思想</td> <td>15. 結論：在家仏教と禅思想</td> </tr> <tr> <td>8. 盛唐の在家仏教(3)：『頓悟真宗金剛般若修行達彼岸法門要決』と侯莫陳瑒居士</td> <td></td> </tr> </table>					1. 序論：『維摩経』と『梵網経』	9. 盛唐の在家仏教(4)：『頓悟真宗金剛般若修行達彼岸法門要決』の思想	2. 南北朝時代の在家仏教(1)：陶弘景と仏教	10. 盛唐の在家仏教(5)：『大乘開心顯性頓悟真宗論』と居士・李惠光	3. 南北朝時代の在家仏教(2)：向居士と慧可一門	11. 盛唐の在家仏教(6)：『大乘開心顯性頓悟真宗論』の思想	4. 南北朝時代の在家仏教(3)：石刻資料に現れた在家仏教	12. 盛唐の在家仏教(7)：慧能と『六祖壇経』	5. 初唐の在家仏教：孫思邈と仏教	13. 盛唐の在家仏教(8)：『六祖壇経』の思想	6. 盛唐の在家仏教(1)：李通玄の伝記	14. 中唐の在家仏教：保唐寺無住と白衣居士・陳楚璋	7. 盛唐の在家仏教(2)：李通玄の思想	15. 結論：在家仏教と禅思想	8. 盛唐の在家仏教(3)：『頓悟真宗金剛般若修行達彼岸法門要決』と侯莫陳瑒居士	
1. 序論：『維摩経』と『梵網経』	9. 盛唐の在家仏教(4)：『頓悟真宗金剛般若修行達彼岸法門要決』の思想																				
2. 南北朝時代の在家仏教(1)：陶弘景と仏教	10. 盛唐の在家仏教(5)：『大乘開心顯性頓悟真宗論』と居士・李惠光																				
3. 南北朝時代の在家仏教(2)：向居士と慧可一門	11. 盛唐の在家仏教(6)：『大乘開心顯性頓悟真宗論』の思想																				
4. 南北朝時代の在家仏教(3)：石刻資料に現れた在家仏教	12. 盛唐の在家仏教(7)：慧能と『六祖壇経』																				
5. 初唐の在家仏教：孫思邈と仏教	13. 盛唐の在家仏教(8)：『六祖壇経』の思想																				
6. 盛唐の在家仏教(1)：李通玄の伝記	14. 中唐の在家仏教：保唐寺無住と白衣居士・陳楚璋																				
7. 盛唐の在家仏教(2)：李通玄の思想	15. 結論：在家仏教と禅思想																				
8. 盛唐の在家仏教(3)：『頓悟真宗金剛般若修行達彼岸法門要決』と侯莫陳瑒居士																					
◇ 成績評価の方法	レポート (100%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は授業の中で紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	講義期間中に最低一冊は関連する書籍を読むこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
中国思想中国哲学特論Ⅲ Chinese Thought (Advanced Lecture) Ⅲ	2	非常勤講師 伊 吹 敦	集 中 (1)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSPHI615J 禅思想の成立とその反響 仏教は中国思想史における重要な構成要素の一つであるが、中でも禅宗は、最も中国化の進んだ仏教であり、広く社会に浸透するとともに、新儒教や新道教の成立にも大きな影響を与えた。禅宗は、仏教と異なり、いろいろな面で極めて特異であり、このような仏教が生まれた理由の解明は、中国思想史における仏教の意義や位置づけを明確化するうえで極めて重要な課題と言える。本授業では、禅宗成立の過程を解説するとともに、成立当初の思想を示す文献として神秀に帰されている『観心論』を取り上げて、その独自の思想を探るとともに、それへの反論として書かれた慈愍三蔵慧日の『浄土慈悲集』を取り上げて、禅宗の思想がいかに新しく、当時の人々に衝撃的であったかを明らかにし、禅思想の由来について考えてみたい。				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期の禅宗の基本思想について説明できる。 ・ 禅思想に初めて接した人々が受けた強い印象について説明できる。 ・ 中国仏教史における禅宗の位置、ならびに仏教界で禅宗が主流となった理由を説明できる。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国仏教史の概要と禅宗の占める位置、禅宗史における初期禅宗の占める位置 2. 菩提達磨と慧可に関する虚実 3. 東山法門の成立と拡大 4. 北宗と南宗、初期禅宗文献の諸相 5. 『観心論』の概要、北宗文献における『観心論』の位置 6. 『観心論』の重要部分の講読1 なぜ観心で解脱できるのか 7. 『観心論』の重要部分の講読2 真の三聚浄戒・六波羅蜜とは何か 8. 『観心論』の重要部分の講読3 真の功德とは何か 9. 『観心論』の重要部分の講読4 真の念仏とは何か 10. 慈愍三蔵と『浄土慈悲集』の概要 11. 『浄土慈悲集』の重要部分の講読1 述作の意図(大正蔵85、1236上-中) 12. 『浄土慈悲集』の重要部分の講読2 禅僧の主張の総括とそれへの批判(1236中-1237上) 13. 『浄土慈悲集』の重要部分の講読3 禅を無為と主張する禅僧の矛盾(1237上-中) 14. 『浄土慈悲集』の重要部分の講読4 禅僧の言動への批判(1237中-下) 15. 授業のまとめ 				
◇ 成績評価の方法	授業終了後にメールにてレポートを提出してもらい、それによって評価する。				
◇ 教科書・参考書	参考書：伊吹敦『禅の歴史』(法蔵館、2001年) 『観心論』『浄土慈悲集』についてはテキストを配布する。				
◇ 授業時間外学習	事前に配布するテキストに目を通して置く。授業内容を復習しておく。				
その他：予備知識がないことを前提に授業を行う。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
中国思想中国哲学研究演習Ⅰ Chinese Thought (Advanced Seminar) Ⅰ	2	准教授 齋 藤 智 寛	1 学期	水	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSPHI617J 『劉子』研究 梁の劉勰または北齊の劉昼の撰とされる『劉子』から、何篇かを選んで輪読する。比較的簡潔な文の含意を的確にとらえた日本語訳を作成すると共に、それ以前に著された諸子の書物を繙いて注釈を作り、思想的伝統をふまえた読解を目指す。				
◆ 到達目標	精密な読解により各篇の内容を把握するとともに、『劉子』という書物の思想史的位置づけも理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『劉子』概説 2. 『劉子』輪読と討論1 3. 『劉子』輪読と討論2 4. 『劉子』輪読と討論3 5. 『劉子』輪読と討論4 6. 『劉子』輪読と討論5 7. 『劉子』輪読と討論6 8. 『劉子』輪読と討論7 9. 『劉子』輪読と討論8 10. 『劉子』輪読と討論9 11. 『劉子』輪読と討論10 12. 『劉子』輪読と討論11 13. 『劉子』輪読と討論12 14. 『劉子』輪読と討論13 15. 『劉子』輪読と総括 				
◇ 成績評価の方法	発表(70%) 予習と討論への参加状況(30%)				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、プリントを配布する。				
◇ 授業時間外学習	発表担当者は担当箇所の訳注を準備、当日の配布に備える。その他の受講者も担当者同様に下読みをし、関連資料を調べておくこと。授業時間中に問題になった箇所は、終了後すぐに調べ、解決しておく。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国思想中国哲学研究演習Ⅱ Chinese Thought (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教授 三浦秀一	2学期	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI618J																				
◆ 授業題目	王夫之易学思想研究																				
◆ 目的・概要	王夫之がその晩年（六十七歳時）にまとめた『周易』の注釈書である『周易内伝』の「発例」を輪読形式で読む。社会変動の激しい明末清初期を生きた思想家である王夫之は、清朝が中国全土を支配し始めた時期以降、『周易』の研鑽を開始し、その成果を『周易外伝』や『周易大象解』として発表した。『周易内伝』は、そうした王夫之による『周易』研鑽の集大成とも位置づけうる書物である。一方、当時の経学に目を転じるならば、宋儒の易学、なかでも朱熹らによって尊重された「河図」「洛書」に対し、それを実証的に批判する活動が力を持ち出しており、王夫之の易学もそうした流行に沿うものであるのだが、授業では、そうしたかれの理解内容を、原典に密着しながら明らかにする。																				
◆ 到達目標	いわゆる気の思想家として知られる王夫之の易学について、「周易内伝発例」という原典に即しつつ批判的に理解するとともに、その時代性についても一定の認識を形成する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 第九条の読解と討議2</td> </tr> <tr> <td>2. 第六条の読解と討議1</td> <td>10. 第十条の読解と討議1</td> </tr> <tr> <td>3. 第六条の読解と討議2</td> <td>11. 第十条の読解と討議2</td> </tr> <tr> <td>4. 第七条の読解と討議1</td> <td>12. 第十一条の読解と討議1</td> </tr> <tr> <td>5. 第七条の読解と討議2</td> <td>13. 第十一条の読解と討議2</td> </tr> <tr> <td>6. 第八条の読解と討議1</td> <td>14. 第十二条の読解と討議1</td> </tr> <tr> <td>7. 第八条の読解と討議2</td> <td>15. 第十二条の読解と討議2</td> </tr> <tr> <td>8. 第九条の読解と討議1</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 第九条の読解と討議2	2. 第六条の読解と討議1	10. 第十条の読解と討議1	3. 第六条の読解と討議2	11. 第十条の読解と討議2	4. 第七条の読解と討議1	12. 第十一条の読解と討議1	5. 第七条の読解と討議2	13. 第十一条の読解と討議2	6. 第八条の読解と討議1	14. 第十二条の読解と討議1	7. 第八条の読解と討議2	15. 第十二条の読解と討議2	8. 第九条の読解と討議1	
1. ガイダンス	9. 第九条の読解と討議2																				
2. 第六条の読解と討議1	10. 第十条の読解と討議1																				
3. 第六条の読解と討議2	11. 第十条の読解と討議2																				
4. 第七条の読解と討議1	12. 第十一条の読解と討議1																				
5. 第七条の読解と討議2	13. 第十一条の読解と討議2																				
6. 第八条の読解と討議1	14. 第十二条の読解と討議1																				
7. 第八条の読解と討議2	15. 第十二条の読解と討議2																				
8. 第九条の読解と討議1																					
◇ 成績評価の方法	発表（75%）、受講態度（25%）																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せずプリントを配布する。参考書は講義のなかで紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	担当者は、発表の準備を入念におこなう。担当者以外の受講者も、担当者と同等もしくはそれ以上に、読解のための予習をおこなう。また、発表時に配布されたレジュメ等に関しては、次回以降の授業に活用するべく、丁寧に読み直す。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
中国思想中国哲学研究演習Ⅲ Chinese Thought (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教授 三浦秀一 准教授 齋藤智寛	1学期	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI619J																				
◆ 授業題目	中国思想研究上の諸問題1																				
◆ 目的・概要	受講者各自が、それぞれの研究段階に応じて、自身の研究テーマに関する研究史の整理や問題点の析出、関連文献の調査・分析・読解などをおこない、その結果を発表するとともに、受講者全員が、その発表にもとづいて自由に討論する。																				
◆ 到達目標	論文の執筆を念頭に置いたうえで、みずからの研究テーマに即した研究方法を確立する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>2. 発表と討論</td> <td>10. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と討論</td> <td>11. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と討論</td> <td>12. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と討論</td> <td>13. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と討論</td> <td>14. 発表と討論</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と討論</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. 発表と討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 発表と討論	2. 発表と討論	10. 発表と討論	3. 発表と討論	11. 発表と討論	4. 発表と討論	12. 発表と討論	5. 発表と討論	13. 発表と討論	6. 発表と討論	14. 発表と討論	7. 発表と討論	15. 総括	8. 発表と討論	
1. ガイダンス	9. 発表と討論																				
2. 発表と討論	10. 発表と討論																				
3. 発表と討論	11. 発表と討論																				
4. 発表と討論	12. 発表と討論																				
5. 発表と討論	13. 発表と討論																				
6. 発表と討論	14. 発表と討論																				
7. 発表と討論	15. 総括																				
8. 発表と討論																					
◇ 成績評価の方法	発表内容（50%）、参加態度（50%）																				
◇ 教科書・参考書	教科書はとくにない。受講者各自によって事前に配布された発表資料を使用する。																				
◇ 授業時間外学習	発表内容の構想と、配付資料の準備。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時		
中国思想中国哲学研究演習Ⅳ Chinese Thought (Advanced Seminar) Ⅳ	2	教授 三 浦 秀 一 准教授 齋 藤 智 寛	2学期	金	5		
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI620J						
◆ 授業題目	中国思想研究上の諸問題2						
◆ 目的・概要	前期での発表や討議にもとづいて、受講者各自が、それぞれの研究テーマにもとづく論文の草稿を作成して発表するとともに、受講者全員が、その発表にもとづいて自由に討論する。						
◆ 到達目標	みずからの研究テーマにもとづく論文を作成するとともに、その質的向上をめざす。						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. ガイダンス 2. 発表と討論 3. 発表と討論 4. 発表と討論 5. 発表と討論 6. 発表と討論 7. 発表と討論 8. 発表と討論 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 9. 発表と討論 10. 発表と討論 11. 発表と討論 12. 発表と討論 13. 発表と討論 14. 発表と討論 15. 総括 </td> </tr> </table>					1. ガイダンス 2. 発表と討論 3. 発表と討論 4. 発表と討論 5. 発表と討論 6. 発表と討論 7. 発表と討論 8. 発表と討論	9. 発表と討論 10. 発表と討論 11. 発表と討論 12. 発表と討論 13. 発表と討論 14. 発表と討論 15. 総括
1. ガイダンス 2. 発表と討論 3. 発表と討論 4. 発表と討論 5. 発表と討論 6. 発表と討論 7. 発表と討論 8. 発表と討論	9. 発表と討論 10. 発表と討論 11. 発表と討論 12. 発表と討論 13. 発表と討論 14. 発表と討論 15. 総括						
◇ 成績評価の方法	発表内容 (50%)、参加態度 (50%)						
◇ 教科書・参考書	教科書はとくにない。受講者各自によって事前に配布された発表資料を使用する。						
◇ 授業時間外学習	発表内容の構想と、配付資料の準備。						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
イ ン ド 学 特 論 I Indological Studies (Advanced Lecture) I	2	教授 吉 水 清 孝	1 学期	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI621J																				
◆ 授業題目	ヒンドゥー教文献講読(1)																				
◆ 目的・概要	ウパニシャッドは古代インドの哲学的教説集であり、そのなかでも『チャンドーギヤ・ウパニシャッド』は、『プリハッド・アーラニヤカ・ウパニシャッド』とともに、もっとも古く、文学的対話篇を多く含み、かつ後代のインド思想に決定的に影響したウパニシャッドである。今学期は『チャンドーギヤ・ウパニシャッド』の第3巻から講読する。																				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある教典をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション：Chāndogya Upaniṣad (ChU) の成立</td> <td>9. ChU 4.2-3 路上生活者ライクヴァの風理論</td> </tr> <tr> <td>2. ChU 3.1-5 太陽より四方に発する光（蜜）</td> <td>10. ChU 4.4 少年サティヤカーマの生い立ちと入門</td> </tr> <tr> <td>3. ChU 3.6-11 太陽の蜜と諸神格</td> <td>11. ChU 4.5-6 牛と火からの教示</td> </tr> <tr> <td>4. ChU 3.12-13 人体と五氣息</td> <td>12. ChU 4.7-9 鳥からの教示</td> </tr> <tr> <td>5. ChU 3.14 シヤンディルヤの「梵我一如」</td> <td>13. ChU 4.10-13 少年ウパコーサラへの祭火からの教示</td> </tr> <tr> <td>6. ChU 3.15-17 人生と祭式の対応</td> <td>14. ChU 4.14-15 師サティヤカーマからの教説（眼の中のプルシャ）</td> </tr> <tr> <td>7. ChU 3.18-19 人体諸機能および太陽のブラフマンとしての崇拝</td> <td>15. ChU 4.16-17 師サティヤカーマからの教説（ブラフマン祭官のはたらき）</td> </tr> <tr> <td>8. ChU 4.1 賭博好きの王ジャーナシュルティ</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション：Chāndogya Upaniṣad (ChU) の成立	9. ChU 4.2-3 路上生活者ライクヴァの風理論	2. ChU 3.1-5 太陽より四方に発する光（蜜）	10. ChU 4.4 少年サティヤカーマの生い立ちと入門	3. ChU 3.6-11 太陽の蜜と諸神格	11. ChU 4.5-6 牛と火からの教示	4. ChU 3.12-13 人体と五氣息	12. ChU 4.7-9 鳥からの教示	5. ChU 3.14 シヤンディルヤの「梵我一如」	13. ChU 4.10-13 少年ウパコーサラへの祭火からの教示	6. ChU 3.15-17 人生と祭式の対応	14. ChU 4.14-15 師サティヤカーマからの教説（眼の中のプルシャ）	7. ChU 3.18-19 人体諸機能および太陽のブラフマンとしての崇拝	15. ChU 4.16-17 師サティヤカーマからの教説（ブラフマン祭官のはたらき）	8. ChU 4.1 賭博好きの王ジャーナシュルティ	
1. イントロダクション：Chāndogya Upaniṣad (ChU) の成立	9. ChU 4.2-3 路上生活者ライクヴァの風理論																				
2. ChU 3.1-5 太陽より四方に発する光（蜜）	10. ChU 4.4 少年サティヤカーマの生い立ちと入門																				
3. ChU 3.6-11 太陽の蜜と諸神格	11. ChU 4.5-6 牛と火からの教示																				
4. ChU 3.12-13 人体と五氣息	12. ChU 4.7-9 鳥からの教示																				
5. ChU 3.14 シヤンディルヤの「梵我一如」	13. ChU 4.10-13 少年ウパコーサラへの祭火からの教示																				
6. ChU 3.15-17 人生と祭式の対応	14. ChU 4.14-15 師サティヤカーマからの教説（眼の中のプルシャ）																				
7. ChU 3.18-19 人体諸機能および太陽のブラフマンとしての崇拝	15. ChU 4.16-17 師サティヤカーマからの教説（ブラフマン祭官のはたらき）																				
8. ChU 4.1 賭博好きの王ジャーナシュルティ																					
◇ 成績評価の方法	出席（30%）および授業で示される理解度（70%）																				
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まずM. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。（Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch ; Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen 等）																				
◇ 授業時間外学習	辞書と文法書を頼りに、一つ一つの単語の語形を確かめたうえで適切な意味を考え、文章の翻訳を行ったうえで授業に臨むこと。ただし準備が不完全で調べがつかない個所があっても、授業に出席して疑問点を討議し、授業の後には復習して理解することが大事である。疑問点を討議し、授業の後には復習して理解することが大事である。																				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
イ ン ド 学 特 論 II Indological Studies (Advanced Lecture) II	2	教授 吉 水 清 孝	2 学期	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI622J																				
◆ 授業題目	ヒンドゥー教文献講読(2)																				
◆ 目的・概要	前学期に引き続き、『チャンドーギヤ・ウパニシャッド』第5巻および第6巻を講読する。																				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある教典を、授業中の輪読により原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Chāndogya Upaniṣad (ChU) 先学期講読範囲のまとめ</td> <td>9. ChU 5.19-24 献供による五種氣息の供養</td> </tr> <tr> <td>2. ChU 5.1 人体諸機能の優位争い</td> <td>10. ChU 6.1-2 ウッダーラカ・アールニによる「有」(sat) の哲学</td> </tr> <tr> <td>3. ChU 5.2 氣息への供養</td> <td>11. ChU 6.3-4 三原理による万物の構成</td> </tr> <tr> <td>4. ChU 5.3 プラヴァーハナ王とウッダーラカ・アールニ</td> <td>12. ChU 6.5-8 人体と三原理</td> </tr> <tr> <td>5. ChU 5.4-9 五火説</td> <td>13. ChU 6.9-11 有からの派生と有への還元</td> </tr> <tr> <td>6. ChU 5.5-10 二道説</td> <td>14. ChU 6.12-13 有に気づく実験</td> </tr> <tr> <td>7. ChU 5.11-13 アシュヴァパティ王とバラモンたち</td> <td>15. ChU 6.14-15 有との合一こそ真実</td> </tr> <tr> <td>8. ChU 5.14-18 アシュヴァパティ王の「遍満するアートルマン」説</td> <td></td> </tr> </table>					1. Chāndogya Upaniṣad (ChU) 先学期講読範囲のまとめ	9. ChU 5.19-24 献供による五種氣息の供養	2. ChU 5.1 人体諸機能の優位争い	10. ChU 6.1-2 ウッダーラカ・アールニによる「有」(sat) の哲学	3. ChU 5.2 氣息への供養	11. ChU 6.3-4 三原理による万物の構成	4. ChU 5.3 プラヴァーハナ王とウッダーラカ・アールニ	12. ChU 6.5-8 人体と三原理	5. ChU 5.4-9 五火説	13. ChU 6.9-11 有からの派生と有への還元	6. ChU 5.5-10 二道説	14. ChU 6.12-13 有に気づく実験	7. ChU 5.11-13 アシュヴァパティ王とバラモンたち	15. ChU 6.14-15 有との合一こそ真実	8. ChU 5.14-18 アシュヴァパティ王の「遍満するアートルマン」説	
1. Chāndogya Upaniṣad (ChU) 先学期講読範囲のまとめ	9. ChU 5.19-24 献供による五種氣息の供養																				
2. ChU 5.1 人体諸機能の優位争い	10. ChU 6.1-2 ウッダーラカ・アールニによる「有」(sat) の哲学																				
3. ChU 5.2 氣息への供養	11. ChU 6.3-4 三原理による万物の構成																				
4. ChU 5.3 プラヴァーハナ王とウッダーラカ・アールニ	12. ChU 6.5-8 人体と三原理																				
5. ChU 5.4-9 五火説	13. ChU 6.9-11 有からの派生と有への還元																				
6. ChU 5.5-10 二道説	14. ChU 6.12-13 有に気づく実験																				
7. ChU 5.11-13 アシュヴァパティ王とバラモンたち	15. ChU 6.14-15 有との合一こそ真実																				
8. ChU 5.14-18 アシュヴァパティ王の「遍満するアートルマン」説																					
◇ 成績評価の方法	出席（30%）および授業で示される理解度（70%）																				
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まずM. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。（Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch ; Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen 等）																				
◇ 授業時間外学習	辞書と文法書を頼りに、一つ一つの単語の語形を確かめたうえで適切な意味を考え、文章の翻訳を行ったうえで授業に臨むこと。ただし準備が不完全で調べがつかない個所があっても、授業に出席して疑問点を討議し、授業の後には復習して理解することが大事である。疑問点を討議し、授業の後には復習して理解することが大事である。																				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
インド仏教史特論 I History of Indian Buddhism (Advanced Lecture) I	2	教授 桜井宗信	1学期	火	3																
<p>◆ 科目ナンバリング LHSPHI626J</p> <p>◆ 授業題目 bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読</p> <p>◆ 目的・概要 チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya派の第3代管長を務めたbSod nams rtse moの代表作『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。</p> <p>◆ 到達目標 インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 『タントラ概論』講読 -1-</td> <td>9. 『タントラ概論』講読 -9-</td> </tr> <tr> <td>2. 『タントラ概論』講読 -2-</td> <td>10. 『タントラ概論』講読 -10-</td> </tr> <tr> <td>3. 『タントラ概論』講読 -3-</td> <td>11. 『タントラ概論』講読 -11-</td> </tr> <tr> <td>4. 『タントラ概論』講読 -4-</td> <td>12. 『タントラ概論』講読 -12-</td> </tr> <tr> <td>5. 『タントラ概論』講読 -5-</td> <td>13. 『タントラ概論』講読 -13-</td> </tr> <tr> <td>6. 『タントラ概論』講読 -6-</td> <td>14. 『タントラ概論』講読 -14-</td> </tr> <tr> <td>7. 『タントラ概論』講読 -7-</td> <td>15. 『タントラ概論』講読 -15-</td> </tr> <tr> <td>8. 『タントラ概論』講読 -8-</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 ○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol.2 (東洋文庫刊), pp.1-37.</p> <p>◇ 授業時間外学習 予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。</p> <p>その他：「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。</p>						1. 『タントラ概論』講読 -1-	9. 『タントラ概論』講読 -9-	2. 『タントラ概論』講読 -2-	10. 『タントラ概論』講読 -10-	3. 『タントラ概論』講読 -3-	11. 『タントラ概論』講読 -11-	4. 『タントラ概論』講読 -4-	12. 『タントラ概論』講読 -12-	5. 『タントラ概論』講読 -5-	13. 『タントラ概論』講読 -13-	6. 『タントラ概論』講読 -6-	14. 『タントラ概論』講読 -14-	7. 『タントラ概論』講読 -7-	15. 『タントラ概論』講読 -15-	8. 『タントラ概論』講読 -8-	
1. 『タントラ概論』講読 -1-	9. 『タントラ概論』講読 -9-																				
2. 『タントラ概論』講読 -2-	10. 『タントラ概論』講読 -10-																				
3. 『タントラ概論』講読 -3-	11. 『タントラ概論』講読 -11-																				
4. 『タントラ概論』講読 -4-	12. 『タントラ概論』講読 -12-																				
5. 『タントラ概論』講読 -5-	13. 『タントラ概論』講読 -13-																				
6. 『タントラ概論』講読 -6-	14. 『タントラ概論』講読 -14-																				
7. 『タントラ概論』講読 -7-	15. 『タントラ概論』講読 -15-																				
8. 『タントラ概論』講読 -8-																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
インド仏教史特論 II History of Indian Buddhism (Advanced Lecture) II	2	教授 桜井宗信	2学期	火	3																
<p>◆ 科目ナンバリング LHSPHI627J</p> <p>◆ 授業題目 bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読</p> <p>◆ 目的・概要 チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya派の第3代管長を務めたbSod nams rtse moの代表作『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。</p> <p>◆ 到達目標 インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 『タントラ概論』講読 -1-</td> <td>9. 『タントラ概論』講読 -9-</td> </tr> <tr> <td>2. 『タントラ概論』講読 -2-</td> <td>10. 『タントラ概論』講読 -10-</td> </tr> <tr> <td>3. 『タントラ概論』講読 -3-</td> <td>11. 『タントラ概論』講読 -11-</td> </tr> <tr> <td>4. 『タントラ概論』講読 -4-</td> <td>12. 『タントラ概論』講読 -12-</td> </tr> <tr> <td>5. 『タントラ概論』講読 -5-</td> <td>13. 『タントラ概論』講読 -13-</td> </tr> <tr> <td>6. 『タントラ概論』講読 -6-</td> <td>14. 『タントラ概論』講読 -14-</td> </tr> <tr> <td>7. 『タントラ概論』講読 -7-</td> <td>15. 『タントラ概論』講読 -15-</td> </tr> <tr> <td>8. 『タントラ概論』講読 -8-</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 ○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol.2 (東洋文庫刊), pp.1-37.</p> <p>◇ 授業時間外学習 予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。</p> <p>その他：「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。</p>						1. 『タントラ概論』講読 -1-	9. 『タントラ概論』講読 -9-	2. 『タントラ概論』講読 -2-	10. 『タントラ概論』講読 -10-	3. 『タントラ概論』講読 -3-	11. 『タントラ概論』講読 -11-	4. 『タントラ概論』講読 -4-	12. 『タントラ概論』講読 -12-	5. 『タントラ概論』講読 -5-	13. 『タントラ概論』講読 -13-	6. 『タントラ概論』講読 -6-	14. 『タントラ概論』講読 -14-	7. 『タントラ概論』講読 -7-	15. 『タントラ概論』講読 -15-	8. 『タントラ概論』講読 -8-	
1. 『タントラ概論』講読 -1-	9. 『タントラ概論』講読 -9-																				
2. 『タントラ概論』講読 -2-	10. 『タントラ概論』講読 -10-																				
3. 『タントラ概論』講読 -3-	11. 『タントラ概論』講読 -11-																				
4. 『タントラ概論』講読 -4-	12. 『タントラ概論』講読 -12-																				
5. 『タントラ概論』講読 -5-	13. 『タントラ概論』講読 -13-																				
6. 『タントラ概論』講読 -6-	14. 『タントラ概論』講読 -14-																				
7. 『タントラ概論』講読 -7-	15. 『タントラ概論』講読 -15-																				
8. 『タントラ概論』講読 -8-																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
インド仏教史特論Ⅲ History of Indian Buddhism (Advanced Lecture) Ⅲ	2	非常勤講師 久保田 力	集 中 (2)		
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI628J				
◆ 授業題目	中期大乘仏教思想研究				
◆ 目的・概要	中期大乘仏教思想を代表する『入楞伽經』(Laṅkāvatāra-Sūtra)の解説作業を中にも、唯識思想、中観思想、そして如来蔵思想の融合を図った本経典の特徴を学習し、最も思想的に円熟した時期とも捉えることのできる中期大乘仏教思想の基本的な理解を目指す。『勝鬘經』や『宝性論』等も視野に入れる。拙論をベースにする。				
◆ 到達目標	唯識思想、中観思想、如来蔵思想に関する基礎的理解を深める。それと同時に、後期密教思想へのつながりや、逆に、ヴェーダ等の古代インド思想との関連性についての気づきを発見する。				
◆ 授業内容・方法	1. 中期大乘仏教思想とは何か 2. 『入楞伽經』について～概論～ 3. 『入楞伽經』の成立過程について 4. 『入楞伽經』の「意成身」について 5. 同；読解の試み1 6. 同；読解の試み2 7. 同；読解の試み3 8. 同；読解の試み4 9. 同；読解の試み5 10. ヴェーダ以来のマナスの特性について—古代インドの靈魂観から—1 11. 同；2 12. 「靈魂」信仰とは何か—アニミズムの基本的論理— 13. マナ識について 14. 如来蔵思想の無漏縁起説—『宝性論』を中心に—1 15. 同；2				
◇ 成績評価の方法	●出席70% ●授業中に示される理解度30%				
◇ 教科書・参考書	読解のテキストとして南条文雄校訂『梵文入楞伽經』(1956)を使用する。 適宜チベットの訳、漢訳を使用する。『新国訳大蔵經(楞伽經)』大蔵出版、2015。 論考の素材として久保田執筆の論文を使用する。「如来蔵思想の無漏縁起説(上)—『宝性論』の四障・三雑染説をめぐって—」『東北芸術工科大学紀要』第6号、pp.4～26、1999。「マナス(こころ)の原風景(下)—『リグ・ヴェーダ』・トリックスターの誕生—」『東北芸術工科大学紀要』第1号、pp.34～83、1993。「マナスのトリックスター性(Ⅱ)—意生身の系譜と『楞伽經』—」、『東北芸術工科大学紀要』第5号、pp.14～69、1998等。				
◇ 授業時間外学習	事前に、テキストの指定箇所や拙論等の資料を読んでおくこと。				
その他：「授業内容・目的・方法」で記した内容はおおよその予定であり、受講者の反応等により変更する場合がある。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
インド学 研究 演習Ⅰ Indological Studies (Advanced Seminar) Ⅰ	2	教授 吉水清孝	1学期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI624J				
◆ 授業題目	インド哲学文献研究(1)				
◆ 目的・概要	ヒンドゥー教徒の生活規範を集大成したインドの伝統的法典のうち最も有名な『マヌ法典』には、数々の註釈が著されたが、9世紀カシミール地方の人メーダーティティ(Medhātīthi)が著した『マヌ法典註』(Manubhāṣya)は、全体が現存する註釈として最も古く、分量的にも最も大部である。今学期は第4章の一部を読み、インドの伝統的家長の日常生活における行動規範を理解する。				
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、授業中の輪読により註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション：『マヌ法典』(Mn)の成立と構成 2. 「沐浴者」(模範的家長)の誓戒(Mn 4.13) 3. 自己の職務の遂行 4. 快樂耽溺の禁止 5. ヴェーダ読詠と教授の意義 6. 言葉使いと身なり 7. 日常の五大供儀 8. ヴェーダ基本祭式 9. その他のヴェーダ祭式 10. 新穀祭と家畜犠牲祭の意義 11. 賓客(atīthi)のもてなし 12. 敬うべきでない者 13. 乞食者と生類への施し 14. 謝礼の請求 15. 知識の意義				
◇ 成績評価の方法	出席(30%)および授業で示される理解度(70%)				
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まずM. Monier Williams, Sanskrit English Dictionaryをもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。(Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch; Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen等)				
◇ 授業時間外学習	辞書と文法書を頼りに、一つ一つの単語の語形を確かめたいうえで適切な意味を考え、文章の翻訳を行ったうえで授業に臨むこと。ただし準備が不完全で調べがつかない個所があっても、授業に出席して疑問点を討議し、授業の後には復習して理解することが大事である。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
インド学 研究 演習 II Indological Studies (Advanced Seminar) II	2	教授 吉水清孝	2学期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI625J				
◆ 授業題目	インド哲学文献研究(2)				
◆ 目的・概要	ヴェーダーンタ学派は宇宙の精神ブラフマンからの世界の派生を説き、ブラフマンとの合一を目指す宗教哲学の学派であるが、人生の生き方、特に世俗社会との関わり方を巡っては、初期の時代から内部で意見対立があった。今学期は、この学派の根本綱要 Brahmasūtra の第3巻第4章前半を、シャンカラの注釈とともに講読し、ヴェーダーンタ学派の人生観を考察する。				
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、授業中の輪読により註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：Brahmasūtra 概観 2. 「自己認識の意義は解脱の達成」説（バーダラーヤナ） 3. 「自己認識の意義は祭事の補助」説（ジャイミニ） 4. ジャイミニ説の擁護 5. ジャイミニ説の擁護（続） 6. その批判とバーダラーヤナ説の擁護 7. バーダラーヤナ説の擁護（続） 8. 知行併合の意味 9. 知行併合の意味（続） 10. 出家遊行の正当性 11. 出家遊行の正当性の典拠 12. 「出家遊行に典拠なし」説（ジャイミニ） 13. 「出家遊行に典拠あり」説（バーダラーヤナ） 14. 出家遊行を命ずるヴェーダ文の例 15. 出家遊行を命ずるヴェーダ文の例（続） 				
◇ 成績評価の方法	出席（30%）および授業で示される理解度（70%）				
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。（Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch；Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen 等）				
◇ 授業時間外学習	辞書と文法書を頼りに、一つ一つの単語の語形を確かめたうえで適切な意味を考え、文章の翻訳を行ったうえで授業に臨むこと。ただし準備が不完全で調べがつかない個所があっても、授業に出席して疑問点を討議し、授業の後には復習して理解することが大事である。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
インド仏教史 研究 演習 I History of Indian Buddhism (Advanced Seminar) I	2	教授 桜井宗信	1学期	月	3
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI629J				
◆ 授業題目	梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読				
◆ 目的・概要	Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要不可欠な基本典籍である。この授業では前年に引き続き、同書第2章（「根品」）の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。				
◆ 到達目標	基礎的仏典の説解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『俱舎論』講読 -1- 2. 『俱舎論』講読 -2- 3. 『俱舎論』講読 -3- 4. 『俱舎論』講読 -4- 5. 『俱舎論』講読 -5- 6. 『俱舎論』講読 -6- 7. 『俱舎論』講読 -7- 8. 『俱舎論』講読 -8- 9. 『俱舎論』講読 -9- 10. 『俱舎論』講読 -10- 11. 『俱舎論』講読 -11- 12. 『俱舎論』講読 -12- 13. 『俱舎論』講読 -13- 14. 『俱舎論』講読 -14- 15. 『俱舎論』講読 -15- 				
◇ 成績評価の方法	○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・梵文原典：Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P.Pradhan, Patna, 1967. ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真諦訳）。 ※『俱舎論』を説解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
◇ 授業時間外学習	予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
インド仏教史研究演習Ⅱ History of Indian Buddhism (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教授 桜井宗信	2学期	月	3																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSPHI630J 梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読 Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。この授業では前期に引き続き、同書第2章（「根品」）の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読しVasubandhuの考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。																				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。																				
	<table border="0"> <tr> <td>1. 『俱舎論』 講読 -1-</td> <td>9. 『俱舎論』 講読 -9-</td> </tr> <tr> <td>2. 『俱舎論』 講読 -2-</td> <td>10. 『俱舎論』 講読 -10-</td> </tr> <tr> <td>3. 『俱舎論』 講読 -3-</td> <td>11. 『俱舎論』 講読 -11-</td> </tr> <tr> <td>4. 『俱舎論』 講読 -4-</td> <td>12. 『俱舎論』 講読 -12-</td> </tr> <tr> <td>5. 『俱舎論』 講読 -5-</td> <td>13. 『俱舎論』 講読 -13-</td> </tr> <tr> <td>6. 『俱舎論』 講読 -6-</td> <td>14. 『俱舎論』 講読 -14-</td> </tr> <tr> <td>7. 『俱舎論』 講読 -7-</td> <td>15. 『俱舎論』 講読 -15-</td> </tr> <tr> <td>8. 『俱舎論』 講読 -8-</td> <td></td> </tr> </table>					1. 『俱舎論』 講読 -1-	9. 『俱舎論』 講読 -9-	2. 『俱舎論』 講読 -2-	10. 『俱舎論』 講読 -10-	3. 『俱舎論』 講読 -3-	11. 『俱舎論』 講読 -11-	4. 『俱舎論』 講読 -4-	12. 『俱舎論』 講読 -12-	5. 『俱舎論』 講読 -5-	13. 『俱舎論』 講読 -13-	6. 『俱舎論』 講読 -6-	14. 『俱舎論』 講読 -14-	7. 『俱舎論』 講読 -7-	15. 『俱舎論』 講読 -15-	8. 『俱舎論』 講読 -8-	
1. 『俱舎論』 講読 -1-	9. 『俱舎論』 講読 -9-																				
2. 『俱舎論』 講読 -2-	10. 『俱舎論』 講読 -10-																				
3. 『俱舎論』 講読 -3-	11. 『俱舎論』 講読 -11-																				
4. 『俱舎論』 講読 -4-	12. 『俱舎論』 講読 -12-																				
5. 『俱舎論』 講読 -5-	13. 『俱舎論』 講読 -13-																				
6. 『俱舎論』 講読 -6-	14. 『俱舎論』 講読 -14-																				
7. 『俱舎論』 講読 -7-	15. 『俱舎論』 講読 -15-																				
8. 『俱舎論』 講読 -8-																					
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書	○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%] 用いる基本資料は次の通り： ・梵文原典：Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P.Pradhan, Patna, 1967. ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎論』（真谛訳）。 ※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。																				
◇ 授業時間外学習	予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。																				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
英 文 学 特 論 I English Literature (Advanced Lecture) I	2	教授 大河内 昌	1 学期	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT619J																				
◆ 授業題目	William Wordsworthの詩を読む(1)																				
◆ 目的・概要	イギリスロマン主義の詩人 William Wordsworth の代表的な詩を読解してゆきます。詩を精読する作業を行います。読解作業をととして、ロマン主義特有のテーマ、シンボリズム、イメージなどを学びます。同時に、現代批評におけるロマン主義のとらえ方についても学びます。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。																				
◆ 到達目標	(1)イギリス詩を読解する英語力を養う (2)文学史とジャンルの知識を身につける (3)詩を分析する方法論を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イン트로ダクション</td> <td>9. "The Ruined Cottage" (2)</td> </tr> <tr> <td>2. Lucy Poems</td> <td>10. "Resolution and Independence"</td> </tr> <tr> <td>3. "The Solitary Reaper" ほか</td> <td>11. Sonnets</td> </tr> <tr> <td>4. "Tintern Abbey"</td> <td>12. "Preface" to Lyrical Ballads (1)</td> </tr> <tr> <td>5. "Michael" (1)</td> <td>13. "Preface" to Lyrical Ballads (2)</td> </tr> <tr> <td>6. "Michael" (2)</td> <td>14. 現代の Wordsworth 批評(1)</td> </tr> <tr> <td>7. "Ode: Intimations of Immortality"</td> <td>15. 現代の Wordsworth 批評(2)</td> </tr> <tr> <td>8. "The Ruined Cottage" (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イン트로ダクション	9. "The Ruined Cottage" (2)	2. Lucy Poems	10. "Resolution and Independence"	3. "The Solitary Reaper" ほか	11. Sonnets	4. "Tintern Abbey"	12. "Preface" to Lyrical Ballads (1)	5. "Michael" (1)	13. "Preface" to Lyrical Ballads (2)	6. "Michael" (2)	14. 現代の Wordsworth 批評(1)	7. "Ode: Intimations of Immortality"	15. 現代の Wordsworth 批評(2)	8. "The Ruined Cottage" (1)	
1. イン트로ダクション	9. "The Ruined Cottage" (2)																				
2. Lucy Poems	10. "Resolution and Independence"																				
3. "The Solitary Reaper" ほか	11. Sonnets																				
4. "Tintern Abbey"	12. "Preface" to Lyrical Ballads (1)																				
5. "Michael" (1)	13. "Preface" to Lyrical Ballads (2)																				
6. "Michael" (2)	14. 現代の Wordsworth 批評(1)																				
7. "Ode: Intimations of Immortality"	15. 現代の Wordsworth 批評(2)																				
8. "The Ruined Cottage" (1)																					
◇ 成績評価の方法	発表50%・レポート50%																				
◇ 教科書・参考書	Wordsworth's Poetry and Prose (Norton Critical Edition)																				
◇ 授業時間外学習	予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。																				
その他：オフィスアワー：火曜日午後4時～5時30分、その他アポイントメントで随時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
英 文 学 特 論 II English Literature (Advanced Lecture) II	2	教授 大河内 昌	2 学期	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT620J																				
◆ 授業題目	William Wordsworthの詩を読む(2)																				
◆ 目的・概要	イギリスロマン主義の詩人 William Wordsworth の代表作 <i>The Prelude</i> を読解してゆきます。詩を精読する作業を行います。読解作業をととして、ロマン主義特有のテーマ、シンボリズム、イメージなどを学びます。同時に、現代批評におけるロマン主義のとらえ方についても学びます。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。																				
◆ 到達目標	(1)イギリス詩を読解する英語力を養う (2)文学史とジャンルの知識を身につける (3)詩を分析する方法論を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イン트로ダクション</td> <td>9. <i>The Prelude</i>, Book V (2)</td> </tr> <tr> <td>2. <i>The Prelude</i>, Book I (1)</td> <td>10. <i>The Prelude</i>, Book V (3)</td> </tr> <tr> <td>3. <i>The Prelude</i>, Book I (2)</td> <td>11. <i>The Prelude</i>, Book VII (1)</td> </tr> <tr> <td>4. <i>The Prelude</i>, Book I (3)</td> <td>12. <i>The Prelude</i>, Book VII (2)</td> </tr> <tr> <td>5. <i>The Prelude</i>, Book II (1)</td> <td>13. <i>The Prelude</i>, Book VII (3)</td> </tr> <tr> <td>6. <i>The Prelude</i>, Book II (2)</td> <td>14. <i>The Prelude</i>, Book XI (1)</td> </tr> <tr> <td>7. <i>The Prelude</i>, Book II (3)</td> <td>15. <i>The Prelude</i>, Book XI (2)</td> </tr> <tr> <td>8. <i>The Prelude</i>, Book V (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イン트로ダクション	9. <i>The Prelude</i> , Book V (2)	2. <i>The Prelude</i> , Book I (1)	10. <i>The Prelude</i> , Book V (3)	3. <i>The Prelude</i> , Book I (2)	11. <i>The Prelude</i> , Book VII (1)	4. <i>The Prelude</i> , Book I (3)	12. <i>The Prelude</i> , Book VII (2)	5. <i>The Prelude</i> , Book II (1)	13. <i>The Prelude</i> , Book VII (3)	6. <i>The Prelude</i> , Book II (2)	14. <i>The Prelude</i> , Book XI (1)	7. <i>The Prelude</i> , Book II (3)	15. <i>The Prelude</i> , Book XI (2)	8. <i>The Prelude</i> , Book V (1)	
1. イン트로ダクション	9. <i>The Prelude</i> , Book V (2)																				
2. <i>The Prelude</i> , Book I (1)	10. <i>The Prelude</i> , Book V (3)																				
3. <i>The Prelude</i> , Book I (2)	11. <i>The Prelude</i> , Book VII (1)																				
4. <i>The Prelude</i> , Book I (3)	12. <i>The Prelude</i> , Book VII (2)																				
5. <i>The Prelude</i> , Book II (1)	13. <i>The Prelude</i> , Book VII (3)																				
6. <i>The Prelude</i> , Book II (2)	14. <i>The Prelude</i> , Book XI (1)																				
7. <i>The Prelude</i> , Book II (3)	15. <i>The Prelude</i> , Book XI (2)																				
8. <i>The Prelude</i> , Book V (1)																					
◇ 成績評価の方法	発表50%・レポート50%																				
◇ 教科書・参考書	Wordsworth's Poetry and Prose (Norton Critical Edition)																				
◇ 授業時間外学習	予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。																				
その他：オフィスアワー：火曜日午後4時～5時30分、その他アポイントメントで随時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
英 文 学 特 論 III English Literature (Advanced Lecture) III	2	非常勤 講師 諏訪部 浩 一	集 中 (1)																		
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT621J																				
◆ 授業題目	『グレート・ギャツビー』を読む																				
◆ 目的・概要	大戦間のアメリカ文学を代表する小説家、F・スコット・フィッツジェラルドの代表作『グレート・ギャツビー』を読む。極めて有名な作品だが、なるべく多角的な視点からアプローチを試みることで、小説を立体的に理解することを目指したい。モダニズム期に書かれたこの作品を「小説」として鑑賞することはもちろんだが、当時のアメリカに関する理解を深めることも目標とする。受講生は、言語芸術としての「小説」を読むという行為に意識的になるとともに、各自の問題意識を発見・発展させていくことが期待される。																				
◆ 到達目標	(1)アメリカ文学・文化に関する知識を身につける (2)批評的思考力を身につける (3)英語の原書を読解する英語力を身につける																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. Chapter 5</td> </tr> <tr> <td>2. Chapter 1 (以下の進度はおおよその目安)</td> <td>10. Chapter 6</td> </tr> <tr> <td>3. Chapter 1</td> <td>11. Chapter 7</td> </tr> <tr> <td>4. Chapter 2-(1)</td> <td>12. Chapter 8</td> </tr> <tr> <td>5. Chapter 2-(2)</td> <td>13. Chapter 9-(1)</td> </tr> <tr> <td>6. Chapter 3-(1)</td> <td>14. Chapter 9-(2)</td> </tr> <tr> <td>7. Chapter 3-(2)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Chapter 4</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. Chapter 5	2. Chapter 1 (以下の進度はおおよその目安)	10. Chapter 6	3. Chapter 1	11. Chapter 7	4. Chapter 2-(1)	12. Chapter 8	5. Chapter 2-(2)	13. Chapter 9-(1)	6. Chapter 3-(1)	14. Chapter 9-(2)	7. Chapter 3-(2)	15. 授業のまとめ	8. Chapter 4	
1. イントロダクション	9. Chapter 5																				
2. Chapter 1 (以下の進度はおおよその目安)	10. Chapter 6																				
3. Chapter 1	11. Chapter 7																				
4. Chapter 2-(1)	12. Chapter 8																				
5. Chapter 2-(2)	13. Chapter 9-(1)																				
6. Chapter 3-(1)	14. Chapter 9-(2)																				
7. Chapter 3-(2)	15. 授業のまとめ																				
8. Chapter 4																					
◇ 成績評価の方法	授業参加30%、レポート70%																				
◇ 教科書・参考書	F. Scott Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i> . (New York: Scribner, 2004)																				
◇ 授業時間外学習	予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
英 文 学 研 究 演 習 I English Literature (Advanced Seminar) I	2	准教授 ティンク, ジェイムズ	1 学期	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT622E																				
◆ 授業題目	William Shakespeare, <i>King Henry V</i> : History Plays, Politics, and Londoners in Early-Modern Drama.																				
◆ 目的・概要	Shakespeare intended 'King Henry V' (1599) to be the triumphant climax of his cycle of eight plays based on medieval English history, and there has been a tradition ever since of presenting the play as a patriotic celebration of the young English king and his war in France. However, other approaches to the play have argued for a more ambiguous approach to ideas of kingship, national identity, and power, and have also re-considered the role of ordinary citizens and subjects in the drama. This course will study the play in the context of 1599 and examine some important themes: the Elizabethan history play and the understanding of the past; the cult of King Henry and medieval kingship; early-modern nationalism and ideas of power; and the status of the citizens of London in Elizabethan drama and society. To understand these themes, we will also study Thomas Dekker's city comedy 'The Shoemaker's Holiday', which was written in 1599 in response to Shakespeare's play, and which provides a different approach to the story of London citizens and their attitudes to war. We will read the two plays in weekly instalments, and analyse both texts as examples of renaissance dramatic genres and historical products of the late-Elizabethan period.																				
◆ 到達目標	1: To read two influential sixteenth-century plays in English. 2: To better understand the renaissance history play as a literary genre and as a resource for understanding the early modern period. 3: To develop and improve analytic and composition skills in English.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction to History Plays.</td> <td>9. Thomas Dekker, <i>The Shoemaker's Holiday</i> (Part 1) Mid-semester assignment due.</td> </tr> <tr> <td>2. Reading <i>King Henry V</i> (Part 1)</td> <td>10. <i>Shoemaker's Holiday</i> (2)</td> </tr> <tr> <td>3. <i>King Henry V</i> (2)</td> <td>11. <i>Shoemaker's Holiday</i> (3)</td> </tr> <tr> <td>4. <i>King Henry V</i> (3)</td> <td>12. <i>Shoemaker's Holiday</i> (4)</td> </tr> <tr> <td>5. <i>King Henry V</i> (4)</td> <td>13. <i>Shoemaker's Holiday</i> (5)</td> </tr> <tr> <td>6. <i>King Henry V</i> (5)</td> <td>14. <i>Shoemaker's Holiday</i> (6)</td> </tr> <tr> <td>7. <i>King Henry V</i> (6)</td> <td>15. Conclusion. Final assignment due.</td> </tr> <tr> <td>8. <i>King Henry V</i> (7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. Introduction to History Plays.	9. Thomas Dekker, <i>The Shoemaker's Holiday</i> (Part 1) Mid-semester assignment due.	2. Reading <i>King Henry V</i> (Part 1)	10. <i>Shoemaker's Holiday</i> (2)	3. <i>King Henry V</i> (2)	11. <i>Shoemaker's Holiday</i> (3)	4. <i>King Henry V</i> (3)	12. <i>Shoemaker's Holiday</i> (4)	5. <i>King Henry V</i> (4)	13. <i>Shoemaker's Holiday</i> (5)	6. <i>King Henry V</i> (5)	14. <i>Shoemaker's Holiday</i> (6)	7. <i>King Henry V</i> (6)	15. Conclusion. Final assignment due.	8. <i>King Henry V</i> (7)	
1. Introduction to History Plays.	9. Thomas Dekker, <i>The Shoemaker's Holiday</i> (Part 1) Mid-semester assignment due.																				
2. Reading <i>King Henry V</i> (Part 1)	10. <i>Shoemaker's Holiday</i> (2)																				
3. <i>King Henry V</i> (2)	11. <i>Shoemaker's Holiday</i> (3)																				
4. <i>King Henry V</i> (3)	12. <i>Shoemaker's Holiday</i> (4)																				
5. <i>King Henry V</i> (4)	13. <i>Shoemaker's Holiday</i> (5)																				
6. <i>King Henry V</i> (5)	14. <i>Shoemaker's Holiday</i> (6)																				
7. <i>King Henry V</i> (6)	15. Conclusion. Final assignment due.																				
8. <i>King Henry V</i> (7)																					
◇ 成績評価の方法	Final essay 40%; mid-term assignment 30%; class presentation 30%																				
◇ 教科書・参考書	Shakespeare, William. <i>King Henry V</i> . The Oxford Shakespeare. Ed. Gary Taylor. Oxford: Oxford UP, 2008. Other material to be arranged.																				
◇ 授業時間外学習	Both plays are widely available in several editions, and discussed in many commentaries of renaissance English drama. <i>Henry V</i> has also been filmed in English on at least four occasions, and students may wish to see any of these.																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
英 文 学 研 究 演 習 Ⅱ English Literature (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授 ティンク, ジェイムズ	2 学期	火	3																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSLIT623E The Dramatic Monologue in Modern English Poetry The dramatic monologue is a type of modern English poem that is written in the assumed voice of a character other than the poet, in order to explore the psychology of that speaker and the circumstances of their fictional situation. Often associated with Victorian literature, and the attempts of poets to develop a new, post-Romantic mode for poetry in competition with the novel, the dramatic monologue has also influenced later modern verse in English. Questions about the status of poetry as an imaginative work, and its relationship to both fiction and the reading public, are intrinsic to the dramatic monologue. This course will read a selection of important dramatic monologues from the past two hundred years and consider a range of literary, historical and theoretical approaches for understanding the form. Each week, students will read one poem which will then be discussed in detail during the class.																				
◆ 到達目標	1: To read and analyse a range of modern poems written in English. 2: To better understand poetics and approaches to reading poetry. 3: To consider themes for the understanding of modern literature 4: To improve analytic, discussion and composition skills in English.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Alfred Lord Tennyson "Ulysses"</td> <td>8. Charlotte Mew "The Farmer's Bride"</td> </tr> <tr> <td>2. Robert Browning, "My Last Duchess"</td> <td>9. T.S. Eliot, "The Love Song of J. Alfred Prufrock"</td> </tr> <tr> <td>3. Robert Browning, "Fra Lippo Lippi"</td> <td>10. Basil Bunting, "Chomei at Toyama"</td> </tr> <tr> <td>4. Robert Browning "Caliban upon Setebos: "</td> <td>11. Langston Hughes, from the "Madam" Poems</td> </tr> <tr> <td>5. Elizabeth Barrett Browning, "The Runaway Slave at Pilgrim's Point"</td> <td>12. W.H. Auden, from "The Sea and the Mirror"</td> </tr> <tr> <td>6. Augusta Webster "Medea in Athens"</td> <td>13. John Ashbery, "Daffy Duck In Hollywood"</td> </tr> <tr> <td>7. John Davidson, "Thirty Bob A Week" Mid-semester assignment due.</td> <td>14. Carol Ann Duffy "Psychopath"</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. Conclusion. Final essay due.</td> </tr> </table>					1. Alfred Lord Tennyson "Ulysses"	8. Charlotte Mew "The Farmer's Bride"	2. Robert Browning, "My Last Duchess"	9. T.S. Eliot, "The Love Song of J. Alfred Prufrock"	3. Robert Browning, "Fra Lippo Lippi"	10. Basil Bunting, "Chomei at Toyama"	4. Robert Browning "Caliban upon Setebos: "	11. Langston Hughes, from the "Madam" Poems	5. Elizabeth Barrett Browning, "The Runaway Slave at Pilgrim's Point"	12. W.H. Auden, from "The Sea and the Mirror"	6. Augusta Webster "Medea in Athens"	13. John Ashbery, "Daffy Duck In Hollywood"	7. John Davidson, "Thirty Bob A Week" Mid-semester assignment due.	14. Carol Ann Duffy "Psychopath"		15. Conclusion. Final essay due.
1. Alfred Lord Tennyson "Ulysses"	8. Charlotte Mew "The Farmer's Bride"																				
2. Robert Browning, "My Last Duchess"	9. T.S. Eliot, "The Love Song of J. Alfred Prufrock"																				
3. Robert Browning, "Fra Lippo Lippi"	10. Basil Bunting, "Chomei at Toyama"																				
4. Robert Browning "Caliban upon Setebos: "	11. Langston Hughes, from the "Madam" Poems																				
5. Elizabeth Barrett Browning, "The Runaway Slave at Pilgrim's Point"	12. W.H. Auden, from "The Sea and the Mirror"																				
6. Augusta Webster "Medea in Athens"	13. John Ashbery, "Daffy Duck In Hollywood"																				
7. John Davidson, "Thirty Bob A Week" Mid-semester assignment due.	14. Carol Ann Duffy "Psychopath"																				
	15. Conclusion. Final essay due.																				
◇ 成績評価の方法	Final essay 50%; Mid-term report 25%; Presentation 25%																				
◇ 教科書・参考書	There is no single edition of the dramatic monologues we will read; many of them are well-known poems in the public domain. All material will be supplied by the course instructor.																				
◇ 授業時間外学習	There are many resources in the university library or online for the poets studied in the course. Students will be asked to give at least one presentation to the class during the semester.																				
その他 :																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
英 文 学 研 究 演 習 Ⅲ English Literature (Advanced Seminar) Ⅲ	2	准教授 ティンク, ジェイムズ	1 学期	木	2																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSLIT624E Academic Writing and Research Skills in English. The aim of this class is to help graduate students in the Faculty of Arts and Letters to acquire, practice and improve the necessary skills for writing academic assignments in English. Over the course of this semester, students will write three essay assignments on different topics according to the schedule listed below. Each week we will use the textbook to look at different aspects of essay writing -from outlining and planning to proof-reading and revising grammar- so as to improve overall writing skills.																				
◆ 到達目標	(1) To improve composition skills for effective English writing. (2) To practice writing academic papers in English. (3) To develop skills for developing successful research projects in the humanities.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction</td> <td>9. Assignment 2.4</td> </tr> <tr> <td>2. Essay Assignment 1.1</td> <td>10. Assignment 2.5 (second assignment due this week)</td> </tr> <tr> <td>3. Assignment 1.2</td> <td>11. Essay Assignment 3.1</td> </tr> <tr> <td>4. Assignment 1.3</td> <td>12. Assignment 3.2</td> </tr> <tr> <td>5. Assignment 1.4 (first assignment due this week)</td> <td>13. Assignment 3.3</td> </tr> <tr> <td>6. Essay assignment 2.1</td> <td>14. Assignment 3.4</td> </tr> <tr> <td>7. Assignment 2.2</td> <td>15. Conclusion (final assignment due this week)</td> </tr> <tr> <td>8. Assignment 2.3</td> <td></td> </tr> </table>					1. Introduction	9. Assignment 2.4	2. Essay Assignment 1.1	10. Assignment 2.5 (second assignment due this week)	3. Assignment 1.2	11. Essay Assignment 3.1	4. Assignment 1.3	12. Assignment 3.2	5. Assignment 1.4 (first assignment due this week)	13. Assignment 3.3	6. Essay assignment 2.1	14. Assignment 3.4	7. Assignment 2.2	15. Conclusion (final assignment due this week)	8. Assignment 2.3	
1. Introduction	9. Assignment 2.4																				
2. Essay Assignment 1.1	10. Assignment 2.5 (second assignment due this week)																				
3. Assignment 1.2	11. Essay Assignment 3.1																				
4. Assignment 1.3	12. Assignment 3.2																				
5. Assignment 1.4 (first assignment due this week)	13. Assignment 3.3																				
6. Essay assignment 2.1	14. Assignment 3.4																				
7. Assignment 2.2	15. Conclusion (final assignment due this week)																				
8. Assignment 2.3																					
◇ 成績評価の方法	Three written assignments 25% each; additional coursework 25%.																				
◇ 教科書・参考書	Kirszner, Laurie G & Stephen R. Mandell. The Pocket Wadsworth Handbook. 6th ed. Cengage Learning, 2015.																				
◇ 授業時間外学習	This course involves working together on exercises during class, including peer-checking other people's work. Students are free to write on academic topics that are relevant to their main research areas.																				
その他 : Unfortunately, it will not be possible for students to audit this class.																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
英 文 学 研 究 演 習 IV English Literature (Advanced Seminar) IV	2	准教授 ティンク, ジェイムズ	2 学期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT625E																				
◆ 授業題目	Academic Research Writing and Reading																				
◆ 目的・概要	This course is a continuation of the writing class in the spring semester. The aim of this class this semester is to write two longer research essays on academic topics, and to improve skills for preparing a long dissertation project in graduate studies. Each week, the class will review and practice an aspect of dissertation writing (the precise content of which will be largely decided by the class depending on their requirements), and prepare individual coursework according to the deadlines in the schedule. By the end of the course, students should have learnt a more sophisticated 'voice' and other techniques for academic and professional writing.																				
◆ 到達目標	(1) To develop and improve skills in writing academic essays and dissertations in English. (2) To practice research skills for preparing academic projects. (3) To read and evaluate some different styles of professional academic writing in English. (4) To improve English communication skills in the classroom.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction</td> <td>9. Second Assignment, 2</td> </tr> <tr> <td>2. First Research Essay Assignment, Part 1.</td> <td>10. Second Assignment, 3</td> </tr> <tr> <td>3. First Assignment, 2</td> <td>11. Second Assignment, 4 (drafts due this week)</td> </tr> <tr> <td>4. First Assignment, 3</td> <td>12. Second Assignment, 5</td> </tr> <tr> <td>5. First Assignment, 4 (drafts due this week)</td> <td>13. Second Assignment, 6</td> </tr> <tr> <td>6. First Assignment, 5</td> <td>14. Second Assignment, 7 (Essays due this week)</td> </tr> <tr> <td>7. Deadline for First Assignment. Review of Content</td> <td>15. Conclusion</td> </tr> <tr> <td>8. Second Research Essay Assignment, 1.</td> <td></td> </tr> </table>					1. Introduction	9. Second Assignment, 2	2. First Research Essay Assignment, Part 1.	10. Second Assignment, 3	3. First Assignment, 2	11. Second Assignment, 4 (drafts due this week)	4. First Assignment, 3	12. Second Assignment, 5	5. First Assignment, 4 (drafts due this week)	13. Second Assignment, 6	6. First Assignment, 5	14. Second Assignment, 7 (Essays due this week)	7. Deadline for First Assignment. Review of Content	15. Conclusion	8. Second Research Essay Assignment, 1.	
1. Introduction	9. Second Assignment, 2																				
2. First Research Essay Assignment, Part 1.	10. Second Assignment, 3																				
3. First Assignment, 2	11. Second Assignment, 4 (drafts due this week)																				
4. First Assignment, 3	12. Second Assignment, 5																				
5. First Assignment, 4 (drafts due this week)	13. Second Assignment, 6																				
6. First Assignment, 5	14. Second Assignment, 7 (Essays due this week)																				
7. Deadline for First Assignment. Review of Content	15. Conclusion																				
8. Second Research Essay Assignment, 1.																					
◇ 成績評価の方法	Two assignments worth 40% each: additional class work 20%																				
◇ 教科書・参考書	Kirszner, Laurie G. & Stephen R. Mandell. <i>The Pocket Wadsworth Handbook</i> . 6th ed. Stamford CT: Cengage Learning, 2015.																				
◇ 授業時間外学習	This class is intended to allow students to improve writing skills for research related to their major subject of study, so students are encouraged to select their preferred research topics.																				
その他 : Unfortunately, it is not possible for students to audit this class.																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
英 語 文 化 論 特 論 I English Culture (Advanced Lecture) I	2	准教授 岩 田 美 喜	1 学期	水	3																		
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT626J																						
◆ 授業題目	ジェイムズ・ジョイス『ユリシイズ』を読む																						
◆ 目的・概要	英語文学におけるモダニズムの代表作、ジェイムズ・ジョイスの『ユリシイズ』(James Joyce, <i>Ulysses</i> , 1922) を、1年かけてじっくりと精読します。また、「意識の流れ」といった様式や表現の問題、現代社会の平凡な1日と神話世界の重なり、アイルランドの歴史など、幅広いトピックを論じ合うことで、柔軟で広範な英文学の知識と討論力を身につけます。																						
◆ 到達目標	1) テキストの精読を通じて、高度な英語読解力を涵養する 2) 作品の理解に必要な知識を、自ら調べ、身に付ける訓練をする 3) 教員および受講者同士のディスカッションを通じて、高度な議論の能力を培う																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 作品全体に関する導入 (以下、the Linati schema と呼ばれる、ジョイスが友人宛の書簡に示した計画表に従って、進度予定を提示)</td> <td>7. Episode 6, Hades</td> </tr> <tr> <td>2. Part I : The Telemachid, Episode 1, Telemachus</td> <td>8. Episode 7, Aeolus</td> </tr> <tr> <td>3. Episode 2, Nestor</td> <td>9. Episode 8, Lestrygonians</td> </tr> <tr> <td>4. Episode 3, Proteus</td> <td>10. Episode 9, Scylla and Charybdis</td> </tr> <tr> <td>5. Part II : The Odyssey, Episode 4, Calypso</td> <td>11. Episode 10, Wandering Rocks</td> </tr> <tr> <td>6. Episode 5, Lotus Eaters</td> <td>12. Episode 11, Sirens</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. Episode 12, Cyclops</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. Episode 13, Nausicaa</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 第13挿話までの総合的な議論</td> </tr> </table>					1. 作品全体に関する導入 (以下、the Linati schema と呼ばれる、ジョイスが友人宛の書簡に示した計画表に従って、進度予定を提示)	7. Episode 6, Hades	2. Part I : The Telemachid, Episode 1, Telemachus	8. Episode 7, Aeolus	3. Episode 2, Nestor	9. Episode 8, Lestrygonians	4. Episode 3, Proteus	10. Episode 9, Scylla and Charybdis	5. Part II : The Odyssey, Episode 4, Calypso	11. Episode 10, Wandering Rocks	6. Episode 5, Lotus Eaters	12. Episode 11, Sirens		13. Episode 12, Cyclops		14. Episode 13, Nausicaa		15. 第13挿話までの総合的な議論
1. 作品全体に関する導入 (以下、the Linati schema と呼ばれる、ジョイスが友人宛の書簡に示した計画表に従って、進度予定を提示)	7. Episode 6, Hades																						
2. Part I : The Telemachid, Episode 1, Telemachus	8. Episode 7, Aeolus																						
3. Episode 2, Nestor	9. Episode 8, Lestrygonians																						
4. Episode 3, Proteus	10. Episode 9, Scylla and Charybdis																						
5. Part II : The Odyssey, Episode 4, Calypso	11. Episode 10, Wandering Rocks																						
6. Episode 5, Lotus Eaters	12. Episode 11, Sirens																						
	13. Episode 12, Cyclops																						
	14. Episode 13, Nausicaa																						
	15. 第13挿話までの総合的な議論																						
◇ 成績評価の方法	授業における発表及び発言 (50%) と、期末レポート (50%)																						
◇ 教科書・参考書	教科書 : James Joyce, <i>Ulysses: Annotated Student Edition</i> (Penguin Classics, 2011) ISBN: 978-0141197418 参考書 : Derek Attridge, ed., <i>James Joyce's Ulysses: A Casebook</i> (Oxford UP, 2004) ISBN: 978-0195158318																						
◇ 授業時間外学習	この授業は演習形式で進みますので、受講者の発表とディスカッションがとても重要です。各自しっかりと時間をかけて、予習をしてきてください。																						
その他 :																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時		
英 語 文 化 論 特 論 II English Culture (Advanced Lecture) II	2	准教授 岩 田 美 喜	2 学 期	水	3		
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT627J						
◆ 授業題目	ジェイムズ・ジョイス『ユリシーズ』を読む						
◆ 目的・概要	前期に引き続き、ジェイムズ・ジョイスの『ユリシーズ』(James Joyce, <i>Ulysses</i> , 1922) を、じっくりと精読します。「意識の流れ」といった様式や表現の問題、現代社会の平凡な1日と神話世界の重なり、アイルランドの歴史など、幅広いトピックを論じ合うことで、柔軟で広範な英文学の知識と討論力を身につけます。						
◆ 到達目標	1) テキストの精読を通じて、高度な英語読解力を涵養する 2) 作品の理解に必要な知識を、自ら調べ、身に付ける訓練をする 3) 教員および受講者同士のディスカッションを通じて、高度な議論の能力を培う						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. 作品の後半に関する全体的な説明 (以下、the Linati schema と呼ばれる、ジョイスが友人宛の書簡に示した計画表に従って、進度予定を提示) 2. Part II: The Odyssey, Episode 14, Oxen of the Sun (1) 3. Episode 14, Oxen of the Sun (2) 4. Episode 15, Circe (1) 5. Episode 15, Circe (2) 6. Episode 15, Circe (3) 7. Episode 15, Circe (4) </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> 8. Episode 15, Circe (5) 9. Episode 15, Circe (6) 10. Episode 16, Eumaeus (1) 11. Episode 16, Eumaeus (2) 12. Episode 17, Ithaca 13. Episode 18, Penelope (1) 14. Episode 18, Penelope (2) 15. 作品全体にわたる総合的な議論 </td> </tr> </table>					1. 作品の後半に関する全体的な説明 (以下、the Linati schema と呼ばれる、ジョイスが友人宛の書簡に示した計画表に従って、進度予定を提示) 2. Part II: The Odyssey, Episode 14, Oxen of the Sun (1) 3. Episode 14, Oxen of the Sun (2) 4. Episode 15, Circe (1) 5. Episode 15, Circe (2) 6. Episode 15, Circe (3) 7. Episode 15, Circe (4)	8. Episode 15, Circe (5) 9. Episode 15, Circe (6) 10. Episode 16, Eumaeus (1) 11. Episode 16, Eumaeus (2) 12. Episode 17, Ithaca 13. Episode 18, Penelope (1) 14. Episode 18, Penelope (2) 15. 作品全体にわたる総合的な議論
1. 作品の後半に関する全体的な説明 (以下、the Linati schema と呼ばれる、ジョイスが友人宛の書簡に示した計画表に従って、進度予定を提示) 2. Part II: The Odyssey, Episode 14, Oxen of the Sun (1) 3. Episode 14, Oxen of the Sun (2) 4. Episode 15, Circe (1) 5. Episode 15, Circe (2) 6. Episode 15, Circe (3) 7. Episode 15, Circe (4)	8. Episode 15, Circe (5) 9. Episode 15, Circe (6) 10. Episode 16, Eumaeus (1) 11. Episode 16, Eumaeus (2) 12. Episode 17, Ithaca 13. Episode 18, Penelope (1) 14. Episode 18, Penelope (2) 15. 作品全体にわたる総合的な議論						
◇ 成績評価の方法	授業における発表及び発言 (50%) と、期末レポート (50%)						
◇ 教科書・参考書	教科書: James Joyce, <i>Ulysses: Annotated Student Edition</i> (Penguin Classics, 2011) ISBN: 978-0141197418 参考書: Derek Attridge, ed., <i>James Joyce's Ulysses: A Casebook</i> (Oxford UP, 2004) ISBN: 978-0195158318						
◇ 授業時間外学習	この授業は演習形式で進みますので、受講者の発表とディスカッションがとても重要です。しっかり予習をしてきてください。						
その他:							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
英 語 学 特 論 I English Linguistics (Advanced Lecture) I	2	教 授 島 越 郎	1 学 期	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIN601J																				
◆ 授業題目	統語論と意味論における諸問題の研究 I																				
◆ 目的・概要	生成文法における統語論や意味論の最新の研究を批判的に検討し、今後の理論展開の可能性を探る。今年度は、前年度に引き続き、Anna Szabolcsi による Quantification (Cambridge University Press) を精読する。																				
◆ 到達目標	統語論と意味論における最新動向を把握する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Ch. 5. Potential challenges for generalized quantifiers (1)</td> <td>8. Ch. 7 Existential scope versus distributive scope (1)</td> </tr> <tr> <td>2. Ch. 5. Potential challenges for generalized quantifiers (2)</td> <td>9. Ch. 7 Existential scope versus distributive scope (2)</td> </tr> <tr> <td>3. Ch. 5. Potential challenges for generalized quantifiers (3)</td> <td>10. Ch. 7 Existential scope versus distributive scope (3)</td> </tr> <tr> <td>4. Ch. 5. Potential challenges for generalized quantifiers (4)</td> <td>11. Ch. 7 Existential scope versus distributive scope (4)</td> </tr> <tr> <td>5. Ch. 6 Scope is not uniform and not a primitive (1)</td> <td>12. Ch. 8 Distributivity and scope (1)</td> </tr> <tr> <td>6. Ch. 6 Scope is not uniform and not a primitive (2)</td> <td>13. Ch. 8 Distributivity and scope (2)</td> </tr> <tr> <td>7. Ch. 6 Scope is not uniform and not a primitive (3)</td> <td>14. Ch. 8 Distributivity and scope (3)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. Ch. 8 Distributivity and scope (4)</td> </tr> </table>					1. Ch. 5. Potential challenges for generalized quantifiers (1)	8. Ch. 7 Existential scope versus distributive scope (1)	2. Ch. 5. Potential challenges for generalized quantifiers (2)	9. Ch. 7 Existential scope versus distributive scope (2)	3. Ch. 5. Potential challenges for generalized quantifiers (3)	10. Ch. 7 Existential scope versus distributive scope (3)	4. Ch. 5. Potential challenges for generalized quantifiers (4)	11. Ch. 7 Existential scope versus distributive scope (4)	5. Ch. 6 Scope is not uniform and not a primitive (1)	12. Ch. 8 Distributivity and scope (1)	6. Ch. 6 Scope is not uniform and not a primitive (2)	13. Ch. 8 Distributivity and scope (2)	7. Ch. 6 Scope is not uniform and not a primitive (3)	14. Ch. 8 Distributivity and scope (3)		15. Ch. 8 Distributivity and scope (4)
1. Ch. 5. Potential challenges for generalized quantifiers (1)	8. Ch. 7 Existential scope versus distributive scope (1)																				
2. Ch. 5. Potential challenges for generalized quantifiers (2)	9. Ch. 7 Existential scope versus distributive scope (2)																				
3. Ch. 5. Potential challenges for generalized quantifiers (3)	10. Ch. 7 Existential scope versus distributive scope (3)																				
4. Ch. 5. Potential challenges for generalized quantifiers (4)	11. Ch. 7 Existential scope versus distributive scope (4)																				
5. Ch. 6 Scope is not uniform and not a primitive (1)	12. Ch. 8 Distributivity and scope (1)																				
6. Ch. 6 Scope is not uniform and not a primitive (2)	13. Ch. 8 Distributivity and scope (2)																				
7. Ch. 6 Scope is not uniform and not a primitive (3)	14. Ch. 8 Distributivity and scope (3)																				
	15. Ch. 8 Distributivity and scope (4)																				
◇ 成績評価の方法	レポート [80%] 授業における貢献度 [20%]																				
◇ 教科書・参考書	Anna Szabolcsi (2010) Quantification, Cambridge University Press.																				
◇ 授業時間外学習	担当箇所は勿論のこと、担当外の箇所についてもしっかり予習し、不明な点を整理しておくこと。																				
その他：生成文法に関する基礎的知識を前提とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																				
英 語 学 特 論 II English Linguistics (Advanced Lecture) II	2	教 授 島 越 郎	2 学 期	金	4																				
◆ 科目ナンバリング	LHSLIN602J																								
◆ 授業題目	統語論と意味論における諸問題の研究 II																								
◆ 目的・概要	生成文法における統語論や意味論の最新の研究を批判的に検討し、今後の理論展開の可能性を探る。前期に引き続き、Anna Szabolcsi による Quantification (Cambridge University Press) を精読する。																								
◆ 到達目標	統語論と意味論における最新動向を把握する。																								
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Ch. 9 Bare numeral indefinites (1)</td> <td>11. Ch. 11 Clause-internal scopal diversity (3)</td> </tr> <tr> <td>2. Ch. 9 Bare numeral indefinites (2)</td> <td>12. Ch. 12 Towards a compositional semantics of quantifier words (1)</td> </tr> <tr> <td>3. Ch. 9 Bare numeral indefinites (3)</td> <td>13. Ch. 12 Towards a compositional semantics of quantifier words (2)</td> </tr> <tr> <td>4. Ch. 9 Bare numeral indefinites (4)</td> <td>14. Ch. 12 Towards a compositional semantics of quantifier words (3)</td> </tr> <tr> <td>5. Ch. 10 Modified numerals (1)</td> <td>15. Ch. 12 Towards a compositional semantics of quantifier words (4)</td> </tr> <tr> <td>6. Ch. 10 Modified numerals (2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. Ch. 10 Modified numerals (3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. Ch. 10 Modified numerals (4)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. Ch. 11 Clause-internal scopal diversity (1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10. Ch. 11 Clause-internal scopal diversity (2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. Ch. 9 Bare numeral indefinites (1)	11. Ch. 11 Clause-internal scopal diversity (3)	2. Ch. 9 Bare numeral indefinites (2)	12. Ch. 12 Towards a compositional semantics of quantifier words (1)	3. Ch. 9 Bare numeral indefinites (3)	13. Ch. 12 Towards a compositional semantics of quantifier words (2)	4. Ch. 9 Bare numeral indefinites (4)	14. Ch. 12 Towards a compositional semantics of quantifier words (3)	5. Ch. 10 Modified numerals (1)	15. Ch. 12 Towards a compositional semantics of quantifier words (4)	6. Ch. 10 Modified numerals (2)		7. Ch. 10 Modified numerals (3)		8. Ch. 10 Modified numerals (4)		9. Ch. 11 Clause-internal scopal diversity (1)		10. Ch. 11 Clause-internal scopal diversity (2)	
1. Ch. 9 Bare numeral indefinites (1)	11. Ch. 11 Clause-internal scopal diversity (3)																								
2. Ch. 9 Bare numeral indefinites (2)	12. Ch. 12 Towards a compositional semantics of quantifier words (1)																								
3. Ch. 9 Bare numeral indefinites (3)	13. Ch. 12 Towards a compositional semantics of quantifier words (2)																								
4. Ch. 9 Bare numeral indefinites (4)	14. Ch. 12 Towards a compositional semantics of quantifier words (3)																								
5. Ch. 10 Modified numerals (1)	15. Ch. 12 Towards a compositional semantics of quantifier words (4)																								
6. Ch. 10 Modified numerals (2)																									
7. Ch. 10 Modified numerals (3)																									
8. Ch. 10 Modified numerals (4)																									
9. Ch. 11 Clause-internal scopal diversity (1)																									
10. Ch. 11 Clause-internal scopal diversity (2)																									
◇ 成績評価の方法	レポート [80%] 授業における貢献度 [20%]																								
◇ 教科書・参考書	Anna Szabolcsi (2010) Quantification, Cambridge University Press.																								
◇ 授業時間外学習	担当箇所は勿論のこと、担当外の箇所についてもしっかり予習し、不明な点を整理しておくこと。																								
その他：生成文法の基礎的知識を前提とする。																									

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
英 語 学 特 論 III English Linguistics (Advanced Lecture) III	2	非常勤 齋 藤 衛 講師	集 中 (1)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSLIN603J 極小主義アプローチに基づく比較統語論 ・前半では、統語論における極小主義アプローチを概観し、特に、Chomsky (2013) が提案するラベリング・アルゴリズムの意義を確認する。 ・この議論をふまえて、後半では、日本語の現象を英語との比較においてとりあげ、極小主義アプローチの下でどのように言語間変異をとらえることができるかを考えていく。また、日本語特有の現象から、カートグラフィー現象などの解明にどのように寄与できるかについても検討する。				
◆ 到達目標	極小主義アプローチに対する理解を深め、より有意義な形でその発展に貢献できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. 生成文法の歴史的背景と発展 2. CP仮説、DP仮説、VP内主語仮説と文構造の詳細 3. 演算子移動の性質：統語的派生と意味解釈 4. 移動の循環的適用：束縛現象から派生的フェイズへ 5. 名詞句の分布、名詞句移動と格理論 6. 句構形成のメカニズムとしての併合 7. 併合による過剰生成(1)：一致、文法格、EPP 8. 併合による過剰生成(2)：ラベリング・アルゴリズム	9. 日本語の文法的特徴：多重格、自由語順、項省略 10. 文法格の性質とラベリングにおける言語間変異 11. 項削除を含む削除現象の分析と課題 12. カートグラフィー再考：選択制限と意味解釈 13. 日本語右方周縁部と英語分析／意味論の課題 14. θ 基準再考：ラベリングと意味役割 15. 授業のまとめ+筆記試験			
◇ 成績評価の方法	試験。ただし、希望者は10枚程度の論文をこれに代えることができる。				
◇ 教科書・参考書	第6回以降は、主として、以下の論文の内容を検討する。 ・Chomsky, Noam (1994) "Bare Phrase Structure," in Gert Webelhuth, ed., <i>Government and Binding Theory and the Minimalist Program</i> , Oxford: Blackwell, 383-439. ・Chomsky, Noam (2008) "On Phases," in Robert Freidin, Carlos P. Otero and Maria Luisa Zubizarreta, eds., <i>Foundational Issues in Linguistic Theory: Essay in Honor of Jean-Roger Vergnaud</i> , Cambridge, Mass.: MIT Press, 133-166. ・Chomsky, Noam (2013) "Problems of Projection," <i>Lingua</i> 130: 33-49. ・Chomsky, Noam (2015) "Problems of Projection: Extensions," in Elisa Di Domenico, Cornelia Hamann and Simona Matteini, eds., <i>Structures, Strategies and Beyond - Studies in Honour of Adriana Belletti</i> , Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins, 3-16. ・Quicoli, A. Carlos (2008) "Anaphora by Phase," <i>Syntax</i> 11: 299-329. ・Rizzi, Luigi (1997) "The Fine Structure of the Left Periphery," in Liliana Haegeman, ed., <i>Elements of Grammar</i> , Dordrecht: Kluwer Academic Publishers, 281-337. ・Saito, Mamoru (2015) "Cartography and Selection: Case Studies in Japanese," in Ur Shlonsky, ed., <i>Beyond Functional Sequence</i> , Oxford: Oxford University Press, 255-274. ・Saito, Mamoru (2015) "(A) Case for Labeling: Labeling in Languages without ϕ -feature Agreement," to appear in <i>The Linguistic Review</i> . ・Takahashi, Daiko (2014) "Argument Ellipsis, Anti-agreement, and Scrambling," in Mamoru Saito, ed., <i>Japanese Syntax in Comparative Perspective</i> , New York: Oxford University Press, 88-116.				
◇ 授業時間外学習	復習を欠かさず、わかりにくかった点を質問できるように準備すること。				
その他：履修者の反応を見ながら講義の速度を調整するので、希望があれば、遠慮なく申し出ること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
英 語 学 研 究 演 習 I English Linguistics (Advanced Seminar) I	2	教授 金子 義 明 教授 島 越 郎	1 学期	水	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSLIN604J 英語学の諸問題研究 I 英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。①最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。②討論者がコメントを加える。③授業の参加者全員でディスカッションを行う。授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。				
◆ 到達目標	①英語学研究の最新動向を把握する ②研究論文の実践的作成法が身に付く ③効果的プレゼンテーション力が身に付く				
◆ 授業内容・方法	1. 英語学研究論文(1)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 2. 英語学研究論文(2)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 3. 英語学研究論文(3)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 4. 英語学研究論文(4)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 5. 英語学研究論文(5)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 6. 英語学研究論文(6)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 7. 英語学研究論文(7)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 8. 英語学研究論文(8)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	9. 英語学研究論文(9)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 10. 英語学研究論文(10)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 11. 英語学研究論文(11)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 12. 英語学研究論文(12)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 13. 英語学研究論文(13)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 14. 英語学研究論文(14)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション 15. 英語学研究論文(15)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション			
◇ 成績評価の方法	期末レポート				
◇ 教科書・参考書	取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。 参考文献・参考書は随時紹介する。				
◇ 授業時間外学習	取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
英 語 学 研 究 演 習 II English Linguistics (Advanced Seminar) II	2	教授 金子 義明 教授 金島 越郎	2 学期	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIN605J																				
◆ 授業題目	英語学の諸問題研究 II																				
◆ 目的・概要	英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。①最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。②討論者がコメントを加える。③授業の参加者全員でディスカッションを行う。授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。																				
◆ 到達目標	①英語学研究の最新動向を把握する ②研究論文の実践的作成法が身に付く ③効果的プレゼンテーション力が身に付く																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 英語学研究論文(1)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>9. 英語学研究論文(9)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>2. 英語学研究論文(2)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>10. 英語学研究論文(10)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>3. 英語学研究論文(3)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>11. 英語学研究論文(11)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>4. 英語学研究論文(4)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>12. 英語学研究論文(12)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>5. 英語学研究論文(5)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>13. 英語学研究論文(13)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>6. 英語学研究論文(6)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>14. 英語学研究論文(14)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>7. 英語学研究論文(7)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td>15. 英語学研究論文(15)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>8. 英語学研究論文(8)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション</td> <td></td> </tr> </table>					1. 英語学研究論文(1)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	9. 英語学研究論文(9)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	2. 英語学研究論文(2)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	10. 英語学研究論文(10)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	3. 英語学研究論文(3)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	11. 英語学研究論文(11)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	4. 英語学研究論文(4)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	12. 英語学研究論文(12)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	5. 英語学研究論文(5)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	13. 英語学研究論文(13)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	6. 英語学研究論文(6)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	14. 英語学研究論文(14)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	7. 英語学研究論文(7)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	15. 英語学研究論文(15)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	8. 英語学研究論文(8)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	
1. 英語学研究論文(1)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	9. 英語学研究論文(9)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
2. 英語学研究論文(2)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	10. 英語学研究論文(10)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
3. 英語学研究論文(3)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	11. 英語学研究論文(11)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
4. 英語学研究論文(4)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	12. 英語学研究論文(12)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
5. 英語学研究論文(5)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	13. 英語学研究論文(13)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
6. 英語学研究論文(6)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	14. 英語学研究論文(14)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
7. 英語学研究論文(7)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション	15. 英語学研究論文(15)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																				
8. 英語学研究論文(8)のオーラル・レポート 討論者によるコメント ディスカッション																					
◇ 成績評価の方法	期末レポート																				
◇ 教科書・参考書	取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。 参考文献・参考書は随時紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
英 語 解 析 学 特 論 I Analytical Study of English (Advanced Lecture) I	2	教授 金子 義明	1 学期	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIN606J																				
◆ 授業題目	統語論・意味論インターフェイス研究 I																				
◆ 目的・概要	生成文法理論による統語論・意味論（および語用論）のインターフェイスに関わる具体的研究をとりあげ、研究動向を把握し、今後の理論進展の方向を探る。																				
◆ 到達目標	生成文法理論によるインターフェイス研究の動向を把握する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(1)の批判的検討 ディスカッション</td> <td>9. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(9)の批判的検討 ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>2. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(2)の批判的検討 ディスカッション</td> <td>10. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(10)の批判的検討 ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>3. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(3)の批判的検討 ディスカッション</td> <td>11. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(11)の批判的検討 ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>4. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(4)の批判的検討 ディスカッション</td> <td>12. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(12)の批判的検討 ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>5. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(5)の批判的検討 ディスカッション</td> <td>13. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(13)の批判的検討 ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>6. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(6)の批判的検討 ディスカッション</td> <td>14. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(14)の批判的検討 ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>7. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(7)の批判的検討 ディスカッション</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(8)の批判的検討 ディスカッション</td> <td></td> </tr> </table>					1. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(1)の批判的検討 ディスカッション	9. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(9)の批判的検討 ディスカッション	2. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(2)の批判的検討 ディスカッション	10. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(10)の批判的検討 ディスカッション	3. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(3)の批判的検討 ディスカッション	11. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(11)の批判的検討 ディスカッション	4. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(4)の批判的検討 ディスカッション	12. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(12)の批判的検討 ディスカッション	5. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(5)の批判的検討 ディスカッション	13. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(13)の批判的検討 ディスカッション	6. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(6)の批判的検討 ディスカッション	14. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(14)の批判的検討 ディスカッション	7. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(7)の批判的検討 ディスカッション	15. まとめ	8. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(8)の批判的検討 ディスカッション	
1. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(1)の批判的検討 ディスカッション	9. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(9)の批判的検討 ディスカッション																				
2. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(2)の批判的検討 ディスカッション	10. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(10)の批判的検討 ディスカッション																				
3. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(3)の批判的検討 ディスカッション	11. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(11)の批判的検討 ディスカッション																				
4. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(4)の批判的検討 ディスカッション	12. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(12)の批判的検討 ディスカッション																				
5. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(5)の批判的検討 ディスカッション	13. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(13)の批判的検討 ディスカッション																				
6. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(6)の批判的検討 ディスカッション	14. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(14)の批判的検討 ディスカッション																				
7. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(7)の批判的検討 ディスカッション	15. まとめ																				
8. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(8)の批判的検討 ディスカッション																					
◇ 成績評価の方法	期末レポート																				
◇ 教科書・参考書	取り上げる文献は英語学研究室ホームページで前もって通知する。 参考文献・参考書は随時紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	十分な予習・復習に心がけること。特に自分の研究テーマとの関連性に留意した学習を行うこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時		
英 語 解 析 学 特 論 II Analytical Study of English (Advanced Lecture) II	2	教 授 金 子 義 明	2 学 期	火	5		
◆ 科目ナンバリング	LHSLIN607J						
◆ 授業題目	統語論・意味論インターフェイス研究Ⅱ						
◆ 目的・概要	生成文法理論による統語論・意味論（および語用論）のインターフェイスに関わる具体的研究をとりあげ、研究動向を把握し、今後の理論進展の方向を探る。						
◆ 到達目標	生成文法理論によるインターフェイス研究の動向を把握する						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(1)の批判的検討 ディスカッション 2. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(2)の批判的検討 ディスカッション 3. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(3)の批判的検討 ディスカッション 4. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(4)の批判的検討 ディスカッション 5. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(5)の批判的検討 ディスカッション 6. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(6)の批判的検討 ディスカッション 7. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(7)の批判的検討 ディスカッション 8. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(8)の批判的検討 ディスカッション </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> 9. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(9)の批判的検討 ディスカッション 10. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(10)の批判的検討 ディスカッション 11. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(11)の批判的検討 ディスカッション 12. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(12)の批判的検討 ディスカッション 13. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(13)の批判的検討 ディスカッション 14. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(14)の批判的検討 ディスカッション 15. まとめ </td> </tr> </table>					1. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(1)の批判的検討 ディスカッション 2. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(2)の批判的検討 ディスカッション 3. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(3)の批判的検討 ディスカッション 4. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(4)の批判的検討 ディスカッション 5. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(5)の批判的検討 ディスカッション 6. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(6)の批判的検討 ディスカッション 7. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(7)の批判的検討 ディスカッション 8. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(8)の批判的検討 ディスカッション	9. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(9)の批判的検討 ディスカッション 10. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(10)の批判的検討 ディスカッション 11. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(11)の批判的検討 ディスカッション 12. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(12)の批判的検討 ディスカッション 13. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(13)の批判的検討 ディスカッション 14. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(14)の批判的検討 ディスカッション 15. まとめ
1. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(1)の批判的検討 ディスカッション 2. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(2)の批判的検討 ディスカッション 3. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(3)の批判的検討 ディスカッション 4. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(4)の批判的検討 ディスカッション 5. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(5)の批判的検討 ディスカッション 6. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(6)の批判的検討 ディスカッション 7. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(7)の批判的検討 ディスカッション 8. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(8)の批判的検討 ディスカッション	9. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(9)の批判的検討 ディスカッション 10. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(10)の批判的検討 ディスカッション 11. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(11)の批判的検討 ディスカッション 12. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(12)の批判的検討 ディスカッション 13. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(13)の批判的検討 ディスカッション 14. 統語論・意味論インターフェイス研究文献(14)の批判的検討 ディスカッション 15. まとめ						
◇ 成績評価の方法	期末レポート						
◇ 教科書・参考書	取り上げる文献は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。						
◇ 授業時間外学習	十分な予習・復習に心がけること。特に、各自の研究テーマとの関連性に留意すること。						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
ド イ ツ 文 学 特 論 I German Literature (Advanced Lecture) I	2	非常勤講師 佐藤 研 一	1 学期	火	5
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT630J				
◆ 授業題目	十八世紀ドイツ戯曲の誕生Ⅷ				
◆ 目的・概要	「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程にはかならない。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではないのである。この点を見定めながら、十八世紀ドイツを代表するレッシングの市民悲劇『エミーリア・ガロッチィ』（1772）を精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのか考える。				
◆ 到達目標	文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されているが、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれてくる。原典を読みつつ、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。				
◆ 授業内容・方法	<p>1. 十八世紀ドイツ戯曲は、まず『エミーリア・ガロッチィ』を以て、擬古典主義の藪が払われ、新文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』（1773）やJ.M.R. レントの喜劇『家庭教師』（1774）や喜劇『軍人たち』（1776）が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。ドイツの市井風俗百態を、その体内に巣食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。</p> <p>2. この点を念頭に置いて、台詞の一言一句を味わいながら、『エミーリア・ガロッチィ』を演習形式で読む。演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくものである。したがって、その内容や進度は、機械的に決められるはずもない。初回は、オリエンテーションに当てるが、2回目から15回目までは、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえて、授業を進めてゆく。</p>				
◇ 成績評価の方法	レポート [30%]・出席 [70%]				
◇ 教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Emilia Galotti. Stuttgart: Reclam, 2012.) は、プリントで配布する。参考文献はつぎのとおり。 ・Goethe, Johann Wolfgang: Götz von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004. ・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder Vorteile der Privaterziehung. Stuttgart: Reclam, 2001. ・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Die Soldaten. Stuttgart: Reclam, 2004. 				
◇ 授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・柴田翔『内面世界に映る歴史 ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986年。 ・坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996年。 				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
ド イ ツ 文 学 特 論 II German Literature (Advanced Lecture) II	2	非常勤講師 佐藤 研 一	2 学期	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT631J				
◆ 授業題目	十八世紀ドイツ戯曲の誕生Ⅷ				
◆ 目的・概要	「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程にはかならない。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではないのである。この点を見定めながら、十八世紀ドイツを代表するレッシングの市民悲劇『エミーリア・ガロッチィ』（1772）を精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのか考える。				
◆ 到達目標	文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されているが、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれてくる。原典を読みつつ、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。				
◆ 授業内容・方法	<p>1. 十八世紀ドイツ戯曲は、まず『エミーリア・ガロッチィ』を以て、擬古典主義の藪が払われ新文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』（1773）やJ.M.R. レントの喜劇『家庭教師』（1774）や喜劇『軍人たち』（1776）が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。市井風俗百態を、その体内に巣食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。</p> <p>2. この点を念頭に置いて、台詞の一言一句を味わいながら、『エミーリア・ガロッチィ』を演習形式で読む。演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくものである。したがって、その内容や進度は、機械的に決められるはずもない。初回は、オリエンテーションに当てるが、2回目から15回目までは、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえて、授業を進めてゆく。</p>				
◇ 成績評価の方法	レポート [30%]・出席 [70%]				
◇ 教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Emilia Galotti. Stuttgart: Reclam, 2012.) は、プリントで配布する。参考文献はつぎのとおり。 ・Goethe, Johann Wolfgang: Götz von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004. ・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder Vorteile der Privaterziehung. Stuttgart: Reclam, 2001. ・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Die Soldaten. Stuttgart: Reclam, 2004. 				
◇ 授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・柴田翔『内面世界に映る歴史 ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986年。 ・坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996年。 				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
ド イ ツ 文 学 特 論 III German Literature (Advanced Lecture) III	2	非常勤講師 佐々木 果	集 中 (2)		
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT632J				
◆ 授業題目	イメージと物語				
◆ 目的・概要	言語だけで表現された一般的な文学作品とは異なる、視覚的なイメージを用いる絵物語やまんがなどの「語り」のなりたちについて、ヨーロッパの歴史を追いながら考える。特に、現代の物語まんがの父といわれるテプフェールやブッシュ、彼らに影響を与えたといわれるホガースなどの検討を通じて、まんがやアニメーションなどの「イメージによる物語」の問題点を洗い出し、イメージと物語の理論について理解を深める。				
◆ 到達目標	言語とイメージを用いた物語のなりたちを歴史的に検討し、理解を深める。また、そのことを通じて、現代のさまざまなメディアに拡張された物語表現の意義を考えるための知識と思考力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の視覚メディアと物語 2. イメージを物語的に理解することについて 3. まんがはどこから来たか 4. ヨーロッパにおける分割された絵と物語の歴史 5. 18世紀：ウィリアム・ホガースとカリカチュア 6. 19世紀前半：物語まんがの父、ロドルフ・テプフェール 7. 19世紀後半：ヴィルヘルム・ブッシュからコミックへ 8. 日本におけるポンチ・漫画の成立 9. 20世紀前半：世界的な物語まんがの流行と形式の変化 10. まんがにおける語り（物語行為）の問題 11. まんがの絵はいかに修辭的に機能するか 12. 映画・アニメーションの出現とまんが 13. 物語とキャラクター 14. メディアとリアリティについて 15. 振り返りとまとめ 				
◇ 成績評価の方法	授業内にて振り返りのレポートを課す。 歴史的な問題の理解度：50% 物語論の問題の理解度：50%				
◇ 教科書・参考書	授業内にて資料を配布の上、参考図書についても随時紹介をする。				
◇ 授業時間外学習	毎回の授業内容を復習し、良く理解した上で次の授業に臨むようにすること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
ド イ ツ 文 学 研 究 演 習 I German Literature (Advanced Seminar) I	2	教授 森 本 浩 一	1 学期	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT633J				
◆ 授業題目	批評演習(1)				
◆ 目的・概要	主観的な作品経験から出発して批評的テキストを生み出す、つまり「読む（見る）こと」を「書くこと」につなげるための訓練である。論文執筆の準備を兼ねる。「文学」分野での主たる仕事は、文化的な対象、特に文学などのアート作品について「何かを書く」ことである。それは通常の学問＝科学的な「説明」とは違い、自らが作品から受容したものをあらためて言語で「表現」という、それ自体創造的な行為である。この「批評」と呼ばれる作業では、作品のいわゆる「客観的」な分析も必要ではあるが、それも実際には論者の「解釈」を効果的・説得的に他者に伝達するための手段に過ぎない。しかも難しいのは、どのように書けば説得的でありうるのか、明確な規則がないことである。この授業は、物語的性格を持つ様々なジャンルの作品について、実際に各人が批評文を書き、それを素材に参加者全員が討議する形で進めてゆく。「批評」とはどのような営為なのかを各人が実感し、自分にとって満足のゆくより効果的なテキストを生産できるようになることが授業の目標である。				
◆ 到達目標	作品を批評的に受容・解釈するための観点や方法について理解が深まるとともに、物語に向き合う自分自身の嗜好や傾向性を自覚できるようになり、それによって日本語による批評的作文技能が向上する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. メディア比較(1) 3. メディア比較(1) 4. 自由課題批評(1) 5. 自由課題批評(2) 6. 自由課題批評(3) 7. 映画を批評する(1) 8. 映画を批評する(2) 9. 小説を批評する(1) 10. 小説を批評する(2) 11. マンガを批評する(1) 12. マンガを批評する(2) 13. 映画を批評する(3) 14. 映画を批評する(4) 15. 長篇小説を批評する 				
◇ 成績評価の方法	おおむね、各回の批評文の提出と討議への参加（80%）およびレポート（20%）。				
◇ 教科書・参考書	必要に応じて授業中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	各人の批評文を素材として授業を行うので、指定された提出物は必ず指示された時間までにメール添付で送信すること。				
その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ること。 xkc-m2rt@m.tohoku.ac.jp（森本浩一）					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 学 研 究 演 習 Ⅱ German Literature (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教授 森 本 浩 一	2 学 期	金	2																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSLIT634J 批評演習(2) 主観的な作品経験から出発して批評的テキストを生み出す、つまり「読む(見る)こと」を「書くこと」につなげるための訓練である。論文執筆の準備を兼ねる。「文学」分野での主たる仕事は、文化的な対象、特に文学などのアート作品について「何かを書く」ことである。それは通常の学問=科学的な「説明」とは違い、自らが作品から受容したものをあらためて言語で「表現」という、それ自体創造的な行為である。この「批評」と呼ばれる作業では、作品のいわゆる「客観的」な分析も必要ではあるが、それも実際には論者の「解釈」を効果的・説得的に他者に伝達するための手段に過ぎない。しかも難しいのは、どのように書けば説得的でありうるのか、明確な規則がないことである。この授業は、物語的性格を持つ様々なジャンルの作品について、実際に各人が批評文を書き、それを素材に参加者全員が討議する形で進めてゆく。「批評」とはどのような営為なのかを各人が実感し、自分にとって満足のゆくより効果的なテキストを生産できるようになることが授業の目標である。後期は、各自が選定した作品について発表を行い、他の参加者がその作品を読んで(見て)発表者と討議・応答する形式で進める。																				
◆ 到達目標	作品を批評的に受容・解釈するための観点や方法について理解が深まるとともに、物語に向き合う自分自身の嗜好や傾向性を自覚できるようになり、それによって日本語による批評的作文技能が向上する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入講義(1)</td> <td>9. 発表と討議(7)</td> </tr> <tr> <td>2. 導入講義(2)</td> <td>10. 発表と討議(8)</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と討議(1)</td> <td>11. 発表と討議(9)</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と討議(2)</td> <td>12. 発表と討議(10)</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と討議(3)</td> <td>13. 発表と討議(11)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と討議(4)</td> <td>14. 発表と討議(12)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と討議(5)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表と討議(6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入講義(1)	9. 発表と討議(7)	2. 導入講義(2)	10. 発表と討議(8)	3. 発表と討議(1)	11. 発表と討議(9)	4. 発表と討議(2)	12. 発表と討議(10)	5. 発表と討議(3)	13. 発表と討議(11)	6. 発表と討議(4)	14. 発表と討議(12)	7. 発表と討議(5)	15. まとめ	8. 発表と討議(6)	
1. 導入講義(1)	9. 発表と討議(7)																				
2. 導入講義(2)	10. 発表と討議(8)																				
3. 発表と討議(1)	11. 発表と討議(9)																				
4. 発表と討議(2)	12. 発表と討議(10)																				
5. 発表と討議(3)	13. 発表と討議(11)																				
6. 発表と討議(4)	14. 発表と討議(12)																				
7. 発表と討議(5)	15. まとめ																				
8. 発表と討議(6)																					
◇ 成績評価の方法	個人発表・各回の討議への参加・応答レポートの提出(80%)および最終レポート(20%)。																				
◇ 教科書・参考書	必要に応じて授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	発表のレジュメと各回の応答レポートは、必ず指示された時間までにメール添付で提出すること。																				
その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ること。 xkc-m2rt@m.tohoku.ac.jp (森本浩一)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 学 研 究 演 習 Ⅲ German Literature (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教授 シュミッツ, ブリギッテ	1 学 期	水	3																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSLIT635F Werke der literarischen Moderne mit und ohne Verfilmungen sowie die Präsentation von Ausschnitten aus Hörbüchern (Teil I) Lektüre einzelner bedeutender Werke - speziell ausgewählte Textauszüge - und das Ansehen der Filme - zum Teil zu vereinbarten Sichtterminen außerhalb der Unterrichtszeit; Hörproben aus Audiobüchern; Sprechen über die Texte und die filmischen Interpretationen; Hintergrundmaterial zu den Verfilmungen wird bereitgestellt; Bearbeiten von Arbeitsblätter.																				
◆ 到達目標	Steigerung der Textverstehensfähigkeit / Sprechkompetenz; Verbesserung des schriftlichen Ausdrucksvermögens; Verbesserung des Hörverstehens; Erweiterung der Kenntnisse über Werke einflussreicher Schriftstellerinnen und Schriftsteller deutschsprachiger Literatur; Bewusstmachen der Strategien und der Besonderheiten sowie der spezifischen Probleme filmischer Realisation der jeweiligen Werke.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(8)</td> </tr> <tr> <td>2. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(1)</td> <td>10. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(9)</td> </tr> <tr> <td>3. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(2)</td> <td>11. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(10)</td> </tr> <tr> <td>4. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(3)</td> <td>12. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(11)</td> </tr> <tr> <td>5. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(4)</td> <td>13. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(12)</td> </tr> <tr> <td>6. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(5)</td> <td>14. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(13)</td> </tr> <tr> <td>7. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(6)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(8)	2. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(1)	10. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(9)	3. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(2)	11. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(10)	4. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(3)	12. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(11)	5. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(4)	13. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(12)	6. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(5)	14. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(13)	7. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(6)	15. まとめ	8. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(7)	
1. ガイダンス	9. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(8)																				
2. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(1)	10. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(9)																				
3. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(2)	11. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(10)																				
4. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(3)	12. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(11)																				
5. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(4)	13. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(12)																				
6. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(5)	14. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(13)																				
7. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(6)	15. まとめ																				
8. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(7)																					
◇ 成績評価の方法	Schriftliche Prüfung (= Test oder Hausarbeit): (60%); Anwesenheit / Vorbereitung / Mitarbeit (40%)																				
◇ 教科書・参考書	Bekanntgabe nach Festlegung der thematischen Schwerpunkte. Im Zusammenhang mit Thomas Manns Werk werden die folgenden Textausgaben verwendet: Thomas Mann: Große kommentierte Frankfurter Ausgabe (GKFA). Herausgegeben von Heinrich Detering et al., S. Fischer Verlag Frankfurt a. M., 2000 ff.; Thomas Mann: Gesammelte Werke in dreizehn Bänden, Frankfurt a. M.: S. Fischer Verlag, 2. Auflage 1974 [1. Auflage 1960]																				
◇ 授業時間外学習	準備されたテキストを読んでおくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
ド イ ツ 文 学 研 究 演 習 IV German Literature (Advanced Seminar) IV	2	教授 シュミッツ, プリギッテ	2 学期	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT636F				
◆ 授業題目	Werke der literarischen Moderne mit und ohne Verfilmungen sowie die Präsentation von Ausschnitten aus Hörbüchern (Teil II)				
◆ 目的・概要	Lektüre einzelner bedeutender Werke – speziell ausgewählte Textauszüge – und das Ansehen der Filme – zum Teil zu vereinbarten Sichtterminen außerhalb der Unterrichtszeit; Hörproben aus Audiobüchern; Sprechen über die Texte und die filmischen Interpretationen; Hintergrundmaterial zu den Verfilmungen wird bereitgestellt; Bearbeiten von Arbeitsblättern.				
◆ 到達目標	Steigerung der Textverstehensfähigkeit / Sprechkompetenz; Verbesserung des schriftlichen Ausdrucksvermögens; Verbesserung des Hörverstehens; Erweiterung der Kenntnisse über Werke einflussreicher Schriftsteller bzw. Schriftstellerinnen deutschsprachiger Literatur; Bewusstmachen der Strategien und der Besonderheiten sowie der spezifischen Probleme filmischer Realisation der jeweiligen Werke.				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(1) 3. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(2) 4. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(3) 5. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(4) 6. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(5) 7. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(6) 8. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(7) 9. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(8) 10. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(9) 11. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(10) 12. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(11) 13. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(12) 14. テキストの読解、作文、文学的分析、発表(13) 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	Schriftliche Prüfung (= Test oder Hausarbeit): (60%); Anwesenheit / Vorbereitung / Mitarbeit (40%)				
◇ 教科書・参考書	Bekanntgabe nach Festlegung der thematischen Schwerpunkte. Im Zusammenhang mit Thomas Manns Werk werden die folgenden Textausgaben verwendet: Thomas Mann: Große kommentierte Frankfurter Ausgabe (GKFA). Herausgegeben von Heinrich Detering et al. S. Fischer Verlag Frankfurt a. M., 2000 ff.; Thomas Mann: Gesammelte Werke in dreizehn Bänden, Frankfurt a. M.: S. Fischer Verlag, 2. Auflage 1974 [1. Auflage 1960]				
◇ 授業時間外学習	準備されたテキストを読んでおくこと。				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
ド イ ツ 文 化 学 特 論 I German Culture (Advanced Lecture) I	2	教授 嶋 崎 啓	1 学期	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT637J				
◆ 授業題目	近現代ドイツ短編小説講読				
◆ 目的・概要	ドイツ語で書かれた短編小説を読み、ドイツ文学一般の特徴と個々の作家の魅力を探る。今学期は Hofmannsthal: Ein Brief (von Chandos) および Die Wege und die Begegnungen を読む予定である。				
◆ 到達目標	ドイツ語の語彙力を強化し、文構造に慣れ、読解力を高める。それによって近現代のドイツ語の短編小説の特性を考察する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. “Ein Brief” 講読 1 3. “Ein Brief” 講読 2 4. “Ein Brief” 講読 3 5. “Ein Brief” 講読 4 6. “Ein Brief” 講読 5 7. “Ein Brief” 講読 6 8. “Ein Brief” 講読 7 9. “Ein Brief” 講読 8 10. “Ein Brief” 講読 9 11. “Die Wege und die Begegnungen” 講読 1 12. “Die Wege und die Begegnungen” 講読 2 13. “Die Wege und die Begegnungen” 講読 3 14. “Die Wege und die Begegnungen” 講読 4 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	平常点 (出席、授業での発言、質疑) [100%]				
◇ 教科書・参考書	プリントを配布する。				
◇ 授業時間外学習	一言一句をおろそかにしない、徹底した予習を期待している。				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 化 学 特 論 Ⅱ German Culture (Advanced Lecture) Ⅱ	2	教授	嶋 崎 啓	2 学期	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT638J																					
◆ 授業題目	近現代ドイツ短編小説講読																					
◆ 目的・概要	ドイツ語で書かれた短編小説を読み、ドイツ文学一般の特徴と個々の作家の魅力を探る。今学期はE. T. A. Hoffmann: Des Vettters Eckfensterを読む予定である。																					
◆ 到達目標	ドイツ語の語彙力を強化し、文構造に慣れ、読解力を高める。それによって近現代のドイツ語の短編小説の特性を考察する。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. “Des Vettters Eckfenster” 講読 8</td> </tr> <tr> <td>2. “Des Vettters Eckfenster” 講読 1</td> <td>10. “Des Vettters Eckfenster” 講読 9</td> </tr> <tr> <td>3. “Des Vettters Eckfenster” 講読 2</td> <td>11. “Des Vettters Eckfenster” 講読 10</td> </tr> <tr> <td>4. “Des Vettters Eckfenster” 講読 3</td> <td>12. “Des Vettters Eckfenster” 講読 11</td> </tr> <tr> <td>5. “Des Vettters Eckfenster” 講読 4</td> <td>13. “Des Vettters Eckfenster” 講読 12</td> </tr> <tr> <td>6. “Des Vettters Eckfenster” 講読 5</td> <td>14. “Des Vettters Eckfenster” 講読 13</td> </tr> <tr> <td>7. “Des Vettters Eckfenster” 講読 6</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. “Des Vettters Eckfenster” 講読 7</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス	9. “Des Vettters Eckfenster” 講読 8	2. “Des Vettters Eckfenster” 講読 1	10. “Des Vettters Eckfenster” 講読 9	3. “Des Vettters Eckfenster” 講読 2	11. “Des Vettters Eckfenster” 講読 10	4. “Des Vettters Eckfenster” 講読 3	12. “Des Vettters Eckfenster” 講読 11	5. “Des Vettters Eckfenster” 講読 4	13. “Des Vettters Eckfenster” 講読 12	6. “Des Vettters Eckfenster” 講読 5	14. “Des Vettters Eckfenster” 講読 13	7. “Des Vettters Eckfenster” 講読 6	15. まとめ	8. “Des Vettters Eckfenster” 講読 7	
1. ガイダンス	9. “Des Vettters Eckfenster” 講読 8																					
2. “Des Vettters Eckfenster” 講読 1	10. “Des Vettters Eckfenster” 講読 9																					
3. “Des Vettters Eckfenster” 講読 2	11. “Des Vettters Eckfenster” 講読 10																					
4. “Des Vettters Eckfenster” 講読 3	12. “Des Vettters Eckfenster” 講読 11																					
5. “Des Vettters Eckfenster” 講読 4	13. “Des Vettters Eckfenster” 講読 12																					
6. “Des Vettters Eckfenster” 講読 5	14. “Des Vettters Eckfenster” 講読 13																					
7. “Des Vettters Eckfenster” 講読 6	15. まとめ																					
8. “Des Vettters Eckfenster” 講読 7																						
◇ 成績評価の方法	平常点（出席、授業での発言、質疑） [100%]																					
◇ 教科書・参考書	プリントを配布する。																					
◇ 授業時間外学習	一言一句をおろそかにしない、徹底した予習を期待している。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 化 学 特 論 Ⅲ German Culture (Advanced Lecture) Ⅲ	2	非常勤講師	松 崎 裕 人	2 学期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT639J																					
◆ 授業題目	ドイツ語圏文学講読																					
◆ 目的・概要	現代ドイツ語圏の文学作品を読みながら、読解力の養成をはかる。今期では19、20世紀転換期オーストリアの作家アルトゥア・シュニッツラー（1862-1931）の短編を読む。原文講読を通して、小説における技法のいくつかについて習熟する。また、作品の背景となる社会史的、文化的状況について理解を深める。																					
◆ 到達目標	中級ドイツ語以上の原文を読解することができる。 特殊辞典・事典の使い方に慣れる。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 読解(8)および意識の流れ(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 読解(1)および作家紹介(1)</td> <td>10. 読解(9)および内的独白(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 読解(2)および作家紹介(2)</td> <td>11. 読解(10)および内的独白(2)</td> </tr> <tr> <td>4. 読解(3)および作品背景紹介(1)</td> <td>12. 読解(11)および体験話法(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 読解(4)および作品背景紹介(2)</td> <td>13. 読解(12)および体験話法(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 読解(5)およびユダヤ問題(1)</td> <td>14. 読解(13)および医者＝文学者の視点</td> </tr> <tr> <td>7. 読解(6)およびユダヤ問題(2)</td> <td>15. まとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 読解(7)および意識の流れ(1)</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス	9. 読解(8)および意識の流れ(2)	2. 読解(1)および作家紹介(1)	10. 読解(9)および内的独白(1)	3. 読解(2)および作家紹介(2)	11. 読解(10)および内的独白(2)	4. 読解(3)および作品背景紹介(1)	12. 読解(11)および体験話法(1)	5. 読解(4)および作品背景紹介(2)	13. 読解(12)および体験話法(2)	6. 読解(5)およびユダヤ問題(1)	14. 読解(13)および医者＝文学者の視点	7. 読解(6)およびユダヤ問題(2)	15. まとめと試験	8. 読解(7)および意識の流れ(1)	
1. ガイダンス	9. 読解(8)および意識の流れ(2)																					
2. 読解(1)および作家紹介(1)	10. 読解(9)および内的独白(1)																					
3. 読解(2)および作家紹介(2)	11. 読解(10)および内的独白(2)																					
4. 読解(3)および作品背景紹介(1)	12. 読解(11)および体験話法(1)																					
5. 読解(4)および作品背景紹介(2)	13. 読解(12)および体験話法(2)																					
6. 読解(5)およびユダヤ問題(1)	14. 読解(13)および医者＝文学者の視点																					
7. 読解(6)およびユダヤ問題(2)	15. まとめと試験																					
8. 読解(7)および意識の流れ(1)																						
◇ 成績評価の方法	筆記試験（70%）および平常評価（30%）による総合評価																					
◇ 教科書・参考書	テキスト：① Arthur Schnitzler: Die Toten schweigen. (プリント配布) ② Arthur Schnitzler: Der Sohn. (プリント配布) それ以外のテキストや参考文献については開講時に紹介します。																					
◇ 授業時間外学習	毎回、テキスト2頁ほどの十分な準備が必要です。その段階で不明な箇所を洗い出し、それを授業時に確認し、復習によって確かなものとしてください。																					
その他：オフィスアワー等については開講時に案内します。																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 化 学 研 究 演 習 I German Culture (Advanced Seminar) I	2	教 授 嶋 崎 啓	1 学 期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT641J																				
◆ 授業題目	中高ドイツ語講読																				
◆ 目的・概要	1200年頃の中高ドイツ語 (Mittelhochdeutsch) を理解することを目指し、ドイツ中世叙事詩「ニーベルンゲンの歌」を講読する。																				
◆ 到達目標	中高ドイツ語の文学作品を読み、表現が理解できるようになる。ヨーロッパ中世の文化や世界観についての知識を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 5</td> </tr> <tr> <td>2. 中高ドイツ語の基礎知識 1</td> <td>10. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 6</td> </tr> <tr> <td>3. 中高ドイツ語の基礎知識 2</td> <td>11. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 7</td> </tr> <tr> <td>4. 中高ドイツ語の基礎知識 3</td> <td>12. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 8</td> </tr> <tr> <td>5. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 1</td> <td>13. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 9</td> </tr> <tr> <td>6. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 2</td> <td>14. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 10</td> </tr> <tr> <td>7. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 3</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 4</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 5	2. 中高ドイツ語の基礎知識 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 6	3. 中高ドイツ語の基礎知識 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 7	4. 中高ドイツ語の基礎知識 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 8	5. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 1	13. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 9	6. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 2	14. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 10	7. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 3	15. まとめ	8. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 4	
1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 5																				
2. 中高ドイツ語の基礎知識 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 6																				
3. 中高ドイツ語の基礎知識 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 7																				
4. 中高ドイツ語の基礎知識 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 8																				
5. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 1	13. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 9																				
6. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 2	14. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 10																				
7. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 3	15. まとめ																				
8. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 4																					
◇ 成績評価の方法	平常点 (出席、授業での発言、質疑) [100%]																				
◇ 教科書・参考書	テキスト：Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutsch/Neuhochdeutsch. Stuttgart: Reclam 1997. 参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社、浜崎長寿『中高ドイツ語の分類語彙と変化表』大学書林、M. Lexers Mittelhochdeutsches Taschenwörterbuch. Stuttgart: Hirzel.																				
◇ 授業時間外学習	前もって単語の文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づきつつ、辞書を使って予習をしてもらいたい。																				
その他：講読する箇所は先学期からの続きである。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
ド イ ツ 文 化 学 研 究 演 習 II German Culture (Advanced Seminar) II	2	教 授 嶋 崎 啓	2 学 期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT642J																				
◆ 授業題目	中高ドイツ語講読																				
◆ 目的・概要	1200年頃の中高ドイツ語 (Mittelhochdeutsch) を理解することを目指し、ドイツ中世叙事詩「ニーベルンゲンの歌」を講読する。																				
◆ 到達目標	中高ドイツ語の文学作品を読み、表現が理解できるようになる。ヨーロッパ中世の文化や世界観についての知識を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 8</td> </tr> <tr> <td>2. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 1</td> <td>10. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 9</td> </tr> <tr> <td>3. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 2</td> <td>11. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 10</td> </tr> <tr> <td>4. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 3</td> <td>12. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 11</td> </tr> <tr> <td>5. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 4</td> <td>13. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 12</td> </tr> <tr> <td>6. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 5</td> <td>14. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 13</td> </tr> <tr> <td>7. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 6</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 8	2. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 9	3. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 10	4. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 11	5. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 4	13. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 12	6. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 5	14. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 13	7. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 6	15. まとめ	8. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 7	
1. ガイダンス	9. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 8																				
2. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 1	10. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 9																				
3. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 2	11. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 10																				
4. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 3	12. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 11																				
5. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 4	13. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 12																				
6. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 5	14. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 13																				
7. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 6	15. まとめ																				
8. 「ニーベルンゲンの歌」 講読 7																					
◇ 成績評価の方法	平常点 (出席、授業での発言、質疑) [100%]																				
◇ 教科書・参考書	テキスト：Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutsch/Neuhochdeutsch. Stuttgart: Reclam 1997. 参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社、浜崎長寿『中高ドイツ語の分類語彙と変化表』大学書林、M. Lexers Mittelhochdeutsches Taschenwörterbuch. Stuttgart: Hirzel.																				
◇ 授業時間外学習	前もって単語の文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づきつつ、辞書を使って予習をしてもらいたい。																				
その他：講読する箇所は先学期からの続きである。中高ドイツ語についての基礎知識がない受講者がいる場合は、最初に中高ドイツ語について講義を行う。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 特 論 I French Literature (Advanced Lecture) I	2	教 授 今 井 勉	1 学 期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT645J																				
◆ 授業題目	ヴァレリー研究(1)																				
◆ 目的・概要	ポール・ヴァレリーのデビュー評論『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』を読む。読解に当たっては、間テキスト性と生成過程の検討を主な手続きとする。																				
◆ 到達目標	間テキスト性と生成過程の研究の実際を学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入：ポール・ヴァレリー研究の現在と初期散文研究の意義</td> <td>9. レオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』の冒頭三段落(1)</td> <td>10. レオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』の冒頭三段落(2)</td> <td>11. 想像力論(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』の冒頭三段落(3)</td> <td>12. 想像力論(2)</td> </tr> <tr> <td>5. エドガー・ポーを読むヴァレリー(1)</td> <td>13. 想像力論(3)</td> </tr> <tr> <td>6. エドガー・ポーを読むヴァレリー(2)</td> <td>14. 想像力論(4)</td> </tr> <tr> <td>7. エドガー・ポーを読むヴァレリー(3)</td> <td>15. 前期のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. レオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入：ポール・ヴァレリー研究の現在と初期散文研究の意義	9. レオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(2)	2. 『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』の冒頭三段落(1)	10. レオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(3)	3. 『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』の冒頭三段落(2)	11. 想像力論(1)	4. 『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』の冒頭三段落(3)	12. 想像力論(2)	5. エドガー・ポーを読むヴァレリー(1)	13. 想像力論(3)	6. エドガー・ポーを読むヴァレリー(2)	14. 想像力論(4)	7. エドガー・ポーを読むヴァレリー(3)	15. 前期のまとめ	8. レオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(1)	
1. 導入：ポール・ヴァレリー研究の現在と初期散文研究の意義	9. レオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(2)																				
2. 『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』の冒頭三段落(1)	10. レオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(3)																				
3. 『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』の冒頭三段落(2)	11. 想像力論(1)																				
4. 『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』の冒頭三段落(3)	12. 想像力論(2)																				
5. エドガー・ポーを読むヴァレリー(1)	13. 想像力論(3)																				
6. エドガー・ポーを読むヴァレリー(2)	14. 想像力論(4)																				
7. エドガー・ポーを読むヴァレリー(3)	15. 前期のまとめ																				
8. レオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(1)																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加状況100%																				
◇ 教科書・参考書	プリント配付																				
◇ 授業時間外学習	予習をして授業に臨むこと																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 特 論 II French Literature (Advanced Lecture) II	2	教 授 今 井 勉	2 学 期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT646J																				
◆ 授業題目	ヴァレリー研究(2)																				
◆ 目的・概要	ポール・ヴァレリーのデビュー評論『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』を読む。読解に当たっては、間テキスト性と生成過程の検討を主な手続きとする。																				
◆ 到達目標	間テキスト性と生成過程の研究の実際を学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入：問題意識の確認</td> <td>9. 再びレオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 自然科学系の文献を読むヴァレリー(1)</td> <td>10. 再びレオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 自然科学系の文献を読むヴァレリー(2)</td> <td>11. 重層するテキスト(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 自然科学系の文献を読むヴァレリー(3)</td> <td>12. 重層するテキスト(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 詩と抽象的思考(1)</td> <td>13. 重層するテキスト(3)</td> </tr> <tr> <td>6. 詩と抽象的思考(2)</td> <td>14. 重層するテキスト(4)</td> </tr> <tr> <td>7. 詩と抽象的思考(3)</td> <td>15. 後期のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 再びレオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入：問題意識の確認	9. 再びレオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(2)	2. 自然科学系の文献を読むヴァレリー(1)	10. 再びレオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(3)	3. 自然科学系の文献を読むヴァレリー(2)	11. 重層するテキスト(1)	4. 自然科学系の文献を読むヴァレリー(3)	12. 重層するテキスト(2)	5. 詩と抽象的思考(1)	13. 重層するテキスト(3)	6. 詩と抽象的思考(2)	14. 重層するテキスト(4)	7. 詩と抽象的思考(3)	15. 後期のまとめ	8. 再びレオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(1)	
1. 導入：問題意識の確認	9. 再びレオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(2)																				
2. 自然科学系の文献を読むヴァレリー(1)	10. 再びレオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(3)																				
3. 自然科学系の文献を読むヴァレリー(2)	11. 重層するテキスト(1)																				
4. 自然科学系の文献を読むヴァレリー(3)	12. 重層するテキスト(2)																				
5. 詩と抽象的思考(1)	13. 重層するテキスト(3)																				
6. 詩と抽象的思考(2)	14. 重層するテキスト(4)																				
7. 詩と抽象的思考(3)	15. 後期のまとめ																				
8. 再びレオナルド・ダ・ヴィンチを読むヴァレリー(1)																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加状況100%																				
◇ 教科書・参考書	プリント配付																				
◇ 授業時間外学習	予習をして授業に臨むこと																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
フ ラ ン ス 文 学 特 論 Ⅲ French Literature (Advanced Lecture) Ⅲ	2	非常勤 講師 岩 切 正 一 郎	集 中 (1)		
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT647J				
◆ 授業題目	フランス近・現代詩を読む				
◆ 目的・概要	肉体を持ち言葉を使う我々は、みずからに課された存在条件をなぜか越えようとし、言語以前の身体・物質の領域へ惹きつけられ、いっぽうまた、言語の向こうにある超越的な場所からの呼びかけを聞く。詩とは、そのような運動のなかで、言葉によって自己の存在様態を内的に、また、言語のあり方を現実的に、拡張し変容させてゆく行為である。本コースでは、19世紀および20世紀にフランス語で書かれた詩のテキストの分析と解釈を通じて、世界、人間、言語に関する認識や表象の変化とその意味を検討し、同時に、詩の必要性について再確認することを目的とする。				
◆ 到達目標	詩的な言語使用の特殊性について客観的な視座を持ち、そのいっぽうで自分自身の詩的感覚を意識することが到達目標である。また、詩のテキストの読みを通じてフランス語力を高めることも目標とする。そのためには地道にテキストを読むプロセスが必要なので、毎回、担当者を指名してテキストの読解を行ってもらう。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロ：20世紀の戦争が詩にもたらした影響について。 2. ランボー(1)：詩と野蛮性。 3. ランボー(2)：詩と他者性。 4. ボードレール：夢と現実および詩人のあり方の変化。 5. アポリネール：現代性と「現実」の創造。 6. シュルレアリスムの詩：エリュアールとデスノス。 7. ボンジュ：詩と日常の事物。 8. ミショー：世界への属し方について。 9. ミショー：同。 10. ルネ・シャール：定義と反抗。 11. ルネ・シャール：同。 12. 詩と日常：ギルヴィック、ジャコテ、フォラン。 13. 現代の詩人(1)：ウィリアム・クリフ 14. 現代の詩人(2)：ギ・ゴフェット 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	授業への参加度30% レポート70%				
◇ 教科書・参考書	テキストはプリントで配布する。その他の参考文献は授業中に適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	次回扱う詩について予習しておくこと。				
その他：フランス語の音とイメージの造形を楽しんで欲しいと思います。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 Ⅰ French Literature (Advanced Seminar) Ⅰ	2	教授 今 井 勉	1 学 期	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT648F				
◆ 授業題目	『若きパルク』を読む(1)				
◆ 目的・概要	ポール・ヴァレリーの代表作『若きパルク』を読みます。特に生成過程に注意しながら、諸家の研究のポイントを整理します。				
◆ 到達目標	詩の生成過程を知る。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：ヴァレリー詩の位置 2. 詩人ヴァレリーの活動を概観する(1) 3. 詩人ヴァレリーの活動を概観する(2) 4. 『若きパルク』の生成(1) 5. 『若きパルク』の生成(2) 6. 『若きパルク』の生成(3) 7. 『若きパルク』の生成(4) 8. 『若きパルク』の生成(5) 9. 『若きパルク』の生成(6) 10. 『若きパルク』の生成(7) 11. 『若きパルク』の生成(8) 12. 『若きパルク』の生成(9) 13. 『若きパルク』の生成(10) 14. 『若きパルク』の生成(11) 15. 前期のまとめ 				
◇ 成績評価の方法	授業への参加状況100%				
◇ 教科書・参考書	プリント配付				
◇ 授業時間外学習	毎回予習をして授業に臨むこと				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 Ⅱ French Literature (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教 授 今 井 勉	2 学 期	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT649F																				
◆ 授業題目	『若きパルク』を読む(2)																				
◆ 目的・概要	ポール・ヴァレリーの代表作『若きパルク』を読みます。特に生成過程に注意しながら、諸家の研究のポイントを整理します。																				
◆ 到達目標	詩の生成過程を知る。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入：問題意識の確認</td> <td>9. 『若きパルク』関連書簡(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 初期詩篇と『若きパルク』(1)</td> <td>10. 『若きパルク』関連書簡(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 初期詩篇と『若きパルク』(2)</td> <td>11. 『若きパルク』関連書簡(4)</td> </tr> <tr> <td>4. 初期詩篇と『若きパルク』(3)</td> <td>12. 『若きパルク』関連書簡(5)</td> </tr> <tr> <td>5. 『若きパルク』と『魅惑』(1)</td> <td>13. 『若きパルク』関連書簡(6)</td> </tr> <tr> <td>6. 『若きパルク』と『魅惑』(2)</td> <td>14. 『若きパルク』関連書簡(7)</td> </tr> <tr> <td>7. 『若きパルク』と『魅惑』(3)</td> <td>15. 後期のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 『若きパルク』関連書簡(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入：問題意識の確認	9. 『若きパルク』関連書簡(2)	2. 初期詩篇と『若きパルク』(1)	10. 『若きパルク』関連書簡(3)	3. 初期詩篇と『若きパルク』(2)	11. 『若きパルク』関連書簡(4)	4. 初期詩篇と『若きパルク』(3)	12. 『若きパルク』関連書簡(5)	5. 『若きパルク』と『魅惑』(1)	13. 『若きパルク』関連書簡(6)	6. 『若きパルク』と『魅惑』(2)	14. 『若きパルク』関連書簡(7)	7. 『若きパルク』と『魅惑』(3)	15. 後期のまとめ	8. 『若きパルク』関連書簡(1)	
1. 導入：問題意識の確認	9. 『若きパルク』関連書簡(2)																				
2. 初期詩篇と『若きパルク』(1)	10. 『若きパルク』関連書簡(3)																				
3. 初期詩篇と『若きパルク』(2)	11. 『若きパルク』関連書簡(4)																				
4. 初期詩篇と『若きパルク』(3)	12. 『若きパルク』関連書簡(5)																				
5. 『若きパルク』と『魅惑』(1)	13. 『若きパルク』関連書簡(6)																				
6. 『若きパルク』と『魅惑』(2)	14. 『若きパルク』関連書簡(7)																				
7. 『若きパルク』と『魅惑』(3)	15. 後期のまとめ																				
8. 『若きパルク』関連書簡(1)																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加状況100%																				
◇ 教科書・参考書	プリント配付																				
◇ 授業時間外学習	毎回予習をして授業に臨むこと																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 Ⅲ French Literature (Advanced Seminar) Ⅲ	2	准 教 授 メ ヴ ェ ル ・ ヤ ン	1 学 期	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT650J																				
◆ 授業題目	Pierre Michon																				
◆ 目的・概要	Les principaux objectifs du cours sont les suivants : - approfondissement de la méthode de l'explication de texte - analyse d'une prose poétique et lyrique - réflexion d'ordre générique, notamment sur la notion de « fiction biographique » - analyse d'une œuvre littéraire qui donne lieu à une réflexion sur l'art																				
◆ 到達目標	- pratique de l'explication de texte - analyse de documents relatifs à la notion de « fiction biographique »																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction</td> <td>9. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>2. Introduction</td> <td>10. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>3. Introduction</td> <td>11. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>4. Explication de texte</td> <td>12. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>5. Explication de texte</td> <td>13. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>6. Explication de texte</td> <td>14. Conclusion</td> </tr> <tr> <td>7. Explication de texte</td> <td>15. Travaux d'étudiants</td> </tr> <tr> <td>8. Explication de texte</td> <td></td> </tr> </table>					1. Introduction	9. Explication de texte	2. Introduction	10. Explication de texte	3. Introduction	11. Explication de texte	4. Explication de texte	12. Explication de texte	5. Explication de texte	13. Explication de texte	6. Explication de texte	14. Conclusion	7. Explication de texte	15. Travaux d'étudiants	8. Explication de texte	
1. Introduction	9. Explication de texte																				
2. Introduction	10. Explication de texte																				
3. Introduction	11. Explication de texte																				
4. Explication de texte	12. Explication de texte																				
5. Explication de texte	13. Explication de texte																				
6. Explication de texte	14. Conclusion																				
7. Explication de texte	15. Travaux d'étudiants																				
8. Explication de texte																					
◇ 成績評価の方法	L'évaluation prendra d'abord la forme d'un contrôle continu (participation aux cours). Il comptera pour 50 % dans l'évaluation globale. A la fin du premier semestre il s'agira de présenter à l'oral une explication de texte d'un extrait de l'œuvre étudiée (25%) et, par écrit, un bref compte rendu critique (25%).																				
◇ 教科書・参考書	Vie du père Foucault, suivi de Vie de Georges Bandy (textes extraits de Vies minuscules), Paris, Gallimard, Folio.																				
◇ 授業時間外学習	Pour toute explication de texte il faudra avant le cours effectuer les recherches utiles (vocabulaire, grammaire, références...), en s'interrogeant sur les fonctions et effets de ce texte.																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 Ⅲ French Literature (Advanced Seminar) Ⅲ	2	准教授 メヴェル・ヤン	1 学期	水	4																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSLIT650J Patrick Modiano Les principaux buts du cours seront les suivants : - approfondissement de la méthode de l'explication de texte - apprentissage du mode d'analyse d'une œuvre complète - connaissance d'une œuvre majeure et de certaines caractéristiques du roman français contemporain (vision du monde, intrigue, personnage, psychologie...) - analyse d'une écriture de la mémoire et de la mélancolie, qui se confronte à l'histoire individuelle et à l'histoire collective																				
◆ 到達目標	- pratique de l'explication de texte - discussions autour de films en rapport avec l'œuvre de Patrick Modiano																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction</td> <td>9. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>2. Introduction</td> <td>10. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>3. Explication de texte</td> <td>11. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>4. Explication de texte</td> <td>12. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>5. Explication de texte</td> <td>13. Conclusion</td> </tr> <tr> <td>6. Explication de texte</td> <td>14. Projection de film. Analyse et discussion.</td> </tr> <tr> <td>7. Explication de texte</td> <td>15. Travaux d'étudiants</td> </tr> <tr> <td>8. Explication de texte</td> <td></td> </tr> </table>					1. Introduction	9. Explication de texte	2. Introduction	10. Explication de texte	3. Explication de texte	11. Explication de texte	4. Explication de texte	12. Explication de texte	5. Explication de texte	13. Conclusion	6. Explication de texte	14. Projection de film. Analyse et discussion.	7. Explication de texte	15. Travaux d'étudiants	8. Explication de texte	
1. Introduction	9. Explication de texte																				
2. Introduction	10. Explication de texte																				
3. Explication de texte	11. Explication de texte																				
4. Explication de texte	12. Explication de texte																				
5. Explication de texte	13. Conclusion																				
6. Explication de texte	14. Projection de film. Analyse et discussion.																				
7. Explication de texte	15. Travaux d'étudiants																				
8. Explication de texte																					
◇ 成績評価の方法	L'évaluation prendra d'abord la forme d'un contrôle continu (participation aux cours). Il comptera pour 50% dans l'évaluation globale. A la fin du premier semestre, il s'agira de présenter à l'oral une explication de texte (25%) et par écrit un bref compte rendu critique (25%).																				
◇ 教科書・参考書	Livret de famille, Paris, Gallimard, collection Folio.																				
◇ 授業時間外学習	Pour toute explication de texte il faudra avant le cours effectuer les recherches utiles (vocabulaire, grammaire, références...), en s'interrogeant sur les fonctions et effets de ce texte.																				
その他 :																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 Ⅳ French Literature (Advanced Seminar) Ⅳ	2	准教授 メヴェル・ヤン	2 学期	月	5																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSLIT651J Pierre Michon Les principaux objectifs du cours sont les suivants : - apprentissage du mode d'analyse d'une œuvre complète - approfondissement de la méthode de l'explication de texte - analyse d'une prose poétique et lyrique - réflexion d'ordre générique, notamment sur la notion de « fiction biographique » - analyse d'une œuvre littéraire qui se confronte au savoir et à la peinture, donne lieu à une réflexion sur l'art																				
◆ 到達目標	- pratique de l'explication de texte - analyse de documents relatifs à la notion de « fiction biographique »																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction</td> <td>9. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>2. Introduction</td> <td>10. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>3. Explication de texte</td> <td>11. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>4. Explication de texte</td> <td>12. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>5. Explication de texte</td> <td>13. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>6. Explication de texte</td> <td>14. Conclusion</td> </tr> <tr> <td>7. Explication de texte</td> <td>15. Travaux d'étudiants</td> </tr> <tr> <td>8. Explication de texte</td> <td></td> </tr> </table>					1. Introduction	9. Explication de texte	2. Introduction	10. Explication de texte	3. Explication de texte	11. Explication de texte	4. Explication de texte	12. Explication de texte	5. Explication de texte	13. Explication de texte	6. Explication de texte	14. Conclusion	7. Explication de texte	15. Travaux d'étudiants	8. Explication de texte	
1. Introduction	9. Explication de texte																				
2. Introduction	10. Explication de texte																				
3. Explication de texte	11. Explication de texte																				
4. Explication de texte	12. Explication de texte																				
5. Explication de texte	13. Explication de texte																				
6. Explication de texte	14. Conclusion																				
7. Explication de texte	15. Travaux d'étudiants																				
8. Explication de texte																					
◇ 成績評価の方法	L'évaluation prendra d'abord la forme d'un contrôle continu (participation aux cours). Il comptera pour 60% dans l'évaluation globale. A la fin du second semestre, il s'agira de présenter un exposé sur l'œuvre étudiée (25%) et, par écrit, un bref compte rendu critique (25%).																				
◇ 教科書・参考書	Pour toute explication de texte il faudra avant le cours effectuer les recherches utiles (vocabulaire, grammaire, références...), en s'interrogeant sur les fonctions et effets de ce texte.																				
◇ 授業時間外学習	Vie de Joseph Roulin, Editions Verdier (Paris).																				
その他 :																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 IV French Literature (Advanced Seminar) IV	2	准教授 メヴェル・ヤン	2 学期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT651J																				
◆ 授業題目	Patrick Modiano																				
◆ 目的・概要	Les principaux buts du cours seront les suivants : - approfondissement de la méthode de l'explication de texte - apprentissage du mode d'analyse d'une œuvre complète - connaissance d'une œuvre majeure et de certaines caractéristiques du roman français contemporain (vision du monde, intrigue, personnage, psychologie...) - analyse d'une écriture de la mémoire et de la mélancolie, qui se confronte à l'histoire individuelle et à l'histoire collective																				
◆ 到達目標	- pratique de l'explication de texte - approches thématiques - discussions autour de films en rapport avec l'œuvre de Patrick Modiano																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction</td> <td>9. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>2. Introduction</td> <td>10. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>3. Explication de texte</td> <td>11. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>4. Explication de texte</td> <td>12. Explication de texte</td> </tr> <tr> <td>5. Explication de texte</td> <td>13. Conclusion</td> </tr> <tr> <td>6. Explication de texte</td> <td>14. Projection de film. Analyse et discussion.</td> </tr> <tr> <td>7. Explication de texte</td> <td>15. Travaux d'étudiants</td> </tr> <tr> <td>8. Explication de texte</td> <td></td> </tr> </table>					1. Introduction	9. Explication de texte	2. Introduction	10. Explication de texte	3. Explication de texte	11. Explication de texte	4. Explication de texte	12. Explication de texte	5. Explication de texte	13. Conclusion	6. Explication de texte	14. Projection de film. Analyse et discussion.	7. Explication de texte	15. Travaux d'étudiants	8. Explication de texte	
1. Introduction	9. Explication de texte																				
2. Introduction	10. Explication de texte																				
3. Explication de texte	11. Explication de texte																				
4. Explication de texte	12. Explication de texte																				
5. Explication de texte	13. Conclusion																				
6. Explication de texte	14. Projection de film. Analyse et discussion.																				
7. Explication de texte	15. Travaux d'étudiants																				
8. Explication de texte																					
◇ 成績評価の方法	L'évaluation prendra d'abord la forme d'un contrôle continu (participation aux cours). Il comptera pour 50% dans l'évaluation globale. A la fin du second semestre, il s'agira de présenter un exposé (25%) et de rédiger un bref compte rendu critique (25%).																				
◇ 教科書・参考書	Dora Bruder, La bibliothèque Gallimard - texte et dossier (Paris).																				
◇ 授業時間外学習	Pour toute explication de texte il faudra avant le cours effectuer les recherches utiles (vocabulaire, grammaire, références...), en s'interrogeant sur les fonctions et effets de ce texte.																				
その他 :																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 V French Literature (Advanced Seminar) V	2	准教授 黒 岩 卓	1 学期	月	3																		
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT652J																						
◆ 授業題目	中世・ルネサンスの伝説文学研究(1)																						
◆ 目的・概要	前年度に引き続き、現存最古の伝説宗教劇である『アダム劇』(Véronique Dominguez 校訂版)を読みながら、古伝説の基礎を学びます。近代校訂諸版を適時参照し、また写本のファクシミリなどを適時利用することで、テキスト校訂に関わる諸問題を同時に考える機会としたいとも考えています。前年度未参加で古フランス語を読んだ経験が無くても、現代フランス語の十分な知識があれば受講が可能です。また、後期のフランス文学研究演習VIと共に受講することで、より深い通史的なフランス語の知識が得られます(こちらだけでの受講も可能です)。																						
◆ 到達目標	古フランス語およびそれによって書かれた作品の研究に関する基礎知識を習得する。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. (以下、テキスト購読と並行して取り上げるトピックを記します。順番などは適時変更することがあります。)</td> <td>7. 書誌の作り方</td> </tr> <tr> <td>古フランス語入門1</td> <td>8. 雑誌</td> </tr> <tr> <td>2. 古フランス語入門2</td> <td>9. 歴史音声学</td> </tr> <tr> <td>3. 古フランス語の辞書と文法書</td> <td>10. ラテン語</td> </tr> <tr> <td>4. 近代校訂版とは</td> <td>11. 詩作技巧の問題</td> </tr> <tr> <td>5. テキスト校訂に関する種々の立場</td> <td>12. 句読点</td> </tr> <tr> <td>6. 写本系統樹とは</td> <td>13. 聖書</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 中世神学</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 劇テキストの歴史</td> </tr> </table>					1. (以下、テキスト購読と並行して取り上げるトピックを記します。順番などは適時変更することがあります。)	7. 書誌の作り方	古フランス語入門1	8. 雑誌	2. 古フランス語入門2	9. 歴史音声学	3. 古フランス語の辞書と文法書	10. ラテン語	4. 近代校訂版とは	11. 詩作技巧の問題	5. テキスト校訂に関する種々の立場	12. 句読点	6. 写本系統樹とは	13. 聖書		14. 中世神学		15. 劇テキストの歴史
1. (以下、テキスト購読と並行して取り上げるトピックを記します。順番などは適時変更することがあります。)	7. 書誌の作り方																						
古フランス語入門1	8. 雑誌																						
2. 古フランス語入門2	9. 歴史音声学																						
3. 古フランス語の辞書と文法書	10. ラテン語																						
4. 近代校訂版とは	11. 詩作技巧の問題																						
5. テキスト校訂に関する種々の立場	12. 句読点																						
6. 写本系統樹とは	13. 聖書																						
	14. 中世神学																						
	15. 劇テキストの歴史																						
◇ 成績評価の方法	出席100%																						
◇ 教科書・参考書	Le Jeu d'Adam, édition bilingue, établie, traduite, présentée et annotée par Véronique Dominguez, Paris, H. Champion, 2012.																						
◇ 授業時間外学習	当該のテキストの予習が必要になります。																						
その他 :																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
フ ラ ン ス 文 学 研 究 演 習 VI French Literature (Advanced Seminar) VI	2	准教授 黒 岩 卓	2 学 期	月	3																		
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT653J																						
◆ 授業題目	中世・ルネサンスの伝説文学研究(2)																						
◆ 目的・概要	前年度に引き続き、フランス語による神学・哲学的散文の嚆矢であり、思想的にも重要な位置を占めるジャン・カルヴァンの『キリスト教綱要』の1541年フランス語版(Olivier Millet 校訂版)を読みます。近代校訂諸版を適時参照し、テキスト校訂に関わる諸問題を同時に考える機会としたいとも考えています。前年度に受講していない人や中期フランス語を読んだ経験が無い人でも、現代フランス語の十分な知識があれば受講が可能です。また、前期のフランス文学研究演習Vと共に受講することで、より深い通史的なフランス語の知識が得られます(こちらだけでの受講も可能です)。																						
◆ 到達目標	中期フランス語およびそれによって書かれた作品の研究に関する基礎知識を習得する。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. (以下、テキスト購読と並行して取り上げるトピックを記します。順番などは適時変更することがあります。)</td> <td>7. 書誌の作り方</td> </tr> <tr> <td>中期フランス語入門1</td> <td>8. 雑誌</td> </tr> <tr> <td>2. 中期フランス語入門2</td> <td>9. 歴史音声学</td> </tr> <tr> <td>3. 中期フランス語の辞書と文法書</td> <td>10. ラテン語</td> </tr> <tr> <td>4. 近代校訂版とは</td> <td>11. 韻文と散文</td> </tr> <tr> <td>5. テキスト校訂に関する種々の立場</td> <td>12. 句読点</td> </tr> <tr> <td>6. 印刷本</td> <td>13. 聖書</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 中世神学</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 後世への影響</td> </tr> </table>					1. (以下、テキスト購読と並行して取り上げるトピックを記します。順番などは適時変更することがあります。)	7. 書誌の作り方	中期フランス語入門1	8. 雑誌	2. 中期フランス語入門2	9. 歴史音声学	3. 中期フランス語の辞書と文法書	10. ラテン語	4. 近代校訂版とは	11. 韻文と散文	5. テキスト校訂に関する種々の立場	12. 句読点	6. 印刷本	13. 聖書		14. 中世神学		15. 後世への影響
1. (以下、テキスト購読と並行して取り上げるトピックを記します。順番などは適時変更することがあります。)	7. 書誌の作り方																						
中期フランス語入門1	8. 雑誌																						
2. 中期フランス語入門2	9. 歴史音声学																						
3. 中期フランス語の辞書と文法書	10. ラテン語																						
4. 近代校訂版とは	11. 韻文と散文																						
5. テキスト校訂に関する種々の立場	12. 句読点																						
6. 印刷本	13. 聖書																						
	14. 中世神学																						
	15. 後世への影響																						
◇ 成績評価の方法	出席100%																						
◇ 教科書・参考書	Jean Calvin, Institution de la religion chrétienne(1541), éd. par Olivier Millet, Genève, Droz, 2008.																						
◇ 授業時間外学習	当該のテキストの予習が必要になります。																						
その他：																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
フ ラ ン ス 語 学 研 究 演 習 I French Linguistics (Advanced Seminar) I	2	教授 阿 部 宏	1 学 期	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT654J																				
◆ 授業題目	フランス語学の現代的トピック I																				
◆ 目的・概要	フランス語に関する論文を読みながら、フランス語学・一般言語学・言語学史・対照言語研究の基礎概念を紹介・解説し、フランス語の諸現象について考える。また、日本語、英語との対照的考察を行う。																				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語学・一般言語学・仏英日対照言語学の基礎が理解できる。 ・フランス語学の研究史が把握できる。 ・語学研究の方法論が理解できる。 ・言語に潜在する主観性概念への関心が高まる。 																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 一般言語学関連文献読解(4)</td> </tr> <tr> <td>2. フランス語学関連文献読解(1)</td> <td>10. 言語学史関連文献読解(1)</td> </tr> <tr> <td>3. フランス語学関連文献読解(2)</td> <td>11. 言語学史関連文献読解(2)</td> </tr> <tr> <td>4. フランス語学関連文献読解(3)</td> <td>12. 言語学史関連文献読解(3)</td> </tr> <tr> <td>5. フランス語学関連文献読解(4)</td> <td>13. 対照言語学関連文献読解(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 一般言語学関連文献読解(1)</td> <td>14. 対照言語学関連文献読解(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 一般言語学関連文献読解(2)</td> <td>15. まとめと筆記試験</td> </tr> <tr> <td>8. 一般言語学関連文献読解(3)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 一般言語学関連文献読解(4)	2. フランス語学関連文献読解(1)	10. 言語学史関連文献読解(1)	3. フランス語学関連文献読解(2)	11. 言語学史関連文献読解(2)	4. フランス語学関連文献読解(3)	12. 言語学史関連文献読解(3)	5. フランス語学関連文献読解(4)	13. 対照言語学関連文献読解(1)	6. 一般言語学関連文献読解(1)	14. 対照言語学関連文献読解(2)	7. 一般言語学関連文献読解(2)	15. まとめと筆記試験	8. 一般言語学関連文献読解(3)	
1. ガイダンス	9. 一般言語学関連文献読解(4)																				
2. フランス語学関連文献読解(1)	10. 言語学史関連文献読解(1)																				
3. フランス語学関連文献読解(2)	11. 言語学史関連文献読解(2)																				
4. フランス語学関連文献読解(3)	12. 言語学史関連文献読解(3)																				
5. フランス語学関連文献読解(4)	13. 対照言語学関連文献読解(1)																				
6. 一般言語学関連文献読解(1)	14. 対照言語学関連文献読解(2)																				
7. 一般言語学関連文献読解(2)	15. まとめと筆記試験																				
8. 一般言語学関連文献読解(3)																					
◇ 成績評価の方法	平常点40%、筆記試験60%																				
◇ 教科書・参考書	プリント使用。 参考書：阿部宏『言葉に心の声を聞く』東北大学出版会。他に、関連図書について、適宜推薦します。																				
◇ 授業時間外学習	教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時		
フ ラ ン ス 語 学 研 究 演 習 Ⅱ French Linguistics (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教授 阿 部 宏	2学期	水	5		
◆ 科目ナンバリング	LHSLIT655J						
◆ 授業題目	フランス語学の現代的トピック I						
◆ 目的・概要	フランス語に関する論文を読みながら、フランス語学・一般言語学・言語学史・対照言語研究の基礎概念を紹介・解説し、フランス語の諸現象について考える。また、日本語、英語との対照的考察を行う。						
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語学・一般言語学・仏英日対照言語学の基礎が理解できる。 ・フランス語学の研究史が把握できる。 ・語学研究の方法論が理解できる。 ・言語に潜在する主観性概念への関心が高まる。 						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. フランス語学関連文献読解(1) 3. フランス語学関連文献読解(2) 4. フランス語学関連文献読解(3) 5. フランス語学関連文献読解(4) 6. 一般言語学関連文献読解(1) 7. 一般言語学関連文献読解(2) 8. 一般言語学関連文献読解(3) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. 一般言語学関連文献読解(4) 10. 言語学史関連文献読解(1) 11. 言語学史関連文献読解(2) 12. 言語学史関連文献読解(3) 13. 対照言語学関連文献読解(1) 14. 対照言語学関連文献読解(2) 15. まとめと筆記試験 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. フランス語学関連文献読解(1) 3. フランス語学関連文献読解(2) 4. フランス語学関連文献読解(3) 5. フランス語学関連文献読解(4) 6. 一般言語学関連文献読解(1) 7. 一般言語学関連文献読解(2) 8. 一般言語学関連文献読解(3) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 一般言語学関連文献読解(4) 10. 言語学史関連文献読解(1) 11. 言語学史関連文献読解(2) 12. 言語学史関連文献読解(3) 13. 対照言語学関連文献読解(1) 14. 対照言語学関連文献読解(2) 15. まとめと筆記試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. フランス語学関連文献読解(1) 3. フランス語学関連文献読解(2) 4. フランス語学関連文献読解(3) 5. フランス語学関連文献読解(4) 6. 一般言語学関連文献読解(1) 7. 一般言語学関連文献読解(2) 8. 一般言語学関連文献読解(3) 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 一般言語学関連文献読解(4) 10. 言語学史関連文献読解(1) 11. 言語学史関連文献読解(2) 12. 言語学史関連文献読解(3) 13. 対照言語学関連文献読解(1) 14. 対照言語学関連文献読解(2) 15. まとめと筆記試験 						
◇ 成績評価の方法	平常点40%、筆記試験60%						
◇ 教科書・参考書	プリント使用。 参考書：阿部宏『言葉に心の声を聞く』東北大学出版会。他に、関連図書について、適宜推薦します。						
◇ 授業時間外学習	教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます						
その他：							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
哲 学 特 論 Philosophy (Advanced Lecture) I	I 2	非常勤 講師 小 林 陸	2 学期	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI631J				
◆ 授業題目	優生学の倫理				
◆ 目的・概要	本講義の主題は「優生学」である。一般に「優生学」とはナチス・ドイツなどに見られる人類選別のための特殊な思想と考えられているが、本来は善意に基づく社会改良運動の方法として生まれたものである。そうした意味での優生的な思想の根は現代医療においても完全に払拭されているということとはできない。本講義の目的は、優生学の誕生の歴史から現代日本の予防医学における優生的な要素に至るまで、優生学に関わる諸問題を展望することによって、我々の「内なる優生思想」に光を当てることにある。				
◆ 到達目標	〈教育目標〉優生学における基本問題を理解する。 〈到達目標〉優生的な諸問題について批判的に検討できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. 導入：なぜ優生学なのか？ 2. 生－権力という問題構制 3. 優生学とは何か？ 4. 各国における優生学運動 5. 優生学神話の解体 6. ドイツの民族衛生学 7. 障害者「安楽死」計画 8. ニュールンベルク綱領の意義 9. 現代の安楽死 10. 安楽死と自己決定 11. 日本の優生政策 12. 優生思想と中絶 13. 新しい優生技術 14. 積極的優生の現実化 15. 講義まとめ：「内なる優生思想」を超えて				
◇ 成績評価の方法	レスポンスカード (30%)、テストまたはレポート (70%)				
◇ 教科書・参考書	テキストは使用しません。プリントを配布します。 参考文献 M. フーコー『性の歴史1 知への意志』（新潮社）、M. アダムス『比較「優生学」史』（現代書館）、鈴木善次『日本の優生学』（三共出版株式会社）、E. クレー『第三帝国と安楽死』（批評社）、小俣和一郎『ナチスもう一つの大罪 「安楽死」とドイツ精神医学』（人文書院) など				
◇ 授業時間外学習	講義時に指示します。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
哲 学 特 論 Philosophy (Advanced Lecture) I	I 2	非常勤 講師 井 頭 昌 彦	集 中 (2)		
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI631J				
◆ 授業題目	哲学的自然主義とプラグマティズム				
◆ 目的・概要	「哲学的自然主義」と「プラグマティズム」という2つの思想潮流を理解することは、現代における哲学思想の議論状況を把握するために不可欠であり、その意味で極めて重要である。本講義では「哲学的自然主義」と「プラグマティズム」という2つの潮流について、個別的な理解を得ると共に、その相互関係を把握できるようになることを目指す。具体的には以下の内容について講義する予定である。 ・「哲学的自然主義」と「プラグマティズム」のそれぞれについて、その核となる内容をまとめる。 ・その上で、どのようなヴァリエントがありうるのかについて解説を行う。 ・さらに、哲学的自然主義とプラグマティズムを融和させた路線 (pragmatic naturalism) について解説を行い、その問題点や課題を指摘する。 ・現代におけるプラグマティストの多くが採用する推論主義の意味論という構想について簡単に解説した上で、その問題点と克服方法についての検討を行う。 なお、pragmatic naturalism 的なアプローチについては、ロボット工学分野などへの応用可能性についても紹介する予定である。				
◆ 到達目標	「哲学的自然主義」と「プラグマティズム」という2つの潮流について、個別的な理解を得ると共に、その相互関係を把握できるようになること。				
◆ 授業内容・方法	1. 概要説明 2. 心を持ったロボットはどうやればくれるか？ 3. 講義の背景説明：メタ哲学的立場としての自然主義 4. 哲学的自然主義の根拠(1) 5. 哲学的自然主義の根拠(2) 6. 哲学的自然主義とはどのような立場か？ 7. 哲学的自然主義の多様性 8. 中間まとめ：哲学的自然主義とはなんだったのか。 9. プラグマティズム概論 10. プラグマティズムと哲学的自然主義：共通点と差異(1) 11. プラグマティズムと哲学的自然主義：共通点と差異(2) 12. プラグマティズムと哲学的自然主義は同じリサーチプログラムと言えるか？ 13. Pragmatic Naturalism / Sydney Plan' と3つの課題 14. 心を持ったロボットの作り方・再訪—自然主義的プラグマティズムの観点から— 15. 議論総括・討論				
◇ 成績評価の方法	レポート100%				
◇ 教科書・参考書	【参考文献】(1)井頭昌彦『多元論的自然主義の可能性』（新曜社、2010）(2)ラリー・ラウガン『科学と価値』（勁草書房、2009）(3)魚津郁夫『現代アメリカ思想—プラグマティズムの展開—』（放送大学教育振興会、2001）(4)魚津郁夫『プラグマティズムの思想』（ちくま学芸文庫、2006）				
◇ 授業時間外学習	必須ではないが、参考文献(1)ないし(2)を並行してor事前に読んでおくとう理解が深まる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
哲 学 特 論 Philosophy (Advanced Lecture) II	2	非常勤 講師 松 本 大 理	2 学期	水	3																
<p>◆ 科目ナンバリング LHSPHI632J</p> <p>◆ 授業題目 討議倫理学入門</p> <p>◆ 目的・概要 討議倫理学に関して概観する。背景・基礎・発展・課題を検討する。講義形式で進める。</p> <p>◆ 到達目標 討議倫理学の基本的な考えを理解できる。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション：討議倫理学とフランクフルト学派</td> <td>9. アーベルとハーバーマス</td> </tr> <tr> <td>2. 言語論的転回</td> <td>10. 諸概念の検討1：行為・自由・理性</td> </tr> <tr> <td>3. 言語と対象</td> <td>11. 諸概念の検討2：真理・合意</td> </tr> <tr> <td>4. 言語と行為</td> <td>12. 適用問題1：原理と適用</td> </tr> <tr> <td>5. 言語と解釈</td> <td>13. 適用問題2：責任倫理学</td> </tr> <tr> <td>6. 基礎づけ問題1：厳密な反省</td> <td>14. 適用問題3：正義とケア</td> </tr> <tr> <td>7. 基礎づけ問題2：コミュニケーション共同体</td> <td>15. 討議倫理学の解体</td> </tr> <tr> <td>8. 基礎づけ問題3：討議原理と道徳原理</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 レポート80% 平常点20%</p> <p>◇ 教科書・参考書 教科書は指定しない。参考書は次のとおり。 ・ K.-O. アーベル 『哲学の変換』、二玄社、1986年。 ・ N. Gottschalk-Mazouz (Hrsg.), Perspektiven der Diskursethik, Würzburg, Königshausen & Neumann, 2004. ・ J. ハーバーマス 『コミュニケーション的行為の理論』(上・中・下)、未来社、1985-87年。 ・ W. Kuhlmann, Reflexive Letztbegründung, Freiburg/München, Karl Alber, 1985.</p> <p>◇ 授業時間外学習 参考書の通読等。また、カントの諸著作の通読も助けとなる。</p> <p>その他：連絡先等は、講義中に知らせる。</p>						1. イントロダクション：討議倫理学とフランクフルト学派	9. アーベルとハーバーマス	2. 言語論的転回	10. 諸概念の検討1：行為・自由・理性	3. 言語と対象	11. 諸概念の検討2：真理・合意	4. 言語と行為	12. 適用問題1：原理と適用	5. 言語と解釈	13. 適用問題2：責任倫理学	6. 基礎づけ問題1：厳密な反省	14. 適用問題3：正義とケア	7. 基礎づけ問題2：コミュニケーション共同体	15. 討議倫理学の解体	8. 基礎づけ問題3：討議原理と道徳原理	
1. イントロダクション：討議倫理学とフランクフルト学派	9. アーベルとハーバーマス																				
2. 言語論的転回	10. 諸概念の検討1：行為・自由・理性																				
3. 言語と対象	11. 諸概念の検討2：真理・合意																				
4. 言語と行為	12. 適用問題1：原理と適用																				
5. 言語と解釈	13. 適用問題2：責任倫理学																				
6. 基礎づけ問題1：厳密な反省	14. 適用問題3：正義とケア																				
7. 基礎づけ問題2：コミュニケーション共同体	15. 討議倫理学の解体																				
8. 基礎づけ問題3：討議原理と道徳原理																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
哲 学 特 論 Philosophy (Advanced Lecture) III	2	准教授 荻 原 理	2 学期	月	3																
<p>◆ 科目ナンバリング LHSPHI633J</p> <p>◆ 授業題目 アイデア論とは何か</p> <p>◆ 目的・概要 プラトンのアイデア論</p> <p>◆ 到達目標 基本的に講義形式だが、積極的な質問・意見を求める。 プラトンのアイデア論とはいかなる論なのかについて、テキストに基づいた説明をすることができるようになる。アイデア論をめぐる哲学的問題について論じることができるようになる。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロ プラトン哲学について</td> <td>9. 『パイドロス』：魂を養うもの</td> </tr> <tr> <td>2. 初期対話篇における、徳の定義の探究 『メノン』：学習は想起である</td> <td>10. 『パルメニデス』(とくに第1部)：「分有」をめぐる問題。「誠実な困惑の記録」(ヴラストス)？</td> </tr> <tr> <td>3. 『パイドン』(1)：哲学とは死の訓練である</td> <td>11. 『ティマイオス』：宇宙創造・宇宙と、アイデア論</td> </tr> <tr> <td>4. 『パイドン』(2)：美しいものはすべて〈美〉によって美しい</td> <td>12. 『ソフィステス』、『政治家』、『フィレボス』とアイデア</td> </tr> <tr> <td>5. 『饗宴』：愛の上昇の究極に、〈美〉そのものを観る</td> <td>13. アリストテレスとアイデア論</td> </tr> <tr> <td>6. 『国家』(1)：知はアイデアに関わる</td> <td>14. トマス・アクィナスとアイデア論</td> </tr> <tr> <td>7. 『国家』(2)：学ばれるべき最大の事柄、〈善〉そのものの(1)</td> <td>15. 総括的考察</td> </tr> <tr> <td>8. 『国家』(3)：学ばれるべき最大の事柄、〈善〉そのものの(2)</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 学期末レポート</p> <p>◇ 教科書・参考書 参考書：プラトン『饗宴』、『パイドン』、『国家』、『パイドロス』。それ以外は授業中に知らせる。</p> <p>◇ 授業時間外学習 授業の内容について考え、わかりにくかったところや、自分で考えたことをまとめておく(次回の授業で質問・発言するために)。</p> <p>その他：予備知識は特に必要ない。</p>						1. イントロ プラトン哲学について	9. 『パイドロス』：魂を養うもの	2. 初期対話篇における、徳の定義の探究 『メノン』：学習は想起である	10. 『パルメニデス』(とくに第1部)：「分有」をめぐる問題。「誠実な困惑の記録」(ヴラストス)？	3. 『パイドン』(1)：哲学とは死の訓練である	11. 『ティマイオス』：宇宙創造・宇宙と、アイデア論	4. 『パイドン』(2)：美しいものはすべて〈美〉によって美しい	12. 『ソフィステス』、『政治家』、『フィレボス』とアイデア	5. 『饗宴』：愛の上昇の究極に、〈美〉そのものを観る	13. アリストテレスとアイデア論	6. 『国家』(1)：知はアイデアに関わる	14. トマス・アクィナスとアイデア論	7. 『国家』(2)：学ばれるべき最大の事柄、〈善〉そのものの(1)	15. 総括的考察	8. 『国家』(3)：学ばれるべき最大の事柄、〈善〉そのものの(2)	
1. イントロ プラトン哲学について	9. 『パイドロス』：魂を養うもの																				
2. 初期対話篇における、徳の定義の探究 『メノン』：学習は想起である	10. 『パルメニデス』(とくに第1部)：「分有」をめぐる問題。「誠実な困惑の記録」(ヴラストス)？																				
3. 『パイドン』(1)：哲学とは死の訓練である	11. 『ティマイオス』：宇宙創造・宇宙と、アイデア論																				
4. 『パイドン』(2)：美しいものはすべて〈美〉によって美しい	12. 『ソフィステス』、『政治家』、『フィレボス』とアイデア																				
5. 『饗宴』：愛の上昇の究極に、〈美〉そのものを観る	13. アリストテレスとアイデア論																				
6. 『国家』(1)：知はアイデアに関わる	14. トマス・アクィナスとアイデア論																				
7. 『国家』(2)：学ばれるべき最大の事柄、〈善〉そのものの(1)	15. 総括的考察																				
8. 『国家』(3)：学ばれるべき最大の事柄、〈善〉そのものの(2)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
哲 学 研 究 演 習 I Philosophy (Advanced Seminar) I	2	教授 直江清隆	1学期	月	5																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSPHI634J 哲学研究の作法と技法1 口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を養う。参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で自由な討論を行い、また教員からのコメントを受ける（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する）。参加者は研究発表を行うことを通して、研究テーマの発見、論文作成および発表の方法、討論の仕方等について、基礎的なトレーニングを積む。また、特定質問者の役割を果たすことや、討論に積極的に参加することを通して、他者の主張を適切に把握し、批判・評価し、建設的な議論を行う力を養う。哲学専攻分野の大学院学生は可能な限り全員が履修することが望ましい。 口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を身につける。																				
◆ 到達目標																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 報告と討論(1)</td> <td>10. 報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 報告と討論(2)</td> <td>11. 報告と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 報告と討論(3)</td> <td>12. 報告と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 報告と討論(4)</td> <td>13. 報告と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 報告と討論(5)</td> <td>14. 報告と討論(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 報告と討論(6)</td> <td>15. 報告と討論(14)</td> </tr> <tr> <td>8. 報告と討論(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 報告と討論(8)	2. 報告と討論(1)	10. 報告と討論(9)	3. 報告と討論(2)	11. 報告と討論(10)	4. 報告と討論(3)	12. 報告と討論(11)	5. 報告と討論(4)	13. 報告と討論(12)	6. 報告と討論(5)	14. 報告と討論(13)	7. 報告と討論(6)	15. 報告と討論(14)	8. 報告と討論(7)	
1. オリエンテーション	9. 報告と討論(8)																				
2. 報告と討論(1)	10. 報告と討論(9)																				
3. 報告と討論(2)	11. 報告と討論(10)																				
4. 報告と討論(3)	12. 報告と討論(11)																				
5. 報告と討論(4)	13. 報告と討論(12)																				
6. 報告と討論(5)	14. 報告と討論(13)																				
7. 報告と討論(6)	15. 報告と討論(14)																				
8. 報告と討論(7)																					
◇ 成績評価の方法	研究発表をすること（単位認定のためには必須） その上で、出席30% 発表内容35% 討論への積極的参加35%																				
◇ 教科書・参考書	特に指定しない。																				
◇ 授業時間外学習	報告者は前の週の金曜日までに原稿を用意する。特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
哲 学 研 究 演 習 I Philosophy (Advanced Seminar) I	2	准教授 原 壘	1学期	火	3																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSPHI634J 哲学的責任論研究 古典的な責任概念によれば、自分が意図的に行った行為や、その行為から帰結すると予見される出来事に対してのみ私たちは責任をおう。この責任概念に基づくと、私たちが意図して引き起こした訳ではなく、ただ制度に従って生活を送ることで意図せず引き起こしてしまう不正義（例えば、先進国に属する人々が経済活動を行った結果として、発展途上国で生活している人々を貧困状態に陥らせること）について、その責任を問うことはできなくなる。アメリカの政治哲学者アイリス・マリオン・ヤングは、このような不正義を「構造的不正義」と呼び、構造的不正義を是正する責任を概念化しようとした。このヤングの責任論を、彼女の遺作『正義への責任』を精読することで、検討する。和訳を主に用い、英語原文を必要に応じて、参照する。																				
◆ 到達目標	1. 哲学文献を緻密に読解する能力を身につける。 2. 哲学文献の各自の解釈を要約的に文章表現する能力を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 『正義への責任』読解8</td> </tr> <tr> <td>2. 『正義への責任』読解1</td> <td>10. 『正義への責任』読解9</td> </tr> <tr> <td>3. 『正義への責任』読解2</td> <td>11. 『正義への責任』読解10</td> </tr> <tr> <td>4. 『正義への責任』読解3</td> <td>12. 『正義への責任』読解11</td> </tr> <tr> <td>5. 『正義への責任』読解4</td> <td>13. 『正義への責任』読解12</td> </tr> <tr> <td>6. 『正義への責任』読解5</td> <td>14. 『正義への責任』読解13</td> </tr> <tr> <td>7. 『正義への責任』読解6</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 『正義への責任』読解7</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 『正義への責任』読解8	2. 『正義への責任』読解1	10. 『正義への責任』読解9	3. 『正義への責任』読解2	11. 『正義への責任』読解10	4. 『正義への責任』読解3	12. 『正義への責任』読解11	5. 『正義への責任』読解4	13. 『正義への責任』読解12	6. 『正義への責任』読解5	14. 『正義への責任』読解13	7. 『正義への責任』読解6	15. まとめ	8. 『正義への責任』読解7	
1. イントロダクション	9. 『正義への責任』読解8																				
2. 『正義への責任』読解1	10. 『正義への責任』読解9																				
3. 『正義への責任』読解2	11. 『正義への責任』読解10																				
4. 『正義への責任』読解3	12. 『正義への責任』読解11																				
5. 『正義への責任』読解4	13. 『正義への責任』読解12																				
6. 『正義への責任』読解5	14. 『正義への責任』読解13																				
7. 『正義への責任』読解6	15. まとめ																				
8. 『正義への責任』読解7																					
◇ 成績評価の方法	レジュメによる発表を担当する（60%）、レポート（40%）																				
◇ 教科書・参考書	Iris Marion Young, Responsibility for Justice (Oxford/New York: Oxford University Press: 2011). アイリス・マリオン・ヤング『正義への責任』（岡野八代・池田直子訳）岩波書店、2014年。																				
◇ 授業時間外学習	レジュメの担当者は、担当する箇所を精読して、その箇所で開催されている議論をまとめたレジュメを作成すること。レジュメ担当者以外は、次週に扱う箇所を精読し、内容を把握した上で、疑問点をまとめておくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
哲 学 研 究 演 習 I Philosophy (Advanced Seminar) I	2	非常勤 講師 森 一 郎	1 学期	火	4
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI634J				
◆ 授業題目	アーレント『革命について』を読む				
◆ 目的・概要	ハンナ・アーレントの『革命について』は、『人間の条件』（『活動的生存』）に次ぐ、第二の哲学的名著であり、21世紀の今日、まさに読まれるべき根本書である。この授業では、英語版（1963年）とドイツ語版（1965年）との違いに留意し、とりわけドイツ語版の精読に努める。第二章「社会問題」を読んでゆく。				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・20世紀の古典的テキストを読み味わい、哲学的思考を鍛える。 ・哲学書の原典読解に堪える語学力を涵養する。 ・テキストの内容や問題点を整理して発表し質疑応答を交わす力を養う。 ・哲学の根本問題と現代日本の問題状況が直結していることを学ぶ。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとイントロダクション： アーレントと『革命について』 2. 『革命について』第二章「社会問題」 その1：第1節（上）—ロベスピエールについて 3. 『革命について』第二章「社会問題」 その2：第1節（中）—マルクスについて 4. 『革命について』第二章「社会問題」 その3：第1節（下）—レーニンについて 5. 『革命について』第二章「社会問題」 その4：第2節（上）—アメリカにおける貧困の問題 6. 『革命について』第二章「社会問題」 その5：第2節（下）—アメリカにおける奴隷制の問題 7. 『革命について』第二章「社会問題」 その6：第3節（I）—ロベスピエールとルソー 8. 『革命について』第二章「社会問題」 その7：第3節（II）—利己主義という悪徳 9. 『革命について』第二章「社会問題」 その8：第3節（III）—メルヴィル『ピリー・バッド』 10. 『革命について』第二章「社会問題」 その9：第3節（IV）—ドストエフスキー「大審問官」 11. 『革命について』第二章「社会問題」 その10：第4節（上）—同情から哀れみへ 12. 『革命について』第二章「社会問題」 その11：第4節（中）—感傷の隙際のなさ 13. 『革命について』第二章「社会問題」 その12：第4節（下）—偽善という問題 14. 『革命について』第二章「社会問題」にひそむもの： 同情によって自滅したフランス革命 15. まとめと展望： 第二章「社会問題」から第三章「幸福の追求」へ 				
◇ 成績評価の方法	平常点（出席、発表担当、議論への参加など）を70%、学期末レポートを30%として総合評価する。				
◇ 教科書・参考書	教科書（購入を勧めるが、プリントを配布することもある）：Hannah Arendt, On Revolution, Penguin Hannah Arendt, Über die Revolution, Piper 参考書（購入を勧める）：ハンナ・アーレント『革命について』志水速雄訳、ちくま学芸文庫				
◇ 授業時間外学習	毎回の講読範囲をあらかじめ熟読し、疑問点などはメモして、授業に臨むこと。また、授業後には読み直して理解を深めること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
哲 学 研 究 演 習 I Philosophy (Advanced Seminar) I	2	准教授 城 戸 淳	1 学期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI634J				
◆ 授業題目	ホッブズ＝ブルームホール論争と近代の自由意志論(1)				
◆ 目的・概要	ホッブズ＝ブルームホール論争とは、17世紀中頃に、いわば中世から近代への時代の断絶面を露呈するように展開された、自由意志をめぐる名高い論争である。デリーにて主教を務め、中世スコラ哲学以来の伝統的な自由意志論を擁護するジョン・ブルームホールと、唯物論的な決定論を打ち出しつつ、たんに妨げられない意志の実現にのみ自由を認めるトマス・ホッブズとの論争は、今日にいたるまで自由意志の問題を考えるための最良の題材である。さらには、この論争を起点にして、近代のさまざまな哲学者の自由意志論へと考察の幅を広げてゆくこともできよう。演習ではこの論争の英語原文をレジメ形式で要約してもらいつつ読みすすめる。またそれと並行して、近代における自由意志の代表的な哲学説を報告してもらい、自由意志論の切り口から近代哲学史への知見を深めたい。				
◆ 到達目標	ホッブズ＝ブルームホール論争の骨子を把握し、近代のさまざまな自由意志論を学ぶ。その成果をふまえて、みずから問題を思考し、表現する力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス—導入と問題設定 2. ブルームホールの自由と必然性をめぐる論考(1) 3. ブルームホールの自由と必然性をめぐる論考(2) 4. ブルームホールの自由と必然性をめぐる論考(3) 5. ブルームホールの自由と必然性をめぐる論考(4) 6. ホッブズ『自由と必然性について』(1) 7. ホッブズ『自由と必然性について』(2) 8. ホッブズ『自由と必然性について』(3) 9. ホッブズ『自由と必然性について』(4) 10. 中世スコラ哲学における自由意志論の構図 11. エラスムスとルターの自由意志論 12. 近世スコラ哲学における自由と摂理 13. デカルトにおける自発性の自由と無差別の自由 14. スピノザの汎神論的運命論 15. 総括と考察 				
◇ 成績評価の方法	出席、担当と発表、討議（以上50%）と期末のレポート（50%）による。				
◇ 教科書・参考書	Vere Chappell (ed.), Hobbes and Bramhall on Liberty and Necessity, Cambridge: Cambridge University Press, 1999. (必要な部分はコピーで配布する。)				
◇ 授業時間外学習	発表のときに思い切って全力を投入することはもちろん、担当の回でなくとも予習を欠かさずに出席し、討議に参加するように努めることで、徐々に哲学的な体力が鍛えられるだろう。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
哲 学 研 究 演 習 I Philosophy (Advanced Seminar) I	2	助教 佐藤 駿	1 学期	木	4
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI634]				
◆ 授業題目	フッサール『デカルト的省察』を読む				
◆ 目的・概要	【目的】 問主観性の問題に対するフッサールのアプローチを理解することを通じ、同様の主題について自ら哲学するための手がかりを見つける。 【概要】 Edmund Husserl 著、Cartesianische Meditationen の “V. Meditation: Entföllung der transzendentalen Seinssphäre als monadologische Intersubjektivität” を原文で読む。第1回および第2回は講義形式を取り、フッサール現象学について概説を与える。その後は適当な部分ごとに担当者をあらかじめ決め、担当者が授業内でテキストを訳読するかたちで進める。もちろん不明点・問題点があれば（ないということは絶対にはないので）それを取り上げて議論する時間を適宜はさむ。				
◆ 到達目標	(1)他の哲学者およびその思想と、フッサール現象学との相違点や共通点をいくつか挙げるができる。 (2)問主観性の問題に対するフッサールの考え方について、何らかの評価を下すことができる。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション(1)。フッサールその人と彼の現象学について簡単な解説を与える。 8. 第44節を読む(4)。 2. イントロダクション(2)。フッサールの観念論について考え、問主観性の問題を導入する。 9. 第45節を読む。 3. 第42節を読む。 10. 第46節を読む(1)。 4. 第43節を読む。 11. 第46節を読む(2)。 5. 第44節を読む(1)。 6. 第44節を読む(2)。 7. 第44節を読む(3)。 12. 第47節を読む。 13. 第48節を読む。 14. 第49節を読む。 15. 第50節を読む。				
◇ 成績評価の方法	訳読の担当（50%）+授業全体への貢献度（50%）。				
◇ 教科書・参考書	Edmund Husserl. Cartesianische Meditationen und Pariser Vortröge. Husserliana I, hrsg. von S. Strasser, 2 Auflage. Kluwer Academic Publishers, 1991. また適宜、以下の訳読を参照する。 Cartesian Meditations. An Introduction to Phenomenology. Trans. Dorion Cairns. Springer, 1997. Méditations cartésiennes. Introduction à la phénoménologie. Traduit par Gabrielle Peiffer et Emmanuel Levinas. Vrin, 1992. 『デカルト的省察』浜渦辰二訳、岩波書店（岩波文庫）、2001年。 そのほかの参考文献についてはそのつと授業内で指示する。				
◇ 授業時間外学習	担当でない場合でも予習をし、不明点・疑問点を他人にもわかるように言語化してみることを。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
哲 学 研 究 演 習 II Philosophy (Advanced Seminar) II	2	准教授 荻原 理	2 学期	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI635]				
◆ 授業題目	哲学研究の作法と技法 2				
◆ 目的・概要	口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を養う。参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で自由な討論を行い、また教員からのコメントを受ける（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する）。参加者は研究発表を行うことを通して、研究テーマの発見、論文作成および発表の方法、討論の仕方等について、基礎的なトレーニングを積む。また、特定質問者の役割を果すことや、討論に積極的に参加することを通して、他者の主張を適切に把握し、批判・評価し、建設的な議論を行う力を養う。哲学専攻分野の大学院学生は可能な限り全員が履修することが望ましい。				
◆ 到達目標	口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を身につける。				
◆ 授業内容・方法	1. オリエンテーション 9. 報告と討論(8) 2. 報告と討論(1) 10. 報告と討論(9) 3. 報告と討論(2) 11. 報告と討論(10) 4. 報告と討論(3) 12. 報告と討論(11) 5. 報告と討論(4) 13. 報告と討論(12) 6. 報告と討論(5) 14. 報告と討論(13) 7. 報告と討論(6) 15. 報告と討論(14) 8. 報告と討論(7)				
◇ 成績評価の方法	研究発表をすること（単位認定のためには必須） その上で、出席30% 発表内容35% 討論への積極的参加35%				
◇ 教科書・参考書	特に指定しない。				
◇ 授業時間外学習	報告者は前の週の金曜日までに原稿を用意する。特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
哲 学 研 究 演 習 II Philosophy (Advanced Seminar) II	2	准教授 城 戸 淳	2 学期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI635J				
◆ 授業題目	ホッブズ＝プラムホール論争と近代の自由意志論(2)				
◆ 目的・概要	ホッブズ＝プラムホール論争とは、近代の初期に、いわば中世から近代への時代の断絶面を露呈するように展開された、自由意志をめぐる名高い論争である。デリーにて主教を務め、中世スコラ哲学以来の伝統的な自由意志論を擁護するジョン・プラムホールと、唯物論的な決定論を打ち出しつつ、たんに妨げられない意志の実現にのみ自由を認めるトマス・ホッブズとの論争は、今日にいたるまで自由意志の問題を考えるための最良の題材である。さらには、この論争を起点にして、近代のさまざまな哲学者の自由意志論へと考察の幅を広げてゆくこともできよう。演習ではこの論争の英語原文をレジュメ形式で要約してもらいつつ読みすすめる。またそれと並行して、近代における自由意志の代表的な哲学説を報告してもらい、自由意志論の切り口から近代哲学史への知見を深めたい。				
◆ 到達目標	ホッブズ＝プラムホール論争の骨子を把握し、近代のさまざまな自由意志論を学ぶ。その成果をふまえて、みずから問題を思考し、表現する力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス—導入と問題設定 2. プラムホール『真の自由の擁護』(1) 3. プラムホール『真の自由の擁護』(2) 4. プラムホール『真の自由の擁護』(3) 5. プラムホール『真の自由の擁護』(4) 6. ホッブズ『自由、必然、偶然をめぐる諸問題』(1) 7. ホッブズ『自由、必然、偶然をめぐる諸問題』(2) 8. ホッブズ『自由、必然、偶然をめぐる諸問題』(3) 9. ホッブズ『自由、必然、偶然をめぐる諸問題』(4) 10. ロックにおける熟慮と欲望の停止 11. ライブニッツの可能世界論 12. ヒュームにおける情念と自由 13. カントの第三アンチノミーと自律 14. シェリングにおける悪と無底 15. 総括と考察 				
◇ 成績評価の方法	出席、担当と発表、討議（以上50%）と期末のレポート（50%）による。				
◇ 教科書・参考書	Vere Chappell (ed.), <i>Hobbes and Bramhall on Liberty and Necessity</i> , Cambridge: Cambridge University Press, 1999. (必要な部分はコピーで配布する。)				
◇ 授業時間外学習	発表のときに思い切って全力を投入することはもちろん、担当の回でなくとも予習を欠かさずに出席し、討議に参加するように努めることで、徐々に哲学的な体力が鍛えられるだろう。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
哲 学 研 究 演 習 II Philosophy (Advanced Seminar) II	2	助教 佐 藤 駿	2 学期	木	4
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI635J				
◆ 授業題目	フッサール『デカルト的省察』を読む				
◆ 目的・概要	【目的】 間主観性の問題に対するフッサールのアプローチを理解することを通じ、同様の主題について自ら哲学するための手がかりを見つける。 【概要】 Edmund Husserl 著、Cartesianische Meditationen の “V. Meditation: Entfüllung der transzendentalen Seinssphäre als monadologische Intersubjektivität” を原文で読む。適当な部分ごとに担当者をあらかじめ決め、担当者が授業内でテキストを訳読するかたちで進める。もちろん不明点・問題点があれば（ないということは絶対にならないので）それを取り上げて議論する時間を適宜はさむ。（なお、本演習は同じ教員による前期の哲学研究演習Ⅰの続きであることを想定している。前期の当該演習を履修していない場合は自分でそれなりに勉強しておくこと。）				
◆ 到達目標	(1)他の哲学者およびその思想と、フッサール現象学との相違点や共通点をいくつか挙げるができる。 (2)間主観性の問題に対するフッサールの考え方について、何らかの評価を下すことができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第51節を読む。 2. 第52節を読む。 3. 第53節を読む。 4. 第54節を読む。 5. 第55節を読む(1)。 6. 第55節を読む(2)。 7. 第55節を読む(3)。 8. 第56節を読む。 9. 第57節を読む。 10. 第58節を読む(1)。 11. 第58節を読む(2)。 12. 第59節を読む。 13. 第60節を読む。 14. 第61節を読む。 15. 第62節を読む。 				
◇ 成績評価の方法	訳読の担当（50%）＋授業全体への貢献度（50%）。				
◇ 教科書・参考書	Edmund Husserl, <i>Cartesianische Meditationen und Pariser Vorträge</i> , Husserliana I, hrsg. von S. Strasser, 2 Auflage, Kluwer Academic Publishers, 1991. また適宜、以下の翻訳を参照する。 <i>Cartesian Meditations. An Introduction to Phenomenology</i> , Trans. Dorion Cairns, Springer, 1997. <i>Méditations cartésiennes. Introduction à la phénoménologie</i> , Traduit par Gabrielle Peiffer et Emmanuel Levinas, Vrin, 1992. 『デカルト的省察』浜渦辰二訳、岩波書店（岩波文庫）、2001年。 そのほかの参考文献についてはそのつど授業内で指示する。				
◇ 授業時間外学習	担当でない場合でも予習をし、不明点・疑問点を他人にもわかるように言語化してみる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
哲 学 研 究 演 習 II Philosophy (Advanced Seminar) II	2	准教授	原 壘	2学期	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI635J																					
◆ 授業題目	分析美学研究																					
◆ 目的・概要	美的対象に見いだされる様々な美的性質、例えば、優美さ、繊細さ、可憐さ、けばけばしたなどは、その対象の幾何学的性質や色彩的性質といった非美的性質とどのような関係にあるのだろうか。この問いを、シブリーによる分析美学の古典的論文「美的概念」を精読することで、考察する。																					
◆ 到達目標	1. 哲学文献を緻密に読解する能力を身につける。 2. 哲学文献の各自の解釈を要約的に文章表現する能力を身につける。																					
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. インTRODクシヨン</td> <td style="width:50%;">9. 「美的概念」読解 8</td> </tr> <tr> <td>2. 「美的概念」読解 1</td> <td>10. 「美的概念」読解 9</td> </tr> <tr> <td>3. 「美的概念」読解 2</td> <td>11. 「美的概念」読解10</td> </tr> <tr> <td>4. 「美的概念」読解 3</td> <td>12. 「美的概念」読解11</td> </tr> <tr> <td>5. 「美的概念」読解 4</td> <td>13. 「美的概念」読解12</td> </tr> <tr> <td>6. 「美的概念」読解 5</td> <td>14. 「美的概念」読解13</td> </tr> <tr> <td>7. 「美的概念」読解 6</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「美的概念」読解 7</td> <td></td> </tr> </table>						1. インTRODクシヨン	9. 「美的概念」読解 8	2. 「美的概念」読解 1	10. 「美的概念」読解 9	3. 「美的概念」読解 2	11. 「美的概念」読解10	4. 「美的概念」読解 3	12. 「美的概念」読解11	5. 「美的概念」読解 4	13. 「美的概念」読解12	6. 「美的概念」読解 5	14. 「美的概念」読解13	7. 「美的概念」読解 6	15. まとめ	8. 「美的概念」読解 7	
1. インTRODクシヨン	9. 「美的概念」読解 8																					
2. 「美的概念」読解 1	10. 「美的概念」読解 9																					
3. 「美的概念」読解 2	11. 「美的概念」読解10																					
4. 「美的概念」読解 3	12. 「美的概念」読解11																					
5. 「美的概念」読解 4	13. 「美的概念」読解12																					
6. 「美的概念」読解 5	14. 「美的概念」読解13																					
7. 「美的概念」読解 6	15. まとめ																					
8. 「美的概念」読解 7																						
◇ 成績評価の方法	出席して訳読を担当する (60%)、レポート (40%)																					
◇ 教科書・参考書	Frank Sibley, 1962. Aesthetic Concepts. Reprinted in: Frank Sibley, Approach to Aesthetics: Collected Papers on Philosophical Aesthetics. Oxford/New York, Oxford University Press. 2001: 1-23.																					
◇ 授業時間外学習	自宅にて論文をあらかじめ熟読しておき、疑問点をまとめる。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
古 代 中 世 哲 学 研 究 演 習 I Ancient and Medieval Philosophy (Advanced Seminar) I	2	准教授	荻 原 理	1学期	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI636J																					
◆ 授業題目	アリストテレス『詩学』演習																					
◆ 目的・概要	アリストテレス『詩学』の冒頭から第18章くらいまでを原語、古代ギリシャ語で読んでいく・あらかじめ当てておいた担当の方に、担当箇所を日本語に訳してもらおう（わからなかった点はいくらでも質問してくれば結構）。テキストの語学上の諸点や、内容を正確に理解するために、教員も含め、皆で議論する（そのさい、解釈上の問題も話題に上るであろう）。いくつかの翻訳や注釈書も参照する。																					
◆ 到達目標	アリストテレス『詩学』の冒頭から第18章くらいまでの内容を正確に理解し、解釈上の主な問題にどのようなものがあるかも知る。																					
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. (以下の予定は変更がありうる) オリエンテーション</td> <td style="width:50%;">9. 第11・12章</td> </tr> <tr> <td>2. 『詩学』第1章</td> <td>10. 第13章</td> </tr> <tr> <td>3. 第2・3章</td> <td>11. 第14章</td> </tr> <tr> <td>4. 第4章途中まで</td> <td>12. 第15章</td> </tr> <tr> <td>5. 第4章途中から第5章</td> <td>13. 第16章</td> </tr> <tr> <td>6. 第6章途中まで</td> <td>14. 第17章</td> </tr> <tr> <td>7. 第6章途中から第7章</td> <td>15. 第18章</td> </tr> <tr> <td>8. 第8～10章</td> <td></td> </tr> </table>						1. (以下の予定は変更がありうる) オリエンテーション	9. 第11・12章	2. 『詩学』第1章	10. 第13章	3. 第2・3章	11. 第14章	4. 第4章途中まで	12. 第15章	5. 第4章途中から第5章	13. 第16章	6. 第6章途中まで	14. 第17章	7. 第6章途中から第7章	15. 第18章	8. 第8～10章	
1. (以下の予定は変更がありうる) オリエンテーション	9. 第11・12章																					
2. 『詩学』第1章	10. 第13章																					
3. 第2・3章	11. 第14章																					
4. 第4章途中まで	12. 第15章																					
5. 第4章途中から第5章	13. 第16章																					
6. 第6章途中まで	14. 第17章																					
7. 第6章途中から第7章	15. 第18章																					
8. 第8～10章																						
◇ 成績評価の方法	担当時のパフォーマンス：80% 担当以外の、授業時のパフォーマンス：20%																					
◇ 教科書・参考書	使用テキストはプリントを配布する。参考文献等は授業時に随時知らせる。																					
◇ 授業時間外学習	次回に読む箇所の下調べ。																					
その他：古代ギリシャ語の初等文法を学んでいることが参加の条件。ただし、文法事項の覚え残しが多々あっても構わない。																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
近 現 代 哲 学 研 究 演 習 I Modern and Contemporary Philosophy (Advanced Seminar) I	2	教授 直 江 清 隆	1 学期	月	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSPHI640J 芸術作品の現象学 芸術作品とはいかなる存在か、芸術作品における意味構成はどのような特徴があるのか。Roman Ingarden, Selected papers in aesthetics や Alfred Schutz, Collective Papers II に収められた諸論文は、文芸作品や音楽を題材に現象学の視野からこれらに切り込もうとするものであり、人工物論=作品論、作品を媒介とした創作者と受容者の関係などを読み取れる、きわめて興味深いものである。この演習では、これらの論集からそれぞれ1本程度の論文を選び出し、丹念に読み解き、議論することを目標とする。テキストは英語を基本とし、必要に応じてドイツ語、日本語を併用する。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	現象学や芸術作品の存在論の基本的な議論構成を理解し、自らの問題意識とつきあわせる。				
	1. オリエンテーション	9. 報告と議論	芸術作品の存在論(2)		
	2. 報告と議論	10. 報告と議論	芸術作品の存在論(3)		
	3. 報告と議論	11. 報告と議論	芸術作品の存在論(4)		
	4. 報告と議論	12. 報告と議論	芸術作品の存在論(5)		
	5. 報告と議論	13. 報告と議論	芸術作品の存在論(6)		
	6. 報告と議論	14. 総括討論(1)			
	7. 報告と議論	15. 総括討論(2)			
	8. 報告と議論		芸術作品の存在論(1)		
◇ 成績評価の方法	レポート80% 授業への参加20%				
◇ 教科書・参考書	開講時にプリントを配布する。				
◇ 授業時間外学習	事前にテキストを読み、書かれていることを理解する。次図からの問題視式にあわせ、周辺の文献を読む。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
近 現 代 哲 学 研 究 演 習 II Modern and Contemporary Philosophy (Advanced Seminar) II	2	教授 直 江 清 隆	1 学期	金	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSPHI641J 自己と他者の現象学 自己や相互主観性は最近ふたたび注目を集めているテーマです。この演習では Dan Zahav, Self and Other: Exploring Subjectivity, Empathy, and Shame, 2015を読みすすめるでこの問題に対するアプローチの仕方を身につけていくことになります。この本は、現象学の伝統にある著作ですが、分析哲学や認知科学にも目を配っていて、たんに学説の解釈だけにとどまらない議論を展開しています。参加者の興味に応じて若干の変更はありますが、第一部自己と第三部間人格的な自己のいくつかの章を読みすすめる予定です。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	自己と他者に関する現象学をはじめとする諸アプローチの基本的な事項と問題を理解する。				
	1. オリエンテーション	9. 報告と議論	自己と他者の現象学(7)		
	2. 報告と議論	10. 報告と議論	自己と他者の現象学(8)		
	3. 報告と議論	11. 報告と議論	自己と他者の現象学(9)		
	4. 報告と議論	12. 間章	現在の集合志向性論		
	5. 報告と議論	13. 報告と議論	自己と他者の現象学(10)		
	6. 報告と議論	14. 報告と議論	自己と他者の現象学(11)		
	7. 間章	15. 報告と議論	自己と他者の現象学(12)		
	8. 報告と議論		自己と他者の現象学(6)		
◇ 成績評価の方法	レポート80% 授業への参加20%				
◇ 教科書・参考書	開講時に受講者に配布する。				
◇ 授業時間外学習	事前にテキストを読み問題点を理解しておく。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
近 現 代 哲 学 研 究 演 習 Ⅲ Modern and Contemporary Philosophy (Advanced Seminar) Ⅲ	2	准教授 城 戸 淳	1 学期	水	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSPHI642J カントの超越論的演繹論(1) カント『純粹理性批判』(1781/87年)における超越論的演繹論は、いかにしてカテゴリー(純粹悟性概念)が対象へと関わるかを説明することを試みるもので、アприオリな総合判断の客観的实在性を論証するという批判哲学のプロジェクトの肝になる箇所である。とはいえカント自身が「もっとも苦勞したところ」と記すとおり、この超越論的演繹論は、途方に暮れるような難解な論証が筋道の見えないままに結晶したかのような一節でもあり、古くからカント解釈の論争の中心地の一つであった。しかもここは第二版ではほぼ全面的に書き改められたので、二つの版での異同も検討の必要がある。演習では、前期は第一版の、後期は第二版の超越論的演繹論をドイツ語原文で読みすすめる(範囲は進捗状況に応じて変わる場合がある)。また、英語・ドイツ語・日本語等の各種コメンタリーや研究書・研究論文などを、輪番でレジュメにして紹介してもらう。				
◆ 到達目標	哲学テキストを読む忍耐力と咀嚼力を身につける。カントの超越論的演繹論の骨子を理解したうえで、みずから思考し、表現する力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入と問題設定 2. 第一節 (§13) 超越論的演繹一般の原理について(1) 3. (§13) 超越論的演繹一般の原理について(2) 4. (§14) カテゴリーの超越論的演繹への移行 5. 第二節 経験の可能性のためのアприオリな諸根拠について 6. 予備的注意 7. 1 直観における把握の総合について 8. 2 想像における再生の総合について 9. 3 概念における再認の総合について(1) 10. 3 概念における再認の総合について(2) 11. 4 アприオリな認識としてのカテゴリーの可能性についての予備的説明 12. 第三節 対象一般への悟性の関係について、対象一般をアприオリに説明する可能性について(1) 13. 対象一般への悟性の関係について、対象一般をアприオリに説明する可能性について(2) 14. 純粹悟性概念のこの演繹が正当で、唯一可能であることの要約提示 15. 第一版超越論的演繹論の総括と考察 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	出席、邦訳や担当発表の達成度、討議の貢献度などを総合的に判定する。 Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998. 予習を欠かさず、各種の訳書、コメンタリーや研究書などに目を通して演習に臨むこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
近 現 代 哲 学 研 究 演 習 Ⅳ Modern and Contemporary Philosophy (Advanced Seminar) Ⅳ	2	准教授 城 戸 淳	2 学期	水	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHSPHI643J カントの超越論的演繹論(2) カント『純粹理性批判』(1781/87年)における超越論的演繹論は、いかにしてカテゴリー(純粹悟性概念)が対象へと関わるかを説明することを試みるもので、アприオリな総合判断の客観的实在性を論証するという批判哲学のプロジェクトの肝になる箇所である。とはいえカント自身が「もっとも苦勞したところ」と記すとおり、この超越論的演繹論は、途方に暮れるような難解な論証が筋道の見えないままに結晶したかのような一節でもあり、古くからカント解釈の論争の中心地の一つであった。しかもここは第二版ではほぼ全面的に書き改められたので、二つの版での異同も検討の必要がある。演習では、前期は第一版の、後期は第二版の超越論的演繹論をドイツ語原文で読みすすめる(範囲は進捗状況に応じて変わる場合がある)。また、英語・ドイツ語・日本語等の各種コメンタリーや研究書・研究論文などを、輪番でレジュメにして紹介してもらう。				
◆ 到達目標	哲学テキストを読む忍耐力と咀嚼力を身につける。カントの超越論的演繹論の骨子を理解したうえで、みずから思考し、表現する力を養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第二節 §15 総合一般の可能性について 2. §16 統覚の根源的=総合的統一について 3. §17 統覚の総合的統一の原則があらゆる悟性概念の最上の原理である 4. §18 自己意識の客観的統一とは何か 5. §19 あらゆる判断の論理的形式は、判断に含まれる諸概念が統覚によって客観的に統一されることに存する 6. §20 すべての感性的直観はカテゴリーの下に立ち、カテゴリーとはその下でのみ感性的直観の多様が意識において総括される条件である 7. §21 註記 8. §22 カテゴリーには、経験の対象へと適用される以外には、物の認識のために使用されない 9. §23 10. §24 感官の対象一般へのカテゴリーの適用について 11. §25 12. §26 純粹悟性概念の一般に可能な経験使用についての超越論的演繹 13. §27 悟性概念のこの演繹の成果 14. この演繹の短い総括 15. 第二版超越論的演繹論の総括と考察 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	出席、邦訳や担当発表の達成度、討議の貢献度などを総合的に判定する。 Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998. 予習を欠かさず、各種の訳書、コメンタリーや研究書などに目を通して演習に臨むこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
科 学 哲 学 研 究 演 習 I Philosophy of Science (Advanced Seminar) I	2	准教授	原 壘	1 学期	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI644J																					
◆ 授業題目	自由意志論研究																					
◆ 目的・概要	20世紀イギリスの哲学者、ストローソン論文「自由と怒り」を精読し、感情に基づく責任と自由意志の概念について考察することがこの演習の目的である。																					
◆ 到達目標	1. 哲学文献を緻密に読解する能力を身につける。 2. 哲学文献の各自の解釈を要約的に文章表現する能力を身につける。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イン트로ダクション</td> <td>9. 「自由と怒り」読解 8</td> </tr> <tr> <td>2. 「自由と怒り」読解 1</td> <td>10. 「自由と怒り」読解 9</td> </tr> <tr> <td>3. 「自由と怒り」読解 2</td> <td>11. 「自由と怒り」読解 10</td> </tr> <tr> <td>4. 「自由と怒り」読解 3</td> <td>12. 「自由と怒り」読解 11</td> </tr> <tr> <td>5. 「自由と怒り」読解 4</td> <td>13. 「自由と怒り」読解 12</td> </tr> <tr> <td>6. 「自由と怒り」読解 5</td> <td>14. 「自由と怒り」読解 13</td> </tr> <tr> <td>7. 「自由と怒り」読解 6</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「自由と怒り」読解 7</td> <td></td> </tr> </table>						1. イン트로ダクション	9. 「自由と怒り」読解 8	2. 「自由と怒り」読解 1	10. 「自由と怒り」読解 9	3. 「自由と怒り」読解 2	11. 「自由と怒り」読解 10	4. 「自由と怒り」読解 3	12. 「自由と怒り」読解 11	5. 「自由と怒り」読解 4	13. 「自由と怒り」読解 12	6. 「自由と怒り」読解 5	14. 「自由と怒り」読解 13	7. 「自由と怒り」読解 6	15. まとめ	8. 「自由と怒り」読解 7	
1. イン트로ダクション	9. 「自由と怒り」読解 8																					
2. 「自由と怒り」読解 1	10. 「自由と怒り」読解 9																					
3. 「自由と怒り」読解 2	11. 「自由と怒り」読解 10																					
4. 「自由と怒り」読解 3	12. 「自由と怒り」読解 11																					
5. 「自由と怒り」読解 4	13. 「自由と怒り」読解 12																					
6. 「自由と怒り」読解 5	14. 「自由と怒り」読解 13																					
7. 「自由と怒り」読解 6	15. まとめ																					
8. 「自由と怒り」読解 7																						
◇ 成績評価の方法	出席して訳読を担当する (60%)、レポート (40%)																					
◇ 教科書・参考書	P. F. Strawson, 1962. "Freedom and Resentment," Proceedings of the British Academy, 48: 187-211.																					
◇ 授業時間外学習	自宅にて論文をあらかじめ熟読しておき、疑問点をまとめる。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
科 学 哲 学 研 究 演 習 II Philosophy of Science (Advanced Seminar) II	2	准教授	原 壘	2 学期	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI645J																					
◆ 授業題目	記号論理学																					
◆ 目的・概要	一階述語論理の言語に習熟するとともに、タブローによる妥当性のチェック方法を学び、そのスキルを使用して日本語による推論の妥当性を検討できるようにすることがこの授業の目的である。																					
◆ 到達目標	1. 記号論理学の背景にある基本的な考え方、概念を理解する。 2. 記号の操作法を身につける。 3. 日本語の推論の妥当性を検討する能力を身につける。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イン트로ダクション</td> <td>9. 自然言語から型式言語への翻訳</td> </tr> <tr> <td>2. 記号について</td> <td>10. 数の数え方</td> </tr> <tr> <td>3. 命題について</td> <td>11. 日本語による推論の妥当性 1</td> </tr> <tr> <td>4. 命題の意味</td> <td>12. 日本語による推論の妥当性 2</td> </tr> <tr> <td>5. 推論の妥当性</td> <td>13. 日本語による推論の妥当性 3</td> </tr> <tr> <td>6. タブロー 1</td> <td>14. タブローの健全性と完全性</td> </tr> <tr> <td>7. タブロー 2</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 多重量化</td> <td></td> </tr> </table>						1. イン트로ダクション	9. 自然言語から型式言語への翻訳	2. 記号について	10. 数の数え方	3. 命題について	11. 日本語による推論の妥当性 1	4. 命題の意味	12. 日本語による推論の妥当性 2	5. 推論の妥当性	13. 日本語による推論の妥当性 3	6. タブロー 1	14. タブローの健全性と完全性	7. タブロー 2	15. まとめ	8. 多重量化	
1. イン트로ダクション	9. 自然言語から型式言語への翻訳																					
2. 記号について	10. 数の数え方																					
3. 命題について	11. 日本語による推論の妥当性 1																					
4. 命題の意味	12. 日本語による推論の妥当性 2																					
5. 推論の妥当性	13. 日本語による推論の妥当性 3																					
6. タブロー 1	14. タブローの健全性と完全性																					
7. タブロー 2	15. まとめ																					
8. 多重量化																						
◇ 成績評価の方法	出席し、課題を提出する (60%)、テスト (40%)																					
◇ 教科書・参考書	加藤浩、土屋俊『記号論理学』放送大学教育振興会、2014年 丹治信春『論理学入門』筑摩書房、2014年																					
◇ 授業時間外学習	自宅で、テキストを予習し、課題と取り組むこと																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
生 命 環 境 倫 理 学 研 究 演 習 Social and Applied Ethics (Advanced Seminar)	2	非常勤 講師 大 北 全 俊 文 圓 増 文	1 学期	水	1
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI646J				
◆ 授業題目	人権をめぐる生命倫理文献（英語）講読				
◆ 目的・概要	この授業では、人権をキーワードに、それに関わる生命倫理の議論や課題を扱った文献を取り上げます。具体的には、おもに下記二つを基本テキストとし、その中から論文をセレクトして、1) 要約担当者の発表を基に受講者全体で講読をした上で、2) 要約担当者の問題提起に基づいて受講者全体で日本語でディスカッションを行います。 ・ R.Crufrim and S.M. Liao, M. Renzo (eds.) 2015. Philosophical Foundations of Human Rights, Oxford UP. ・ S.Anand and F. Peter, A. Sen (eds.) 2009. Public Health, Ethics, and Equity, Oxford UP.				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権に関わる生命倫理の諸問題を扱った英語文献を講読することを通じて、英語文献に対する読解力を身につけると共に、生命倫理の基本概念・論点について学ぶ。 ・ 文献の中で扱われている問題について論理的に検討し、自らの見解を、筋道を立てて説明するための技術を身につける。 ・ 他人の見解を聞いた上で、問題を一緒に検討していくために必要なディスカッションの技術を身につける。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（授業の進め方、予習上の注意、テキストの配布、要約担当の割り当て） 2. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(1) 3. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(2) 4. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(3) 5. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(4) 6. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(5) 7. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(6) 8. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(7) 9. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(8) 10. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(9) 11. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(10) 12. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(11) 13. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(12) 14. 講読：担当者による要約発表と内容の検討(13) 15. まとめと解説 				
◇ 成績評価の方法	報告、ディスカッション、数回の小レポートによる平常点（60%）と、最終レポート（40%）で評価します。				
◇ 教科書・参考書	教科書：必要なテキストはコピーして配布します。 参考書：授業中に紹介します。				
◇ 授業時間外学習	予習は必須です。受講者全員があらかじめ授業で講読予定の箇所を読んできてください。レジュメ担当になった場合は、該当箇所のレジュメを作成してください（受講者全員が1回以上担当予定）。定期的に（月一回程度）レポート課題を出します。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
倫 理 学 特 論 I Ethics (Advanced Lecture) I	2	准教授 村山達也	1 学期	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI647J				
◆ 授業題目	17世紀大陸合理主義の倫理学				
◆ 目的・概要	デカルト、スピノザ、ライプニッツを中心とした、いわゆる大陸合理主義は、自己や神、存在、真理などの主題をめぐる形而上学的な議論をさまざまに展開しましたが、そうした議論との密接な関連のもと、徳、利他性、幸福といった倫理的な主題についても考察を行なっています。この講義では、上記三人を軸に、彼らの形而上学的主張はいかなるものであり、そこからいかなる倫理的な主張が、いかにして導き出されたのかを検討します。上記三人についてそれぞれ、概観を一回行なったあと、短いテキストの集中的な読解を行ないます。デカルトは『情念論』の一五二～一五六節（高邁と利他性について）、スピノザは『エチカ』の第四部定理三七（徳と利他性について）、ライプニッツは『理性に基づく自然と恩寵の原理』の一部（神の存在証明と世界の最善性について）を取り上げる予定です。参加者の積極的な発言を歓迎します。なお、理解度を確認し、その深化を図るため、毎回アンケートを取り（成績とは無関係）、質問に答える回を設けます。				
◆ 到達目標	(1)17世紀大陸合理主義の基礎知識を身につける。 (2)倫理学上の問題についてそこでなされた主張や議論の基礎知識を身につける。 (3)テキストを読んで、議論を再構成し、批判的に検討する能力を身につける。				
◆ 授業内容・方法	1. 導入 2. 合理主義とは何か 3. デカルト概観 4. 『情念論』読解 5. 『情念論』読解 6. 質問への応答 7. スピノザ概観 8. 『エチカ』読解 9. 『エチカ』読解 10. 質問への応答 11. ライプニッツ概観 12. 『理性に基づく自然と恩寵の原理』読解 13. 『理性に基づく自然と恩寵の原理』読解 14. 質問への応答 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法	学期末のレポートのみで評価します（書き方と評価法については講義内で説明します）。				
◇ 教科書・参考書	教科書は不要です（必要なものはプリントを配布します）。参考書は講義内で適宜紹介します。				
◇ 授業時間外学習	テキストや参考書を事前に読解する。				
その他：特別な予備知識は不要です。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
倫 理 学 特 論 II Ethics (Advanced Lecture) II	2	教授 戸島貴代志	2 学期	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI648J				
◆ 授業題目	実存と構造				
◆ 目的・概要	実存思想が現代フランス哲学の一方の極をなすとしたなら、もう一方の極は構造主義あるいはポスト構造主義である。学的理念や概念を打ち破る生そのものの動性を重視した「生の哲学」を、個人における生のダイナミズムの重視という点ではむしろ徹底させたのが実存思想であった。この「実存」の概念に抗するようにして出現したのが「構造」あるいは「システム」の概念である。いわば個人の英断もその個人の属する共同体の社会システムや生物学的システム等に解消される、これが構造主義の基本的な主張である。そしてこの「構造」もやがて閉じた構造となるかぎり、これを一種の主体性の変種とみなし、そうした構造の根幹をなすもののひとつである「言語」についてのラディカルな反省を企てたのがポスト構造主義であった。本講義は、倫理思想概論で展開された「ものの見方」についての諸点を、実存主義、構造主義、ポスト構造主義の思想形成に沿って取り上げなおし、「生の哲学」における「生」の概念について、より広範な現代哲学的視点から再考する。				
◆ 到達目標	倫理思想概論で展開された「ものの見方」についての諸点を、実存主義、構造主義、ポスト構造主義の思想形成に沿って取り上げなおすことを通じて、「生の哲学」における「生」の概念をより広範な現代哲学的視点から理解する。				
◆ 授業内容・方法	1. 生の哲学における「生」の概念 2. もの二つの見方 1 3. もの二つの見方 2 4. もの二つの見方 3 5. もの二つの見方 4 6. 実存の概念について 1 7. 実存の概念について 2 8. 構造の概念について 1 9. 構造の概念について 2 10. ポスト構造主義 1 11. ポスト構造主義 2 12. 「生」についての現代的視点 1 13. 「生」についての現代的視点 2 14. 生と実存と構造 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法	出席5割、レポート5割				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	講義内容の確認と復讐。				
その他：オフィスアワーは昼休み。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時	
倫 理 学 特 論 III Ethics (Advanced Lecture) III	2	非常勤講師 梶 谷 真 司	集 中 (1)			
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要 ◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法 ◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	LHSPHI649J 「現象学と比較文化～東洋的なものへの視角」 哲学は普遍的な真理を求めるが、人間の経験や理解の仕方は、時代や文化によって異なる。だとすれば、哲学はこうした歴史的文化的条件による違いをどのように捉えるのか。本講義では、この問題を現象学の立場からアプローチし、その方法、対象、射程について、より開かれた可能性を探る。そのさい、たんに理論的なことだけでなく、実際に時代も文化も違う事象を取り上げ、比較文化的な分析を通して、今日の私たちのあり方を考察する。 普遍性を追求する哲学において軽視されがちな、人間の経験の歴史的文化的な差異についての問題意識をもつようにする。また専門の文献読解になりがちな哲学の研究を、他の分野の様々な資料を取り込みつつ豊かなものにしていく。そのさい現象学についての理解を深めるとともに、そのより広い可能性について考察する。さらにディスカッションのなかで、既成の知識にとらわれずに、自由に議論ができることを目指す。	9. 現象学と歴史学 現象学では、直接経験可能なものに依拠する。ではそれが不可能な過去や異文化の世界はどのように接近しうなのか。 10. 近代以前の間観 日本において近代化は西洋化であったが、それ以前の生活世界はどのようなものだったか。それはどのようにして捉えられるか。 11. ディスカッション(3) 近代以前の東洋の間観から逆照射した場合、近代、現代の人間や身体はどのような特徴を持つか。それは自明なものか。 12. 医学から見る西洋と東洋の違い 人間についての具体的理解の手掛かりとして医学を取り上げる。そこに西洋と東洋の違いはどのように現れるか。 13. 身体論としての養生書・育児書(1) 養生書や育児書は、近代化・西洋化以前の生活が多面的に現れる。そこから当時のどのような人間観、身体観が読み取られるか。 14. 身体論としての養生書・育児書(2) 近代化・西洋化は人間観、身体経験にどのような変化をもたらしたか。その哲学的な含意はどのようなものか。 15. ディスカッション(4) 近代化・西洋化の以前と以後の人間観の変化について、受講者から問題点を出してもらい、それについてディスカッションを行う。	事前の準備、出席、授業中の討論への参加度により総合的に評価する。 事前資料 「媒介者としての感情—シュミッツ現象学から見た感情の意義」、『現象学年報』（日本現象学会編）第22号、7-16頁。「江戸時代における身体観の文化とその哲学的意義—蘭医方以前と以後の育児書を手掛かりにして」、『実存思想論集XXIII アジアから問う実存』（実存思想協会編）第2期15号、103-119頁。 参考書 梶谷真司「シュミッツ現象学の根本問題—身体と感情からの思索」（京都大学学術出版会）2002年「集合心性と異他性—民俗世界の現象学」、小川侃編「空閑気と集合心性」（京都大学学術出版会）2001年 上記事前資料に目を通しておくこと。	◆ 成績評価の方法 ◆ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	事前の準備、出席、授業中の討論への参加度により総合的に評価する。 事前資料 「媒介者としての感情—シュミッツ現象学から見た感情の意義」、『現象学年報』（日本現象学会編）第22号、7-16頁。「江戸時代における身体観の文化とその哲学的意義—蘭医方以前と以後の育児書を手掛かりにして」、『実存思想論集XXIII アジアから問う実存』（実存思想協会編）第2期15号、103-119頁。 参考書 梶谷真司「シュミッツ現象学の根本問題—身体と感情からの思索」（京都大学学術出版会）2002年「集合心性と異他性—民俗世界の現象学」、小川侃編「空閑気と集合心性」（京都大学学術出版会）2001年 上記事前資料に目を通しておくこと。	◆ 成績評価の方法 ◆ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習
その他：						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
倫 理 学 研 究 演 習 I Ethics (Advanced Seminar) I	2	教授 戸 島 貴 代 志	1 学 期	月	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要 ◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法 ◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	LHSPHI650J 発表と討論 参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行い（レジメ配布）、それについてあらかじめ決めておいたコメンテーターによる質問や、他の参加者からの質問に答える。 発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらおう力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。	9. 発表と討論 9 10. 発表と討論 10 11. 発表と討論 11 12. 発表と討論 12 13. 発表と討論 13 14. 発表と討論 14 15. 発表と討論 15	発表7割、出席3割。 授業時に指示する。 発表者の予稿を精読し、質問に備える。	◆ 成績評価の方法 ◆ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	発表7割、出席3割。 授業時に指示する。 発表者の予稿を精読し、質問に備える。
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
倫 理 学 研 究 演 習 I Ethics (Advanced Seminar) I	2	非常勤 講師 森 一 郎	1 学期	火	3
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI650J				
◆ 授業題目	アーレント革命論研究				
◆ 目的・概要	ハンナ・アーレントの『革命について』は、『人間の条件』（『活動的生存』）に次ぐ、第二の哲学的名著であり、21世紀の今日、まさに読まれるべき根本書である。この授業では、英語版（1963年）とドイツ語版（1965年）との違いに留意し、とりわけドイツ語版の精読に努める。第二章「社会問題」を読んでゆく。				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・20世紀の古典的テキストを読み味わい、哲学的思考を鍛える。 ・哲学書の原典読解に堪える語学力を涵養する。 ・テキストの内容や問題点を整理して発表し質疑応答を交わす力を養う。 ・哲学の根本問題と現代日本の問題状況が直結していることを学ぶ。 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとイントロダクション： アーレントと『革命について』 2. 『革命について』第二章「社会問題」 その1：第1節（上）—ロベスピエールについて 3. 『革命について』第二章「社会問題」 その2：第1節（中）—マルクスについて 4. 『革命について』第二章「社会問題」 その3：第1節（下）—レーニンについて 5. 『革命について』第二章「社会問題」 その4：第2節（上）—アメリカにおける貧困の問題 6. 『革命について』第二章「社会問題」 その5：第2節（下）—アメリカにおける奴隷制の問題 7. 『革命について』第二章「社会問題」 その6：第3節（I）—ロベスピエールとルソー 8. 『革命について』第二章「社会問題」 その7：第3節（II）—利己主義という悪徳 9. 『革命について』第二章「社会問題」 その8：第3節（III）—メルヴィル『ピリー・バッド』 10. 『革命について』第二章「社会問題」 その9：第3節（IV）—ドストエフスキー「大審問官」 11. 『革命について』第二章「社会問題」 その10：第4節（上）—同情から哀れみへ 12. 『革命について』第二章「社会問題」 その11：第4節（中）—感傷の限界のなさ 13. 『革命について』第二章「社会問題」 その12：第4節（下）—偽善という問題 14. 『革命について』第二章「社会問題」にひそむもの： 同情によって自滅したフランス革命 15. まとめと展望： 第二章「社会問題」から第三章「幸福の追求」へ 				
◇ 成績評価の方法	平常点（出席、発表担当、議論への参加など）を70%、学期末レポートを30%として総合評価する。				
◇ 教科書・参考書	教科書（購入を勧めるが、プリントを配付することもある）：Hannah Arendt, On Revolution, Penguin Hannah Arendt, Über die Revolution, Piper 参考書（購入を勧める）：ハンナ・アーレント『革命について』志水速雄訳、ちくま学芸文庫				
◇ 授業時間外学習	毎回の講読範囲をあらかじめ熟読し、疑問点などはメモして、授業に臨むこと。また、授業後には読み直して理解を深めること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
倫 理 学 研 究 演 習 II Ethics (Advanced Seminar) II	2	教授 戸 島 貴 代 志	2 学期	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI651J				
◆ 授業題目	発表と討論				
◆ 目的・概要	参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行い（レジメ配布）、それについてあらかじめ決めておいたコメンテーターによる質問や、他の参加者からの質問に答える。				
◆ 到達目標	発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらう力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発表と討論 1 2. 発表と討論 2 3. 発表と討論 3 4. 発表と討論 4 5. 発表と討論 5 6. 発表と討論 6 7. 発表と討論 7 8. 発表と討論 8 9. 発表と討論 9 10. 発表と討論 10 11. 発表と討論 11 12. 発表と討論 12 13. 発表と討論 13 14. 発表と討論 14 15. 発表と討論 15 				
◇ 成績評価の方法	発表7割、出席3割。				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	発表者の予稿を精読し、質問に備える。				
その他：	オフィスアワーは昼休み。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																																
倫 理 学 研 究 演 習 Ⅲ Ethics (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教 授 戸 島 貴 代 志	1 学 期	水	4																																
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI652J																																				
◆ 授業題目	総合演習：「現象学」と「存在論」																																				
◆ 目的・概要	1) ハイデガールの『存在と時間』を精読する。本年度は、テキストでは「世界内存在」「被投」「企投」「言葉」「死」「不安」といった概念が中心となる。前年度に引き続き、そのつどハイデガールの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。 2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガールの存在概念とその探求方法とを通して解明する。																																				
◆ 到達目標	ハイデガールの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>1</td> <td>9. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>2. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>2</td> <td>10. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>3. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>3</td> <td>11. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>4. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>4</td> <td>12. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>5. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>5</td> <td>13. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>6. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>6</td> <td>14. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>7. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>7</td> <td>15. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>8. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 総合演習：「現象学」と「存在論」	1	9. 総合演習：「現象学」と「存在論」	9	2. 総合演習：「現象学」と「存在論」	2	10. 総合演習：「現象学」と「存在論」	10	3. 総合演習：「現象学」と「存在論」	3	11. 総合演習：「現象学」と「存在論」	11	4. 総合演習：「現象学」と「存在論」	4	12. 総合演習：「現象学」と「存在論」	12	5. 総合演習：「現象学」と「存在論」	5	13. 総合演習：「現象学」と「存在論」	13	6. 総合演習：「現象学」と「存在論」	6	14. 総合演習：「現象学」と「存在論」	14	7. 総合演習：「現象学」と「存在論」	7	15. 総合演習：「現象学」と「存在論」	15	8. 総合演習：「現象学」と「存在論」	8		
1. 総合演習：「現象学」と「存在論」	1	9. 総合演習：「現象学」と「存在論」	9																																		
2. 総合演習：「現象学」と「存在論」	2	10. 総合演習：「現象学」と「存在論」	10																																		
3. 総合演習：「現象学」と「存在論」	3	11. 総合演習：「現象学」と「存在論」	11																																		
4. 総合演習：「現象学」と「存在論」	4	12. 総合演習：「現象学」と「存在論」	12																																		
5. 総合演習：「現象学」と「存在論」	5	13. 総合演習：「現象学」と「存在論」	13																																		
6. 総合演習：「現象学」と「存在論」	6	14. 総合演習：「現象学」と「存在論」	14																																		
7. 総合演習：「現象学」と「存在論」	7	15. 総合演習：「現象学」と「存在論」	15																																		
8. 総合演習：「現象学」と「存在論」	8																																				
◇ 成績評価の方法	発表7割、出席3割。																																				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。																																				
◇ 授業時間外学習	テキストを読み、授業に備える。																																				
その他：オフィスアワーは昼休み。																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																																
倫 理 学 研 究 演 習 Ⅳ Ethics (Advanced Seminar) Ⅳ	2	教 授 戸 島 貴 代 志	2 学 期	水	4																																
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI653J																																				
◆ 授業題目	総合演習：「現象学」と「存在論」																																				
◆ 目的・概要	1) ハイデガールの『存在と時間』を精読する。本年度は、テキストでは「世界内存在」「被投」「企投」「言葉」「死」「不安」といった概念が中心となる。前年度に引き続き、そのつどハイデガールの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。 2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガールの存在概念とその探求方法とを通して解明する。																																				
◆ 到達目標	ハイデガールの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>1</td> <td>9. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>2. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>2</td> <td>10. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>3. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>3</td> <td>11. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>4. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>4</td> <td>12. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>5. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>5</td> <td>13. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>6. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>6</td> <td>14. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>7. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>7</td> <td>15. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>8. 総合演習：「現象学」と「存在論」</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 総合演習：「現象学」と「存在論」	1	9. 総合演習：「現象学」と「存在論」	9	2. 総合演習：「現象学」と「存在論」	2	10. 総合演習：「現象学」と「存在論」	10	3. 総合演習：「現象学」と「存在論」	3	11. 総合演習：「現象学」と「存在論」	11	4. 総合演習：「現象学」と「存在論」	4	12. 総合演習：「現象学」と「存在論」	12	5. 総合演習：「現象学」と「存在論」	5	13. 総合演習：「現象学」と「存在論」	13	6. 総合演習：「現象学」と「存在論」	6	14. 総合演習：「現象学」と「存在論」	14	7. 総合演習：「現象学」と「存在論」	7	15. 総合演習：「現象学」と「存在論」	15	8. 総合演習：「現象学」と「存在論」	8		
1. 総合演習：「現象学」と「存在論」	1	9. 総合演習：「現象学」と「存在論」	9																																		
2. 総合演習：「現象学」と「存在論」	2	10. 総合演習：「現象学」と「存在論」	10																																		
3. 総合演習：「現象学」と「存在論」	3	11. 総合演習：「現象学」と「存在論」	11																																		
4. 総合演習：「現象学」と「存在論」	4	12. 総合演習：「現象学」と「存在論」	12																																		
5. 総合演習：「現象学」と「存在論」	5	13. 総合演習：「現象学」と「存在論」	13																																		
6. 総合演習：「現象学」と「存在論」	6	14. 総合演習：「現象学」と「存在論」	14																																		
7. 総合演習：「現象学」と「存在論」	7	15. 総合演習：「現象学」と「存在論」	15																																		
8. 総合演習：「現象学」と「存在論」	8																																				
◇ 成績評価の方法	発表7割、出席3割。																																				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。																																				
◇ 授業時間外学習	テキストを読み、授業に備える。																																				
その他：オフィスアワーは昼休み。																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
倫 理 学 研 究 演 習 V Ethics (Advanced Seminar) V	2	准教授 村山達也	1 学期	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI654J																				
◆ 授業題目	フランス哲学演習(1) ライブニッツ『モノドロジー』																				
◆ 目的・概要	ライブニッツ (1646-1716年) が晩年の1714年に自らの形而上学をまとめた論考『モノドロジー』を読みます。担当者が作成した訳と要約を検討し、次いで、担当者や参加者が挙げる問題点について議論する、というかたちで進めます。主に用いるのはフランス語テキストですが、フランス語が(あまり)読めない方には英語の注釈の要約を担当していただきます。初回にガイダンスを行い、詳細を決めますので、参加希望者は必ず出席してください。2015年度からの継続で、今年度は第53節から読み進めます。ただし、既に読んだ分についてははじめに概観しますので、今年度からの参加ももちろん歓迎です。テキストはMichel Fichantが校訂した版(Folio, Gallimard)を用います。注釈として主に参照するのは、この版に付されたものと、Rescher, G. W. Leibniz's Monadology: An Edition for Student (University of Pittsburgh Press) です。																				
◆ 到達目標	(1)外国語で書かれた哲学書を、注釈も活用しつつ、正確に読解できるようになる。 (2)そこで展開されている議論を再構成し、洞察を引き出したり問題を取り出したりできるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>9. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> </tr> <tr> <td>2. 『モノドロジー』 読解</td> <td>10. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> </tr> <tr> <td>3. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> <td>11. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> </tr> <tr> <td>4. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> <td>12. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> </tr> <tr> <td>5. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> <td>13. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> </tr> <tr> <td>6. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> <td>14. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> </tr> <tr> <td>7. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> <td>15. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> </tr> <tr> <td>8. 『モノドロジー』 読解 (つづき)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	9. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	2. 『モノドロジー』 読解	10. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	3. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	11. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	4. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	12. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	5. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	13. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	6. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	14. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	7. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	15. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	8. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	
1. 導入	9. 『モノドロジー』 読解 (つづき)																				
2. 『モノドロジー』 読解	10. 『モノドロジー』 読解 (つづき)																				
3. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	11. 『モノドロジー』 読解 (つづき)																				
4. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	12. 『モノドロジー』 読解 (つづき)																				
5. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	13. 『モノドロジー』 読解 (つづき)																				
6. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	14. 『モノドロジー』 読解 (つづき)																				
7. 『モノドロジー』 読解 (つづき)	15. 『モノドロジー』 読解 (つづき)																				
8. 『モノドロジー』 読解 (つづき)																					
◇ 成績評価の方法	担当 (40%) と議論への参加度 (60%) で評価します。																				
◇ 教科書・参考書	必要なものはプリントで配布します。参考書は適宜紹介します。																				
◇ 授業時間外学習	演習で扱う箇所の予習、要約の作成。																				
その他：前期・金曜4限の「17世紀大陸合理主義の倫理学」は関連した話題を扱いますので、あわせて履修すると哲学的な予備知識を補うことができます。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
倫 理 学 研 究 演 習 V Ethics (Advanced Seminar) V	2	准教授 村山達也	1 学期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHSPHI654J																				
◆ 授業題目	フランス哲学演習(2) ルソー『人間不平等起源論』																				
◆ 目的・概要	本演習では、ルソー (1712-1778年) の『人間不平等起源論』をメインテキストに、人間本性 (自己愛、自尊心、利他性……)、道徳の起源、政治的自由の価値といった主題にまつわる問題について考えていきます。具体的には、(1)この著作の一部を読み、(2)上記の問題に関係する文献を読んでから、(3)みなさんに4000-6000字程度のレポートを書いていただき、それを全員で検討していく、というかたちで進めます。なお、テキストや論文はすべて日本語のものを用います。初回にガイダンスを行い、詳細を決めますので、参加希望者は必ず出席してください。																				
◆ 到達目標	(1)政治哲学 (の一部) の基本的な考え方を理解する。 (2)哲学のテキストから自分なりに問題を取り出し、考察できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>9. レポート発表</td> </tr> <tr> <td>2. ルソー『人間不平等起源論』読解</td> <td>10. レポート発表</td> </tr> <tr> <td>3. ルソー『人間不平等起源論』読解 (つづき)</td> <td>11. レポート発表</td> </tr> <tr> <td>4. ルソー『人間不平等起源論』読解 (つづき)</td> <td>12. レポート発表</td> </tr> <tr> <td>5. ロールズ『政治哲学史講義』「ルソー」読解</td> <td>13. レポート発表</td> </tr> <tr> <td>6. ロールズ『政治哲学史講義』「ルソー」読解 (つづき)</td> <td>14. レポート発表</td> </tr> <tr> <td>7. 道徳心理学ないし政治哲学の文献の読解</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 道徳心理学ないし政治哲学の文献の読解 (つづき)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	9. レポート発表	2. ルソー『人間不平等起源論』読解	10. レポート発表	3. ルソー『人間不平等起源論』読解 (つづき)	11. レポート発表	4. ルソー『人間不平等起源論』読解 (つづき)	12. レポート発表	5. ロールズ『政治哲学史講義』「ルソー」読解	13. レポート発表	6. ロールズ『政治哲学史講義』「ルソー」読解 (つづき)	14. レポート発表	7. 道徳心理学ないし政治哲学の文献の読解	15. まとめ	8. 道徳心理学ないし政治哲学の文献の読解 (つづき)	
1. 導入	9. レポート発表																				
2. ルソー『人間不平等起源論』読解	10. レポート発表																				
3. ルソー『人間不平等起源論』読解 (つづき)	11. レポート発表																				
4. ルソー『人間不平等起源論』読解 (つづき)	12. レポート発表																				
5. ロールズ『政治哲学史講義』「ルソー」読解	13. レポート発表																				
6. ロールズ『政治哲学史講義』「ルソー」読解 (つづき)	14. レポート発表																				
7. 道徳心理学ないし政治哲学の文献の読解	15. まとめ																				
8. 道徳心理学ないし政治哲学の文献の読解 (つづき)																					
◇ 成績評価の方法	担当 (50%) と議論への参加度 (50%) で評価します (それゆえ、出席が重視されます)。																				
◇ 教科書・参考書	ルソー『人間不平等起源論』(岩波文庫) は各自で用意してください。それ以外の使用文献についてはプリントを配布します。参考書は適宜指示します。																				
◇ 授業時間外学習	文献の読解、要約の作成。																				
その他：特別な予備知識は不要です。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
言 語 学 特 論 I Linguistics (Advanced Lecture) I	2	非常勤講師 傍 士 元	集 中 (1)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LLILIN601J 言語機能学入門 人間として生まれたものは、深刻な障害のある場合をのぞき、誰でもその言語環境で話される言語音声/サインと意味とを結びつける能力を持つにいたる。その能力の根幹をなしている(と仮定されている)のが言語機能(language faculty)である。言語機能をその研究対象とし、その対象に関する仮説から厳密な予測を導出し、その予測を実験によって検証するという、科学に於いて最も基本的な方法を用いてその理解に迫ろうとするのが、厳密科学としての言語機能学である。厳密科学としての言語機能学における、仮説、実験、そして、実験結果の解釈とはどうあるべきかを、具体的な例を用いて、そして、学生一人一人が実験に参加し、実験結果を吟味することを通して学ぶ。				
◆ 到達目標	言語機能の研究が厳密科学になりうるという主張の概念的基盤と実験によるその経験的基盤について学ぶ。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「こそあ」について日本語話者は何を知っているか 2. 「こそあ」について日本語話者は何を、それを知っていると意識せずに、知っているか 3. 「そこ」、「そいつ」、「あそこ」、「あいつ」の単数を指す性質 4. 「そ」対「あ」: 同一指示 5. 言語機能と言語機能学の概観、ファインマンの方法論 6. 言語機能学に於けるデータ・証拠 7. チョムスキーの言語機能のComputational Systemのモデルと上山の被験者のjudgment-makingのモデル 8. 普遍的仮説と個別言語に関する仮説、メイン仮説とサブ仮説、言語機能学に於ける予測 9. 言語機能学に於ける実験: デザインと結果、メイン実験とサブ実験 10. 頭の中に作られる抽象的な構造関係 11. 個別被験者に関する実験の結果の重要性、単独被験者の実験と複数被験者の実験との関係 12. オンライン実験の結果をどう読むか 13. 復習: 仮説、予測、実験結果 14. 英語を扱った実験、他の言語に関する実験 15. 将来への展望と夢 				
◇ 成績評価の方法	宿題・課題(80%)、授業への貢献(20%)				
◇ 教科書・参考書	教科書 特に指定しない 参考文献 ファインマン, R.P. 「カーゴ・カルト・サイエンス」 in ぐ元談でしょう、ファインマンさん(下)(岩波書店)(pp. 288-306) ファインマン, R.P. 物理法則はいかにして発見されたか(岩波書店)(pp. 239-240) Hoji Hajime, 2016. Language Faculty Science, Cambridge University Press. (第一章の日本語版) 上山あゆみ2015. 統語意味論、名古屋大学出版会。(序章、終章)				
◇ 授業時間外学習	宿題・課題には、オンライン実験への参加と実験結果に関する課題(http://www.gges.org/hojiCUP/)での結果を調べたり、その実験結果の解釈についての考察などの二種類がある。				
授業開始前に、 http://www.gges.org/cgi-bin/epsa4-j/indexx-j.cgi を訪れ、オンライン実験への参加をしておくことが望ましい。 その他: このサイトは2016年5月15日以降、本格的に使用可能となる。「依頼者」の欄には必ず「Tohoku2016」とすべて半角で、「Tohoku」と「2016」の間にスペースなしで、入力すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
言 語 学 特 論 II Linguistics (Advanced Lecture) II	2	非常勤講師 尾 谷 昌 則	集 中 (1)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LLILIN602J 認知言語学の基礎と応用 認知言語学は、我々が外部世界をどのように概念化するのか(=捉え方)が言語に反映されているという前提に立ち、様々な言語現象を研究・分析するプログラムである。本講義では、その特徴を理解するために様々な「捉え方」に関する基礎概念を紹介してゆく。さらに、それらの応用例として、具体的な研究事例もできるだけ多く紹介する。特に、ダイナミックに拡張している(しつづける)事例を取り上げる予定である。				
◆ 到達目標	(1) 認知言語学の考え方や諸概念を理解する。 (2) 認知言語学の諸概念を用いて日本語の語彙意味や構文の分析ができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知言語学に至る道 (語彙と文法とイデオロム、記号的言語観、経験基盤主義) 2. 捉え方と動機付け1 (図と地、スキミング、ベースとプロファイル、品詞) 3. 捉え方と動機付け2 (カテゴリー化と特定性) 4. 捉え方と動機付け3 (スキーマとプロトタイプ) 5. 捉え方と動機付け5 (類推、類推違い、混成) 6. 捉え方と動機付け5 (類推、類推違い、混成) 7. 意味ネットワーク1 (名詞の多義性) 8. 意味ネットワーク2 (形容詞の多義性) 9. 意味ネットワーク3 (動詞の多義性) 10. 構文文法1 (Lakoff, Goldberg, Langackerの構文ネットワーク) 11. 構文文法2 (動的用法基盤モデル、融合ネットワークモデル) 12. 構文文法3 (類推ネットワークモデル、再分析) 13. 言語変化の事例分析1 (「全然+不定」構文、テウカ構文) 14. 言語変化の事例分析2 (マヨラー構文、ヲ入れ構文、サ入れ構文) 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート(80%)、小レポート(20%)				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 プリントを配布する。 【参考書】 以下の通り。 【新編 認知言語学キーワード事典】(辻幸夫編、2013年、研究社) 【講座 認知言語学のフロンティア1 音韻・形態のメカニズム】(上原聡・熊代文子著、2007年、研究社) 【講座 認知言語学のフロンティア2 構文ネットワークと文法】(尾谷昌則・二枝美津子著、2011年、研究社) 【講座 認知言語学のフロンティア3 概念化と意味の世界】(深田智・仲本康一郎著、2008年、研究社) 【講座 認知言語学のフロンティア4 言語運用のダイナミズム】(崎田智子・岡本雅史著、2010年、研究社) 【講座 認知言語学のフロンティア5 言語のタイポロジー】(堀江薫・ブラシャント・バルデシ著、2009年、研究社) 【講座 認知言語学のフロンティア6 言語習得と用法基盤モデル】(児玉一宏・野澤元著、2009年、研究社)				
◇ 授業時間外学習	授業の最後に、次回までに考えて(もしくは用例を採取して)おいてもらう小レポートを課すので、それに取り組んでほしい。				
その他: 言語学の基礎的な知識があることを前提とするが、無くても受講は妨げない。具体例(例文)の意味・用法について考える時間を所々設けるので、直感的な意見でも構わないので、積極的に発言してほしい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
言 語 学 特 論 III Linguistics (Advanced Lecture) III	2	非常勤 講師 遊 佐 典 昭	集 中 (1)																		
◆ 科目ナンバリング	LLILIN603J																				
◆ 授業題目	生成文法と関連領域 I																				
◆ 目的・概要	この講義では、認知科学としての生成文法とその関連領域を扱います。生成文法は細部の分析に目がいきがちですが、本講義では、生成文法の基本的な思考法に重点を置きながら、幅広いトピックを扱います。																				
◆ 到達目標	生成文法理論について理解を深め、受講者の研究領域との関連を見いだせることを目標とする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 認知科学としての生成文法(1)</td> <td>9. 母語獲得(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 認知科学としての生成文法(2)</td> <td>10. 母語獲得(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 生成文法の基礎(1)</td> <td>11. 母語獲得(4)</td> </tr> <tr> <td>4. 生成文法の基礎(2)</td> <td>12. 母語獲得(5)</td> </tr> <tr> <td>5. 生成文法の基礎(3)</td> <td>13. 母語獲得(6)</td> </tr> <tr> <td>6. 生成文法の基礎(4)</td> <td>14. 母語獲得(7)</td> </tr> <tr> <td>7. 生成文法の基礎(5)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 母語獲得(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 認知科学としての生成文法(1)	9. 母語獲得(2)	2. 認知科学としての生成文法(2)	10. 母語獲得(3)	3. 生成文法の基礎(1)	11. 母語獲得(4)	4. 生成文法の基礎(2)	12. 母語獲得(5)	5. 生成文法の基礎(3)	13. 母語獲得(6)	6. 生成文法の基礎(4)	14. 母語獲得(7)	7. 生成文法の基礎(5)	15. まとめ	8. 母語獲得(1)	
1. 認知科学としての生成文法(1)	9. 母語獲得(2)																				
2. 認知科学としての生成文法(2)	10. 母語獲得(3)																				
3. 生成文法の基礎(1)	11. 母語獲得(4)																				
4. 生成文法の基礎(2)	12. 母語獲得(5)																				
5. 生成文法の基礎(3)	13. 母語獲得(6)																				
6. 生成文法の基礎(4)	14. 母語獲得(7)																				
7. 生成文法の基礎(5)	15. まとめ																				
8. 母語獲得(1)																					
◇ 成績評価の方法	講義への参加（課題を含む）40%、レポート 60%																				
◇ 教科書・参考書	教科書 杉崎鉦司『はじめての言語獲得』岩波書店 Everaert et al. (2015) "Structures, not Strings: Linguistics as Part of Cognitive Science," Trends in Cognitive Sciences 19: 729-743. 参考書 Boeckx, C. (2012) Language in Cognition, Wiley_Blackwell. Chomsky, N. (1968/2006) Language and Mind, Cambridge University Press. Jackendoff, R. (1993) Patterns in the Mind, Basic Books. (Chapters 1 and 2) 藤田・福井・遊佐・池内（編）(2015)『言語の設計・発達・進化』開拓社 遊佐（編）(2010)『言語の可能性 第9巻言語と哲学・心理学』朝倉出版																				
◇ 授業時間外学習	予習と復習（課題を含む）をしっかりと行ってください。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
言 語 学 特 論 IV Linguistics (Advanced Lecture) IV	2	非常勤 講師 遊 佐 典 昭	集 中 (2)																		
◆ 科目ナンバリング	LLILIN604J																				
◆ 授業題目	生成文法と関連領域 II																				
◆ 目的・概要	生成文法に基づいた第二言語獲得研究を「普遍文法に基づく第二言語獲得研究」、あるいは、最近のことばを使えば「生物言語学としての第二言語獲得研究」と呼びます。第二言語獲得研究は、生成文法の進展や関連領域との連携により、従来とは異なった様相を呈しています。本講義では、このような観点から、第二言語獲得研究の可能性を探りたいと思います。																				
◆ 到達目標	生成文法理論について理解を深め、言語理論に基づいた、第二言語獲得研究が理解できることを目標とする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 生成文法の基礎(1)</td> <td>9. 第二言語獲得と文処理研究(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 生成文法の基礎(2)</td> <td>10. 第二言語獲得と文処理研究(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 第二言語獲得研究の基礎(1)</td> <td>11. 第二言語獲得と脳科学(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 第二言語獲得研究の基礎(2)</td> <td>12. 第二言語獲得と脳科学(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 第二言語獲得の分析(1)</td> <td>13. 第二言語獲得と英語教育(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 第二言語獲得の分析(2)</td> <td>14. 第二言語獲得と英語教育(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 第二言語獲得の分析(3)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 第二言語獲得と文処理研究(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 生成文法の基礎(1)	9. 第二言語獲得と文処理研究(2)	2. 生成文法の基礎(2)	10. 第二言語獲得と文処理研究(3)	3. 第二言語獲得研究の基礎(1)	11. 第二言語獲得と脳科学(1)	4. 第二言語獲得研究の基礎(2)	12. 第二言語獲得と脳科学(2)	5. 第二言語獲得の分析(1)	13. 第二言語獲得と英語教育(1)	6. 第二言語獲得の分析(2)	14. 第二言語獲得と英語教育(2)	7. 第二言語獲得の分析(3)	15. まとめ	8. 第二言語獲得と文処理研究(1)	
1. 生成文法の基礎(1)	9. 第二言語獲得と文処理研究(2)																				
2. 生成文法の基礎(2)	10. 第二言語獲得と文処理研究(3)																				
3. 第二言語獲得研究の基礎(1)	11. 第二言語獲得と脳科学(1)																				
4. 第二言語獲得研究の基礎(2)	12. 第二言語獲得と脳科学(2)																				
5. 第二言語獲得の分析(1)	13. 第二言語獲得と英語教育(1)																				
6. 第二言語獲得の分析(2)	14. 第二言語獲得と英語教育(2)																				
7. 第二言語獲得の分析(3)	15. まとめ																				
8. 第二言語獲得と文処理研究(1)																					
◇ 成績評価の方法	講義への参加（課題を含む）40%、レポート60%																				
◇ 教科書・参考書	開講時に指定します。																				
◇ 授業時間外学習	しっかりと予習・復習をしてください。																				
その他：この講義は、前期の講義で扱う、生成文法、母語獲得の基礎知識を前提としますので、受講希望者は連続して受講してください。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
言 語 学 研 究 演 習 I Linguistics (Advanced Seminar) I	2	教授 教授	後 藤 齊 利 小 泉 政 利	1 学期	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LLILIN606J																					
◆ 授業題目	言語学研究法																					
◆ 目的・概要	<p>授業は、参加者の分担による口頭発表と質疑応答の形式で行う。これにより、学会発表および論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発表者は、発表のためのハンドアウトを事前に作成したうえで、研究目的、資料、分析と考察、結論を所定の時間で口頭発表する。 2. 質疑応答を参考にして論を練り直し、学会発表や雑誌投稿ができるよりよい論文にするよう努める。 3. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、自己の研究領域以外の分野への理解をも深めつつ、他者の論文をよりよいものことに貢献する。 																					
◆ 到達目標	学会発表・論文作成の方法を身につける。																					
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width: 50%;">9. 発表 8</td> </tr> <tr> <td>2. 発表 1</td> <td>10. 発表 9</td> </tr> <tr> <td>3. 発表 2</td> <td>11. 発表 10</td> </tr> <tr> <td>4. 発表 3</td> <td>12. 発表 11</td> </tr> <tr> <td>5. 発表 4</td> <td>13. 発表 12</td> </tr> <tr> <td>6. 発表 5</td> <td>14. 発表 13</td> </tr> <tr> <td>7. 発表 6</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表 7</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス	9. 発表 8	2. 発表 1	10. 発表 9	3. 発表 2	11. 発表 10	4. 発表 3	12. 発表 11	5. 発表 4	13. 発表 12	6. 発表 5	14. 発表 13	7. 発表 6	15. 全体のまとめ	8. 発表 7	
1. ガイダンス	9. 発表 8																					
2. 発表 1	10. 発表 9																					
3. 発表 2	11. 発表 10																					
4. 発表 3	12. 発表 11																					
5. 発表 4	13. 発表 12																					
6. 発表 5	14. 発表 13																					
7. 発表 6	15. 全体のまとめ																					
8. 発表 7																						
◇ 成績評価の方法	授業への参加60%、発表40%																					
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。																					
◇ 授業時間外学習	発表に使用するハンドアウトは、事前に作成し、配布すること。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
言 語 学 研 究 演 習 II Linguistics (Advanced Seminar) II	2	教授 教授	後 藤 齊 利 小 泉 政 利	2 学期	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LLILIN607J																					
◆ 授業題目	言語学研究法																					
◆ 目的・概要	<p>授業は、参加者の分担による口頭発表と質疑応答の形式で行う。これにより、学会発表および論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発表者は、発表のためのハンドアウトを事前に作成したうえで、研究目的、資料、分析と考察、結論を所定の時間で口頭発表する。 2. 質疑応答を参考にして論を練り直し、学会発表や雑誌投稿ができるよりよい論文にするよう努める。 3. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、自己の研究領域以外の分野への理解をも深めつつ、他者の論文をよりよいものことに貢献する。 																					
◆ 到達目標	学会発表・論文作成の方法を身につける。																					
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width: 50%;">9. 発表 8</td> </tr> <tr> <td>2. 発表 1</td> <td>10. 発表 9</td> </tr> <tr> <td>3. 発表 2</td> <td>11. 発表 10</td> </tr> <tr> <td>4. 発表 3</td> <td>12. 発表 11</td> </tr> <tr> <td>5. 発表 4</td> <td>13. 発表 12</td> </tr> <tr> <td>6. 発表 5</td> <td>14. 発表 13</td> </tr> <tr> <td>7. 発表 6</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 発表 7</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス	9. 発表 8	2. 発表 1	10. 発表 9	3. 発表 2	11. 発表 10	4. 発表 3	12. 発表 11	5. 発表 4	13. 発表 12	6. 発表 5	14. 発表 13	7. 発表 6	15. 全体のまとめ	8. 発表 7	
1. ガイダンス	9. 発表 8																					
2. 発表 1	10. 発表 9																					
3. 発表 2	11. 発表 10																					
4. 発表 3	12. 発表 11																					
5. 発表 4	13. 発表 12																					
6. 発表 5	14. 発表 13																					
7. 発表 6	15. 全体のまとめ																					
8. 発表 7																						
◇ 成績評価の方法	授業への参加60%、発表40%																					
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。																					
◇ 授業時間外学習	発表で使用使用するハンドアウトは事前に作成し、配布すること。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
言 語 解 析 学 特 論 I Linguistics Analysis (Advanced Lecture) I	2	後 藤 齊	1 学期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LLILIN608J																				
◆ 授業題目	言語研究におけるコンピュータ利用の基礎																				
◆ 目的・概要	以下の事項について講義を行い、さらに実習によりその知識を深め、関連した技術を習得する。 ・文字コード ・文献検索 (OPAC、文献データベース) ・言語研究情報の取得 (WWW)																				
◆ 到達目標	コンピュータおよびインターネットを言語研究により効果的に利用する方法について、基本的な知識と技術を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 海外の図書館のOPAC</td> </tr> <tr> <td>2. Windowsの基礎</td> <td>10. 国立情報学研究所のデータベース</td> </tr> <tr> <td>3. ファイル</td> <td>11. 言語学関係の論文データベース</td> </tr> <tr> <td>4. 文字コード</td> <td>12. 言語学関係の論文データベース (続き)</td> </tr> <tr> <td>5. 文字コード (続き)</td> <td>13. 海外の論文データベース</td> </tr> <tr> <td>6. 東北大学附属図書館および大学図書館等のOPAC</td> <td>14. 言語研究情報の取得 (WWW)、Google 検索</td> </tr> <tr> <td>7. 国立国会図書館と公共図書館のOPAC</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 出版社系の書籍データベース</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 海外の図書館のOPAC	2. Windowsの基礎	10. 国立情報学研究所のデータベース	3. ファイル	11. 言語学関係の論文データベース	4. 文字コード	12. 言語学関係の論文データベース (続き)	5. 文字コード (続き)	13. 海外の論文データベース	6. 東北大学附属図書館および大学図書館等のOPAC	14. 言語研究情報の取得 (WWW)、Google 検索	7. 国立国会図書館と公共図書館のOPAC	15. 全体のまとめ	8. 出版社系の書籍データベース	
1. ガイダンス	9. 海外の図書館のOPAC																				
2. Windowsの基礎	10. 国立情報学研究所のデータベース																				
3. ファイル	11. 言語学関係の論文データベース																				
4. 文字コード	12. 言語学関係の論文データベース (続き)																				
5. 文字コード (続き)	13. 海外の論文データベース																				
6. 東北大学附属図書館および大学図書館等のOPAC	14. 言語研究情報の取得 (WWW)、Google 検索																				
7. 国立国会図書館と公共図書館のOPAC	15. 全体のまとめ																				
8. 出版社系の書籍データベース																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加40%、レポート60%																				
◇ 教科書・参考書	資料を配布する。																				
◇ 授業時間外学習	紹介したサイトは実際にアクセスして、その詳細を体得すること。																				
その他： http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/bunkenkensaku.html も参照すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
言 語 解 析 学 特 論 II Linguistics Analysis (Advanced Lecture) II	2	後 藤 齊	2 学期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LLILIN609J																				
◆ 授業題目	テキスト処理の基礎																				
◆ 目的・概要	主な対象言語を日本語とし、必要に応じて英語における事情も参照しながら、主として以下の事項について講義する。さらに実習により、その知識をより深め、また応用力を磨く。 ・テキストアーカイブとコーパス ・正規表現 ・KWICコンコーダンサーと関連のツール ・オンラインコーパス検索																				
◆ 到達目標	コンピュータを用いてテキストを分析する方法について、基本的な知識と技術を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 正規表現 (続き)</td> </tr> <tr> <td>2. 外国のテキストアーカイブ</td> <td>10. 英語用のコンコーダンサー</td> </tr> <tr> <td>3. 国内のテキストアーカイブ</td> <td>11. 英語用のコンコーダンサーと関連のツール</td> </tr> <tr> <td>4. 英語圏のコーパス概観</td> <td>12. 日本語のコンコーダンサー</td> </tr> <tr> <td>5. 日本語のコーパス概観</td> <td>13. 日本語のコンコーダンサーと関連のツール</td> </tr> <tr> <td>6. 正規表現</td> <td>14. オンラインコーパス検索</td> </tr> <tr> <td>7. 正規表現 (続き)</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 正規表現 (続き)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 正規表現 (続き)	2. 外国のテキストアーカイブ	10. 英語用のコンコーダンサー	3. 国内のテキストアーカイブ	11. 英語用のコンコーダンサーと関連のツール	4. 英語圏のコーパス概観	12. 日本語のコンコーダンサー	5. 日本語のコーパス概観	13. 日本語のコンコーダンサーと関連のツール	6. 正規表現	14. オンラインコーパス検索	7. 正規表現 (続き)	15. 全体のまとめ	8. 正規表現 (続き)	
1. ガイダンス	9. 正規表現 (続き)																				
2. 外国のテキストアーカイブ	10. 英語用のコンコーダンサー																				
3. 国内のテキストアーカイブ	11. 英語用のコンコーダンサーと関連のツール																				
4. 英語圏のコーパス概観	12. 日本語のコンコーダンサー																				
5. 日本語のコーパス概観	13. 日本語のコンコーダンサーと関連のツール																				
6. 正規表現	14. オンラインコーパス検索																				
7. 正規表現 (続き)	15. 全体のまとめ																				
8. 正規表現 (続き)																					
◇ 成績評価の方法	授業への参加40%、レポート60%																				
◇ 教科書・参考書	参考書：大名力『言語研究のための正規表現によるコーパス検索』(ひつじ書房、2012) ほか、 http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/textprocessing.html に掲載。																				
◇ 授業時間外学習	紹介したサイトやツールは自身の関心に応じてさらに使ってみて、その機能を体感すること。																				
その他： http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/textprocessing.html も参照すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
言 語 解 析 学 研 究 演 習 I Linguistics Analysis (Advanced Seminar) I	2	教授	後 藤 齊	1 学期	金	2
◆ 科目ナンバリング	LLLLIN610J					
◆ 授業題目	コーパス言語学の概観					
◆ 目的・概要	コーパス言語学の最新の概説書を分担して読みながら、コーパス言語学のさまざまな側面およびおよび言語研究全体の中での位置づけについての知識を得る。扱われている題材の多くは英語圏における事情であるが、授業の中では日本語への応用についても考えていく。					
◆ 到達目標	コーパス言語学の全体像および言語研究全体の中でのコーパス言語学の位置づけに関する理解を深める。					
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 第1章 コーパス言語学とは何か 3. 第1章 コーパス言語学とは何か (続き) 4. 第2章 コーパスデータの利用と分析 5. 第2章 コーパスデータの利用と分析 (続き) 6. 第3章 ウェブの利用における法と倫理 7. 第4章 英語コーパス言語学 8. 第4章 英語コーパス言語学 (続き) 9. 第5章 共時的・通時的多様性に対するコーパス準拠型研究 10. 第6章 新Firth派コーパス言語学 11. 第6章 新Firth派コーパス言語学 (続き) 12. 第7章 コーパス研究手法と機能主義言語学 13. 第8章 コーパス言語学、心理言語学、機能主義言語学の接近 14. 第9章 結論 15. 全体のまとめと展望 					
◇ 成績評価の方法	授業への参加 (60%)、レポート (40%)					
◇ 教科書・参考書	トニー・マケナリー、アンドリュース・ハーディー著、石川慎一郎訳『概説コーパス言語学 手法・理論・実践』(ひつじ書房、2014)。					
◇ 授業時間外学習	分担者は補足的な調査をしつつ本文の重要点をまとめ、分担者を含めた参加者は疑問箇所を挙げるために、下調べをしておくこと。					
その他：						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
言 語 解 析 学 研 究 演 習 II Linguistics Analysis (Advanced Seminar) II	2	教授	後 藤 齊	2 学期	金	2
◆ 科目ナンバリング	LLLLIN611J					
◆ 授業題目	コーパス言語学の実践					
◆ 目的・概要	日本語を含めて多くの言語で大規模な言語資料がコーパスとして整備されるようになってきており、そこからデータを検索することが容易になりつつある。しかし、言語構造あるいは言語運用のより深い理解につなげるために検索結果をどのように解釈すればよいかは、必ずしも自明ではない。この授業で取り上げる本は、豊富な実例と課題によりその手法を身につけさせようというものである。英語からの例であるが、手法自体は他の言語にも適用できる部分が多い。授業では、その中からいくつかを具体的に検討したい。					
◆ 到達目標	コーパスからの検索結果を適切に解釈するための手法を身につける。					
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 実例と課題の検討1 3. 実例と課題の検討2 4. 実例と課題の検討3 5. 実例と課題の検討4 6. 実例と課題の検討5 7. 実例と課題の検討6 8. 実例と課題の検討7 9. 実例と課題の検討8 10. 実例と課題の検討9 11. 実例と課題の検討10 12. 実例と課題の検討11 13. 実例と課題の検討12 14. 実例と課題の検討13 15. 全体のまとめ 					
◇ 成績評価の方法	授業への参加 (60%)、レポート (40%)					
◇ 教科書・参考書	Wendy Anderson and John Corbett, Exploring English with online corpora. Basingstoke: Palgrave-Macmillan, 2009.					
◇ 授業時間外学習	実例と課題については条件を少し変えるとどうなるか、等を考えてみること。					
その他：						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
言 語 解 析 学 研 究 演 習 Ⅲ Linguistics Analysis (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教授 小 泉 政 利	1 学 期	水	4																		
◆ 科目ナンバリング	LLLIN612J																						
◆ 授業題目	実験言語学Ⅰ																						
◆ 目的・概要	人間の言語能力の解明をめざす研究のなかでも、とくに実験データを重視するアプローチを「実験言語学」という。この授業では、文の理解と産出についての研究事例を検討することを通じて、実験言語学の目的や方法論などについて学ぶ。																						
◆ 到達目標	言語を理解したり産出したりする際の心内処理メカニズムの概要が自分なりに説明できるようになる。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 動詞句内主語仮説</td> </tr> <tr> <td>実験言語学とは</td> <td>10. 脳の構造と機能</td> </tr> <tr> <td>2. 語順と文処理負荷(1): 文法関係、意味役割、格助詞</td> <td>11. 語順処理の神経基盤</td> </tr> <tr> <td>3. 語順と文処理負荷(2): 文法関係と格関係</td> <td>12. 文処理負荷に影響を与える主たる要因</td> </tr> <tr> <td>4. 文脈と語順</td> <td>13. 文法処理と作業記憶</td> </tr> <tr> <td>5. 付加詞の語順</td> <td>14. 数量詞と名詞</td> </tr> <tr> <td>6. 二重目的語構文</td> <td>15. 役割語</td> </tr> <tr> <td>7. 痕跡の心理的実在性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. カートグラフィー</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 動詞句内主語仮説	実験言語学とは	10. 脳の構造と機能	2. 語順と文処理負荷(1): 文法関係、意味役割、格助詞	11. 語順処理の神経基盤	3. 語順と文処理負荷(2): 文法関係と格関係	12. 文処理負荷に影響を与える主たる要因	4. 文脈と語順	13. 文法処理と作業記憶	5. 付加詞の語順	14. 数量詞と名詞	6. 二重目的語構文	15. 役割語	7. 痕跡の心理的実在性		8. カートグラフィー	
1. ガイダンス	9. 動詞句内主語仮説																						
実験言語学とは	10. 脳の構造と機能																						
2. 語順と文処理負荷(1): 文法関係、意味役割、格助詞	11. 語順処理の神経基盤																						
3. 語順と文処理負荷(2): 文法関係と格関係	12. 文処理負荷に影響を与える主たる要因																						
4. 文脈と語順	13. 文法処理と作業記憶																						
5. 付加詞の語順	14. 数量詞と名詞																						
6. 二重目的語構文	15. 役割語																						
7. 痕跡の心理的実在性																							
8. カートグラフィー																							
◇ 成績評価の方法	概ね下記の目安で、総合的に評価します。 予習課題40%、授業中の貢献(ミニット・ペーパーを含む)40%、レポート20%																						
◇ 教科書・参考書	参考書 小泉政利(編著)『ここから始める言語学と統計分析』共立出版																						
◇ 授業時間外学習	毎回、授業の前に予習課題に取り組むこと。																						
その他:受講者のみなさんが「大変だけど一生懸命やると楽しい」と感じられる授業を目指しています。																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
言 語 解 析 学 研 究 演 習 Ⅳ Linguistics Analysis (Advanced Seminar) Ⅳ	2	教授 小 泉 政 利	2 学 期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LLLIN613J																				
◆ 授業題目	実験言語学Ⅱ																				
◆ 目的・概要	この授業では、受講者がグループで、実際に実験計画を立て、実験を実施し、データを分析して、レポートを書くことを通じて、実験言語学のノウハウについて学びます。																				
◆ 到達目標	卒業論文や修士論文のための実験言語学の研究が自分で行えるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 研究計画発表2</td> </tr> <tr> <td>2. 統計分析1</td> <td>10. 研究計画発表3</td> </tr> <tr> <td>3. 統計分析2</td> <td>11. 中間報告1</td> </tr> <tr> <td>4. 統計分析3</td> <td>12. 中間報告2</td> </tr> <tr> <td>5. 先行研究検討1</td> <td>13. 成果発表1</td> </tr> <tr> <td>6. 先行研究検討2</td> <td>14. 成果発表2</td> </tr> <tr> <td>7. 先行研究検討3</td> <td>15. 成果発表3</td> </tr> <tr> <td>8. 研究計画発表1</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 研究計画発表2	2. 統計分析1	10. 研究計画発表3	3. 統計分析2	11. 中間報告1	4. 統計分析3	12. 中間報告2	5. 先行研究検討1	13. 成果発表1	6. 先行研究検討2	14. 成果発表2	7. 先行研究検討3	15. 成果発表3	8. 研究計画発表1	
1. ガイダンス	9. 研究計画発表2																				
2. 統計分析1	10. 研究計画発表3																				
3. 統計分析2	11. 中間報告1																				
4. 統計分析3	12. 中間報告2																				
5. 先行研究検討1	13. 成果発表1																				
6. 先行研究検討2	14. 成果発表2																				
7. 先行研究検討3	15. 成果発表3																				
8. 研究計画発表1																					
◇ 成績評価の方法	概ね下記の目安で、総合的に評価します。 先行研究発表25%、研究計画立案25%、実験実施・結果分析25%、レポート25%																				
◇ 教科書・参考書	参考書 小泉政利(編著)『ここから始める言語学と統計分析』共立出版																				
◇ 授業時間外学習	毎回、授業の前に予習課題に取り組むこと。																				
その他:受講者のみなさんが「大変だけど一生懸命やると楽しい」と感じられる授業を目指しています。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 構 造 論 特 論 I Structure of Japanese (Advanced Lecture) I	2	教授 齋 藤 倫 明	1 学期	月	4
◆ 科目ナンバリング	LLLLIN616J				
◆ 授業題目	「連語」とその問題点				
◆ 目的・概要	「語」と「文」とは、基本的な言語単位として一般に認められているが、両者の間にも立場によって様々な言語単位が設定されている。そこで、本講義では、(1)従来、そういった言語単位としてどのようなものが設定されているのか、(2)なぜ様々な言語単位が設定されるのか、(3)本来、どういった言語単位を設定するのが望ましいのか、といった点について考察することを通し、最終的には、そもそも言語単位とは何か、といった点を明らかにすることを目指す。今年度は、そのための一環として教科研の「連語」という単位を取り上げ、その問題点について考察する。				
◆ 到達目標	1. 「言語単位」についての理解を深める。 2. 種々の具体的な文法論の言語単位とその考え方について理解する。 3. 「語」と「文」の間にある言語単位の考え方について理解する。 4. 「連語」という単位とその問題点について理解する。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス（講義の進め方、今年度の講義の位置づけ等）。 2. 「連語」とは何か。 3. 「連語」の問題点について（その一）。 4. 「連語」の問題点について（その二）。 5. 「連語」の問題点について（その三）。 6. 「連語」の問題点について（その四）。 7. 「連語」の問題点について（その五）。 8. 「連語」の問題点について（その六）。 9. 「連語」の問題点について（その七）。 10. 「連語」の問題点について（その八）。 11. 「連語」の問題点をどのように解決するか（その一）。 12. 「連語」の問題点をどのように解決するか（その二）。 13. 「連語」の問題点をどのように解決するか（その三）。 14. 今後の発展と残された問題。 15. 「連語」とその問題点に関する総括。				
◇ 成績評価の方法	レポート [80%]・出席 [10%]・その他 [10%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は講義中に適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	毎回コメントペーパーを配布するので、前回自分が提出したコメントペーパーの内容について自分なりにある程度調べをして講義に臨むようにする。				
その他：特になし。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 構 造 論 特 論 II Structure of Japanese (Advanced Lecture) II	2	准教授 甲 田 直 美	1 学期	月	3
◆ 科目ナンバリング	LLLLIN617J				
◆ 授業題目	文章・談話の構造論				
◆ 目的・概要	文章・談話の構造は、どのようにして捉えることができるであろうか。研究手法としては、(1)文法論との接点から、談話・文章における結束性保持の手段を考える研究、(2)会話分析を中心とする実際に生じた会話の参与構造を扱う研究に大別できる。これらの研究について整理し、解説する。				
◆ 到達目標	(1)近年の研究で重要とされる理論を理解する。 (2)授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。				
◆ 授業内容・方法	1. 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～ 2. 音声、イントネーション 資料：杉藤美代子「はずむ談話」 3. ターン交替、TCU 資料：「語り内において連鎖する節の音響特徴」 4. 分析データの記述法 資料：「息を吸うこと」の会話内での意味 5. 音声転記の方法 資料：ppt:思考・発話の発露 6. コーパス、言語のバリエーション 資料：ppt:コーパスの紹介 7. コンピューター実習 KWIC Finder, Praat, Audacity 8. 会話に頻繁に見られる現象1 9. 会話に頻繁に見られる現象2 10. 会話に頻繁に見られる現象3 11. 会話に頻繁に見られる現象4 12. 研究テーマの着眼点、レポートの書き方 13. 研究の進め方1 14. 研究の進め方2 15. レポートの書き方				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) レポート [60%]・(○) 出席 [10%] (○) その他 (具体的には、授業中の提出物) [30%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。 参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	会話・対話・談話研究のための分析単位の実際をデータを元に観察する。音声言語コミュニケーションのための分析単位 IU の実際をデータと対照する。会話データを作成し、会話分析の手法を体験する。論文を読んで論点を提出する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 語 構 造 論 講 読 Structure of Japanese (Reading)	2	教 授 齋 藤 倫 明	2 学 期	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LLLIN618J																				
◆ 授業題目	近世言語論講読																				
◆ 目的・概要	近世言語論の大きな流れを形成した本居宣長とその学統を継ぐ一派（「八衢派」）の言語論を講読する。今年度は、そのうちの本居春庭（本居宣長の長子。1763～1828）の「詞の通路（ことばのかよいじ）」（1828年成）を読む。本書は、動詞の自他について体系的に言及した最初の文法書として知られているが、本講義では、活字本と東北大学図書館蔵本の版本とを対比させつつ、一字一句精確に読み解くとともに、春庭の所説を理解することを目指す。																				
◆ 到達目標	1. テキストに書かれていることを精確に理解する。 2. 日本語学史上における近世言語論の特質を把握する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス（講義の進め方、本居春庭と「詞の通路」についての概説等）。</td> <td>9. 「詞の通路」の講読（その八）。</td> </tr> <tr> <td>2. 「詞の通路」の講読（その一）。</td> <td>10. 「詞の通路」の講読（その九）。</td> </tr> <tr> <td>3. 「詞の通路」の講読（その二）。</td> <td>11. 「詞の通路」の講読（その十）。</td> </tr> <tr> <td>4. 「詞の通路」の講読（その三）。</td> <td>12. 「詞の通路」の講読（その十一）。</td> </tr> <tr> <td>5. 「詞の通路」の講読（その四）。</td> <td>13. 「詞の通路」の講読（その十二）。</td> </tr> <tr> <td>6. 「詞の通路」の講読（その五）。</td> <td>14. 「詞の通路」の講読（その十三）。</td> </tr> <tr> <td>7. 「詞の通路」の講読（その六）。</td> <td>15. 「詞の通路」講読の総括。</td> </tr> <tr> <td>8. 「詞の通路」の講読（その七）。</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス（講義の進め方、本居春庭と「詞の通路」についての概説等）。	9. 「詞の通路」の講読（その八）。	2. 「詞の通路」の講読（その一）。	10. 「詞の通路」の講読（その九）。	3. 「詞の通路」の講読（その二）。	11. 「詞の通路」の講読（その十）。	4. 「詞の通路」の講読（その三）。	12. 「詞の通路」の講読（その十一）。	5. 「詞の通路」の講読（その四）。	13. 「詞の通路」の講読（その十二）。	6. 「詞の通路」の講読（その五）。	14. 「詞の通路」の講読（その十三）。	7. 「詞の通路」の講読（その六）。	15. 「詞の通路」講読の総括。	8. 「詞の通路」の講読（その七）。	
1. ガイダンス（講義の進め方、本居春庭と「詞の通路」についての概説等）。	9. 「詞の通路」の講読（その八）。																				
2. 「詞の通路」の講読（その一）。	10. 「詞の通路」の講読（その九）。																				
3. 「詞の通路」の講読（その二）。	11. 「詞の通路」の講読（その十）。																				
4. 「詞の通路」の講読（その三）。	12. 「詞の通路」の講読（その十一）。																				
5. 「詞の通路」の講読（その四）。	13. 「詞の通路」の講読（その十二）。																				
6. 「詞の通路」の講読（その五）。	14. 「詞の通路」の講読（その十三）。																				
7. 「詞の通路」の講読（その六）。	15. 「詞の通路」講読の総括。																				
8. 「詞の通路」の講読（その七）。																					
◇ 成績評価の方法	レポート（60%）、授業への取り組み方（20%）、出席（20%）。																				
◇ 教科書・参考書	特に使用しない。必要があれば適宜指示する。																				
◇ 授業時間外学習	講義に臨むに当たっては、前回分を復習の上、次回分を読んで下調べしておくこと。																				
その他：特になし。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 語 構 造 論 研 究 演 習 I Structure of Japanese (Advanced Seminar) I	2	教 授 小 林 隆	1 学 期	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LLLIN619J																				
◆ 授業題目	方言調査法																				
◆ 目的・概要	方言のしくみや地理的広がりを把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。																				
◆ 到達目標	方言調査の方法を検討し、実際に調査を企画・実施する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明</td> <td>9. 調査票の作り方についての解説</td> </tr> <tr> <td>2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業</td> <td>10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法</td> </tr> <tr> <td>3. 方言的特徴の調べ方についての解説(1)</td> <td>11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方</td> </tr> <tr> <td>4. 方言的特徴の調べ方についての解説(2)</td> <td>12. 現地調査と結果の分析(1)</td> </tr> <tr> <td>5. テーマ等設定に向けての作業(1)</td> <td>13. 現地調査と結果の分析(2)</td> </tr> <tr> <td>6. テーマ等設定に向けての作業(2)</td> <td>14. 最終報告(1)</td> </tr> <tr> <td>7. 中間報告(1)</td> <td>15. 最終報告(2)、授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 中間報告(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明	9. 調査票の作り方についての解説	2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業	10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法	3. 方言的特徴の調べ方についての解説(1)	11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方	4. 方言的特徴の調べ方についての解説(2)	12. 現地調査と結果の分析(1)	5. テーマ等設定に向けての作業(1)	13. 現地調査と結果の分析(2)	6. テーマ等設定に向けての作業(2)	14. 最終報告(1)	7. 中間報告(1)	15. 最終報告(2)、授業のまとめ	8. 中間報告(2)	
1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明	9. 調査票の作り方についての解説																				
2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業	10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法																				
3. 方言的特徴の調べ方についての解説(1)	11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方																				
4. 方言的特徴の調べ方についての解説(2)	12. 現地調査と結果の分析(1)																				
5. テーマ等設定に向けての作業(1)	13. 現地調査と結果の分析(2)																				
6. テーマ等設定に向けての作業(2)	14. 最終報告(1)																				
7. 中間報告(1)	15. 最終報告(2)、授業のまとめ																				
8. 中間報告(2)																					
◇ 成績評価の方法	レポート（50%）・出席（50%）																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は適宜教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	①テーマの設定、中間報告、最終報告のための準備を行う。 ②現地調査に参加し、結果の分析を行う。																				
その他：オフィスアワー：随時																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 構 造 論 研 究 演 習 II Structure of Japanese (Advanced Seminar) II	2	准教授 甲 田 直 美	2 学期	月	3
◆ 科目ナンバリング	LLILIN620J				
◆ 授業題目	文章・談話の構造				
◆ 目的・概要	<p>これまでに共有・公開されている文章・談話のデータをもとに、文章・談話研究でのデータの採取の仕方とその分析方法について整理・検討する。以下の項目を、具体例の検証とともに押さえる。</p> <p>I. データの種類とその扱い：分析の観点、ジャンル、レジスター、談話標識の研究、照応と省略、接続表現などの文法項目と適切性に関する項目の研究手法、参与構造、話者交替に関する項目の研究手法、</p> <p>II. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法、</p> <p>III. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方</p>				
◆ 到達目標	(1)文章・談話研究のために必要な方法論を身につける。 (2)データの採取方法と採取したデータの分析方法を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<p>1. データの種類とその扱い：分析の観点</p> <p>2. ジャンル、レジスター、スタイルと言語差</p> <p>3. テキストにおけるジャンル差</p> <p>4. コーパス研究 1</p> <p>5. コーパス研究 2</p> <p>6. 文章における諸現象 1</p> <p>7. 文章における諸現象 2</p> <p>8. 会話における諸現象</p> <p>9. ドラマの構造分析 1</p> <p>10. ドラマの構造分析 2</p> <p>11. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法</p> <p>12. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法</p> <p>13. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法</p> <p>14. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方</p> <p>15. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [10%] (○) その他 (具体的には、発表内容) [40%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	電子化データを検索し、鍵となる言語項目について分析する。論文を読んで、論点を把握し、批判的検討を行う。				
その他：受講希望者は日本語構造論特論Ⅱ「文章・談話の構造論」を履修しているのが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 変 異 論 特 論 I Variation of Japanese (Advanced Lecture) I	2	教授 小 林 隆	2 学期	火	2
◆ 科目ナンバリング	LLILIN621J				
◆ 授業題目	方言学的日本語史研究				
◆ 目的・概要	<p>これまでの国語史研究には、文献資料のみに頼り、しかも、中央語史に偏るといった問題点があった。方言学的日本語史は、方言を視野に入れることによって、ことばの位相や地理的広がりの面で、従来の国語史の限界を超えることをめざす。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な歴史の記述を通してさまざまな課題について検討していく。今回は特に、これまで研究が進んでいなかった言葉の運用面を取り上げることにしたい。</p>				
◆ 到達目標	方言を視野に入れた日本語史研究について理解する。				
◆ 授業内容・方法	<p>1. 1. 授業への導入</p> <p>2. 2. 目的・方法・資料</p> <p>3. 3. オノマトペ(1)</p> <p>4. 3. オノマトペ(2)</p> <p>5. 4. 感動詞(1)</p> <p>6. 4. 感動詞(2)</p> <p>7. 5. 挨拶表現(1)</p> <p>8. 5. 挨拶表現(2)</p> <p>9. 6. 言語行動(1)</p> <p>10. 6. 言語行動(2)</p> <p>11. 7. 談話展開(1)</p> <p>12. 7. 談話展開(2)</p> <p>13. 8. 言語的発想法(1)</p> <p>14. 8. 言語的発想法(2)</p> <p>15. 9. まとめ</p>				
◇ 成績評価の方法	レポート (80%)・出席 (20%)				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、補助資料を配布する。参考文献は、小林隆・澤村美幸『ものの言いかた西東』(岩波新書)のほか、授業時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	言葉の運用面の地域差について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。				
その他：オフィスアワー：随時					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 語 変 異 論 特 論 II Variation of Japanese (Advanced Lecture) II	2	准教授 大 木 一 夫	1 学 期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LLILIN622J																				
◆ 授業題目	日本語文法研究																				
◆ 目的・概要	日本語を文法論的に論じたテキストを読み、その内容について議論しながら、文法的な分析を試みる。テキストを正確に読解すること、また、具体的な例文にもとづきながら文法的に考えることを重視する。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。																				
◆ 到達目標	(1)日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。 (2)日本語文法研究の考え方・立場について理解し、それを説明することができるようになる。 (3)文法論的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 文法論的分析(7)</td> </tr> <tr> <td>2. 文法論の立場と方法</td> <td>10. 文法論的分析(8)</td> </tr> <tr> <td>3. 文法論的分析(1)</td> <td>11. 文法論的分析(9)</td> </tr> <tr> <td>4. 文法論的分析(2)</td> <td>12. 文法論的分析(10)</td> </tr> <tr> <td>5. 文法論的分析(3)</td> <td>13. 文法論的分析(11)</td> </tr> <tr> <td>6. 文法論的分析(4)</td> <td>14. 文法論的分析(12)</td> </tr> <tr> <td>7. 文法論的分析(5)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 文法論的分析(6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 文法論的分析(7)	2. 文法論の立場と方法	10. 文法論的分析(8)	3. 文法論的分析(1)	11. 文法論的分析(9)	4. 文法論的分析(2)	12. 文法論的分析(10)	5. 文法論的分析(3)	13. 文法論的分析(11)	6. 文法論的分析(4)	14. 文法論的分析(12)	7. 文法論的分析(5)	15. まとめ	8. 文法論的分析(6)	
1. ガイダンス	9. 文法論的分析(7)																				
2. 文法論の立場と方法	10. 文法論的分析(8)																				
3. 文法論的分析(1)	11. 文法論的分析(9)																				
4. 文法論的分析(2)	12. 文法論的分析(10)																				
5. 文法論的分析(3)	13. 文法論的分析(11)																				
6. 文法論的分析(4)	14. 文法論的分析(12)																				
7. 文法論的分析(5)	15. まとめ																				
8. 文法論的分析(6)																					
◇ 成績評価の方法	参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。																				
◇ 教科書・参考書	必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。																				
◇ 授業時間外学習	テキストを読み、疑問点をまとめて参加する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 語 変 異 論 特 論 III Variation of Japanese (Advanced Lecture) III	2	非常勤講師 高 梨 克 也	集 中 (1)																		
◆ 科目ナンバリング	LLILIN623J																				
◆ 授業題目	会話コミュニケーション分析																				
◆ 目的・概要	<p>・言語コミュニケーションの最も基本的な形態である「会話」を対象として、そこで見られる典型的な現象について、そのメカニズムを理論的に理解するとともに、実際のデータの中からこの現象を発見し、分析できるようになることを目的とする。</p> <p>・「トピック」となる各会話現象について2～3回の授業を通じて扱う。各トピックについての学習は、1. 取り上げる現象についての「概説」(講師)、2. 会話データを用いてこの現象を分析する「ワーク」(各受講生)、3. 実習を通じて発見した点や疑問点を議論する「ディスカッション」(グループ・全体、の順に進めていく。</p>																				
◆ 到達目標	(1)言語コミュニケーションの最も基本的な形態である「会話」において、どのような現象が観察されるかを理解し、それぞれのメカニズムを説明できる。 (2)実際の会話データ(書き起こしテキストや音声・ビデオ)の中から各会話現象の生起箇所を特定し、適切に分析できる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション：この授業で取り上げるテーマの全体像、授業の進め方</td> <td>8. トピック3のワーク</td> </tr> <tr> <td>2. トピック1：「行為のための言語使用」という考え方(教科書第2章)、ワーク</td> <td>9. トピック3のグループディスカッション・全体討論</td> </tr> <tr> <td>3. トピック1のグループディスカッション・全体討論</td> <td>10. トピック4：基盤化と聞き手行動(教科書第3章)、ワーク</td> </tr> <tr> <td>4. トピック2：会話の骨格としての隣接ペアと発話連鎖(教科書第2章)</td> <td>11. トピック4のグループディスカッション・全体討論</td> </tr> <tr> <td>5. トピック2のワーク</td> <td>12. トピック5：多人数会話と参与役割(教科書5&6章に対応)</td> </tr> <tr> <td>6. トピック2のグループディスカッション・全体討論</td> <td>13. トピック5のワーク</td> </tr> <tr> <td>7. トピック3：順番交替とターン構成単位(教科書第1章)</td> <td>14. トピック5のグループディスカッション・全体討論</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. これまでの授業の振り返り、レポート課題の発表と書き方の説明</td> </tr> </table>					1. イントロダクション：この授業で取り上げるテーマの全体像、授業の進め方	8. トピック3のワーク	2. トピック1：「行為のための言語使用」という考え方(教科書第2章)、ワーク	9. トピック3のグループディスカッション・全体討論	3. トピック1のグループディスカッション・全体討論	10. トピック4：基盤化と聞き手行動(教科書第3章)、ワーク	4. トピック2：会話の骨格としての隣接ペアと発話連鎖(教科書第2章)	11. トピック4のグループディスカッション・全体討論	5. トピック2のワーク	12. トピック5：多人数会話と参与役割(教科書5&6章に対応)	6. トピック2のグループディスカッション・全体討論	13. トピック5のワーク	7. トピック3：順番交替とターン構成単位(教科書第1章)	14. トピック5のグループディスカッション・全体討論		15. これまでの授業の振り返り、レポート課題の発表と書き方の説明
1. イントロダクション：この授業で取り上げるテーマの全体像、授業の進め方	8. トピック3のワーク																				
2. トピック1：「行為のための言語使用」という考え方(教科書第2章)、ワーク	9. トピック3のグループディスカッション・全体討論																				
3. トピック1のグループディスカッション・全体討論	10. トピック4：基盤化と聞き手行動(教科書第3章)、ワーク																				
4. トピック2：会話の骨格としての隣接ペアと発話連鎖(教科書第2章)	11. トピック4のグループディスカッション・全体討論																				
5. トピック2のワーク	12. トピック5：多人数会話と参与役割(教科書5&6章に対応)																				
6. トピック2のグループディスカッション・全体討論	13. トピック5のワーク																				
7. トピック3：順番交替とターン構成単位(教科書第1章)	14. トピック5のグループディスカッション・全体討論																				
	15. これまでの授業の振り返り、レポート課題の発表と書き方の説明																				
◇ 成績評価の方法	平常点評価重視(授業中のワーク・ディスカッションへの取り組みと課題提出)：70点 補助的にレポートを課す：30点																				
◇ 教科書・参考書	<p>○教科書「基礎からわかる会話コミュニケーションの分析法」(高梨克也、ナカニシヤ出版、近刊) ※ ISBN-13: 978-4779510267</p> <p>○参考書「多人数インタラクションの分析手法」(坊農真弓・高梨克也編著、オーム社、2009) ※ ISBNコード：4274207323、ISBN-13: 978-4274207327</p> <p>「会話分析基本論集—順番交替と修復の組織」(H. サックス、E. A. シェグロフ、G. ジェファソン、西阪仰訳、世界思想社、2010) ※ ISBNコード：4790715019、ISBN-13: 978-4790715016</p>																				
◇ 授業時間外学習	集中講義であるため、課題は基本的にすべて授業時間内に行う予定である。																				
その他：他の受講生に迷惑をかける行為だけは絶対に厳禁。悪質な場合、退出を求めることもある。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 変 異 論 講 読 Variation of Japanese (Reading)	2	准教授 大 木 一 夫	2 学期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LLLLIN624J				
◆ 授業題目	文法形式成立史の研究				
◆ 目的・概要	近代日本語には、古代日本語にない文法形式が発達する。たとえば、「～テイル」「～テモラウ」や「～コトガデキル」「～ハジメル」などは、古代日本語にないが、現代日本語では文法形式として積極的に使用されている。このような文法形式はいつごろ、どのように文法形式になったのか。もちろん、このことは述語形式にかぎったことではない。また、この問題は、近年文法史研究でよくとりあげられる「文法化」といった概念とも関係が深い議論である。近代日本語に成立した文法形式とりあげ、その成立過程や用法の展開などについて参加者が調査・考察をおこなって、その成果を発表し、議論する。				
◆ 到達目標	(1)日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。 (2)日本語文法史上の問題点を見いだすことができるようになる。 (3)文献によって日本語文法史をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 日本語文法史研究への視点(1) 3. 日本語文法史研究への視点(2) 4. 文法化研究の方法(1) 5. 文法化研究の方法(2) 6. 文法形式成立史についての研究発表(1) 7. 文法形式成立史についての研究発表(2) 8. 文法形式成立史についての研究発表(3) 9. 文法形式成立史についての研究発表(4) 10. 文法形式成立史についての研究発表(5) 11. 文法形式成立史についての研究発表(6) 12. 文法形式成立史についての研究発表(7) 13. 文法形式成立史についての研究発表(8) 14. 文法形式成立史についての研究発表(9) 15. 文法形式成立史についての研究発表(10)・まとめ 				
◇ 成績評価の方法	参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。				
◇ 教科書・参考書	必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。				
◇ 授業時間外学習	日本語史研究にかかわる文献資料を読んで参加する。 日本語文法史研究・文法化研究の方法について検討する。 近代日本語に成立した文法形式についての調査をおこなう。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 変 異 論 研 究 演 習 I Variation of Japanese (Advanced Seminar) I	2	教授 齋藤 倫明・小林 隆 准教授 大木 一夫・甲田 直美	1 学期	火	4
◆ 科目ナンバリング	LLLLIN625J				
◆ 授業題目	国語史・方言研究の諸問題				
◆ 目的・概要	国語史・方言研究について種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を認識しながら、自己のテーマと研究方法を定める。具体的には、自己のテーマに関する先行研究の調査、批判、国語史・方言研究について種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を認識しながら、自己のテーマと研究方法を定める。具体的には、自己のテーマに関する先行研究の調査、批判、および資料の精査に充分基づいた新たな方法論の確立、研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。				
◆ 到達目標	自己の研究テーマを深める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (授業の進め方・発表順の決定等)。 2. 第一回目の発表。 3. 第二回目の発表。 4. 第三回目の発表。 5. 第四回目の発表。 6. 第五回目の発表。 7. 第六回目の発表。 8. 第七回目の発表。 9. 第八回目の発表。 10. 第九回目の発表。 11. 第十回目の発表。 12. 第十一回目の発表。 13. 第十二回目の発表。 14. 第十三回目の発表。 15. 第十四回目の発表、および総括。 				
◇ 成績評価の方法	レポート [90%]・出席 [10%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。				
◇ 授業時間外学習	発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。				
その他：発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 変 異 論 研 究 演 習 Ⅱ Variation of Japanese (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教授 齋藤 倫明・小林 隆 准教授 大木 一夫・甲田 直美	2 学期	火	4
◆ 科目ナンバリング	LLLIN626J				
◆ 授業題目	現代語研究の諸問題				
◆ 目的・概要	現代日本語研究について種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を認識しながら、自己のテーマと研究方法を定める。具体的には、自己のテーマに関する先行研究の調査、批判、および資料の精査に充分基づいた新たな方法論の確立、研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。				
◆ 到達目標	自己の研究テーマを深める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（授業の進め方・発表順の決定等）。 2. 第一回目の発表。 3. 第二回目の発表。 4. 第三回目の発表。 5. 第四回目の発表。 6. 第五回目の発表。 7. 第六回目の発表。 8. 第七回目の発表。 9. 第八回目の発表。 10. 第九回目の発表。 11. 第十回目の発表。 12. 第十一回目の発表。 13. 第十二回目の発表。 14. 第十三回目の発表。 15. 第十四回目の発表、および総括。 				
◇ 成績評価の方法	レポート [90%]・出席 [10%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。				
◇ 授業時間外学習	発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。				
その他：発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 変 異 論 研 究 演 習 Ⅲ Variation of Japanese (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教授 齋藤 倫明・小林 隆 准教授 大木 一夫・甲田 直美	1 学期	火	5
◆ 科目ナンバリング	LLLIN627J				
◆ 授業題目	国語史・方言研究の諸問題				
◆ 目的・概要	国語史・方言研究について種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を認識しながら、自己のテーマと研究方法を定める。具体的には、自己のテーマに関する先行研究の調査、批判、国語史・方言研究について種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を認識しながら、自己のテーマと研究方法を定める。具体的には、自己のテーマに関する先行研究の調査、批判、および資料の精査に充分基づいた新たな方法論の確立、研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。				
◆ 到達目標	自己の研究テーマを深める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（授業の進め方・発表順の決定等）。 2. 第一回目の発表。 3. 第二回目の発表。 4. 第三回目の発表。 5. 第四回目の発表。 6. 第五回目の発表。 7. 第六回目の発表。 8. 第七回目の発表。 9. 第八回目の発表。 10. 第九回目の発表。 11. 第十回目の発表。 12. 第十一回目の発表。 13. 第十二回目の発表。 14. 第十三回目の発表。 15. 第十四回目の発表、および総括。 				
◇ 成績評価の方法	レポート [90%]・出席 [10%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。				
◇ 授業時間外学習	発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。				
その他：発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 変 異 論 研 究 演 習 IV Variation of Japanese (Advanced Seminar) IV	2	教授 齋藤 倫明・小林 隆 准教授 大木 一夫・甲田 直美	2 学期	火	5
◆ 科目ナンバリング	LLILIN628J				
◆ 授業題目	現代語研究の諸問題				
◆ 目的・概要	現代日本語研究について種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を認識しながら、自己のテーマと研究方法を定める。具体的には、自己のテーマに関する先行研究の調査、批判、および資料の精査に充分基づいた新たな方法論の確立、研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。				
◆ 到達目標	自己の研究テーマを深める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (授業の進め方・発表順の決定等)。 2. 第一回目の発表。 3. 第二回目の発表。 4. 第三回目の発表。 5. 第四回目の発表。 6. 第五回目の発表。 7. 第六回目の発表。 8. 第七回目の発表。 9. 第八回目の発表。 10. 第九回目の発表。 11. 第十回目の発表。 12. 第十一回目の発表。 13. 第十二回目の発表。 14. 第十三回目の発表。 15. 第十四回目の発表、および総括。 				
◇ 成績評価の方法	レポート [90%]・出席 [10%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。				
◇ 授業時間外学習	発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。				
その他：発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 論 特 論 I Applied Japanese Linguistics (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師 庵 功 雄	集 中 (1)		
◆ 科目ナンバリ ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LLILIN630J 日本語教育法概論 日本語教育法という考え方の沿革を知り、日本語教育における文法教育の位置づけについて考える。次に、学校型日本語教育と地域型日本語教育の関係から、「やさしい日本語」という理念について考える。さらに、現状の文法シラバスの問題点とその対策を考えるを通して、日本語教育の立場から現在の外国人を取り巻く社会状況（例えば「移民受け入れ」の可否）についてどのように考えるべきかについて考える。				
◆ 到達目標	日本語教育における「文法」が持っている性質について説明できるようになる。「やさしい日本語」という考え方について説明できるようになる。日本語教育が現実の社会問題とどのような関係性を持っているかが説明できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語教育法の沿革(1): 国語学と日本語学、日本語教育と日本語学 2. 日本語教育法の沿革(2): 日本語教育法の誕生、「日本語」と「ノン語」 3. 日本語教育法の内実(1): 理解レベルと産出レベル、有標と無標、産出のための文法 4. 日本語教育法の内実(2): 類義表現の記述 5. 「やさしい日本語」をめぐって(1): 定住外国人に対する情報提供 6. 「やさしい日本語」をめぐって(2): 「やさしい日本語」の3つの側面（「居場所作りのための「やさしい日本語」 7. 「やさしい日本語」をめぐって(3): 外国にルーツを持つ子どもたちと日本語教育（「バイパスとしての「やさしい日本語」 8. 「やさしい日本語」をめぐって(4): 日本語母語話者にとつての「やさしい日本語」、その他の展開 9. 文法シラバスの見直し(1): 現行シラバスの問題点、コアバスの利用 10. 文法シラバスの見直し(2): 新しい文法シラバス初級一 11. 文法シラバスの見直し(3): 新しい文法シラバス一上級一 12. 社会とつながる日本語教育①: 「移民」受け入れをめぐる問題、日本語教育からの視点 13. 社会とつながる日本語教育②: 「子どもの貧困」をめぐる問題、日本語教育からの視点 14. 社会とつながる日本語教育③: 「多文化共生社会」をめぐる問題、今できることは何か 15. まとめ: 日本語教育にできること、日本語教育がやらなければならないこと 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書	複数回の授業ごとに小テストを行い、その合計点、および、出席などを総合して評価を行う。 教科書 庵功雄 (2013) 『日本語教育、日本語学の「次の手」』くろしお出版 参考文献 庵功雄 (2002) 「書評 白川博之『外国人のための実用日本語文法』」『一橋大学留学生センター紀要』5 庵功雄 (2003) 「『象は鼻が長い』入門-日本語学の父 三上章」くろしお出版 庵功雄 (2007) 『日本語研究叢書21 日本語におけるテキストの結束性の研究』くろしお出版 庵功雄 (2009) 「推量の「でしよう」に関する一考察-日本語教育法の視点から-」『日本語教育』142 庵功雄 (2011a) 『日本語記述文法と日本語教育文法』森・庵編 (2011) 所収 庵功雄 (2011b) 「100%を目指さない文法」の重要性」森・庵編 (2011) 所収 庵功雄 (2012a) 『新しい日本語学入門 (第2版)』スリーエーネットワーク 庵功雄 (2012b) 『日本語教育法の現状と課題』『一橋日本語教育研究』1、ココ出版 庵功雄 (2012c) 『日本語 (分野)』『日本語教育』153 庵功雄 (2013a) 「使役 (態) に言及せずに「使役表現」を教えるには—1つの「教授法」『日本語/日本語教育研究』4、ココ出版 庵功雄 (2013b) 「『のだ』の教え方に関する一試案」『言語文化』50、一橋大学 庵功雄 (2014) 「『やさしい日本語』研究の現状と今後の課題」『一橋日本語教育研究』2、ココ出版 庵功雄 (2015a) 『日本語学的知見から見た初級シラバス』庵功雄・山内博之編 『データに基づく文法シラバス』くろしお出版 庵功雄 (2015b) 『日本語学的知見から見た中上級シラバス』庵功雄・山内博之編 『データに基づく文法シラバス』くろしお出版 庵功雄 (2015c) 「新聞における原発関連語の使用頻度」名嶋義典・神田裕子編 『311原発事故後の公共メディアの言説を考える』ひつじ書房 庵功雄 (2015d) 「『産出の文法』に関する一考察」阿部二郎・庵功雄・佐藤琢三編 『文法・談話研究と日本語教育の接点』くろしお出版 庵功雄 (2015e) 「『やさしい日本語』研究が日本語母語話者にとって持つ意義」『一橋大学国際教育センター紀要』6 庵功雄 (2015f) 「『やさしい日本語』研究の「これまで」と「これから」」庵編 (2015) 所収 庵功雄 (2016印刷中a) 『上級日本語文法演習 時間を表す表現 (改訂版)』スリーエーネットワーク 庵功雄 (2016印刷中b) 『産出のための文法』から見た「は」と「が」 庵功雄・佐藤琢三・中俣尚己編 『日本語文法研究のフロンティア』くろしお出版 庵功雄 (2016予定) 『やさしい日本語—多文化共生のこぼれ—』岩波新書 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2000) 「初級を教える人のための日本語文法ハンドブック」スリーエーネットワーク 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2001) 「中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック」スリーエーネットワーク 庵功雄編 (2015) 『特集 「やさしい日本語」の研究動向と日本語教育の新展開』「ことばと文字」4、くろしお出版 庵功雄・イ・ヨンスク・森島剛編 (2013) 「『やさしい日本語』研究は何を目指すか」ココ出版 森島剛・庵功雄編 (2011) 『日本語教育法のための多様なアプローチ』ひつじ書房				
◇ 授業時間外学習	予習として、教科書を予め通読しておくことを薦める。集中講義なので、できるだけ、参考文献に挙げた単行論文には事前に目を通しておいてほしい。				
その他:	メールアドレス: isaioiri@courante.plala.or.jp URL: http://www12.plala.or.jp/isaioiri/ メールで質問される場合は、件名に「東北大学での集中講義に関する質問」の文言を入れてください。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 論 特 論 II Applied Japanese Linguistics (Advanced Lecture) II	2	非常勤 講師 神 吉 宇 一	集 中 (2)		
◆ 科目ナンバリ ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LLILIN631J 現代社会と言語教育～日本語教育の社会的意味と役割 グローバル化によって人の移動が活発化しており、またさまざまなテクノロジーの発達により言語教育を取り巻く環境に大きな変化が起きていることについて理解を深める。現代の社会における言語教育の意味や役割について、各自が理念を踏まえた上で具体的な方向性や方策を考え、意見交換を行う。テーマに関連する事柄や、具体的事例に関して、体験的に学んだり、ワークショップを行ったりする。				
◆ 到達目標	現在の言語教育・日本語教育をとりまく社会的状況について理解する。言語教育・日本語教育の社会的意味と役割について意見交換を行うことができる。意見交換を通して、改めて言語教育・日本語教育の社会的意味と役割について自分なりの考えをまとめることができる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、アイスブレイキング 2. 社会の動きと言語教育・日本語教育(1) 3. 社会の動きと言語教育・日本語教育(2) 4. 社会の動きと言語教育・日本語教育(3) 5. 社会の動きと言語教育・日本語教育(4) 6. 日本語教育の新たな取り組み事例(1) 7. 日本語教育の新たな取り組み事例(2) 8. 日本語教育の現状と課題の分析 (教科書指定箇所の発表とディスカッション) (1) 9. 日本語教育の現状と課題の分析 (教科書指定箇所の発表とディスカッション) (2) 10. 未来を創る日本語教育とは (ディスカッション、ワークショップ等) (1) 11. 未来を創る日本語教育とは (ディスカッション、ワークショップ等) (2) 12. 未来を創る日本語教育とは (ディスカッション、ワークショップ等) (3) 13. 未来を創る日本語教育とは (ディスカッション、ワークショップ等) (4) 14. 授業のまとめとふりかえり 15. ふりかえりに関するピアレスポンスと修正作業 				
◇ 成績評価の方法	毎回のふりかえりを蓄積し、最後にまとめてふりかえりを書いて提出することで課題レポートの代わりとする。試験は行わない。				
◇ 教科書・参考書	神吉宇一編 (2015) 『日本語教育 学的设计』凡人社 その他必要に応じて指示する				
◇ 授業時間外学習	毎回、その日の内容について、ふりかえりを書くことを課す。具体的には都度指示する。				
その他:	適宜、意見交換、ディスカッション、ワークショップ等を行うので、積極的に議論ができる学生の履修を歓迎する。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 論 特 論 III Applied Japanese Linguistics (Advanced Lecture) III	2	非常勤 講師 呉 正 培	1 学期	月	1
◆ 科目ナンバリング	LLLLIN632J				
◆ 授業題目	ステレオタイプと異文化コミュニケーション				
◆ 目的・概要	ステレオタイプが抱えている問題点、ステレオタイプと異文化コミュニケーションとの関連性を正しく理解し、異文化理解にはどのような態度、能力、努力が求められるのかについて考えていく。教員と受講者間のやり取り、受講者間のグループワーク（意見交換）、教員による解説で進めていく。				
◆ 到達目標	ステレオタイプの様々な定義、社会心理学での一般的な捉え方、機能、ステレオタイプ化の問題点、ステレオタイプの形成・維持・変容のメカニズムについて説明できるようになる。また、疑似体験や受講者間のディスカッションを通して、真の異文化理解とはどのような状態を指すのか、どのような態度、能力、努力が求められるのかについての多様な視点を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンス 2. イントロダクション 1（ステレオタイプとは） 3. イントロダクション 2（異文化理解とは） 4. ステレオタイプの定義とステレオタイプ化の問題点 5. ステレオタイプの形成と維持 6. ステレオタイプの変容とステレオタイプ化の抑制 7. ステレオタイプと外国人イメージ 8. 韓国人の日本人イメージの実態と形成メカニズム 9. 日本人の韓国人イメージの実態と形成メカニズム 10. 日韓の接触場面で生じうるステレオタイプ化 11. 異文化エクササイズ 12. 異文化間のミス・コミュニケーション 13. 異文化理解に求められる能力・態度・努力 14. 日本語教育とステレオタイプ化の抑制 15. 総括 				
◇ 成績評価の方法	出席20%、平常点（発言、参加度）20%、筆記試験60%				
◇ 教科書・参考書	教科書は指定しない。適宜プリントを配布する。 参考書：上瀬由美子（2003）『ステレオタイプの社会心理学』サイエンス社				
◇ 授業時間外学習	毎回の配布資料を中心に学んだ内容についてしっかり復習し、理解を深めること。 授業の冒頭で受講者とのやり取りを通して前回の学習内容を確認、平常点に反映する。				
その他： 毎回グループを少し変えながら他の受講者と意見交換を行うため、ディスカッションに積極的に参加できる人の受講が望ましい。5回以上無断欠席した人には単位を付与しない。担当教員の連絡先：oh_jeongbae@shokei.ac.jp					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 論 特 論 IV Applied Japanese Linguistics (Advanced Lecture) IV	2	非常勤 講師 島 崎 薫	2 学期	木	3
◆ 科目ナンバリング	LLLLIN633J				
◆ 授業題目	学習者と社会				
◆ 目的・概要	日本語学習者が日本語使用者としてどのように社会の中で活動しているのかを知り、実践研究や報告を参照しながら、日本語教師はどのように日本語学習者の日本語使用者としての社会での活動や学びを支援できるのかを考えます。				
◆ 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1)日本語学習者が日本語使用者としてどのように教室の外で活動しているのかを知る (2)日本語学習者と社会に関する論文や実践報告などをクリティカルに読むことができる (3)学習者の日本語使用者としての社会での学びや活動を支援するプログラムデザインができるようになる (4)グループで協力しながらプログラムデザインを行うことができる 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、自己紹介 2. 理論的背景を学ぶ（社会文化アプローチ、状況論、リソースなど） 3. 日本語学習者の教室外での日本語使用を知る 4. 教室の中に社会を持ち込む① 5. 教室の中に社会を持ち込む② 6. 教室と社会を繋げる① 7. 教室と社会を繋げる② 8. 社会を教室にする① 9. 社会を教室にする② 10. 東北大学のサマープログラムの紹介／プログラムデザイン 11. グループでプログラムデザイン① 12. グループでプログラムデザイン② 13. デザインしたプログラムをグループごとに中間発表 14. 中間発表でのフィードバックを踏まえて最終発表に向けての準備 15. 受講生のデザインしたプログラム最終発表、まとめ 				
◇ 成績評価の方法	参加態度30%、プログラムデザイン（グループプロジェクト）40%、最終レポート30%				
◇ 教科書・参考書	最初の授業で指示する				
◇ 授業時間外学習	インタビュー調査、論文購読、グループでのプログラムデザインなど				
その他：【問い合わせ先】グローバルラーニングセンター（教育学生総合支援センター西棟 3階） Tel：(022) 795-3749 Email: k.shimasaki@m.tohoku.ac.jp					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 語 教 育 論 講 読 Applied Japanese Linguistics (Reading)	2	教 授 才 田 い ず み	1 学 期	火	1																
◆ 科目ナンバリング	LLILIN634J																				
◆ 授業題目	第二言語習得研究																				
◆ 目的・概要	第二言語習得の諸理論を扱った文献を読み、それぞれがどのような理論なのかを知る。また、それぞれの理論に対する批判なども検討しながら進める。授業では、全13章のうち、教師が指定する章に加え、受講者が選択して読む章を決める。最低でも8つ以上の章を扱う。																				
◆ 到達目標	第二言語習得に関する文献の講読を通して、この分野の研究の現状を把握する。テキストを批判的に読みながら、研究デザインを行う力も身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション：授業の進め方、扱う chapter について相談し決定する。</td> <td>9. Chapter6-8</td> </tr> <tr> <td>2. Chapter1</td> <td>10. Chapter9-11</td> </tr> <tr> <td>3. Chapter2</td> <td>11. Chapter9-11</td> </tr> <tr> <td>4. Chapter3-5</td> <td>12. Chapter9-11</td> </tr> <tr> <td>5. Chapter3-5</td> <td>13. Chapter9-11</td> </tr> <tr> <td>6. Chapter3-5</td> <td>14. Chapter12-13</td> </tr> <tr> <td>7. Chapter6-8</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Chapter6-8</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション：授業の進め方、扱う chapter について相談し決定する。	9. Chapter6-8	2. Chapter1	10. Chapter9-11	3. Chapter2	11. Chapter9-11	4. Chapter3-5	12. Chapter9-11	5. Chapter3-5	13. Chapter9-11	6. Chapter3-5	14. Chapter12-13	7. Chapter6-8	15. まとめ	8. Chapter6-8	
1. オリエンテーション：授業の進め方、扱う chapter について相談し決定する。	9. Chapter6-8																				
2. Chapter1	10. Chapter9-11																				
3. Chapter2	11. Chapter9-11																				
4. Chapter3-5	12. Chapter9-11																				
5. Chapter3-5	13. Chapter9-11																				
6. Chapter3-5	14. Chapter12-13																				
7. Chapter6-8	15. まとめ																				
8. Chapter6-8																					
◇ 成績評価の方法	期末レポート40%・授業課題30%・発言などの授業参加度と授業貢献度30%																				
◇ 教科書・参考書	教科書：VanPatten, Bill and Williams, Jessica (eds.) 2015. <i>Theories in Second Language Acquisition: an introduction</i> . Second edition. Routledge.																				
◇ 授業時間外学習	次回の範囲を読んで予習するだけでなく、関連する研究についても調べ、不明な点がないようにして授業に参加する。																				
その他：特別な理由なく3回以上欠席した場合には単位を与えないので注意すること。授業の進め方については、初回の授業で受講者と話し合って決定するので、上記の15回の予定は暫定的な予定案であり、変更の可能性がある。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 語 教 育 論 研 究 演 習 I Applied Japanese Linguistics (Advanced Seminar) I	2	教 授 才 田 い ず み	1 学 期	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LLILIN635J																				
◆ 授業題目	音声と聴解の教育																				
◆ 目的・概要	日本語学習者に対する音声教育は、音を聞き分ける力を養うことと分離しては有効な指導を行うことができない。この演習では、音声上の問題について生成と知覚の両面からアプローチする方法を検討する。聴解教育については、談話などの大きなまとまりの理解も射程に入れて、目的に応じた聞き取りができるようにする指導・支援を考える。授業においては、具体的な指導法を考えて模擬授業のように実践する活動や、市販の教材の利用法の検討、教材の作成とその利用など、グループや個人単位での発表活動が盛り込まれる。発表に対しては、他の受講者からの率直な評価や改善案の提示などのフィードバックが与えられるよう、各受講者には積極的な貢献が期待される。																				
◆ 到達目標	日本語学習者に対する音声教育と聴解教育について、その考え方や方法を学び、基礎的な運用ができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. トップダウンの聴解1：scanningとskimming</td> </tr> <tr> <td>2. 学習者の母語と日本語の音声</td> <td>10. トップダウンの聴解2：文法知識の利用</td> </tr> <tr> <td>3. 聞き取りにくい音声の聞き分け</td> <td>11. トップダウンの聴解3：文脈の利用と積極的推測</td> </tr> <tr> <td>4. 聞き取りにくい音声とその発音</td> <td>12. 流暢さの獲得：模倣とシャドウイング</td> </tr> <tr> <td>5. 特殊拍の指導1</td> <td>13. 活動の評価と工夫</td> </tr> <tr> <td>6. 特殊拍の指導2</td> <td>14. 気づきと自己評価</td> </tr> <tr> <td>7. リズムと音調1</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. リズムと音調2</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. トップダウンの聴解1：scanningとskimming	2. 学習者の母語と日本語の音声	10. トップダウンの聴解2：文法知識の利用	3. 聞き取りにくい音声の聞き分け	11. トップダウンの聴解3：文脈の利用と積極的推測	4. 聞き取りにくい音声とその発音	12. 流暢さの獲得：模倣とシャドウイング	5. 特殊拍の指導1	13. 活動の評価と工夫	6. 特殊拍の指導2	14. 気づきと自己評価	7. リズムと音調1	15. まとめ	8. リズムと音調2	
1. イントロダクション	9. トップダウンの聴解1：scanningとskimming																				
2. 学習者の母語と日本語の音声	10. トップダウンの聴解2：文法知識の利用																				
3. 聞き取りにくい音声の聞き分け	11. トップダウンの聴解3：文脈の利用と積極的推測																				
4. 聞き取りにくい音声とその発音	12. 流暢さの獲得：模倣とシャドウイング																				
5. 特殊拍の指導1	13. 活動の評価と工夫																				
6. 特殊拍の指導2	14. 気づきと自己評価																				
7. リズムと音調1	15. まとめ																				
8. リズムと音調2																					
◇ 成績評価の方法	授業課題30%・レポート50%・発言ならびにクラス参加度とクラス貢献度20%																				
◇ 教科書・参考書	参考書：Brown, Steven (2011) <i>Listening Myths</i> . Ann Arbor: The University of Michigan Press. Grant, Linda et. al. (2014) <i>Pronunciation Myths</i> . Ann Arbor: The University of Michigan Press. 松崎寛・河野俊之 (1998) 『よくわかる音声』アルク。 小河原義朗・河野俊之 (2009) 『日本語教師のための音声教育を考える本』アルク。ほか																				
◇ 授業時間外学習	参考書を読む。与えられた課題を行う。																				
特別な理由なく3回以上欠席した場合には単位を与えないので注意すること。 その他：授業内で多くの発表活動を行うが、発表に対しては他の受講者からの率直な評価や改善案の提示などのフィードバックが期待されている。各受講者には積極的に課題に取り組み、クラス全体の学習に貢献すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 語 教 育 論 研 究 演 習 II Applied Japanese Linguistics (Advanced Seminar) II	2	教 授 才 田 い ず み	2 学 期	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LLLILIN636J																				
◆ 授業題目	中間言語語用論と会話教育																				
◆ 目的・概要	語用論に関わる理論を概観した上で、中間言語語用論の研究を参照しながら、語用論的側面を意識した会話教育を実践するにはどうすればよいのか考え、会話教材を作成してみる。作成した教材案については、受講者全員で検討する。また、市販の会話教材についても、中間言語語用論の視点を取り入れて検討し、使用上注意すべき点や、改善すべき点があるかを考え、改善提案を行う。																				
◆ 到達目標	1) 語用論および中間言語語用論についての知識を得る。 2) 会話教育について、学習者の背景を考えながら、多角的に捉えることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 教材化の工夫 2</td> </tr> <tr> <td>2. 語用論の基本理論 1</td> <td>10. 市販教材の検討 1</td> </tr> <tr> <td>3. 語用論の基本理論 2</td> <td>11. 市販教材の検討 2</td> </tr> <tr> <td>4. コミュニケーションと語用論</td> <td>12. 改善の提案 1</td> </tr> <tr> <td>5. 異文化間語用論</td> <td>13. 改善の提案 2</td> </tr> <tr> <td>6. 日本語学習者にとって注意すべき側面</td> <td>14. フィードバックの与え方</td> </tr> <tr> <td>7. よく扱われてきたポイントと看過されてきたポイント</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 教材化の工夫 1</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 教材化の工夫 2	2. 語用論の基本理論 1	10. 市販教材の検討 1	3. 語用論の基本理論 2	11. 市販教材の検討 2	4. コミュニケーションと語用論	12. 改善の提案 1	5. 異文化間語用論	13. 改善の提案 2	6. 日本語学習者にとって注意すべき側面	14. フィードバックの与え方	7. よく扱われてきたポイントと看過されてきたポイント	15. まとめ	8. 教材化の工夫 1	
1. イントロダクション	9. 教材化の工夫 2																				
2. 語用論の基本理論 1	10. 市販教材の検討 1																				
3. 語用論の基本理論 2	11. 市販教材の検討 2																				
4. コミュニケーションと語用論	12. 改善の提案 1																				
5. 異文化間語用論	13. 改善の提案 2																				
6. 日本語学習者にとって注意すべき側面	14. フィードバックの与え方																				
7. よく扱われてきたポイントと看過されてきたポイント	15. まとめ																				
8. 教材化の工夫 1																					
◇ 成績評価の方法	授業課題30%・レポート50%・クラス貢献度とクラス参加度20%																				
◇ 教科書・参考書	参考書：池上嘉彦・守屋三千代編著（2010）『自然な日本語を教えるために—認知言語学をふまえて』ひつじ書房。 新屋映子・姫野伴子・守屋三千代（1999）『日本語教科書の落とし穴』アルク。 清水崇文（2013）『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話—みがけ！コミュニケーションスキル』スリーエーネットワーク、ほか。																				
◇ 授業時間外学習	与えられた課題を行う。参考書を読む。																				
特別な理由なく3回以上欠席した場合には単位を与えないので注意すること。 その他：授業内で多くの発表活動を行うが、発表に対しては他の受講者からの率直な評価や改善案の提示などのフィードバックが期待されている。各受講者には積極的に課題に取り組み、クラス全体の学習に貢献すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
日 本 語 教 育 論 実 習 I Methodologies in Japanese Language Teaching (Practice) I	2	教 授 才 田 い ず み	1 学 期	月	3・4																		
◆ 科目ナンバリング	LLLILIN637J																						
◆ 授業題目	日本語コース運営の基礎																						
◆ 目的・概要	日本語のコースデザインやコースの実施運営に必要な内容を学び、身につける。 1. コースデザインや授業デザイン、教師教育関連の論文を読みながら、夏季休暇中に実施予定の日本語コースに対するレディネスを高める。 2. 夏季集中コースのためのコースデザインを行う。 3. コース運営に必要な種々の準備作業を行う。																						
◆ 到達目標	(1)コースデザインやコース運営に対するレディネスを高める。 (2)実際に日本語夏季集中コースのコースデザインを行う。 (3)日本語夏季集中コースのための準備作業を行う。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション 夏季日本語コース関連スケジュールの検討</td> <td>10. 学習者情報の分析とコースデザインの改訂</td> </tr> <tr> <td>2. コースデザインとシラバスデザイン案の作成 1</td> <td>11. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 1</td> </tr> <tr> <td>3. コースデザインとシラバスデザイン案の作成 2</td> <td>12. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 2</td> </tr> <tr> <td>4. 事前調査について 学習者募集の検討</td> <td>13. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 3</td> </tr> <tr> <td>5. ニーズ調査・レディネス調査の調査票作成</td> <td>14. 日本語夏季集中コースの詳細の決定</td> </tr> <tr> <td>6. ニーズ調査・レディネス調査の調査票の改訂</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 学習者の日本語力の測定と評価</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. プレイメントテスト案の作成・検討</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 事前インタビュー調査またはオリエンテーションの実施</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション 夏季日本語コース関連スケジュールの検討	10. 学習者情報の分析とコースデザインの改訂	2. コースデザインとシラバスデザイン案の作成 1	11. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 1	3. コースデザインとシラバスデザイン案の作成 2	12. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 2	4. 事前調査について 学習者募集の検討	13. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 3	5. ニーズ調査・レディネス調査の調査票作成	14. 日本語夏季集中コースの詳細の決定	6. ニーズ調査・レディネス調査の調査票の改訂	15. まとめ	7. 学習者の日本語力の測定と評価		8. プレイメントテスト案の作成・検討		9. 事前インタビュー調査またはオリエンテーションの実施	
1. イントロダクション 夏季日本語コース関連スケジュールの検討	10. 学習者情報の分析とコースデザインの改訂																						
2. コースデザインとシラバスデザイン案の作成 1	11. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 1																						
3. コースデザインとシラバスデザイン案の作成 2	12. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 2																						
4. 事前調査について 学習者募集の検討	13. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 3																						
5. ニーズ調査・レディネス調査の調査票作成	14. 日本語夏季集中コースの詳細の決定																						
6. ニーズ調査・レディネス調査の調査票の改訂	15. まとめ																						
7. 学習者の日本語力の測定と評価																							
8. プレイメントテスト案の作成・検討																							
9. 事前インタビュー調査またはオリエンテーションの実施																							
◇ 成績評価の方法	レポート50%、平常点（クラス参加度・授業課題・ジャーナル）50%																						
◇ 教科書・参考書	適宜教員が指示する。																						
◇ 授業時間外学習	毎回の授業で、次回までの課題が課せられる。本授業の課題として運営する夏季日本語コースに関する作業のほとんどは、授業時間外に行う必要があると想定しておくこと。																						
その他：履修要件：夏季休暇中の教壇実習に参加できること（日本語夏季集中コースは7月下旬から8月下旬の間の数週間を使って実施予定）。2学期の日本語教育論実習Ⅱを履修できること。教壇実習報告書の作成に参加できること。																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 語 教 育 論 実 習 II Methodologies in Japanese Language Teaching (Practice) II	2	教 授 才 田 い ず み	2 学 期	月	3・4
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LLLILIN638J 日本語コースの評価と改善 夏季休暇中に運営した集中日本語コースを材料に、授業活動や授業運営、コース運営について分析・評価を行う。その活動を通して、日本語コースのデザインや運営についての気づきと、より広い知識を得る。具体的には以下の項目を扱う。 1) 授業データを利用して、種々の分析法を学びながら、授業を記述・分析することの意義について検討する。 2) 授業ビデオを詳細に検討することによって、授業・およびコースデザインの評価を行い、改善策を考える。 3) コース全体を振り返り、その問題点を検討し、改善策を考える。				
◆ 到達目標	(1)夏季休暇中に実施・運営した日本語集中コースの授業を記述・分析し、評価する。 (2)コース・授業の改善・発展について検討する。 (3)上記の活動を通して、日本語コースのデザインや運営についての気づきと、より広い知識を得る。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. 夏季集中コースについての振り返り 3. 授業ビデオの検討：問題点の抽出1 4. 授業ビデオの検討：問題点の抽出2 5. 授業ビデオの検討：問題点の抽出3 6. 改善策の検討 7. 書き起こしデータから見えることを考える 8. 授業分析の枠組み1 9. 授業分析の枠組み2 10. 分析枠組みを用いた結果の検討1 11. 分析枠組みを用いた結果の検討2 12. 分析枠組みを用いた結果の検討3 13. 分析枠組みを用いた結果の検討4 14. 教師としての自分の傾向について考える 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法	レポート50%、平常点（クラス参加度、授業課題、ジャーナル）40%、実習報告書への貢献10%				
◇ 教科書・参考書	適宜教員が指示する。				
◇ 授業時間外学習	授業データに関する分析作業は、ほとんど授業時間外に実施する課題となる。毎回の授業を振り返りジャーナルを書くことを課すが、これも時間外の学習課題である。				
その他：履修要件：日本語教育論実習Ⅰを履修済みであること。 3回以上欠席した場合には、特別な理由のない限り単位を与えないので注意すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
比 較 現 代 日 本 論 講 読 I Comparative study on Contemporary Japan (Reading) I	2	准 教 授 田 中 重 人	1 学 期	金	4
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LLLILIN641J 現代日本論論文講読 研究は、学術雑誌の原著論文を探して読むことから始まります。この授業では、文献データベースを使って論文を探し、その内容を読み、プレゼンテーションと質疑応答を通して理解していくことを目指します。とりあげる論文は、現代日本文化に関するもので、日本語または英語のもの、という条件のなかで、受講者の興味にしたがって選定します。1論文を、(a)鍵概念の抽出 (scanning)、(b)構造の抽出 (skimming)、(c)図表の解説、(d)ロジックの抽出、の4人で分担して、それぞれの担当者がコンピュータを使用したプレゼンテーションをおこないます。				
◆ 到達目標	(1)論文の探しかたと読みかたを理解する (2)プレゼンテーションと質疑応答の技術を身につける				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. 論文をさがす(1) 3. 論文をさがす(2) 4. 論文の読みかた(1) 5. 論文の読みかた(2) 6. プレゼンテーション資料の作成 7. プレゼンテーションの準備 8. 発表と質疑 9. プレゼンテーション(1) 10. プレゼンテーション(2) 11. 録画視聴と振り返り(1) 12. プレゼンテーション(3) 13. プレゼンテーション(4) 14. 録画視聴と振り返り(2) 15. 全体のまとめと講評				
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題（30%）、担当部分のプレゼンテーション（40%）、プレゼンテーションに対する質疑応答（30%）を合計して評価する。				
◇ 教科書・参考書	【教科書】 東北大学附属図書館『情報探索の基礎知識』基本編／人文社会科学編。 【参考書】 諏訪邦夫（1995）『発表の技法』講談社。				
◇ 授業時間外学習	毎回の授業での課題のほか、取り上げる論文の読解、プレゼンテーションの資料作成と準備、プレゼンテーション録画を見ての反省をおこなうこと				
その他：授業計画は、受講者の人数によって変更する可能性がある。 授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
比較現代日本論研究演習Ⅰ Comparative study on Contemporary Japan (Advanced Seminar) I	2	准教授 田中重人	1学期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LLLIN643J																				
◆ 授業題目	統計分析の基礎																				
◆ 目的・概要	意識調査・テスト・実験などのデータはどのように分析すればいいでしょうか。この授業では、小規模の標本調査を念頭において、統計分析の基礎的な手法を学びます。これまで統計的な分析をおこなったことのない人を対象に、初歩から講義します。同時に、コンピュータを実際に使って、データ分析の実習をおこないます。																				
◆ 到達目標	(1)統計分析の基礎を理解する (2)データ分析ができるようになる																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 平均と分散</td> </tr> <tr> <td>2. SPSS入門</td> <td>10. 平均値の比較</td> </tr> <tr> <td>3. 統計分析の基礎</td> <td>11. 分散分析</td> </tr> <tr> <td>4. 度数分布表とグラフの利用</td> <td>12. 推測統計の基礎と区間推定</td> </tr> <tr> <td>5. クロス表分析の基礎</td> <td>13. 統計的検定</td> </tr> <tr> <td>6. 連関係数</td> <td>14. さまざまな検定手法</td> </tr> <tr> <td>7. クロス表の解釈</td> <td>15. 全体のまとめとレポート内容についての相談</td> </tr> <tr> <td>8. 前回までの復習と進捗確認課題</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 平均と分散	2. SPSS入門	10. 平均値の比較	3. 統計分析の基礎	11. 分散分析	4. 度数分布表とグラフの利用	12. 推測統計の基礎と区間推定	5. クロス表分析の基礎	13. 統計的検定	6. 連関係数	14. さまざまな検定手法	7. クロス表の解釈	15. 全体のまとめとレポート内容についての相談	8. 前回までの復習と進捗確認課題	
1. イントロダクション	9. 平均と分散																				
2. SPSS入門	10. 平均値の比較																				
3. 統計分析の基礎	11. 分散分析																				
4. 度数分布表とグラフの利用	12. 推測統計の基礎と区間推定																				
5. クロス表分析の基礎	13. 統計的検定																				
6. 連関係数	14. さまざまな検定手法																				
7. クロス表の解釈	15. 全体のまとめとレポート内容についての相談																				
8. 前回までの復習と進捗確認課題																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題（70%）、期末レポート（30%）を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】吉田寿夫（1998）『本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題とレポート作成の準備																				
その他：実習室で使用できるコンピュータ台数が限られているため、受講人数を制限することがある。 授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
比較現代日本論研究演習Ⅱ Comparative study on Contemporary Japan (Advanced Seminar) II	2	准教授 田中重人	1学期	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LLLIN644J																				
◆ 授業題目	質問紙調査の基礎																				
◆ 目的・概要	質問紙を使った調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、質問紙調査の基本的な概念と方法、仮説設定からレポート作成までの一連のプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、テーマへの理論的アプローチを検討し、質問紙を作成し、調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。																				
◆ 到達目標	(1)質問紙調査の長所と短所を把握する (2)質問紙調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 調査票の検討</td> </tr> <tr> <td>2. 調査課題の設定</td> <td>10. エディティングとコーディング</td> </tr> <tr> <td>3. 既存調査と先行研究の探索</td> <td>11. データの入力と点検</td> </tr> <tr> <td>4. 調査対象者と調査方法</td> <td>12. 報告書の執筆</td> </tr> <tr> <td>5. 調査の企画</td> <td>13. 調査結果発表会(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 質問文と回答欄</td> <td>14. 調査結果発表会(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 調査実施について面談</td> <td>15. 全体のまとめとレポート執筆についての相談</td> </tr> <tr> <td>8. 調査票の構成</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 調査票の検討	2. 調査課題の設定	10. エディティングとコーディング	3. 既存調査と先行研究の探索	11. データの入力と点検	4. 調査対象者と調査方法	12. 報告書の執筆	5. 調査の企画	13. 調査結果発表会(1)	6. 質問文と回答欄	14. 調査結果発表会(2)	7. 調査実施について面談	15. 全体のまとめとレポート執筆についての相談	8. 調査票の構成	
1. イントロダクション	9. 調査票の検討																				
2. 調査課題の設定	10. エディティングとコーディング																				
3. 既存調査と先行研究の探索	11. データの入力と点検																				
4. 調査対象者と調査方法	12. 報告書の執筆																				
5. 調査の企画	13. 調査結果発表会(1)																				
6. 質問文と回答欄	14. 調査結果発表会(2)																				
7. 調査実施について面談	15. 全体のまとめとレポート執筆についての相談																				
8. 調査票の構成																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題（40%）、学期末に提出する質問紙（30%）、調査結果に基づくレポート（30%）を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】轟亮・杉野勇（編）（2013）『入門・社会調査法 [第2版]』法律文化社。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題と調査の企画・実施およびレポート作成																				
その他：1学期開講の比較現代日本論研究演習Ⅰ「統計分析の基礎」をあわせて履修することが望ましい。 授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 Ⅱ Comparative study on Contemporary Japan (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授 田 中 重 人	2 学期	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LLILIN644J																				
◆ 授業題目	調査的面接の基礎																				
◆ 目的・概要	面接法による質的調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、面接調査の基本的な方法とプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、面接調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。																				
◆ 到達目標	(1)面接調査の長所と短所を把握する (2)面接調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. インタビュー実施から書き起こしまで</td> </tr> <tr> <td>2. 研究のイメージをつかむ</td> <td>10. 分析</td> </tr> <tr> <td>3. 調査的面接の方法</td> <td>11. 報告書</td> </tr> <tr> <td>4. シナリオの作成</td> <td>12. 発表会(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 面接実習</td> <td>13. 発表会(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 面接実習結果について検討</td> <td>14. 調査的面接の倫理</td> </tr> <tr> <td>7. 対象者の選びかた</td> <td>15. 全体のまとめ；レポート執筆に向けて討論</td> </tr> <tr> <td>8. 調査計画について討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. インタビュー実施から書き起こしまで	2. 研究のイメージをつかむ	10. 分析	3. 調査的面接の方法	11. 報告書	4. シナリオの作成	12. 発表会(1)	5. 面接実習	13. 発表会(2)	6. 面接実習結果について検討	14. 調査的面接の倫理	7. 対象者の選びかた	15. 全体のまとめ；レポート執筆に向けて討論	8. 調査計画について討論	
1. イントロダクション	9. インタビュー実施から書き起こしまで																				
2. 研究のイメージをつかむ	10. 分析																				
3. 調査的面接の方法	11. 報告書																				
4. シナリオの作成	12. 発表会(1)																				
5. 面接実習	13. 発表会(2)																				
6. 面接実習結果について検討	14. 調査的面接の倫理																				
7. 対象者の選びかた	15. 全体のまとめ；レポート執筆に向けて討論																				
8. 調査計画について討論																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題（50%）、調査結果に基づく口頭発表とレポート（50%）を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】松浦均・西口利文（2008）『観察法・調査的面接法の進め方』ナカニシヤ出版。																				
◇ 授業時間外学習	各回の課題と各自の調査企画、実施およびレポート作成																				
その他：1学期開講の比較現代日本論研究演習Ⅱ「質問紙調査の基礎」も履修することが望ましい。 授業資料は http://tsigeto.info/c.html に掲載予定。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
比 較 現 代 日 本 論 研 究 演 習 Ⅲ Comparative study on Contemporary Japan (Advanced Seminar) Ⅲ	2	准教授 田 中 重 人	2 学期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LLILIN645J																				
◆ 授業題目	実践的統計分析法																				
◆ 目的・概要	研究の現場で必要となる統計分析手法は、分析の目的とデータの特徴によってさまざまです。この授業の前半では、推測統計学の基本的な概念について解説し、統計的推定および検定の方法について学びます。後半では、さまざまな分析手法をとりあげて、それらの特徴と使い方を習得していきます。どのような分析手法をとりあげるかについては、受講者の関心と必要性を考慮します。統計解析パッケージを使ってデータ分析の実習をおこないます。																				
◆ 到達目標	さまざまな統計分析手法を理解し、使いこなせるようになる																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 推測統計の基礎</td> <td>9. 対応のある平均値の比較</td> </tr> <tr> <td>2. 正規分布の利用</td> <td>10. 多変量解析(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 統計的検定と検定力</td> <td>11. 多変量解析(2)</td> </tr> <tr> <td>4. 順位相関係数</td> <td>12. 多変量解析(3)</td> </tr> <tr> <td>5. 積率相関係数</td> <td>13. 多変量解析(4)</td> </tr> <tr> <td>6. 相関係数行列</td> <td>14. 多変量解析(5)</td> </tr> <tr> <td>7. 前回までの復習と進捗確認課題</td> <td>15. 全体のまとめとレポート内容について相談</td> </tr> <tr> <td>8. 符号検定</td> <td></td> </tr> </table>					1. 推測統計の基礎	9. 対応のある平均値の比較	2. 正規分布の利用	10. 多変量解析(1)	3. 統計的検定と検定力	11. 多変量解析(2)	4. 順位相関係数	12. 多変量解析(3)	5. 積率相関係数	13. 多変量解析(4)	6. 相関係数行列	14. 多変量解析(5)	7. 前回までの復習と進捗確認課題	15. 全体のまとめとレポート内容について相談	8. 符号検定	
1. 推測統計の基礎	9. 対応のある平均値の比較																				
2. 正規分布の利用	10. 多変量解析(1)																				
3. 統計的検定と検定力	11. 多変量解析(2)																				
4. 順位相関係数	12. 多変量解析(3)																				
5. 積率相関係数	13. 多変量解析(4)																				
6. 相関係数行列	14. 多変量解析(5)																				
7. 前回までの復習と進捗確認課題	15. 全体のまとめとレポート内容について相談																				
8. 符号検定																					
◇ 成績評価の方法	授業中の課題と宿題（70%）、期末レポート（30%）を合計して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	【教科書】吉田寿夫（1998）『本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の課題とレポート作成の準備																				
その他：1学期開講の比較現代日本論研究演習Ⅰ「統計分析の基礎」を履修済みか、それと同等の知識を習得済みの者を対象とする。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 古 代 ・ 中 世 史 特 論 I Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師 鈴木 拓 也	集 中 (2)																		
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS601J																				
◆ 授業題目	日本古代史のなかの東北																				
◆ 目的・概要	日本古代史の中から、蝦夷・城柵・軍制・征夷など、東北に関わる問題を取り上げる。文献史学に立脚しつつ、考古学の情報も参照しながら、基礎的事実の復元を行う。その上で、東北古代史を日本古代史全体の中で理解することを試みる。																				
◆ 到達目標	日本古代史および東北古代史について理解するとともに、文献史料から史実を復元する方法、考古学の情報を利用する方法の一端を学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 日本古代史と東北古代史</td> <td>9. 光仁朝の征夷</td> </tr> <tr> <td>2. 蝦夷の文化</td> <td>10. 桓武朝の政治史と征夷(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 城柵論(1)</td> <td>11. 桓武朝の政治史と征夷(2)</td> </tr> <tr> <td>4. 城柵論(2)</td> <td>12. 桓武朝の政治史と征夷(3)</td> </tr> <tr> <td>5. 城柵論(3)</td> <td>13. 徳政相論</td> </tr> <tr> <td>6. 鎮守府と軍制</td> <td>14. 征夷終結以後の東北</td> </tr> <tr> <td>7. 大仏造立と東北</td> <td>15. 節刀と将軍</td> </tr> <tr> <td>8. 多賀城碑</td> <td></td> </tr> </table>					1. 日本古代史と東北古代史	9. 光仁朝の征夷	2. 蝦夷の文化	10. 桓武朝の政治史と征夷(1)	3. 城柵論(1)	11. 桓武朝の政治史と征夷(2)	4. 城柵論(2)	12. 桓武朝の政治史と征夷(3)	5. 城柵論(3)	13. 徳政相論	6. 鎮守府と軍制	14. 征夷終結以後の東北	7. 大仏造立と東北	15. 節刀と将軍	8. 多賀城碑	
1. 日本古代史と東北古代史	9. 光仁朝の征夷																				
2. 蝦夷の文化	10. 桓武朝の政治史と征夷(1)																				
3. 城柵論(1)	11. 桓武朝の政治史と征夷(2)																				
4. 城柵論(2)	12. 桓武朝の政治史と征夷(3)																				
5. 城柵論(3)	13. 徳政相論																				
6. 鎮守府と軍制	14. 征夷終結以後の東北																				
7. 大仏造立と東北	15. 節刀と将軍																				
8. 多賀城碑																					
◇ 成績評価の方法	レポートの提出による。																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使わない。プリントを配付して講義を行う。参考書は授業中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	質問などは随時受け付ける。可能であれば城柵など東北の遺跡を実際に踏査してみたい。ただし安全には十分に注意すること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 古 代 ・ 中 世 史 特 論 II Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Lecture) II	2	教授 柳 原 敏 昭	1 学期	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS602J																				
◆ 授業題目	英語で読む日本中世文書(1)																				
◆ 目的・概要	鎌倉時代の古文書の原文と英語訳の双方を読んで、史料を英訳するプロセスについて学ぶ。そのことを通じて、史料用語を概念化することについても学ぶ。担当者をあらかじめ決め、その報告を基に議論していくスタイルをとる。																				
◆ 到達目標	(1)日本史の研究を国際的に発信するための基礎を身につける。 (2)史料用語を概念化することに習熟する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 学生による報告と討論⑧</td> </tr> <tr> <td>2. 学生による報告と討論①</td> <td>10. 学生による報告と討論⑨</td> </tr> <tr> <td>3. 学生による報告と討論②</td> <td>11. 学生による報告と討論⑩</td> </tr> <tr> <td>4. 学生による報告と討論③</td> <td>12. 学生による報告と討論⑪</td> </tr> <tr> <td>5. 学生による報告と討論④</td> <td>13. 学生による報告と討論⑫</td> </tr> <tr> <td>6. 学生による報告と討論⑤</td> <td>14. 学生による報告と討論⑬</td> </tr> <tr> <td>7. 学生による報告と討論⑥</td> <td>15. 授業の総括</td> </tr> <tr> <td>8. 学生による報告と討論⑦</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧	2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨	3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩	4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪	5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫	6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬	7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括	8. 学生による報告と討論⑦	
1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧																				
2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨																				
3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩																				
4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪																				
5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫																				
6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬																				
7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括																				
8. 学生による報告と討論⑦																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他 (授業中における発表の内容、議論への関与度) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	講義中にプリントを配布する。 参考書は、JEFFREY P. MASS: The Kamakura Bakufu (Stanford University Press, 1976)。																				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ2週間前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。																				
その他：日本中世文書の基礎的な読解力を要する。授業には、英語を母語とするティーチング・アシスタントがつく予定である。大学院生には、学部学生に対するアドバイザーの役割が求められる。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 古 代 ・ 中 世 史 特 論 Ⅲ Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Lecture) Ⅲ	2	教 授 柳 原 敏 昭	2 学 期	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS603J																				
◆ 授業題目	英語で読む日本中世文書(2)																				
◆ 目的・概要	「英語で読む日本中世文書(1)」の続講。鎌倉時代の古文書の原文と英語訳の双方を読んで、史料を英訳するプロセスについて学ぶ。そのことを通じて、史料用語を概念化することについても学ぶ。担当者をあらかじめ決め、その報告を基に議論していくスタイルをとる。																				
◆ 到達目標	(1)日本史の研究を国際的に発信するための基礎を身につける。 (2)史料用語を概念化することに習熟する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 学生による報告と討論⑧</td> </tr> <tr> <td>2. 学生による報告と討論①</td> <td>10. 学生による報告と討論⑨</td> </tr> <tr> <td>3. 学生による報告と討論②</td> <td>11. 学生による報告と討論⑩</td> </tr> <tr> <td>4. 学生による報告と討論③</td> <td>12. 学生による報告と討論⑪</td> </tr> <tr> <td>5. 学生による報告と討論④</td> <td>13. 学生による報告と討論⑫</td> </tr> <tr> <td>6. 学生による報告と討論⑤</td> <td>14. 学生による報告と討論⑬</td> </tr> <tr> <td>7. 学生による報告と討論⑥</td> <td>15. 授業の総括</td> </tr> <tr> <td>8. 学生による報告と討論⑦</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧	2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨	3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩	4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪	5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫	6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬	7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括	8. 学生による報告と討論⑦	
1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧																				
2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨																				
3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩																				
4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪																				
5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫																				
6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬																				
7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括																				
8. 学生による報告と討論⑦																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他 (授業中における発表の内容、議論への関与度) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	講義中にプリントを配布する。 参考書は、JEFFREY P. MASS: The Kamakura Bakufu (Stanford University Press, 1976)。																				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ2週間前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。																				
その他：日本中世文書の基礎的な読解力を要する。授業には、英語を母語とするティーチング・アシスタントがつく予定である。大学院生には、学部学生に対するアドバイザーの役割が求められる。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 古 代 ・ 中 世 史 研 究 演 習 Ⅰ Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Seminar) Ⅰ	2	准教授 堀 裕	1 学 期	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS605J																				
◆ 授業題目	古代史料の研究(1)																				
◆ 目的・概要	平安時代の貴族の日記である『小右記』をテキストとして精読する。あわせて、関連史料も調査・読解することで、史料としての扱い方に習熟する。史料に基づいた歴史像の構築の方法について理解を深める。なお、授業では毎回担当者が報告する。																				
◆ 到達目標	古代史の基本史料の基礎知識を得るとともにその読解に習熟する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス 『小右記』とは何か。講読のすすめかた。</td> <td>9. 『小右記』を読む(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 『小右記』を読む(1)</td> <td>10. 『小右記』を読む(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 『小右記』を読む(2)</td> <td>11. 『小右記』を読む(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 『小右記』を読む(3)</td> <td>12. 『小右記』を読む(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 『小右記』を読む(4)</td> <td>13. 『小右記』を読む(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 『小右記』を読む(5)</td> <td>14. 『小右記』を読む(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 『小右記』を読む(6)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 『小右記』を読む(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス 『小右記』とは何か。講読のすすめかた。	9. 『小右記』を読む(8)	2. 『小右記』を読む(1)	10. 『小右記』を読む(9)	3. 『小右記』を読む(2)	11. 『小右記』を読む(10)	4. 『小右記』を読む(3)	12. 『小右記』を読む(11)	5. 『小右記』を読む(4)	13. 『小右記』を読む(12)	6. 『小右記』を読む(5)	14. 『小右記』を読む(13)	7. 『小右記』を読む(6)	15. まとめ	8. 『小右記』を読む(7)	
1. ガイダンス 『小右記』とは何か。講読のすすめかた。	9. 『小右記』を読む(8)																				
2. 『小右記』を読む(1)	10. 『小右記』を読む(9)																				
3. 『小右記』を読む(2)	11. 『小右記』を読む(10)																				
4. 『小右記』を読む(3)	12. 『小右記』を読む(11)																				
5. 『小右記』を読む(4)	13. 『小右記』を読む(12)																				
6. 『小右記』を読む(5)	14. 『小右記』を読む(13)																				
7. 『小右記』を読む(6)	15. まとめ																				
8. 『小右記』を読む(7)																					
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	テキスト 『大日本古記録 小右記』1～11 (岩波書店)。購入の必要はない。																				
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜4限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 古 代 ・ 中 世 史 研 究 演 習 Ⅱ Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授	堀 裕	2 学期	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS606J																					
◆ 授業題目	古代史料の研究(2)																					
◆ 目的・概要	養老令の注釈書である『令集解』をテキストとして精読するとともに、関連史料も調査・読解することで、史料としての扱い方に習熟する。本年度は僧尼令を取り上げる。史料に基づいた歴史像の構築の方法について理解を深める。なお、授業では毎回担当者が報告する。																					
◆ 到達目標	古代史の基本史料の基礎知識を得るとともにその読解に習熟する。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス 『令集解』とは何か。講読のすすめかた。</td> <td>9. 『令集解』を読む(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 『令集解』を読む(1)</td> <td>10. 『令集解』を読む(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 『令集解』を読む(2)</td> <td>11. 『令集解』を読む(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 『令集解』を読む(3)</td> <td>12. 『令集解』を読む(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 『令集解』を読む(4)</td> <td>13. 『令集解』を読む(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 『令集解』を読む(5)</td> <td>14. 『令集解』を読む(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 『令集解』を読む(6)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 『令集解』を読む(7)</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス 『令集解』とは何か。講読のすすめかた。	9. 『令集解』を読む(8)	2. 『令集解』を読む(1)	10. 『令集解』を読む(9)	3. 『令集解』を読む(2)	11. 『令集解』を読む(10)	4. 『令集解』を読む(3)	12. 『令集解』を読む(11)	5. 『令集解』を読む(4)	13. 『令集解』を読む(12)	6. 『令集解』を読む(5)	14. 『令集解』を読む(13)	7. 『令集解』を読む(6)	15. まとめ	8. 『令集解』を読む(7)	
1. ガイダンス 『令集解』とは何か。講読のすすめかた。	9. 『令集解』を読む(8)																					
2. 『令集解』を読む(1)	10. 『令集解』を読む(9)																					
3. 『令集解』を読む(2)	11. 『令集解』を読む(10)																					
4. 『令集解』を読む(3)	12. 『令集解』を読む(11)																					
5. 『令集解』を読む(4)	13. 『令集解』を読む(12)																					
6. 『令集解』を読む(5)	14. 『令集解』を読む(13)																					
7. 『令集解』を読む(6)	15. まとめ																					
8. 『令集解』を読む(7)																						
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)																					
◇ 教科書・参考書	テキスト 新訂増補国史大系普及版『令集解』第1巻(吉川弘文館)。																					
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜日4限です。来訪時は事前に連絡をください。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 古 代 ・ 中 世 史 研 究 演 習 Ⅲ Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Seminar) Ⅲ	2	准教授	堀 裕	1 学期	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS607J																					
◆ 授業題目	古代史料研究(1)																					
◆ 目的・概要	歴史書である『続日本紀』をテキストとして、古代史料の読解と史料としての扱い方に習熟する。授業では毎回担当者が報告する。できれば、現地見学会を実施する。																					
◆ 到達目標	古代史の基本史料である『続日本紀』の読解と史料としての扱い方に習熟する。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス 『続日本紀』とは何か。講読のすすめかた。</td> <td>9. 『続日本紀』を読む(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 『続日本紀』を読む(1)</td> <td>10. 『続日本紀』を読む(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 『続日本紀』を読む(2)</td> <td>11. 『続日本紀』を読む(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 『続日本紀』を読む(3)</td> <td>12. 『続日本紀』を読む(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 『続日本紀』を読む(4)</td> <td>13. 『続日本紀』を読む(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 『続日本紀』を読む(5)</td> <td>14. 『続日本紀』を読む(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 『続日本紀』を読む(6)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 『続日本紀』を読む(7)</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス 『続日本紀』とは何か。講読のすすめかた。	9. 『続日本紀』を読む(8)	2. 『続日本紀』を読む(1)	10. 『続日本紀』を読む(9)	3. 『続日本紀』を読む(2)	11. 『続日本紀』を読む(10)	4. 『続日本紀』を読む(3)	12. 『続日本紀』を読む(11)	5. 『続日本紀』を読む(4)	13. 『続日本紀』を読む(12)	6. 『続日本紀』を読む(5)	14. 『続日本紀』を読む(13)	7. 『続日本紀』を読む(6)	15. まとめ	8. 『続日本紀』を読む(7)	
1. ガイダンス 『続日本紀』とは何か。講読のすすめかた。	9. 『続日本紀』を読む(8)																					
2. 『続日本紀』を読む(1)	10. 『続日本紀』を読む(9)																					
3. 『続日本紀』を読む(2)	11. 『続日本紀』を読む(10)																					
4. 『続日本紀』を読む(3)	12. 『続日本紀』を読む(11)																					
5. 『続日本紀』を読む(4)	13. 『続日本紀』を読む(12)																					
6. 『続日本紀』を読む(5)	14. 『続日本紀』を読む(13)																					
7. 『続日本紀』を読む(6)	15. まとめ																					
8. 『続日本紀』を読む(7)																						
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)																					
◇ 教科書・参考書	テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編(吉川弘文館)																					
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜4限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。																					
その他：古代史料研究(1)(2)は連続履修すること。7・8世紀に興味のある者の受講を勧める。																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
日本古代・中世史研究演習Ⅳ Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Seminar) Ⅳ	2	准教授	堀 裕	2学期	金	3
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS608J					
◆ 授業題目	古代史料研究(2)					
◆ 目的・概要	歴史書である『続日本紀』をテキストとして、古代史料の読解と史料としての扱い方に習熟する。授業では毎回担当者が報告する。できれば、現地見学会を実施する。					
◆ 到達目標	古代史の基本史料である『続日本紀』の読解と史料としての扱い方に習熟する。					
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 『続日本紀』を読む意義。講読のすすめかたの確認。 9. 『続日本紀』を読む(8) 2. 『続日本紀』を読む(1) 10. 『続日本紀』を読む(9) 3. 『続日本紀』を読む(2) 11. 『続日本紀』を読む(10) 4. 『続日本紀』を読む(3) 12. 『続日本紀』を読む(11) 5. 『続日本紀』を読む(4) 13. 『続日本紀』を読む(12) 6. 『続日本紀』を読む(5) 14. 『続日本紀』を読む(13) 7. 『続日本紀』を読む(6) 15. おわりに 8. 『続日本紀』を読む(7)					
◇ 成績評価の方法	レポート (50%) 出席 (50%)					
◇ 教科書・参考書	テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編 (吉川弘文館)					
◇ 授業時間外学習	オフィスアワーは金曜4限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。					
その他：古代史料研究(1)(2)は連続履修すること。7・8世紀に興味のある者の受講を勧める。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
日本古代・中世史研究演習Ⅴ Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Seminar) Ⅴ	2	教授	柳 原 敏 昭	1学期	月	3
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS609J					
◆ 授業題目	鎌倉時代の法と社会(1)					
◆ 目的・概要	鎌倉幕府は、基本法典である御成敗式目を編纂し、そのほか多数の法令・行政命令を発した(追加法という)。それらは鎌倉時代の法・社会、政権の性格を解明する上での重要な史料である。この時間は、追加法および関連史料の精密な読解を通じて、鎌倉時代の法と社会について探究する。当然のことながら、授業は受講生による発表と討論が中心となる。					
◆ 到達目標	(1)中世史料の読解力を身につける。 (2)報告・討論の方法の基礎を身につける。					
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 9. 学生による報告と討論⑧ 2. 学生による報告と討論① 10. 学生による報告と討論⑨ 3. 学生による報告と討論② 11. 学生による報告と討論⑩ 4. 学生による報告と討論③ 12. 学生による報告と討論⑪ 5. 学生による報告と討論④ 13. 学生による報告と討論⑫ 6. 学生による報告と討論⑤ 14. 学生による報告と討論⑬ 7. 学生による報告と討論⑥ 15. 授業の総括 8. 学生による報告と討論⑦					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%] (○) その他(授業中における発表の内容) [40%]					
◇ 教科書・参考書	テキストは開講時に配付する。 参考書は佐藤進一・池内義資編『中世法制史料集』第1巻・鎌倉幕府法(岩波書店)。					
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。					
その他：日本古代・中世史研究演習「鎌倉時代の法と社会(1)(2)」(柳原担当)は連続履修すること。大学院生には、学部学生に対するアドバイザーとしての役割も求められる。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日本古代・中世史研究演習Ⅵ Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Seminar) Ⅵ	2	教授 柳原敏昭	2学期	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS610J																				
◆ 授業題目	鎌倉時代の法と社会(2)																				
◆ 目的・概要	「鎌倉時代の法と社会(1)」の続講。単なる史料の読み方や基本的な知識を学ぶ場ではなく、問題点を発見し議論する場と位置づけているので、発表者には問題提起的な報告をすることが求められる。また、それ以外の受講生も主体的に議論に参加しなければならない。受講者が任意にテーマを選び報告する機会も設けたい。																				
◆ 到達目標	(1)中世史料の読解力を身につける。 (2)鎌倉時代の法と社会について理解を深める。 (3)報告・討論の方法の基礎を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 学生による報告と討論⑧</td> </tr> <tr> <td>2. 学生による報告と討論①</td> <td>10. 学生による報告と討論⑨</td> </tr> <tr> <td>3. 学生による報告と討論②</td> <td>11. 学生による報告と討論⑩</td> </tr> <tr> <td>4. 学生による報告と討論③</td> <td>12. 学生による報告と討論⑪</td> </tr> <tr> <td>5. 学生による報告と討論④</td> <td>13. 学生による報告と討論⑫</td> </tr> <tr> <td>6. 学生による報告と討論⑤</td> <td>14. 学生による報告と討論⑬</td> </tr> <tr> <td>7. 学生による報告と討論⑥</td> <td>15. 授業の総括</td> </tr> <tr> <td>8. 学生による報告と討論⑦</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧	2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨	3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩	4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪	5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫	6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬	7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括	8. 学生による報告と討論⑦	
1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧																				
2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨																				
3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩																				
4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪																				
5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫																				
6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬																				
7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括																				
8. 学生による報告と討論⑦																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他(授業中における発表の内容) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	テキストは開講時に配付する。 参考書は佐藤進一・池内義資編『中世法制史料集』第1巻・鎌倉幕府法(岩波書店)。																				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。																				
その他：日本古代・中世史研究演習「鎌倉時代の法と社会(1)(2)」(柳原担当)は連続履修すること。 大学院生には、学部学生に対するアドバイザーとしての役割も求められる。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日本古代・中世史研究演習Ⅶ Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Seminar) Ⅶ	2	教授 柳原敏昭	1学期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS611J																				
◆ 授業題目	中世史料演習(1)																				
◆ 目的・概要	伏見宮貞成『看聞日記』は、記主が当時の政権中枢に近く、また所領である山城国伏見庄に居住していたため、朝廷や幕府の動向から、村落内部の様相までを詳細に知ることのできる希有の史料である。この日記を精読することを通じて、記録史料の読解力を錬磨するとともに、室町時代の政治や社会について検討を加える。当然のことながら、授業は受講生による発表と議論が中心となる。修士論文の構想・中間発表も行う。																				
◆ 到達目標	(1)日本中世史に関する高度な史料読解力・研究能力を養う。 (2)報告・討論の方法を身につける。 (3)修士論文・博士論文作成の1ステップとする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 学生による報告と討論⑧</td> </tr> <tr> <td>2. 学生による報告と討論①</td> <td>10. 学生による報告と討論⑨</td> </tr> <tr> <td>3. 学生による報告と討論②</td> <td>11. 学生による報告と討論⑩</td> </tr> <tr> <td>4. 学生による報告と討論③</td> <td>12. 学生による報告と討論⑪</td> </tr> <tr> <td>5. 学生による報告と討論④</td> <td>13. 学生による報告と討論⑫</td> </tr> <tr> <td>6. 学生による報告と討論⑤</td> <td>14. 学生による報告と討論⑬</td> </tr> <tr> <td>7. 学生による報告と討論⑥</td> <td>15. 授業の総括</td> </tr> <tr> <td>8. 学生による報告と討論⑦</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧	2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨	3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩	4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪	5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫	6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬	7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括	8. 学生による報告と討論⑦	
1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧																				
2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨																				
3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩																				
4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪																				
5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫																				
6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬																				
7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括																				
8. 学生による報告と討論⑦																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他(授業中における発表の内容) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	続群書類従・補遺二『看聞御記』上・下(続群書類従完成会)																				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。																				
その他：日本古代・中世史研究演習「中世史料演習」(1)(2)は連続履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 古 代 ・ 中 世 史 研 究 演 習 Ⅷ Ancient and Medieval History in Japan (Advanced Seminar) Ⅷ	2	教 授 柳 原 敏 昭	2 学 期	月	4																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS612J																				
◆ 授業題目	中世史料演習(2)																				
◆ 目的・概要	中世史料演習(1)の続講。受講者が任意にテーマを選び、研究発表を行う機会も設ける。																				
◆ 到達目標	(1)日本中世史に関する高度な史料読解力・研究能力を養う。 (2)報告・討論の方法を身につける。 (3)修士論文(研究)・博士論文作成の1ステップとする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 学生による報告と討論⑧</td> </tr> <tr> <td>2. 学生による報告と討論①</td> <td>10. 学生による報告と討論⑨</td> </tr> <tr> <td>3. 学生による報告と討論②</td> <td>11. 学生による報告と討論⑩</td> </tr> <tr> <td>4. 学生による報告と討論③</td> <td>12. 学生による報告と討論⑪ 研究発表</td> </tr> <tr> <td>5. 学生による報告と討論④</td> <td>13. 学生による報告と討論⑫ 研究発表</td> </tr> <tr> <td>6. 学生による報告と討論⑤</td> <td>14. 学生による報告と討論⑬ 研究発表</td> </tr> <tr> <td>7. 学生による報告と討論⑥</td> <td>15. 授業の総括</td> </tr> <tr> <td>8. 学生による報告と討論⑦</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧	2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨	3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩	4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪ 研究発表	5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫ 研究発表	6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬ 研究発表	7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括	8. 学生による報告と討論⑦	
1. ガイダンス	9. 学生による報告と討論⑧																				
2. 学生による報告と討論①	10. 学生による報告と討論⑨																				
3. 学生による報告と討論②	11. 学生による報告と討論⑩																				
4. 学生による報告と討論③	12. 学生による報告と討論⑪ 研究発表																				
5. 学生による報告と討論④	13. 学生による報告と討論⑫ 研究発表																				
6. 学生による報告と討論⑤	14. 学生による報告と討論⑬ 研究発表																				
7. 学生による報告と討論⑥	15. 授業の総括																				
8. 学生による報告と討論⑦																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他(授業中における発表の内容) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	続群書類従・補遺二『看聞御記』上・下(続群書類従完成会)																				
◇ 授業時間外学習	報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。																				
その他：日本古代・中世史研究演習「中世史料演習」(1)(2)は連続履修すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 近 世 ・ 近 代 史 特 論 I Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Lecture) I	2	准教授 籠 橋 俊 光	1 学 期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS613J																				
◆ 授業題目	近世社会の研究(1)																				
◆ 目的・概要	日本近世史における代表的ないしは最新の論文を読み、理解し、それをもとに討論する。受講者は指定された論文を事前に読み、順番にレポーターとして要旨等を紹介し、討論に参加する。受講に際しては議論への積極的な参加を求めることになる。必要に応じ、学外の見学なども実施する。																				
◆ 到達目標	(1)近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。 (2)報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 受講者による報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者による報告と討論(1)</td> <td>10. 受講者による報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者による報告と討論(2)</td> <td>11. 受講者による報告と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者による報告と討論(3)</td> <td>12. 受講者による報告と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者による報告と討論(4)</td> <td>13. 受講者による報告と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者による報告と討論(5)</td> <td>14. 受講者による報告と討論(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者による報告と討論(6)</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者による報告と討論(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論(8)	2. 受講者による報告と討論(1)	10. 受講者による報告と討論(9)	3. 受講者による報告と討論(2)	11. 受講者による報告と討論(10)	4. 受講者による報告と討論(3)	12. 受講者による報告と討論(11)	5. 受講者による報告と討論(4)	13. 受講者による報告と討論(12)	6. 受講者による報告と討論(5)	14. 受講者による報告と討論(13)	7. 受講者による報告と討論(6)	15. 全体のまとめ	8. 受講者による報告と討論(7)	
1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論(8)																				
2. 受講者による報告と討論(1)	10. 受講者による報告と討論(9)																				
3. 受講者による報告と討論(2)	11. 受講者による報告と討論(10)																				
4. 受講者による報告と討論(3)	12. 受講者による報告と討論(11)																				
5. 受講者による報告と討論(4)	13. 受講者による報告と討論(12)																				
6. 受講者による報告と討論(5)	14. 受講者による報告と討論(13)																				
7. 受講者による報告と討論(6)	15. 全体のまとめ																				
8. 受講者による報告と討論(7)																					
◇ 成績評価の方法	(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他(報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	講義中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。																				
その他：オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 近 世 ・ 近 代 史 特 論 Ⅱ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Lecture) Ⅱ	2	准教授 籠 橋 俊 光	2 学期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS614J																				
◆ 授業題目	近世社会の研究(2)																				
◆ 目的・概要	「近世社会の研究(1)」に引き続き、日本近世の社会とその研究を理解することを目的として、様々な研究論文を読み進め、理解を深める。受講に際しては議論への積極的な参加が求められる。可能であれば、必要に応じ、学外の見学なども実施する。																				
◆ 到達目標	(1)近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。 (2)報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 受講者による報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者による報告と討論(1)</td> <td>10. 受講者による報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者による報告と討論(2)</td> <td>11. 受講者による報告と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者による報告と討論(3)</td> <td>12. 受講者による報告と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者による報告と討論(4)</td> <td>13. 受講者による報告と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者による報告と討論(5)</td> <td>14. 受講者による報告と討論(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者による報告と討論(6)</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者による報告と討論(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論(8)	2. 受講者による報告と討論(1)	10. 受講者による報告と討論(9)	3. 受講者による報告と討論(2)	11. 受講者による報告と討論(10)	4. 受講者による報告と討論(3)	12. 受講者による報告と討論(11)	5. 受講者による報告と討論(4)	13. 受講者による報告と討論(12)	6. 受講者による報告と討論(5)	14. 受講者による報告と討論(13)	7. 受講者による報告と討論(6)	15. 全体のまとめ	8. 受講者による報告と討論(7)	
1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論(8)																				
2. 受講者による報告と討論(1)	10. 受講者による報告と討論(9)																				
3. 受講者による報告と討論(2)	11. 受講者による報告と討論(10)																				
4. 受講者による報告と討論(3)	12. 受講者による報告と討論(11)																				
5. 受講者による報告と討論(4)	13. 受講者による報告と討論(12)																				
6. 受講者による報告と討論(5)	14. 受講者による報告と討論(13)																				
7. 受講者による報告と討論(6)	15. 全体のまとめ																				
8. 受講者による報告と討論(7)																					
◇ 成績評価の方法	(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	講義中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。																				
その他：オフィスアワー 火曜日 16：20～17：50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 近 世 ・ 近 代 史 特 論 Ⅲ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Lecture) Ⅲ	2	教授 安 達 宏 昭	1 学期	水	2																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS615J																				
◆ 授業題目	日本近現代史研究の現状と課題(3)																				
◆ 目的・概要	日本近現代史研究における現時点での到達点を理解するために、2014年に刊行された『岩波講座 日本歴史 (第17巻、近現代3)』におさめられている各論文を読んでいく。その後、この時代に関連する論文も読み進める。進め方は、受講者が順番にレポーターとなって、担当する論文の要旨や内容の特徴を発表し、その上で受講者全員によって討論する方式で行う。それにより、相互に認識を深める。																				
◆ 到達目標	(1)日本近現代史に関する最近の研究を読解し、内容を理解できるようになる。 (2)研究の内容要旨を発表し、討論することができるようになる。 (3)最近の研究成果を通して、近現代史研究の現状と課題について、理解できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス 日本近現代史研究の特徴</td> <td>9. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(7)</td> </tr> <tr> <td>2. 日本近現代史研究の方法</td> <td>10. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>3. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(1)</td> <td>11. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>4. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(2)</td> <td>12. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(3)</td> <td>13. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(4)</td> <td>14. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(3)</td> </tr> <tr> <td>7. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(5)</td> <td>15. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(4)</td> </tr> <tr> <td>8. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス 日本近現代史研究の特徴	9. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(7)	2. 日本近現代史研究の方法	10. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(8)	3. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(1)	11. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(9)	4. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(2)	12. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(2)	5. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(3)	13. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(2)	6. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(4)	14. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(3)	7. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(5)	15. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(4)	8. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(6)	
1. ガイダンス 日本近現代史研究の特徴	9. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(7)																				
2. 日本近現代史研究の方法	10. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(8)																				
3. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(1)	11. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(9)																				
4. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(2)	12. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(2)																				
5. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(3)	13. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(2)																				
6. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(4)	14. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(3)																				
7. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(5)	15. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(4)																				
8. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(6)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) レポート [50%]・(○) 出席 [20%] (○) その他 (報告の内容、討論への取り組みなど) [30%]																				
◇ 教科書・参考書	『岩波講座 日本歴史 (第17巻、近現代3)』(岩波書店、2014年)を主なテキストとする。該当する論文などについては、適宜、指示する。																				
◇ 授業時間外学習	『岩波講座 日本歴史 (第17巻、近現代3)』や指定された研究論文を、事前に読んでおく。																				
その他：オフィスアワー：水曜日16：20～17：50																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 近 世 ・ 近 代 史 特 論 Ⅲ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Lecture) Ⅲ	2	教授 安 達 宏 昭	2 学 期	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS615J				
◆ 授業題目	日本近現代史研究の現状と課題(4)				
◆ 目的・概要	日本近現代史研究における現時点での到達点を理解するために、2015年に刊行された『岩波講座 日本歴史 (第18巻、近現代4)』におさめられている各論文を読んでいく。その後、この時代に関連する論文も読み進める。進め方は、受講者が順番にレポーターとなって、担当する論文の要旨や内容の特徴を発表し、その上で受講者全員によって討論する方式で行う。それにより、相互に認識を深める。				
◆ 到達目標	(1)日本近現代史に関する最近の研究を読解し、内容を理解できるようになる。 (2)研究の内容要旨を発表し、討論することができるようになる。 (3)最近の研究成果を通して、近現代史研究の現状と課題について、理解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 日本近現代史研究の特徴 2. 日本近現代史研究の方法 3. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(1) 4. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(2) 5. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(3) 6. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(4) 7. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(5) 8. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(6) 9. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(7) 10. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(8) 11. 『岩波講座 日本歴史』についての報告と討論(9) 12. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(1) 13. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(2) 14. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(3) 15. 日本近現代史に関する研究論文についての報告(4)				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [50%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他 (報告の内容、討論への取り組みなど) [30%]				
◇ 教科書・参考書	『岩波講座 日本歴史 (第18巻、近現代4)』(岩波書店、2015年)を主なテキストとする。該当する論文などについては、適宜、指示する。				
◇ 授業時間外学習	『岩波講座 日本歴史 (第18巻、近現代4)』や指定された研究論文を、事前に読んでおく。				
その他：オフィスアワー：水曜日16：20～17：50					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 近 世 ・ 近 代 史 特 論 Ⅲ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Lecture) Ⅲ	2	兼務教員 佐 藤 大 介	集 中 (1)		
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS615J				
◆ 授業題目	歴史資料保全の実践 (その1)				
◆ 目的・概要	いま、人文社会学研究への「社会的要請」とは何か、ということが議論されています。日本史を学ぶ者にとっては、「先祖や地元の歴史を知りたい・伝えたい」という思いに応えることが、その一つといえるかもしれません。この講義では、地域社会に今なお膨大に残されている歴史資料を守り、伝えるための課題や、そのための実践、座学、議論、および実際の地域での活動を通じて学んでいきます。				
◆ 到達目標	・ 過去の歴史資料保存をめぐる経緯を踏まえながら、地域社会に残された歴史資料を継承するための課題を学びます。 ・ 講義を通じて、「社会にとっての歴史研究者の存在意義とは何か」ということを自ら考える力を付けます。				
◆ 授業内容・方法	1. 「歴史資料保全活動」の経緯①—終戦直後～1960年代 2. 「歴史資料保全活動」の経緯②—970年代～1990年代 3. 「歴史資料保全活動」の経緯③—1990年代～現在 4. 「郷土史家」への道のり①—研究者の場合 5. 「郷土史家」への道のり②—市民の場合 6. 「郷土史家」への道のり③—討論 7. 地域の歴史資料を守る①—文書資料の応急処置・洗浄 8. 地域の歴史資料を守る②—文書資料の応急処置・乾燥 9. 地域の歴史資料を守る③—文書資料の応急処置・修復 10. 地域の歴史資料を守る④—保管環境を整える 11. 地域の歴史資料を守る⑤—所蔵者のお話をうかがう 12. 地域の歴史資料を守る⑥—所蔵者に質問する 13. 地域の歴史資料を守る⑦—史料の整理 14. 地域の歴史資料を守る⑧—デジタルカメラでの撮影・管理 15. 地域の歴史資料を守る⑨—まとめ				
◇ 成績評価の方法	・ 平常点 (出席、討論への参加) (40%) ・ レポート (60%)				
◇ 教科書・参考書	・ 奥村弘『大震災と歴史資料保存』(吉川弘文館 2011年) ・ 平川新・佐藤大介編『歴史遺産を未来へ』(東北大学東北アジア研究センター報告 2012年) ・ 奥村弘編『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』(東京大学出版会 2014年) ほか、講義中指示する。				
◇ 授業時間外学習	上記の参考文献、およびそれらに引用されている関連文献に、可能な範囲で目を通しておくこと。				
・ 10コマ目以降は、大学を離れた地域での講義となる。全日程参加出来るよう予定を調整しておくこと。 その他：・ 日本近世・近代史特論Ⅲ 後期「歴史資料保全の実践 (その2)」と連続履修することが望ましい。 ・ 実技や現地調査を行う関係で、受講者人数を制限する (最大15名程度)。多数の場合は日本史専修の学生を優先する。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 近 世 ・ 近 代 史 特 論 Ⅲ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Lecture) Ⅲ	2	兼務教員 佐藤 大 介	2 学期	水	1
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHIHIS615J 歴史資料保全の実践（その2） 活字、くすし字を問わず、日本史研究で必須の「古文書を読み解く力」は、それらに親しみのない市民が、過去の歴史を自ら学ぼうとする時、専門家に求められる能力です。地域の歴史に対する関心が高まる今、その能力を生かして市民と積極的に交流する事が求められています。この講義では、江戸時代の仙台藩に残された古文書を用いて、歴史を復元するための解説方法を学ぶとともに、知り得た内容をわかりやすく紹介するための方法を学びます。				
◆ 到達目標	・ 古文書の内容から、歴史を復元できるような情報を読み解く力を身につけます。 ・ さらに、その内容をどのようにしてわかりやすく伝えるかについても学びます。 ・ 成果を実地に発表し、その反応を知る事で、歴史研究を学ぶ者が求められている課題を知ります。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに一市民と歴史像を共有する意義 2. 古文書を読んでみる①—証文 3. 古文書を読んでみる②—願書 4. 古文書を読んでみる③—記録 5. 古文書を読んでみる④—手紙 6. 歴史像を復元する①—基礎的な内容 7. 歴史像を復元する②—ものの流れ 8. 歴史像を復元する③—人物像 9. 歴史像を復元する④—地域像 10. 歴史像を伝える①—基礎的な情報の提示 11. 歴史像を伝える②—文章表現 12. 歴史像を伝える③—関連資料の調査 13. 歴史像を伝える④—編集 14. 歴史像を伝える⑤—展示・公開の方法 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	・ 分担か所の発表及び解説資料の内容（50%）・レポート（50%）講義中に指示します。				
◇ 教科書・参考書	歴史像を明らかにするには、多数の文献に当たる必要もあります。シラバスでそのすべてを紹介することはできませんので、講義中に指示します。				
◇ 授業時間外学習	・ この講義は、受講者による発表が基本となります。各回の予習は必須となります。あらかじめ担当か所を割り当てますので、発表前日に慌てて準備を始め「徹夜」になることのないよう、一日30分～1時間程度、ないし週2時間程度の学習時間を、日課として取り入れていただくことをお勧めします。				
<p>・ 日本近世・近代史特論Ⅲ 前期「歴史資料保全の実践（その1）」との連続履修が望ましいです。 その他：古文書解読の能力が必要です。古文書学など、日本史専修で開講される関連講義などで十分に学習しておいてください。 ・ 少人数講義とします。希望者多数の場合は、日本史専修の学生を優先します。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
日 本 近 世 ・ 近 代 史 特 論 Ⅲ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Lecture) Ⅲ	2	助教 松崎 瑠 美	1 学期	火	4
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHIHIS615E Understanding Japanese History The purpose of this course is for students to learn basic knowledge of Japanese history and how to express Japanese history in English. This course introduces the general history of Japan from primitive times to modern times including the history of women, gender, family, minorities, and disasters. Students will examine the backgrounds and characteristics of each period and society in Japan and understand the similarities and differences between Japanese and other countries' histories through classroom discussion. This course is conducted in English. The instructor will translate into Japanese based on students' understanding of the English language.				
◆ 到達目標	(1) To become familiar with the general history of Japan (2) To learn how to express Japanese history in English (3) To understand the characteristics of each period and society in Japan, and the similarities and differences between Japanese and other countries' histories				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Course orientation: Overview of the course. What is history? Why do we study history? 2. The general history of Japan: Primitive times and Ancient times 1 3. The general history of Japan: Primitive times and Ancient times 2 4. The general history of Japan: Primitive times and Ancient times 3 5. The general history of Japan: Medieval times 1 6. The general history of Japan: Medieval times 2 7. The general history of Japan: Medieval times 3 8. The general history of Japan: Early modern times 1 9. The general history of Japan: Early modern times 2 10. The general history of Japan: Early modern times 3 11. The general history of Japan: Modern times 1 12. The general history of Japan: Modern times 2 13. The general history of Japan: Modern times 3 14. The general history of Japan: The postwar period 15. Final exam 				
◇ 成績評価の方法	Attendance and participation 20%, Final exam 80%				
◇ 教科書・参考書	No textbook required. Reference books will be introduced in class. Handouts will be distributed in class.				
◇ 授業時間外学習	Review the contents of each lecture by reading handouts and reference books every week.				
<p>その他：Office hour: by appointment、グローバル安全学トップリーダー育成プログラムからの提供科目、IPLA科目を兼ねる。 学部生の先行履修を認める。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
日 本 近 世 ・ 近 代 史 特 論 Ⅲ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Lecture) Ⅲ	2	助教 松 崎 瑠 美	2 学 期	火	3																		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHIHIS615E History of Disaster The purpose of this course is for students to learn basic knowledge of the history of disasters in Japan and how to express this knowledge in English. This course introduces the history of disasters from ancient times to modern times including disaster damage, disaster recovery, and disaster prevention by focusing on the social aspects. Students will examine the backgrounds and characteristics of each period and society and understand the relationship with today's issues on disasters through classroom discussion. This course is conducted in English. The instructor will translate into Japanese based on students' understanding of the English language.																						
◆ 到達目標	(1) To become familiar with the history of disasters in Japan (2) To learn how to express the history of disasters in English (3) To understand the relationship with today's issues regarding disasters																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Course orientation: Overview of the course. What is history? Why do we study history of disasters?</td> <td>9. Disaster history of Japan: Early modern times 2 (details)</td> </tr> <tr> <td>2. Disaster history of Japan: Ancient times 1 (background and outline)</td> <td>10. Disaster history of Japan: Early modern times 3 (details)</td> </tr> <tr> <td>3. Disaster history of Japan: Ancient times 2 (details)</td> <td>11. Disaster history of Japan: Early modern times 4 (details)</td> </tr> <tr> <td>4. Disaster history of Japan: Ancient times 3 (details)</td> <td>12. Disaster history of Japan: Modern times 1 (background and outline, and details)</td> </tr> <tr> <td>5. Disaster history of Japan: Medieval times 1 (background and outline)</td> <td>13. Disaster history of Japan: Modern times 2 and the present (details)</td> </tr> <tr> <td>6. Disaster history of Japan: Medieval times 2 (details)</td> <td>Volunteer activities of preserving historical documents</td> </tr> <tr> <td>7. Disaster history of Japan: Medieval times 3 (details)</td> <td>14. Nuclear disasters: Modern times and the present</td> </tr> <tr> <td>8. Disaster history of Japan: Early modern times 1 (background and outline)</td> <td>Classroom discussion</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. Final exam</td> </tr> </table>					1. Course orientation: Overview of the course. What is history? Why do we study history of disasters?	9. Disaster history of Japan: Early modern times 2 (details)	2. Disaster history of Japan: Ancient times 1 (background and outline)	10. Disaster history of Japan: Early modern times 3 (details)	3. Disaster history of Japan: Ancient times 2 (details)	11. Disaster history of Japan: Early modern times 4 (details)	4. Disaster history of Japan: Ancient times 3 (details)	12. Disaster history of Japan: Modern times 1 (background and outline, and details)	5. Disaster history of Japan: Medieval times 1 (background and outline)	13. Disaster history of Japan: Modern times 2 and the present (details)	6. Disaster history of Japan: Medieval times 2 (details)	Volunteer activities of preserving historical documents	7. Disaster history of Japan: Medieval times 3 (details)	14. Nuclear disasters: Modern times and the present	8. Disaster history of Japan: Early modern times 1 (background and outline)	Classroom discussion		15. Final exam
1. Course orientation: Overview of the course. What is history? Why do we study history of disasters?	9. Disaster history of Japan: Early modern times 2 (details)																						
2. Disaster history of Japan: Ancient times 1 (background and outline)	10. Disaster history of Japan: Early modern times 3 (details)																						
3. Disaster history of Japan: Ancient times 2 (details)	11. Disaster history of Japan: Early modern times 4 (details)																						
4. Disaster history of Japan: Ancient times 3 (details)	12. Disaster history of Japan: Modern times 1 (background and outline, and details)																						
5. Disaster history of Japan: Medieval times 1 (background and outline)	13. Disaster history of Japan: Modern times 2 and the present (details)																						
6. Disaster history of Japan: Medieval times 2 (details)	Volunteer activities of preserving historical documents																						
7. Disaster history of Japan: Medieval times 3 (details)	14. Nuclear disasters: Modern times and the present																						
8. Disaster history of Japan: Early modern times 1 (background and outline)	Classroom discussion																						
	15. Final exam																						
◇ 成績評価の方法	Attendance and participation 20%, Final exam 80%																						
◇ 教科書・参考書	No textbook required. Reference books will be introduced in class. Handouts will be distributed in class.																						
◇ 授業時間外学習	Review the contents of each lecture by reading handouts and reference books every week.																						
その他：Office hour: by appointment、グローバル安全学トップリーダー育成プログラムからの提供科目。																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 近 世 ・ 近 代 史 研 究 演 習 Ⅰ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Seminar) Ⅰ	2	准教授 籠 橋 俊 光	1 学 期	火	4																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHIHIS616J 近世史料研究(1) 本講義では、近世史料の正確な読解能力を養成する。素材には、伊達騒動に関する記録である「桃遠境論集」を用いる。御家騒動の代表例として名高い伊達騒動に関する史料を読み進めながら、事件そのものはもちろんであるが、近世前期の武家社会、藩主と重臣の関係、藩内政治の実像、武家文書の特徴、仙台藩士の存在形態、村と境界の問題などを考えていく。原文書のコピーを使用するため、相当の古文書読解能力を必要とする。																				
◆ 到達目標	(1)近世史料の基礎的な読解能力を身につける。 (2)自ら問題・関心を発見し、深めるきっかけをつかむ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 史料読解の報告と討論(6)</td> </tr> <tr> <td>2. 伊達騒動について(1)</td> <td>10. 史料読解の報告と討論(7)</td> </tr> <tr> <td>3. 伊達騒動について(2)</td> <td>11. 史料読解の報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>4. 史料読解の報告と討論(1)</td> <td>12. 史料読解の報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>5. 史料読解の報告と討論(2)</td> <td>13. 史料読解の報告と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>6. 史料読解の報告と討論(3)</td> <td>14. 史料読解の報告と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>7. 史料読解の報告と討論(4)</td> <td>15. 史料読解の報告と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>8. 史料読解の報告と討論(5)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 史料読解の報告と討論(6)	2. 伊達騒動について(1)	10. 史料読解の報告と討論(7)	3. 伊達騒動について(2)	11. 史料読解の報告と討論(8)	4. 史料読解の報告と討論(1)	12. 史料読解の報告と討論(8)	5. 史料読解の報告と討論(2)	13. 史料読解の報告と討論(10)	6. 史料読解の報告と討論(3)	14. 史料読解の報告と討論(11)	7. 史料読解の報告と討論(4)	15. 史料読解の報告と討論(12)	8. 史料読解の報告と討論(5)	
1. ガイダンス	9. 史料読解の報告と討論(6)																				
2. 伊達騒動について(1)	10. 史料読解の報告と討論(7)																				
3. 伊達騒動について(2)	11. 史料読解の報告と討論(8)																				
4. 史料読解の報告と討論(1)	12. 史料読解の報告と討論(8)																				
5. 史料読解の報告と討論(2)	13. 史料読解の報告と討論(10)																				
6. 史料読解の報告と討論(3)	14. 史料読解の報告と討論(11)																				
7. 史料読解の報告と討論(4)	15. 史料読解の報告と討論(12)																				
8. 史料読解の報告と討論(5)																					
◇ 成績評価の方法	出席 [20%]・レポート [40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	「桃遠境論集」(コピー配布) 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』(吉川弘文館)、『仙台市史』通史編4近世2(仙台市)、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』(吉川弘文館)																				
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。																				
その他：受講に際しては、学部生へのアドバイザーとしての役割も期待する。必ず「近世史料研究(2)」と連続で受講すること。 オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50(要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日本近世・近代史研究演習Ⅱ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授 籠橋俊光	2学期	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS617J																				
◆ 授業題目	近世史料研究(2)																				
◆ 目的・概要	「近世史料研究(1)」の続講。近世史料の正確な読解や基礎的な知識を身につけ、その上で自ら論点を探り、深めていく。受講者には、講義への主体的な参加を求める。なお、必ず「近世史料研究(1)」と連続で受講すること。																				
◆ 到達目標	(1)近世史料の基礎的な読解能力を身につける。 (2)自ら問題・関心を発見し、深めるきっかけをつかむ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 史料読解の報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 史料読解の報告と討論(1)</td> <td>10. 史料読解の報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 史料読解の報告と討論(2)</td> <td>11. 史料読解の報告と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 史料読解の報告と討論(3)</td> <td>12. 史料読解の報告と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 史料読解の報告と討論(4)</td> <td>13. 史料読解の報告と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 史料読解の報告と討論(5)</td> <td>14. 史料読解の報告と討論(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 史料読解の報告と討論(6)</td> <td>15. 史料読解の報告と討論(14)</td> </tr> <tr> <td>8. 史料読解の報告と討論(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 史料読解の報告と討論(8)	2. 史料読解の報告と討論(1)	10. 史料読解の報告と討論(9)	3. 史料読解の報告と討論(2)	11. 史料読解の報告と討論(10)	4. 史料読解の報告と討論(3)	12. 史料読解の報告と討論(11)	5. 史料読解の報告と討論(4)	13. 史料読解の報告と討論(12)	6. 史料読解の報告と討論(5)	14. 史料読解の報告と討論(13)	7. 史料読解の報告と討論(6)	15. 史料読解の報告と討論(14)	8. 史料読解の報告と討論(7)	
1. ガイダンス	9. 史料読解の報告と討論(8)																				
2. 史料読解の報告と討論(1)	10. 史料読解の報告と討論(9)																				
3. 史料読解の報告と討論(2)	11. 史料読解の報告と討論(10)																				
4. 史料読解の報告と討論(3)	12. 史料読解の報告と討論(11)																				
5. 史料読解の報告と討論(4)	13. 史料読解の報告と討論(12)																				
6. 史料読解の報告と討論(5)	14. 史料読解の報告と討論(13)																				
7. 史料読解の報告と討論(6)	15. 史料読解の報告と討論(14)																				
8. 史料読解の報告と討論(7)																					
◇ 成績評価の方法	出席 [20%]・レポート [40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	「桃遠境論集」(コピー配布) 参考書:大槻文彦『伊達騒動実録』(吉川弘文館)、『仙台市史』通史編4近世2(仙台市)、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』(吉川弘文館)																				
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。																				
その他: 受講に際しては、学部生へのアドバイザーとしての役割も期待する。必ず「近世史料研究(1)」と連続で受講すること。 オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50(要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日本近世・近代史研究演習Ⅲ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Seminar) Ⅲ	2	准教授 籠橋俊光	1学期	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS618J																				
◆ 授業題目	近世史研究法(1)																				
◆ 目的・概要	受講者各自が、日本近世史に関して自らの研究テーマに基づいて研究報告をし、それを参加者全員で討議する。研究の実践の場として、受講者自身の論文執筆に資することはもちろんであるが、報告・司会の方法に習熟し、加えて他の受講者の意見や報告を通じて新たな知見を得ることもねらいとする。必ず「近世史研究法(2)」と連続で受講すること。																				
◆ 到達目標	(1)日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。 (2)報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 受講者による報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者による報告と討論(1)</td> <td>10. 受講者による報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者による報告と討論(2)</td> <td>11. 受講者による報告と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者による報告と討論(3)</td> <td>12. 受講者による報告と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者による報告と討論(4)</td> <td>13. 受講者による報告と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者による報告と討論(5)</td> <td>14. 受講者による報告と討論(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者による報告と討論(6)</td> <td>15. 受講者による報告と討論(14)</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者による報告と討論(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論(8)	2. 受講者による報告と討論(1)	10. 受講者による報告と討論(9)	3. 受講者による報告と討論(2)	11. 受講者による報告と討論(10)	4. 受講者による報告と討論(3)	12. 受講者による報告と討論(11)	5. 受講者による報告と討論(4)	13. 受講者による報告と討論(12)	6. 受講者による報告と討論(5)	14. 受講者による報告と討論(13)	7. 受講者による報告と討論(6)	15. 受講者による報告と討論(14)	8. 受講者による報告と討論(7)	
1. ガイダンス	9. 受講者による報告と討論(8)																				
2. 受講者による報告と討論(1)	10. 受講者による報告と討論(9)																				
3. 受講者による報告と討論(2)	11. 受講者による報告と討論(10)																				
4. 受講者による報告と討論(3)	12. 受講者による報告と討論(11)																				
5. 受講者による報告と討論(4)	13. 受講者による報告と討論(12)																				
6. 受講者による報告と討論(5)	14. 受講者による報告と討論(13)																				
7. 受講者による報告と討論(6)	15. 受講者による報告と討論(14)																				
8. 受講者による報告と討論(7)																					
◇ 成績評価の方法	出席 [20%]・レポート [40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	特になし。																				
◇ 授業時間外学習	特になし。																				
その他: 必ず「近世史研究法(2)」と連続で受講すること。 オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50(要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日本近世・近代史研究演習Ⅳ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Seminar) Ⅳ	2	准教授 籠橋俊光	2学期	水	5																
◆ 科目ナンバリング	LHHIS619J																				
◆ 授業題目	近世史研究法(2)																				
◆ 目的・概要	「近世史研究法Ⅰ」の続講。受講者は、自らの報告内容に講義中での議論を踏まえ、論文の執筆を目指していく。受講者には、主体的・積極的な議論への参加を求める。必ず「近世史研究法(1)」と連続で受講すること。																				
◆ 到達目標	(1)日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。 (2)報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width:50%;">9. 受講者による報告・討論(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者による報告・討論(1)</td> <td>10. 受講者による報告・討論(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者による報告・討論(2)</td> <td>11. 受講者による報告・討論(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者による報告・討論(3)</td> <td>12. 受講者による報告・討論(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者による報告・討論(4)</td> <td>13. 受講者による報告・討論(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者による報告・討論(5)</td> <td>14. 受講者による報告・討論(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者による報告・討論(6)</td> <td>15. 受講者による報告・討論(14)</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者による報告・討論(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 受講者による報告・討論(8)	2. 受講者による報告・討論(1)	10. 受講者による報告・討論(9)	3. 受講者による報告・討論(2)	11. 受講者による報告・討論(10)	4. 受講者による報告・討論(3)	12. 受講者による報告・討論(11)	5. 受講者による報告・討論(4)	13. 受講者による報告・討論(12)	6. 受講者による報告・討論(5)	14. 受講者による報告・討論(13)	7. 受講者による報告・討論(6)	15. 受講者による報告・討論(14)	8. 受講者による報告・討論(7)	
1. ガイダンス	9. 受講者による報告・討論(8)																				
2. 受講者による報告・討論(1)	10. 受講者による報告・討論(9)																				
3. 受講者による報告・討論(2)	11. 受講者による報告・討論(10)																				
4. 受講者による報告・討論(3)	12. 受講者による報告・討論(11)																				
5. 受講者による報告・討論(4)	13. 受講者による報告・討論(12)																				
6. 受講者による報告・討論(5)	14. 受講者による報告・討論(13)																				
7. 受講者による報告・討論(6)	15. 受講者による報告・討論(14)																				
8. 受講者による報告・討論(7)																					
◇ 成績評価の方法	出席 [20%]・レポート [40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	特になし。																				
◇ 授業時間外学習	特になし。																				
その他：必ず「近世史研究法(1)」と連続で受講すること。 オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日本近世・近代史研究演習Ⅴ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Seminar) Ⅴ	2	教授 安達宏昭	1学期	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHHIS620J																				
◆ 授業題目	近現代政治・社会史の研究(1)																				
◆ 目的・概要	2014年に編修が完了し、2015年3月から公刊されている『昭和天皇実録』などを読解し、関連する史料と照合して、近現代日本の政治・社会について考察する。演習形式で行い、報告者に対する質問や討論により、受講者の各自の認識を深める。																				
◆ 到達目標	(1)史料を幅広い視点から分析できるようになる。 (2)史料分析を通して、時代状況を理解できるようになる。 (3)上記2つを通して日本近現代史に対する認識を深めることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. ガイダンス・『昭和天皇実録』の概要</td> <td style="width:50%;">9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(7)</td> </tr> <tr> <td>2. 昭和天皇に関する研究書の把握・検討</td> <td>10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(1)</td> <td>11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(2)</td> <td>12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(3)</td> <td>13. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(4)</td> <td>14. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(5)</td> <td>15. これまでの報告と討論のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス・『昭和天皇実録』の概要	9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(7)	2. 昭和天皇に関する研究書の把握・検討	10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(8)	3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(1)	11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(9)	4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(2)	12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(10)	5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(3)	13. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(11)	6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(4)	14. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(12)	7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(5)	15. これまでの報告と討論のまとめ	8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(6)	
1. ガイダンス・『昭和天皇実録』の概要	9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(7)																				
2. 昭和天皇に関する研究書の把握・検討	10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(8)																				
3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(1)	11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(9)																				
4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(2)	12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(10)																				
5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(3)	13. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(11)																				
6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(4)	14. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(12)																				
7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(5)	15. これまでの報告と討論のまとめ																				
8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(6)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) レポート [40%]・(○) 出席 [20%] (○) その他(発表態度、受講態度) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	『昭和天皇実録 第三』・『昭和天皇実録 第四』(東京書籍、2015年9月)																				
◇ 授業時間外学習	『昭和天皇実録』について、毎週、翌週の報告者が担当する箇所の記述を読んできて、その叙述に対する疑問点・問題点を、報告者に質問できるようにする。																				
その他：履修要件：「近現代政治・社会史の研究(1)(2)」(安達担当)は、連続して履修すること。 オフィスアワー：水曜日16:20~17:50、要予約																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日本近世・近代史研究演習Ⅵ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Seminar) Ⅵ	2	教授 安達宏昭	2学期	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS621J																				
◆ 授業題目	近現代政治・社会史の研究(2)																				
◆ 目的・概要	「近現代政治・社会史の研究(1)」の続講。第1学期の『昭和天皇実録』の読解を継続するとともに、受講者が自らのテーマを選定して報告する機会も設ける。																				
◆ 到達目標	(1)史料を幅広い視点から分析できるようになる。 (2)史料分析を通して、時代状況を理解できるようになる。 (3)上記2つを通して日本近現代史に対する認識を深めることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(1)</td> <td>9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>2. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(2)</td> <td>10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(3)</td> <td>11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(4)</td> <td>12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(5)</td> <td>13. 受講者自身の研究報告と討論(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(6)</td> <td>14. 受講者自身の研究報告と討論(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(7)</td> <td>15. これまでの報告と討論のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(8)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(1)	9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(9)	2. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(2)	10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(10)	3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(3)	11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(11)	4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(4)	12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(12)	5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(5)	13. 受講者自身の研究報告と討論(1)	6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(6)	14. 受講者自身の研究報告と討論(2)	7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(7)	15. これまでの報告と討論のまとめ	8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(8)	
1. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(1)	9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(9)																				
2. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(2)	10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(10)																				
3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(3)	11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(11)																				
4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(4)	12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(12)																				
5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(5)	13. 受講者自身の研究報告と討論(1)																				
6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(6)	14. 受講者自身の研究報告と討論(2)																				
7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(7)	15. これまでの報告と討論のまとめ																				
8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論(8)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	『昭和天皇実録 第四』(東京書籍、2015年9月)・『昭和天皇実録 第五』、『昭和天皇実録 第六』(東京書籍、2016年3月)																				
◇ 授業時間外学習	『昭和天皇実録』について、毎週、翌週の報告者が担当する箇所の記述を読んできて、その叙述に対する疑問点・問題点を、報告者に質問できるようにする。また、受講者の研究報告の場合には、その報告に関連する研究を読んできて、質問できるようにする。																				
その他：履修要件：「近現代政治・社会史の研究(1)(2)」(安達担当)は、連続して履修すること。 オフィスアワー：水曜日16：20～17：50、要予約																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日本近世・近代史研究演習Ⅶ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Seminar) Ⅶ	2	教授 安達宏昭	1学期	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS622J																				
◆ 授業題目	近現代史研究法(1)																				
◆ 目的・概要	近現代史における基礎的な研究テーマについて受講者相互に認識を深めるとともに、各自が研究テーマを設定して、その問題関心、視角、実証分析について発表する。それに対する討論を通して、発表者の研究方法について課題を明確にする。																				
◆ 到達目標	(1)先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。 (2)自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。 (3)上記の2つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義</td> <td>9. 受講者の研究報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者の研究報告と討論(1)</td> <td>10. 受講者の研究報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者の研究報告と討論(2)</td> <td>11. 受講者の研究報告と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者の研究報告と討論(3)</td> <td>12. 受講者の研究報告と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者の研究報告と討論(4)</td> <td>13. 受講者の研究報告と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者の研究報告と討論(5)</td> <td>14. 受講者の研究報告と討論(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者の研究報告と討論(6)</td> <td>15. 受講者の研究報告と討論(14)</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者の研究報告と討論(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義	9. 受講者の研究報告と討論(8)	2. 受講者の研究報告と討論(1)	10. 受講者の研究報告と討論(9)	3. 受講者の研究報告と討論(2)	11. 受講者の研究報告と討論(10)	4. 受講者の研究報告と討論(3)	12. 受講者の研究報告と討論(11)	5. 受講者の研究報告と討論(4)	13. 受講者の研究報告と討論(12)	6. 受講者の研究報告と討論(5)	14. 受講者の研究報告と討論(13)	7. 受講者の研究報告と討論(6)	15. 受講者の研究報告と討論(14)	8. 受講者の研究報告と討論(7)	
1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義	9. 受講者の研究報告と討論(8)																				
2. 受講者の研究報告と討論(1)	10. 受講者の研究報告と討論(9)																				
3. 受講者の研究報告と討論(2)	11. 受講者の研究報告と討論(10)																				
4. 受講者の研究報告と討論(3)	12. 受講者の研究報告と討論(11)																				
5. 受講者の研究報告と討論(4)	13. 受講者の研究報告と討論(12)																				
6. 受講者の研究報告と討論(5)	14. 受講者の研究報告と討論(13)																				
7. 受講者の研究報告と討論(6)	15. 受講者の研究報告と討論(14)																				
8. 受講者の研究報告と討論(7)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	特になし。																				
◇ 授業時間外学習	報告者の研究テーマに関する史実などを、事前に学習しておく。																				
その他：履修要件：「近現代史研究法(1)(2)」(安達担当)は、連続して履修すること。 オフィスアワー：水曜日16：20～17：50、要予約																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日本近世・近代史研究演習Ⅷ Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Seminar) Ⅷ	2	教授 安達宏昭	2学期	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS623J																				
◆ 授業題目	近現代史研究法(2)																				
◆ 目的・概要	「近現代史研究法(1)」の続講。1学期の研究発表をふまえて、さらに研究を進めて、その成果を報告する。そして、討論を通して課題を絞り、論文などにまとめていく。																				
◆ 到達目標	(1)先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。 (2)自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。 (3)上記の2つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス・研究の進捗と論文化の報告</td> <td>9. 受講者の研究報告と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 受講者の研究報告と討論(1)</td> <td>10. 受講者の研究報告と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 受講者の研究報告と討論(2)</td> <td>11. 受講者の研究報告と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 受講者の研究報告と討論(3)</td> <td>12. 受講者の研究報告と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 受講者の研究報告と討論(4)</td> <td>13. 受講者の研究報告と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 受講者の研究報告と討論(5)</td> <td>14. 受講者の研究報告と討論(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 受講者の研究報告と討論(6)</td> <td>15. 受講者の研究報告と討論(14)</td> </tr> <tr> <td>8. 受講者の研究報告と討論(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス・研究の進捗と論文化の報告	9. 受講者の研究報告と討論(8)	2. 受講者の研究報告と討論(1)	10. 受講者の研究報告と討論(9)	3. 受講者の研究報告と討論(2)	11. 受講者の研究報告と討論(10)	4. 受講者の研究報告と討論(3)	12. 受講者の研究報告と討論(11)	5. 受講者の研究報告と討論(4)	13. 受講者の研究報告と討論(12)	6. 受講者の研究報告と討論(5)	14. 受講者の研究報告と討論(13)	7. 受講者の研究報告と討論(6)	15. 受講者の研究報告と討論(14)	8. 受講者の研究報告と討論(7)	
1. ガイダンス・研究の進捗と論文化の報告	9. 受講者の研究報告と討論(8)																				
2. 受講者の研究報告と討論(1)	10. 受講者の研究報告と討論(9)																				
3. 受講者の研究報告と討論(2)	11. 受講者の研究報告と討論(10)																				
4. 受講者の研究報告と討論(3)	12. 受講者の研究報告と討論(11)																				
5. 受講者の研究報告と討論(4)	13. 受講者の研究報告と討論(12)																				
6. 受講者の研究報告と討論(5)	14. 受講者の研究報告と討論(13)																				
7. 受講者の研究報告と討論(6)	15. 受講者の研究報告と討論(14)																				
8. 受講者の研究報告と討論(7)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	特になし。																				
◇ 授業時間外学習	報告者の研究テーマに関する史実などを、事前に学習しておく。																				
その他：履修要件：「近現代史研究法(1)(2)」(安達担当)は、連続して履修すること。 オフィスアワー：水曜日16：20～17：50、要予約																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
史料学 A r c h i v a l S c i e n c e I	2	教授 柳原敏昭	1学期	火	1																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS624J																				
◆ 授業題目	中世古文書読解																				
◆ 目的・概要	古文書とは、差出人と受取人とが明示されている歴史的な文書をいう。身近な例で言えば、手紙、合格通知、入学許可書、授業料納入通知書、授業料領収書、学位記等が一定の年月を経れば古文書となる(日記や編纂物、文学作品等は古文書には含まれない)。古文書は、歴史研究にとって最も大切な史料である。本講では、中世の武家文書を主な素材として、用字・用語に習熟するとともに、様式の展開ひいてはその歴史的背景についても学べるようにしたい。																				
◆ 到達目標	日本中世文書の読解力を身につけ、様式についての基本的な知識を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス①</td> <td>9. 室町幕府文書 奉書系文書</td> </tr> <tr> <td>2. ガイダンス②</td> <td>10. 室町幕府文書 命令の到達・施行</td> </tr> <tr> <td>3. 鎌倉幕府文書 下文</td> <td>11. 軍事関係文書</td> </tr> <tr> <td>4. 鎌倉幕府文書 政所下文</td> <td>12. 戦国大名文書①</td> </tr> <tr> <td>5. 鎌倉幕府文書 御教書</td> <td>13. 戦国大名文書②</td> </tr> <tr> <td>6. 鎌倉幕府文書 下知状</td> <td>14. 讓状、起請文など</td> </tr> <tr> <td>7. 室町幕府文書 御判御教書</td> <td>15. 授業のまとめと試験</td> </tr> <tr> <td>8. 室町幕府文書 御内書</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス①	9. 室町幕府文書 奉書系文書	2. ガイダンス②	10. 室町幕府文書 命令の到達・施行	3. 鎌倉幕府文書 下文	11. 軍事関係文書	4. 鎌倉幕府文書 政所下文	12. 戦国大名文書①	5. 鎌倉幕府文書 御教書	13. 戦国大名文書②	6. 鎌倉幕府文書 下知状	14. 讓状、起請文など	7. 室町幕府文書 御判御教書	15. 授業のまとめと試験	8. 室町幕府文書 御内書	
1. ガイダンス①	9. 室町幕府文書 奉書系文書																				
2. ガイダンス②	10. 室町幕府文書 命令の到達・施行																				
3. 鎌倉幕府文書 下文	11. 軍事関係文書																				
4. 鎌倉幕府文書 政所下文	12. 戦国大名文書①																				
5. 鎌倉幕府文書 御教書	13. 戦国大名文書②																				
6. 鎌倉幕府文書 下知状	14. 讓状、起請文など																				
7. 室町幕府文書 御判御教書	15. 授業のまとめと試験																				
8. 室町幕府文書 御内書																					
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [60%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他 (講義中における発表の内容) [20%]																				
◇ 教科書・参考書	随時プリントを配布する。																				
◇ 授業時間外学習	受講者には毎回、古文書(写真版コピー)を筆写する課題が出される。																				
その他：古文・漢文の基礎的読解力を要する。大学院生にはアドバイザー的な役割が求められる。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																	
史 料 学 A r c h i v a l S c i e n c e	Ⅱ Ⅱ	2	准教授	籠 橋 俊 光	2 学 期	水	4															
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS625J																					
◆ 授業題目	近世古文書読解																					
◆ 目的・概要	古文書は歴史学において最も重要な材料であり、その読解は必要不可欠な技術である。なかでも近世史研究においては、実際に膨大な原文書を読み、取り扱う能力が必要とされる。本講義は、近世古文書の特質を理解し、読解能力を培うものであり、さまざまな近世の古文書が磁力で読めるようになることを目的とするため、テキストとして配布する古文書（コピー）について毎回受講者の中から指名し、読みを発表させる。																					
◆ 到達目標	(1)近世古文書に関する基礎的知識を持つ。 (2)近世古文書の読解能力を養う。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス・近世古文書学について</td> <td>9. 武家文書(6) 幕府発給廻状</td> </tr> <tr> <td>2. 近世古文書の特徴と基礎的知識</td> <td>10. 町方・村方文書(1) 定</td> </tr> <tr> <td>3. 文字の読解法とその訓練</td> <td>11. 町方・村方文書(2) 人別帳・検地帳</td> </tr> <tr> <td>4. 武家文書(1) 將軍関係文書・將軍発給文書①</td> <td>12. 町方・村方文書(3) 年貢関係文書</td> </tr> <tr> <td>5. 武家文書(2) 將軍発給文書②</td> <td>13. 町方・村方文書(4) 商業関係文書・訴願関係文書</td> </tr> <tr> <td>6. 武家文書(3) 將軍発給文書③</td> <td>14. 町方・村方文書(5) 家・個人文書</td> </tr> <tr> <td>7. 武家文書(4) 老中発給文書①</td> <td>15. 講義のまとめ・試験</td> </tr> <tr> <td>8. 武家文書(5) 老中発給文書②</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス・近世古文書学について	9. 武家文書(6) 幕府発給廻状	2. 近世古文書の特徴と基礎的知識	10. 町方・村方文書(1) 定	3. 文字の読解法とその訓練	11. 町方・村方文書(2) 人別帳・検地帳	4. 武家文書(1) 將軍関係文書・將軍発給文書①	12. 町方・村方文書(3) 年貢関係文書	5. 武家文書(2) 將軍発給文書②	13. 町方・村方文書(4) 商業関係文書・訴願関係文書	6. 武家文書(3) 將軍発給文書③	14. 町方・村方文書(5) 家・個人文書	7. 武家文書(4) 老中発給文書①	15. 講義のまとめ・試験	8. 武家文書(5) 老中発給文書②	
1. ガイダンス・近世古文書学について	9. 武家文書(6) 幕府発給廻状																					
2. 近世古文書の特徴と基礎的知識	10. 町方・村方文書(1) 定																					
3. 文字の読解法とその訓練	11. 町方・村方文書(2) 人別帳・検地帳																					
4. 武家文書(1) 將軍関係文書・將軍発給文書①	12. 町方・村方文書(3) 年貢関係文書																					
5. 武家文書(2) 將軍発給文書②	13. 町方・村方文書(4) 商業関係文書・訴願関係文書																					
6. 武家文書(3) 將軍発給文書③	14. 町方・村方文書(5) 家・個人文書																					
7. 武家文書(4) 老中発給文書①	15. 講義のまとめ・試験																					
8. 武家文書(5) 老中発給文書②																						
◇ 成績評価の方法	出席 [30%]・筆記試験 [50%]・その他（報告の内容など）[20%]																					
◇ 教科書・参考書	随時プリント配布。受講に際して古文書読解用の辞典類を用意すること。																					
◇ 授業時間外学習	毎回事前の予習を必要とする。																					
その他	受講に際しては、学部生へのアドバイザーとしての役割も期待する。 オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																	
史 料 管 理 学 Scientific Study of Historical Materials	Ⅰ Ⅰ	2	准教授	籠 橋 俊 光	1 学 期	金	4・5															
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS626J																					
◆ 授業題目	史料整理・保存の理論と方法																					
◆ 目的・概要	歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問である。しかし、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。文字・画像の情報だけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料の特質や史料群の構造を理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基礎を学ぶ。さらにそれをもとにして、博物館・図書館などの機能の相違や、実物史料の取り扱い方、史料の撮影や目録編成の理論などについて学んでいく。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れることがあるので、特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。																					
◆ 到達目標	史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス・史料保存の意義と意味(1)</td> <td>9. 目録作成の技術(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 史料保存の意義と意味(2)</td> <td>10. 歴史資料の取り扱いとその実践</td> </tr> <tr> <td>3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-</td> <td>11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際</td> </tr> <tr> <td>4. アーカイブズの理論(1)</td> <td>12. マイクロフィルム・カメラの取り扱い</td> </tr> <tr> <td>5. アーカイブズの理論(2)</td> <td>13. フィールド実習</td> </tr> <tr> <td>6. 史料調査・整理の実際</td> <td>14. 史料整理の基礎(1)</td> </tr> <tr> <td>7. 目録論</td> <td>15. 史料整理の基礎(2)</td> </tr> <tr> <td>8. 目録作成の技術(1)</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス・史料保存の意義と意味(1)	9. 目録作成の技術(2)	2. 史料保存の意義と意味(2)	10. 歴史資料の取り扱いとその実践	3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-	11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際	4. アーカイブズの理論(1)	12. マイクロフィルム・カメラの取り扱い	5. アーカイブズの理論(2)	13. フィールド実習	6. 史料調査・整理の実際	14. 史料整理の基礎(1)	7. 目録論	15. 史料整理の基礎(2)	8. 目録作成の技術(1)	
1. ガイダンス・史料保存の意義と意味(1)	9. 目録作成の技術(2)																					
2. 史料保存の意義と意味(2)	10. 歴史資料の取り扱いとその実践																					
3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-	11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際																					
4. アーカイブズの理論(1)	12. マイクロフィルム・カメラの取り扱い																					
5. アーカイブズの理論(2)	13. フィールド実習																					
6. 史料調査・整理の実際	14. 史料整理の基礎(1)																					
7. 目録論	15. 史料整理の基礎(2)																					
8. 目録作成の技術(1)																						
◇ 成績評価の方法	出席 [30%]・受講態度 [20%]・レポート [50%]																					
◇ 教科書・参考書	随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。																					
◇ 授業時間外学習	特になし。																					
その他	必ず「史料整理実習」と連続して受講すること。 オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
史 料 管 理 学 II Scientific Study of Historical Materials II	2	准教授 籠 橋 俊 光	2 学期	金	4・5																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS627J																				
◆ 授業題目	史料整理実習																				
◆ 目的・概要	実際に史料整理を行う。大規模な文書群を対象として取り上げ、史料の取り扱い、現状の把握、基本データの採録、目録作成、保存に向けての作業など、史料整理に関する基本的な実務を実際に行う。さらに、自ら整理した史料について、その個別の内容の理解だけではなく、文書群のなかにおける位置づけや文書群そのものの構造など、幅広く文書群を把握する方法を学ぶ。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れるので、その際には特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。																				
◆ 到達目標	実際に実物の史料を整理し、「史料整理・保存の理論と方法」において学習した史料整理の理論と方法を体得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 史料整理実習(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 史料整理実習(1)</td> <td>10. 史料整理実習(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 史料整理実習(2)</td> <td>11. 史料整理実習(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 史料整理実習(3)</td> <td>12. 史料整理実習(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 史料整理実習(4)</td> <td>13. 史料整理実習(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 史料整理実習(5)</td> <td>14. 史料整理実習(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 史料整理実習(6)</td> <td>15. 史料整理実習(14)・整理内容報告</td> </tr> <tr> <td>8. 史料整理実習(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 史料整理実習(8)	2. 史料整理実習(1)	10. 史料整理実習(9)	3. 史料整理実習(2)	11. 史料整理実習(10)	4. 史料整理実習(3)	12. 史料整理実習(11)	5. 史料整理実習(4)	13. 史料整理実習(12)	6. 史料整理実習(5)	14. 史料整理実習(13)	7. 史料整理実習(6)	15. 史料整理実習(14)・整理内容報告	8. 史料整理実習(7)	
1. ガイダンス	9. 史料整理実習(8)																				
2. 史料整理実習(1)	10. 史料整理実習(9)																				
3. 史料整理実習(2)	11. 史料整理実習(10)																				
4. 史料整理実習(3)	12. 史料整理実習(11)																				
5. 史料整理実習(4)	13. 史料整理実習(12)																				
6. 史料整理実習(5)	14. 史料整理実習(13)																				
7. 史料整理実習(6)	15. 史料整理実習(14)・整理内容報告																				
8. 史料整理実習(7)																					
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]・受講態度 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	古文書読解用辞典類を持参することが望ましい。																				
◇ 授業時間外学習	特になし。																				
その他：必ず「史料整理・保存の理論と方法」と連続して受講すること。また、受講に際しては、学部生へのアドバイザーとしての役割も期待する。オフィスアワー 火曜日 16：20～17：50（要予約）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
考 古 学 特 論 I Archaeology (Advanced Lecture) I	2	准教授 鹿 又 喜 隆	1 学期	月	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHHIS628J 日本考古学の諸問題 日本考古学は、海外とは異なる独自の発展を遂げています。その特質を研究史を通して学ぶことは重要であり、考古学研究を行なう基礎となります。この日本考古学の特徴を理解した上で、現代考古学の課題や問題点を明らかにし、その解決方法を具体的な事例研究を通して理解していきます。先史時代を主要な対象時期として、自然環境や社会環境の変化と、人類行動の変化の関係を把握し、自然・文化・社会の関わりについて理解を深めます。また、遺物や遺構からかつての人類活動に接近するには幾つかのプロセスを経る必要がありますが、その考古学的方法を理解することは重要です。この点について発掘調査による重要な発見や、研究対象に応じた調査・分析方法の事例を通じて解説します。近年は関連諸分野の方法を導入することで、新たな考古学的方法が開発されています。このような研究動向を理解することが、これから考古学を研究する者にとって重要なことです。				
◆ 到達目標	(1)考古学研究の歴史を理解する。(2)現在の考古学研究の方法を理解する。(3)考古学関連分野の理解を深め、考古学研究の方法を前進させる方法を学ぶ。(4)人類が自然・社会・文化とのかかわりの中で生きてきて、それが現代社会に繋がっていることを理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 考古学特論 I の 1 年間の講義内容をダイジェストで紹介する。講義内容の目次の役割を果たし、講義の全体像を把握できる。 2. 考古学解釈のための理論と方法。範囲論、技術組織、動作連鎖、ミドルレンジセオリー、アフォーダンス、ヒューリスティック・アプローチなど、考古学の基礎的・応用的概念を学ぶ。 3. 災害と人々の営み。考古学では、人類の長い歴史を扱うため、防災の面でも長期的な視点をもつことが可能である。発掘調査事例に基づく災害の歴史を紹介するとともに、なぜ文化財を保存する必要があるかについて考える。 4. 研究倫理。2000年に発覚した前期旧石器時代遺跡控造問題を紹介し、研究倫理について考える。様々な側面から研究方法や成果の発信の方法について現実的に理解する。 5. 比較文化研究。比較文化研究には幾つかの方法がある。隣接地域を同時に比較する場合が多いが、遠く離れた地域間の比較であっても、意義ある研究となる。具体的な比較文化研究を紹介する。 6. 抽象的観念の研究。考古学では実証性が求められるため、抽象的観念の研究が難しい。本講義では、縄文時代の祭祀・彩色・性差などを踏まえて、抽象的観念に関わる研究を紹介する。 7. 自然環境の変化と人々の営み。人々は自然環境との関わりの中で生きてきた歴史がある。本講義では、人と自然の関わりの変化を通時的に概観する。 8. 更新世の環境と人類の適応的行動。更新世の長い時間の中で、人類は様々な技術を開発し、生き延びてきた。具体的な事例をあげて、その関係を紹介する。 9. 石刃技法の諸問題。ホモサピエンスの出現と合せて重視される石刃技法について、国内外の様々な研究事例をもとに紹介すると共に、研究の問題点をあげる。 10. 狩猟活動の変革。狩猟具の変化は、人類の技術革新の代表例である。その研究の現状を国内外の研究を紹介しながら、理解する。 11. 民族考古学研究の基礎と応用。民族考古学的な研究の歴史と問題点を取り上げ、日本の後期旧石器時代の事例をもとに、より積極的な実践事例を紹介する。 12. 更新世から完新世への移行と人類の適応行動。以下の 4 回で完新世適応について学ぶ。ここでは、急激な温暖化があった時代の様相を具体的な事例を通して紹介する。 13. 完新世への移行と生業。縄文時代の前半期を中心に、完新世の環境に応じた人類活動の変化について概観する。 14. 温暖化最盛期のその後。縄文時代の中盤から終末にかけての集落、生業、祭祀の変化を概観する。 15. 農耕集落の形成と展開。日本列島の農耕の開始について、世界史的な視点から評価する。弥生文化と世界の農耕文化を比較する。 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	(○) 筆記試験 [70%]・(○) 出席 [30%] 教科書は使用しない。参考文献を講義中に随時提示する。 講義内で試験課題に対応した設問をおこなうので、時間外に文献などで調べる。				
その他：オフィスアワー：水曜日 16：20～17：00					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
考 古 学 特 論 II Archaeology (Advanced Lecture) II	2	非常勤 講師 工 藤 雄 一 郎	集 中 (1)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHHIS629J 縄文時代の環境文化史研究 近年の先史考古学では、自然科学分析などを取り入れた学際研究の重要性増しつつあります。特に縄文時代の研究においては、気候や植生といった周辺環境を復元するだけでなく、集落を維持することによって形成された人為生態系の規模やその内容を解明するため、様々な自然科学的分析が行われ、成果を上げています。また、こうした背景には、考古学の研究者と自然科学の研究者とが一緒に研究するだけでなく、従来は自然科学の手法であった分析手法を考古学の研究者が自ら実践し、考古学の側が求める分析の成果がより一層蓄積されてきたことが関係しています。				
◆ 到達目標	(1)考古学と自然科学との学際的の意義を理解する。(2)縄文時代の研究において近年飛躍的に研究が進んだ植物利用について、その研究法と成果を理解する。(3)研究の基礎となった方法論について実践的に学び、理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境文化史とは何か。考古学、生態学、生態系史、環境文化史の違いを学ぶ。 2. 日本列島における土器の出現とその意義。日本考古学において土器の出現は旧石器時代と縄文時代を分ける基準となっている。それが研究史のなかでどのように位置づけられてきたのかを紹介する。 3. 土器の出現の年代と古環境。土器出現の考古学的意義は、AMS 法による高精度な放射性炭素年代測定が可能になったことと、氷床コアや鍾乳石などによる極めて高精度な気候変動のデータと年代的に対比が可能となったことによって大きく変わった。その経緯を紹介する。 4. 暦年校正プログラム OxCal の使い方と実践。測定された放射性炭素年代測定は暦年校正を行う必要があるが、そのためのプログラムが一般に公開されている。考古学にとっても重要であり、この使い方を実践的に学ぶ。 5. 土器付着物の炭素・窒素安定同位体分析から分かること。近年では、土器付着炭化物の安定同位体分析から煮炊きの内容物を推測する研究が進展しつつある。この方法について紹介する。 6. 南九州の初期定住と火山災害：縄文時代草創期の南九州は、列島でも特にいち早く縄文時代的な植物利用が見られる地域である一方、その成熟した文化は火山災害によって消滅した。この文化の特徴を紹介する。 7. 縄文時代の植物利用とは？縄文時代全般を通じた植物資源利用の特徴を紹介する。 8. 縄文時代のクリ利用と人為的生態系の成立。縄文時代前期以降の東日本では、クリが食料、建築材、燃料材として多用されている。三内丸山遺跡などの花粉分析の事例から、縄文人のクリ林の管理・栽培の可能性も指摘されており、それらの研究を紹介する。 9. ウルシの植物学と古植物学。ウルシは中国原産の植物で、日本では外来植物であるが、縄文時代にはすでに漆利用が始まっていることから、その起源について近年注目が集まっている。最近の DNA による研究や、木材解剖学の研究によって明らかになったことを紹介する。 10. 縄文時代の漆文化が意味すること。縄文時代前期以降、すでに完成された漆文化が東日本を中心に展開する。漆文化が存在することの文化的・環境史的な意味、縄文漆文化の期的な特徴を紹介する。 11. 縄文時代中期から後晩期の気候変動と人類活動。縄文時代中期社会と後晩期社会はその内容の違いが目立っているが、背景として後晩期の気候寒冷化が指摘されることがあった。現在ではこの気候変動がどのように捉えられているのかを紹介する。 12. クリからトチノキへ・縄文時代前期・中期を特徴づけるクリ利用文化が衰退し、後晩期にはトチノキ利用へシフトすると指摘されることもある。しかしその実態は複雑であり、単純な移行論では説明できないことが木材・花粉・種実の研究によって分かってきており、それを紹介する。 13. 圧痕レプリカ法のイノベーション。土器の凹みをシリコンで型取りする圧痕レプリカ法は、縄文時代の栽培植物利用の研究において革新的な成果を上げた。この圧痕レプリカ法とはどのような方法なのかを、実際に体験しながら学ぶ。 14. 縄文時代のマメ利用：ツルマメとダイズ、ヤブツルアズキとアズキ 15. 東北大学植物園を歩いて縄文時代に利用された植物を探す。これまでの講義を踏まえて、実際に取り上げた植物がどのようなものなのか、植物園で観察しながら学ぶ。 				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	(○) 試験30% 出席70% 教科書は使用しない。参考文献を講義中に随時提示する。 講義内で試験課題に対応した設問をおこなうので、時間外に文献などで調べる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
考古学特論 III Archaeology (Advanced Lecture) III	2	非常勤講師 菅野智則	2学期	木	4
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHHHS630J 先史文化の考古学 本授業では、日本列島の先史時代である所謂「縄文時代」における先史文化（縄文文化）を理解することを目的とします。この縄文文化に関する考古学研究は、これまで土器や石器等の遺物が主要な対象となり、研究が進められてきました。しかし、縄文文化を理解するためには多種多様な側面から研究する必要があります。例えば、動物骨遺存体の研究からは食生活や周囲の環境、堅穴住居跡や墓などの諸施設の研究からは居住形態や社会構造などの縄文文化の一端を明らかにすることができます。そのほかには、考古学に限らず自然環境に関する研究などの他分野の様々な研究も縄文文化を理解する上では重要です。本授業では、このような縄文文化に関する多種多様な研究の歴史とその方法を学び、これまでの研究により構築されてきた縄文文化観を理解することを当初の目的とします。また、縄文文化は、これまで環太平洋の枠組みのもと、北米大陸北西海岸部における先史時代狩猟採集文化との比較研究がなされてきました。本授業でも北米北西海岸部における先史文化に関する研究を解説し、縄文文化の相対的な位置を理解し、比較文化的視点を学ぶことを最終的な目的とします。				
◆ 到達目標	(1)縄文文化に関するこれまでの研究の歴史を理解する。 (2)縄文文化研究における多種多様な視点や研究方法を理解する。 (3)縄文文化にかぎらず広く先史文化一般を理解するための基礎を学ぶ。				
◆ 授業内容・方法	<p>1. 本授業の1年間の講義内容を概観することにより、授業の目的と到達目標について理解する。</p> <p>2. 第2次世界大戦前後における縄文文化研究について解説する。戦前の研究は、皇国史観などの時代的背景が強く影響していた。そのような状況下で考古学者はどのように研究を進めてきたのか、そして戦後どのように変わったのか理解する。</p> <p>3. 戦後から近年までの縄文文化研究について解説する。1980年代から様々な考古学的新発見があり、日本列島における「縄文時代」観が変化してきた。その新発見に基づく研究の内容について紹介し、その成果や問題点等について理解する。</p> <p>4. 最近の縄文文化研究について解説する。最近の研究の視点や方法もより多様化し、新資料の発見というだけではなく、考古学における新たな展開が認められている。この点について、最近の研究事例を紹介し解説する。</p> <p>5. 「縄文時代」という枠組みについて解説する。「縄文時代」という時代設定・概念が果たして適切なのか、これまでの研究の歴史を振り返り、これまでの講義のまとめとして説明する。</p> <p>6. 縄文文化の研究手法。基本的な研究方法に関して解説する。最も基礎的なものには縄文土器の型式学的方法がある。これは「縄文時代」の時期をはかるための物差し（編年）として機能している。このような研究のほか、層位学的方法等の考古学の基礎的な研究方法について概観する。</p> <p>7. 成立期の縄文文化の年代と地域性。東北地方の縄文土器（草創期～前期）に関する研究について解説する。この時期は、縄文文化が成立する時期の土器であり、その内容も多様である。このような時期の土器に関して、編年研究だけではなく、技術的あり方や地域性などについても説明する。</p> <p>8. 展開・転換期の縄文文化の年代と地域性。東北地方の縄文土器（中期～晩期）に関する研究について解説する。この時期は、縄文文化の展開期とも言える時期に当たり、特徴的な土器も誕生している。この時期の土器に関して、その特徴や地域性について説明する。</p> <p>9. 成立期の縄文文化の居住形態。縄文文化（草創期・早期）における生業と居住の形態に関する研究について解説する。この時期は、定住的な縄文集落が形成されるまでの時期である。その中で、居住・生業関連施設や、初めて出現する貝塚、それらに関連する遺物の研究に関して説明する。</p> <p>10. 展開期の縄文文化の居住形態。縄文文化（前期・中期）における生業と居住の形態に関する研究について解説する。この時期は、典型的な縄文集落が形成され、活発に活動がなされる時期である。その中で、居住・生業関連施設や、それらに関連する遺物の研究に関して説明する。</p> <p>11. 転換期の縄文文化の居住形態。縄文文化（後期・晩期）における生業と居住の形態に関する研究について解説する。この時期は、典型的な縄文集落がなくなり、弥生時代に向かって変質する時期である。その中で、居住・生業関連施設や、それらに関連する遺物の研究に関して説明する。</p> <p>12. 縄文文化と北米大陸北西海岸部先史文化との比較に関して説明する。これまでになされてきた両文化の比較研究の歴史を振り返るとともに、北米大陸北西海岸部の先史文化の研究について概説する。</p> <p>13. 縄文文化と北米北西海岸部先史文化における生業活動の差異について、北米北西海岸部における貝塚の調査事例と日本の事例と比較しながら説明する。</p> <p>14. 縄文文化と北米北西海岸部先史文化における生業活動について、北米北西海岸部における低湿地遺跡の調査事例と日本の事例と比較しながら説明する。</p> <p>15. 縄文文化と北米先史文化との比較検討。これまでの講義のまとめとして、両文化の比較を行い、今後の研究の方向性について解説する。</p>				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	(○) レポート・講義内の小テスト [70%]・(○) 出席 [30%] 教科書は使用しない。参考書は講義中に随時提示する。 講義内でレポート内容や小テストの設問に応じた問題を設定するので、時間外に講義内に提示した参考書などで調べる。				
◆ その他	オフィスアワー：水曜日16：15～17：15（片平キャンパス・埋蔵文化財調査室）。事前に tomonori.kanno.d4@tohoku.ac.jp まで問い合わせること。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
資料基礎論特論 Archaeology (Advanced Lecture)	2	教授 阿子島 香	2学期	月	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHHHS637J 先史考古学資料論 先史時代の考古学資料研究の現状と課題について、発掘調査資料の基礎的な特質に応じた実証的な研究方法の理解を深める授業である。西ヨーロッパ（特にフランス南部）、北米（特にアメリカのグレイトプレーンズ地域）、東アジア（特に韓半島、ロシアサハリン）など、世界各地の遺跡を比較文化的視点で考察する。旧石器時代を中心とする事例研究の中から、問題点を選択して詳説する。年代論、機能論、分布論の持つ意義を考察する。また理論的には、人類学の一分野であるアメリカの「プロセス考古学」学派による研究史、遺跡・遺物の分析法を学ぶ。受講者の関心をフィードバックしながら、タイポロジー（型式学）、遺物の使用痕分析、遺物の空間分布、石器製作技術、統計的方法などから取り上げ、具体的な分析方法を解説する。期末レポートにおいては、受講者は日本国内の発掘調査報告書を各自の関心に従って選択し、先史時代遺跡から発掘された資料の事実記録に基づいて、各自がデータの分析を試みる。				
◆ 到達目標	先史時代の遺跡・遺構・遺物の特質を、資料にそくして理解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<p>1. ガイダンス。授業の構成と成績評価基準の説明。「キュレーター養成コース」の授業としての説明。アメリカ考古学の特質(1)。</p> <p>2. アメリカ考古学の特質(2)。「人類学としての考古学」パラダイムと、日本の埋蔵文化財の考古学との比較。</p> <p>3. アメリカ考古学の歴史(1)。1960年代のニューアーケオロジーと、その研究事例、社会的背景。ムスチエ文化論争の意義。</p> <p>4. アメリカ考古学の歴史(2)。1970年代の「プロセス考古学」と、民族考古学の「ミドルレンジセオリー」の本質をめぐって。</p> <p>5. ルイス・ビンフォードの考古学とミドルレンジセオリーの実践(1)。</p> <p>6. ルイス・ビンフォードの考古学とミドルレンジセオリーの実践(2)。</p> <p>7. 各国考古学の研究伝統と学史的特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から(1)。</p> <p>8. 各国考古学の研究伝統と学史的特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から(2)。</p> <p>9. 各国考古学の研究伝統と学史的特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から(3)。</p> <p>10. 課題レポートの解説(1)。対象とする遺跡の選択と調査報告書の特質。埋蔵文化財保護と考古学研究との関係をめぐって。</p> <p>11. 課題レポートの解説(2)。発掘調査報告書における事実記載と解釈、考察の判断基準の問題をめぐって。</p> <p>12. 先史考古学方法論の諸問題(1)。型式学と人間集団論および年代学。</p> <p>13. 先史考古学方法論の諸問題(2)。機能論と使用痕分析法。</p> <p>14. 先史考古学方法論の諸問題(3)。遺跡内での遺物分布。人間活動の復元。</p> <p>15. 先史考古学の国際的展望。レポート提出。</p>				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	(○) レポート [60%]・(○) 出席 [40%] 参考文献について、随時教室で指示。毎回、資料としてプリントを配布する（英語および日本語）。 各回の講義のトピックに関して、各自で参考文献を学習し、理解を深める。配布プリントの内容に関連した事項について、文献読解を行なう。レポートの対象とする「発掘調査報告書」は、各自の関心に応じて附属図書館の地下書庫で、配架されている埋蔵文化財報告書を探求し、レポート課題として選択する。				
◆ その他	セメスター期間中を通じて、考古学や埋蔵文化財関連の行事、研究会・学会、説明会等を、そのつど紹介・解説するので、受講者は積極的に参加し、この授業と関連するテーマについての理解を深めていくことが望ましい。考古学専攻分野の活動等との関連で、授業内容に若干のスケジュール調整あり。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
博 物 館 資 料 論 特 論 Museum Collection Study (Advanced Lecture)	2	教 授 藤 澤 敦	1 学 期	火	3
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS638J				
◆ 授業題目	東北大学収蔵の考古学資料				
◆ 目的・概要	東北大学には研究の基礎となり成果となった、膨大な資料標本や研究機器類がある。その中には、文学研究科の考古学資料が約20万件あり、一部は考古学陳列館に収蔵・展示されている。これらの資料は、喜田貞吉による収集資料、伊東信雄による東北地方を中心とする各地の発掘調査資料、芹沢長介による旧石器時代遺跡の調査資料や近世陶磁器資料などからなっている。本講義では、これらの資料について解説し、これら資料に基づいて構築された学説の意義について紹介するとともに、その研究史的意義と今日的な意義について検討する。本年度は、伊東信雄の調査による資料と、それに基づく研究について主に検討する。				
◆ 到達目標	(1)東北大学が収蔵する考古学資料について理解する。 (2)東北大学の考古学資料の研究史的意義、現在の意義を理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と進め方の説明および導入 2. 東北大学での考古学研究の歩みと考古学陳列館の概要 3. 東北大学の考古学資料の概要 4. 伊東信雄の経歴と主な研究 5. 伊東信雄の戦前の調査研究(1) 6. 伊東信雄の戦前の調査研究(2) 7. 伊東信雄の戦前の調査研究(3) 8. 伊東信雄の戦後の調査研究 (弥生時代研究1) 9. 伊東信雄の戦後の調査研究 (弥生時代研究2) 10. 伊東信雄の戦後の調査研究 (古墳時代研究1) 11. 伊東信雄の戦後の調査研究 (古墳時代研究1) 12. 伊東信雄の戦後の調査研究 (古代研究1) 13. 伊東信雄の戦後の調査研究 (古代研究1) 14. 伊東信雄の戦前の研究と戦後の研究を貫くもの 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート (60%)・出席 (40%)				
◇ 教科書・参考書	教室にて資料を配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。				
◇ 授業時間外学習	前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
考 古 学 研 究 演 習 I Archaeology (Advanced Seminar) I	2	教 授 阿 子 島 香 隆 准 教 授 鹿 又 喜 隆	1 学 期	金	4
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS633J				
◆ 授業題目	考古学研究史				
◆ 目的・概要	日本考古学を中心に、明治時代以来の考古学研究の流れを整理し、今後の各自の研究方向を探る。旧石器の編年と製作技術、縄文土器の型式学、縄文集落と社会、農耕社会の成立と発展、古墳文化、城柵官衙遺跡、古代窯業生産と供給、中・近世考古学その他、受講者各自が具体的な課題を選んで、順次、発表を行う。詳細な文献目録の作製、研究史の画期となった主要業績の解題、基本的な考古学資料の内容理解、調査研究報告書の詳細な検討、そして相互の討論を通して、研究の現状についての認識を深める。				
◆ 到達目標	(1)日本考古学の研究史の流れを把握し、学史上の画期を整理して理解し、その中で各自の研究テーマを位置づけられるようになる。 (2)各時代、各地域の考古学における研究内容の広がりや把握し、各自の研究テーマの現状と課題を理解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと発表の説明 2. 学生による研究発表① 3. 学生による研究発表② 4. 学生による研究発表③ 5. 学生による研究発表④ 6. 学生による研究発表⑤ 7. 学生による研究発表⑥ 8. 学生による研究発表⑦ 9. 学生による研究発表⑧ 10. 学生による研究発表⑨ 11. 学生による研究発表⑩ 12. 学生による研究発表⑪ 13. 学生による研究発表⑫ 14. 学生による研究発表⑬ 15. 学生による研究発表⑭ 				
◇ 成績評価の方法	(○) レポート [30%]・(○) 出席 [30%] (○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]				
◇ 教科書・参考書	教室にて指示、プリントを配布。				
◇ 授業時間外学習	発表内容は、時間外に各自がまとめる。				
その他：研究演習Ⅰ、Ⅱを通年で連続履修することが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
考 古 学 研 究 演 習 II Archaeology (Advanced Seminar) II	2	准教授 教授	鹿 又 喜 隆 阿子島 香	2 学期	金 4																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS634J																				
◆ 授業題目	考古学の方法と理論																				
◆ 目的・概要	考古学研究の歴史と現状について、各自の関心領域を中心にまとめて発表し、相互の討論を通じて理解を深める。各時代の研究における、型式学と技術、材質研究、編年と地域性、生産と流通、文化変化、環境と生業活動、社会と集団、葬制、集落論など、具体的に課題を選択し、詳細な文献目録を作成し、現在の問題点を的確に把握し、今後の各自の研究指針を追究する。																				
◆ 到達目標	(1)日本考古学研究の現状について、学史の流れを踏まえて問題点を展望し、各自の研究テーマを具体的に追求できるようになる。 (2)近年その内容が非常に多岐にわたる考古学研究の、広がりや深まりを認識し、各自の研究方法を位置づけられるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 学生による研究発表①</td> <td>9. 学生による研究発表⑨</td> </tr> <tr> <td>2. 学生による研究発表②</td> <td>10. 学生による研究発表⑩</td> </tr> <tr> <td>3. 学生による研究発表③</td> <td>11. 学生による研究発表⑪</td> </tr> <tr> <td>4. 学生による研究発表④</td> <td>12. 学生による研究発表⑫</td> </tr> <tr> <td>5. 学生による研究発表⑤</td> <td>13. 学生による研究発表⑬</td> </tr> <tr> <td>6. 学生による研究発表⑥</td> <td>14. 学生による研究発表⑭</td> </tr> <tr> <td>7. 学生による研究発表⑦</td> <td>15. 学生による研究発表⑮</td> </tr> <tr> <td>8. 学生による研究発表⑧</td> <td></td> </tr> </table>					1. 学生による研究発表①	9. 学生による研究発表⑨	2. 学生による研究発表②	10. 学生による研究発表⑩	3. 学生による研究発表③	11. 学生による研究発表⑪	4. 学生による研究発表④	12. 学生による研究発表⑫	5. 学生による研究発表⑤	13. 学生による研究発表⑬	6. 学生による研究発表⑥	14. 学生による研究発表⑭	7. 学生による研究発表⑦	15. 学生による研究発表⑮	8. 学生による研究発表⑧	
1. 学生による研究発表①	9. 学生による研究発表⑨																				
2. 学生による研究発表②	10. 学生による研究発表⑩																				
3. 学生による研究発表③	11. 学生による研究発表⑪																				
4. 学生による研究発表④	12. 学生による研究発表⑫																				
5. 学生による研究発表⑤	13. 学生による研究発表⑬																				
6. 学生による研究発表⑥	14. 学生による研究発表⑭																				
7. 学生による研究発表⑦	15. 学生による研究発表⑮																				
8. 学生による研究発表⑧																					
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%] (○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]																				
◇ 教科書・参考書	教室にて指示、プリントを配布。																				
◇ 授業時間外学習	発表内容は時間外に各自がまとめる。																				
その他：研究演習Ⅰ、Ⅱを通年で連続履修することが望ましい。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
考 古 学 研 究 実 習 I Archaeology (Advanced Field Work) I	2	教授 准教授	阿子島 香 鹿 又 喜 隆	1 学期	水 3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS635J																				
◆ 授業題目	考古学の調査と資料分析(1)																				
◆ 目的・概要	発掘調査から、出土遺物の処理、資料整理と分析、図面製作、写真撮影、遺物の資料化、そして調査研究報告書の作成に至る、一連の作業を通して、考古学の高度な研究方法の実際を修得する。今学期は次のような実習を中心に行う。																				
◆ 到達目標	考古学資料の実証的研究法を修得し、研究報告書の作成方法を学ぶ。発掘調査実習を通して、調査の計画と実践を学習する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作)①</td> <td>9. 遺物の実測と製図②</td> </tr> <tr> <td>2. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作)②</td> <td>10. 遺物の実測と製図③</td> </tr> <tr> <td>3. 発掘調査実習①</td> <td>11. 遺物の実測と製図④</td> </tr> <tr> <td>4. 発掘調査実習②</td> <td>12. 遺物の実測と製図⑤</td> </tr> <tr> <td>5. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作)③</td> <td>13. 測量の基礎と機器の操作①</td> </tr> <tr> <td>6. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築①</td> <td>14. 測量の基礎と機器の操作②</td> </tr> <tr> <td>7. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築②</td> <td>15. 測量の基礎と機器の操作③</td> </tr> <tr> <td>8. 遺物の実測と製図①</td> <td></td> </tr> </table>					1. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作)①	9. 遺物の実測と製図②	2. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作)②	10. 遺物の実測と製図③	3. 発掘調査実習①	11. 遺物の実測と製図④	4. 発掘調査実習②	12. 遺物の実測と製図⑤	5. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作)③	13. 測量の基礎と機器の操作①	6. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築①	14. 測量の基礎と機器の操作②	7. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築②	15. 測量の基礎と機器の操作③	8. 遺物の実測と製図①	
1. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作)①	9. 遺物の実測と製図②																				
2. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作)②	10. 遺物の実測と製図③																				
3. 発掘調査実習①	11. 遺物の実測と製図④																				
4. 発掘調査実習②	12. 遺物の実測と製図⑤																				
5. 出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作)③	13. 測量の基礎と機器の操作①																				
6. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築①	14. 測量の基礎と機器の操作②																				
7. 調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築②	15. 測量の基礎と機器の操作③																				
8. 遺物の実測と製図①																					
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%] (○) その他 (具体的には、受講態度) [30%]																				
◇ 教科書・参考書	教室にて指示。																				
◇ 授業時間外学習	夏季に発掘調査を実施する。講義内で課題が終わらない場合には、宿題となる。																				
その他：研究実習Ⅰ・Ⅱを通年で連続履修することが望ましい。15回の講義の順番は、発掘計画に応じて前後することがある。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
考 古 学 研 究 実 習 II Archaeology (Advanced Field Work) II	2	准教授 教授	鹿 又 喜 隆 香 阿子島 香	2 学期	水	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS636J																					
◆ 授業題目	考古学資料分析法(2)																					
◆ 目的・概要	第1学期に引き続き、考古学研究室による発掘調査資料・収蔵資料に取り組み、実際の研究分析法を学ぶ。発掘調査実習を通して、調査の計画と実践を学習する。実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また通年において、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を発掘調査現場において学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。																					
◆ 到達目標	(1)考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。 (2)共同研究の意義について、理解できるようになる。 (3)考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。 (4)発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理(1)。</td> <td>9. 製図・トレース・レイアウトの作成(3)。</td> </tr> <tr> <td>2. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理(2)。</td> <td>10. 写真撮影(1)。</td> </tr> <tr> <td>3. 遺物の観察・記録と図化(1)。</td> <td>11. 写真撮影(2)。</td> </tr> <tr> <td>4. 遺物の観察・記録と図化(2)。</td> <td>12. 写真撮影(3)。</td> </tr> <tr> <td>5. 遺物の観察・記録と図化(3)。</td> <td>13. 保存処理に関する研修。</td> </tr> <tr> <td>6. 遺物の観察・記録と図化(4)。</td> <td>14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成(1)。</td> </tr> <tr> <td>7. 製図・トレース・レイアウトの作成(1)。</td> <td>15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成(2)。</td> </tr> <tr> <td>8. 製図・トレース・レイアウトの作成(2)。</td> <td></td> </tr> </table>						1. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理(1)。	9. 製図・トレース・レイアウトの作成(3)。	2. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理(2)。	10. 写真撮影(1)。	3. 遺物の観察・記録と図化(1)。	11. 写真撮影(2)。	4. 遺物の観察・記録と図化(2)。	12. 写真撮影(3)。	5. 遺物の観察・記録と図化(3)。	13. 保存処理に関する研修。	6. 遺物の観察・記録と図化(4)。	14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成(1)。	7. 製図・トレース・レイアウトの作成(1)。	15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成(2)。	8. 製図・トレース・レイアウトの作成(2)。	
1. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理(1)。	9. 製図・トレース・レイアウトの作成(3)。																					
2. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理(2)。	10. 写真撮影(1)。																					
3. 遺物の観察・記録と図化(1)。	11. 写真撮影(2)。																					
4. 遺物の観察・記録と図化(2)。	12. 写真撮影(3)。																					
5. 遺物の観察・記録と図化(3)。	13. 保存処理に関する研修。																					
6. 遺物の観察・記録と図化(4)。	14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成(1)。																					
7. 製図・トレース・レイアウトの作成(1)。	15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成(2)。																					
8. 製図・トレース・レイアウトの作成(2)。																						
◇ 成績評価の方法	(○) レポート [30%]・(○) 出席 [40%] (○) その他 (具体的には、受講態度) [30%]																					
◇ 教科書・参考書	教室にて指示。																					
◇ 授業時間外学習	講義内で課題が終わらない場合には宿題となる。																					
その他：考古学研究実習Ⅰ・Ⅱを連続履修することが望ましい。発掘調査の出土量や作業の進捗に応じて、講義内容は前後します。																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
文 化 財 科 学 特 論 Science of Cultural Properties (Advanced Lecture)	2	教授 藤 澤 敦	2 学期	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHICUM601J																				
◆ 授業題目	日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究																				
◆ 目的・概要	日本では、発掘調査の圧倒的多数が、開発に伴う調査であることが特徴である。このような調査は、文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政の一環として、行政機関によって実施されている。このことは日本における考古学研究に大きな影響を与えている。本講義では、文化財保護法や関連する諸規定と、それに基づく埋蔵文化財保護行政の実際について解説する。あわせて、開発に伴う発掘調査によってもたらされた資料の急激な増加や、社会的関心の高まりと調査成果の活用などの現状についても検討する。そのうえで、このような中で進展してきた日本の考古学研究が構造的に有している特質について考察する。																				
◆ 到達目標	(1)日本の埋蔵文化財保護行政の枠組みと実務について理解する。 (2)開発に伴う発掘調査と考古学研究の関係について理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業概要と進め方の解説および導入</td> <td>9. 国史跡の保存管理と整備活用</td> </tr> <tr> <td>2. 日本の考古学をめぐる状況</td> <td>10. 国史跡仙台北城跡の保存管理と整備活用の実地見学</td> </tr> <tr> <td>3. 文化財保護法の基本理念と構成</td> <td>11. 国史跡整備活用の実際</td> </tr> <tr> <td>4. 文化財保護法と教育委員会制度</td> <td>12. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 文化財保護法での埋蔵文化財関係条文</td> <td>13. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 開発に伴う埋蔵文化財保護の行政手続き</td> <td>14. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴(3)</td> </tr> <tr> <td>7. 開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 国指定史跡制度</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業概要と進め方の解説および導入	9. 国史跡の保存管理と整備活用	2. 日本の考古学をめぐる状況	10. 国史跡仙台北城跡の保存管理と整備活用の実地見学	3. 文化財保護法の基本理念と構成	11. 国史跡整備活用の実際	4. 文化財保護法と教育委員会制度	12. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴(1)	5. 文化財保護法での埋蔵文化財関係条文	13. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴(2)	6. 開発に伴う埋蔵文化財保護の行政手続き	14. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴(3)	7. 開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査	15. まとめ	8. 国指定史跡制度	
1. 授業概要と進め方の解説および導入	9. 国史跡の保存管理と整備活用																				
2. 日本の考古学をめぐる状況	10. 国史跡仙台北城跡の保存管理と整備活用の実地見学																				
3. 文化財保護法の基本理念と構成	11. 国史跡整備活用の実際																				
4. 文化財保護法と教育委員会制度	12. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴(1)																				
5. 文化財保護法での埋蔵文化財関係条文	13. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴(2)																				
6. 開発に伴う埋蔵文化財保護の行政手続き	14. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究の特徴(3)																				
7. 開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査	15. まとめ																				
8. 国指定史跡制度																					
◇ 成績評価の方法	レポート (60%)・出席 (40%)																				
◇ 教科書・参考書	教室にて資料を配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
文 化 財 科 学 研 究 演 習 I Science of Cultural Properties (Advanced Seminar) I	2	教授 山 田 晃 弘 須 田 良 平	1 学期																		
◆ 科目ナンバリング	LHICUM602J																				
◆ 授業題目	未定																				
◆ 目的・概要	未定																				
◆ 到達目標	未定																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 未定</td> <td>9. 未定</td> </tr> <tr> <td>2. 未定</td> <td>10. 未定</td> </tr> <tr> <td>3. 未定</td> <td>11. 未定</td> </tr> <tr> <td>4. 未定</td> <td>12. 未定</td> </tr> <tr> <td>5. 未定</td> <td>13. 未定</td> </tr> <tr> <td>6. 未定</td> <td>14. 未定</td> </tr> <tr> <td>7. 未定</td> <td>15. 未定</td> </tr> <tr> <td>8. 未定</td> <td></td> </tr> </table>					1. 未定	9. 未定	2. 未定	10. 未定	3. 未定	11. 未定	4. 未定	12. 未定	5. 未定	13. 未定	6. 未定	14. 未定	7. 未定	15. 未定	8. 未定	
1. 未定	9. 未定																				
2. 未定	10. 未定																				
3. 未定	11. 未定																				
4. 未定	12. 未定																				
5. 未定	13. 未定																				
6. 未定	14. 未定																				
7. 未定	15. 未定																				
8. 未定																					
◇ 成績評価の方法	未定																				
◇ 教科書・参考書	未定																				
◇ 授業時間外学習	未定																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
文 化 財 科 学 研 究 演 習 Ⅱ Science of Cultural Properties (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教授 須 田 良 平 山 田 晃 弘	2 学期		
◆ 科目ナンバリング	LHICUM603J				
◆ 授業題目	未定				
◆ 目的・概要	未定				
◆ 到達目標	未定				
◆ 授業内容・方法					
1. 未定		9. 未定			
2. 未定		10. 未定			
3. 未定		11. 未定			
4. 未定		12. 未定			
5. 未定		13. 未定			
6. 未定		14. 未定			
7. 未定		15. 未定			
8. 未定					
◇ 成績評価の方法	未定				
◇ 教科書・参考書	未定				
◇ 授業時間外学習	未定				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
文 化 財 科 学 研 究 実 習 Ⅱ Science of Cultural Properties (Advanced Field Work) Ⅱ	2	教授 山 田 晃 弘 吉 野 武	集 中 (1)		
◆ 科目ナンバリング	LHICUM605J				
◆ 授業題目	古代遺跡調査の方法と実践				
◆ 目的・概要	未定				
◆ 到達目標	未定				
◆ 授業内容・方法					
1. 未定		9. 未定			
2. 未定		10. 未定			
3. 未定		11. 未定			
4. 未定		12. 未定			
5. 未定		13. 未定			
6. 未定		14. 未定			
7. 未定		15. 未定			
8. 未定					
◇ 成績評価の方法	未定				
◇ 教科書・参考書	未定				
◇ 授業時間外学習	未定				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 古 代 中 世 史 特 論 I Ancient and Medieval History in Orient (Advanced Lecture) I	2	教 授 川 合 安	1 学 期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS639J																				
◆ 授業題目	六朝時代の諸問題																				
◆ 目的・概要	中国の六朝時代（魏晋南北朝時代、220～589）は、秦漢古代帝国の崩壊をうけて、新たな国家秩序構築の模索が行われた時代であった。講義では、この時代につくられた様々な国家の形成過程や構造について分析し、当時を生きた人々の社会的活動や思想などの具体相を浮かび上がらせることを試みる。この混沌と模索の時代を生きた人々の営みについて、自分なりに考えつつ、中国史における六朝時代の意味について理解を深めることを目的とする。																				
◆ 到達目標	六朝時代に形成された諸国家それぞれの特質を理解し、興味をもった論点について、自分なりに調査して論じることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス、六朝時代の概略</td> <td>9. 五胡十六国(3)</td> </tr> <tr> <td>2. 秦漢古代帝国の概要</td> <td>10. 東晋の国家</td> </tr> <tr> <td>3. 三国・魏の国家</td> <td>11. 南朝の国家(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 三国・蜀の国家</td> <td>12. 南朝の国家(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 三国・呉の国家</td> <td>13. 北朝の国家(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 西晋の国家</td> <td>14. 北朝の国家(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 五胡十六国(1)</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. 五胡十六国(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス、六朝時代の概略	9. 五胡十六国(3)	2. 秦漢古代帝国の概要	10. 東晋の国家	3. 三国・魏の国家	11. 南朝の国家(1)	4. 三国・蜀の国家	12. 南朝の国家(2)	5. 三国・呉の国家	13. 北朝の国家(1)	6. 西晋の国家	14. 北朝の国家(2)	7. 五胡十六国(1)	15. 総括	8. 五胡十六国(2)	
1. ガイダンス、六朝時代の概略	9. 五胡十六国(3)																				
2. 秦漢古代帝国の概要	10. 東晋の国家																				
3. 三国・魏の国家	11. 南朝の国家(1)																				
4. 三国・蜀の国家	12. 南朝の国家(2)																				
5. 三国・呉の国家	13. 北朝の国家(1)																				
6. 西晋の国家	14. 北朝の国家(2)																				
7. 五胡十六国(1)	15. 総括																				
8. 五胡十六国(2)																					
◇ 成績評価の方法	出席（30%）、レポート（70%）																				
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布 参考書：川勝義雄『魏晋南北朝』（講談社「学術文庫」2003年）。ほかは、講義中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等を参照して調査し、それでもわからない点については、授業時間中でも質問を受け付ける。また、授業時間外に質問してもよい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 古 代 中 世 史 特 論 II Ancient and Medieval History in Orient (Advanced Lecture) II	2	教 授 川 合 安	2 学 期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS640J																				
◆ 授業題目	隋唐時代の諸問題																				
◆ 目的・概要	隋唐時代は、六朝時代の政治的分裂を克服して統一を回復した時代であったが、なお、多くの矛盾をかかえていた。このような隋唐時代の政治、制度等の諸問題について考察し、理解を深める。																				
◆ 到達目標	隋唐時代の政治、制度等の諸問題について、その概略を理解し、特に関心をもった問題について、関連の研究論文等の調査を進め、考察できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス、隋唐時代の概略</td> <td>9. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究(1)</td> </tr> <tr> <td>2. 隋王朝の政治</td> <td>10. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究(2)</td> </tr> <tr> <td>3. 唐の太宗の政治</td> <td>11. 唐代の税役制度(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 唐代前期の官制</td> <td>12. 唐代の税役制度(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 唐代前期の西北統治</td> <td>13. 唐代の銭貨政策</td> </tr> <tr> <td>6. 安史の乱</td> <td>14. 唐代の財政制度</td> </tr> <tr> <td>7. 唐と吐蕃・南詔</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. 唐代の均田制</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス、隋唐時代の概略	9. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究(1)	2. 隋王朝の政治	10. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究(2)	3. 唐の太宗の政治	11. 唐代の税役制度(1)	4. 唐代前期の官制	12. 唐代の税役制度(2)	5. 唐代前期の西北統治	13. 唐代の銭貨政策	6. 安史の乱	14. 唐代の財政制度	7. 唐と吐蕃・南詔	15. 総括	8. 唐代の均田制	
1. ガイダンス、隋唐時代の概略	9. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究(1)																				
2. 隋王朝の政治	10. 敦煌・トルファン文書と唐代史研究(2)																				
3. 唐の太宗の政治	11. 唐代の税役制度(1)																				
4. 唐代前期の官制	12. 唐代の税役制度(2)																				
5. 唐代前期の西北統治	13. 唐代の銭貨政策																				
6. 安史の乱	14. 唐代の財政制度																				
7. 唐と吐蕃・南詔	15. 総括																				
8. 唐代の均田制																					
◇ 成績評価の方法	出席（30%）、レポート（70%）																				
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布する。 参考書：布目潮風・栗原益男『隋唐帝国』（講談社「学術文庫」、1997年）。その他、授業中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	授業で配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等で独力で調査し解決することを試み、それでも不明な点は、随時質問する。授業時間中に質問してもよい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
東 洋 古 代 中 世 史 研 究 演 習 I Ancient and Medieval History in Orient (Advanced Seminar) I	2	教 授 川 合 安	1 学 期	金	5																		
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS642J																						
◆ 授業題目	『宋書』礼志の研究 I																						
◆ 目的・概要	中国南朝時代の同時代史料たる沈約『宋書』の礼志を読む。南朝史料に特有の語彙や語法を習得するほか、官僚制度や礼制など、史料読解に必須の事項についての理解を深める。担当者は、担当部分についての訳注を作成して提出の上、その訳注について発表する。その発表内容について、受講者全員で検討を加える。																						
◆ 到達目標	独特の用語を含んで難解な南朝史料の訳注を作成できるようになる。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス、『宋書』礼志とはどのような史料か</td> <td>10. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(3)</td> </tr> <tr> <td>2. 『宋書』礼志訳注作成の実例(1)</td> <td>11. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(4)</td> </tr> <tr> <td>3. 『宋書』礼志訳注作成の実例(2)</td> <td>12. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(5)</td> </tr> <tr> <td>4. 『宋書』礼志を読む：語法や語彙の習得を重点に読む(1)</td> <td>13. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(6)</td> </tr> <tr> <td>5. 『宋書』礼志を読む：語法や語彙の習得を重点に読む(2)</td> <td>14. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(7)</td> </tr> <tr> <td>6. 『宋書』礼志を読む：語法や語彙の習得を重点に読む(3)</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>7. 『宋書』礼志を読む：語法や語彙の習得を重点に読む(4)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス、『宋書』礼志とはどのような史料か	10. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(3)	2. 『宋書』礼志訳注作成の実例(1)	11. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(4)	3. 『宋書』礼志訳注作成の実例(2)	12. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(5)	4. 『宋書』礼志を読む：語法や語彙の習得を重点に読む(1)	13. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(6)	5. 『宋書』礼志を読む：語法や語彙の習得を重点に読む(2)	14. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(7)	6. 『宋書』礼志を読む：語法や語彙の習得を重点に読む(3)	15. 総括	7. 『宋書』礼志を読む：語法や語彙の習得を重点に読む(4)		8. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(1)		9. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(2)	
1. ガイダンス、『宋書』礼志とはどのような史料か	10. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(3)																						
2. 『宋書』礼志訳注作成の実例(1)	11. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(4)																						
3. 『宋書』礼志訳注作成の実例(2)	12. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(5)																						
4. 『宋書』礼志を読む：語法や語彙の習得を重点に読む(1)	13. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(6)																						
5. 『宋書』礼志を読む：語法や語彙の習得を重点に読む(2)	14. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(7)																						
6. 『宋書』礼志を読む：語法や語彙の習得を重点に読む(3)	15. 総括																						
7. 『宋書』礼志を読む：語法や語彙の習得を重点に読む(4)																							
8. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(1)																							
9. 『宋書』礼志を読む：関連事項についても調査しつつ読む(2)																							
◇ 成績評価の方法	出席 (20%)、発表内容 (80%)																						
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布する 参考書：授業中に紹介する																						
◇ 授業時間外学習	訳注作成担当者は、授業時間前に訳注を作成する。担当者以外も、授業で訳注の検討に加わることができるように、あらかじめ授業で読む部分に目を通し、疑問点を整理しておく。																						
その他：																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 古 代 中 世 史 研 究 演 習 II Ancient and Medieval History in Orient (Advanced Seminar) II	2	教 授 川 合 安	2 学 期	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS643J																				
◆ 授業題目	『宋書』礼志の研究 II																				
◆ 目的・概要	『宋書』礼志の研究 I の作業を継続するほか、II においては特に南朝における上奏文の形式や、合意形成の方法についての理解を深めつつ、当時の政治、制度、社会の実態究明を行えるようになることを目指す。担当者は、担当部分についての訳注を作成して提出の上、それについて発表する。その発表内容について、受講者全員で検討を加える。さらに、学期後半の授業では訳注作成の成果を踏まえた研究発表を行う。																				
◆ 到達目標	訳注作成能力を向上させ、学術論文作成の基礎を確立する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(1)</td> <td>10. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(2)</td> <td>11. 訳注作成を踏まえた研究発表(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(3)</td> <td>12. 訳注作成を踏まえた研究発表(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(4)</td> <td>13. 訳注作成を踏まえた研究発表(3)</td> </tr> <tr> <td>6. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(5)</td> <td>14. 訳注作成を踏まえた研究発表(4)</td> </tr> <tr> <td>7. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(6)</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(8)	2. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(1)	10. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(9)	3. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(2)	11. 訳注作成を踏まえた研究発表(1)	4. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(3)	12. 訳注作成を踏まえた研究発表(2)	5. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(4)	13. 訳注作成を踏まえた研究発表(3)	6. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(5)	14. 訳注作成を踏まえた研究発表(4)	7. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(6)	15. 総括	8. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(7)	
1. ガイダンス	9. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(8)																				
2. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(1)	10. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(9)																				
3. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(2)	11. 訳注作成を踏まえた研究発表(1)																				
4. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(3)	12. 訳注作成を踏まえた研究発表(2)																				
5. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(4)	13. 訳注作成を踏まえた研究発表(3)																				
6. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(5)	14. 訳注作成を踏まえた研究発表(4)																				
7. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(6)	15. 総括																				
8. 『宋書』礼志を訳注を作成しつつ読む(7)																					
◇ 成績評価の方法	出席 (20%)、発表内容 (80%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布する 参考書：授業中に紹介する																				
◇ 授業時間外学習	担当者は、訳注や研究発表の資料を事前に準備する。担当者以外も、訳注や研究発表についての検討に参加できるように、あらかじめ授業で読む部分や研究発表資料に目を通して、疑問点などを整理しておく。																				
その他：『宋書』礼志の研究 I との連続履修が望ましい。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 近 世 史 特 論 I Early Modern History in Orient (Advanced Lecture) I	2	准教授 大野晃嗣	1 学期	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS644J																				
◆ 授業題目	明清時代の諸問題 I																				
◆ 目的・概要	明清時代の政治と官僚制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。																				
◆ 到達目標	Benjamin A.Elman 著“A Cultural History of Civil Examinations in Late Imperial China”を題材に、中国明清時代の官僚機構と政治体制について基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳をしながら授業を進めるため、必要に応じて事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス—史料の背景と工具書—</td> <td>9. 明清時代の諸問題 I -(8)及び行政区画の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>2. 明清時代の諸問題 I -(1)及び行政制度の基礎知識</td> <td>10. 明清時代の諸問題 I -(9)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>3. 明清時代の諸問題 I -(2)及び行政制度の基礎知識</td> <td>11. 明清時代の諸問題 I -(10)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>4. 明清時代の諸問題 I -(3)及び科挙制度の基礎知識</td> <td>12. 明清時代の諸問題 I -(11)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>5. 明清時代の諸問題 I -(4)及び科挙制度の基礎知識</td> <td>13. 明清時代の諸問題 I -(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 明清時代の諸問題 I -(5)及び科挙制度の基礎知識</td> <td>14. 明清時代の諸問題 I -(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 明清時代の諸問題 I -(6)及び行政区画の基礎知識</td> <td>15. 明清時代の諸問題 I -(14)及びまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 明清時代の諸問題 I -(7)及び行政区画の基礎知識</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス—史料の背景と工具書—	9. 明清時代の諸問題 I -(8)及び行政区画の基礎知識	2. 明清時代の諸問題 I -(1)及び行政制度の基礎知識	10. 明清時代の諸問題 I -(9)及び人事制度の基礎知識	3. 明清時代の諸問題 I -(2)及び行政制度の基礎知識	11. 明清時代の諸問題 I -(10)及び人事制度の基礎知識	4. 明清時代の諸問題 I -(3)及び科挙制度の基礎知識	12. 明清時代の諸問題 I -(11)及び人事制度の基礎知識	5. 明清時代の諸問題 I -(4)及び科挙制度の基礎知識	13. 明清時代の諸問題 I -(12)	6. 明清時代の諸問題 I -(5)及び科挙制度の基礎知識	14. 明清時代の諸問題 I -(13)	7. 明清時代の諸問題 I -(6)及び行政区画の基礎知識	15. 明清時代の諸問題 I -(14)及びまとめ	8. 明清時代の諸問題 I -(7)及び行政区画の基礎知識	
1. ガイダンス—史料の背景と工具書—	9. 明清時代の諸問題 I -(8)及び行政区画の基礎知識																				
2. 明清時代の諸問題 I -(1)及び行政制度の基礎知識	10. 明清時代の諸問題 I -(9)及び人事制度の基礎知識																				
3. 明清時代の諸問題 I -(2)及び行政制度の基礎知識	11. 明清時代の諸問題 I -(10)及び人事制度の基礎知識																				
4. 明清時代の諸問題 I -(3)及び科挙制度の基礎知識	12. 明清時代の諸問題 I -(11)及び人事制度の基礎知識																				
5. 明清時代の諸問題 I -(4)及び科挙制度の基礎知識	13. 明清時代の諸問題 I -(12)																				
6. 明清時代の諸問題 I -(5)及び科挙制度の基礎知識	14. 明清時代の諸問題 I -(13)																				
7. 明清時代の諸問題 I -(6)及び行政区画の基礎知識	15. 明清時代の諸問題 I -(14)及びまとめ																				
8. 明清時代の諸問題 I -(7)及び行政区画の基礎知識																					
◇ 成績評価の方法	レポート。																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 近 世 史 特 論 II Early Modern History in Orient (Advanced Lecture) II	2	准教授 大野晃嗣	2 学期	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS645J																				
◆ 授業題目	明清時代の諸問題 II																				
◆ 目的・概要	明清時代の政治と官僚制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。																				
◆ 到達目標	前期に引き続き、Benjamin A.Elman 著“A Cultural History of Civil Examinations in Late Imperial China”を題材に、中国明清時代の官僚機構と政治体制について基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳をしながら授業を進めるため、必要に応じて事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス—史料の背景と工具書—</td> <td>9. 明清時代の諸問題 II -(8)及び行政区画の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>2. 明清時代の諸問題 II -(1)及び行政制度の基礎知識</td> <td>10. 明清時代の諸問題 II -(9)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>3. 明清時代の諸問題 II -(2)及び行政制度の基礎知識</td> <td>11. 明清時代の諸問題 II -(10)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>4. 明清時代の諸問題 II -(3)及び科挙制度の基礎知識</td> <td>12. 明清時代の諸問題 II -(11)及び人事制度の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>5. 明清時代の諸問題 II -(4)及び科挙制度の基礎知識</td> <td>13. 明清時代の諸問題 II -(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 明清時代の諸問題 II -(5)及び科挙制度の基礎知識</td> <td>14. 明清時代の諸問題 II -(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 明清時代の諸問題 II -(6)及び行政区画の基礎知識</td> <td>15. 明清時代の諸問題 II -(14)及びまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 明清時代の諸問題 II -(7)及び行政区画の基礎知識</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス—史料の背景と工具書—	9. 明清時代の諸問題 II -(8)及び行政区画の基礎知識	2. 明清時代の諸問題 II -(1)及び行政制度の基礎知識	10. 明清時代の諸問題 II -(9)及び人事制度の基礎知識	3. 明清時代の諸問題 II -(2)及び行政制度の基礎知識	11. 明清時代の諸問題 II -(10)及び人事制度の基礎知識	4. 明清時代の諸問題 II -(3)及び科挙制度の基礎知識	12. 明清時代の諸問題 II -(11)及び人事制度の基礎知識	5. 明清時代の諸問題 II -(4)及び科挙制度の基礎知識	13. 明清時代の諸問題 II -(12)	6. 明清時代の諸問題 II -(5)及び科挙制度の基礎知識	14. 明清時代の諸問題 II -(13)	7. 明清時代の諸問題 II -(6)及び行政区画の基礎知識	15. 明清時代の諸問題 II -(14)及びまとめ	8. 明清時代の諸問題 II -(7)及び行政区画の基礎知識	
1. ガイダンス—史料の背景と工具書—	9. 明清時代の諸問題 II -(8)及び行政区画の基礎知識																				
2. 明清時代の諸問題 II -(1)及び行政制度の基礎知識	10. 明清時代の諸問題 II -(9)及び人事制度の基礎知識																				
3. 明清時代の諸問題 II -(2)及び行政制度の基礎知識	11. 明清時代の諸問題 II -(10)及び人事制度の基礎知識																				
4. 明清時代の諸問題 II -(3)及び科挙制度の基礎知識	12. 明清時代の諸問題 II -(11)及び人事制度の基礎知識																				
5. 明清時代の諸問題 II -(4)及び科挙制度の基礎知識	13. 明清時代の諸問題 II -(12)																				
6. 明清時代の諸問題 II -(5)及び科挙制度の基礎知識	14. 明清時代の諸問題 II -(13)																				
7. 明清時代の諸問題 II -(6)及び行政区画の基礎知識	15. 明清時代の諸問題 II -(14)及びまとめ																				
8. 明清時代の諸問題 II -(7)及び行政区画の基礎知識																					
◇ 成績評価の方法	レポート。																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 近 世 史 特 論 I Early Modern History in Orient (Advanced Lecture) I	2	非常勤講師 宮澤知之	集 中 (1)																		
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS644J																				
◆ 授業題目	唐明間、財政構造の特質と変遷																				
◆ 目的・概要	中国の8世紀から16世紀における国家財政を、主として宋元を中心に前後の時代をあわせて、体系的に学ぶ。財政と社会・経済の相互関係に着目することにより、財政が社会・経済に能動的に作用した面も現れることについて、理解を深める。																				
◆ 到達目標	中国専制国家がなぜ2000年以上にわたって存続したのか。専制国家が社会を維持した仕組みの一端を唐明間について理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 専制国家財政の意義</td> <td>9. 財政貨幣の特質</td> </tr> <tr> <td>2. 論点の設定—唐宋財政の概要</td> <td>10. 元朝財政の特徴</td> </tr> <tr> <td>3. 唐前半期の財政と8世紀の諸改革</td> <td>11. 元朝の税と役</td> </tr> <tr> <td>4. 兩税法の展開と貨幣</td> <td>12. 物流の編成—海運と漕運</td> </tr> <tr> <td>5. 宋代財政—税と役</td> <td>13. 明代の実物財政</td> </tr> <tr> <td>6. 宋代財政—正税と行役</td> <td>14. 銀財政化</td> </tr> <tr> <td>7. 兩宋の財政的物流と体制内分配</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. 財政貨幣の転換</td> <td></td> </tr> </table>					1. 専制国家財政の意義	9. 財政貨幣の特質	2. 論点の設定—唐宋財政の概要	10. 元朝財政の特徴	3. 唐前半期の財政と8世紀の諸改革	11. 元朝の税と役	4. 兩税法の展開と貨幣	12. 物流の編成—海運と漕運	5. 宋代財政—税と役	13. 明代の実物財政	6. 宋代財政—正税と行役	14. 銀財政化	7. 兩宋の財政的物流と体制内分配	15. 総括	8. 財政貨幣の転換	
1. 専制国家財政の意義	9. 財政貨幣の特質																				
2. 論点の設定—唐宋財政の概要	10. 元朝財政の特徴																				
3. 唐前半期の財政と8世紀の諸改革	11. 元朝の税と役																				
4. 兩税法の展開と貨幣	12. 物流の編成—海運と漕運																				
5. 宋代財政—税と役	13. 明代の実物財政																				
6. 宋代財政—正税と行役	14. 銀財政化																				
7. 兩宋の財政的物流と体制内分配	15. 総括																				
8. 財政貨幣の転換																					
◇ 成績評価の方法	レポート (100%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布 参考書：講義中に紹介する																				
◇ 授業時間外学習	講義中に紹介する研究を参照して、講義内容について理解を深めることがのぞましい。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 近 世 史 特 論 II Early Modern History in Orient (Advanced Lecture) II	2	非常勤講師 古松崇志	集 中 (2)																		
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS645J																				
◆ 授業題目	多極化時代のユーラシア東方史 (10~13世紀)																				
◆ 目的・概要	ユーラシア東方の歴史は、中央ユーラシア東部の草原地帯の遊牧民と中国本土の農耕民とが相互にさまざまな関係を保ちながら展開してきた。本講義では、とくに10世紀の唐朝解体前後から13世紀のモンゴル帝国の統合にいたるまでの多極化の時代を取り上げ、遊牧王朝と中国王朝とのあいだの相関関係をふまえて、複数の王朝がおりなす国際関係におもに着眼し、この時代のユーラシア東方史・中国史の特質について考えてみたい。																				
◆ 到達目標	日本とは異なり、ユーラシア大陸が多様な民族・文化の行き交う世界であることを理解し、台頭いちじるしい中国など現代の東アジアにかかわる諸問題を多面的にとらえるための知識や考え方を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス：ユーラシア東方史の基本構図</td> <td>9. 多極化時代の天下観・世界観</td> </tr> <tr> <td>2. 10~13世紀ユーラシア東方史の流れと研究史の概観</td> <td>10. 宋代の地図と天下観</td> </tr> <tr> <td>3. 契丹・宋間の澶淵体制</td> <td>11. 高麗・西夏からみた多極化時代のユーラシア東方</td> </tr> <tr> <td>4. 金の覇権と澶淵体制の影響</td> <td>12. 契丹史研究の新展開(1) 契丹文字資料の出土と研究</td> </tr> <tr> <td>5. 多国体制における国境</td> <td>13. 契丹史研究の新展開(2) 慶陵と契丹皇帝の喪葬儀礼</td> </tr> <tr> <td>6. 王朝間の交渉と交流：外交文書</td> <td>14. 契丹史研究の新展開(3) 仏教文化の興隆</td> </tr> <tr> <td>7. 王朝間の交渉と交流：使節の往還と儀礼(1)</td> <td>15. まとめ：多国体制からモンゴルによる大統合へ</td> </tr> <tr> <td>8. 王朝間の交渉と交流：使節の往還と儀礼(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス：ユーラシア東方史の基本構図	9. 多極化時代の天下観・世界観	2. 10~13世紀ユーラシア東方史の流れと研究史の概観	10. 宋代の地図と天下観	3. 契丹・宋間の澶淵体制	11. 高麗・西夏からみた多極化時代のユーラシア東方	4. 金の覇権と澶淵体制の影響	12. 契丹史研究の新展開(1) 契丹文字資料の出土と研究	5. 多国体制における国境	13. 契丹史研究の新展開(2) 慶陵と契丹皇帝の喪葬儀礼	6. 王朝間の交渉と交流：外交文書	14. 契丹史研究の新展開(3) 仏教文化の興隆	7. 王朝間の交渉と交流：使節の往還と儀礼(1)	15. まとめ：多国体制からモンゴルによる大統合へ	8. 王朝間の交渉と交流：使節の往還と儀礼(2)	
1. ガイダンス：ユーラシア東方史の基本構図	9. 多極化時代の天下観・世界観																				
2. 10~13世紀ユーラシア東方史の流れと研究史の概観	10. 宋代の地図と天下観																				
3. 契丹・宋間の澶淵体制	11. 高麗・西夏からみた多極化時代のユーラシア東方																				
4. 金の覇権と澶淵体制の影響	12. 契丹史研究の新展開(1) 契丹文字資料の出土と研究																				
5. 多国体制における国境	13. 契丹史研究の新展開(2) 慶陵と契丹皇帝の喪葬儀礼																				
6. 王朝間の交渉と交流：外交文書	14. 契丹史研究の新展開(3) 仏教文化の興隆																				
7. 王朝間の交渉と交流：使節の往還と儀礼(1)	15. まとめ：多国体制からモンゴルによる大統合へ																				
8. 王朝間の交渉と交流：使節の往還と儀礼(2)																					
◇ 成績評価の方法	レポート80%、平常点 (小レポートやコメント・シートなど) 20%																				
◇ 教科書・参考書	教科書：資料を配布 参考書：授業時に適宜紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	配布資料や紹介した文献を読みこんで、授業内容の理解に努めること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 近 世 史 研 究 演 習 I Early Modern History in Orient (Advanced Seminar) I	2	准教授 大野晃嗣	1 学期	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS648J																				
◆ 授業題目	明清官僚制度研究 I																				
◆ 目的・概要	明清時代の史料を通して、政治制度、官僚制度などの課題探究のために必須となる文書読解の訓練を行い、その基礎知識を習得する。																				
◆ 到達目標	中国明清時代の一次史料読解を通じて、政治制度、官僚制度研究に必須となる公文書の基本形式に慣れると同時に、当時の官僚制と社会について分析を加える。特に各回の担当者を決めず、全員が毎回発表する（日本語訳でも訓読でもかまわない）。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス－史料の背景と工具書－</td> <td>9. 明清官僚制度研究 I－(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 明清官僚制度研究 I－(1)</td> <td>10. 明清官僚制度研究 I－(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 明清官僚制度研究 I－(2)</td> <td>11. 明清官僚制度研究 I－(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 明清官僚制度研究 I－(3)</td> <td>12. 明清官僚制度研究 I－(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 明清官僚制度研究 I－(4)</td> <td>13. 明清官僚制度研究 I－(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 明清官僚制度研究 I－(5)</td> <td>14. 明清官僚制度研究 I－(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 明清官僚制度研究 I－(6)</td> <td>15. 明清官僚制度研究 I－(14)及びまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 明清官僚制度研究 I－(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス－史料の背景と工具書－	9. 明清官僚制度研究 I－(8)	2. 明清官僚制度研究 I－(1)	10. 明清官僚制度研究 I－(9)	3. 明清官僚制度研究 I－(2)	11. 明清官僚制度研究 I－(10)	4. 明清官僚制度研究 I－(3)	12. 明清官僚制度研究 I－(11)	5. 明清官僚制度研究 I－(4)	13. 明清官僚制度研究 I－(12)	6. 明清官僚制度研究 I－(5)	14. 明清官僚制度研究 I－(13)	7. 明清官僚制度研究 I－(6)	15. 明清官僚制度研究 I－(14)及びまとめ	8. 明清官僚制度研究 I－(7)	
1. ガイダンス－史料の背景と工具書－	9. 明清官僚制度研究 I－(8)																				
2. 明清官僚制度研究 I－(1)	10. 明清官僚制度研究 I－(9)																				
3. 明清官僚制度研究 I－(2)	11. 明清官僚制度研究 I－(10)																				
4. 明清官僚制度研究 I－(3)	12. 明清官僚制度研究 I－(11)																				
5. 明清官僚制度研究 I－(4)	13. 明清官僚制度研究 I－(12)																				
6. 明清官僚制度研究 I－(5)	14. 明清官僚制度研究 I－(13)																				
7. 明清官僚制度研究 I－(6)	15. 明清官僚制度研究 I－(14)及びまとめ																				
8. 明清官僚制度研究 I－(7)																					
◇ 成績評価の方法	発表内容（平常点）。																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、テキストを日本語訳し、内容について調べて授業にのぞむ必要がある。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 近 世 史 研 究 演 習 II Early Modern History in Orient (Advanced Seminar) II	2	准教授 大野晃嗣	2 学期	月	5																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS649J																				
◆ 授業題目	明清官僚制度研究 II																				
◆ 目的・概要	明清時代の史料を通して、政治制度、官僚制度などの課題探究のために必須となる文書読解の訓練を行い、その基礎知識を習得する。																				
◆ 到達目標	Iに引き続き、中国明清時代の一次史料読解を通じて、政治制度、官僚制度研究に必須となる公文書の基本形式に慣れると同時に、当時の官僚制と社会について分析を加える。その上で、自分で問題を設定し論文執筆へと結びつける。なお、特に各回の担当者を決めず、全員が毎回発表する（日本語訳でも訓読でもかまわない）。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス－史料の背景と工具書－</td> <td>9. 明清官僚制度研究 II－(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 明清官僚制度研究 II－(1)</td> <td>10. 明清官僚制度研究 II－(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 明清官僚制度研究 II－(2)</td> <td>11. 明清官僚制度研究 II－(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 明清官僚制度研究 II－(3)</td> <td>12. 明清官僚制度研究 II－(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 明清官僚制度研究 II－(4)</td> <td>13. 明清官僚制度研究 II－(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 明清官僚制度研究 II－(5)</td> <td>14. 明清官僚制度研究 II－(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 明清官僚制度研究 II－(6)</td> <td>15. 明清官僚制度研究 II－(14)及びまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 明清官僚制度研究 II－(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス－史料の背景と工具書－	9. 明清官僚制度研究 II－(8)	2. 明清官僚制度研究 II－(1)	10. 明清官僚制度研究 II－(9)	3. 明清官僚制度研究 II－(2)	11. 明清官僚制度研究 II－(10)	4. 明清官僚制度研究 II－(3)	12. 明清官僚制度研究 II－(11)	5. 明清官僚制度研究 II－(4)	13. 明清官僚制度研究 II－(12)	6. 明清官僚制度研究 II－(5)	14. 明清官僚制度研究 II－(13)	7. 明清官僚制度研究 II－(6)	15. 明清官僚制度研究 II－(14)及びまとめ	8. 明清官僚制度研究 II－(7)	
1. ガイダンス－史料の背景と工具書－	9. 明清官僚制度研究 II－(8)																				
2. 明清官僚制度研究 II－(1)	10. 明清官僚制度研究 II－(9)																				
3. 明清官僚制度研究 II－(2)	11. 明清官僚制度研究 II－(10)																				
4. 明清官僚制度研究 II－(3)	12. 明清官僚制度研究 II－(11)																				
5. 明清官僚制度研究 II－(4)	13. 明清官僚制度研究 II－(12)																				
6. 明清官僚制度研究 II－(5)	14. 明清官僚制度研究 II－(13)																				
7. 明清官僚制度研究 II－(6)	15. 明清官僚制度研究 II－(14)及びまとめ																				
8. 明清官僚制度研究 II－(7)																					
◇ 成績評価の方法	発表内容（平常点）。																				
◇ 教科書・参考書	プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、テキストを日本語訳し、内容について調べて授業にのぞむ必要がある。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
古 代 地 中 海 世 界 史 特 論 History of Ancient Mediterranean World (Advanced Lecture)	2	非常勤 講師 島 田 誠	集 中 (1)																		
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS650J																				
◆ 授業題目	古代ローマの社会と宗教																				
◆ 目的・概要	古代ローマは、イタリア半島中部の小さな農民共同体として誕生したが、やがて都市化し、さらにイタリア半島中部の小都市国家から地中海世界を支配する大帝国へ変容した。その間に政治体制は、王政から共和政を経て帝政へと変遷した。本講義では、このような政治の変化と各時代における、政治・社会と宗教との関係を論じる。																				
◆ 到達目標	この講義を受講することによって、古代ローマの社会の特色とそこでの宗教のあり方について、詳細な知識を得られる。さらにこの講義で得た社会と宗教の関する知識や考え方を応用することで、他の時代や地域における宗教現象と社会の関わり方を理解する能力を獲得することを目的とする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 古代ローマにおける宗教の特色</td> <td>9. 都市の宗教6 バッカナーリア事件の衝撃</td> </tr> <tr> <td>2. 家と小共同体の宗教1 農民の宗教</td> <td>10. 帝国の時代の宗教1 東方宗教とは何か</td> </tr> <tr> <td>3. 家と小共同体の宗教2 家の守り神</td> <td>11. 帝国の時代の宗教2 東方宗教の流入</td> </tr> <tr> <td>4. 都市の宗教1 王政期の国家宗教</td> <td>12. 帝国の時代の宗教3 東方宗教の普及</td> </tr> <tr> <td>5. 都市の宗教2 共和政成立期の宗教</td> <td>13. 帝国の時代の宗教4 皇帝礼拝の起源</td> </tr> <tr> <td>6. 都市の宗教3 身分闘争時代の宗教</td> <td>14. 帝国の時代の宗教5 皇帝礼拝の成立と帝政期ローマ社会</td> </tr> <tr> <td>7. 都市の宗教4 イタリア半島征服と宗教</td> <td>15. 講義のまとめと筆記試験</td> </tr> <tr> <td>8. 都市の宗教5 地中海世界への進出と東方宗教との出会い</td> <td></td> </tr> </table>					1. 古代ローマにおける宗教の特色	9. 都市の宗教6 バッカナーリア事件の衝撃	2. 家と小共同体の宗教1 農民の宗教	10. 帝国の時代の宗教1 東方宗教とは何か	3. 家と小共同体の宗教2 家の守り神	11. 帝国の時代の宗教2 東方宗教の流入	4. 都市の宗教1 王政期の国家宗教	12. 帝国の時代の宗教3 東方宗教の普及	5. 都市の宗教2 共和政成立期の宗教	13. 帝国の時代の宗教4 皇帝礼拝の起源	6. 都市の宗教3 身分闘争時代の宗教	14. 帝国の時代の宗教5 皇帝礼拝の成立と帝政期ローマ社会	7. 都市の宗教4 イタリア半島征服と宗教	15. 講義のまとめと筆記試験	8. 都市の宗教5 地中海世界への進出と東方宗教との出会い	
1. 古代ローマにおける宗教の特色	9. 都市の宗教6 バッカナーリア事件の衝撃																				
2. 家と小共同体の宗教1 農民の宗教	10. 帝国の時代の宗教1 東方宗教とは何か																				
3. 家と小共同体の宗教2 家の守り神	11. 帝国の時代の宗教2 東方宗教の流入																				
4. 都市の宗教1 王政期の国家宗教	12. 帝国の時代の宗教3 東方宗教の普及																				
5. 都市の宗教2 共和政成立期の宗教	13. 帝国の時代の宗教4 皇帝礼拝の起源																				
6. 都市の宗教3 身分闘争時代の宗教	14. 帝国の時代の宗教5 皇帝礼拝の成立と帝政期ローマ社会																				
7. 都市の宗教4 イタリア半島征服と宗教	15. 講義のまとめと筆記試験																				
8. 都市の宗教5 地中海世界への進出と東方宗教との出会い																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況（出席）および最終回授業における試験で評価する。																				
◇ 教科書・参考書	授業全体に関する教科書・参考書はない。授業各回に関する参考文献は、授業中に適宜示す。																				
◇ 授業時間外学習	授業各回終了後に、その内容を十分に復習すること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
西 洋 中 近 世 史 特 論 History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Lecture)	2	教授 小 野 善 彦	1 学期	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS655J																				
◆ 授業題目	ドイツ近世の宗教・社会・国家																				
◆ 目的・概要	16世紀のドイツにおいて、宗教改革運動が、ドイツ固有の政治的社会的背景のもとで展開され、カトリック派の皇帝・諸侯と対立する中で、宗教改革派のみならず、カトリック派をも含む三大宗派の鼎立する「宗派体制化」に帰結する過程を明らかにする。																				
◆ 到達目標	16世紀のドイツにおいて、宗教改革運動が、社会と国家に与えた影響と意義を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 前おき：授業紹介</td> <td>9. 宗教改革と社会(2) 都市</td> </tr> <tr> <td>2. 帝国改革運動(1) 運動の展開、帰結 永久ラント平和令、帝国最高法院、帝国宮内法院</td> <td>10. 宗教改革の国家化(1) 16世紀前半の帝国政治</td> </tr> <tr> <td>3. 帝国改革運動(2) 帝国議会</td> <td>11. 宗教改革の国家化(2) アウクスブルクの宗教平和</td> </tr> <tr> <td>4. 帝国改革運動(3) 帝国統治院 帝国クライス制度</td> <td>12. 諸宗派の形成(1) トリエント公会議</td> </tr> <tr> <td>5. 帝国改革運動(4) 皇帝権 選挙協約</td> <td>13. 諸宗派の形成(2) 改革派</td> </tr> <tr> <td>6. 中世末期の宗教的状态</td> <td>14. 諸宗派の形成(3) ルター派</td> </tr> <tr> <td>7. 宗教改革の諸原理</td> <td>15. 宗派体制化の進展 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 宗教改革と社会(1) 帝国騎士、農民</td> <td></td> </tr> </table>					1. 前おき：授業紹介	9. 宗教改革と社会(2) 都市	2. 帝国改革運動(1) 運動の展開、帰結 永久ラント平和令、帝国最高法院、帝国宮内法院	10. 宗教改革の国家化(1) 16世紀前半の帝国政治	3. 帝国改革運動(2) 帝国議会	11. 宗教改革の国家化(2) アウクスブルクの宗教平和	4. 帝国改革運動(3) 帝国統治院 帝国クライス制度	12. 諸宗派の形成(1) トリエント公会議	5. 帝国改革運動(4) 皇帝権 選挙協約	13. 諸宗派の形成(2) 改革派	6. 中世末期の宗教的状态	14. 諸宗派の形成(3) ルター派	7. 宗教改革の諸原理	15. 宗派体制化の進展 授業のまとめ	8. 宗教改革と社会(1) 帝国騎士、農民	
1. 前おき：授業紹介	9. 宗教改革と社会(2) 都市																				
2. 帝国改革運動(1) 運動の展開、帰結 永久ラント平和令、帝国最高法院、帝国宮内法院	10. 宗教改革の国家化(1) 16世紀前半の帝国政治																				
3. 帝国改革運動(2) 帝国議会	11. 宗教改革の国家化(2) アウクスブルクの宗教平和																				
4. 帝国改革運動(3) 帝国統治院 帝国クライス制度	12. 諸宗派の形成(1) トリエント公会議																				
5. 帝国改革運動(4) 皇帝権 選挙協約	13. 諸宗派の形成(2) 改革派																				
6. 中世末期の宗教的状态	14. 諸宗派の形成(3) ルター派																				
7. 宗教改革の諸原理	15. 宗派体制化の進展 授業のまとめ																				
8. 宗教改革と社会(1) 帝国騎士、農民																					
◇ 成績評価の方法	出席・受講態度40%、レポート60%																				
◇ 教科書・参考書	参考書：R・W・スクリプナー、T・スコット『ドイツ宗教改革』、岩波書店。																				
◇ 授業時間外学習	あらかじめ配布する資料に目を通し、十分に理解した上で講義に臨むこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
西 洋 中 近 世 史 研 究 演 習 I History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Seminar) I	2	教授 有 光 秀 行	1 学期	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS656J																				
◆ 授業題目	中世ヨーロッパ史研究																				
◆ 目的・概要	通常の授業時間は、フランス語のテキスト（中世におけるイングランドとノルマンディの関係をあつかった論文集の予定）を読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で授業に臨み、コメントしてもらいます。外国語の専門的文献の読解力を養うとともに、中世ヨーロッパ研究の最前線に関する知見を深めたいと思います。第一回目は打ち合わせ。以後は訳読（基本的に一人一段落）と質疑応答。また学期末には、中世ヨーロッパに関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する外国語論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。																				
◆ 到達目標	さまざまな史料の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、論文作成にそなえる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明</td> <td>9. フランス語論文読解(8)</td> </tr> <tr> <td>2. フランス語論文読解(1)</td> <td>10. フランス語論文読解(9)</td> </tr> <tr> <td>3. フランス語論文読解(2)</td> <td>11. フランス語論文読解(10)、レポート作成進行状況確認</td> </tr> <tr> <td>4. フランス語論文読解(3)</td> <td>12. フランス語論文読解(11)</td> </tr> <tr> <td>5. フランス語論文読解(4)</td> <td>13. フランス語論文読解(12)</td> </tr> <tr> <td>6. フランス語論文読解(5)</td> <td>14. フランス語論文読解(13)</td> </tr> <tr> <td>7. フランス語論文読解(6)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. フランス語論文読解(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明	9. フランス語論文読解(8)	2. フランス語論文読解(1)	10. フランス語論文読解(9)	3. フランス語論文読解(2)	11. フランス語論文読解(10)、レポート作成進行状況確認	4. フランス語論文読解(3)	12. フランス語論文読解(11)	5. フランス語論文読解(4)	13. フランス語論文読解(12)	6. フランス語論文読解(5)	14. フランス語論文読解(13)	7. フランス語論文読解(6)	15. 授業のまとめ	8. フランス語論文読解(7)	
1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明	9. フランス語論文読解(8)																				
2. フランス語論文読解(1)	10. フランス語論文読解(9)																				
3. フランス語論文読解(2)	11. フランス語論文読解(10)、レポート作成進行状況確認																				
4. フランス語論文読解(3)	12. フランス語論文読解(11)																				
5. フランス語論文読解(4)	13. フランス語論文読解(12)																				
6. フランス語論文読解(5)	14. フランス語論文読解(13)																				
7. フランス語論文読解(6)	15. 授業のまとめ																				
8. フランス語論文読解(7)																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況（50％）とレポート（50％）。																				
◇ 教科書・参考書	授業開始時に指示します。																				
◇ 授業時間外学習	毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
西 洋 中 近 世 史 研 究 演 習 II History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Seminar) II	2	教授 有 光 秀 行	2 学期	火	4																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS657J																				
◆ 授業題目	中世ヨーロッパ史研究																				
◆ 目的・概要	通常の授業時間は、前学期につづいて、フランス語のテキスト（中世におけるイングランドとノルマンディの関係をあつかった論文集の予定）を読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨み、コメントしてもらいます。外国語の専門的文献の読解力を養うとともに、中世ヨーロッパ研究の最前線に関する知見を深めたいと思います。第一回目は打ち合わせ。つづいて、前期に作成されたレポートの内容を要約・発表する機会を設けます。以後は訳読（基本的に一人一段落）と質疑応答。また学期末には、中世ヨーロッパに関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する外国語論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。																				
◆ 到達目標	さまざまな史料の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明</td> <td>9. フランス語論文読解(7)</td> </tr> <tr> <td>2. レポート内容発表会</td> <td>10. フランス語論文読解(8)</td> </tr> <tr> <td>3. フランス語論文読解(1)</td> <td>11. フランス語論文読解(9)、レポート作成進行状況確認</td> </tr> <tr> <td>4. フランス語論文読解(2)</td> <td>12. フランス語論文読解(10)</td> </tr> <tr> <td>5. フランス語論文読解(3)</td> <td>13. フランス語論文読解(11)</td> </tr> <tr> <td>6. フランス語論文読解(4)</td> <td>14. フランス語論文読解(12)</td> </tr> <tr> <td>7. フランス語論文読解(5)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. フランス語論文読解(6)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明	9. フランス語論文読解(7)	2. レポート内容発表会	10. フランス語論文読解(8)	3. フランス語論文読解(1)	11. フランス語論文読解(9)、レポート作成進行状況確認	4. フランス語論文読解(2)	12. フランス語論文読解(10)	5. フランス語論文読解(3)	13. フランス語論文読解(11)	6. フランス語論文読解(4)	14. フランス語論文読解(12)	7. フランス語論文読解(5)	15. 授業のまとめ	8. フランス語論文読解(6)	
1. 授業・テキスト・レポート作成についての説明	9. フランス語論文読解(7)																				
2. レポート内容発表会	10. フランス語論文読解(8)																				
3. フランス語論文読解(1)	11. フランス語論文読解(9)、レポート作成進行状況確認																				
4. フランス語論文読解(2)	12. フランス語論文読解(10)																				
5. フランス語論文読解(3)	13. フランス語論文読解(11)																				
6. フランス語論文読解(4)	14. フランス語論文読解(12)																				
7. フランス語論文読解(5)	15. 授業のまとめ																				
8. フランス語論文読解(6)																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況（50％）とレポート（50％）。																				
◇ 教科書・参考書	授業開始時に指示します。																				
◇ 授業時間外学習	毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
西 洋 中 近 世 史 研 究 演 習 Ⅲ History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教授 有 光 秀 行	1 学期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS658J																				
◆ 授業題目	ヨーロッパ中世史料研究																				
◆ 目的・概要	セビリアのイシドルスによる Etymologiae の第 6 巻（聖書と聖職について）をラテン語で読みます。ラテン語の高度な読解力を身につけると同時に、初期中世人の知的世界を学びます。																				
◆ 到達目標	ラテン語史料の高度な読解力を涵養する。また、初期中世の知的世界を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業の内容・テキストについての説明</td> <td>9. ラテン語文献読解(8)</td> </tr> <tr> <td>2. ラテン語文献読解(1)</td> <td>10. ラテン語文献読解(9)</td> </tr> <tr> <td>3. ラテン語文献読解(2)</td> <td>11. ラテン語文献読解(10)</td> </tr> <tr> <td>4. ラテン語文献読解(3)</td> <td>12. ラテン語文献読解(11)</td> </tr> <tr> <td>5. ラテン語文献読解(4)</td> <td>13. ラテン語文献読解(12)</td> </tr> <tr> <td>6. ラテン語文献読解(5)</td> <td>14. ラテン語文献読解(13)</td> </tr> <tr> <td>7. ラテン語文献読解(6)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. ラテン語文献読解(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業の内容・テキストについての説明	9. ラテン語文献読解(8)	2. ラテン語文献読解(1)	10. ラテン語文献読解(9)	3. ラテン語文献読解(2)	11. ラテン語文献読解(10)	4. ラテン語文献読解(3)	12. ラテン語文献読解(11)	5. ラテン語文献読解(4)	13. ラテン語文献読解(12)	6. ラテン語文献読解(5)	14. ラテン語文献読解(13)	7. ラテン語文献読解(6)	15. 授業のまとめ	8. ラテン語文献読解(7)	
1. 授業の内容・テキストについての説明	9. ラテン語文献読解(8)																				
2. ラテン語文献読解(1)	10. ラテン語文献読解(9)																				
3. ラテン語文献読解(2)	11. ラテン語文献読解(10)																				
4. ラテン語文献読解(3)	12. ラテン語文献読解(11)																				
5. ラテン語文献読解(4)	13. ラテン語文献読解(12)																				
6. ラテン語文献読解(5)	14. ラテン語文献読解(13)																				
7. ラテン語文献読解(6)	15. 授業のまとめ																				
8. ラテン語文献読解(7)																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況																				
◇ 教科書・参考書	教室で適宜指示します。																				
◇ 授業時間外学習	所定の箇所のラテン語原文を、教室で日本語に訳せるよう、必ず予習すること。読解上の疑問点などもまとめておくこと。特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
西 洋 中 近 世 史 研 究 演 習 Ⅳ History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Seminar) Ⅳ	2	教授 有 光 秀 行	2 学期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS659J																				
◆ 授業題目	ヨーロッパ中世史料研究																				
◆ 目的・概要	前期に続いて、セビリアのイシドルスによる Etymologiae の第 6 巻（聖書と聖職について）をラテン語で読みます。ラテン語の高度な読解力を身につけると同時に、初期中世人の知的世界を学びます。																				
◆ 到達目標	ラテン語史料の高度な読解力を涵養する。また、初期中世の知的世界を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業の内容・テキストについての説明</td> <td>9. ラテン語文献読解(8)</td> </tr> <tr> <td>2. ラテン語文献読解(1)</td> <td>10. ラテン語文献読解(9)</td> </tr> <tr> <td>3. ラテン語文献読解(2)</td> <td>11. ラテン語文献読解(10)</td> </tr> <tr> <td>4. ラテン語文献読解(3)</td> <td>12. ラテン語文献読解(11)</td> </tr> <tr> <td>5. ラテン語文献読解(4)</td> <td>13. ラテン語文献読解(12)</td> </tr> <tr> <td>6. ラテン語文献読解(5)</td> <td>14. ラテン語文献読解(13)</td> </tr> <tr> <td>7. ラテン語文献読解(6)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. ラテン語文献読解(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業の内容・テキストについての説明	9. ラテン語文献読解(8)	2. ラテン語文献読解(1)	10. ラテン語文献読解(9)	3. ラテン語文献読解(2)	11. ラテン語文献読解(10)	4. ラテン語文献読解(3)	12. ラテン語文献読解(11)	5. ラテン語文献読解(4)	13. ラテン語文献読解(12)	6. ラテン語文献読解(5)	14. ラテン語文献読解(13)	7. ラテン語文献読解(6)	15. 授業のまとめ	8. ラテン語文献読解(7)	
1. 授業の内容・テキストについての説明	9. ラテン語文献読解(8)																				
2. ラテン語文献読解(1)	10. ラテン語文献読解(9)																				
3. ラテン語文献読解(2)	11. ラテン語文献読解(10)																				
4. ラテン語文献読解(3)	12. ラテン語文献読解(11)																				
5. ラテン語文献読解(4)	13. ラテン語文献読解(12)																				
6. ラテン語文献読解(5)	14. ラテン語文献読解(13)																				
7. ラテン語文献読解(6)	15. 授業のまとめ																				
8. ラテン語文献読解(7)																					
◇ 成績評価の方法	授業参加状況																				
◇ 教科書・参考書	教室で適宜指示します。																				
◇ 授業時間外学習	所定の箇所のラテン語原文を、教室で日本語に訳せるよう、必ず予習すること。読解上の疑問点などもまとめておくこと。特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
西 洋 中 近 世 史 研 究 演 習 V History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Seminar) V	2	教授 小 野 善 彦	1 学期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS660J																				
◆ 授業題目	西洋近世史料研究																				
◆ 目的・概要	16世紀中葉のイエズス会士にして当時傑出したカトリック神学者であったペトルス・カニジウスの著名な著作『大カテキズム』（1555年）を精読し、近世ラテン語史料の読解力の涵養に努めるとともに、近世カトリシズム、宗教改革思想についての理解を深める。 テキスト：Petrus Canisius, Summa Doctrinae Christianae, 1555.																				
◆ 到達目標	近世ラテン語史料読解力の涵養																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 前おき：授業紹介</td> <td>9. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>2. 報告、討論</td> <td>10. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>3. 報告、討論</td> <td>11. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>4. 報告、討論</td> <td>12. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>5. 報告、討論</td> <td>13. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>6. 報告、討論</td> <td>14. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>7. 報告、討論</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 報告、討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. 前おき：授業紹介	9. 報告、討論	2. 報告、討論	10. 報告、討論	3. 報告、討論	11. 報告、討論	4. 報告、討論	12. 報告、討論	5. 報告、討論	13. 報告、討論	6. 報告、討論	14. 報告、討論	7. 報告、討論	15. 授業のまとめ	8. 報告、討論	
1. 前おき：授業紹介	9. 報告、討論																				
2. 報告、討論	10. 報告、討論																				
3. 報告、討論	11. 報告、討論																				
4. 報告、討論	12. 報告、討論																				
5. 報告、討論	13. 報告、討論																				
6. 報告、討論	14. 報告、討論																				
7. 報告、討論	15. 授業のまとめ																				
8. 報告、討論																					
◇ 成績評価の方法	出席40%、授業参加状況60%																				
◇ 教科書・参考書	M・ルター『教会のバビロン虜囚について』（聖文舎） そのほかは、教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	あらかじめ予習して、テキストを十分に理解しておくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
西 洋 中 近 世 史 研 究 演 習 VI History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Seminar) VI	2	教授 小 野 善 彦	2 学期	月	2																		
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS661J																						
◆ 授業題目	西洋近世史料研究																						
◆ 目的・概要	16世紀中葉のイエズス会士にして当時傑出したカトリック神学者であったペトルス・カニジウスの著名な著作『大カテキズム』（1555年）を精読し、近世ラテン語史料の読解力の涵養に努めるとともに、近世カトリシズム、宗教改革思想についての理解を深める。 テキスト：Petros Canisius, Summa Doctrinae Christianae, 1555.																						
◆ 到達目標	近世ラテン語史料読解力の涵養																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 前おき：授業紹介</td> <td>9. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>報告、討論</td> <td>10. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>2. 報告、討論</td> <td>11. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>3. 報告、討論</td> <td>12. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>4. 報告、討論</td> <td>13. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>5. 報告、討論</td> <td>14. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>6. 報告、討論</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 報告、討論</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 報告、討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. 前おき：授業紹介	9. 報告、討論	報告、討論	10. 報告、討論	2. 報告、討論	11. 報告、討論	3. 報告、討論	12. 報告、討論	4. 報告、討論	13. 報告、討論	5. 報告、討論	14. 報告、討論	6. 報告、討論	15. 授業のまとめ	7. 報告、討論		8. 報告、討論	
1. 前おき：授業紹介	9. 報告、討論																						
報告、討論	10. 報告、討論																						
2. 報告、討論	11. 報告、討論																						
3. 報告、討論	12. 報告、討論																						
4. 報告、討論	13. 報告、討論																						
5. 報告、討論	14. 報告、討論																						
6. 報告、討論	15. 授業のまとめ																						
7. 報告、討論																							
8. 報告、討論																							
◇ 成績評価の方法	出席40%、授業参加状況60%																						
◇ 教科書・参考書	M・ルター『教会のバビロン虜囚について』（聖文舎） そのほかは教室で指示する。																						
◇ 授業時間外学習	あらかじめ予習して、テキストを十分に理解しておくこと。																						
その他：																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
西 洋 中 近 世 史 研 究 演 習 Ⅶ History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Seminar) Ⅶ	2	教授 小 野 善 彦	1 学 期	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS662J																				
◆ 授業題目	西洋中世史の諸問題																				
◆ 目的・概要	西洋中世都市の社会構造の特質を論じた、研究史上重要な論文（ドイツ語）を精読し、中世都市の存在構造と中世後期におけるその変容の背景、性格、意義を考察する。特に、中世後期の都市における貧民問題・救貧政策、周縁集団の形成・スティグマ化、に着目する。 テキスト：Bernd-U. Hergemöller(Hg.), Randgruppen der spätmittelalterlichen Gesellschaft, Neue Ausgabe, 2001.																				
◆ 到達目標	中世都市の社会構造と周縁集団形成を促すメカニズムについての理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 前おき：授業紹介</td> <td>9. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>2. 報告、討論</td> <td>10. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>3. 報告、討論</td> <td>11. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>4. 報告、討論</td> <td>12. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>5. 報告、討論</td> <td>13. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>6. 報告、討論</td> <td>14. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>7. 報告、討論</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 報告、討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. 前おき：授業紹介	9. 報告、討論	2. 報告、討論	10. 報告、討論	3. 報告、討論	11. 報告、討論	4. 報告、討論	12. 報告、討論	5. 報告、討論	13. 報告、討論	6. 報告、討論	14. 報告、討論	7. 報告、討論	15. 授業のまとめ	8. 報告、討論	
1. 前おき：授業紹介	9. 報告、討論																				
2. 報告、討論	10. 報告、討論																				
3. 報告、討論	11. 報告、討論																				
4. 報告、討論	12. 報告、討論																				
5. 報告、討論	13. 報告、討論																				
6. 報告、討論	14. 報告、討論																				
7. 報告、討論	15. 授業のまとめ																				
8. 報告、討論																					
◇ 成績評価の方法	出席・授業参加状況40%、レポート60%																				
◇ 教科書・参考書	参考書：W・ハルトゥング『中世の旅芸人』、2006年。																				
◇ 授業時間外学習	あらかじめ予習して、テキストの十分な理解に努めること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
西 洋 中 近 世 史 研 究 演 習 Ⅷ History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Seminar) Ⅷ	2	教授 小 野 善 彦	2 学 期	月	3																		
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS663J																						
◆ 授業題目	西洋中世史の諸問題																						
◆ 目的・概要	西洋中世都市の社会構造の特質を論じた、研究史上重要な論文（ドイツ語）を精読し、中世都市の存在構造と中世後期におけるその変容の背景、性格、意義を考察する。特に、中世後期の都市における貧民問題・救貧政策、周縁集団の形成・スティグマ化、に着目する。 テキスト：Bernd-U. Hergemöller(Hg.), Randgruppen der spätmittelalterlichen Gesellschaft, Neue Ausgabe, 2001.																						
◆ 到達目標	中世都市の社会構造と周縁集団形成を促すメカニズムについての理解を深める。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 前おき：授業紹介</td> <td>9. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>報告、討論</td> <td>10. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>2. 報告、討論</td> <td>11. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>3. 報告、討論</td> <td>12. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>4. 報告、討論</td> <td>13. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>5. 報告、討論</td> <td>14. 報告、討論</td> </tr> <tr> <td>6. 報告、討論</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 報告、討論</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 報告、討論</td> <td></td> </tr> </table>					1. 前おき：授業紹介	9. 報告、討論	報告、討論	10. 報告、討論	2. 報告、討論	11. 報告、討論	3. 報告、討論	12. 報告、討論	4. 報告、討論	13. 報告、討論	5. 報告、討論	14. 報告、討論	6. 報告、討論	15. 授業のまとめ	7. 報告、討論		8. 報告、討論	
1. 前おき：授業紹介	9. 報告、討論																						
報告、討論	10. 報告、討論																						
2. 報告、討論	11. 報告、討論																						
3. 報告、討論	12. 報告、討論																						
4. 報告、討論	13. 報告、討論																						
5. 報告、討論	14. 報告、討論																						
6. 報告、討論	15. 授業のまとめ																						
7. 報告、討論																							
8. 報告、討論																							
◇ 成績評価の方法	出席・授業参加状況40%、レポート60%																						
◇ 教科書・参考書	参考書：W・ハルトゥング『中世の旅芸人』、2006年。																						
◇ 授業時間外学習	あらかじめ予習して、テキストの理解に努めること。																						
その他：																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
欧 米 近 現 代 史 特 論 I History of Modern Europe and America (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師 高 田 実	集 中 (1)		
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS664J				
◆ 授業題目	ヨーロッパ福祉史の諸問題—生の歴史学と「福祉の複合体」—				
◆ 目的・概要	①目的：ヨーロッパ「福祉の複合体」の歴史的展開についての基礎知識を取得するとともに、それをを用いつつ歴史的視点から現代の諸問題を分析し、未来の福祉社会を構想できるだけの豊かな歴史的思考力を身に着ける。				
◆ 到達目標	②方法：基本的には講義形式とするが、毎回、問題発見のための対話の時間を設ける。 ①まず、福祉が、多様な担い手と原理からなる構造的複合体であることが理解できるようになる。 ②次に、この複合体が、ヨーロッパ社会の歴史のなかにおいて、どのような姿態転換を遂げたのかを、総体的かつ比較史的に理解できるようになる。 ③最後に、各地域の人びとが、福祉というツールを用いつつ、どのような〈生〉の充実を模索してきたか、その主体的な姿を理解できる歴史的想像力を身に着ける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の課題と概要の説明 2. 古代・中世の貧困観と貧困救済 3. 「近世化」と貧困問題—グローバルな経済と貧困観の変化 4. 近世社会における救貧法の展開(1)—「最後の寄る辺」 5. 近世社会における救貧法の展開(2)—「貧民の手紙」 6. 工業化と貧困観の変化—自由主義的貧困観の世界 7. 救貧法と工場法 8. チャリティの展開 9. 相互扶助の展開 10. 19世紀末「大不況」と社会的貧困観の登場 11. 国家福祉の導入 12. 「新しいフィラスロピー」の展開 13. 戦争と福祉 14. ベヴァリッジの福祉社会 15. 講義のまとめ—生の歴史学への展望 				
◇ 成績評価の方法	筆記試験 (70%)、平常点 (30%：出席、発表やコメントへの取り組み)				
◇ 教科書・参考書	教科書 特に指定しない 参考書 高田実・中野智世『近代ヨーロッパの探究 福祉』、ミネルヴァ書房、2012年；岡本東洋光・高田実・金澤周作編『英国福祉ボランティアの源流』ミネルヴァ書房、2012年；金澤周作『チャリティとイギリス近代』京都大学学術出版会、2008年；長谷川貴彦『イギリス福祉国家の歴史的源流—近世・近代転換期の中間団体』東京大学出版会、2014年。				
◇ 授業時間外学習	①「福祉の複合体」とはどんな考えか、上記の参考文献などを用いて、理解しておく。 ②現代社会における福祉の諸問題について、論点となる項目を考えておく。				
その他：連続講義前後で質問がある場合は、min938@center.konan-u.ac.jp まで連絡のこと。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
欧 米 近 現 代 史 特 論 II History of Modern Europe and America (Advanced Lecture) II	2	准教授 浅 岡 善 治	2 学 期	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS665J				
◆ 授業題目	社会主義革命と「社会」				
◆ 目的・概要	「社会主義」を志向したロシア革命がすぐれて国家主義的な性格を有するスターリン体制の成立へと帰結したことは、19世紀的な「国家」と「社会」の二分法からすれば、大いなるパラドックスであった。本講義では、ロシア革命史およびソ連史の流れを概観しつつ、そこでの「社会的」要素の在り方について再検討する。				
◆ 到達目標	(1)ロシア革命史およびソ連史の側面から、20世紀ヨーロッパ史の概要を把握する (2)近現代史の知見を基に、現代の諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について 2. 帝政ロシアにおける国家、社会、文化 3. 変革の諸構想(1) 4. 変革の諸構想(2) 5. ソヴィエト国家とロシア社会(1) 6. ソヴィエト国家とロシア社会(2) 7. 多元性の中の模索—ネップ期の国家と社会(1) 8. 多元性の中の模索—ネップ期の国家と社会(2) 9. スターリニズム下の国家と社会(1) 10. スターリニズム下の国家と社会(2) 11. 「雪解け」とフルシチョフ改革 12. 「停滞」下の国家と社会 13. ベレストロイカ期の国家と社会 14. ポスト・ソ連期の国家と社会 15. 総括と展望 				
◇ 成績評価の方法	筆記試験を行い、その成績に基づいて評価する。				
◇ 教科書・参考書	特定の教科書は使用しない。 参考文献は授業の進行に合わせて随時紹介する。さしあたりソ連期全体をカバーするものとして、松戸清裕『ソ連史』ちくま新書、2013年；Robert Service, The Penguin History of Modern Russia: From Tsarism to the Twenty-first Century, Fourth Edition, 2015、の2冊を挙げておく。				
◇ 授業時間外学習	「特論」でありながらも内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの事由により本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
欧 米 近 現 代 史 研 究 演 習 I History of Modern Europe and America (Advanced Seminar) I	2	准教授 浅 岡 善 治	1 学期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS668J				
◆ 授業題目	ロシア革命の歴史的再検討				
◆ 目的・概要	英語文献を用いたロシア革命の歴史的再検討を通じて、20世紀史および近現代史全体を再考する。				
◆ 到達目標	英語専門文献の正確な読解、および討論を通じての内容理解の深化。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について 2. 試読の検討と討論(1) a 3. 試読の検討と討論(1) b 4. 試読の検討と討論(1) c 5. 試読の検討と討論(1) d 6. 試読の検討と討論(1) e 7. 小括(1) 8. 試読の検討と討論(2) a 9. 試読の検討と討論(2) b 10. 試読の検討と討論(2) c 11. 試読の検討と討論(2) d 12. 試読の検討と討論(2) e 13. 小括(2) 14. 課題発表(1) 15. 中間的総括(1)				
◇ 成績評価の方法	出席30% その他（受講態度、課題の達成度など）70%				
◇ 教科書・参考書	望田幸男・芝井敬司・末川清『新版 新しい史学概論』昭和堂、2004年；Robert Service, The Penguin History of Modern Russia: From Tsarism to the Twenty-first Century, Fourth Edition, 2015. その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。				
その他：面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。 研究室：文学研究科 5 F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
欧 米 近 現 代 史 研 究 演 習 II History of Modern Europe and America (Advanced Seminar) II	2	准教授 浅 岡 善 治	2 学期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS669J				
◆ 授業題目	ロシア革命の歴史的再検討				
◆ 目的・概要	英語文献を用いたロシア革命の歴史的再検討を通じて、20世紀史および近現代史全体を再考する。				
◆ 到達目標	英語専門文献の正確な読解、および討論を通じての内容理解の深化。				
◆ 授業内容・方法	1. 課題発表(2) 2. 試読の検討と討論(3) a 3. 試読の検討と討論(3) b 4. 試読の検討と討論(3) c 5. 試読の検討と討論(3) d 6. 試読の検討と討論(3) e 7. 小括(3) 8. 試読の検討と討論(4) a 9. 試読の検討と討論(4) b 10. 試読の検討と討論(4) c 11. 試読の検討と討論(4) d 12. 試読の検討と討論(4) e 13. 小括(4) 14. 中間的総括(2) 15. 総括				
◇ 成績評価の方法	出席30% その他（受講態度、課題の達成度など）70%				
◇ 教科書・参考書	望田幸男・芝井敬司・末川清『新版 新しい史学概論』昭和堂、2004年；Robert Service, The Penguin History of Modern Russia: From Tsarism to the Twenty-first Century, Fourth Edition, 2015. その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。				
その他：面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。 研究室：文学研究科 5 F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
欧米近現代史研究演習Ⅲ History of Modern Europe and America (Advanced Seminar) Ⅲ	2	准教授 浅岡善治	1学期	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS670J																				
◆ 授業題目	欧米近現代史研究方法論																				
◆ 目的・概要	欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。																				
◆ 到達目標	(1)テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握 (2)文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. テキストの検討・討論(2)b</td> </tr> <tr> <td>2. テキストの検討・討論(1)a</td> <td>10. テキストの検討・討論(2)c</td> </tr> <tr> <td>3. テキストの検討・討論(1)b</td> <td>11. テキストの検討・討論(2)d</td> </tr> <tr> <td>4. テキストの検討・討論(1)c</td> <td>12. テキストの検討・討論(2)e</td> </tr> <tr> <td>5. テキストの検討・討論(1)d</td> <td>13. 小括(2)</td> </tr> <tr> <td>6. テキストの検討・討論(1)e</td> <td>14. 中間的総括に向けての課題の整理</td> </tr> <tr> <td>7. 小括(1)</td> <td>15. 中間的総括</td> </tr> <tr> <td>8. テキストの検討・討論(2)a</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. テキストの検討・討論(2)b	2. テキストの検討・討論(1)a	10. テキストの検討・討論(2)c	3. テキストの検討・討論(1)b	11. テキストの検討・討論(2)d	4. テキストの検討・討論(1)c	12. テキストの検討・討論(2)e	5. テキストの検討・討論(1)d	13. 小括(2)	6. テキストの検討・討論(1)e	14. 中間的総括に向けての課題の整理	7. 小括(1)	15. 中間的総括	8. テキストの検討・討論(2)a	
1. ガイダンス	9. テキストの検討・討論(2)b																				
2. テキストの検討・討論(1)a	10. テキストの検討・討論(2)c																				
3. テキストの検討・討論(1)b	11. テキストの検討・討論(2)d																				
4. テキストの検討・討論(1)c	12. テキストの検討・討論(2)e																				
5. テキストの検討・討論(1)d	13. 小括(2)																				
6. テキストの検討・討論(1)e	14. 中間的総括に向けての課題の整理																				
7. 小括(1)	15. 中間的総括																				
8. テキストの検討・討論(2)a																					
◇ 成績評価の方法	出席30% その他（受講態度、課題の達成度など）70%																				
◇ 教科書・参考書	テキストは開講後発表。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。																				
◇ 授業時間外学習	ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。																				
その他：面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。 研究室：文学研究科 5 F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
欧米近現代史研究演習Ⅳ History of Modern Europe and America (Advanced Seminar) Ⅳ	2	准教授 浅岡善治	2学期	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS671J																				
◆ 授業題目	欧米近現代史研究方法論																				
◆ 目的・概要	欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。																				
◆ 到達目標	(1)テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握 (2)文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. テキストの検討・討論(4)b</td> </tr> <tr> <td>2. テキストの検討・討論(3)a</td> <td>10. テキストの検討・討論(4)c</td> </tr> <tr> <td>3. テキストの検討・討論(3)b</td> <td>11. テキストの検討・討論(4)d</td> </tr> <tr> <td>4. テキストの検討・討論(3)c</td> <td>12. テキストの検討・討論(4)e</td> </tr> <tr> <td>5. テキストの検討・討論(3)d</td> <td>13. 小括(4)</td> </tr> <tr> <td>6. テキストの検討・討論(3)e</td> <td>14. 中間的総括(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 小括(3)</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. テキストの検討・討論(4)a</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	9. テキストの検討・討論(4)b	2. テキストの検討・討論(3)a	10. テキストの検討・討論(4)c	3. テキストの検討・討論(3)b	11. テキストの検討・討論(4)d	4. テキストの検討・討論(3)c	12. テキストの検討・討論(4)e	5. テキストの検討・討論(3)d	13. 小括(4)	6. テキストの検討・討論(3)e	14. 中間的総括(2)	7. 小括(3)	15. 総括	8. テキストの検討・討論(4)a	
1. ガイダンス	9. テキストの検討・討論(4)b																				
2. テキストの検討・討論(3)a	10. テキストの検討・討論(4)c																				
3. テキストの検討・討論(3)b	11. テキストの検討・討論(4)d																				
4. テキストの検討・討論(3)c	12. テキストの検討・討論(4)e																				
5. テキストの検討・討論(3)d	13. 小括(4)																				
6. テキストの検討・討論(3)e	14. 中間的総括(2)																				
7. 小括(3)	15. 総括																				
8. テキストの検討・討論(4)a																					
◇ 成績評価の方法	出席30% その他（受講態度、課題の達成度など）70%																				
◇ 教科書・参考書	テキストは開講後発表。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。																				
◇ 授業時間外学習	ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。																				
その他：面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。 研究室：文学研究科 5 F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 特 論 I History of Oriental and Japanese Fine Arts (Advanced Lecture) I	2	教 授 泉 武 夫	1 学 期	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHIART601J				
◆ 授業題目	古代・中世絵画史研究				
◆ 目的・概要	日本の古代・中世絵画は、美術史の根幹のひとつをなす領域である。とくに宗教絵画は、この領域の遺品の大部分を占めており、それへの理解がなされなければ、美術史研究には重要なポイントを欠くことになる。本講義では、古代・中世の代表的作品を取り上げ、作品分析へのアプローチの方法を提示し、作品がもつ豊かな美的世界を探求することを試みる。				
◆ 到達目標	(1)日本絵画の見方に対する基盤的方法を習得する。 (2)仏画を中心とした古代・中世絵画の様式史的分析方法のみならず、それらが用いられた意図と宗教的な意味の裏付け、文化史的背景や説話的要素などを理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 日本絵画史における様式史の基礎—かたちの成長と変化 3. 儀礼と絵画1—後七日御修法とその画像 4. 儀礼と絵画2—仁王会と本尊1 5. 儀礼と絵画3—仁王会と本尊2 6. 儀礼と絵画4—仏名会と画像 7. 儀礼と絵画5—法華講と装飾経 8. 浄土教の絵画1—諸浄土の絵画 9. 浄土教の絵画2—来迎図と往生図1 10. 浄土教の絵画3—来迎図と往生図2 11. 浄土教の絵画4—六道絵1 12. 浄土教の絵画5—六道絵2 13. 浄土教の絵画6—十界図 14. 浄土教の絵画7—弥勒浄土図1 15. 浄土教の絵画8—弥勒浄土図2と弥勒像 				
◇ 成績評価の方法	レポート80% 出席20%				
◇ 教科書・参考書	その都度、授業で指示する。				
◇ 授業時間外学習	前の授業内容をよく整理すること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 特 論 II History of Oriental and Japanese Fine Arts (Advanced Lecture) II	2	教 授 泉 武 夫	2 学 期	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHIART602J				
◆ 授業題目	古代・中世絵画史研究				
◆ 目的・概要	日本の古代・中世絵画は、美術史の根幹のひとつをなす領域である。とくに宗教絵画は、この領域の遺品の大部分を占めており、それへの理解がなされなければ、美術史研究には重要なポイントを欠くことになる。本講義では、古代・中世の代表的作品を取り上げ、作品分析へのアプローチの方法を提示し、作品がもつ豊かな美的世界を探求することを試みる。				
◆ 到達目標	(1)日本絵画の見方に対する基盤的方法を習得する。 (2)仏画を中心とした古代・中世絵画の様式史的分析方法のみならず、それらが用いられた意図と宗教的な意味の裏付け、文化史的背景や説話的要素などを理解する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 密教絵画の諸相1—黄不動 2. 密教絵画の諸相2—青不動 3. 密教絵画の諸相3—五大尊 4. 仏伝図の諸問題1—応徳涅槃図 5. 仏伝図の諸問題2—金棺出現図 6. 仏伝図の諸問題3—中国の仏伝浮彫 7. 院政期の仏画1—十二天像 8. 院政期の仏画2—法相曼荼羅図 9. 院政期の仏画3—虚空蔵菩薩像 10. 院政期の仏画4—如意輪観音像 11. 絵巻物の諸問題1—信貴山縁起絵巻1 12. 絵巻物の諸問題2—信貴山縁起絵巻2 13. 絵巻物の諸問題3—鳥獣戯画 14. 仏教美術の特異な図像の伝播1—行道観音 15. 仏教美術の特異な図像の伝播2—星辰の神々 				
◇ 成績評価の方法	レポート80% 出席20%				
◇ 教科書・参考書	その都度、授業で指示する。				
◇ 授業時間外学習	前の授業内容をよく整理すること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 特 論 I History of Oriental and Japanese Fine Arts (Advanced Lecture) I	2	教 授 長 岡 龍 作	1 学 期	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHIART601J				
◆ 授業題目	信仰と造形				
◆ 目的・概要	この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、「日本美術史」研究の成立史を概観した後、奈良時代末から平安時代中期までの造形を取り上げ、特に「祈願」との関わりからその意味と表現を探っていく。				
◆ 到達目標	(1)宗教思想と造形の関係を理解する。 (2)造形に投影された世界観を理解する。 (3)造形表現を理解する方法を習得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題 2. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」前史 3. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」の成立 4. 「日本美術史」のはじまり 「日本美術史」の展開と相対化 5. 奈良時代末の信仰と造形 1 6. 奈良時代末の信仰と造形 2 7. 奈良時代末の信仰と造形 3 8. 平安時代初期の信仰と造形 1 9. 平安時代初期の信仰と造形 2 10. 平安時代初期の信仰と造形 3 11. 平安時代初期の信仰と造形 4 12. 平安時代中期の信仰と造形 1 13. 平安時代中期の信仰と造形 2 14. 平安時代中期の信仰と造形 3 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート [80%]、出席 [20%]				
◇ 教科書・参考書	参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像―祈りと風景』（敬文舎）2014年				
◇ 授業時間外学習	授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる				
その他：オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 特 論 II History of Oriental and Japanese Fine Arts (Advanced Lecture) II	2	教 授 長 岡 龍 作	2 学 期	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHIART602J				
◆ 授業題目	信仰と造形				
◆ 目的・概要	この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期は、平安時代後期から中世の造形を取り上げ、特に「祈願」との関わりからその意味と表現を探っていくとともに、各尊種（別尊）への信仰と造形表現についても論じる。				
◆ 到達目標	(1)宗教思想と造形の関係を理解する。 (2)造形に投影された世界観を理解する。 (3)造形表現を理解する方法を習得する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題 2. 平安時代後期の信仰と造形 1 3. 平安時代後期の信仰と造形 2 4. 平安時代後期の信仰と造形 3 5. 平安時代後期の信仰と造形 4 6. 別尊信仰と造像 1 7. 別尊信仰と造像 2 8. 別尊信仰と造像 3 9. 別尊信仰と造像 4 10. 空間と造形 1 11. 空間と造形 2 12. 中世の信仰と造形 1 13. 中世の信仰と造形 2 14. 中世の信仰と造形 3 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポート [80%]、出席 [20%]				
◇ 教科書・参考書	参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像―祈りと風景』（敬文舎）2014年				
◇ 授業時間外学習	授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる				
その他：オフィスアワー：月・火・金の13：00～17：00（但し、授業時間外）					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 特 論 I History of Oriental and Japanese Fine Arts (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師 相 澤 正 彦	集 中 (1)																		
◆ 科目ナンバリング	LHIART601J																				
◆ 授業題目	土佐派興亡史																				
◆ 目的・概要	室町画壇を席卷し、さらに近世画壇に大きな足跡を残した土佐派の役割について、土佐派以前の絵所のあり方から始まり、土佐派内における同職継承の問題、歴代絵師の様式や画壇における位置などを、作品と同時代史料を追いながら講述する。なおその比較として同時代の狩野派や阿弥派などの漢画段の趨勢にも付随的に触れる。																				
◆ 到達目標	土佐派の成り立ちや動向を見ていくことで、日本絵画における土佐派の図様規範がいかに強かったかが把握することで、中近世絵画を形成した大きな基盤が把握できる。さらに狩野派などの漢画壇の立ち位置を対照することにより、室町絵画作品の深い理解ができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 宮廷絵所預の系譜と画風変遷</td> <td>9. 土佐派の革新(2) 土佐光信</td> </tr> <tr> <td>2. 土佐派の系図と環境</td> <td>10. 土佐派の新生(1) 土佐光茂</td> </tr> <tr> <td>3. 土佐派誕生背景-室町將軍の文化戦略</td> <td>11. 土佐派の新生(2) 土佐光茂</td> </tr> <tr> <td>4. 土佐派の創始 藤原行光</td> <td>12. 土佐派の確執 土佐光茂から光吉へ</td> </tr> <tr> <td>5. 土佐派の継承 藤原光益と六角派</td> <td>13. 漢画壇の動向(1) 阿弥派と筆様</td> </tr> <tr> <td>6. 土佐派の確立(1) 春日行秀と土佐行広</td> <td>14. 漢画壇の動向(2) 祥啓と狩野派</td> </tr> <tr> <td>7. 土佐派の確立(2) 土佐公周・行定</td> <td>15. まとめ 土佐派と狩野派</td> </tr> <tr> <td>8. 土佐派の革新(1) 土佐光信</td> <td></td> </tr> </table>					1. 宮廷絵所預の系譜と画風変遷	9. 土佐派の革新(2) 土佐光信	2. 土佐派の系図と環境	10. 土佐派の新生(1) 土佐光茂	3. 土佐派誕生背景-室町將軍の文化戦略	11. 土佐派の新生(2) 土佐光茂	4. 土佐派の創始 藤原行光	12. 土佐派の確執 土佐光茂から光吉へ	5. 土佐派の継承 藤原光益と六角派	13. 漢画壇の動向(1) 阿弥派と筆様	6. 土佐派の確立(1) 春日行秀と土佐行広	14. 漢画壇の動向(2) 祥啓と狩野派	7. 土佐派の確立(2) 土佐公周・行定	15. まとめ 土佐派と狩野派	8. 土佐派の革新(1) 土佐光信	
1. 宮廷絵所預の系譜と画風変遷	9. 土佐派の革新(2) 土佐光信																				
2. 土佐派の系図と環境	10. 土佐派の新生(1) 土佐光茂																				
3. 土佐派誕生背景-室町將軍の文化戦略	11. 土佐派の新生(2) 土佐光茂																				
4. 土佐派の創始 藤原行光	12. 土佐派の確執 土佐光茂から光吉へ																				
5. 土佐派の継承 藤原光益と六角派	13. 漢画壇の動向(1) 阿弥派と筆様																				
6. 土佐派の確立(1) 春日行秀と土佐行広	14. 漢画壇の動向(2) 祥啓と狩野派																				
7. 土佐派の確立(2) 土佐公周・行定	15. まとめ 土佐派と狩野派																				
8. 土佐派の革新(1) 土佐光信																					
◇ 成績評価の方法	(○) レポート [70%]・(○) 出席 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	授業中に適宜紹介するが、土佐派や室町画壇の趨勢に関する入門書を読んでおくことが望ましい。(講談社版『日本美術全集』第12巻など)																				
◇ 授業時間外学習	前回の授業の内容について、よく整理しておくこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 研 究 演 習 I History of Oriental and Japanese Fine Arts (Advanced Seminar) I	2	教授 長 岡 龍 作	1 学期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHIART605J																				
◆ 授業題目	美術史基礎資料読解																				
◆ 目的・概要	この演習では、美術と深く関わる基礎資料を深く読み込むとともに、その内容が残されている美術作品とどのように関わっているかについて探求し、資料の創造的な読みを実践しようとするものである。まずはじめに、永観二年(984)に、若くして出家した尊子内親王の為に源為憲が書いた仏教入門書である『三宝絵』をとりあげ、担当者は関連資料と関連作品をあげつつその内容について発表する。今年度は下巻第29話から始める。その後、『菅家文草』・『本朝文粹』・『江都督納言願文集』から造像に関わる願文を選び、それを素材としていく。																				
◆ 到達目標	基礎資料の読解力を身につけるとともに、美術史研究における資料の創造的な活用法を探求する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション—『三宝絵』について</td> <td>9. 発表準備</td> </tr> <tr> <td>2. 発表準備</td> <td>10. 願文を読む</td> </tr> <tr> <td>3. 発表準備</td> <td>11. 願文を読む</td> </tr> <tr> <td>4. 『三宝絵』を読む</td> <td>12. 願文を読む</td> </tr> <tr> <td>5. 『三宝絵』を読む</td> <td>13. 願文を読む</td> </tr> <tr> <td>6. 『三宝絵』を読む</td> <td>14. 願文を読む</td> </tr> <tr> <td>7. イントロダクション—願文について</td> <td>15. 総括と評価</td> </tr> <tr> <td>8. 発表準備</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション—『三宝絵』について	9. 発表準備	2. 発表準備	10. 願文を読む	3. 発表準備	11. 願文を読む	4. 『三宝絵』を読む	12. 願文を読む	5. 『三宝絵』を読む	13. 願文を読む	6. 『三宝絵』を読む	14. 願文を読む	7. イントロダクション—願文について	15. 総括と評価	8. 発表準備	
1. イントロダクション—『三宝絵』について	9. 発表準備																				
2. 発表準備	10. 願文を読む																				
3. 発表準備	11. 願文を読む																				
4. 『三宝絵』を読む	12. 願文を読む																				
5. 『三宝絵』を読む	13. 願文を読む																				
6. 『三宝絵』を読む	14. 願文を読む																				
7. イントロダクション—願文について	15. 総括と評価																				
8. 発表準備																					
◇ 成績評価の方法	出席 [50%]・発表内容 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	テキスト：『三宝絵 注好選』(新日本古典文学大系 岩波書店)、『菅家文草 菅家後集』(日本古典文学大系 岩波書店)、『本朝文粹』(新日本古典文学大系 岩波書店)、『江都督納言願文集注解』(塙書房)																				
◇ 授業時間外学習	参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。																				
その他：オフィスアワー：月・火・金の13:00~17:00(但し、授業時間外)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
東 洋 ・ 日 本 美 術 史 研 究 演 習 Ⅱ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Advanced Seminar) Ⅱ	2	泉 武 夫	2 学 期	水	4																
◆ 科目ナンバリング	LHIART606J																				
◆ 授業題目	図像集の研究																				
◆ 目的・概要	平安時代の図像集『別尊雑記』を取り上げる。担当箇所の講読、ならびに読解を通じて、宗教美術史の方法論を学び、研究する。																				
◆ 到達目標	(1)図像集の基本的構成法を学ぶ。 (2)仏教造形の図像学的研究方法を理解する。 (3)校刊資料と原本との比較対照を通じて、図像資料の扱い方の基礎を習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 8</td> </tr> <tr> <td>2. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 1</td> <td>10. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 9</td> </tr> <tr> <td>3. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 2</td> <td>11. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 10</td> </tr> <tr> <td>4. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 3</td> <td>12. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 11</td> </tr> <tr> <td>5. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 4</td> <td>13. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 12</td> </tr> <tr> <td>6. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 5</td> <td>14. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 13</td> </tr> <tr> <td>7. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 6</td> <td>15. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 14</td> </tr> <tr> <td>8. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 7</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 8	2. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 1	10. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 9	3. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 2	11. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 10	4. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 3	12. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 11	5. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 4	13. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 12	6. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 5	14. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 13	7. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 6	15. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 14	8. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 7	
1. イントロダクション	9. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 8																				
2. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 1	10. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 9																				
3. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 2	11. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 10																				
4. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 3	12. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 11																				
5. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 4	13. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 12																				
6. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 5	14. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 13																				
7. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 6	15. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 14																				
8. 『別尊雑記』の講読ならびに読解 7																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () レポート [%] ・ (○) 出席 [20%] (○) その他 (授業内発表) [80%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書はなし。影印本の図像集のコピーをテキストに用いる。適宜、大正新脩大藏経所収の活字本も参照する。																				
◇ 授業時間外学習	授業内容をよく整理し、不明な点は次の授業で確認する。																				
その他：オフィスアワー：火～木の13：00～17：00 (但し、授業時間外)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 特 論 I Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Lecture) I	2	教授 尾 崎 彰 宏	1 学期	金	3																
◆ 科目ナンバリング	LHIART607J																				
◆ 授業題目	ネーデルラント美術と感性の論理																				
◆ 目的・概要	現在、研究を進行させている「西洋近世・近代美術における市場・流通・画商の地政経済史的研究」の研究成果を盛りこみながら、ネーデルラント美術の創造性がどのように生まれたのかを探っていきたい。その問題と並行して、感性論としての美術史としてアルプス以北の美術作品に見られる「視覚」の新しい試み、つまりいかに触覚的な要素が美術作品に反映しているのか、アルチンボルドやボッスなどさまざまなネーデルラントの画家を例に取りながら、アプローチしていきたい。現在研究中の課題であり、1回目の授業において、特論のおおよその見取り図を示すようにしたい。																				
◆ 到達目標	美術作品の解説には、時代によってさまざまなアプローチがなされてきたが、鑑賞者の感性が作品解釈に大きなウェイトを占めること理解し、美術作品にアプローチする新たな方法論を学べる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 17世紀ネーデルラント絵画Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>2. 初期ネーデルラント絵画Ⅰ</td> <td>10. 17世紀ネーデルラント絵画Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>3. 初期ネーデルラント絵画Ⅱ</td> <td>11. レンブラントⅠ</td> </tr> <tr> <td>4. 初期ネーデルラント絵画Ⅲ</td> <td>12. レンブラントⅡ</td> </tr> <tr> <td>5. 16世紀ネーデルラント絵画Ⅰ</td> <td>13. レンブラントⅢ</td> </tr> <tr> <td>6. 16世紀ネーデルラント絵画Ⅱ</td> <td>14. 18世紀ネーデルラント美術</td> </tr> <tr> <td>7. 16世紀ネーデルラント絵画Ⅲ</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 17世紀ネーデルラント絵画Ⅰ</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 17世紀ネーデルラント絵画Ⅱ	2. 初期ネーデルラント絵画Ⅰ	10. 17世紀ネーデルラント絵画Ⅲ	3. 初期ネーデルラント絵画Ⅱ	11. レンブラントⅠ	4. 初期ネーデルラント絵画Ⅲ	12. レンブラントⅡ	5. 16世紀ネーデルラント絵画Ⅰ	13. レンブラントⅢ	6. 16世紀ネーデルラント絵画Ⅱ	14. 18世紀ネーデルラント美術	7. 16世紀ネーデルラント絵画Ⅲ	15. まとめ	8. 17世紀ネーデルラント絵画Ⅰ	
1. イントロダクション	9. 17世紀ネーデルラント絵画Ⅱ																				
2. 初期ネーデルラント絵画Ⅰ	10. 17世紀ネーデルラント絵画Ⅲ																				
3. 初期ネーデルラント絵画Ⅱ	11. レンブラントⅠ																				
4. 初期ネーデルラント絵画Ⅲ	12. レンブラントⅡ																				
5. 16世紀ネーデルラント絵画Ⅰ	13. レンブラントⅢ																				
6. 16世紀ネーデルラント絵画Ⅱ	14. 18世紀ネーデルラント美術																				
7. 16世紀ネーデルラント絵画Ⅲ	15. まとめ																				
8. 17世紀ネーデルラント絵画Ⅰ																					
◇ 成績評価の方法	レポート／試験																				
◇ 教科書・参考書	教室で指示する																				
◇ 授業時間外学習	講義で紹介した文献を自分で参照したり、美術館で作品を実際に見たりする作業が必要。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 特 論 I Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Lecture) I	2	准教授 芳 賀 京 子	2 学期	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LHIART607J																				
◆ 授業題目	古代ギリシア・ローマの神々と神域																				
◆ 目的・概要	古代ギリシア・ローマの神々は、同じ神であっても土地によってさまざまな祀られ方をしてきた。神像や奉納品といった出土品を、神域の遺構や伝承とともに考察することで、古代「美術」を多角的に捉え直すことを試みる。																				
◆ 到達目標	ギリシア・ローマの神々の信仰と神域について理解し、自分の考察を加えることができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 序</td> <td>9. デイオニュソス信仰と演劇</td> </tr> <tr> <td>2. オリュンピアのゼウス競技祭</td> <td>10. アスクレピオス信仰と医学</td> </tr> <tr> <td>3. デルフォイのアポロンの神域と神託</td> <td>11. ローマのサトゥルヌス</td> </tr> <tr> <td>4. サモスのヘラ神域</td> <td>12. ヘステティア／ウェスタ</td> </tr> <tr> <td>5. エフェソスのアルテミス神域</td> <td>13. ウェヌスとマルス</td> </tr> <tr> <td>6. スパルタのアルテミス・オルティア ブラウロンのアルテミス</td> <td>14. ヘルクレス</td> </tr> <tr> <td>7. エレウシスの信仰（デメテル、コレー、ブルートン）</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. アテナイのアテナ信仰</td> <td></td> </tr> </table>					1. 序	9. デイオニュソス信仰と演劇	2. オリュンピアのゼウス競技祭	10. アスクレピオス信仰と医学	3. デルフォイのアポロンの神域と神託	11. ローマのサトゥルヌス	4. サモスのヘラ神域	12. ヘステティア／ウェスタ	5. エフェソスのアルテミス神域	13. ウェヌスとマルス	6. スパルタのアルテミス・オルティア ブラウロンのアルテミス	14. ヘルクレス	7. エレウシスの信仰（デメテル、コレー、ブルートン）	15. まとめ	8. アテナイのアテナ信仰	
1. 序	9. デイオニュソス信仰と演劇																				
2. オリュンピアのゼウス競技祭	10. アスクレピオス信仰と医学																				
3. デルフォイのアポロンの神域と神託	11. ローマのサトゥルヌス																				
4. サモスのヘラ神域	12. ヘステティア／ウェスタ																				
5. エフェソスのアルテミス神域	13. ウェヌスとマルス																				
6. スパルタのアルテミス・オルティア ブラウロンのアルテミス	14. ヘルクレス																				
7. エレウシスの信仰（デメテル、コレー、ブルートン）	15. まとめ																				
8. アテナイのアテナ信仰																					
◇ 成績評価の方法	レポートによる。																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業中に指示する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 特 論 I Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師 足 達 薫	集 中 (1)		
◆ 科目ナンバリング	LHIART607J				
◆ 授業題目	マニエリスム形成期における美術と「魔術的なもの」				
◆ 目的・概要	マニエリスム形成期における美術と「魔術的なもの」の相互作用を、ディスクリプションおよび原テクストとの比較を通じて、再構成していきます。				
◆ 到達目標	マニエリスムの形成を促した文化的コンテクストの分析を通じて、受講者各自の問題意識の中で美術史学の方法を省察し、基本的ツールの有効性を確認すること。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言葉とイメージのゲーム ※各回、変更や入れ替えをすることがあります 2. 美術史学における「魔術的なもの」 3. ティツィアーノの三頭像 4. ジュリオ・カミッロ「記憶の劇場」(1) 5. ジュリオ・カミッロ「記憶の劇場」(2) 6. 記憶術師としての美術家 7. カメラ・ディ・サン・パオロの2つの部屋(1) 8. カメラ・ディ・サン・パオロの2つの部屋(2) 9. ロッカ・ディ・フォンタネッラートのカメリーノ(1) 10. ロッカ・ディ・フォンタネッラートのカメリーノ(2) 11. ベトラルキズム 12. 鏡としての絵画 13. キリストのセクシュアリティ 14. パルミジャーノ《バラの聖母》(1) 15. パルミジャーノ《バラの聖母》(2) 				
◇ 成績評価の方法	レポート				
◇ 教科書・参考書	研究史的流れはフランセス・イエイツ『記憶術』（水声社）、ダニエル・アラス『モナリザの秘密』（白水社）、リナ・ボルツォーニ『記憶の部屋』（ありな書房）を参照のこと。				
◇ 授業時間外学習	上記の著作を参考にすること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 研 究 演 習 I Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar) I	2	教授 尾 崎 彰 宏	1 学期	金	5
◆ 科目ナンバリング	LHIART609J				
◆ 授業題目	西洋美術史にかんする方法論の諸問題				
◆ 目的・概要	西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、その問題点や研究上活用できる研究方法について学び、議論を重ねていく。The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboekに掲載された論文を中心に取りあげる。				
◆ 到達目標	西洋美術史の最新研究にふれながら、ルネサンス以降の美術作品の研究動向を熟知できる。批判力や作品を分析する能力が身につくと同時に、英文を精読するスキルが身につく。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. ルネサンス関連の論文読解1 3. ルネサンス関連の論文読解2 4. ルネサンス関連の論文読解3 5. ネーデルラント美術の論文読解1 6. ネーデルラント美術の論文読解2 7. ネーデルラント美術の論文読解3 8. バロック美術に関する論文読解1 9. バロック美術に関する論文読解2 10. バロック美術に関する論文読解3 11. 近世・近代美術の論文読解1 12. 近世・近代美術の論文読解2 13. 近世・近代美術の論文読解3 14. 美術史の方法論に関する論文読解 15. まとめ 				
◇ 成績評価の方法	出席・平常点・レポート				
◇ 教科書・参考書	授業で指示する。				
◇ 授業時間外学習	欧文の論文を前もって予習してくる必要がある。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたるのが求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要があり、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 研 究 演 習 II Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar) II	2	教授 尾 崎 彰 宏	2 学 期	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHIART610J																				
◆ 授業題目	西洋美術史にかんする方法論の諸問題																				
◆ 目的・概要	西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、その問題点や研究上活用できる研究方法について学び、議論を重ねていく。The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboek に掲載された論文を中心に取りあげる。2016年前半に刊行される最新の研究書の中から興味深い部分を取りあげる。(この演習は前期からの続きなので、IとIIの両方を履修することが望ましい)西洋美術史の最新研究にふれながら、ルネサンス以降の美術作品の研究動向を熟知できると同時に英文を精読するスキルが身につく。																				
◆ 到達目標																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ルネサンス美術関係の文献読解 I</td> <td>9. 近世・近代のヨーロッパ美術関係の文献読解 I</td> </tr> <tr> <td>2. ルネサンス美術関係の文献読解 II</td> <td>10. 近世・近代のヨーロッパ美術関係の文献読解 II</td> </tr> <tr> <td>3. ルネサンス美術関係の文献読解 III</td> <td>11. 近世・近代のヨーロッパ美術関係の文献読解 III</td> </tr> <tr> <td>4. ルネサンス美術関係の読解 IV</td> <td>12. 近世・近代のヨーロッパ美術関係の文献読解 IV</td> </tr> <tr> <td>5. ドイツ・ネーデルラント美術関係の文献読解 I</td> <td>13. 美術史の現在にかんする方法論のアプローチ I</td> </tr> <tr> <td>6. ドイツ・ネーデルラント美術関係の文献読解 II</td> <td>14. 美術史の現在にかんする方法論のアプローチ II</td> </tr> <tr> <td>7. ドイツ・ネーデルラント美術関係の文献読解 III</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. ドイツ・ネーデルラント美術関係の文献読解 IV</td> <td></td> </tr> </table>					1. ルネサンス美術関係の文献読解 I	9. 近世・近代のヨーロッパ美術関係の文献読解 I	2. ルネサンス美術関係の文献読解 II	10. 近世・近代のヨーロッパ美術関係の文献読解 II	3. ルネサンス美術関係の文献読解 III	11. 近世・近代のヨーロッパ美術関係の文献読解 III	4. ルネサンス美術関係の読解 IV	12. 近世・近代のヨーロッパ美術関係の文献読解 IV	5. ドイツ・ネーデルラント美術関係の文献読解 I	13. 美術史の現在にかんする方法論のアプローチ I	6. ドイツ・ネーデルラント美術関係の文献読解 II	14. 美術史の現在にかんする方法論のアプローチ II	7. ドイツ・ネーデルラント美術関係の文献読解 III	15. まとめ	8. ドイツ・ネーデルラント美術関係の文献読解 IV	
1. ルネサンス美術関係の文献読解 I	9. 近世・近代のヨーロッパ美術関係の文献読解 I																				
2. ルネサンス美術関係の文献読解 II	10. 近世・近代のヨーロッパ美術関係の文献読解 II																				
3. ルネサンス美術関係の文献読解 III	11. 近世・近代のヨーロッパ美術関係の文献読解 III																				
4. ルネサンス美術関係の読解 IV	12. 近世・近代のヨーロッパ美術関係の文献読解 IV																				
5. ドイツ・ネーデルラント美術関係の文献読解 I	13. 美術史の現在にかんする方法論のアプローチ I																				
6. ドイツ・ネーデルラント美術関係の文献読解 II	14. 美術史の現在にかんする方法論のアプローチ II																				
7. ドイツ・ネーデルラント美術関係の文献読解 III	15. まとめ																				
8. ドイツ・ネーデルラント美術関係の文献読解 IV																					
◇ 成績評価の方法	出席／平常点／レポート																				
◇ 教科書・参考書	欧文の論文を前もって予習してこなければならない。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたることを求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要があり、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。																				
◇ 授業時間外学習	欧文の論文を前もって予習してこなければならない。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたることを求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要があり、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 研 究 演 習 I Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar) I	2	准教授 芳 賀 京 子	1 学 期	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHIART609J																				
◆ 授業題目	西洋古代・中世美術作品研究																				
◆ 目的・概要	美術作品について、欧文の先行研究をいくつか読み、それを簡潔にまとめた上で問題点を指摘し、自分なりの見解を提示する。																				
◆ 到達目標	美術作品について、自分なりの見解を提示することができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 発表(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 発表(1)</td> <td>10. 発表(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 発表(2)</td> <td>11. 発表(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 発表(3)</td> <td>12. 発表(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 発表(4)</td> <td>13. 発表(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表(5)</td> <td>14. 発表(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表(6)</td> <td>15. 発表(14)</td> </tr> <tr> <td>8. 発表(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 発表(8)	2. 発表(1)	10. 発表(9)	3. 発表(2)	11. 発表(10)	4. 発表(3)	12. 発表(11)	5. 発表(4)	13. 発表(12)	6. 発表(5)	14. 発表(13)	7. 発表(6)	15. 発表(14)	8. 発表(7)	
1. イントロダクション	9. 発表(8)																				
2. 発表(1)	10. 発表(9)																				
3. 発表(2)	11. 発表(10)																				
4. 発表(3)	12. 発表(11)																				
5. 発表(4)	13. 発表(12)																				
6. 発表(5)	14. 発表(13)																				
7. 発表(6)	15. 発表(14)																				
8. 発表(7)																					
◇ 成績評価の方法	授業での発表および議論への参加50%、レポート50%																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	各自、自分の発表およびレポートの準備を進めること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 研 究 演 習 Ⅱ Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授 芳 賀 京 子	2 学期	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LHIART610J																				
◆ 授業題目	西洋古代・中世美術作品研究																				
◆ 目的・概要	美術作品について、欧文の先行研究をいくつか読み、それを簡潔にまとめた上で問題点を指摘し、自分なりの見解を提示する。																				
◆ 到達目標	美術作品について、自分なりの見解を提示することができる。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. イントロダクション</td> <td style="width:50%;">9. 発表(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 発表(1)</td> <td>10. 発表(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 発表(2)</td> <td>11. 発表(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 発表(3)</td> <td>12. 発表(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 発表(4)</td> <td>13. 発表(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表(5)</td> <td>14. 発表(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表(6)</td> <td>15. 発表(14)</td> </tr> <tr> <td>8. 発表(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 発表(8)	2. 発表(1)	10. 発表(9)	3. 発表(2)	11. 発表(10)	4. 発表(3)	12. 発表(11)	5. 発表(4)	13. 発表(12)	6. 発表(5)	14. 発表(13)	7. 発表(6)	15. 発表(14)	8. 発表(7)	
1. イントロダクション	9. 発表(8)																				
2. 発表(1)	10. 発表(9)																				
3. 発表(2)	11. 発表(10)																				
4. 発表(3)	12. 発表(11)																				
5. 発表(4)	13. 発表(12)																				
6. 発表(5)	14. 発表(13)																				
7. 発表(6)	15. 発表(14)																				
8. 発表(7)																					
◇ 成績評価の方法	授業での発表および議論への参加50%、レポート50%																				
◇ 教科書・参考書	授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	各自、自分の発表およびレポートの準備を進めること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 研 究 演 習 Ⅰ Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar) Ⅰ	2	准教授 フォンガロ・エンリコ	1 学期	木	5																
◆ 科目ナンバリング	LHIART609J																				
◆ 授業題目	西洋美学演習（前期）																				
◆ 目的・概要	西洋美学に関する文献を原文で、場合によっては日本語訳を参照しながら精読し、そこに書かれた概念について説明を行なっていく。また、取り上げられたトピックにもとづき、美学の諸問題に関して議論を行なう。参加者は、自分の興味分野と問題意識にもとづき、積極的に議論に参加することが求められる。																				
◆ 到達目標	西洋美学に関する文献を精読し、西洋美学における基礎的な概念について理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. 授業の紹介。</td> <td style="width:50%;">9. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>2. 文献講読。</td> <td>10. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>3. 文献講読。</td> <td>11. 文献講読。</td> </tr> <tr> <td>4. 文献講読。</td> <td>12. 発表とディスカッションその一。</td> </tr> <tr> <td>5. 文献講読。</td> <td>13. 発表とディスカッションその二。</td> </tr> <tr> <td>6. 文献講読。</td> <td>14. 発表とディスカッションその三。</td> </tr> <tr> <td>7. 文献講読。</td> <td>15. 復習とまとめ。</td> </tr> <tr> <td>8. 文献講読。</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業の紹介。	9. 文献講読。	2. 文献講読。	10. 文献講読。	3. 文献講読。	11. 文献講読。	4. 文献講読。	12. 発表とディスカッションその一。	5. 文献講読。	13. 発表とディスカッションその二。	6. 文献講読。	14. 発表とディスカッションその三。	7. 文献講読。	15. 復習とまとめ。	8. 文献講読。	
1. 授業の紹介。	9. 文献講読。																				
2. 文献講読。	10. 文献講読。																				
3. 文献講読。	11. 文献講読。																				
4. 文献講読。	12. 発表とディスカッションその一。																				
5. 文献講読。	13. 発表とディスカッションその二。																				
6. 文献講読。	14. 発表とディスカッションその三。																				
7. 文献講読。	15. 復習とまとめ。																				
8. 文献講読。																					
◇ 成績評価の方法	発表、翻訳、授業における議論への参加などを総合して評価する。																				
◇ 教科書・参考書	講義中にプリントを配布する。																				
◇ 授業時間外学習	授業中に与えられた課題について自分の考えをまとめる。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
美学・西洋美術史研究演習Ⅱ Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar) Ⅱ	2	准教授	フォンガロ・エンリコ	2学期	木	5
◆ 科目ナンバリング	LHIART610J					
◆ 授業題目	西洋美学演習（後期）					
◆ 目的・概要	西洋美学に関する文献を原文で、場合によっては日本語訳を参照しながら精読し、そこに書かれた概念について説明を行なっていく。また、取り上げられたトピックにもとづき、美学の諸問題に関して議論を行なう。参加者は、自分の興味分野と問題意識にもとづき、積極的に議論に参加することが求められる。					
◆ 到達目標	西洋美学に関する文献を精読し、西洋美学における基礎的な概念について理解を深める。					
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の紹介。 2. 文献講読。 3. 文献講読。 4. 文献講読。 5. 文献講読。 6. 文献講読。 7. 文献講読。 8. 文献講読。 9. 文献講読。 10. 文献講読。 11. 文献講読。 12. 発表とディスカッションその一。 13. 発表とディスカッションその二。 14. 発表とディスカッションその三。 15. 復習とまとめ。 					
◇ 成績評価の方法	発表、翻訳、授業における議論への参加などを総合して評価する。					
◇ 教科書・参考書	講義中にプリントを配布する。					
◇ 授業時間外学習	授業中に出された課題について自分の考えをまとめる。					
その他：						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
美学・西洋美術史研究実習Ⅰ Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Laboratory Work) Ⅰ	2	教授 准教授	尾崎彰宏 芳賀京子	1学期	火	3・4
◆ 科目ナンバリング	LHIART611J					
◆ 授業題目	西洋美術の基礎知識と調査・展示研究					
◆ 目的・概要	美術作品の調査法を身につける。博物館・美術館をいくつか見学し、展示法や学芸員の職務について具体的に知る。					
◆ 到達目標	作品の調査・研究法を身につけ、美術作品の作品記述、写真撮影、カタログ化などを自分で行えるようになる。学芸員の仕事について具体的なイメージを持つ。					
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、ディスクリプション説明 2. レポート（ディスクリプション）提出 宮城県美術館見学（レオナルド・ダ・ヴィンチと《アンギアーリの戦い》展） 3. 展覧会評の発表、レポート提出 パワーポイントの使い方説明 4. 仙台市博物館見学（黄金のファラオと大ピラミッド展） 5. パワーポイント発表、レポート提出 西洋美術史発表①（エーゲ文明） 6. *以下は、平成28年度の特別展開催予定が公表されてから決めるため、未定。詳細は最初の授業で伝えます。 小テスト、西洋美術史発表②（ギリシア美術） 7. 小テスト、西洋美術史発表③（エトルリア美術） 8. 小テスト、西洋美術史発表④（ローマ美術） 9. 小テスト、西洋美術史発表⑤（古代末期／初期中世美術） カメラ説明 10. 小テスト、西洋美術史発表⑥（ビザンチン美術） 撮影練習（石膏像、油彩画） 11. 小テスト、西洋美術史発表⑦（ロマネスク美術） 撮影練習（ブロンズ像） 12. 小テスト、西洋美術史発表⑧（ロマネスク美術） 写真撮影講評 13. 美術館見学（日程は未定） 14. 美術館見学（日程は未定） 15. 美術館見学（日程は未定） 					
◇ 成績評価の方法	授業への参加・貢献（30%）、小テスト（20%）、小レポート（20%）、発表（30%）					
◇ 教科書・参考書	授業中に指示します。					
◇ 授業時間外学習	発表はしっかり準備すること。美術館・博物館見学の前に、あらかじめ自分で下調べしてください。見学の次の授業でレポートを提出してもらいます。西洋美術分野の基礎知識については、発表の次の授業で小テストを行います。					
その他：美術館・博物館の特別展入場料のほか、一度は他県美術館の見学もおこなう予定ですので、その旅費が必要となります。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
美 学 ・ 西 洋 美 術 史 研 究 実 習 Ⅱ Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Laboratory Work) Ⅱ	2	教授 尾崎彰宏 准教授 芳賀京子	2学期	火	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHIART612J																				
◆ 授業題目	美術作品の調査法について																				
◆ 目的・概要	美術史は何よりも作品観察から出発する。この作品をどのように観察し、それを言葉で表現するか、そのためにはどのようなアプローチが必要かを学ぶ。																				
◆ 到達目標	美術作品にかんするより高度な観察力と記述力を養うことができる																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 美術館へ作品見学Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>2. 美術史のモダニズムと方法Ⅰ</td> <td>10. 脱構築と精神分析的な美術史</td> </tr> <tr> <td>3. 美術史のモダニズムと方法Ⅱ</td> <td>11. 美術館へ作品見学Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>4. 視覚論Ⅰ</td> <td>12. 文化と美術史の関係</td> </tr> <tr> <td>5. 視覚論Ⅱ</td> <td>13. 美術におけるオリジナリティとは何か</td> </tr> <tr> <td>6. 社会学とマルクス主義的な美術論</td> <td>14. 美術館へ作品見学Ⅳ</td> </tr> <tr> <td>7. 美術館へ作品見学Ⅰ</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. フェミニズムの美術論</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 美術館へ作品見学Ⅱ	2. 美術史のモダニズムと方法Ⅰ	10. 脱構築と精神分析的な美術史	3. 美術史のモダニズムと方法Ⅱ	11. 美術館へ作品見学Ⅲ	4. 視覚論Ⅰ	12. 文化と美術史の関係	5. 視覚論Ⅱ	13. 美術におけるオリジナリティとは何か	6. 社会学とマルクス主義的な美術論	14. 美術館へ作品見学Ⅳ	7. 美術館へ作品見学Ⅰ	15. まとめ	8. フェミニズムの美術論	
1. イントロダクション	9. 美術館へ作品見学Ⅱ																				
2. 美術史のモダニズムと方法Ⅰ	10. 脱構築と精神分析的な美術史																				
3. 美術史のモダニズムと方法Ⅱ	11. 美術館へ作品見学Ⅲ																				
4. 視覚論Ⅰ	12. 文化と美術史の関係																				
5. 視覚論Ⅱ	13. 美術におけるオリジナリティとは何か																				
6. 社会学とマルクス主義的な美術論	14. 美術館へ作品見学Ⅳ																				
7. 美術館へ作品見学Ⅰ	15. まとめ																				
8. フェミニズムの美術論																					
◇ 成績評価の方法	出席／平常点／レポート																				
◇ 教科書・参考書	ジャンソン『美術の歴史』、その他は授業時間に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	できるだけ美術館、博物館に足を運びじかに作品に接するようにする。できれば、ヨーロッパの美術館へ出かけることができれば、大きく視野が広がる。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
ユ ー ラ シ ア 文 化 史 特 論 I Eurasian Cultural History (Advanced Lecture) I	2	教授 寺 山 恭 輔	1 学 期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS672J																				
◆ 授業題目	スターリン時代のソ連の対モンゴル政策																				
◆ 目的・概要	現在のモンゴルはかつて清朝の支配下にあったが、20世紀初頭に独立を宣言、最終的に中華民国から独立を認められ、1946年に独立を果たした。それまでの過程について主として、ロシア側の視点から考察する。ロシアで近年刊行されている文書集や研究を紹介し、ロシアの公文書館に保管されている一次史料も活用して、モンゴル独立に果たしたソ連の役割について考察する。																				
◆ 到達目標	①現在の研究の進展状況、史料の公開状況を理解する。 ②新たに提示する一次史料によって、これまでの見解がどのように訂正されるのか理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 帝政時代のロシアの対モンゴル政策</td> <td>9. 同上</td> </tr> <tr> <td>2. 同上</td> <td>10. 同上</td> </tr> <tr> <td>3. 辛亥革命、ロシア革命とモンゴル</td> <td>11. 同上</td> </tr> <tr> <td>4. 同上</td> <td>12. 1939年のノモンハン事件</td> </tr> <tr> <td>5. 1920年代のソ連の対モンゴル政策</td> <td>13. 第二次世界大戦とモンゴル</td> </tr> <tr> <td>6. 同上</td> <td>14. モンゴル独立とスターリン</td> </tr> <tr> <td>7. 同上</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 1930年代のソ連の対モンゴル政策</td> <td></td> </tr> </table>					1. 帝政時代のロシアの対モンゴル政策	9. 同上	2. 同上	10. 同上	3. 辛亥革命、ロシア革命とモンゴル	11. 同上	4. 同上	12. 1939年のノモンハン事件	5. 1920年代のソ連の対モンゴル政策	13. 第二次世界大戦とモンゴル	6. 同上	14. モンゴル独立とスターリン	7. 同上	15. まとめ	8. 1930年代のソ連の対モンゴル政策	
1. 帝政時代のロシアの対モンゴル政策	9. 同上																				
2. 同上	10. 同上																				
3. 辛亥革命、ロシア革命とモンゴル	11. 同上																				
4. 同上	12. 1939年のノモンハン事件																				
5. 1920年代のソ連の対モンゴル政策	13. 第二次世界大戦とモンゴル																				
6. 同上	14. モンゴル独立とスターリン																				
7. 同上	15. まとめ																				
8. 1930年代のソ連の対モンゴル政策																					
◇ 成績評価の方法	授業への出席、質疑の内容で評価する。																				
◇ 教科書・参考書	授業中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回の授業で出された課題に関連した書籍や論文を読んで、次回の講義の参考にすること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
ユ ー ラ シ ア 文 化 史 特 論 II Eurasian Cultural History (Advanced Lecture) II	2	教授 寺 山 恭 輔	2 学 期	金	2																
◆ 科目ナンバリング	LHIHIS673J																				
◆ 授業題目	スターリン時代の鉄道・動員政策																				
◆ 目的・概要	昨年度の前半に引き続き、1920年代から第二次大戦までの時期について、極東地方を中心とするソ連の鉄道政策（シベリア鉄道、バイカル・アムール鉄道）に焦点をあてる。スターリン時代のソ連を、一党独裁体制のもとでの上からの人的・物的資源の動員という観点から考察する。先行研究を総括したうえで、ロシアの公文書館で発掘した一次史料によって、新たにどのようなことがいえるのか検討する。																				
◆ 到達目標	①スターリン時代のソ連の政治体制、政策決定過程を理解する。 ②特にその鉄道を中心とする動員政策の特徴を理解し、それが社会に及ぼした影響について理解する。 ③ロシアにおける史料探索の実際的方法を学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 本題目に関する先行研究（日本語、英語、ロシア語）を紹介する。</td> <td>8. 同じ作業を1930年代についても行う</td> </tr> <tr> <td>2. 同上</td> <td>9. 同上</td> </tr> <tr> <td>3. 同上</td> <td>10. 同上</td> </tr> <tr> <td>4. 同上</td> <td>11. 第二次大戦時についてまとめる</td> </tr> <tr> <td>5. ソ連共産党中央委員会政治局決定事項集を活用し、1920年代の本題目に関する政治局の決定をまとめる。</td> <td>12. 同上</td> </tr> <tr> <td>6. 同上</td> <td>13. 同上</td> </tr> <tr> <td>7. 同上</td> <td>14. 同上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 総括する</td> </tr> </table>					1. 本題目に関する先行研究（日本語、英語、ロシア語）を紹介する。	8. 同じ作業を1930年代についても行う	2. 同上	9. 同上	3. 同上	10. 同上	4. 同上	11. 第二次大戦時についてまとめる	5. ソ連共産党中央委員会政治局決定事項集を活用し、1920年代の本題目に関する政治局の決定をまとめる。	12. 同上	6. 同上	13. 同上	7. 同上	14. 同上		15. 総括する
1. 本題目に関する先行研究（日本語、英語、ロシア語）を紹介する。	8. 同じ作業を1930年代についても行う																				
2. 同上	9. 同上																				
3. 同上	10. 同上																				
4. 同上	11. 第二次大戦時についてまとめる																				
5. ソ連共産党中央委員会政治局決定事項集を活用し、1920年代の本題目に関する政治局の決定をまとめる。	12. 同上																				
6. 同上	13. 同上																				
7. 同上	14. 同上																				
	15. 総括する																				
◇ 成績評価の方法	授業への出席（80%）、レポート（20%）で評価する。																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書はその都度紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	本題目に関連した文献をよむこと。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
ユ ー ラ シ ア 文 化 史 研 究 演 習 I Eurasian Cultural History (Advanced Seminar) I	2	教授 寺 山 恭 輔	1 学 期	金	4
<p>◆ 科目ナンバリング LHIHIS676J</p> <p>◆ 授業題目 ソ連史文献研究 I</p> <p>◆ 目的・概要 受講者の読解力のレベルにより適宜テキストを選択する。受講者は交代で論文の要旨をまとめて発表し、それを参加者全員が論評、議論する形で理解を深める。</p> <p>◆ 到達目標 ①. 研究文献を読むことにより、ロシア・ソ連史を研究するために必要なロシア語の読解力を高める。 ②. 参考文献の探し方、引用の方法も同時に学ぶ。</p> <p>◆ 授業内容・方法 1. 担当となる受講者は、事前に自分の関心のあるテーマに関する論文を選抜し、受講者全員に配布するとともに、発表当日には要旨を参加者の人数分配布し、内容を発表する。以下、毎週同じ。</p> <p>◇ 成績評価の方法 出席と発表の内容、議論への参加（100%）</p> <p>◇ 教科書・参考書 教科書は使用しない。</p> <p>◇ 授業時間外学習 発表の担当でない受講者も、事前に配布される論文を読み、議論に参加すること。</p> <p>その他：</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
ユ ー ラ シ ア 文 化 史 研 究 演 習 II Eurasian Cultural History (Advanced Seminar) II	2	教授 寺 山 恭 輔	2 学 期	金	4
<p>◆ 科目ナンバリング LHIHIS677J</p> <p>◆ 授業題目 ソ連史文献研究 II</p> <p>◆ 目的・概要 前期と同じ</p> <p>◆ 到達目標 前期と同じ</p> <p>◆ 授業内容・方法 1. 前期に続く</p> <p>◇ 成績評価の方法 前期と同じ</p> <p>◇ 教科書・参考書 教科書は使用しない。</p> <p>◇ 授業時間外学習 前期と同じ</p> <p>その他：</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
理 論 社 会 学 特 論 Theoretical Sociology (Advanced Lecture)	2	教授 永 井 彰	1 学期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHUSOC601J				
◆ 授業題目	ハーバーマスの社会理論				
◆ 目的・概要	ハーバーマス社会理論を社会学理論の展開史のなかに位置づけその特徴を明らかにするとともに、ハーバーマス社会理論の論理構造を明示化し、その「可能性の中心」について検討する。				
◆ 到達目標	ハーバーマス社会理論の論理構造について理解できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. ハーバーマス研究の視座と方法 3. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置(1) 4. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置(2) 5. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置(3) 6. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置(4) 7. コミュニケーション行為理論の論理構造(1) 8. コミュニケーション行為理論の論理構造(2) 9. コミュニケーション行為理論と公共圏論 10. コミュニケーション行為概念の再規定 11. 生活世界論の再構成 12. 生活世界とシステム 13. ハーバーマスの社会理論の視座と方法 14. 再構成的社会学の可能性 15. 講義のまとめ 				
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [50%] (○) その他(受講票の提出など) [50%]				
◇ 教科書・参考書	永井彰『ハーバーマスの社会理論—視座と方法』。				
◇ 授業時間外学習	授業前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。 授業後に、レジメを参照しながら、教科書の該当箇所を読むこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
理 論 社 会 学 研 究 演 習 I Theoretical Sociology (Advanced Seminar) I	2	教授 永 井 彰	1 学期	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHUSOC602J				
◆ 授業題目	ハーバーマスの現代福祉国家論(1)				
◆ 目的・概要	Habermas の Faktizität und Geltung をドイツ語原文にもとづいて検討し、ハーバーマスの現代福祉国家論の論理構造を理解するとともに、その理論的射程を解明する。				
◆ 到達目標	ハーバーマスの現代福祉国家論の論理構造が理解できるようになる。 ハーバーマスの現代福祉国家論の理論的射程について、みずからの視点から論じることができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 事実性と妥当性の社会的媒介の категорияとしての法(1) 3. 事実性と妥当性の社会的媒介の categoriaとしての法(2) 4. 事実性と妥当性の社会的媒介の categoriaとしての法(3) 5. 社会学的法理論と哲学的正義論(1) 6. 社会学的法理論と哲学的正義論(2) 7. 社会学的法理論と哲学的正義論(3) 8. 権利の体系(1) 9. 権利の体系(2) 10. 権利の体系(3) 11. 法治国家の諸原理(1) 12. 法治国家の諸原理(2) 13. 法治国家の諸原理(3) 14. ハーバーマスの「権利の体系」論の検討 15. ハーバーマスの法治国家論の検討 				
◇ 成績評価の方法	授業への貢献度 (50%) とレポート (50%)				
◇ 教科書・参考書	Jürgen Habermas, Faktizität und Geltung. Beiträge zur Diskurstheorie des Rechts und des demokratischen Rechtsstaates. Suhrkamp, Frankfurt am Main 1992, ISBN 3-518-28961-6.				
◇ 授業時間外学習	予習：進む予定の箇所をドイツ語から日本語に訳出する。 復習：内容について解説メモを作成する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
理 論 社 会 学 研 究 演 習 Ⅱ Theoretical Sociology (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教 授 永 井 彰	2 学 期	金	2
◆ 科目ナンバリング	LHUSOC603J				
◆ 授業題目	ハーバーマスの現代福祉国家論(2)				
◆ 目的・概要	Habermas の Faktizität und Geltung をドイツ語原文にもとづいて検討し、ハーバーマスの現代福祉国家論の論理構造を理解するとともに、その理論的射程を解明する。				
◆ 到達目標	ハーバーマスの現代福祉国家論の論理構造が理解できるようになる。 ハーバーマスの現代福祉国家論の理論的射程について、みずからの視点から論じることができるようになる。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 熟議の政治(1) 3. 熟議の政治(2) 4. 熟議の政治(3) 5. 市民社会および政治的公共圏の役割(1) 6. 市民社会および政治的公共圏の役割(2) 7. 市民社会および政治的公共圏の役割(3) 8. 法のさまざまなパラダイム(1) 9. 法のさまざまなパラダイム(2) 10. 法のさまざまなパラダイム(3) 11. ハーバーマスの現代福祉国家論の形成過程(1) 12. ハーバーマスの現代福祉国家論の形成過程(2) 13. ハーバーマスの現代福祉国家論の形成過程(3) 14. ハーバーマスの市民社会論および公共圏論の検討 15. ハーバーマスの現代福祉国家論の検討 				
◇ 成績評価の方法	授業への貢献度 (50%) とレポート (50%)				
◇ 教科書・参考書	Jürgen Habermas, Faktizität und Geltung. Beiträge zur Diskurstheorie des Rechts und des demokratischen Rechtsstaates. Suhrkamp, Frankfurt am Main 1992, ISBN 3-518-28961-6.				
◇ 授業時間外学習	予習：進む予定の箇所をドイツ語から日本語に訳出する。 復習：内容について解読メモを作成する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
社 会 変 動 学 特 論 Theory of Social Change (Advanced Lecture)	2	教 授 下 夷 美 幸	2 学 期	火	1
◆ 科目ナンバリング	LHUSOC606J				
◆ 授業題目	家族政策の現状と論理				
◆ 目的・概要	家族社会学の応用力を養うことを目的とする。授業では、家族をめぐるケア（育児と介護）やひとり親家族の生活支援といった具体的な問題をとりあげ、主要先進諸国との比較も交えながら、日本の家族政策の現状および今後の課題について、講義、討論する（受講者の意見も聴取しながらすすめていく）。				
◆ 到達目標	(1)家族の変容や家族問題の実情について理解する。 (2)家族政策の現状と日本の特質について考察する。 (3)今後の家族政策の課題について探求する。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族政策の概念整理 2. 福祉国家と家族(1) 3. 福祉国家と家族(2) 4. 育児支援政策(1) 5. 育児支援政策(2) 6. 育児支援政策(3) 7. 育児支援政策(4) 8. 高齢者介護政策(1) 9. 高齢者介護政策(2) 10. 高齢者介護政策(3) 11. 高齢者介護政策(4) 12. ひとり親家族支援政策(1) 13. ひとり親家族支援政策(2) 14. ひとり親家族政策(3) 15. 授業のまとめ 				
◇ 成績評価の方法	コメントペーパー（復習）50%、課題レポート50%				
◇ 教科書・参考書	教科書・参考書は教室で指示する。				
◇ 授業時間外学習	(1)毎回の授業後、取り上げたテーマについて、授業内容を復習し、コメントペーパーに自分の考察を記述する。その際、関連する文献や資料などにもあたり、学習を深める。なお、コメントペーパーは翌週の授業で提出する。 (2)事前配布資料がある場合は、資料を読み込んで、自分の考えをまとめて授業にのぞむ。				
その他：授業内では皆さんの意見を聴取しながら進めます。どのような意見でもかまいませんので、自由に発言してください。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
社 会 変 動 学 研 究 演 習 I Theory of Social Change (Advanced Seminar) I	2	教授 長谷川 公 一	1 学期	水	1																
<p>◆ 科目ナンバリング LHUSOC607J</p> <p>◆ 授業題目 災害と復興の社会学Ⅰ</p> <p>◆ 目的・概要 東日本大震災と福島原発事故に関する英語および日本語の論文を詳細に検討し、災害と復興をめぐる社会学研究の成果と課題を考察する。</p> <p>◆ 到達目標 発災から5年が経過した東日本大震災と福島原発事故に関する国内外の研究の水準・到達点を理解し、災害と復興をめぐる社会学研究の成果と課題を考察する。とくに災害社会学と社会変動学、環境社会学、地域社会学、保健社会学、ジェンダー研究などとの関連を把握し、理論的な課題の所在および調査設計上の課題についても理解を深める。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション。</td> <td>9. 市民社会と災害研究2</td> </tr> <tr> <td>2. 災害社会学の特質1</td> <td>10. 社会的合意形成と災害研究</td> </tr> <tr> <td>3. 災害社会学の特質2</td> <td>11. 保健社会学と災害研究1</td> </tr> <tr> <td>4. 環境社会学と災害研究1</td> <td>12. 保健社会学と災害研究2</td> </tr> <tr> <td>5. 環境社会学と災害研究2</td> <td>13. ジェンダー研究と災害研究1</td> </tr> <tr> <td>6. 地域社会学と災害研究1</td> <td>14. ジェンダー研究と災害研究2</td> </tr> <tr> <td>7. 地域社会学と災害研究2</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 市民社会と災害研究1</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 () 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [70%] ・ (○) 出席 [30%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 教室にて指示する。</p> <p>◇ 授業時間外学習 あらかじめ課題文献を十二分に読み込んだうえで、質問をもって授業にのぞむ。前回の授業を咀嚼したうえで、前回分についても質問をもって授業にのぞむ。</p>						1. イントロダクション。	9. 市民社会と災害研究2	2. 災害社会学の特質1	10. 社会的合意形成と災害研究	3. 災害社会学の特質2	11. 保健社会学と災害研究1	4. 環境社会学と災害研究1	12. 保健社会学と災害研究2	5. 環境社会学と災害研究2	13. ジェンダー研究と災害研究1	6. 地域社会学と災害研究1	14. ジェンダー研究と災害研究2	7. 地域社会学と災害研究2	15. 授業のまとめ	8. 市民社会と災害研究1	
1. イントロダクション。	9. 市民社会と災害研究2																				
2. 災害社会学の特質1	10. 社会的合意形成と災害研究																				
3. 災害社会学の特質2	11. 保健社会学と災害研究1																				
4. 環境社会学と災害研究1	12. 保健社会学と災害研究2																				
5. 環境社会学と災害研究2	13. ジェンダー研究と災害研究1																				
6. 地域社会学と災害研究1	14. ジェンダー研究と災害研究2																				
7. 地域社会学と災害研究2	15. 授業のまとめ																				
8. 市民社会と災害研究1																					
その他：オフィスアワー：月5																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
社 会 変 動 学 研 究 演 習 II Theory of Social Change (Advanced Seminar) II	2	教授 長谷川 公 一	2 学期	水	1																
<p>◆ 科目ナンバリング LHUSOC608J</p> <p>◆ 授業題目 災害と復興の社会学Ⅱ</p> <p>◆ 目的・概要 東日本大震災と福島原発事故に関する英語および日本語の論文を詳細に検討し、災害と復興をめぐる社会学研究の成果と課題を考察する。</p> <p>◆ 到達目標 発災から5年が経過した東日本大震災と福島原発事故に関する国内外の研究の水準・到達点を理解し、災害と復興をめぐる社会学研究の成果と課題を考察する。とくに災害社会学と社会変動学、環境社会学、地域社会学、保健社会学、ジェンダー研究などとの関連を把握し、理論的な課題の所在および調査設計上の課題についても理解を深める。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 東日本大震災と災害・復興研究1</td> </tr> <tr> <td>2. 災害と復興研究の特質1</td> <td>10. 東日本大震災と災害・復興研究2</td> </tr> <tr> <td>3. 災害と復興研究の特質2</td> <td>11. 東日本大震災と災害・復興研究3</td> </tr> <tr> <td>4. 阪神淡路大震災と災害・復興研究1</td> <td>12. 福島原発事故と災害・復興研究1</td> </tr> <tr> <td>5. 阪神淡路大震災と災害・復興研究2</td> <td>13. 福島原発事故と災害・復興研究2</td> </tr> <tr> <td>6. 阪神淡路大震災と災害・復興研究3</td> <td>14. 福島原発事故と災害・復興研究3</td> </tr> <tr> <td>7. 中越地震と災害・復興研究1</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 中越地震と災害・復興研究2</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 () 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [70%] ・ (○) 出席 [30%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 教室にて指示する。</p> <p>◇ 授業時間外学習 あらかじめ課題文献を十二分に読み込んだうえで、質問をもって授業にのぞむ。前回の授業を咀嚼したうえで、前回分についても質問をもって授業にのぞむ。</p>						1. イントロダクション	9. 東日本大震災と災害・復興研究1	2. 災害と復興研究の特質1	10. 東日本大震災と災害・復興研究2	3. 災害と復興研究の特質2	11. 東日本大震災と災害・復興研究3	4. 阪神淡路大震災と災害・復興研究1	12. 福島原発事故と災害・復興研究1	5. 阪神淡路大震災と災害・復興研究2	13. 福島原発事故と災害・復興研究2	6. 阪神淡路大震災と災害・復興研究3	14. 福島原発事故と災害・復興研究3	7. 中越地震と災害・復興研究1	15. 授業のまとめ	8. 中越地震と災害・復興研究2	
1. イントロダクション	9. 東日本大震災と災害・復興研究1																				
2. 災害と復興研究の特質1	10. 東日本大震災と災害・復興研究2																				
3. 災害と復興研究の特質2	11. 東日本大震災と災害・復興研究3																				
4. 阪神淡路大震災と災害・復興研究1	12. 福島原発事故と災害・復興研究1																				
5. 阪神淡路大震災と災害・復興研究2	13. 福島原発事故と災害・復興研究2																				
6. 阪神淡路大震災と災害・復興研究3	14. 福島原発事故と災害・復興研究3																				
7. 中越地震と災害・復興研究1	15. 授業のまとめ																				
8. 中越地震と災害・復興研究2																					
その他：オフィスアワー：月5																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
社 会 変 動 学 研 究 演 習 Ⅲ Theory of Social Change (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教授 長谷川 公 一	1 学期	水	2																
<p>◆ 科目ナンバリング LHUSOC609J</p> <p>◆ 授業題目 環境社会学の課題と方法</p> <p>◆ 目的・概要 おもに環境社会学会の機関誌『環境社会学研究』に掲載された論文を詳細に検討し、環境社会学的研究の成果と今日的課題を考察する。</p> <p>◆ 到達目標 環境社会学に関する研究の水準・到達点を理解し、その成果と課題を考察する。理論的な課題の所在および調査設計上の課題についても理解を深める。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 地域づくりと環境社会学 1</td> </tr> <tr> <td>2. 気候変動問題と環境社会学 1</td> <td>10. 地域づくりと環境社会学 2</td> </tr> <tr> <td>3. 気候変動問題と環境社会学 2</td> <td>11. 廃棄物問題と環境社会学 1</td> </tr> <tr> <td>4. 気候変動問題と環境社会学 3</td> <td>12. 廃棄物問題と環境社会学 2</td> </tr> <tr> <td>5. 食と農の社会学と環境社会学 1</td> <td>13. 環境社会学の理論と方法 1</td> </tr> <tr> <td>6. 食と農の社会学と環境社会学 2</td> <td>14. 環境社会学の理論と方法 2</td> </tr> <tr> <td>7. 歴史的環境と環境社会学 1</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 歴史的環境と環境社会学 2</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 () 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [70%] ・ (○) 出席 [30%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 教室にて指示する。</p> <p>◇ 授業時間外学習 演習参加者全員があらかじめ課題文献を十二分に読み込んだうえで、質問をもって授業にのぞむ。前回の授業を咀嚼したうえで、前回分についても質問をもって授業にのぞむ。</p> <p>その他：オフィスアワー：月5</p>						1. イントロダクション	9. 地域づくりと環境社会学 1	2. 気候変動問題と環境社会学 1	10. 地域づくりと環境社会学 2	3. 気候変動問題と環境社会学 2	11. 廃棄物問題と環境社会学 1	4. 気候変動問題と環境社会学 3	12. 廃棄物問題と環境社会学 2	5. 食と農の社会学と環境社会学 1	13. 環境社会学の理論と方法 1	6. 食と農の社会学と環境社会学 2	14. 環境社会学の理論と方法 2	7. 歴史的環境と環境社会学 1	15. まとめ	8. 歴史的環境と環境社会学 2	
1. イントロダクション	9. 地域づくりと環境社会学 1																				
2. 気候変動問題と環境社会学 1	10. 地域づくりと環境社会学 2																				
3. 気候変動問題と環境社会学 2	11. 廃棄物問題と環境社会学 1																				
4. 気候変動問題と環境社会学 3	12. 廃棄物問題と環境社会学 2																				
5. 食と農の社会学と環境社会学 1	13. 環境社会学の理論と方法 1																				
6. 食と農の社会学と環境社会学 2	14. 環境社会学の理論と方法 2																				
7. 歴史的環境と環境社会学 1	15. まとめ																				
8. 歴史的環境と環境社会学 2																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
社 会 変 動 学 研 究 演 習 Ⅰ Theory of Social Change (Advanced Seminar) Ⅰ	2	教授 下 夷 美 幸	1 学期	火	3																
<p>◆ 科目ナンバリング LHUSOC607J</p> <p>◆ 授業題目 家族政策の基礎研究</p> <p>◆ 目的・概要 日本の家族政策を研究するうえでの基礎力の涵養を目的とする。授業では、家族をめぐる法政策に関する文献の読解と討論を通して、日本の家族政策の基本問題について議論、考察する。なお、文献と進め方については、初回に受講者と相談する。</p> <p>◆ 到達目標 (1)家族政策の基礎理論を習得する。 (2)家族政策の日本の特徴を探究する。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 演習の進め方について</td> <td>9. 文献の読解と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 文献の読解と討論(1)</td> <td>10. 文献の読解と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 文献の読解と討論(2)</td> <td>11. 文献の読解と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 文献の読解と討論(3)</td> <td>12. 文献の読解と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 文献の読解と討論(4)</td> <td>13. 文献の読解と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 文献の読解と討論(5)</td> <td>14. 文献の読解と討論(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 文献の読解と討論(6)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 文献の読解と討論(7)</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 課題リポート50%、授業内での報告・発言50%</p> <p>◇ 教科書・参考書 教科書・参考書は教室で指示する。</p> <p>◇ 授業時間外学習 毎回、授業前に該当文献を読みこみ、自分の意見をまとめて授業にのぞむ。報告を担当する際は、関連する文献や資料にもあたり、十分に調査して、報告資料を作成する。</p> <p>その他：授業初回に報告スケジュール（報告者と報告日）を決定するので、やむをえない事情で欠席する場合は、必ず事前にメールで連絡すること。</p>						1. 演習の進め方について	9. 文献の読解と討論(8)	2. 文献の読解と討論(1)	10. 文献の読解と討論(9)	3. 文献の読解と討論(2)	11. 文献の読解と討論(10)	4. 文献の読解と討論(3)	12. 文献の読解と討論(11)	5. 文献の読解と討論(4)	13. 文献の読解と討論(12)	6. 文献の読解と討論(5)	14. 文献の読解と討論(13)	7. 文献の読解と討論(6)	15. 授業のまとめ	8. 文献の読解と討論(7)	
1. 演習の進め方について	9. 文献の読解と討論(8)																				
2. 文献の読解と討論(1)	10. 文献の読解と討論(9)																				
3. 文献の読解と討論(2)	11. 文献の読解と討論(10)																				
4. 文献の読解と討論(3)	12. 文献の読解と討論(11)																				
5. 文献の読解と討論(4)	13. 文献の読解と討論(12)																				
6. 文献の読解と討論(5)	14. 文献の読解と討論(13)																				
7. 文献の読解と討論(6)	15. 授業のまとめ																				
8. 文献の読解と討論(7)																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
社 会 変 動 学 研 究 演 習 Ⅱ Theory of Social Change (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教授 下 夷 美 幸	2 学 期	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LHUSOC608J																				
◆ 授業題目	家族政策の基礎研究																				
◆ 目的・概要	※社会変動学研究演習Ⅰの続講 日本の家族政策を研究するうえでの基礎力の涵養を目的とする。授業では、家族をめぐる法政策に関する文献の読解と討論を通して、日本の家族政策の基本問題について議論、考察する。なお、文献と進め方については、初回に受講者と相談する。																				
◆ 到達目標	(1)家族政策の基礎理論を習得する。 (2)家族政策の日本の特徴を探究する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 演習の進め方について</td> <td>9. 文献の読解と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 文献の読解と討論(1)</td> <td>10. 文献の読解と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 文献の読解と討論(2)</td> <td>11. 文献の読解と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 文献の読解と討論(3)</td> <td>12. 文献の読解と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 文献の読解と討論(4)</td> <td>13. 文献の読解と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 文献の読解と討論(5)</td> <td>14. 文献の読解と討論(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 文献の読解と討論(6)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 文献の読解と討論(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 演習の進め方について	9. 文献の読解と討論(8)	2. 文献の読解と討論(1)	10. 文献の読解と討論(9)	3. 文献の読解と討論(2)	11. 文献の読解と討論(10)	4. 文献の読解と討論(3)	12. 文献の読解と討論(11)	5. 文献の読解と討論(4)	13. 文献の読解と討論(12)	6. 文献の読解と討論(5)	14. 文献の読解と討論(13)	7. 文献の読解と討論(6)	15. 授業のまとめ	8. 文献の読解と討論(7)	
1. 演習の進め方について	9. 文献の読解と討論(8)																				
2. 文献の読解と討論(1)	10. 文献の読解と討論(9)																				
3. 文献の読解と討論(2)	11. 文献の読解と討論(10)																				
4. 文献の読解と討論(3)	12. 文献の読解と討論(11)																				
5. 文献の読解と討論(4)	13. 文献の読解と討論(12)																				
6. 文献の読解と討論(5)	14. 文献の読解と討論(13)																				
7. 文献の読解と討論(6)	15. 授業のまとめ																				
8. 文献の読解と討論(7)																					
◇ 成績評価の方法	課題レポート50%、授業内での報告・発言50%																				
◇ 教科書・参考書	教科書・参考書は教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、授業前に該当文献を読みこみ、自分の意見をまとめて授業にのぞむ。報告を担当する際は、関連する文献や資料にもあたり、十分に調査して、報告資料を作成する。																				
社会変動学研究演習Ⅰを履修済みであること。 その他：授業初回に報告スケジュール（報告者と報告日）を決定するので、やむをえない事情で欠席する場合は、必ず事前にメールで連絡すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
社 会 変 動 学 研 究 演 習 Ⅳ Theory of Social Change (Advanced Seminar) Ⅳ	2	教授 下 夷 美 幸	2 学 期	火	5																
◆ 科目ナンバリング	LHUSOC610J																				
◆ 授業題目	家族問題と家族政策																				
◆ 目的・概要	現実の家族問題と家族政策に対する分析力を涵養することを目的とする。授業では、現代家族と社会政策に関する文献の読解と討論を通して、現状と今後の課題について考察する。文献と進め方、スケジュールについては、初回に参加者と相談する。																				
◆ 到達目標	(1)家族問題の実態を社会構造との関わりにおいて把握する。 (2)家族問題に対する政策対応の意義と限界を考察する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 演習の進め方について</td> <td>9. 文献の読解と討論(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 文献の読解と討論(1)</td> <td>10. 文献の読解と討論(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 文献の読解と討論(2)</td> <td>11. 文献の読解と討論(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 文献の読解と討論(3)</td> <td>12. 文献の読解と討論(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 文献の読解と討論(4)</td> <td>13. 文献の読解と討論(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 文献の読解と討論(5)</td> <td>14. 文献の読解と討論(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 文献の読解と討論(6)</td> <td>15. 授業のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 文献の読解と討論(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 演習の進め方について	9. 文献の読解と討論(8)	2. 文献の読解と討論(1)	10. 文献の読解と討論(9)	3. 文献の読解と討論(2)	11. 文献の読解と討論(10)	4. 文献の読解と討論(3)	12. 文献の読解と討論(11)	5. 文献の読解と討論(4)	13. 文献の読解と討論(12)	6. 文献の読解と討論(5)	14. 文献の読解と討論(13)	7. 文献の読解と討論(6)	15. 授業のまとめ	8. 文献の読解と討論(7)	
1. 演習の進め方について	9. 文献の読解と討論(8)																				
2. 文献の読解と討論(1)	10. 文献の読解と討論(9)																				
3. 文献の読解と討論(2)	11. 文献の読解と討論(10)																				
4. 文献の読解と討論(3)	12. 文献の読解と討論(11)																				
5. 文献の読解と討論(4)	13. 文献の読解と討論(12)																				
6. 文献の読解と討論(5)	14. 文献の読解と討論(13)																				
7. 文献の読解と討論(6)	15. 授業のまとめ																				
8. 文献の読解と討論(7)																					
◇ 成績評価の方法	課題レポート50%、授業内での報告・発言50%																				
◇ 教科書・参考書	教科書・参考書は教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、授業前に該当文献を読みこみ、自分の意見をまとめて授業にのぞむ。報告を担当する際は、関連する文献や資料にもあたり、十分に調査して、報告資料を作成する。																				
その他：授業初回に報告スケジュール（報告者と報告日）を決定するので、やむをえない事情で欠席する場合は、必ず事前にメールで連絡すること。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
地 域 社 会 学 特 論 Regional Sociology (Advanced Lecture)	2	准教授 小松丈晃	2学期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHUSOC611J				
◆ 授業題目	リスクと知／無知の社会学				
◆ 目的・概要	<p>自然災害のリスクなどへの対処には、自然科学のみならず人文・社会（科）学的な視点が必要である。学際的な広がりをもつリスク研究だが、この授業では、社会的なリスク研究を概観しながら、複雑化する現代社会におけるリスクとの「つきあい方」について考えていきたい。また、リスク論に対する社会学の貢献はどこにあるのか、逆にリスクについての考察は社会学に何をもたらすのか、そしてリスクについての社会学研究はなぜ必要か、等についても検討する。授業は全体として三つのパートからなる。まず(1)社会学におけるリスク研究について概説し、その後(2)科学社会学の展開状況をも踏まえつつ、科学に対する信頼や専門知の責任について考察する。最後に(3)災害に関する社会学研究を繕きながら、自然災害に向き合う社会のあり方について考える。</p>				
◆ 到達目標	<p>各アプローチの特徴と課題について理解できるようになる。 現代社会が直面するリスクとのつきあい方について自分なりの考察できる手がかりを得る。</p>				
◆ 授業内容・方法	<p>1. リスク社会という社会記述について 2. M.ダグラスの文化論とデュルケムの視点 3. 社会システム理論的なリスク研究 4. リスク・ガバナンスの枠組みと課題 5. 「リスクの社会的増幅／減衰（SARF）」論 6. リスク社会における信頼(1) 7. リスク社会における信頼(2) 8. 地域社会と科学—サイエンスカフェ／CBRの動向と課題—</p> <p>9. 科学・技術の社会学(1) 10. 科学・技術の社会学(2) 11. 災害社会学への視点(1) 12. 災害社会学への視点(2) 13. 災害社会学への視点(3) 14. 「無知」論への新しいまなざし—「想定外」の社会学のために— 15. まとめ</p>				
◇ 成績評価の方法	講義終了後のコミュニケーションペーパーへの記入内容と出席状況30%＋学期末のレポート70%で評価				
◇ 教科書・参考書	教科書はありません。トピックに応じて参考文献を授業の中で呈示します。				
◇ 授業時間外学習	適宜、授業において学習課題を出す予定です。				
その他：オフィスアワーは火曜18：00～18：30、研究室で受け付けます。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
地 域 社 会 学 研 究 演 習 I Regional Sociology (Advanced Seminar) I	2	准教授 小松丈晃	2学期	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHUSOC612J				
◆ 授業題目	リスクガバナンスのフレームワーク				
◆ 目的・概要	<p>ドイツの科学社会学者／環境社会学者で「安全なエネルギー供給に関する倫理委員会」委員もつとめたOrtwin RennのRisk Governance: Coping with Uncertainty in a Complex World, 2008（原文は英語）を主要テキストにしなが、「リスクガバナンス」の基本的な枠組みについて検討する。専門知に基づく「解析的」過程に、多様な関与者による「熟議」過程をいかに組み込みうるか（Rennはこれをanalytic-deliberative processと呼ぶが）がそこでのポイントになる。</p>				
◆ 到達目標	<p>・リスクガバナンスの枠組みを総合的に正確に理解できるようになること。 ・O.RennおよびIRGCのリスクガバナンス論の批判的考察をもふまえつつ、東日本大震災前後の状況について自分なりの議論を行いうるようになること。</p>				
◆ 授業内容・方法	<p>1. リスク概念についての整理 2. 学際的なリスク研究の動向の分析 3. リスクガバナンスの予備評価段階 4. リスク認知（risk perception）について(1) 5. リスク認知（risk perception）について(2) 6. リスク評価（risk assessment）について(1) 7. リスク評価（risk assessment）について(2) 8. リスク管理（risk management）について(1)</p> <p>9. リスク管理（risk management）について(2) 10. リスクコミュニケーションの課題(1) 11. リスクコミュニケーションの課題(2) 12. ステークホルダーの参加の過程 13. リスクガバナンスの基本モデルの全体像(1) 14. リスクガバナンスの基本モデルの全体像(2) 15. リスクガバナンスの基本モデルの全体像(3)</p>				
◇ 成績評価の方法	出席50%と毎回の報告内容50%による。				
◇ 教科書・参考書	Renn,O.2008,Risk Governance: Coping with Uncertainty in a Complex World,Earthscan.				
◇ 授業時間外学習	毎回、扱う予定のテーマについて入念に検討し報告レジュメを作成してくる。				
その他：オフィスアワーは火曜18：00～18：30、研究室で受け付けます。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時		
地 域 社 会 学 研 究 演 習 II Regional Sociology (Advanced Seminar) II	2	准教授 小 松 丈 晃	2 学期	火	4		
◆ 科目ナンバリング	LHUSOC613J						
◆ 授業題目	リスクと不確実性の社会学						
◆ 目的・概要	「リスク」や「不確実性」は社会（科）学の中心テーマの一つとなっているが、この授業では P. Taylor-Gooby & J. Zinn, 2006, Risk in Social Science, Oxford UP. を主なテキストにしながら（他のテキストも適宜参照する）、社会学が多様な領域でこのテーマと関わらざるを得なくなっている現代的状況について考察する。						
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会学の外国語の専門文献の読解方法を身につける。 ・リスクや不確実性を社会的に論じるさいの基本的視角を学ぶ。 ・議論の拡がりを知るとともに、このテーマに対する領域ごとのアプローチの違いについても理解できる。 						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学際的研究対象としてのリスク 2. 新しいリスクの管理について 3. 地域の犯罪とリスク 4. 環境・テクノロジー・リスク(1) 5. 環境・テクノロジー・リスク(2) 6. 日常生活の中のリスク 7. 親密な関係とリスク 8. 健康とリスク </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. ライフコースの中のリスク 10. リスクの規制(1) 11. リスクの規制(2) 12. 不平等とリスク 13. メディアとリスク 14. 個人化するリスク 15. 総合討論 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. 学際的研究対象としてのリスク 2. 新しいリスクの管理について 3. 地域の犯罪とリスク 4. 環境・テクノロジー・リスク(1) 5. 環境・テクノロジー・リスク(2) 6. 日常生活の中のリスク 7. 親密な関係とリスク 8. 健康とリスク 	<ol style="list-style-type: none"> 9. ライフコースの中のリスク 10. リスクの規制(1) 11. リスクの規制(2) 12. 不平等とリスク 13. メディアとリスク 14. 個人化するリスク 15. 総合討論
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学際的研究対象としてのリスク 2. 新しいリスクの管理について 3. 地域の犯罪とリスク 4. 環境・テクノロジー・リスク(1) 5. 環境・テクノロジー・リスク(2) 6. 日常生活の中のリスク 7. 親密な関係とリスク 8. 健康とリスク 	<ol style="list-style-type: none"> 9. ライフコースの中のリスク 10. リスクの規制(1) 11. リスクの規制(2) 12. 不平等とリスク 13. メディアとリスク 14. 個人化するリスク 15. 総合討論 						
◇ 成績評価の方法	出席50%と毎回の報告内容50%で評価します。						
◇ 教科書・参考書	〔主要テキスト〕 Taylor-Gooby, P. & J. Zinn, 2006, Risk in Social Science, Oxford UP. 〔参考書〕 Zinn, J. O., 2008, Social Theories of Risk and Uncertainty, Blackwell.						
◇ 授業時間外学習	毎回、扱う予定のテーマについて入念に検討し報告レジュメを作成してくる						
その他：オフィスアワーは火曜18：00～18：30、研究室にて受け付けます。							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時		
社 会 学 特 論 I Sociology (Advanced Lecture) I	2	非常勤講師 小 林 一 穂	1 学期	水	3		
◆ 科目ナンバリング	LHUSOC621J						
◆ 授業題目	質的調査の方法						
◆ 目的・概要	質的調査の多様な方法と実際の分析とを紹介する。						
◆ 到達目標	質的調査の方法を学び、基礎的な技法に基づいて実践できるようになることを目指す。						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会調査の意義と目的 2. 質的調査の特徴 3. フィールドワーク 4. インタビュー 5. 参与観察 6. アクション・リサーチ 7. ドキュメント分析 8. ライフヒストリー分析 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. コーディングと類型化 10. 報告書の作成 11. 家族調査の実際 12. 社会福祉調査の実際 13. 地域調査の実際 14. 調査倫理 15. まとめ </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会調査の意義と目的 2. 質的調査の特徴 3. フィールドワーク 4. インタビュー 5. 参与観察 6. アクション・リサーチ 7. ドキュメント分析 8. ライフヒストリー分析 	<ol style="list-style-type: none"> 9. コーディングと類型化 10. 報告書の作成 11. 家族調査の実際 12. 社会福祉調査の実際 13. 地域調査の実際 14. 調査倫理 15. まとめ
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会調査の意義と目的 2. 質的調査の特徴 3. フィールドワーク 4. インタビュー 5. 参与観察 6. アクション・リサーチ 7. ドキュメント分析 8. ライフヒストリー分析 	<ol style="list-style-type: none"> 9. コーディングと類型化 10. 報告書の作成 11. 家族調査の実際 12. 社会福祉調査の実際 13. 地域調査の実際 14. 調査倫理 15. まとめ 						
◇ 成績評価の方法	レポート（50%）、出席（50%）						
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は授業中に指示する。						
◇ 授業時間外学習	参考書等関連文献に目を通すこと						
その他：オフィスアワー：随時メールで。							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
社 会 学 特 論 II Sociology (Advanced Lecture) II	2	非常勤 講師 小 林 一 穂	2 学期	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHUSOC622J																				
◆ 授業題目	フィールドワークの実際																				
◆ 目的・概要	地域調査の実際を紹介する。調査企画から実査、資料やデータの整理と分析、報告にまとめるまでを説明する。																				
◆ 到達目標	フィールドワークの取り組み方について高度な理解を目指す。とくに地域調査の実際を理解する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 質的調査法の概説</td> <td>9. 日本農村調査の実際：聞き取りと資料分析</td> </tr> <tr> <td>2. 客観主義的方法</td> <td>10. 日本農村調査の実際：データの整理</td> </tr> <tr> <td>3. 解釈学的方法</td> <td>11. 中国農村の問題状況</td> </tr> <tr> <td>4. 構築主義的方法</td> <td>12. 中国農村調査の実際：企画と設計</td> </tr> <tr> <td>5. 実践的アプローチ</td> <td>13. 中国農村調査の実際：聞き取りと資料分析</td> </tr> <tr> <td>6. 地域調査の課題と方法</td> <td>14. 中国農村調査の実際：データの整理</td> </tr> <tr> <td>7. 日本農村の問題状況</td> <td>15. まとめ：報告書の作成</td> </tr> <tr> <td>8. 日本農村調査の実際：企画と設計</td> <td></td> </tr> </table>					1. 質的調査法の概説	9. 日本農村調査の実際：聞き取りと資料分析	2. 客観主義的方法	10. 日本農村調査の実際：データの整理	3. 解釈学的方法	11. 中国農村の問題状況	4. 構築主義的方法	12. 中国農村調査の実際：企画と設計	5. 実践的アプローチ	13. 中国農村調査の実際：聞き取りと資料分析	6. 地域調査の課題と方法	14. 中国農村調査の実際：データの整理	7. 日本農村の問題状況	15. まとめ：報告書の作成	8. 日本農村調査の実際：企画と設計	
1. 質的調査法の概説	9. 日本農村調査の実際：聞き取りと資料分析																				
2. 客観主義的方法	10. 日本農村調査の実際：データの整理																				
3. 解釈学的方法	11. 中国農村の問題状況																				
4. 構築主義的方法	12. 中国農村調査の実際：企画と設計																				
5. 実践的アプローチ	13. 中国農村調査の実際：聞き取りと資料分析																				
6. 地域調査の課題と方法	14. 中国農村調査の実際：データの整理																				
7. 日本農村の問題状況	15. まとめ：報告書の作成																				
8. 日本農村調査の実際：企画と設計																					
◇ 成績評価の方法	レポート (50%)、出席 (50%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は授業中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	参考書等関連文献に目を通すこと																				
その他：オフィスアワー：随時メールで。専門社会調査士資格認定標準科目J科目に対応。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
社 会 学 特 論 III Sociology (Advanced Lecture) III	2	非常勤 講師 李 妍 焱	集 中 (1)																		
◆ 科目ナンバリング	LHUSOC623J																				
◆ 授業題目	民による公共の可能性を考える—中国の市民的世界の展開を通して																				
◆ 目的・概要	以下の諸テーマについて扱う。 ・「民による公共」への着目 ・改革開放後の中国に出現した「みんなの公共問題」 ・中国における民間公益領域の形成 ・ネット空間における公益活動の展開 ・「公共」を巡る民と官の攻防 ・民による公共のエンパワーメント																				
◆ 到達目標	(1)公共の概念を検討し、中国的公共、日本的公共の考え方を学ぶ (2)改革開放後の中国の激しい社会変動における市民の公共の展開及びその特徴を理解する (3)市民社会の伝統がない社会において、「民による公共」が如何にして可能なのかについて考える手がかかりをつかむ																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 中国社会における「公共」の生い立ち</td> <td>9. ネット公益の隆盛</td> </tr> <tr> <td>2. 社会主義的公共</td> <td>10. 規制から管理、誘導へ</td> </tr> <tr> <td>3. 改革開放とみんなの公共問題の出現</td> <td>11. 草の根NGOの対政府戦略</td> </tr> <tr> <td>4. 公共問題の多様化と多層化</td> <td>12. 一党指導体制と自律的市民活動は両立可能か</td> </tr> <tr> <td>5. 社会的ニーズと草の根NGO</td> <td>13. 民衆に根付く市民へ</td> </tr> <tr> <td>6. オルタナティブな価値を求める人々</td> <td>14. 企業公益ブームと民間財団の急成長</td> </tr> <tr> <td>7. 異業種による多元的連携</td> <td>15. 国家の枠組みを超える連携へ</td> </tr> <tr> <td>8. インターネットの中国的普及</td> <td></td> </tr> </table>					1. 中国社会における「公共」の生い立ち	9. ネット公益の隆盛	2. 社会主義的公共	10. 規制から管理、誘導へ	3. 改革開放とみんなの公共問題の出現	11. 草の根NGOの対政府戦略	4. 公共問題の多様化と多層化	12. 一党指導体制と自律的市民活動は両立可能か	5. 社会的ニーズと草の根NGO	13. 民衆に根付く市民へ	6. オルタナティブな価値を求める人々	14. 企業公益ブームと民間財団の急成長	7. 異業種による多元的連携	15. 国家の枠組みを超える連携へ	8. インターネットの中国的普及	
1. 中国社会における「公共」の生い立ち	9. ネット公益の隆盛																				
2. 社会主義的公共	10. 規制から管理、誘導へ																				
3. 改革開放とみんなの公共問題の出現	11. 草の根NGOの対政府戦略																				
4. 公共問題の多様化と多層化	12. 一党指導体制と自律的市民活動は両立可能か																				
5. 社会的ニーズと草の根NGO	13. 民衆に根付く市民へ																				
6. オルタナティブな価値を求める人々	14. 企業公益ブームと民間財団の急成長																				
7. 異業種による多元的連携	15. 国家の枠組みを超える連携へ																				
8. インターネットの中国的普及																					
◇ 成績評価の方法	レポート70%、出席30%																				
◇ 教科書・参考書	李妍焱、2012『中国の市民社会—動き出した草の根NGO』（岩波新書） 李妍焱、2014『日中関係史 1972-2012 IV民間』園田茂人編、東京大学出版会、第3部第5章「国家関係から市民関係へ—『市民的世界』の拡大と日中連携の可能性」																				
◇ 授業時間外学習	上記の参考図書に目を通すこと																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
社 会 学 特 論 IV Sociology (Advanced Lecture) IV	2	非常勤 講師 永 野 由 紀 子	集 中 (2)		
◆ 科目ナンバリング	LHUSOC624J				
◆ 授業題目	イエとムラの社会学				
◆ 目的・概要	イエ・ムラ理論といわれる日本の農村社会学の研究系譜について学んだ上で、「東アジア」における日本の家族組織と村落組織の固有性を考える				
◆ 到達目標	1. イエ・ムラ理論といわれる日本の農村社会学の研究系譜を理解する。 2. 制度と生活実態の区別と関連について理解する。 3. 「東アジア」における日本の家族組織と村落組織の固有性を考察するための手がかりを得る。				
◆ 授業内容・方法	1. 制度と実態の区別：川島武宜 2. 労働組織としてのイエ・ムラ：柳田国男 3. 生活保障組織としてのイエ・ムラ：有賀喜左衛門 4. 日本資本主義論争と「第三の立場」 5. 有賀・喜多野論争 6. 岐阜県白川村の「大家族」 7. 竹内利美の小家族 8. 鈴木栄太郎の自然村 9. 中村吉治の村落共同体 10. 日本の相続：内藤莞爾と末子相続 11. 中国・韓国の親族組織と相続 12. タイ農村の屋敷地共住集団 13. マレー農村の家族圏 14. インドネシア・バリ農村の多元的集団構成 15. 歴史の連続と断絶				
◇ 成績評価の方法	レポート70% 平常点30%				
◇ 教科書・参考書	(1)細谷昂『家と村の社会学』お茶の水書房 (2)鳥越浩之『家と村の社会学：増補版』世界思想社 (3)永野由紀子『現代農村における「家」と女性』刀水書房 (4)柿崎京一「第八篇「大家族」(家)制」『白川村史・下巻』。 その他、講義中に適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	上記の参考図書や授業中に指示した文献に目を通して、授業の内容についての理解を深めることが必要である。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
社 会 学 調 査 実 習 I S o c i o l o g y (R e s e a r c h) I	2	教授 永 井 彰	1 学 期	金	3・4
◆ 科目ナンバリング	LHUSOC625J				
◆ 授業題目	社会調査実習(1)				
◆ 目的・概要	(1)地域調査（地域社会を対象とした社会調査）の理論と方法を理解する。 (2)調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。				
◆ 到達目標	(1)地域調査（地域社会を対象とした社会調査）の理論と方法を理解できるようになる。 (2)調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス（実習の内容、方法、計画、調査テーマなどについての説明） 2. 地域調査の理論と方法(1) 3. 地域調査の理論と方法(2) 4. 地域調査の理論と方法(3) 5. 調査の構想についての議論 6. 先行研究の検討 7. 調査対象地についての情報収集と分析 8. 調査企画の精緻化 9. 予備調査(1) 対象地訪問と対象者の選定 10. 調査項目の検討(1) 11. 調査項目の検討(2) 12. 調査票の作成(1) 13. 調査票の作成(2) 14. 予備調査(2) プリテストの実施 15. 調査票の完成				
◇ 成績評価の方法	授業への貢献度（100%）				
◇ 教科書・参考書	古島敏雄・深井純一編『地域調査法』東京大学出版会、1985年。				
◇ 授業時間外学習	地域調査というプロジェクトの遂行に向けて、受講者全員で取り組む。そのため、各授業の最後に、次回までにするべき課題を確認し、次の授業までに準備作業を整えた上で、授業に臨む。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
社 会 学 調 査 実 習 II S o c i o l o g y (R e s e a r c h) II	2	教 授 永 井 彰	2 学 期	金	3 ・ 4																
◆ 科目ナンバリング	LHUSOC626J																				
◆ 授業題目	社会調査実習(2)																				
◆ 目的・概要	(1)地域調査(地域社会を対象とした社会調査)の理論と方法を理解する。 (2)調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。 社会調査実習(2)では、現地調査の実施から調査データの分析、報告書の作成、分析結果の口頭発表までおこなう。																				
◆ 到達目標	(1)地域調査(地域社会を対象とした社会調査)の理論と方法を理解できるようになる。 (2)調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 現地調査についてのガイダンス(調査倫理や、訪問先でのマナーの確認を含む)</td> <td>8. 調査結果の分析(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 現地調査の実施(1)</td> <td>9. 調査結果の分析(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 現地調査の実施(2)</td> <td>10. 補充調査の実施</td> </tr> <tr> <td>4. 現地調査の実施(3)</td> <td>11. 報告書の企画構成の検討</td> </tr> <tr> <td>5. 現地調査データの整理集計</td> <td>12. 報告書の作成(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 分析方針の検討</td> <td>13. 報告書の作成(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 調査結果の分析(1)</td> <td>14. 報告の口頭発表</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 対象地での研究成果発表</td> </tr> </table>					1. 現地調査についてのガイダンス(調査倫理や、訪問先でのマナーの確認を含む)	8. 調査結果の分析(2)	2. 現地調査の実施(1)	9. 調査結果の分析(3)	3. 現地調査の実施(2)	10. 補充調査の実施	4. 現地調査の実施(3)	11. 報告書の企画構成の検討	5. 現地調査データの整理集計	12. 報告書の作成(1)	6. 分析方針の検討	13. 報告書の作成(2)	7. 調査結果の分析(1)	14. 報告の口頭発表		15. 対象地での研究成果発表
1. 現地調査についてのガイダンス(調査倫理や、訪問先でのマナーの確認を含む)	8. 調査結果の分析(2)																				
2. 現地調査の実施(1)	9. 調査結果の分析(3)																				
3. 現地調査の実施(2)	10. 補充調査の実施																				
4. 現地調査の実施(3)	11. 報告書の企画構成の検討																				
5. 現地調査データの整理集計	12. 報告書の作成(1)																				
6. 分析方針の検討	13. 報告書の作成(2)																				
7. 調査結果の分析(1)	14. 報告の口頭発表																				
	15. 対象地での研究成果発表																				
◇ 成績評価の方法	授業への貢献度(100%)																				
◇ 教科書・参考書	古島敏雄・深井純一編『地域調査法』東京大学出版会、1985年。																				
◇ 授業時間外学習	地域調査というプロジェクトの遂行に向けて、受講者全員で取り組む。そのため、各授業の最後に、次回までにすべき課題を確認し、次の授業までに準備作業を整えた上で、授業に臨む。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
数 理 行 動 科 学 特 論 I Mathematical Behavioral Science (Advanced Lecture) I	2	准教授 浜 田 宏	2 学期	水	4
◆ 科目ナンバリング	LHUOSO601J				
◆ 授業題目	数理社会学の数学的基礎				
◆ 目的・概要	テキストの輪読を通じて、実証分析と数理モデル解析に必要な確率論の基礎を修得し、日常生活や日常的現象の中に潜む数学的構造をフォーマライズする方法を学ぶ。また同時に興味深い研究とは何か、という問題をメタレベルで考える。なお数学的難易度は大学院初級レベルを基準とするため、学部生が履修する場合には、その点を考慮すること。				
◆ 到達目標	1) 社会現象を数理モデルを使って説明する方法の基礎を学ぶ。特に本演習では確率論をベースとして、現象の数学的表現力と数学的問題の証明力を養う。 2) 興味深い問題をどうやって定式化するかを演習を通して学ぶ。見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する。				
◆ 授業内容・方法	1. 確率変数の基礎 1 2. 確率変数の基礎 2—合成と変数変換 3. 確率変数の基礎 3—合成と変数変換 4. 確率変数の視点から理解する OLS 推定 5. 線形制約の検定 (F 検定) 6. ダミー変数とその応用 7. 不均一分散と系列相関 1 8. 不均一分散と系列相関 2 9. 操作変数法によるバイアス除去の推定 1 10. 操作変数法によるバイアス除去の推定 2 11. 欠落変数バイアスの推定 12. 変量効果・固定効果モデルによるバイアス除去の推定 1 13. 変量効果・固定効果モデルによるバイアス除去の推定 2 14. 単位根の検定 1 15. 単位根の検定 2				
◇ 成績評価の方法	レポート [20%]、出席 [60%]、その他 (授業時間内での報告や質問と、報告・レポートに至るまでの過程) [20%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：羽森茂之、2009、『ベーシック計量経済学』中央経済社。 粕谷英一、2012、『一般化線形モデル (Rで学ぶデータサイエンス10)』共立出版 参考書：成田清正、2010、『例題で学べる確率モデル』共立出版。				
◇ 授業時間外学習	毎週テキストの該当箇所を予習して、紙とペンを使って計算する事。				
その他：各自ノートパソコンを持参してRを使用できる環境を整え、より学習を効率化できる。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
数 理 行 動 科 学 研 究 演 習 I Mathematical Behavioral Science (Advanced Seminar) I	2	教授 佐 藤 嘉 倫	1 学期	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHUOSO603J				
◆ 授業題目	社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル				
◆ 目的・概要	人々が自発的に秩序 (協力行動など) を生み出している社会現象がある。本演習では、教科書を輪読して、これらの現象を分析する方法を理解する。				
◆ 到達目標	進化ゲーム理論やエージェント・ベースト・モデルが社会学にいかなる貢献をするのか理解する。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション(1) 2. イントロダクション(2) 3. 社会秩序概念の検討(1) 4. 社会秩序概念の検討(2) 5. 自己組織性の理論的検討(1) 6. 自己組織性の理論的検討(2) 7. 自己組織性の経験的分析(1) 8. 自己組織性の経験的分析(2) 9. 進化ゲーム理論(1) 10. 進化ゲーム理論(2) 11. 計算社会学入門(1) 12. 計算社会学入門(2) 13. エージェント・ベースト・モデル(1) 14. エージェント・ベースト・モデル(2) 15. ここまで演習で取り上げたトピックを再検討し、エージェント・ベースト・モデルによる社会秩序の自己組織メカニズムの分析について探究する。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・(○) レポート [50%]・(○) 出席 [50%]				
◇ 教科書・参考書	開講時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	演習中の議論に積極的に参加できるように、事前に関連文献に目を通すなど予習をしておくこと。				
その他：オフィスアワー：水曜日第5講時 (事前に予約すること) 第2学期の数理行動科学研究演習Ⅱと併せて参加すること					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
数 理 行 動 科 学 研 究 演 習 Ⅱ Mathematical Behavioral Science (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教 授 佐 藤 嘉 倫	2 学 期	水	3
◆ 科目ナンバリング	LHUOSO604J				
◆ 授業題目	エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明				
◆ 目的・概要	エージェント・ベースト・モデルの手法を修得し、自分で自己組織性を解明する。				
◆ 到達目標	前期の議論を踏まえて、実際にエージェント・ベースト・モデルを構築して、社会の自己組織性を自分で解明できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. プログラミング入門(1) 3. プログラミング入門(2) 4. プログラミング入門(3) 5. 研究テーマの決定とグループ分け 6. グループ別の進行状況報告と検討(1) 7. グループ別の進行状況報告と検討(2) 8. グループ別の進行状況報告と検討(3) 9. グループ別の進行状況報告と検討(4) 10. グループ別の進行状況報告と検討(5) 11. グループ別の進行状況報告と検討(6) 12. グループ別の進行状況報告と検討(7) 13. グループ別の進行状況報告と検討(8) 14. グループ別の進行状況報告と検討(9) 15. 各グループによる最終的な研究報告				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [50%] ・ (○) 出席 [50%]				
◇ 教科書・参考書	開講時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	グループに分かれてプログラミングを行うので、積極的にグループワークに参加すること。				
その他： オフィスアワー：水曜日第5限（事前に予約すること） 第1学期の数理行動科学研究演習Ⅰと併せて参加すること					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
数 理 行 動 科 学 研 究 演 習 Ⅲ Mathematical Behavioral Science (Advanced Seminar) Ⅲ	2	准 教 授 浜 田 宏	1 学 期	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHUOSO605J				
◆ 授業題目	社会学の理論と実証				
◆ 目的・概要	1) 社会現象を数理モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ。 2) 興味深い問題をどうやって定式化するかを演習を通して学ぶ。見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する。				
◆ 到達目標	データの分析手法を習得する 現象の数学的表現を習得する 日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. データの種類、OLSから最尤推定へ1 3. OLSから最尤推定へ2 4. Oaxaca分解・一般化線形モデルGLM 1 5. 一般化線形モデルGLM 2 6. AICによる比較1 7. AICによる比較2 8. 尤度比検定1 9. 尤度比検定2 10. ロジスティック回帰 11. 一般化線形混合モデルGLMM 1 12. 一般化線形混合モデルGLMM 2 13. 一般化線形混合モデルGLMM 3 14. マルコフ連鎖モンテカルロ1 15. マルコフ連鎖モンテカルロ2				
◇ 成績評価の方法	リポート [20%]、出席 [60%]、その他（授業時間内での報告や質問と、報告・リポートに至るまでの過程） [20%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：山本勲、2015、『実証分析のための計量経済学』中央経済社 久保拓哉、2012、『データ解析のための統計モデリング入門』岩波書店。				
◇ 授業時間外学習	毎週、テキストの該当範囲を事前に読みコメントペーパーを準備する				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
数 理 行 動 科 学 研 究 演 習 IV Mathematical Behavioral Science (Advanced Seminar) IV	2	准教授 浜 田 宏	2 学期	水	2
◆ 科目ナンバリング	LHUOSO606J				
◆ 授業題目	Mathematicaによる数理社会学				
◆ 目的・概要	コンピュータによる数値計算や数理モデルの解析をつうじて、人間行動や社会現象をモデル化する手法を習得する。				
◆ 到達目標	1. プログラムの基本的文法（ループ、再帰的代入、多次元確率分布乱数の生成）と関数型プログラミングの方法を習得する。 2. プログラミング言語による社会的アイデアの実装。				
◆ 授業内容・方法	1. 基本的な入力と計算（四則演算、微分積分、代数計算、微分方程式、関数のグラフ） リストの使い方（配列操作、ベクトルと行列計算、複素エージェントの管理） 2. 関数の作り方（局所変数、Module、即自評価、デバッグ用print、論理演算子） 3. 教育達成における出身階層格差 4. 企業による学生選抜のモデル 5. OLS推定のシミュレーション分析 6. 操作変数法のシミュレーション分析 7. ルーレットのシミュレーション（関数定義、Whileループ、単純統計量の計算、関数Plot） 8. ランチェスターの法則（確率分布、乱数、条件分岐、反復） 9. パネルデータのシミュレーション分析 吸収マルコフ連鎖 10. Tag-based cooperation 恋愛結婚の普及と階層の中流化 11. 研究室への学生配属問題（GSアルゴリズム） 12. 出会いの数理モデル（2項分布と中心極限定理） 13. 間接互性のモデル（Agent Based Simulation） 14. 分層モデル、避難行動のシミュレーション（セルラオートマトン） 15. 参考例に基づくオリジナル・プログラムの作成				
◇ 成績評価の方法	授業内課題 [20%]、出席 [70%]、その他（授業時間内での報告や質問、追加課題） [10%]				
◇ 教科書・参考書	授業時に適宜資料とサンプルコードを配付する。 参考文献は、白石修二、2000、『例題で学ぶ Mathematica 基礎プログラム編』森北出版。仲村健蔵、1996、『MathematicaによるOR』アジソン・ウェスレイ。榊原進、2000、『はやわかり Mathematica 第2版』共立出版。奥村晴彦、1991、『C言語による最新アルゴリズム事典』技術評論社。など				
◇ 授業時間外学習	公開されているサンプルコードを使って、アルゴリズムが正しく表現されているかを確認する事				
その他：プログラミングについての知識は必要ありません。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
計 量 行 動 科 学 特 論 I Quantitative Behavioral Science (Advanced Lecture) I	2	非常勤講師 石 田 淳	集 中 (1)		
◆ 科目ナンバリング	LHUOSO607J				
◆ 授業題目	社会的イメージの数理社会学				
◆ 目的・概要	数理社会学は、さまざまな社会現象の様相を数理モデルによって表現するとともに、そのメカニズムを理論的に説明することを最終的な目的とする社会学の一分野である。本講義では、とりわけ「社会的イメージの数理社会学」をテーマに、社会的行為の基礎にある人びとの社会的イメージの表現と生成メカニズムのモデルを紹介する。具体的には、ブール代数による社会的カテゴリーイメージの表現モデル、相対的剥奪理論とベイズ・モデルによる社会的資源の分布イメージとその評価の生成モデルを導入し議論する。				
◆ 到達目標	数理モデルの構成や展開について正しく理解できるようになること、各自が興味関心のある社会現象について、発展的なモデルを用いて形式的に表現し説明できるようになること。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション（以降の授業計画は実際の進捗状況などによって変更される可能性がある） 2. 社会的イメージとはなにか 3. 社会的カテゴリー(1)：論理と集合 4. 社会的カテゴリー(2)：ブール代数と質的比較分析 5. 社会的カテゴリー(3)：ブール代数による社会的カテゴリーイメージの表現 6. 社会的カテゴリー(4)：社会的カテゴリーイメージ生成モデル 7. 所得分布と相対的剥奪(1)：相対的剥奪論の系譜 8. 所得分布と相対的剥奪(2)：相対的剥奪指数とジニ係数 9. 所得分布と相対的剥奪(3)：相対的剥奪指数のパラドックス 10. 所得分布と相対的剥奪(4)：相対的剥奪指数のパラドックス 11. ベイジアン社会意識論(1)：ベイズ統計学の基礎 12. ベイジアン社会意識論(2)：ベイジアン社会意識論の構想 13. ベイジアン社会意識論(3)：所得分布イメージ 14. ベイジアン社会意識論(4)：階層イメージ 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法	平常評価20%、最終レポート80%				
◇ 教科書・参考書	参考書 Rihoux, Benoit and Charles C. Ragin eds., 2008, Configurational Comparative Methods, Thousand Oaks: Sage. (2016年中に翻訳書刊行予定) 石田淳、2015、『相対的剥奪の社会学』東京大学出版会。 Kruschke, John K., 2014, Doing Bayesian Data Analysis, 2nd Edition, Academic Press. 豊田秀樹、2015、『基礎からのベイズ統計学』朝倉書店。				
◇ 授業時間外学習	授業を進める上で必要となる数学的知識については、授業内で詳説するため、事前に高度な数学的知識は必要としない。なお、授業で取り上げる予定の数学は、集合・論理、確率論、簡単な微分積分であるので、これらを事前に学習しておけば授業の理解がよりいっそう進むことだろう。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
計 量 行 動 科 学 特 論 II Quantitative Behavioral Science (Advanced Lecture) II	2	教授 佐藤嘉倫	2 学期	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHUOSO608J				
◆ 授業題目	格差・不平等・リスクの社会学				
◆ 目的・概要	教科書に収録されている論文の中から講義テーマに合うものを取り上げて、参加者同士の議論によって理解を深めていく。				
◆ 到達目標	現代社会の格差と不平等の問題を社会階層論の視点から理解することを目指す。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. ひとり親家庭と教育達成 (教科書16章) 3. 教育達成過程の階層差 (教科書17章) 4. 学校から職業への移行(1) (教科書5章) 5. 学校から職業への移行(2) (教科書5章) 6. 若年労働市場(1) (教科書4章、6章) 7. 若年労働市場(2) (教科書4章、6章) 8. 転職(1) (教科書1章、2章、3章) 9. 転職(2) (教科書1章、2章、3章) 10. 女性の就労(1) (教科書8章、11章) 11. 女性の就労(2) (教科書8章、11章) 12. ライフイベント (教科書9章、10章) 13. 高齢者の格差 (教科書13章) 14. ライフスタイル (教科書14章、15章) 15. 今までの講義で取り上げたテーマを振り返り、現代日本における格差、不平等、リスクの問題を総合的に検討する。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [60%] ・ (○) 出席 [40%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：佐藤嘉倫・尾嶋史章 (編) 『格差と多様性』 (現代の階層社会 第1巻)、東京大学出版会。 参考書：石田浩・近藤博之・中尾啓子 (編) 『趨勢と比較』 (現代の階層社会 第2巻)、東京大学出版会。 斎藤友里子・三隅一人 (編) 『流動化の中の社会意識』 (現代の階層社会 第3巻)、東京大学出版会。				
◇ 授業時間外学習	教科書の該当箇所を講義の前に読んでおくこと。				
その他：オフィスアワー：水曜日第5講時 (事前に予約すること)					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
計 量 行 動 科 学 研 究 演 習 I Quantitative Behavioral Science (Advanced Seminar) I	2	教授 木村邦博	1 学期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHUOSO609J				
◆ 授業題目	階層帰属意識の計量分析				
◆ 目的・概要	階層帰属意識の計量分析は、社会階層研究とりわけ狭い意味での階層意識の研究において、中心的な位置を占めてきた。この分野の国際的動向を学ぶことを通して、今後の展開の可能性を考え、行動科学的思考力や計量分析の方法を習得する。				
◆ 到達目標	(1)階層帰属意識に関する行動科学的研究の動向を把握し、今後の展開を展望する。 (2)学術的な英語文献を読む力をつけるとともに、行動科学的な思考力を養う。 (3)多変量解析を用いた計量的研究を理解し、自分でも実施する力を身につける。				
◆ 授業内容・方法	1. 授業計画の説明、研究動向の概観 2. Velsor and Beeghley (1979) : 内容理解 3. Velsor and Beeghley (1979) : 方法論的検討 (重回帰分析) 4. Felson and Knoke (1974) : 内容理解 5. Felson and Knoke (1974) : 方法論的検討 (重回帰分析とパス解析) 6. Erikson and Goldthorpe (1992) : 内容理解 7. Erikson and Goldthorpe (1992) : 方法論的検討 (ログリニアモデル) 8. Davis and Robinson (1998) : 内容理解 9. Davis and Robinson (1998) : 方法論的検討 (ロジスティック回帰分析) 10. Baxter (1994) : 内容理解 11. Baxter (1994) : 方法論的検討 (ロジスティック回帰分析におけるモデル比較) 12. Yamaguchi and Wang (2002) : 内容理解 13. Yamaguchi and Wang (2002) : 方法論的検討 (重みづけパラメータを導入したロジスティック回帰分析) 14. Lindemann and Saar (2014) : 内容理解 15. Lindemann and Saar (2014) : 方法論的検討 (マルチレベル分析)				
◇ 成績評価の方法	期末レポート [50%]、平常点 (授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程) [50%]				
◇ 教科書・参考書	American Sociological Review, American Journal of Sociology, Journal of Marriage and Family などの学術誌に掲載された論文で指定されたものを、参加者各自が「電子ジャーナル」からダウンロードする。				
◇ 授業時間外学習	(1)演習の時間に取り上げる文献を事前に読んで検討しておく。 (2)担当の文献に関する報告の準備をする。 (3)関連文献を検索して読み、あわせて検討する。				
その他：専門社会調査士資格認定標準科目 I に対応。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
計 量 行 動 科 学 研 究 演 習 Ⅱ Quantitative Behavioral Science (Advanced Seminar) Ⅱ	2	教授 木 村 邦 博	2 学 期	木	2																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHUOSO610J 社会調査法への認知科学的アプローチ 近年、認知科学・認知心理学の方法や成果をもとに、社会調査法に反省・検討を加えようという試みが行われるようになってきた。そのひとつの流れが、教科書として取り上げる Sirken, et al. (1999) などの CASM (Cognitive Aspects of Social Survey Methodology) である。このような研究動向についてレビューするとともに、そこでの知見を社会調査の現場（企画・準備・実査から成果報告に至るまでのプロセス）に実践的に活かす道を探る。あわせて、センシティブな質問などを用いる場合の倫理的問題とそれへの対処方法などについても考える。																				
◆ 到達目標	認知科学等の知見を社会調査の企画・準備・実査・報告・倫理向上に活かす。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業計画の説明</td> <td>9. Computational Cognitive Models</td> </tr> <tr> <td>2. CASMの概要について</td> <td>10. Survey Error Models</td> </tr> <tr> <td>3. Chap.6: Making Sense of Questions</td> <td>11. Connectionist Models</td> </tr> <tr> <td>4. Chap.7: Autobiographical Memory</td> <td>12. To Reduce Measurement Error</td> </tr> <tr> <td>5. Chap.8: Context Effects on Answers to Attitude Questions</td> <td>13. Visualizing Categorical Data</td> </tr> <tr> <td>6. Chap.9: Cognitive Interviewing</td> <td>14. Statistical Graphs and Maps</td> </tr> <tr> <td>7. Chap.10: Income Reporting</td> <td>15. 総合的討論</td> </tr> <tr> <td>8. Chap.12: A Linguistic Look</td> <td></td> </tr> </table>					1. 授業計画の説明	9. Computational Cognitive Models	2. CASMの概要について	10. Survey Error Models	3. Chap.6: Making Sense of Questions	11. Connectionist Models	4. Chap.7: Autobiographical Memory	12. To Reduce Measurement Error	5. Chap.8: Context Effects on Answers to Attitude Questions	13. Visualizing Categorical Data	6. Chap.9: Cognitive Interviewing	14. Statistical Graphs and Maps	7. Chap.10: Income Reporting	15. 総合的討論	8. Chap.12: A Linguistic Look	
1. 授業計画の説明	9. Computational Cognitive Models																				
2. CASMの概要について	10. Survey Error Models																				
3. Chap.6: Making Sense of Questions	11. Connectionist Models																				
4. Chap.7: Autobiographical Memory	12. To Reduce Measurement Error																				
5. Chap.8: Context Effects on Answers to Attitude Questions	13. Visualizing Categorical Data																				
6. Chap.9: Cognitive Interviewing	14. Statistical Graphs and Maps																				
7. Chap.10: Income Reporting	15. 総合的討論																				
8. Chap.12: A Linguistic Look																					
◇ 成績評価の方法	期末レポート [50%]、平常点（授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程） [50%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書：Sirken, M. G., D. J. Herrmann, S. Schechter, N. Schwarz, J. M. Tanur, and R. Tourangeau, eds. 1999. <i>Cognition and Survey Research</i> . John Wiley & Sons. (参考文献については随時指示する。)																				
◇ 授業時間外学習	(1)教科書のうち演習の時間に取り上げる章を事前に読んで検討しておく。 (2)担当の章に関する報告の準備をする。 (3)関連文献を検索して読み、あわせて検討する。																				
その他：専門社会調査士資格認定科目Hに対応。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
計 量 行 動 科 学 研 究 演 習 Ⅲ Quantitative Behavioral Science (Advanced Seminar) Ⅲ	2	准教授 永 吉 希 久 子	1 学 期	月	2																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHUOSO611J 比較福祉国家論 [授業の目的] 今日の社会において、私たちの生活や意識は福祉国家の制度によって大きな影響を受けている。その一方で、福祉国家の諸制度は、経済のグローバル化や人口構成の変化、人々の価値観の変化によって、改革を余儀なくされている。この授業では、1) 福祉国家の成立、変化に影響を与える要因について、および、2) 福祉国家が私たちの生活や意識に与える影響について、学ぶことを目的としている。																				
◆ 到達目標	[授業の概要] 授業では、福祉国家についての文献を、古典的なものから最新のものまで講読する。はじめに全体で内容の確認を行ったうえで、受講生全員でのディスカッションを行い、内容についての理解を深める。 1) 福祉国家の成立、変容、および私たちの生活や意識への影響についての諸理論を理解し、説明できるようになる。 2) 福祉国家についての分析を行うための分析手法を身に付け、適切に使用できるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 福祉国家と貧困</td> </tr> <tr> <td>2. 福祉国家の古典理論</td> <td>10. 福祉国家と失業</td> </tr> <tr> <td>3. 福祉国家の多様性1</td> <td>11. 福祉国家とジェンダー</td> </tr> <tr> <td>4. 福祉国家の多様性2</td> <td>12. 福祉国家と家族</td> </tr> <tr> <td>5. 日本型福祉国家</td> <td>13. 福祉国家と移民</td> </tr> <tr> <td>6. 多様性を生む要因1</td> <td>14. 福祉国家と意識</td> </tr> <tr> <td>7. 多様性を生む要因2</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 福祉国家の変容</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 福祉国家と貧困	2. 福祉国家の古典理論	10. 福祉国家と失業	3. 福祉国家の多様性1	11. 福祉国家とジェンダー	4. 福祉国家の多様性2	12. 福祉国家と家族	5. 日本型福祉国家	13. 福祉国家と移民	6. 多様性を生む要因1	14. 福祉国家と意識	7. 多様性を生む要因2	15. まとめ	8. 福祉国家の変容	
1. イントロダクション	9. 福祉国家と貧困																				
2. 福祉国家の古典理論	10. 福祉国家と失業																				
3. 福祉国家の多様性1	11. 福祉国家とジェンダー																				
4. 福祉国家の多様性2	12. 福祉国家と家族																				
5. 日本型福祉国家	13. 福祉国家と移民																				
6. 多様性を生む要因1	14. 福祉国家と意識																				
7. 多様性を生む要因2	15. まとめ																				
8. 福祉国家の変容																					
◇ 成績評価の方法	授業への積極的な参加 (30%)、レポート (70%)																				
◇ 教科書・参考書	初回の授業で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	指定の文献をあらかじめ読んでくることが求められる。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
計 量 行 動 科 学 研 究 演 習 Ⅳ Quantitative Behavioral Science (Advanced Seminar) Ⅳ	2	准教授	永 吉 希 久 子	1 学期	金	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHUOSO612J 計量社会学の基礎 この授業の目的は、計量的な社会学研究を行うための、基礎的な知識を身につけることにある。基礎的な知識とは、当該テーマにおいて、何が問われ、何が明らかにされてきたのかという理論や既存研究についての知識と、計量分析を行うための分析手法についての知識の二つからなる。この授業では、社会学および計量社会学のテキストを講読することで、教育、階層、家族などの社会学の主要テーマについて、何が問われ、どのような研究方法で、何が明らかにされてきたのかについての知識を習得するとともに、今後問うべき問いについて検討を行う。具体的には、各テーマについて2回の授業で学習する。第一回目の授業では、当該テーマの主要な理論や概念、研究の流れについて、学ぶ。第二回目の授業では、計量研究における研究の流れを学ぶとともに、分析手法の知識を習得する。各回に担当者を決め、テキストの内容についての報告を行ってもらう。そのうえで、全体でディスカッションを行い、理解を深める。					
◆ 到達目標	①計量的な社会学研究の前提となる、主要テーマにおける諸理論と研究の流れを理解し、説明できるようになる。 ②計量的な分析を行うための分析手法の知識を身に付け、自分でも分析できるようになる。 ③計量研究において、今後当該テーマの研究を進展させるための、研究の方向性について説明できるようになる。					
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 労働の社会学① 3. 労働の社会学② 4. 教育の社会学① 5. 教育の社会学② 6. 階層の社会学① 7. 階層の社会学② 8. 家族の社会学① 9. 家族の社会学② 10. 都市の社会学① 11. 都市の社会学② 12. 健康・医療・福祉の社会学① 13. 健康・医療・福祉の社会学② 14. 社会意識の社会学① 15. 社会意識の社会学② 					
◇ 成績評価の方法	授業中の報告 (30%)、授業におけるディスカッションへの参加 (10%)、最終レポート (60%)					
◇ 教科書・参考書	櫻井義秀・飯田俊郎・西浦功編著、2014、『アンビシャス社会学』北海道大学出版会 筒井淳也・神林博史・長松奈美江・渡邊大輔・藤原翔編著、2015、『計量社会学入門』世界思想社					
◇ 授業時間外学習	受講生はテキストの該当箇所を事前に読んで参加することが求められる。					
その他：						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
計 量 行 動 科 学 研 究 演 習 Ⅳ Quantitative Behavioral Science (Advanced Seminar) Ⅳ	2	准教授	永 吉 希 久 子	2 学期	金	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHUOSO612J 制度の計量分析 [授業の目的] 行動科学の主要な問いは、マクロな社会構造とミクロな個人の行動・意識の関連を明らかにすることにある。マクロからミクロへ、という影響のメカニズムについては、近年の分析手法の発展を受けて、様々な形で実証研究が進められている。この授業では、マクロ要因としての国の政策に注目し、政策が個人の行動や意識に影響するメカニズムについての諸理論を理解するとともに、実際に計量的に分析するための手法を習得し、分析できるようになることを目的としている。 [授業の概要] 授業は三部構成からなる。第一部では、政策が個人の生活・意識に影響するメカニズムについての諸理論を、文献講読によって学ぶ。第二部では、政策の個人への影響について分析するための、分析手法についての知識を、講義／実習形式で学習する。第三部では、関心に合わせて受講生をグループに分け、実際にデータの分析を行い、発表をしてもらう。					
◆ 到達目標	①政策が個人の行動・意識に影響するメカニズムについての諸理論を理解し、説明できるようになる。 ②政策から個人への影響を分析するための分析手法を習得し、実際に分析できるようになる。					
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 理論編1：ポリシー・フィードバックのメカニズム① 3. 理論編2：ポリシー・フィードバックのメカニズム② 4. 理論編3：古い制度と新しい制度 5. 理論編4：制度と規範の関連 6. 理論編5：制度の制度利用者への影響 7. 方法編1：クラスター分析とその応用① 8. 方法編2：クラスター分析とその応用② 9. 方法編3：マルチレベル分析① 10. 方法編4：マルチレベル分析② 11. 実践編1：班分けとテーマ設定 12. 実践編2：分析と報告の準備 13. 実践編3：分析と報告の準備 14. 実践編4：分析と報告の準備 15. 最終報告会 					
◇ 成績評価の方法	授業への積極的な参加 (40%)、最終報告 (60%)					
◇ 教科書・参考書	初回授業で指示する。					
◇ 授業時間外学習	理論編においてはテキストを事前に読んでくることが求められる。実践編においては、授業時間外に報告準備が必要となる。					
その他：						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
計 量 行 動 科 学 研 究 演 習 V Quantitative Behavioral Science (Advanced Seminar) V	2	教授 助教	佐 藤 嘉 倫 松 崎 瑠 美	集 中 (1)																	
◆ 科目ナンバリング	LHUOSO613J																				
◆ 授業題目	リスクと社会的不平等																				
◆ 目的・概要	6月か7月に5日間続けて東北大学においてスタンフォード大学貧困と不平等研究センターの大学学生と共に研究報告をする。4月14日午後1時～午後2時30分に文学研究科棟621演習室において説明会・選考会を開くので必ず参加すること。																				
◆ 到達目標	現代社会におけるリスク、安全、安心、不平等の問題を多面的に理解できる能力を身につけることを目的とする。 リスク、安全、安心、不平等に関する研究を英語で報告する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 参加学生による報告(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 参加学生による報告(1)</td> <td>10. 参加学生による報告(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 参加学生による報告(2)</td> <td>11. 参加学生による報告(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 参加学生による報告(3)</td> <td>12. 参加学生による報告(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 参加学生による報告(4)</td> <td>13. 参加学生による報告(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 参加学生による報告(5)</td> <td>14. 参加学生による報告(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 参加学生による報告(6)</td> <td>15. これまでの報告を振り返り、総合的な議論をする。</td> </tr> <tr> <td>8. 参加学生による報告(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 参加学生による報告(8)	2. 参加学生による報告(1)	10. 参加学生による報告(9)	3. 参加学生による報告(2)	11. 参加学生による報告(10)	4. 参加学生による報告(3)	12. 参加学生による報告(11)	5. 参加学生による報告(4)	13. 参加学生による報告(12)	6. 参加学生による報告(5)	14. 参加学生による報告(13)	7. 参加学生による報告(6)	15. これまでの報告を振り返り、総合的な議論をする。	8. 参加学生による報告(7)	
1. イントロダクション	9. 参加学生による報告(8)																				
2. 参加学生による報告(1)	10. 参加学生による報告(9)																				
3. 参加学生による報告(2)	11. 参加学生による報告(10)																				
4. 参加学生による報告(3)	12. 参加学生による報告(11)																				
5. 参加学生による報告(4)	13. 参加学生による報告(12)																				
6. 参加学生による報告(5)	14. 参加学生による報告(13)																				
7. 参加学生による報告(6)	15. これまでの報告を振り返り、総合的な議論をする。																				
8. 参加学生による報告(7)																					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [30%] ・ (○) 出席 [70%]																				
◇ 教科書・参考書	特になし。																				
◇ 授業時間外学習	自分の報告の準備をしっかりとすること。また他の人の報告に対しても積極的にコメントや質問ができるように準備しておくこと。																				
その他： オフィスアワー：水曜日第5講時（事前に予約すること） グローバル安全学トップリーダー育成プログラムのCラボ研修（人文社会科学基盤研修）を兼ねる。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
計 量 行 動 科 学 研 究 演 習 V Quantitative Behavioral Science (Advanced Seminar) V	2	助教	大 井 慈 郎	2 学 期	金 4																
◆ 科目ナンバリング	LHUOSO613J																				
◆ 授業題目	都市社会学：まちを切り取る																				
◆ 目的・概要	この授業では、都市社会学の古典・現代の論文を読み進めることで、基礎的な知見を学ぶとともに、文献を読む力を身につけることを目的とする。都市祭礼、都市空間、生活様式、コミュニティ、グローバル化、社会的公正、景観、格差など、様々な角度から論じられてきた「都市」について、その研究目的と分析方法を学ぶ。毎回、都市社会学にかかわる論文を取り上げ、その概要、用いられている方法、導かれる結論について、担当の受講生に報告してもらう。その報告をもとに、受講生全体でディスカッションを行う。「都市」にまつわる多彩な論点を取り扱い、一人一人が自分の興味関心について考える機会としたい。																				
◆ 到達目標	1. 都市社会学の基礎的な知見と文献を読む力を身につける。 2. 「都市」というテーマの、多彩な論点とその分析方法について学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 地方交通から考えるまち</td> </tr> <tr> <td>2. ねぶた祭りから考えるまち</td> <td>10. 都市の権力構造</td> </tr> <tr> <td>3. 古典(1)：都市の成長</td> <td>11. 場所の力・都市景観</td> </tr> <tr> <td>4. 古典(2)：人間生態学</td> <td>12. ゲーテッド・コミュニティ</td> </tr> <tr> <td>5. 古典(3)：生活様式としてのアーバニズム</td> <td>13. 野宿のフィールドワーク</td> </tr> <tr> <td>6. 古典(4)：ネットワークとコミュニティ</td> <td>14. ニュータウンのオールドタウン化</td> </tr> <tr> <td>7. グローバル化と都市経済</td> <td>15. 総括・全体討論</td> </tr> <tr> <td>8. 格差と社会的公正</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 地方交通から考えるまち	2. ねぶた祭りから考えるまち	10. 都市の権力構造	3. 古典(1)：都市の成長	11. 場所の力・都市景観	4. 古典(2)：人間生態学	12. ゲーテッド・コミュニティ	5. 古典(3)：生活様式としてのアーバニズム	13. 野宿のフィールドワーク	6. 古典(4)：ネットワークとコミュニティ	14. ニュータウンのオールドタウン化	7. グローバル化と都市経済	15. 総括・全体討論	8. 格差と社会的公正	
1. イントロダクション	9. 地方交通から考えるまち																				
2. ねぶた祭りから考えるまち	10. 都市の権力構造																				
3. 古典(1)：都市の成長	11. 場所の力・都市景観																				
4. 古典(2)：人間生態学	12. ゲーテッド・コミュニティ																				
5. 古典(3)：生活様式としてのアーバニズム	13. 野宿のフィールドワーク																				
6. 古典(4)：ネットワークとコミュニティ	14. ニュータウンのオールドタウン化																				
7. グローバル化と都市経済	15. 総括・全体討論																				
8. 格差と社会的公正																					
◇ 成績評価の方法	授業での報告 (40%)、授業への積極的な参加 (30%)、期末レポート (30%)																				
◇ 教科書・参考書	教科書・参考書は指定しない。 毎授業ごとにテーマに沿った論文を紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	毎回、課題論文を事前に読んで授業に臨むこと。必要に応じて、適宜他の資料も調べる。 担当の回は、レジュメを作成する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
社 会 行 動 科 学 特 論 I Social Behavioral Science (Advanced Lecture) I	2	教 授 佐 藤 嘉 倫	1 学 期	月	5
◆ 科目ナンバリング	LHUOSO614J				
◆ 授業題目	リスクと防災の社会学				
◆ 目的・概要	教科書に取られている論文や関連論文を踏まえて次のようなテーマなどを扱う予定である。 ・社会関係資本と防災 ・防災とコミュニティ ・消防団のあり方 ・災害ボランティア				
◆ 到達目標	自然災害のリスクを低減するためには、自然科学や工学だけでなく人間社会を対象とした社会科学の視点も必要となる。本講義では、社会科学とりわけ社会学の理論や方法論を用いて自然災害のリスクを低減し防災を実現する方策を検討する。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 本講義の概略を解説する。 2. 教科書(1)第2章を題材に防災をめぐるローカル・ノレッジのあり方を検討する。 3. 教科書(1)第3章を題材に防災コミュニティと町内会の検討をする。 4. 教科書(1)第4章を題材に都市部町内会における東日本大震災への対応に対する理解を深める。 5. 教科書(1)第5章を題材に災害ボランティアと支えあいのしくみづくりを分析する。 6. 教科書(1)第6章を題材に被災者の生活再建の社会過程に関する理解を深める。 7. 教科書(1)第7章を題材に災害弱者の支援と自立の問題を検討する。 8. 教科書(1)第9章を題材に防災ガバナンスの可能性と課題を議論する。	9. ここまで講義で取り上げてきたテーマを全体的に考察し、防災のための地域社会づくりについて議論する。 10. 教科書(2)第1章を題材に社会関係資本概念の初歩的な理解をする。 11. 教科書(2)第2章を題材に社会科学における社会関係資本概念の検討をする。 12. 前回に続いて、教科書(2)第2章を題材に社会科学における社会関係資本概念をさらに深く検討する。 13. 教科書(2)第3章を題材に関東大震災における社会関係資本と復興との関係を検討する。 14. 教科書(2)第4章を題材に阪神淡路大震災における社会関係資本と復興との関係を検討する。 15. 今まで講義で取り上げてきたテーマを振り返って、防災のための社会関係資本構築に向けた方策を検討する。			
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) レポート [60%] ・ (○) 出席 [40%]				
◇ 教科書・参考書	(1)吉原直樹 (編)、2012、『防災の社会学—防災コミュニティの社会設計に向けて』(第2版)、東信堂。 (2)ダニエル・アルドリッチ、2015、『災害復興におけるソーシャル・キャピタルの役割とは何か：地域再建とレジリエンスの構築』、ミネルヴァ書房。 その他の関連論文については適宜講義中に紹介する。				
◇ 授業時間外学習	教科書の該当箇所や関連文献を授業前に読んでおくこと。				
その他：オフィスアワー：水曜日第5講時（事前に予約すること）					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
社 会 行 動 科 学 特 論 II Social Behavioral Science (Advanced Lecture) II	2	准教授 永 吉 希 久 子	2 学 期	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHUOSO615J				
◆ 授業題目	差別論				
◆ 目的・概要	[授業の目的と概要] 今日の日本においては、ヘイトスピーチ規制のための法律の制定が検討されるなど、差別問題が重要な社会問題となっている。私たちの多くは、差別が間違ったことだという規範を共有している。にもかかわらず、その根絶は容易ではない。この授業では、心理学や社会学などにおける差別研究の知見を紹介しつつ、差別はなぜ生じ、なぜなくなるのかを考える。授業は講義形式で行うが、受講生のディスカッションを適宜行うので、積極的な参加が求められる。				
◆ 到達目標	①現代社会で生じている差別のさまざまな形態について説明できるようになる。 ②差別についての心理学・社会学における諸理論を理解し、説明できるようになる。 ③今日の日本において差別が生じる要因について、理論にもとづいた自分なりの見解をもち、議論できるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. 差別の諸形態 3. 差別はなぜ起こるのか：心理学的説明① 4. 差別はなぜ起こるのか：心理学的説明② 5. 差別はなぜ起こるのか：三者関係論 6. 差別はなぜ起こるのか：社会学的説明① 7. 差別はなぜ起こるのか：社会学的説明② 8. 差別とメディア	9. 差別の制度化 10. 差別の解消はどうすれば可能か？ 11. 具体的な事例から考える：ハンセン病患者① 12. 具体的な事例から考える：ハンセン病患者② 13. 具体的な事例から考える：エスニック・マイノリティ① 14. 具体的な事例から考える：エスニック・マイノリティ② 15. 授業のまとめ			
◇ 成績評価の方法	授業への積極的な参加 (30%)、最終レポート (70%)				
◇ 教科書・参考書	教科書は指定しない。参考文献は授業中に適宜指示する。				
◇ 授業時間外学習	新聞やニュースなどを通じて、今日の日本や外国で起きている差別問題についての情報を集めておくことが求められる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
心 理 学 特 論 I Psychology (Advanced Lecture) I	2	非常勤講師 倉 元 直 樹	1 学期	月	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHUPSY601J 心理・教育・行動科学のための統計解析法 量的データ分析のための理論を学ぶ。基礎的な統計的方法の考え方について、基本から理解し、把握する機会とする。講義に必要な数学的事項は高校段階程度までさかのぼって解説する予定である。統計的な分野について初めて触れる方、これまでに何度か受講経験があっても理解が不十分と感じる方を主な対象とする。人文・社会科学の研究を志す方であれば受講者の専攻分野は問わない。なお、主として授業期間の前半にレポートとして課される演習課題に若干の時間が取られることを予想しておいてほしい。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	初等統計学の基礎的概念の習得 1. イントロダクション 2. 記述統計(1) (統計とは何か、変数とデータ、尺度の水準、度数表、クロス集計表) 3. 記述統計(2) (連続変数、離散変数、多変量データ、発達データ、連続データの度数表、ヒストグラム、累積度数折線) 4. 記述統計(3) (数値による分布の要約 [モーメント系]) 5. 記述統計(4) (数値による分布の要約 [分位数系]) 6. 記述統計(5) (2つの変数の関係 [相関係数]) 7. 記述統計(6) (2つの変数の関係 [回帰]) 8. 古典的テスト理論(1) (妥当性) 9. 古典的テスト理論(2) (信頼性、項目分析) 10. 推測統計(1) (確率、条件付確率、確率分布) 11. 推測統計(2) (二項分布、正規分布、確率密度と確率、記述統計学と確率モデル) 12. 推測統計(3) (統計的仮説検定、帰無仮説と対立仮説、検定の手続き、有意水準と検出力、連続分布と離散分布、微分・積分) 13. 推測統計(4) (微分・積分、期待値、標本平均の期待値とその分散、標本分散の期待値) 14. 推測統計(5) (正規分布、標本平均の分布) 15. 推測統計(6) (様々な検定 [期待度数と実測度数、分割表の独立性、相関係数の検定、対応があるデータの平均値、符号検定]、分散分析と多重比較)				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	筆記試験 [30%程度]・レポート [30%程度]・出席 [40%程度] 教科書：自作プリント (ISTUにアップロードする予定) 参考書：中村知靖、松井仁、前田忠彦共著、2006、『心理統計法への招待』、サイエンス社 8回のレポート課題を課す予定。授業時間外に予習、復習を奨励する。ISTU教材の利用も可能。				
その他：ISTUによる受講も出席と認める。授業の進め方に関する詳細は初回の授業で説明予定。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
心 理 学 特 論 II Psychology (Advanced Lecture) II	2	非常勤講師 渡 邊 克 己	集 中 (1)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHUPSY602J 認知神経科学特論 認知神経科学は、人間を含む情報処理システムの認知・判断・行動の実証科学です。多くの学問領域(哲学、心理学、神経科学、情報科学、人類学、社会学など)の重なりとして発展してきており、その応用の裾野は広く、日常生活との接点も多くあります。この講義では、人間を情報処理システムとして研究する際の基本的な考え方と日常生活との接点などを、説明を体験によって理解することを目指します。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	認知心理学・認知科学・神経科学のコンセプトと知見を理解できる。 日常生活に見られる現象を認知科学的視点から考察できる。 1. 認知神経科学の考え方1 2. 認知神経科学の考え方2 3. 認知神経科学の基礎1 4. 認知神経科学の基礎2 5. 認知神経科学の基礎3 6. 魅力/報酬の認知科学・神経科学1 7. 魅力/報酬の認知科学・神経科学2 8. 魅力/報酬の認知科学・神経科学3 9. 日常生活と認知神経科学1 10. 日常生活と認知神経科学2 11. 日常生活と認知神経科学3 12. 実験・調査体験1 13. 実験・調査体験2 14. 実験・調査体験3 15. 実験・調査体験4				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	授業への参加とレポートを総合的に評価する。(割合は1:1) 授業中に指示する。 各トピックスについて関連する書籍や論文を予め読んでおく必要がある。また、レポートの作成のため、授業中に紹介された論文や書籍の該当部分を確認する必要もある。				
その他：授業中あるいはその前後に調査・実験の体験をしてもらうことがあります。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
心 理 学 研 究 演 習 I Psychology (Advanced Seminar) I	2	非常勤 講師 福 野 光 輝	1 学期	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHUPSY603J																				
◆ 授業題目	社会心理学の重要研究																				
◆ 目的・概要	本演習の目的は、社会心理学の代表的な研究を多読し、社会行動を理解する視点を獲得することです。学術雑誌に掲載された研究にふれるなかで、社会心理学がどのような問題意識をもち、それにどう接近し、なにをあきらかにしてきたのかを考えます。																				
◆ 到達目標	(1)社会心理学の代表的な研究を検討し、社会行動を理解する理論的枠組みを獲得する。 (2)研究内容を批判的に吟味し、評価する技能を身につける。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション： 授業の進め方の確認と担当章の決定</td> <td>8. 発表と議論 7</td> </tr> <tr> <td>2. 発表と議論 1 (章番号の小さい章から検討を始めます)</td> <td>9. 発表と議論 8</td> </tr> <tr> <td>3. 発表と議論 2</td> <td>10. 発表と議論 9</td> </tr> <tr> <td>4. 発表と議論 3</td> <td>11. 発表と議論 10</td> </tr> <tr> <td>5. 発表と議論 4</td> <td>12. 発表と議論 11</td> </tr> <tr> <td>6. 発表と議論 5</td> <td>13. 発表と議論 12</td> </tr> <tr> <td>7. 発表と議論 6</td> <td>14. 発表と議論 13</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 発表と議論 14</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション： 授業の進め方の確認と担当章の決定	8. 発表と議論 7	2. 発表と議論 1 (章番号の小さい章から検討を始めます)	9. 発表と議論 8	3. 発表と議論 2	10. 発表と議論 9	4. 発表と議論 3	11. 発表と議論 10	5. 発表と議論 4	12. 発表と議論 11	6. 発表と議論 5	13. 発表と議論 12	7. 発表と議論 6	14. 発表と議論 13		15. 発表と議論 14
1. オリエンテーション： 授業の進め方の確認と担当章の決定	8. 発表と議論 7																				
2. 発表と議論 1 (章番号の小さい章から検討を始めます)	9. 発表と議論 8																				
3. 発表と議論 2	10. 発表と議論 9																				
4. 発表と議論 3	11. 発表と議論 10																				
5. 発表と議論 4	12. 発表と議論 11																				
6. 発表と議論 5	13. 発表と議論 12																				
7. 発表と議論 6	14. 発表と議論 13																				
	15. 発表と議論 14																				
◇ 成績評価の方法	担当章の報告内容 (40%) と原著論文要約訳の提出 (30%)、議論への参加 (30%) で評価します。																				
◇ 教科書・参考書	Abelson, R. P., Frey, K. P., & Gregg, A. P. (2004). Experiments with people: Revelations from social psychology. Mahwah, NJ: Erlbaum. 6,801円 [Amazon.co.jp] ただし教科書の購入は必須ではありません。また履修希望の人は、事前に amazon.co.jp/dp/0805828974/ で目次を確認し、担当を希望する章を考えておいてください。																				
◇ 授業時間外学習	本演習では、予習に関する授業時間外学習が多くなります。各章の担当者は、内容を資料にまとめ報告します。その後、全員で質疑応答と議論を行います。またこの演習では、発表者以外の参加者にも、毎回、予習課題を行っていただきます。発表者以外の参加者はその回で取りあげる 2 本の論文の要約をそれぞれ全訳するとともに、要約を読んで疑問に思ったことを書いて提出します。1 回の演習で 2 章ずつ検討していきますが、第17章、第19章、第21章は本演習では取りあげません。																				
その他：	履修状況によって運営形態や発表回数が増えることがあります。初回の授業で運営形態および担当章について検討しますので、履修を希望する人は必ず出席してください。																				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
心 理 学 研 究 演 習 II Psychology (Advanced Seminar) II	2	教授 行 場 次 朗	1 学期	火	2																
◆ 科目ナンバリング	LHUPSY604J																				
◆ 授業題目	知覚・注意・動作・感性研究の最近の展開																				
◆ 目的・概要	知覚・注意・動作・感性に関する心理脳科学的研究の最先端に迫る。																				
◆ 到達目標	知覚・注意・動作・感性研究の諸分野にわたる最新の心理脳科学的研究例や、各自の研究を具体的に取上げ、基本的に英語でプレゼンテーションを行いながら、研究の目的、方法、結果、考察などの斬新な点と、研究展開の妥当性などについて演習を通じて議論しあう。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 英語でのプレゼンテーションの基本的な方法</td> <td>9. 認知研究についてのプレゼンテーション 2</td> </tr> <tr> <td>2. 知覚研究についてのプレゼンテーション 1</td> <td>10. 感性研究についてのプレゼンテーション 1</td> </tr> <tr> <td>3. 知覚研究についてのプレゼンテーション 2</td> <td>11. 感性研究についてのプレゼンテーション 2</td> </tr> <tr> <td>4. 注意研究についてのプレゼンテーション 1</td> <td>12. 応用研究についてのプレゼンテーション 1</td> </tr> <tr> <td>5. 注意研究についてのプレゼンテーション 2</td> <td>13. 応用研究についてのプレゼンテーション 2</td> </tr> <tr> <td>6. 動作研究についてのプレゼンテーション 1</td> <td>14. 応用研究についてのプレゼンテーション 3</td> </tr> <tr> <td>7. 動作研究についてのプレゼンテーション 2</td> <td>15. 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 認知研究についてのプレゼンテーション 1</td> <td></td> </tr> </table>					1. 英語でのプレゼンテーションの基本的な方法	9. 認知研究についてのプレゼンテーション 2	2. 知覚研究についてのプレゼンテーション 1	10. 感性研究についてのプレゼンテーション 1	3. 知覚研究についてのプレゼンテーション 2	11. 感性研究についてのプレゼンテーション 2	4. 注意研究についてのプレゼンテーション 1	12. 応用研究についてのプレゼンテーション 1	5. 注意研究についてのプレゼンテーション 2	13. 応用研究についてのプレゼンテーション 2	6. 動作研究についてのプレゼンテーション 1	14. 応用研究についてのプレゼンテーション 3	7. 動作研究についてのプレゼンテーション 2	15. 全体のまとめ	8. 認知研究についてのプレゼンテーション 1	
1. 英語でのプレゼンテーションの基本的な方法	9. 認知研究についてのプレゼンテーション 2																				
2. 知覚研究についてのプレゼンテーション 1	10. 感性研究についてのプレゼンテーション 1																				
3. 知覚研究についてのプレゼンテーション 2	11. 感性研究についてのプレゼンテーション 2																				
4. 注意研究についてのプレゼンテーション 1	12. 応用研究についてのプレゼンテーション 1																				
5. 注意研究についてのプレゼンテーション 2	13. 応用研究についてのプレゼンテーション 2																				
6. 動作研究についてのプレゼンテーション 1	14. 応用研究についてのプレゼンテーション 3																				
7. 動作研究についてのプレゼンテーション 2	15. 全体のまとめ																				
8. 認知研究についてのプレゼンテーション 1																					
◇ 成績評価の方法	出席、発表、討論への参加 (どれも同じ比重をもつ)																				
◇ 教科書・参考書	必読すべき研究論文を演習中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	演習中に関連する文献検討や実験・調査について指示を出すので、各自、参考にして理解を深めること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
心 理 学 研 究 演 習 Ⅲ Psychology (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教授 阿 部 恒 之	2 学 期	水	1																
◆ 科目ナンバリング	LHUPSY605J																				
◆ 授業題目	ストレスと化粧の社会生理心理学																				
◆ 目的・概要	人間の心は、脳のみで語りえるものではない。脳と身体は相互に作用しあいながら、「心」をなしている。またその相互作用は、社会的文脈の中で成り立っているものである。脳と身体、心と社会・文化・日常生活の関わりを、ストレスと化粧を対象とした研究事例から議論する。教科書を中心とした講義に討議や発表を交え、議論を深めたい。																				
◆ 到達目標	社会生理心理学・生理心理学・感情心理学の研究成果を学ぶとともに、その研究手法を習得する。また、謎から課題を立て、それを解決する研究の流れをつかみ、自ら研究を実施する力をつける。さらに発表を行うことで、学術的なプレゼンテーションスキル向上を目指す。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス 謎と課題</td> <td>9. 課題立案に関する討議 1</td> </tr> <tr> <td>2. 課題の立案</td> <td>10. 課題立案に関する討議 2</td> </tr> <tr> <td>3. ストレス研究史</td> <td>11. ストレスホルモンの分泌を促進する要因 1 発表 4</td> </tr> <tr> <td>4. ストレスの生理</td> <td>12. ストレスホルモンの分泌を促進する要因 2 発表 5</td> </tr> <tr> <td>5. 感情研究史</td> <td>13. 化粧の心理的効果 1 発表 6</td> </tr> <tr> <td>6. ストレッサー研究のパラダイムシフト 発表 1</td> <td>14. 化粧の心理的効果 2 発表 7</td> </tr> <tr> <td>7. 化粧の文化史 1 発表 2</td> <td>15. 総まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 化粧の文化史 2 発表 3</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス 謎と課題	9. 課題立案に関する討議 1	2. 課題の立案	10. 課題立案に関する討議 2	3. ストレス研究史	11. ストレスホルモンの分泌を促進する要因 1 発表 4	4. ストレスの生理	12. ストレスホルモンの分泌を促進する要因 2 発表 5	5. 感情研究史	13. 化粧の心理的効果 1 発表 6	6. ストレッサー研究のパラダイムシフト 発表 1	14. 化粧の心理的効果 2 発表 7	7. 化粧の文化史 1 発表 2	15. 総まとめ	8. 化粧の文化史 2 発表 3	
1. ガイダンス 謎と課題	9. 課題立案に関する討議 1																				
2. 課題の立案	10. 課題立案に関する討議 2																				
3. ストレス研究史	11. ストレスホルモンの分泌を促進する要因 1 発表 4																				
4. ストレスの生理	12. ストレスホルモンの分泌を促進する要因 2 発表 5																				
5. 感情研究史	13. 化粧の心理的効果 1 発表 6																				
6. ストレッサー研究のパラダイムシフト 発表 1	14. 化粧の心理的効果 2 発表 7																				
7. 化粧の文化史 1 発表 2	15. 総まとめ																				
8. 化粧の文化史 2 発表 3																					
◇ 成績評価の方法	レポート40%、その他60%（発表と討議）																				
◇ 教科書・参考書	授業において、以下の教科書を用いる。 阿部恒之『ストレスと化粧の社会生理心理学』フレグランスジャーナル社 ISBN978-4-89479-058-2																				
◇ 授業時間外学習	授業内容に関連した論文を見つけ、その内容を要約して発表してもらう。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
心 理 学 研 究 演 習 Ⅳ Psychology (Advanced Seminar) Ⅳ	2	准教授 坂 井 信 之	2 学 期	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHUPSY606J																				
◆ 授業題目	幸福と健康の心理学																				
◆ 目的・概要	最初に与えられた文献（幸福や健康、QOL などに関する心理学・神経科学領域の専門書）を講読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。																				
◆ 到達目標	①心理学の知識をどのように応用すれば、人間の日常行動を理解し、諸問題を解決できるかについて、自分で考えることができる能力を身につけることができるようになる。 ②自分でまとめたことや自分の考えを他人にわかりやすく伝えることができるようになる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 第1回 導入（講義の進め方／担当決め）</td> <td>9. 第9回 文献講読その7</td> </tr> <tr> <td>2. 第2回 プレゼンテーションの方法</td> <td>10. 第10回 文献講読その8</td> </tr> <tr> <td>3. 第3回 文献講読その1</td> <td>11. 第11回 文献紹介その1</td> </tr> <tr> <td>4. 第4回 文献講読その2</td> <td>12. 第12回 文献紹介その2</td> </tr> <tr> <td>5. 第5回 文献講読その3</td> <td>13. 第13回 文献紹介その3</td> </tr> <tr> <td>6. 第6回 文献講読その4</td> <td>14. 第14回 文献紹介その4</td> </tr> <tr> <td>7. 第7回 文献講読その5</td> <td>15. 第15回 文献紹介その5</td> </tr> <tr> <td>8. 第8回 文献講読その6</td> <td></td> </tr> </table>					1. 第1回 導入（講義の進め方／担当決め）	9. 第9回 文献講読その7	2. 第2回 プレゼンテーションの方法	10. 第10回 文献講読その8	3. 第3回 文献講読その1	11. 第11回 文献紹介その1	4. 第4回 文献講読その2	12. 第12回 文献紹介その2	5. 第5回 文献講読その3	13. 第13回 文献紹介その3	6. 第6回 文献講読その4	14. 第14回 文献紹介その4	7. 第7回 文献講読その5	15. 第15回 文献紹介その5	8. 第8回 文献講読その6	
1. 第1回 導入（講義の進め方／担当決め）	9. 第9回 文献講読その7																				
2. 第2回 プレゼンテーションの方法	10. 第10回 文献講読その8																				
3. 第3回 文献講読その1	11. 第11回 文献紹介その1																				
4. 第4回 文献講読その2	12. 第12回 文献紹介その2																				
5. 第5回 文献講読その3	13. 第13回 文献紹介その3																				
6. 第6回 文献講読その4	14. 第14回 文献紹介その4																				
7. 第7回 文献講読その5	15. 第15回 文献紹介その5																				
8. 第8回 文献講読その6																					
◇ 成績評価の方法	（ ）筆記試験・（○）レポート [40%]・（ ）出席・（○）その他（発表態度）[60%]																				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	事前：指定された文献の担当部分をパワーポイントなどを使って他の履修者に説明できるように理解しておく。発表の担当者でない授業の前には予め指示された項目について簡単な予習をしておく。 事後：発表中の質疑に応じて、パワーポイントなどの資料を改訂する。																				
その他：	何か質問があれば、電子メール（nob_sakai@m.tohoku.ac.jp）で問い合わせるか、電子メールで予約をした上で、研究室に質問にくること。																				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
心 理 学 研 究 演 習 V Psychology (Advanced Seminar) V	2	准教授 辻 本 昌 弘	1 学期	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHUPSY607J				
◆ 授業題目	現代文化心理学の視角				
◆ 目的・概要	近年、心理学とその関連領域において、文化研究は多様な発展をみせている。この授業では、心理学に関連する文化研究の主要な理論的観点—たとえば文化と心の関係、進化論的な観点、普遍性と多様性の問題など—を検討する。授業では、受講生みずからが論文を事前に読んでおき、資料を準備して発表を行う。それをもとに受講生全員で討論を行う。				
◆ 到達目標	1. 心理学とその関連領域における文化研究の代表的な理論を学ぶ。 2. 文化心理学の具体的な研究例を学ぶ。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス：授業の進め方の確認 2. 発表と討論 3. 発表と討論 4. 発表と討論 5. 発表と討論 6. 発表と討論 7. 発表と討論 8. 発表と討論 9. 発表と討論 10. 発表と討論 11. 発表と討論 12. 発表と討論 13. 発表と討論 14. 発表と討論 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法	出席（50%）、発表と討論参加（50%）				
◇ 教科書・参考書	とりあげる論文は授業中に指示する。				
◇ 授業時間外学習	とりあげる論文を授業までに読み、十分に予習しておくことが必要である。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
心 理 学 研 究 演 習 VI Psychology (Advanced Seminar) VI	2	非常勤講師 倉 元 直 樹	2 学期	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHUPSY608J				
◆ 授業題目	質問紙・テスト作成法				
◆ 目的・概要	計量的な心理学の方法論として幅広く使われている質問紙法に基づく尺度を開発・自作する際に重要な理論の一つを基礎から学ぶ。例えば、信頼性、妥当性といった概念の基礎となる古典的テスト理論、複数の尺度を同時に構成するために有効な因子分析法等が候補として考えられるが、実際には受講者の関心に応じてテーマを選定する。オーソドックスな輪講形式の演習スタイルを基本とするが、受講者の人数や希望によっては発展的な内容を加えたり、受講者が現在取り組んでいる研究を題材として取り交せることも可能とする。以下の授業計画は主として参考書(1)を教科書として用いて「古典的テスト理論」について学んだ平成26年度の実績に基づく事例である。ちなみに平成27年度は参考書(2)を教科書として用いて「因子分析法」をテーマとした。				
◆ 到達目標	テーマとした理論の習得。論文に用いられている指標の理解、および、学習した統計手法を使って実際に研究を行うためのデータ収集デザインを自力で構想することができるようになること。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション（テーマ、および、教科書の選定） 2. はじめに（測定の定義、信頼性と妥当性、測定誤差） 3. 妥当性（妥当性の諸概念 [補足資料：参考書(3)]） 4. 古典的テスト理論(1)（測定の信頼性、共分散） 5. 古典的テスト理論(2)（標準化、相関係数、信頼性係数の定義、平行測定の意味） 6. 古典的テスト理論(3)（信頼性係数の意味） 7. 古典的テスト理論(4)（並行測定と信頼性係数の推定、妥当性係数、信頼性と妥当性の関係、スピアマン＝ブラウンの公式） 8. 信頼性の評価(1)（再テスト法、平行テスト法、折半法、評定法による信頼性向上の原理） 9. 信頼性の評価(2)（スピアマン＝ブラウンの公式の一般化、 α 信頼性係数の意味） 10. 信頼性の評価(3)（信頼性推定値の下限としての α 信頼性係数） 11. 信頼性の評価(4)（内的整合性と測定誤差の仮定、KR20、内容的妥当性と測定モデル、信頼性と妥当性のジレンマ） 12. 古典的テスト理論と因子分析(1)（因子分析の基礎概念：単純構造と尺度の分類、因子軸の回転） 13. 古典的テスト理論と因子分析(2)（因子分析モデルと古典的テスト理論、因子負荷量、因子得点、相関係数の構造） 14. 古典的テスト理論と因子分析(3)（共通性と信頼性係数、主成分分析と因子分析、固有値と因子、因子分析法の手順） 15. まとめ（古典的テスト理論から見た因子分析法の陥穽、レーダーチャートの信頼性）				
◇ 成績評価の方法	出席 [40%]・発表と討論参加 [60%]				
◇ 教科書・参考書	(1)E.G.カーマイン・R.A.ツェラー著（1983）『テストの信頼性と妥当性』、朝倉書店（平成26年度教科書） (2)松尾太加志・中村知靖著（2002）『誰も教えてくれなかった因子分析』、北大路書房（平成25年度教科書） (3)吉田寿夫編（2006）『心理学研究法の新しいかたち』、誠信書房 他				
◇ 授業時間外学習	担当者は教科書の該当部分を中心に発表準備を行い、レジュメとプレゼンテーションを作成する。担当者以外の参加者は事前に教科書の該当部分を予習することが求められる。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
心 理 学 総 合 演 習 I Psychology (Integration Seminar) I	2	教授 行場 次朗・阿部 恒之 准教授 坂井 信之・辻本 昌弘	1 学期	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHUPSY609J																				
◆ 授業題目	特選題目研究 I																				
◆ 目的・概要	各自の研究テーマについて順次報告し、受講者全員で討論を行う。基本的に、1回の演習で2名がそれぞれ30分程度のプレゼンテーションを行う。発表レジメもあらかじめ作成し、出席者全員に配布する。質疑討論はそれぞれの発表につき15分程度行う。この演習の目的は、修士論文や博士論文につながる実験・調査の計画、遂行、結果のまとめや考察を進展させることにある。わかりやすく、説得力のある発表をするように努め、そのテーマを専門としない出席者の理解を促進するように工夫をすること。																				
◆ 到達目標	各自の研究活動に基づく発表を通じて、心理学の各領域の研究についての理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス：心理学研究のプレゼンテーションの基 本について</td> <td>8. 同上</td> </tr> <tr> <td>2. 各自のプレゼンテーションと、それについての議論と コメント</td> <td>9. 同上</td> </tr> <tr> <td>3. 同上</td> <td>10. 同上</td> </tr> <tr> <td>4. 同上</td> <td>11. 同上</td> </tr> <tr> <td>5. 同上</td> <td>12. 同上</td> </tr> <tr> <td>6. 同上</td> <td>13. 同上</td> </tr> <tr> <td>7. 同上</td> <td>14. 同上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 全体のまとめと総合討論、および総評</td> </tr> </table>					1. ガイダンス：心理学研究のプレゼンテーションの基 本について	8. 同上	2. 各自のプレゼンテーションと、それについての議論と コメント	9. 同上	3. 同上	10. 同上	4. 同上	11. 同上	5. 同上	12. 同上	6. 同上	13. 同上	7. 同上	14. 同上		15. 全体のまとめと総合討論、および総評
1. ガイダンス：心理学研究のプレゼンテーションの基 本について	8. 同上																				
2. 各自のプレゼンテーションと、それについての議論と コメント	9. 同上																				
3. 同上	10. 同上																				
4. 同上	11. 同上																				
5. 同上	12. 同上																				
6. 同上	13. 同上																				
7. 同上	14. 同上																				
	15. 全体のまとめと総合討論、および総評																				
◇ 成績評価の方法	発表 [40%]・出席 [30%]・討論への参加 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	特に使用しない。																				
◇ 授業時間外学習	各自、プレゼンテーションに備えて、実験・調査を計画・遂行し、その構想やデータなどを理解のしやすい内容にまとめ、レジメとパワーポイントを準備すること。																				
その他：履修は原則として、心理学専攻分野の大学院生に限る。 心理学総合演習ⅠとⅡを連続履修し、当該年度に2回以上の発表を行うこと。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
心 理 学 総 合 演 習 II Psychology (Integration Seminar) II	2	教授 行場 次朗・阿部 恒之 准教授 坂井 信之・辻本 昌弘	2 学期	金	5																
◆ 科目ナンバリング	LHUPSY610J																				
◆ 授業題目	特選題目研究 II																				
◆ 目的・概要	各自の研究テーマについて順次報告し、受講者全員で討論を行う。基本的に、1回の演習で2名がそれぞれ30分程度のプレゼンテーションを行う。発表レジメもあらかじめ作成し、出席者全員に配布する。質疑討論はそれぞれの発表につき15分程度行う。この演習の目的は、修士論文や博士論文につながる実験・調査の計画、遂行、結果のまとめや考察を進展させることにある。わかりやすく、説得力のある発表をするように努め、そのテーマを専門としない出席者の理解を促進するように工夫をすること。																				
◆ 到達目標	各自の研究活動に基づく発表を通じて、心理学の各領域の研究についての理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス：心理学研究のプレゼンテーションの基 本について</td> <td>8. 同上</td> </tr> <tr> <td>2. 各自のプレゼンテーションと、それについての議論と コメント</td> <td>9. 同上</td> </tr> <tr> <td>3. 同上</td> <td>10. 同上</td> </tr> <tr> <td>4. 同上</td> <td>11. 同上</td> </tr> <tr> <td>5. 同上</td> <td>12. 同上</td> </tr> <tr> <td>6. 同上</td> <td>13. 同上</td> </tr> <tr> <td>7. 同上</td> <td>14. 同上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 全体のまとめと総合討論、および総評</td> </tr> </table>					1. ガイダンス：心理学研究のプレゼンテーションの基 本について	8. 同上	2. 各自のプレゼンテーションと、それについての議論と コメント	9. 同上	3. 同上	10. 同上	4. 同上	11. 同上	5. 同上	12. 同上	6. 同上	13. 同上	7. 同上	14. 同上		15. 全体のまとめと総合討論、および総評
1. ガイダンス：心理学研究のプレゼンテーションの基 本について	8. 同上																				
2. 各自のプレゼンテーションと、それについての議論と コメント	9. 同上																				
3. 同上	10. 同上																				
4. 同上	11. 同上																				
5. 同上	12. 同上																				
6. 同上	13. 同上																				
7. 同上	14. 同上																				
	15. 全体のまとめと総合討論、および総評																				
◇ 成績評価の方法	発表 [40%]・出席 [30%]・討論への参加 [30%]																				
◇ 教科書・参考書	特に使用しない。																				
◇ 授業時間外学習	各自、プレゼンテーションに備えて、実験・調査を計画・遂行し、その構想やデータなどを理解のしやすい内容にまとめ、レジメとパワーポイントを準備すること。																				
その他：履修は原則として、心理学専攻分野の大学院生に限る。 心理学総合演習ⅠとⅡを連続履修し、当該年度に2回以上の発表を行うこと。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
心 理 学 研 究 実 習 I Psychological Methodology I	2	教授 阿部 恒之・行場 次朗 准教授 坂井 信之・辻本 昌弘	1 学期	火	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHUPSY611J																				
◆ 授業題目	心理学実験技法実習 I																				
◆ 目的・概要	心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、常に新たな技法が開発され、実用化されている。優れた研究を実施するためには、こういった技法の理解や習熟が必要である。大学院生を対象として、心理学実験技法を学ぶ目的で開講する。個別に必要な技法を中心に学ぶとともに、毎時間異なる基本メニューを確認する。																				
◆ 到達目標	心理学実験技法を実践的に学ぶ。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. ステレオタイプ</td> </tr> <tr> <td>2. 社会的態度の測定</td> <td>10. 感覚の尺度化</td> </tr> <tr> <td>3. 統計解析法</td> <td>11. 反応時間</td> </tr> <tr> <td>4. SPSS</td> <td>12. 幾何学的錯視</td> </tr> <tr> <td>5. 動物の行動観察</td> <td>13. カウンセリング</td> </tr> <tr> <td>6. 記憶検索</td> <td>14. 臨床心理学</td> </tr> <tr> <td>7. 鏡映描写</td> <td>15. 通期課題のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 四人のジレンマ</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. ステレオタイプ	2. 社会的態度の測定	10. 感覚の尺度化	3. 統計解析法	11. 反応時間	4. SPSS	12. 幾何学的錯視	5. 動物の行動観察	13. カウンセリング	6. 記憶検索	14. 臨床心理学	7. 鏡映描写	15. 通期課題のまとめ	8. 四人のジレンマ	
1. オリエンテーション	9. ステレオタイプ																				
2. 社会的態度の測定	10. 感覚の尺度化																				
3. 統計解析法	11. 反応時間																				
4. SPSS	12. 幾何学的錯視																				
5. 動物の行動観察	13. カウンセリング																				
6. 記憶検索	14. 臨床心理学																				
7. 鏡映描写	15. 通期課題のまとめ																				
8. 四人のジレンマ																					
◇ 成績評価の方法	レポート60%、その他40% (平常点)																				
◇ 教科書・参考書	実習中に指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。																				
履修は原則として心理学専攻分野の大学院生に限る。心理学研究実習ⅠとⅡを連続履修すること。 その他：ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。 授業計画に記されたメニューは変更の可能性があるが、変更の場合は事前に通知する。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
心 理 学 研 究 実 習 II Psychological Methodology II	2	教授 坂井 信之・阿部 恒之 准教授 行場 次朗・辻本 昌弘	2 学期	火	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHUPSY612J																				
◆ 授業題目	心理学実験技法実習 II																				
◆ 目的・概要	心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習メニューは毎回異なる。心理学研究実習Ⅰでは主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究実習Ⅱでは、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。以下の授業計画は担当者の都合などによる変更の可能性がある。																				
◆ 到達目標	心理学実験の基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得する。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. ロールシャッハテストⅡ</td> </tr> <tr> <td>2. 情報検索実習 (図書館文献検索を含む)</td> <td>10. WAIS-Ⅲ知能検査</td> </tr> <tr> <td>3. 生理機能計測 (ポリグラフィ)</td> <td>11. 感情評価 (覚醒水準の測定)</td> </tr> <tr> <td>4. 脳機能計測 (光トポグラフィ)</td> <td>12. 信号検出理論 (注意の測定)</td> </tr> <tr> <td>5. フィールドワークⅠ</td> <td>13. 応用心理学分野実験 (心理学の産業応用)</td> </tr> <tr> <td>6. フィールドワークⅡ</td> <td>14. 司法分野における心理専門職について</td> </tr> <tr> <td>7. 心理測定法</td> <td>15. 心理の資格</td> </tr> <tr> <td>8. ロールシャッハテストⅠ</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. ロールシャッハテストⅡ	2. 情報検索実習 (図書館文献検索を含む)	10. WAIS-Ⅲ知能検査	3. 生理機能計測 (ポリグラフィ)	11. 感情評価 (覚醒水準の測定)	4. 脳機能計測 (光トポグラフィ)	12. 信号検出理論 (注意の測定)	5. フィールドワークⅠ	13. 応用心理学分野実験 (心理学の産業応用)	6. フィールドワークⅡ	14. 司法分野における心理専門職について	7. 心理測定法	15. 心理の資格	8. ロールシャッハテストⅠ	
1. オリエンテーション	9. ロールシャッハテストⅡ																				
2. 情報検索実習 (図書館文献検索を含む)	10. WAIS-Ⅲ知能検査																				
3. 生理機能計測 (ポリグラフィ)	11. 感情評価 (覚醒水準の測定)																				
4. 脳機能計測 (光トポグラフィ)	12. 信号検出理論 (注意の測定)																				
5. フィールドワークⅠ	13. 応用心理学分野実験 (心理学の産業応用)																				
6. フィールドワークⅡ	14. 司法分野における心理専門職について																				
7. 心理測定法	15. 心理の資格																				
8. ロールシャッハテストⅠ																					
◇ 成績評価の方法	レポート [60%]、出席 [40%]																				
◇ 教科書・参考書	心理学実験室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。																				
心理学以外の学科・学部の卒業生はできるだけ履修すること。心理学研究実習ⅠとⅡを連続履修すること。 その他：ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。 授業計画に記されたメニューは変更の可能性があるが、変更の場合は事前に通知する。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
実 験 心 理 学 特 論 Experimental Psychology (Advanced Lecture)	2	教授 行 場 次 朗	2 学 期	月	5																		
◆ 科目ナンバリング	LHUPSY613J																						
◆ 授業題目	知覚と感性に関する心理科学の展開																						
◆ 目的・概要	知覚に関する研究は古くからなされてきたが、感性という概念を前面に打ち出して本格的に研究や応用がなされだしたのは1990年代からである。この授業では、感性をとらえる主要な手法について学び、そこから浮かびあった諸特性が感覚とどのような関連性をもつかについて解説する。また、視覚芸術を新たな視点から分類する試みを紹介し、従来の理論との対応や対比を検討する。最後に、近年の Virtual Reality 研究領域における新しい展開である拡張感性（迫真性と臨場感）について解説する。																						
◆ 到達目標	知覚と感性に関する心理科学の展開について知識を広げ、各自の生活や、仕事、研究、趣味などへの応用を考える。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. セマンティック・ディファレンシャル法でとらえる感性の特性</td> <td>7. 心のデザインモデルにもとづく視覚芸術の分類 I</td> </tr> <tr> <td>2. モダリティ・ディファレンシャル法でとらえる感性の特性</td> <td>8. 心のデザインモデルにもとづく視覚芸術の分類 II</td> </tr> <tr> <td>3. 評価性因子、活動性因子、力量性因子の感覚関連性とその脳内基盤</td> <td>9. 多感覚相互作用の諸相 I</td> </tr> <tr> <td>4. 感性因子の加算性と非加算性</td> <td>10. 多感覚相互作用の諸相 II</td> </tr> <tr> <td>5. クオリアとアウェアネスの特性差異</td> <td>11. 身体動作が認識におよぼす影響 I</td> </tr> <tr> <td>6. 心のデザインモデルの3つのストリーム</td> <td>12. 身体動作が認識におよぼす影響 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. 臨場感の素朴なとらえ方</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 新しい感性概念「迫真性」の重要性</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめと全体討論</td> </tr> </table>					1. セマンティック・ディファレンシャル法でとらえる感性の特性	7. 心のデザインモデルにもとづく視覚芸術の分類 I	2. モダリティ・ディファレンシャル法でとらえる感性の特性	8. 心のデザインモデルにもとづく視覚芸術の分類 II	3. 評価性因子、活動性因子、力量性因子の感覚関連性とその脳内基盤	9. 多感覚相互作用の諸相 I	4. 感性因子の加算性と非加算性	10. 多感覚相互作用の諸相 II	5. クオリアとアウェアネスの特性差異	11. 身体動作が認識におよぼす影響 I	6. 心のデザインモデルの3つのストリーム	12. 身体動作が認識におよぼす影響 II		13. 臨場感の素朴なとらえ方		14. 新しい感性概念「迫真性」の重要性		15. まとめと全体討論
1. セマンティック・ディファレンシャル法でとらえる感性の特性	7. 心のデザインモデルにもとづく視覚芸術の分類 I																						
2. モダリティ・ディファレンシャル法でとらえる感性の特性	8. 心のデザインモデルにもとづく視覚芸術の分類 II																						
3. 評価性因子、活動性因子、力量性因子の感覚関連性とその脳内基盤	9. 多感覚相互作用の諸相 I																						
4. 感性因子の加算性と非加算性	10. 多感覚相互作用の諸相 II																						
5. クオリアとアウェアネスの特性差異	11. 身体動作が認識におよぼす影響 I																						
6. 心のデザインモデルの3つのストリーム	12. 身体動作が認識におよぼす影響 II																						
	13. 臨場感の素朴なとらえ方																						
	14. 新しい感性概念「迫真性」の重要性																						
	15. まとめと全体討論																						
◇ 成績評価の方法	出席（60%）およびレポート（40%）																						
◇ 教科書・参考書	教科書は特に使用しない。 参考となる図書や文献は、授業の中で、適宜、指示する。																						
◇ 授業時間外学習	学期末のレポートについては、準備に時間がかかるので、ノートの整理や、指示された、あるいは関連する参考資料をあらかじめ収集しておくこと。																						
その他：																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
社 会 心 理 学 特 論 Social Psychology (Advanced Lecture)	2	非常勤 講師 福 野 光 輝	2 学 期	金	4																
◆ 科目ナンバリング	LHUPSY614J																				
◆ 授業題目	対人行動の社会心理学																				
◆ 目的・概要	本授業の目的は、対人場面における個人の心理と行動に関する諸問題を取りあげ、その代表的な理論と研究を批判的に検討することです。																				
◆ 到達目標	(1)対人行動を理解するための心理学的な知識と理論的枠組みを身につけること。 (2)既存の知見を批判的に検討できるようになること。 (3)現実社会の問題を、社会心理学的な観点から解釈できるようになること。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 同調</td> </tr> <tr> <td>2. 対人魅力</td> <td>10. 服従</td> </tr> <tr> <td>3. 援助と利他主義</td> <td>11. ステレオタイプ</td> </tr> <tr> <td>4. 攻撃と暴力</td> <td>12. 文化的自己観</td> </tr> <tr> <td>5. 社会的交換 1</td> <td>13. 主観的幸福感</td> </tr> <tr> <td>6. 社会的交換 2</td> <td>14. 認知的不協和</td> </tr> <tr> <td>7. 社会的交換 3</td> <td>15. 印象形成</td> </tr> <tr> <td>8. 公正</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 同調	2. 対人魅力	10. 服従	3. 援助と利他主義	11. ステレオタイプ	4. 攻撃と暴力	12. 文化的自己観	5. 社会的交換 1	13. 主観的幸福感	6. 社会的交換 2	14. 認知的不協和	7. 社会的交換 3	15. 印象形成	8. 公正	
1. オリエンテーション	9. 同調																				
2. 対人魅力	10. 服従																				
3. 援助と利他主義	11. ステレオタイプ																				
4. 攻撃と暴力	12. 文化的自己観																				
5. 社会的交換 1	13. 主観的幸福感																				
6. 社会的交換 2	14. 認知的不協和																				
7. 社会的交換 3	15. 印象形成																				
8. 公正																					
◇ 成績評価の方法	筆記試験（90%）とミニットペーパー（10%）で評価します。また、授業でお願いする実験や調査に参加いただいた場合、試験得点に加点します。																				
◇ 教科書・参考書	使用しません。参考書は初回の授業で紹介します。																				
◇ 授業時間外学習	授業内容の理解を定着させるために、初回の授業で紹介する参考書をいくつか読むことをおすすめします。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																																
応 用 心 理 学 特 論 Applied Psychology (Advanced Lecture)	2	准教授 坂 井 信 之	1 学期	水	3																																
◆ 科目ナンバリング	LHUPSY615J																																				
◆ 授業題目	選択と購買を決める心と脳の仕組み																																				
◆ 目的・概要	人が商品を購入する際には、最初に購入に対する欲求が生じ、次に商品を認知し、それからその商品を手に入れるメリット・デメリットを判断し、最終的にその商品を購入するかどうかを決定する。これらのプロセスは心理学や関連する領域でそれぞれバラバラに研究されてきた。この授業では、バラバラの研究領域の知見を「購買行動」に焦点を当て、一つにまとめた形で説明する。																																				
◆ 到達目標	①人間の「選択」と「購買」は、商品の機能を目的としているだけではないことが理解できる。 ②心理学の知識を応用することによって、人間の「選択」と「購買」に関連する社会的課題（商品開発やマーケティング、消費者問題など）解決することが可能であることを理解できるようになる。																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 第1回</td> <td>導入(ペプシとコーク、白ワインと赤ワイン)</td> <td>9. 第9回</td> <td>決断ととりやめ</td> </tr> <tr> <td>2. 第2回</td> <td>「何か足りない」</td> <td>10. 第10回</td> <td>購買時に生じる葛藤</td> </tr> <tr> <td>3. 第3回</td> <td>欲しいと思うところ</td> <td>11. 第11回</td> <td>保有効果と認知的不協和</td> </tr> <tr> <td>4. 第4回</td> <td>商品の認知(食品の場合)</td> <td>12. 第12回</td> <td>後悔しない(させない)買い物</td> </tr> <tr> <td>5. 第5回</td> <td>商品の認知(生活用品の場合)</td> <td>13. 第13回</td> <td>後半のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6. 第6回</td> <td>「ブランド」の魔力</td> <td>14. 第14回</td> <td>商品の開発</td> </tr> <tr> <td>7. 第7回</td> <td>ボトムアップとトップダウン</td> <td>15. 第15回</td> <td>まとめとテスト</td> </tr> <tr> <td>8. 第8回</td> <td>前半のまとめ</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 第1回	導入(ペプシとコーク、白ワインと赤ワイン)	9. 第9回	決断ととりやめ	2. 第2回	「何か足りない」	10. 第10回	購買時に生じる葛藤	3. 第3回	欲しいと思うところ	11. 第11回	保有効果と認知的不協和	4. 第4回	商品の認知(食品の場合)	12. 第12回	後悔しない(させない)買い物	5. 第5回	商品の認知(生活用品の場合)	13. 第13回	後半のまとめ	6. 第6回	「ブランド」の魔力	14. 第14回	商品の開発	7. 第7回	ボトムアップとトップダウン	15. 第15回	まとめとテスト	8. 第8回	前半のまとめ		
1. 第1回	導入(ペプシとコーク、白ワインと赤ワイン)	9. 第9回	決断ととりやめ																																		
2. 第2回	「何か足りない」	10. 第10回	購買時に生じる葛藤																																		
3. 第3回	欲しいと思うところ	11. 第11回	保有効果と認知的不協和																																		
4. 第4回	商品の認知(食品の場合)	12. 第12回	後悔しない(させない)買い物																																		
5. 第5回	商品の認知(生活用品の場合)	13. 第13回	後半のまとめ																																		
6. 第6回	「ブランド」の魔力	14. 第14回	商品の開発																																		
7. 第7回	ボトムアップとトップダウン	15. 第15回	まとめとテスト																																		
8. 第8回	前半のまとめ																																				
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [80%]・() レポート・() 出席 (○) 「その他」(実験への協力、小レポートなど) [20%]																																				
◇ 教科書・参考書	教科書は指定しない。参考書については授業時に紹介する。																																				
◇ 授業時間外学習	日常生活に心理学の知見を導入する授業のため、授業の前後の日常生活において、授業内容を想起しながら過ごすことが重要となる。この点について、授業時間内に任意に問うたり、簡単な小レポートを記入させたりするので、常にアンテナを張っておく必要がある。																																				
その他	何か質問があれば、電子メール(nob_sakai@m.tohoku.ac.jp)で問い合わせるか、電子メールで予約をした上で、研究室に質問にくること。																																				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
文 化 人 類 学 特 論 I Cultural Anthropology (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師 二階堂 裕 子	集 中 (1)		
◆ 科目ナンバリング	LHUCUA601J				
◆ 授業題目	グローバル化による国際移動				
◆ 目的・概要	この授業では、グローバル化の進展にともなう現代社会の変容について取り上げる。まず前半では、グローバル化の潮流を捉えるための基本的な概念と、国境を越える人の移動の諸相について解説する。続く後半では、日本社会に目を転じ、外国人の流入を促した外国人労働者政策について論じた後、日本における文化的多様化をめぐるどのような問題が生じているのかを概観する。さらに、以上をふまえたうえで、グローバル化時代における今後の日本社会のあり方について考察する。				
◆ 到達目標	1. グローバル化によって促された国際移動という現象が、今日の社会にいかなる影響を与えているかについて理解する。 2. 日本における文化的多様化とともに顕在化した諸課題について主体的に考察することを通して、これまで当然視してきた自己の価値観を相対的に捉え直す力を養う。				
◆ 授業内容・方法	1. 社会変動としてのグローバル化 2. エスニシティと境界 3. 国家とナショナリズム 4. 国境を越える人の移動 5. 国際移動とジェンダー 6. 世界都市の形成 7. 国際移動をめぐる課題 8. 日本社会と移民 9. 日本の外国人労働者政策 10. 日本の労働市場と日系人労働者 11. 日本の労働市場と外国人技能実習生 12. 顔の見えない定住化 13. 日本社会の多文化化と地域社会 14. 大災害と外国人住民 15. 社会統合の可能性				
◇ 成績評価の方法	リアクションペーパー (30%)、レポート (70%) で総合評価する。				
◇ 教科書・参考書	教科書は特に指定しない。授業中、必要に応じて、適宜資料等を配布する。				
◇ 授業時間外学習	毎日、新聞を読み、社会情勢に対する関心を深めること。				
その他：予備知識はとくに必要ない。ただし、グローバル化をめぐる社会動向が、自分の日常生活とどのような接点をもっているかについて、真摯に考察することが求められる。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
文 化 人 類 学 特 論 II Cultural Anthropology (Advanced Lecture) II	2	非常勤 講師 小 川 さやか	集 中 (1)		
◆ 科目ナンバリング	LHUCUA602J				
◆ 授業題目	Living for todayの人類学				
◆ 目的・概要	文化人類学は、この世界にたしかに存在しているアナザーワールドから、私たちが「これ以外にはあり得ない」と感じる社会や文化、経済、政治のしくみとそれを支える概念・思考を相対化し、ひとつではない多様な世界を構想することにかけて大きな可能性を秘めた学問である。本講義では、「living for today (その日その日を生きる)」をテーマにして、明日のことさえわからなくても生きていく人々の人間観や労働観、その日暮らしを支える社会関係、living for todayの論理でうごく政治経済のしくみを多角的に考察する。それを通して、主流派の文化、政治経済システムとは異なるオルタナティブな世界を構想するための人類学の理論と方法を学ぶことを目指す。第1回では授業の狙いを説明する。第2回から第4回は、アフリカ都市の商世界を主な事例としながら、勤労主義と怠け者主義をめぐる議論、モラルエコノミー論、贈与交換論、時間論、笑いの理論などを横断して、私たちがあたりまえのように身体化している未来優位の時間感覚、生産主義的な人間観の再考を試みる。第5回から第8回は、古着やコピー商品、携帯電話を通じた革新的な送金システムを題材に、主流派のグローバル資本主義経済と共存/に対抗するもう一つの資本主義経済のダイナミズムを議論する。第9回から第11回は、公共空間論、抗争空間論、「インフォーマル性の政治」論を下敷きにして、「政治」を倒いならす方法を考えたい。第12回から第14回は、一点突破・全面展開型のフィールドワークの方法論と、インターネットを駆使したオープン・アンソロポロジーの可能性について議論する。第15回は、講義のまとめを行った後に、授業内レポートを課す				
◆ 到達目標	①未来優位の生き方、生産主義的な人間観とそれに支えられている現行の資本主義経済のしくみを相対化する視座を獲得する。 ②グローバル化の動態を理解し、アフリカや中国で生起する現象を自分たちの生き方や価値観と結びつけて理解することができる。 ③アフリカの事例を解くために用いた人類学の理論をつかって身近な事例を考える力を培う。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション—講義の狙い、評価の方法、自己紹介 2. Living for Todayの人類学—大黒シズオ、ビダハン、最小生計努力、インフォーマル経済 3. 騙し騙され助け合う商売のしくみ—タンザニアの都市零細商人の商実践と狭知 4. 笑いに満ちあふれた世界—瀬戸際の人間行為と「民衆の笑い」の非道徳性 5. もうひとつの使い捨て文化—古着流通とグローバル経済システム 6. 「グローバル化の物語」に回収できないもの—映画「ダーウィンの悪夢」の舞台から 7. 下からのグローバル化とチャイニーズ・ドリーム—バクリ革命、模造品交易、海賊資本主義 8. 「借り」から「負債」へ—携帯を通じた送金システムと「借り」をまわすシステム 9. 路上空間は誰のもの？—ワンコイン弁当、路上暴動、抗争空間論 10. インフォーマル性の政治—路上商人の組合化と「援助の受け皿」としての組織経営の論理 11. ストリート化する政治とヒップホップ—政治風刺のレトリックを「消費」する 12. 「一点突破・全面展開」のフィールドワークの方法論—映画「母たちの村」と「不気味の谷」 13. あなたは何主義？—包摂と排除の前提を考える 14. オープン・アンソロポロジーの可能性—民族誌のユニバーサル・デザインを構想する 15. 講義のまとめ、授業内レポート				
◇ 成績評価の方法	平常点 (50%)、授業内レポート (50%) ※毎回の講義で短いコメントシートを提出してもらおう。 ※授業内レポートの課題は、最初の講義で説明する。				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書に関しては、最初の講義で文献リストを配る。また毎回の講義でレジュメを配布する。				
◇ 授業時間外学習	最終講義で課すレポートでは、各講義に関連する特定の問いから一つを選び、その問いに対する意見を、自分のことばで身近な事例をつかって論述する。毎回の講義では詳細なレジュメを配り、最終講義でも配布レジュメを自由に参照できる。そのため、専門用語を暗記する必要はないが、講義で説明した事例を自分自身の関心に結びつけたり、身近な事例に置き換えて思考し、授業内レポートの題材について下調べしておくことを求める。				
その他：積極的な質問を歓迎する。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 研 究 演 習 I Cultural Anthropology (Advanced Seminar) I	2	准教授 川 口 幸 大	1 学期	火	3																
<p>◆ 科目ナンバリング LHUCUA604J</p> <p>◆ 授業題目 文化人類学の視野と思考</p> <p>◆ 目的・概要 文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。</p> <p>◆ 到達目標 文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。 最終的には、自分の研究主題についての文献リストと主要文献のレビューを作成する。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>2. 研究動向の整理と検討</td> <td>10. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>3. 研究動向の整理と検討</td> <td>11. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>4. 文献講読</td> <td>12. 文献講読</td> </tr> <tr> <td>5. 研究動向の整理と検討</td> <td>13. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>6. 研究動向の整理と検討</td> <td>14. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>7. 研究動向の整理と検討</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 文献講読</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 発表 [40%]、出席 [20%]、最終レポート [40%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 授業中に指示する。</p> <p>◇ 授業時間外学習 毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。</p> <p>その他：</p>						1. イントロダクション	9. 研究動向の整理と検討	2. 研究動向の整理と検討	10. 研究動向の整理と検討	3. 研究動向の整理と検討	11. 研究動向の整理と検討	4. 文献講読	12. 文献講読	5. 研究動向の整理と検討	13. 研究動向の整理と検討	6. 研究動向の整理と検討	14. 研究動向の整理と検討	7. 研究動向の整理と検討	15. まとめ	8. 文献講読	
1. イントロダクション	9. 研究動向の整理と検討																				
2. 研究動向の整理と検討	10. 研究動向の整理と検討																				
3. 研究動向の整理と検討	11. 研究動向の整理と検討																				
4. 文献講読	12. 文献講読																				
5. 研究動向の整理と検討	13. 研究動向の整理と検討																				
6. 研究動向の整理と検討	14. 研究動向の整理と検討																				
7. 研究動向の整理と検討	15. まとめ																				
8. 文献講読																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 研 究 演 習 II Cultural Anthropology (Advanced Seminar) II	2	准教授 川 口 幸 大	2 学期	火	3																
<p>◆ 科目ナンバリング LHUCUA605J</p> <p>◆ 授業題目 文化人類学の視野と思考</p> <p>◆ 目的・概要 文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。</p> <p>◆ 到達目標 文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。 最終的には、自身の修論もしくは博論における先行研究のレビューを完成させる。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>2. 研究動向の整理と検討</td> <td>10. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>3. 研究動向の整理と検討</td> <td>11. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>4. 文献講読</td> <td>12. 文献講読</td> </tr> <tr> <td>5. 研究動向の整理と検討</td> <td>13. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>6. 研究動向の整理と検討</td> <td>14. 研究動向の整理と検討</td> </tr> <tr> <td>7. 研究動向の整理と検討</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 文献講読</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 発表 [40%]、出席 [20%]、最終レポート [40%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 授業中に指示する。</p> <p>◇ 授業時間外学習 毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。</p> <p>その他：</p>						1. イントロダクション	9. 研究動向の整理と検討	2. 研究動向の整理と検討	10. 研究動向の整理と検討	3. 研究動向の整理と検討	11. 研究動向の整理と検討	4. 文献講読	12. 文献講読	5. 研究動向の整理と検討	13. 研究動向の整理と検討	6. 研究動向の整理と検討	14. 研究動向の整理と検討	7. 研究動向の整理と検討	15. まとめ	8. 文献講読	
1. イントロダクション	9. 研究動向の整理と検討																				
2. 研究動向の整理と検討	10. 研究動向の整理と検討																				
3. 研究動向の整理と検討	11. 研究動向の整理と検討																				
4. 文献講読	12. 文献講読																				
5. 研究動向の整理と検討	13. 研究動向の整理と検討																				
6. 研究動向の整理と検討	14. 研究動向の整理と検討																				
7. 研究動向の整理と検討	15. まとめ																				
8. 文献講読																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 研 究 演 習 Ⅲ Cultural Anthropology (Advanced Seminar) Ⅲ	2	教 授 沼 崎 一 郎	2 学 期	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHUCUA606J																				
◆ 授業題目	英語古典原書講読																				
◆ 目的・概要	文化人類学の古典であるフランツ・ボアズ『未開人の心性』改訂版（1938）の原書を精読し、学術的に正確な訳文を作成するという作業を通して、文化人類学における英語古典の精密な訳読の技法を習得する。今 Semester は、序文から第2章まで訳出する。底本には、メルヴィル・ハースコヴィッツの序文のある Free Press 版（1965）を用いる。																				
◆ 到達目標	(1)学術的な英文の正確な訳読力を身に付ける。 (2)文化人類学の古典の息吹に触れる。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 授業方法の説明</td> <td>9. Chapter 1 Introduction p.27-29</td> </tr> <tr> <td>2. Forward p.5-7</td> <td>10. Chapter 1 Introduction p.29-31</td> </tr> <tr> <td>3. Forward p.7-10</td> <td>11. Chapter 2 Historical Review p.32-35</td> </tr> <tr> <td>4. Forward p.10-12</td> <td>12. Chapter 2 Historical Review p.35-37</td> </tr> <tr> <td>5. Preface p.17-18</td> <td>13. Chapter 2 Historical Review p.37-40</td> </tr> <tr> <td>6. Chapter 1 Introduction p.19-22</td> <td>14. Chapter 2 Historical Review p.40-42</td> </tr> <tr> <td>7. Chapter 1 Introduction p.22-25</td> <td>15. Chapter 2 Historical Review p.42-44</td> </tr> <tr> <td>8. Chapter 1 Introduction p.25-27</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 授業方法の説明	9. Chapter 1 Introduction p.27-29	2. Forward p.5-7	10. Chapter 1 Introduction p.29-31	3. Forward p.7-10	11. Chapter 2 Historical Review p.32-35	4. Forward p.10-12	12. Chapter 2 Historical Review p.35-37	5. Preface p.17-18	13. Chapter 2 Historical Review p.37-40	6. Chapter 1 Introduction p.19-22	14. Chapter 2 Historical Review p.40-42	7. Chapter 1 Introduction p.22-25	15. Chapter 2 Historical Review p.42-44	8. Chapter 1 Introduction p.25-27	
1. 導入 授業方法の説明	9. Chapter 1 Introduction p.27-29																				
2. Forward p.5-7	10. Chapter 1 Introduction p.29-31																				
3. Forward p.7-10	11. Chapter 2 Historical Review p.32-35																				
4. Forward p.10-12	12. Chapter 2 Historical Review p.35-37																				
5. Preface p.17-18	13. Chapter 2 Historical Review p.37-40																				
6. Chapter 1 Introduction p.19-22	14. Chapter 2 Historical Review p.40-42																				
7. Chapter 1 Introduction p.22-25	15. Chapter 2 Historical Review p.42-44																				
8. Chapter 1 Introduction p.25-27																					
◇ 成績評価の方法	下訳の作成（50％）と、授業時の訳文の修正作業への参加（50％）による。																				
◇ 教科書・参考書	Franz Boas, The Mind of Primitive Man, Revised Edition, with a new foreword by Melville J. Herskovits. New York: Free Press, 1965.																				
◇ 授業時間外学習	毎週、3頁ほどの英文の下訳を作成する。授業での議論に基づいて、下訳を修正する。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 調 査 実 習 Ⅰ Cultural Anthropology (Field Research) Ⅰ	2	教 授 沼 崎 一 郎	1 学 期	水	3・4																
◆ 科目ナンバリング	LHUCUA607J																				
◆ 授業題目	フィールドワークの理論と方法																				
◆ 目的・概要	文化人類学的調査に必要な基礎技術を、修士論文研究の企画・実施を通して習得する。研究計画書および修士論文草稿の執筆と添削を通して、論文執筆力の向上を図る。毎回、各自発表要旨を用意し、それに基づいて発表を行い、全員で討議するという方式を採る。																				
◆ 到達目標	(1)文化人類学的な調査技法の習得。 (2)論文執筆力の向上。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入 授業方法の説明</td> <td>9. 分析方法2 量的データの記述と分析</td> </tr> <tr> <td>2. 研究倫理1 特に人類学的フィールドワークの倫理</td> <td>10. 研究テーマの探索</td> </tr> <tr> <td>3. 研究倫理2 特に論文執筆における倫理</td> <td>11. 研究テーマの決定</td> </tr> <tr> <td>4. 研究方法1 参与観察</td> <td>12. 研究トピックの探索</td> </tr> <tr> <td>5. 研究方法2 インタビュー</td> <td>13. 研究トピックの決定</td> </tr> <tr> <td>6. 研究方法3 文献調査</td> <td>14. 研究計画の作成</td> </tr> <tr> <td>7. 研究方法4 映像・音声データの収集</td> <td>15. 研究計画の発表</td> </tr> <tr> <td>8. 分析方法1 質的データの記述と分析</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入 授業方法の説明	9. 分析方法2 量的データの記述と分析	2. 研究倫理1 特に人類学的フィールドワークの倫理	10. 研究テーマの探索	3. 研究倫理2 特に論文執筆における倫理	11. 研究テーマの決定	4. 研究方法1 参与観察	12. 研究トピックの探索	5. 研究方法2 インタビュー	13. 研究トピックの決定	6. 研究方法3 文献調査	14. 研究計画の作成	7. 研究方法4 映像・音声データの収集	15. 研究計画の発表	8. 分析方法1 質的データの記述と分析	
1. 導入 授業方法の説明	9. 分析方法2 量的データの記述と分析																				
2. 研究倫理1 特に人類学的フィールドワークの倫理	10. 研究テーマの探索																				
3. 研究倫理2 特に論文執筆における倫理	11. 研究テーマの決定																				
4. 研究方法1 参与観察	12. 研究トピックの探索																				
5. 研究方法2 インタビュー	13. 研究トピックの決定																				
6. 研究方法3 文献調査	14. 研究計画の作成																				
7. 研究方法4 映像・音声データの収集	15. 研究計画の発表																				
8. 分析方法1 質的データの記述と分析																					
◇ 成績評価の方法	平常点（50％）と研究計画書（50％）による。																				
◇ 教科書・参考書	適宜、教室で指示する。																				
◇ 授業時間外学習	自身の研究に必要な文献収集と文献読解を行い、毎回授業前に進捗状況を報告するレジメを作成する。																				
その他：授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
文 化 人 類 学 調 査 実 習 II Cultural Anthropology (Field Research) II	2	教 授 沼 崎 一 郎	2 学 期	水	3・4																
<p>◆ 科目ナンバリング LHUCUA608J</p> <p>◆ 授業題目 フィールドワークの理論と方法</p> <p>◆ 目的・概要 前期に引き続き、文化人類学的調査に必要な基礎技術を、修士論文研究の企画・実施を通して習得する。研究計画書および修士論文草稿の執筆と添削を通して、論文執筆力の向上を図る。毎回、各自発表要旨を用意し、それに基づいて発表を行い、全員で討議するという方式を採る。</p> <p>◆ 到達目標 (1)文化人類学的な調査技法の習得。 (2)論文執筆力の向上。</p> <p>◆ 授業内容・方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 導入 授業方法の説明</td> <td>9. 民族誌的考察3 先行研究との「解釈」の対比</td> </tr> <tr> <td>2. エミックとエティック 「事実」と「解釈」の多重性</td> <td>10. 民族誌的考察4 「事実」と「解釈」の総合的考察</td> </tr> <tr> <td>3. 民族誌的記述1 参与観察の記述</td> <td>11. 論文執筆法1 「事実」と「解釈」の書き分け</td> </tr> <tr> <td>4. 民族誌的記述2 インタビューの記述</td> <td>12. 論文執筆法2 論文の文体</td> </tr> <tr> <td>5. 民族誌的記述3 文献資料の利用</td> <td>13. 論文執筆法3 論文の形式</td> </tr> <tr> <td>6. 民族誌的記述4 映像・音声データの利用</td> <td>14. 論文執筆法4 パラフレーズの活用法</td> </tr> <tr> <td>7. 民族誌的考察1 「事実」と「解釈」</td> <td>15. 論文執筆法5 直接引用の活用法</td> </tr> <tr> <td>8. 民族誌的考察2 先行研究との「事実」の対比</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇ 成績評価の方法 平常点（50％）と研究計画書（50％）による。</p> <p>◇ 教科書・参考書 適宜、教室で指示する。</p> <p>◇ 授業時間外学習 自身の研究に必要な文献収集と文献読解を行い、毎回授業前に進捗状況を報告するレジメを作成する。</p> <p>その他：前期の文化人類学調査実習Ⅰを必ず履修していること。 授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。</p>						1. 導入 授業方法の説明	9. 民族誌的考察3 先行研究との「解釈」の対比	2. エミックとエティック 「事実」と「解釈」の多重性	10. 民族誌的考察4 「事実」と「解釈」の総合的考察	3. 民族誌的記述1 参与観察の記述	11. 論文執筆法1 「事実」と「解釈」の書き分け	4. 民族誌的記述2 インタビューの記述	12. 論文執筆法2 論文の文体	5. 民族誌的記述3 文献資料の利用	13. 論文執筆法3 論文の形式	6. 民族誌的記述4 映像・音声データの利用	14. 論文執筆法4 パラフレーズの活用法	7. 民族誌的考察1 「事実」と「解釈」	15. 論文執筆法5 直接引用の活用法	8. 民族誌的考察2 先行研究との「事実」の対比	
1. 導入 授業方法の説明	9. 民族誌的考察3 先行研究との「解釈」の対比																				
2. エミックとエティック 「事実」と「解釈」の多重性	10. 民族誌的考察4 「事実」と「解釈」の総合的考察																				
3. 民族誌的記述1 参与観察の記述	11. 論文執筆法1 「事実」と「解釈」の書き分け																				
4. 民族誌的記述2 インタビューの記述	12. 論文執筆法2 論文の文体																				
5. 民族誌的記述3 文献資料の利用	13. 論文執筆法3 論文の形式																				
6. 民族誌的記述4 映像・音声データの利用	14. 論文執筆法4 パラフレーズの活用法																				
7. 民族誌的考察1 「事実」と「解釈」	15. 論文執筆法5 直接引用の活用法																				
8. 民族誌的考察2 先行研究との「事実」の対比																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
宗 教 学 特 論 I Science of Religion (Advanced Lecture) I	2	非常勤 講師 川 島 秀 一	1 学期	水	1																
◆ 科目ナンバリング	LHURES602J																				
◆ 授業題目	宗教学特論Ⅱ																				
◆ 目的・概要	四方を海に囲まれている日本列島においては、海に関わる信仰や宗教が、今でも多様に展開している。まず、海と陸との境界でもある渚に関わる信仰がある。海の彼方から到来する「寄りもの」に対する信仰や、逆に災厄を海に流す「流しもの」の信仰がある。「寄りもの」と共にあったエビスに関わる信仰などがその典型である。潮との関わりであれば、満ち潮のときに子が生まれ、引き潮のときに人が亡くなるという伝承も含まれる。人間の生死と関わるこの渚は、今、防潮堤などの建設によって、急速に消滅しようとしている。また、渚とともに考えなければならないのは、海上の、つまりは船上の信仰や宗教がある。「板子一枚下は地獄」と呼ばれる船上においては、常に危険な場面に命を賭け、それゆえに深い信仰も培ってきた。船の神様である「お船霊（ふなだま）様」は、その典型である。海底に棲むと伝えられる「龍神」に関わる信仰も多い。ほかには、漁師が捕った魚や海洋生物を供養をするという信仰も含まれよう。東日本大震災の後、人間と海との関わりが希薄となり、再考すべきときが来ていることから、本講義はこのことを最上の目的としたい。なお、本期の講義においても、できるかぎり、受講者それぞれがテーマを選び、発表をするかたちを基本としたい。																				
◆ 到達目標	日本列島における、海に関わる信仰や宗教を、受講者が悪戦苦闘をしながらも、自分なりに理解できることが、到達目標となる。「エビス」・「龍神」・「お船霊」など、代表的な海の信仰対象の基本的な理解ができることも目標としたい。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 序論と、テーマの振り分け</td> <td>9. 宗教的職能者と海の信仰</td> </tr> <tr> <td>2. 寄りもの一渚の民俗学</td> <td>10. 魚のとむらい</td> </tr> <tr> <td>3. 寄りもの信仰とエビス</td> <td>11. 海洋生物の民俗</td> </tr> <tr> <td>4. 龍神と「失せ物絵馬」</td> <td>12. 「船幽霊」の世間話</td> </tr> <tr> <td>5. 「流しもの」の民俗</td> <td>13. 海の災害と信仰</td> </tr> <tr> <td>6. シオに関わる民俗</td> <td>14. 海難者の供養</td> </tr> <tr> <td>7. 船上の信仰・禁忌</td> <td>15. まとめに</td> </tr> <tr> <td>8. お船霊様の信仰</td> <td></td> </tr> </table>					1. 序論と、テーマの振り分け	9. 宗教的職能者と海の信仰	2. 寄りもの一渚の民俗学	10. 魚のとむらい	3. 寄りもの信仰とエビス	11. 海洋生物の民俗	4. 龍神と「失せ物絵馬」	12. 「船幽霊」の世間話	5. 「流しもの」の民俗	13. 海の災害と信仰	6. シオに関わる民俗	14. 海難者の供養	7. 船上の信仰・禁忌	15. まとめに	8. お船霊様の信仰	
1. 序論と、テーマの振り分け	9. 宗教的職能者と海の信仰																				
2. 寄りもの一渚の民俗学	10. 魚のとむらい																				
3. 寄りもの信仰とエビス	11. 海洋生物の民俗																				
4. 龍神と「失せ物絵馬」	12. 「船幽霊」の世間話																				
5. 「流しもの」の民俗	13. 海の災害と信仰																				
6. シオに関わる民俗	14. 海難者の供養																				
7. 船上の信仰・禁忌	15. まとめに																				
8. お船霊様の信仰																					
◇ 成績評価の方法	本期講義終了後のレポート提出																				
◇ 教科書・参考書	参考書として、川島秀一『漁撈伝承』（法政大学出版社、2003）など。																				
◇ 授業時間外学習	今回の授業のテーマが分かっている場合、各自、総体的に学習してくること。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
宗 教 学 特 論 II Science of Religion (Advanced Lecture) II	2	准教授 高 橋 原	1 学期	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LHURES603J																				
◆ 授業題目	宗教と心理(1)																				
◆ 目的・概要	古典的な心理学者たちの議論を参照しながら、宗教の持つ意味を人間心理の側面から考える。																				
◆ 到達目標	いくつかの基本概念を理解し、宗教とは何かという大きな問題を、人間の心に及ぼす影響という点から理解し、説明できるようにする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション 宗教と人間の心</td> <td>9. フロイトの宗教論(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 回心と意識変容(1)</td> <td>10. フロイトの宗教論(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 回心と意識変容(2)</td> <td>11. ユングの宗教論(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 回心と意識変容(3)</td> <td>12. ユングの宗教論(2)</td> </tr> <tr> <td>5. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(1)</td> <td>13. ユングの宗教論(3)</td> </tr> <tr> <td>6. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(2)</td> <td>14. トランスパーソナル心理学と宗教(1)</td> </tr> <tr> <td>7. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(3)</td> <td>15. トランスパーソナル心理学と宗教(2)</td> </tr> <tr> <td>8. フロイトの宗教論(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション 宗教と人間の心	9. フロイトの宗教論(2)	2. 回心と意識変容(1)	10. フロイトの宗教論(3)	3. 回心と意識変容(2)	11. ユングの宗教論(1)	4. 回心と意識変容(3)	12. ユングの宗教論(2)	5. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(1)	13. ユングの宗教論(3)	6. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(2)	14. トランスパーソナル心理学と宗教(1)	7. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(3)	15. トランスパーソナル心理学と宗教(2)	8. フロイトの宗教論(1)	
1. イントロダクション 宗教と人間の心	9. フロイトの宗教論(2)																				
2. 回心と意識変容(1)	10. フロイトの宗教論(3)																				
3. 回心と意識変容(2)	11. ユングの宗教論(1)																				
4. 回心と意識変容(3)	12. ユングの宗教論(2)																				
5. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(1)	13. ユングの宗教論(3)																				
6. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(2)	14. トランスパーソナル心理学と宗教(1)																				
7. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(3)	15. トランスパーソナル心理学と宗教(2)																				
8. フロイトの宗教論(1)																					
◇ 成績評価の方法	期末レポートによる。授業内で小レポートを課す場合もある。																				
◇ 教科書・参考書	ルイス・R・ランボー『宗教的回心の研究』（渡邊学・高橋原・堀雅彦共訳、ビイング・ネット・プレス、2014年）他、授業内で適宜指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業内で指示する参考文献により理解を深める。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
宗 教 学 特 論 III Science of Religion (Advanced Lecture) III	2	教 授 鈴木 岩 弓	2 学期	水	1
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHURES604J 死の宗教民俗学 これまでの日本では、身近に「死者」が出ると、その子や孫といったイエの人々が、地域の人々の力を借りて、遺体処理・葬送儀礼・造墓などの一連の仕事を行うことが常であった。しかしそうした慣行も、近年の社会変動の波を受けて「地縁」の縛りが弱まり、戦後民法からイエ制度が消滅しイエ意識も希薄化してきた中で、そのあり方を再考しなければならない時期に入ってきた。この授業では、従来イエが担って執り行ってきた葬送墓制のあり方を探ると共に、現代さまざまな試行錯誤している「死」の文化の諸相に眼を向け、「超高齢多死社会」を迎える今後の日本のあり方を展望する。				
◆ 到達目標	①宗教民俗学的なものの見方を理解する。 ②伝統社会における「死」をめぐる文化の展開を理解する。 ③現代日本における「死」をめぐる状況を理解する。 ④今後の日本社会に予想される「死」をめぐる課題を把握し、その問題解決に向けた方策を考える。				
◆ 授業内容・方法	1. 1.現代日本の「死」の状況 9. 6-3 墓 2. 2.宗教民俗学的視座 10. 7.死者と生者の接点 7-1 納骨習俗の歴史 3. 3.「死」とは何か? 11. 7-2 歯骨納骨の諸相 4. 4.「死」をめぐる時間 4-1 葬送儀礼の多様性 12. 7-3 霊場の成立 5. 4-2 葬送習俗の変容 13. 8.死者の記憶 8-1 東日本大震災 6. 5.「死」をめぐる空間 5-1 靈魂の存在 14. 8-2 イエと死者 7. 5-2 多重祭祀 15. 9.まとめ—イエ亡き時代の死者のゆくえ— 8. 6.死者のシンボル 6-1 位牌 6-2 遺影				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書	期末に提出するレポート（70%）+授業時に不定期に課するミニレポート（30%） ・教科書は使用しない。 ・参考書 岩上真珠・鈴木岩弓・森謙二・渡辺秀樹共著『いま、この日本の家族一絆のゆくえ—』、弘文堂、2010年 鈴木岩弓・田中則和編『講座東北の歴史（第六巻 生と死）』、清文堂、2013年 山田慎也・国立歴史民俗博物館・鈴木岩弓編『変容する死の文化—現代東アジアの葬送と墓制—』、東京大学出版会、2014年				
◇ 授業時間外学習	▶新聞・TV・インターネットなど、さまざまなメディアを通じて、現代日本における「死」をめぐる社会状況を把握する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
宗 教 学 特 論 IV Science of Religion (Advanced Lecture) IV	2	非 常 勤 講 師 磯 前 順 一	集 中 (1)		
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHURES605J 現代宗教学の最新線 この二十年の間に宗教学および宗教研究はどのように展開したのか。その理論的な俯瞰を、講師の交流してきた東京や京都、そして北米やドイツ等の宗教研究の動向を踏まえて、具体的な研究を踏まえつつ紹介・検討していく。日本ではオウム真理教事件と東日本大震災は決定的なインパクトを持った出来事であり、この出来事に対応しえた研究がその後の宗教研究の動向を方向付けてきた。欧米では九・一一のテロであり、東アジアではアメリカ発のグローバリズムと並んで、また大日本帝国の侵略の爪あとが大きな影響を及ぼしている。この二十年を起点として、過去の、国内外の宗教学の歴史を再検討しつつ、最終的にはポストモダンイズム、ポストコロニアリズム、ポスト世俗主義論、公共宗教論さらにはポスト民主主義論へと展開して行った研究の大動脈を把握する。しかし、単なる抽象的な理論をもてあそぶことなく、個別な研究例を踏まえて理解を深めていきたい。それは、現代的な視点から見た、最新の宗教研究の概論の役割を果たすものとなるはずである。				
◆ 到達目標	宗教学の現代的な諸課題と諸理論を体系的に把握する。				
◆ 授業内容・方法	1. 1995年東京 オウム真理教事件と宗教学：学問のポリテイクス 9. 2011年東北 東日本大震災と宗教学：宗教概念論から宗教主体論へ 2. 宗教概念論と近代日本(1)：東大宗教学の成立と宗教学の死 10. 宗教概念論を超えて：民俗宗教論の可能性とポストコロニアリズム 3. 宗教概念論と近代日本(2)：国家神道の成立と展開 11. 翻訳論と宗教的主体：死者の声を聴くこととサルタン論 4. 宗教概念論と近代日本(3)：日本宗教学の展開と座礁 12. 公共宗教論と排除：アレントからハーバマス、そしてアガンベン 5. 2000年ターバン 欧米宗教学の二十年：イスラム論の台頭とエリアーデ批判の帰結 13. 2016年京都 聖なるものの宗教学：差別のある寺社宗教史の試み 6. 宗教概念論とプロテスタンティズム：タルル・アサドの宗教的主体論 14. 精神分析と他者論：神とは何か、ポストモダンの主体論の批判的検討 7. 宗教概念論と世俗主義批判：世俗化論から公共宗教論へ 15. 症状としての近代：宗教研究および人文的批評の未来 8. 宗教概念論とポストコロニアリズム：欧米列強と帝国神道の亡霊				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書	出席率とレポート。謙虚に注意深く講義を聴いて、それを自分の力で深く咀嚼する研究姿勢を高く評価する。 参考書として、磯前順一『死者のざわめき』（河出書房新社、2015）、『宗教概念あるいは宗教学の死』（東大出版会 2013）と『近代日本の宗教言説とその系譜』（岩波書店、2003）。他のものは必要に応じて授業中に紹介する。				
◇ 授業時間外学習	授業が終わった後、レポート提出の期限までに、授業中に紹介された参考書や参考論文のいくつかを読むこと。				
その他：	私の話は素材の提供に過ぎませんので、各人がそれを咀嚼して自分の研究や生き方の中に批判的かつ具体的に組み込んで思考してください。その咀嚼の仕方をレポートで書いてもらいます。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
宗 教 人 類 学 特 論 Religious Anthropology (Advanced Lecture)	2	准教授 山田仁史	2学期	火	1
◆ 科目ナンバリング	LHURES601J				
◆ 授業題目	宗教学人類学の系譜				
◆ 目的・概要	人間の宗教はどのように始まったのか？世界にはどのような形態があるのか？それらに見られる多様性と共通性の意味はなにか？ヒトはなぜ信仰するのか？こういった問題に答えようとしてきたのが、宗教学人類学の歴史です。この講義では、主要な研究者13人をとりあげ、彼らの生涯・思想・理論、そして特に彼らが用いた資料とその性質について、語っていきます。				
◆ 到達目標	宗教学人類学史の把握をとおして、現代におけるその意義と、われわれ自身にとって意味するところを考えてみましょう。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> はじめに 宗教学人類学と宗教民族学 マックス・ミュラー (1823-1900) エドワード・タイラー (1832-1917) ウィリアム・ロバートソン・スミス (1846-1894) ジェームズ・フレイザー (1854-1941) レオ・フロベニウス (1873-1938) ヴィルヘルム・シュミット (1868-1954) エミール・デュルケーム (1858-1917) マルセル・モース (1872-1950) アルノルト・ファン・ヘネップ (1873-1957) ラッファエーレ・ペッタツォーニ (1883-1959) アードルフ・イェンゼン (1899-1965) ミルチャ・エリアーデ (1907-1986) クロード・レヴィ＝ストロース (1908-2009) おわりに 宗教学人類学が教えてくれること 				
◇ 成績評価の方法	学期末レポート(講義内容に関連のあるテーマを自由に設定し論じる。80%)および毎回のフィードバック(出欠確認を兼ねる。20%)により評価する。				
◇ 教科書・参考書	Tworuschka, Udo, Religionswissenschaft, Wien: Böhlau, 2011; Michaels, Axel (Hrsg.), Klassiker der Religionswissenschaft, 3. Aufl., München: C. H. Beck, 2010; Auffarth, Christoph u.a. (Hrsg.), Wörterbuch der Religionen, Stuttgart: Kröner, 2006. 以上いずれも参考書です。				
◇ 授業時間外学習	学期末レポート作成に際し、文献調査ないしフィールドワークをしっかりと行ってください。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
宗 教 人 類 学 特 論 Religious Anthropology (Advanced Lecture)	2	准教授 谷山洋三	1学期	月	2
◆ 科目ナンバリング	LHURES601J				
◆ 授業題目	仏教福祉学				
◆ 目的・概要	仏教者に限らず、宗教者は社会福祉に関与していることが多い。仏教僧侶の場合は、「出世間」というタテマエに反し、また「衆生救済」という高邁な理想には及びもつかない次元で、実際に眼前にある諸問題に対応し、その結果として社会福祉活動につながることもある。講義では、いくつかの実際の研究事例を紹介する。 ・宮城県内の僧侶による被災地支援活動 ・長岡西病院ビハラー病棟のビハラー僧 ・バングラデシュの上座仏教徒				
◆ 到達目標	宗教と社会との相互関係について理解を深める				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 仏教社会福祉の歴史① 仏教の福祉思想 仏教社会福祉の歴史② 僧侶の社会実践 仏教社会福祉の歴史 まとめ バングラデシュの仏教① バングラデシュの地理、歴史、宗教概観 バングラデシュの仏教② 仏教徒概観、民族、宗派、日常生活 バングラデシュの仏教③ 年中行事、人生儀礼、日常儀礼、僧院生活 バングラデシュの仏教④ 社会活動と僧俗関係、マイノリティとしてのアイデンティティ バングラデシュの仏教 まとめ 僧侶による心のケア① 読経とお茶のみ 僧侶による心のケア② カフェ・デ・モンク 僧侶による心のケア③ 長岡西病院ビハラー病棟 僧侶による心のケア④ ビハラー僧の役割 僧侶による心のケア まとめ 総合ディスカッション 				
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]、出席・討論への参加等 [50%]				
◇ 教科書・参考書	参考書：日本仏教社会福祉学会(編)『仏教社会福祉入門』法蔵館、2014年				
◇ 授業時間外学習	仏教史、宗教学、社会福祉学など、授業を通じて関心をもった事柄について、学びを深めることを期待します。				
その他：質問等は、tanim@m.tohoku.ac.jpへ。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																				
宗 教 学 研 究 演 習 I Science of Religion (Advanced Seminar) I	2	教授 木村敏明	1学期	金	2																				
◆ 科目ナンバリング	LHURES606J																								
◆ 授業題目	儀礼論を読む																								
◆ 目的・概要	これまでの宗教学、人類学における儀礼論をまとめたキャサリン・ベルの著作を輪読する。今semesterはまず、具体的な儀礼の分類について扱ったPart IIから読み進める。																								
◆ 到達目標	(1)宗教現象の主要な形態である儀礼について多面的で深い認識をもつことができる (2)英文の専門書を読解し理解することができる																								
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 2. 伝統主義</td> </tr> <tr> <td>2. Chapter 4. 儀礼的行動の基本的ジャンル</td> <td>10. 3. 変化耐性</td> </tr> <tr> <td> 1. 通過儀礼</td> <td>11. 4. 規則による支配</td> </tr> <tr> <td>3. 2. 年中儀礼</td> <td>12. 5. 聖なる象徴</td> </tr> <tr> <td>4. 3. 交感と交感の儀礼</td> <td>13. 6. パフォーマンス</td> </tr> <tr> <td>5. 4. 苦難の儀礼</td> <td>14. 予備日：ビデオ鑑賞 世界の儀礼</td> </tr> <tr> <td>6. 5. 供宴、断食、祝祭</td> <td>15. まとめと討論</td> </tr> <tr> <td>7. 6. 政治的儀礼</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. Chapter 5. 儀礼的行動の特徴</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 1. 形式主義</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 2. 伝統主義	2. Chapter 4. 儀礼的行動の基本的ジャンル	10. 3. 変化耐性	1. 通過儀礼	11. 4. 規則による支配	3. 2. 年中儀礼	12. 5. 聖なる象徴	4. 3. 交感と交感の儀礼	13. 6. パフォーマンス	5. 4. 苦難の儀礼	14. 予備日：ビデオ鑑賞 世界の儀礼	6. 5. 供宴、断食、祝祭	15. まとめと討論	7. 6. 政治的儀礼		8. Chapter 5. 儀礼的行動の特徴		1. 形式主義	
1. イントロダクション	9. 2. 伝統主義																								
2. Chapter 4. 儀礼的行動の基本的ジャンル	10. 3. 変化耐性																								
1. 通過儀礼	11. 4. 規則による支配																								
3. 2. 年中儀礼	12. 5. 聖なる象徴																								
4. 3. 交感と交感の儀礼	13. 6. パフォーマンス																								
5. 4. 苦難の儀礼	14. 予備日：ビデオ鑑賞 世界の儀礼																								
6. 5. 供宴、断食、祝祭	15. まとめと討論																								
7. 6. 政治的儀礼																									
8. Chapter 5. 儀礼的行動の特徴																									
1. 形式主義																									
◇ 成績評価の方法	発表 [50%]、討論への参加 [50%]																								
◇ 教科書・参考書	Catherine Bell, Ritual -Its Dimensions and Perspectives, 1997, Oxford U.P.																								
◇ 授業時間外学習	発表準備。発表者以外もテキストを充分読み込んで参加すること。																								
その他：																									

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
宗 教 学 研 究 演 習 II Science of Religion (Advanced Seminar) II	2	教授 木村敏明	2学期	金	2																		
◆ 科目ナンバリング	LHURES607J																						
◆ 授業題目	儀礼論を読む																						
◆ 目的・概要	これまでの宗教学、人類学における儀礼論をまとめたキャサリン・ベルの著作を輪読する。今semesterは、儀礼の構造と変化を扱ったPart IIIとIVを扱う。																						
◆ 到達目標	(1)宗教現象の主要な形態である儀礼について多面的で深い認識をもつことができる (2)英文の専門書を読解し理解することができる																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. Chapter 7. 儀礼の変化</td> </tr> <tr> <td>2. Chapter 6. 儀礼の密度</td> <td> 1. 伝統と変化</td> </tr> <tr> <td> 1. システム</td> <td>10. 2. 儀礼の発明</td> </tr> <tr> <td>3. 2. 類型</td> <td>11. 3. メディアとメッセージ</td> </tr> <tr> <td>4. 3. オーソプラクシーとオーソドキシ</td> <td>12. Chapter 8. 儀礼の具象化</td> </tr> <tr> <td>5. 4. 伝統と世俗</td> <td> 1. 否認、帰還、理想化</td> </tr> <tr> <td>6. 5. 口承と書承</td> <td>13. 2. 「儀礼」の創出</td> </tr> <tr> <td>7. 6. チャーチ、セクト、カルト</td> <td>14. 予備日：ビデオ鑑賞 儀礼の変化</td> </tr> <tr> <td>8. 予備日：ビデオ鑑賞 儀礼と教団</td> <td>15. まとめと討論</td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. Chapter 7. 儀礼の変化	2. Chapter 6. 儀礼の密度	1. 伝統と変化	1. システム	10. 2. 儀礼の発明	3. 2. 類型	11. 3. メディアとメッセージ	4. 3. オーソプラクシーとオーソドキシ	12. Chapter 8. 儀礼の具象化	5. 4. 伝統と世俗	1. 否認、帰還、理想化	6. 5. 口承と書承	13. 2. 「儀礼」の創出	7. 6. チャーチ、セクト、カルト	14. 予備日：ビデオ鑑賞 儀礼の変化	8. 予備日：ビデオ鑑賞 儀礼と教団	15. まとめと討論
1. イントロダクション	9. Chapter 7. 儀礼の変化																						
2. Chapter 6. 儀礼の密度	1. 伝統と変化																						
1. システム	10. 2. 儀礼の発明																						
3. 2. 類型	11. 3. メディアとメッセージ																						
4. 3. オーソプラクシーとオーソドキシ	12. Chapter 8. 儀礼の具象化																						
5. 4. 伝統と世俗	1. 否認、帰還、理想化																						
6. 5. 口承と書承	13. 2. 「儀礼」の創出																						
7. 6. チャーチ、セクト、カルト	14. 予備日：ビデオ鑑賞 儀礼の変化																						
8. 予備日：ビデオ鑑賞 儀礼と教団	15. まとめと討論																						
◇ 成績評価の方法	発表 [50%]、討論への参加 [50%]																						
◇ 教科書・参考書	Catherine Bell, Ritual -Its Dimensions and Perspectives, 1997, Oxford U.P.																						
◇ 授業時間外学習	発表準備。発表者以外もテキストを充分読み込んで参加すること。																						
その他：																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
宗 教 学 研 究 演 習 Ⅲ Science of Religion (Advanced Seminar) Ⅲ	2	非常勤 講師 アンドリュース, デール	1 学期	火	4																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHURES608E A study of ghostlore on American college campuses In this class we will examine various examples of folk belief on American college campuses, with a particular focus on college ghost stories, known as “ghostlore.” We will read English language texts written on the subject of American folk legends and ghostlore. In this class, we will study one aspect of American folk belief, but it is hoped that students will gain greater insight into contemporary American society, and be challenged to re-examine through the critical lens of folklore studies their own culture’s folk beliefs regarding supernatural phenomenon. This class will be conducted primarily in English.																				
◆ 到達目標	After completing this course, students should have acquired the following skills: (1) Be able to summarize English text. (2) Be able to make basic translations of English text. (3) Be able to express an opinion in English. (4) Be able to identify & explain the elements of folktales & legends. (5) Be able to explain the features of religious folklore (ghostlore) on American college campuses.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Class Introduction</td> <td>9. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>2. Reading/discussion</td> <td>10. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>3. Reading/discussion</td> <td>11. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>4. Reading/discussion</td> <td>12. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>5. Reading/discussion</td> <td>13. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>6. Reading/discussion</td> <td>14. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>7. Reading/discussion</td> <td>15. Review</td> </tr> <tr> <td>8. Reading/discussion</td> <td></td> </tr> </table>					1. Class Introduction	9. Reading/discussion	2. Reading/discussion	10. Reading/discussion	3. Reading/discussion	11. Reading/discussion	4. Reading/discussion	12. Reading/discussion	5. Reading/discussion	13. Reading/discussion	6. Reading/discussion	14. Reading/discussion	7. Reading/discussion	15. Review	8. Reading/discussion	
1. Class Introduction	9. Reading/discussion																				
2. Reading/discussion	10. Reading/discussion																				
3. Reading/discussion	11. Reading/discussion																				
4. Reading/discussion	12. Reading/discussion																				
5. Reading/discussion	13. Reading/discussion																				
6. Reading/discussion	14. Reading/discussion																				
7. Reading/discussion	15. Review																				
8. Reading/discussion																					
◇ 成績評価の方法	Class exercises: 50%, Notebooks: 25%, Checklists: 25%																				
◇ 教科書・参考書	The instructor will provide the necessary class materials.																				
◇ 授業時間外学習	3 to 5 hours per week of out of class study is required.																				
その他 : An English/Japanese dictionary is required. The instructor will be available before and after class for questions and consultation.																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
宗 教 学 研 究 演 習 Ⅳ Science of Religion (Advanced Seminar) Ⅳ	2	非常勤 講師 アンドリュース, デール	2 学期	火	4																
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LHURES609E A study of ghostlore on American college campuses In this class we will examine various examples of folk belief on American college campuses, with a particular focus on college ghost stories, known as “ghostlore.” We will read English language texts written on the subject of American folk legends and ghostlore. In this class, we will study one aspect of American folk belief, but it is hoped that students will gain greater insight into contemporary American society, and be challenged to re-examine through the critical lens of folklore studies their own culture’s folk beliefs regarding supernatural phenomenon. This class will be conducted primarily in English. (The readings are a continuation from the first semester)																				
◆ 到達目標	After completing this course, students should have acquired the following skills: (1) Be able to summarize English text. (2) Be able to make basic translations of English text. (3) Be able to express an opinion in English. (4) Be able to identify & explain the elements of folktales & legends. (5) Be able to explain the features of religious folklore (ghostlore) on American college campuses.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Class Introduction</td> <td>9. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>2. Reading/discussion</td> <td>10. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>3. Reading/discussion</td> <td>11. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>4. Reading/discussion</td> <td>12. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>5. Reading/discussion</td> <td>13. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>6. Reading/discussion</td> <td>14. Reading/discussion</td> </tr> <tr> <td>7. Reading/discussion</td> <td>15. Review</td> </tr> <tr> <td>8. Reading/discussion</td> <td></td> </tr> </table>					1. Class Introduction	9. Reading/discussion	2. Reading/discussion	10. Reading/discussion	3. Reading/discussion	11. Reading/discussion	4. Reading/discussion	12. Reading/discussion	5. Reading/discussion	13. Reading/discussion	6. Reading/discussion	14. Reading/discussion	7. Reading/discussion	15. Review	8. Reading/discussion	
1. Class Introduction	9. Reading/discussion																				
2. Reading/discussion	10. Reading/discussion																				
3. Reading/discussion	11. Reading/discussion																				
4. Reading/discussion	12. Reading/discussion																				
5. Reading/discussion	13. Reading/discussion																				
6. Reading/discussion	14. Reading/discussion																				
7. Reading/discussion	15. Review																				
8. Reading/discussion																					
◇ 成績評価の方法	Class exercises: 50%, Notebooks: 25%, Checklists: 25%																				
◇ 教科書・参考書	The instructor will provide the necessary class materials.																				
◇ 授業時間外学習	3 to 5 hours per week of out of class study is required.																				
その他 : An English/Japanese dictionary is required. The instructor will be available before and after class for questions and consultation.																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
宗 教 学 実 習 I Science of Religion (Field Work) I	2	教授 鈴木 岩弓・木村 敏明 准教授 山田 仁史 非常勤講師 高倉 浩樹	1 学期	月	4・5																
◆ 科目ナンバリング	LHURES610J																				
◆ 授業題目	宗教学調査法																				
◆ 目的・概要	他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。																				
◆ 到達目標	(1)宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。 (2)調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 第八回：映像記録法③ 写真撮影実習</td> </tr> <tr> <td>2. 第一回：宗教学におけるデータとは</td> <td>10. 第九回：調査と研究の倫理</td> </tr> <tr> <td>3. 第二回：参与観察法</td> <td>11. 第十回：現地調査計画の立案</td> </tr> <tr> <td>4. 第三回：インタビュー調査法</td> <td>12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る</td> </tr> <tr> <td>5. 第四回：質問紙調査法</td> <td>13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる</td> </tr> <tr> <td>6. 第五回：文献調査法・情報検索法</td> <td>14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える</td> </tr> <tr> <td>7. 第六回：映像記録法① 写真撮影の基本</td> <td>15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック</td> </tr> <tr> <td>8. 第七回：映像記録法② ビデオ撮影の基本</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	9. 第八回：映像記録法③ 写真撮影実習	2. 第一回：宗教学におけるデータとは	10. 第九回：調査と研究の倫理	3. 第二回：参与観察法	11. 第十回：現地調査計画の立案	4. 第三回：インタビュー調査法	12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る	5. 第四回：質問紙調査法	13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる	6. 第五回：文献調査法・情報検索法	14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える	7. 第六回：映像記録法① 写真撮影の基本	15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック	8. 第七回：映像記録法② ビデオ撮影の基本	
1. イントロダクション	9. 第八回：映像記録法③ 写真撮影実習																				
2. 第一回：宗教学におけるデータとは	10. 第九回：調査と研究の倫理																				
3. 第二回：参与観察法	11. 第十回：現地調査計画の立案																				
4. 第三回：インタビュー調査法	12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る																				
5. 第四回：質問紙調査法	13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる																				
6. 第五回：文献調査法・情報検索法	14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える																				
7. 第六回：映像記録法① 写真撮影の基本	15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック																				
8. 第七回：映像記録法② ビデオ撮影の基本																					
◇ 成績評価の方法	授業時・実習時の発表、発言、貢献																				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。																				
◇ 授業時間外学習	授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される合宿調査への参加。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
宗 教 学 実 習 II Science of Religion (Field Work) II	2	教授 鈴木 岩弓・木村 敏明 准教授 山田 仁史 非常勤講師 高倉 浩樹	2 学期	月	4・5																		
◆ 科目ナンバリング	LHURES611J																						
◆ 授業題目	宗教学調査法																						
◆ 目的・概要	他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそのまとめ作業をおこなうとともに、冬期に予定された共同調査に向けて調査計画の立案をおこなう。																						
◆ 到達目標	(1)宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。 (2)調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション 後期授業の概要</td> <td>7. 第六回、前期調査成果発表準備② データの集約</td> </tr> <tr> <td>2. 第一回、前期調査のまとめ① フェイスシート整理作業</td> <td>8. 第七回、前期調査成果発表準備③ スライド作成</td> </tr> <tr> <td>3. 第二回、前期調査のまとめ② 聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業</td> <td>9. 第八回、前期調査成果発表準備④ 発表予行演習</td> </tr> <tr> <td>4. 第三回、前期調査のまとめ③ 聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設</td> <td>10. 第九回、前期調査成果発表</td> </tr> <tr> <td>5. 第四回、前期調査のまとめ④ 聞き取りデータ整理作業 民間信仰</td> <td>11. 第十回、現地調査計画の立案</td> </tr> <tr> <td>6. 第五回、前期調査成果発表準備① アウトライン作成</td> <td>12. 第十一回、現地調査準備① 地域について知る</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. 第十二回、現地調査準備② 先行研究をまとめる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 第十三回、現地調査準備③ 質問項目を考える</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 第十四回、まとめ、現地調査の最終チェック</td> </tr> </table>					1. イントロダクション 後期授業の概要	7. 第六回、前期調査成果発表準備② データの集約	2. 第一回、前期調査のまとめ① フェイスシート整理作業	8. 第七回、前期調査成果発表準備③ スライド作成	3. 第二回、前期調査のまとめ② 聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業	9. 第八回、前期調査成果発表準備④ 発表予行演習	4. 第三回、前期調査のまとめ③ 聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設	10. 第九回、前期調査成果発表	5. 第四回、前期調査のまとめ④ 聞き取りデータ整理作業 民間信仰	11. 第十回、現地調査計画の立案	6. 第五回、前期調査成果発表準備① アウトライン作成	12. 第十一回、現地調査準備① 地域について知る		13. 第十二回、現地調査準備② 先行研究をまとめる		14. 第十三回、現地調査準備③ 質問項目を考える		15. 第十四回、まとめ、現地調査の最終チェック
1. イントロダクション 後期授業の概要	7. 第六回、前期調査成果発表準備② データの集約																						
2. 第一回、前期調査のまとめ① フェイスシート整理作業	8. 第七回、前期調査成果発表準備③ スライド作成																						
3. 第二回、前期調査のまとめ② 聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業	9. 第八回、前期調査成果発表準備④ 発表予行演習																						
4. 第三回、前期調査のまとめ③ 聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設	10. 第九回、前期調査成果発表																						
5. 第四回、前期調査のまとめ④ 聞き取りデータ整理作業 民間信仰	11. 第十回、現地調査計画の立案																						
6. 第五回、前期調査成果発表準備① アウトライン作成	12. 第十一回、現地調査準備① 地域について知る																						
	13. 第十二回、現地調査準備② 先行研究をまとめる																						
	14. 第十三回、現地調査準備③ 質問項目を考える																						
	15. 第十四回、まとめ、現地調査の最終チェック																						
◇ 成績評価の方法	授業時・実習時の発表、発言、貢献																						
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。																						
◇ 授業時間外学習	授業中に指示された課題、準備。冬季に実施される現地調査への参加。																						
その他：																							

大学院共通科目一覧

授業科目	講義題目	単位	担当教員名	開講期	曜日	講時	頁
			氏名				
人文社会科学 研究	よりよい研究のための倫理	2	原 塑	1 学期	月	4	505
人文社会科学 研究	研究と実践の倫理	2	行場次郎・戸島貴志・阿部恒之 木村邦博・坂井信之・辻本昌弘 小林隆・小泉政利	2 学期	水	5	505
人文社会科学 研究	臨床死生学	2	谷 山 洋 三	1 学期	月	3	506
人文社会科学 研究	宗教と心理(1)	2	高 橋 原	1 学期	水	3	506
人文社会科学 研究	ケアの視点からの死生学	2	高谷 橋山 洋 原三	1 学期	木	5	507
人文社会科学 研究	グリーンケア論	2	谷 山 洋 三	2 学期	月	2	507
人文社会科学 研究	スピリチュアルケア論	2	谷 山 洋 三	2 学期	月	3	508
人文社会科学 研究	宗教と心理(2)	2	高 橋 原	2 学期	水	3	508
人文社会科学 研究	実践宗教学試論	2	鈴木高谷 木橋山 岩 弓 洋 原三	2 学期	木	5	509
人文社会科学 研究	logic via puzzle	2	村 上 祐 子	1 学期	水	3	509
人文社会科学 研究	Japanese culture through go	2	村 上 祐 子	2 学期	水	3	510
人文社会科学 研究	仙台・東北の魅力を海外に発信する I	2	村 上 祐 子	1 学期	水	4	510
人文社会科学 研究	仙台・東北の魅力を海外に発信する II	2	村 上 祐 子	2 学期	水	4	511
人文社会科学 研究	Modern Japanese History 近代日本の歴史	2	クレイグ・クリストファー	1 学期	火	2	511
人文社会科学 研究	Japanese Culture and Society 日本文化と社会	2	クレイグ・クリストファー	1 学期	火	3	512
人文社会科学 研究	Japanese Culture and Society 日本文化と社会	2	クレイグ・クリストファー	2 学期	火	2	512
英語研究論文作成法	Advanced Academic Writing I	2	㊦ マックス・フィリップス	1 学期	水	4	513
英語研究論文作成法	Advanced Academic Writing II	2	㊦ マックス・フィリップス	2 学期	水	4	513
日本語研究論文作成法	日本語表現論 I	2	高 橋 章 則	1 学期	木	2	514
日本語研究論文作成法	日本語表現論 II	2	高 橋 章 則	2 学期	木	2	514
日本文化研究演習	古典講読 I	2	高 橋 章 則	1 学期	月	2	515
日本文化研究演習	古典講読 II	2	高 橋 章 則	2 学期	月	2	515

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 原 壘	1 学期	月	4
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LALOHS501J よりよい研究のための倫理 人文社会科学・自然科学の研究成果は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、その一方で、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、あるいは、人々を誤った仕方でもたらしていることもあります。そのため、研究に従事する人々（大学院生や大学生を含みます）は、倫理的・手続き的に正しい仕方で行う責任を負っています。この授業では、大学院生や大学生が、よい研究者になるために、どのような仕方で行うのが望ましいのか、また望ましくないのかを学ぶことを目的とします。この授業は講義とワークショップという二つのパートからなります。講義では、まず研究倫理を概観した後で、その中の幾つかのトピック（査読、利益相反、軍事研究など）を深く議論します。ワークショップでは、受講者は「よい研究者」になるための方策や条件を、グループワークを行うことで考察していきます。この授業は、総合研究大学院大学「科学と社会」教育プログラム、本学理学研究科本堂研究室、成城大学標葉研究室、サイエンスライター内田麻理香氏との共同で実施します。				
◆ 到達目標	1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深める。 2. 研究不正行為のさまざまな種類を理解し、なぜそのような不正行為が望ましくないのかを説明できるようになる。 3. 不正行為が発生する状況を理解し、責任ある研究者にふさわしい判断を下せるようになる。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. 研究倫理とはなにか 3. 研究不正に直面したら 4. 海外における研究倫理 5. 研究はどのように評価されるのか 6. 研究の再現にまつわる問題 7. 研究者にとって複数の価値が衝突するとき 8. 軍事研究がもつ意味 9. まとめ 10. 研究に関するワークショップ 1 11. 研究に関するワークショップ 2 12. 研究に関するワークショップ 3 13. 研究に関するワークショップ 4 14. 研究に関するワークショップ 5 15. 研究に関するワークショップ 6				
◇ 成績評価の方法	授業中の討論やワークショップへの参加（60%）、レポートの提出（40%）				
◇ 教科書・参考書	日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会編『科学の健全な発展のために 誠実な科学者の心得』丸善出版、2015年				
◇ 授業時間外学習	CITI Japan や学術振興会などが提供する研究倫理 e-learning を受講することを強くお勧めします。				
ワークショップは学期中2日間を使って、集中して行います。ワークショップの開催日程を決めるため、初回の授業（4月11日に実施）その他：に必ず出席してください。初回の授業に出席することができない場合には、講義担当者の原壘（電子メール：plastikfeld@gmail.com）に電子メール等で連絡してください。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	教授 行場 次朗・戸島貴代志・阿部 恒之 准教授 木村 邦博・坂井 信之・辻本 昌弘 小林 隆・小泉 政利	2 学期	水	5
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LALOHS501J 研究と実践の倫理 人文社会科学の分野で行われている複数の研究手法である調査、実験、フィールドワーク、聞き取り調査、歴史資料の収集や、研究不正などに関わる倫理的諸問題を複数教員が担当して解説する。				
◆ 到達目標	人文社会科学の諸分野における研究と、その知識に基づく社会的実践の場における倫理の基礎を理解する。				
◆ 授業内容・方法	1. ガイダンス 2. 人間と技術 3. 科学と倫理 4. 人を対象とした実験研究における倫理 5. 動物を対象とした実験研究における倫理 6. 社会心理学実験における倫理 7. 社会調査研究に必要な実践的問題と倫理 8. 調査研究における倫理問題の国内外の動向 9. 企業における研究・特許等の問題について 10. フィールドワークにおける倫理の問題 11. 海外でのフィールドワークの注意点 12. 聞き取り調査の実践と倫理の諸問題 13. 研究倫理の国内外の動向 14. 研究不正の防止と対応 15. 全体のまとめとレビュー				
◇ 成績評価の方法	出席40%、レポート60%				
◇ 教科書・参考書	授業時に指示する。				
◇ 授業時間外学習	それぞれの担当教員の授業によっては、小レポート課題を出すことがある。成績評価の対象となる学期末のレポートについては、準備に時間がかかるので、ノートの整理や、指示された、あるいは関連する参考資料をあらかじめ収集しておくこと。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 谷 山 洋 三	1 学期	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LALOHS501J																				
◆ 授業題目	臨床死生学																				
◆ 目的・概要	人生において死は避けられないものであり、私たちは他者（二人称：身近な人、三人称：無関係な人）の死を経験しながら、自己（一人称）の死の準備をしている。特に、医療・福祉の臨床においては倫理的課題を含む諸問題があり、哲学、倫理学、宗教学、そして宗教者の立場からも意見が求められている。授業では、代表的な宗教的死生観だけでなく、世俗的な現代人の死生観を参考にしつつ、ロールプレイで当事者や援助者の立場を疑似体験するなど、具体的な諸問題について考察したい。授業では、毎回終了前に小レポートを提出してもらい、次の授業で討論を行いたい。																				
◆ 到達目標	(1)医療・福祉の臨床における死に関する諸問題について学ぶ (2)様々な死生観を通して、自分自身の死生観を涵養する																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 現代社会における死④ DVD鑑賞</td> </tr> <tr> <td>2. 仏教、民間信仰に見る死生観</td> <td>10. ロールプレイ① End-Of-Life Care</td> </tr> <tr> <td>3. 神道、キリスト教などに見る死生観</td> <td>11. 現代社会における死⑤ DVD鑑賞</td> </tr> <tr> <td>4. 自他の死生観について語り合うワークショップ</td> <td>12. 現代社会における死⑥ DVD鑑賞</td> </tr> <tr> <td>5. 死生観に関するまとめのディスカッション</td> <td>13. 現代社会における死⑦ DVD鑑賞</td> </tr> <tr> <td>6. 現代社会における死①</td> <td>14. ロールプレイ② 平穏死</td> </tr> <tr> <td>7. 現代社会における死② DVD鑑賞</td> <td>15. 総合ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>8. 現代社会における死③ DVD鑑賞</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 現代社会における死④ DVD鑑賞	2. 仏教、民間信仰に見る死生観	10. ロールプレイ① End-Of-Life Care	3. 神道、キリスト教などに見る死生観	11. 現代社会における死⑤ DVD鑑賞	4. 自他の死生観について語り合うワークショップ	12. 現代社会における死⑥ DVD鑑賞	5. 死生観に関するまとめのディスカッション	13. 現代社会における死⑦ DVD鑑賞	6. 現代社会における死①	14. ロールプレイ② 平穏死	7. 現代社会における死② DVD鑑賞	15. 総合ディスカッション	8. 現代社会における死③ DVD鑑賞	
1. オリエンテーション	9. 現代社会における死④ DVD鑑賞																				
2. 仏教、民間信仰に見る死生観	10. ロールプレイ① End-Of-Life Care																				
3. 神道、キリスト教などに見る死生観	11. 現代社会における死⑤ DVD鑑賞																				
4. 自他の死生観について語り合うワークショップ	12. 現代社会における死⑥ DVD鑑賞																				
5. 死生観に関するまとめのディスカッション	13. 現代社会における死⑦ DVD鑑賞																				
6. 現代社会における死①	14. ロールプレイ② 平穏死																				
7. 現代社会における死② DVD鑑賞	15. 総合ディスカッション																				
8. 現代社会における死③ DVD鑑賞																					
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]、出席・討論への参加等 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	参考書：清水哲郎／島蘭進（編）『ケア従事者のための死生学』ヌーヴェルヒロカワ、2010年。 清水哲郎（監修）、岡部健／竹之内裕文（編）『どう生き どう死ぬか 現場から考える死生学』弓箭書院、2009年																				
◇ 授業時間外学習	授業で学んだことを、自分自身が関係する課題として想定し、深く思索することが復習になる。																				
その他：質問等は、tanim@m.tohoku.ac.jpへ。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 高 橋 原	1 学期	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LALOHS501J																				
◆ 授業題目	宗教と心理(1)																				
◆ 目的・概要	古典的な心理学者たちの議論を参照しながら、宗教の持つ意味を人間心理の側面から考える。																				
◆ 到達目標	いくつかの基本概念を理解し、宗教とは何かという大きな問題を、人間の心に及ぼす影響という点から理解し、説明できるようにする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション 宗教と人間の心</td> <td>9. フロイトの宗教論(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 回心と意識変容(1)</td> <td>10. フロイトの宗教論(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 回心と意識変容(2)</td> <td>11. ユングの宗教論(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 回心と意識変容(3)</td> <td>12. ユングの宗教論(2)</td> </tr> <tr> <td>5. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(1)</td> <td>13. ユングの宗教論(3)</td> </tr> <tr> <td>6. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(2)</td> <td>14. トランスパーソナル心理学と宗教(1)</td> </tr> <tr> <td>7. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(3)</td> <td>15. トランスパーソナル心理学と宗教(2)</td> </tr> <tr> <td>8. フロイトの宗教論(1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション 宗教と人間の心	9. フロイトの宗教論(2)	2. 回心と意識変容(1)	10. フロイトの宗教論(3)	3. 回心と意識変容(2)	11. ユングの宗教論(1)	4. 回心と意識変容(3)	12. ユングの宗教論(2)	5. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(1)	13. ユングの宗教論(3)	6. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(2)	14. トランスパーソナル心理学と宗教(1)	7. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(3)	15. トランスパーソナル心理学と宗教(2)	8. フロイトの宗教論(1)	
1. イントロダクション 宗教と人間の心	9. フロイトの宗教論(2)																				
2. 回心と意識変容(1)	10. フロイトの宗教論(3)																				
3. 回心と意識変容(2)	11. ユングの宗教論(1)																				
4. 回心と意識変容(3)	12. ユングの宗教論(2)																				
5. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(1)	13. ユングの宗教論(3)																				
6. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(2)	14. トランスパーソナル心理学と宗教(1)																				
7. ウィリアム・ジェイムズの宗教論(3)	15. トランスパーソナル心理学と宗教(2)																				
8. フロイトの宗教論(1)																					
◇ 成績評価の方法	期末レポートによる。授業内で小レポートを課す場合もある。																				
◇ 教科書・参考書	ルイス・R・ランボー『宗教的回心の研究』（渡邊学・高橋原・堀雅彦共訳、ビイング・ネット・プレス、2014年）他、授業内で適宜指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業内で指示する参考文献により理解を深める。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 准教授	高 橋 原 谷 山 洋 三	1 学期	木	5																
◆ 科目ナンバリング	LALOHS501J																					
◆ 授業題目	ケアの視点からの死生学																					
◆ 目的・概要	この授業では、近年、看取りや緩和ケアといった領域を中心に、宗教者が「心のケア」の一翼を担うことが出来るという考え方が一般的になりつつあることを踏まえて、「宗教」という観点を採り入れてケアと死生学をめぐる基本的な論点を学んでいく。 これは現代の超高齢多死社会において誰もが「ケア従事者」になり得ることから、単に客観的な学問としてではなく、一人一人が現実に向きあうための知恵を身に付けることも目指す。 テキストとして、清水・島蘭編『ケア従事者のための死生学』（ヌーヴェルヒロカワ、2010年）を使用する。毎回担当者が内容の要約とコメントを発表し、出席者全員で討論を行う。																					
◆ 到達目標	自分も当事者になり得るといった観点から、現代社会における宗教と文化のありかたを踏まえてケアと死生学の問題について説明できるようにする。																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション～死生学、ケア、宗教</td> <td>9. 日本人の死生観(1)</td> </tr> <tr> <td>2. ケア現場の死生学</td> <td>10. 日本人の死生観(2)</td> </tr> <tr> <td>3. ケア従事者に求められるもの</td> <td>11. 死生をめぐる心と振る舞い(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 医療現場における生と死</td> <td>12. 死生をめぐる心と振る舞い(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 介護現場における生と死</td> <td>13. 死生をめぐる心と振る舞い(3)</td> </tr> <tr> <td>6. 宗教・思想と人の死生(1)</td> <td>14. 死生をめぐる文化と社会(1)</td> </tr> <tr> <td>7. 宗教・思想と人の死生(2)</td> <td>15. 死生をめぐる文化と社会(2)</td> </tr> <tr> <td>8. 宗教・思想と人の死生(3)</td> <td></td> </tr> </table>						1. イントロダクション～死生学、ケア、宗教	9. 日本人の死生観(1)	2. ケア現場の死生学	10. 日本人の死生観(2)	3. ケア従事者に求められるもの	11. 死生をめぐる心と振る舞い(1)	4. 医療現場における生と死	12. 死生をめぐる心と振る舞い(2)	5. 介護現場における生と死	13. 死生をめぐる心と振る舞い(3)	6. 宗教・思想と人の死生(1)	14. 死生をめぐる文化と社会(1)	7. 宗教・思想と人の死生(2)	15. 死生をめぐる文化と社会(2)	8. 宗教・思想と人の死生(3)	
1. イントロダクション～死生学、ケア、宗教	9. 日本人の死生観(1)																					
2. ケア現場の死生学	10. 日本人の死生観(2)																					
3. ケア従事者に求められるもの	11. 死生をめぐる心と振る舞い(1)																					
4. 医療現場における生と死	12. 死生をめぐる心と振る舞い(2)																					
5. 介護現場における生と死	13. 死生をめぐる心と振る舞い(3)																					
6. 宗教・思想と人の死生(1)	14. 死生をめぐる文化と社会(1)																					
7. 宗教・思想と人の死生(2)	15. 死生をめぐる文化と社会(2)																					
8. 宗教・思想と人の死生(3)																						
◇ 成績評価の方法	出席回数および授業内での討論への参加の様子などを勘案して評価する。																					
◇ 教科書・参考書	清水・島蘭編『ケア従事者のための死生学』ヌーヴェルヒロカワ、2010年																					
◇ 授業時間外学習	次回テキストを読み、疑問点を明らかにしておく。また、適宜指示する関連文献を読む。発表担当者はレジュメを準備する。																					
その他：																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授	谷 山 洋 三	2 学期	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LALOHS501J																					
◆ 授業題目	グリーンケア論																					
◆ 目的・概要	死別による悲嘆は誰もが経験することであり、東日本大震災を経験した私たちにとっては、避けられない重要なテーマである。悲嘆を抱えた人には多様な側面からの支援が必要であるが、その中で特にグリーンケアについて考察する。授業では、毎回終了前に小レポートを提出してもらい、次の授業で討論を行いたい。																					
◆ 到達目標	悲嘆とその対応の一つとしてのグリーンケアについて基礎知識を得る																					
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 第5章3－第6章1</td> </tr> <tr> <td>2. 第1章1－2</td> <td>10. 第6章2－3</td> </tr> <tr> <td>3. 第1章3－第2章1</td> <td>11. 第7章1－2</td> </tr> <tr> <td>4. 第2章2－3</td> <td>12. 第7章3</td> </tr> <tr> <td>5. 第3章1－2</td> <td>13. 「あいまいな喪失」ワーク</td> </tr> <tr> <td>6. 第3章3－第4章1</td> <td>14. 「あいまいな喪失」ワークの振り返り</td> </tr> <tr> <td>7. 第4章2－3</td> <td>15. 総合ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>8. 第5章1－2</td> <td></td> </tr> </table>						1. オリエンテーション	9. 第5章3－第6章1	2. 第1章1－2	10. 第6章2－3	3. 第1章3－第2章1	11. 第7章1－2	4. 第2章2－3	12. 第7章3	5. 第3章1－2	13. 「あいまいな喪失」ワーク	6. 第3章3－第4章1	14. 「あいまいな喪失」ワークの振り返り	7. 第4章2－3	15. 総合ディスカッション	8. 第5章1－2	
1. オリエンテーション	9. 第5章3－第6章1																					
2. 第1章1－2	10. 第6章2－3																					
3. 第1章3－第2章1	11. 第7章1－2																					
4. 第2章2－3	12. 第7章3																					
5. 第3章1－2	13. 「あいまいな喪失」ワーク																					
6. 第3章3－第4章1	14. 「あいまいな喪失」ワークの振り返り																					
7. 第4章2－3	15. 総合ディスカッション																					
8. 第5章1－2																						
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]、出席・討論への参加等 [50%]																					
◇ 教科書・参考書	教科書（必ず購入してください）：坂口幸弘『死別の悲しみに向き合う グリーンケアとは何か』講談社現代新書、2012年（760円＋税）。 参考書：坂口幸弘『悲嘆学入門 死別の悲しみを学ぶ』昭和堂、2010年。高木慶子・山本佳世子『悲嘆の中にある人に心を寄せて 一人は悲しみとどう向かい合っていくのか』上智大学出版、2014年。																					
◇ 授業時間外学習	予習：事前に指示した教科書の範囲を精読する 復習：身近な人のグリーンケアの場面を想定して授業で学んだことについて考察する																					
その他：質問等は、tanim@m.tohoku.ac.jpへ。																						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 谷 山 洋 三	2 学期	月	3																
◆ 科目ナンバリング	LALOHS501J																				
◆ 授業題目	スピリチュアルケア論																				
◆ 目的・概要	スピリチュアルケアは、ホスピス運動に伴って日本に紹介され、緩和ケアの領域においては一定の理解を得られているものの、定着しているとは言いがたい。宗教的ケアは、欧米では「パストラルケア」としてキリスト者によって提供されてきたが、視点を替えれば、日本でも仏教、神道などでも概念化されないまま伝統的に実践されて来たと言うこともできる。複数の代表的な専門家の見解を紹介しこの2つのケアの内容、相違点、共通点などについて考察する。また、体験的なワークを通して擬似的にスピリチュアルケア、宗教的ケアを体験することで、理解を深めたい。																				
◆ 到達目標	スピリチュアルケア、宗教的ケアについて基礎知識を得る																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 3章5-6</td> </tr> <tr> <td>2. スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違</td> <td>10. 4章前半</td> </tr> <tr> <td>3. 0章</td> <td>11. 4章後半</td> </tr> <tr> <td>4. 1章前半</td> <td>12. 5章</td> </tr> <tr> <td>5. 1章後半</td> <td>13. 6章前半</td> </tr> <tr> <td>6. 2章</td> <td>14. 6章後半</td> </tr> <tr> <td>7. 3章1-2</td> <td>15. 総合ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>8. 3章3-4</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	9. 3章5-6	2. スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違	10. 4章前半	3. 0章	11. 4章後半	4. 1章前半	12. 5章	5. 1章後半	13. 6章前半	6. 2章	14. 6章後半	7. 3章1-2	15. 総合ディスカッション	8. 3章3-4	
1. オリエンテーション	9. 3章5-6																				
2. スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違	10. 4章前半																				
3. 0章	11. 4章後半																				
4. 1章前半	12. 5章																				
5. 1章後半	13. 6章前半																				
6. 2章	14. 6章後半																				
7. 3章1-2	15. 総合ディスカッション																				
8. 3章3-4																					
◇ 成績評価の方法	レポート [50%]、出席・討論への参加等 [50%]																				
◇ 教科書・参考書	教科書（必ず購入してください）：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア：臨床宗教師の視点から』中外医学社、2016年（2600円＋税） 参考書：鎌田東二（編）『講座スピリチュアル学第1巻 スピリチュアルケア』ビーイング・ネット・プレス、2014年																				
◇ 授業時間外学習	予習：事前に指示した教科書の範囲を精読する 復習：授業で学んだことについて、実際の場面を想像しながら考察する																				
その他：質問等は、tanim@m.tohoku.ac.jpへ。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 高 橋 原	2 学期	水	3																
◆ 科目ナンバリング	LALOHS501J																				
◆ 授業題目	宗教と心理(2)																				
◆ 目的・概要	死、神話、心理療法などをテーマとして取り上げ、人間の心の健康に深く寄与する文化現象として宗教について考察する。																				
◆ 到達目標	講義で扱われる内容を、単なる異なる時代の異なる文化の問題としてとらえるのではなく、仏教や神道など身近な宗教的習慣に通底するものとして理解し、自分なりの考えを持てるようにする。																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション 宗教と人間の心</td> <td>9. 神話と宗教心理(3)</td> </tr> <tr> <td>2. 死と宗教心理（臨死体験、お迎え、心霊現象）(1)</td> <td>10. 神話と宗教心理(4)</td> </tr> <tr> <td>3. 死と宗教心理（臨死体験、お迎え、心霊現象）(2)</td> <td>11. 宗教儀礼と心理療法(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 死と宗教心理（臨死体験、お迎え、心霊現象）(3)</td> <td>12. 宗教儀礼と心理療法(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 死と宗教心理（臨死体験、お迎え、心霊現象）(4)</td> <td>13. 宗教儀礼と心理療法(3)</td> </tr> <tr> <td>6. 死と宗教心理（臨死体験、お迎え、心霊現象）(5)</td> <td>14. 宗教儀礼と心理療法(4)</td> </tr> <tr> <td>7. 神話と宗教心理(1)</td> <td>15. 総括 人間心理と宗教</td> </tr> <tr> <td>8. 神話と宗教心理(2)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション 宗教と人間の心	9. 神話と宗教心理(3)	2. 死と宗教心理（臨死体験、お迎え、心霊現象）(1)	10. 神話と宗教心理(4)	3. 死と宗教心理（臨死体験、お迎え、心霊現象）(2)	11. 宗教儀礼と心理療法(1)	4. 死と宗教心理（臨死体験、お迎え、心霊現象）(3)	12. 宗教儀礼と心理療法(2)	5. 死と宗教心理（臨死体験、お迎え、心霊現象）(4)	13. 宗教儀礼と心理療法(3)	6. 死と宗教心理（臨死体験、お迎え、心霊現象）(5)	14. 宗教儀礼と心理療法(4)	7. 神話と宗教心理(1)	15. 総括 人間心理と宗教	8. 神話と宗教心理(2)	
1. イントロダクション 宗教と人間の心	9. 神話と宗教心理(3)																				
2. 死と宗教心理（臨死体験、お迎え、心霊現象）(1)	10. 神話と宗教心理(4)																				
3. 死と宗教心理（臨死体験、お迎え、心霊現象）(2)	11. 宗教儀礼と心理療法(1)																				
4. 死と宗教心理（臨死体験、お迎え、心霊現象）(3)	12. 宗教儀礼と心理療法(2)																				
5. 死と宗教心理（臨死体験、お迎え、心霊現象）(4)	13. 宗教儀礼と心理療法(3)																				
6. 死と宗教心理（臨死体験、お迎え、心霊現象）(5)	14. 宗教儀礼と心理療法(4)																				
7. 神話と宗教心理(1)	15. 総括 人間心理と宗教																				
8. 神話と宗教心理(2)																					
◇ 成績評価の方法	期末レポートによる。授業内で小レポートを課す場合もある。																				
◇ 教科書・参考書	授業内で適宜指示する。																				
◇ 授業時間外学習	授業内で指示する参考文献により理解を深める。																				
その他：この講義では、前期の「宗教と心理(1)」の内容を参照することもあるが、必ずしも前期の「宗教と心理(1)」を受講してなくてもよい。																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	教授 准教授 准教授	鈴木 岩 弓 高 橋 原 谷 山 洋 三	2 学期	木	5
◆ 科目ナンバリング	LALOHS501J					
◆ 授業題目	実践宗教学試論					
◆ 目的・概要	実践宗教学寄附講座主催の臨床宗教師研修で宗教者対象に講義されている内容を中心に、現代社会の公共空間においてケア提供者として宗教者が活動する際の諸問題について学ぶ。講師は本学教員とゲスト講師であり、現場で活動する人々の声から学ぶ。					
◆ 到達目標	東日本大震災や超高齢化社会の到来というコンテクストの中で宗教者がどのような役割を果たし得るのか、さまざまな実践と理論から学び、自分の言葉で見解を述べられるようにする。					
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 【各回の内容、担当講師の詳細は未定です。決定し次第掲示等で告知します。】 臨床宗教師の理念 2. グリーフケアと宗教 3. カフェ・デ・モンク（宗教者による被災地支援の実情） 4. スピリチュアルケアと宗教的ケア 5. 終末期医療と宗教者 6. 原発事故被害と宗教者の役割 7. 臨床宗教師の倫理（欧米のチャプレンの活動を踏まえて） 8. 民間信仰論 9. カウンセリングにおける霊の問題 10. 宗教間対話 11. 心霊現象と宗教者の対応 12. 臨床宗教師の社会実装(1) 13. 臨床宗教師の社会実装(2) 14. 臨床宗教師の社会実装(3) 15. 臨床宗教師の社会実装(4) 					
◇ 成績評価の方法	出席回数、毎回提出のコメントによる。					
◇ 教科書・参考書	特に指定しないが授業内で適宜指示する。					
◇ 授業時間外学習	授業内で指示する参考文献等で学習を深める。					
その他：						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授	村 上 祐 子	1 学期	水	3
◆ 科目ナンバリング	LALOHS501E					
◆ 授業題目	logic via puzzle					
◆ 目的・概要	This course is an introductory logic (propositional logic and first-order logic) using puzzles. Students are expected to work in group on logical puzzles to understand tricks of logic. No prerequisite, but experiences in informal logic will be helpful. The language in class is English mainly for international students, but Japanese students are encouraged to register to improve English communication skills.					
◆ 到達目標	To understand propositional logic and some first-order logic.					
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction Puzzles (1) 2. Puzzles (2) 3. Puzzles (3) 4. Introduction to symbolic logic (1) 5. Introduction to symbolic logic (2) 6. Introduction to symbolic logic (3) 7. Introduction to symbolic logic (4) 8. Puzzles again (1) 9. Puzzles again (2) 10. Puzzles again (3) 11. Puzzles again (4) 12. Logical reasoning (1) 13. Logical reasoning (2) 14. Logical reasoning (3) 15. Wrap-up. 					
◇ 成績評価の方法	100% class participation (including in-class quizzes)					
◇ 教科書・参考書	Raymond Smullyan (2008) Logical Labyrinths. CRC Press.					
◇ 授業時間外学習	Problems in the textbook will be assigned for homework to prepare for in-class discussion.					
その他：						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 村上 祐子	2 学期	水	3
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LALOHS501E Japanese culture through go There are three sorts of class activities. First of all, students are to learn to play Go. They need to know the rules. Quizzes will examine whether they can write down the rules in an everyday language (either in English or in Japanese). Second, they are to learn strategies and techniques to play Go. Due to class time restriction, the game board in class is limited to the smallest 4 by 4 board, although the strategies are different from those for the full 19 by 19 board. Moreover, there is an iPhone/iPad app, Cho U's 4 by 4 Go Puzzle to help students to practice out of the classroom. They are also expected to play the game in and out of the classroom. Finally, some lecture and discussion on cultural aspects of the game. Proverbs, myths, and historical episodes will be explained. Students are to offer a presentation about cultural influences of a game in their home country.				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	To understand cultural influences of games especially in Japanese culture. 1. Introduction. Some game rules (territory, the winning condition, how to capture stones). Practice games. 2. Practice games and Introduction to strategy. (1) 3. Practice games and Introduction to strategy. (2) 4. Practice games and Introduction to strategy. (3) 5. Cultural influences of Go in Japan. Strategy (4) 6. Student presentations (1) 7. Student presentations (2) 8. Student presentations (3) 9. Student presentations (4) 10. Games in Japanese society (1) 11. Games in Japanese society (2) 12. Games in Japanese society (3) 13. Games in Japanese society (4) 14. Study visit to Gokaisho. 15. Wrap-up.				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書	100% class participation (including student presentations and quizzes). Cho U (Chang Hsu) (2011) Yonro no Go (in Japanese) Gento Sha Educational. ISBN: 978-4-344-97587-3 http://www.gentosha-edu.co.jp/products/post-95.html Optional app: Nihon Kiin. Cho U's 4 by 4 Go Puzzle. (iPhone/iPad app. Available in Japanese, English, Chinese, and Korean) https://itunes.apple.com/app/ri-ben-qi-yuan-zhang-xuno/id517153034?mt=8				
◇ 授業時間外学習	To research cultural material about games according to instructions in class.				
その他：The course is conducted in English.					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 村上 祐子	1 学期	水	4
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LALOHS501J 仙台・東北の魅力在海外に発信する I 日本人・留学生どちらも歓迎です。自分が海外に留学して生活するとしたら、事前に、また滞在中にどのような情報が欲しいでしょうか？いまそこにある情報で十分でしょうか？逆に海外の方に来てほしいとしたら、何をアピールしたいでしょうか？もう各種メディアで紹介されているいろいろな魅力のほか、地元にいるからわかっていて教えてあげたい魅力はありませんか？この授業では仙台・東北に関する情報を外国語で海外に発信するプロジェクトに取り組みます。学内外の魅力について、パンフレットを作成し、プレゼンテーションする演習を行います。留学生の方は日本について自分が欲しかった情報を教えてください。自分の後輩に仙台を紹介するとしたら、どのポイントを選びますか？また授業時間外に海外からのゲストと話す機会もお知らせしますので、ぜひ参加してください。使用言語は参加者に応じて日本語と英語のどちらかまたは両方となります。日本語・外国語でのコミュニケーションスキル・プレゼンテーションスキルを磨く。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	1. インTRODクッション、課題1説明、ディスカッション 2. 課題1(1) 3. 課題1(2) 4. 課題1(3) 5. 課題1(4) 6. 課題1発表(1) 7. 課題1発表(2)、課題2説明、組替え 8. 課題2(1) 9. 課題2(2) 10. 課題2(3) 11. 課題2発表(1) 12. 課題2発表(2) 13. 実習1 14. 実習2 15. まとめ				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	100% 授業参加 (ディスカッション・プレゼンテーション。授業外課題提出を含む) 授業内で指示する。 プレゼンテーションやパンフレットの作成は授業時間外の課題とします。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 村上 祐 子	2 学期	水	4
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LALOHS501J 仙台・東北の魅力を海外に発信するⅡ 日本人・留学生どちらも歓迎です。自分が海外に留学して生活するとしたら、事前に、また滞在中にどのような情報が欲しいでしょうか？いまそこにある情報で十分でしょうか？逆に海外の方に来てほしいとしたら、何をアピールしたいでしょうか？もう各種メディアで紹介されているいろいろな魅力のほかに、地元にいるからわかっていて教えてあげたい魅力はありませんか？この授業では仙台・東北に関する情報を外国語で海外に発信するプロジェクトに取り組みます。学内外の魅力について、パンフレットを作成し、プレゼンテーションする演習を行います。留学生の方は日本について自分が欲しかった情報を教えてください。自分の後輩に仙台を紹介するとしたら、どのポイントを選びますか？ また授業時間外に海外からのゲストと話す機会もお知らせしますので、ぜひ参加してください。 使用言語は参加者に応じて日本語と英語のどちらかまたは両方となります。前期との連続履修は可としますが、前期に取り組まなかったトピックを選んでください。 日本語・外国語でのコミュニケーションスキル・プレゼンテーションスキルを磨く。				
◆ 到達目標 ◆ 授業内容・方法	1. インTRODクシヨン。課題1説明。ディスカッション。 9. 課題2(2) 2. 課題1(1) 10. 課題2(3) 3. 課題1(2) 11. 課題2発表(1) 4. 課題1(3) 12. 課題2発表(2) 5. 課題1(4) 13. 実習1 6. 課題1発表(1) 14. 実習2 7. 課題1発表(2)課題2説明、組替え 15. まとめ 8. 課題2(1)				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	100% 授業参加（ディスカッション・プレゼンテーション。授業外課題提出を含む） 授業内で指示する。 プレゼンテーションやパンフレットの作成は授業時間外の課題とします。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 クレイグ・クリストファー	1 学期	火	2
◆ 科目ナンバリング ◆ 授業題目 ◆ 目的・概要	LALOHS501E Modern Japanese History 近代日本の歴史 従来の日本史の教え方とアプローチを変え、世界史の一環として日本の近代史を学ぶ。世界という観点から日本を学ぶことによって、日本の近代・現代世界における位置の理解を深める。扱う時代は1800年から現在までである。日本史に関する最近の英語で書かれた文献を紹介して、それを資料として質疑応答など歴史学の考え方を学ぶ。与えられた日本史の英語文献を読み、英語で論文を作成することにより、英語圏のアカデミックな日本史を学ぶだけでなく、英論文作成を学ぶことができる。 This course covers Japanese history from 1800 to the present, with a focus on the country's history as one aspect of modern world history. Students will read widely from recent English-language historical scholarship and develop their skills as historians and writers through written responses.				
◆ 到達目標	近代日本史に関する歴史的な問題や主要な文献を意識する。 英語での歴史学のあり方を理解する。 The primary goal of the class is for students to gain familiarity with the major historical issues connected to modern Japan and the important works of English-language scholarship on these issues.				
◆ 授業内容・方法	1. (Note: Lecture topics may change over the course of the semester) The Twilight of the Tokugawa: Japan in 1800 2. The Best of Times, the Worst of Times: Japan 1790-1844 3. Black Ships and Revolutions 4. Making Meiji: Establishing the State 5. New Days in Meiji Japan: The Cultural Revolution 6. Whither Imperialism?: Early Meiji Foreign Relations 7. Imperialism II: Bestial Inoculation 8. Can't Win for Losing: World War I and Imperial Democracy 9. Erotic, Grotesque, Nonsense: Authoritarian Backlash 10. Apocalypse: The Greater East Asian War 11. Atomic Peace: The American Occupation 12. The Three Deaths: Economy, Labor, Politics, 1950-1960 13. The Miraculous and the Mundane: Back in the World, 1960-1980 14. Gilded Toilets and Bursting Bubbles: Economic Crash 15. The Post-Postwar Final Exam				
◇ 成績評価の方法 ◇ 教科書・参考書 ◇ 授業時間外学習	3回のリアクション・ペーパー [40%]・最終日のテスト [40%]・出席 [20%] 3 reading response papers [40%], Final exam [40%], Attendance [20%] 各時間に適宜資料を配布する。 Readings will be distributed for each class. 各時間の前に適宜資料を読む。3回資料のリアクション・ペーパーを書く。 Class readings are to be completed before class meetings. 3 reading responses are to be submitted during the semester.				
その他：	This class is taught in English. All readings are in English and all assignments and tests are to be submitted in English.				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 クレイグ・クリストファー	1 学期	火	3																
◆ 科目ナンバリング	LALOHS501E																				
◆ 授業題目	Japanese Culture and Society 日本文化と社会																				
◆ 目的・概要	This course is an introduction to the culture and society of modern Japan and to the academic study of culture and society in Japan and elsewhere. By examining a number of topics related to contemporary culture and society, students will be introduced to recent English-language academic literature and the issues that concern social scientists and researchers. Student participation is an important element, and the class will be structured to incorporate the experiences of students in their daily lives in Japan, with student presentations designed to encourage students to apply an academic perspective to their current circumstances.																				
◆ 到達目標	A major goal of this course is to develop a rigorous framework of critical thinking regarding society and culture. We will attempt to demystify the idea of Japan and its culture and problematize many of the essentialist ideas that surround "Japanese culture," both inside and outside Japan.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. (Note: Lecture topics may change over the course of the semester)</td> <td>8. Education and Class</td> </tr> <tr> <td>Introduction: The Myth of National Culture</td> <td>9. Youth, Crime, and Punishment</td> </tr> <tr> <td>2. Background: Japan since World War 2</td> <td>10. Men, Women, and Families</td> </tr> <tr> <td>3. Middleness and Disparity: Class in Contemporary Japan</td> <td>11. Self and Other in Japan</td> </tr> <tr> <td>4. Town and Country: Urban and Rural Society</td> <td>12. Invisibility and Minority</td> </tr> <tr> <td>5. The Plight of Regional Cities</td> <td>13. The Foreign in the Everyday</td> </tr> <tr> <td>6. Gender and Work</td> <td>14. 3.11</td> </tr> <tr> <td>7. The Changing Nature of Employment</td> <td>15. Wrap-up Presentations</td> </tr> </table>					1. (Note: Lecture topics may change over the course of the semester)	8. Education and Class	Introduction: The Myth of National Culture	9. Youth, Crime, and Punishment	2. Background: Japan since World War 2	10. Men, Women, and Families	3. Middleness and Disparity: Class in Contemporary Japan	11. Self and Other in Japan	4. Town and Country: Urban and Rural Society	12. Invisibility and Minority	5. The Plight of Regional Cities	13. The Foreign in the Everyday	6. Gender and Work	14. 3.11	7. The Changing Nature of Employment	15. Wrap-up Presentations
1. (Note: Lecture topics may change over the course of the semester)	8. Education and Class																				
Introduction: The Myth of National Culture	9. Youth, Crime, and Punishment																				
2. Background: Japan since World War 2	10. Men, Women, and Families																				
3. Middleness and Disparity: Class in Contemporary Japan	11. Self and Other in Japan																				
4. Town and Country: Urban and Rural Society	12. Invisibility and Minority																				
5. The Plight of Regional Cities	13. The Foreign in the Everyday																				
6. Gender and Work	14. 3.11																				
7. The Changing Nature of Employment	15. Wrap-up Presentations																				
◇ 成績評価の方法	Presentation [40%], Paper [40%], Attendance [20%]																				
◇ 教科書・参考書	Readings will be distributed for each class.																				
◇ 授業時間外学習	Class readings are to be completed before class meetings.																				
その他： This class is taught in English. All readings are in English and all assignments are to be submitted in English.																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
人 文 社 会 科 学 研 究 Advanced Study of Humanities and Social Sciences	2	准教授 クレイグ・クリストファー	2 学期	火	2																		
◆ 科目ナンバリング	LALOHS501E																						
◆ 授業題目	Japanese Culture and Society 日本文化と社会																						
◆ 目的・概要	This course is an introduction to the culture and society of modern Japan and to the academic study of culture and society in Japan and elsewhere. By examining a number of topics related to contemporary culture and society, students will be introduced to recent English-language academic literature and the issues that concern social scientists and researchers. Student participation is an important element, and the class will be structured to incorporate the experiences of students in their daily lives in Japan, with student presentations designed to encourage students to apply an academic perspective to their current circumstances.																						
◆ 到達目標	A major goal of this course is to develop a rigorous framework of critical thinking regarding society and culture. We will attempt to demystify the idea of Japan and its culture and problematize many of the essentialist ideas that surround "Japanese culture," both inside and outside Japan.																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. (Note: Lecture topics may change over the course of the semester)</td> <td>9. Youth, Crime, and Punishment</td> </tr> <tr> <td>Introduction: The Myth of National Culture</td> <td>10. Men, Women, and Families</td> </tr> <tr> <td>2. Background: Japan since World War 2</td> <td>11. Self and Other in Japan</td> </tr> <tr> <td>3. Middleness and Disparity: Class in Contemporary Japan</td> <td>12. Invisibility and Minority</td> </tr> <tr> <td>4. Town and Country: Urban and Rural Society</td> <td>13. The Foreign in the Everyday</td> </tr> <tr> <td>5. The Plight of Regional Cities</td> <td>14. 3.11</td> </tr> <tr> <td>6. Gender and Work</td> <td>15. Wrap-up Presentations</td> </tr> <tr> <td>7. The Changing Nature of Employment</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. Education and Class</td> <td></td> </tr> </table>					1. (Note: Lecture topics may change over the course of the semester)	9. Youth, Crime, and Punishment	Introduction: The Myth of National Culture	10. Men, Women, and Families	2. Background: Japan since World War 2	11. Self and Other in Japan	3. Middleness and Disparity: Class in Contemporary Japan	12. Invisibility and Minority	4. Town and Country: Urban and Rural Society	13. The Foreign in the Everyday	5. The Plight of Regional Cities	14. 3.11	6. Gender and Work	15. Wrap-up Presentations	7. The Changing Nature of Employment		8. Education and Class	
1. (Note: Lecture topics may change over the course of the semester)	9. Youth, Crime, and Punishment																						
Introduction: The Myth of National Culture	10. Men, Women, and Families																						
2. Background: Japan since World War 2	11. Self and Other in Japan																						
3. Middleness and Disparity: Class in Contemporary Japan	12. Invisibility and Minority																						
4. Town and Country: Urban and Rural Society	13. The Foreign in the Everyday																						
5. The Plight of Regional Cities	14. 3.11																						
6. Gender and Work	15. Wrap-up Presentations																						
7. The Changing Nature of Employment																							
8. Education and Class																							
◇ 成績評価の方法	Presentation [40%], Paper [40%], Attendance [20%]																						
◇ 教科書・参考書	Readings will be distributed for each class.																						
◇ 授業時間外学習	Class readings are to be completed before class meetings.																						
その他： This class is taught in English. All readings are in English and all assignments are to be submitted in English.																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
英 語 研 究 論 文 作 成 法 Advanced English for Academic writing	2	非常勤 講師	マックス・フィリップス	1 学期	水 4																
◆ 科目ナンバリング	LALOHU501E																				
◆ 授業題目	Advanced Academic Writing I																				
◆ 目的・概要	The course is designed as an introduction to academic writing at the graduate level. The students will be learn how to logically arrange their thoughts and ideas into coherent essays. As part of the course, students will learn: a) how to write effective thesis statements, b) strategies for pre-writing, writing, organization, revising and proofreading, c) various word-, sentence-, and paragraph- level strategies for improving the quality of their writing, and d) how to focus and develop ideas, among other things.																				
◆ 到達目標	Students will learn how to organize their English writing to an appropriate level, through a systematic, step-by-step approach.																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Course Introduction: Writing Format; Plagiarism; Capitalization Rules</td> <td>8. Introduction and Conclusion Writing: Essay 3 Assignment</td> </tr> <tr> <td>2. Essay 1 Assignment: Introduction to English Writing: Pre-writing Strategies</td> <td>9. Understanding Logic, Audience, Tone: Organization 1 - Compare/Contrast</td> </tr> <tr> <td>3. Basic Sentence Structure: Parallelism Rules</td> <td>10. Organization 2 - Chronological Order</td> </tr> <tr> <td>4. Writing an Outline; Basic Paragraph Structure</td> <td>11. Organization 3 - Cause/Effect</td> </tr> <tr> <td>5. Basic Essay Structure</td> <td>12. Workshop 2 (E2 one-on-one)</td> </tr> <tr> <td>6. Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading</td> <td>13. Effective Thesis Statement Writing: Gender Neutral Language</td> </tr> <tr> <td>7. Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1): Essay 2 Assignment</td> <td>14. Workshop 3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. Semester Exam</td> </tr> </table>					1. Course Introduction: Writing Format; Plagiarism; Capitalization Rules	8. Introduction and Conclusion Writing: Essay 3 Assignment	2. Essay 1 Assignment: Introduction to English Writing: Pre-writing Strategies	9. Understanding Logic, Audience, Tone: Organization 1 - Compare/Contrast	3. Basic Sentence Structure: Parallelism Rules	10. Organization 2 - Chronological Order	4. Writing an Outline; Basic Paragraph Structure	11. Organization 3 - Cause/Effect	5. Basic Essay Structure	12. Workshop 2 (E2 one-on-one)	6. Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading	13. Effective Thesis Statement Writing: Gender Neutral Language	7. Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1): Essay 2 Assignment	14. Workshop 3		15. Semester Exam
1. Course Introduction: Writing Format; Plagiarism; Capitalization Rules	8. Introduction and Conclusion Writing: Essay 3 Assignment																				
2. Essay 1 Assignment: Introduction to English Writing: Pre-writing Strategies	9. Understanding Logic, Audience, Tone: Organization 1 - Compare/Contrast																				
3. Basic Sentence Structure: Parallelism Rules	10. Organization 2 - Chronological Order																				
4. Writing an Outline; Basic Paragraph Structure	11. Organization 3 - Cause/Effect																				
5. Basic Essay Structure	12. Workshop 2 (E2 one-on-one)																				
6. Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading	13. Effective Thesis Statement Writing: Gender Neutral Language																				
7. Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1): Essay 2 Assignment	14. Workshop 3																				
	15. Semester Exam																				
◇ 成績評価の方法	Final grade to be determined by submitted essays and workshop participation.																				
◇ 教科書・参考書	Course Syllabus based on "Discoveries in Academic Writing," by Barbara Harris Leonhard and "Teaching Academic Writing" by Eli Hinkel.																				
◇ 授業時間外学習	Attendance is mandatory. Students who accrue more than 2 unexcused absences will be expelled from the course. No auditors are permitted.																				
その他 :																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																		
英 語 研 究 論 文 作 成 法 Advanced English for Academic writing	2	非常勤 講師	マックス・フィリップス	2 学期	水 4																		
◆ 科目ナンバリング	LALOHU501E																						
◆ 授業題目	Advanced Academic Writing II																						
◆ 目的・概要	Prerequisite: Successful completion of AAW I. In addition to research writing, AAW II seeks to develop students' ability to adapt to a broader range of writing situations, while writing at a deeper level. AAW II encourages the development of an individual 'voice'. For example, where in AAW I a student might have developed the ability to write an essay clearly and persuasively for an educated general audience, AAW II seeks to move beyond that to developing a unique perspective and voice appropriate to higher level academic writing.																						
◆ 到達目標	Students will learn how to organize and write a multi-page research paper, which necessarily includes citations to others people's work.																						
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. Course Introduction: The Research Process</td> <td>10. Understanding Citations: Documenting Sources In-text</td> </tr> <tr> <td>2. Choosing a Topic; Identifying Potential Resources</td> <td>11. Paper Format; Documenting Sources Post-text</td> </tr> <tr> <td>3. Gathering Source Material - Evaluating Sources</td> <td>12. Workshop 2 (rough draft of main body)</td> </tr> <tr> <td>4. Note-Taking</td> <td>13. Abstract Writing: Writing Introduction and Conclusion for Research Papers</td> </tr> <tr> <td>5. Using the Internet for Research</td> <td>14. Writing Workshop 3 (rough draft of paper)</td> </tr> <tr> <td>6. Considering Organization</td> <td>15. Oral Presentations of Research Paper</td> </tr> <tr> <td>7. How to Organize Notes / Write Outline</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. Workshop 1 (Outline - rough draft)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. Integrating Source Material: First Draft Writing</td> <td></td> </tr> </table>					1. Course Introduction: The Research Process	10. Understanding Citations: Documenting Sources In-text	2. Choosing a Topic; Identifying Potential Resources	11. Paper Format; Documenting Sources Post-text	3. Gathering Source Material - Evaluating Sources	12. Workshop 2 (rough draft of main body)	4. Note-Taking	13. Abstract Writing: Writing Introduction and Conclusion for Research Papers	5. Using the Internet for Research	14. Writing Workshop 3 (rough draft of paper)	6. Considering Organization	15. Oral Presentations of Research Paper	7. How to Organize Notes / Write Outline		8. Workshop 1 (Outline - rough draft)		9. Integrating Source Material: First Draft Writing	
1. Course Introduction: The Research Process	10. Understanding Citations: Documenting Sources In-text																						
2. Choosing a Topic; Identifying Potential Resources	11. Paper Format; Documenting Sources Post-text																						
3. Gathering Source Material - Evaluating Sources	12. Workshop 2 (rough draft of main body)																						
4. Note-Taking	13. Abstract Writing: Writing Introduction and Conclusion for Research Papers																						
5. Using the Internet for Research	14. Writing Workshop 3 (rough draft of paper)																						
6. Considering Organization	15. Oral Presentations of Research Paper																						
7. How to Organize Notes / Write Outline																							
8. Workshop 1 (Outline - rough draft)																							
9. Integrating Source Material: First Draft Writing																							
◇ 成績評価の方法	Final grade will be determined by research paper, and workshop participation.																						
◇ 教科書・参考書	Course Syllabus based in part on: MLA Style Manual and Guide to Scholarly Publishing, 3rd Ed.																						
◇ 授業時間外学習	Attendance is mandatory. Students who accrue more than 2 unexcused absences will be expelled from the course. Absolutely no auditors.																						
その他 :																							

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																																
日 本 語 研 究 論 文 作 成 法 Advanced Japanese for Academic writing	2	教授 高橋章則	1 学期	木	2																																
◆ 科目ナンバリング	LALOHU502J																																				
◆ 授業題目	日本語表現論Ⅰ																																				
◆ 目的・概要	<p>専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。「日本語研究論文作成法」（2学期）の連続履修が望ましい。</p>																																				
◆ 到達目標	日本語論文作成の基礎確立																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 入門1</td> <td>論文とは 日本における論文作成のルール</td> <td>9. 実践1</td> <td>論文題名の決定と先行研究</td> </tr> <tr> <td>2. 入門2</td> <td>論文作成の実際 先行研究の重要性</td> <td>10. 実践2</td> <td>序論の作成① 背景説明</td> </tr> <tr> <td>3. 入門3</td> <td>論文の構成1 構成の作り方</td> <td>11. 実践3</td> <td>序論の作成② 問題点の明示</td> </tr> <tr> <td>4. 入門4</td> <td>論文の構成2 序論の構成要素</td> <td>12. 実践4</td> <td>序論の作成③ 研究目的の明示</td> </tr> <tr> <td>5. 入門5</td> <td>論文の構成3 研究の視点</td> <td>13. 実践5</td> <td>資料・データの利用</td> </tr> <tr> <td>6. 入門6</td> <td>論文の作成1 先行論文の検索</td> <td>14. 実践6</td> <td>序論に対応した結論</td> </tr> <tr> <td>7. 入門7</td> <td>論文の作成2 先行論文の引用作法</td> <td>15. まとめと評価</td> <td>レポートの作成</td> </tr> <tr> <td>8. 入門8</td> <td>論文の作成3 序論の意義</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 入門1	論文とは 日本における論文作成のルール	9. 実践1	論文題名の決定と先行研究	2. 入門2	論文作成の実際 先行研究の重要性	10. 実践2	序論の作成① 背景説明	3. 入門3	論文の構成1 構成の作り方	11. 実践3	序論の作成② 問題点の明示	4. 入門4	論文の構成2 序論の構成要素	12. 実践4	序論の作成③ 研究目的の明示	5. 入門5	論文の構成3 研究の視点	13. 実践5	資料・データの利用	6. 入門6	論文の作成1 先行論文の検索	14. 実践6	序論に対応した結論	7. 入門7	論文の作成2 先行論文の引用作法	15. まとめと評価	レポートの作成	8. 入門8	論文の作成3 序論の意義		
1. 入門1	論文とは 日本における論文作成のルール	9. 実践1	論文題名の決定と先行研究																																		
2. 入門2	論文作成の実際 先行研究の重要性	10. 実践2	序論の作成① 背景説明																																		
3. 入門3	論文の構成1 構成の作り方	11. 実践3	序論の作成② 問題点の明示																																		
4. 入門4	論文の構成2 序論の構成要素	12. 実践4	序論の作成③ 研究目的の明示																																		
5. 入門5	論文の構成3 研究の視点	13. 実践5	資料・データの利用																																		
6. 入門6	論文の作成1 先行論文の検索	14. 実践6	序論に対応した結論																																		
7. 入門7	論文の作成2 先行論文の引用作法	15. まとめと評価	レポートの作成																																		
8. 入門8	論文の作成3 序論の意義																																				
◇ 成績評価の方法	レポート提出																																				
◇ 教科書・参考書	『論文ワークブック』（くろしお出版）																																				
◇ 授業時間外学習	レポート作成																																				
その他：外国人留学生を対象とする。																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																																
日 本 語 研 究 論 文 作 成 法 Advanced Japanese for Academic writing	2	教授 高橋章則	2 学期	木	2																																
◆ 科目ナンバリング	LALOHU502J																																				
◆ 授業題目	日本語表現論Ⅱ																																				
◆ 目的・概要	<p>専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。「日本語研究論文作成法」（1学期）との連続履修が望ましい。</p>																																				
◆ 到達目標	日本語研究論文作成の基礎確立																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 入門1</td> <td>論文とは 日本における論文作成のルール</td> <td>9. 実践1</td> <td>論文題名の決定と先行研究</td> </tr> <tr> <td>2. 入門2</td> <td>論文作成の実際 先行研究の重要性</td> <td>10. 実践2</td> <td>序論の作成① 背景説明</td> </tr> <tr> <td>3. 入門3</td> <td>論文の構成1 構成の作り方</td> <td>11. 実践3</td> <td>序論の作成② 問題点の明示</td> </tr> <tr> <td>4. 入門4</td> <td>論文の構成2 序論の構成要素</td> <td>12. 実践4</td> <td>序論の作成③ 研究目的の明示</td> </tr> <tr> <td>5. 入門5</td> <td>論文の構成3 研究の視点</td> <td>13. 実践5</td> <td>資料・データの利用</td> </tr> <tr> <td>6. 入門6</td> <td>論文の作成1 先行論文の検索</td> <td>14. 実践6</td> <td>序論に対応した結論</td> </tr> <tr> <td>7. 入門7</td> <td>論文の作成2 先行論文の引用作法</td> <td>15. まとめと評価</td> <td>レポートの作成</td> </tr> <tr> <td>8. 入門8</td> <td>論文の作成3 序論の意義</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 入門1	論文とは 日本における論文作成のルール	9. 実践1	論文題名の決定と先行研究	2. 入門2	論文作成の実際 先行研究の重要性	10. 実践2	序論の作成① 背景説明	3. 入門3	論文の構成1 構成の作り方	11. 実践3	序論の作成② 問題点の明示	4. 入門4	論文の構成2 序論の構成要素	12. 実践4	序論の作成③ 研究目的の明示	5. 入門5	論文の構成3 研究の視点	13. 実践5	資料・データの利用	6. 入門6	論文の作成1 先行論文の検索	14. 実践6	序論に対応した結論	7. 入門7	論文の作成2 先行論文の引用作法	15. まとめと評価	レポートの作成	8. 入門8	論文の作成3 序論の意義		
1. 入門1	論文とは 日本における論文作成のルール	9. 実践1	論文題名の決定と先行研究																																		
2. 入門2	論文作成の実際 先行研究の重要性	10. 実践2	序論の作成① 背景説明																																		
3. 入門3	論文の構成1 構成の作り方	11. 実践3	序論の作成② 問題点の明示																																		
4. 入門4	論文の構成2 序論の構成要素	12. 実践4	序論の作成③ 研究目的の明示																																		
5. 入門5	論文の構成3 研究の視点	13. 実践5	資料・データの利用																																		
6. 入門6	論文の作成1 先行論文の検索	14. 実践6	序論に対応した結論																																		
7. 入門7	論文の作成2 先行論文の引用作法	15. まとめと評価	レポートの作成																																		
8. 入門8	論文の作成3 序論の意義																																				
◇ 成績評価の方法	レポート提出																																				
◇ 教科書・参考書	『論文ワークブック』（くろしお出版）																																				
◇ 授業時間外学習	レポート作成																																				
その他：外国人留学生を対象とする。																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 文 化 研 究 演 習 Japanese Culture (Advanced Seminar)	2	教授 高橋章則	1学期	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LALOHU503J																				
◆ 授業題目	古典講読Ⅰ																				
◆ 目的・概要	<p>専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。古典（漢文を含む）を対象とし、日本古典とその背景をなす日本文化・日本歴史の系統的な理解を目指す。古典を読み、漢文を訓読する際に必要な文法をはじめとした基礎知識と日本文化に関する調査技術とを身につけることを目的とする。毎時間の講読担当者の発表が前提となる。本年度は、日本文化の多面的な研究の一環として、文献資料（文学作品）と絵画資料（浮世絵）の融合した独自のジャンルである「狂歌摺物（すりもの）」を取り上げる。素材は歌川広重「狂歌入り東海道」である。</p>																				
◆ 到達目標	日本研究の基礎確立																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 入門1 日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か</td> <td>8. 研究演習4 土山・坂之下</td> </tr> <tr> <td>2. 入門2 「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌</td> <td>9. 研究演習5 関・亀山</td> </tr> <tr> <td>3. 入門3 広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版</td> <td>10. 実地演習 浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修</td> </tr> <tr> <td>4. 入門4 「狂歌入り東海道」について、「演習」のルール</td> <td>11. 研究演習6 庄野・石薬師</td> </tr> <tr> <td>5. 研究演習1 内裏・京</td> <td>12. 研究演習7 四日市・桑名</td> </tr> <tr> <td>6. 研究演習2 大津・草津</td> <td>13. 研究演習8 宮・鳴海</td> </tr> <tr> <td>7. 研究演習3 石部・水口</td> <td>14. 研究演習9 藤川・赤坂</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめと評価 「狂歌」関連出版物の研究意義</td> </tr> </table>					1. 入門1 日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か	8. 研究演習4 土山・坂之下	2. 入門2 「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌	9. 研究演習5 関・亀山	3. 入門3 広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版	10. 実地演習 浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修	4. 入門4 「狂歌入り東海道」について、「演習」のルール	11. 研究演習6 庄野・石薬師	5. 研究演習1 内裏・京	12. 研究演習7 四日市・桑名	6. 研究演習2 大津・草津	13. 研究演習8 宮・鳴海	7. 研究演習3 石部・水口	14. 研究演習9 藤川・赤坂		15. まとめと評価 「狂歌」関連出版物の研究意義
1. 入門1 日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か	8. 研究演習4 土山・坂之下																				
2. 入門2 「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌	9. 研究演習5 関・亀山																				
3. 入門3 広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版	10. 実地演習 浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修																				
4. 入門4 「狂歌入り東海道」について、「演習」のルール	11. 研究演習6 庄野・石薬師																				
5. 研究演習1 内裏・京	12. 研究演習7 四日市・桑名																				
6. 研究演習2 大津・草津	13. 研究演習8 宮・鳴海																				
7. 研究演習3 石部・水口	14. 研究演習9 藤川・赤坂																				
	15. まとめと評価 「狂歌」関連出版物の研究意義																				
◇ 成績評価の方法	発表の成果と出席																				
◇ 教科書・参考書	『慶應義塾大学 高橋誠一郎浮世絵コレクション 広重 東海道五十三次 八種四百十八景』（小学館）																				
◇ 授業時間外学習	発表資料の作成																				
その他：国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																
日 本 文 化 研 究 演 習 Japanese Culture (Advanced Seminar)	2	教授 高橋章則	2学期	月	2																
◆ 科目ナンバリング	LALOHU503J																				
◆ 授業題目	古典講読Ⅱ																				
◆ 目的・概要	<p>専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。古典（漢文を含む）を対象とし、日本古典とその背景をなす日本文化・日本歴史の系統的な理解を目指す。古典を読み、漢文を訓読する際に必要な文法をはじめとした基礎知識と日本文化に関する調査技術とを身につけることを目的とする。毎時間の講読担当者の発表が前提となる。本年度は、日本文化の多面的な研究の一環として、文献資料（文学作品）と絵画資料（浮世絵）の融合した独自のジャンルである「狂歌摺物（すりもの）」を取り上げる。素材は歌川広重「狂歌入り東海道」である。</p>																				
◆ 到達目標	日本研究の基礎確立																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 入門1 日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か</td> <td>8. 演習4 藤沢・平塚</td> </tr> <tr> <td>2. 入門2 「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌</td> <td>9. 演習5 大磯・小田原</td> </tr> <tr> <td>3. 入門3 広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版</td> <td>10. 実地演習1 浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修</td> </tr> <tr> <td>4. 入門4 「狂歌入り東海道」について、「演習」のルール</td> <td>11. 演習6 箱根・三島</td> </tr> <tr> <td>5. 演習1 日本橋・品川</td> <td>12. 演習7 沼津・原</td> </tr> <tr> <td>6. 演習2 川崎・神奈川</td> <td>13. 演習8 吉原・蒲原</td> </tr> <tr> <td>7. 演習3 保土ヶ谷・戸塚</td> <td>14. 演習9 由井・興津</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめと評価 「狂歌摺物」調査から浮世絵研究へ</td> </tr> </table>					1. 入門1 日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か	8. 演習4 藤沢・平塚	2. 入門2 「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌	9. 演習5 大磯・小田原	3. 入門3 広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版	10. 実地演習1 浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修	4. 入門4 「狂歌入り東海道」について、「演習」のルール	11. 演習6 箱根・三島	5. 演習1 日本橋・品川	12. 演習7 沼津・原	6. 演習2 川崎・神奈川	13. 演習8 吉原・蒲原	7. 演習3 保土ヶ谷・戸塚	14. 演習9 由井・興津		15. まとめと評価 「狂歌摺物」調査から浮世絵研究へ
1. 入門1 日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か	8. 演習4 藤沢・平塚																				
2. 入門2 「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌	9. 演習5 大磯・小田原																				
3. 入門3 広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版	10. 実地演習1 浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修																				
4. 入門4 「狂歌入り東海道」について、「演習」のルール	11. 演習6 箱根・三島																				
5. 演習1 日本橋・品川	12. 演習7 沼津・原																				
6. 演習2 川崎・神奈川	13. 演習8 吉原・蒲原																				
7. 演習3 保土ヶ谷・戸塚	14. 演習9 由井・興津																				
	15. まとめと評価 「狂歌摺物」調査から浮世絵研究へ																				
◇ 成績評価の方法	発表の成果と出席																				
◇ 教科書・参考書	『慶應義塾大学 高橋誠一郎浮世絵コレクション 広重 東海道五十三次 八種四百十八景』（小学館）																				
◇ 授業時間外学習	発表資料の作成																				
その他：国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																																
日 本 文 化 研 究 演 習 Japanese Culture (Advanced Seminar)	2	教授 高橋章則	1学期	水	2																																
◆ 科目ナンバリング	LALOHU503J																																				
◆ 授業題目	現代評論講読Ⅰ																																				
◆ 目的・概要	専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。現代文を対象とする。日本語と日本文化を系統的に理解する際に不可欠な基礎知識と日本文化に関する調査技術とを講読を通じて身につけることを目的とする。毎時間の講読担当者の発表が前提となる。																																				
◆ 到達目標	日本研究の基礎確立																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 入門1</td> <td>日本文化を考える(1)</td> <td>9. 演習4</td> <td>『菊と刀』④</td> </tr> <tr> <td>2. 入門2</td> <td>日本文化を考える(2)</td> <td>10. 演習5</td> <td>『菊と刀』⑤</td> </tr> <tr> <td>3. 入門3</td> <td>家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む(1)</td> <td>11. 演習6</td> <td>『菊と刀』⑥</td> </tr> <tr> <td>4. 入門4</td> <td>『日本文化史』「はじめに」を読む(2)</td> <td>12. 演習7</td> <td>『菊と刀』⑦</td> </tr> <tr> <td>5. 入門5</td> <td>「日本文化論」の変容をめぐって</td> <td>13. 演習8</td> <td>『菊と刀』⑧</td> </tr> <tr> <td>6. 演習1</td> <td>ベネディクト『菊と刀』① 演習のルール</td> <td>14. 演習9</td> <td>『菊と刀』⑨</td> </tr> <tr> <td>7. 演習2</td> <td>『菊と刀』②</td> <td>15. まとめと評価</td> <td>『菊と刀』から新たな日本文化論へ</td> </tr> <tr> <td>8. 演習3</td> <td>『菊と刀』③</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 入門1	日本文化を考える(1)	9. 演習4	『菊と刀』④	2. 入門2	日本文化を考える(2)	10. 演習5	『菊と刀』⑤	3. 入門3	家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む(1)	11. 演習6	『菊と刀』⑥	4. 入門4	『日本文化史』「はじめに」を読む(2)	12. 演習7	『菊と刀』⑦	5. 入門5	「日本文化論」の変容をめぐって	13. 演習8	『菊と刀』⑧	6. 演習1	ベネディクト『菊と刀』① 演習のルール	14. 演習9	『菊と刀』⑨	7. 演習2	『菊と刀』②	15. まとめと評価	『菊と刀』から新たな日本文化論へ	8. 演習3	『菊と刀』③		
1. 入門1	日本文化を考える(1)	9. 演習4	『菊と刀』④																																		
2. 入門2	日本文化を考える(2)	10. 演習5	『菊と刀』⑤																																		
3. 入門3	家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む(1)	11. 演習6	『菊と刀』⑥																																		
4. 入門4	『日本文化史』「はじめに」を読む(2)	12. 演習7	『菊と刀』⑦																																		
5. 入門5	「日本文化論」の変容をめぐって	13. 演習8	『菊と刀』⑧																																		
6. 演習1	ベネディクト『菊と刀』① 演習のルール	14. 演習9	『菊と刀』⑨																																		
7. 演習2	『菊と刀』②	15. まとめと評価	『菊と刀』から新たな日本文化論へ																																		
8. 演習3	『菊と刀』③																																				
◇ 成績評価の方法	発表の成果と出席																																				
◇ 教科書・参考書	R.ベネディクト『菊と刀』（講談社学術文庫）																																				
◇ 授業時間外学習	発表資料の作成																																				
その他：国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時																																
日 本 文 化 研 究 演 習 Japanese Culture (Advanced Seminar)	2	教授 高橋章則	2学期	水	2																																
◆ 科目ナンバリング	LALOHU503J																																				
◆ 授業題目	現代評論講読Ⅱ																																				
◆ 目的・概要	専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。現代文を対象とする。日本語と日本文化を系統的に理解する際に不可欠な基礎知識と日本文化に関する調査技術とを講読を通じて身につけることを目的とする。毎時間の講読担当者の発表が前提となる。																																				
◆ 到達目標	日本研究の基礎確立																																				
◆ 授業内容・方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 入門1</td> <td>日本文化を考える(1)</td> <td>9. 演習4</td> <td>『菊と刀』④</td> </tr> <tr> <td>2. 入門2</td> <td>日本文化を考える(2)</td> <td>10. 演習5</td> <td>『菊と刀』⑤</td> </tr> <tr> <td>3. 入門3</td> <td>家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む(1)</td> <td>11. 演習6</td> <td>『菊と刀』⑥</td> </tr> <tr> <td>4. 入門4</td> <td>『日本文化史』「はじめに」を読む(2)</td> <td>12. 演習7</td> <td>『菊と刀』⑦</td> </tr> <tr> <td>5. 入門5</td> <td>「日本文化論」の変容をめぐって</td> <td>13. 演習8</td> <td>『菊と刀』⑧</td> </tr> <tr> <td>6. 演習1</td> <td>ベネディクト『菊と刀』① 演習のルール</td> <td>14. 演習9</td> <td>『菊と刀』⑨</td> </tr> <tr> <td>7. 演習2</td> <td>『菊と刀』②</td> <td>15. まとめと評価</td> <td>日本文化と「わたし」</td> </tr> <tr> <td>8. 演習3</td> <td>『菊と刀』③</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1. 入門1	日本文化を考える(1)	9. 演習4	『菊と刀』④	2. 入門2	日本文化を考える(2)	10. 演習5	『菊と刀』⑤	3. 入門3	家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む(1)	11. 演習6	『菊と刀』⑥	4. 入門4	『日本文化史』「はじめに」を読む(2)	12. 演習7	『菊と刀』⑦	5. 入門5	「日本文化論」の変容をめぐって	13. 演習8	『菊と刀』⑧	6. 演習1	ベネディクト『菊と刀』① 演習のルール	14. 演習9	『菊と刀』⑨	7. 演習2	『菊と刀』②	15. まとめと評価	日本文化と「わたし」	8. 演習3	『菊と刀』③		
1. 入門1	日本文化を考える(1)	9. 演習4	『菊と刀』④																																		
2. 入門2	日本文化を考える(2)	10. 演習5	『菊と刀』⑤																																		
3. 入門3	家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む(1)	11. 演習6	『菊と刀』⑥																																		
4. 入門4	『日本文化史』「はじめに」を読む(2)	12. 演習7	『菊と刀』⑦																																		
5. 入門5	「日本文化論」の変容をめぐって	13. 演習8	『菊と刀』⑧																																		
6. 演習1	ベネディクト『菊と刀』① 演習のルール	14. 演習9	『菊と刀』⑨																																		
7. 演習2	『菊と刀』②	15. まとめと評価	日本文化と「わたし」																																		
8. 演習3	『菊と刀』③																																				
◇ 成績評価の方法	発表の成果と出席																																				
◇ 教科書・参考書	R.ベネディクト『菊と刀』（講談社学術文庫）																																				
◇ 授業時間外学習	発表資料の作成																																				
その他：国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）																																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時		
日 本 文 化 研 究 演 習 Japanese Culture (Advanced Seminar)	2	准教授 クレイグ・クリストファー	2学期	火	4		
◆ 科目ナンバリング	LALOHU503J						
◆ 授業題目	日本史基礎文献講読 Reading and Translation Fundamentals for Japanese History						
◆ 目的・概要	Using student reading and translation presentations, this class aims at providing basic skills and practice in reading and translating Japanese academic history writing. Class will consist of reading/translation assignments and in-class presentations and discussion of issues concerning comprehension and translation.						
◆ 到達目標	The purpose of this class is to provide a basis in reading and translation for future work involving academic, particularly historical, works in Japanese.						
◆ 授業内容・方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. Class introduction Introduction to source material 2. Reading and translation presentation 3. Reading and translation presentation 4. Reading and translation presentation 5. Reading and translation presentation 6. Reading and translation presentation 7. Reading and translation presentation 8. Reading and translation presentation </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 9. Reading and translation presentation 10. Reading and translation presentation 11. Reading and translation presentation 12. Reading and translation presentation 13. Reading and translation presentation 14. Reading and translation presentation 15. Reading and translation presentation </td> </tr> </table>					1. Class introduction Introduction to source material 2. Reading and translation presentation 3. Reading and translation presentation 4. Reading and translation presentation 5. Reading and translation presentation 6. Reading and translation presentation 7. Reading and translation presentation 8. Reading and translation presentation	9. Reading and translation presentation 10. Reading and translation presentation 11. Reading and translation presentation 12. Reading and translation presentation 13. Reading and translation presentation 14. Reading and translation presentation 15. Reading and translation presentation
1. Class introduction Introduction to source material 2. Reading and translation presentation 3. Reading and translation presentation 4. Reading and translation presentation 5. Reading and translation presentation 6. Reading and translation presentation 7. Reading and translation presentation 8. Reading and translation presentation	9. Reading and translation presentation 10. Reading and translation presentation 11. Reading and translation presentation 12. Reading and translation presentation 13. Reading and translation presentation 14. Reading and translation presentation 15. Reading and translation presentation						
◇ 成績評価の方法	Translations and presentations [100%]						
◇ 教科書・参考書	安孫子 麟『宮城県の百年』山川出版社 1999年 ISBN 9784634270404						
◇ 授業時間外学習	Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation at least once during the semester. One polished translation is to be submitted for grading.						
その他	Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.						

大学院 GP 科目履修について

キュレーター養成コース・アーキビスト養成コースへの登録

歴史科学専攻の大学院生で、キュレーター養成コース、アーキビスト養成コースに登録を希望する人は、所定の様式に、自分の専攻分野のコース担当教員（下記6名）から認印をもらって、教務係に提出します（期日は別途掲示します）。

コースの認定科目

各専攻分野の科目の中から、キュレーター養成コース、アーキビスト養成コースのそれぞれについて、Semesterごとに大学院 GP 認定科目が指定されています。各自の関心に従って、より幅広い授業科目を履修し、高度な学芸員としての資質を身につけます。

コースの修了

コース登録している院生は、次の要件を満たすことにより、いずれかのコースを修了し、修了証を受け取ることになります。

・博士課程前期2年の課程

各自が属する専攻分野の「コース認定科目」から、8単位以上履修する。

各自の専攻分野以外の、いずれかの「コース認定科目」から、4単位以上を履修する。

2年間で、計12単位以上を履修し、前期2年の課程を修了する。

・博士課程後期3年の課程

3年間の在学期間中にコース登録をして、各自が属する専攻分野以外のいずれかの「コース認定科目」から、4単位以上を履修する。

平成28年度 コース担当教員

・キュレーター養成コース

考古学専攻分野・文化財科学専攻分野	阿子島 香	教授
東洋・日本美術史専攻分野	泉 武夫	教授
美学・西洋美術史専攻分野	芳賀 京子	准教授

・アーキビスト養成コース

日本史専攻分野	柳原 敏昭	教授
東洋史専攻分野	川合 安	教授
ヨーロッパ史専攻分野	有光 秀行	教授

歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 開講科目一覧

キュレーター養成コース

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開講期	曜日	講時	頁
			氏	名				
考古学特論Ⅰ	日本考古学の諸問題	2	鹿	又喜隆	1学期	月	2	435
考古学特論Ⅲ	先史文化の考古学	2	㊦	菅野智則	2学期	木	4	436
資料基礎論特論	先史考古学資料論	2	阿	子島香	2学期	月	3	436
博物館資料論特論	東北大学収蔵の考古学資料	2	藤	澤敦	1学期	火	3	437
東洋・日本美術史特論Ⅰ	古代・中世絵画史研究	2	泉	武夫	1学期	水	3	455
東洋・日本美術史特論Ⅱ	古代・中世絵画史研究	2	泉	武夫	2学期	水	3	455
東洋・日本美術史特論Ⅰ	信仰と造形	2	長	岡龍作	1学期	月	4	456
東洋・日本美術史特論Ⅱ	信仰と造形	2	長	岡龍作	2学期	月	4	456
美学・西洋美術史特論Ⅰ	ネーデルラント美術と感性の論理	2	尾	崎彰宏	1学期	金	3	459
美学・西洋美術史特論Ⅰ	古代ギリシア・ローマの神々と神域	2	芳	賀京子	2学期	月	2	459
文化財科学特論	日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究	2	藤	澤敦	2学期	火	3	440
考古学研究演習Ⅰ	考古学研究史	2	阿	子島香隆	1学期	金	4	437
考古学研究演習Ⅱ	考古学の方法と理論	2	鹿	又喜隆香	2学期	金	4	438
東洋・日本美術史研究演習Ⅰ	美術史基礎資料読解	2	長	岡龍作	1学期	水	4	457
東洋・日本美術史研究演習Ⅱ	図像集の研究	2	泉	武夫	2学期	水	4	458
美学・西洋美術史研究演習Ⅰ	西洋美術史にかんする方法論の諸問題	2	尾	崎彰宏	1学期	金	5	460
美学・西洋美術史研究演習Ⅱ	西洋美術史にかんする方法論の諸問題	2	尾	崎彰宏	2学期	金	5	461
美学・西洋美術史研究演習Ⅰ	西洋古代・中世美術作品研究	2	芳	賀京子	1学期	月	3	461
美学・西洋美術史研究演習Ⅱ	西洋古代・中世美術作品研究	2	芳	賀京子	2学期	月	3	462
文化財科学研究演習Ⅰ	未定	2	山	須田晃弘	1学期			440
文化財科学研究演習Ⅱ	未定	2	須	山田良晃	2学期			441
考古学研究実習Ⅰ	考古学の調査と資料分析(1)	2	阿	子島香隆	1学期	水	3・4	438
考古学研究実習Ⅱ	考古学資料分析法(2)	2	鹿	又喜隆香	2学期	水	3・4	439
文化財科学研究実習Ⅱ	古代遺跡調査の方法と実践	2	山	吉田晃弘	集中 (1)			441

アーキビスト養成コース

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
史 料 学 I	中世古文書読解	2	柳 原 敏 昭	1 学期	火	1	432
史 料 学 II	近世古文書読解	2	籠 橋 俊 光	2 学期	水	4	433
史 料 管 理 学 I	史料整理・保存の理論と方法	2	籠 橋 俊 光	1 学期	金	4・5	433
史 料 管 理 学 II	史料整理実習	2	籠 橋 俊 光	2 学期	金	4・5	434
日本近世・近代史特論Ⅲ	歴史資料保全の実践(その1)	2	佐 藤 大 介	集 中 (1)			426
日本近世・近代史特論Ⅲ	歴史資料保全の実践(その2)	2	佐 藤 大 介	2 学期	水	1	427
東洋古代中世史特論 I	六朝時代の諸問題	2	川 合 安	1 学期	金	2	442
東洋古代中世史特論 II	隋唐時代の諸問題	2	川 合 安	2 学期	金	2	442
東洋近世史特論 I	明清時代の諸問題 I	2	大 野 晃 嗣	1 学期	火	5	444
東洋近世史特論 II	明清時代の諸問題 II	2	大 野 晃 嗣	2 学期	火	5	444
日本古代・中世史研究演習 I	古代史料の研究(1)	2	堀 裕	1 学期	火	2	420
日本古代・中世史研究演習 II	古代史料の研究(2)	2	堀 裕	2 学期	火	2	421
日本古代・中世史研究演習 III	古代史料研究(1)	2	堀 裕	1 学期	金	3	421
日本古代・中世史研究演習 IV	古代史料研究(2)	2	堀 裕	2 学期	金	3	422
日本古代・中世史研究演習 V	鎌倉時代の法と社会(1)	2	柳 原 敏 昭	1 学期	月	3	422
日本古代・中世史研究演習 VI	鎌倉時代の法と社会(2)	2	柳 原 敏 昭	2 学期	月	3	423
日本古代・中世史研究演習 VII	中世史料演習(1)	2	柳 原 敏 昭	1 学期	月	4	423
日本古代・中世史研究演習 VIII	中世史料演習(2)	2	柳 原 敏 昭	2 学期	月	4	424
日本近世・近代史研究演習 I	近世史料研究(1)	2	籠 橋 俊 光	1 学期	火	4	428
日本近世・近代史研究演習 II	近世史料研究(2)	2	籠 橋 俊 光	2 学期	火	4	429
日本近世・近代史研究演習 III	近世史研究法(1)	2	籠 橋 俊 光	1 学期	水	5	429
日本近世・近代史研究演習 IV	近世史研究法(2)	2	籠 橋 俊 光	2 学期	水	5	430
日本近世・近代史研究演習 V	近現代政治・社会史の研究(1)	2	安 達 宏 昭	1 学期	水	3	430
日本近世・近代史研究演習 VI	近現代政治・社会史の研究(2)	2	安 達 宏 昭	2 学期	水	3	431

アーキビスト養成コース

授 業 科 目	講 義 題 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時	頁
			氏 名				
日本近世・近代史研究演習Ⅶ	近現代史研究法(1)	2	安 達 宏 昭	1 学期	火	5	431
日本近世・近代史研究演習Ⅷ	近現代史研究法(2)	2	安 達 宏 昭	2 学期	火	5	432
東洋古代中世史研究演習Ⅰ	『宋書』礼志の研究Ⅰ	2	川 合 安	1 学期	金	5	443
東洋古代中世史研究演習Ⅱ	『宋書』礼志の研究Ⅱ	2	川 合 安	2 学期	金	5	443
東洋近世史研究演習Ⅰ	明清官僚制度研究Ⅰ	2	大 野 晃 嗣	1 学期	月	5	446
東洋近世史研究演習Ⅱ	明清官僚制度研究Ⅱ	2	大 野 晃 嗣	2 学期	月	5	446
西洋中近世史研究演習Ⅲ	ヨーロッパ中世史料研究	2	有 光 秀 行	1 学期	水	4	449
西洋中近世史研究演習Ⅳ	ヨーロッパ中世史料研究	2	有 光 秀 行	2 学期	水	4	449
西洋中近世史研究演習Ⅴ	西洋近世史料研究	2	小 野 善 彦	1 学期	木	2	450
西洋中近世史研究演習Ⅵ	西洋近世史料研究	2	小 野 善 彦	2 学期	月	2	450
欧米近現代史研究演習Ⅲ	欧米近現代史研究方法論	2	浅 岡 善 治	1 学期	火	2	454
欧米近現代史研究演習Ⅳ	欧米近現代史研究方法論	2	浅 岡 善 治	2 学期	火	2	454

※授業の詳細については、各専攻分野のページを参照してください。